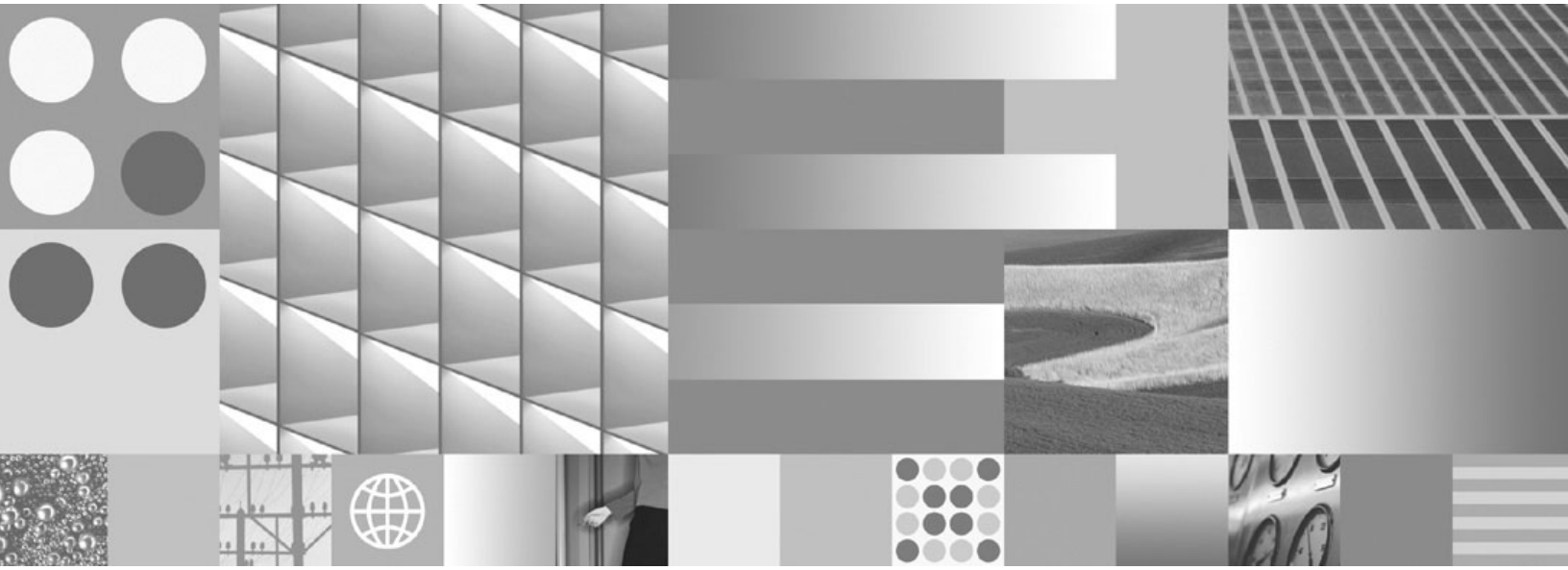
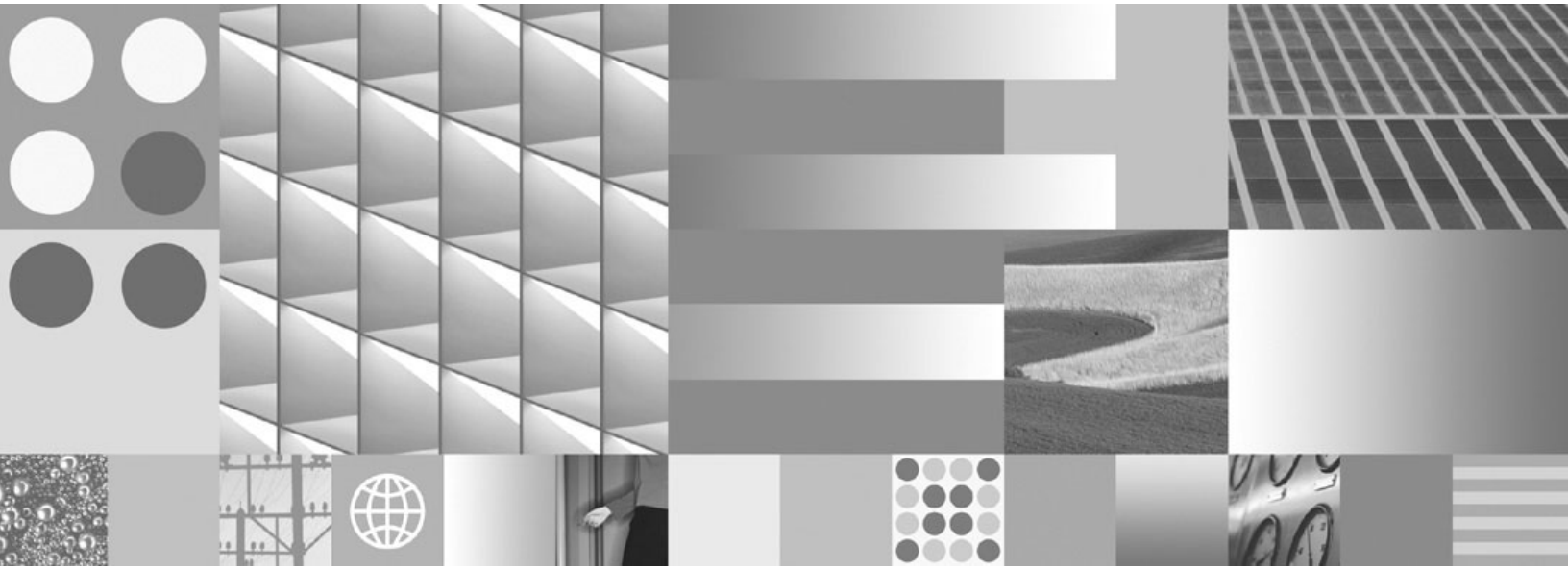
DB2 Version 9.5
for Linux, UNIX, and Windows



# メッセージ・リファレンス 第 1 巻

GI88-4109-00
(英文原典：GI11-7855-00)

DB2 Version 9.5
for Linux, UNIX, and Windows



# メッセージ・リファレンス 第 1 巻

GI88-4109-00
(英文原典：GI11-7855-00)

**ご注意**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、 695 ページの『付録 B. 特記事項』に記載されている情報をお読みください。

**当版に関する特記事項**

本書には、IBM の専有情報が含まれています。その情報は、使用許諾条件に基づき提供され、著作権により保護されています。本書に記載される情報には、いかなる製品の保証も含まれていません。また、本書で提供されるいかなる記述も、製品保証として解釈すべきではありません。

IBM 資料は、オンラインでご注文いただくことも、ご自分の国または地域の IBM 担当員を通してお求めいただくこともできます。

- オンラインで資料を注文するには、www.ibm.com/shop/publications/order にある IBM Publications Center をご利用ください。
- ご自分の国または地域の IBM 担当員を見つけるには、www.ibm.com/planetwide にある IBM Directory of Worldwide Contacts をお調べください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

`http://www.ibm.com/jp/manuals/`

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

**原　典：** GI11-7855-00
DB2 Version 9.5 for Linux, UNIX, and Windows
Message Reference: Volume 1

**発　行：** 日本アイ・ビー・エム株式会社

**担　当：** ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2007.10

**© Copyright International Business Machines Corporation 1993, 2007. All rights reserved.**

# 目次


**第 1 章 メッセージの概要 . . . . . 1**

**第 2 章 ADM メッセージ . . . . . 5**

**第 3 章 AMI メッセージ . . . . . 45**

**第 4 章 レプリケーション・メッセージ 49**

**第 5 章 AUD メッセージ . . . . . 267**

**第 6 章 CCA メッセージ . . . . . 269**

**第 7 章 CLI メッセージ . . . . . 281**

**第 8 章 DB2 メッセージ. . . . . 297**

**第 9 章 DBA メッセージ . . . . . 327**

**第 10 章 DBI メッセージ . . . . . 405**

**第 11 章 DBT メッセージ . . . . . 487**

**第 12 章 DQP メッセージ . . . . . 501**

**第 13 章 DXX メッセージ . . . . . 525**
DXX メッセージ . . . . . 525
DXX メッセージ . . . . . 533
DXX メッセージ . . . . . 534
DXX メッセージ . . . . . 535
DXX メッセージ . . . . . 536
DXX メッセージ . . . . . 536

**第 14 章 EAS メッセージ . . . . . 545**

**第 15 章 EXP メッセージ . . . . . 549**

**第 16 章 GSE メッセージ . . . . . 555**

**第 17 章 ICC メッセージ . . . . . 613**

**第 18 章 LIC メッセージ . . . . . 641**

**第 19 章 MQL メッセージ . . . . . 649**

**第 20 章 SAT メッセージ . . . . . 655**

**第 21 章 SPM メッセージ . . . . . 665**

**第 22 章 XMR メッセージ . . . . . 681**

**第 23 章 SPM プロトコル違反レコード 683**

**付録 A. DB2 技術情報の概説 . . . . . 685**
DB2 テクニカル・ライブラリー (ハードコピーまたは PDF 形式) . . . . . 686
DB2 の印刷資料の注文方法. . . . . 688
コマンド行プロセッサーから SQL 状態ヘルプを表示する. . . . . 689
異なるバージョンの DB2 インフォメーション・センターへのアクセス . . . . . 689
DB2 インフォメーション・センターにおける特定の言語でのトピックの表示 . . . . . 690
コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされた DB2 インフォメーション・センターの更新 . . . . . 691
DB2 チュートリアル . . . . . 693
DB2 トラブルシューティング情報 . . . . . 693
ご利用条件 . . . . . 694

**付録 B. 特記事項 . . . . . 695**

**索引 . . . . . 699**


© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

# 第 1 章 メッセージの概要

本書では、DB2® がインストールされたオペレーティング・システムの機能をよくご存じであることが前提となっています。以下の章に記載されている情報を使用すれば、エラーや問題を識別し、適切なリカバリー処置を行って問題を解決することができます。さらに、この情報を使用すると、メッセージが生成され記録される場所を理解することができます。

## メッセージ構造

メッセージ・ヘルプは、メッセージの原因と、そのメッセージへの応答として行うべき処置を説明します。

メッセージ ID は、3 文字のメッセージ接頭部と、それに続く 4 桁または 5 桁のメッセージ番号と、それに続く 1 文字の接尾部から成り立っています。たとえば、*SQL1042C* です。メッセージ接頭部のリストについては、2 ページの『メッセージ・ヘルプの呼び出し』 および 3 ページの『その他の DB2 メッセージ』 を参照してください。 1 文字の接尾部は、エラー・メッセージの重大度を示します。

一般に、メッセージ ID が *C* で終了するものは重大メッセージ、*E* で終了するものは緊急メッセージ、 *N* で終了するものはエラー・メッセージ、 *W* で終了するものは警告メッセージ、 *I* で終了するものは情報メッセージであることを示します。

ADM メッセージの場合、メッセージ ID が *C* で終了するものは重大メッセージ、*E* で終了するものは緊急メッセージ、 *W* で終了するものは重要メッセージ、 *I* で終了するものは情報メッセージであることを示します。

SQL メッセージの場合、メッセージ ID が *C* で終了するものは重大なシステム・エラー、*N* で終了するものはエラー・メッセージ、 *W* で終了するものは警告メッセージまたは情報メッセージであることを示します。

メッセージにはトークン (メッセージ変数と呼ばれることもある) が含まれている場合があります。トークンを含むメッセージが DB2 によって生成される場合、各トークンは検出されたエラー条件に固有の値によって置き換えられ、ユーザーがエラー・メッセージの原因を診断できるようにします。たとえば、DB2 メッセージ SQL0107N は以下のようになります。

- コマンド行プロセッサーから:

  SQL0107N 名前 ″<name>″ が長すぎます。最大長は ″<length>″ です。
- DB2 インフォメーション・センターから:

  SQL0107N 名前 *name* が長すぎます。最大長は *length* です。

このメッセージには、2 つのトークン ″<name>″ および ″<length>″ が含まれています。このメッセージが実行時に生成される場合、メッセージ・トークンはエラーの原因となったオブジェクトの実際の名前と、オブジェクトのタイプに許可される最大長にそれぞれ置き換えられます。

© IBM Corporation 1993, 2007

トークンがエラーの特定のインスタンスに該当しない場合は、代わりに値 *N が戻されます。たとえば以下のようになります。

```
SQL20416N The value provided ("*N") could not be converted to a security
label. Labels for the security policy with a policy ID of "1" should be "8"
characters long. The value is "0" characters long.  SQLSTATE=23523
```

## メッセージ・ヘルプの呼び出し

以下のDB2 メッセージは、コマンド行プロセッサーから利用できます。

**接頭部 説明**

**ADM** 多くの DB2 コンポーネントで生成されるメッセージ。これらのメッセージは管理通知ログ・ファイルに書き込まれ、システム管理者に追加情報を提供するためのものです。

**AMI** MQ Application Messaging Interface で生成されるメッセージ

**ASN** DB2 レプリケーションで生成されるメッセージ

**CCA** 構成アシスタントで生成されるメッセージ

**CLI** コール・レベル・インターフェースで生成されるメッセージ

**DBA** データベース管理ツールで生成されるメッセージ

**DBI** インストールおよび構成で生成されるメッセージ

**DBT** データベース・ツールで生成されるメッセージ

**DB2** コマンド行プロセッサーで生成されるメッセージ

**DQP** Query Patroller で生成されるメッセージ

**EAS** 組み込みアプリケーション・サーバーで生成されるメッセージ

**EXP** EXPLAIN ユーティリティーで生成されるメッセージ

**GSE** DB2 Spatial Extender で生成されるメッセージ

**LIC** DB2 License Manager で生成されるメッセージ

**MQL** MQ Listener で生成されるメッセージ

**SAT** サテライト環境で生成されるメッセージ

**SPM** 同期点マネージャーで生成されるメッセージ

**SQL** 警告やエラー状態が検出されたときにデータベース・マネージャーで生成されるメッセージ

**XMR** XML Metadata Repository で生成されるメッセージ

メッセージ・ヘルプを呼び出すには、コマンド行プロセッサーを開いて、以下を入力します。

```
? XXXnnnnn
```

ここで、*XXX* は有効なメッセージ接頭語、*nnnnn* は有効なメッセージ番号を表します。

SQLSTATE 値に関連したメッセージ・テキストは、次のコマンドを実行して検索できます。

```
? nnnnn
```

または

```
? nn
```

ここで、*nnnnn* は 5 桁の SQLSTATE (英数字) のことで、 *nn* は 2 桁の SQLSTATE クラス・コード (SQLSTATE 値の最初の 2 桁) です。

**注: db2** コマンドのパラメーターとして受け入れられるメッセージ ID では、大文字小文字の区別はありません。また、単一文字の接尾部はオプションであり、無視されます。

そのため、以下のコマンドの結果は同じになります。

- ? SQL0000N
- ? sql0000
- ? SQL0000w

UNIX® ベースのシステムのコマンド行でメッセージ・ヘルプを呼び出すには、以下を入力します。

```
db2 "? XXXnnnnn"

where XXX represents a valid message prefix
and nnnnn represents a valid message number.
```

メッセージ・テキストが長すぎて画面に収まらない場合、以下のコマンドを使用します (UNIX ベースのシステム、または 'more' をサポートする他のシステム)。

```
db2 "? XXXnnnnn" | more
```

## その他の DB2 メッセージ

DB2 コンポーネントの中には、オンラインで使用不可であるメッセージや本書で解説されていないメッセージを戻すものもあります。メッセージ接頭部の中には、以下が入っていることがあります。

**AUD** DB2 監査機能で生成されるメッセージ。

**DIA** 多くの DB2 コンポーネントによって生成される診断メッセージ。これらのメッセージは、db2diag.log という診断ログ・ファイルに書き込まれ、ユーザーや DB2 サービス担当者がエラーを調査する際の追加情報を提供することが目的です。

**GOV** DB2 管理プログラム・ユーティリティーで生成されるメッセージ。

ほとんどの場合、これらのメッセージから警告やエラーの原因を判別するのに十分な情報が得られます。メッセージを生成したコマンドやユーティリティーに関する詳細な情報は、該当するコマンドやユーティリティーに関して文書化されている適切な資料を参照してください。

## 重要なメッセージの更新

資料に含めることができなかった重要な最新の変更または追加が、製品エラー・メッセージに加えられる場合があります。この場合、更新は次の DB2 サービス技術情報から見つけることができます。 http://www-1.ibm.com/support/docview.wss?rs=71

&context=SSEPGG&dc=D600&uid=swg21238566&loc=en_US&cs=UTF-8&lang=enclass=

## その他のメッセージ・ソース

システムで他のプログラムを実行している場合は、本書で解説されていない接頭部が付いたメッセージを受け取ることがあります。

それらのメッセージについては、該当するプログラム製品の資料を参照してください。

# 第 2 章 ADM メッセージ

このセクションには、管理通知 (ADM) メッセージが記載されています。メッセージは番号順にリストされています。

**ADM0001C** 重大なエラーが発生しました。管理通知ログを検証し、必要に応じて IBM サポートに連絡してください。

**ADM0500E** DB2 サービスにはコマンドを完了するのに必要な権限がありません。ユーザー・アカウントが DB2 サービスに関連している場合、ユーザー・アカウントにローカル・システムでの正しいアクセス権があり、ユーザー認証およびグループ列挙のドメイン・セキュリティー・データベースにアクセスしていることを確認してください。

**ADM0501C** スタック・オーバーフロー例外が発生しました。 DB2 インスタンスは異常終了しました。この問題を解決するには、次のように db2hdr ユーティリティーを使って db2syscs.exe のデフォルトのスタック・サイズを増やしてみてください: db2hdr ¥sqllib¥bin¥db2syscs.exe /s:<stackreserve>[,<stackcommit>] デフォルトのスタック・サイズを増やすと、仮想メモリー・スペースが消費され、同時接続の最大数が減る可能性があります。さらにサポートが必要な場合には、IBM サポート担当者に連絡してください。

**ADM0502C** DB2 インスタンスは異常終了しました。この問題を解決するには、AGENT_STACK_SZ DBM 構成パラメーターを増やしてください。さらにサポートが必要な場合には、IBM サポート担当者に連絡してください。

**ADM0503C** 予期しない内部処理エラーが発生しました。このインスタンスに関連するすべての DB2 処理がシャットダウンされています。診断情報が記録されました。さらにサポートが必要な場合には、IBM サポート担当者に連絡してください。

**ADM0504C** 予期しない内部処理エラーが発生しました。このインスタンスに関連するすべての DB2 処理が保留されています。診断情報が記録されました。さらにサポートが必要な場合には、IBM サポート担当者に連絡してください。

**ADM0505E** DB2 がオペレーティング・システムから SIGDANGER シグナルを受信しました。このシグナルは、システムでページング・スペースが不足していることを示しています。ページング・スペースが少なくなりすぎると、オペレーティング・システムは強制的にユーザー処理を終了します。システム管理者に連絡して、ページング・スペースを増やしてもらってください。

**ADM0506I** DB2 は自動的に、*parameter* カーネル・パラメーターを *originalValue* から推奨値 *recommendedValue* に更新しました。

**ADM0507W** DB2 は自動的に、*parameter* カーネル・パラメーターを推奨値 *recommendedValue* に更新できませんでした。 手操作でこのカーネル・パラメーターを更新してください。

**ADM0508E** DB2 は、 Java インタープリター・ライブラリー *libraryPath* をロードできませんでした。このエラーは、オペレーティング・システムの制限によって一般に発生します。 ソリューションについて、IBM DB2 資料を参照してください。この問題が続く場合は、IBM サポートに連絡してください。

**ADM0509E** ルート非対応の DB2 インスタンスが検出されました。 限定機能が使用可能になります。

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

**ADM0510E** ルート機能が使用できない場合、**AGENTPRI** 構成変数またはエージェント優先順位リソース構成を変更できません。

**ADM0511E** キャラクター型デバイス・コントローラーによるロー・デバイスへのアクセスはオペレーティング・システムによって推奨されなくなっており、将来削除される可能性があります。 **DB2** はブロック・デバイス・インターフェースを使用して同じデバイスにアクセスできますが、影響を受けるデバイスの表スペース・コンテナーまたはロー・ログ・コンテナー内の名前を変更するには、個々のデータベース上で **relocatedb** を実行する必要があります。詳しくは、**IBM DB2** 資料を参照してください。

**ADM1010I** 表 *tableName* で調整が開始されました。

**ADM1011I** 表 *tableName* の調整は、正常に完了しました。

**ADM1012W** 表 *tableName* の調整が失敗しました。 この表はデータ・リンク調整不可 **(DRNP)** 状態になります。

**ADM1013W** 表 *tableName* の調整は、稼働中の **Data Links Manager (DLM)** では成功し、停止されていた **DLM** ではペンディング状態です。 この表はデータ・リンク調整ペンディング **(DRP)** 状態になります。

**ADM1014E** 表 *tableName* の調整が失敗しました。

**ADM1022W** データ・リンク列のメタデータ情報が **DB2 Data Links Manager** *serverName* にありません。

**ADM1023W** **Data Links Manager** *serverName* で調整処理がペンディングになっています。

**ADM1024W** **Data Links Manager** *serverName* で調整処理が完了しました。

**ADM1500W** **DB2** はログ・ファイル *filename* を見つけられません。

**ADM1510W** ログ・ファイル *fileName* にアクセス中、ファイル共有違反が発生しました。 別の処理でこのファイルが使用されている可能性があります。 **DB2** は後でこのファイルの削除を試行します。

**ADM1511W** ログ・ファイル *filename* の削除中に、エラー *error* が発生しました。 **DB2** は後でこのファイルの削除を試行します。

**ADM1512E** ログ・ファイル *filename* の削除中に、エラー *error* が発生しました。 ユーザーは、手動でこのファイルを削除する必要があります。

**ADM1513W** ログ・ファイル *fileName* は削除されています。

**ADM1514W** ログ・ファイル *fileName* は、もはや存在しません。

**ADM1530E** クラッシュ・リカバリーが開始されました。

**ADM1531E** クラッシュ・リカバリーが正常に完了しました。

**ADM1532E** クラッシュ・リカバリーが失敗しました。 **SQLCODE** *SQLCODE*。

**ADM1533W** データベースがリカバリーされました。ただし、**1** つ以上の表スペースがオフラインになっています。

**ADM1534W** 表スペース *tablespaceName* の末尾に使用したページがあるので、この表スペースのサイズを小さくできませんでした。

**ADM1540W** 認証 ID *auth_id* で実行しているアプリケーション・ハンドル *appl_handle* およびアプリケーション ID *appl_id* によるアプリケーション *appl_name* が、データベース構成パラメーター MAX_LOG (現行値 *MAX_LOG_value*) で許可されているより多くのログ・スペースを使用しました。 COMMIT、ROLLBACK または FORCE APPLICATION を実行して、このアプリケーションを終了してください。

**ADM1541W** 認証 ID *auth_id* で実行しているアプリケーション・ハンドル *appl_handle* およびアプリケーション ID *appl_id* によるアプリケーション *appl_name* が、データベース構成パラメーター NUM_LOG_SPAN に違反している (現行値 *NUM_LOG_SPAN_value*) ため、データベースへの接続を強制的に切断されました。 作業単位はロールバックされます。

**ADM1542W** 認証 ID *auth_id* で実行しているアプリケーション・ハンドル *appl_handle* およびアプリケーション ID *appl_id* によるアプリケーション *appl_name* が、データベース構成パラメーター MAX_LOG に違反している (現行値 *MAX_LOG_value*) ため、データベースへの接続を強制的に切断されます。 作業単位はロールバックされます。

**ADM1550W** アクティブ・ログ・スペースが LOGPRIMARY DB 構成パラメーターを超えています。ログ・ファイルをアーカイブから検索する必要がある場合、ROLLBACK に時間がかかる可能性があります。

**ADM1551W** DB2 は、アーカイブからアクティブ・ログ・ファイル *fileName* を検索しています。 これにより、遅延が生じる可能性があります

**ADM1552E** DB2 は、アクティブ・ログ・ファイル *filename* をオープンできません。この原因として、ログ・ファイルをアーカイブから検索する際に発生した問題が考えられます。 DB2 は、5 分おきに再試行します。

**ADM1600W** メモリー不足のため並列リカバリーを有効にはできませんが、リカバリーは進行中です。 今後のリカバリーでは、*blockSize* で、DBHEAP または UTIL_HEAP_SZ 構成パラメーターを増やしてください。

**ADM1601W** データベースに対してロールフォワードの他の要求が出されました。ただし、現行のロールフォワードの呼び出しでは、前回の呼び出しのようにログまでは読み取りを行っていません。 LSN *LSN* のログ・レコードが含まれたログ・ファイルは、データベース LOGPATH または OVERFLOW LOG PATH にありませんでした。すべてのログ・ファイルがデータベースの LOGPATH または OVERFLOW LOG PATH で使用できることを確認し、ROLLFORWARD コマンドを再発行してください。データベースは、ロールフォワード・ペンディング状態のままです。

**ADM1602W** ロールフォワード・リカバリーが開始されました。

**ADM1603I** DB2 はデータベース・ロールフォワード・リカバリーの順方向フェーズを呼び出しています。

**ADM1604I** DB2 は表スペース・ロールフォワード・リカバリーの順方向フェーズを呼び出しています。

**ADM1605I** DB2 はデータベース・ロールフォワード・リカバリーの逆方向フェーズを呼び出しています。

**ADM1606I** DB2 は表スペース・ロールフォワード・リカバリーの逆方向フェーズを呼び出しています。

**ADM1607I** DB2 はデータベース・ロールフォワード・リカバリーの完了フェーズを呼び出しています。

**ADM1608I** DB2 は表スペース・ロールフォワード・リカバリーの完了フェーズを呼び出しています。

**ADM1609W** DB2 はデータベース・ロールフォワード・リカバリーを取り消しています。

**ADM1610W** DB2 は表スペース・ロールフォワード・リカバリーを取り消しています。

**ADM1611W** ロールフォワード・リカバリー・フェーズが完了しました。

**ADM1612W** データベース・アクティビティーの量が多いため、オンライン表スペース・ロールフォワード・リカバリーを完了できませんでした。データベース・アクティビティーを減らすか、MAXAPPLS 構成パラメーターを増やすか、オフラインで表スペースのロールフォワードを実行してください。

**ADM1613W** 表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) は、以前に *timestampRFWD* で、 *timestampPIT* に、ロールフォワードされました。

**ADM1614W** 表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) は、リストア・ペンディング状態になりました。 残りの表スペースは、ログの終わりまでロールフォワードされました。

**ADM1615W** 表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) はまだアクティブ・トランザクションによって使用されているため、DB2 はこの表スペースをロールフォワードできません。 アプリケーション・ハンドルは *appHandle* です。 COMMIT、ROLLBACK、または FORCE APPLICATION によりこのアプリケーションを終了してください。

**ADM1616E** DB2 はリカバリー中、ID *droppedTableID* を持つ、指定されたドロップ表に一致する、ドロップ表のログ・レコードを検出できませんでした。

**ADM1617W** 最後のロールフォワードに含まれていた表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) は、まだ完了していません。 この表スペースは、このロールフォワードに指定された表スペース・リストに含まれていませんでした。 この表スペースはリストア・ペンディング状態になりました。

**ADM1618W** データベースのロールフォワード中、DB2 は表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) をリカバリーできません。 表スペースは、ロールフォワード・ペンディング状態に置かれています。 リカバリーするには、データベースのロールフォワードが完了した後に、表スペースのロールフォワードを実行してください。

**ADM1619W** ロールフォワードは、ここで停止できません。ログ・ファイル *logFilename* の LSN *rollforwardLSN* へのロールフォワード。

**ADM1620W** 表スペース *tablespaceID* 内にあり、オブジェクト ID *objectID* を持つ表パーティションは、ドロップされた表のリカバリー中にスキップされました。 このパーティションからのデータをリカバリーするには、表スペースをロールフォワード・リストに組み込んでください。

**ADM1700W** DB2 はバックアップ・イメージによって指定されたログ・パスを使用できません。デフォルト・パスに切り替えます。

**ADM1701W** LOGRETAIN DB 構成パラメーターが CAPTURE に設定されているため、USEREXIT DB 構成パラメーターは無効です。

**ADM1710C** DB2 データベース・マネージャーがデータベース・パーティション *database-partition-num* でログ制御ファイル *file-name* に書き込むことができないため、データベースにアクセスできません。これには、ファイルが存在しない、ネットワーク、ファイル・システム、または OS の問題が原因でデータベース・マネージャーがファイルにアクセスできない、あるいは、ファイル許可が正しくないためにデータベース・マネージャーがファイルに書き込むことができない、といった理由が考えられます。データベース・マネージャーがファイルにアクセス可能であり、ファイル・システムが正しく機能していることを確認してから、データベースを再始動するか、またはデータベースに再接続してください。

**ADM1711W** データベース・パーティション *database-partition-num* でログ制御ファイル *log-control-file-name* が欠落しているか、または壊れています。DB2 データベース・マネージャーはこのファイルを再作成しました。

**ADM1712C** データベース・パーティション *database-partition-num* でログ制御ファイル *file-name* が欠落しているか、または壊れています。DB2 データベース・マネージャーは、このファイルを再作成しようとしましたが失敗しました。これには、ネットワーク、ファイル・システム、または OS の問題が原因でデータベース・マネージャーがファイルにアクセスできない、またはファイル許可が正しくないためにデータベース・マネージャーがファイルに対する読み書きを行えない、といった理由が考えられます。データベース・マネージャーがファイルにアクセス可能であり、ファイル・システムが正しく機能していることを確認してください。

**ADM1713C** DB2 データベース・マネージャーが、1 次ログ制御ファイル *primary-log-file* と 2 次ログ制御ファイル *secondary-log-file* のいずれも開くことができないため、データベース・パーティション *database-partition-num* でデータベースを開始できません。

**ADM1800E** DB2 は、ログ *logNumber* が古いログ・パスでアーカイブされたことを確認できませんでした。 データベースを確実にリカバリーできるように、データベースのバックアップを取ってください。

**ADM1801W** DB2 は、ロー・デバイス上の 2GB を超えるファイル・ストレージにアクセスできませんでした。 そのため、ロギングには 2GB のファイル・ストレージだけが使用されます。

**ADM1802W** ロー・デバイスを使ってロギングしている間に LOGFILSIZ DB 構成パラメーターが変更されたため、データベースはオフライン・バックアップ・ペンディング状態に置かれました。

**ADM1803W** ロー・デバイス *path* にログ・ファイルのための十分なスペースが残っていません。実際のデバイス・サイズは *actualDevice* 4K ページです。デバイスの最小必須サイズは *minimumDevice* 4K ページです。

**ADM1804W** ロー・デバイスが小さすぎるため、アクティブ・ログ・スペースをサポートできません。 *actualDeviceSize* 4K ページが使用できますが、*minimumDeviceSize* 4K ページが必要です。もっと大きなデバイスを使用するか、またはLOGPRIMARY と LOGFILSIZ DB 構成パラメーター、またはそのいずれかを減らしてください。

**ADM1805E** ロー・デバイスがすでに他の場所でログまたは表スペース・コンテナーとして使用されているため、DB2 は NEWLOGPATH DB 構成パラメーターを使用できません。

**ADM1806E** NEWLOGPATH DB 構成パラメーター *newLogPath* を使用できないため、DB2 は現在のログ・パスの使用を継続します。

**ADM1807E** NEWLOGPATH と MIRRORLOGPATH の新しい DB 構成パラメーター値が同じですが、これは許可されません。 この 2 つのパラメーターには必ず異なる値を指定してください。

**ADM1810E** MIRRORLOGPATH DB 構成パラメーターの新しい値は無効であるか、または使用できません。 DB2 はこの新しい値を無視します。 新しいパスの値が有効であることを確認してください。

**ADM1811E** DB2 はデフォルトのログ・パス *logpath* に切り替えます。

**ADM1812E** MIRRORPATH DB 構成パラメーター *newMirrorPath* の新しい値は使用できません。 DB2 は、既存のミラー・パス *defaultMirrorPath* の使用を継続します。

**ADM1813E** 現在のミラー・パス *currentMirrorPath* は無効です。

**ADM1814E** 現在のログ・パス *currentLogPath* は無効です。

**ADM1815E** DB2 が *logFilePath* からログ・ファイルを除去しようとしているときにエラーが発生しました。

**ADM1817E** DB2 は、データベース *DBName* の *dirPath* からログ・ファイル *logFilename* をアーカイブしているときに、ユーザー出口プログラムを実行できませんでした。エラー・コードは *returnCode* です。ユーザー出口プログラムを手動で実行して、検査してください。

**ADM1818E** ユーザー出口プログラムからエラーを受け取りました。 DB2 は、5 分間このデータベースに対してユーザー出口プログラムを呼び出しません。

**ADM1819C** 古いログをロー・デバイス上でアーカイブ中にエラーが発生したため、DB2 は新しいログ・ファイル・サイズに切り替えられませんでした。 その結果、このデータベースにアクセスできません。

**ADM1820W** USEREXIT を有効にする場合、DB 構成パラメーター LOGRETAIN を CAPTURE に設定してさらに USEREXIT をオンにすることはできません。 このため、USEREXIT は無効です。

**ADM1821E** ログ・パスはデフォルト値にリセットされました。

**ADM1822W** アクティブ・ログがダーティー・ページによって保留されています。 これはエラーではありませんが、データベース・パフォーマンスに影響する可能性があります。 可能であれば、データベースの作業ロードを減らしてください。 この問題が続く場合は、SOFTMAX を減らして NUM_IOCLEANERS DB 構成パラメーターを増やすか、そのいずれかを実行してください。

**ADM1823E** アクティブ・ログがフルになっており、アプリケーション・ハンドル *handle* によって保留されています。 COMMIT、ROLLBACK または FORCE APPLICATION を実行して、このアプリケーションを終了してください。

**ADM1824W** DB2 は、ログ・ファイル *filename* を削除できません。 ユーザーは、手動でこのログ・ファイルを削除する必要があります。

**ADM1825W** ユーザー出口の問題のため、DB2 は次のログ・ファイルを作成できません。

**ADM1826E** ロギング用に使用しているディスクがフルのため、DB2 は継続できません。

**ADM1827E** ロギング用のスペースがロー・デバイスに残っていません。 ユーザーは、データベースのオフライン・バックアップを作成する必要があります。

**ADM1828C** DB2 は、5 分後にこのログ・ファイルの作成を試行します。

**ADM1829E** アクティブ・ログがフルになっており、未確定トランザクションによって保留されています。 LIST INDOUBT TRANSACTION WITH PROMPTING コマンドを使用して、未確定トランザクションを解決してください。

**ADM1830E** アクティブ・ログ・パスはデフォルト値に設定されています。

**ADM1831E** **DB2** は、データベース *DBName* の *dirPath* へログ・ファイル *logFilename* を取得しているときに、ユーザー出口プログラムを実行できませんでした。エラー・コードは *returnCode* です。ユーザー出口プログラムを手動で実行して、検査してください。

**ADM1832E** **DB2** は、データベース *DBName* の *dirPath* へログ・ファイル *logFilename* をアーカイブしているときに、ユーザー出口プログラムを検出できませんでした。エラー・コードは *returnCode* です。

**ADM1833E** データベース *DBName* の *dirPath* から *logFilename* をアーカイブしているときに、ユーザー出口プログラムがエラーを戻しました。エラー・コードは *returnCode* です。

**ADM1834E** **DB2** は、データベース *DBName* の *dirPath* へログ・ファイル *logFilename* を検索しているときに、ユーザー出口プログラムを検出できませんでした。エラー・コードは *returnCode* です。

**ADM1835E** ログ・ファイル *logFilename* をデータベース *DBName* の *dirPath* へ取得しているときに、ユーザー出口プログラムがエラーを戻しました。エラー・コードは *returnCode* です。

**ADM1836W** *tablespaceName* **(ID** *tablespaceName***)** にある表 *tableID* **(ID** *tableID***)** は、データ・リンク調整ペンディング **(DRP)** 状態です。

**ADM1837W** *tablespaceName* **(ID** *tablespaceID***)** 上の表 *tableName* **(ID** *tableID***)** はデータ・リンク調整不可 **(DRNP)** 状態です。

**ADM1838W** アプリケーションは、未確定トランザクションによって掛けられたロックを待機中です。 これにより、アプリケーションは無限に待機します。 **LIST INDOUBT TRANSACTIONS** コマンドを使って未確定トランザクションを調査し、解決してください。

**ADM1839W** **DB2** がパス *logPath1* にあるログ・ファイル *logFile* にログ・データを書き込み中に、エラーが発生しました。 このログ・ファイルは、まだログ・パス *logPath2* にあります。 **DB2** は、この後のログ・ファイルについて、両方のパスの使用を試行します。 その間に、エラーが発生した、指定されたログ・パスをチェックして、それが存在しており、アクセス可能であることを確認してください。 また、ファイル・システムに使用できるスペースがあることもチェックしてください。

**ADM1840W** ログ・パス *logPath* のエラーは解決されました。 **DB2** は、このパスにログ・ファイルを書き込みます。

**ADM1841W** **DB2** は、ログ *logNumber* のアーカイブを試行中、このログを見つけられませんでした。 リカバリー中にこの欠落しているログ・ファイルが必要な場合は、既存のリカバリー・ストラテジーが機能しない可能性があります。 このデータベースのリカバリー可能性を確保するためには、データベースのバックアップが必要です。 ただし、**First Active Log file (LOGHEAD)** **DB** 構成パラメーターの後に取られるべきバックアップは、上記に指定されたログを超えます。データベースを非アクティブ化して **First Active Log file (LOGHEAD)** を移行させ、バックアップを取ることを検討してください。

**ADM1842W** データベースをリカバリー可能にするために、データベース構成が更新されました。更新は正常に行われましたが、1 つ以上の表スペースで、データベースをリカバリー可能にできない状態に現在あります。 こうした表スペースの問題が解決されるまで、データベースでは循環ロギングの使用が継続されます。 表スペースのスナップショット出力を使用して、「正常」状態にない表スペースを判別します。 そのような各表スペースに対して、その状態に対応する問題を解決してください。 すべての表スペースが「正常」状態になり、データベースが次に開始またはアクティブ化されると、そのデータベースはリカバリー可能になります。 データベースがリカバリー可能になるので、その時点でデータベースの完全なバックアップが必要になります。

**ADM1843I** ログ・ファイル *logFilename* のリトリーブを開始しました。

**ADM1844I** ログ・ファイル *logFilename* のアーカイブを開始しました。

**ADM1845I** *destPath* からの、チェーン *chain* 上のログ・ファイル *logFilename* のリトリーブを完了しました。

**ADM1846I** ログ・ファイル *logFilename* の *dirPath* から *destPath* へのアーカイブを完了しました。

**ADM1847W** *destPath* からの、チェーン *chain* 上のログ・ファイル *logFilename* のリトリーブに失敗しました。

**ADM1848W** ログ・ファイル *logFilename* の *dirPath* から *destPath* へのアーカイブに失敗しました。

**ADM2000E** イベント・モニター *eventMonitor* は入出力エラーを検出したため、非活動化されました。

**ADM2001W** MAXFILES と MAXFILESIZE CREATE EVENT MONITOR パラメーターの限度に達したため、イベント・モニター *eventMonitor* は非活動化されました。

**ADM2002E** ターゲット・パイプからの読み取り処理が切断されたときに、イベント・モニター *eventMonitor* は非活動化されました。

**ADM2003W** アクティブ・イベント・モニターの数の限度にすでに達しているため、イベント・モニター *eventMonitor* はアクティブ化されませんでした。

**ADM2004E** データベース・モニター・ヒープに十分なストレージ・スペースがなかったため、イベント・モニター *eventMonitor* は活動化されませんでした。 この問題を解決するには、MON_HEAP_SZ DBM 構成パラメーターを増やし、インスタンスを再始動してください。

**ADM2005W** データベース・モニター・ヒープが使い尽くされています。 MON_HEAP_SZ DBM 構成パラメーターを増やし、インスタンスを再始動してください。

**ADM2006W** データベース・モニター・ヒープが使い尽くされています。 ステートメント・エレメントを信頼できない可能性があります。MON_HEAP_SZ DBM 構成パラメーターを増やし、インスタンスを再始動してください。

**ADM2007W** PCTDEACTIVE 限度に達したため、イベント・モニターは非活動化されました。イベント・モニターを再度活動化するには、表スペースのサイズを増やすか、または PCTDEACTIVE しきい値を増やしてください。

**ADM2009C** イベント・モニター *eventMonitor* が表 *tableName* (ID *tableID*) で、列名 *colName* が無効であることを検出しました。

**ADM2010C** イベント・モニター *eventMonitor* が表 *tableName* (**ID** *tableID*) で、列 *colName* が許可されないことを検出しました。

**ADM2011C** イベント・モニター *eventMonitor* が表 *tableName* (**ID** *tableID*) で、列 *colName* が無効な *dataType* データ・タイプを持っていることを検出しました。

**ADM2012C** 表 *tableName* (**ID** *tableID*) で、行サイズがページ・サイズよりも大きくなっています。

**ADM2013C** イベント・モニター *eventMonitor* が表 *tableName* (**ID** *tableID*) で、列 *colName* が誤りであることを検出しました。 **1** 列目は、**PARTITION_KEY** でなければなりません。

**ADM2014W** イベント・モニター *eventMonitor* が、表 *tableName* (**ID** *tableID*) で、列 *colName* のサイズがデフォルト・サイズの *defaultColumnSize* よりも小さいことを検出しました。そのため、内容はユーザーの指定したサイズで切り捨てられます。

**ADM2015W** リモート・ターゲット・ノードから受け取った **SQLCODE** は、 *SQLCODE* です。

**ADM2016W** 表 *tableName* (**ID** *tableID*) が見つかりません。

**ADM2017C** イベント・モニター *monitor-name* がファイルの容量に達しました。 ターゲット・ディレクトリー *directory* のファイルを削除するか、またはそれらを別のディレクトリーに移動してください。

**ADM2500E** データベース・サーバー *DRDAApplicationServer* で重大なエラーが発生し、これにより処理の継続ができなくなりました。 ダンプが生成されています。リモート・サーバーが **DB2 UDB for OS/390、zOS** の場合は、コンソール・ログにこのエラーに関する情報がないか確認してください。 リモート・サーバーが **DB2 UDB for System i** の場合は、通常、エラーを判別するためには、サーバー・ジョブのジョブ・ログまたは **FFDC (First Failure Data Capture)** スプール・ファイル、あるいはその両方が必要です。リモート・サーバーが **DB2 Database for Linux, UNIX, and Windows** の場合は、リモート・データベース・サーバーの管理ログをチェックして、このエラーに関連した情報がないか確認してください。

**ADM2501C** データベース・サーバーでデータ・タイプについて受信したデータの量が、予期されていた量と一致しませんでした。 ダンプが生成されています。リモート・サーバーが **DB2 UDB for OS/390、zOS** の場合は、コンソール・ログにこのエラーに関する情報がないか確認してください。 リモート・サーバーが **DB2 UDB for System i** の場合は、通常、エラーを判別するためには、サーバー・ジョブのジョブ・ログまたは **FFDC (First Failure Data Capture)** スプール・ファイル、あるいはその両方が必要です。リモート・サーバーが **DB2 Database for Linux, UNIX, and Windows** の場合は、リモート・データベース・サーバーの管理ログをチェックして、このエラーに関連した情報がないか確認してください。

**ADM2502C** リモート・データベース・サーバーがエラーを検出しました。リモート・サーバーが DB2 UDB for OS/390、zOS の場合は、コンソール・ログにこのエラーに関する情報がないか確認してください。 リモート・サーバーが DB2 UDB for System i の場合は、通常、エラーを判別するためには、サーバー・ジョブのジョブ・ログまたは FFDC (First Failure Data Capture) スプール・ファイル、あるいはその両方が必要です。リモート・サーバーが DB2 Database for Linux, UNIX, and Windows の場合は、リモート・データベース・サーバーの管理ログをチェックして、このエラーに関連した情報がないか確認してください。

**ADM2503C** データ・ストリーム構文解析エラーが検出されました。 ダンプが生成されています。

**ADM2504C** LOB データ・タイプは、このデータベース・サーバーではサポートされていません。 APAR 修正が必要です。 このデータベース・サーバーが DB2 for OS/390 v6 および v7 の場合は、APAR の修正 PQ50016 と PQ50017 を適用してください。 データベース・サーバーが DB2 for System i の場合は、V5.1 よりも前のリリースはサポートされていません。 DB2 for iSeries v5.1 の場合、APAR 9A00531 の PTF を適用する必要があります。 データベース・サーバーが DB2 for VM および VSE の場合は、IBM お客様サポートまでご連絡ください。

**ADM2505E** DB2 がシスプレックス・サポートの使用を試行中、SNA アドレス *SNAAddress* にあるデータベース・サーバーへの接続を確立できませんでした。これは、不明の cpic シンボリック宛先名 *destName* が原因です。 SNA 構成をチェックして、ネットワーク・サポート担当者に確認するか、または DB2 Connect サーバーでシスプレックスのサポートを無効にしてください。

**ADM2506W** アプリケーションが据え置き SET ステートメントの発行を試行中、サーバーが非ゼロ sqlcode を戻しました。 sqlcode は *SQLCODE* です。ご使用のアプリケーションをチェックし、据え置き SET ステートメントを確認してください。

**ADM2507I** 製品シグニチャーの違反のために、クライアント・リルートは失敗しました。 オリジナル製品のシグニチャー: *product signature*。以下の製品シグニチャーでやり直してください。 *product signature*。

**ADM2508I** クライアント・リルートは正常に完了しました。 ホスト名/IP アドレスは以下のとおりです。 *hostname/IP address*。また、サービス名/ポート番号は以下のとおりです。 *service name/port number*。

**ADM2509I** データベース接続は正常に完了しました。接続先のホスト名/IP アドレスは以下のとおりです。 *hostname/IP address*。また、サービス名/ポート番号は以下のとおりです。 *service name/port number*。

**ADM3000C** db2nodes.cfg ファイルの *lineNumber* 行目にあるネットワーク・ホスト項目 *networkHostEntry* を解決できません。

**ADM3001C** DB2 は、中間ソケット・ディレクトリー *socketDirectory* を作成できません。 このパスの許可をチェックしてください。

**ADM3003C** ノード *node* は FCM 始動時には存在していましたが、現在は db2nodes.cfg に存在しません。 これは、通信障害を示している可能性があります。

**ADM3006C** ノード *node* への接続の確立を試行中に、再試行限度に達しました。 DB2 は、ノード・リカバリーを開始します。

**ADM3008C** ノード *node* との接続が、予期せずに切断されました。 DB2 は、ノード・リカバリーを開始します。

**ADM3019C** ノード *node1* とノード *node2* との間のリンクが壊れています。ご使用のスイッチとケーブルをチェックしてください。

**ADM3020C** FCM バッファーの数値が小さすぎます。これは、DB2 エージェント間の通信に影響を与え、ランタイム・エラーを引き起こします。 このメッセージが何度も表示される場合は、FCM_NUM_BUFFERS DBM 構成パラメーターを調整してください。

**ADM3021W** このノードで VI が有効になっています。

**ADM3500W** データベース・パーティション上のグループ ID が一致しません。パーティション・データベースでは、各パーティションに同じユーザーとグループのセットが定義されていなければなりません。定義が同じでないと、あるユーザーが実行を許可されるアクションが、パーティションによって異なる場合があります。すべてのパーティションを通して一貫性のあるユーザーとグループの定義をお勧めします。

**ADM4000W** カタログ・キャッシュのオーバーフロー条件が発生しました。 エラーではありませんが、これはカタログ・キャッシュが構成されている最大サイズを超えていることを示しています。 この状態が続く場合は、CATALOGCACHE_SZ DB 構成パラメーターを調整してください。

**ADM4001I** ビュー *viewName* の再生成中に障害が発生しました。

**ADM4002W** イベント・モニターのターゲット表 *targetTableName* (表スキーマ *tableSchema*) はすでに存在します。

**ADM4500W** パッケージ・キャッシュのオーバーフロー条件が発生しました。エラーではありませんが、これはパッケージ・キャッシュが構成されている最大サイズを超えていることを示しています。この状態が続く場合は、追加のモニターを実行して、PCKCACHESZ DB 構成パラメーターを変更する必要があるかどうかを判別してください。また、それを AUTOMATIC に設定する必要があります。

**ADM5500W** DB2 は、ロック・エスカレーションを実行しています。 現在保留されているロックの合計数は *locksHeld* で、保留するロックのターゲット数は *targetNumber* です。

**ADM5501I** DB2 は、ロック・エスカレーションを実行しています。 現在保留されているロックの合計数は *locksHeld* で、保留するロックのターゲット数は *targetNumber* です。現在実行されているステートメントは *currentStatement* です。

**ADM5502W** ロック・インテント *lockIntent* に対する、表 *tableName* での *numLocks* ロックのエスカレーションは成功しました。

**ADM5503E** ロック・インテント *lockIntent* に対する、表 *tableName* での *numLocks* ロックのエスカレーションは失敗しました。SQLCODE は *SQLCODE* です。

**ADM5504W** ロック・インテント *lockIntent* に対する、表 *tableName* の DATAPARTITIONID *datapartitionid* 上での *numLocks* 個のロックのエスカレーションは成功しました。

**ADM5505E** ロック・インテント *lockIntent* に対する、表 *tableName* の DATAPARTITIONID *datapartitionid* 上での *numLocks* 個のロックのエスカレーションは失敗しました。SQLCODE は *SQLCODE* です。

**ADM5510E** 表スペース *tableSpace* (ID *tableSpace*) がいっぱいです。この表スペースの内部オブジェクト表には、これ以上スペースがありません。

**ADM5511E** 表 *tableName* の表スペース *tbspace-id*内にある ID *object-id* を持つオブジェクト *object* が、可能な最大サイズに達しました。

**ADM5520E** このマイグレーション・パスはサポートされていません。

**ADM5521C** 表 *tableName* は欠落しているか、または切り捨てられ、マイグレーションされませんでした。データベースのマイグレーションは継続されますが、この表にはアクセスできなくなります。

**ADM5530W** NOT LOGGED INITIALLY を使用した表 *tableName* の COMMIT 処理が開始されています。 この表の表スペースのバックアップを取ることをお勧めします。

**ADM5540W** 表 *tablename* の *count* 個の索引の索引再ビルドを開始しています。

**ADM5541W** 表 *tablename* 上の、ID *indexObjectID* および表スペース ID *indexTablespaceID* のオブジェクト中で、IID *indexIID* の索引を再ビルドしています。

**ADM5542W** 表 *tablename* の索引の索引再ビルドは正常に完了しました。

**ADM5543E** 表 *tablename* の索引の索引再ビルドは失敗しました。 SQLCODE は *SQLCODE* です。

**ADM5550C** 表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) が、ロールフォワード・セットから除去されています。 SQLCODE は *SQLCODE* です。

**ADM5560C** データ表スペース *dataTablespaceName* (ID *dataTablespaceID*) と LONG 表スペース *LongTablespaceName* (ID *dataTablespaceID*) の両方が一緒にロールフォワードされていないかぎり、DB2 は表の再編成を再実行できません。 この両方の表スペースが一緒にロールフォワードされていることを確認するか、または再編成の再実行が必要ないように、再編成後に取られたバックアップ・イメージをリストアしてください。

**ADM5561C** データ表スペース *dataTablespaceName* (ID *dataTablespaceID*) と LONG 表スペース *longTablespaceName* (ID *dataTablespaceID*) の両方が同じポイント・イン・タイムにないかぎり、DB2 は表の再編成を再実行できません。 両方の表スペースのバックアップが、表の再編成より前のものである (そのため、再実行できる) か、または表編成の後のもの (そのため、再実行が必要ない) であることを確認してください。

**ADM5562C** データ表スペース *dataTablespaceName* (ID *dataTablespaceID*) と索引表スペース *indexTablespaceName* (ID *dataTablespaceID*) が一緒にロールフォワードされていないかぎり、DB2 は表のインプレース再編成を取り消せません。 両方の表スペースが一緒にロールフォワードされていることを確認してください。

**ADM5570W** 表 *tableName* の表スペース *tbspace-id* のうち ID が *object-id* のオブジェクトは使用できないオブジェクトですが、それに対するアクセスが試行されました。オブジェクトが表の場合は、ドロップする必要があります。 オブジェクトがパーティションの場合は、デタッチする必要があります。オブジェクトが非パーティション索引の場合は、その索引をドロップする必要があります。

**ADM5571W** DB2 は、表 *tableName* の表スペース *tbspace-id* のうち、ID が *object-id* のオブジェクト *object* を使用できないものとしてマーキングしています。表をドロップする必要がありますが、このオブジェクトがパーティション表の一部である場合は、代わりにエラー状態のパーティションをデタッチするか、エラー状態の索引をドロップできます。

**ADM5572I** 表 *tableName* の索引は無効とマーク付けされており、再ビルドが必要です。 DB2 は自動的にこの表の索引を再ビルドします。その結果、再ビルドおよびこの再ビルドの行われる作業単位中は、超排他 Z 表ロックが掛けられます。

**ADM5580W** 表スペース ID *tablespaceID* は存在していないか、またはリカバリー中の表スペースのセットにありません。リカバリーは継続されますが、この表スペース、またはこの表スペースにある表/オブジェクトのフィルター操作は無視されます。

**ADM5581W** DB2 は、ID *tablespaceID*、オブジェクト ID *object-ID* を持つ表スペースを正常にフィルター操作しました。

**ADM5582C** 表スペース ID *tablespaceID*、 object ID *objectID* をフィルター操作しようとして、内部エラー *error* が発生しました。

**ADM5583W** 1 つの Data Links Manager に割り当てられている合計時間の 16.7 時間を超えました。

**ADM5590E** SQLCODE -2219 理由コード *reasonCode* のため、表 *tableName* に対する、指定された INPLACE 表の再編成アクションはこのノードでは実行できません。

**ADM5591W** 適格なデータが見つからなかったため、表スペース *tablespaceID* 内のオブジェクト *objectID* に対して新しい圧縮辞書を作成できませんでした。辞書がすでに存在していることが分かっている場合は、代わりにその辞書が使用される可能性があります。 LOAD 中にこのメッセージが戻される場合は、既存の辞書は保存されません。他のすべての操作の場合は、既存の辞書が使用されます。

**ADM5592I** *dictionary-creator* の処理により、圧縮辞書が作成され、表スペース *tablespaceID* 中のオブジェクト *objectID* 中に挿入されました。

**ADM5593I** 表スペース *tablespaceID* 中のオブジェクト *objectID* に関する自動辞書作成処理が一時的に無効になっています。インスタンスが再始動すると、自動辞書作成は再び有効になります。

**ADM5594I** データベースに関する自動辞書作成処理が一時的に無効になっています。

**ADM5595E** 表 *schema-name.table-name* で索引データの不整合が検出されました。 "**INSPECT CHECK TABLE NAME** *table-name* **SCHEMA** *schema-name* **INDEXDATA RESULTS KEEP** *table-name*_**resfile.out**" を失敗したノードで実行してから、DB2 サポート・チームに連絡して問題を報告してください。

**ADM6000E** DB2 は、(コンテナー *container-path* のオフセット *offset* にある) オブジェクト *object-id* に関する表スペース *tbspace-id* からのページ *page-number* の読み取り中に、読み取りエラーを検出しました。 DB2 はページを再読み取りしてこのエラーをバイパスできましたが、このエラーは将来障害を起こすかもしれない重大な問題があることを示している可能性があります。 コンテナーのアクセスに関係するハードウェア (ディスク、コントローラー、ネットワークなど)、ファイル・システム、またはその両方の調査を始めることもできます。

**ADM6001I** パスの名前変更構成ファイル *configFile* に定義された規則を基に、コンテナーが名前変更されました。コンテナー *oldName* は、*newName* に名前変更されました。

**ADM6002E** 無効な長さのコンテナー・パスが指定されました。指定されたパスは *containerName* でした。資料を参照して、**SQLCODE -297** を確認してください。

**ADM6003I** コンテナーは、パスの名前変更構成ファイル *configFile* に定義されている規則による影響を受けなかったため、名前を変更されませんでした。名前は、*contname* のままです。

**ADM6012W** **DB2_HI_PRI_PREFETCH_AUTHID** と **DB2_LO_PRI_PREFETCH_AUTHID** レジストリー変数 *maxAuthIds* の両方に指定できる許可 **ID** の結合最大数を超えました。 このレジストリー変数の片方または両方から許可 **ID** を除去して、この許可 **ID** の指定数より多い数が指定されていないようにしてください。 加えた変更は、インスタンスの再始動までは有効化されません。

**ADM6013W** **DB2_HI_PRI_PREFETCH_AUTHID** と **DB2_LO_PR_PREFETCH_AUTHID** レジストリー変数の片方または両方で許可 **ID** *authId* が複数回指定されました。 その結果、この許可 **ID** に最高優先順位が選択されました。 この動作が望ましくなければ、レジストリー変数内で重複した許可 **ID** が決して生じないように、レジストリー変数を適切に設定する必要があります。加えた変更は、インスタンスの再始動までは有効化されません。

**ADM6017E** 表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) がいっぱいです。 コンテナー *contPath* (**ID** *containerID*) で検出されました。基のファイル・システムがフルであるか、またはこのファイル・システムに許可されている最大スペース使用量に達しました。 また、最大ファイル・サイズに関連する所定のユーザー限度があって、その限度に達している可能性もあります。

**ADM6018I** *directory-path* でファイル・システムをアンマウントします。

**ADM6019E** バッファー・プール *bpname* (**ID** *bpid*) のすべてのページが使用中です。資料を参照して、**SQLCODE -1218** を確認してください。

**ADM6020I** マウントされているファイル・システムを *contPath* で使用するために残します。

**ADM6021I** 複数ページのファイルの割り振りは、現在は使用できません。 無効にしても、効果はありません。

**ADM6022W** 一時表の非同期ドロップが失敗しました。この表と関連したリソースは、次回データベースを始動するまで解放されません。この理由により、データベースを再始動することをお勧めします。 また、**IBM** お客様サポートに連絡して、この障害の理由を判別することをお勧めします。

**ADM6023I** 表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) は、状態 **0x***tablespaceState* です。この表スペースにアクセスできません。資料を参照して、**SQLCODE -290** を確認してください。

**ADM6024C** 未解決の **WRITE SUSPEND** の結果として、表スペースをオンラインにできないため、データベースを再始動できません。データベースを再始動するには、**RESTART DATABASE** コマンドに **WRITE RESUME** を指定してください。

**ADM6025I** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) は、状態 **0x***state* です。 *operation* は不可能です。資料を参照して、**SQLCODE -290** を確認してください。

**ADM6028W** レジストリー変数設定 *regvarstr* は、メモリー不足条件により、このレジストリー変数設定の処理が許可されなかったため無視されました。

**ADM6029W** 指定された設定が無効だったため、レジストリー変数設定 (*regvarstr*) は無視されました。

**ADM6031W** EXTENDED STORAGE は、バッファー・プール *bpname* (ID *bpid*) で使用するように構成されましたが、このデータベースについて AWE が有効になっているため、この構成は無視されます。 EXTENDED STORAGE を無効にし、このバッファー・プールを使用しないよう構成してください。

**ADM6034W** EXTENDED STORAGE は、バッファー・プール *bpname* (ID *bpid*) で使用するよう構成されましたが、DB2_OVERRIDE_BPF レジストリー変数が設定されているため、この構成は無視されます。 このレジストリー変数は、IBM サポートの指示のもとでのみ使用します。

**ADM6035W** レジストリー変数 DB2NTNOCACHE が設定されていないため、散在データ読み取りを使用できませんでした。 DB2NTNOCACHE レジストリー変数を設定して、散在データ読み取りを有効にしてください。

**ADM6036W** EXTENDED STORAGE が複数のページ・サイズに使用されています。パフォーマンスが最適でない可能性があります。 EXTENDED STORAGE の使用について詳しくは、DB2 の資料を参照してください。

**ADM6037W** コンテナー *path* は、サイズが *userBytes* KB のデバイス上に、サイズが *userBytes* KB になるように作成されました。余分なストレージが無駄になります。 ALTER TABLESPACE を使用して、無駄になったスペースを使用するようにコンテナーを拡張することができます。

**ADM6038E** コンテナー *path* は表スペース *tsname* (ID *tsid*) に存在しないため、このコンテナーに対して操作を実行できません。資料を参照して、SQLCODE -298 を確認してください。

**ADM6039E** 表スペース *tsname* (ID *tsid*) に対して、無効なストライプ・セット *sset* が ALTER TABLESPACE に指定されました。表スペースの最大ストライプ・セットは *maxsset* です。

**ADM6040E** コンテナー *contpath* に無効なコンテナー・サイズが指定されました。 使用するよう指定されたページ数が大きすぎます。資料を参照して、SQLCODE -1422 を確認してください。

**ADM6041E** REGULAR または USER TEMPORARY 表スペースのサイズは *maxPages* ページを超えられないため、表スペース *tsname* (ID *tsid*) に対する操作が失敗しました。資料を参照して、SQLCODE -1139 を確認してください。

**ADM6042E** 現在の表スペースサイズが大きすぎるため、表スペース *tsname* (ID *tsid*) に対する操作が失敗しました。 REGULAR 表スペースのサイズは 0x0100 0000 (16777216) ページに制限され、LARGE および TEMPORARY 表スペースのサイズは 0x2000 0000 (536870912) ページに制限されています。 資料を参照して、SQLCODE -1139 を確認してください。

**ADM6043W** レジストリー変数 DB2_NO_MPFA_FOR_NEW_DB は、無効値 (*regVarVal*) に設定されています。その結果、新たに作成したデータベースでは、複数ページのファイル割り振りが有効になります。 それが意図した結果でなければ、DB2_NO_MPFA_FOR_NEW_DB レジストリー変数を「はい」に設定して、データベースを再作成してください。 新たに作成したすべてのデータベースで複数ページ・ファイルの割り振りを無効にするには、DB2_NO_MPFA_FOR_NEW_DB レジストリー変数を YES に設定します。

**ADM6044E** DMS 表スペース *tsname* (ID *tsid*) がいっぱいです。これが自動サイズ変更または自動ストレージ DMS 表スペースである場合、最大表スペース・サイズに達したか、または既存のコンテナーまたはストレージ・パスをこれ以上増やせない状態にあります。 新規コンテナーを追加するか、または ALTER TABLESPACE SQL ステートメントを使って既存のコンテナーを変更することにより、表スペースにさらにスペースを追加することができます。 これが自動サイズ変更または自動ストレージ DMS 表スペースである場合、自動サイズ変更表スペースにコンテナーを追加するか、または自動ストレージ・データベースに新規ストレージ・パスを追加することによって、スペースをさらに追加できます。

**ADM6045I** WRITE RESUME オプションが発行されたため、WRITE_SUSPEND 状態が表スペース *tsname* (ID *tsstate*) から除去されました。

**ADM6046I** 複数ページのファイルの割り振りは、すでに有効になっています。 再度有効にしても、効果はありません。

**ADM6047W** 表スペース *tsname* (ID *tsid*) は DROP_PENDING 状態です。 表スペースは、OFFLINE 状態になります。 表スペース状態は、 0x*state* です。この表スペースは使用できないので、ドロップしてください。

**ADM6048I** 表スペース *tsname* (ID *tsid*) は以前は OFFLINE でしたが、ONLINE になりました。 表スペース状態は、 0x*state* です。

**ADM6049E** 1 つ以上の表スペースをオンラインにできないため、データベースを再始動できません。 データベースを再始動するには、″DROP PENDING TABLESPACES″ オプションを RESTART DATABASE コマンドに指定してください。警告! 表スペースをドロップ・ペンディング状態にすると、その表スペースへはアクセスできなくなります。 その後その表スペースが存在する間ずっと、その表スペースの内容はアクセス不能となり、その表スペースに許可される唯一の操作は、″DROP TABLESPACE″ だけとなります。この表スペースを元の状態に戻す方法はありません。このアクションの結果、データが失われる可能性があるということをよく考える必要があります。処理を実行する前に、DB2 資料を参照し、必要であれば IBM お客様サポートまで連絡してください。 DROP PENDING TABLESPACES リストに指定する表スペースは、以下のとおりです: *tsnames*。

**ADM6050W** バッファー・プール *bpname* (ID *bpid*) に対する ALTER BUFFERPOOL ステートメントは成功しましたが、メモリー不足のため即時実行することはできませんでした。 この変更は、次回データベースを始動したときに有効になります。資料を参照して、SQLCODE 20189 を確認してください。

**ADM6051E** RESTART DATABASE (クラッシュ・リカバリー) 中に、REORG 障害が発生しました。 関連した表が DROP_PENDING 状態の表スペースにあるため、索引の再作成は失敗します。 この障害を回避するには、INDEXREC データベース構成パラメーターを ″ACCESS″ に設定して、RESTART DATABASE が完了するまで、索引の再作成を遅らせてください。

**ADM6052E** ALTER TABLESPACE に、コンテナー *contpath* に対して無効なサイズが指定されました。使用するよう指定されたページ数が小さすぎます。資料を参照して、SQLCODE -1422 を確認してください。

**ADM6053W** データベース共有メモリーに十分な空きメモリーがないため、バッファー・プール *bpname* (**ID** *bpid*) に対する **CREATE BUFFERPOOL** ステートメントは、即時実行できませんでした。このバッファー・プールは、次回データベースを再始動したときに作成されます。資料を参照して、**SQLCODE 20189** を確認してください。

**ADM6054I** **DB2DART** は、現在アクセス不能な表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) を検出しました。 **DB2DART** は診断ユーティリティーなので、この表スペースに対する操作を継続します。

**ADM6055I** ページ *pagenum* が表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) から要求されましたが、この表スペースで現在進行中のリバランスによりまだスペースが有効になっていないため、このページはまだ使用できません。 要求者は、このページが使用できるようになるまで待機します。

**ADM6056I** プリフェッチ・キュー・フルを検出しました。 この結果、プリフェッチ要求はキューに入らず、パフォーマンスは最適にはなりません。 プリフェッチャー構成 (**NUM_IOSERVERS**、**PREFETCHSIZE**) と各表スペースのコンテナーの数を再検討してください。

**ADM6057I** プリフェッチ・キュー・フルを検出しました。 エージェントはキューでスペースが解放されるのを待機するため、パフォーマンスは最適になりません。プリフェッチャー構成 (**NUM_IOSERVERS**、**PREFETCHSIZE**) と各表スペースのコンテナーの数を再検討してください。

**ADM6058I** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) のリバランサーが開始されました。

**ADM6059I** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) のリバランサーが再始動しました。

**ADM6060I** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) に対してリバランサー・ユーティリティーは正常に開始されましたが、メモリー不足の状態のためにこのユーティリティーの実行をスロットルする機能は使用できなくなっています。 インスタンスを再始動すると、このメモリーの問題が解決される可能性があり、スロットルが使用できるようになります。

**ADM6061I** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) のリバランスが停止されます。このリバランスによって最後に移動されたエクステントは、*lastext* でした。

**ADM6062I** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) のリバランスが完了しました。

**ADM6063I** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) のリバランスが一時停止されました。

**ADM6064I** ロールフォワードは、表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) のリバランスが完了するのを待機しています。

**ADM6065I** **OFFLINE** 状態を表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) から除去しようとしましたが、この表スペースはオフラインではありませんでした。 このコマンドは無視されます。表スペース状態は、**0x***tsstate* です。

**ADM6066I** **OFFLINE** 状態を表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) から除去しようとしましたが、このアクションは失敗したため、表スペースはこの状態のままになります。 表スペース状態は、**0x***tsstate* です。資料を参照して、**SQLCODE -293** を確認してください。

**ADM6069W** バッファー・プール *bpname* (**ID** *bpid*) は、 **NUMBLOCKPAGES** 値 *oldNumBlockPages* を持っていますが、この値はこのサイズのバッファー・プールでサポートされている最大値を超えています。このバッファー・プールの現在の活動化について、バッファー・プールの **NUMBLOCKPAGES** 値は、*newNumBlockPages* に引き下げられました。 **NUMBLOCKPAGES** の値を永久に変更するには、**ALTER BUFFERPOOL SQL** ステートメントを使用します。

**ADM6070W** バッファー・プール *bpname* (**ID** *bpid*) は、**NUMBLOCKPAGES** 値 *numBlockPages* を持っています。 この値は、**NUMBLOCKPAGES** に対して許可されている最小値 (**BLOCKSIZE** *blockSize*) に達していません。 その結果、このバッファー・プールは現在の活動化については、ブロック・ベースになりません。 **NUMBLOCKPAGES** の値を永久に変更するには、**ALTER BUFFERPOOL SQL** ステートメントを使用します。

**ADM6071I** バッファー・プール *bpname* (**ID** *bpid*) で、並行して許可される最大ピン・ページ数に達しました。 その結果、パフォーマンスが最適にならない可能性があります。 **SORTHEAP** データベース構成パラメーターを増やすことにより、今後この状態が発生する可能性を減らすことができます。

**ADM6072W** バッファー・プール *bpname* (**ID** *bpid*) から一時ページを書き出しているときに、ディスクがフルの状態を検出しました。必要なページがすべてディスクに書き込まれるまで、バッファー・プールのサイズを小さくすることはできません。管理通知ログのこの前のメッセージに、ディスクがフルの状態に関する詳細情報がないか確認してください。 **DB2** は、ディスクがフルの状態が解決されるまで、引き続きディスクにこのページの書き込みを再試行します。

**ADM6073W** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) は、バッファー・プール **ID** *ondiskBP* を使用するように構成されていますが、このバッファー・プールは現在アクティブ化されていません。 一時的に、表スペースはバッファー・プール **ID** *RTBP* を使用します。非アクティブのバッファー・プールは、必要なメモリーが使用できるなら、次回データベースを始動したときに使用できるようになるはずです。

**ADM6074I** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) を **WRITE_SUSPEND** 状態にしようとしましたが、この表スペースはすでに **WRITE_SUSPEND** 状態です。

**ADM6075W** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) は、**WRITE_SUSPEND** 状態になりました。この表スペースのすべての入出力は、**WRITE RESUME** が発行されるまで中断されます。

**ADM6076W** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) は以前に **WRITE_SUSPEND** 状態でしたが、現在はその状態ではありません。 この表スペースへの書き込み入出力は再開されました。

**ADM6077I** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) を **WRITE_SUSPEND** 状態から除去しようとしましたが、この表スペースは **WRITE_SUSPEND** 状態ではありませんでした。この場合、**WRITE RESUME** を指定しても何の効果もありません。

**ADM6078W** 次の表スペースは、**DROP_PENDING** 状態にするよう **RESTART DATABASE** コマンドに指定されました: *tsnames*。

**ADM6079E** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) は **ROLLFORWARD_IN_PROGRESS** 状態でしたが、最早アクセスできなくなりました。 この表スペースはオフラインにされて、**RESTORE_PENDING** 状態に置かれました。

**ADM6080E** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) は、**OFFLINE** にされ、**ROLLFORWARD_PENDING** 状態です。表スペース状態は、**0x***tsstate* です。

**ADM6081W** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) は **OFFLINE** 状態で、アクセスできません。 表スペース状態は、**0x***tsstate* です。資料を参照して、**SQLCODE -293** を確認してください。

**ADM6082W** 現行のトランザクションは、失敗が許可されない作業を行おうとしています。ただし、この作業は、バッファー・プールに使用できるフリー・ページがないために完了することができません。 さらにフリー・ページを検出しようとしますが、将来、この状態はバッファー・プール *bpname* (**ID** *bpid*) のサイズを増やすことで回避できるようになります。

**ADM6083E** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) に対して、表スペース変更操作の再実行中にエラーが発生しました。このエラーはトランザクションの余りをやり直す間、一時的に無視されます。 変更操作が最終的にロールバックすると、エラーは廃棄されます。 ただし、操作がコミットされると、このエラーは戻され、表スペースに対するリカバリーを停止します。

**ADM6084E** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) に対する変更操作をコミットしようとしましたが、直前のエラーによって、この試みを行うことができませんでした。 リカバリーを再試行する前に、オリジナルのエラーを解決してください。

**ADM6085I** バッファー・プール・ハッシュ・バケットのサイズ変更中に、メモリー不足状態が発生しました。 この状態の結果、パフォーマンスが最適にならない可能性があります。データベースをシャットダウンして再始動してください。バッファー・プールを、最適のサイズのハッシュ表によって開始することができます。

**ADM6086W** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) に対して、ファントム静止状態の取得およびリセットを行おうとしましたが、コマンドから正常に戻っても、この状態が変わりませんでした。現行ユーザーの許可 **ID** が、静止プログラムの許可 **ID** に一致しません。これらは、ファントム静止プログラムを正常に取得し、リセットするためには同一でなければなりません。 表スペースのスナップショットを取って正しい静止プログラムの許可 **ID** を決定し、その **ID** を使用して **quiesce reset** コマンドをやり直してください。

**ADM6087I** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) の静止状態をリセットしようとしましたが、表スペースが現在静止状態ではありません。

**ADM6088W** メモリー不足状態のため、現行エージェントは表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) をモニターすることができません。その結果、モニター出力を信頼できない可能性があります。 **DBHEAP** 構成パラメーターを増やして、この問題が将来発生しないようにしてください。

**ADM6089I** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) に対してリバランサー・ユーティリティーは正常に開始されましたが、メモリー不足の状態のために進捗モニター・サービスは使用できなくなっています。 インスタンスを再始動すると、このメモリー問題が解決される可能性があり、進捗モニター・サービスが有効になることがあります。

**ADM6090W** ページ・クリーナーによって、システム全体またはプロセス/スレッド固有のファイル・ハンドル限界に達しました。 ページ・クリーナーは、エラー条件を受け取ったクリーナーによって開かれたファイル・ハンドルをすべて閉じることによって応答します。 このエラーは、それを受け取るページ・クリーナーにつき 1 度だけログに記録されます。 推奨アクション: オペレーティング・システムのファイル・ハンドル限界をチェックし、**DB2_ASYNC_IO_MAXFILOP** (レジストリー変数) が使用されている場合はそれを減らし、使用されていない場合は **MAXFILOP** (構成パラメーター) を減らします。 それらのパラメーターの変更を有効にするには、データベースを再始動する必要があります (データベースの非活動化または最終接続の終了)。

**ADM6091W** 自動サイズ変更表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) のサイズを自動的に増やそうとしましたが、表スペースの最大サイズ (*maxsize* バイト) に達しました。 この値は、コミットされていない **ALTER TABLESPACE** ステートメントが原因で、予想より低い可能性があります。 また **DB2** は同じ比率でコンテナーを拡張し、拡張は複数のエクステントで行う必要があるので、最大サイズに正確に達するのは実際には不可能です。 この場合、現行サイズ (*currentsize* バイト) の値は最大サイズよりも小さくなります。 この表スペースの最大サイズを増やすために、**ALTER TABLESPACE** ステートメントの **MAXSIZE** 文節を使用できます。

**ADM6092W** 自動ストレージ表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) のサイズを自動的に増やそうとしました。 データベースに関連したストレージ・パスはすべてフルか、または新規コンテナーを作成するのに十分なスペースがないため、これは失敗しました。 新規ストレージ・パスは **ALTER DATABASE** ステートメントを使用してデータベースに追加できます。

**ADM6093W** サイズ変更表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) のコンテナー *container* を自動的に拡張しようとしましたが、ファイル・システム上にスペースがありません。 そのため、表スペースのサイズをこれ以上増やせません。 これを解決するための 1 つの方法は、ファイル・システム上に使用できるスペースを増やすことです。 あるいは、**ALTER TABLESPACE** ステートメントの **BEGIN NEW STRIPE SET** 文節を使用して表スペースに新規ストライプ・セットを追加することもできます。 この後で表スペースのサイズを自動変更しようとすると、新しく追加されたコンテナーのみが拡張され、既存のコンテナーは現状のままとなります。

**ADM6094W** **RESTORE DATABASE** または **ROLLFORWARD DATABASE** コマンドにより、自動サイズ変更表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) のストレージが変更されました。 そのため、表スペースの最大サイズをこのパーティション上で *oldmaxsize* バイトから *newmaxsize* バイトに増やす必要がありました。 データベース・パーティションが複数ある場合、表スペースの最大サイズはデータベース・パーティション間で整合しなくなります。 これによって問題が生じることはありませんが、望ましくありません。 これを解決するには、それぞれのデータベース・パーティションで **ALTER TABLESPACE** ステートメントを使用して、**MAXSIZE** 値を新たに現行サイズ以上に設定します。 あるいは、**MAXSIZE NONE** オプションを使用して、最大サイズがないことを指定することもできます。

**ADM6095W** ロールフォワード操作で、**ALTER DATABASE** ステートメントの **ADD STORAGE** 文節に関連付けられたログ・レコードが検出されました。 しかしながら、データベースと関連したストレージ・パスは以前のデータベースのリストア中に再定義されており、ストレージ・パスの完全セットがその時点で定義されたと推測されるため、このログ・レコードは再生されませんでした。 そのため、ストレージ・パス *storagepath* はデータベースに追加されませんでした。

**ADM6096W** ロールフォワード操作は、自動サイズ変更表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) の最大サイズを変更しようとするログ・レコードを検出しました。 実行時にはこれは成功しましたが、データベースまたは表スペースのリストアおよびロールフォワードのプロセス中に新規コンテナー構成が確立されました。この最大サイズは、表スペースの現行サイズ未満です。 そのため、表スペースの最大サイズは *maxsize* バイトではなく *currentsize* バイトに設定されています。 データベース・パーティションが複数ある場合、表スペースの最大サイズはそれらの間で整合しなくなります。 これによって問題が生じることはありませんが、望ましくありません。 これはロールフォワードが完了した後、それぞれのデータベース・パーティションで **ALTER TABLESPACE** ステートメントを使用して、**MAXSIZE** 値を新たに現行サイズ以上に設定することによって解決できます。あるいは、**MAXSIZE NONE** オプションを使用して、表スペースに最大サイズがないことを指定することもできます。

**ADM6097I** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) 新規ストライプ・セットで *extend* バイト正常に拡張されました。

**ADM6098W** コンテナー・マップが複雑になりすぎたため、表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) を拡張できませんでした。

**ADM6099W** このタイプおよびページ・サイズの表スペースで、表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) が最大サイズ (*maxsize* バイト) に達しました。 データベースにさらにストレージを追加するには、新規表スペースを追加してください。

**ADM6100W** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) の自動サイズ変更試行中に、コンテナー *cname* を増やせませんでした。

**ADM6101W** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) の拡張試行中に、*path* の空きが *freebytes* バイト未満でした。 このスペースは **DB2** やオペレーティング・システムによる使用のために予約されています。

**ADM6102I** 表スペース *tsname* (**ID** *tsid*) は *extend* バイト正常に拡張されました。

**ADM6103W** **ID** *index-id* を持つ索引はまだラージ **RID** をサポートしていないため、表 *table-name* は新規ページを割り振ることができません。 この表がある表スペースは、**ALTER TABLESPACE** ステートメントの **CONVERT TO LARGE** 文節によって **LARGE** 表スペースに変換されました。表上に以前から存在しているすべての索引を再編成するか再ビルドしてラージ **RID** をサポートするまでは、表自体がラージ **RID** をサポートできません。 この表の将来の拡大をサポートできるように、索引を再編成または再ビルドする必要があります。

**説明:**

REORG INDEXES ALL FOR TABLE *table-name* を使用して索引を再編成できますが、このとき CLEANUP ONLY 文節は指定しません。パーティション化された表の場合は、ALLOW NO ACCESS を指定する必要があります。 別の方法としては、すべての索引を再ビルドするだけでなく、ページあたり 255 行より多い行数を表がサポートできるようにするかたちで、表を再編成できます (INPLACE ではなく、従来の REORG)。

**ADM6104W** 表スペース *tbspace-name* を **REGULAR** から **LARGE** に変換中です。この表スペース内の表の索引を再編成または再ビルドして、ラージ **RID** をサポートする必要があります。 変換中の表スペースは (**COMMIT** の後)、**REGULAR** 表スペースの記憶容量より大きい容量をサポートすることができます。 **REGULAR** 表スペースでのデータ・ページの最大ページ番号は **0x00FFFFFF** です。 **0x00FFFFFF** を超えるページ番号を割り振られている表には、そのようなページ番号をサポートするために、表の索引によるサポートが必要です。表の索引が再編成または再ビルドされて上記のページ番号がサポートされるようになるまでは、表にそれらのページ番号を割り当てるとエラーになります。

**説明:**

「DB2 SQL リファレンス」の ALTER TABLESPACE ステートメントに関する説明に、CONVERT TO LARGE オプションを使用する場合のベスト・プラクティスが示されています。 将来表が大きくなったときに障害が起きないようにするために、事前の対策として推

奨事例にしたがい、この表スペース内にあるすべての表のすべての索引を再編成または再ビルドしておくことをお勧めします。

**ADM6105E** この自動ストレージ対応データベースに関連付けられているストレージ・パスが、データベース・パーティション *X* とデータベース・パーティション *Y* とで一貫性がありません。データベース・マネージャーはすべてのデータベース・パーティションの間でストレージ・パスを整合させようとしましたが、現在も矛盾しています。 データベースは引き続き機能しますが、データベース内のすべてのパーティションの間でストレージ・パスを整合させることをお勧めします。 その作業は、各パーティション上のデータベースをバックアップし (バックアップ・イメージがまだない場合)、バックアップ・イメージを復元することによって行うことができます。 まず、各パーティションが使用するパスのリストを指定してカタログ・パーティションを復元します (**RESTORE DATABASE** コマンドの **ON** オプションを使用する)。 データベースがリカバリー可能な場合、すべてのパーティション上でデータベースが復元された後に、ロールフォワードを実行する必要があります。

**ADM6106E** ロールフォワード操作中に、表スペース *name* (**ID** = *id*) を作成できませんでした。 おそらく、表スペースに関連付けられているコンテナーを作成するだけの十分なスペースがないことが原因です。 ロールフォワード操作後にデータベースへの接続が完了したなら、**SET TABLESPACE CONTAINERS** コマンドを使用して、表スペースにコンテナーを割り当てます。 次に、もう一度 **ROLLFORWARD DATABASE** コマンドを発行して、この表スペースのリカバリーを完了します。

**ADM6107E** ロールフォワード操作中に、自動ストレージ表スペース *name* (**ID** = *id*) を作成できませんでした。 おそらく、*size* バイトの表スペースを作成するだけの十分なスペースがデータベースのストレージ・パスにないことが原因です。 このことが原因である場合は、既存のストレージ・パスで使用できるスペースを増やすか、または **ALTER DATABASE SQL** ステートメントを使用して新規のストレージ・パスを追加してから、もう一度 **ROLLFORWARD DATABASE** コマンドを発行してこの表スペースをリカバリーします。

**ADM6500W** データ・リンク・ファイル・サーバー *fileServer* の接続が失敗しました。サーバーは、ブロックされています。

**ADM6501W** データ・リンク・ファイル・サーバー *fileServer* の接続が再始動に失敗しました。

**ADM6502W** データ・リンク・ファイル・サーバー *fileServer* の接続が失敗しました。

**ADM6510W** データ・リンク・ファイル・サーバー *fileServer* は、登録されていません。

**ADM6511W** データ・リンク・ファイル・サーバー *fileServer* はアクティブではありません。

**ADM6512W** **DB2** は、データ・リンク構成ファイルから読み取れません。

**ADM6513W** **DB2** は、データ・リンク構成ファイル *fileName* を作成できません。

**ADM6514W** **DB2** がデータ・リンク構成ファイルに書き込み中、エラーが発生しました。

**ADM6515W** **DB2** がデータ・リンク構成ファイルをクローズ中、エラーが発生しました。

**ADM6516W** **DB2** は、データ・リンク構成ファイル *fileName* をオープンできません。

**ADM6517W** 既存の Data Links Manager (*typeOfServers*) と異なるタイプの Data Links Manager に追加しようとしたか、または 2 つ目の DFS Data Links Manager を追加しようとしました。 1 つのデータベースの Data Links Manager はすべて同じタイプでなければならず、また DFS のタイプの 1 つの Data Links Manager しか追加できません。

**ADM7000W** 無効な SEARCH ディスカバリー・プロトコル *fileName* が DISCOVER_COMM レジストリー変数に指定されました。

**ADM7001E** DB2 関数 sqloinstancepath が失敗しました。 インスタンス・パスは設定されませんでした。 UNIX をご使用の場合は、DB2INSTANCE レジストリー変数をチェックしてください。 Windows をご使用の場合は、DB2INSTANCE、DB2PATH、および DB2INSTPROF レジストリー変数をチェックしてください。

**ADM7004E** 無効値 (*value*) が DB2COMM レジストリー変数に指定されました。

**ADM7005W** DISCOVER モードが SEARCH に設定されました。 ただし、DISCOVER_COMM レジストリー変数は、どのプロトコルでも構成されていません。

**ADM7006E** SVCENAME DBM 構成パラメーターが構成されていません。 TCP/IP サービス・ファイルに定義されているサービス名を使って、SVCENAME 構成パラメーターを更新してください。

**ADM7007E** SVCENAME DBM 構成パラメーター *socketAddress* は、ポートまたはサービス名で構成されています。 サービス名で構成されている場合は、サービス名をポート番号にマップするために TCP/IP サービス・ファイルが使用されます。このフィールドに指定されたポートは、別の処理で使用されています。ポートを使用している処理を削除するか、または別のポートを使って、この問題を解決してください。

**ADM7008W** DB2TCPCONNMGRS レジストリー可変値 *userValue* は無効です。有効な値は 1 から 8 までです。 デフォルト DB2TCPCONNMGRS 値の *defaultValue* が使用されます。

**ADM7009E** *protocolTCPIP* プロトコル・サポートでエラーが検出されました。 原因として、エージェントの最大数を超えたことが考えられます。

**ADM7011E** 同期点マネージャーは、このマシンにインストールされている Microsoft SNA サーバーのバージョンをサポートしていません。 最小要件は、Microsoft SNA サーバー V4 Service Pack 3 です。

**ADM7500W** インスタンスの静止が要求されました。

**ADM7501W** インスタンスの静止要求が正常に完了しました。

**ADM7502E** インスタンスの静止要求が失敗しました。 SQLCODE は *SQLCODE* です。

**ADM7503W** インスタンスの非静止要求は正常に完了しました。

**ADM7504W** インスタンスの非静止が要求されました。

**ADM7505E** インスタンスの非静止要求が失敗しました。 SQLCODE は *SQLCODE* です。

**ADM7506W** データベースの静止が要求されました。

**ADM7507W** データベースの静止要求が正常に完了しました。

**ADM7508E** データベースの静止要求は失敗しました。 SQLCODE は *SQLCODE* です。

**ADM7509W** データベースの非静止要求は正常に完了しました。

**ADM7510W** データベースの非静止が要求されました。

**ADM7511E** データベースの非静止要求が失敗しました。 **SQLCODE** は *SQLCODE* です。

**ADM7512E** トランザクションの再同期エラーが発生しました。**IBM** お客様サポートに連絡してください。

**ADM7513W** データベース・マネージャーが開始されました。

**ADM7514W** データベース・マネージャーが停止されました。

**ADM7515W** ディレクトリー・キャッシング・サポートなしでコンセントレーターが有効にされていますが、この結果、パフォーマンスが低下する可能性があります。 この問題を訂正するには、データベース・マネージャー構成でディレクトリー・キャッシングを有効にしてください。

**説明:**
ディレクトリー・キャッシングは比較的オーバーヘッドの低い機能であり、エンジンにおいてデフォルトで有効になります。 ユーザーがこの機能を無効にする理由はほとんどありません。特にコンセントレーター構成でディレクトリー・キャッシングをオフにすることには特に注意が必要です。これは、コンセントレーターのボトルネックであるディスパッチャー処理が、新しい接続が行われる度にディスクに行くことを要求される可能性があるためです。

**ユーザーの処置:**
ディレクトリー・キャッシングを有効にするか、または非コンセントレーター構成で実行してください。

**ADM7517W** コンセントレーターが有効になっている場合、データベース *databaseName* における、**1** つのアプリケーション・グループ当たりの最大アプリケーション数は、*maxApp* に制限されます。 この問題を訂正するには、**APPGROUP_MEM_SZ** 構成パラメーターの値を減らしてください。

**ADM7518C** *dbName* は、不正とマークされています。

**ADM7519W** **DB2** は、エージェントを割り振れませんでした。 **SQLCODE** は *SQLCODE* です。

**ADM7520E** ノード *nodeNum* で、アンマウントされたファイル・システムのマウントが失敗しました。マイグレーションの前に、手動で再マウントする必要があります。 *errorFile* をチェックして、マイグレーションを再試行する前にファイル・システムを再マウントしてください。

**ADM7521E** ノード *nodeNum* で、マウントされたファイル・システムのアンマウントが失敗しました。アンマウントされているファイル・システムを再マウントして、データベースのマイグレーションを再試行してください。

**ADM7522E** ノード *nodeNum* で、アンマウントされているファイル・システムを新しいマウント・ポイントに再マウントしようとして失敗しました。データベースのマイグレーションを再始動する必要があります。

**ADM7523E** **DB2** は、アプリケーション・グループ・メモリー・セットを割り振れませんでした。 これにより、データベースの活動化が失敗します。 **APPGROUP_MEM_SZ DB** 構成パラメーターを減らして再試行してください。

**ADM8000C** バックアップが終了されました。 戻された **SQLCODE** は *SQLCODE* です。

**ADM8001W** **TRACKMOD DB** 構成パラメーターが有効になっていないため、このデータベースでは増分バックアップが有効になっていません。

**ADM8002W** このバックアップと関連したログがロー・デバイス上で上書きされているため、このバックアップ・イメージをロールフォワードに使用できません。より新しいバックアップ・イメージを使用してください。

**ADM8003C** リストアが終了されました。 戻された **SQLCODE** は *SQLCODE* です。

**ADM8004W** **TRACKMOD** 構成パラメーターが有効になっていないため、増分バックアップは、この表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) に対して有効になっていません。

**ADM8005W** 増分バックアップは表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) に対して有効になっていませんでした。 この表スペースの非増分バックアップが必要です。

**ADM8006W** **DB2** は、指定されたリストア・バッファー・サイズ *restoreBufferSize* **4K** ページを使用できません。リストア・バッファー・サイズは、バックアップ・バッファー・サイズ *backupBufferSize* **4K** ページの倍数でなければなりません。 リストア操作は、デフォルトのバッファー・サイズを使って継続されます。

**ADM8007W** **DB2** は、複数の同時増分リストアを実行できません。

**ADM8008W** **DB2** は、リストア中にすべての表スペースのオンライン再編成状態ファイルの検索または削除、あるいはそのいずれかを実行できませんでした。 このファイルを除去するには、手操作による介入が必要かもしれません。

**ADM8009W** リストア中に、表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID* ) のオンライン再編成状態ファイルを検索または削除、あるいはその両方を実行できませんでした。 このファイルを除去するには、手操作による介入が必要かもしれません。

**ADM8010E** バックアップ処理において、要求されたログ・ファイル *logfileName* を、バックアップ・イメージに含めるためにコピーできませんでした。 バックアップは異常終了しました。

**ADM8011W** データベースのバックアップに成功しました。ただし、**DB2** データベース・サーバーは、バックアップ時にイメージの増分チェーンの一部を作成できなかったため、その影響を受けるイメージをリストア時に使用することはできません。特に、表スペース *table-space-name* を含む、増分リストアのタイム・スタンプ *timestamp* を持つバックアップ・イメージを使用することはできません。

**ADM8012W** データベースのバックアップに成功しました。ただし、リカバリー履歴ファイル自体の更新中に書き込みエラーが発生したため、タイム・スタンプ *timestamp* を持つバックアップ・イメージに対応するリカバリー履歴ファイルの項目はフォームが整っていません。詳しくは、**db2diag.log** ファイルを参照してください。

**ADM8500W** データ破壊の可能性があるため、**DB2** は履歴ファイルからの読み取りに失敗しました。 このファイルが存在しており、破壊されていないことを確認してください。

**ADM8501W** ディスクがフルのため、**DB2** は履歴ファイルへの書き込みに失敗しました。

**ADM8502W** 履歴ファイルは破壊されています。 このファイルで、リカバリー不能エラーが検出されました。 既存ファイルは削除され、バックアップが作成されました。 この問題の原因を判別する場合は、**IBM** お客様サポートまで連絡してください。 それ以外の場合は、これ以上のアクションは不要です。

**ADM8503W** **DB2** は操作 *operation* の履歴項目を記録できませんでした。

**ADM8504I** タイム・スタンプが *timestamp* のバックアップ・イメージを正常に削除しました。

**ADM8505I** タイム・スタンプが *timestamp* のロード・コピー・イメージを正常に削除しました。

**ADM8506I** **ログ・チェーン *log-chain* 内にある以下のデータベース・ログ *log-list* を正常に削除しました。**

**ADM8507N** **タイム・スタンプが *timestamp* のバックアップ・イメージを削除できません。**

**説明:**
DB2 データベース・マネージャーは、指定のバックアップ・イメージを削除しようとしましたが失敗しました。

**ユーザーの処置:**
DB2 データベース・マネージャーがストレージ・マネージャーまたはバックアップ・イメージの保管先ディレクトリーにアクセス可能であることを検証してください。詳しくは、db2diag.log ファイルを参照してください。

**ADM8508N** **タイム・スタンプが *timestamp* のロード・コピー・イメージを削除できません。**

**説明:**
DB2 データベース・マネージャーは、指定のロード・コピー・イメージを削除しようとしましたが失敗しました。

**ユーザーの処置:**
DB2 データベース・マネージャーがストレージ・マネージャーまたはロード・コピー・イメージの保管先ディレクトリーにアクセス可能であることを検証してください。詳しくは、db2diag.log ファイルを参照してください。

**ADM8509N** **ログ・チェーン *log-chain* 内のデータベース・ログ *log-list* を削除できませんでした。**

**説明:**
DB2 データベース・マネージャーは、指定のデータベース・ログを削除しようとしましたが失敗しました。

**ユーザーの処置:**
DB2 がストレージ・マネージャーまたはログ・ファイルの保管先ディレクトリーにアクセス可能であることを検証してください。詳しくは、db2diag.log ファイルを参照してください。

**ADM9000W** **ソートのマージ中に、プリフェッチが無効になっていました。パフォーマンスは最適でない可能性があります。このメッセージが繰り返し表示される場合は、TEMPORARY 表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) のバッファー・プール・サイズを増やすか、またはソート・スピルのエクステントを減らすために SORTHEAP DB 構成パラメーターの値を増やしてください。**

**ADM9500W** **オンライン索引作成/再編成中に、表 *tableName* (ID *tableID*) と表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) で発生した並行更新の数が多すぎます。 そのため、オンライン索引作成/再編成を完了するためにより長い時間がかかります。UTIL_HEAP_SZ DB 構成パラメーターを増加してみてください。**

**ADM9501W** **表 *tableName* (ID *tableID*) と表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) に対する索引の再編成を開始します。**

**ADM9502W** **表 *tableName* (ID *tableID*) と表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) に対する索引再編成を終了します。**

**ADM9503W** **表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) 中の表 *tableName* (ID *tableID*) に関する、表スペース *indexTablespaceName* (ID *indexTablespaceID*) 中の索引 IID *indexIID* (OBJECTID *indexObjectID*) に対する索引再編成を継続します。**

**ADM9504W** **このノードにおける、表 *tableName* (ID *tableID*) と表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) に対する索引再編成は失敗しました。 SQLCODE *SQLCODE*、理由コード *reasonCode*。この問題を解決するには、失敗したノードで REORG INDEXES コマンドを再サブミットしてください。**

**ADM9505W** 索引が再ビルドするようマークされているため、表 *tableName* (**ID** *tableID*) と表スペース *tablespaceName* (**ID** *tablespaceID*) に対するオンライン索引再編成はオフライン・モードに切り替えられました。 これらの索引は、索引の作成と再作成、またはそのいずれかの間のロールフォワード中に、再ビルドするようマークされた可能性があります。 その場合は、**INDEXREC** データベース・マネージャー構成パラメーターを **RESTART** に設定してみてください。これにより、ロールフォワード中に再ビルドするようマークされている索引は、**RESTART DATABASE** 処理中に再ビルドされます。

**ADM9506W** **HADR** は有効ですが、表スペース *tablespace-name* (表スペース **ID:** *tablespace-id*) 内の表 *table-name* (表オブジェクト **ID:** *object-id*) に対する索引の作成、再作成、または再編成でのフル・ロギングは無効になっています。ユーザーがそれを無効にするよう明示的に要求したからです。 したがって、この表で索引作成操作を行っても、**HADR** を使用する **2** 次データベース・サーバー上でそれがただちにリカバリーされることはありません。 **HADR** のテークオーバー・プロセスの終了時点か、または **HADR** テークオーバー・プロセスの後で基礎表にアクセスした時点に、**2** 次データベース・サーバー上の索引は暗黙で再作成されます。 これが意図した動作でなければ、索引の作成、再作成、または **REORG** の実行の前に、表に対するフル・ロギングを有効にしてください。

**ADM9507W** **HADR** を有効にする場合は、**HADR** の **1** 次および **2** 次の両方のデータベース・サーバーで、データベース構成パラメーター **LOGINDEXBUILD** をオンに設定するようお勧めします。 そうしないと、現在または将来の **HADR 1** 次データベース・サーバーでの索引の作成、再作成、または再編成をログ記録できなくなる可能性があります。 **HADR** を使用する **2** 次データベース・サーバーでは、**1** 次データベース・サーバーで完全にはログ記録されていない索引の作成、再作成、または再編成はリカバリーされなくなります。 リカバリーできない索引には無効のマークが付けられ、**HADR** のテークオーバー・プロセスの終了時点か、または **HADR** テークオーバー・プロセスの後で基礎表にアクセスした時点で、暗黙で再ビルドされます。 これが意図した動作でなければ、索引作成操作の実行の前に、フル・ロギングを有効にするか、またはこの構成パラメーターのデフォルト設定を使用します。

**ADM9508W** **HADR** を有効にする場合、データベースまたはデータベース・マネージャー構成パラメーター **INDEXREC** を **RESTART** または **ACCESS** に設定して、索引の作成、再作成、または再編成の再実行を有効にすることをお勧めします。 そうしないなら、**HADR** を使用した場合に、**1** 次データベース・サーバーで完全にログ記録されている索引の作成、再作成、または再編成が **2** 次データベース・サーバー上でリカバリーされなくなります。 リカバリーできない索引には無効のマークが付けられ、**HADR** のテークオーバー・プロセスの終了時点か、または **HADR** テークオーバー・プロセスの後で基礎表にアクセスした時点で、暗黙で再ビルドされます。 これが意図した動作でなければ、索引作成操作の実行の前に、**INDEXREC** を更新するか、またはこの構成パラメーターのデフォルト設定を使用します。

**ADM9509W** HADR を開始する前に、データベース構成パラメーター LOGINDEXBUILD をオンに設定するようお勧めします。 そうしないと、現在または将来の 1 次データベース・サーバーでの索引の作成、再作成、または再編成を、HADR を使用する現在または将来の 2 次データベース・サーバー上ではリカバリーできなくなることがあります。 リカバリーできない索引には無効のマークが付けられ、HADR のテークオーバー・プロセスの終了時点か、または HADR テークオーバー・プロセスの後で基礎表にアクセスした時点で、暗黙で再ビルドされます。 これが意図した動作でなければ、データベース構成パラメーター LOGINDEXBUILD をオンに更新します。

**ADM9510W** エラー (**sqlcode** *sqlcode*) が発生したため、索引の再作成処理を完了できませんでした。 処理終了時に再作成されなかった無効な索引は、表の初回アクセス時に再作成されます。 この索引再作成処理は、データベースの明示的または暗黙的な再始動時に呼び出されたか、またはHADR テークオーバーの終了時に呼び出されました。

**ADM9511W** 表スペース ID *tablespaceID* 中の表 *tableName* (ID *tableID*) に関する、表スペース *indexTablespaceName* (ID *indexTablespaceID*) 中の索引 *indexname* (IID *indexIID*、OBJECTID *indexObjectID*) に対する索引再編成を継続します。

**ADM9512W** このノードにおける、表スペース ID *tablespaceID* 中の表 *tableName* (ID *tableID*) に関する表スペース *indexTablespaceName* (ID *indexTablespaceID*) 中の索引 *indexname* (IID *indexIID*、OBJECTID *indexObjectID*) の索引再編成は失敗しました。SQLCODE *SQLCODE*、理由コード *reasonCode*。この問題を解決するには、失敗したノードで REORG INDEX コマンドを再サブミットしてください。

**ADM9513W** 表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) 中の表 *tableName* (ID *tableID*) に対するオンライン索引再編成で、いくつかの索引が無効とマーク付けされていることが検出され、それらの索引が再ビルドされるまで継続できません。 DB2 は自動的にこの表の索引を再ビルドします。その結果、再ビルド中は超排他 Z 表ロックが掛けられます。 再ビルド後に、変更は内部的にコミットされ、現行コマンドにより再編成が指定されている索引のうちまだ再ビルドされていないものに関するオンライン索引再編成が (オリジナルのロック・モードを使用して) 継続されます。

**ADM9514I** 表 *tableName* (ID *tableID*) と表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) に対する非同期索引クリーンアップを開始します。

**ADM9515I** 表 *tableName* (ID *tableID*) と表スペース *tablespaceName* (ID *tablespaceID*) に対する非同期索引クリーンアップを終了します。

**ADM10000W** Java 例外を検出しました。 Java スタック・トレースバックは、db2diag.log に書き込まれました。

**ADM10500E** ヘルス・インディケーター *Health-Indicator-Short-Description* (*Health-Indicator-Short-Name*) は、*Monitored-Object-Type* *Monitored-Object-Name* について、値 *Health-Indicator-Value* を持つ *Threshold-Bound-Name* アラームしきい値 *Threshold-Bound-Value* に違反しました。 計算: *Formula-String* = *Formula-with-Values* = *Health-Indicator-Value*。履歴 (タイム・スタンプ、値、公式): *Health-Indicator-History-List*

**説明:**
このヘルス・インディケーターのアラームしきい値に違反したため、ヘルス・モニターはアラートを生成しました。 この状態は、データベース・パフォーマンスの低下や操作の中断を引き起こす可能性があるため、即時にアドレッシングする必要があります。

**ユーザーの処置:**
以下のいずれかのツールを使って推奨値を取得するか、または場合によってはアクションを実行して、このアラートを解決することができます。

ヘルス・センター:

コントロール・センター・ツールがインストールされている場合は、以下のいずれかの方法でこのツールを立ち上げることができます。

- Windows のメニューを開始する
- コントロール・センター・ツールバー
- コマンド行に ″db2hc″ と入力する

ヘルス・インディケーターの記述、推奨アクション、およびアクションに影響を与えるツールへのリンクが提供されます。

Web ヘルス・センター:

Web ベースのツールがインストールされている場合は、Web 管理者により提供されている URL を使って Web ブラウザーから立ち上げることができます。

ヘルス・インディケーターの記述、推奨アクション、およびアクションに影響を与えるツールへのいくつかのリンクが提供されます。

コマンド行プロセッサー (CLP):

以下のコマンドを実行することにより、CLP からヘルス・インディケーターの記述と推奨アクションを得ることができます。

- GET RECOMMENDATIONS FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*
- GET DESCRIPTION FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*

---

**ADM10501W ヘルス・インディケーター** *Health-Indicator-Short-Description* **(***Health-Indicator-Short-Name***) は、** *Monitored-Object-Type* *Monitored-Object-Name* **について、値** *Health-Indicator-Value* **を持つ** *Threshold-Bound-Name* **警告しきい値** *Threshold-Bound-Value* **に違反しています。 計算:** *Formula-String* **=** *Formula-with-Values* **=** *Health-Indicator-Value***。履歴 (タイム・スタンプ、値、公式):** *Health-Indicator-History-List*

**説明:**

このヘルス・インディケーターの警告しきい値に違反したため、ヘルス・モニターはアラートを生成しました。この状態は特にすぐにアテンションが必要なわけではありませんが、この状態が次第に悪化した場合、データベース・パフォーマンスの低下や操作の中断につながる可能性があります。

**ユーザーの処置:**
以下のいずれかのツールを使って推奨値を取得するか、または場合によってはアクションを実行して、このアラートを解決することができます。

ヘルス・センター:

コントロール・センター・ツールがインストールされている場合は、以下のいずれかの方法でこのツールを立ち上げることができます。

- Windows のメニューを開始する
- コントロール・センター・ツールバー
- コマンド行に ″db2hc″ と入力する

ヘルス・インディケーターの記述、推奨アクション、およびアクションに影響を与えるツールへのリンクが提供されます。

Web ヘルス・センター:

Web ベースのツールがインストールされている場合は、Web 管理者により提供されている URL を使って Web ブラウザーから立ち上げることができます。

ヘルス・インディケーターの記述、推奨アクション、およびアクションに影響を与えるツールへのいくつかのリンクが提供されます。

コマンド行プロセッサー (CLP):

以下のコマンドを実行することにより、CLP からヘルス・インディケーターの記述と推奨アクションを得ることができます。

- GET RECOMMENDATIONS FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*
- GET DESCRIPTION FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*

---

**ADM10502W ヘルス・インディケーター** *Health-Indicator-Short-Description* **(***Health-Indicator-Short-Name***) は、** *Monitored-Object-Type* *Monitored-Object-Name* **について、状態** *Health-Indicator-Value* **です。**

**説明:**

ヘルス・モニターは、このヘルス・インディケーターの状態値が通常でないためアラートを生成しました。 これは必ずしも即座に注意が必要な状態ではありませんが、その時点で実行されるべき操作が指定されているデータベースの予想される状態と優先するワークロードに依存します。

**ユーザーの処置:**
以下のいずれかのツールを使って推奨値を取得するか、または場合によってはアクションを実行して、このアラートを解決することができます。

ヘルス・センター:

コントロール・センター・ツールがインストールされている場合は、以下のいずれかの方法でこのツールを立ち上げることができます。

- Windows のメニューを開始する
- コントロール・センター・ツールバー
- コマンド行に ″db2hc″ と入力する

ヘルス・インディケーターの記述、推奨アクション、およびアクションに影響を与えるツールへのリンクが提供されます。

Web ヘルス・センター:

Web ベースのツールがインストールされている場合は、Web 管理者により提供されている URL を使って Web ブラウザーから立ち上げることができます。

ヘルス・インディケーターの記述、推奨アクション、およびアクションに影響を与えるツールへのいくつかのリンクが提供されます。

コマンド行プロセッサー (CLP):

以下のコマンドを実行することにより、CLP からヘルス・インディケーターの記述と推奨アクションを得ることができます。

- GET RECOMMENDATIONS FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*
- GET DESCRIPTION FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*

---

**ADM10503I** **ヘルス・モニターは、システム** *System-Name* **上で、** *Alert-Action-Type* *Alert-Action-Name* **を実行しているときに、アラート・アクションを開始しました。これは、ヘルス・インディケーター** *Health-Indicator-Short-Description* **(***Health-Indicator-Short-Name***) が、** *Monitored-Object-Type* *Monitored-Object-Name* **に対して、** *Alert-State* **アラート状態であるためです。**

**説明:**
ヘルス・モニターは、ヘルス・インディケーターがこのアラート状態の場合にこのアクションを開始するよう構成されました。 このメッセージは、このアクションが実際に開始されたことを示しています。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**ADM10504E** **ヘルス・モニターは、** *Alert-Action-Type* *Alert-Action-Name* **をシステム** *System-Name* **で実行中、ヘルス・インディケーター** *Health-Indicator-Short-Description* **(***Health-Indicator-Short-Name***) が** *Monitored-Object-Type* *Monitored-Object-Name* **に対して** *Alert-State* **アラート状態になったときに、アラート・アクションの開始に失敗しました。 sqlcode は** *SQLCODE* **です。**

**説明:**
ヘルス・モニターは、ヘルス・インディケーターがこのアラート状態の場合にこのアクションを開始するよう構成されていますが、アクションを実行するために API を呼び出したときにこの SQLCODE を受け取りました。 アラート・アクションは開始されませんでした。

**ユーザーの処置:**
この失敗の詳細な記録については、基本障害保守ログ (DB2DIAG.LOG) を確認してください。

**ADM10505E DB2 サービスがヘルス・モニターの実行に必要な権限を持っていません。 ヘルス・モニターは、シャットダウンされました。 サービスがローカル・システム・アカウント (SYSTEM) を使ってログオンするよう構成されている場合は、特定のユーザー・アカウントを使ってログオンするよう変更する必要があります。 特定のユーザー・アカウントを使ってログオンするよう構成されている場合は、そのユーザー・アカウントが有効である、この DB2 サービスを実行するためのアクセス権を持っていることを確認する必要があります。 ログオン構成を訂正した後は、DB2 サービスを再始動してヘルス・モニターを開始する必要があります。**

---

**ADM10506E SMTP サーバー (smtp_server) DB2 Administration Server 構成パラメーターが設定されていないため、ヘルス・モニターはアラート通知を送信できません。 有効な SMTP サーバーの名前で smtp_server 構成パラメーターを更新してください。**

**説明:**
ヘルス・モニターはアラートが発生したときに通知を送信するよう構成されましたが、SMTP サーバー DAS 構成パラメーターに SMTP サーバー名が指定されていないため、送信できませんでした。

**ユーザーの処置:**
有効な SMTP サーバーの名前で smtp_server 構成パラメーターを更新してください。

---

**ADM10507E SMTP サーバー DB2 Administration Server 構成パラメーター (smtp_server) に指定されたサーバー *SMTP-Server-Name* が SMTP サーバーではないようなため、ヘルス・モニターはアラート通知を送信できませんでした。 有効な SMTP サーバー名が DB2 Administration Server 構成に指定されていることを確認してください。**

**説明:**
ヘルス・モニターはアラートが発生したときに通知を送信するよう構成されましたが、DB2 Administration Server 構成に指定されたサーバーが SMTP サーバー機能を持っていないため、通知を送信できませんでした。

**ユーザーの処置:**
有効な SMTP サーバー名が DB2 Administration Server 構成の smtp_server パラメーターに指定されていることを確認してください。

---

**ADM10508E *Notification-List* が含まれているヘルス通知リストに無効な受信者が指定されたため、ヘルス・モニターはアラート通知を送信できませんでした。 無効なアドレスで、連絡先レコードを更新してください。**

**説明:**
ヘルス・モニターはアラートが発生したときに通知を送信するよう構成されましたが、ヘルス通知リストに指定された 1 つ以上の連絡先アドレスが無効なため、通知を送信できませんでした。

**ユーザーの処置:**
ヘルス通知に指定された連絡先のレコードをチェックし、無効な受信者アドレスを更新してください。

---

**ADM10509E アラート通知は、アドレス *Sender-Address* を持つ無効な送信者によって送信されたため、ヘルス・モニターはその通知を送信できませんでした。 SMTP サーバー構成を確認してください。 すべての設定が正しい場合は、DB2 サポートまで連絡してください。**

**説明:**
ヘルス・モニターはアラートが発生したときに通知を送信するよう構成されましたが、送信者のアドレスが SMTP サーバーにより受け入れ不可としてリジェクトされたため、通知を送信できませんでした。 送信者のアドレスのフォーマットは <instance name>@<host> で、この場合の 'instance' は 'host' 上で実行されています。

**ユーザーの処置:**
SMTP サーバー構成を確認してください。 すべての設定が正しい場合は、DB2 サポートまで連絡してください。

---

**ADM10510E SMTP サーバーが次のエラーを発行したため、ヘルス・モニターはアラート通知を送信できませんでした: *SMTP_ERROR*。 戻されたエラー・コードの情報については、SMTP サーバーの資料をチェックしてください。 問題が解決されない場合は、DB2 サポートに連絡してください。**

**説明:**
ヘルス・モニターはアラートが発生したときに通知を送信するよう構成されましたが、SMTP サーバーがエラーを検出したため、通知を送信できませんでした。

**ユーザーの処置:**

戻されたエラー・コードの情報については、SMTP サーバーの資料をチェックしてください。 問題が解決されない場合は、DB2 サポートに連絡してください。

---

**ADM10511E SMTP サーバーとの通信エラーにより、ヘルス・モニターはアラート通知を送信できませんでした。 この失敗の詳細な記録については、基本障害保守ログ (DB2DIAG.LOG) を確認してください。**

**説明:**
ヘルス・モニターはアラートが発生したときに通知を送信するよう構成されましたが、SMTP サーバーに到達しようとして通信エラーが発生したため、通知を送信できませんでした。

**ユーザーの処置:**
この失敗の詳細な記録については、基本障害保守ログ (DB2DIAG.LOG) を確認してください。

---

**ADM10512W ヘルス・インディケーター *Health-Indicator-Short-Description* (*Health-Indicator-Short-Name*) は、*Monitored-Object-Type* *Monitored-Object-Name* について、状態 *Health-Indicator-Value* です。 コレクション (オブジェクト名、タイム・スタンプ、値、詳細): *Collection*。**

**説明:**
ヘルス・モニターは、このヘルス・インディケーターの状態値が通常でないためアラートを生成しました。 これは必ずしもすぐにアテンションを必要とする状態ではありませんが、このヘルス・インディケーターの下で収集される 1 つ以上のオブジェクトの正常性に関して最適でない状態が広がっていることを示しています。 この状態は、対応する自動保守ユーティリティーがオンにされて状態が自動化されると、自動的に解決できます。

**ユーザーの処置:**
以下のいずれかのツールを使って推奨値を取得するか、または場合によってはアクションを実行して、このアラートを解決することができます。

ヘルス・センター:

コントロール・センター・ツールがインストールされている場合は、以下のいずれかの方法でこのツールを立ち上げることができます。

- Windows のメニューを開始する
- コントロール・センター・ツールバー
- コマンド行に“db2hc”と入力する

ヘルス・インディケーターの記述、推奨アクション、およびアクションに影響を与えるツールへのリンクが提供されます。

Web ヘルス・センター:

Web ベースのツールがインストールされている場合は、Web 管理者により提供されている URL を使って Web ブラウザーから立ち上げることができます。

ヘルス・インディケーターの記述、推奨アクション、およびアクションに影響を与えるツールへのいくつかのリンクが提供されます。

コマンド行プロセッサー (CLP):

以下のコマンドを実行することにより、CLP からヘルス・インディケーターの記述と推奨アクションを得ることができます。

- GET RECOMMENDATIONS FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*
- GET DESCRIPTION FOR HEALTH INDICATOR *Health-Indicator-Short-Name*

---

**ADM10513I 自動 *Utility-Name* が、データベース *Database-Name* 内の表 *Table-Name* で、戻りコード *SQL-Return-Code* を伴って完了しました。 このユーティリティーは *Start-Timestamp* に開始され、*End-Timestamp* に完了しました。**

---

**ADM10514I 自動 BACKUP が、データベース *Database-Name* で、戻りコード *SQL-Return-Code* を伴って完了しました。 このユーティリティーは *Start-Timestamp* に開始され、 *End-Timestamp* に完了しました。 このバックアップ・イメージのタイム・スタンプは *Backup-Image-Timestamp* です。**

---

**ADM10515I 自動保守ポリシー *Policy-Name* がデータベース *Database-Name* で更新されました。 このポリシー・オプションは、*Original-Policy-Options-List* から *New-Policy-Options-List* に更新されました。**

---

**ADM10516I** 自動保守ポリシー *Policy-Name* がデータベース *Database-Name* で更新されました。 現在、このポリシーで使用されているオプションは、*Policy-Options-List* です。

**ADM11000E** DB2 は、FENCED ルーチン通信で使用するメモリー・セグメントの作成、またはこのメモリーへのアタッチができません。 インスタンスで使用するデータベース共有メモリーの量を減らし、やり直してください。

**ADM11001E** DB2 は FENCED ルーチンの実行用に、メモリー・セグメントを作成することができませんでした。 これは、DB2_FMP_COMM_HEAPSZ レジストリー変数を使用して指定されました。

**ADM11002E** db2fmp 処理との通信で使用できる共用メモリーが十分でありません。 DB2_FMP_COMM_HEAPSZ レジストリー変数を使用して、FENCED ルーチンで使用できる共有メモリーの量を増やしてください。

**ADM11003E** DB2 は FENCED ルーチンとの通信に使用するメモリー・セグメントを作成できませんでした。 DB2 を再始動する場合、再始動前のインスタンスに、アクティブな db2fmp 処理がないことを確認してください。 再始動しない場合は、DB2_FMP_COMM_HEAPSZ レジストリー変数から値を調整するか、またはデータベース・マネージャー構成で ASLHEAPSZ の値を減らしてください。

**ADM11500W** MQListener がメッセージを生成しました。 メッセージ・コード = *MQL-msgcode*。メッセージに関する情報については、資料を参照してください。

**ADM12000C** DB2START 処理は失敗しました。有効な製品ライセンスが見つかりませんでした。この製品のライセンスを取得した場合、ライセンス・キーが適切にインストールされているかどうか、お確かめください。 ライセンス・センターまたは db2licm コマンド行ユーティリティーを使ってこのライセンスをインストールすることができます。 ライセンス・ファイルは、ライセンス製品 CD に入っています。

**ADM12001C** DB2 接続処理は失敗しました。有効な製品ライセンスが見つかりませんでした。この製品のライセンスを取得した場合、ライセンス・キーが適切にインストールされているかどうか、お確かめください。 ライセンス・センターまたは db2licm コマンド行ユーティリティーを使ってこのライセンスをインストールすることができます。 ライセンス・ファイルは、ライセンス製品 CD に入っています。

**ADM12002C** 接続処理は失敗しました。有効製品ライセンスが見つかりませんでした。 ホストまたは System i データベース・サーバーへのアクセス時には、ライセンス交付を受けた DB2 Connect 製品または DB2 コネクト・サーバー・サポートのコンポーネントがインストール済みであることを確認してください。 DB2 コネクト・サーバー・サポートのコンポーネントは、DB2 Enterprise Edition に付属しています。

**ADM12006E** この製品 *product-name* には、有効なライセンス・キーが登録されていません。この製品のライセンスを取得した場合、ライセンス・キーが適切に登録されているかどうか、お確かめください。 ライセンス・センターまたは db2licm コマンド行ユーティリティーを使ってこのライセンスを登録することができます。 ライセンス・キーは、ライセンス製品 CD に入っています。 ライセンス・キーが登録されていない場合でも、評価期間の *num-days* 日間はこの製品が使用できます。 評価期間製品を使用された場合、この製品のインストール・パス中のライセンス・ディレクトリー中にある IBM ご使用条件に同意されたものとみなされます。

**ADM12007E** 製品 *product-name* の評価期間はあと *num-days* 日残っています。 評価版のご使用条件については、この製品のインストール・パス中のライセンス・ディレクトリー中にある IBM ご使用条件およびライセンス情報の資料を参照してください。 この製品のライセンスを取得した場合、ライセンス・キーが適切に登録されているかどうか、確認してください。 ライセンス・センターまたは **db2licm** コマンド行ユーティリティーを使ってこのライセンスを登録することができます。 ライセンス・ファイルは、ライセンス製品 CD に入っています。

**ADM12008C** この製品 *product-name* には有効なライセンス・キーがインストールされていません。評価期間の期限は切れています。 この製品に固有な機能は使用できません。 この製品のライセンスを取得した場合、ライセンス・キーが適切にインストールされているかどうか、お確かめください。 ライセンス・センターまたは **db2licm** コマンド行ユーティリティーを使ってこのライセンスをインストールすることができます。 ライセンス・ファイルは、ライセンス製品 CD に入っています。

**ADM12009E** DB2 Workgroup 製品の並行ユーザー数が、*entitlement*のライセンスに規定された数を超えています。 並行ユーザー数は *user-count* です。 IBM 担当員または認定販売店から追加のユーザー別ライセンスを購入し、ライセンス・センターあるいは **db2licm** コマンド行ユーティリティーを使用してライセンスを更新してください。 ライセンスの更新の詳細は、ご使用のプラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。 **db2licm** ユーティリティーの詳細については、「DB2 コマンド・リファレンス」を参照してください。

**ADM12010E** DB2 Connect 製品の並行ユーザー数が、*entitlement* のライセンスに規定された数を超えています。 並行ユーザー数は *user-count* です。 IBM 担当員または認定販売店から追加のユーザー別ライセンスを購入し、ライセンス・センターあるいは **db2licm** コマンド行ユーティリティーを使用してライセンスを更新してください。 ライセンスの更新の詳細は、ご使用のプラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。 **db2licm** ユーティリティーの詳細については、「DB2 コマンド・リファレンス」を参照してください。

**ADM12011C** 1 つ以上のデータベース・パーティションに、 *product-name* 製品に対して有効な DB2 ライセンス・キーがインストールされていません。ライセンス・センターまたは **db2licm** コマンド行ユーティリティーを使って、有効なライセンス・キーを各物理パーティションにインストールしてください。

**ADM12012E** DB2 Enterprise 製品の並行ユーザー数が、*entitlement*のライセンスに規定された数を超えています。 並行ユーザー数は *user-count* です。 IBM 担当員または認定販売店から追加のユーザー別ライセンスを購入し、ライセンス・センターあるいは **db2licm** コマンド行ユーティリティーを使用してライセンスを更新してください。 ライセンスの更新の詳細は、ご使用のプラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。 **db2licm** ユーティリティーの詳細については、「DB2 コマンド・リファレンス」を参照してください。

**ADM12013E** DB2 Connect 製品への並行データベース接続数が、*entitlement* のライセンスに規定された数を超えています。 データベース接続数は *num-connections* です。

**ADM12014C** 使用している DB2 Connect 製品のバージョンが TCP/IP プロトコルを指定して使用するようにライセンスされていません。 TCP/IP を使用できるように、全機能 DB2 Connect 製品にアップグレードしてください。

**ADM12015C** 使用している DB2 Connect 製品のバージョンが同一トランザクションにある複数のデータベースをアップグレードするようにライセンスされていません。 同一トランザクション内の複数のデータベースを更新できるよう、全機能 DB2 Connect 製品にアップグレードしてください。

**ADM12016E** ユーザー *user* は、製品 *product-name* の登録済みユーザーと定義されていません。ライセンス・センターを使って、登録済みユーザー・リストを更新してください。

**ADM12017E** このマシンのプロセッサー数は、製品 *product-name* に規定されたライセンス数 *entitlement* を超えています。 このマシンのプロセッサー数は *num-cpu* です。 IBM 担当員または認定販売店からプロセッサー・ライセンスをさらに購入し、ライセンス・センターあるいは db2licm コマンド行ユーティリティーを使用してライセンスを更新してください。 プロセッサーを基にしたライセンス更新について詳しくは、ご使用プラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。 db2licm ユーティリティーの詳細については、「DB2 コマンド・リファレンス」を参照してください。

**ADM12018E** この製品の並行ユーザー数は、ライセンスに規定された数 *entitlement* を超えています。 並行ユーザー数は *user-count* です。 IBM 担当員または認定販売店から追加のユーザー別ライセンスを購入し、ライセンス・センターあるいは db2licm コマンド行ユーティリティーを使用してライセンスを更新してください。 プロセッサーを基にしたライセンス更新について詳しくは、ご使用プラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。 db2licm ユーティリティーの詳細については、「DB2 コマンド・リファレンス」を参照してください。

**ADM12020E** コネクター数が、*entitlement* の規定内容を超えました。 現在のコネクター数は *num-connectors* です。 IBM 担当員または認定販売店から追加のコネクター別ライセンスを購入し、ライセンス・センターあるいは db2licm コマンド行ユーティリティーを使用してライセンスを更新してください。 ライセンスの更新の詳細は、ご使用のプラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。 db2licm ユーティリティーの詳細については、「DB2 コマンド・リファレンス」を参照してください。

**ADM12022E** データベース・パーティション・ライセンスなしで、データベース・パーティション・フィーチャーが使用されていることが DB2 で検出されました。 IBM 担当員または認定販売店から追加のデータベース・パーティション用ライセンスを購入し、ライセンス・センターあるいは db2licm コマンド行ユーティリティーを使用してライセンスを更新してください。 ライセンスの更新の詳細は、ご使用のプラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。 db2licm ユーティリティーの詳細については、「DB2 コマンド・リファレンス」を参照してください。

**ADM12023E** *product-name* 製品の並行ユーザー数が、ライセンス要綱 *entitlement* に規定された数を超えています。 並行ユーザー数は *user-count* です。 IBM 担当員または認定販売店から追加のユーザー別ライセンスを購入し、ライセンス・センターあるいは db2licm コマンド行ユーティリティーを使用してライセンスを更新してください。 ユーザー別ライセンスの更新の詳細は、ご使用のプラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。 db2licm ユーティリティーの詳細については、「DB2 コマンド・リファレンス」を参照してください。

**ADM12024E** **要求された機能に対して有効なライセンス・キーが見つかりません。** *product_name* **製品の現行ライセンス・キーでは、要求した機能を実行できません。 IBM 担当員または認定販売店からこの機能用のライセンス・キーを購入し、ライセンス・センターあるいは db2licm コマンド行ユーティリティーを使用してライセンスを更新してください。 ライセンスの更新の詳細は、ご使用のプラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。 db2licm ユーティリティーの詳細については、「DB2 コマンド・リファレンス」を参照してください。**

**ADM12025E** **このマシンのメモリー量は** *product-name* **製品に定義された** *limit* **(MB) の制限値を超えています。このマシンのメモリー量は** *memory* **(MB) です。**

**説明:**
この製品には定義されたメモリー制限があり、それを超えています。 メモリー制限を DB2 ライセンス・ツールで変更することはできません。

**ユーザーの処置:**
IBM 担当員または認定販売店に連絡して、このシステムで実行するためのライセンス交付を受けられる製品を入手してください。

**ADM12026W** **製品** *product-name* **のための有効なライセンスが登録されていないことが、DB2 サーバーによって検出されました。**

**説明:**
使用条件の条項に準拠するためには、有効なライセンス・キーの登録が必要です。 この製品のライセンス・キーは、この製品のアクティベーション CD の「license」ディレクトリー内にあります。

**ユーザーの処置:**
購入した適切なライセンスを登録するには、DB2 ライセンス・センター、または db2licm コマンド行ユーティリティー (sqllib¥bin (Windows の場合) または sqllib/adm (Unix および Linux の場合) から db2licm -a *license-file-name* を実行) を使用します。ご使用条件の本文は、この製品のインストール・ディレクトリーの「license」ディレクトリーにあります。

**ADM12500E** **1 次データベースに対して HADR スタンバイ・データベースを整合させることができません。 スタンバイ・データベースのログ・ストリームは、1 次データベースのものと互換性がありません。 このデータベースをスタンバイとして使用するには、1 次データベースのバックアップ・イメージまたは分割ミラーから作成し直さなければなりません。**

**ADM12501E** **1 次とスタンバイのデータベースで、オペレーティング・システムが一致していないので、 HADR の 1 次とスタンバイの接続を確立できません。 1 次データベースまたはスタンバイ・データベースを別のホストに移動するか、または一方のホストのオペレーティング・システムをアップグレードして、もう一方のホストに一致させてください。**

**ADM12502E** **1 次データベースとスタンバイ・データベースで、DB2 のバージョンが一致していないので、 HADR の 1 次とスタンバイの接続を確立できません。 HADR 1 次データベースまたは HADR スタンバイ・データベース上で DB2 ソフトウェアを同じリリースにアップグレードして、相互に一致するようにします。**

**ADM12503E** **1 次データベースとスタンバイ・データベースで DB2 ビット・レベル (32 ビット対 64 ビット) が一致していないので、HADR の 1 次とスタンバイの接続を確立できません。 1 次データベースまたはスタンバイ・データベースのビット・レベルを変更して、相互に一致するようにしてください。**

**ADM12504E** **あるインスタンスの HADR_REMOTE_INST の値が、他のインスタンスの実際のインスタンス名と一致していないので、HADR の 1 次とスタンバイの接続を確立できません。 これは、意図したデータベースのみのペア化が行われたことを確認する正常性検査です。 いずれかの HADR_REMOTE_INST 構成パラメーターまたはインスタンス名の設定が正しくない場合は、訂正してから HADR の開始を再試行できます。**

**ADM12505E** データベース名が一致していないので、**HADR** の **1** 次とスタンバイの接続を確立できません。 データベース名を訂正して、**HADR 1** 次と **HADR** スタンバイ間で一致するようにしてください。

**ADM12506E** **1** 次データベースとスタンバイ・データベースは、同一のデータベースを起点としていないので、 **HADR** の **1** 次とスタンバイの接続を確立できません。 **1** 次データベースのバックアップ・イメージまたは分割ミラーからスタンバイを作成し直してください。

**ADM12507E** **HADR** 構成パラメーターが一致していないので、**HADR** の **1** 次とスタンバイの接続を確立できません。 **HADR 1** 次またはスタンバイ上で構成パラメーター **HADR_TIMEOUT** および **HADR_SYNCMODE** を変更して、これらのパラメーターが相互のシステム値に一致するようにしてから、**HADR_LOCAL_HOST** と **HADR_REMOTE_HOST** がローカル・マシンとリモート・マシンのホスト名に必ず一致するようにします。

**ADM13000E** プラグイン *plugin-name* は、エラー・メッセージ *error-message* とともに、エラー・コード *error-code* を **GSS (Generic Security Service) API** *GSS-API-name* から受信しました。

**ADM13001E** プラグイン *plugin-name* は、エラー・メッセージ *error-message* とともに、エラー・コード *error-code* を **DB2** セキュリティー・プラグイン **API** *GSS-API-name* から受信しました。

**ADM13002E** プラグイン *plugin-name* をアンロードできませんでした。 これ以上のアクションは不要です。

**ADM13003E** *plugin-name* で使用されているプリンシパル名 *principal-name* が無効です。 プリンシパル名が有効なものであり、セキュリティー・プラグインの認識する形式であることを確認してください。

**ADM13004E** プラグイン名 *plugin-name* が無効です。 有効なプラグイン名を指定してください。

**ADM13005E** プラグイン *plugin-name* をロードできませんでした。 このプラグインが存在していて、そのディレクトリーの位置とファイル・アクセス許可が有効であることを確認してください。

**ADM13006E** プラグイン *plugin-name* で予期しないエラーが検出されました。 **IBM** サポートに連絡してください。

**ADM13500E** 非同期バックグラウンド・タスク・プロセッサーを実行しているエージェントが、リカバリー不能エラーを検出しました。 タスク・プロセッサーは中断し、診断情報が **db2diag.log** に書き込まれました。 **IBM** サポートに連絡してください。 タスク・プロセッサーのコンテキストは *address* です。 タスク・プロセッサーの説明は *description* です。

**ADM14000E** **DB2** は、診断ログ・ファイル *filename* をオープンできません。コマンド *"***db2diag -rc** *rcList"* を実行して、さらに情報を入手してください。

**ADM14001C** 予期しないクリティカル・エラーが発生しました: *error-type*。結果として、インスタンスがシャットダウンしている可能性があります。 *capture-type* **FODC (First Occurrence Data Capture)** が呼び出され、診断情報がディレクトリー *directory-name* 中に記録されています。発生したことの詳細な証拠についてはこのディレクトリーを参照し、問題を診断するのに必要な場合は **IBM** サポートに連絡してください。

**ADM14002C** 症状 *error-type* に関する *capture-type* **FODC** が呼び出され、診断情報がディレクトリー *directory-name* 中に記録されています。発生したことの詳細な証拠についてはこのディレクトリーを参照し、問題を診断するのに必要な場合は **IBM** サポートに連絡してください。

**ADM14003W** 症状 *symptom* に関する FODC が db2fodc ツールからユーザーによって呼び出され、診断情報がディレクトリー *directory* 中に記録されています。発生したことの詳細な証拠についてはこのディレクトリーを参照し、問題を診断するのに必要な場合は IBM サポートに連絡してください。

**ADM14004C** EDU データベース *database-name* は、不正とマークされています。 *capture-type* FODC が呼び出され、診断情報がディレクトリー *parameter* 中に記録されています。発生したことの詳細な証拠についてはこのディレクトリーを参照し、問題を診断するのに必要な場合は IBM サポートに連絡してください。

**ADM14010C** 予期しないクリティカル・エラーが発生しました: *error-type*。このインスタンスに関連した現在の DB2 スレッドは中断されていますが、インスタンス・プロセスは引き続き実行中です。 DB2 インスタンスは不安定になっている可能性があり、リサイクルする必要があります。 *capture-type* First Occurrence Data Capture が呼び出され、診断情報がディレクトリー *directory-name* 中に記録されています。発生したことの詳細な証拠についてはこのディレクトリーを参照し、問題を診断するには IBM サポートに連絡してください。

**ADM14011C** 予期しないクリティカル・エラーが発生しました: *error-type*。トラップ回復力フィーチャーは有効ですが、結果としてインスタンスのシャットダウンの可能性のような障害があります。 *capture-type* First Occurrence Data Capture が呼び出され、診断情報がディレクトリー *directory-name* 中に記録されています。発生したことの詳細な証拠についてはこのディレクトリーを参照し、問題を診断するには IBM サポートに連絡してください。

**ADM14012C** 予期しないクリティカル・エラーが発生しました: *error-type*。トラップ回復力フィーチャーは有効であり、DB2 はトラップの維持を試行します。 *capture-type* First Occurrence Data Capture が呼び出され、診断情報がディレクトリー *directory-name* 中に記録されています。発生したことの詳細な証拠についてはこのディレクトリーを参照し、問題を診断するには IBM サポートに連絡してください。

**ADM14500E** 表 *schema.table* に対する据え置き索引クリーンアップに必要なメモリーを割り振ることができません。このステートメントに関する即時クリーンアップ・ロールアウトを使用する場合は、DB2_MDC_ROLLOUT レジストリー変数を ON に設定するか、CURRENT ROLLOUT MODE 特殊レジスターを使用して、ステートメントを再実行してください。

**ADM15000E** ファイル *logfileName* に読み取りアクセスできません。このファイルと関連装置に関するアクセス許可を確認してください。

**ADM15001E** ファイル *logfileName* のアクセス中に、エラーが戻されました。ファイルが存在し、装置またはファイルがアクセス可能かどうか、確認してください。

**ADM15500E** INSPECT コマンド中に、表 *schema-name.table-name* で索引データの不整合が検出されました。 DB2 サポート・チームに連絡して、問題を報告してください。

**ADM15501W** 管理用タスク・スケジューラーは、タスク *task-id* の実行を防止していた一時リソース制約を検出しました。スケジューラーは、*retry-interval* 秒ごとに再試行します。

**ADM15502W** データベースが非アクティブであるため、またはインスタンスかデータベースが静止しているために、管理用タスク・スケジューラーはタスク *task-id* を実行できませんでした。

**ADM15503E** 管理用タスク・スケジューラーは、データベース *database-name* にセキュリティー・エラーを検出しました。このデータベースでは、スケジュール済みタスクが実行されません。タスクの実行を再開するには、**SYSTOOLS.ADMINTASKS** および **SYSTOOLS.ADMINTASKSTATUS** 表をドロップして、**SYSPROC.ADMIN_TASK_ADD** ストアード・プロシージャーを使用してこのデータベース上のスケジュール済みタスクをすべて再作成します。

# 第 3 章 AMI メッセージ

**AMI0016E　メモリー不足です。**

**説明:**
要求された操作を完了するために必要なメモリーがありません。

**ユーザーの処置:**
Message Query (MQ)、MQ Application Messaging Interface (AMI)、および DB2 プログラムに十分なメモリーが割り振られており、使用できる状態になっていることを確認してください。

**AMI0018E　サービスが見つかりません。**

**説明:**
指定されたサービスが見つかりません。要求は完了しません。サービスは以下のいずれかである可能性があります。

- sender
- receiver
- distribution list
- publisher
- subscriber

**ユーザーの処置:**
使用した Application Messaging Interface (AMI) リポジトリー・ファイルにサービス定義が含まれていることを確認してください。

**AMI0019E　メッセージが見つかりません。**

**説明:**
指定されたメッセージが見つかりません。要求は完了しません。

**ユーザーの処置:**
メッセージが使用可能なことを確認してください。

**AMI0020E　ポリシーが見つかりません。**

**説明:**
指定されたポリシーが見つかりません。要求は完了しません。

**ユーザーの処置:**
使用した Application Messaging Interface (AMI) リポジトリー・ファイルにポリシー定義が含まれていることを確認してください。

**AMI0035E　使用できるメッセージがありません。**

**説明:**
指定された待機時間の後、受信要求に使用できるメッセージがありません。これは、ターゲット・キューが空の場合に生じます。

**ユーザーの処置:**
メッセージがターゲット・キューに存在することを確認してください。

**AMI0049E　トランスポート・エラー。**

**説明:**
基礎となる (MQSeries) メッセージ・トランスポート層がエラーを報告しています。指定された AMI オブジェクトに関する GetLastError 要求から戻される 2 次理由コード値によって、メッセージ・トランスポート理由コードを取得できます。詳細については、*Application Messaging Interface*の『問題の共通原因 (Common causes of problems)』を参照してください。

**ユーザーの処置:**
Application Messaging Interface (AMI) サービスまたはポリシーの参照先となる基礎 MQ オブジェクト (特にシステム・キュー、ユーザー・キュー) を作成していることを確認してください。これらのオブジェクトの名前は大/小文字の区別があることに注意してください。q1 という名前のキューは Q1 と同じではありません。さらに、キューの属性がメッセージを処理するのに十分であることを確認してください。たとえば、MAXMSGL の大きさがメッセージ・サイズを扱うために十分であることを確認します。Publish または Subscribe 関数が失敗する場合、MQ メッセージ・ブローカーが開始されていることを確認します。

**AMI0109E　ユーザーが許可されていません。**

**説明:**
ユーザーは、基礎となるトランスポート層によって、指定された要求の実行を許可されていません。

**ユーザーの処置:**
UDF のユーザーが適切な許可を得ていることを確認してください。これは通常、ユーザー ID がグループ mqm のメンバーでなければならないことを意味します。

**AMI0110E　トランスポートを使用できません。**

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

**説明:**
基礎となるトランスポート層は使用できません。

**ユーザーの処置:**
キュー・マネージャーが実行中であることを確認してください。

---

**AMI0402E　ホスト・ファイルが見つかりません。**

**説明:**
指定された名前のローカル・ホスト・ファイルが見つかりません。

**ユーザーの処置:**
ファイル amthost.xml が存在していて、正しいディレクトリーに置かれていることを確認してください。

---

**AMI0405E　ポリシーがリポジトリーにありません。**

**説明:**
リポジトリーにない定義名を使ってポリシーを作成しました。ポリシーはデフォルト値を使って作成されます。

**ユーザーの処置:**
Application Messaging Interface (AMI) ポリシーがリポジトリー・ファイルに定義されていることを確認してください。

---

**AMI0406E　sender がリポジトリーにありません。**

**説明:**
リポジトリーに見つからない定義名を使用して sender を作成しました。 sender はデフォルト値を使って作成されます。

**ユーザーの処置:**
Application Messaging Interface (AMI) sender サービスがリポジトリー・ファイルに定義されていることを確認してください。

---

**AMI0407E　receiver がリポジトリー内にありません。**

**説明:**
リポジトリーに見つからない定義名を使用して receiver を作成しました。 receiver はデフォルト値を使って作成されます。

**ユーザーの処置:**
Application Messaging Interface (AMI) receiver サービスがリポジトリー・ファイルに定義されていることを確認してください。

---

**AMI0409E　publisher がリポジトリーにありません。**

**説明:**
リポジトリーに見つからない定義名を使用して publisher を作成しました。 publisher はデフォルト値を使って作成されます。

**ユーザーの処置:**
Application Messaging Interface (AMI) publisher サービスがリポジトリー・ファイルに定義されていることを確認してください。

---

**AMI0410E　subscriber がリポジトリー内にありません。**

**説明:**
リポジトリーに見つからない定義名を使用して subscriber を作成しました。 subscriber はデフォルト値を使って作成されます。

**ユーザーの処置:**
Application Messaging Interface (AMI) subscriber サービスがリポジトリー・ファイルに定義されていることを確認してください。

---

**AMI0416E　リポジトリー・エラー。**

**説明:**
リポジトリーの初期化またはアクセス時にエラーが戻されました。発生理由として、以下が考えられます。

- XML リポジトリー・ファイル (たとえば、amt.xml ) に無効なデータが含まれている。
- DTD ファイル (*.dtd) が見つからないか、無効なデータを含んでいる。
- リポジトリーを初期化するのに必要なファイルが見つからない。これらのファイルは通常、intlFiles ディレクトリーおよび locales ディレクトリーにあります。

**ユーザーの処置:**
通常、これは XML パーサー・エラーの結果です。適正な amt.dtd ファイルが使用されており、amt.xml ファイルと一致することを確認してください。

---

**AMI0418E　リポジトリーが見つかりません。**

**説明:**
リポジトリー・ファイルが見つかりません。

**ユーザーの処置:**
リポジトリー・ファイルがデフォルトのロケーションにある、または 環境変数 AMT_DATA_PATH で指定されているパスにあることを確認してください。

---

**AMI0419E　トランスポート・ライブラリー・エラー。**

**説明:**
トランスポート・ライブラリーのロード中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
MQSeries および AMI ライブラリーが正しくインストールされていることを確認してください。MQ および AMI には、このソフトウェアが正常にインストールされていることを確認するために使用できるサンプル・プログラムが用意されています。

**AMI0424E　DTD ファイルが見つかりません。**

**説明:**
AMI dtd ファイル (amt.dtd) が XML リポジトリー・ファイルと同じディレクトリーに見つかりません。

**ユーザーの処置:**
amt.dtd ファイルがリポジトリー・ファイル amt.xml と同じディレクトリーにあることを確認してください。ロケーションは環境変数 AMT_DATA_PATH を使用して定義できます。

# 第 4 章 レプリケーション・メッセージ

**ASN0004E** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャー・プログラムは、トレースを開始できませんでした。 戻りコードは** *return_code*。 **理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
START TRACE DB2 コマンドが発行されたとき、またはキャプチャー・プログラムが DB2 ログを読み取ったときに、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
メッセージの DB2 コード・セクション、およびご使用のオペレーティング・システム上の DB2 データベース・マネージャーのコード資料を参照して適切な理由コードを見つけてください。 詳しくは、次のいずれかの管理資料 - 「START TRACE DB2 エラーの呼び出し接続機能 (CAF)」、または「DB2 ログ読み取りエラーの計測機能インターフェース (IFI)」を参照するか、またはDBA に連絡してください。 CAF または IFI がメッセージを戻した場合は、それもシステムのディスプレイ・コンソールに表示されます。

**ASN0005E** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャー・プログラムが、DB2 ログの読み取り中に、エラーを検出しました。ログのシーケンス番号は** *lsn*、**SQLCODE は** *sql_return_code*、**理由コードは** *reason_code* **です。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムが DB2 ログを読み取ったときに、エラーが発生しました。 SQL エラーがある可能性があります。

- DB2 レプリケーションの場合、*sqlcode* 値は非同期読み取りログ API 用です。
- キャプチャー (VSE 版) の場合、*sqlcode* は VSE/VSAM GET マクロ用です。
- キャプチャー (VM 版) の場合、*sqlcode* は Diagnose X'A4' 用です。

**ユーザーの処置:**
適切な理由コードについては、以下の指示に従って、メッセージの DB2 コード・セクション、およびご使用のオペレーティング・システムの DB2 データベース・マネージャーのコード資料を参照してください。

- キャプチャー・プログラム (z/OS 版) については、ご使用のオペレーティング・システム上の DB2 データベース・マネージャーの管理資料の中の「計測機能インターフェース (IFI)」の項を参照するか、または DBA に連絡してください。
- キャプチャー (VSE 版) の詳細については、「VSE/VSAM コマンドおよびマクロ」、「VSE/ESA システム・マクロ・リファレンス」および「VSE/ESA V2R3 メッセージおよびコード・マニュアル」を参照してください。
- VM/ESA の場合、詳しくは、「VM/ESA Programming Services」を参照してください。
- Linux、Windows、および UNIX でのキャプチャーについては、DB2 のアクティブおよびアーカイブ・データベース・ログ管理資料を参照するか、または IBM ソフトウェア・サポートにご連絡ください。

**ASN0006E** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャー・プログラムは、予期しない不明ログ・バリエーションのログ・エラーを検出しました。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムが DB2 ログ・レコードを処理中に、予期しないログ・エラーが発生し、次のいずれのインターフェースによっても報告されませんでした。

- キャプチャー・プログラム (z/OS 版) 用計測機能インターフェース (IFI)
- キャプチャー・プログラム用非同期ログ読み取り API

キャプチャー・プログラムは、どのタイプの SQL 更新がこのログ・レコードと関連付けられているのかを判別できませんでした。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**ASN0008I** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャー・プログラムが停止されました。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムが停止しました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

**ASN0009E** **CAPTURE** *capture_schema*. **登録済みソース表** *src_owner*.*src_table* **には DATA CAPTURE CHANGES 属性がありません。**

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

**説明:**
登録を初期化しようとして、キャプチャー・プログラムは、誤って定義されたソース表を検出しました。 ソース表の DATA CAPTURE CHANGES 属性が設定されていない場合、キャプチャー・プログラムはそのソース表と関連付けられたログ・レコードを処理できません。 このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対してサブスクリプション・セットの最初の CAPSTART シグナルを受信したときに発行されます。 このエラーが CAPSTART シグナルの処理中に発生した場合、キャプチャー・プログラムはその登録を活動化しません。 このエラーが (ウォーム・スタートまたはキャプチャーの REINIT コマンドから) の再初期設定中に発生した場合は、キャプチャー・プログラムはその登録を「停止」状態に置き、アプライ・プログラムが関連するサブスクリプション・セットと再同期化する前にその登録の修正が必要であることを示します。

**ユーザーの処置:**

1. ソース表を変更して、データ・キャプチャー変更をオンにしてください。 例えば、
   - *alter table regress.table3 data capture changes*
2. キャプチャー・プログラムによって登録が非活動化された (状態 = 停止済み) 場合、登録を更新して状態を非アクティブに設定します。
3. レプリケーション・センターを使って、このソース表から複製するすべてのサブスクリプション・セットに対してフル・リフレッシュを実行するよう、アプライ・プログラムに強制します。

---

**ASN0011E** **CAPTURE** *capture_schema*. **圧縮ログ・レコードの作成に使用された DB2 コンプレッション・ディクショナリーが現在存在していないため、キャプチャー・プログラムのログの読み取りは失敗しました。 読み取れなかったログ・レコードは、登録済みソース表** *src_owner*.*src_table* **のものです。 理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
キャプチャー・プログラムは、DB2 ログ読み取り IFI からゼロ以外の応答コードを受信しました。 応答コードは、対応する DB2 表スペースのコンプレッション・ディクショナリーが使用できないため、ログ・レコードのデータを処理できないことを示しています。

このソース表を含む圧縮表スペースは、おそらく KEEPDICTIONARY オプションなしで実行された REORG ユーティリティーによって再編成されました。 残りの圧縮されたログ・レコードを読み取れないため、キャプチャー・プログラムはこの登録を非活動化する必要があります。 この登録を非活動化するか、または除去しない限り、キャプチャー・プログラムは続行できません。 このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

**ユーザーの処置:**
圧縮表スペースの制限事項、およびアプライ・プログラムによる非活動化された登録とそれに対応するフル・リフレッシュの詳細については、DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーション環境の保守』を参照してください。

---

**ASN0013E** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャー・プログラムで、変更データ (CD) 表に定義されていない列が必要です。表名は** *table_name*。

**説明:**
CD 表の必須列が定義されていません。

**ユーザーの処置:**
CD 表の定義が正しいことを確認してください。詳細は、IBM® Information Management Software for z/OS® Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションの表構造』を参照してください。

---

**ASN0019E** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャー・プログラム・ライブラリーが、許可プログラム機能 (APF) に対して許可されていません。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは開始できません。

**ユーザーの処置:**
APF に対するキャプチャー・リンク・ライブラリーを許可して、キャプチャー・プログラムを再始動してください。

---

**ASN0020I** **CAPTURE** *capture_schema*. **Netview 総称アラート・インターフェースの障害。 Netview 戻りコードは** *return_code* **です。**

**説明:**
プログラム・インターフェースが失敗したため、プログラムにより Netview に Network Major Vector Transport (NMVT) を送信できませんでした。 これは、2 次情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
インターフェース・エラーを判別するための戻りコードの記述については、Netview プログラミング資料を参照してください。 キャプチャー・プログラムのアラート

は、エラーが訂正されるまでシステム・サービス・コントロール・ポイント (SSCP) に受信されません。

---

**ASN0021I** **CAPTURE** *capture_schema*. **Netview のプログラム間インターフェースを使用できません。 Netview 戻りコードは** *return_code* **です。**

**説明:**
Netview が使用できません。 これは、2 次情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
Netview の問題を判別するための戻りコードの記述については、Netview プログラミング資料を参照してください。 例えば、サブシステムが開始されていない可能性があります。

---

**ASN0023I** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャー・プログラムが再初期化され、** *number* **登録に対する変更をキャプチャーしています。** *Stopped_number* **登録は停止状態です。** *Inactive_number* **登録は非アクティブ状態です。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムに REINIT コマンドが発行されました。 これによって、キャプチャー・プログラムはすべての登録に関する内部コントロール情報のフル・リフレッシュを試行しました。

**ユーザーの処置:**
キャプチャー・プログラムがすべての登録に対する変更をキャプチャーしている場合、アクションは不要です。それ以外の場合、前述のエラー・メッセージを調べて障害の原因を判別し、提案されているユーザー応答に従って、障害の発生している登録の定義を修正してください。 登録を修正したら、キャプチャー・プログラムに REINIT コマンドを再発行します。

---

**ASN0028I** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャー・プログラムが、オペレーター・コマンドにより中断されました。**

**説明:**
オペレーター・コマンドがキャプチャー・プログラムを中断したため、プログラムは待ち状態に入りました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0029I** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャー・プログラムが、オペレーター・コマンドにより再開されます。**

**説明:**
オペレーター・コマンドが中断状態からキャプチャー・プログラムを再開し、キャプチャー・プログラムが実行を続けました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0031E** **CAPTURE** *capture_schema*. **プログラム・パラメーター表 IBMSNAP_CAPPARMS は、1 つの行しか持てません。**

**説明:**
キャプチャー・プログラム・パラメーター表が正しく定義されていないか、または無効な行で更新されました。

**ユーザーの処置:**
IBMSNAP_CAPPARMS 表に 1 行しかないことを確認してください。詳しくは、「*SQL レプリケーション・ガイドおよびリファレンス*」の中の表構造についての記述を参照してください。

---

**ASN0035E** **CAPTURE** *capture_schema*. **表 IBMSNAP_REGISTER でサポートされないアーキテクチャー・レベルの行が検出されました。 無効な行は CD 表** *cd_owner.cd_table* **を指定しており、アーキテクチャー・レベルは** *arch_level* **です。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、登録定義に無効なアーキテクチャー・レベルが含まれていることを発見しました。キャプチャー・プログラムは、互換性のあるアーキテクチャー・レベルの登録だけを使用できます。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。 このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

**ユーザーの処置:**
IBMSNAP_REGISTER 表の ARCH_LEVEL 列に必要な値を調べるには、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションの表構造』を参照してください。ソース・サーバーにある登録表の値が正しいか確認してください。

キャプチャー・プログラムが予期するレベルよりもアーキテクチャー・レベルが低い場合、キャプチャー・プログラムと互換性のあるレベルにキャプチャー・コントロール表をマイグレーションしてください。

---

**ASN0049I** **CAPTURE** *capture_schema*. **SIGNAL_SUBTYPE** *CAPSTOP* **の行が、表 IBMSNAP_SIGNAL に挿入されました。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは、データのキャプチャーを停止するためのシグナルを受信しました。 キャプチャー・プログラムは、現在実行中の作業をコミットして終了します。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0055E** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャー・プログラムは、表** *table_name* **にサポートされない SQLTYPE を持つ列** *column_name* **を検出しました。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、登録定義にサポートされない SQL タイプ (抽象タイプなど) が含まれていることを発見しました。 このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。 このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション管理ツールを使用し、サポートされていない SQL タイプを含まないように登録を変更するか、登録をドロップしてください。

---

**ASN0057E** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャー・プログラムは、** *operation* **上で、ファイル** *filename* **に対するエラー** *errno* **を検出しました。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムがファイルを処理中に、エラーが発生しました。 キャプチャー・プログラムは終了します。

**ユーザーの処置:**
キャプチャー・プログラムが、すべての必須パスとファイルに対して正しいアクセスとセキュリティー許可を持っていることを確認してください。 また、システムに使用可能なスペースが十分にあるかどうかを確認してください。 このメッセージがプロダクト障害によって出力されたと思われる場合は、IBM ソフトウェア・サポートまでご連絡ください。

---

**ASN0058W** **CAPTURE** *capture_schema*. **IBMSNAP_SIGNAL 表の CAPSTART 行にある MAP_ID** *mapid* **は、IBMSNAP_PRUNCNTL 表の中のどの項目とも対応しません。**

**説明:**
CAPSTART シグナルによって指定されている MAP_ID が、IBMSNAP_PRUNCNTL 表の MAP_ID 列のどの現行値とも一致しません。サブスクリプション・セットが削除されているか、またはユーザーが CAPSTART シグナルを正しく挿入していない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
この CAPSTART がユーザーによって発行された場合は、このシグナル表の挿入の MAP_ID が正しいことを確認して、再度発行してください。 この CAPSTART シグナルがアプライ・プログラムによって発行された場合は、サブスクリプション・セットがまだ存在していることを確認してください。

---

**ASN0059W** **CAPTURE** *capture_schema*. **IBMSNAP_PRUNCNTL 表の SYNCHPOINT フィールドが、MAP_ID** *map_id* **を持つサブスクリプションの CAPSTART に対してゼロではありません。**

**説明:**
アプライ・プログラムがキャプチャー・プログラムに対してフル・リフレッシュのシグナルを送ると、アプライ・プログラムは IBMSNAP_SIGNAL 表に CAPSTART シグナルの行を挿入します。 同時に、IBMSNAP_PRUNCNTL 表の SYNCHPOINT 列が 16 進数のゼロに設定されます。 するとキャプチャー・プログラムは、次のようにして、キャプチャー・プログラムが CAPSTART シグナルを受信したことを確認する応答をアプライ・プログラムに送信します。キャプチャー・プログラムは、IBMSNAP_PRUNCNTL 表の SYNCHPOINT 列の値を、CAPSTART ログ・レコードに対応するログ・シーケンスの番号に設定します。アプライ・プログラムが SYNCHPOINT 列の値を 16 進ゼロに設定したため、アプライ・プログラムは、非ゼロの値がキャプチャー・プログラムによって挿入されているかどうかをチェックします。 キャプチャー・プログラムは、値が 16 進ゼロでなかった場合でも、SYNCHPOINT の値を更新します。 ただし、SYNCHPOINT の値が 16

進ゼロでない場合、キャプチャー・プログラムはこの警告を発行して、検出された値が予期したものでなかったことを示します。

この警告は、ユーザーが APPLY CAPSTART シグナルを自分で発行し、アプライ・プログラムのアクションを完全にシミュレートしない場合に発行されることがあります。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0060E** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャー・プログラムが内部エラー** *error_code* **を検出しました。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムで予期しないエラーが発生しました。 キャプチャー・プログラムは終了します。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

---

**ASN0061E** **CAPTURE** *capture_schema*. **無効な登録が検出されました。 ソース表** *source_owner*.*source_table* **は、システム・カタログ表に存在しません。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、登録に指定されているソース表がソース・システム・カタログに存在しないことを発見しました。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、または無効な登録を含むサブスクリプション・セットに対して最初の CAPSTART シグナルをアプライ・プログラムが発行したときに発行されます。 このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。 キャプチャー・コントロール表 IBMSNAP_REGISTER の中の列 *source_owner* と *source_table* の値が正しく指定されていないか、またはソース表がドロップされて、現在存在していない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
登録がエラーの場合は、列 *source_owner* と *source_table* の値を訂正してください。 ソース表がもはや存在していない場合は、その登録は現在は無効なので除去できます。

---

**ASN0062E** **CAPTURE** *capture_schema*. **無効な登録が検出されました。 CD 表** *phys_change_owner*.*phys_change_table* **が、システム・カタログ表に存在しません。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、登録に指定されている CD 表がソース・システム・カタログ表に存在しないことを発見しました。 このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。 このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。 キャプチャー・コントロール表 IBMSNAP_REGISTER の列 *phys_change_owner* と *phys_change_table* の値が正しく指定されていないか、または CD 表がドロップされており、もはや存在していない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
登録がエラーの場合は、列 *phys_change_owner* と *phys_change_table* の値を訂正してください。 CD 表がもはや存在していない場合は、その登録は現在は無効なので除去することができます。

---

**ASN0063E** **CAPTURE** *capture_schema*. **MAP_ID** *mapid* **を持つサブスクリプションと関連付けられたソース表** *source_owner*.*source_table* **は、システム・カタログ表に存在しません。 キャプチャー・プログラムは、このサブスクリプションに対する変更のキャプチャーを開始できませんでした。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムはサブスクリプションの CAPSTART シグナルへの応答を試行して、そのサブスクリプションに対応するソース表がソース・システム・カタログ表に存在しないことを発見しました。 このエラー・メッセージは、無効なサブスクリプションに対する最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。 キャプチャー・コントロール表 IBMSNAP_PRUNCNTL の列 *source_owner* と *source_table* の値が正しく指定されていないか、またはソース表がドロップされて、もはや存在しない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
サブスクリプションがエラーの場合は、列 *source_owner* と *source_table* の値を訂正してください。 ソース表がもはや存在しない場合は、そのサブスクリプションはもはや有効ではないため、除去することができます。

**ASN0064E** **CAPTURE** *capture_schema*. **この登録は、MAP_ID** *mapid* **を持つ関連したサブスクリプションに対して無効です。 キャプチャー・プログラムは、このサブスクリプションに対する変更データのキャプチャーを開始できません。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは特定のサブスクリプションと関連付けられた登録の初期化を試行して、登録に 1 つ以上の無効な列値が含まれていることを検出しました。 このエラー・メッセージは、この登録に対して、サブスクリプションに対する最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。 キャプチャー・コントロール表 IBMSNAP_REGISTER の列 *phys_change_owner* と *phys_change_table* の値が正しく指定されていないか、または CD 表がドロップされており、もはや存在していない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
登録がエラーの場合は、列 *phys_change_owner* と *phys_change_table* の値を訂正してください。 この登録がもはや必要ない場合は、除去することができます。

---

**ASN0065E** **CAPTURE** *capture_schema*. **無効な登録が検出されました。 ソース表** *source_owner*.*source_table* **は、ローカル物理表ではありません。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行し、この登録のソース表がローカル物理表でなく、ソースとして使用され、ニックネームで呼び出される、DB2 以外のリレーショナル・サーバー上にあることを発見しました。 DB2 以外のリレーショナル・サーバーがソースとして使用された場合、各サーバーのデータはトリガー・プログラムを介してキャプチャーされます。 各ソース表は、その DB2 以外のリレーショナル・サーバー上に作成された独自の登録表になければなりません。 このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはサブスクリプションに対して、この登録に対する最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。 このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。 この登録は DB2 データベースの IBMSNAP_REGISTER 表に誤って作成されています。

**ユーザーの処置:**
この登録は、正しい、DB2 以外のリレーショナル・サーバーに再作成して、有効化する必要があります。

---

**ASN0066E** **CAPTURE** *capture_schema*. **無効な登録が検出されました。 CD 表** *phys_change_owner*.*phys_change_table* **は、ローカル物理表ではありません。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、サブスクリプションに対応するその登録の CD 表が、ソースとして使用される DB2 以外のリレーショナル・データベースのニックネームであることを発見しました。 このメッセージは、この登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。 このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

**ユーザーの処置:**
DB2 以外のリレーショナル・ソースは、トリガー・プログラムを介してキャプチャーされ、DB2 以外のリレーショナル・ソース・システムにある独自の登録表になければなりません。 そのようなソースの CCD 表は、DB2 以外のリレーショナル・ソース・システムにも作成されます。 何らかの理由により、DB2 以外のリレーショナル・ソース表登録が、誤って IBMSNAP_REGISTER コントロール表に登録されました。この登録は、正しい、DB2 以外のリレーショナル・サーバーに再作成する必要があります。

---

**ASN0067E** **CAPTURE** *capture_schema*. **MAP_ID** *map_id* **を持つサブスクリプションと関連付けられたビュー登録が、表 IBMSNAP_REGISTER に見つかりませんでした。 キャプチャー・プログラムは、このサブスクリプションに対する変更データのキャプチャーを開始できませんでした。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、このサブスクリプションに対応するビュー登録が存在しないことを発見しました。 このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。 このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。 キャプチャー・コントロール表 IBMSNAP_REGISTER または IBMSNAP_PRUNCNTL の中の列 *source_owner*、*source_table*、および *source_view_qual* の値が、正しく指定されていない可能性があります。 そのため、一致が見つからなかったか、または登録がドロップされており、もはや存在しません。

**ユーザーの処置:**

サブスクリプションまたは登録がエラーの場合は、列 *source_owner*、*source_table*、および *source_view_qual* の値を訂正してください。 登録がもはや存在しない場合は、そのサブスクリプションは無効なので、除去することができます。

---

**ASN0068E** **CAPTURE** *capture_schema*. **INSERT ステートメントが CD 表** *phys_chg_owner*. *phys_chg_tbl* **には長すぎます。**

**説明:**
CD 表の列数が多すぎるため、SQL INSERT ステートメントが、キャプチャー・プログラムのコーディングの限界である 32K を超えています。

**ユーザーの処置:**
この表のすべての列が登録で定義されているが、ターゲットではそれらの列のサブセットしか必要としないときは、その登録の列数を削減してください。 または、その表を 2 つの登録に分割して、それぞれの登録に、表列の異なるサブセットを入れてください。

---

**ASN0069E** **CAPTURE** *capture_schema*. **CD 表** *phys_chg_owner*.*phys_chg_tbl* **への挿入中に、SQLCODE** *sqlcode* **が戻されました。この CD 表は、ドロップされたように見えます。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムが CD 表に行を挿入しようとしましたが、DB2 がその CD がもはや存在しないことを示す SQLCODE を戻しました。 この CD 表が誤ってドロップされたか、または登録全体がドロップされた可能性があります。 IBMSNAP_REGISTER 表にこの CD を参照する行がまだ存在する場合、キャプチャー・プログラムは CD_OLD_SYNCHPOINT 列の値を NULL に設定してこれらの登録を非活動化し、この CD 表の変更のキャプチャーを試行しません。 このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

**ユーザーの処置:**
CD 表がもはや存在しておらず、必要でない場合は、その登録はもはや無効なので除去してください。 登録を除去する前に、非活動化することをお勧めします。 この CD 表を使用する登録と関連付けられたサブスクリプション・セットも、非活動化してください。 さらにこれらのサブスクリプション・セットを活動化して、正常に実行できるように、関連付けられたサブスクリプション・セット・メンバーを除去してください。

---

**ASN0070E** **CAPTURE** *capture_schema*. **CD 表** *phys_chg_owner*. *phys_chg_tbl* **の列名** *column_name* **の組み合わせと、この登録に対する表 IBMSNAP_REGISTER の BEFORE_IMG_PREFIX** *before_img_prefix* **の値は、ソース表の中の複数の列名と一致します。 登録定義の中のあいまいさは、キャプチャー・プログラムによって解決できません。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、この登録に対する CD 表内の列があいまいであることを発見しました。 この列は、1 つのソース列の変更前イメージを参照している可能性もあり、また別のソース列の変更後イメージを参照している可能性もあります。このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。 このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

**ユーザーの処置:**
IBMSNAP_REGISTER 表で、BEFORE_IMG_PREFIX 列の現行値を、このあいまいさの生じない文字値に変更してください。

---

**ASN0071E** **CAPTURE** *capture_schema*. **CD 表** *phys_chg_owner*. *phys_chg_tbl* **にある列** *column_name* **のデータ・タイプ属性は、対応するソース列のデータ・タイプ属性と非互換です。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、この登録に対する CD 表内の列がそれに対応するソース列と非互換であることを発見しました。 このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。 このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

**ユーザーの処置:**
この登録について、CD 表を訂正してください。

---

**ASN0072E** **CAPTURE** *capture_schema*. **CD 表** *phys_chg_owner*. *phys_chg_tbl* **の変更前イメージ列** *column_name* **は NULL 値を許可する必要があります。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、この登録に対する CD 表内の変更前イメージ列が

NULL 値を受け入れるよう定義されていないことを発見しました。 このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。 このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

**ユーザーの処置:**
この登録について、CD 表を訂正してください。

---

**ASN0073E** **CAPTURE** *capture_schema*. **CAPSTOP シグナル上の CD 表を記述する指定** *input_in* **は無効です。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは、CAPSTOP シグナルに指定された INPUT_IN 値が *phys_change_owner.phys_change_table* の有効なフォーマットになっていないことを発見しました。 このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはなく、このシグナルに対して何のアクションも行われません。

**ユーザーの処置:**
INPUT_IN の値が、非活動化する登録と関連付けられた CD 表の名前と一致することを確認してください。 IBMSNAP_SIGNAL 表に新規行を挿入してください。

---

**ASN0074E** **CAPTURE** *capture_schema*. **IBMSNAP_REGISTER 表に、CAPSTOP シグナルに指定されている** *src_owner.src_table* **に対応する行がありません。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは、CAPSTOP シグナルに指定された INPUT_IN 値が無効なフォーマットであり、*source_owner.source_table* の値に一致するものが登録表に存在しないことを発見しました。 このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

**ユーザーの処置:**
INPUT_IN の値を訂正して、再度シグナルを挿入してください。

---

**ASN0075W** **CAPTURE** *capture_schema*. **CAPSTOP シグナルの INPUT_IN、** *src_owner.src_table* **に対応する登録が、変更を取り込んでいませんでした。 アクションはとられません。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは、CAPSTOP シグナルに指定された INPUT_IN 値は有効なフォーマットであり、登録表の中の *source_owner.source_table* の値と一致するが、この登録がすでに非活動化されていることを発見しました。 このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはなく、またキャプチャー・プログラムはこのシグナルに対して何のアクションも行いません。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0076I** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャーは、CAPSTOP シグナルに応答して、ソース表** *source_owner.source_table* **に対する変更のキャプチャーを停止しました。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは、CAPSTOP シグナルに指定された登録を正常に非活動化しました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0077E** **CAPTURE** *capture_schema*. **MAP_ID** *mapid* **を持つ IBMSNAP_PRUNCNTL 表の PHYS_CHANGE_OWNER と PHYS_CHANGE_TABLE 列に指定された値が NULL であるか、または IBMSNAP_REGISTER 表の有効な行と一致しません。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは登録を初期化していて、サブスクリプションに対する IBMSNAP_PRUNCNTL 表の中の PHYS_CHANGE_OWNER と PHYS_CHANGE_TABLE の列値が、IBMSNAP_REGISTER 表の登録行と一致できないことを検出しました。 このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対するサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

**ユーザーの処置:**
このサブスクリプションに対する IBMSNAP_PRUNCNTL 表の値を訂正してください。このサブスクリプションがレプリケーション・センターを使って作成された場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、管理問題の可能性があることを報告してください。

---

**ASN0078E** **CAPTURE** *capture_schema*. **CD 表** *phys_owner*.*phys_table* **の変更前イメージ列** *column name* **は、この登録に対して CD 表の中に対応する変更後イメージを持っていません。登録は無効です。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、CD 表内の登録の変更前イメージ列がそれに対応する変更後イメージを持っていないことを発見しました。 このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対してサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。 このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

**ユーザーの処置:**
変更前イメージ列が、それに対応する変更後イメージ列も CD 表に組み込まれる場合にのみ、組み込まれることを確認して、この登録について CD 表を訂正してください。

---

**ASN0079E** **CAPTURE** *capture_schema*. **CD 表** *phys_chg_owner*.*phys_chg_tbl* **と関連する登録について IBMSNAP_REGISTER 表を更新中に、SQLCODE** *sqlcode* **が戻されました。 これらの行は、削除されている可能性があります。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは、指定された CD 表に対してデータがキャプチャーされたことを示すために IBMSNAP_REGISTER 表を更新しようとしましたが、DB2 がその行がもはや存在しないことを示す SQLCODE を戻しました。 この登録は、ドロップされている可能性があります。 このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

**ユーザーの処置:**
登録がドロップされている場合、この登録に対してこれ以上のアクションは不要です。 登録をドロップする場合は、最初にその登録を非活動化することをお勧めします。 IBMSNAP_REGISTER 表の中のこの行が誤って削除された場合は、関連付けられた CD 表をドロップして、登録を再作成してください。この登録と関連付けられているサブスクリプション・セットは、すべて非活動化してください。登録をドロップする必要がある場合は、これらのサブスクリプション・セットを活動化して、正常に実行できるように、関連付けられたサブスクリプション・セット・メンバーを除去してください。登録が再作成されると、関連するサブスクリプション・セットについてフル・リフレッシュを実行するよう指示するシグナルがアプライ・プログラムに送信されます。

---

**ASN0080E** **CAPTURE** *capture_schema*. **CD 表** *phys_chg_owner*.*phys_chg_tbl* **で表スペースがフルの状態が検出されました。この表は、ソース表** *source_owner*.*source_table* **の登録と関連付けられています。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは、指定された CD 表への挿入を処理しようとしましたが、表スペースがフルの状態のため、挿入を処理できませんでした。 通常、この状態は、CD 表スペースへのスペース割り振りが十分でなかったり、整理の頻度が低かったり、または整理の効果的に行われていないことなどが原因で発生します。 このエラーにより、キャプチャー・プログラムは終了します。

**ユーザーの処置:**
以下のステップに従って、表スペースがフルの状態が発生した原因を判別してください。

1. 通常の処理条件を実行するのに十分な表スペースがこの CD 表に割り振られていることを確認します。
2. キャプチャーのコントロール表のストレージ要件を減らすために、整理が適切な頻度で行われていることを確認します。
3. 通常の整理処理を実行するのに十分な頻度でアプライ・プログラムが実行されていることを確認します。
4. 通常の整理に必要な追加ステップを実行せずに、長期間サブスクリプション・セットが非活動化されていることを確認します。

詳細は、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの SQL レプリケーションに関する資料を参照してください。

---

**ASN0082W** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャー・プログラム が、CD 表** *phys_chg_owner*. *phys_chg_tbl* **の中で、列** *column_name* **を検出しましたが、この列の長さ** *CD_column_length* **は、対応するソース表** *source_owner*.*source_table* **の長さ** *src_column_length* **にある、対応する列の長さよりも短くなっています。**

**説明:**
登録の初期化中、キャプチャー・プログラムは、登録定義が、ソース表の中の対応する列の長さよりも短い列の長さを持つ列を CD 表に含んでいることを発見しました。 この登録定義は許可されますが、キャプチャーされたソース表のデータが、定義された CD 表列の中に収まらない可能性があることを知らせる警告メッセージ

が表示されます。 このメッセージは、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート中、またはこの登録に対してサブスクリプションの最初の CAPSTART シグナルが受信されたときに発行されます。 登録は、正常に初期化されます。

**ユーザーの処置:**
登録をこの方法で定義しなければならない特別な理由がある場合 (例えば、変更されたデータの長さが決して、CD 表の列の長さよりも長くなることがないことが確実な場合) を除き、ソース表と CD 表のデータ定義が完全に一致するように、登録を定義してください。

---

**ASN0083E** **CAPTURE** *capture_schema*. **CD 表** *phys_chg_owner*.*phys_chg_tbl* **への挿入を処理しようとしたときに、SQLCODE** *sqlcode* **が戻されました。 CD 表列** *column_name* **は短すぎるため、ソース表** *source_owner*.*source_table* **の中の対応する列からキャプチャーされたデータを入れることができません。 登録は、キャプチャー・プログラムにより停止されました。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは CD 表への挿入を処理しようとして、ソース表の中の対応する列の長さよりも短い列が CD 表に含まれていることを示す、DB2 からの SQLCODE を検出しました。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありませんが、この登録は停止状態に置かれます。

**ユーザーの処置:**
この登録定義を再評価してください。 ソース表の列と CD 表の列の長さが一致するように登録を変更するか、またはCD 表にトリガーを追加してデータを切り捨ててください。

---

**ASN0084E** **CAPTURE** *capture_schema*. **ソース表** *source_owner*.*source_table* **と CD 表** *phys_chg_owner*. *phys_chg_tbl* **の登録が、キャプチャー・プログラムにより停止されました。**

**説明:**
このエラー・メッセージは、キャプチャー・プログラムにより登録が停止状態に置かれる (STATE 列が IBMSNAP_REGISTER 表の中で 'S' の値に設定される) と必ず表示されます。 このアクションの理由は、1 つ以上の前述のメッセージで説明されています。

**ユーザーの処置:**
前述のエラー・メッセージを調べて障害の原因を判別し、提案されているユーザー応答に従って、障害の発生している登録定義を修理してください。 登録定義の修理が終わったら、手動で IBMSNAP_REGISTER 表の中の STATE 列の値を 'I' に設定して、アプライ・プログラムにより登録が再度使用できることを示す必要があります。

---

**ASN0100I** **CAPTURE** *capture_schema* **: キャプチャー・バージョン** *version_number* **プログラムが正常に初期化されました。**

**説明:**
これは、キャプチャー・プログラムの開始とキャプチャー・プログラムのバージョンを知らせるメッセージです

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN0101W** **CAPTURE** *capture_schema*. **既存データが古すぎるため、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタートは失敗しました。コールド・スタートが試行されます。**

**説明:**
変更データ表のデータが古すぎます。 コールド・スタートが実行されます。

**ユーザーの処置:**
詳しくは、DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションに関するキャプチャー・プログラムの操作』を参照してください。

---

**ASN0102W** **CAPTURE** *capture_schema*. **ウォーム・スタート情報が十分でないため、キャプチャー・プログラムはコールド・スタートに切り替えます。**

**説明:**
再始動情報の検索中に、問題が発生しました。 再始動表のデータは無効です。 コールド・スタートが実行されます。

- DB2 の場合、ウォーム・スタート中に DB2 がログを読み取ったときに非同期ログ読み取り API エラーが発生しました。
- z/OS の場合、ウォーム・スタート中に DB2 がログを読み取っている間、Instrumentation Facility Information (IFI) エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
詳しくは、DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションに関するキャプチャー・プログラムの操作』を参照してください。

---

**ASN0104I** **CAPTURE** *capture_schema*. **MAP_ID** *mapid* **を持つ CAPSTART シグナルへの応答で、ソース表** *source_owner*.*source_table* **に対し、ログ・シーケンス番号** *log_sequence_number* **から開始されるログで検出された変更について、変更のキャプチャーが開始されました。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは、正常に CAPSTART シグナルを処理しました。 これが特定のソース表と関連付けられた最初の CAPSTART シグナルの場合、このメッセージはキャプチャー・プログラムが現在、ソース表への更新をキャプチャー中であることを示します。 これが、変更がすでにキャプチャー中の表に対する CAPSTART シグナルである場合は、このメッセージは、キャプチャー・プログラムがシグナルを受信し、アプライ・プログラムが入力 MAP_ID 値と関連付けられたサブスクリプション・セットの変更の受信を開始できるように、必要な処理を実行したことを示しています。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0105I** **CAPTURE** *capture_schema*. *n* **行は、表** *table_owner*.*table_name* **から** *timestamp* **に整理されました。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは、
CD、UOW、TRACE、MONITOR、または SIGNAL 表からレコードを整理しました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0109I** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャー・プログラムは正常に初期化され、** *number* **登録に対するデータの変更をキャプチャー中です。** *Stopped_number* **登録は停止状態です。** *Inactive_number* **登録は非アクティブ状態です。**

**説明:**
このメッセージは、キャプチャー・プログラムが登録項目の再初期設定を完了したときに表示されます。 再初期設定は、ウォーム・スタート中、CAPSTART シグナルの処理中、またはキャプチャーの REINIT コマンドに応答して行われます。

**ユーザーの処置:**
キャプチャー・プログラムがすべての登録に対する変更を取り込んでいる場合、アクションは不要です。 それ以外の場合、前述のエラー・メッセージを調べて障害の原因を判別し、提案されているユーザー応答に従って、障害の発生している登録の定義を修正してください。 登録の定義を修正したら、reinit パラメーターを指定して asnccmd コマンドを発行してください。

---

**ASN0111I** **CAPTURE** *capture_schema*. **整理循環は、** *timestamp* **に開始されました。**

**説明:**
このメッセージは、各整理循環の開始時に発行されます。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0112I** **CAPTURE** *capture_schema*. **整理循環が、** *timestamp* **に終了しました。**

**説明:**
このメッセージは、各整理循環の終了時に発行されます。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0113W** **CAPTURE** *capture_schema*. **あと 24 時間で、整理保存限界に到達します。**

**説明:**
この警告メッセージは、IBMSNAP_UOW 表の値が、保存限界の整理が翌日発生する可能性があることを示しているときに発行されます。

**ユーザーの処置:**
なぜ通常の整理が行われていないのか、その理由を確認してください。 通常これは、何日もの間、1 つ以上のアプライ・プログラムが実行されていないために、CD および UOW 表が効率的に整理できないために発生します。 もう 1 つの原因としては、
IBMSNAP_PRUNE_SET 表にある、対応する同期点の値を除去またはリセットせずに、サブスクリプション・セットを除去または非活動化したことが考えられます。レプリケーション・アナライザー・ツールを使って、この状況の詳細な分析を得ることができます。

---

**ASN0114E** **CAPTURE** *capture_schema*.*table_owner*.*table_name* **の整理中に、整理が SQL コード** *sqlcode* **で失敗しました。**

**説明:**
このエラー・メッセージは、予期しない SQL エラー・コードで整理が失敗したときに発行されます。 整理は終了し、次のインターバルまたはコマンド呼び出し時に再度試行されます。 このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

**ユーザーの処置:**
SQL コードが一時エラーを示している場合は、アクションは不要です。それ以外の場合、DB2 インフォメーション・センターの中の、『ASN - レプリケーション』メッセージ・セクションで SQL エラーに対して指示されている処置をとってください。

---

**ASN0121E** **CAPTURE** *capture_schema*. **既存データが古すぎるため、キャプチャー・プログラムのウォーム・スタートは失敗しました。キャプチャー・プログラムは終了します。**

**説明:**
lag_limit パラメーターは、キャプチャー・プログラムが DB2 ログのレコード処理で遅延可能な時間を分単位で表します。 キャプチャーは、ユーザー指定の lag_limit により許可されたものより古いトランザクションを処理するので、ウォーム・スタートはできません。

**ユーザーの処置:**
キャプチャー・プログラムのログ読み取りが遅れる原因を調べます。 ラグ限界パラメーターを実用化しないテスト環境の場合は、ラグ限界を高く設定し、キャプチャー・プログラムを再起動してください。 また、テスト環境下のソース表のデータが非常に少ない場合は、キャプチャー・プログラムをコールド・スタートし、ターゲット表の全データを完全にリフレッシュしてください。

---

**ASN0122E** **CAPTURE** *capture_schema*. **再始動情報または DB2 ログの読み取り中に、エラーが発生しました。キャプチャー・プログラムは終了します。**

**説明:**
再始動情報の検索中に、問題が発生しました。 再始動表のデータが無効です。ただし、z/OS の場合は、再始動中にログを読み取っているときに計測機能インターフェース (IFI) エラーが発生しました。 エラーが解決されたら、ウォーム・スタート・オプションを使って再始動できます。

**ユーザーの処置:**
キャプチャーが IBMSNAP_RESTART から再始動情報を検索できない原因を調べます。 問題の原因については、前のメッセージを参考にしてください。 可能な場合は問題を訂正し、キャプチャーをウォームで再始動します。 問題を訂正できない場合は、キャプチャーをコールドで再始動してください。

---

**ASN0123I** **CAPTURE** *capture_schema*. **プログラムの終了時、正常にキャプチャーされたログ・レコードの最も高いログ・シーケンス番号は** *max_commitseq* **で、まだコミットされていないレコードの最も低いログ・シーケンス番号は** *min_inflightseq* **です。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは終了し、監査目的でその時点の再始動表の値を記録します。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0133I** **CAPTURE** *capture_schema*. **AUTOSTOP 機能が指定されているため、キャプチャー・プログラムはアクティブ・ログの終わりに達したので終了します。**

**説明:**
ユーザー・オプション AUTOSTOP で要求されているように、キャプチャー・プログラムはアクティブ・ログの終わりに達したときに終了しました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0142E** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャー・プログラムは、モニター表 IBMSNAP_CAPMON に対して挿入操作を実行できません。 SQL コードは** *sqlcode* **です。 このインターバルのモニター情報は、スキップされます。**

**説明:**
このエラー・メッセージは、予期しない SQL コードでモニター・スレッドが失敗したときに発行されます。このインターバルのモニター関数はスキップされ、次回のインターバルのときにプログラムは再試行します。このエラーによってキャプチャー・プログラムが終了することはありません。

**ユーザーの処置:**
SQL コードが一時エラーを示している場合は、アクションは不要です。それ以外の場合、DB2 インフォメーション・センターの中の、『ASN - レプリケーション』

メッセージ・セクションで SQL エラーに対して指示されている処置をとってください。

---

**ASN0143W** **CAPTURE** *capture_schema*. **プログラムは、ソース・データベース** *src_db_name* **がリストア、またはロールフォワードされたことを検出しました。 キャプチャー・プログラムは、ウォーム・スタートからコールド・スタートに切り替えました。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは、WARMSA または WARMSI の開始モードで開始されました。 キャプチャー・プログラムはウォーム・スタートを試行したとき、DB2 ログ読み取り API から、ソース・データベースがリストアまたはロールフォワードされ、ログ・シーケンス番号が再利用されたことを示す戻りコードを受信しました。ソース・データベースの状態とキャプチャーされたデータの状態の整合性が、もはや取れていません。キャプチャー・プログラムは、コールド・スタートに切り替えました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0144E** **CAPTURE** *capture_schema*. **プログラムは、ソース・データベース** *src_db_name* **がリストア、またはロールフォワードされたことを検出しました。 整合性をリストアするために、コールド・スタートをお勧めします。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは、WARMNS または WARMSI の開始モードで開始されました。 キャプチャー・プログラムはウォーム・スタートを試行したとき、DB2 ログ読み取り API から、ソース・データベースがリストアまたはロールフォワードされ、ログ・シーケンス番号が再利用されたことを示す戻りコードを受信しました。ソース・データベースの状態とキャプチャーされたデータの状態の整合性が、もはや取れていません。キャプチャー・プログラムは終了され、コールド・スタートへの切り替えは自動的に行いません。

**ユーザーの処置:**
キャプチャー・プログラムのウォーム・スタートを実行しても安全だという確信がある場合は、キャプチャー・プログラムを再始動してください。2 度目の試行では終了されません。 キャプチャー・プログラムのウォーム・スタート後、キャプチャーされたデータが整合するかどうかについて確信が持てない場合は、キャプチャー・プログラムのコールド・スタートを実行することをお勧めします。

---

**ASN0180W** **CAPTURE** *capture_schema*. **表 IBMSNAP_SIGNAL は、キャプチャーが要求している EBCDIC 表ではありません。このシグナルは処理されました。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは、IBMSNAP_SIGNAL 表が EBCDIC 表として定義されていないことを検出しました。 シグナルを EBCDIC に変換して正しく処理するために、追加処理が必要です。 追加処理により、若干の性能低下が起こります。

**ユーザーの処置:**
なるべく早く、以下のステップを実行してください。

1. キャプチャー・プログラムを停止します。
2. IBMSNAP_SIGNAL 表をドロップし、EBCDIC エンコードで再作成します。
3. キャプチャー・プログラムを再始動します。

---

**ASN0181W** **CAPTURE** *capture_schema*. **タイム・スタンプ** *signal_time* **を持つシグナルの行は、もはや IBMSNAP_SIGNAL 表に存在しません。 このシグナルは処理されました。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムはシグナルからの要求を処理しましたが、SIGNAL_STATE および SIGNAL_LSN を更新できませんでした。 そのため、シグナルの発行者はキャプチャー・プログラムがシグナルを受信したことを判別できません。

**ユーザーの処置:**
別のプロセスがキャプチャー・プログラムからのシグナルの更新を待機しているかどうかを判別し、必要に応じて、シグナルを再送信してください。

---

**ASN0182W** **CAPTURE** *capture_schema*. **タイム・スタンプ** *signal_time* **を持つシグナルの行は、もはや IBMSNAP_SIGNAL 表に存在せず、この表は EBCDIC ではありません。シグナルは、キャプチャーより無視されます。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムが EBCDIC でエンコードされていないシグナルを受信したために、初期化に障害が発生しました。 キャプチャー・プログラムは、IBMSNAP_SIGNAL 表の行がもはや存在しないため、シグナルを EBCDIC に変換できませんでした。 キャプチャー・プログラムは、どのシグナルが送信されて、無視されたのかを判別できません。

**ユーザーの処置:**

どのシグナルが送信されたかを判別して、そのシグナルを再送信してください。

なるべく早く、以下のステップを実行してください。

1. キャプチャー・プログラムを停止します。
2. IBMSNAP_SIGNAL 表をドロップし、EBCDIC エンコードで再作成します。
3. キャプチャー・プログラムを再始動します。

---

**ASN0183E** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャー・プログラムは、IBMSNAP_PARTITIONINFO 表と DB2 パーティション情報の間の不整合を検出しました。**

**説明:**
このエラー・メッセージは、以下の理由により発生したと思われます:

- 新規データベース・パーティションがデータベースに追加された。
- IBMSNAP_PARTITIONINFO コントロール表が破壊されています。

**ユーザーの処置:**
新規パーティションが追加される場合は、キャプチャー・プログラムを add_partition=Y オプションで再起動してください。

IBMSNAP_PARTITIONINFO コントロール表が破壊されている場合は、キャプチャー・プログラムをコールド・スタートするまたは IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

---

**ASN0184I** **CAPTURE** *capture_schema*. **ログ・シーケンス番号** *log_sequence_number* **から始まるログにある変更に対して、キャプチャー・プログラムをパーティション** *partition_num* **で開始しました。**

**説明:**
新規パーティションが ADD_PARTITION オプションを使用して追加されました。 キャプチャー・プログラムがそのパーティションの処理を開始しました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0185I** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャー・プログラムは必要なファイルを検出しなかったため、コントロール表** *control_table* **および関連する索引** *index* **をキャプチャー・プログラム・サーバーに作成しました。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは指定したコントロール表を必要としています。 キャプチャー・プログラムがコントロール表を発見できない場合は、適当なキャプチャー・コントロール・サーバー上にコントロール表と 関連索引を作成します。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0186W** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャー・プログラムはソース・データベース** *database* **をパーティション** *partition_ID* **で検出できません。 キャプチャー・プログラムは、このパーティションに対するログを処理できません。**

**説明:**
このパーティションは、ソース・データベースに認識されていません。 キャプチャー・プログラムは、ソース・データベースに認識されているパーティションからのデータのみをキャプチャーします。

**ユーザーの処置:**
データベースにパーティションを追加して、ADD_PARTITION=Y オプションを使用してキャプチャー・プログラムを再始動してください。 パーティションが必要ない場合、除去してください。

---

**ASN0187W** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャー・プログラムは、以前 DB2 で識別されたパーティション** *partition_id* **を検出できません。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは、以前 DB2 で識別されたパーティションを検出できません。 このパーティションは、マルチパーティション・ソース・サーバーの一部でなくなりました。

**ユーザーの処置:**
欠落しているパーティションが適切に除去されていることを確認してください。 これ以上のアクションは不要です。

---

**ASN0188I** **CAPTURE** *capture_schema*. *n* **行が表** *src_owner*.*table* **から** *timestamp* **に、保存限度の整理のために整理されました。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは、
CD、UOW、TRACE、MONITOR、または SIGNAL 表から保存限度の整理のためにレコードを整理しました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0189I** **CAPTURE** *capture_schema*. **キャプチャー・プログラムは、登録済み表** *src_owner.table* **でエラーが発生し、エラー時登録を停止するように構成されているため終了します。**

**説明:**
登録は、STOP_ON_ERROR = Y です。キャプチャー・プログラムは、この直前のメッセージで示されたエラーのため終了します。

**ユーザーの処置:**
次のアクション(片方ないしは両方)を取り、キャプチャー・プログラムを再始動してください:

- 直前のメッセージで示されたエラーを訂正してください。
- レジスター (IBMSNAP_REGISTER) 表で、STOP_ON_ERROR=N に設定してください。

---

**ASN0190I** **CAPTURE** *capture_schema*. **ソース表** *src_owner.table* **の登録がエラーのために非活動化されました。 キャプチャー・プログラムは終了しませんでした。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムはこの直前のメッセージで示されたエラーのために、指定されたソース表の登録を非活動化しました。 キャプチャー・プログラムは終了しませんでした。登録が STOP_ON_ERROR = N であるために稼働し続けます。

**ユーザーの処置:**
登録 (IBMSNAP_REGISTER) 表の STATE 列で確認される、このソース表に対するエラーを訂正し、登録を再活動化してください。登録を再活動化すると、フル・リフレッシュが実行されます。

フル・リフレッシュを今後回避するためには、STOP_ON_ERROR を Y に設定してエラーが発生した場合にキャプチャー・プログラムを終了するようにしてください。

---

**ASN0191E** **CAPTURE** *capture_schema* **: LSN** *LSN* **を持つログ・レコードは不明なログ・バリエーションであるため、これを処理できませんでした。 DBID は** *DBID* **です。その OBID は** *OBID* **です。トランザクション ID は** *ID* **です。**

**説明:**
ログ・レコードに不明なログ・バリエーション・タイプが含まれているため、キャプチャー・プログラムはログ・レコードを処理できませんでした。

**ユーザーの処置:**
このエラーのためにキャプチャーが停止した場合、キャプチャーがこのログ・レコードを無視できるよう、一致する DBID および OBID を持つ登録またはサブスクリプションを使用不可にする必要があります。キャプチャーの停止がこのエラーによるものではない場合、複製が必要なデータがこのログ・レコードに含まれていないか確認してください。

---

**ASN0192E** **CAPTURE** *capture_schema* **: キャプチャー・プログラムは表** *table_owner.table_name* **のログ・レコードをデコードすることができませんでした。表を再編成する必要があります。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムはログ・レコードを適正にデコードできませんでした。表が変更されたために、表の異なるバージョンが検出されました。
IBMSNAP_REGISTER 表の STOP_ON_ERROR の値が N (いいえ) となっていましたが、表の登録が非アクティブにされました。

**ユーザーの処置:**
表を再編成して登録を再度アクティブにしてください。

---

**ASN0195I** **CAPTURE** *capture_schema* **: ID が** *transaction_identifier* **であるトランザクションは、要求どおりに無視されました。**

**説明:**
キャプチャーの開始時に **ignore_transid** パラメーターにトランザクション ID が指定されたか、トランザクションを無視するための情報が IBMQREP_IGNTRAN 表に挿入されたために、キャプチャー・プログラムがトランザクションをキャプチャーしませんでした。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN0196W** **CAPTURE** *capture_schema* **: 登録されたソース表** *table_name* **がロードまたはリカバリーされました。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは、ソース表の表スペースが DB2 ユーティリティーを使用してロードまたはリカバリーされたことを検出しました。この表は、SQL レプリケーション用に登録されています。

**ユーザーの処置:**
ソース表とターゲット表に相違があるかどうかを検証するために、asntdiffユーティリティーを使用できます。これらの表を同期化させるには、ターゲット表のフル・リフレッシュを実行してください。

---

**ASN0197W** **CAPTURE** *capture_schema* **: 登録されたソース表** *table_name* **がドロップされました。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムがソース表の表スペースがドロップされたことを検出したため、表自体もドロップされました。

**ユーザーの処置:**
そのソース表から今後データを複製しない場合は、レプリケーション管理ツールを使用して登録をドロップします。その表をリカバリーする場合は、表のリカバリー後にキャプチャー・プログラムを再初期化するか、キャプチャー・プログラムを停止してウォーム・モードで開始します。

---

**ASN0198E** **CAPTURE** *capture-schema***: データベース・パーティションの数が SQL レプリケーションがサポートするパーティションの最大数を超えています。キャプチャー・プログラムは停止します。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは、複数パーティション環境で最大 16 個のパーティションをサポートします。

**ユーザーの処置:**
パーティション数を 16 以下に減らして、キャプチャー・プログラムを開始してください。

---

**ASN0199E** **CAPTURE** *capture_schema* **: キャプチャー・プログラムは表** *table_owner.table_name* **の登録をアクティブにできませんでした。表が変更されました。表のバージョンは** *version* **です。**

**説明:**
表が変更された場合、キャプチャー・プログラムはログ・レコードをデコードできません。表を登録した後は、その登録をアクティブ化する前に表を変更しないでください。表のバージョンは 0 でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
表を再編成して登録をアクティブにしてください。

---

**ASN0500E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: パラメーター名** *parameter_name* **に対して行われたパラメーター入力** *input_value* **が無効です。**

**説明:**
プログラムまたはコマンド・プログラムが、指定された入力パラメーターで呼び出されましたが、そのパラメーターは無効です。 このメッセージは、エラーを報告しているプログラムの名前を、パラメーター名と無効なパラメーター値と一緒に示しています。

**ユーザーの処置:**
有効な呼び出しパラメーターに関する資料を調べて入力を訂正し、タスクまたはコマンドを再サブミットしてください。

---

**ASN0501E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: パラメーター** *parameter_name* **に対して指定された値** *input_value* **が正しいデータ・タイプではありません。**

**説明:**
プログラムまたはコマンド・プログラムが、関連データ・タイプを指定した入力値で呼び出されましたが、そのデータ・タイプは無効です。 このメッセージは、エラーを報告しているプログラムの名前、誤った入力値、およびこの入力値が指定されたパラメーターの名前を示しています。

**ユーザーの処置:**
パラメーター入力に正しいデータ・タイプが含まれるように呼び出しを訂正して、再サブミットしてください。

---

**ASN0502E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: パラメーター** *parameter_name* **に対して指定された、長さ** *invalid_string_length* **の値** *input_value* **は、ストリングの許容最大長** *allowed_string_length* **より長くなっています。**

**説明:**
プログラムまたはコマンド・プログラムが、無効なストリング長を指定した入力値を使用して呼び出されました。 このメッセージは、エラーを報告しているプログ

ラムの名前、どの入力値が誤りか、およびこの入力値がどのパラメーターに対して指定されたかを示しています。

**ユーザーの処置:**
パラメーター入力に正しいストリングの長さが含まれるように呼び出しを訂正して、再サブミットしてください。

---

**ASN0503E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: パラメーター値** *parameter_name* **に対して指定された整数値** *input_value* **が、このパラメーターでサポートされている範囲外です。**

**説明:**
プログラムまたはコマンド・プログラムが、サポートされる範囲外の入力値を指定して呼び出されました。 このメッセージは、エラーを報告しているプログラムの名前、どの入力値が誤りか、およびこの入力値がどのパラメーターに対して指定されたかを示しています。

**ユーザーの処置:**
パラメーター入力に正しい範囲値が含まれるように呼び出しを訂正して、再サブミットしてください。

---

**ASN0504E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムが呼び出しパラメーター** *incorrect_input* **を認識しませんでした。**

**説明:**
プログラムまたはコマンド・プログラムが、指定されたパラメーターまたはコマンドで呼び出されましたが、そのパラメーターまたはコマンドは無効です。 このメッセージは、どのプログラムがこのメッセージを発行したかと、認識されない呼び出し入力を示しています。

**ユーザーの処置:**
有効な入力パラメーターに関する資料を調べて入力を訂正し、タスクまたはコマンドを再サブミットしてください。

---

**ASN0505E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムが IPC キーを取得または設定できませんでした。**

**説明:**
プログラムまたはコマンド・プログラムは、コマンドの処理に必要なプロセス間通信を初期化できませんでした。 このエラーにより、失敗したプログラムは終了します。

**ユーザーの処置:**
失敗したプログラムまたはコマンドを再試行してください。 問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

---

**ASN0506E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: コマンドは処理されませんでした。** *pgmname* **プログラムはダウンしていると見なされます。**

**説明:**
ターゲット・レプリケーション・プログラムが実行されていないか、または誤ったパラメーター値を入力した (例えば、サーバー名、スキーマ、または修飾子のつづりを誤った) ために、コマンドが処理されませんでした。

**ユーザーの処置:**
パラメーター値が正しく、実行中のレプリケーション・プログラムを識別していることを確認してください。 コマンドを再試行してください。 問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

---

**ASN0507E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、レプリケーション通信メッセージ・キューを作成できませんでした。**

**説明:**
プログラムまたはコマンドが、ユーザー・コマンドの処理中に内部エラーを検出しました。 この障害が原因でプログラムが終了されることはありませんでしたが、コマンドは実行されませんでした。

**ユーザーの処置:**
失敗したコマンドを再発行してください。 問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

---

**ASN0508E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、レプリケーション通信メッセージ・キューにメッセージを送信できませんでした。**

**説明:**
プログラムまたはコマンドが、ユーザー・コマンドの処理中に内部エラーを検出しました。 この障害が原因でプログラムが終了されることはありませんでしたが、コマンドは実行されませんでした。

**ユーザーの処置:**
失敗したコマンドを再発行してください。 問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

---

**ASN0509E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、誤ったメッセージ・バージョンのため、受信したメッセージを処理できませんでした。**

**説明:**

プログラムまたはコマンドが、ユーザー・コマンドの処理中に内部エラーを検出しました。 この障害が原因でプログラムが終了されることはありませんでしたが、コマンドは実行されませんでした。

**ユーザーの処置:**
失敗したコマンドを再発行してください。 問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

---

**ASN0510E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、応答メッセージの待機中にタイムアウトを検出しました。**

**説明:**
コマンド・プログラムが、ユーザー・コマンドの処理中に内部エラーを検出しました。 この障害が原因でプログラムが終了されることはありませんでしたが、コマンドは実行されませんでした。

**ユーザーの処置:**
失敗したコマンドを再発行してください。 問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

---

**ASN0511E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、不明メッセージ関数のため、受信したメッセージを処理できませんでした。**

**説明:**
プログラムが、ユーザー・コマンドの処理中に内部エラーを検出しました。 この障害が原因でプログラムが終了されることはありませんでしたが、コマンドは実行されませんでした。

**ユーザーの処置:**
失敗したコマンドを再発行してください。 問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

---

**ASN0512E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、そのレプリケーション通信メッセージ・キューから読み取れませんでした。**

**説明:**
プログラムが、ユーザー・コマンドの処理中に内部エラーを検出しました。 この障害が原因でプログラムが終了されることはありませんでしたが、コマンドは実行されませんでした。

**ユーザーの処置:**
失敗したコマンドを再発行してください。 問題が続けて起こる場合は、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

---

**ASN0513E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、** *msg_file* **という名前のメッセージ・ファイルをオープンできませんでした。**

**説明:**
プログラムが使用するこのメッセージ・ファイルが正しくインストールされていないか、または言語環境変数が正しく設定されていません。

**ユーザーの処置:**
インストールと構成について、資料を参照してください。

---

**ASN0514E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、***log_file* **という名前のメッセージ・ファイルをオープンできませんでした。**

**説明:**
プログラムが、そのプログラム自身のメッセージ・ログのファイルをオープンしようとしたときに内部エラーが発生し、そのために異常終了しました。この問題は、そのファイルが誤って削除されたか、またはこの処理と関連付けられたユーザー ID がそのファイルをオープンするのに十分な権限を持っていなかったために発生した可能性があります。

**ユーザーの処置:**
処理ユーザー ID に、十分な権限が提供されていることを確認してください。ファイルが誤って削除されている場合は、プログラムを再始動して、新しいログ・ファイルを作成してください。

---

**ASN0515E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、ログ・ファイルをクローズできませんでした。**

**説明:**
プログラムは、そのプログラム自身のメッセージ・ログとして使用されているファイルをクローズしようとしている間に、内部エラーを検出しました。 このファイルは、プログラムが終了を試行する前に、誤って削除されている可能性があります。 最終終了メッセージは、発行されない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
ファイルが誤って削除されている場合は、プログラムを再始動して、新しいログ・ファイルを作成してください。

---

**ASN0516E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、メッセージ・カタログをクローズできませんでした。**

**説明:**

プログラムは、メッセージ・カタログ・ファイルをクローズしようとしている間に、内部エラーを検出しました。 このファイルは、プログラムが終了を試行する前に、誤って削除されている可能性があります。 最終終了メッセージは、発行されない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
メッセージ・ファイルが削除されている場合は、再インストールする必要があります。

---

**ASN0517E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、そのレプリケーション通信メッセージ・キューからの読み取り機能を回復しました。**

**説明:**
プログラムは、直前の失敗後、コマンドの処理に必要な、メッセージ・キューからの読み取り機能を再初期化することができました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0518E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、複数のコマンドを受け入れません。**

**説明:**
コマンド・プログラムが、複数のコマンドを指定して呼び出されました。 各コマンド呼び出しは、単一の入力コマンドを使い、他の必須コマンド入力と一緒に実行される必要があります。 注: CHGPARMS コマンドは、1 つの CHGPARMS コマンドの呼び出しで、複数のパラメーターの変更を許可します。

**ユーザーの処置:**
無効なコマンド入力を訂正し、コマンドを再サブミットしてください。

---

**ASN0519E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: CHGPARMS パラメーター** *parameter_name* **に対して指定されたパラメーター入力** *parameter_value* **が無効です。**

**説明:**
CHGPARMS コマンドが、誤ったパラメーター入力で呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
コマンド入力を訂正し、コマンドを再サブミットしてください。

---

**ASN0520I** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: STATUS コマンド応答:** *thread_type* **スレッドは** *status_condition* **状態にあります。**

**説明:**
status コマンドに応答して、コマンドを受け取ったプログラムと関連するそれぞれのスレッドごとにこれらのメッセージの 1 つが発行され、スレッドの現在の状態を提供します。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0521I** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: QRYPARMS コマンド応答:** *parameter_name* **は、方式** *method* **によって** *parameter_value* **に設定されました。**

**説明:**
QRYPARMS コマンドに応答して、それぞれのプログラム・パラメーターごとにメッセージが発行されます。 このメッセージは、パラメーターごとにパラメーターの名前と現在の設定、およびそのパラメーターの値を設定するためにユーザーが使用した方式 (デフォルトによる、IBMSNAP_CAPPARMS 表を変更する、始動オプションによる、または CHGPARMS コマンドを使用する) を示します。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0522I** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは** *command_type* **コマンドを受信しました。**

**説明:**
プログラムは、処理するコマンドを受信しました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0523I** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: CHGPARMS コマンド応答:** *parameter_name* **は** *parameter_value* **に設定されました。**

**説明:**
CHGPARMS コマンドに応答して、変更されたそれぞれのプログラム・パラメーターごとにこれらのメッセージの 1 つが発行されます。 各パラメーターごとに、メッセージはそのパラメーターの新規値を提供します。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0524E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムの必須パラメーター** *parameter_name* **が指定されていません。**

**説明:**
プログラムまたはコマンド・プログラムが、いずれかの必須パラメーターを指定せずに呼び出されました。 欠落しているパラメーターが *capture_server* または *control_server* の場合、プログラムまたはコマンドは、適用可能な DB2DBDFT 環境変数設定を介して、暗黙的なデータベース名へのアクセスも試行しましたが、これも成功しませんでした。

**ユーザーの処置:**
適切なパラメーターとそれに対応する入力値が含まれるように、呼び出しを訂正してください。

---

**ASN0525E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、その外部通信メッセージ・キューから読み取れませんでした。**

**説明:**
プログラムまたはコマンド・プログラムは、コマンドの処理に必要な、外部通信メッセージ・キューからの読み取り機能を初期化できませんでした。

**ユーザーの処置:**
失敗したコマンドを再試行し、問題が解決されないようであれば、IBM ソフトウェア・サポートまで連絡してください。

---

**ASN0526E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、コマンド入力なしで呼び出されました。**

**説明:**
コマンド・プログラムが、処理するコマンドなしで呼び出されました。 コマンド処理は実行されません。

**ユーザーの処置:**
必須入力をすべて指定して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**ASN0527E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、CHGPARMS コマンド入力なしで呼び出されました。**

**説明:**
コマンド・プログラムが、CHGPARMS コマンドで呼び出されましたが、処理するコマンド入力がありませんでした。 コマンド処理は実行されません。

**ユーザーの処置:**
必須入力をすべて指定して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**ASN0528E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: 必須コントロール表** *tableowner.tablename* **が存在しないため、プログラムは終了します。**

**説明:**
キャプチャーまたはアプライ・プログラムが、必要なキャプチャー・コントロール表に対して SQL 操作を実行しようとしました。 プログラムは、DB2 から *not found* 戻りコードを受信しました。 この戻りコードは、マイグレーションが完了していない場合や、必要なキャプチャー・コントロール表が誤って環境からドロップされた場合に発生します。

**ユーザーの処置:**
欠落しているコントロール表の名前については、メッセージ・テキストを参照してください。 この問題に対する訂正アクションは、どの表が欠落しているかによって異なります。 例えば、この表が IBMSNAP_PRUNE_LOCK であれば、単純にこの表を再作成して、キャプチャー・プログラムを再始動できます。 しかし、この表が IBMSNAP_RESTART で、正しい表の内容をリストアできない場合は、表を再作成して、キャプチャー・プログラムをコールド・スタートする必要があります。

---

**ASN0529I** *pgmname* **:** *program_qualifier* **:** *parameter_name* **の値は、始動時にメソッド** *method* **によって** *parameter_value* **に設定されました。**

**説明:**
プログラムが開始され、指定された始動オプションとパラメーター表の既存の内容の組み合わせに基づいて、プログラム・パラメーターが初期化されました。 パラメーターは、デフォルトによる、パラメーター表を変更する、または始動オプションによる、のいずれかの方式で設定されました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0530E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、データベース** *database_name* **にユーザー ID** *user_id* **で接続できませんでした。 SQLCODE は** *sql_code*。

**説明:**
プログラムが次のいずれかの関数を発行したときに、エラーが発生しました。

- DB2 for VSE および VM への CONNECT 関数
- DB2 呼び出し接続機能 (CAF) への CONNECT 関数
- DB2 への暗黙接続

**ユーザーの処置:**
ご使用オペレーティング・システム上の DB2 データベース・マネージャー用のメッセージとコード資料の DB2 コードで、該当する理由コードを参照してください。

DB2 for z/OS エラーの場合は、管理ガイドの中で、呼び出し接続機能について解説しているセクションを参照してください。 質問や診断については、DBA にお問い合わせください。

DB2 for Linux または DB2 for UNIX のもとでプログラムを実行している場合、LIBPATH 環境変数がプログラムの始動時と同じ環境に設定されていることを確認してください。追加情報は、DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションの構成』を参照してください。

---

**ASN0531E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、プランをオープンできませんでした。 SQL 戻りコードは** *return_code*、**理由コードは** *reason_code*、**サブシステム名は** *DB2_subsystem*、**およびプラン名は** *plan_name*。

**説明:**
プログラムがプラン、ASNLPLAN をオープンしようとしたときに、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
適切な理由コードを見つけるには、ご使用オペレーティング・システムの DB2 データベース・マネージャーの、メッセージとコード資料の中の DB2 コードを参照してください。 管理ガイドの中で呼び出し接続機能について解説しているセクションを参照してください。

---

**ASN0532E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: DB2 リリース** *release_number* **はサポートされていません。**

**説明:**
プログラムは、この DB2 のリリースをサポートしていません。

**ユーザーの処置:**
適切な DB2 のリリースでプログラムを実行してください。

---

**ASN0533E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: DB2 は、異常終了しました。**

**説明:**
DB2 は、プログラムがまだアクティブの間に終了しました。

z/OS、VSE/ESA、または VM/ESA に対して、DB2 はプログラムがまだアクティブの間に終了し、ユーザーは NOTERM 呼び出しパラメーターを指定しませんでした。

**ユーザーの処置:**
DB2 を開始して、プログラムを開始してください。

---

**ASN0534E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: DB2** *database* **は、** *state* **状態のため、使用できません。**

**説明:**
DB2 は、プログラムがまだアクティブの間に終了しました。 データベースは、UNDETERMINED、TERMINATED、QUIESCED、ROLLWARD、または ACTIVE のいずれかの状態にあります。

**ユーザーの処置:**
DB2 を開始し、次にプログラムを開始してください。

---

**ASN0535E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、データベース** *db_server* **から切断できませんでした。 戻りコードは** *return_code*、**理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
DB2 への接続を終了する間、プログラムは呼び出し接続機能 (CAF) からエラー・コードを受信しました。

**ユーザーの処置:**
プログラムを再始動してください。

---

**ASN0536E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: インスタンス名を取得中に、エラーが戻されました。 SQLCODE は** *sqlcode*。

**説明:**
DB2 の SQLEGINS API がエラーを戻しました。

**ユーザーの処置:**
エラーを判別するために「DB2 API リファレンス」で SQLEGINS API の詳細情報を参照するか、または IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

---

**ASN0537E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、データベース** *database_name* **に接続できませんでした。戻りコードは** *return_code*、**理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
プログラムが次のいずれかの関数を発行したときに、エラーが発生しました。

- DB2 for VSE および VM への CONNECT 関数
- DB2 呼び出し接続機能 (CAF) への CONNECT 関数
- DB2 への暗黙接続

**ユーザーの処置:**
ご使用オペレーティング・システム上の DB2 データベース・マネージャー用のメッセージとコード資料の DB2 コードで、該当する理由コードを参照してください。

DB2 for z/OS エラーの場合は、管理ガイドの中で、呼び出し接続機能について解説しているセクションを参照してください。 質問や診断については、DBA にお問い合わせください。

DB2 for Linux または DB2 for UNIX のもとでプログラムを実行している場合、LIBPATH 環境変数がプログラムの始動時と同じ環境に設定されていることを確認してください。追加情報は、DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションの構成』を参照してください。

---

**ASN0538I** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは DB2 が始動するのを待機中です。**

**説明:**
プログラムを最初に始動したときに DB2 が停止している場合、プログラムは DB2 が始動するまで待機します。 DB2 の開始後、キャプチャー・プログラムは接続を行って、変更のキャプチャーを開始します。

キャプチャーの呼び出しパラメーターに TERM=N オプションが指定されており、DB2 が順調に停止された場合、キャプチャー・プログラムは DB2 が始動するまで待機します。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0539E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: データベースまたはサブシステム** *database_server_name* **は、LOGRETAIN=RECOVERY で構成されている必要があります。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムはコールドまたはウォーム・スタートを実行しようとしましたが、ログ読み取りインターフェースがキャプチャー・プログラムによって使用されるように、ソース・データベースが正しく定義されていませんでした。 データベース構成パラメーター LOGRETAIN に対して受け入れられる設定は、RECOVERY (または ON としても知られる) です。

**ユーザーの処置:**
コマンドでデータベース構成を更新して、 LOGRETAIN パラメーターの設定を変更してください。 このパラメーターを RECOVERY (または ON) に設定する場合は、このデータベースを任意のアプリケーションと一緒に使用する前に backup コマンドを使用してデータベースをバックアップする必要があることに注意してください。

---

**ASN0540E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、ファイル** *path_filename* **から、パッケージ** *pkg_name* **に対する自動バインド操作を正常に実行できませんでした。SQLSTATE** *sqlstate* **が戻されました。**

**説明:**
プログラムの実行には、バインドまたは再バインドが必要なことを検出しました。プログラムは自動バインドを試行しましたが、自動バインドは成功しませんでした。プログラムは初期化に失敗しました。

**ユーザーの処置:**
対応するデータベース・メッセージをチェックし、自動バインドの失敗の原因に関する追加の詳細情報がないか確認してください。 失敗の原因としては、許可の失敗、コントロール表の欠落や誤り、またはバインド・ファイルがプログラムと一致していないことが考えられます。 状態を訂正して、プログラムを再始動してください。

---

**ASN0541E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラム・パラメーター表** *parms_table* **の列** *column_name* **に対して、誤った値** *column_value* **が指定されました。**

**説明:**
このメッセージは、IBMSNAP_CAPPARMS 表の妥当性検査でパラメーター値の設定の 1 つが無効であることが発見された場合、キャプチャー・プログラムの初期化中に発行されます。 キャプチャー・プログラムは、このエラーにより終了します。

**ユーザーの処置:**

この表で使用できる許可値について、資料を調べてください。 値を訂正して、キャプチャー・プログラムを再始動してください。

---

**ASN0542E** *pgmname* **：** *program_qualifier* **：ロック・タイムアウトまたはデッドロック再試行の最大数に達しました。**

**説明:**
プログラムが内部で、タイムアウトまたはデッドロック状態を複数回試行しました。永続的なロック状態を受け取るプログラム・タスクが重要なもの (ワーカー・スレッドなど) である場合、プログラムは終了します。プログラム・タスクが、整理やモニターなど、重要なものでない場合、タスクは後で再試行され、プログラムはアクティブな状態のままとなります。

**ユーザーの処置:**
対応するデータベース・メッセージをチェックし、ロック競合の原因に関する追加の詳細情報がないか確認してください。 このエラーがユーザーによって保持されたロックなど、ユーザー・エラーである場合は、状態を訂正してください。 この状態が解決されないようであれば、IBM ソフトウェア・サポートまで連絡してください。

---

**ASN0543E** *pgmname* **：** *program_qualifier* **：プログラムは、オブジェクト** *object* **のための** *bytes_number* **バイトのストレージを取得できません。**

**説明:**
プログラムは、必要なメモリー内のストレージ構造のメモリーを取得できません。 プログラムは終了します。

**ユーザーの処置:**
このプログラムに対するメモリー使用量を増やして、プログラムを再始動してください。

---

**ASN0544E** *pgmname* **：** *program_qualifier* **：プログラムは、すでにアクティブです。**

**説明:**
1 つの DB2 サブシステムまたはデータベースに対して複数のキャプチャー・プログラムを開始しようとしました。

**ユーザーの処置:**
スキーマまたは修飾子が正しく指定されていることを確認してください。

- DB2 for z/OS サブシステムの場合、データ共用グループのメンバーであるすべてのサブシステムに対して、キャプチャー・プログラムの 1 つのインスタンスだけを実行するか、または 1 つのスタンドアロン・システム上で、キャプチャー・プログラムの 1 つだけのインスタンスを実行します。 ユニークなリソース名に対する違反を判別するには、ENQ リソースを表示してください。
- その他の DB2 データベース・プラットフォームの場合は、所定のスキーマを使用して、1 つのデータベースごとに 1 つのキャプチャー・プログラムだけを実行します。

---

**ASN0545E** *pgmname* **：** *program_qualifier* **：プログラムは、始動パラメーター PWDFILE で開始されましたが、パスワード・ファイル** *password_file* **が見つかりませんでした。**

**説明:**
プログラムがパスワード・ファイルを見つけられません。 ユーザーは、PWDFILE パラメーターを介してパスワード・ファイル名を指定します。 ユーザーがパス始動パラメーターを指定した場合、パスワード・ファイルはその指定されたディレクトリーにあるはずです。 ユーザーがパス始動パラメーターを指定していない場合、パスワード・ファイルは、プログラムが実行されている現行ディレクトリーにあるはずです。

**ユーザーの処置:**
パスワード・ファイル名が正しく指定されており、正しいディレクトリーに置かれていることを確認してください。

---

**ASN0546W** *pgmname* **：** *program_qualifier* **：自動再始動マネージャーに対するプログラム呼び出しが失敗しました。 呼び出された IXCARM マクロは** *arm_call*、**戻りコードは** *return_code*、**理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
キャプチャーまたはアプライ・プログラムが、自動再始動マネージャー (ARM) に接続できないか、接続を切断できないか、または作動可能状況指示を受信できません。 メッセージは、失敗した呼び出しと、ARM からプログラムに戻された戻りコードまたは理由コードを表示しています。 プログラムは終了しませんが、ARM 処理を続行できません。

**ユーザーの処置:**
この失敗の原因についての詳細は、自動再始動マネージャーの資料を調べてください。

---

**ASN0547I** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: 渡された置換変数の数** *nbr_vars* **は、メッセージ番号** *msg_nbr* **のテキストの中のトークンの数** *nbr_tokens* **と一致しません。**

**説明:**
プログラム・コードとプログラム・メッセージ・ファイルが一致しません。プログラムとメッセージ・ファイル・カタログのリリース・レベルが一致しません。

**ユーザーの処置:**
プログラム・メッセージ・ファイルが、適切なファイル許可設定で、正しくインストールされていることを確認してください。

---

**ASN0548I** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、オペレーター停止コマンドを受信しました。**

**説明:**
この通知メッセージは、プログラムに対して停止コマンドが発行されたことを示しています。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0552E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、SQL エラーを検出しました。 サーバー名は、***server_name***。 SQL 要求は次の通りです。***sql_request***. 表名は** *table_name*。 **SQLCODE は** *sqlcode*。 **SQLSTATE は** *sqlstate*。 **SQLERRMC は** *sql_tokens*。 **SQLERRP は** *error_module*。

**説明:**
キャプチャー、アプライ、モニターのいずれかのプログラムが EXEC SQL ステートメントまたは CLI 呼び出しを発行したときに、ゼロ以外の SQLCODE が戻されました。 この SQLCODE が戻された原因として、スペース不足状態などの調査が必要な DB2 上の問題か、またはDB2 がアプリケーションで使用できないことが考えられます。 このメッセージの後には、この SQLCODE が検出されたときに実行されていたレプリケーションに関する情報を示す、第 2 のメッセージが発行される場合があります。

**ユーザーの処置:**
この SQLCODE の説明と DB2 で実行する必要がある修正アクションについては、ご使用のオペレーティング・システムの DB2 データベース・マネージャーのメッセージとコードの資料を参照してください。 レプリケーションがこのメッセージの直後に他のメッセージを発行した場合、そのメッセージの説明とユーザー応答を参照してください。

---

**ASN0553E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **:** *num_tokens* **置換フィールド** *sub_tokens* **の入ったメッセージ番号** *msg_number* **で、内部エラー** *error_number* **が発生しました。**

**説明:**
*error_number* は 10 進数の内部エラー番号で、以下のように定義されます。

**1** インスタンスが無効です

**2** アクセスが否認されました

**3** ファイルがありません

**4** メッセージがありません

**5** ロケールが無効です

**6** システム・エラー

**7** メモリー不足

*msg_number* は、プログラムが発行しようとしていたメッセージです。 *num_tokens* は、このメッセージに提供される置換トークン (pgmname と program_qualifier トークンは含みません) の数です。 *sub_tokens* は、エラーが発生したメッセージの置換トークンで、コンマで区切られます。

**ユーザーの処置:**
示されたエラー・コードに基づいて可能な修正アクションを実行してください。 例えば、メッセージ・ファイルが見つからなかった場合やアクセスできなかった場合、ファイル名を示すメッセージ ASN0513 も参照してください。 正しい許可を持つメッセージ・ファイルが存在することを確認してください。 エラー・コード 4 が出された場合、メッセージ・ファイルが古い可能性があります。

---

**ASN0554E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、サーバー** *server_name* **で DB2 ログがフルの状態を検出しました。**

**説明:**
プログラムは挿入または更新の処理を試行しましたが、DB2 トランザクション・ログがフルのため、DB2 によって拒否されました。 プログラムは処理を停止します。

**ユーザーの処置:**

データベース・ファイルが入っているファイル・システム上のスペース残量を調べてください。 データベースの構成ファイルの最大ログ・サイズを拡大することを考慮してください。

---

**ASN0555W** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、APF 許可されていないために自動リソース・マネージャー (ARM) に登録できません。**

**説明:**
キャプチャー、アプライ、またはモニターのいずれかのプログラムは、プログラム・ライブラリーが APF 許可されていないため、自動リソース・マネージャーのサービスを使用するための登録ができません。

**ユーザーの処置:**
キャプチャー、アプライ、またはモニターのいずれかのプログラムを自動リソース・マネージャーに登録する場合は、プログラム・ライブラリーを APF 用に許可し、プログラムを再始動してください。

---

**ASN0556E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: 無効な登録が検出されました。 CD 表** *phys_chg_owner.phys_chg_tbl* **は、基本表** *source_owner.source_table* **に一致する列を持っていません。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは登録の初期化を試行して、CD 表がソース表と一致する列を持っていないことを発見しました。 この登録に対して何もキャプチャーできないため、無効であると考えられます。この登録 (IBMSNAP_REGISTER) 表の STOP_ON_ERROR 列が N に設定されている場合、この登録は非アクティブ状態のままとなります。そうでない場合は、キャプチャー・プログラムが停止します。

**ユーザーの処置:**
CD 表に、この登録のソース表と一致する列が少なくとも 1 つあることを確認してください。

---

**ASN0557E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: ソース表** *source_owner.source_table* **付きの** *owner.table* **の列** *column_name* **の値** *column_value* **は無効です。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムが登録の初期化を試行し、その IBMSNAP_REGISTER 表で、列に無効な値を検出しました。

**ユーザーの処置:**
エラーになっている列の値を訂正してください。 有効な値については、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションの表構造』を参照してください。

---

**ASN0558E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: パラメーター表** *parameter_table* **は、プログラム修飾子** *program_qualifier* **に対応する 1 行だけを持つことができます。**

**説明:**
プログラム・パラメーター表が正しく定義されなかったか、または無効な行を使って更新されました。

**ユーザーの処置:**
*program_qualifier* に対応する行が、パラメーター表に 1 行しか存在しないことを確認してください。 パラメーター表が、そのプログラム修飾子に対するユニーク索引を持っていることを確認してください。 詳細は、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターのレプリケーションの表構造に関する資料を参照してください。

---

**ASN0559W** *pgm_name* **:** *program_qualifier* **: ジョブを CPU 時間制限** *xx* **秒で開始しました。 プログラムは、時間制限が切れた時点で終了します。**

**説明:**
**z/OS のみ。** ジョブを CPU 時間制限 *xx* 秒で開始しました。 プログラムは、時間制限が切れた時点で終了します。

**ユーザーの処置:**
プログラムの実行を続行するには、現行ジョブを取り消してください。 新規のジョブ制限として、 NOLIMIT または 1440 を指定して、ジョブを再サブミットしてください。

---

**ASN0560E** *pgm_name* **:** *program_qualifier* **: プログラムは** *db_object object_name* **をデータベース** *db_name* **に作成できません。**

**説明:**
プログラムはデータベースにデータベース・オブジェクトを作成できません。データベース・オブジェクトは、サーバー・コントロール表と同じオブジェクトの表スペースに作成されています。

**ユーザーの処置:**
このエラー・メッセージに関連する SQL エラー・コードを確認して、適切なアクションを取ってください。

---

**ASN0561W** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムのアプリケーションのコード・ページ** *application_code_page* **が、データベース** *database_name* **のコード・ページ** *database_code_page* **と同じではありません。**

**説明:**

**Linux、UNIX、Windows、および System i の場合:** キャプチャー・プログラムのアプリケーション・コード・ページが、ソース・データベースのコード・ページと異なります。この 2 つのコード・ページの間に互換性がないかぎり、このような相違が原因で、キャプチャー・プログラムがデータを CD 表に挿入したときにデータの破壊または想定外のエラーが発生することがあります。

**ユーザーの処置:**

コード・ページに互換性がある場合には、アクションは不要です。 互換性がない場合、キャプチャー・プログラムを停止し、アプリケーションのコード・ページを、データベースのコード・ページに変更してから、キャプチャー・プログラムを再始動してください。

---

**ASN0562E** *pgmname*:*program_qualifier*: **プログラムが既に稼働中かどうか確認中にエラーが発生しました。戻りコードは** *return_code*。 **エラー・メッセージは***error_message*。 **操作は** *operation*。

**説明:**

プログラムがすでに稼働中かどうか確認中にエラーが発生しました。 以下は、有効な戻りコードの値です。

**1** Windows で、セマフォーの作成中にプログラムがエラーを検出しました。

**2** UNIX では、HOME 環境変数が見つかりませんでした。

**3** mkdir コマンドは HOME/sqllib ディレクトリーの作成中に失敗しました。

**4** mkdir コマンドは HOME/sqllib/dpropr ディレクトリーの作成中に失敗しました。

**5** fgets 操作が、 pid ファイルから行を読み取ることができませんでした。

**6** ps コマンドが失敗しました。

**7** grp ファイルの除去中にエラーが発生しました。

**8** grp ファイルの読み取り中にエラーが発生しました。

**9** pid ファイルのオープン中にエラーが発生しました。

**10** pid ファイルに対する fput コマンドがエラーで終了しました。

**ユーザーの処置:**

説明の中の理由コードを調べ、以下のオプションを指定して応答してください。

**1** これは Windows の内部エラーです。 Windows の解説書を参照してください。

**2** UNIX では、HOME 環境変数が正しい値に設定されていることを確認してください。

**3-10** HOME パスでディレクトリーおよびファイルを作成する正しい許可があるかどうか確認してください。

---

**ASN0563W** *pgmname*:*program_qualifier*: **パラメーター** *parameter-1* **は、パラメーター** *parameter-2* **と互換性がありません。パラメーター** *parameter-2* **は無視されます。**

**説明:**

プログラムは、コマンドあるいはパラメーター表で指定された両方のパラメーターで開始しました。 これらのパラメーターに互換性はありません。 プログラムが開始済みで実行を継続した場合、1 つのパラメーターが無視されます。

**ユーザーの処置:**

次回プログラムを開始するときは、プログラムが使用するパラメーターだけを指定してください。

---

**ASN0564I** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: プログラムは、コントロール表** *control_table_name* **上で** *sql_request* **操作を行って、スキーマ、所有者、および表の長い名前をサポートすることができませんでした。 サーバー名は、***server_name*。 **SQLCODE は** *sqlcode*。 **SQLSTATE は** *sqlstate*。 **SQLERRMC は** *sql_token*。 **SQLERRP は** *module_name*。

**説明:**

キャプチャー、アプライ、またはモニター・コントロール表は、バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステム上で定義されます。 コントロール表には、スキーマ、所有者、および表の長い名前をサポートしない列も含まれます。 プログラムは、スキーマ、所有者、および表の長い名前をサポートするようにコントロール表を変換しようとしましたが、その操作は成功しませんでした。 レプリケーション・プログラムは実行を続行します。

**ユーザーの処置:**
DB2 for z/OS の「メッセージおよびコード」資料を参照し、SQLCODE の説明および、 DB2 で取るべき可能性のある訂正アクションの情報を調べてください。
SQLCODE が -551 である場合には、以下のいずれかを行ってください。

- キャプチャー、アプライ、またはモニター・プログラムを開始するユーザー ID に対し、コントロール表での ALTER 特権を付与します。
- AASNSAMP member(ASNM2V8) を実行し、すべてのレプリケーション・コントロール表がスキーマ、所有者、および表の長い名前をサポートするように、ALTER を実行します。

---

**ASN0565E** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムは統計を表** *table_name* **中に挿入できません。 SQL 戻りコードは** *sqlcode* **です。このインターバルのデータはスキップされ、次のインターバルに組み込まれます。**

**説明:**
プログラムは活動に関する統計を保守しますが、予期しない SQL コードのためにこのデータを表に保管できませんでした。プログラムは、次のインターバルにデータの挿入を再試行します。

**ユーザーの処置:**
SQL 戻りコードが一時エラーを示している場合は、アクションは不要です。それ以外の場合、DB2 インフォメーション・センターの中の、SQL エラーに対して指示されている処置をとってください。

---

**ASN0566E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 表** *table_name* **の整理が、 SQL 戻りコード** *sqlcode* **で失敗しました。**

**説明:**
整理が想定外の SQL エラー・コードで失敗しました。このエラーによってプログラムが終了することはありません。次の整理のインターバルか、またはプログラムの再始動時に、プログラムは表の整理を再試行します。

**ユーザーの処置:**
SQL 戻りコードが一時エラーを示している場合は、アクションは必要ありません。それ以外の場合、DB2 インフォメーション・センターの中の、SQL エラーに対して指示されている処置をとってください。

---

**ASN0567I** *program_name* **:** *program_identifier* **:** *number* **行が表** *table_name* **から整理されました。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN0568E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 文字データをコード・ページ** *code_page* **から変換する際に、ICU エラーが発生しました。 ICU 関数は** *function_name* **であり、CCSID** *CCSID* **のコンバーターを使用しています。 ICU 戻りコードは、***return_code* **です。見込まれていた ICU バージョンは** *version_number* **です。詳細:** *details*。

**説明:**
非互換バージョンの ICU (International Components for Unicode) が検出されました。 ICU 関数は ICU API 名です。この API から戻りコードが戻されました。 ICU 操作に関する詳細は、Q キャプチャー・プログラムに備えられています。

**ユーザーの処置:**
ICU のバージョンが正しいことを確認し、プログラムの再始動を試行してください。

---

**ASN0569E** *program_name* **:** *program_identifier* **: このプログラムが内部エラー** *error_code* **を検出しました。**

**説明:**
プログラムで想定外のエラーが発生しました。プログラムは終了します。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

---

**ASN0571E** *program_name* **:** *program_identifier* **: パラメーター表** *table_name* **が空か複数の行が含まれているので、プログラムを開始できません。**

**説明:**
プログラム・パラメーター表の行数は 1 行でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
プログラムを開始する前に、レプリケーション管理ツールを使用し、パラメーター表の内容を再定義して、1 行だけ含まれるようにしてください。

**ASN0572I** *program_name* **:** *program_identifier* **:** *version* **プログラムは正常に初期化されました。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN0573I** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムが停止されました。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN0574E** *program_name* **:** *program_identifier* **: WebSphere MQ キュー・マネージャー** *queue_manager_name* **が使用できないか、または開始されませんでした。プログラムは終了します。**

**説明:**
プログラムを WebSphere MQ キュー・マネージャーに接続できません。このエラーにより、プログラムは終了します。

**ユーザーの処置:**
プログラムを実行する前に、 WebSphere MQ キュー・マネージャーが正常に開始されていることを確認してください。

---

**ASN0575E** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムが、キュー** *queue_name* **で WebSphere MQ コマンド** *command* **を発行した際に、WebSphere MQ エラー** *reason_code* **を検出しました。**

**説明:**
プログラムが WebSphere MQ コマンドを発行した際に、ゼロ以外の WebSphere MQ 理由コードが戻されました。この理由コードは、 WebSphere MQ の問題 (ストレージを WebSphere MQ オブジェクト用に使用できないなど) があるか、または WebSphere MQ を使用できないことを示しています。

ERROR_ACTION 値は、このエラーによるプログラムの動作を判別します。 Q キャプチャー・プログラムの値は IBMQREP_SENDQUEUES 表に保管されます。 Q アプライ・プログラムの値は IBMQREP_TARGETS 表に保管されます。

**ユーザーの処置:**
この WebSphere MQ 理由コードの説明と、行う必要のあるアクションに関する情報は、「WebSphere MQ Application Programming Reference」中の理由コードの資料を参照してください。

---

**ASN0576E** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムは WebSphere MQ キュー** *queue_name* **にアクセスできません。**

**説明:**
コントロール表中にキューが存在しないか、または指定が誤っています。プログラムは、このエラーの結果として終了します。

**ユーザーの処置:**
キュー名がコントロール表中で正しく指定されていることと、アプリケーション・プログラムにアクセスできることを確認してください。キューが存在しない場合は作成してください。

---

**ASN0580E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 製品** *product_name* **のライセンスが見つかりませんでした。**

**説明:**
プログラムはライセンスなしで実行できないので終了しました。

**ユーザーの処置:**
プログラムのライセンスをインストールするか、または IBM 担当員に連絡してください。

---

**ASN0581W** *program_name* **:** *program_identifier* **: リカバリー可能リソース・マネージャー・サービス (RRS) が開始されていないために、プログラムは** *name* **への接続を初期化できませんでした。プログラムは代わりに、呼び出し接続機能 (CAF) の使用を試行します。**

**説明:**
RRS/AF を使用する場合は、最初に識別要求を発行する必要があります。z/OS の RRS サービスが開始されていないために、要求は失敗しました。

**ユーザーの処置:**
プログラムは CAF を使用して正しく実行されるため、アクションは不要です。ただし、プログラムで RRS/AF を使用する場合は、最初に RRS を開始してからプログラムを再始動しておく必要があります。

---

**ASN0582I** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムが、オペレーター・コマンドにより中断されました。**

**説明:**
オペレーター・コマンドがプログラムを中断したため、プログラムは待ち状態に入りました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

**ASN0583I** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムが、オペレーター・コマンドにより再開されました。**

**説明:**
オペレーター・コマンドが中断状態からプログラムを再開し、プログラムが実行を続けました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

**ASN0584E** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムが WebSphere MQ ライブラリー** *library_name* **を動的にロード中にエラーが発生しました。エラー・コード:** *error_code*、 *error_description*。**環境変数 ASNUSEMQCLIENT は** *value* **に設定されています。**

**説明:**
WebSphere MQ ライブラリーの動的ロードの試行中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
環境変数 ASNUSEMQCLIENT が TRUE に設定される場合、WebSphere MQ クライアント・ライブラリーが使用されます。TRUE に設定されない場合は WebSphere MQ サーバー・ライブラリーが使用されます。環境変数 ASNUSEMQCLIENT が設定されない場合にもサーバー・ライブラリーが使用されます。サーバー構成が使用される場合、ローカル・ホストで WebSphere MQ サーバーを稼働させてください。クライアント構成が使用される場合、このホストとサーバーが稼働しているリモート・ホストの間で通信が行えるようにしてください。

デフォルトのロケーションに WebSphere MQ をインストールしなかった場合、ライブラリー・パス変数 (例えば AIX では LIBPATH、SUN OS では LD_LIBRARY_PATH、HPUX では SHLIB_PATH、Windows では PATH) が、インストールされた正しいパスを指しているか確認してください。複数バージョンの WebSphere MQ がある場合、変数が正しいバージョンを指しているか確認してください。

**ASN0585I** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムは、WebSphere MQ ライブラリー** *library_name* **を正常にロードしました。. 環境変数 ASNUSEMQCLIENT は** *value* **に設定されています。**

**説明:**
WebSphere MQ ライブラリーの動的ロードは正常に行われました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

**ASN0586E** *program_name* **:** *program_identifier*。 **プログラムが動的にロードしたライブラリーから** *function_name* **の関数アドレスを取得中に、エラーが発生しました。 エラー・コード** *error_code*、*error_description*。

**説明:**
指定された WebSphere MQ API コマンドの関数アドレスの検索中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
このエラーはよく、WebSphere MQ の API シグニチャーに違いがある場合に発生します。正しいバージョンの WebSphere MQ サーバーまたはクライアント、およびそのライブラリーを使用しているかどうか確認してください。環境変数 ASNUSEMQCLIENT が TRUE に設定される場合、クライアント・ライブラリーが使用されます。TRUE に設定されない場合は サーバー・ライブラリーが使用されます。環境変数 ASNUSEMQCLIENT が設定されない場合にも WebSphere MQ サーバー・ライブラリーが使用されます。サーバー構成が使用される場合、ローカル・ホストで WebSphere MQ サーバーを稼働させてください。クライアント構成が使用される場合、このホストとサーバーが稼働しているリモート・ホストの間で通信が行えるようにしてください。

デフォルトのロケーションに WebSphere MQ をインストールしなかった場合、ライブラリー・パス変数 (例えば AIX では LIBPATH、SUN OS では LD_LIBRARY_PATH、HPUX では SHLIB_PATH、Windows では PATH) が、インストールされた正しいパスを指しているか確認してください。複数バージョンの WebSphere MQ がある場合、変数が正しいバージョンを指しているか確認してください。

**ASN0587I** *program_name* **:** *program_identifier* **スレッドは、WebSphere MQ キュー・マネージャーとの接続を再試行中です。**

**説明:**

WebSphere MQ キュー・マネージャーは現在使用できません。スレッドは接続を再試行中です。

**ユーザーの処置:**
WebSphere MQ キュー・マネージャーがアクティブになっていない場合は再始動してください。

---

**ASN0588I** *program_name* **:** *program_identifier* **プログラムは、データベース** *database_name* **への接続を試行中にタイムアウトになりました。**

**説明:**
このメッセージは、プログラムの初期化中に、プログラムが自身のコントロール表を使用してサーバーに接続できない場合に発行されます。プログラムはシャットダウンします。

**ユーザーの処置:**
データベース・メッセージを確認してください。プログラムがデータベース接続を確立できなかった理由が示されている可能性があります。質問や診断については、データベース管理者にお問い合わせください。

---

**ASN0589I** *program_name* **:** *program_identifier* **プログラムは、ルーチン** *routine* **から、予期しない戻りコード** *return code* **を受け取りました。**

**説明:**
プログラムは、自身のルーチンの 1 つから、予期しない戻りコードを受け取りました。戻りコードが、エラーの原因の判別に役立つことがあります。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。このメッセージがエラー・メッセージとともに表示される場合は、そのメッセージが含まれるプログラムのログ・ファイルを調べてください。

---

**ASN0590I** *program_name* **:** *program_identifier* **スレッド** *thread_name* **は、終了スレッド** *thread_name* **から、戻りコード** *return_code* **を受け取りました。**

**説明:**
プログラムは、自身のスレッドの 1 つを停止したときに、この戻りコードを受け取りました。最も一般的なスレッド終了戻りコードを、以下に示します。

**0** スレッドは正常に停止しました。理由コードはありません。

**2001** スレッドは、停止コマンドまたは停止シグナルにより停止させられました。

**2009** スレッドは、リカバリー・マネージャーにより停止させられました。

**2010** スレッドは、リカバリー・マネージャー再帰呼び出しにより停止させられました。

**2011** スレッドは、エラーが原因ではなく自身で停止しました。

**2012** スレッドは、エラーが原因で停止しました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。このメッセージがエラー・メッセージとともに表示される場合は、そのメッセージが含まれるプログラムのログ・ファイルを調べてください。

---

**ASN0591I** *program_name* **:** *program_identifier* **スレッド** *thread_name* **は、***action* **シグナル** *signal_name* **を受信しました。**

**説明:**
スレッドは、スレッドがシャットダウンする前にこのシグナルを受信しました。ACTION パラメーター値は、扱われる場合と扱われない場合があります。スレッド・リカバリー機能は、予期しているシグナルを扱い、予期していないシグナルは扱いません。 HoldLThread は通常、初期スレッドが HoldLThread をシャットダウンする前に SIGUSR2 シグナルを受信します。他のレプリケーション・スレッドは、それが初期スレッドにより終了させられる場合に SIGUSR1 シグナルを受信します。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。このメッセージがエラー・メッセージとともに表示される場合は、そのメッセージが含まれるプログラムのログ・ファイルを調べてください。

---

**ASN0592I** *program_name* **:** *program_identifier* **プログラムは、キーが** *key_values* **の IPC キューにアタッチしました。**

**説明:**
プログラムは、IPC コマンド・メッセージ・キューにアタッチしました。レプリケーション・コマンド・プログラムは、メッセージ・キューを使用することで、操作対象のプログラムと通信を行います。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN0593I** *program_name* **:** *program_identifier* **プログラムは、キーが** *key_values* **の IPC キューからデタッチしました。**

**説明:**

プログラムは、IPC コマンド・メッセージ・キューからデタッチしました。レプリケーション・コマンド・プログラムは、メッセージ・キューを使用することで、操作対象のプログラムと通信を行います。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN0594I** *program_name* **:** *program_identifier* **プログラムは、キーが** *key_values* **の IPC キューを作成しました。**

**説明:**
プログラムは、IPC コマンド・メッセージ・キューを作成しました。レプリケーション・コマンド・プログラムは、メッセージ・キューを使用することで、操作対象のプログラムと通信を行います。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN0595I** *program_name* **:** *program_identifier* **プログラムは、キーが** *key_values* **の IPC キューを除去しました。**

**説明:**
プログラムは、プログラムの初期化中または終了中に、IPC コマンド・メッセージ・キューを除去しました、レプリケーション・コマンド・プログラムは、メッセージ・キューを使用することで、操作対象のプログラムと通信を行います。レプリケーション・プログラムは、開始するたびに新規メッセージ・キューを作成します。メッセージ・キューが存在する場合は除去し、新しいものを作成します。レプリケーション・プログラムは、シャットダウンするたびにメッセージ・キューの除去を試行します。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN0596I** *program_name* **:** *program_identifier* **プログラムは、パス** *path_name* **用の、キーが** *key_values* **の IPC キューを作成できませんでした。OSSE 理由は、** *reason* **です。**

**説明:**
プログラムは、自身の IPC コマンド・メッセージ・キューを作成できません。レプリケーション・コマンド・プログラムは、メッセージ・キューを使用することで、操作対象のプログラムと通信を行います。レプリケーション・プログラムは、開始するたびに新規メッセージ・キューの作成を試行します。メッセージ・キューが存在する場合は、除去して新しいものを作成しようとします。

**ユーザーの処置:**
理由が「指定されたリソース ID の共有メモリー ID がすでに存在します」の場合は、以下のステップを実行して、ファイルとそれに関連したメッセージ・キューを手動で除去してください。

1. キー値をメモします。キー値は次のようなものです。

   ```
   (0x300667f7, 0x310667f7, 0x320667f7)
   ```

2. レプリケーション・プログラムを開始するときに使用されたユーザー ID を使って、サーバーにログインします。
3. ASN0594I メッセージに含まれるキーごとに、次のコマンドを入力します。

   ```
   ipcs grep | 0x300667f7
   ```

   キーが見つかったら、その IPC リソース・タイプ、ID、および所有者をメモします。 UNIX および z/OS サーバーでは、IPC リソース・タイプ (m、q、または s) は IPCS 出力の最初の列にあります。LINUX サーバーでは、IPC リソース・タイプはヘッダー行で識別できます。
4. キーが見つからない場合は、スーパーユーザー ID を使用してサーバーにログインし、キーごとに前のステップ 3 の IPCS コマンドを入力します。
5. 上記のステップで見つかった IPC リソースを所有するユーザー ID を使用して、サーバーにログインします。キーが共有メモリー・セグメントを示す場合は、次のコマンドを入力してその共有メモリー・セグメントを除去します。

   ```
   ipcrm -m ID
   ```

   キーがセマフォーを示す場合は、次のコマンドを入力してそのセマフォーを除去します。

   ```
   ipcrm -s ID
   ```

   キーがメッセージ・キューを示す場合は、次のコマンドを入力してそのメッセージ・キューを除去します。

   ```
   ipcrm -q ID
   ```

6. PATHNAME パラメーター値で指定されるファイルを所有するユーザー ID を使用して、サーバーにログインします。例えば次のようにコマンドを入力して、そのファイルを除去します。

   ```
   rm /tmp/dpropr5.SRCDB.TIMING03.APP.IPC
   ```

**ASN0597I** *program_name* **:** *program_identifier* **プログラムは、パス** *path_name* **用の、キーが** *key_values* **の IPC キューにアタッチできませんでした。 OSSE 理由は、***reason* **です。**

**説明:**
プログラムは、レプリケーション IPC コマンド・メッセージ・キューにアタッチできません。レプリケーション・コマンド・プログラムは、メッセージ・キューを使用することで、操作対象のプログラムと通信を行います。メッセージ・キューを所有していたプログラムが実行されていない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN0598W** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムはデータベース** *database_name* **に接続しましたが、1 バイト文字しかサポートされません。 SQLCODE は +863 です。**

**説明:**
サーバー・データベースおよびクライアント・アプリケーションは異なる言語タイプのコード・ページを使用しており、7 ビットの ASCII 範囲外の文字はいずれも保証できないことを DB2 は示しました (SQLCODE +863)。

**ユーザーの処置:**
使用されているオペレーティング・システムおよびデータベース・マネージャーのコード・ページが正しく構成されているか確認してください。 SQLCODE +863 について詳しくは、「*DB2 メッセージ・リファレンス 第 2 巻* 」を参照してください。

---

**ASN0599E** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムはサポートされないアーキテクチャー・レベル** *bad_arch_level* **を検出しました。 サポートされるレベルは** *good_arch_level* **のみです。**

**説明:**
Q レプリケーション・プログラムの製品レベルは、指定されたプログラム ID のコントロール表のものと異なります。プログラムはこれを、IBMQREP_APPLYPARMS 表または IBMQREP_CAPPARMS 表の ARCH_LEVEL 列に設定されるアーキテクチャー・レベルを検査することによって判別します。

**ユーザーの処置:**
プログラムの開始時に正しいデータベース別名を指定したか確認してください。レプリケーション・コントロール表がプログラムよりも古い場合、表をプログラムと同じ製品レベルにマイグレーションしてください。

---

**ASN0600I** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラム** *program_name-version* **は開始中です。**

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN0601I** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムはパス** *path* **のキー** *keys* **を使用して IPC キューにメッセージを送信できませんでした。 エラー・コードは** *error_code* **です。**

**説明:**
プログラムは、レプリケーション IPC コマンド・メッセージ・キューに送信できません。レプリケーション・コマンド・プログラムは、メッセージ・キューを使用することで、操作対象のプログラムと通信を行います。メッセージ・キューを所有していたプログラムがもはや実行されていない可能性があります。

このメッセージはエラー・メッセージ ASN0508E への追加メッセージとして発行され、これには追加の診断情報を提供するエラー・コードが含まれます。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN0602I** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムはパス** *path* **のキー** *keys* **を使用してその IPC キューからメッセージを読み取れませんでした。 エラー・コードは** *error_code* **です。**

**説明:**
プログラムは IPC コマンド・メッセージ・キューからメッセージを読み取れません。レプリケーション・コマンド・プログラムは、メッセージ・キューを使用することで、操作対象のプログラムと通信を行います。メッセージ・キューを所有していたプログラムがもはや実行されていない可能性があります。

このメッセージはエラー・メッセージ ASN0508E への追加メッセージとして発行され、これには追加の診断情報を提供するエラー・コードが含まれます。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN0603E** *program_name* **：** *program_identifier* **：アクティブの Q サブスクリプションが存在するものの、WebSphere Replication Server のライセンスが検出されませんでした。**

**説明:**
アクティブの Q サブスクリプションは存在するものの、レプリケーションのライセンスが検出されなかったため、Q キャプチャー・プログラムは終了しました。この状況の発生理由として、以下が考えられます。

- プログラムがバージョン 8 からバージョン 9 にマイグレーションされ、バージョン 9 のライセンスがインストールされなかった。
- 試してから購入ライセンスの有効期限が切れている。

**ユーザーの処置:**
WebSphere Replication Server のライセンスをインストールしてください。

---

**ASN0604E** *program_name* **：** *program_identifier* **：アクティブな発行が存在するものの、WebSphere Event Publisher のライセンスが検出されませんでした。**

**説明:**
アクティブの発行は存在するものの、イベントの発行のライセンスが検出されなかったため、Q キャプチャー・プログラムは終了しました。この状況の発生理由として、以下が考えられます。

- プログラムがバージョン 8 からバージョン 9 にマイグレーションされ、バージョン 9 のライセンスがインストールされなかった。
- 試してから購入ライセンスの有効期限が切れている。

**ユーザーの処置:**
発行を活動化する前に、WebSphere Event Publisher のライセンスをインストールし、Q キャプチャーを再始動します。

---

**ASN0605E** *program_name* **：** *program_identifier* **：WebSphere Replication Server のライセンスと WebSphere Event Publisher のライセンスのどちらも検出されませんでした。**

**説明:**
有効なライセンスが検出されなかったため、Q キャプチャー・プログラムは終了しました。この状況の発生理由として、以下が考えられます。

- ライセンスのインストールが 1 度も行われていない。
- プログラムがバージョン 8 からバージョン 9 にマイグレーションされ、バージョン 9 のライセンスがインストールされなかった。
- 試してから購入ライセンスの有効期限が切れている。

**ユーザーの処置:**
WebSphere Event Publisher のライセンスをインストールし、Q キャプチャーによって発行の処理が行われるようにしてください。 WebSphere Replication Server のライセンスをインストールし、Q キャプチャーによって Q サブスクリプションの処理が行われるようにしてください。

---

**ASN0606I** *program_name* **：** *program_identifier* **：プログラムは、ライブラリー** *library_name* **を正常にロードしました。**

**説明:**
このメッセージは、レプリケーション・プログラムが正常に開始された後に表示されます。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0607E** *program_name* **：** *program_identifier* **：ライブラリー** *library_name* **をロードできません。エラー・コードは** *error_code* **です。エラー・メッセージは** *error_message* **です。**

**説明:**
プログラムがレプリケーション・ライブラリーのロード中にエラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
指定したパスにライブラリーが存在していることを確認してください。

---

**ASN0608I** **レプリケーション・コードは ″64″ ビットを使用します。通知トークンは ″DB2 v9.1.0″、″n060704″、″WR21350″、およびフィックスパック ″1″ です。 DB2 インスタンス・パスは ″/home/inst1/sqllib″ です。レプリケーション・パスは ″/home/inst9/sqllib″ です。**

**説明:**
このメッセージは asnlevel プログラムを呼び出した後に現れます。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN0609W** *program_name* **:** *program_identifier* **: WebSphere Event Publisher のライセンスが検出されませんでした。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムはレプリケーションのライセンスを検出しましたが、イベントの発行のライセンスは検出しませんでした。アクティブの発行が検出されなかったため、Q キャプチャー・プログラムは終了しません。 Q キャプチャーは新規発行を活動化できません。

**ユーザーの処置:**
発行を作成して活動化する計画の場合、WebSphere Event Publisher のライセンスをインストールしてください。

---

**ASN0610W** *program_name* **:** *program_identifier* **: WebSphere Replication Server のライセンスが検出されませんでした。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムはイベントの発行のライセンスを検出しましたが、レプリケーションのライセンスは検出しませんでした。アクティブの Q サブスクリプションが検出されなかったため、Q キャプチャー・プログラムは終了しません。 Q キャプチャーは新規 Q サブスクリプションを活動化できません。

**ユーザーの処置:**
Q サブスクリプションを作成して活動化する計画の場合、WebSphere Replication Server のライセンスをインストールしてください。

---

**ASN0612E** *program_name* **:** *program_identifier* **: WebSphere Event Publisher のライセンスが検出されなかったため、発行** *publication_name* **は活動化されませんでした。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムはイベントの発行のライセンスを検出しない場合、発行を活動化しません。 Q キャプチャー・プログラムは終了しません。この状況の発生理由として、以下が考えられます。

- イベントの発行のライセンスのインストールが 1 度も行われていない。
- プログラムがバージョン 8 からバージョン 9 にマイグレーションされ、バージョン 9 のイベントの発行のライセンスがインストールされなかった。
- 試してから購入ライセンスの有効期限が切れている。

**ユーザーの処置:**
WebSphere Event Publisher のライセンスをインストールしてください。

---

**ASN0613E** *program_name* **:** *program_identifier* **: WebSphere Replication Server のライセンスが検出されなかったため、Q サブスクリプション** *Q_subscription_name* **は活動化されませんでした。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムはレプリケーションのライセンスを検出しない場合、Q サブスクリプションを活動化しません。 Q キャプチャー・プログラムは終了しません。この状況の発生理由として、以下が考えられます。

- レプリケーションのライセンスのインストールが 1 度も行われていない。
- プログラムがバージョン 8 からバージョン 9 にマイグレーションされ、バージョン 9 のレプリケーションのライセンスがインストールされなかった。
- 試してから購入ライセンスの有効期限が切れている。

**ユーザーの処置:**
WebSphere Replication Server のライセンスをインストールしてください。

---

**ASN0614E** *program_name* **:** *program_identifier* **: WebSphere Replication Server のライセンスが検出されませんでした。**

**説明:**
有効なライセンスが検出されなかったため、Q アプライ・プログラムは終了しました。この状況の発生理由として、以下が考えられます。

- ライセンスのインストールが 1 度も行われていない。
- プログラムがバージョン 8 からバージョン 9 にマイグレーションされ、バージョン 9 のライセンスがインストールされなかった。
- 試してから購入ライセンスの有効期限が切れている。

**ユーザーの処置:**
WebSphere Replication Server のライセンスをインストールしてください。

---

**ASN0615E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 以下のライブラリーのいずれかから関数を動的にロードできなかったため、プログラムは動的関数** *function_name* **を呼び出すことができませんでした:** *libraries*。

**説明:**
プログラムは、ダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL) 関数を呼び出そうとしましたが、その関数を使用してライブラリーをロードできなかったか、あるいはロ

ードされたライブラリーからその関数アドレスを解決できなかったため、呼び出すことができませんでした。

**ユーザーの処置:**
ライブラリーが存在していて、z/OS オペレーティング・システム上の STEPLIB に指定されているか、あるいは Linux®、UNIX、または Windows® システムに固有のライブラリー・パス環境変数に指定されていることを確認してください。

---

**ASN0616E** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムは、以下のダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL) をロードできません :** *libraries*。**プログラムがロードしようとしたすべての DLL のオペレーティング・システムのエラー番号は** *error_number* **です。**

**説明:**
プログラムは、リストされているダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL) をロードしようとしましたが、リストされているオペレーティング・システム・エラーを受け取りました。

**ユーザーの処置:**
オペレーティング・システム・エラーを訂正して、プログラムを始動してください。

---

**ASN0617E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 関数** *function_name* **は、ダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL)** *library_name* **からエクスポートされませんでした。 OSSe (Operating System Service Everywhere) 戻りコードは** *return_code* **です。 OSSe 戻りコードの説明は** *description* **です。**

**説明:**
プログラムは、リストされた DLL が関数をエクスポートしなかったため、その DLL 内の関数のアドレスを解決できませんでした。

**ユーザーの処置:**
リストされた DLL を STEPLIB から除去して、プログラムが異なるバージョンで DLL を試行できるようにしてください。

---

**ASN0618W** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムは、コード化文字セット ID (CCSID)** *identifier* **から CCSID** *identifier* **への変換に Unicode Conversion Services (UCS) を使用できません。 UCS 戻りコードは** *return_code* **です。UCS 理由コードは** *reason_code* **です。**

**説明:**
プログラムは、UCS を使用してリストされた CCSID 間でデータを変換することができませんでした。プログラムは、International Components for Unicode (ICU) 文字セットを使用して変換を試行します。

**ユーザーの処置:**
UCS および ICU のどちらも変換に使用できない場合は、必要なステップに従って、リストされた CCSID に対して UCS または ICU のいずれかを有効にしてください。

---

**ASN0619W** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムは、コード化文字セット ID (CCSID)** *identifier* **から CCSID** *identifier* **へデータを変換するために Unicode Conversion Services (UCS) または International Components for Unicode (ICU) を使用できません。**

**説明:**
プログラムは、UCS および ICU の両方を使用して、リストされた CCSID 間でデータを変換しようとしましたが、どちらのメソッドも変換に使用できませんでした。

**ユーザーの処置:**
必要なステップに従って、リストされた CCSID に対して UCS または ICU のいずれかを有効にしてください。

---

**ASN0620E** *program_name* **:** *program_identifier* **: このプログラム・ログの読み取りは、理由コード** *reason_code* **で失敗しました。 読み取れなかったログ・レコードには、ログ・シーケンス番号 (LSN)** *lsn* **が付いていて、これは表** *table_name* **のものです。**

**説明:**
レプリケーション・キャプチャー・プログラムは、表のログ・レコードの取得中に、データベース・ログ読み取り API からエラーを受け取りました。

**ユーザーの処置:**
理由コードを使用して、データベース・ログの読み取りエラーを判別してください。データベースから発行されたメッセージを見つけ出し、その後続のキャプチャー・メッセージを調べて、エラーに関する詳細を確かめてください。

**ASN0621E** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムは、表** *table_name* **のログ・レコードを読み取れませんでした。行の内容をエンコードするのに使用された編集ルーチン (EDITPROC) を、行内容のデコードのために DB2 から呼び出せなかったからです。**

**説明:**
EDITPROC 定義を持った表が、レプリケーションでサポートされます。データベース・ログ読み取り API は、EDITPROC を呼び出して行内容をデコードしてから、それをレプリケーション・キャプチャー・プログラムに戻します。このAPI は、EDITPROC を使用して行内容をデコードできませんでした。指定されているエラー・アクション・オプションに応じて、キャプチャーはサブスクリプションまたは登録を停止または非活動化します。

**ユーザーの処置:**
ログ読み取り API が、EDITPROC を使用して行内容をデコードできなかった理由を判別してください。エラーに関するその他の詳細を示していると考えられるメッセージをデータベースで見つけ出してください。

---

**ASN0622e** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムはデータベース** *database_name* **に接続されていません。現行のサーバーは** *current_server* **です。**

**説明:**
プログラムは明示的にデータベース・サーバーに接続しましたが、そのデータベース・サーバーは接続の実行後に現行のサーバーではありませんでした。

**ユーザーの処置:**
エラーに関するその他の詳細を示していると考えられるデータベース発行のメッセージを、システム・コンソールで見つけ出してください。

---

**ASN0623e** *program_name* **:** *program_identifier* **:** *thread_name* **スレッドは、**_list_name_ **リストに対して mutex をロックすることができません。エラー番号は** *error_number* **です。理由は、**_reason_ **です。ロック・ホルダー** *lock_holder* **は、mutex を** *number* **回ロックしました。**

**説明:**
プログラム・スレッドは、リストに対して mutex をロックすることができません。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。

---

**ASN0624e** *program_name* **:** *program_identifier* **:** *thread_name* **スレッドは、**_list_name_ **リストに対して mutex をアンロックすることができません。エラー番号は** *error_number*。**理由は、**_reason_ **です。ロック・ホルダー** *lock_holder* **は、mutex を** *number* **回ロックしました。**

**説明:**
プログラム・スレッドは、リストに対して mutex をアンロックすることができません。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。

---

**ASN0625w** *program_name* **:** *program_identifier* **: ODBC 関数** *function_name* **は、戻りコード** *return_code*、**SQL 状態** *SQL_state*、**およびネイティブ・データベース完了コード** *completion_code* **で完了しました。**

**説明:**
レプリケーションは、特定のデータベースにアクセスするための ODBC 関数の使用をサポートしています。ODBC 関数は失敗戻りコードで完了しました。この結果、レプリケーションにとってエラー状態になる場合もあれば、ならない場合もあります。診断メッセージの続く部分では、ネイティブ・データベースからのメッセージ・テキストが表示されます。

**ユーザーの処置:**
後のメッセージを調べて、後続のエラー状態がレプリケーションで発生したかどうかを判断してください。これらのメッセージ内の情報が、エラーの原因の判別に役立つことがあります。該当する場合は、問題を訂正してください。

---

**ASN0626E Q アプライ・プログラムで、ターゲット表をロードする前にクラシック・レプリケーション・ソース・データを一時的に保管するため、ターゲット・サーバーにファイルを作成している間にエラーが発生しました (***routine_name*、*function*、*dataset_name*、*dataset_type*、*error*)。

**説明:**
クラシック・レプリケーションの場合、ターゲット表のロード・プロセスの間に、Q アプライ・プログラムはターゲット・サーバーに一時的な中間ファイルを作成して、ソース表から選択するデータを置きます。 Q アプライ・プログラムは、データをターゲットに挿入する前にそのファイルを読み取ります。Q アプライ・プログラムを実行するユーザー ID には、このファイルを作成するために必要な権限がなければなりません。

**ユーザーの処置:**
Q アプライ・プログラムを実行するユーザー ID に、ファイルを作成するための正しい権限があり、ターゲット・サーバーにファイルを作成するための十分なディスク・スペースがあることを確認します。メッセージの中のエラー情報を参考にして、ファイルを作成できなかった他の理由を判別します。

---

**ASN0627e** *program_name* **:** *program_identifier* **: 列** *column_name* **がコントロール表** *table_name* **から欠落しているため、プログラムは停止しました。**

**説明:**
必要な列がコントロール表から欠落しています。これはマイグレーションが必要であることを示しています。

**ユーザーの処置:**
必要なマイグレーション・プログラムまたはスクリプトを実行して、プログラムを開始してください。詳細は、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『Migrating to Replication and Event Publishing Version 9』を参照してください。

---

**ASN0628e** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプションまたは発行** *name* **の一部である、ソース列** *column_name* **の列オプション** *option* **に、無効な値** *value* **が含まれています。**

**説明:**
指定された値は、列オプションには無効です。

**ユーザーの処置:**
発行または Q サブスクリプションに列オプションが正しく指定されていることを確認してください。レプリケーション管理ツールを使用して、以下のステップを実行してください。

1. Q サブスクリプションまたは発行をドロップし、列オプションの有効な値を指定して再作成してください。
2. Q サブスクリプションまたは発行を開始します。

---

**ASN0629E** *program_name* **:***program_identifier* **: プログラムが登録、サブスクリプション、または発行を活動化しようとしているときに、サポートされていないデータ・タイプ** *data_type* **が検出されました。**

**説明:**
プログラムは、ソース表に、サポートされていないデータ・タイプで定義された 1 つ以上の列を検出しました。

**ユーザーの処置:**
サポートされていないデータ・タイプを含む列がないようにソース表を再定義してください。

---

**ASN0630E** *program_name* **:***program_identifier* **: 表** *table_name* **はパーティション表です。**

**説明:**
登録、サブスクリプション、または発行を活動化している間に、プログラムはソース表がパーティション表であることを検出しました。次のリストは、DB2 パーティション機能のレプリケーション・サポートを要約したものです。

- レプリケーションでは、CREATE TABLE ステートメントの DISTRIBUTE BY 文節を使用することにより DB2 のデータベース・パーティション機能 (DPF) を使用してパーティション化されたソース表がサポートされます。
- レプリケーションでは、(CREATE TABLE ステートメントの PARTITION BY 文節を使用して) 範囲を指定してパーティション化されたソース表はサポートされません。
- 表スペースが複数パーティション・データベースのパーティション・グループに置かれた場合、レプリケーションはサポートされません。

**ユーザーの処置:**
ソース表に使用される DB2 パーティション機能が、必ずレプリケーションによってサポートされるようにしてください。

---

**ASN0777I** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: 追加情報** *message_text*、**理由コード:** *rc1*、*rc2*、*rc3*。

**説明:**
このメッセージの *追加情報* は、情報メッセージ・テキストを表示します。理由コードは、このメッセージ・テキストに関連する戻りコードの補足情報を示します。通知コード・フィールドが適用できない場合、″*″ (アスタリスク) が表示されます。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN0888E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: EEE エラー条件** *message_text*、**エラー・コード:** *rc1*、 *rc2*、 *rc3*。

**説明:**
このメッセージの *EEE エラー条件* とは、示されたプログラムの中で発生し、示された修飾子 (表示されている場合) が付いた、EEE 特定のエラーの記述です。 エラー・コードは、このメッセージ・テキストに関連する補足情報を示します。 エラー・コード・フィールドが適用できない場合、″*″ (アスタリスク) が表示されます。

**ユーザーの処置:**
*EEE エラー条件* の情報と、示されたエラー・コードの情報を参考にして、エラーの原因を判別してください。 エラーを解決できない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

---

**ASN0999E** *pgmname* **:** *program_qualifier* **: エラー条件** *message_text* **、エラー・コード:** *rc1*、 *rc2*、 *rc3*。

**説明:**
このメッセージの *エラー条件* とは、示されたプログラムの中で発生し、示された修飾子 (表示されている場合) が付いた、エラーの記述です。 エラー・コードは、このメッセージ・テキストに関連する補足情報を示します。 エラー・コード・フィールドが適用できない場合、″*″ (アスタリスク) が表示されます。

**ユーザーの処置:**
*エラー条件* の情報と、示されたエラー・コードの情報を参考にして、エラーの原因を判別してください。 エラーを解決できない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

---

**ASN1001E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、SQL エラーを検出しました。 ERRCODE は** *error_code*。 **SQLSTATE は** *sqlstate*。 **SQLCODE は** *sqlcode*。 **SQLERRM は** *sqlerrm*。 **SQLERRP は** *sqlerrp*。 **サーバー名は、***server_name*。 **表名は** *table_name*。

**説明:**
SQL ステートメントの実行中に、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
SQL エラー・コードの説明については、ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

---

**ASN1002E** **APPLY** *apply_qualifier*。 *table_name* **をロックできませんでした。 ERRCODE は** *error_code*、 **SQLSTATE は** *sqlstate*、 **SQLCODE は** *sqlcode*、 **SQLERRM は** *sqlerrm*、 **SQLERRP は** *sqlerrp*、**サーバー名は** *server_name*、**表名は** *table_name*

**説明:**
アプライ・プログラムは、表をロックできませんでした。

**ユーザーの処置:**
ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

---

**ASN1003E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、サーバー** *server* **に接続できませんでした。**

**説明:**
アプライ・プログラムがデータベースへの接続を試みましたが、失敗の戻りコードを受信しました。 アプライ・プログラムがデータベースに接続できなかったのには、さまざまな原因が考えられます。 例えば、データベースが停止中であったり、データベースにアクセスしているユーザーの数が多すぎると、アプライ・プログラムは失敗の戻りコードを受信します。

**ユーザーの処置:**
DB2 の「メッセージおよびコード」の資料で (アプライ診断ログから) SQLCODE を探し、接続が失敗した理由を調べます。 レプリケーション・ユーザー ID とパスワードを保管する方法については、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

SQL エラー・コードの説明については、ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

---

**ASN1006E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **製品登録モジュールが予期しない内容を持っています。**

**説明:**
レプリケーションの登録モジュール (ASNAPR61) の内容が、DB2 のこのバージョンに予期されないものです。 正しい登録モジュールを提供するまで、これ以上製品をご使用いただけません。

**ユーザーの処置:**
DB2 がエラーなしでインストールされたことを確認してください。 エラーが発生している場合は、訂正してから再試行してください。

DB2 が問題なくインストールされており、機能登録モジュール (ASNAPR61) に正しくアクセスしている場合は、IBM ソフトウェア・サポートまでご連絡ください。

---

**ASN1008E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ修飾子** *qualifier* **と、セット名** *set_name* **を持つサブスクリプション・セットが、正しく定義されていません。 ERRCODE は、** *error_code*。

**説明:**
サブスクリプション・セットが、正しく定義されていません。

**ユーザーの処置:**
IBMSNAP_SUBSET 表の中の WHOS_ON_FIRST 列および APPLY_QUAL 列が正しく指定されていることを確認してください。

---

**ASN1009E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ修飾子** *qualifier* **にサブスクリプション・セットが定義されていません。**

**説明:**
アプライ修飾子 *qualifier* にサブスクリプション・セットが定義されていません。

**ユーザーの処置:**
アプライ修飾子 *qualifier* には、少なくとも 1 つのサブスクリプション・セットを定義してください。

---

**ASN1010E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、次のエラーにより、行** *row* **を監査証跡表に挿入できませんでした。エラー・コード:** *error_code*。

**説明:**
これは、監査証跡表が IBMSNAP_APPLYTRAIL 表と同じ構造で設定されていないことを示す SQL 戻りコードです。

**ユーザーの処置:**
詳細は、ご使用のデータベースの SQL 参照情報と、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションの表構造』を参照してください。

---

**ASN1011E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **コピー要求に、非互換のソース属性とターゲット属性があります。 SQL コードは** *error_code*。

**説明:**
これは、ターゲット表の属性がソース表の属性と互換性を持っていなければいけないことを示す SQL コードです。

**ユーザーの処置:**
ソース属性とターゲット属性の互換性については、登録表の SOURCE_STRUCTURE 列を参照してください。

---

**ASN1012E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **ソース表の構造が無効です。 エラー・コードは、** *error_code*。

**説明:**
これは、登録表の中のソース表構造が、登録表の中の SOURCE_STRUCTURE 列に応じて設定されていないことを示す SQL 戻りコードです。

**ユーザーの処置:**
IBMSNAP_REGISTER 表で使用される SOURCE_STRUCTURE 列の有効な値については、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションの表構造』を参照してください。

---

**ASN1013E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **ターゲット表の構造が無効です。 エラー・コードは、** *error_code*。

**説明:**
サブスクリプション・ターゲット・メンバー表の中のターゲット表の構造が無効です。

**ユーザーの処置:**
有効なターゲット表の構造については、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションの表構造』を参照してください。

---

**ASN1014E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは変更データ (CD) 表を見つけられなかったため、コピー要求のソースを見つけられませんでした。エラー・コードは、** *error_code*。

**説明:**
アプライ・プログラムが登録表で変更データ表名を見つけられなかったか、またはソース表が正しく登録されていなかったため、CD 表が IBMSNAP_REGISTER 表に定義されませんでした。

**ユーザーの処置:**
IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 イ

ンフォメーション・センターの『SQL レプリケーションの表構造』を参照して、CD 表が IBMSNAP_REGISTER 表に正しく定義されていることを検証してください。

---

**ASN1015I** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、サーバー** *server_name* **のキャプチャー・プログラムがグローバル SYNCHTIME を進めるのを待機中です。 キャプチャー・プログラムが実行中であることを確認してください。**

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
キャプチャー・プログラムが実行中であることを確認してください。

---

**ASN1016I** **APPLY** *apply_qualifier*。 **コピーのリフレッシュは、使用不可になっています。 エラー・コードは、***error_code*。

**説明:**
フル・リフレッシュを試行中、アプライ・プログラムが、登録表の中で、オンに設定された DISABLE_REFRESH 列を検出しました。

**ユーザーの処置:**
DISABLE_REFRESH 列をオフにするか、またはアプライ・プログラムをバイパスして、手動でリフレッシュを実行してください。

---

**ASN1017E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、ターゲット列名を見つけられませんでした。 エラー・コードは、** *error_code*。

**説明:**
アプライ・プログラムは、IBMSNAP_SUBS_COLS 表の中で列を見つけられませんでした。

**ユーザーの処置:**
サブスクリプション・セットとサブスクリプション・セット・メンバーを再定義してください。 詳細は、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションのソースのサブスクライブ』を参照してください。

---

**ASN1018I** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、サブスクリプション・セット** *set_name*(*whos_on_first*)**.(***set_number* **of** *total_sets*) **を処理中です。**

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1019E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **ターゲット表には、キー欄がありません。 エラー・コードは、***error_code*。

**説明:**
アプライ・プログラムは、ユニーク索引または主キーを必要とする列のいずれかでキー欄の名前を見つけられません。

**ユーザーの処置:**
サブスクリプション・セットとサブスクリプション・セット・メンバーを再定義してください。 詳細は、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションのソースのサブスクライブ』を参照してください。

---

**ASN1020E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、ストレージ・ブロックを予約できませんでした。 エラー・コードは、** *error_code*。

**説明:**
アプライ・プログラムは、必須 (メモリー) ストレージを取得できませんでした。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

---

**ASN1021E** *program_name***:** *program_identifier*。 **ERRNO** *errno* **のシステム・エラーのため、アプライ・プログラムは作業ファイル** *filename* **を読み取れません。エラー・コードは、***error_code*。

**説明:**
システム・エラーのため、アプライ・プログラムは作業ファイルを読み取れません。

**ユーザーの処置:**
C 関数のシステム・エラーの説明を参照して、エラーの原因を判別してください。多くのオペレーティング・システムでは、ERRNO の説明は、errno.h という名前の

C ヘッダー・ファイルにあります。問題の原因がスペース不足によるものかどうかを判別し、システム管理者に連絡して必要なものを入手してください。

---

**ASN1022E** *program_name*: *program_identifier*。 **ERRNO** *errno* **のシステム・エラーのため、アプライ・プログラムは作業ファイル** *filename* **に書き込めません。エラー・コードは、***error_code*。

**説明:**
ユーザー ID にファイルの 1 つまたはすべてについて適切なアクセス権限がないか、またはアプライ・プログラムがターゲット・ファイルに書き込んだ後に十分なスペースが残っていません。

**ユーザーの処置:**
C 関数のシステム・エラーの説明を参照して、エラーの原因を判別してください。多くのオペレーティング・システムでは、ERRNO の説明は、errno.h という名前の C ヘッダー・ファイルにあります。問題の原因がアクセス権限の不足によるものかスペースの不足によるものかを判別し、システム管理者に連絡して必要なものを入手してください。

---

**ASN1023E** *program_name*: *program_identifier*。 **ERRNO** *errno* **のシステム・エラーのため、アプライ・プログラムは作業ファイル** *filename* **をオープンできません。エラー・コードは、***error_code*。

**説明:**
システム・エラーのため、アプライ・プログラムは作業ファイルをオープンできません。

**ユーザーの処置:**
C 関数のシステム・エラーの説明を参照して、エラーの原因を判別してください。多くのオペレーティング・システムでは、ERRNO の説明は、errno.h という名前の C ヘッダー・ファイルにあります。

---

**ASN1024E** *program_name*: *program_identifier*。 **ERRNO** *errno* **のシステム・エラーのため、アプライ・プログラムは作業ファイル** *filename* **をクローズできません。エラー・コードは、***error_code*。

**説明:**
システム・エラーのため、アプライ・プログラムは作業ファイルをクローズできません。

**ユーザーの処置:**
C 関数のシステム・エラーの説明を参照して、エラーの原因を判別してください。多くのオペレーティング・システムでは、ERRNO の説明は、errno.h という名前の C ヘッダー・ファイルにあります。

---

**ASN1025I** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、サブスクリプション・セット** *set_name*(*whos_on_first*) **の処理を完了しました。 戻りコードは** *return_code*。

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1026I** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、バインド試行中にエラーを検出しました。 SQLSTATE は** *sqlstate*、**SQLCODE は** *sqlcode*。

**説明:**
バインドの実行中に、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

---

**ASN1027E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **指定されているラージ・オブジェクト (LOB) 列の数が多すぎます。 エラー・コードは、** *error_code*。

**説明:**
サブスクリプション・セット・メンバーに指定されているラージ・オブジェクト (BLOB、CLOB、または DBCLOB) 列の数が多すぎます。 許可される最大列数は 10 です。

**ユーザーの処置:**
余分なラージ・オブジェクト列をサブスクリプション・セット・メンバーから除去してください。

---

**ASN1028I** **APPLY** *apply_qualifier*。 **キー欄の変更前イメージ列が見つかりません。 エラー・コードは、***error_code*。

**説明:**
TARGET_KEY_CHG=*Y*' が指定されているメンバー用に設定されたサブスクリプションが誤っています。

**ユーザーの処置:**
それぞれのキー欄 (IS_KEY=*Y*) ごとに、IBMSNAP_SUBS_COLS 表に変更前イメージ列が組み込まれている必要があります。 組み込まれている変更前イメージ列は、col_type=*B* (ユーザーによって指定 )、ま

たは col_type=*P* (レプリケーションによって指定) のどちらでもかまいません。 サブスクリプションを手動で設定した場合は、ユーザー自身で問題を訂正する必要があります。 レプリケーション・センターかレプリケーション・コマンドを使用してサブスクリプションを設定した場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

---

**ASN1029E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **whos_on_first 値** *whos_on_first* **を持つ、***set_name* **という名前のサブスクリプション・セットの SQL ステートメントが正常に実行されませんでした。 ステートメントは、SQLCODE** *sqlcode* **および SQLSTATE** *sqlstate* **で失敗しました。 アプライ・プログラムの内部エラー・コードは、***error_code*。

**説明:**
ユーザー指定の SQL ステートメントが、正常に実行されませんでした。

**ユーザーの処置:**
詳しくは、IBMSNAP_APPLYTRAIL 表の中で該当する情報と、ご使用のデータベースの SQL 資料を参照してください。

---

**ASN1031E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **SQL ステートメントが空です。 エラー・コードは、** *error_code*。

**説明:**
SQL ステートメントが空ストリングです。

**ユーザーの処置:**
実行する SQL ステートメントを指定してください。

---

**ASN1032E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムのログ・ファイルをオープンできません。 エラー・コードは** *error_code*、**戻りコードは** *return_code*。

**説明:**
アプライ・プログラムが、ログ・ファイルをオープンできませんでした。

**ユーザーの処置:**
戻りコードの詳細については、ご使用の特定オペレーティング・システムのトラブルシューティングについて説明している資料を参照してください。

---

**ASN1033E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、アプライ・ログ・ファイルに書き込めませんでした。 エラー・コードは** *error_code*、**戻りコードは** *return_code*。

**説明:**
アプライ・プログラムは、ログ・ファイルに書き込めませんでした。

**ユーザーの処置:**
戻りコードの詳細については、ご使用の特定オペレーティング・システムのトラブルシューティングについて説明している資料を参照してください。

---

**ASN1034I** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムの初期化が成功しました。**

**説明:**
このメッセージは、アプライ処理の初期化の成功時に発行されます。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1035E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、サブスクリプション列表にアクセスできませんでした。エラー・コードは、***error_code*。 **SQLSTATE は** *sqlstate*。 **SQLCODE は** *sqlcode*。 **SQLERRM は** *sqlerrm*。 **SQLERRP は** *sqlerrp*。 **サーバー名は、***server_name*。 **表名は** *table_name*。

**説明:**
SQL ステートメントの実行中に、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
SQL については、ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

---

**ASN1036E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **式** *expression* **の列タイプ** *col_type* **が無効です。 エラー・コードは、***error_code*。

**説明:**
サブスクリプション列表の中の COL_TYPE 列の値が無効です。

**ユーザーの処置:**
値を A、B、C、D、F、L、または R に変更してください。

---

**ASN1038E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **IBMSNAP_SUBS_COLS 表に、列名または式が指定されていません。**

**説明:**
コピー・ステートメントの列名または式を指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
サブスクリプション定義の要件についての詳細は、DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションのソースのサブスクライブ』を参照してください。

---

**ASN1039E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラム・プラン、***plan_name* **をオープンできませんでした。 エラー・コードは、***error_code*。**戻りコードは** *return_code*。 **理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
アプライ・プログラム・プランをオープンできませんでした。

**ユーザーの処置:**
アプライ (z/OS 版) ・プログラム・ディレクトリーを参照してください。

---

**ASN1040E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、z/OS エラーを検出しました。 エラー・コードは** *error_code*、**戻りコードは** *return_code*。

**説明:**
z/OS システム操作の実行に失敗しました。

**ユーザーの処置:**
z/OS システム・ライブラリー情報を参照してください。

---

**ASN1041I** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、サブシステム名:** *subsystem* **を使って開始されました。**

**説明:**
このメッセージは、示されたサブシステム名を使用してアプライ・プログラムが開始したことを通知しています。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1042W** **APPLY** *apply_qualifier*。 **呼び出しパラメーターの数が多すぎます。**

**説明:**
アプライ・プログラムを呼び出すときに指定されたパラメーターの数が、許可される最大数を超えています。

**ユーザーの処置:**
呼び出しパラメーターの適切な数については、ご使用のオペレーティング・システムのキャプチャーとアプライの章を参照してください。

---

**ASN1043E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **このアプライ・プログラム修飾子** *qualifier* **で実行されているアプライ・インスタンスが、すでに 1 つあります。エラー・コードは** *error_code*、**理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
検査試行が失敗しました。

**ユーザーの処置:**
このサブシステムまたはデータベース上で、このユーザー ID を使って実行され、示されたアプライ修飾子が付いているアプライ・プログラムのインスタンスが 1 つしかないことを確認してください。

---

**ASN1044I** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、***number* **分と** *number* **秒の間、非アクティブになります。**

**説明:**
アプライ・プログラムは非アクティブです。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1045I** **APPLY** *apply_qualifier* **: アプライ・バージョン** *version_number* **プログラムは、データベース** *database_name* **を使用して開始されました。**

**説明:**
このメッセージは、どのデータベースからアプライ・プログラムが実行されているかを知らせるためのものです。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN1047I** **APPLY** *apply_qualifier*。 **指定された列の数が多すぎます。 エラー・コードは、** *error_code*。

**説明:**
サブスクリプションのメンバーに指定された列の数が多すぎます。

**ユーザーの処置:**
ユーザーは、サブスクリプションのメンバーに指定された列の数を削減する必要があります。 サポートされている最大列数は、すべての列名の全長によって決定されます。 列名の長さが短いほど、指定できる列数は多くなります。

---

**ASN1048E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ循環の実行に失敗しました。 詳しくは、アプライ・トレール表を参照してください。** *text*

**説明:**
アプライ循環が失敗しました。 メッセージの中で、*text* は、*target_server*、*target_owner*、*target_table*、*stmt_number*、および *cntl_server* を識別します。

**ユーザーの処置:**
監査証跡表の中の APPERRM フィールドを調べて、アプライ循環の失敗の理由を判別してください。

---

**ASN1049E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、システム・エラーを検出しました。 エラー・コードは、** *error_code*。 **戻りコードは** *return_code*。

**説明:**
システム操作の実行に失敗しました。

**ユーザーの処置:**
ご使用のオペレーティング・システムのシステム・ライブラリー情報を参照してください。

---

**ASN1050E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、ターゲット表の更新中に無効な操作を検出しました。 エラー・コードは、** *error_code*。 **適用しようとしている操作は、** *operation* **です。**

**説明:**
ソース表から取り出された行の命令フィールドが無効です。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

---

**ASN1051W** **APPLY** *apply_qualifier* **: アプライ・プログラムは、ソース表** *table_owner.table_name* **とターゲット表との間で、データが変更されたためのギャップを検出しました。エラー・コードは、** *error_code*。

**説明:**
アプライ・プログラムが変更データをコピーする前に、ログされた変更内容または削除された行をキャプチャー・プログラムが CD 表でスキップしたことを、アプライ・プログラムが検出しました。例えば、キャプチャー・プログラムがコールド・スタートされたか、または保存限界の整理が行われました。

**ユーザーの処置:**
メッセージ ASN0100I を見つけ出して、キャプチャー・プログラムが直前に開始したかどうかを確かめてください。開始していた場合、ASN0529I を見つけ出して、STARTMODE パラメーターの値が COLD かどうかを確かめてください。 COLD である場合には、フル・リフレッシュが無効になっていないかぎり、アプライ・プログラムはターゲット表のフル・リフレッシュを実行します。 CD 表の保存限界整理がキャプチャー・プログラムによって実行されたことが分かった場合、それに対応するサブスクリプションは、ソースに対してターゲット表を同期するためのフル・リフレッシュを必要とするかもしれません。

---

**ASN1052E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、ASNLOAD プログラムを見つけられませんでした。**

**説明:**
アプライ・プログラムは、現行ディレクトリーで ASNLOAD プログラムを見つけられませんでした。

**ユーザーの処置:**
ASNLOAD が、アプライ・プログラムを呼び出しているディレクトリーにあることを確認してください。

---

**ASN1053E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **ASNLOAD 出口ルーチンの実行に失敗しました。 戻りコードは** *return_code*。

**説明:**
ASNLOAD 出口ルーチンはエラーを検出し、そのエラー情報をアプライ・プログラムに戻しました。 以下は、有効な戻りコードの値です。

**98** 予期しないエラーが発生しました (ASNLOAD 出口ルーチンが予期しないエラーが発生して失敗しました。 処理は実行されません)。

**99** DB2 pwdfile キーワードが提供されました - パ

スワード・ファイルが見つかりません (pwdfile パラメーターは渡されましたが、パスワード・ファイルが見つかりませんでした。 これはエラーであり、接続またはその他いずれの処理も行われません)。

**100** 出口ルーチンの CONNECT ステートメントで、暗号化されたアプライ・パスワード・ファイルで指定されている値を使用するユーザー ID とパスワードが指定されていました。この DB2 サーバーに対する、パスワード・ファイルおよびユーザー ID とパスワードの組み合わせは見つかりましたが、接続は失敗しました。

**101** user/using 句なしの DB2 接続が失敗しました - pwdfile は見つかりません (パスワード・ファイルが提供されていないため、user/using 句なしで接続が行われました。 接続は失敗しました)。

**102** user/using 句なしの DB2 接続が失敗しました - pwdfile が見つかりましたが、項目がありません (DB2 サーバーの pwdfile にサーバー項目が見つからないため、user/using 句なしで接続が行われました。 接続は失敗しました)。

**103** user/using 句なしの DB2 接続が失敗しました - asnload.ini からの uid/pwd が使用されました (asnload.ini ファイルの中の値を使用して、user/using 句を使った接続が行われました。 DB2 サーバーに対するファイルとユーザー ID/パスワードの組み合わせは見つかりましたが、接続に失敗しました。

**104** user/using 句なしの DB2 接続が失敗しました - asnload.ini が見つかりませんでした (asnload.ini ファイルが見つからなかったため、user/using 句なしの接続が行われました。 接続は失敗しました)。

**105** user/using 句なしの DB2 接続が失敗しました - サーバーの uid/pwd が見つかりません (user/using 句なしの接続が行われました。 asnload.ini ファイルは見つかりましたが、ユーザー ID とパスワードの組み合わせが提供されていません。 接続は失敗しました)。

**106** ユーザーが LOADX_TYPE = 2 指定しましたが、ユーザー・コードが提供されていません (表 ASN.IBMSNAP_SUBS_MEMBR の LOADX_TYPE の値がユーザーによって 2 の値に設定されました。これはユーザーが ASNLOAD 出口ルーチンにカスタム・コードを提供することを示しています。 しかし、このコードは見つからず、アプライ・プログラムが 2 の LOADX_TYPE 値を渡したときに、ASNLOAD 出口ルーチンが失敗しました。)

**107** DB2 インポート・ユーティリティーが失敗しました (インポート・ユーティリティーの実行に失敗しました。 このユーティリティーによって戻された SQL コードが、理由コードとして渡されます)。

**108** DB2 エクスポート・ユーティリティーが失敗しました (エクスポート・ユーティリティーの実行に失敗しました。 このユーティリティーによって戻された SQL コードが、理由コードとして渡されます)。

**109** DB2 ロード・ユーティリティーが失敗しました (ロード・ユーティリティーの実行に失敗しました。 このユーティリティーによって戻された SQL コードが、理由コードとして渡されます)。

**110** DB2 ロード・ユーティリティーが失敗しました - クロスロードとして呼び出されました (ロード・ユーティリティーの実行に失敗しました。ロード・ユーティリティーは、カーソル・オプションからのロードを使って呼び出されました。このユーティリティーによって戻された SQL コードが、理由コードとして渡されます)。

**111** LOADX_TYPE が無効な値に設定されました (ASNLOAD 出口ルーチンは、ユーザーによって設定された LOADX_TYPE 値で呼び出されました。LOADX_TYPE 値はこの環境には無効なため、ASNLOAD 出口ルーチンは失敗しました)。

**112** LOADX_TYPE 3 には、選択のためのニックネームが必要です (ASNLOAD 出口ルーチンが失敗しました。 ASNLOAD 出口ルーチンは、ユーザーによって設定された LOADX_TYPE 値で呼び出されました。 ニックネームがリモート DB2 ソース表用に作成されて、ASN.IBMSNAP_SUBS_MEMBR 表に保管されているのでない限り、LOADX_TYPE 値はこの環境に無効です)。

**113** LOADX_TYPE 4 は、ターゲット表と非互換です (ASNLOAD 出口ルーチンが失敗しました。ASNLOAD 出口ルーチンが、ユーザーによって設定された LOADX_TYPE で呼び出されました。 DB2 for Linux, UNIX, and Windows ロード・ユーティリティーによってターゲット表を保守できないため、LOADX_TYPE 値はこの環境には無効です)。

**114** LOADX_TYPE 5 は、ターゲット表と非互換で

す (ASNLOAD 出口ルーチンが失敗しました。 ASNLOAD 出口ルーチンが、ユーザーによって設定された LOADX_TYPE で呼び出されました。 DB2 インポート・ユーティリティーによってターゲット表を保守できないため、LOADX_TYPE 値はこの環境には無効です)。

**115** ASNDLCOPY 出口ルーチンが失敗しました (サブスクリプション・セット・メンバーに DATALINK 列があったために、ASNLOAD 出口ルーチンが ASNDLCOPY 出口ルーチンを呼び出しました。 ASNDLCOPY 出口ルーチンが失敗したため、このサブスクリプション・セット・メンバーをロードする処理も失敗しました)。

**ユーザーの処置:**
戻りコードとそれに対応する説明を調べてください (上記)。 ASNLOAD メッセージ・ファイルと、DB2 ユーティリティーによって生成されたメッセージ・ファイルで、追加情報を調べてください。

---

**ASN1054E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、IBMSNAP_REGISTER または IBMSNAP_PRUNCNTL 表の中に、ソース所有者** *src_ownr*、**ソース表** *src_tbl*、**およびソース・ビュー修飾子** *src_view_qual* **に対する、セット名** *set_name* **を持つサブスクリプション・セット・メンバーに対応する行を検出できませんでした。**

**説明:**
ソース表登録が誤りか、または完了していません。

**ユーザーの処置:**
登録をドロップして、再定義してください。

---

**ASN1055E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、ソース所有者** *src_ownr*、**ソース表** *src_tbl*、**ソース・ビュー修飾子** *src_view_qual*、**ターゲット所有者** *tgt_ownr*、**およびターゲット表** *tgt_tbl* **に対する整理コントロール情報を見つけられません。**

**説明:**
ソース表登録が正しくありません。

**ユーザーの処置:**
サブスクリプションをドロップして、再実行してください。

---

**ASN1056E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、ユーザー ID/パスワードがないため、サーバーに接続できませんでした。 エラー・コードは、** *error_code*。

**説明:**
アプライ・プログラムは、サーバーに接続するためのパスワードとユーザー ID を検出できませんでした。

**ユーザーの処置:**
アプライ・プログラムのパスワード・ファイルが存在することを確認してください。 アプライ・プログラムのパスワード・ファイルは、アプライ・プログラムの開始ディレクトリーと同じ場所にあります。 DB2 Satellite Edition を使用している場合は、パスワードとユーザー ID がクライアント・システムに定義されていることを確認してください。

---

**ASN1057E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、アプライ・パスワード・ファイルのパスワードを読み取れませんでした。 エラー・コードは、** *error_code*。

**説明:**
アプライ・プログラムは、パスワードを検出できませんでした。

**ユーザーの処置:**
AUTHENTICATION=SERVER スキームを使用する場合は、ご使用のオペレーティング・システムのキャプチャーとアプライの章の中のアプライ・プログラム・セクションに記述されているように、パスワードを指定する必要があります。

---

**ASN1058E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、パスワード・ファイルをクローズできませんでした。 エラー・コードは、** *error_code*。

**説明:**
アプライ・プログラムは、パスワード・ファイルをクローズできませんでした。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

---

**ASN1059E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、パスワード・ファイルの** *line* **行目で、無効な構文を検出しました。 エラー・コードは、** *error_code*。

**説明:**
アプライ・プログラムは、パスワード・ファイルの中の 1 行を認識できませんでした。

**ユーザーの処置:**
パスワード・ファイルの中の構文エラーを訂正してください。 詳細は、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『asnpwd: パスワード・ファイルの作成および保守』を参照してください。

---

**ASN1060E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **一時作業ファイルの動的割り振りに失敗しました。 エラー・コードは、***error_code***。**

**説明:**
動的割り振り中に、システム・エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

---

**ASN1061E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **示されたキーワード・パラメーターが無効です。 エラー・コードは、***error_code***。**

**説明:**
無効な呼び出しパラメーターが指定され、アプライ・プログラムによって無視されました。

**ユーザーの処置:**
呼び出しパラメーターを訂正してください。 詳細は、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『asnapply: アプライの始動』を参照してください。

---

**ASN1062W** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、このサブスクリプション・セット・メンバーのフル・リフレッシュの実行には SELECT および INSERT ステートメントを使用する必要があります。 次の情報はこのサブスクリプション・セット・メンバーに関連するものです。セット名は** *set_name*、**ソース所有者は** *source_owner*、**ソース表は** *source_table*、**ソース・ビュー修飾子は** *source_view_qual*、**ターゲット所有者は** *target_owner*、**およびターゲット表は** *target_table*。

**説明:**
ASNLOAD 出口ルーチンがユーザー指定の LOADX_TYPE 値を検出できず、このサブスクリプション・セット・メンバーを処理するために使用できるユーティリティーがありません。 そのため、ASNLOAD 出口ルーチンは、アプライ・プログラムにフル・リフレッシュの制御を渡します。 ASNLOAD 出口ルーチンは、一部のターゲット表タイプ (Sybase や MS SQL サーバーのターゲット表など) を現在サポートしておらず、処理できません。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。ただし、ASNLOAD 出口ルーチンによる不必要な処理を避けるために、これらのサブスクリプション・セット・メンバーに対して、LOADX_TYPE の値を 1 に設定することができます。

---

**ASN1063E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **サブスクリプション・セットは、200 を超えるメンバーを持つことはできません。 エラー・コードは、***error_code***。**

**説明:**
サブスクリプションの数が、最大許可数の 200 を超えています。

**ユーザーの処置:**
余分なメンバーをサブスクリプション・セットから除去してください。

---

**ASN1064W** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、サブスクリプション・セット** *set_name* **に対してフル・リフレッシュを実行できません。これは、このソースに対してキャプチャー・プログラムがまだコールド・スタートされていないためです。**

**説明:**
アプライ・プログラムはこのサブスクリプション・セットに対し、フル・リフレッシュを試行できません。これは、このソースに対してキャプチャー・プログラムが今までにコールド・スタートされたことがなく、アプライ・プログラムによって挿入される CAPSTART シグナルの処理準備ができていないためです。

**ユーザーの処置:**
このソースに対して、キャプチャー・プログラムを開始してください。

---

**ASN1065E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、ソース表の 1 つ以上の登録が停止しているものがあるため、サブスクリプション・セット** *set_name* **のデータを処理できません。**

**説明:**
アプライ・プログラムは、IBMSNAP_REGISTER 表に 'S' の状態の登録は少なくとも 1 つあるため、このサブスクリプション・セットのデータを処理できません。

キャプチャー・プログラムは、ユーザー介入の必要な問題が登録にある場合、その登録を停止状態にします。エラー情報については、 IBMSNAP_REGISTER 表の STATE_INFO 列を参照してください。 その登録についてキャプチャーされたデータの保全性に問題が生じている可能性があるため、アプライ・プログラムはフル・リフレッシュを実行する必要があります。この問題は、登録済みソース表がデータ・キャプチャーなしで変更されたことがない場合に発生することがあります。

**ユーザーの処置:**
エラー・メッセージからの情報を使って、停止された登録を修正してください。登録を再び活動化してください。 登録を再活動化する場合、アプライ・プログラムはフル・リフレッシュを実行します。

---

**ASN1066E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **内部アプライ・プログラム・エラーが発生しました。 エラー・コードは、***error_code*。

**説明:**
内部アプライ・プログラム・エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

---

**ASN1067E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、更新の矛盾を検出し、拒否されたトランザクションを補正しました。 詳しくは、作業単位表を参照してください。 エラー・コードは、***error_code*。

**説明:**
複数のアプリケーションが別々のロケーションから、1 つの表の中の同じ行を更新しました。 一部のトランザクションが拒否されて、補正されました。

**ユーザーの処置:**
詳細は、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの SQL レプリケーションの表構造に関する資料を参照してください。

---

**ASN1068E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **制約違反のため、アプライ・プログラムはサブスクリプションを非活動化しました。 エラー・コードは、***error_code*。

**説明:**
ソース表からターゲット表にデータをコピー中、制約違反が検出されました。 アプライ・プログラムは終了され、サブスクリプションが非活動化されました。

**ユーザーの処置:**
制約エラーを訂正して、サブスクリプションを再度活動化してください。

---

**ASN1070E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、ターゲット表をロックできませんでした。 ERRCODE は** *error_code*。 **SQLSTATE は** *sqlstate*。 **SQLCODE は** *sqlcode*。 **SQLERRM は** *sqlerrm*。 **SQLERRP は** *sqlerrp*。 **サーバー名は、***server_name*。 **表名は** *table_name*。

**説明:**
アプライ・プログラムは、更新の矛盾をチェックする前に、ターゲット表をロックできませんでした。

**ユーザーの処置:**
アプライを再始動する前に、すべてのターゲット表が使用可能であることを確認してください。

---

**ASN1071E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、作業ファイル位置変更できませんでした。 エラー・コードは、***error_code*。

**説明:**
アプライ・プログラムは、一時作業ファイルの読み取り中にエラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

---

**ASN1072E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、ASNDONE プログラムを見つけられませんでした。**

**説明:**
アプライ・プログラムは、ユーザー出口プログラム、ASNDONE を検出できませんでした。

**ユーザーの処置:**
ASNDONE プログラムが正しいディレクトリーにあることを確認してください。

---

**ASN1073E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **ASNDONE プログラムの実行に失敗しました。 戻りコードは** *return_code*。

**説明:**
ユーザー出口プログラム、ASNDONE の呼び出し中に、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

---

**ASN1074E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、ASNDLCOPY プログラムを検出できませんでした。**

**説明:**
アプライ・プログラムは、現在の検索パスで ASNDLCOPY プログラムを検出できませんでした。

**ユーザーの処置:**
ASNDLCOPY プログラムを検索パスに追加して、再度アプライ・プログラムを実行してください。

---

**ASN1075E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **ASNDLCOPY プログラムが失敗しました。 戻りコードは** *return_code*。 **追加情報については、ASNDL** *file***を参照してください。**

**説明:**
ASNDLCOPY プログラムはエラーを検出し、そのエラー情報をアプライ・プログラムに渡しました。 以下は、有効な戻りコードの値です。

98

予期しないエラーが発生しました。

99

ASNDLCOPY プログラムに渡された引数が無効です。

100

メモリーを割り振りできません。

101

ASNDLSRVMAP 構成ファイルをオープンできません。

102

ASNDLSRVMAP 構成ファイルの中の項目数が最大限度を超えています。

103

ASNDLSRVMAP 構成ファイルで無効な項目が検出されました。

104

ASNDLUSER 構成ファイルの中で、指定されたファイル・サーバーに対するユーザー・ログイン情報が見つかりません。

105

ASNDLPARM 構成ファイルで無効な項目が検出されました。

106

ASNDLUSER 構成ファイルをオープンできません。

107

ASNDLUSER 構成ファイルで無効な項目が検出されました。

108

入力ファイルからの読み取り中に、入出力エラーが発生しました。

109

入力ファイルで無効な項目が検出されました。

110

入力ファイルをオープンできません。

111

結果ファイルをオープンできません。

112

結果ファイルへの書き込み中に、入出力エラーが発生しました。

113

FTP プロトコルの制御チャネルの初期化中に、エラーが発生しました。

114

制御チャネルを介してデータを送信中に、エラーが発生しました。

115

指定されたユーザーとパスワードを使ってファイル・サーバーにログオンできません。

116

コピー・デーモンがまだ開始されていません。

117

FTP プロトコルのデータ・チャネルの初期化中に、エラーが発生しました。

118

ソース・ファイル・サーバーからファイルを検索できません。

119

ターゲット・ファイル・サーバーにファイルを保管できません。

120

受動モードでファイルを転送中に、エラーが発生しました。

121

指定されたファイル参照に対するパス・マッピングが見つかりません。

122

FTP BINARY コマンドを実行中に、エラーが発生しました。

123

FTP SIZE コマンドを実行中に、エラーが発生しました。

124

FTP MODTIME コマンドを実行中に、エラーが発生しました。

125

FTP SITE UMASK コマンドを実行中に、エラーが発生しました。

126

FTP SITE TOUCH コマンドを実行中に、エラーが発生しました。

127

FTP SITE CHMOD コマンドを実行中に、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
戻りコードとそれに対応する意味を調べてください (上記)。 戻りコードは、製品と一緒に出荷されているサンプル ASNDLCOPY プログラムを基にしています。ログ・ファイルに追加情報があります。

---

**ASN1076E　アプライ・プログラムは、ASNDLCOPY プログラムによって生成された結果ファイルのフォーマットを読み取れません。**

**説明:**
ASNDLCOPY プログラムによって生成された結果ファイルが、予期していたフォーマットではありません。

**ユーザーの処置:**
ASNDLCOPY プログラムを変更した場合は、その変更が原因でフォーマットが無効になったのかどうか調べてください。変更が問題の原因ではない場合、マシンに結果ファイル用のスペースが十分にあるか調べてください。

---

**ASN1077E　APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムは、ターゲット表の更新中に無効な DATALINK 列を検出しました。 エラー・コードは、***error_code*。

**説明:**
ソース表から取り出された行の DATALINK 列が無効です。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

---

**ASN1078E　APPLY** *apply_qualifier*。 **ASNDLCOPY プログラムは、シグナル** *signal_number* **によって終了されました。 追加情報については、***filename* **ファイルを参照してください。**

**説明:**
ASNDLCOPY プログラムは、指定されたシグナルで異常終了しました。

**ユーザーの処置:**
指定されたログ・ファイルで、エラーの原因を調べてください。 ASNDLCOPY プログラムを変更し、その変更されたモードによってシグナルが生成されている場合は、コードを修正して、再実行してください。 そうでない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

---

**ASN1079E　APPLY** *apply_qualifier*。 **MEMBER_STATE は、次では無効です : WHOS_ON_FIRST** *whos_on_first* **に対する設定** *set_name* **、ソース所有者** *source_owner*、**ソース表** *source_table*、**ソース・ビュー修飾子** *source_view_qual*、**ターゲット所有者** *target_owner*、**およびターゲット表** *target_table*

**説明:**

IBMSNAP_SUBS_MEMBR 表の MEMBER_STATE 列に無効な更新がされました。 この列の有効な値は以下のとおりです: 'N'、 'L'、 'S'、 または 'D'。

**ユーザーの処置:**
有効な値で MEMBER_STATE 列を更新し、アプライ・プログラムを再度起動します。 MEMBER_STATE 列の値についての詳細は、IBMSNAP_SUBS_MEMBR 表を参照してください。

---

**ASN1080E** **APPLY** *apply_qualifier* **: セット** *set_name* **(whos_on_first** *whos_on_first_value***) 内で、ターゲット表** *table_owner.table_name* **に対して列が定義されていません。エラー・コードは、**_error_code_。

**説明:**
アプライ・プログラムの ASN.IBMSNAP_SUBS_COLS コントロール表には、指定されたターゲット表内の列に関する情報が示されていません。レプリケーション・センターまたは ASNCLP コマンド行プログラムによって生成された SQL スクリプトの編集中に、列情報が手動で除去された可能性があります。

**ユーザーの処置:**
サブスクリプションをドロップしてから、再作成してください。サブスクリプションをドロップできない理由が分かっている場合、列データを ASN.IBMSNAP_SUBS_COLS 表に手動で挿入する必要があります。

---

**ASN1097I** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムが停止されました。**

**説明:**
この前に報告されたエラーが原因で、アプライ・プログラムが停止されました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージの前に報告されたエラーを修正してください。

---

**ASN1207E** **APPLY** *apply_qualifier*。 *subscription* **のサブスクリプションが活動化されていません。**

**説明:**
選択されたサブスクリプションは、非アクティブです。

**ユーザーの処置:**
このサブスクリプションを活動化するか、または別のサブスクリプションを選択してください。

---

**ASN1210E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **キーワード -q の後に、アプライ修飾子を指定する必要があります。**

**説明:**
キーワード -q の後にアプライ修飾子を指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
キーワード -q の後にアプライ修飾子を指定してください。

---

**ASN1212E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **キーワード** *keyword* **の後に、読み取り専用セット名** *set_name* **が検出されました。**

**説明:**
キーワード U または D の後に、読み取り専用セット名が指定されました。

**ユーザーの処置:**
キーワード U および D のレプリカだけを指定してください。

---

**ASN1221I** **APPLY** *apply_qualifier*。 **セット** *set_name* **は、**_number_ **行で** _time_ **に、正常にリフレッシュされました。**

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1242E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **SQL エラーが発生しました。 ERRCODE は** *error_code*、**SQLSTATE は** *sqlstate*、**SQLCODE は** *sqlcode*、**SQLERRM は** *sqlerrm*、**SQLERRP は** *sqlerrp*、**表名は** *table_name*。

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1243E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **ASN.IBMSNAP_SUBS_SET 表に、適格なサブスクリプションがありません。**

**説明:**
サブスクリプション・セットが選択されていないか、またはアプライ修飾子が無効です。

**ユーザーの処置:**
サブスクリプション名とアプライ修飾子を確認してください。

---

**ASN1304E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **キャプチャー・エラーのため、ASNSAT プログラムが終了しました。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムが、エラーを戻しました。

**ユーザーの処置:**
キャプチャー・ログ・ファイルから、エラーを判別してください。

---

**ASN1305E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・エラーのため、ASNSAT プログラムが終了しました。**

**説明:**
アプライ・プログラムが、エラーを戻しました。

**ユーザーの処置:**
アプライ・ログ・ファイルから、エラーを判別してください。

---

**ASN1310E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **キャプチャー・プログラムの呼び出し試行中に、ASNSAT プログラムがシステム・エラーを検出しました。 戻りコードは** *return_code*。

**説明:**
ASNCAP の呼び出し中に、オペレーティング・システム・エラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
キャプチャー・プログラムが実行パスにあることを確認してください。

---

**ASN1311E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **アプライ・プログラムの呼び出し試行中に、ASNSAT プログラムがシステム・エラーを検出しました。 戻りコードは** *return_code*。

**説明:**
ASNAPPLY の呼び出し中に、オペレーティング・システム・エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
アプライ・プログラムが実行パスにあることを確認してください。

---

**ASN1312E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **デフォルト・ターゲット・サーバーを指定する環境変数 DB2DBDFT が設定されていません。**

**説明:**
ターゲット・サーバー名が指定されておらず、ASNSAT プログラムが DB2DBDFT 変数からデフォルトのデータベース名を判別できませんでした。

**ユーザーの処置:**
-t キーワードの後に、ターゲット・サーバー名を指定してください。

---

**ASN1314E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **ASNSAT がデフォルトのアプライ修飾子を取得中、SQL エラーが発生しました。 SQLSTATE は** *sqlstate*、**SQLCODE は** *sqlcode*。

**説明:**
ユーザーがアプライ修飾子を指定しませんでした。
USER 特殊レジスターを検索中、ASNSAT プログラムがエラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
-q キーワードの後に、アプライ修飾子を指定してください。

---

**ASN1315E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **データベース・サーバーに接続できません。 SQLSTATE は** *sqlstate*、**SQLCODE は** *sqlcode*。

**説明:**
ターゲット・データベースへの接続試行中に、エラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

---

**ASN1316E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **バインドを試行中に、ASNSAT がエラーを検出しました。 SQLSTATE は** *sqlstate*、**SQLCODE は** *sqlcode*。

**説明:**
自動バインドの試行中に、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
sqllib¥bnd ディレクトリーにバインド・ファイルが存在することを確認してください。

---

**ASN1317E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **ASNSAT が ASN.IBMSNAP_REGISTER 表から CD_TABLE を取得中、SQL エラーが発生しました。 SQLSTATE は** *sqlstate*、**SQLCODE は** *sqlcode*。

**説明:**
登録表から選択中、SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

---

**ASN1318E** **APPLY** *apply_qualifier*。 **ASNSAT が DB2 ノード・タイプの取得を試行中、SQL エラーが発生しました。 SQLSTATE は** *sqlstate*、**SQLCODE は** *sqlcode*。

**説明:**
ノード・タイプ構成パラメーターを検索中、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

---

**ASN1500I** **レプリケーション・アクション** *action_name* **が、***timestamp* **に、アーキテクチャー・レベル** *architecture_level* **で開始されました。 キャプチャー・サーバーは** *capture_serveralias* **で、キャプチャー・スキーマは** *capture_schema* **です。**

**説明:**
*action name* の有効値は、*Create Capture server control tables* と *Drop Capture server control tables* です。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1501I** **レプリケーション・アクション** *action_name* **が、***timestamp* **に、アーキテクチャー・レベル** *architecture_level* **で開始されました。 キャプチャー・サーバーは** *capture_serveralias*、**リモート・サーバーは** *remote_servername*、**およびキャプチャー・スキーマは** *capture_schema* **です。**

**説明:**
*action name* の有効値は、*Create Capture server control tables* と *Drop Capture server control tables* です。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1502I** **レプリケーション・アクション** *action_name* **が、***timestamp* **に、アーキテクチャー・レベル** *architecture_level* **で開始されました。 アプライ・コントロール・サーバーは** *apply_serveralias* **です。**

**説明:**
*action name* の有効値は、*Create Apply server control tables* と *Drop Apply server control tables* です。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1503I** **レプリケーション・アクション** *action_name* **が、***timestamp* **に開始されました。 キャプチャー・サーバーは** *capture_serveralias*、**キャプチャー・スキーマは** *capture_schema*、**ソース所有者は** *source_owner*、**ソース表、ビュー、またはニックネームは** *source_table* **です。**

**説明:**
*action name* の有効値は、*Create Registration*、*Drop Registration*、*Alter Registration*、*Add Registration*、および *Promote Registration* です。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1504I** **レプリケーション・アクション** *action_name* **が、***timestamp* **に開始されました。 キャプチャー・サーバーは** *capture_serveralias*、**リモート・サーバーは** *remote_server*、**キャプチャー・スキーマは** *capture_schema*、**ソース所有者は** *source_owner*、**およびソース表、ビュー、またはニックネームは** *source_table* **です。**

**説明:**
*action name* の有効値は、*Create Registration* と *Drop Registration* です。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1505I** **レプリケーション・アクション** *action_name* **が開始されました。 サブスクリプション・セット情報は次のとおりです。アプライ・コントロール・サーバーは** *control_server*、**アプライ修飾子は** *apply_qualifier*、**セット名は** *set_name*、 **リモート・サーバー** *remote_servername* **のターゲット・サーバーは** *target_server*、**リモート・サーバー** *remote_servername* **のキャプチャー・サーバーは** *capture_server*、**キャプチャー・スキーマは** *capture_schema* **です。**

**説明:**
*action name* の有効値は、*Create Subscription Set*、*Drop Subscription Set*、*Alter Subscription Set*、および *Promote Subscription Set* です。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1506I** **レプリケーション・アクション** *action_name* **が、** *timestamp* **に開始されました。 サブスクリプション・セット情報は次の通りです。アプライ・コントロール・サーバーは** *control_server*、**アプライ修飾子は** *apply_qualifier*、**セット名は** *set_name*、**ターゲット・サーバーは** *target_server*、**リモート・サーバー** *remote_servername* **のキャプチャー・サーバーは** *capture_server*、**およびキャプチャー・スキーマは** *capture_schema* **です。**

**説明:**
*action name* の有効値は、*Create Subscription Set*、*Drop Subscription Set*、*Alter Subscription Set*、および *Promote Subscription Set* です。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1507I** **レプリケーション・アクション** *action_name* **が、** *timestamp* **に開始されました。 サブスクリプション・セット情報は次の通りです。アプライ・コントロール・サーバーは** *control_server*、**アプライ修飾子は** *apply_qualifier*、**セット名は** *set_name*、**リモート・サーバーの** *remote_server* **ターゲット・サーバー名は** *target_server*、**キャプチャー・サーバーは** *capture_server*、**およびキャプチャー・スキーマは** *capture_schema* **です。**

**説明:**
*action name* の有効値は、*Create Subscription Set*、*Drop Subscription Set*、*Alter Subscription Set*、および *Promote Subscription Set* です。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1508I** **レプリケーション・アクション** *action_name* **が、** *timestamp* **に開始されました。 サブスクリプション・セット情報は次の通りです。アプライ・コントロール・サーバーは** *control_server*、**アプライ修飾子は** *apply_qualifier*、**セット名は** *set_name*、**ターゲット・サーバーは** *target_server*、**キャプチャー・サーバーは** *capture_server*、**およびキャプチャー・スキーマは** *capture_schema* **です。**

**説明:**
*action name* の有効値は、*Create Subscription Set*、*Drop Subscription Set*、*Alter Subscription Set*、および *Promote Subscription Set* です。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1510I** **レプリケーション・アクション** *action_name* **は、** *timestamp* **に、正常に終了しました。**

**説明:**
*action name* の有効値は、*Create Capture server control tables*、*Drop Capture server control tables*、*Create Apply control server control tables*、および *Drop Apply control server control tables* です。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1511I** **レプリケーション・アクション** *action_name* **は、ソース所有者** *source_owner*、**およびソース表、ビュー、またはニックネーム** *source_table* **に対して、正常に終了しました。**

**説明:**
*action name* の有効値は、*Create Registration*、*Drop Registration*、*Alter Registration*、*Add Registration Column*、および *Promote Registration* です。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1512I** **レプリケーション・アクション** *action_name* **は、アプライ修飾子** *apply_qual*、**セット名** *set_name* **に対して、正常に終了しました。**

**説明:**
*action name* の有効値は、*Create Subscription Set*、*Drop Subscription Set*、*Alter Subscription Set*、*Add Statements to Subscription Set*、*Drop Statements from Subscription Set*、および *Promote Subscription Set* です。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1513I** **レプリケーション・アクション** *action_name* **は、アプライ修飾子** *apply_qual*、**セット名** *set_name*、**処理順序** *whos_on_first*、**ソース所有者** *source_owner*、**ソース表** *source_table*、**ソース・ビュー修飾子** *source_view_qual*、**ターゲット所有者** *target_owner*、**およびターゲット表** *target_table* **に対して、正常に終了しました。**

**説明:**
以下は、*action name* に有効な値です。

- *Add Subscription Member*
- *Add Subscription Member Column*
- *Drop Subscription Member*

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1514I** **レプリケーション・アクションは、** *timestamp* **に、** *successful* **の成功、** *errors* **のエラー、および** *warning* **の警告で終了しました。**

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**ASN1550E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **はエラー終了しました。 入力パラメーター** *input_parameter* **の値がありません。**

**説明:**
入力パラメーターはこのアクションには必須ですが、指定されていません。

**ユーザーの処置:**
必須パラメーターを指定して、レプリケーション・アクションを再実行してください。

---

**ASN1551E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **はエラー終了しました。 入力パラメーター** *input_parameter* **の値** *value* **が誤りです。 理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
入力パラメーターとして指定された値は、有効な値ではありません。 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** ブロッキング時間値 (分単位) は、0 から 999 の間でなければなりません。

**1** コミット・カウント値は、0 から 999 の間でなければなりません。

**2** サーバー・タイプ値はキャプチャー・サーバーでなければなりません。

**3** 表のタイプは、以下のいずれかである必要があります。

- USERTABLE
- CCD TABLE
- POINT IN TIME
- BASE AGGREGATE
- CHANGE AGGREGATE
- REPLICA
- USERCOPY

**4** リモート・サーバー名値は NULL でなければなりません。

**5** サーバーのタイプは、以下のいずれかである必要があります。

- キャプチャー・サーバー
- コントロール・サーバー
- キャプチャーおよびコントロール・サーバー
- キャプチャー、コントロールおよびターゲット・サーバー

**6** 内部 CCD 表は、非コンプリートでなければなりません。

**7** アプライ修飾子が、18 文字の最大長を超えています。

**8** セット名が、18 文字の最大長を超えています。

**9** イベント名の長さは、128 バイト以下でなければなりません。

**10** ソース・キャプチャー・スキーマ名が、128 バイトの最大長を超えています。

**11** ターゲット・キャプチャー・スキーマ名が、128 バイトの最大長を超えています。

**12** BEFORE_OR_AFTER ステートメント値は、'A'、'B'、または 'S' でなければなりません。

**13** EI_OR_CALL 値は、'C' または 'E' でなければなりません。

**14** SQLSTATES は、長さが 50 桁以下でなければなりません。

**15** SQLSTATES は数値でなければなりません。

**16** CONFLICT_LEVEL は、ゼロ (0) または NONE でなければなりません。

**17** CHGONLY 値は、'N' でなければなりません。

**18** 外部 CCD 表は非コンデンスで、LOB 列が含まれています。

**19** CONFLICT_LEVEL は 0 から 2 の間でなければなりません。

**20** CHGONLY 値は 'Y' か 'N' でなければなりません。

**21** RECAPTURE 値は 'Y' か 'N' でなければなりません。

**22** DISABLE_REFRESH 値は 0 か 1 でなければなりません。

**23** CHG_UPD_TO_DEL_INS 値は 'Y' か 'N' でなければなりません。t

**24** STOP_ON_ERROR 値は 'Y' か 'N' でなければなりません。

**25** BEFORE_IMG_PREFIX 値は 1 文字でなければなりません。

**26** それ以前のシナリオではいずれも、対応する表スペースの *New Tablespace* フラグが真に設定されていません。

**27** 表名が有効なコントロール表ではありません。有効なコントロール表のリストは、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの SQL レプリケーションの表構造に関する資料を参照してください。

**28** フェデレーテッド・サーバーが検出されましたが、対応するフェデレーテッド・スキーマ名が見つかりませんでした。 フェデレーテッド・システムで API を呼び出す場合には、フェデレーテッド・スキーマ名が指定されていることを確認してください。

**29** OS/400 システム上の指定されたリモート・ソース・データベース名が、登録されているリモート・ソース・データベース名と一致しません。

**ユーザーの処置:**
入力パラメーターに有効な値を指定して、レプリケーション・アクションを再実行してください。

---

**ASN1552E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **はエラー終了しました。 入力パラメーター** *input_parameter1* **の値** *value1* **は、入力パラメーター** *input_parameter2* **の値** *value2* **と非互換です。**

**説明:**
レプリケーション・パラメーターに指定された値が、別のパラメーターの指定と競合します。

**ユーザーの処置:**
入力パラメーターに有効な値を指定して、レプリケーション・アクションを再実行してください。 詳細は、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターのレプリケーション・システム・コマンドに関する資料を参照してください。

---

**ASN1553E** **入力パラメーター** *input_parameter1* **の値** *value1* **は、既存のサブスクリプション・セット** *subscription_set***、アプライ修飾子** *apply_qual***、および処理順序** *whos_on_first* **の値** *value2* **と非互換です。**

**説明:**
レプリケーション・パラメーターに提供された値は、既存のサブスクリプション・セットのいずれかの値と競合します。

**ユーザーの処置:**
入力パラメーターに有効な値を提供するか、またはサブスクリプション・セットの定義を変更してから、レプリケーション・アクションを再実行してください。 詳細

は、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターのレプリケーション・システム・コマンドに関する資料を参照してください。

---

**ASN1560E** **レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。 SQL エラーを検出しました。 SQL メッセージ:** *sql_message*。

**説明:**
SQL ステートメントの実行中に、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
SQL については、ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

---

**ASN1561E** **サーバー** *server_alias* **への接続を確立できません。 SQL エラーを検出しました。 SQL メッセージ:** *sql_message*。

**説明:**
指定されたサーバーへの接続を確立できませんでした。

**ユーザーの処置:**
SQL については、ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。 ユーザー ID とパスワード情報が正しいことを確認してください。

---

**ASN1562E** **レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。予期しないエラーが発生しました。参照コード** *reference_code*。

**説明:**
ランタイム・エラーのため、指定されたアクションを実行できません。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

---

**ASN1563E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **はエラー終了しました。 レプリケーション・アーキテクチャー・レベル** *arch_level* **は、サーバー** *server_alias* **をサポートしていません。**

**説明:**
指定されたレプリケーション・アーキテクチャー・レベルは、指定されたサーバーのオペレーティング・システム、バージョン、またはリリースでサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
登録表の ARCH_LEVEL 列に必要な値を調べるには、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションの表構造』を参照してください。

---

**ASN1564E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **はエラー終了しました。 キャプチャー・スキーマ** *capture_schema* **のキャプチャー・サーバー・アーキテクチャー・レベル** *arch_level* **は、このレプリケーション・アクションをサポートしていません。**

**説明:**
このキャプチャー・スキーマの IBMSNAP_REGISTER 表で見つかったレプリケーション・アーキテクチャー・レベルでは、指定されたレプリケーション・アクションは許可されません。

**ユーザーの処置:**
キャプチャー・コントロール表をバージョン 8 アーキテクチャー・レベルにマイグレーションしてから、このアクションを再試行してください。

---

**ASN1565E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **はエラー終了しました。 アプライ・コントロール・サーバー・アーキテクチャー・レベル** *arch_level* **は、このレプリケーション・アクションをサポートしていません。**

**説明:**
ASN.IBMSNAP_SUBS_SET 表で見つかったレプリケーション・アーキテクチャー・レベルでは、指定されたレプリケーション・アクションは許可されません。

**ユーザーの処置:**
アプライ・コントロール表をバージョン 8 アーキテクチャー・レベルにマイグレーションしてから、このアクションを再試行してください。

---

**ASN1567W** **表スペース** *tablespace_name* **の表スペース・コンテナー情報が、ライブラリー** *library_name* **の中の DB2 ストアード・プロシージャー** *procedure_name* **が見つからないために読み取れません。**

**説明:**
DB2 ストアード・プロシージャー READTSCINFOS が、キャプチャー・サーバーまたはターゲット・サーバーに見つかりません。このストアード・プロシージャーは、そのサーバーの DB2 表スペース・コンテナー情報を検索するために必要です。

**ユーザーの処置:**

ストアード・プロシージャーがサーバー上に存在するかどうかを判別します。ファイル db2rtsc が sqllib ディレクトリーの function ディレクトリーに存在するかどうかをチェックします。 ファイル db2rtsc は、サーバーが V8 より前のサーバーの場合には、存在しない可能性があります。 ストアード・プロシージャーが存在しない場合は、出力スクリプトで提供されている表スペース・コンテナー定義を編集してください。

---

**ASN1568E　データベース *object*、*objectname* の名前の長さ *length* が、許可された限界 *allowed_limit* を超えています。**

**説明:**
2 番目のパラメーターで提供されているデータベース・オブジェクト・タイプでは、このパラメーターで提供されている実際のオブジェクトの長さよりも短い長さが許可されます。 プロパティー・ファイルにあるように、次の値は、オブジェクトに有効です: *Table*、 *Index*、 *Tablespace*、 *Table owner*、 *Nickname*。

**ユーザーの処置:**
該当するデータベースの SQL リファレンスを参照して正しい名前の長さを指定してください。

---

**ASN1569E　作成しようとしているデータベース・オブジェクトの名前は、タイプ *object_type* の既存名 *objectowner.objectname* と同一です。**

**説明:**
このデータベース・オブジェクトは、同じタイプで同じ名前を持つデータベース・オブジェクトがすでに存在するため、作成できません。 プロパティー・ファイルにあるように、次の値は、オブジェクトに有効です: *Table*、*Index*、*Nickname*、*Tablespace*、*Table owner*

**ユーザーの処置:**
DB2 にまだ存在していない名前をそのオブジェクトに指定して、レプリケーション・タスクを再発行してください。

---

**ASN1570E　データベース・オブジェクト *object*、*objectowner.objectname* は、存在しません。**

**説明:**
このデータベース・オブジェクトは DB2 カタログに存在しません。このオブジェクトは、サブスクリプション・セットのソースまたはターゲットとして定義するために、レプリケーション・アクションごとに存在している必要があります。 このオブジェクトは既存の登録またはサブスクリプション・セット定義の一部として定義された可能性がありますが、DB2 カタログの中で見つかりません。 プロパティー・ファイルにあるように、次の値は、オブジェクトに有効です: *Table*、 *Index*、 *Nickname*、 *Tablespace*、 *Table owner*、 *View*です。

**ユーザーの処置:**
DB2 にすでに存在している名前を指定して、レプリケーション・タスクを再発行してください。 オブジェクトが既存の登録またはサブスクリプション・セットの一部として定義された場合は、そのオブジェクトが DB2 カタログの中に存在するか確認してください。

---

**ASN1571E　データベース表 *tableowner.tablename* を作成できません。このデータベース定義は、データ・タイプ *datatype* と列 *column_name* では無効です。 理由コードは *reason_code*。**

**説明:**
以下は、有効な *reason code* の値です。

**0**　データ・タイプがこのプラットフォームでサポートされていません。

**1**　列の長さがこのプラットフォームでサポートされていません。

**2**　列の精度またはスケールがこのプラットフォームでサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
該当するデータベースの SQL リファレンスを参照してください。

---

**ASN1572E　タイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *objectowner.objectname* の行サイズ *row_size* が、そのデータベース・バッファー・プールの行サイズ *bufferpool_rowsize* を超えています。このデータベース・オブジェクトを作成できません。**

**説明:**
表の行サイズは、その表の表スペースのページ・サイズを超えることはできません。 表スペースのページ・サイズは、その表スペースが属しているバッファー・プールのページ・サイズから派生します。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
別の表スペースに表を作成する必要がある可能性があります。 ご使用の DB2 プラットフォームの資料を参照してください。

---

**ASN1573E** **タイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト*objectowner.objectname* の列数 *number_columns* が、データベースの限界 *db2_limit* を超えています。 このデータベース・オブジェクトを作成できません。**

**説明:**
データベース・オブジェクト (表または索引) に含められる列数は DB2 プラットフォームに依存しますが、事前定義の数を超えることはできません。 スクリプトは生成されません。 次の値がオブジェクト・タイプに有効です: *table*、*index*。

**ユーザーの処置:**
DB2 オブジェクトを設計し直してください。

---

**ASN1574E** **表スペース *tablespace_name* の DB2 ページ・サイズ *page_size* が無効です。理由コードは *reason_code*。**

**説明:**
表スペースを正常に作成するには、ページ・サイズが有効でなければなりません。以下は、有効な理由コードの値です。

**0** ページ・サイズが、指定されたバッファー・プールのページ・サイズと等しくない。

**1** ページ・サイズが、次のいずれとも等しくない: 4K、8K、16K、32K。

**ユーザーの処置:**
適切なページ・サイズの範囲または値については、「*DB2 SQL リファレンス*」を参照してください。

---

**ASN1575W** **DB2 表 *tableowner.tablename* は、DB2 デフォルト表スペースに作成されます。**

**説明:**
指定された表の作成場所を示す表スペース名が指定されていないため、この表は DB2 のデフォルト表スペースに作成されます。 指定された表に対してデフォルト表スペースが適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

**ユーザーの処置:**
DB2 デフォルトについては、「*SQL リファレンス*」を参照してください。表を独自の表スペースに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再発行してください。 デフォルトがこの表に適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

---

**ASN1576W** **DB2 索引 *index_name* は、DB2 デフォルト索引スペースまたは表スペースに作成されます。**

**説明:**
指定された索引が作成される表スペース (ワークステーション・オペレーティング・システムの場合) または索引スペース (z/OS オペレーティング・システムの場合) が指定されていません。 そのため、索引は DB2 デフォルトを使って作成されます。 指定された索引に対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

**ユーザーの処置:**
DB2 デフォルトについては、「*SQL リファレンス*」を参照してください。索引を独自の表スペースまたは索引スペースに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再発行してください。 デフォルトがこの索引に適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

---

**ASN1577W** **DB2 表スペース *tablespace* は、DB2 デフォルト・データベースに作成されます。**

**説明:**
z/OS オペレーティング・システムに対してだけ、指定された表スペースが作成されるデータベースが作成されていません。 そのため、表スペースは DB2 デフォルトを使って作成されます。 指定された表スペースに対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

**ユーザーの処置:**
DB2 デフォルトについては、「*SQL リファレンス*」を参照してください。表スペースを独自のデータベースに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再発行してください。 デフォルトがこの表スペースに適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

---

**ASN1578I** **DB2 表スペース *tablespace* は、DB2 デフォルト・ストレージ・グループに作成されます。**

**説明:**
ワークステーションと z/OS オペレーティング・システムに対してだけ、指定された表スペースが作成されるストレージ・グループが指定されていません。 そのため、表スペースは DB2 デフォルトを使って作成されます。 指定された表スペースに対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

**ユーザーの処置:**

DB2 デフォルトについては、「*SQL リファレンス*」を参照してください。表スペースを独自のストレージ・グループに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再発行してください。 デフォルトがこの表スペースに適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

---

**ASN1579I　　DB2 索引 *index_name* は、DB2 デフォルト・ストレージ・グループに作成されます。**

**説明:**
ワークステーションと z/OS オペレーティング・システムに対してだけ、DB2 索引が作成されるストレージ・グループが指定されていません。 そのため、DB2 は、デフォルト指定を使って索引を作成しました。 指定された索引に対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

**ユーザーの処置:**
DB2 デフォルトについては、「*SQL リファレンス*」を参照してください。索引を独自のストレージ・グループに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再発行してください。デフォルトがこの索引に適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

---

**ASN1580I　　DB2 表スペース *tablespace* は、DB2 デフォルト・バッファー・プールに作成されます。**

**説明:**
ワークステーションと z/OS オペレーティング・システムに対してだけ、指定された表スペースが作成されるバッファー・プールが指定されていません。 そのため、表スペースは DB2 デフォルトを使って作成されます。 指定された表スペースに対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

**ユーザーの処置:**
DB2 デフォルトについては、「*SQL リファレンス*」を参照してください。表スペースを独自のバッファー・プールに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再発行してください。デフォルトがこの表スペースに適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

---

**ASN1581I　　DB2 索引 *index_name* は、DB2 デフォルト・バッファー・プールに作成されます。**

**説明:**
ワークステーションと z/OS オペレーティング・システムに対してだけ、指定された索引が作成されるバッファー・プールが指定されていません。 そのため、索引は DB2 デフォルトを使って作成されます。 指定された索引に対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

**ユーザーの処置:**
DB2 デフォルトについては、「*SQL リファレンス*」を参照してください。索引を独自のバッファー・プールに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再発行してください。デフォルトがこの索引に適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

---

**ASN1582W　　表スペース *tablespace* は、バッファー・プール *buffer_pool* に作成されますが、このバッファー・プールは存在しないか、またはアクティブになっていません。**

**説明:**

- DB2 for z/OS データベースにあるアプリケーションの場合、指定された表スペースが作成されるバッファー・プールがアクティブになっていません。
- DB2 for Linux, UNIX, and Windows データベースにあるアプリケーションの場合、指定された表スペースが作成されるバッファー・プールが存在していません。

**ユーザーの処置:**

- DB2 for z/OS データベースの場合、スクリプトの実行時に、バッファー・プールがアクティブになっていることを確認してください。
- DB2 for Linux, UNIX, and Windows データベースの場合、スクリプトの実行時に、バッファー・プールが存在していることを確認してください。

---

**ASN1583E　　表スペース *tablespace* のページ・サイズ *page_size* が、デフォルトのバッファー・プール・ページ・サイズと一致しません。**

**説明:**
指定されたページ・サイズは、デフォルトのバッファー・プールのページ・サイズと一致しません。表スペースを作成できません。

**ユーザーの処置:**
ページ・サイズを変更するか、または別のバッファー・プールを選択してください。

**ASN1584E** **レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 キャプチャー・スキーマ *capture_schema* のキャプチャー・サーバー・レプリケーション・アーキテクチャー・レベル *arch_level* は、有効なアーキテクチャー・レベルではありません。**

**説明:**
captureschema.IBMSNAP_REGISTER で見つかったレプリケーション・アーキテクチャー・レベルでは、指定されたレプリケーション・アクションは許可されません。

**ユーザーの処置:**
このアーキテクチャー・レベルはサポートされていないため、キャプチャー・コントロール・サーバーにあるコントロール表を手動でドロップしてください。 有効なアーキテクチャー・レベルで、コントロール表を作成してください。

---

**ASN1585E** **レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 アプライ・コントロール・サーバーのレプリケーション・アーキテクチャー・レベル *arch_level* は、有効なアーキテクチャー・レベルではありません。**

**説明:**
ASN.IBMSNAP_SUBS_SET で見つかったレプリケーション・アーキテクチャー・レベルでは、指定されたレプリケーション・アクションは許可されません。

**ユーザーの処置:**
このアーキテクチャー・レベルはサポートされていないため、アプライ・コントロール・サーバーにあるコントロール表を手動でドロップしてください。 有効なアーキテクチャー・レベルで、コントロール表を作成してください。

---

**ASN1586W** **DB2 表 *tableowner.tablename* は、DB2 デフォルト・データベースに作成されます。**

**説明:**
z/OS オペレーティング・システムに対してだけ、指定された表が作成されるデータベースが作成されていません。 そのため、表は DB2 デフォルトを使って作成されます。 指定された表に対してデフォルト指定が適切でない場合、これは問題となる可能性があります。

**ユーザーの処置:**
DB2 デフォルトについては、「*SQL リファレンス*」を参照してください。表スペースを独自のデータベースに作成する必要がある場合は、適切な指定でレプリケーション・タスクを再発行してください。 デフォルトがこの表に適切である場合は、何のアクションも必要ありません。

---

**ASN1587E** **データベース・オブジェクト*object_name* のパラメーター *parameter_name* の値 *value* (タイプ *type*) は無効です。**

**説明:**
指定された値は無効であるか、または別のパラメーター値と競合します。

**ユーザーの処置:**
有効な値については、「SQL リファレンス」を参照してください。

---

**ASN1588E** **パラメーターのコード化スキームに指定された値 *encoding_scheme* は、DB2 サーバー *server_name* では無効です。**

**説明:**
コード化スキームに指定された値が、サーバーの DB2 バージョンでは無効です。スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
DB2 バージョンのコード化スキームの有効値については、「SQL リファレンス」を参照してください。

---

**ASN1589W** **表スペース *tspace* の表スペース・コンテナー *container* のサイズ計算で、誤ったコンテナー・サイズが算出されました。 そのため、コンテナー・サイズがサイズ *size* MB に変更されました。**

**説明:**
表スペース・コンテナーのサイズを計算した結果、有効な表スペース・コンテナー定義で使用するには小さすぎる値が算出されました。 その定義が DB2 に確実に受け入れられるように、表スペース・コンテナー定義に対してレプリケーション特定の最小コンテナー・サイズが指定されています。

**ユーザーの処置:**
現在のソース表サイズのパーセンテージを基にした計算の場合は、ソース表にデータが含まれているかチェックし、RUNSTATS ユーティリティーを使ってソース表の統計が最新かどうかを調べてください。 行数を基にした計算の場合は、行数が実際のものであるか調べてください。

---

**ASN1590E** **DB2 表スペース *table_sp_name* がパーティション化され、DB2 *object_type group* の中にあります。この表スペースはパーティション化してはならず、*object_type* IBMCATGROUP の中になければなりません。**

**説明:**
示された表スペースはパーティション表スペースであり、DB2 カタログ・ノード上またはパーティション・グループ上には常駐しません。 パーティション表スペースの中でのレプリケーション・コントロール表の作成はサポートされていません。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
パーティション化されていない表スペースを指定してください。

---

**ASN1600E** **リモート・サーバー *remote_server_name* が見つかりません。**

**説明:**
指定された SERVERNAME 値を持つ指定されたリモート・サーバー名は、フェデレーテッド・カタログ表 SYSIBM.SYSSERVERS に見つかりません。DB2 以外のリレーショナル・サーバーには、アクセスできません。

**ユーザーの処置:**
リモート・サーバー名に指定した入力を確認して、アクションを再試行してください。

---

**ASN1601E** **リモート・サーバー *remote_servername* に対するリモート認証情報が見つかりません。**

**説明:**
指定された SERVERNAME 値のリモート認証情報が、フェデレーテッド・カタログ表 SYSIBM.SYSUSEROPTIONS に見つかりません。 DB2 以外のリレーショナル・サーバーには、アクセスできません。

**ユーザーの処置:**
リモート・サーバー名に指定した入力を確認して、アクションを再試行してください。

---

**ASN1602E** **サーバー *server_alias* は、フェデレーテッド・サーバーへのアクセスをサポートしていません。**

**説明:**
フェデレーテッド・レプリケーション関数は、DB2 for Linux, UNIX, and Windows バージョン 8 およびそれ以降でのみサポートされます。

**ユーザーの処置:**
指定したデータベース・サーバーが正しいレベルであることを確認するか、またはレプリケーション・タスクをサポートしないサーバーに対してそのタスクを発行しないでください。

---

**ASN1603E** **アプライ・コントロール・サーバーは、DB2 リレーショナル以外のサーバーには常駐できません。**

**説明:**
DB2 以外のリレーショナル・サーバーは、キャプチャー・コントロール・サーバーまたはターゲット・サーバーとなることはできますが、アプライ・コントロール・サーバーにはなれません。

**ユーザーの処置:**
DB2 サーバーをアプライ・コントロール・サーバーと指定してください。

---

**ASN1604E** **リモート表 *remoteowner.tablename* は、DB2 リレーショナル・サーバー以外に存在しますが、指定されたニックネーム *nicknameowner.nickname* が、フェデレーテッド・サーバーに見つかりません。**

**説明:**
指定されたリモート表は、リモート・データベースに存在しますが、それに対応するニックネームがフェデレーテッド・データベースに見つかりません。

**ユーザーの処置:**

1. ニックネームを作成する方法の詳細は、DB2 インフォメーション・センターの『データ・ソースの構成』を参照してください。
2. フェデレーテッド・データベースにニックネームを作成します。
3. 再度、レプリケーション・タスクを発行します。

---

**ASN1605E** **ニックネーム *nicknameowner.nickname* は、フェデレーテッド・サーバーに存在しますが、リモート表 *remoteowner.remotetable* が、DB2 リレーショナル・サーバー以外のサーバーに見つかりません。**

**説明:**
指定されたリモート表のニックネームは存在しますが、それに対応するリモート表がリモート・データベースに存在しません。

**ユーザーの処置:**

1. ニックネームをドロップします。

2. 表タイプに応じて、以下のアクションを実行します。
   - 表がユーザー表の場合は、リモート・サーバーにそのリモート表を作成します。
   - 表がキャプチャー・コントロール・サーバー上のレプリケーション・コントロール表である場合は、以下のアクションを実行します。
     a. キャプチャー・コントロール・サーバー上の既存のコントロール表からデータをコピーします。
     b. キャプチャー・コントロール・サーバー上のコントロール表をドロップします。
     c. キャプチャー・コントロール・サーバー上にコントロール表を作成します。
3. フェデレーテッド・サーバーにニックネームを作成します。
4. 再度、レプリケーション・タスクを発行します。

---

**ASN1606W** **ニックネーム** *nickname_owner.nickname_name* **はフェデレーテッド・サーバーに存在しますが、リモート表** *table_owner.table_name* **が、IBM 以外のサーバーに見つかりません。**

**説明:**
指定されたリモート表のニックネームは存在しますが、それに対応するリモート表がリモート・データベースに存在しません。これは孤立したニックネームですが、この不整合な状態は、レプリケーション定義をドロップする際には問題ありません。 スクリプトが生成されました。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション定義を作成する際に、ソース・ニックネームがドロップされていません。カタログの整合性を維持するために、ニックネームをドロップしてください。

---

**ASN1607W** **列** *column_name* **のローカル・データ・タイプを** *existing_local_datatype* **から** *recommended_local_datatype* **に変更して、列データ・タイプのソースからターゲットへのマッピングが正しく行われるようにするために、レプリケーション・サブスクリプション・ターゲットに対して定義されたニックネーム** *nickname_owner.nickname_name* **を変更するよう強くお勧めします。**

**説明:**
ソース列のデータ・タイプとそれに対応するニックネーム・ターゲット列データ・タイプとの間でミスマッチが見つかりました。これは DB2 互換性規則に違反していませんが、ネイティブの、IBM 以外のエンド・ユーザー・アプリケーションに問題が発生する可能性があります。列データのレプリケーション中は、問題は発生しません。 問題は、エンド・ユーザーがデータを検索するときに発生します。 例えば、DB2 以外のリレーショナル・データ・タイプから DB2 データ・タイプへのデフォルト・マッピングを使って、ニックネーム・データ・タイプが作成されている場合、その列にはデータ・タイプ値のブロードキャスト範囲が保留されます。これにより、エンド・ユーザー・アプリケーションの、より厳密な制限のあるデータ・タイプの要件との競合が発生する可能性があります。 スクリプトが生成されました。

**ユーザーの処置:**
ターゲットをチェックして、ターゲットに必要なニックネーム・データ・タイプが、間違いなくソース列のデータ・タイプであることを確認してください。 そうであることが確認できたら、ALTER NICKNAME ステートメントを発行して、ニックネーム列のローカル・データ・タイプを変更してください。ニックネームのローカル・データ・タイプをソース列のデータ・タイプと同じに変更すると、DB2 以外のリレーショナル・サーバー上のエンド・ユーザー・アプリケーションに対して、ソース列のデータ・タイプと同じデータ・タイプの表示が強制されます。

---

**ASN1608I** **ソースのニックネーム** *source_nickname* **と、整合した変更データ (CCD) 表のニックネーム** *ccd_nickname* **は、変更された列データ・タイプを持っています。リモート・データ・タイプが** *remote_datatype* **であるため、ローカル・データ・タイプ列** *local_datatype* **は、***changed_datatype* **に設定されています。理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
CCD 表にニックネームを作成すると、そのニックネームは、DB2 以外のリレーショナル・サーバーで作成された CCD 表のデータ・タイプに基づいて、適正なデータ・タイプが設定されるように変更されます。レプリケーション管理ツールで指定された定義を更新するスクリプトが生成されます。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション更新が受け入れ可能であれば、何のアクションも必要ありません。

---

**ASN1609E** **ニックネーム** *nicknameowner.nickname* **はフェデレーテッド・サーバーに存在しますが、リモート表** *remoteowner.remotetable* **に必要な列がすべて含まれていません。**

**説明:**
ターゲット表のニックネームは存在しますが、サブスクリプションで要求される列のサブセットしか含まれていません。

**ユーザーの処置:**
ターゲット表に別のニックネームを使うか、または既存のニックネームの列と一致するように、サブスクリプションを変更してください。

---

**ASN1620E** **キャプチャー・コントロール表と、アプライ・コントロール表の両方が、すでに存在します。キャプチャー・コントロール表は、アーキテクチャー・レベル** *capture_arch_level* **とキャプチャー・スキーマ** *capture_schema* **で存在します。アプライ・コントロール表は、アーキテクチャー・レベル** *apply_arch_level* **で存在します。**

**説明:**
指定されたサーバーにこのキャプチャー・スキーマの IBMSNAP_REGISTER 表と ASN.IBMSNAP_SUBS_SET 表がすでに存在します。

**ユーザーの処置:**

- このキャプチャー・スキーマの既存の IBMSNAP_REGISTER 表のアーキテクチャー・レベルが 0201 の場合:
  - IBMSNAP_REGISTER 表に、有効なレプリケーション定義がすでに設定されている場合は、キャプチャー・コントロール表をレプリケーションによってサポートされている最新のバージョンにマイグレーションします。
  - IBMSNAP_REGISTER 表が空の場合は、キャプチャー・コントロール表の古いバージョンをドロップして、レプリケーション・タスクを再度発行します。
- 既存のキャプチャー・コントロール表のアーキテクチャー・レベルがバージョン 8 以降で、そのバージョンがユーザーの意図するアーキテクチャー・レベルである場合は、別のキャプチャー・スキーマ名を使ってキャプチャー・コントロール表を作成してみてください。
- 既存の ASN.IBMSNAP_SUBS_SET 表のアーキテクチャー・レベルが 0201 の場合:
  - ASN.IBMSNAP_SUBS_SET 表に、有効なレプリケーション定義がすでに設定されている場合は、アプライ・コントロール表をレプリケーションによってサポートされている最新のバージョンにマイグレーションします。
  - ASN.IBMSNAP_SUBS_SET コントロール表が空の場合は、アプライ・コントロール表の古いバージョンをドロップして、レプリケーション・タスクを再度発行します。
- 既存のアプライ・コントロール表のアーキテクチャー・レベルがバージョン 8 以降で、そのバージョンがユーザーの意図するアーキテクチャー・レベルである場合は、別のサーバーにアプライ・コントロール表を作成してみてください。

---

**ASN1621W** **少なくとも 1 行がコントロール表** *table_owner-table_name* **に見つかりました。このコントロール表をドロップすると、その表に保管されているすべてのレプリケーション定義がドロップされます。**

**説明:**
ドロップ要求で選択されるレプリケーション・スキーマのコントロール表は空ではありません。生成されたスクリプトが実行されると、レプリケーション・コントロール情報が削除されます。

**ユーザーの処置:**
次の場合にのみ、生成されたスクリプトを実行してください。

- キャプチャー・コントロール・サーバーからコントロール表をドロップした場合の、従属する既存のサブスクリプション・セットに対する影響を理解する。
- アプライ・コントロール・サーバーからコントロール表をドロップした場合の、(multi-tier シナリオに対する) 既存の従属するサブスクリプション・セットに対する影響を理解する。
- レプリケーションに、これらの定義に対するキャプチャーまたはアプライ・プロセスをこれ以上実行させたくない。

アーキテクチャー・レベルが 0201 の場合は、コントロール表をドロップする前に、キャプチャーまたはアプライ・コントロール表を最新のアーキテクチャー・レベルにマイグレーションしてください。

---

**ASN1622E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **はエラー終了しました。 必要なコントロール表** *controlowner.controltable* **が見つかりません。**

**説明:**
レプリケーション定義は、レプリケーション・コントロール表に保管されています。登録またはサブスクリプション定義の作成前に、これらの表が存在している必要があります。 IBMSNAP_REGISTER 表の存在は、特定のキャプチャー・スキーマに対して、キャプチャー・コントロール・サーバーのコントロール表がすでに存在するかどうかをチェックするために使用されます。
IBMSNAP_SUBS_SET 表の存在は、アプライ・コントロール・サーバー上のコントロール表がすでに存在するかどうかをチェックするために使用されます。
IBMSNAP_SUBS_MEMBR の存在は、サブスクリプション・メンバーの存在をチェックする際にチェックされます。

**ユーザーの処置:**
コントロール表 IBMSNAP_SUBS_MEMBR 表が存在しない場合は、ご使用環境が不整合の状態にあります。アプライ・コントロール・サーバーからすべてのコントロール表をドロップし、それをすべて作成した後でアクションを試行してください。

または、コントロール表 IBMSNAP_REGISTER または IBMSNAP_SUBS_SET が存在しない場合は、登録またはサブスクリプション定義をコントロール・サーバーに追加する前に作成してください。 それ以外に、以下のことを実行できます。

1. 登録に関連するアクションを実行する場合は、適切なキャプチャー・スキーマが指定されているかどうか、または適切なキャプチャー・コントロール・サーバーが入力データとして指定されているかどうかをチェックします。
2. サブスクリプションに関連するアクションを実行する場合は、適切なアプライ・コントロール・サーバーが入力データとして指定されているかどうかをチェックします。
3. ターゲット・サーバー (CCD またはレプリカ) での自動登録が必要なターゲット表の含まれたサブスクリプション・セットを作成する場合は、キャプチャー・コントロール・サーバーに対する適切なコントロール表が、サブスクリプション・ターゲット・サーバーに存在するかどうかをチェックします。

---

**ASN1623W　レプリケーション・コントロール表 *controlowner.controltable* が見つからず、ドロップされていません。**

**説明:**
*Drop Capture control tables* または *Drop Apply control server control tables* アクションが発行されましたが、コントロール表が欠落していました。 スクリプトは、そのコントロール表に対して適切な DROP ステートメントを生成しません。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1624I　サーバー *server_alias* は、*capture_schema* に対する既知のレプリケーション・キャプチャー・サーバーではありません。**

**説明:**
captureschema.IBMSNAP_REGISTER 表が見つかりません。 サーバーは、適切なキャプチャー・サーバーのコントロール表 (IBMSNAP_REGISTER 表を含む) がサーバーに存在するときに、レプリケーション・キャプチャー・サーバーとして定義されます。

**ユーザーの処置:**
必要であれば、適切なキャプチャー・サーバー・コントロール表を作成してください。

---

**ASN1625I　サーバー *server_alias* は、既知のレプリケーション・アプライ・コントロール・サーバーではありません。**

**説明:**
ASN.IBMSNAP_SUBS_SET 表が見つかりませんでした。 サーバーは、適切なアプライ・コントロール・サーバーのコントロール表 (IBMSNAP_SUBS_SET 表を含む) がサーバーに存在するときに、レプリケーション・アプライ・コントロール・サーバーとして定義されます。

**ユーザーの処置:**
必要であれば、アプライ・コントロール・サーバーに適切なコントロール表を作成してください。

---

**ASN1626E　キャプチャー・サーバーのコントロール表は、同じキャプチャー・スキーマのアーキテクチャー・レベル *arch_level* に対してすでに存在しています。**

**説明:**
表 captureschema.IBMSNAP_REGISTER は、すでに指定されたサーバーに存在します。

**ユーザーの処置:**

- 既存の captureschema.IBMSNAP_REGISTER 表のアーキテクチャー・レベルが *0801* または *0805* の場合は、以下のオプションを考慮してください。
  - 同じキャプチャー・スキーマに表がすでに存在するため、コマンドの実行は必要ありません。

  - 別のキャプチャー・スキーマでコマンドを実行します。
- 既存の captureschema.IBMSNAP_REGISTER コントロール表のアーキテクチャー・レベルが *0201* の場合:
  - 既存の captureschema.IBMSNAP_REGISTER に、有効なレプリケーション定義がすでに設定されている場合は、キャプチャー・コントロール・サーバーのコントロール表をバージョン 8 アーキテクチャーにマイグレーションします。
  - コントロール表が空の場合は、単純に V8 より前のキャプチャー・サーバーのコントロール表をドロップして、再度レプリケーション・タスクを発行します。

  そうでない場合、アーキテクチャー・レベルは無効です。 表の作成を試行する前に、表を手動でドロップする必要があります。

---

**ASN1627E　いくつかのキャプチャー・サーバーのコントロール表がすでに同じキャプチャー・スキーマに存在しますが、それに対するアーキテクチャー・レベルを判別できません。**

**説明:**
指定されたサーバーで他のキャプチャー・サーバーのコントロール表が見つかりましたが、表 captureschema.ASN.IBMSNAP_REGISTER は存在しません。キャプチャー・サーバーのコントロール表は、これらの表がドロップされるまで作成できません。キャプチャー・サーバーのレプリケーション定義は、不整合状態です。

**ユーザーの処置:**
残りのキャプチャー・サーバーのコントロール表をドロップして、キャプチャー・コントロール・サーバー定義をクリーンアップし、コントロール表の作成タスクを再発行してください。 データの逸失が発生するため、Drop タスクの発行前に、残りのコントロール表の内容を確認してください。

---

**ASN1628E　キャプチャー・サーバーのコントロール表が、必要なアーキテクチャー・レベルにありません。**

**説明:**
表 captureschema.IBMSNAP_REGISTER は、指定されたアーキテクチャー・レベルで存在しません。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
適切なキャプチャー・コントロール・サーバーとキャプチャー・スキーマに適切なアーキテクチャー・レベルで、再度レプリケーション・タスクを発行してください。

---

**ASN1629E　指定されたキャプチャー・スキーマに対するキャプチャー・サーバーのコントロール表が見つかりません。**

**説明:**
キャプチャー・コントロール表にコントロール表が存在しません。 コントロール表はドロップされず、スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
適切なキャプチャー・コントロール・サーバーとキャプチャー・スキーマに適切なアーキテクチャー・レベルで、再度レプリケーション・タスクを発行してください。

---

**ASN1630W　いくつかのキャプチャー・サーバーのコントロール表が既にキャプチャー・スキーマ *capture_schema* に存在しますが、そのアーキテクチャー・レベルを判別できません。指定されたアーキテクチャー・レベル *arch_level* に対するレプリケーション・アクション *action_name* とキャプチャー・スキーマは、指定されたアーキテクチャー・レベルに属していない可能性のあるコントロール表をドロップします。**

**説明:**
IBMSNAP_REGISTER 表はキャプチャー・サーバーに存在しません。レプリケーション・アーキテクチャー・レベルは不明であり、誤ったアーキテクチャー・レベルを指定すると、重要なデータが失われる可能性があります。 キャプチャー・コントロール表の特定のアーキテクチャー・レベルを推論できるかどうかを判別するためのチェックは行われません。コントロール表が存在する場合は、ドロップされます。スクリプトが生成されました。

**ユーザーの処置:**
レプリケーションに適切なアーキテクチャー・レベルで、再度タスクを発行してください。

---

**ASN1631E　アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表は、アーキテクチャー・レベル *arch_level* に対してすでに存在します。**

**説明:**
表 ASN.IBMSNAP_SUBS_SET は、すでに指定されたサーバーに存在します。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
既存の ASN.IBMSNAP_SUBS_SET コントロール表のアーキテクチャー・レベルが *0201* の場合:

- 既存の ASN.IBMSNAP_SUBS_SET に、有効なレプリケーション定義がすでに設定されている場合は、アプ

ライ・コントロール・サーバーのコントロール表をバージョン 8 アーキテクチャーにマイグレーションしてください。

- 表が空の場合は、単に V8 より前のアプライ・コントロール・サーバーのコントロール表をドロップして、レプリケーション・タスクを再度発行します。

そうでない場合、アーキテクチャー・レベルは無効です。 表の作成を試行する前に、表を手動でドロップする必要があります。

---

**ASN1632E　いくつかのアプライ・コントロール・サーバーのコントロール表がすでに存在しますが、それに対するアーキテクチャー・レベルを判別できません。**

**説明:**
指定されたサーバーで他のアプライ・コントロール・サーバーのコントロール表が見つかりましたが、表 ASN.IBMSNAP_SUBS_SET は存在しません。 アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表は、これらの表がドロップされるまで作成できません。 アプライ・コントロール・サーバーのレプリケーション定義は、不整合状態です。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
アプライ・コントロール・サーバーにある残りのコントロール表をドロップして、アプライ・コントロール・サーバーのレプリケーション定義をクリーンアップしてください。 *Create control table* タスクを再発行してください。 データの逸失が発生するため、*Drop* タスクの発行前に、残りのコントロール表の内容を確認してください。

---

**ASN1633E　アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表は、要求されたアーキテクチャー・レベルにありません。**

**説明:**
表 ASN.IBMSNAP_SUBS_SET は、指定されたアーキテクチャー・レベルで存在しません。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
適切なアプライ・コントロール・サーバーに適切なアーキテクチャー・レベルで、再度レプリケーション・タスクを発行してください。

---

**ASN1634E　アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表が見つかりませんでした。**

**説明:**
アプライ・コントロール・サーバーからドロップするコントロール表がありません。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
適切なアプライ・コントロール・サーバーに適切なアーキテクチャー・レベルで、再度レプリケーション・タスクを発行してください。

---

**ASN1635W　いくつかのアプライのコントロール表がすでに存在しますが、そのアーキテクチャー・レベルを判別できません。 指定されたアーキテクチャー・レベル *arch_level* に対するレプリケーション・アクション *action_name* は、指定されたアーキテクチャー・レベルに属していない可能性のあるコントロール表をドロップします。**

**説明:**
表 ASN.IBMSNAP_SUBS_SET は、アプライ・コントロール・サーバーに存在しません。レプリケーション・アーキテクチャー・レベルは不明であり、誤ったアーキテクチャー・レベルを指定すると、重要なデータが失われる可能性があります。 特定のアプライ・コントロール・サーバーのコントロール表のアーキテクチャー・レベルを推論できるかどうかを判別するためのチェックは行われません。 コントロール表が存在する場合は、ドロップされます。スクリプトが生成されました。

**ユーザーの処置:**
レプリケーションに適切なアーキテクチャー・レベルで、再度タスクを発行してください。

---

**ASN1636E　アプライ修飾子 *apply_qual* とセット名 *set_name* に対する手動フル・リフレッシュのレプリケーション・アクションが、エラー終了しました。 ソース・メンバー *sourceowner.sourcetable* とターゲット・メンバー *targetowner.target_table* の *capschema*.IBMSNAP_PRUNCNTL 表の同期点が、キャプチャー・プログラムによって変換されていません。**

**説明:**
同期点が 0 より小さいか、または16 進のゼロと等しくなっています。

**ユーザーの処置:**
ロード前のスクリプトを実行して 16 進のゼロを変換し、キャプチャーがサーバーで実行されていることを確認してください。

---

**ASN1637E** **アプライ修飾子 *apply_qualifier* およびセット名 *set_name* に対するレプリケーション・アクション '手動フル・リフレッシュ' はエラー終了しました。 指定されたサブスクリプション・セットの中のターゲット・サブスクリプション・セット・メンバーの少なくとも 1 つのターゲット構造が 8 より大です。 いずれのサブスクリプション・セット・メンバーも、手動フル・リフレッシュの実行資格を持っていません。**

**説明:**
指定されたサブスクリプション・セットの中のターゲット・サブスクリプション・セット・メンバーの少なくとも 1 つのターゲット構造が 8 より大です。 手動フル・リフレッシュは、8 より大きいターゲット構造をサポートしていません。

**ユーザーの処置:**
サブスクリプション・セット・メンバーのターゲット構造が 8 以下であることを確認して、レプリケーション・タスクを再発行してください。

---

**ASN1638W** **ターゲット *targetowner.targetname* とソース *sourceowner.sourcename* を持つサブスクリプション・セット・メンバーが完全ではありません。 このサブスクリプション・セット・メンバーは、手動フル・リフレッシュに含まれません。**

**説明:**
手動フル・リフレッシュは、完全なターゲットのみをサポートします。 指定されたサブスクリプション・セット・メンバーは完全でないため、含められません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**ASN1639E** **アプライ修飾子 *apply_qualifier* およびセット名 *set_name* に対するレプリケーション・アクション '手動フル・リフレッシュ' はエラー終了しました。 指定されたサブスクリプション・セットのいずれのターゲット・サブスクリプション・セット・メンバーも、完全ではないか、または手動フル・リフレッシュの実行資格を持っていません。**

**説明:**
手動フル・リフレッシュは、完全なターゲットのみをサポートしますが、ターゲットのいずれも完全ではありません。

**ユーザーの処置:**
サブスクリプション・セット内のサブスクリプション・セット・メンバーの少なくとも 1 つが完全であることを確認して、レプリケーション・タスクを再発行してください。

---

**ASN1640E** **アプライ修飾子 *apply_qualifier* およびセット名 *set_name* に対するレプリケーション・アクションがエラー終了しました。サブスクリプション・セットにサブスクリプション・セット・メンバーが存在しません。**

**説明:**
このサブスクリプション・セットには、サブスクリプション・セット・メンバーがまったく含まれていません。

**ユーザーの処置:**
少なくとも 1 つのサブスクリプション・セット・メンバーをサブスクリプション・セットに追加して、レプリケーション・タスクを再発行してください。

---

**ASN1641E** **レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 OS/400 システム上では、このアクションは OS/400 コマンドを使用する場合にのみサポートされます。**

**説明:**
レプリケーション・センターとコマンド行は、どちらも OS/400 システムでレプリケーション・アクションをサポートしません。 可能なアクションは、キャプチャー・サーバー・コントロール表の作成、アプライ・サーバー・コントロール表の作成、キャプチャー・サーバー・コントロール表のドロップ、またはアプライ・サーバー・コントロール表のドロップです。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション・アクションを実行するための OS/400 コマンドを発行してください。

---

**ASN1650I** **レプリケーション・アクション *action_name* が、*timestamp* に開始されました。 モニター・サーバーは *server_name* で、*Group_or_Contact* の名前は *group_name_or_contact_name* です。**

**説明:**
レプリケーション・アクションが、示されたモニター・サーバーで開始されました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1653I** *group_contact_or_condition_name* **に対するレプリケーション・アクション** *action_name* **は、***timestamp* **に、正常に終了しました。 モニター・サーバーは** *server_name* **です。**

**説明:**
レプリケーション・アクションが、示されたモニター・サーバーで正常に終了しました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1654E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **はエラー終了しました。 入力パラメーター** *parameter-name* **の長さ** *parameter_length* **が、限界** *maximum-limit* **を超えています。**

**説明:**
示された入力パラメーターの長さが、許容最大長を超えています。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
入力パラメーター値を確認し、パラメーター値を再入力してください。

---

**ASN1655E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **はエラー終了しました。 入力パラメーター** *input_parameter* **の値** *input_value* **が誤っています。**

**説明:**
示された入力パラメーターの値が誤っています。

**ユーザーの処置:**
有効なパラメーター値については、ご使用の資料を参照してください。

---

**ASN1656E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **はエラー終了しました。 入力パラメーター** *input_parameter* **の値がありません。**

**説明:**
このアクションでは、ここに示された入力パラメーターの値は必須ですが、その値がありません。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
この必須入力パラメーターに値を入力し、レプリケーション・アクションを再実行してください。

---

**ASN1657E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **はエラー終了しました。 少なくとも 1 つのオプション・パラメーターを指定する必要があります。**

**説明:**
各パラメーター値がオプションのコマンドを発行するときは、少なくとも 1 つのオプション・パラメーターを指定しなければなりません。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
正しいパラメーターを指定してコマンドを再発行してください。

---

**ASN1658E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **はエラー終了しました。 入力パラメーター** *input_parameter1* **の値** *value1* **は、 入力パラメーター** *input_parameter2* **の値** *value2* **と異なっている必要があります。**

**説明:**
1 つの入力パラメーターの値が別の入力パラメーターの値と同じであるために、矛盾した定義が作成されました。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
有効なパラメーター値を指定してコマンドを再発行してください。

---

**ASN1659E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **はエラー終了しました。 連絡先** *contact-name* **はすでに存在します。**

**説明:**
示された連絡先名は、ASN.IBMSNAP_CONTACTS 表の行の 1 つにすでに存在しています。 連絡先名は固有でなければなりません。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
異なる連絡先名を指定してコマンドを再発行してください。

---

**ASN1660E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **はエラー終了しました。 連絡先** *contact-name* **が存在しません。**

**説明:**
示された連絡先名は、ASN.IBMSNAP_CONTACTS 表のどの行にも存在していません。
ASN.IBMSNAP_CONTACTS 表に連絡先名が存在していないと、その名前の変更、置換、代行者指定、またはドロップはできません。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
異なる連絡先名を指定してコマンドを再発行してください。

---

**ASN1661E** **レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 連絡先 *contact-name* は、この連絡先をドロップすると各関連グループが空になるためにドロップできません。**

**説明:**
1 つのグループには、少なくとも 1 つの関連連絡先がなければなりません。 示された連絡先は各関連グループの最後の連絡先であるため、ドロップできません。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
各関連グループをドロップしてから、この連絡先をドロップしてください。

---

**ASN1662E** **レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 連絡先 *contact-name* は、この連絡先が 1 つまたは複数の条件と関連しているためにドロップできません。**

**説明:**
ドロップしようとしている連絡先名は、キャプチャー・コンポーネントまたはアプライ・コンポーネントに関する条件に関連した、唯一の連絡先です。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
DROP CONTACT コマンドの SUBSTITUTE オプションを使用するか、またはSUBSTITUTE コマンドを使用して、条件の連絡先名を変更してください。 その条件が不要な場合は、条件をドロップしてから連絡先をドロップしてください。

---

**ASN1663E** **レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 開始日に対して指定された値 *startdate_value* は、終了日に対して指定された値 *enddate_value* を超えています。**

**説明:**
終了日を超える開始日は入力できません。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
有効な日付の組み合わせを指定して、コマンドを再発行してください。

---

**ASN1664E** **レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 グループ *group-name* はすでに存在します。**

**説明:**
示されたグループ名は、ASN.IBMSNAP_GROUPS 表の行の 1 つにすでに存在しています。 グループ名は固有でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
グループ名を変更して、コマンドを再発行してください。

---

**ASN1665E** **レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 グループ *group_name* が存在しません。**

**説明:**
示されたグループ名は、ASN.IBMSNAP_GROUPS 表のどの行にも存在していません。
ASN.IBMSNAP_GROUPS 表にグループ名が存在していないと、そのグループ名の変更またはドロップはできません。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
グループ名を確認して、コマンドを再発行してください。

---

**ASN1666E** **レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 グループ *group_name* は、このグループが 1 つまたは複数の条件と関連しているためにドロップできません。**

**説明:**
ドロップしようとしているグループは、キャプチャー・コンポーネントまたはアプライ・コンポーネントに関する条件に関連した、唯一のグループです。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
このグループをドロップするには、関連した条件の連絡先を変更してから、コマンドを再発行してください。

---

**ASN1667E** **レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 連絡先 *contact-name* は、指定されたグループ *group_name* と関連していません。**

**説明:**
ドロップしようとしている連絡先名は、示されたグループと関連していません。

**ユーザーの処置:**

示された連絡先名を確認して、コマンドを再発行してください。

---

**ASN1668E　レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 連絡先 *contact-name* は、指定されたグループ *group_name* とすでに関連しています。**

**説明:**
指定した連絡先名は、示されたグループとすでに関連しています。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**ASN1671E　レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 モニター修飾子 *mon-qual*、サーバー *server-name*、スキーマまたは修飾子 *schema-or-qualifier*、およびサブスクリプション・セット名 *set-name* に対して、アラート条件 *condition-name* がすでに存在します。**

**説明:**
作成しようとしているアラート条件は、示されたパラメーターに対して、モニター・コントロール・サーバー上にすでに存在しています。

**ユーザーの処置:**
このアラート条件を確認して、コマンドを再発行してください。

---

**ASN1672E　レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 モニター修飾子 *mon-qual*、サーバー *server-name*、スキーマまたは修飾子 *schema-or-qualifier*、およびサブスクリプション・セット名 *set-name* に対して、アラート条件 *condition-name* が存在しません。**

**説明:**
ドロップまたは変更しようとしているアラート条件が、モニター・コントロール・サーバー上に存在していません。

**ユーザーの処置:**
アラートの名前を確認して、コマンドを再発行してください。

---

**ASN1673W　条件 *condition_name* は、アプライ修飾子レベルでのみ有効です。**

**説明:**
この条件名は、サブスクリプション・セット名の値では無効です。 サブスクリプション・セットの名前は無視されます。

**ユーザーの処置:**
サブスクリプション・セットの値を指定しないでください。

---

**ASN1674W　条件 *condition_name* は、Update-anywhere サブスクリプション・セットでのみ有効です。**

**説明:**
この条件名は、Update-anywhere サブスクリプション・セットでのみ有効です。

**ユーザーの処置:**
この条件を設定しないでください。 この条件は無視されます。

---

**ASN1675I　これはレプリケーション・センターからのテスト・メッセージです。**

**説明:**
このメッセージは、連絡先に入力された E メール・アドレスを検証する、テスト用の E メールに使用されます。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1677E　レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 アプライ修飾子 *apply-qual* とサブスクリプション・セット名 *set-name* は、サーバー *server-name* に存在しません。**

**説明:**
このアプライ修飾子とサブスクリプション・セットが、示されたアプライ・コントロール・サーバー上の IBMSNAP_SUBS_SET 表の中に存在していません。

**ユーザーの処置:**
有効なアプライ修飾子と有効なサブスクリプション・セット名を指定してください。

---

**ASN1678E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **はエラー終了しました。 キャプチャー・スキーマ** *cap-schema* **は、サーバー** *server-name* **に存在しません。**

**説明:**
このキャプチャー・スキーマは、示されたキャプチャー・コントロール・サーバー上の ASN.IBMSNAP_CAPSCHEMAS 表の中に存在していません。

**ユーザーの処置:**
有効なキャプチャー・スキーマを指定してください。

---

**ASN1679E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **はエラー終了しました。 置換しようとした連絡先** *contact_name* **は、条件と関連していません。**

**説明:**
この連絡先名は ASN.IBMSNAP_CONDITIONS 表の中に存在していません。 連絡先は、ASN.IBMSNAP_CONDITIONS 表の中に存在している場合にのみ置換できます。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
有効な連絡先名を指定してください。

---

**ASN1680I** **レプリケーション・アクション** *action_name* **は、** *time* **に開始されました。モニター・サーバーは** *server_name* **です。**

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**ASN1681E** **モニター・サーバーの作成要求が失敗しました。アーキテクチャー・レベル** *arch_level* **のモニター・コントロール表はすでに存在します。**

**説明:**
モニター・コントロール表は、指定されたサーバーにすでに存在しています。 SQL スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
既存のモニター・コントロール表のレベルが古い場合:

- 既存のモニター・コントロール表に、有効なレプリケーション定義がすでに設定されている場合は、モニター・コントロール表をレプリケーションによってサポートされている最新のバージョンにマイグレーションします。
- ASN.IBMSNAP_ALERTS 表および ASN.IBMSNAP_CONDITIONS 表が空の場合は、古いバージョンのモニター・コントロール表をドロップして、レプリケーション・タスクを再度発行します。

そうでない場合、アーキテクチャー・レベルは無効です。 表の作成を試行する前に、表を手動でドロップする必要があります。

ASN.IBMSNAP_MONPARMS 表の ARCH_LEVEL 列に保管されている既存のモニター・コントロール表のアーキテクチャー・レベルがレプリケーションによってサポートされる最新レベルの場合、その表はすでに存在しているため、コマンドを実行する必要はありません。

---

**ASN1682E** **レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。 モニター・コントロール表が見つかりませんでした。**

**説明:**
ドロップするモニター・コントロール表がありません。スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
モニター・コントロール表を含む適切なサーバーに対して、レプリケーション・タスクを再発行してください。

---

**ASN1683E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **はエラー終了しました。 指定されたキャプチャー・スキーマによる行は、キャプチャー・コントロール表がそのキャプチャー・スキーマの下に存在しなくても、すでに ASN.IBMSNAP_CAPSCHEMAS 表で検出されています。**

**説明:**
IBMSNAP_CAPSCHEMAS 表には、″キャプチャー・サーバー・コントロール表の作成″ アクションに対する入力として指定されたキャプチャー・スキーマ値がすでに含まれています。キャプチャー・スキーマ値は固有でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
キャプチャー・スキーマ・フィールドに正しい値を指定していることを確認し、 IBMSNAP_CAPSCHEMAS 表から指定されたキャプチャー・スキーマが含まれる行を削除してください。 タスクを再発行してください。

---

**ASN1684W** **レプリケーション・コントロール表 *controlowner.control_table* に対するニックネーム *nicknameowner_nickname* が、フェデレーテッド・データベースで見つかりませんでした。**

**説明:**
すでにドロップまたは削除されたレプリケーション・コントロール表のニックネームをドロップしようとしました。そのため、生成されたスクリプトには、このニックネームの DROP ステートメントが含まれていません。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1685W** **タイプ *object_type* のオブジェクト *objectowner.object_name* が、非 DB2 リレーショナル・サーバーで見つかりませんでした。**

**説明:**
すでにドロップまたは削除されたレプリケーション・オブジェクトをドロップしようとしました。そのため、生成されたスクリプトには、このレプリケーション・オブジェクトの DROP ステートメントが含まれていません。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1686E** **非 DB2 リレーショナル・オブジェクト *object_name* に対する名前の長さ *length* が、許可されている限度 *allowed_limit* を超えています。**

**説明:**
実際のオブジェクトに対して許可されている最大長より長い DB2 以外のオブジェクト名が指定されました。

**ユーザーの処置:**
ご使用のデータベースの「SQL リファレンス」を参照してください。

---

**ASN1687E** **レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 表スペース *tablespace_name* が、IBMCATGROUP ノード・グループに属していません。**

**説明:**
指定された表スペースが、デフォルトの IBMCATGROUP ノード・グループに属していません。レプリケーション・アクションは現在このノード・グループをサポートしていません。

**ユーザーの処置:**
表スペース名を確認して、コマンドを再発行してください。

---

**ASN1688E** **レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 指定された表スペース・オプション *tableowner.tablename* が無効です。**

**説明:**
コントロール表を作成するときに、表スペースをカスタマイズすることができます。既存の表スペース、また新規に表スペース、あるいは、同じセッションで、以前に別のコントロール表用に既に指定された表スペースを使用することができます。これらの表スペース・オプションで指定された値はあいまいです。 これらの表スペース・オプションに対して指定された値がないか、または複数の値が指定されています。

**ユーザーの処置:**
表スペースのオプションの値を確認して、タスクを再発行してください。

---

**ASN1689E** **レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 モニター修飾子 *monitor_qualifier_name*、サーバー *capture_or_apply_server* およびスキーマまたは修飾子 *schema_or_qualifer* に対してアラート条件が存在しません。**

**説明:**
指定されたモニター修飾子、キャプチャーまたはアプライ・コントロール・サーバーおよびスキーマまたはアプライ修飾子に対してアラート条件が定義されていません。

**ユーザーの処置:**
モニター修飾子、キャプチャーまたはアプライ・コントロール・サーバーおよびスキーマまたはアプライ修飾子に対して、少なくとも 1 つのアラート条件を定義してください。

---

**ASN1700E** **データ・タイプ *data_type* の列 *tableowner.tablename.columnname* は、登録に組み込めません。 理由コードは *reason_code*。**

**説明:**
この列は、定義されているように、レプリケーション・キャプチャー・プログラムでサポートできません。 指定された列を登録するためのスクリプトは生成されません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** データ・タイプがサポートされていません。

**1** この列はすでに登録済みです。

**2** z/OS fieldproc 列。

**3** この列は、変更前イメージとして適格ではありません。

**4** このデータ・タイプは、フェデレーテッドに対し、DB2 を介してサポートされていません。

**5** この列は、ソース・オブジェクトに存在しません。

**6** その表について、登録済み LOB 列の最大数を超えました。

**7** 列名が、変更前イメージの接頭部で開始されています。

**8** この列は、変更前イメージ列または変更後イメージ列として適格ではありません。

**9** ソース表が 非 DB2 サーバーにある場合は、列名で大/小文字混合はサポートされていません。

**10** この列名は、このソースに提供されている列の 1 つと重複しています。

**ユーザーの処置:**
理由コードを調べて、列を登録できない理由を判別してください。より詳しい説明や制限については、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターのレプリケーションに関する資料を参照してください。

---

**ASN1701E** **指定された表スペース** *tablespace_name* **に対して指定されたロック・サイズ値** *lock_size* **は無効です。**

**説明:**
z/OS オペレーティング・システムの場合、ロック・サイズは、P(PAGE)、R(ROW) または A(ANY) のいずれかに等しくなければなりません。

**ユーザーの処置:**
正しいロック・サイズを指定して、再度アクションを実行してください。

---

**ASN1702W** **登録済み列** *objectowner.objectname.columnname* **のレプリケーション定義が、NULL 値をサポートするように変更されました。**

**説明:**
変更前イメージ列は、NULL 値をサポートする必要があります。 変更前イメージ列の値が指定されていないと、INSERT ステートメントは失敗します。 ユーザー提供の定義を更新するために、スクリプトが生成されます。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN1703E** **表** *tableowner.tablename* **は、変更キャプチャー・レプリケーションのために登録できません。 理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
この表は、定義されているように、キャプチャー・プログラムでサポートできません。スクリプトは生成されません。 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** z/OS validproc を持つ表。

**1** 内部 CCD 表が存在します。

**2** CD 表が存在します。

**3** DB2 カタログ表 (Windows、UNIX、System i)

**4** この表はすでに登録済みです。

**5** 内部 CCD 表のソースは登録済みソースではありません。

**6** ソースは CD 表であり、登録できません。

**7** このソース名はこのセッションで重複しています。

**8** ソースがレプリケーション・コントロール表です。

**9** ソース列のいずれも、登録資格がありません。

**10** この表の登録済み LOB 列の最大数を超えました。

**11** 構造化データ・タイプは、サポートされません。

**12** 変更前イメージの接頭部には 1 文字しか使用できません。

**13** 内部エラーが発生しました。

**14** ブランク文字は、変更前イメージ接頭部では無効です。

**15** **System i:** ソース表またはビューに、ブランクを含めてはいけません。

**16** **System i:** ブランク・スペース文字は CD 表所有者/名前 フィールドで無効です。

**17** **System i:** 指定されたソースに対して、変更前イメージ列および変更後イメージのみの列を登録することができません。列のすべてが変更前

イメージであるか、または変更前イメージの列がないかのいずれかである必要があります。

**18** このソースの CD 名が重複しています。このセッションにすでに存在する CD 名です。

**19** ソース・オブジェクト・タイプがレプリケーションに有効なオブジェクト・タイプではありません。

**ユーザーの処置:**
この表を変更キャプチャー・レプリケーションに対して登録できない理由について、理由コードをチェックし判別してください。より詳しい説明および制限については、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターのレプリケーションに関する資料を参照してください。

---

**ASN1704E ビュー** *viewowner.viewname* **を登録できません。 理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
このビューは、定義されているように、レプリケーション・キャプチャー機構でサポートできません。スクリプトは生成されません。 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** このビューの従属表が登録されていません。

**1** ビューが従属するソース表の列は登録されません。

**2** このビューは、内部 CCD にあります。

**3** このビューはすでに登録済みです。

**4** このビューは、'OUTER JOIN' 構文を持っています。

**5** このビューには、関数を含む複数の表またはビュー列が組み込まれていますが、ビュー定義の中に、各表に対する相関が指定されていません。

**6** このビューには、総計関数に対する参照が含まれています。

**7** このビューには、副選択または副照会が含まれています。

**8** このビューには、別のビューに対する参照が含まれています。

**9** このビューは、UNION を持っています。

**10** この列に対する相関が指定されていません。

**11** 基本表にスキーマ名がありません。

**12** 基本表が存在しません。

**13** このビューには、表として表式が含まれています。

**14** 従属表が存在しません。

**15** ビュー上のビューは登録できません。

**16** 指定されたソース・オブジェクトはビューではありません。

**17** このソース・ビューはこのセッションで重複しています。

**18** このビュー定義はサポートできません。

**19** このビューのビュー定義には、特定の列名の代わりにアスタリスク (*) が使用されています。

**20** このビューには、CCD 表と CCD 以外の表の結合が含まれています。

**21** CCD 表で定義されるビューはコンプリートおよびコンデンスである必要があります。

**22** 従属表がニックネームです。

**23** フェデレーテッド登録は、ニックネームがソースとして登録されることを予期しています。

**ユーザーの処置:**
理由コードを調べて、ビュー登録できない理由を判別してください。 追加説明および制限については、「*SQL レプリケーション・ガイドおよびリファレンス*」を参照してください。

---

**ASN1705E 変更データ** *object*, *objectowner.objectname* **は、すでにサーバーに存在します。**

**説明:**
変更データ表またはビューは、キャプチャー・サーバーにすでに存在するため、現行ソースで登録に使用することはできません。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
変更データ・オブジェクトに別の名前を指定してください。

---

**ASN1706W 列** *column_name* **は、登録済みソース** *sourceowner.sourcename* **に追加されました。 この登録済みソースは、内部 CCD 表を保守しています。 この新しい列は、既存の、またはまだ既存ではないサブスクリプション・メンバーに追加する前に、CCD 表のサブスクリプション・メンバーに最初に追加する必要があります。**

**説明:**
新規列が従属サブスクリプション・セットに必要な場合は、その列を必要なサブスクリプション・メンバーに追

加する前に、まず内部 CCD サブスクリプション・メンバーに追加する必要があります。

**ユーザーの処置:**
変更データ・オブジェクトに別の名前を指定してください。

---

**ASN1707W** *sourceowner.sourcename* **に対するレプリケーション・アクション「登録の変更」は、キャプチャーの REINIT コマンドがキャプチャー・サーバーで発行されるまでは無効です。**

**説明:**
登録済みソースは正常に更新されました。 ただし、REINIT コマンドが強制するまで、キャプチャー・プログラムは対応する captureschema.IBMSNAP_REGISTER 表の更新を認識しません。 スクリプトが生成されました。 スクリプトにアクションを実行させるために、後でキャプチャー・コマンドを実行する必要があります。

**ユーザーの処置:**
変更を即時有効にするには、次のようにします。

1. 生成されたスクリプトを実行します。
2. 適切なキャプチャー・スキーマに対して、適切なキャプチャー・プログラムの REINIT を発行します。

---

**ASN1708E** **表、ビュー、またはニックネーム** *objectowner.objectname* **は、レプリケーションに登録されたソースではありません。**

**説明:**
上記に指定されたレプリケーション・オブジェクトは、レプリケーション・コントロール表に定義されていません。スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
オブジェクトがコマンドに正しく指定されており、存在していることを確認してください。

---

**ASN1709W** **登録済みソース** *sourceowner.sourcename* **がドロップされると、関連したサブスクリプション・セットは無効になります。**

**説明:**
サブスクリプション・メンバーは、ソース・メンバーを定義する、その元のソース登録に依存しています。 登録済みのソース表をドロップすると、サブスクリプション・セットの従属ソース・メンバーが無効になります。指定された登録ソースと関連するサブスクリプション・セットが、キャプチャー・コントロール・サーバーの captureserver.IBMSNAP_PRUNCNTL 表に見つかりました。この場合 SOURCE_OWNER と SOURCE_TABLE は、ドロップされる登録済みソースに対応しています。適切なアプライ・コントロール・サーバーとサブスクリプション・セット名は、IBMSNAP_PRUNCNTL 表の中の列です。 アプライが実行されている場合、関連するサブスクリプション・セットは失敗します。 スクリプトが生成されました。

**ユーザーの処置:**
登録されたソースに従属サブスクリプション・セットがある場合は、スクリプトを実行する前に、従属するサブスクリプション・セットを非活動化またはドロップしてください。

---

**ASN1710W** **登録済みのソース** *sourceowner.sourcetable* **がドロップされると、従属するビュー登録ソースは無効になります。**

**説明:**
ビュー登録は、ビュー定義を構成する、元となる表の登録に依存しています。 登録されているソース表をドロップすると、その表を基にしているビュー登録は無効になります。 影響を受ける可能性のあるビューは、キャプチャー・サーバーの captureserver.IBMSNAP_REGISTER 表にあります。この場合、PHYS_CHANGE_OWNER と PHYS_CHANGE_TABLE は、ドロップされる登録されたソースの CD_OWNER と CD_TABLE と同じです。アプライが実行されている場合、ビュー登録に依存する、関連するサブスクリプション・セットは失敗します。 スクリプトが生成されました。

**ユーザーの処置:**
登録されたソースに従属するビュー登録がある場合は、スクリプトを実行する前に、該当するサブスクリプション・セットまたはビュー登録を、非活動化あるいはドロップしてください。

---

**ASN1711W** **ソース** *sourceowner.sourcename* **はまだアクティブなので、これをドロップするとキャプチャーが失敗します。**

**説明:**
アクティブ登録は、captureschema.IBMSNAP_REGISTER 表で NULL でない SYNCHPOINT 値を持っています。キャプチャー・プログラムは、開始されたとき、すべてのアクティブ登録が常に存在し、有効であると予期していました。 そのため、登録済みソースがドロップされた場合は、ドロップ・アクションによって登録情報が無効になるため、キャプチャー・プログラムにそのことを伝えるシグナルを送信する必要があります。 その情報をキャプチャー・プログラムに知らせなかった場合、キャプチャー・プログラムは失敗します。 スクリプトは生成されますが、作動不能です。

**ユーザーの処置:**

1. 適切な登録を (レプリケーション・センター GUI を使うか、またはSTOP シグナルと CMD のコマンド・タイプを発行することにより) 非活動化します。
2. captureschema.IBMSNAP_SIGNAL 表の中で、SIGNAL_STATE が完了になるのを待ちます。
3. 登録をドロップするスクリプトを実行します。

---

**ASN1712E** **表、ビュー、またはニックネーム** *objectowner.objectname* **は、有効なレプリケーション登録済みソースではありません。理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
キャプチャー・サーバー・コントロール表で、この登録済みソースの矛盾が検出されました。スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
登録済みソースをドロップし、再度登録を作成してください。

---

**ASN1713E** **登録済みソース** *sourceowner.sourcename* **は、非活動化できません。 理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
以下は、有効な理由コードの値です。

**0** ソースはフル・リフレッシュとして登録されているため、非活動化できません。

**1** ソースは CCD であり、CCD 登録は非活動化できません。

**2** ソースはビューであり、ビュー登録は非活動化できません。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1714E** **登録済みソース** *sourceowner.sourcename* **は変更できません。 理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** このソースの CD 表には、RRN 列があります (System i のみ)。 ソースが変更できないように、RRN 列は表の最後の列でなければなりません。

**1** ソースはビューであり、ビュー登録は変更できません。

**2** ソースはフル・リフレッシュに対して登録されており、変更できません。

**3** ソース表の列が、変更されている列と一致しません。

**4** 列は、LOB、DATALINK、または ROWID データ・タイプのため、変更前イメージ値として適格ではありません。

**5** 変更前イメージ列値は NULL またはブランク文字にできません。

**6** 変更後イメージ値は、指定された列に対して登録されていません。

**7** 変更前イメージの接頭部は、既存の登録済みソースで使用されている場合、更新できません。

**8** 現在の変更前イメージの接頭部を使用すると、この登録済みソースの中の列の 1 つが未確定になります。

**9** 変更前イメージの接頭部には 1 文字しか使用できません。

**10** 内部エラーが発生しました。

**11** 指定された登録ソース名は、変更された登録によって組み込まれたソースの複写で、その登録に対するスクリプトはまだ実行されていません。

**12** 競合レベルを、レプリカ登録に対して更新できません。

**ユーザーの処置:**
理由コードを調べてソースを変更できない理由を判別し、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターのレプリケーションに関する資料を参照して、これらのエラーを訂正する方法の詳細を調べてください。

---

**ASN1715E** **レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。ネイティブ OS/400 メッセージは、***as400native_message* **です。**

**説明:**
OS/400 オペレーティング・システムまたは System i サーバーで適切なコマンドを発行中に、エラーを検出しました。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
詳しいエラー情報については、OS/400 コンソール・ログを参照してください。

---

**ASN1716W　レプリケーション・アクションが、警告で終了しました。 ネイティブ OS/400 メッセージは、*as400native_message* です。**

**説明:**
OS/400 オペレーティング・システムまたは System i サーバーで適切なコマンドを発行中に、警告を検出しました。 スクリプトが生成されました。

**ユーザーの処置:**
詳しい警告情報については、System i コンソール・ログを参照してください。

---

**ASN1717I　レプリケーション・アクションが、通知文節で終了しました。 ネイティブ OS/400 メッセージは、*as400native_message* です。**

**説明:**
OS/400 オペレーティング・システムまたは System i サーバーで適切なコマンドを発行中に、通知メッセージを検出しました。 スクリプトが生成されました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1718E　ニックネーム *nicknameowner.nickname* は、登録できません。 理由コードは *reasoncode*。**

**説明:**
ニックネームは、定義されているように、キャプチャー・プログラムでサポートされていません。 スクリプトは生成されません。 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0**　内部 CCD 表 (ユーザーの CD 表) はすでに存在します。

**1**　ニックネームはネイティブ・カタログ表にあります。

**2**　ニックネームはすでに登録済みです。

**3**　フェデレーテッド登録は、登録するソースとしてのニックネームを予期しています。

**4**　キャプチャー・プログラムに適格な列がありません

**5**　指定されたニックネームは、前に登録されたニックネームと重複していますが、対応するスクリプトが実行されていません。

**6**　フェデレーテッド登録は、ユーザー表しかサポートしません。

**7**　フェデレーテッド登録は、非コンデンスおよび非コンプリート CCD 表しかサポートしません。

**8**　指定されたニックネームは、前に登録された CCD ニックネームと重複していますが、その登録に対応するスクリプトがまだ実行されていません。

**9**　リモート・サーバー情報がニックネームの登録のために提供されていません。

**ユーザーの処置:**
理由コードを調べて、ニックネームを登録できない理由を判別してください。

---

**ASN1719W　登録済みソース *nicknameowner.nickname* に定義された、IBM 以外のトリガーはドロップされます。 後にユーザーによって提供されるこれらのトリガーの追加ロジックは、すべて失われます。 will be lost.**

**説明:**
登録済みソースのドロップは、後に更新されたかどうかに関係なく、そのソースの登録中に作成されたすべてのオブジェクトがドロップされることを暗黙指定します。スクリプトが生成されました。

**ユーザーの処置:**
必要であれば、登録済みソースをドロップする前に、トリガー・ロジックをコピーしてください。

---

**ASN1720E　ソース・ニックネーム *nicknameowner.nickname* の変更データ表情報が、*capschema*.IBMSNAP_REGISTER 表に見つかりません。**

**説明:**
指定されたソース・ニックネームの行は captureschema.IBMSNAP_REGISTER 表に見つかりましたが、そのソースの CCD 表がありません。レプリケーション定義をドロップするためには、変更データ表情報が必要です。スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
正しいソース名が指定されていることを確認して、再度アクションを呼び出してください。

---

**ASN1722W　ビュー *view_owner.viewname* はフル・リフレッシュとして登録されます。このビューの基本表がすべて、フル・リフレッシュとして登録されているためです。**

**説明:**
このビューの基本表がフル・リフレッシュ専用として登録されているか、または登録されたレプリケーション・

ソースでないため、このビューはフル・リフレッシュとして登録する必要があります。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**ASN1723W** **このビューの 1 つまたは複数の基本表が変更キャプチャー・レプリケーションとして登録されているため、このビュー *viewowner.viewname* は変更キャプチャー・レプリケーションとして登録されます。**

**説明:**
このビューは、このビューの基本表が変更キャプチャー・レプリケーションとして登録されているため、変更キャプチャー・レプリケーションとして登録する必要があります。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**ASN1724E** **DB2 以外のリレーショナル・サーバーで作成中のオブジェクトの名前が、タイプ *objecttype* の *objectowner.objectname* と同一です。**

**説明:**
指定したオブジェクトは、DB2 以外のリレーショナル・サーバー上に同じタイプ、同じ名前の既存オブジェクトがあるために作成できません。

**ユーザーの処置:**
オブジェクトに固有な名前を指定し、レプリケーション・タスクを再発行してください。

---

**ASN1725W** **トリガー *triggerowner.trigger_name* は、リモート表 *remoteowner.remotetablename* にすでに存在します。 既存のトリガーの内容を、生成されたトリガー定義とマージする方法を決定するまでは、生成されたスクリプトを実行しないでください。**

**説明:**
この名前のトリガーは、DB2 以外のリレーショナル・データベースのリモート表にすでに存在しています。生成されたスクリプトで CREATE TRIGGER ステートメントを実行すると、データベース・マネージャーは、競合があることを示さずに、後で既存のトリガーを上書きする可能性があります。 データベース・マネージャーは、オブジェクトが既に存在することを示す SQL エラーを戻す可能性もあります。生成されたトリガー名はカスタマイズできません。カスタマイズされたトリガーは、登録をドロップするときにドロップできないためです。

**ユーザーの処置:**
まず、既存のトリガーを生成されたトリガーとマージする方法を決定してください。 次に、独自のスクリプトを作成して、既存のロジックをレプリケーション・ツールで作成したトリガー・ロジックとマージするか、またはレプリケーション・ツールで生成したスクリプトを更新して、既存のトリガー定義を組み込んでください。

---

**ASN1726W** **トリガー *triggerowner.trigname* は、リモート・サーバー *rmtservername* 上のリモート表 *owner.tablename* に存在しません。**

**説明:**
このトリガーは、リモート・データベース上に存在していません。 トリガーがドロップされた可能性があります。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**ASN1727I** **登録済みソース *registered_source* は非活動化されました。**

**説明:**
示された登録済みソースは、すでに非活動化されています。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1728W** **ソース表 *sourceowner.sourcetable* の変更データ (CD) 表 *cdowner.cdname* の CCSID *Unicode_ASCII_EBCDIC* は、キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の IBMSNAP_UOW 表の CCSID *Unicode_ASCII_EBCDIC* と一致しません。**

**説明:**
示されたキャプチャー・スキーマで、ASN.IBMNSNAP_MEMBR 表の列 JOIN_UOW_CD が *Y* に設定されている場合、アプライ・プログラムは所定のソースの IBMSNAP_UOW 表と CD 表を結合します。関連したサブスクリプション・セット・メンバーのターゲット・タイプがユーザーのコピーでない場合、または IBMSNAP_UOW 表のいずれかの列がサブスクリプション・セット・メンバーの WHERE 文節の中で使用されている場合、この列には *Y* が含まれます。 アプライ・プログラムが異なるコード化スキームの表を結合すると、エラーが発生します。 コード化スキームの詳細については、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『UNICODE および ASCII コード化スキーム』を参照してください。

**ユーザーの処置:**
この登録を使用するサブスクリプション・メンバーの場合は、タイプをユーザーのコピーに指定してターゲット表を定義し、WHERE 文節の中では IBMSNAP_UOW 列を使用しないでください。

---

**ASN1729E** **ニックネーム *nicknameowner.nickname* の登録はドロップできません。 理由コードは *reasoncode* です。**

**説明:**
このニックネームの登録はドロップできません。 スクリプトは生成されません。 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** 示されたニックネームは、以前にドロップされた登録に組み込まれていたニックネームと重複しています。 ただし、その登録のドロップのスクリプトはまだ実行されていません。

**ユーザーの処置:**
理由コードの説明を見直して、より詳しい説明および制限については、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターのレプリケーションに関する資料を参照してください。

---

**ASN1730W** **プロシージャー *procedureowner.procedurename* は、リモート・サーバー *remote_server* にすでに存在します。 既存のプロシージャーの内容は、生成されたスクリプトが実行される前に、生成されたプロシージャーの定義とマージされる必要があります。**

**説明:**
この名前のプロシージャーは、DB2 以外のリレーショナル・データベースにすでに存在しています。生成されたスクリプトで CREATE PROCEDURE ステートメントを実行すると、データベース・マネージャーは、競合があることを示さずに、後で既存のトリガーを上書きをすることができます。 場合によっては、オブジェクトがすでに存在することを示す SQL エラーを戻す可能性もあります。 生成されたプロシージャー名はカスタマイズできません。カスタマイズされたプロシージャーは、登録をドロップするときにドロップできないためです。

**ユーザーの処置:**
プロシージャーを、生成されたプロシージャーとマージする方法を決定してください。 次に、独自のスクリプトを作成して、既存のロジックをレプリケーション・ツールで作成したプロシージャー・ロジックとマージするか、またはレプリケーション・ツールで生成したスクリプトを更新して、既存のプロシージャー定義を組み込んでください。

---

**ASN1731W** **DB2 以外のリレーショナル・データベースにあるデータ・タイプ *datatype* の列 *column_name* は、フェデレーテッド・ラッパーによるニックネームにあるデータ・タイプ *datatype* に変換されます。 理由コードは *reason_code*。**

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** DB2 以外のリレーショナル・データベースは Oracle データベースで、その表にある番号列はフェデレーテッド・サーバーによるニックネームで、倍精度のデータ・タイプに変換されます。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1732E** **レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 ソース表 *srcowner.srctable* は、変更前イメージおよび変更後イメージの両方でジャーナル化されなくてはなりません。**

**説明:**
固有の OS/400 コマンドでは、登録の前に、変更前イメージおよび変更後イメージ列の両方でジャーナルされるソース表が必要です。

**ユーザーの処置:**
表の登録のために生成されているスクリプトを実行する前に、変更前イメージおよび変更後イメージの両方で、ソース表をジャーナルしてください。

---

**ASN1733E** **ソースの登録 *srcowner.srctable* をドロップできません。 理由コードは *reason_code*。**

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** 指定されたソースは、前の DROP 登録と重複していますが、対応するスクリプトが実行されていません。

**ユーザーの処置:**
提供されたソース名を検査し、再度タスクを発行してください。

---

**ASN1734W　従属ビューによる登録済みソースの定義は、登録済みソース *srcowner.srctable* の列によって更新されません。**

**説明:**
既存の登録済みソースに対して、1 つ以上の列を変更または追加しようとしました。ソースの登録には従属ビューの登録がありますが、変更された列は、ビューの登録定義に反映されません。

**ユーザーの処置:**
新規列の定義が、ビュー登録に反映されるように、ビュー登録の定義を更新してください。

1. 現行のビュー登録をドロップする。
2. ビュー登録を再作成する。

ビュー登録に新規列情報を反映したくない場合は、アクションは不要です。

---

**ASN1735E　表、ビュー、またはニックネーム *owner.name* が登録できません。 ドロップされた前の登録からのソース表に関連したサブスクリプション・セット・メンバーがあります。現在の登録に対して要求される定義が、既存のサブスクリプション・セット・メンバーに対するレプリケーション・コントロール表に保管されている定義と矛盾します。理由コードは *reason_code*。**

**説明:**
表、ビュー、またはニックネームは以前に登録され、ドロップされました。 ただし、関連したサブスクリプション・セット・メンバーはドロップされておらず、これらのメンバーの情報もレプリケーション・コントロール表に存在します。キャプチャーおよびアプライ・プログラムによる問題を回避するために、表またはニックネームは再登録され、要求されている情報は、孤立したメンバーのコントロール表に保管された情報と一致する必要があります。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0**　表またはニックネームを FULL REFRESH ONLY で登録を試みました。 IBMSNAP_PRUNCNTL 表の行は、この表またはニックネームが変更-キャプチャー・メカニズムによって以前登録され、さらにこの登録がドロップされたことを示します。

**1**　表またはニックネームを変更-キャプチャー・メカニズムで登録を試みました。 IBMSNAP_PRUNCNTL 表の行は、この表またはニックネームが FULL REFRESH ONLY として以前登録され、さらにこの登録がドロップされたことを示します。

**2**　表またはニックネームを変更-キャプチャー・メカニズムで登録を試みました。 ソース表は以前に定義されドロップされました。 IBMSNAP_PRUNCNTL 表にある PHYS_CHANGE_OWNER と PHYS_CHANGE_TABLE 列の値が、 CD/CCD 所有者または **CD/CCD** 表フィールドで指定された入力値と一致しません。

**ユーザーの処置:**
以下の理由コードに応じてそれぞれのアクションを実行してください。

**0**　表またはニックネームを変更-キャプチャー・メカニズムで登録してください。

**1**　表またはニックネームを FULL REFRESH ONLY で登録してください。

**2**　表またはニックネームを登録し、変更データまたは整合変更データの所有者および表の名前は、 IBMSNAP_PRUNCNTL フィールドにあるものと一致するかどうか確認してください。レプリケーション・アクションがコントロール表に保管された値を受け取るために、これらの値をカスタマイズしないでください。

---

**ASN1736W　データ・タイプ *datatype* の列 *column_name* に対する変更前イメージ列の名前は、変更前イメージ接頭部付の列名の長さが切り捨てられます。 変更前イメージ接頭部付の列名の長さが、DB2 以外のリレーショナル・データベースで可能な列名の制限値 *allowed_limit* を超過しているため、切り捨てられます。**

**説明:**
指定された変更前イメージ接頭部が列名に追加される時、その列名が DB2 以外のリレーショナル・サーバーに対する列名の最大値より長くなっています。列名は、長さが最大値に等しくなるように、後ろから切り捨てられていきます。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1737W　レプリケーション・アクション *action_name* は、IBMSNAP_PRUNCNTL 表にあるプロシージャーまたはトリガー定義を再作成するための十分な情報を引き出すことができません。**

**説明:**

IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーまたはトリガー定義は登録済みニックネームのすべてに対する CCD 表を整理します。ニックネームが登録または登録からドロップされるたびに、IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーまたはトリガーはドロップされ、その特定のニックネームに対する新しい情報を使用して再作成されます。 この登録に対して指定された情報には IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーまたはトリガーを定義するために必要な情報が含まれていません。そのため、生成されたスクリプトには、プロシージャーまたはトリガーに対する DROP または CREATE ステートメントが含まれていません。

**ユーザーの処置:**
ニックネームまたは表が存在しない登録をドロップします。

---

**ASN1738W** **IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーまたはトリガー *name* をリモート・サーバーで見つけることができませんでした。**

**説明:**
IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーまたはトリガー定義は登録済みニックネームのすべてに対する CCD 表を認識します。 登録が作成されるたびに、IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーまたはトリガーがドロップされ、既存および新規の登録情報で再作成されます。コントロール表に保管された定義は、このサーバーに、前の登録が存在するけれども IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーが見つからなかったことを示します。それでも、プロシージャーはコントロール表に保管された定義によって、IBMSNAP_PRUNCNTL 表に作成されます。

**ユーザーの処置:**
IBMSNAP_PRUNCNTL 表に生成されたプロシージャーまたはトリガーのステートメントに登録済みソースのすべてがあることを確認してください。

---

**ASN1739W** **ユーザー表にあるデータ・タイプ *datatype* の列名 *column_name* は、DB2 以外のリレーショナル・データベースにある CCD 表に、新規のデータ・タイプ *new_datatype* として作成されます。 理由コードは *reason_code*。**

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** データ・タイプ TIMESTAMP の列を、Sybase または Microsoft SQL Server データベースでは挿入または更新ができません。CCD 表はデータ・タイプ TIMESTAMP を使用した列 (IBMSNAP_SYBTMSTMP 列または IBMSNAP_MSTMSTMP 列) で、DB2 以外のリレーショナル・システムのいずれかを作成しています。Sybase または Microsoft SQL Server データベースでは、データ・タイプ TIMESTAMP の列を複数持つことができません。そのため、ユーザー表の列のデータ・タイプはバイナリー(8) データ・タイプに変換されます。

**ユーザーの処置:**
新規データ・タイプが許可できるものである場合、アクションは不要です。 新規データ・タイプを受け付けることができない場合は、生成されたスクリプトを実行しないでください。 登録定義から指定した列の選択を除去し、タスクを再度発行してください。

---

**ASN1740W** **CCD ニックネーム *nicknameowner.nickname* はフェデレーテッド・サーバーに存在しますが、リモート CCD 表 *tableowner.tablename* が、DB2 以外のサーバーに存在しません。 この表の情報は、 PRUNCNTL プロシージャーまたはトリガーの再作成に組み込まれません。**

**説明:**
IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーまたはトリガー定義は登録済みニックネームのすべてに対する CCD 表を認識します。 登録が作成されるたびに、IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーまたはトリガーがドロップされ、既存および新規の登録情報で再作成されます。ニックネームはフェデレーテッド・サーバーに存在しますが、リモート CCD 表が DB2 以外のサーバーに存在しません。 この表は、PRUNCNTL プロシージャーまたはトリガーの再作成に組み込まれません。

**ユーザーの処置:**
CCD 表がドロップされた理由を判別してください。 誤ってドロップされた場合、そのソースの登録をドロップするか、または元の定義で CCD 表を再作成してください。

---

**ASN1741W** **CCD ニックネーム *nicknameowner.nickname* が、フェデレーテッド・サーバーに存在しません。 この表の情報は、 PRUNCNTL プロシージャーまたはトリガーの再作成に組み込まれません。**

**説明:**
IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーまたはトリガー定義は登録済みニックネームのすべてに対する CCD 表を認識します。 登録が作成されるたびに、

IBMSNAP_PRUNCNTL 表のプロシージャーまたはトリガーがドロップされ、既存および新規の登録情報で再作成されます。CCD ニックネームは、フェデレーテッド・サーバーに存在しません。 この表は、PRUNCNTL プロシージャーまたはトリガーの再作成に組み込まれません。

**ユーザーの処置:**
CCD ニックネームがドロップされた理由を判別してください。 誤ってニックネームをドロップした場合、そのソースの登録をドロップするか、またはCCD ニックネームを再作成してください。

---

**ASN1742E** **プラットフォーム** *platform* **上のソース・ニックネーム** *nickname_owner.nickname* **は、最初に登録をアーキテクチャー・レベル** *arch_level* **にマイグレーションしなければ登録できません。**

**説明:**
IBMSNAP_REGISTER 表には DB2 以外のリレーショナル・ソースの既存登録があり、以前のアーキテクチャー・レベルに関係しています。 すべての登録を新しいアーキテクチャー・レベルにマイグレーションするまで、新しいソースは登録できません。

**ユーザーの処置:**
DB2 以外のリレーショナル・ソースの既存登録を現行のアーキテクチャー・レベルにマイグレーションします。 詳しくは、「*SQL レプリケーション・バージョン 8 へのマイグレーション*」を参照してください。

---

**ASN1800E** **サブスクリプション・セット** *set_name* **は、アプライ修飾子** *apply_qual*、**処理順序** *whos_on_first* **に対し、アプライ・コントロール・サーバー** *server_alias* **に、すでに存在しています。**

**説明:**
1 つの指定されたアプライ修飾子とアプライ・コントロール・サーバーに対し、同じ名前のサブスクリプション・セットは 1 つしか存在できません。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
新規セット名を作成するか、または新規メンバーを既存のセットに追加してください。

---

**ASN1801E** **ステートメント番号** *statement_number* **はステートメント・ストリングの長さ** *statement_stringlength* **と関連付けられていますが、この長さは、アプライ・コントロール・サーバー** *server_alias* **での、アプライ修飾子** *apply_qual*、**セット名** *set_name*、**処理順序値** *whos_on_first* **に対するステートメントの最大長を超えています。**

**説明:**
ステートメントの長さが、許可される限界 (V8 では 1024) を超えています。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
ストリングの長さが許可される限度より短くなるように、ステートメント・ストリングを変更してください。

---

**ASN1802W** **レプリケーション・サブスクリプション・ソース・メンバーが、RECAPTURE='N' で定義されています。ターゲット・レプリカに対する変更は、すべて他のターゲット・レプリカに伝搬されません。**

**説明:**
Update-anywhere シナリオでは、1 つのターゲット・レプリカへの変更は、 RECAPTURE='N' の場合にはソースで再取り込みされません。複数のターゲット・レプリカが同じソースをサブスクライブしている場合、1 つのターゲット・レプリカに行われた変更は他のターゲット・レプリカには反映されません。

**ユーザーの処置:**
変更を他のターゲット・レプリカに伝搬するには、RECAPTURE='Y' を設定してください。

---

**ASN1803I** **以前に定義され、後にドロップされたサブスクリプション・セットからの** *orphan_statements* **レプリケーション・サブスクリプション・セット・ステートメントが存在します。 これらの孤立したステートメントは、指定されたアプライ・コントロール・サーバー上の、サブスクリプション・セット、指定されたアプライ修飾子に対してドロップされません。**

**説明:**
前のサブスクリプション・セットが、その適切なステートメントをすべてドロップせずに、ドロップされました。 ドロップされた前のサブスクリプション・セットと同じ名前を共有する、新規サブスクリプション・セットに対してスクリプトが生成されます。 前のサブスクリプション・ステートメントは、ドロップされません。

**ユーザーの処置:**
サブスクリプションのドロップ・ステートメントを発行して、孤立したステートメントを削除してください。

---

**ASN1804I** **レプリケーション・サブスクリプション・セット MAX_SYNCH_MINUTES *maxsynch_minutes* は、指定されたアプライ・コントロール・サーバーにおいて、指定されたサブスクリプション・セットとアプライ修飾子に許可される範囲内にありません。 代わりに、レプリケーション・デフォルト値が使用されます。**

**説明:**
この列の有効範囲は、0 から 999 です。

**ユーザーの処置:**
30 分のデフォルト値が受け入れ可能である場合は、何のアクションも必要ありません。

---

**ASN1805I** **レプリケーション・サブスクリプション COMMIT_COUNT *commitcount_value* は、指定されたアプライ・コントロール・サーバーにおいて、指定されたサブスクリプション・セットとアプライ修飾子に許可される範囲内にありません。 代わりに、レプリケーション・デフォルト値が使用されます。**

**説明:**
この列の有効範囲は、0 から 999 です。

**ユーザーの処置:**
0 分のデフォルト値が受け入れ可能な場合は、何のアクションも必要ありません。

---

**ASN1806E** **レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、サブスクリプション・セット名 *set_name*、処理順序値 *whos_on_first* 、ソース・メンバー *sourceowner.sourcetable* 、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qual*、ターゲット・メンバー *targetowner.targettable* に対して、エラー終了しました。 指定されたサブスクリプション・セットにサブスクリプション・セット・メンバーを追加できません。 理由コードは *reason_code*。**

**説明:**
メンバーが追加された場合、このサブスクリプション・セットは無効になります。 スクリプトは生成されません。 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** サブスクリプション・セットは、メンバーの最大限度に達しました。

**1** キャプチャー・スキーマのソース・メンバーが、キャプチャー・スキーマのサブスクリプション・セットと同じでない。

**2** System i ソース・メンバーが、サブスクリプション・セット・ジャーナルと同じでない。

**3** コンデンス表メンバー構造が、他のメンバー構造と非互換である。

**4** ソース・メンバーが変更キャプチャー・レプリケーションをサポートしていないのに、ターゲット・メンバーが変更キャプチャーに依存している。 ターゲット構造が CCD またはレプリカ表なのに、ソースに CD 表がない。

**5** ソース・メンバーが、完全な表でない。

**6** ターゲット・メンバー定義はターゲット表の存在を予期しているのに、ターゲット表が存在しない。

**7** ターゲット・メンバー定義はターゲット表の作成を求めているが、ターゲット表がすでに存在する。

**8** このセットにはフル・リフレッシュの、サポートされているターゲット表しか含まれていませんが、新規メンバーは変更キャプチャー・レプリケーションをサポートしています。

**10** このセットには、変更キャプチャー・レプリケーションでサポートされるターゲット表しか含まれていないのに、新規メンバーがフル・リフレッシュのみをサポートしている。

**11** レプリカ規則: ターゲット・メンバーがレプリカの場合、ソース・メンバーはレプリカまたはユーザー表にすることができる。

**12** このオペレーティング・システムで、ターゲット構造がサポートされていない。

**13** ターゲット構造が登録ソース (自動登録) として設定されている CCD なのに、構造が完全でない。

**14** ソース・メンバーが登録されていない。

**15** ソース・メンバー列に列定義があるのに、ターゲット・タイプが集合体でない。

**16** サブスクリプション・セットから除外されたターゲット列の少なくとも 1 つが、NULL 可能でもなく、デフォルトを使用した NOT NULL でもありません。

**17** ターゲット・メンバーが、更新できないビューである。

**18** サブスクリプション・セット・メンバーがすでに存在する。

**19** 登録済みソースへの有効なマッピングを持つターゲット列または式が見つからない。

**20** 複数の有効ソースが見つかったが、定義に整合性がない。

**21** 外部 CCD 表は非コンデンスで、DATALINK 列または LOB 列を含んでいます。

**22** ソース・メンバー・ジャーナル・ライブラリー名が一致しません。

**23** リモート・ジャーナル名が無効です。

**24** ジャーナル名またはライブラリーが無効です。

**25** リモート・ジャーナル記録を持つレプリカ表は許可されません。

**26** 内部 CCD 表は、指定された登録済みソース表に対してすでに存在します。

**27** ソース・サーバーとターゲット・サーバーは、内部 CCD 表に対して同じでなければなりません。

**28** 内部 CCD 表は、非コンプリートでなければなりません。

**29** ソース表はリモート側でジャーナルされ、LOB 列または DATALINK 列を含んでいます。

**30** IBMSNAP_PRUNCNTL 表の中に関連情報が存在しません。

**31** IBMSNAP_PRUNE_SET の中に関連情報が存在しません。

**32** ビューを含む内部 CCD 表は、ソースとして使用できません。

**33** ターゲット表が、すでに別の既存のメンバーと共有されており、 IBMSNAP_SUBS_COLS 表に保管されている名前、IS_KEY、式、およびタイプ・フィールドの値に関するレプリケーション定義と、新規メンバーで要求される定義との間に競合を検出しました。

**34** ソースが DB2 以外のサーバーにあり、要求されたターゲット・タイプはレプリカです。 このシナリオはサポートされていません。

**35** 指定されたソース・メンバーは、ターゲット・サーバーで有効なニックネームを持っていません。 このエラーは、以下の理由により発生したと思われます。

- ソース・メンバー作成時にニックネームを提供していなかった。
- ターゲット・サーバーに存在せず、ユーザー用に作成されないニックネームを提供した。
- ニックネームでないオブジェクトを提供した。
- ターゲット・サーバーに存在するが、指定されたソース・メンバーに関連していないニックネームを提供した。

**ユーザーの処置:**
理由コード 1 から 34 の場合、別のサブスクリプション・セットの中に新規メンバーを作成するか、または新規メンバー用にサブスクリプション・セットを新しく作成してください。

理由コード 35 については、ターゲット・サーバーで既存の有効なニックネームを提供していて、ソース・メンバーと関連していること確認してください。

---

**ASN1807I** **レプリケーション・サブスクリプション・メンバーは、指定されたアプライ・コントロール・サーバーで、指定されたサブスクリプション・セットとアプライ修飾子に通知文節を付けて追加されます。 理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。スクリプトが生成されました。 以下は、有効な理由コードの値です。

**0** 新規のセットが作成された結果、レプリカと読み取り専用ターゲット・メンバーが混合されました。

**1** サブスクリプション・セットはトランザクション・コミット・カウントをサポートしていますが、ターゲット・メンバーはトランザクション処理に適格ではありません。

**2** 少なくとも 1 つのメンバーは、CCD 表をターゲット・メンバーとして持っていますが、すべてのメンバーが CCD 表のターゲット・メンバーを持っているわけではありません。 同じセットの中に、世代の異なる表が含まれています。

**3** ターゲット・メンバーは、非コンデンスおよび非コンプリートの CCD 表で、IBMSNAP から列が追加されていません。 このターゲット表は、基本的に CD 表と同じです。

**ユーザーの処置:**
説明の中の理由コードを調べ、以下のオプションを指定して応答してください。

**0** レプリカ表をすべて 1 つのセットの中に保持し、読み取り専用表は別のセットに保持することを検討してください。

**1** 同じセットの中にトランザクション処理をサポートするすべてのターゲット・タイプを保持し、それ以外の表を別のセットに保持することを検討してください。

**2** セット間でデータの経過日数の整合性を確保するために、同じ世代に含まれるすべての CCD ターゲット表を同じセットの中に保持することを検討してください。 さらに、CCD 以外のすべてのターゲット表は別のセットの中に保持することを検討してください。第 2 のセットは、例えばミドル・ティア・ステージの場合のように、第 1 のセットに入っているデータによって決まります。

**3** CCD ターゲット表が必要かどうかを検討してください。

---

**ASN1808E** **レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子** *apply_qualifier*、**セット名** *set_name*、**処理順序** *whos_on_first*、**ソース・メンバー** *sourceowner.sourcetable*、**ソース・ビュー修飾子** *source_view_qual*、**ターゲット・メンバー** *targetowner.targettable* **に対して、エラー終了しました。 サブスクリプション・ターゲット・メンバーは、その索引キー列が更新されることを予期していますが、少なくとも 1 つの索引キーが、その変更前イメージ列をサブスクリプション・ソース・メンバーに登録していません。**

**説明:**
ターゲット表では、その索引キーが更新できるように設定されています (PRIMARY_KEY_CHG = 'Y')。 この要件をサポートするには、アプライ・プログラムが索引キーの変更前イメージ列にアクセスする必要があります。 そのため、これらの変更前イメージ列が、ソース・メンバーの変更データ表に存在していなければなりません。 存在していない場合、アプライ・プログラムは失敗します。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
サブスクリプション・ターゲット索引の列ごとに、以下のように応答してください。

- キャプチャー・サーバーで、その列の変更前イメージ列が、すでにソース・メンバーに登録されているかチェックします。
- まだ登録されていない場合は、適切な変更前イメージ列を登録してください。

---

**ASN1809W** **レプリケーション・アクションは、サブスクリプション索引キー列が更新されることを予期していますが、サブスクリプション・メンバーは、ターゲット索引キー列への更新が許可されずにサブスクリプション・セットに追加されます。 理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
上記の場合、PRIMARY_KEY_CHG 設定は無意味になります。ユーザー提供の定義をオーバーライドする、レプリケーション定義を使用して更新されたスクリプトが生成されます。 以下は、有効な理由コードの値です。

**0** ターゲット表のタイプ CCD: PRIMARY_KEY_CHG は無効です。

**1** IBMSNAP_REGISTER 表の CHG_UPD_TO_DEL_INS 値は 'Y' に設定されます。

**2** ターゲット表はコンデンスではありません。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1810W** **ソース・サーバーで、DB2 参照整合性制約が設定されたサブスクリプション・セット・メンバーが定義されていますが、ターゲット・メンバーは、これらの制約を保持していないレプリカです。**

**説明:**
ターゲット表の参照整合性制約が、レプリカ・サイトでは DB2 によって施行されていません。 これは、レプリカ・サイトで意図した振る舞いでない場合があります。 スクリプトは生成されていますが、作動不能の可能性もあります。

**ユーザーの処置:**
必要に応じて、生成されたスクリプトを更新して、ターゲットで適切な参照制約を組み込んでください。

---

**ASN1811W** **ターゲット・サブスクリプション・メンバーの索引定義が、ターゲットにおいてユニークであることは保証できません。 理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
アプライ・プログラムが一部のターゲット・タイプのターゲット表の行を正しく更新および削除するには、索引定義がユニークであることが必要です。 指定された索引がユニークであることが保証されない場合、アプライ・プログラムは一部の作業をやり直します。ご使用の

アプリケーションにこの状況が該当していないことを確認してください。 以下は、有効な理由コードの値です。

**0** SQL 関数によって少なくとも 1 つの列が生成されていますが、列が生成されたことによって索引がユニークであることは保証されません。

**1** ユニーク索引では、SQL 関数によって NULL 可能列は生成されません。

**ユーザーの処置:**
サブスクリプション・ターゲット索引の列ごとに、以下のように応答してください。

- アプライ・コントロール・サーバー ASN.IBMSNAP_SUBS_COLS, COL_TYPE の列タイプが 'F' かどうか調べてください。
- 'F' であれば、索引列の式を再定義して SQL 式を組み込まないようにするか、または索引キーからその列を除去してください (ASN.IBMSNAP_SUBS_COLS, IS_KEY 列は'N' に設定されています)。

---

**ASN1812E** **レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子** *apply_qualifier*、**セット名** *set_name*、**処理順序値** *whos_on_first*、**ソース・メンバー** *sourceowner.sourcetable*、**ソース・ビュー修飾子** *source_view_qual*、**ターゲット・メンバー** *targetowner.targettable* **に対して、エラー終了しました。 必須のターゲット・キーが無効であるため、サブスクリプション・ターゲット・メンバーを追加できません。 理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
ユニーク索引を必要とするターゲット・メンバーのターゲット・タイプは、ポイント・イン・タイム、ユーザーのコピー、レプリカ表、およびコンデンス CCD です。これらのターゲットにユニーク索引がない場合、アプライ・プログラムは失敗します。 スクリプトは生成されません。 以下は、有効な理由コードの値です。

**0** ターゲット表はまだ存在していませんが、ターゲット・キー情報をソース表から引き出せませんでした。

**1** ターゲット・キー情報を見つけることも、引き出すこともできませんでした。また、CD 表の RRN が定義されていません (System i のみ)。

**2** ターゲット表またはビューはすでに存在していますが、必須ターゲット・キー情報がありません。

**3** ターゲット表またはビューはすでに存在していますが、ターゲット・キー情報が既存のパーティション・キー情報と非互換です。

**4** ターゲット表タイプのレプリカはすでに存在します。 指定された列はターゲット・キー情報の一部ですが、ソース・キー情報にはこの列が含まれていません。 ソースおよびターゲット・メンバーの両方にあるキーは、ターゲット表のタイプがレプリカの場合には一致しなくてはなりません。

**5** 指定されたターゲット・キー列が、ターゲット表定義で見つかりません。

**ユーザーの処置:**
有効なターゲット・キーを定義してください。 以下の理由コードに応じてそれぞれのアクションを実行してください。

**0** ソース表に適切なユニーク索引を作成して、レプリケーション推奨索引を引き出すために使用してください。

**2** 必須のターゲット・キー情報を指定してください。

**3** パーティション索引に関する DB2 規則については、「SQL リファレンス」を参照してください。例えば、指定したキーに必須のパーティション・キーが組み込まれていない場合があります。

**4** レプリケーションが正しい索引を引き出すことができるように、ターゲットまたはソース・キー情報を適切に変更してください。

**5** 列名を検証してください。

---

**ASN1813I** **ソース・サーバーで、いくつかの DB2 制約が設定されたレプリケーション・サブスクリプション・ソース・メンバーが定義されていますが、サブスクリプション・ターゲット・メンバーはこれらの制約を保持していません。 理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
ソース表の制約は、ターゲット・メンバーの定義時に指定されていない場合、DB2 によって施行されません。これは、レプリカ表サーバーで意図した振る舞いでない場合があります。 スクリプトは生成されていますが、作動可能になっていない可能性もあります。制約については、以下の理由コードの有効値を参照してください。

**0** ターゲット・メンバーの中に少なくとも 1 つの NOT NULL WITH DEFAULT 文節があります。

**1** パーティション表スペース

**ユーザーの処置:**
必要に応じて、生成されたスクリプトを更新して、ターゲットで適切な DB2 制約を組み込んでください。

---

**ASN1814E** **データ・タイプ** *datatype* **のターゲット列** *column_name* **は、サブスクリプション・ターゲット・メンバー** *tableowner.tablename* **に追加できません。理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
サブスクリプション・メンバーは、サブスクリプション列のチェックに失敗しました。 スクリプトは生成されません。 以下は、有効な理由コードの値です。

**0** この列のデータ・タイプは、レプリケーションによってサポートされていません。 DB2 でサポートされていないデータ・タイプの場合は、メッセージ ASN1648E を発行するようにレプリケーション・プログラムに指示します。

**1** ターゲット・データ・タイプは、対応するソース・データ・タイプと非互換です。

**2** ソース表の登録でこの列が見つかりません。

**3** この列タイプは、フェデレーテッド・ターゲットに対してサポートされていません。

**4** ターゲット列は LOB です。 ターゲット・メンバーの LOB 列の最大数を超えています。

**5** ソース列に SQL 列関数が含まれていますが、ターゲット・メンバー構造は基礎集約でも変更集約でもありません。

**6** ターゲット表タイプはレプリカで、ソース列は LOB 列です。

**7** ターゲット表タイプはレプリカで、ソース列は DATALINK 値です。ただし、CONFLICT_LEVEL > 0 です。

**8** LOB 列を含む、非コンデンス CCD ターゲット表はサポートされていません。

**9** この列は既存のターゲット表の中にありません。

**10** ターゲット列は、サブスクリプション・メンバー定義ですでに定義されています。

**11** 指定された列のデータ・タイプ定義によって、挿入または更新操作、またはこの両方の操作が列でできなくなります。

**12** 指定されたターゲット列名が、マップされたソース列名に一致しません。 ターゲット表がレプリカの場合、ターゲット列名をソース列の名前と別にすることはできません。

**13** ターゲット列はソースの変更前イメージ列からマップされ、ソース列には NULL 値が含まれます。ただし、ターゲット列は NULL 可能ではなく、デフォルトで NOT NULL でもありません。

**14** 指定されたターゲット列名が、マップされた CD 列名に一致しません。 ターゲット表が内部 CCD の場合、ターゲット列名を CD 列の名前と別にすることはできません。

**ユーザーの処置:**
説明の中の理由コードを調べて、以下のように応答してください。

**0** データ・タイプをサポートされているものに変更してください。

**1** ターゲット・データ・タイプを確実にソース・データ・タイプと一致させてください。

**2** ソース表の列を登録してください。

**3** フェデレーテッド・ターゲットに対してサポートされている有効なデータ・タイプを選択してください。

**4** ターゲット・メンバーの LOB 列の数が許容限度を超えていないことを確認してください。

**5** ソース列の式かターゲット表の構造を変更してください。

**6** サブスクリプション・メンバーからターゲット・レプリカの LOB 列を除去してください。

**7** レプリカが 0 より大きい競合レベルを必要とする場合は、サブスクリプション・メンバーから DATALINK 列を除去してください。それ以外の場合、レプリカの競合レベルを変更してください。

**8** LOB 列を除去してください。

**9** 列名を検証してください。

**10** 列名を検証してください。

**11** サブスクリプション・ターゲット・メンバーから列を除去してください。

**12** ターゲットの列名がソース列名のマップされた列名に一致することを確認してください。

**13** ターゲット・メンバーの列定義を変更して、NULL 値またはデフォルト値を許容するようにしてください。

**14** ターゲットの列名が CD 表のマップされた列名に一致することを確認してください。

**ASN1815E** **レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。アプライ修飾子 *apply_qual*、処理順序 *whos_on_first* のサブスクリプション・セット *set_name* は、空の場合はドロップされますが、このセットには少なくとも 1 つのメンバーが存在します。 このサブスクリプション・セットはドロップできません。**

**説明:**
指定されたアプライ・コントロール・サーバーの ASN.IBMSNAP_SUBS_MEMBR の中に、特定のサブスクリプション・セットのアプライ修飾子 (示されたもの) に対し、少なくとも 1 つのメンバーが存在しているため、このサブスクリプション・セットはドロップされません。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
まだ存在しているサブスクリプション・メンバーをドロップしてから、サブスクリプション・セットをドロップしてください。 または、サブスクリプション・セットが空でなければならないという要件を付けずに、*Drop Subscription Set* タスクを発行してください。

---

**ASN1816W** **レプリケーション・サブスクリプション・セットに、サブスクリプション・セットがドロップされるとドロップされるメンバーが少なくとも 1 つ含まれています。**

**説明:**
サブスクリプション・セットが正常にドロップされると、そのセットの該当するメンバーもすべて自動的にドロップされます。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1818W** **レプリケーション・サブスクリプション・メンバーは、新規サブスクリプションの WHERE 文節の述部を使用して更新されます。 そのサブスクリプション・メンバーには、以前の述部がすでに存在します。この述部は新規の述部情報によって上書きされます。**

**説明:**
指定されたメンバーにはすでに述部が含まれています。新規の述部が古い述部を上書きします。 スクリプトが生成されました。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション・タスクのための完全な述部文節を指定してください。 既存の述部文節全体が含まれているわけでない場合、その述部文節の更新が必要になる可能性があります。

---

**ASN1819W** **レプリケーション・サブスクリプション・セットは正常に使用不可になっています。ただし、サブスクリプション・セットを使用不可にすると、そのサブスクリプション・セットのすべてのソース・メンバーのキャプチャーの整理ロジックが直接影響を受けるということに注意してください。**

**説明:**
キャプチャーの整理ロジックは、アプライ・プログラムによって従属サブスクリプション・メンバーが移植されるまで、どの CD 表の整理も行いません。 スクリプトが生成されました。 サブスクリプション・セットを使用不可にすることが最適な選択ではなく、むしろドロップすることが適切なオプションである場合、このロジックの更新が必要になる場合があります。 以下を参照してください。

**ユーザーの処置:**
CD 表の整理処理に影響するほど、長時間にわたってサブスクリプション・セットが使用不可にされる場合、または従属登録済みソースに関する CD 表への影響が、キャプチャー・プログラムとキャプチャー・サーバーの CD 表に大きな影響を与える場合は、単純にサブスクリプション・セットを使用不可にするのではなく、いったんドロップして、後で再作成することを検討してください。 または、該当する登録を非活動化してください。

---

**ASN1820E** **サブスクリプション・セット *set_name*、アプライ修飾子 *apply_qual*、処理順序 *whos_on_first* のレプリケーション・ストリングに、無効な DB2 構文が含まれています。このストリングのタイプは *string_type*、ストリング・テキストは *string_text* および SQL メッセージは *sql_message* です。**

**説明:**
指定されたストリングは無効です。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
該当するオブジェクト構文を訂正し、レプリケーション・タスクを再発行してください。

---

**ASN1821W** **従属サブスクリプション・セットは、その中にターゲット・サーバーでの登録済みソースであるターゲット・メンバーが含まれている場合、既存のサブスクリプション・セットがドロップされると無効になります。**

**説明:**
従属サブスクリプションは、それらのソース・メンバー表の存在に依存しています。これらのソース・メンバーがレプリケーション・ターゲットとして維持され、これらのターゲットがドロップされると、アプライ・プログラムは、従属サブスクリプション・セットを処理するときに失敗します。 ターゲット・サーバーの captureserver.IBMSNAP_PRUNCNTL 表に SOURCE_OWNER 行または SOURCE_TABLE 行が含まれ、それらの値が、ドロップされるターゲット表である場合、従属サブスクリプション・セットが影響される場合があります。 スクリプトが生成されました。

**ユーザーの処置:**
スクリプトを実行する前に、必要に応じて従属サブスクリプション・セットを非活動化するか、またはドロップしてください。

---

**ASN1822E** **レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qual*、セット名 *set_name*、ソース・メンバー *sourceowner.sourcename*、ターゲット・メンバー *targetowner.targetname* に対して、エラー終了しました。 示されているサブスクリプション・メンバーは、示されているサブスクリプション・セットに対して存在しません。**

**説明:**
示されているメンバーが、指定されたアプライ・コントロール・サーバーの指定されたアプライ修飾子に対して、ASN.IBMSNAP_SUBS_MEMBR の中で見つかりません。

**ユーザーの処置:**
指定されたアプライ修飾子、セット名、メンバー名、およびコントロール・サーバーが正しいことを確認してください。

---

**ASN1823E** **サブスクリプション・セット *set_name* は、アプライ修飾子 *apply_qual*、処理順序 *whos_on_first* に対し、アプライ・コントロール・サーバー *server_alias* に、存在していません。**

**説明:**
示されているサブスクリプション・セットが、指定されたアプライ・コントロール・サーバーの指定されたアプライ修飾子に対して、ASN.IBMSNAP_SUBS_SET の中で見つかりません。

**ユーザーの処置:**
指定されたアプライ修飾子、セット名、メンバー名、およびコントロール・サーバーが正しいことを確認してください。

---

**ASN1824W** **レプリケーション・サブスクリプション・セットが、0 の COMMIT_COUNT を指定して更新されました。**

**説明:**
ソースは複数の表を含むビューで、そのセットのコミット・カウントは NULL です。 コミット・カウント 0 がそのセットに適用されます。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1825W** **メンバーをドロップするためのレプリケーション・アクションは、ビューをドロップしませんでした。**

**説明:**
ビューをドロップすることを要求しましたが、要求どおりにアクションが完了しませんでした。

**ユーザーの処置:**
ビューを手動でドロップする必要があります。

---

**ASN1826W** **キャプチャー・スキーマ *capture_schema* が、指定されたソース・サーバーに存在しません。**

**説明:**
サブスクリプション・セットにメンバーを追加する前に、キャプチャー・スキーマが存在するか確認してください。

**ユーザーの処置:**
キャプチャー・スキーマを指定して、ソース・サーバーでキャプチャー・サーバー・コントロール表を作成してください。

---

**ASN1827W** **ターゲット・メンバー *target_member* の列 *target_columnname* は、ソース・メンバー *source_member* の対応する列 *source_columnname* の DB2 列属性を保持していません。 理由コードは *reason_code*。**

**説明:**
ソース列の DB2 列属性が、対応するターゲット列と異なっています。 以下は、有効な理由コードの値です。

**1** ソース列は NULL 可能で、ターゲット列は NULL 可能ではありません。

**2** ソース列は NULL 可能でなく、ターゲット列は NULL 可能です。

**3** ソース列にはデフォルト値があり、ターゲット列にはありません。

**4** ターゲット列にはデフォルト値があり、ソース列にはありません。

**ユーザーの処置:**
理由コードが 1 の場合、ソース列の中にターゲット列に適用される NULL 値があるかどうか調べてください。 必要に応じて、ターゲット列を NULLABLE に変更してください。 または、必要に応じて、生成されたスクリプトを更新してターゲットで適切な DB2 属性を組み込んでください。

---

**ASN1828E** **レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qual*、セット名 *set_name*、ソース・メンバー *sourceowner.sourcename*、ターゲット・メンバー *targetowner.targetname* に対して、エラー終了しました。 サブスクリプション・ターゲット・サーバーが IBM 以外のターゲット・サーバーの場合、このアクションがサポートされていないか、または制限付きでサポートされています。理由コードは *reason_code*。**

**説明:**
これらは現行の制限です。 スクリプトは生成されません。 以下は、有効な理由コードの値です。

**0** サポートされていません。

**1** ターゲット表構造がポイント・イン・タイム、CCD、ユーザーのコピーの場合にサポートされます。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1829I** **サブスクリプション・ターゲット表で、有効なニックネーム *nicknameowner.nickname* が見つかりました。 列に対するデータ・タイプのマッピング規則が施行されます。このニックネームはそのまま使用されます。**

**説明:**
このサブスクリプションに対して有効なフェデレーテッド・データベース (ソース表の列とニックネーム列の間のデータ・タイプのマッピングがチェックされ、有効と判断された) の中で、既存のターゲット・ニックネームが見つかりましたが、DB2 以外のリレーショナル・データベース・サーバーでターゲット表の存在を検証するためのチェックがありません。

**ユーザーの処置:**
示されているニックネームに対応するリモート表が存在することを確認してください。 存在しない場合、アプライ・プログラムは失敗します。

---

**ASN1830E** **レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、サブスクリプション・セット *set_name*、処理順序値 *whos_on_first* 、ソース・メンバー *sourceowner.sourcetable* 、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qual*、ターゲット・メンバー *targetowner.targettable*、および 述部 *predicate* に対して、エラー終了しました。 このサブスクリプション・セット・メンバーは、このサブスクリプション・セットに追加できません。 理由コードは *reason_code*。**

**説明:**
このサブスクリプション・セット・メンバーは無効です。スクリプトは生成されません。 有効な理由コードは以下のとおりです。

**0** 存在しない CD 表または UOW 表からの述部参照列があります。

**ユーザーの処置:**
示されている述部の正確性を検証し、詳細変更述部へ機能についての資料を参照してください。

---

**ASN1831E** **レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。アプライ・コントロール・サーバー *control_server* で、処理順序値が *whos_on_first* である、アプライ修飾子 *apply_qual* を持ったサブスクリプション・セット *set_name* に対して、サブスクリプション・ステートメントが存在しません。**

**説明:**
このアプライ修飾子では、示されているサブスクリプション・セット名に対するサブスクリプション・ステートメントが存在しません。

**ユーザーの処置:**

このアプライ修飾子で、示されているサブスクリプション・セットにサブスクリプション・セット・ステートメントが含まれているか確認してください。

---

**ASN1832W　列 *column_name* は、ASN.IBMSNAP_SUBS_COLS コントロール表の中にすでに存在します。**

**説明:**
示されている列はすでに ASN.IBMSNAP_SUBS_COLS 表の中に存在しています。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**ASN1833E　ソース表 *sourceowner.sourcetable* の変更データ (CD) 表 *cdowner.cdname* の CCSID *Unicode_ASCII_EBCDIC* は、キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の IBMSNAP_UOW 表の CCSID *Unicode_ASCII_EBCDIC* と一致しません。指定されたサブスクリプション・メンバー定義によれば、これらの 2 つの表を結合する必要があります。**

**説明:**
示されているキャプチャー・スキーマでは、関連したサブスクリプション・セット・メンバーのターゲット・タイプがユーザーのコピーでない場合、または IBMSNAP_UOW 表のいずれかの列がサブスクリプション・セット・メンバーの WHERE 文節で使用されている場合、アプライ・プログラムは、IBMSNAP_UOW 表および示されているソースの CD 表を結合します。 アプライ・プログラムが、ソース表の CD 表を IBMSNAP_UOW 表と結合することによって、示されたソース表とキャプチャー・スキーマで定義されたサブスクリプション・セット・メンバーを処理すると、これらの表のコード化スキームが異なるためにエラーが発生します。 コード化スキームの詳細については、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『UNICODE および ASCII コード化スキーム』を参照してください。

**ユーザーの処置:**
以下のいずれかのアクションを行ってください。

- ターゲット・タイプとしてユーザーのコピーを選択します。サブスクリプション・メンバーの WHERE 文節の IBMSNAP_UOW 表の列は使用しないでください。
- 異なるキャプチャー・スキーマを使用してソースを登録し、その新しいキャプチャー・スキーマの IBMSNAP_UOW 表と同じコード化スキームを使用して、表スペースに CD 表を作成してください。

---

**ASN1834W　サブスクリプション・セットに、デフォルト・ターゲット・スキーマ 'ASN' が使用されます。**

**説明:**
サブスクリプション・セットにはターゲット・キャプチャー・スキーマを使用する必要があり、デフォルト値の 'ASN' が使用されます。

**ユーザーの処置:**
デフォルトが、このサブスクリプション・セットの中のターゲット・キャプチャー・スキーマ列として適当であれば、アクションは不要です。

---

**ASN1835W　データ・タイプ *datatype* のターゲット列 *column_name* がサブスクリプション・セット・メンバーのターゲット *tableowner.tablename* およびソース *sourceowner.sourcename* に追加されましたが、データ・タイプが *datatype* である、対応するソース列 *column_name* に、ターゲット列に適用できないデータが含まれている可能性があります。理由コードは *reason_code*。**

**説明:**
ソース列の定義が、ターゲット列の定義と正確に一致していません。 そのため、アプライ・プログラムがソースから選択したデータがターゲット列として適さない場合、アプライ・プログラムは失敗するか、またはソース・データを切り捨てて変更する可能性があります。
注: ご使用のアプリケーションが、アプライ・プログラムの失敗の原因となるデータを生成していない場合、定義のミスマッチの問題があります。

理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

1

ターゲット列の長さが、解決されたソース列の式より小さくなっています。

2

ターゲット列のスケールが、解決されたソース列の式より小さくなっています。

3

ターゲット列の精度が、解決されたソース列の式より小さくなっています。

4

ターゲット列とソース列のデータ・タイプが、特定のソース値の場合にしか互換ではありません。

**ユーザーの処置:**
可能であれば、ターゲット・サイトで定義を変更して、ソースの定義と互換になるようにしてください (この操作は、通常、ターゲット・サイトで実行されているアプリケーションによって実行されます)。

定義のミスマッチを保持する必要がある場合 (ターゲットの定義がソースの定義と異なっていなければならない具体的な理由がある場合)、アプリケーションを調べて、定義のミスマッチがランタイムの問題の原因とならないことを確認してください。

---

**ASN1836W　ターゲット表 *owner.name* は、キャプチャー・スキーマ *schemaname* を使用してソースとして登録されているため、ドロップされません。**

**説明:**
このターゲット表は、示されているキャプチャー・スキーマを使用してソースとして登録されています。 この表がドロップされると、登録は無効になります。

**ユーザーの処置:**
ターゲット表の登録をドロップしてから、表をドロップしてください。

---

**ASN1837W　DB2 ターゲット *tableowner.tablename* はドロップされません。**

**説明:**
このターゲット表は、レプリカ、または外部の整合変更データ表 (CCD) です。この表はターゲット・サーバーでも登録されているため、従属ターゲットのソースである可能性があります。この表を自動的にドロップできません。

**ユーザーの処置:**
そのレプリカまたは外部 CCD 表に対する登録済みソースをドロップしてください。 その後、DB2 ターゲット表を手動でドロップするか、またはレプリカまたは外部 CCD サブスクリプション・メンバーを削除してください。 メンバーを削除すると、DB2 ターゲット表がドロップされます。

---

**ASN1838E　レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 OS/400 表 *tableowner.tablename* を、レプリカのターゲット・サブスクリプション・メンバーとして使用することができません。 理由コードは *reason_code*。**

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0**　指定されたターゲット表名が存在しないか、またはそのスキーマが、「Create Collection」または「Create Schema」コマンドを使用して作成されていないかのいずれかです。そのため、指定された表はジャーナル記録されません。レプリカに対して 'F' 方向のサブスクリプション・セットでターゲット表を登録するときには、ターゲット表のジャーナル情報が必要です。この表は、OS/400 システム上で必ず作成してください。

**1**　指定したターゲット表は存在しますが、表のジャーナル記録がありません。 'F' 方向設定のターゲット表をレプリカとして登録するときには、ターゲット表のジャーナル情報が必要です。

**ユーザーの処置:**
取るべきアクションは理由コードに依存します:

**0**　ターゲット表が存在しない場合は、ターゲット表を作成し、これを変更前イメージおよび変更後イメージの両方を使用してジャーナル記録し、次にタスクを再発行してください。ターゲット表が存在する場合は、変更前イメージおよび変更後イメージの両方を使用してジャーナル記録し、次にタスクを再発行してください。

**1**　変更前イメージおよび変更後イメージの両方を使用して指定されたターゲット表をジャーナル記録し、次にタスクを再発行してください。

---

**ASN1839I　ソース・ビュー *viewowner.viewname* の基本表 *tableowner.tablename* が、レプリカ・ターゲットによる更新に選択されました。**

**説明:**
ソース・メンバーが、このレプリカ・シナリオのタイプ・ビューです。ビューを更新することができません。そのため列の最大数をもつビューの登録済み基本表は 'F' 方向のターゲット・メンバーとして使用されます。

**ユーザーの処置:**
シナリオが有効であるか確かめてください。

---

**ASN1840W　ターゲット・データベースは、OS/400 システム上です。**

**説明:**
ターゲット・データベースは、OS/400 システム上です。ターゲット表スペース定義は無視されます。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1841E** **サブスクリプション・ターゲット・メンバー** *targetowner.targetname* **に対して、ターゲット列** *colname* **で指定された式** *expression_name* **が、失敗しました。 個々のサブスクリプション・ソース・メンバー** *sourceowner.sourcename* **に対して実行されたチェックが、SQL エラー (sqlcode =** *sqlcode*, **sqlstate =** *sqlstate*) **を戻したために失敗しました。**

**説明:**
データ保全性規則を確認するために、ソース・メンバーに対するターゲット・メンバーに指定された式の値に、一連のチェックが実行されました。 指定された式には、このチェックのうちで失敗したものがあります。

**ユーザーの処置:**
追加情報については、SQL 戻りメッセージおよび SQL リファレンスを参照してください。

---

**ASN1842W** **内部 CCD 表** *ccdowner.ccdname* **には、ソース・オブジェクト** *sourceowner.sourcename* **の CD 表** *cdowner.cdtable* **より少ない列があります。 このソースでは、内部 CCD の定義前に定義された既存のメンバーが無効になる可能性があります。**

**説明:**
内部 CCD 表は、アプライが変更内容をターゲットに適用しようとする時に、CD 表より先に優先順位をとります。 内部 CCD は、すでに CD 表があり、サブスクリプション・メンバーが定義されている指定ソースに対して作成されます。 CD 表の列の中には内部 CCD 表に存在しないものがあり、 CCD 表の作成の前に定義されていたメンバーは無効になります。

**ユーザーの処置:**
シナリオが有効であるか確かめてください。

---

**ASN1843E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **は、アプライ修飾子** *apply_qualifier*、**セット名** *set_name*、**処理順序** *whos_on_first*、**ソース・メンバー** *source_owner.sourcetable*、**ソース・ビュー修飾子** *source_view_qualifier*、**およびターゲット・メンバー** *targetowner.targetname* **に対して、エラー終了しました。**

**説明:**
**OS/400 のみ。** IBMSNAP_REG_EXT 表では、ソース所有者、ソース表、およびソース・ビュー修飾子の組み合わせについて、重複行は許可されません。

**ユーザーの処置:**
所属しない IBMSNAP_REG_EXT 表から行を削除し、タスクを再発行してください。

---

**ASN1844E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **は、アプライ修飾子** *apply_qualifier*、**セット名** *set_name*、**処理順序** *whos_on_first*、**ソース・メンバー** *source_owner.sourcetable*、**ソース・ビュー修飾子** *source_view_qualifier*、**およびターゲット・メンバー** *targetowner.targetname* **に対して、エラー終了しました。 指定されたソース表とその登録は、別のサーバーにあります。**

**説明:**
ソース・データベースとキャプチャー・データベースの両方が、 System i マシンにある場合、ソース表とその登録は、別のサーバーにのみ常駐することができます。サーバーのうち少なくとも 1 つが、System i システムではありません。

**ユーザーの処置:**
タスクを再発行する前に、指定されたソース表とそのソース表の登録は、同じマシンにあることを確認してください。

---

**ASN1845E** **レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。ターゲット・メンバー** *targetowner.targetname* **の表名の長さ** *length* **が、サーバー** *server* **の z/OS レプリケーション・コントロール表で規定されている許容限度** *max_limit* **を超過しています。**

**説明:**
z/OS レプリケーション・コントロール表は、表の名前の最大長を 30 文字として作成されました。キャプチャー・コントロール・サーバーまたはアプライ・コントロール・サーバーのいずれか、またはこの両方が、z/OS システムにあり、指定したターゲット表名が 30 より長いため、エラー・メッセージを受け取りました。 このサブスクリプション・セット・メンバーは作成できません。

**ユーザーの処置:**
ターゲット・メンバーの表の名前の長さが 30 文字以下か確認してください。ターゲット表の名前はキャプチャー・コントロール・サーバーおよびアプライ・コントロール・サーバーに保管される必要があるため、ソース・

データベースの制限がターゲットの機能を制限する場合があります。 この場合では、 30 文字以下の名前でターゲット表のビューを作成し、ターゲット・ビュー名を使用してサブスクリプション・セット・メンバーを定義することができます。

---

**ASN1846E** **セットには、1 つ以上の無効なメンバーが含まれています。オリジナルのエラー・メッセージは** *original_message*。

**説明:**
設定に 1 つ以上の無効なメンバーがあるため、指定された設定をプロモート中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
入力した情報が正しいか確認して、タスクを再発行してください。

---

**ASN1847E** **ビュー** *viewowner.viewname* **は、サポートされていない定義を含んでいます。**

**説明:**
ビュー定義がサポートされないため、対応する基本表の列にビューの列をマップことができません。

**ユーザーの処置:**
ビュー定義が正しいか確認して、タスクを再発行してください。

---

**ASN1848W** **索引または制約** *index_constraint_name* **を、タイプ** *object_name* **の** *targetowner.targetname* **に作成することができませんでした。 ビュー定義はすべてのキー列に対する列のマッピングを提供しませんでした。**

**説明:**
ターゲット・オブジェクトはビューです。ターゲット・キーがそのビューに対して作成されます。ターゲット・キーで使用されるビュー列を基本表の列にマップすることができなかったため、このターゲット・キーをサポートしているユニーク索引をビューの基本表に作成することができませんでした。

**ユーザーの処置:**
索引を基本表に手動で作成してください。

---

**ASN1849E** **レプリケーション・サブスクリプション・セット** *set_name* **を、指定されたアプライ・コントロール・サーバーのアプライ修飾子にプロモートできません。 理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** キャプチャー・サーバーまたはターゲット・サーバーがフェデレーテッド・データベースです。 プロモート・サブスクリプションは、2 つの DB2 システムのサブスクリプション・セットでのみ動作します。

**ユーザーの処置:**
これは現時点での制約事項です。アクションは不要です。

---

**ASN1850W** **データ・タイプが 10 進の列** *column_name* **の値は、データ・タイプが整数の列にマップされる場合、切り捨てられます。**

**説明:**
指定された列には、有理数が含まれますが、整数列にマップされています。 元のデータの数字で、切り捨てられたものがある可能性があります。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN1851E** **タイプ** *type* **の DB2 オブジェクト** *object_name* **を、表** *tableowner.tablename* **に追加することができません。新規プロパティーと表のパーティション・キーに競合が見つかったためです。**

**説明:**
新規の定義と既存の表プロパティーは、パーティション表の共存制約に関する DB2 の規則により共存することができないため、指定されたオブジェクトを表の定義に追加することができません。

**ユーザーの処置:**
表の制約の詳細については「*SQL リファレンス*」をご覧ください。

---

**ASN1852E** **タイプ** *type* **の DB2 オブジェクト** *object_name* **を、表** *tableowner.tablename* **に追加することができません。新規プロパティーと既存のパーティション・キー** *partitioning_key* **に競合があるためです。**

**説明:**
新規の定義とパーティション・キーの既存の表プロパティーは、パーティション表の共存制約に関する DB2 の規則により共存することができないため、指定されたオブジェクトを表の定義に追加することができません。

**ユーザーの処置:**
表の制約の詳細については「*SQL リファレンス*」をご覧ください。

**ASN1853E** **DB2 の表 *tableowner.tablename* 定義は、索引 *indexowner.indexname* およびその表のパーティション・キーと競合します。**

**説明:**
指定された索引定義とパーティション・キーに競合する定義があり、索引プロパティーとパーティション表のパーティション・キーの共存に関する DB2 の規則により、共存できません。

**ユーザーの処置:**
表の制約の詳細については「*SQL リファレンス*」をご覧ください。

---

**ASN1854E** **表 *tableowner.tablename* の定義は z/OS プラットフォームで完了していません。 理由コードは *reason_code*。**

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** ROWID をサポートするユニーク索引、主キー、およびユニーク制約などの必須プロパティー、または ROWID、LOB 表スペース、補助表、補助索引などの LOB 列のプロパティーが、表定義で抜けています。 表定義を完了するには、上記のうち少なくとも 1 つのエレメントが存在する必要があります。

**ユーザーの処置:**
必要な表プロパティーを含めるために表定義を再定義してください。

---

**ASN1855E** **ターゲット・キーの変更に使用する変更後イメージ列 *column_name* をレプリカ表 *tableowner.table_name*に見つけることができません。**

**説明:**
サブスクリプション中にキー列に対するターゲット・キーの変更オプションを選択しました。 レプリカのソース表で変更後イメージ列に相当するものが見つかりませんでした。

**ユーザーの処置:**
元の変更後イメージ列がレプリカ・ソースのサブスクリプションで使用可能であるか確認してください。

---

**ASN1856E** **レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 OS/400 コレクション名 *collection_name* のチェックが失敗しました。 ネイティブ OS/400 メッセージは *OS/400_message* です。**

**説明:**
指定された OS/400 コレクションが無効です。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
エラー情報の詳細については、System i コンソール・ログを参照してください。

---

**ASN1857E** **レプリケーション・アクション *action_name* はエラー終了しました。 ソース表 *sourceowner.sourcename* には、コンデンスとして定義された内部 CCD 表があり、ターゲット *targetowner.targetname* は、非コンデンス・ターゲットとして要求されています。**

**説明:**
レプリケーション・コントロール表に保管された定義は、ソース・メンバーが、すでに内部 CCD をコンデンスとして定義した別のサブスクリプション・セットに存在することを示します。同じソース・メンバーが、ソースとして別のサブスクリプション・セットに追加されていますが、ターゲット・メンバーは非コンデンスです。ソース・サイドのデータがすでにコンデンスであり、非コンデンス・ターゲットにはコピーできません。 スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
ターゲット・メンバー定義を変更して、タスクを再発行してください。

---

**ASN1858E** **表 *tableowner.tablename* に対する表タイプ *type* は、この DB2 プラットフォームでサポートされていません。**

**説明:**
表またはビューで指定されているタイプは、DB2 プラットフォームでサポートされていません。 DB2 プラットフォームに応じて、サブスクリプションにソースまたはターゲットとして表のタイプのみ組み込むことができます。

**ユーザーの処置:**
ターゲット表のタイプすべてのプロパティーについて、詳しくは DB2 インフォメーション・センターの『SQL レプリケーションのソースのサブスクライブ』を参照してください。

**ASN1859E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **は、アプライ修飾子** *apply_qualifier*、**セット名** *set_name*、**処理順序** *whos_on_first*、**ソース・メンバー** *source_owner.sourcetable*、**ソース・ビュー修飾子** *source_view_qualifier*、**およびターゲット・メンバー** *targetowner.targetname* **に対して、エラー終了しました。 クロスローダー・オプションが、このメンバーに使用されていますが、ニックネーム所有者およびニックネーム表の値が抜けています。**

**説明:**
IBMSNAP_SUBS_MEMBR 表の列 LOADX_TYPE の値が、指定されたメンバーの 3 です。 この値は、クロスローダーがこのメンバーに使用されることを示します。ソース表のニックネームはターゲット・サーバーで作成され、LOAD_SRC_N_OWNER および LOAD_SRC_N_TABLE 列で指定される必要があります。これらの値のいずれかあるいは両方が欠落しています。

**ユーザーの処置:**
LOAD_SRC_N_OWNER フィールドまたは LOAD_SRC_N_TABLE フィールドに値を指定し、タスクを再発行してください。

---

**ASN1860W** **ターゲット・メンバー** *targetowner.targetname* **が存在せず、メンバーをドロップするスクリプトは生成されません。**

**説明:**
ターゲット・データベース上にターゲット表、ビューまたはニックネームが存在していません。そのためドロップできません。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1861E** **サブスクリプション・セット・メンバーを、ターゲット** *targetowner.targetname* **に作成できません。これは、ターゲットがすでにセットのメンバーであり、既存のメンバー定義が要求された定義と競合するためです。**

**説明:**
IBMSNAP_SUBS_COLS コントロール表の列にはすでに NAME、IS_KEY、EXPRESSION、および TYPE に対する値が含まれ、これらの値は新規メンバーに要求された値と異なります。新規メンバーを作成するスクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
新規サブスクリプション・メンバーを作成するには、IBMSNAP_SUBS_COLS 表に保管されているターゲット・プロパティーと同じプロパティーを使用してください。

---

**ASN1862E** **レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子** *apply_qualifier*、**サブスクリプション・セット名** *set name*、**処理順序値** *whos_on_first* 、**ソース・メンバー** *sourceowner.sourcetable* 、**ソース・ビュー修飾子** *source_view_qual*、**ターゲット・メンバー** *targetowner.targettable* **に対して、エラー終了しました。 指定されたセットに対するサブスクリプション・セット・メンバーを更新できません。**

**説明:**
指定されたソース・メンバーは、ターゲット・サーバーで有効なニックネームを持っていません。 このエラーは、以下の理由により発生したと思われます。

- ソース・メンバー作成時にニックネームを提供していなかった。
- ターゲット・サーバーに存在せず、ユーザー用に作成されないニックネームを提供した。
- ニックネームでないオブジェクトを提供した。
- ターゲット・サーバーに存在するが、指定されたソース・メンバーに関連していないニックネームを提供した。

**ユーザーの処置:**
ターゲット・サーバーにすでに存在し、ソース・メンバーと関連する有効なニックネームを提供しているかどうか確認してください。

---

**ASN1863E** **レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。ソース・メンバー** *sourceowner.sourcename* **の表所有者の長さ** *length* **が、サーバー** *server* **のレプリケーション・コントロール表で規定されている許容限度** *max_limit* **を超過しています。**

**説明:**
キャプチャー・サーバーは、バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステム上にあり、アプライ・コントロール・サーバーは、ワークステーション上または DB2 for z/OS の以前のバージョンのいずれかにあります。 バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステムでスキーマ

名に許可される最大長は、このサーバー上で許可される長さより、はるかに長くなります。

**ユーザーの処置:**
バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステムをアプライ・コントロール・サーバーとして使用するようにセットアップを再定義して、タスクを発行します。

---

**ASN1864E** **レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。ターゲット・メンバー *targetowner.targetname* の表所有者の長さ *length* が、サーバー *server* のレプリケーション・コントロール表で規定されている許容限度 *max_limit* を超過しています。**

**説明:**
ターゲット・サーバーは、バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステム上にあり、アプライ・コントロール・サーバーまたはキャプチャー・コントロール・サーバーのいずれかが、ワークステーション上または DB2 for z/OS の以前のバージョンにあります。 バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステムでスキーマ名に許可される最大長は、コントロール・サーバー上で許可される長さより、はるかに長くなります。

**ユーザーの処置:**
バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステムを、アプライ・コントロール・サーバーまたはキャプチャー・コントロール・サーバーのいずれかとして使用するようにセットアップを再定義します。

---

**ASN1865E** **レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。キャプチャー・スキーマ *capture_schema* 用のキャプチャー・コントロール・サーバー上のアーキテクチャー・レベル *arch_level* は、バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステムではサポートされません。**

**説明:**
指定されたキャプチャー・コントロール・サーバーは、バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステム上にあり、 *capture_schema*.IBMSNAP_REGISTER 表から取得するアーキテクチャー・レベル値は、0805 でなければなりません。 その表から取得するアーキテクチャー・レベルは、0805 ではありません。 現在、バージョン 8 新機能モードでレプリケーションを実行していますが、新しいアーキテクチャー・レベルをサポートするようにコントロール表をマイグレーションしませんでした。スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
マイグレーション・プログラム AASNSAMP member(ASNM2V8) を実行し、レプリケーション・コントロール表の定義に、変更します。 このマイグレーション・プログラムは、アーキテクチャー・レベルを 0805 に設定し、コントロール表のいくつかの列の長さを変更して長くします。

---

**ASN1866E** **レプリケーション・アクションがエラーで終了しました。アプライ・コントロール・サーバー上のアーキテクチャー・レベル *arch_level* は、それが定義されているバージョン 8 新機能モード DB2 サブシステムとは互換性がありません。**

**説明:**
指定されたアプライ・コントロール・サーバーは、バージョン 8 新機能モード DB2 サブシステム上にあり、ASN.IBMSNAP_SUBS_SET 表から取得するアーキテクチャー・レベルは、バージョン 8 の新機能モード DB2 サブシステムをサポートしません。スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
アプライ・コントロール表を最新のアーキテクチャー・レベルにマイグレーションしてから、アクションを再試行してください。

---

**ASN1867E** **レプリケーション・アクションは、アプライ修飾子 *apply_qualifier*、サブスクリプション・セット名 *set_name*、WHOS_ON_FIRST 値 *whos_on_first*、ソース・メンバー *sourceowner.sourcetable*、ソース・ビュー修飾子 *source_view_qual*、ターゲット・メンバー *target_owner.target_table* に対して、エラー終了しました。最初にサブスクリプション・セットを現行のアーキテクチャー・レベルにマイグレーションしないと、指定されたサブスクリプション・セットにサブスクリプション・セット・メンバーを追加できません。 理由コードは *reason_code*。**

**説明:**
メンバーが追加された場合、このサブスクリプション・セットは無効になります。 スクリプトは生成されません。 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** schema.IBMSNAP_REGISTER 表には Oracle ソースの既存登録があり、以前のアーキテクチャー・レベルに関係しています。 すべての登録を新しいアーキテクチャー・レベルにマイグレーションするまで、このセットに新しいメンバーは追加できません。

**1** ASN.IBMSNAP_SUBS_SETS 表には Oracle ソースの既存サブスクリプション・セット・メン

バーがあり、以前のアーキテクチャー・レベルに関係しています。 すべてのサブスクリプション・セット・メンバーを新しいアーキテクチャー・レベルにマイグレーションするまで、新しいソースをサブスクライブできません。

**ユーザーの処置:**
DB2 以外のリレーショナル・ソースの既存登録を現行のアーキテクチャー・レベルにマイグレーションします。 詳しくは、「*SQL レプリケーション・バージョン 8 へのマイグレーション*」を参照してください。

---

**ASN1900E** **表またはビュー** *objectowner.objectname* **は、新しいサーバーにプロモートできません。 理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
以下は、有効な理由コードの値です。

**0** このオペレーティング・システムの表タイプが、プロモート要求に関してはサポートされていません。

**1** プロモートを要求したソース・サーバーのオペレーティング・システムが、ターゲット・サーバーのオペレーティング・システムと一致しました。

**2** 表またはビューが存在していません。

**ユーザーの処置:**
説明の中の理由コードを調べて、以下のように応答してください。

**0** このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

**1** 現行の制限。

**2** ソース・サーバーのオペレーティング・システムに、この表またはビューが存在するか確認してください。

---

**ASN1901E** **登録済みソース** *source_owner.source_name* **は、キャプチャー・サーバー** *capture_server* **でキャプチャー・スキーマ** *capture_schema* **に対してプロモートできません。理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** 表またはビューが登録済みソースではありません。

**1** 登録済みソースがレプリカ表です。

**2** 登録済みソースは DB2 for System i 上にありますが、このソースのリモート・ジャーナルがあります。

**3** 表またはビューはすでにプロモートされています。

**4** ビューの上にあるビューは、レプリケーション・プロモート登録関数によってサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
説明の中の理由コードを調べて、以下のように応答してください。

**0** IBMSNAP_REGISTER 表の中で指定した表またはビュー名に、示されたキャプチャー・スキーマに関する項目が含まれていません。表またはビューの登録は、この特定のキャプチャー・スキーマに対してはプロモートできません。

**1** 指定した表のタイプは、captureschema.IBMSNAP_REGISTER 表の中のレプリカ (SOURCE_STRUCTURE 列の値は 7) です。 この表は登録済みソースとしてプロモートできません。 レプリカは、ソースのユーザー表とターゲット・レプリカの間で適正な定義を維持するために、サブスクリプション・セットのコンテキストの中でのみプロモートできます。

**2** この登録済みソースは、リモート・ジャーナルを持ち、DB2 for System i 上で維持されていますが、SQL スクリプトを使用する場合にのみプロモートできます。

---

**ASN1902W** **スクリプトを実行する前に、プロモートされたキャプチャー・サーバー上にスキーマが存在することを確認してください。 レプリケーション定義は、プロモートされたキャプチャー・サーバーにオブジェクトが存在しない場合、不完全になります。**

**説明:**
プロモート・タスクでは、新規のキャプチャー・サーバーと新規のキャプチャー・サーバー・スキーマを指定できます。 ただし、プロモート・タスクでは、新規のキャプチャー・サーバーに接続して、キャプチャー・サーバーとスキーマの名前と存在の確認はしません。スクリプトを正常に実行するために、その実行前にこの情報を確認する必要があります。

**ユーザーの処置:**
必須オブジェクトを生成するには、スクリプトの実行前に適切な SQL を実行してください。

**ASN1903W** **オブジェクト** *objectowner.objectname* **は、プロモートされたアプライ・コントロール・サーバー上に存在しませんが、プロモートされたオブジェクトの一部は、このオブジェクトの存在に依存しています。 このオブジェクトを作成できない場合、プロモートされたアプライ・コントロール・サーバーでレプリケーション定義が不完全になります。理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
プロモート・タスクでは新規のアプライ・コントロール・サーバー名を指定できるため、生成されたスクリプトを正しく実行するための必須オブジェクトが存在するかどうかを、このタスクで検出します。 スクリプトは生成されますが、作動不能です。 以下は、有効な理由コードの値です。

**0** アプライ・コントロール・サーバーのコントロール表が存在しません。

**1** プロモートされたセットのすべてのソース・メンバーに関する登録情報。

**ユーザーの処置:**
必須オブジェクトを生成するには、スクリプトの実行前に適切な SQL を実行してください。

---

**ASN1904I** **レプリケーション・サブスクリプション・メンバーは、指定されたアプライ・コントロール・サーバーで、指定されたアプライ修飾子に対して正常にプロモートされました。 理由コードは** *reason_code*。

**説明:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。スクリプトは生成されていますが、実行前に一部更新が必要になる可能性があります。 以下は、有効な理由コードの値です。

**0** ソース・メンバー構造が、ターゲット・メンバー構造と非互換です。

**1** ターゲット・メンバーは、別のレプリカ (replica2) のソース・メンバーでもあるレプリカ (replica1) です。 replica2 の登録行に RECAPTURE 値を指定すると、ユーザー表の更新を replica2 で複製することは許可されません。

**2** ソース・メンバーは、複数のレプリカ (replica1 と replica2) のソース・メンバーでもあるユーザー表です。 ユーザー表の登録行に RECAPTURE 値が指定されている場合、replica1 の更新を replica2 で複製すること、およびその逆も許可されません。

**ユーザーの処置:**
説明の中の理由コードを調べて、以下のように応答してください。

**0** ASN.IBMSNAP_SUBS_MEMBR 表の TARGET_STRUCTURE 列を調べてください。この列の値は、対応するソース・メンバー、captureschema.IBMSNAP_REGISTER 表の SOURCE_STRUCTURE 列と互換でなければなりません。

**1, 2** 必要に応じて、値を更新してください。

---

**ASN1905W** **ホストと新規の両方のシステムで、キャプチャー・サーバー別名とキャプチャー・スキーマ名が同じです。 生成されたレプリケーション定義が、ホスト・システム上で実行された場合に機能しません。**

**説明:**
プロモート・タスクで、キャプチャー・サーバー別名とキャプチャー・スキーマ名が、ホストと新規のどちらのシステムでも同じであることが検出されました。 生成された SQL スクリプトを変更する必要があります。変更しない場合、実行時にスクリプトが失敗します。

**ユーザーの処置:**
アクションとして、1) ホスト・システムと新規システムに、それぞれ異なるキャプチャー・サーバー別名とキャプチャー・スキーマ名の値を指定して、同じタスクを実行するか、 2) 生成されたスクリプトの中でキャプチャー・サーバー別名かキャプチャー・スキーマ名を変更してください。

---

**ASN1950E** **ASNCLP : 予期しないトークン** *token_name* **が検出されました。 有効なトークンには** *list_of_tokens* **が含まれます。**

**説明:**
誤った構文を使用したコマンドが入力されました。

**ユーザーの処置:**
資料を調べて、コマンドの構文を確認してください。

---

**ASN1951E** **ASNCLP : 無効なプロファイル** *profile_name* **を使用したコマンドが入力されました。**

**説明:**
あらかじめプロファイルが存在していないと、コマンドで使用できません。

**ユーザーの処置:**
対応する SET PROFILE コマンドを発行してから、失敗したコマンドを再入力してください。

**ASN1952E　ASNCLP : プログラムは内部エラーを検出しました。**

**説明:**
レプリケーション・コマンド行プロセッサーが、リカバリー不能エラー条件を検出しました。

**ユーザーの処置:**
エラーが載っているログ・ファイルを入手し、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**ASN1953I　ASNCLP : コマンドが完了しました。**

**説明:**
この ASNCLP セッションのすべてのコマンドが正常に完了しました。 このセッション内のいくつかのコマンドによって、エラー、警告、または通知のメッセージが生成された可能性があることにも注意してください。

**ユーザーの処置:**
ASNCLP ログ・ファイルを調べて、このセッション内のコマンドによってエラー、警告、または通知のメッセージが生成されたか確認してください。

**ASN1954E　ASNCLP : コマンドが失敗しました。**

**説明:**
ASNCLP セッション内で少なくとも 1 つのコマンドが失敗し、処理が停止しました。

**ユーザーの処置:**
ASNCLP ログ・ファイルを調べて、エラーについて診断してください。 その後に、エラーを修正し、コマンドを再試行してください。

**ASN1955I　ASNCLP : プログラムは次のファイルを使用します。キャプチャー SQL スクリプトとして *capture_script_file_name*、コントロール SQL スクリプトとして *control_script_file_name*、ターゲット SQL スクリプトとして *target_script_file_name*、およびログ・ファイルとして *log_file_name*。**

**説明:**
ASNCLP セッションにより、示されたファイルで情報が生成されました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

**ASN1956I　ASNCLP : プログラムは、現在、アクション *action_name* を実行するためのスクリプトを生成しています。**

**説明:**
このコマンドに関する入力はすべて正常に解析され、スクリプトを生成するコマンドが現在呼び出されています。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

**ASN1957E　ASNCLP : 入力パラメーター *input_parameter* の値 *value* は誤りです。理由コードは *reason_code*。**

**説明:**
入力パラメーターの値は誤りです。 以下は、有効な理由コードの値です。

**1**　この入力パラメーターは文字値ですが、数値でなければなりません。

**2**　この入力パラメーターは数値ですが、文字値でなければなりません。

**3**　コマンド行プロセッサーが指定されたファイルにアクセスできません。

**4**　日付のフォーマットは必ず yyyy-mm-dd に、時間フォーマットは hh:mm:ss.ffffffff にしてください。日時のコンポーネントは、 ffffffff で示される時刻の小数部以外はすべてが必須指定です。 ハイフンとコロンも必須指定です。

**ユーザーの処置:**
理由コードをチェックし、有効な入力パラメーター値を指定してください。

**ASN1976E　*pgmname* : *program_qualifier*. 指定されたデータベース別名 *db_alias_name* は、パスワード・ファイル *password_file_name* にすでに存在します。**

**説明:**
指定したキーは、パスワード・ファイルの中にすでに存在しています。

**ユーザーの処置:**
ADD パラメーターの代わりに MODIFY パラメーターを使用して、このコマンドを再入力してください。

**ASN1977E** *pgmname* **:** *program_qualifier***. 入力パラメーター** *parameter_name* **の値がありません。**

**説明:**
上記の入力パラメーターを指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
有効な入力パラメーターを使用して、ユーティリティーを再呼び出ししてください。

---

**ASN1978E** *pgmname* **:** *program_qualifier***. 入力パラメーター** *parameter_name* **の値が長すぎます。**

**説明:**
asnpwd コマンドはデータベース別名の長さとして最大 8 文字をサポートし、ユーザー ID とパスワードの長さはいずれも最大 128 文字までサポートします。 ユーザー ID とパスワードの具体的な長さは、使用しているオペレーティング・システムによって異なります。

**ユーザーの処置:**
長さが有効な入力パラメーターを使用して API を呼び出してください。

---

**ASN1979E** *pgmname* **:** *program_qualifier***. プログラムは、予期しないトークン** *token_name* **を検出しました。 予期していたトークンには** *list_of_tokens* **が含まれます。**

**説明:**
誤った構文を使用したコマンドが入力されました。

**ユーザーの処置:**
資料を調べて、コマンドの構文を確認してください。

---

**ASN1980E** *pgmname* **:** *program_qualifier***. プログラムは** *reason* **のために正常に完了しませんでした。**

**説明:**
asnpwd コマンドは、メッセージに示したシステム上の問題を検出しました。

**ユーザーの処置:**
メッセージの情報を基にして、アクションをとってください。 エラーの修正後、コマンドを再入力してください。

---

**ASN1981I** *pgmname* **:** *program_qualifier***. プログラムは、パスワード・ファイル** *password_file_name* **を使用して正常に完了しました。**

**説明:**
asnpwd コマンドは正常に完了しました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN1982E** *pgmname* **:** *program_qualifier***. 指定されたデータベース別名** *db_alias_name* **が、パスワード・ファイル** *password_file_name* **にありません。**

**説明:**
MODIFY または DELETE パラメーターを使用して指定したキーは、パスワード・ファイルの中に存在していません。

**ユーザーの処置:**
ADD パラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

---

**ASN1983E** *pgmname* **:** *program_qualifier***. プログラムは、パスワード・ファイル** *password_file_name* **を検出できません。**

**説明:**
パスワード・ファイルが見つかりませんでした。

**ユーザーの処置:**
指定したパス内にこのパスワード・ファイルが存在していることを確認してください。 初めてパスワード管理ユーティリティーを使用している場合、INIT パラメーターを使用してください。

---

**ASN1984E** *pgmname* **:** *program_qualifier***. プログラムは、パスワード・ファイル** *password_file_name* **がすでに存在しているため、初期化できません。**

**説明:**
指定したパス内に、パスワード・ファイルがすでに存在しています。

**ユーザーの処置:**
パスワード・ファイルが削除されたことを確認してください。 その上で、コマンドを再試行してください。

---

**ASN1985E** *pgmname* **:** *program_qualifier***. プログラムは、パスワード・ファイル** *password_file_name* **を使用しているときに内部エラーを検出しました。**

**説明:**
オペレーティング・システムで、このパスワード・ファイルにアクセスしようとしたときに、予期しないエラーが発生しました。 このエラーに関して使用可能な情報

がありません。 ただし、このエラーは、パスワード・ファイルを手動で編集したことが原因で、ファイルのフォーマットが変更されたために発生した可能性があります。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再試行してください。 問題が解決しない場合は、INIT パラメーターを使用して新規のパスワード・ファイルを作成してください。

---

**ASN1986E** *pgmname* **:** *program_qualifier***. パスワード・ファイル** *file_name* **には、リスト不可能な暗号化された情報が含まれます。**

**説明:**
Encrypt All を使用して作成されたパスワード・ファイルには暗号化されたデータ (別名、ユーザー ID、およびパスワード) のみが含まれます。 暗号化されたデータはリストできません。 Encrypt Password パラメーターを使用して作成されたパスワード・ファイルからのみデータをリストできます。

**ユーザーの処置:**
List オプションを使用する場合は、パスワードのみを暗号化した状態でパスワード・ファイルを保守してください。 asnpwd delete コマンドで旧パスワード・ファイルを削除し、asnpwd init encrypt password コマンドでパスワード・ファイルを新規作成する必要があります。

---

**ASN2000I** **アクション** *action_name* **が、***time_stamp* **に開始されました。 Q キャプチャー・サーバーは** *capture_server* **で、 Q キャプチャー・スキーマは** *capture_schema* **です。**

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2001I** **アクション** *action_name* **が、***time_stamp* **に開始されました。 Q アプライ・サーバーは** *apply_server***、Q アプライ・スキーマは** *apply_schema***。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2002I** **アクション** *action_name* **が、***time_stamp* **に開始されました。発行名は** *pub_name***、Q キャプチャー・サーバーは** *capture_server***、Q キャプチャー・スキーマは** *capture_schema***、ソース表、ビュー、またはニックネームは** *table_name***。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2003I** **アクション** *action_name* **が、***time_stamp* **に開始されました。 Q サブスクリプション名:** *name***。 Q キャプチャー・サーバー:** *capture_server***。 Q キャプチャー・スキーマ:** *capture_schema***。 Q アプライ・サーバー:** *apply_server***。 Q アプライ・スキーマ:** *apply_schema***。ソース表は** *table_name***。 ターゲット表またはストアード・プロシージャーは** *table_name***。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2004I** **アクション** *action_name* **が、***time_stamp* **に開始されました。発行キュー・マップ名は** *queue_map_name***、Q キャプチャー・サーバーは** *capture_server***、Q キャプチャー・スキーマは** *capture_schema***。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2005I** **アクション** *action_name* **が、***time_stamp* **に開始されました。レプリケーション・キュー・マップ名は** *queue_map_name***、Q キャプチャー・サーバーは** *capture_server***、Q キャプチャー・スキーマは** *capture_schema***、Q アプライ・サーバーは** *apply_server***、Q アプライ・スキーマは** *apply_schema***。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

**ASN2006I** **Q キャプチャー・サーバー** *capture_server* **および Q キャプチャー・スキーマ** *capture_schema* **に関するアクション** *action_name* **が** *time_stamp* **に正常に終了しました。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

**ASN2007I** **Q アプライ・サーバー** *apply_server* **および Q アプライ・スキーマ** *apply_schema* **に関するアクション** *action_name* **が** *time_stamp* **に正常に終了しました。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

**ASN2008I** **発行名** *pub_name*、**Q キャプチャー・サーバー** *capture_server*、**Q キャプチャー・スキーマ** *capture_schema*、**およびソース表、ビュー、またはニックネーム** *table_name* **に関するアクション** *action_name* **が** *time_stamp* **に正常に終了しました。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

**ASN2009I** **Q サブスクリプション名** *name* **に関するアクション** *action_name* **が** *time_stamp* **に正常に終了しました。 Q キャプチャー・サーバーは** *capture_server*、**Q キャプチャー・スキーマは** *capture_schema*、**Q アプライ・サーバーは** *apply_server*、**Q アプライ・スキーマは** *apply_schema*、**ソース表は** *table_name*、**ターゲット表またはストアード・プロシージャーは** *table_name*。

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

**ASN2010I** **発行キュー・マップ名** *queue_map_name*、**Q キャプチャー・サーバー** *capture_server*、**および Q キャプチャー・スキーマ** *capture_schema* **に関するアクション** *action_name* **が** *time_stamp* **に正常に終了しました。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

**ASN2011I** **レプリケーション・キュー・マップ名** *queue_map_name* **に関するアクション** *action_name* **が** *time_stamp* **に正常に終了しました。 Q キャプチャー・サーバーは** *capture_server* **で、 Q キャプチャー・スキーマは** *capture_schema* **です。 Q アプライ・サーバーは** *apply_server* **で、Q アプライ・スキーマは** *apply_schema* **です。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

**ASN2018E** **入力パラメーター** *input_parameter* **の値がありません。**

**説明:**
入力パラメーターの値が必須ですが、ありません。スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
必須パラメーターの値を指定して、アクションを再実行してください。

**ASN2019E** **入力パラメーター** *input_parameter* **の値** *value* **は誤りです。 理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
入力パラメーターとして指定された値は、有効な値ではありません。 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** このコンテキストでは、SUBTYPE 列の値は 'U' か 'B' でなければなりません。

**1** SLEEP_INTERVAL 列の値は 0 より大きく 2147483647 未満でなければなりません。

**2** ALL_CHANGED_ROWS 列の値は 'Y' か 'N' でなければなりません。

**3** BEFORE_VALUES 列の値は 'Y' か 'N' でなければなりません。

**4** CHANGED_COLS_ONLY 列の値は 'Y' か 'N' でなければなりません。

**5** 発行の場合、HAS_LOADPHASE 列の値は 'N' か 'E' でなければなりません。

**6** Q サブスクリプションの場合、HAS_LOADPHASE 列の値は 'N'、'I'、または 'E' でなければなりません。

**7** SUPPRESS_DELETES 列の値は 'Y' か 'N' でなければなりません。

**8** 発行キュー・マップの場合、MESSAGE_FORMAT 列の値は 'X' でなければなりません。

**9** レプリケーション・キュー・マップの場合、MESSAGE_FORMAT 列の値は 'C' でなければなりません。

**10** 発行キュー・マップの場合、MSG_CONTENT_TYPE 列の値は 'T' か 'R' でなければなりません。

**11** レプリケーション・キュー・マップの場合、MSG_CONTENT_TYPE 列の値は 'T' でなければなりません。

**12** IBMQREP_SENDQUEUES 表では、発行キュー・マップかレプリケーション・キュー・マップの場合、 ERROR_ACTION 値は 'I' か 'S' でなければなりません。

**13** Q サブスクリプションの場合、ERROR_ACTION 列の値は 'I'、'S'、'Q'、または 'D' でなければなりません。

**14** Q サブスクリプションの場合、CONFLICT_ACTION 列の値は 'F'、'I'、'D'、'S'、または 'Q' でなければなりません。

**15** LOADTYPE パラメーターは '0'、'1'、'2'、または '3' でなければなりません。

**16** SOURCENODE パラメーターはゼロより大きくなければなりません。

**17** TARGETNODE パラメーターはゼロより大きくなければなりません。

**18** NUM_APPLY_AGENTS パラメーターは 0 より大きく 100 未満でなければなりません。

**19** MEMORY_LIMIT パラメーターは 0 より大きく 100 未満でなければなりません。

**20** Q サブスクリプションの場合、MSG_FORMAT 列の値は 'C' でなければなりません。

**21** STATE パラメーターの有効な値は 'A' のみです。

**22** TARGET_TYPE パラメーターは '1' (ユーザー表) か '5' (ストアード・プロシージャー) でなければなりません。

**23** SUBNAME パラメーターにセミコロン文字 ( ; ) を含めることはできません。

**24** SENDQ または RECVQ 列の値に特殊文字かブランクを含めることはできません。

**25** MONITOR_INTERVAL 列の値は 0 より大きく 2147483647 未満でなければなりません。

**26** MONITOR_LIMIT 列の値は 0 より大きく 10080 以下でなければなりません。

**27** TRACE_LIMIT 列の値は 0 より大きく 2147483647 未満でなければなりません。

**28** PRUNE_INTERVAL 列の値は 0 より大きく 3600 未満でなければなりません。

**29** AUTO_STOP 列の値は 'Y' か 'N' でなければなりません。

**30** LOG_REUSE 列の値は 'Y' か 'N' でなければなりません。

**31** LOGSTDOUT パラメーターは 'Y' か 'N' でなければなりません。

**32** TERM パラメーターは 'Y' か 'N' でなければなりません。

**33** STARTMODE 列の値は 'COLD'、'WARMSI' または 'WARMNS' でなければなりません。

**34** COMMIT_INTERVAL 列の値は 100 より大きく 600000 未満でなければなりません。

**35** SIGNAL_LIMIT 列の値は 0 より大きく 2147483647 未満でなければなりません。

**36** DBSPACE 名の長さが 18 文字より長くなっています。

**37** 指定されたロック・サイズのオプションが無効です。

**38** 0 未満のページ数は指定できません。

**39** ヘッダー・ページの数を 1 未満または 8 より大きい値にすることはできません。

**40** パーセント索引、データ・ページのパーセント・フリー・スペース、または索引ページのフリー・スペースに 0 未満または 99 より大きい値を指定できません。

**41** DBSPACE 名の値が無効です。

**42** 表でないすべてのターゲット・オブジェクトのロード・フェーズ・パラメーターは、'N' でなければなりません。

**43** 表でないターゲット (ニックネームやストアード・プロシージャーなど) はロードできません。したがって、ロード HAS_LOADPHASE パラメーターは 'N' でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
入力パラメーターに有効な値を指定して、アクションを再実行してください。詳細は、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの Q レプリケーションに関する資料を参照してください。

---

**ASN2020E** **入力パラメーター** *input_parameter* **の値が長すぎます。値** *value* **の長さが、許可された最大限度** *maximum_limit* **を超えています。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
入力パラメーターに有効な値を指定してください。各パラメーターに有効な値について詳しくは、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの記述を参照してください。

---

**ASN2021E** **アクションがエラー終了しました。内部エラーが発生しました。戻りコードは** *return_code*。

**説明:**
内部エラーまたはランタイム・エラーのため、指定されたアクションを実行できません。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。 メッセージ中に戻された戻りコードを報告してください。アナライザーのレポートを提出してください。

---

**ASN2022E** **アクションがエラー終了しました。 SQL エラーを検出しました。 SQL メッセージは** *sql_message*。

**説明:**
SQL ステートメントの実行中に、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
SQL については、ご使用のデータベース・メッセージ解説書を参照してください。

---

**ASN2023E** **サーバー** *server_alias* **上のデータベース・プラットフォーム** *platform*、**バージョン** *version* **はサポートされていません。**

**説明:**
指定されたプラットフォーム、バージョン、またはリリースでは、 Q レプリケーションおよびイベントの発行はサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
サポートされているプラットフォーム、バージョン、およびリリースの詳細については、レプリケーションの技術サポートの Web サイトで、システム要件のページを参照してください。

---

**ASN2050E** **レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **用に指定されている受信キュー** *queue_name* **は、Q アプライ・サーバー** *server_alias* **および Q アプライ・スキーマ** *apply_schema* **の別のレプリケーション・キュー・マップにすでに使用されています。**

**説明:**
受信キューは、1 つの Q アプライ・スキーマの下で、1 つのレプリケーション・キュー・マップ当たり 1 つのみ使用できます。

**ユーザーの処置:**
この Q アプライ・スキーマの他のレプリケーション・キュー・マップで使用されていない別の受信キュー名を指定し、アクションを再実行してください。

---

**ASN2051E** **コントロール表は、指定の Q キャプチャー・スキーマ** *capture_schema* **の Q キャプチャー・サーバーにすでに存在しています。**

**説明:**
1 つ以上の Q キャプチャー・コントロール表が、指定のスキーマの下の、このサーバーにすでに存在しています。スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
別の Q キャプチャー・スキーマの下で、「キャプチャー・コントロール表の作成」アクションを再実行してください。

---

**ASN2052E　コントロール表は、指定の Q アプライ・スキーマ *apply_schema* の Q アプライ・サーバーにすでに存在しています。**

**説明:**
1 つ以上の Q アプライ・コントロール表が、指定のスキーマの下の、指定のサーバーにすでに存在しています。スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
別の Q アプライ・スキーマの下で、「アプライ・コントロール表の作成」アクションを再実行してください。

**ASN2053E　Q キャプチャー・スキーマ *capture_schema* のコントロール表が見つかりませんでした。**

**説明:**
指定された Q キャプチャー・スキーマの Q キャプチャー・サーバーにコントロール表が存在しません。アクション「キャプチャー・コントロール表のドロップ」を発行した場合、コントロール表をドロップするスクリプトは生成されません。「発行の作成」などの他のアクションを発行した場合、指定された Q キャプチャー・スキーマの下のデータベースからコントロール表を取り出せなかったので、そのアクションのスクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
適切な Q キャプチャー・サーバーおよび Q キャプチャー・スキーマのアクションを再発行してください。

**ASN2054E　Q アプライ・スキーマ *apply_schema* のコントロール表が見つかりませんでした。**

**説明:**
指定された Q アプライ・スキーマの Q アプライ・サーバーにコントロール表が存在しません。アクション「アプライ・コントロール表のドロップ」を発行した場合、コントロール表をドロップするスクリプトは生成されません。「Q サブスクリプションの作成」などの他のアクションを発行した場合、指定された Q アプライ・スキーマの下のデータベースからコントロール表を取り出せなかったので、そのアクションのスクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
適切な Q アプライ・サーバーおよび Q アプライ・スキーマのアクションを再発行してください。

**ASN2055I　レプリケーション・コントロール表 *table_name* が見つからないので、ドロップされませんでした。**

**説明:**
「Q キャプチャー・コントロール表のドロップ」または「Q アプライ・コントロール表のドロップ」アクションが発行されましたが、コントロール表が欠落していました。スクリプトは、そのコントロール表に対して適切な DROP ステートメントを生成しません。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

**ASN2056W　少なくとも 1 行がコントロール表 *table_name* に見つかりました。このコントロール表のドロップを選択すると、この表に保管されているレプリケーション定義もドロップされます。**

**説明:**
指定されたコントロール表をドロップするスクリプトが生成されましたが、この表は空ではありません。このスクリプトを実行すると、この表にあるレプリケーション制御情報が削除されるので、既存の発行や Q サブスクリプションに影響があります。

**ユーザーの処置:**
このコントロール表をドロップした場合の、発行や Q サブスクリプションへの影響を判別してください。その結果が許容できる場合のみ、生成されたスクリプトを実行してください。

**ASN2057W　表 *tablespace_name* は、すでに指定されたサーバーに存在します。この表スペースにコントロール表が作成されます。**

**説明:**
デフォルトをオーバーライドして他の表スペースを指定しない場合、デフォルトではコントロール表は推奨されている表スペースに作成されます。この状態では、推奨されている表スペースは既存なので、コントロール表は既存の表スペース中に作成されます。

**ユーザーの処置:**
表を既存の表スペース中に作成しない場合は、スクリプトに変更を加えて、別の表スペースを指定してください。コントロール表を既存の表スペース中に作成する場合は、アクションは必要ありません。

**ASN2058E** **ロック・サイズが *locksize* なので、Q キャプチャー・コントロール表 *table_name* はデータベース *logicaldb_name* 中の表スペース *tablespace_name* 中に作成されませんでした。このコントロール表は、ロック・サイズ *expected_locksize* の表スペース中に作成しなければなりません。**

**説明:**
z/OS プラットフォームでは、コントロール表によって、行のロック・サイズの表スペースを必要とするものと、ページのロック・サイズの表スペースを必要とするものがあります。コントロール表用に選択した表スペースのロック・サイズが適切ではありません。

**ユーザーの処置:**
適切なロック・サイズの表スペースを使用して、「Q キャプチャー・コントロール表の作成」を再発行してください。

---

**ASN2059E** **ロック・サイズが *locksize* のため、Q アプライ・コントロール表 *table_name* はデータベース *logicaldb_name* 中の表スペース *tablespace_name* 中に作成されませんでした。このコントロール表は、ロック・サイズ *expected_locksize* の表スペース中に作成しなければなりません。**

**説明:**
z/OS プラットフォームでは、コントロール表によって、行のロック・サイズの表スペースを必要とするものと、ページのロック・サイズの表スペースを必要とするものがあります。コントロール表用に選択した表スペースのロック・サイズが適切ではありません。

**ユーザーの処置:**
適切なロック・サイズの表スペースを使用して、「Q アプライ・コントロール表の作成」を再発行してください。

---

**ASN2075E** **タイプ *object_type* のオブジェクト *object_name* は、指定された Q キャプチャー・スキーマの下の、指定されたサーバーに存在しています。**

**説明:**
指定されたタイプの重複値は、同一の Q キャプチャー・スキーマのコントロール表では使用できません。スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
Q キャプチャー・スキーマでユニークな、別のオブジェクト名を指定して、アクションを再実行してください。

---

**ASN2076E** **発行キュー・マップ *queue_map_name* 用に指定されている送信キュー・オブジェクト *sendqueue_name* は、Q キャプチャー・サーバー *server_alias* および Q キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の別の発行キュー・マップにすでに使用されています。**

**説明:**
送信キューは、1 つの Q キャプチャー・スキーマの下で、 1 つの発行キュー・マップ当たり 1 つのみ使用できます。

**ユーザーの処置:**
この Q キャプチャー・スキーマの他の発行キュー・マップで使用されていない別の送信キュー名を指定し、アクションを再実行してください。

---

**ASN2077E** **タイプ *object_type* のオブジェクト *object_name* は、Q キャプチャー・スキーマ *capture_schema* のサーバー *capture_server* にありません。**

**説明:**
アクション「発行のドロップ」または「発行キュー・マップのドロップ」が呼び出されましたが、指定されたサーバーおよび Q キャプチャー・インスタンスのコントロール表のカタログ定義中に、指定された発行または発行キュー・マップの名前が見つかりませんでした。指定された発行または発行キュー・マップは、ドロップできません。スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
有効な発行または発行キュー・マップの名前を指定して、アクションを再実行してください。

---

**ASN2078E** **タイプ *object_type* のオブジェクト *object_name* は、Q アプライ・スキーマ *apply_schema* のサーバー *apply_server* にありません。**

**説明:**
アクション「サブスクリプションのドロップ」または「レプリケーション・キュー・マップのドロップ」が呼び出されましたが、指定されたサーバーおよび Q アプライ・インスタンスのコントロール表のカタログ定義中に、指定された Q サブスクリプションまたはレプリケーション・キュー・マップの名前が見つかりませんでした。指定された Q サブスクリプションまたはレプリケーション・キュー・マップは、ドロップできません。スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**

有効な Q サブスクリプションまたはレプリケーション・キュー・マップの名前を指定して、アクションを再実行してください。

---

**ASN2081E** **表 *table_name* を発行できません。理由コード: *reason_code*。**

**説明:**
この表は発行用にサポートされていません。スクリプトは生成されません。 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** 指定されているソース表は DB2 カタログ表です。システム・カタログ表から変更を発行できるのは、 Q キャプチャー・プログラムが z/OS 上で実行されている場合のみです。

**1** Q キャプチャー・サーバーは z/OS プラットフォーム上にあり、ソース表は EDITPROC オプションを指定して定義されていますが、DB2 for z/OS が正しいレベルではありません。

**2** Q キャプチャー・サーバーは z/OS プラットフォーム上にあり、ソース表は Valid proc オプションを指定して定義されています。

**3** ソース表に 1 つ以上の LOB 列がありますが、ユニーク性が定義されていません。

**4** ソース表の列が発行用に選択されませんでした。

**5** ソース表の発行される列用にキー欄を引き出せませんでした。

**ユーザーの処置:**
説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

**0** DB2 カタログ表以外のソース表を指定して、アクションを再実行してください。

**1** 編集ルーチン (EDITPROC) によりデータのセキュリティーを高めるために定義された DB2 for z/OS ソース表がサポートされています。これらの表をソースとして使用するためには、表が含まれる DB2 サブシステムがバージョン 8 (APAR PK13542 を適用済み) である必要があります。

**2** Valid proc オプションを指定して定義されていない、別のソース表を指定して、アクションを再実行してください。

**3** LOB 列以外のサブスクライブされるソース列の 1 つに、ユニークなデータベース・プロパティーを作成して、アクションを再実行してください。

**4** ソース表の 1 つ以上の列を選択して、アクションを再実行してください。

**5** キー欄を指定して、アクションを再実行してください。

---

**ASN2082E** **データ・タイプ *datatype* の列 *tablename.columnname* を発行に含められません。 理由コード: *reason_code*。**

**説明:**
指定された列は、発行ではサポートされていません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** この列のデータ・タイプは発行用にサポートされていません。

**1** この表について、発行される LOB 列の最大数を超えました。

**2** LOB データ・タイプの列を、表のキー定義の一部にすることはできません。

**ユーザーの処置:**
理由コードを調べ、発行中に別の列名を指定して、アクションを再実行してください。

---

**ASN2083E** **Q サブスクリプション *name* は、指定された Q キャプチャーまたは Q アプライのスキーマの下にすでに存在しているので、作成できません。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
サーバーにまだ存在していない別の Q サブスクリプション名を指定して、アクションを再実行してください。

---

**ASN2084E** **タイプ *object_type* のオブジェクト *objectowner.objectname* は、指定された Q アプライ・スキーマの下の、指定されたサーバーに存在しています。**

**説明:**
指定されたオブジェクト名および Q アプライ・インスタンスのコントロール表に、カタログ定義がすでに存在しています。同一の Q アプライ・インスタンス中にこのタイプの値が重複することはできません。

**ユーザーの処置:**
別のオブジェクト名を指定して、アクションを再実行してください。

---

**ASN2086E** **ストアード・プロシージャー** *storedproc_owner.storedproc_name* **は、関連した Q サブスクリプションで使用できません。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
このストアード・プロシージャーは無効です。スクリプトは生成されません。 以下は、有効な理由コードの値です。

**0** ストアード・プロシージャーにパラメーターがありません。

**1** ストアード・プロシージャーの最初のパラメーターは、「OPERATION」でなければなりません。

**2** ストアード・プロシージャーの 2 番目のパラメーターは、「SUPPRESSION_IND」であることが必要です。

**3** ストアード・プロシージャーの 3 番目のパラメーターは、「SRC_COMMIT_LSN」でなければなりません。

**4** ストアード・プロシージャーの 4 番目のパラメーターは、「SRC_TRANS_TIME」でなければなりません。

**5** OPERATION パラメーターの「INOUT」属性値が、「INOUT」と等しくありません。

**6** 「SUPPRESSION_IND」、「SRC_COMMIT_LSN」、または「SRC_TRANS_TIME」パラメーターの「INOUT」属性値が、「IN」と等しくありません。

**7** ストアード・プロシージャーには、少なくとも 5 つのパラメーターが含まれる必要があります。 4 つ (「OPERATION」、「SUPPRESSION_IND」、「SRC_COMMIT_LSN」、「SRC_TRANS_TIME」) は必須パラメーターで、少なくとも 1 つが追加パラメーターです。

**ユーザーの処置:**
説明の中の理由コードを調べ、有効なストアード・プロシージャーを指定し、アクションを再実行してください。

---

**ASN2087E** **ストアード・プロシージャーのパラメーター** *owner.name.parameter* **を Q サブスクリプションに含められません。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
このストアード・プロシージャーのパラメーターは、 Q サブスクリプションではサポートされていません。スクリプトは生成されません。 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** パラメーターの 'INOUT' 属性値が、'IN' と等しくありません。

**1** このパラメーターは、Q アプライ・プログラムで必要な特殊前提条件パラメーターで、この種のパラメーターを Q サブスクリプションの一部にすることはできません。

**2** このパラメーターは before-value パラメーターで、この種のパラメーターは Q サブスクリプション中のソース列にマップできません。

**3** このパラメーターは、キーの一部ですが、対応する before-value パラメーターがストアード・プロシージャー定義中のこのパラメーターの前にありません。

**ユーザーの処置:**
説明の中の理由コードを調べてください。ストアード・プロシージャーのパラメーター定義に変更を加えるか、またはサポートされているパラメーターをストアード・プロシージャーに指定して、アクションを再実行してください。

---

**ASN2088E** **列またはストアード・プロシージャーのパラメーター** *targetowner.targetname.name* **を Q サブスクリプションに追加できません。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
列またはストアード・プロシージャーのパラメーターは、サポートされていないか、または無効です。スクリプトは生成されません。 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** ターゲットはストアード・プロシージャーで、このパラメーターは、Q サブスクリプションに追加する前に、プロシージャー定義中に存在している必要があります。

**1** この列はすでに Q サブスクリプションに関係しています。

**ユーザーの処置:**
説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

**0** ストアード・プロシージャーの定義に変更を加えて、ストアード・プロシージャー中にこのパラメーターを組み込み、アクションを再実行してください。

**1** 列名を確認して、 Q サブスクリプションにまだ関係していない別の列名を指定してください。

---

**ASN2100E** **サーバー** *server_alias* **にあるタイプ** *object_type* **のデータベース・オブジェクト** *object_name* **中のパラメーター** *parameter* **のストリング** *string* **の長さ** *length* **が、最大限度** *max_limit* **より長くなっています。**

**説明:**
このタイプのデータベース・オブジェクトには、パラメーターに指定されたストリングより短いストリングが必要です。

**ユーザーの処置:**
該当するデータベースの SQL リファレンスを参照して、有効なストリングの長さを調べ、正しい名前の長さを指定してください。

---

**ASN2101E** **タイプ** *object_type* **のデータベース・オブジェクト** *object_name* **は、サーバー** *server_alias* **にすでにあります。**

**説明:**
このデータベース・オブジェクトは、同じタイプで同じ名前を持つデータベース・オブジェクトがすでに存在するため、作成できません。

**ユーザーの処置:**
データベースにまだ存在していない名前をそのオブジェクトに指定して、タスクを再発行してください。

---

**ASN2102E** **タイプ** *object_type* **のデータベース・オブジェクト** *object_name* **は、サーバー** *server_alias* **にありません。**

**説明:**
このデータベース・オブジェクトはデータベース・カタログに存在しません。このオブジェクトに関する検索情報がないので、発行または Q サブスクリプションに関係することができません。

**ユーザーの処置:**
既存のデータベース・オブジェクトの名前を正しく指定していることを確認し、タスクを再実行してください。

---

**ASN2104E** **サーバー** *server* **にあるタイプ** *object_type* **のデータベース・オブジェクト** *object_name* **中のすべての列の行サイズ** *row_size* **が、許可された最大限度** *max_limit* **を超えています。**

**説明:**
指定されたオブジェクト中のすべての列の行サイズを結合した値は、限度を超えることはできません。このオブジェクトを作成したり変更したりすることはできません。

**ユーザーの処置:**
ページ・サイズを大きくしてこのオブジェクトの表スペースを割り当てるか、またはこのオブジェクトの列の指定値を少なくするか短くしてください。データベース・オブジェクトの行サイズの限度に関する詳細は、データベースごとに固有の「SQL リファレンス」を参照してください。

---

**ASN2105E** **サーバー** *server_alias* **にあるタイプ** *object_type* **のデータベース・オブジェクト** *object_name* **中の列数** *num_columns* **が、データベースの限度** *max_limit* **を超えています。**

**説明:**
データベース・オブジェクト (表または索引) に含められる列数はデータベースのプラットフォームに依存しますが、事前定義の最大数を超えることはできません。オブジェクトの作成または変更を行うスクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
適切な列数のデータベース・オブジェクトを再定義してください。該当するデータベースの SQL リファレンスを参照して、有効なデータベース・オブジェクトの列数を調べてください。

---

**ASN2106E** **サーバー** *server_alias* **にある表スペース** *tablespace_name* **のページ・サイズ** *page_size1* **が、表スペースのバッファー・プール** *buffer_pool* **のページ・サイズ** *page_size2* **と一致していません。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
表スペースのページ・サイズは、この表スペースに割り当てられているバッファー・プールのページ・サイズと一致していなければなりません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** 指定されたバッファー・プールはこの表スペースに割り当てられていますが、このバッファー・プールから取得されるページ・サイズは、指定されたこの表のページ・サイズと等しくありません。

**1** この表スペースのバッファー・プール情報は指定されていないので、デフォルトのバッファー・プールがこの表スペース用に選択されています。しかし、デフォルトのバッファー・プー

ルのページ・サイズは、表スペースのページ・サイズと一致していません。

**ユーザーの処置:**
入力を確認して、次のアクションを行ってください。

- 表スペース中にバッファー・プール情報が指定されている場合は、表スペースのページ・サイズを変更して、バッファー・プールのページ・サイズと一致させ、アクションを再実行してください。
- 表スペース用にデフォルトのバッファー・プールを使用した場合は、表スペースのページ・サイズを変更して、バッファー・プールのページ・サイズと一致させ、アクションを再実行してください。

---

**ASN2118E** **タイプ *object_type1* のデータベース・オブジェクト *object_name* は、タイプ *object_type2* の従属オブジェクトが依然としてサーバー *server_alias* にあるので、削除できません。**

**説明:**
このデータベース・オブジェクトは、指定されたサーバーにこのオブジェクトの存在に従属する 1 つ以上のオブジェクトがあるので、削除できません。

**ユーザーの処置:**
指定されたオブジェクト名を確認して、タスクを再発行してください。

---

**ASN2119E** **サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parm_name*が、欠落しています。**

**説明:**
指定されたオブジェクトのパラメーター値が必要です。

**ユーザーの処置:**
入力を確認して、必須パラメーターに有効な値を指定してください。

---

**ASN2120E** **サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parm_name*が、サポートされていません。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
入力を確認して、パラメーターの値が指定されていないことを確認してください。詳しくは、データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照してください。

---

**ASN2121E** **サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* のパラメーター *parm_name*を、更新操作に使用できません。**

**説明:**
このパラメーターの値を更新できません。

**ユーザーの処置:**
入力を確認して、パラメーターの値が指定されていないことを確認してください。

---

**ASN2122E** **サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト*object_name* のパラメーター *parm_name* の値 *value* に、無効文字 *char* が含まれています。**

**説明:**
パラメーターの値には、特定の文字のみ含めることができます。

**ユーザーの処置:**
指定された値から無効文字を除去してください。データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照して、指定されたパラメーターにとって有効な文字を調べてください。

---

**ASN2123E** **タイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト*object_name* のパラメーター *parm1* の値 *value1* が、パラメーター *parm2* の値 *value2* と競合しています。**

**説明:**
指定されたパラメーターの、指定された値は、サーバーで共存できません。

**ユーザーの処置:**
入力に変更を加えて、有効な値の組み合わせになるようにしてください。データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照して、有効な値の組み合わせを調べてください。

---

**ASN2124E** **サーバー *server_alias* にあるタイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト*object_name* のパラメーター *parm* の値 *value* が、許可される最大値 *max_value* を超えています。**

**説明:**
指定された値が大きすぎます。指定された最大値以下の値のみサポートされています。

**ユーザーの処置:**

入力を確認して、指定する数値を小さくしてください。値の有効な範囲については、データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照してください。

---

**ASN2125E** **サーバー** *server_alias* **にあるタイプ** *object_type* **のデータベース・オブジェクト***object_name* **のパラメーター** *parm* **の値** *value* **が、許可される最小値** *min_value* **未満です。**

**説明:**
指定された値が小さすぎます。指定された最小値以上の値のみサポートされています。

**ユーザーの処置:**
入力を確認して、指定する数値を大きくしてください。値の有効な範囲については、データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照してください。

---

**ASN2126E** **サーバー** *server_alias* **にあるタイプ** *object_type1* **のデータベース・オブジェクト** *object_name1* **に、タイプ** *object_type2* **および名前** *object_name2* **の重複オブジェクトが含まれています。**

**説明:**
重複オブジェクトは許可されません。

**ユーザーの処置:**
入力を確認して、個々のオブジェクトが 1 つのみ指定されていることを確認してください。

---

**ASN2127E** **サーバー** *server_alias* **にあるタイプ** *object_type1* **のデータベース・オブジェクト** *object_name* **に、タイプ** *object_type2* **のオブジェクトが** *num_objects* **個含まれていますが、許可される最大数は** *max_limit* **です。**

**説明:**
指定されたパラメーターに、指定されているオブジェクトが多すぎます。

**ユーザーの処置:**
入力を確認し、これらのデータベース・オブジェクトの数を減らして最大値にしてください。

---

**ASN2128E** **タイプ** *datatype* **の列** *col_name* **は、サーバー** *server_alias* **にあるタイプ** *object_type* **のデータベース・オブジェクト** *object_name* **中では使用できません。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
指定されたデータベース・オブジェクトで、この列はサポートされていません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** この列のデータ・タイプが無効です。

**1** この列は、データベース・オブジェクトで使用できません。

**2** 列の長さが長すぎます。

**3** 参照側の列のデータ・タイプが、外部キー制約のある参照元の列のデータ・タイプに一致しません。

**ユーザーの処置:**
説明中にリストされている理由コードを調べてください。別の列を選択するか、またはこの列のために別のデータベース・オブジェクトを選択してください。

---

**ASN2129E** **タイプ** *prop_type* **のプロパティー** *prop_name* **と、サーバー** *server_alias* **にあるタイプ** *object_type* **のデータベース・オブジェクト** *object_name* **のプロパティーとの間に競合が存在します。**

**説明:**
競合しているプロパティーが見つかり、これらのプロパティーは共存できないので、オブジェクトの作成または更新は行われませんでした。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** オブジェクトを作成しようとして、同一セッション中に指定されている別のプロパティーと競合するプロパティーを指定しました。

**1** オブジェクトを更新しようとして、同一セッション中に指定されている別のプロパティーと競合するプロパティーを指定しました。

**2** オブジェクトを更新しようとして、オブジェクト中の既存のプロパティーと競合するプロパティーを指定しました。

**ユーザーの処置:**
両方のプロパティーとも新規に指定している場合は、一方のプロパティーのみ指定し、タスクを発行してください。一方のプロパティーがオブジェクト中に既存の場合は、そのオブジェクト中に新しいプロパティーを指定しないでください。

---

**ASN2130E** **サーバー** *server_alias* **の表** *table_name* **に列** *column_name* **がないので、タイプ** *object_type* **のデータベース・オブジェクト** *object_name* **の作成または更新を行えません。**

**説明:**

メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
入力を確認して、表の中にある別の列名を指定してください。

---

**ASN2131E** **ターゲット表 *table_name* 中の列 *column_name* は、読み取り専用なので Q レプリケーションで使用できません。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
別のターゲット列を選択してください。データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照して、更新できない列を判別してください。

---

**ASN2132E** **ターゲット表 *table_name* の中の列 *column_name* は、レプリケーションのソース列にマップされていません。この列は NULL 可能でなくデフォルト値がないので、Q サブスクリプションを作成または更新できません。**

**説明:**
Q サブスクリプションに関係していないターゲット表中の列は、 NULL 可能か、またはデフォルトで NOT NULL でなければなりません。ターゲット表の中の Q サブスクリプションの対象として選択しなかった少なくとも 1 つの列が、基準を満たしていません。

**ユーザーの処置:**
以下のいずれかのアクションを行ってください。

- ターゲット表の中の指定した列をソース表の中の列にマップすることで、指定した列が Q サブスクリプションに関係するようにします。
- ターゲット列の NULL 可能プロパティーを使用可能に設定します。
- この列のデフォルト値を指定します。

---

**ASN2135E** **ターゲット列 *target_colname* のデータ・タイプ *target_datatype* は、ソース列 *source_colname* のデータ・タイプ *source_datatype* と互換性がありません。**

**説明:**
ソース列のデータ・タイプに互換性がないので、この列の値をターゲット列に適用できません。

**ユーザーの処置:**
ターゲット表が存在する場合は、互換データ・タイプのある別の列に列マッピングを変更してください。ターゲット表が存在しない場合は、ターゲット列の列プロパティーに変更を加えて、ソース列の列プロパティーと互換性があるようにしてください。

---

**ASN2136W** **ターゲット列 *target_column* の属性とソース列 *source_column* の属性が一致しません。 理由コード: *reason_code*。**

**説明:**
ソース列とターゲット列の同じ属性の値の間に違いが検出されました。 Q サブスクリプションの作成または更新を行うスクリプトが生成されます。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** ソース列は NULL 可能ですが、ターゲット列は NULL 可能ではありません。

**1** ソース列は NULL 可能ではありませんが、ターゲット列は NULL 可能です。

**2** ソース列とターゲット列のコード化スキームが違います。

**3** ソース列にはデフォルト値がありますが、ターゲット列にはデフォルト値がありません。

**4** ソース列にはデフォルト値がありませんが、ターゲット列にはデフォルト値があります。

**ユーザーの処置:**
この違いのために問題が起きる可能性がある場合は、列マッピングか列プロパティーに変更を加えてください。この違いを許容できる場合は、アクションは不要です。

---

**ASN2137W** **ソース列 *source_column* とターゲット列 *target_column* の間の互換性は、ソース列の特定の値のみ存在します。理由コード: *reason_code*。**

**説明:**
ソース列の値をターゲット列に適用できない場合があります。 Q サブスクリプションの作成または更新を行うスクリプトは依然として生成されます。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** ソース列には NULL 値を含められますが、ターゲット列では NULL 値は許可されません。ソース列中の NULL 値はターゲット列に適用できません。

**1** ソース列のデータ・タイプは CHAR か VARCHAR ですが、ターゲット列のデータ・タイプは DATE、TIME、または TIMESTAMP です。ソース列中の、時刻、日付、またはタイム・スタンプの表記が有効でないストリング値は、ターゲット列に適用できません。

**2** ターゲット列がサポートしている値の範囲外の数値が、ソース列に含まれています。

**3** ソース列の VARCHAR データ・タイプの長さが、ターゲット列の CHAR または VARCHAR データ・タイプの長さより長くなっています。

**ユーザーの処置:**
説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

- ターゲット表が存在する場合は、列マッピングを変更してください。
- ターゲット表が存在しない場合は、列プロパティーを変更してください。
- ソース列とターゲット列を確認してください。ターゲット列で許可されている値のみソース列に含まれている場合は、アクションは不要です。

---

**ASN2138W** **データ・タイプ** *source_datatype* **ソース列** *source_column* **の値を、データ・タイプ** *target_datatype* **のターゲット列** *target_column* **に複製する際に、小数桁が失われる可能性があります。**

**説明:**
ターゲット列で許可されている精度がソース列の精度より低いことがターゲット列のデータ・タイプ定義に示されているので、ソース列とターゲット列の間でデータが失われる可能性があります。

**ユーザーの処置:**
以下のいずれかのアクションを行ってください。

- ターゲット表が存在する場合は、列マッピングを変更してください。
- ターゲット表が存在しない場合は、列プロパティーを変更してください。
- ソース列とターゲット列を確認してください。ソース列に値が全く存在しない場合や、ターゲット列で切り捨てが受け入れられる場合は、アクションは不要です。

---

**ASN2139E** **サーバー** *server_alias* **にあるタイプ** *object_type* **のデータベース・オブジェクト***object_name* **中のパラメーター** *parm* **の値** *value* **は、次の値の 1 つと等しくないので無効です。** *valid_values*。

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
入力を確認して、指定された値のリストから値を指定してください。

---

**ASN2140E** **サーバー** *server_alias* **にあるタイプ** *object_type* **のデータベース・オブジェクト***object_name* **中のパラメーター** *parm1* **の値** *value* **は、** *factor* **の倍数ではありません。**

**説明:**
データベース・オブジェクト中の指定されたパラメーターの値は、指定された因子の倍数でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
入力を確認して、指定された因子の倍数である値を指定してください。

---

**ASN2141E** **サーバー** *server_alias* **にあるタイプ** *object_type* **のデータベース・オブジェクト***object_name* **のパラメーター** *parm* **の値** *value* **が無効です。**

**説明:**
データベース・プラットフォーム上の、指定されたパラメーターの値は無効です。

**ユーザーの処置:**
入力を確認して、別の値を指定してください。このパラメーターの有効な値については、データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照してください。

---

**ASN2142E** **サーバー** *server_alias* **上の LOB 表スペース** *tablespace_name* **の属性** *parm* **が無効です。**

**説明:**
次の属性は、LOB 表スペースにとって無効です。
PCTFREE、TRACKMOD、COMPRESS、SEGSIZE。

**ユーザーの処置:**
LOB 表スペースにとって無効な属性
(PCTFREE、TRACKMOD、COMPRESS、SEGSIZE) を除去して、アクションを再実行してください。

---

**ASN2144E** **外部キー** *foreign_key* **の定義が無効なので、サーバー** *server_alias* **の表** *table_name* **の作成または更新は行われませんでした。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
スクリプトは生成されません。 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** 参照側の列の数が参照元の列より少なくなっています。

**1** 参照側の列の数が参照元の列の数より多くなっています。

**ユーザーの処置:**
入力を確認して、参照元の列の数が参照側の列の数と一致することを確認してください。

---

**ASN2145E** **サーバー** *server_alias* **にある表** *table_name* **の列名** *column_name* **が、同一セッション中で複数指定されました。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
入力を確認して、重複名を除去してください。

---

**ASN2146E** **必要な情報が欠落しているので、発行または Q サブスクリプションの作成または更新を行えません。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
スクリプトは生成されません。 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** ソース表の情報が欠落しています。

**1** ターゲット表の情報が欠落しています。

**2** ソース列が選択されませんでした。

**3** ターゲット列が選択されませんでした。

**ユーザーの処置:**
入力を確認して、指定されたパラメーターの値を入力してください。

---

**ASN2147E** **サーバー** *server_alias* **の表** *targetowner.targetname* **に列** *column_name* **がないので、発行または Q サブスクリプションの作成または更新を行えません。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
スクリプトは生成されません。 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** この列は、ソース表に存在しません。

**1** 既存のターゲット表が指定されましたが、指定された列はターゲット表に存在しません。

**ユーザーの処置:**
入力を確認して、ソース表かターゲット表にある列を選択してください。

---

**ASN2148E** **サーバー** *server_alias* **にある表** *table_name* **中の列** *column_name* **はレプリケーション・キー欄にできないので、発行または Q サブスクリプションの作成または更新を行えません。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
スクリプトは生成されません。 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** キー欄用に選択した列は、選択されているソース列のリストの一部ではありません。

**1** キー欄用に選択した列は、選択されているターゲット列のリストの一部ではありません。

**ユーザーの処置:**
入力を確認して、ソース列かターゲット列として選択されているキー欄を選択してください。

---

**ASN2149E** **タイプ** *target_type* **のターゲット** *table_name* **は読み取り専用です。**

**説明:**
指定されたデータベース・オブジェクトは更新できないので、ターゲットにすることはできません。

**ユーザーの処置:**
別のデータベース・オブジェクトをレプリケーションのターゲットとして選択してください。更新できるデータベース・オブジェクトに関する情報は、データベースごとに固有の SQL リファレンスを参照してください。

---

**ASN2150E** **レプリケーション・ターゲット・キーが欠落しているので、 Q サブスクリプションを作成できません。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
スクリプトは生成されません。 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** ターゲット・キーのユーザー入力が欠落しています。

**1** ターゲット表がなく、選択されたソース列に固有なデータベース・プロパティーがソース表に含まれていません。

**2** ソース表とターゲット表が両方ありますが、選択されたソース列とターゲット列に固有なデータベース・プロパティーが含まれていません。

**ユーザーの処置:**
入力を確認して、ターゲット・キーの一部として適切な列が選択されていることを確認してください。

**ASN2151E　ソース列 *source_column* に、マップされたターゲット列がありません。**

**説明:**
指定されたソース列に、マップされたターゲット列がないので、 Q サブスクリプションの作成または更新を行うアクションを完了できません。

**ユーザーの処置:**
ソース列を確認して、有効なターゲット列にマップされているか調べ、アクションを再実行してください。

---

**ASN2152E　ターゲット列 *target_column* に、マップされたソース列がありません。**

**説明:**
指定されたターゲット列に、マップされたソース列がないので、 Q サブスクリプションの作成または更新を行うアクションを完了できません。

**ユーザーの処置:**
ターゲット列を確認して、有効なソース列にマップされているか調べ、アクションを再実行してください。

---

**ASN2153E　指定されたオプション *option* は、サーバー *server* 上のプラットフォーム *platform* ではサポートされていません。**

**説明:**
サーバー・プラットフォームでは ASNCLP オプションはサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
構文を確認して、正しいオプションを指定してください。

---

**ASN2154E　指定された環境値は、この特定のコンテキストに関係がありません。トークン *token* は無視されます。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
構文を確認して、正しい値を指定してください。

---

**ASN2155E　発行またはレプリケーションのキュー・マップ *queue_map_name* は、 1 つ以上の発行または Q サブスクリプションで使用されているので、削除できません。理由コード: *reason_code*。**

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0**　発行キュー・マップを削除しようとしましたが、このキュー・マップに従属する発行が 1 つ以上あります。

**1**　レプリケーション・キュー・マップを削除しようとしましたが、このキュー・マップに従属する Q サブスクリプションが 1 つ以上あります。

**ユーザーの処置:**
説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

**0**　発行キュー・マップを使用している XML 発行を削除する場合は、最初に発行を削除してから発行キュー・マップを削除してください。

**1**　レプリケーション・キュー・マップを使用している Q サブスクリプションを削除する場合は、最初に Q サブスクリプションを削除してからレプリケーション・キュー・マップを削除してください。

---

**ASN2156W　ソース表、ターゲット表、またはその両方で、レプリケーション・キー値をユニークにすることは強制されていません。理由コード: *reason_code*。**

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0**　ターゲット表ではレプリケーション・キー値がユニークに強制されていますが、ソース表では強制されていません。

**1**　ソース表ではレプリケーション・キー値がユニークに強制されていますが、ターゲット表では強制されていません。

**2**　ソース表とターゲット表の両方で、レプリケーション・キー値がユニークに強制されていません。

**ユーザーの処置:**
説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

**0**　ソース表のアプリケーションが、レプリケーション・ターゲット・キー列にマップされたソース列のユニーク値のみ生成することを確認してください。

**1**　ターゲット表のアプリケーションが、レプリケーション・ターゲット・キー列として選択されたターゲット列のユニーク値のみ生成することを確認してください。

**2**　理由コード 0 と 1 に記述されているアクションを行ってください。

**ASN2157I　アクションは不要なので、スクリプトは生成されませんでした。**

**説明:**
データベースのオブジェクトはすでに必要な状態になっているので、アクションは不要です。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2158E　指定された照会 *query* で、タイプ *object_type* のオブジェクトが見つかりませんでした。コマンドは、無視されます。**

**説明:**
コマンド行インターフェースで、アクション (発行の作成や Q サブスクリプションの作成など) に関係している複数のオブジェクトを検索する照会を指定しました。この照会はオブジェクトを戻しませんでした。作成、更新、または削除アクションに関するスクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
照会を再定義し、指定されたタイプのオブジェクトを 1 つ以上戻せるようにして、コマンドを再発行してください。

---

**ASN2159E　オプション *option* の指定値 *value* は、*token* と併用できません。**

**説明:**
コマンド行インターフェースでは、特定のシナリオでサポートされていないパラメーターがあります。例えば、NEW TARGET を作成するキーワードを指定すると、USERTYPE 値を 'Stored procedure' にすることはできません。なぜなら、ストアード・プロシージャーの作成はサポートされていないからです。

スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
キーワードに有効な組み合わせのリストは、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの ASNCLP に関する資料を参照してください。

---

**ASN2160E　論理データベースが指定されていなかったので、タイプ *type* のオブジェクト *object* をサーバー *server* に作成できません。**

**説明:**
指定されたオブジェクト・タイプを z/OS プラットフォーム上に作成するためには、論理データベースを指定しなければなりません。

**ユーザーの処置:**
論理データベースの値を指定して、アクションを再実行してください。

---

**ASN2161E　列 *column_name* が無効なので、サーバー *server* の表 *table_name* の作成または更新を行えませんでした。理由コード: *reason_code*。**

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0**　ASCII または EBCDIC 表スペースの場合、GRAPHIC データ・タイプはサポートされていません。

**1**　ASCII または EBCDIC 表スペースの場合、列のコード化スキーム "FOR MIXED DATA" はサポートされていません。

**2**　指定されたサーバーでは、GRAPHIC データ・タイプはサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
この表の UNICODE 表スペースを指定し、アクションを再実行してください。

---

**ASN2162W　サーバー *server* のターゲット表 *table_name* 中のユニーク制約または索引 *name* の列が、サーバー *server* のソース表 *table_name* ではユニークに強制されていません。**

**説明:**
1 つ以上の複製される列が、ターゲット表ではユニークに強制されていてもソース表ではユニークに強制されていない場合、このユニーク性に違反するソース列値の組み合わせをターゲットに複製できません。ソース表中のデータはターゲット表に適用できません。

**ユーザーの処置:**
ソース表の列値の組み合わせが、ターゲット表のユニークなデータベース制約または索引すべてのユニーク性に違反することがない場合、アクションは必要ありません。違反することがある場合、生成されたスクリプトを実行しないでください。代わりに、ターゲット表のユニーク制約または索引をドロップすることを再考して、アクションを再実行してください。

---

**ASN2163E　Q サブスクリプションの作成または更新を行うスクリプトは生成されませんでした。ソース表は *table_name*。 ターゲット表は *table_name*。理由コード: *reason_code*。**

**説明:**

理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** ターゲット表がなく、ソース表には新しいターゲット表で使用できるユニーク・キーがありません。

**1** 理由は、ターゲット・タイプによって以下のように異なります。

**ターゲット表**
ターゲット表はありますが、ターゲット表にもソース表にもユニーク索引または主キーがありません。

**ストアード・プロシージャー・ターゲット**
ストアード・プロシージャーにある、キー列のパラメーター数が正しくありません。ソースのキー列それぞれに、2 つのストアード・プロシージャー・パラメーターが必要です。1 つはキーの以前の値に、もう 1 つはキーの変更後の値に必要です。以前の値のパラメーターは、変更後の値のパラメーターの前に置かれる必要があります。以前の値のパラメーターは、必ず X で始まる必要があります。

**2** ターゲット表のための自動索引付けを派生できませんでした。

**ユーザーの処置:**
説明の中の理由コードを調べてください。ソース表の定義、またはターゲット表かストアード・プロシージャーの定義の一方、あるいはその両方の定義を変更します。アクションを再発行してください。

---

**ASN2164E** **データ・タイプ** *datatype* **の列** *tablename.columnname* **を Q サブスクリプションに含められません。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** この列のデータ・タイプは Q サブスクリプション用にサポートされていません。

**1** この表について、サブスクライブされる LOB 列の最大数を超えました。

**2** ターゲットはフェデレーテッド・サーバーであり、フェデレーテッド・データ・ソースの場合の LOB データ・タイプへの書き込みアクセス権限が許可されていません。

**ユーザーの処置:**
理由コードを調べ、Q サブスクリプション中に別の列名を指定して、アクションを再実行してください。

---

**ASN2165E** **データベース** *database_alias* **は宣言されていません。**

**説明:**
まずデータベースを宣言しないと、データベースにアクセスできません。

**ユーザーの処置:**
データベースにレプリケーション・アクションを試行する前に、データベースをアプリケーションに追加してください。

---

**ASN2200E** **サーバー** *server* **の Q アプライ・スキーマ** *apply_schema* **または Q キャプチャー・スキーマ** *capture_schema* **を多方向レプリケーションに使用できませんでした。**

**説明:**
多方向レプリケーションに関係するサーバーごとに、 Q アプライ と Q キャプチャーのコントロール表のスキーマは同じでなければなりません。

**ユーザーの処置:**
Q アプライ・コントロール表と Q キャプチャー・コントロール表のスキーマ名が同じで、多方向レプリケーションに使用している同一サーバー上にあることを確認してください。

---

**ASN2201E** **Q キャプチャー・スキーマ** *schema_name* **の IBMQREP_SUBS 表で、SOURCE_NODE 列の値が相互に等しくありません。**

**説明:**
指定されたスキーマの Q キャプチャー表に 1 つ以上の Q サブスクリプションがあり、 SOURCE_NODE フィールドに別個の値が含まれています。多方向レプリケーションで、 SOURCE_NODE 列中の行には同じ値が含まれていなければなりません。

ASNCLP によって生成されるレポート・ログには、失敗した Q サブスクリプションに関する詳細情報が含まれています。

**ユーザーの処置:**
IBMQREP_SUBS 表中の Q サブスクリプションの SOURCE_NODE 値がすべて同じであることを確認してください。

---

**ASN2202E** **1 つ以上の報告されたエラーが訂正されなかったので、 1 つ以上の Q サブスクリプション (SUBTYPE** *subtype*) **を作成できません。**

**説明:**

Q サブスクリプションが無効なので、多方向レプリケーション用に作成できません。 Q サブスクリプションごとに表示されるエラー・メッセージを参照してください。

**ユーザーの処置:**
無効な Q サブスクリプションを修正し、作成を再試行してください。

---

**ASN2203E** **多方向レプリケーション用のサーバー *server* 上の Q キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の Q サブスクリプション名 *name* がユニークではありません。**

**説明:**
多方向レプリケーション構成の設定時には、複数の Q サブスクリプションに同じ名前を指定しないでください。 Q キャプチャー・プログラムのインスタンスごとに、 Q サブスクリプション名はすべてユニークでなければなりません。 Q サブスクリプションの名前はソースとターゲットの両方のサーバーに保管されるので、ソースとターゲットの両方のサーバーでこの名前がコード・ページと互換性があることを確認してください。

**ユーザーの処置:**
個々の Q サブスクリプション名がユニークであることを確認してください。

---

**ASN2204E** **表 *table_name* はサーバー *server* 上にありますが、Q アプライおよび Q キャプチャー・スキーマ *schema* がこのサーバー上で見つかりませんでした。**

**説明:**
指定されたスキーマを含む Q キャプチャーと Q アプライのコントロール表が、複製しようとしている表と同じサーバー上にありませんでした。多方向レプリケーションでは、Q キャプチャーと Q アプライのコントロール表は、複製しようとしている表と同じサーバー上になければならず、同じスキーマ名を使用していなければなりません。

**ユーザーの処置:**
この表と、この表が多方向レプリケーションで使用する Q アプライと Q キャプチャーのコントロール表が、同じサーバー上にあることを確認してください。

---

**ASN2205W** **Q アプライ・サーバー *server* 上の Q アプライ・スキーマ *apply_schema* の Q サブスクリプション *name* は無効で、一括操作の一部として作成されませんでした。**

**説明:**
単一方向レプリケーション用に複数の Q サブスクリプションを同時に作成する際に、 1 つ以上の Q サブスクリプションが無効な場合、それらの Q サブスクリプションは作成されません。しかし、それ以外の Q サブスクリプションは有効であれば作成されます。

**ユーザーの処置:**
無効な Q サブスクリプションを訂正してから作成してください。

---

**ASN2206E** **サーバー *server* 上の Q アプライ・スキーマと Q キャプチャー・スキーマ *source_schema* からサーバー *server* 上の Q アプライ・スキーマと Q キャプチャー・スキーマ *target_schema* への、指定された接続情報が、それ自体を指しています。**

**説明:**
多方向レプリケーションでは、 Q アプライ・サーバー (ソース) の Q アプライ・スキーマと Q キャプチャー・スキーマを、 Q キャプチャー・サーバー (ターゲット) としても使用することはできません。

**ユーザーの処置:**
Q アプライ・サーバーの Q アプライと Q キャプチャーの表のスキーマ名とサーバーが、 Q キャプチャー・サーバーの Q アプライと Q キャプチャーの表のスキーマ名とサーバーと違うことを確認してください。

---

**ASN2207E** **レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* は、Q キャプチャー・サーバー *server* 上のソース Q アプライおよび Q キャプチャー・スキーマ *source_schema* から Q アプライ・サーバー *server* 上のターゲット Q アプライおよび Q キャプチャー・スキーマ *target_schema* への接続の設定が無効です。**

**説明:**
このレプリケーション・キュー・マップは、多方向レプリケーションに使用する、指定されたスキーマと一致していません。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション・キュー・マップが、指定された Q キャプチャー・コントロール表から、指定された Q アプライ・コントロール表にマップすることを確認してください。

---

**ASN2208E** **SUBGROUP *subgroup* の接続情報が指定されませんでした。**

**説明:**

Q サブスクリプション・グループが
CREATE、ALTER、または DELETE 操作を続行するには、その前に必要な情報がすべて定義されていなければなりません。

**ユーザーの処置:**
ソースとターゲットの表の間のレプリケーション・キュー・マップがすべて指定されていることを確認してください。

---

**ASN2209E　SUBGROUP *subgroup* の接続情報が既存で、上書きできません。**

**説明:**
Q サブスクリプション・グループの接続情報を定義し終えると、その情報を変更できません。

**ユーザーの処置:**
複数回 Q サブスクリプション・グループの接続情報を定義しないでください。

---

**ASN2210E　SUBGROUP 名 *subgroup* の Q サブスクリプションが、 Q アプライおよび Q キャプチャー・スキーマ *schema* を使用している Q キャプチャー・サーバー *server* 上にありません。**

**説明:**
Q サブスクリプション・グループ情報が見つかりません。

**ユーザーの処置:**
Q キャプチャー・スキーマ上に SUBGROUP 名の Q サブスクリプションが少なくとも 1 つあることを確認してください。

---

**ASN2211E　SUBGROUP *subgroup* の、参照表 *table_name* の Q サブスクリプションが、Q アプライおよび Q キャプチャー・スキーマ *schema* を使用しているサーバー *server* 上にありません。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
Q キャプチャー・スキーマ上に、指定された参照表をソースとして使用する SUBTYPE 'P' (ピアツーピア) または 'B' (双方向) の Q サブスクリプションがあることを確認してください。

---

**ASN2212E　内部の不整合が検出されました。理由コード: *reason_code***

**説明:**
Q サブスクリプション・グループを使用する前に、このグループがデータベース上の永続情報と同期していなければなりません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0**　Q サブスクリプション・グループは既存ですが、同期されなかったか、または同期状態にありません。

**1**　ノード間の接続情報が欠落していました。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。

---

**ASN2213E　レプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* の指定でソースとターゲットの情報が重複しています。 Q アプライ・サーバー *apply_server* 上の Q アプライ・スキーマ *apply_schema* および Q キャプチャー・サーバー *capture_server* 上の Q キャプチャー・スキーマ *capture_schema*。**

**説明:**
ソースとターゲットの情報が重複しているレプリケーション・キュー・マップが指定されました。レプリケーション・キュー・マップは、関係する接続の間でユニークでなければなりません。例えば、最初の接続は任意です。 2 番目の接続は、一方の終端を最初の接続の一方の終端と共用しなければなりません。 3 番目の接続は、一方の終端を前述の 2 つの接続に関係する 3 つのポイントのいずれかと共用しなければなりません。

**ユーザーの処置:**
指定されたレプリケーション・キュー・マップが、 Q アプライ・サーバーと Q キャプチャー・サーバーでユニークであることを確認してください。

---

**ASN2214E　Q アプライ・サーバー *apply_server* 上の Q アプライ・スキーマ *apply_schema* と Q キャプチャー・サーバー *capture_server* 上の Q キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の間のレプリケーション・キュー・マップ *queue_map_name* が、接続情報中で以前に指定されたどのレプリケーション・キュー・マップとも接続していません。**

**説明:**

レプリケーション・キュー・マップは相互に接続していなければなりません。個々のレプリケーション・キュー・マップは、 Q キャプチャーまたは Q アプライ・スキーマを、以前に指定したいずれかのレプリケーション・キュー・マップと共用しなければなりません。

**ユーザーの処置:**
以前に指定したいずれかのレプリケーション・キュー・マップと Q キャプチャー・または Q アプライ・スキーマを共用しているレプリケーション・キュー・マップを指定してください。

---

**ASN2215E** **ピアツーピア Q サブスクリプションで許可された Q アプライ・スキーマと Q キャプチャー・スキーマのペアの最大数を超えました。許可されたペアの最大数は** *max_limit* **です。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
この構成中で使用されている、ピアツーピア・レプリケーション用の Q アプライ・スキーマと Q キャプチャー・スキーマのペアの数を減らしてください。

---

**ASN2216E** **SUBTYPE** *subtype* **の Q サブスクリプションは、同じ SUBTYPE の他の Q サブスクリプションを含む Q サブスクリプション・グループにのみ割り当てることができます。**

**説明:**
SUBTYPE 'P' (ピアツーピア) の Q サブスクリプションを双方向のレプリケーション構成に追加できず、SUBTYPE 'B' (双方向) の Q サブスクリプションをピアツーピアのレプリケーション構成に追加できません。

**ユーザーの処置:**
Q サブスクリプションを SUBGROUP に追加する際には、その Q サブスクリプションの SUBTYPE が SUBGROUP 中の他のサブスクリプションと同じであることを確認してください。

---

**ASN2217E** **個々の Q サブスクリプションの元となる Q アプライと Q キャプチャー・スキーマのペアが、指定されませんでした。 2 つの Q サブスクリプションの属性を、双方向レプリケーション用に更新することはできません。**

**説明:**
双方向レプリケーションの設定時に、 2 つの Q サブスクリプションに別個の属性を指定できます。そのためには、個々の Q サブスクリプションの元となる Q アプライと Q キャプチャー・スキーマを指定しなければなりません。

**ユーザーの処置:**
双方向レプリケーションの設定時に属性を Q サブスクリプションに割り当てるには、 Q サブスクリプションの元となる Q アプライ・スキーマと Q キャプチャー・スキーマのペアを指定してください。

---

**ASN2218E** **内部の不整合が検出されました。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
Q サブスクリプションが、 UPDATE または DELETE 操作を実行するデータベース上の永続情報と同期していません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** SUBGROUP は既存ですが、同期されなかったか、または同期状態にありません。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。

---

**ASN2219E** **Q アプライおよび Q キャプチャー・スキーマのペア** *schema* **が、SUBTYPE** *subtype* **の Q サブスクリプションを含む SUBGROUP** *subgroup* **で許可された数を超えています。**

**説明:**
Q サブスクリプション・グループの構成では、 Q アプライ・スキーマと Q キャプチャー・スキーマのペアの数が制限されます。双方向レプリケーションでは、SUBGROUP 当たり 2 つのみ Q アプライ・スキーマと Q キャプチャー・スキーマのペアが許可されます。

**ユーザーの処置:**
Q アプライ・スキーマと Q キャプチャー・スキーマのペアの数が、この SUBTYPE で許可された最大値以下であることを確認してください。

---

**ASN2220E** **Q アプライおよび Q キャプチャー・スキーマのペア** *schema* **が、SUBTYPE** *subtype* **の Q サブスクリプションを含む SUBGROUP** *subgroup* **にとっては足りません。必要なペアの最小数は** *number* **です。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**

Q アプライ・スキーマと Q キャプチャー・スキーマのペアの数が、このタイプの Q サブスクリプションで許可された最小値と等しいことを確認してください。

---

**ASN2221E　接続情報が、SUBTYPE *subtype* のこの SUBGROUP *subgroup* にとっては無効です。**

**説明:**
このタイプの Q サブスクリプションのトポロジーに関する制約があります。例えば、双方向およびピアツーピアのレプリケーションには、完全に接続されたグラフ・トポロジーが必要です。このトポロジーではすべてのノードが相互に接続されます。

**ユーザーの処置:**
この SUBGROUP および SUBTYPE に関する指定された構成情報を妥当性検査してください。欠落している接続を追加して、Q サブスクリプションを再作成してください。 Q サブスクリプションのタイプごとの構成要件に関する詳細は、 Q レプリケーションに関する製品資料を参照してください。

---

**ASN2222E　サーバー *server* 上の表 *table_name* 上の属性タイプ *object_type* の数 *number* が、サーバー *server* 上の表 *table_name* 上のオブジェクト・タイプ *object_type* の数 *number* と一致しません。**

**説明:**
列、ユニーク索引、主キー、外部キー、ユニーク・キー、およびチェック制約は、多方向レプリケーション構成に関係しているソース表とターゲット表で一致していなければなりません。

**ユーザーの処置:**
ソース表またはターゲット表の指定された属性の定義に変更を加えて属性の数を一致させるか、または別のソース表とターゲット表の組み合わせを選択してください。

---

**ASN2224E　サーバー *server* 上の表 *table_name* のタイプ *object_type* のオブジェクト *object* が、サーバー *server* 上の表 *table_name* 上のオブジェクトと一致していません。**

**説明:**
属性は、多方向レプリケーション構成に関係しているソース表とターゲット表で一致していなければなりません。

**ユーザーの処置:**
ソース表またはターゲット表の指定された属性の定義に変更を加えて他の表の属性と一致させるか、または別のソース表とターゲット表の組み合わせを選択してください。

---

**ASN2225E　ASNCLP: SUBGROUP の作成、更新、または削除を行うスクリプト中に複数の SET SUBGROUP ステートメントが見つかりました。**

**説明:**
スクリプト当たり 1 つの SUBGROUP のみ指定できます。 ASNCLP プログラムは、1 つのセッション中で複数のサブグループを処理できません。 SUBGROUP の作成、更新、または削除は行われませんでした。

**ユーザーの処置:**
スクリプト当たり 1 つの SET SUBGROUP のみ指定していることを確認し、スクリプトを再実行してください。

---

**ASN2226E　ASNCLP: Q サブスクリプションの SUBTYPE *subtype* は、 Q サブスクリプション・グループ中の他の Q サブスクリプションの SUBTYPE と一致していません。**

**説明:**
サブスクリプション作成コマンド中で指定された情報が、この多方向レプリケーション構成に属する他のサブスクリプション作成コマンドと矛盾しています。 Q サブスクリプション・グループの Q サブスクリプション・タイプが複数検出されました。 SUBGROUP は 1 つのみ指定でき、 SUBGROUP 中の Q サブスクリプションの SUBTYPE は 1 つでなければなりません。 Q サブスクリプションは作成されませんでした。

**ユーザーの処置:**
特定の SUBGROUP の下で SUBTYPE 'P' または 'B' を指定していることを確認してください。 1 つの Q サブスクリプション・グループ中で Q サブスクリプションのタイプを混用しないでください。サブスクリプション作成コマンドを再実行してください。

---

**ASN2227E　ASNCLP: スキーマ設定ステートメントの数と比較して、接続設定ステートメントの数が足りません。**

**説明:**
多方向レプリケーション構成では、n ノードの場合は必ず n*(n-1) の接続が必要です。例えば、3 つのノードがある場合は、3*(3-1) = 6 の接続が必要です。

**ユーザーの処置:**
接続設定ステートメントとスキーマ設定ステートメントが規則に準拠していることを確認してください。

---

**ASN2228E** **ASNCLP: SUBGROUP *subgroup* の Q サブスクリプションは、指定されたサーバー上にすでに存在しています。**

**説明:**
追加の Q サブスクリプションを作成しようとして、SUBGROUP に対する参照情報を指定する代わりに、SUBGROUP 情報を指定しました。

**ユーザーの処置:**
再度 SUBGROUP を定義せずに、SUBGROUP に対する参照を指定してください。

---

**ASN2229I** **アクション *action_name* が、*time_stamp* に開始されました。 Q アプライ・サーバーは *apply_server*、Q アプライ・スキーマは *apply_schema*、リモート・サーバー名は *remote_servername* です。**

**説明:**
アクションが Q アプライ・サーバーで正常に開始されました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2230I** **Q サブスクリプションを作成するアクションが、*time_stamp* に開始されました。 Q サブスクリプション名: *name*。 Q キャプチャー・サーバー: *capture_server*。 Q キャプチャー・スキーマ: *capture_schema*。 Q アプライ・サーバー: *apply_server*。リモート・サーバー名: *remote_servername*。Q アプライ・スキーマ: *apply_schema*。ソース表は *table_name*。 ターゲット表またはストアード・プロシージャーは *table_name*。**

**説明:**
Q サブスクリプションの作成が開始されました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2231E** **タイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* は、リモート・サーバー *remote_server* で定義されたデータ・ソース *datasource* にありません。**

**説明:**
このデータベース・オブジェクトは、指定したデータ・ソースでのデータベース・カタログに存在しません。このオブジェクトの情報を取得できないため、このオブジェクトは Q サブスクリプションに関係することはできません。

**ユーザーの処置:**
既存のデータベース・オブジェクトの名前を正しく指定していることを確認し、タスクを再実行してください。

---

**ASN2232E** **タイプ *object_type* のデータベース・オブジェクト *object_name* は、リモート・サーバー *remote_server* を使用して定義されているデータ・ソース *datasource* にすでにあります。**

**説明:**
指定されたデータ・ソースに同じ名前の別のオブジェクトがすでに存在するため、このデータベース・オブジェクトを作成できません。

**ユーザーの処置:**
データベースにまだ存在しない名前をそのオブジェクトに指定して、タスクを再実行してください。

---

**ASN2233E** **リモート・サーバー *remote_servername* を使用して定義されたデータ・ソース *datasource_name* は、Q レプリケーションのターゲットとしてサポートされていません。**

**説明:**
データ・ソース・プラットフォームのサブセットのみが、Q レプリケーションにおけるターゲットとしてサポートされます。

**ユーザーの処置:**
サポートされている Q レプリケーション・ターゲットのリストは、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『フェデレーテッド・ターゲットへの Q レプリケーション』を参照してください。サポートされるターゲットが定義されているリモート・サーバー名を指定し、タスクを再実行してください。

---

**ASN2234W** **ソース列 *source_colname* の長さ *length1* が、ターゲット列 *target_colname* の長さ *length2* より長くなっています。ターゲットに適用されるソース・データが切り捨てられる可能性があります。**

**説明:**
ソース列の実際の値をターゲット列に完全には保管できない場合は、ターゲットに適用されるデータは切り捨てられる可能性があります。ソースの実際の値の長さがターゲット列定義の長さを超えなければ、データは変更されません。

**ユーザーの処置:**

切り捨てを受け入れることができる場合、またはソース列の値が短いので必ずターゲット列に適用される場合は、アクションは不要です。切り捨てを受け入れることができない場合は、この列を Q サブスクリプションの一部として選択しないようにしてください。

---

**ASN2235E** **ターゲット・ニックネームの名前 *owner.name* は、タイプ *object_name* の別のデータベース・オブジェクトと競合しています。**

**説明:**
フェデレーテッド・ターゲットの場合は、レプリケーション管理ツールが作成する新規ターゲット・ニックネームの名前が、そのシステム上に存在する表、ビュー、またはその他のニックネームの名前と同じになることはありません。指定した名前はすでに存在します。

**ユーザーの処置:**
そのシステム上にすでに存在する表、ビュー、またはその他のニックネームの名前と同じではない名前をニックネームに指定してください。

---

**ASN2236W** **ターゲット・ニックネーム *schema.nickname* のターゲット表 *schema.tablename* に、外部キーが定義されています。このニックネームには外部キーが定義されていませんが、定義する必要があります。**

**説明:**
ソース表に対して定義されている参照制約が、自動的にニックネームに引き継がれることはありません。制約をニックネームに引き継ぐための ALTER ステートメントを発行することで、情報を DB2 カタログ表に置く必要があります。

親表と子表の両方が Q サブスクリプションに関係する場合は、Q アプライ・プログラムが変更を正しいシーケンスで親ターゲット表と子ターゲット表に適用するためには、参照整合性制約に関する情報が DB2 カタログ表に保管されていることが必要です。参照制約情報がニックネームに引き継がれない場合、データが参照整合性規則に違反していると、Q アプライ・プログラムはニックネームのロード中にエラーを検出する可能性があります。

**ユーザーの処置:**
親データ・ソース表も Q サブスクリプションに関係する場合は、ALTER NICKNAME ステートメントを発行してください。ニックネームを変更するための正しい構文は、DB2 インフォメーション・センターの『ニックネームの変更 (DB2 コマンド行)』を参照してください。

---

**ASN2237E** **表スペースが指定されていないので、サーバー *server* に表 *object* を作成できません。**

**説明:**
レプリケーション管理ツールでは、すべての z/OS 表は、表スペースを明示的に割り当てて作成する必要があります。

**ユーザーの処置:**
z/OS 表に表スペースを割り当ててください。

---

**ASN2238W** **DB2 以外のリレーショナル・サーバーのデータを複製するときは、トランザクション・モード処理はサポートされません。この状態では、サブスクリプション・セットの COMMIT_COUNT 属性の有効な値は NULL のみです。指定した COMMIT_COUNT *commitcount_value* は無視されます。**

**説明:**
サブスクリプション・セットのソースが DB2 以外のリレーショナル・サーバーのときは、アプライ・プログラムは表モード処理を使用します。表モード処理の場合、アプライ・プログラムは、サブスクリプション・セット・メンバーの応答セットを 1 メンバーずつ取り出すことで、すべてのデータを処理します。セット全体のデータ処理の終わりに、アプライ・プログラムは単一コミットを発行します。表モード処理を使用することをアプライ・プログラムに通知するには、NULL の COMMIT_COUNT を使用します。指定された COMMIT_COUNT は NULL ではありません。そのため COMMIT_COUNT は無効になり、無視されます。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2239I** **Q アプライ・サーバー *apply_server*、Q アプライ・スキーマ *apply_schema*、およびリモート・サーバー名 *remote_servername* に関するアクション *action_name* が、*time_stamp* に正常に終了しました。**

**説明:**
アクションが Q アプライ・サーバーで正常に終了しました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2240I** **Q サブスクリプション名 *name* の Q サブスクリプションの作成が、*time_stamp* に終了しました。Q キャプチャー・サーバーは *capture_server*、Q キャプチャー・スキーマは *capture_schema*、Q アプライ・サーバーは *apply_server*、Q アプライ・スキーマは *apply_schema*、リモート・サーバーは *remote_servername*、ソース表は *table_name*、ターゲット表またはストアード・プロシージャーは *table_name* です。**

**説明:**
Q サブスクリプションは正常に作成されました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2241I** **Q サブスクリプション名 *name* の Q サブスクリプションのドロップを、*time_stamp* に終了しました。 Q キャプチャー・サーバーは *capture_server*、Q キャプチャー・スキーマは *capture_schema*、Q アプライ・サーバーは *apply_server*、Q アプライ・スキーマは *apply_schema*、リモート・サーバーは *remote_servername*、ソース表は *table_name*、ターゲット表またはストアード・プロシージャーは *table_name* です。**

**説明:**
Q サブスクリプションは正常にドロップされました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2251E** **テンプレート *template_name* は 1 つ以上のモニター・サスペンションで使用されているので、ドロップできません。**

**説明:**
IBMSNAP_MONSUSPENDS 表に、指定されているテンプレート名を参照する少なくとも 1 つの行が存在します。

**ユーザーの処置:**
このテンプレートを使用するすべてのサスペンションをドロップし、テンプレートをドロップしてください。

---

**ASN2252W** **テンプレートが提供されていないため、開始日 *start_date* と終了日 *end_date* の間の全期間中モニター・プログラムは中断します。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
全期間モニター・プログラムを中断する予定の場合、アクションは不要です。しかし、開始日と終了日の間の特定日数の特定期間モニター・プログラムを中断する予定の場合は、これらの属性を使用して定義されているテンプレートを提供する必要があります。

---

**ASN2253E** **サーバー *server_name* のレプリケーション・アラート・モニター・コントロール表のレベルは、バージョン8 アーキテクチャー・レベルです。サスペンション機能を使用する前に、これらをバージョン 9 アーキテクチャー・レベルにマイグレーションする必要があります。**

**説明:**
モニター・サスペンション・テンプレートおよびサスペンションは、この機能をサポートするレベルにモニター・コントロール表がマイグレーションされている場合にのみ作成できます。スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
アクションを呼び出す前に、マイグレーション・プログラムを実行して、コントロール表のアーキテクチャー・レベルをアップグレードし、新規コントロール表のセットを作成してください。

---

**ASN2254E** **同じ名前を持つ別のテンプレートがすでにサーバー *server_name* に存在するため、テンプレート *template_name* を作成できません。**

**説明:**
TEMPLATE_NAME 列に同じ値を持つ IBMQREP_TEMPLATES 表に、提供されたテンプレート名で行がすでに存在します。スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**
テンプレートに有効な名前を指定し、コマンドを再発行してください。

---

**ASN2255E** **同じ名前を持つ別のサスペンションがすでにサーバー *server_name* に存在するため、サスペンション *suspension_name* を作成できません。**

**説明:**
IBMQREP_SUSPENDS 表に、指定されているサスペンション名と同じ名前を持つ少なくとも 1 つの行が存在します。スクリプトは生成されません。

**ユーザーの処置:**

サスペンション名に有効な値を指定して、コマンドを再発行してください。

---

**ASN2256E　終了日の値 *end_date* は開始日 *start_date* より小さいため、無効です。**

**説明:**
モニター・プログラムを指定期間中断させるには、終了日の値は開始日の値よりも大きくなければなりません。

**ユーザーの処置:**
終了日に有効な値を指定して、コマンドを再発行してください。

---

**ASN2257E　開始日の値 *start_date* が過去の日付になっているので、無効です。**

**説明:**
モニター・プログラムにいつ中断を開始するかを示すために、開始日の値は将来の日付の値を表さなければなりません。

**ユーザーの処置:**
開始日に有効な値を指定して、コマンドを再発行してください。

---

**ASN2258E　入力パラメーター START DATE または END DATE に指定された値 *value* は範囲外にあります。**

**説明:**
START DATE および END DATE の入力パラメーターは、DB2 TIMESTAMP データ・タイプの許容範囲内にある値を必要とします。

**ユーザーの処置:**
指定された値が許容範囲内にあるか確認してください。TIMESTAMP データ・タイプの許容値についての詳細は、「*DB2 SQL リファレンス*」を参照してください。

---

**ASN2259E　入力パラメーター *parameter* に指定された値 *value* は誤りです。 *reason_text***

**説明:**
CREATE TEMPLATE または ALTER TEMPLATE コマンドへの入力パラメーターとして指定された値が誤っているか、または必要な値の範囲外であるかのどちらかです。

**ユーザーの処置:**
*reason_text* に基づいて、入力値に正しい値を指定してください。

---

**ASN2261E　データベース *database_name* のストアード・プロシージャー *schema_name* によるホスト *host_name* でのコマンド *command_name* の実行中にオペレーティング・システム・エラーが発生しました。オペレーティング・システムのエラー・メッセージは *message* です。**

**説明:**
オペレーティング・システムはコマンドを実行できませんでした。

**ユーザーの処置:**
指定されたデータベースの DB2 インスタンスの fenced ユーザーが指定のコマンドを実行できるかどうか確認してください。

---

**ASN2262E　WebSphere MQ キュー・マネージャー *queue_manager_name* はホスト *host_name* に存在しません。**

**説明:**
指定されたキュー・マネージャー名は、ホスト・システム上のどの既存のキュー・マネージャーとも一致しません。

**ユーザーの処置:**
キュー・マネージャーがホスト・システムに存在するかどうか、およびキュー・マネージャー名を確認してください。 WebSphere MQ オブジェクト名には大/小文字の区別があります。

---

**ASN2263E　WebSphere MQ キュー・マネージャー *host_name-queue_manager_name* は開始されていません。**

**説明:**
WebSphere MQ オブジェクトをリストまたは確認するには、指定されたキュー・マネージャーが実行されていなければなりません。

**ユーザーの処置:**
例えば strmqm コマンドを使用するなどして、キュー・マネージャーを開始してください。

---

**ASN2264E　WebSphere MQ キュー・マネージャー *host_name-queue_manager_name* のコマンド・サーバーは開始されていません。**

**説明:**
コマンド・サーバー・プログラムはコマンドを実行し、送信側に応答を送り戻します。これは、キュー・マネージャーにコマンドを発行するために実行されていなければなりません。

**ユーザーの処置:**
(例えば strmqcsv コマンドを使用するなどして) WSMQ キュー・マネージャー・コマンド・サーバー・プログラムを開始してください。

---

**ASN2265E** **サブシステム *subsystem_name* のストアード・プロシージャー *schema_name* は WebSphere MQ キュー・マネージャー *host_name-queue_manager_name* へのアクセスを許可されていません。**

**説明:**
ストアード・プロシージャーの有効ユーザーに、キュー・マネージャーに接続するための十分な権限がありません。

**ユーザーの処置:**
サブシステム・ユーザー、ストアード・プロシージャーの定義者、または DB2 ユーザーに WebSphere MQ へのアクセス権があるかどうか確認してください。

---

**ASN2266E** **WebSphere MQ キュー・マネージャー *host_name-queue_manager_name* へのアクセス中にエラーが発生しました。 WebSphere MQ 理由コードは *reason_code*。**

**説明:**
キュー・マネージャーへのアクセス中に問題が発生しました。

**ユーザーの処置:**
指定されたエラーについてマニュアル「*WebSphere MQ メッセージ*」のセクション ″Reason codes″ を確認し、問題を訂正してください。

---

**ASN2267E** **キュー・マネージャー *host_name-queue_manager_name* に WebSphere MQ キュー *queue_name* が存在しません。**

**説明:**
指定されたキューが指定のキュー・マネージャーに見つかりません。

**ユーザーの処置:**
キュー名につづりの誤りがないか調べ、(例えば DISPLAY QUEUE コマンドを使用するなどして) キュー・マネージャーにキューが存在するかどうか確認してください。

---

**ASN2268E** **WebSphere MQ キュー *host_name-queue_manager_name-queue_name* でアクション *action* が失敗しました。 WebSphere MQ 理由コードは *reason_code*。**

**説明:**
キューへのテスト・メッセージの書き込み中またはキューからのメッセージの取得中に問題が発生しました。

**ユーザーの処置:**
指定されたエラーについてマニュアル「*WebSphere MQ メッセージ*」のセクション ″Reason codes″ を確認し、問題を訂正してください。

---

**ASN2270E** **オペレーティング・システムのユーザー ID *user_ID* (このデータベースを含むインスタンスの DB2 fenced ユーザー) がホスト *host_name* で WebSphere MQ アプリケーションのオペレーティング・システム・グループ (通常は mqm) のメンバーではないため、データベース *database_name* のストアード・プロシージャー *schema_stored_procedure_name* は WebSphere MQ キュー・マネージャー *queue_manager_name* へのアクセスを許可されていません。**

**説明:**
データベース・インスタンスの fenced ユーザーに、WebSphere MQ 環境または指定されたキュー・マネージャーへのアクセス権がありません。

**ユーザーの処置:**
データベース・インスタンスの fenced ユーザー ID が、WebSphere MQ に割り当てられるオペレーティング・システム・グループ (通常は mqm) の一部になっているかどうか確認してください。

---

**ASN2271W** **WebSphere MQ キュー・マネージャー *host_name-queue_manager_name* のバージョン *version_number* は、サポートされる最小のバージョン *version_number* よりも古いバージョンです。**

**説明:**
Q レプリケーションおよびイベントの発行は、最小バージョン・レベルの WebSphere MQ を必要とします。

**ユーザーの処置:**
正しいバージョンがインストールされているか確認するか、または最小バージョン・レベルの WebSphere MQ サーバーをインストールしてください。

---

**ASN2272W** **WebSphere MQ キュー** *host_name-queue_manager_name-queue_name* **の定義が無効であるため、オープンできません。内部 WSMQ エラー・コードは、** *error_code*。

**説明:**
指定されたキューの定義が正しくありません。

**ユーザーの処置:**
指定されたエラーについてマニュアル「*WebSphere MQ メッセージ*」のセクション ″Reason codes″ を確認し、問題を訂正してください。

---

**ASN2273W** **別名キュー** *host_name-queue_manager_name-queue_name2* **によって参照される WebSphere MQ 基本キュー (BASE_Q)** *queue_name1* **が存在しません。**

**説明:**
WebSphere MQ 別名キューの定義が不整合です。 Q レプリケーションまたはイベントの発行によって使用される別名キューはすべて、既存の基本キューで定義されなければなりません。

**ユーザーの処置:**
別名キューのパラメーター BASE_Q につづりの誤りがないか確認してください。さらに、指定されたキューが存在するかどうか確認してください。必要な場合、別名キューの BASE_Q パラメーターを更新するか、または指定の名前で基本キューを作成してください。基本キューに、Q レプリケーションが必要とする正しいタイプおよびパラメーターがあるか確認してください。

---

**ASN2274W** **リモート・キュー** *host_name-queue_manager_name-queue_name* **の WebSphere MQ 伝送キュー** *queue_name* **が存在しません。**

**説明:**
指定のリモート・キューの属性 XMITQ によって指定された名前の伝送キューが同じキュー・マネージャーに存在しません。

**ユーザーの処置:**
指定されたリモート・キューの属性 XMITQ につづりの誤りのミスがないか確認するか、または指定されたリモート・キューの伝送キューを作成してください。

---

**ASN2275W** **WebSphere MQ キュー** *host_name-queue_manager_name-queue_name* **の最大メッセージ・サイズ (MAXMSGL)** *size1* **がそのキュー・マネージャー** *host_name-queue_manager_name* **の最大メッセージ・サイズ (MAXMSGL)** *size2* **より大きくなっています。**

**説明:**
指定されたキューの最大メッセージ・サイズ (MAXMSGL) は、キュー・マネージャーの最大メッセージ・サイズ (MAXMSGL) 以下でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
キューの最大メッセージ・サイズを減らすか、またはキュー・マネージャーの最大メッセージ・サイズを増やしてください。

---

**ASN2276W** **データを送信する WebSphere MQ キュー** *host_name-queue_manager_name-queue_name* **の最大メッセージ・サイズ (MAXMSGL)** *size1* **が、このデータを受信するキュー** *host_name-queue_manager_name-queue_name* **の最大メッセージ・サイズ (MAXMSGL)** *size2* **より大きくなっています。**

**説明:**
データを送信するキューの最大メッセージ・サイズ (MAXMSGL) は、このデータを受信するキューの最大メッセージ・サイズ (MAXMSGL) 以下でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
データを送信するキューの最大メッセージ・サイズを減らすか、またはこのデータを受信するキューの最大メッセージ・サイズを増やしてください。

---

**ASN2277W** **WebSphere MQ キュー** *host_name-queue_manager_name-queue_name* **はローカル・キューまたはそれを参照する別名キューのどちらでもないので、** *Q_replication_queue_type* **として使用できません。**

**説明:**
指定されたキューのタイプがこの目的に対して正しくありません。

**ユーザーの処置:**
正しいタイプのキューを指定してください。

---

**ASN2278W** **WebSphere MQ キュー** *host_name-queue_manager_name-queue_name* **はローカル・キュー、リモート・キュー、またはそれらを直接または間接的に参照する別名キューのいずれでもないので、送信キューとして使用できません。**

**説明:**
指定されたキューのタイプがこの目的に対して正しくありません。

**ユーザーの処置:**
正しいタイプのキューを指定してください。

---

**ASN2279W** **発行キュー・マップ** *publishing_queue_map_name* **の最大メッセージ・サイズ (MAX_MESSAGE_SIZE)** *size1* **は、送信キューとして使用される WebSphere MQ キュー** *host_name-queue_manager_name-queue_name* **の最大メッセージ・サイズ (MAXMSGL)** *size2* **より大きくなっています。**

**説明:**
発行キュー・マップの最大メッセージ・サイズは、指定された送信キューの最大メッセージ・サイズ以下でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
発行キュー・マップのメッセージ・サイズを減らすか、またはキューのメッセージ・サイズを増やしてください。

---

**ASN2280W** **レプリケーション・キュー・マップ** *replication_queue_map_name* **の最大メッセージ・サイズ (MAX_MESSAGE_SIZE)** *size1* **は、送信キューとして使用される WebSphere MQ キュー** *host_name-queue_manager_name-queue_name***の最大メッセージ・サイズ (MAXMSGL)** *size2* **より大きくなっています。**

**説明:**
レプリケーション・キュー・マップの最大メッセージ・サイズは、指定された送信キューの最大メッセージ・サイズ以下でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション・キュー・マップのメッセージ・サイズを減らすか、またはキューのメッセージ・サイズを増やしてください。

---

**ASN2281W** **WebSphere MQ キュー** *host_name-queue_manager_name-queue_name* **を** *Q_replication_queue_type* **として使用できません。 Q キャプチャー・プログラムと Q アプライ・プログラムは同じキュー・マネージャーを使用しますが、指定されたキューはローカル・キューまたはそれを直接または間接的に参照する別名キューのどちらでもありません。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムと Q アプライ・プログラムが同じキュー・マネージャーを使用する場合、送信キュー、受信キュー、および管理キューはローカル・キューか、またはそれを直接または間接的に参照する別名キューでなければなりません。

**ユーザーの処置:**
正しいタイプのキューを指定してください。

---

**ASN2282W** **Q キャプチャー・プログラムと Q アプライ・プログラムは同じキュー・マネージャー** *host_name-queue_manager_name* **を使用しますが、** *Q_replication_queue_type1* **として使用されるキュー** *queue1* **と** *Q_replication_queue_type2* **として使用されるキュー** *queue2* **は同一でないか、または同じローカル・キューを参照する別名キューではありません。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムと Q アプライ・プログラムが同じキュー・マネージャーを使用する場合、送信キューと受信キュー、および Q キャプチャー管理キューと Q アプライ管理キューは同一か、または同じローカル・キューを参照しなければなりません。

**ユーザーの処置:**
両方の目的のための 1 つのキューを選択してください。

---

**ASN2283W** **WebSphere MQ キュー** *host_name-queue_manager_name-queue_name* **をレプリケーション・キュー・マップ** *replication_queue_map_name* **の受信キューとして使用できません。 Q キャプチャー・プログラムと Q アプライ・プログラムは異なるキュー・マネージャーを使用しますが、指定されたキューはローカル・キューまたはそれを直接または間接的に参照する別名キューのどちらでもありません。**

**説明:**

Q キャプチャーと Q アプライが異なるキュー・マネージャーを使用する場合、受信キューはローカル・キューかまたはそれを直接または間接的に参照する別名キューでなければなりません。

**ユーザーの処置:**
正しいタイプのキューを指定してください。

---

**ASN2284W** **WebSphere MQ キュー** *host_name-queue_manager_name-queue_name* **をレプリケーション・キュー・マップ** *replication_queue_map_name* **の** *Q_replication_queue_type* **として使用できません。 Q キャプチャー・プログラムと Q アプライ・プログラムは異なるキュー・マネージャーを使用しますが、指定されたキューはリモート・キューまたはそれを直接または間接的に参照する別名キューのどちらでもありません。**

**説明:**
Q キャプチャーと Q アプライが異なるキュー・マネージャーを使用する場合、送信キューおよび Q アプライ管理キューはリモート・キューかまたはそれを直接または間接的に参照する別名キューでなければなりません。

**ユーザーの処置:**
正しいタイプのキューを指定してください。

---

**ASN2285W** **Q サブスクリプションはロード・フェーズを指定しますが、キュー・マネージャー** *host_name-queue_manager_name* **に WebSphere MQ モデル・キュー** *queue_name* **が存在しません。**

**説明:**
ロード・フェーズを使用する Q サブスクリプションの場合、Q アプライ・プログラムが予備キューを動的に作成できるよう、Q アプライ・プログラムが使用するキュー・マネージャーにモデル・キューが存在しなければなりません。

**ユーザーの処置:**
モデル・キューの名前につづりの誤りがないか確認するか、Q サブスクリプションにロード・フェーズを指定しないか、または新規モデル・キューを作成してください。

モデル・キューには以下のパラメーターが必須です。

- メッセージ・デリバリー・シーケンス (MSGDLVSQ): fifo
- デフォルトの共用オプション (DEFSOPT): shared
- キューの最大長 (MAXDEPTH): 500000 以上
- メッセージの最大サイズ (MAXMSGL): 100000 以上
- 定義タイプ (DEFTYPE): permdyn

---

**ASN2286W** **WebSphere MQ モデル・キュー** *host_name-queue_manager_name-queue_name* **のパラメーター** *parameter_name* **の値** *value1* **が正しくないか、または小さすぎます。必須値は** *value2* **です。**

**説明:**
Q アプライ・プログラム用の予備キューのモデル・キューには以下のパラメーターが必要です。

- メッセージ・デリバリー・シーケンス (MSGDLVSQ): fifo
- デフォルトの共用オプション (DEFSOPT): shared
- キューの最大長 (MAXDEPTH): 500000 以上
- メッセージの最大サイズ (MAXMSGL): 100000 以上
- 定義タイプ (DEFTYPE): permdyn

**ユーザーの処置:**
モデル・キューのパラメーター値を更新するか、またはパラメーター値の正しいモデル・キューを指定してください。

---

**ASN2287W** **属性** *parameter_name* **の値** *value1* **が必須値** *value2* **と一致しないため、WebSphere MQ キュー** *host_name-queue_manager_name-queue_name* **を** *Q_replication_queue_type* **として使用できません。**

**説明:**
指定された WebSphere キュー属性は指定の目的に対して無効です。

**ユーザーの処置:**
別のキューを選択するか、または属性を必須値に更新してください。

---

**ASN2288W** **WebSphere MQ キュー** *host_name1-queue_manager_name1-queue_name1* **に書き込まれたテスト・メッセージがキュー** *host_name2-queue_manager_name2-queue_name2* **に到着しませんでした。**

**説明:**
最初のキューと 2 番目のキューの間のメッセージ・フローが適切に機能しません。

**ユーザーの処置:**
テスト・メッセージは、Q キャプチャー・プログラムと Q アプライ・プログラムが実行されていない場合にの

み、正常に送信できます。 Q キャプチャー・プログラムと Q アプライ・プログラムが実行されていないことを確認してください。エラー・メッセージがないか WebSphere MQ セットアップを確認し、WebSphere MQ (amqsput、 amqsget、amqsbcg、amqsbr) によって提供されているプログラムを使用してメッセージ・フローをテストしてください。

---

**ASN2289W** **WebSphere MQ キュー** *host_name1 - queue_manager_name1 - queue_name1* **に書き込まれたテスト・メッセージはキュー** *host_name2 - queue_manager_name2 - queue_name2* **で受信されましたが、内容が変更されています。**

**説明:**
最初のキューと 2 番目のキューの間のメッセージ・フローが適切に機能しません。メッセージは送信できますが、その内容が変更されています。

**ユーザーの処置:**
ソースおよびターゲットのキュー・マネージャーのコード・ページを調べてから、WebSphere MQ ツールを使用して、2 つのキュー間でメッセージの相違が生じる可能性のある構成上のひずみがあるかどうかを検査してください。

---

**ASN2290I** **WebSphere MQ キュー** *host_name1-queue_manager_name1-queue_name1* **に書き込まれたテスト・メッセージが** *Q_replication_queue_type* **として使用されるキュー** *host_name2-queue_manager_name2-queue_name2* **で受信されました。**

**説明:**
テスト・メッセージは、2 つのキューの間のメッセージ・フローが正しく機能していることを確認します。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2291I** **WebSphere MQ オブジェクトを妥当性検査するために** *number1* **テストが実行されました。** *number2* **テストはパスしましたが、** *number3* **テストは失敗しました。**

**説明:**
現行オブジェクトの WebSphere MQ 環境がいくつかのチェックによって妥当性検査されました。

**ユーザーの処置:**
いずれかのテストが失敗として報告された場合、対応するメッセージを調べ、問題を訂正してください。

---

**ASN2293E** **モニターをしているサーバーは z/OS ではなく Linux、UNIX、または Windows 上にあるため、モニター修飾子** *monitor_qualifier* **およびモニター・サーバー** *server_name* **を持つレプリケーション・アラート・モニターの OPERATOR CONSOLE オプションは無効です。**

**説明:**
z/OS コンソールにアラートを送信するために OPERATOR CONSOLE オプションが使用されます。このオプションは Linux、UNIX、または Windows の各オペレーティング・システムでは無効です。

**ユーザーの処置:**
このモニターの連絡先または連絡先グループにアラートを送信してください。

---

**ASN2294E** **レプリケーション・アクション** *action_name* **はエラー終了しました。 Q キャプチャー・スキーマ** *Q_capture_schema* **用の Q キャプチャー・サーバー** *server* **のアーキテクチャー・レベル** *arch_level* **には、Q キャプチャー・コントロール表が定義されているバージョン 9 の DB2 for Linux、DB2 for UNIX、または DB2 for Windows のデータベースとの互換性がありません。**

**説明:**
バージョン 9 の DB2 on Linux、DB2 on UNIX、および DB2 on Windows プラットフォームのデータベースに対して加えられたデータおよびスキーマの変更をキャプチャーするには、バージョン 9 キャプチャー・サーバーが必要です。バージョン 9 の Q キャプチャー・サーバーは、コントロール表のアーキテクチャー・レベルとサーバーで実行されている Q キャプチャー・プログラム・インスタンスのバージョンの両方を参照します。しかし、コントロール表の構造は、IBMQREP_CAPPARMS 表から得られるアーキテクチャー・レベルの値に基づいて、バージョン 9 より前のレベルとなります。これは、コントロール表に保管されているデータに不整合があるか、またはコントロール表がマイグレーションされていなかったことを示しています。

**ユーザーの処置:**
既存の Q キャプチャー・コントロール・サーバーを現行のアーキテクチャー・レベルにマイグレーションしてください。詳しくは、DB2 インフォメーション・センターの『レプリケーションおよびイベント発行のバージョン 9 へのマイグレーション』を参照してください。

---

**ASN2296E** **表の列構造が正しくないため、表 *schema_name* を CCD 表として使用できません。列 *column_name* が欠落しているか、またはその定義が無効です。**

**説明:**
CCD 表には次の 4 つの列がなければなりません。

- IBMSNAP_INTENTSEQ
- IBMSNAP_OPERATION
- IBMSNAP_COMMITSEQ
- IBMSNAP_LOGMARKER

**ユーザーの処置:**
正しい CCD 列を持つ既存の表を選択するか、またはレプリケーション・センターまたは ASNCLPプログラムを使用して新規 CCD 表を作成してください。

---

**ASN2297E** **表 *schema_name* に CCD 列構造があるため、ユーザー表として使用できません。列 *column_name* は CCD 表構造を示します。**

**説明:**
CCD 表を Q サブスクリプションのユーザー表のターゲットとして使用できません。

**ユーザーの処置:**
CCD 列を全く含まない別の既存の表を選択するか、あるいはレプリケーション・センターまたは ASNCLP プログラムを使用して新規ターゲット表を作成してください。

---

**ASN2298E** **プログラム *program_name* のスキーマ *schema* のアーキテクチャー・レベル *arch_level* が、必要なアーキテクチャー・レベル *arch_level* より古いため、操作 *operation* を完了できません。**

**説明:**
指定された操作は、より高いアーキテクチャー・レベルを必要とします。

**ユーザーの処置:**
要求された操作に対して、提供されたスキーマが正しく指定されているか確認してください。正しく指定されていない場合、提供されたプログラムに対して別の適切なスキーマを選択してください。

---

**ASN2299E** **CCD 表 *schema.name* は、Q アプライ・スキーマ *Q_apply_schema* 内の Q サブスクリプション *Q_subscription_name* が既にターゲットとして使用しているので、この CCD 表をこのスキーマによって設定することはできません。**

**説明:**
Q アプライによって設定される CCD 表は、1 つの Q サブスクリプションのターゲットにしかなれません。

**ユーザーの処置:**
CCD 表をターゲットとして持つ Q サブスクリプションを、1 つを除いてすべて除去してください。

---

**ASN2300E** **CCD オプション *option* を Q サブスクリプション属性 *attribute_name* の値 *value* と一緒に指定できません。有効な属性値は *value_list* です。**

**説明:**
コマンドは CCD のターゲット表タイプを持つ Q サブスクリプションを作成しようとしましたが、指定された一部のパラメーター値はこのターゲットのタイプと互換性がありません。

**ユーザーの処置:**
有効な Q サブスクリプション属性の値を指定してください。有効な値については、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの ASNCLP に関する資料を参照してください。

---

**ASN2301E** **Q サブスクリプションの属性 *attribute_name* の値 *value1* は SQL 登録の値 *value2* と一致しないため、Q サブスクリプション *receive_queue_Q_subscription_name* を使用して CCD 表 *schema_name* の SQL 登録を設定することができません。**

**説明:**
「コンプリート」および「コンデンス」の属性は、Q サブスクリプションと SQL 登録の間で一致している必要があります。

**ユーザーの処置:**
既存の Q サブスクリプションまたは SQL 登録の属性を更新してください。

---

**ASN2302E** **Q アプライは現在 SQL キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の登録を設定するように構成されているので、SQL キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の登録を設定するように Q アプライ・スキーマ *Q_apply_schema* の構成を変更することはできません。**

**説明:**
Q アプライ・プログラム (Q アプライ・スキーマによって識別される) は、1 つの SQL キャプチャー・スキーマに登録されている CCD 表にのみ変更を送信することができます。指定された Q アプライ・スキーマは既に、ある SQL キャプチャー・スキーマの CCD 表に変更を送信するために使用されています。指定された Q アプライ・スキーマを、別の SQL キャプチャー・スキーマ内の CCD 表のために使用する場合は、指定された Q アプライ・プログラムの IBMQREP_APPLYPARMS 表の中の SQL_CAP_SCHEMA 値を変更してください。

**ユーザーの処置:**
Q アプライ・スキーマにつづりの誤りがないか、また Q アプライ・スキーマの構成済み SQL キャプチャー・スキーマを確認するか、または Q アプライ・スキーマを更新してください。スキーマを更新するには、ASNCLP コマンド行・プログラムで ALTER APPLY CONFIGURATION コマンドを使用するか、またはレプリケーション・センター内の Q アプライ・プログラム用の「保管パラメーターの変更」ウィンドウを使用します。

---

**ASN2303W** **SQL キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の登録を設定するために、 Q アプライ・スキーマ *Q_apply_schema* の構成が、SQL キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の設定中の登録から変更されています。 CCD ターゲット表を設定している既存の非アクティブ Q サブスクリプションが無効になる場合があります。**

**説明:**
Q アプライはすでに、別の SQL キャプチャー・スキーマを使用するように構成されています。更新によって既存の値が上書きされ、CCD ターゲットを持つ既存の Q サブスクリプションをすべて無効にします。

**ユーザーの処置:**
既存の Q サブスクリプションを無効にできる場合、アクションは不要です。無効にできない場合は、別の Q アプライ・スキーマを選択してください。

---

**ASN2304E** **SQL キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の登録を設定するために、 Q アプライ・スキーマ *Q_apply_schema* の構成を、SQL キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の設定中の登録から変更できません。この Q アプライ・スキーマに、CCD ターゲット表を設定するアクティブ Q サブスクリプションがあります。**

**説明:**
Q アプライはすでに、別の SQL キャプチャー・スキーマを使用するように構成されています。更新によって既存の値が上書きされ、CCD ターゲットを持つ既存の Q サブスクリプションをすべて無効にします。

**ユーザーの処置:**
Q サブスクリプションを非活動化するか、または別の Q アプライ・スキーマを使用してください。

---

**ASN2305E** **Q アプライ・スキーマ *Q_apply_schema* には、ターゲット表として提供されている CCD 表 *schema_name* を使用する Q サブスクリプションが入っていません。**

**説明:**
この CCD 表の Q サブスクリプションを Q レプリケーションによって設定されるソースとして登録する前に、これが存在していなければなりません。

**ユーザーの処置:**
表名につづりの誤りがないか、また提供された表が、提供された Q アプライ・スキーマの Q サブスクリプションのターゲット表かどうか確認してください。

---

**ASN2306E** **サブスクリプション・セットの既存のメンバーは Q アプライ・スキーマによって設定されていない登録を使用しており、新規メンバーは Q アプライ・スキーマ *Q_apply_schema* によって設定されている登録を使用しているため、サブスクリプション・メンバーをこのサブスクリプション・セットに追加できません。**

**説明:**
サブスクリプション・セットには、Q アプライ・スキーマによって設定される登録を持つメンバーのみ、または Q アプライ・スキーマによって設定されない登録を持つメンバーのみが入ります。

**ユーザーの処置:**
空のサブスクリプション・セット、または互換性のあるメンバーが入る別のサブスクリプション・セットを選択してください。

**ASN2307E** **サブスクリプション・セットの既存のメンバーは Q アプライ・スキーマ *Q_apply_schema* によって設定されている登録を使用しており、新規メンバーは Q アプライ・スキーマによって設定されていない登録を使用しているため、サブスクリプション・メンバーをこのサブスクリプション・セットに追加できません。**

**説明:**
サブスクリプション・セットには、Q アプライ・スキーマによって設定される登録を持つメンバーのみ、または Q アプライ・スキーマによって設定されない登録を持つメンバーのみが入ります。

**ユーザーの処置:**
空のサブスクリプション・セット、または互換性のあるメンバーが入る別のサブスクリプション・セットを選択してください。

---

**ASN2308E** **サブスクリプション・セットの既存のメンバーは Q アプライ・スキーマ *schema* によって設定されている登録を使用しており、新規メンバーは Q アプライ・スキーマ *Q_apply_schema* によって設定されている登録を使用しているため、サブスクリプション・メンバーをこのサブスクリプション・セットに追加できません。**

**説明:**
Q アプライ・スキーマと受信キューがすべてのメンバーの登録に関して同じである場合、サブスクリプション・セットには Q アプライ・スキーマによって設定される登録を持つメンバーのみが入ります。

**ユーザーの処置:**
空のサブスクリプション・セット、または互換性のあるメンバーが入る別のサブスクリプション・セットを選択してください。

---

**ASN2309E** **サブスクリプション・セットの既存のメンバーは受信キュー *receive_queue_name* を使用する Q アプライ・スキーマ *Q_apply_schema* によって設定される登録を使用しており、新規メンバーは受信キュー *receive_queue_name* を使用して設定される登録を使用しているため、サブスクリプション・メンバーをこのサブスクリプション・セットに追加できません。**

**説明:**
Q アプライ・スキーマと受信キューがすべてのメンバーの登録に関して同じである場合、サブスクリプション・セットには Q アプライ・スキーマによって設定される登録を持つメンバーのみが入ります。

**ユーザーの処置:**
空のサブスクリプション・セット、または互換性のあるメンバーが入る別のサブスクリプション・セットを選択してください。

---

**ASN2310W** **SQL キャプチャー・スキーマ *capture_schema* の CCD 表 *schema_name* の SQL 登録は設定解除されます。**

**説明:**
SQL キャプチャー・スキーマの CCD 表登録を設定している Q サブスクリプションがドロップされると、登録はそれ以降 Q アプライからの更新を受信しなくなります。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**ASN2311I** **表 *table_owner.table_name* には、編集ルーチン (EDITPROC) が定義されています。このような表のデータを正しく処理するには、DB2 バージョン 8 APAR PK13542 またはそれ以降がレプリケーションで必要です。**

**説明:**
レプリケーションは、EDITPROC が定義された表をサポートしますが、そのような表を備えた DB2 サブシステムを、指定の APAR にアップグレードする必要があります。 APAR を適用すると、DB2 は編集ルーチンを呼び出して、行を元の状態にトランスフォームしてから、レプリケーション・ログ・リーダー・プログラムにデータを引き渡します。

**ユーザーの処置:**
表の入った DB2 インスタンスを、指定された APAR にアップグレードしてください。

---

**ASN2312E** ***type* のターゲット・タイプは、変更前イメージ列をサポートしません。**

**説明:**
変更前イメージ列に対して有効なターゲット・タイプは CCD のみです。

**ユーザーの処置:**
Q サブスクリプションのターゲット・タイプを CCD に変更してください。

---

**ASN2313E　変更前イメージ列の接頭部 *prefix* は無効です。なぜなら、その長さ *length* は、1 から 4 字までという許容範囲内に収まっていないからです。**

**説明:**
変更前イメージ列内の値を特定するのに使用する接頭部は、最低 1 字から最大 4 字までの長さでなければなりません。

**ユーザーの処置:**
接頭部の長さを、規定の範囲内に収まる値に変更してください。

---

**ASN2314E　変更前イメージ列の接頭部 *prefix* は、無効です。なぜなら、サポートされていない文字 *character* が使用されているからです。**

**説明:**
変更前イメージ列の接頭部では、列名の冒頭と列名内での使用をデータベースで許可されたアルファベット文字のみを使用できます。

**ユーザーの処置:**
無効文字を置き換えるか、または接頭部から除去してください。

---

**ASN2315E　列 *column2* 用の変更前イメージ列 *column1* がありません。**

**説明:**
Q サブスクリプションは、ソース表の列に対して、対応する変更前イメージがターゲット表内に存在するようにセットアップされています。 ソース列にマップされるターゲット列の名前に対して、変更前イメージの接頭部を追加することで、変更前イメージの列名が生成されます。 そのようにして生成された名前の付いた列が、ターゲット表内に見つかりません。

**ユーザーの処置:**
そのようにして生成された名前の付いた列が、ターゲット表内にあることを検証してください。ない場合、Q サブスクリプションを変更して変更前イメージの接頭部値を更新し、スクリプトを再生成します。変更前イメージが不要の場合、ターゲット列の仕様から除去してください。

---

**ASN2316E　変更前イメージ用のターゲット列 *column_name* を選択できません。列のデータ・タイプ *data_type* は、変更前イメージをサポートしていないからです。**

**説明:**
Q レプリケーションは、ラージ・オブジェクト (LOB) データ・タイプを除くすべてのデータ・タイプに対して変更前イメージ列をサポートします。

**ユーザーの処置:**
変更前イメージ列の選択項目からこの列を除去してください。

---

**ASN2317E　変更前イメージ列に対して列 *column_name* を選択することはできません。なぜなら、結合後の列名と変更前イメージ接頭部 *combined_name* の長さ *length* が、データベース *database_alias* での制限を超えるからです。**

**説明:**
列名と変更前イメージ接頭部を結合した長さは、列名の長さに関するデータベースでの制限内に収まっていなければなりません。

**ユーザーの処置:**
変更前イメージ接頭部を短くしてください。

---

**ASN2318E　レプリケーションのターゲット列として、列 *column_name1* を選択できません。この列は、列 *column_name2* の変更前イメージ値を保管するのに使用されるからです。**

**説明:**
変更前イメージ列を、レプリケーションでのターゲット列にすることはできません。

**ユーザーの処置:**
変更前イメージ列の接頭部の値を変更するか、または指定の変更後イメージ列に別の変更前イメージ列を選択してください。

---

**ASN2319W　ターゲット表 *table_owner.table_name* 内の変更前イメージ列には、同一の変更前イメージ接頭部が付いていません。この表を 3 層配布用に SQL レプリケーション・アプライ・プログラムに登録することはできません。**

**説明:**
3 層レプリケーション中の中間層として使用する CCD 表内の変更前イメージ列では、変更前イメージ接頭部に対して同じ単一文字を使用する必要があります。 指定した表内の複数の変更前イメージ列では、同じ接頭部が使用されていません。 この表を 3 層アーキテクチャーで使用することはできません。

**ユーザーの処置:**

この表を 3 層レプリケーション・アーキテクチャーで使用する予定の場合、変更前イメージの接頭部を修正してください。

---

**ASN2320E** **列 *column_name2* の変更前イメージ列として要求された列 *column_name1* は、ターゲット表内に存在しません。**

**説明:**
列を変更前イメージ列として使用するには、まずその列がターゲット表内に存在していなければなりません。

**ユーザーの処置:**
ターゲット表内に存在する列の名前を指定してください。

---

**ASN2321E** **データ・タイプ *data_type* の列 *column_name1* を、データ・タイプ *data_type* の列 *column_name2* 用の変更前イメージ列として使用することはできません。これらのデータ・タイプには相互に互換性がないからです。**

**説明:**
変更後イメージ列のデータ・タイプと、それに対応する変更前イメージ列には、互いに互換性がなければなりません。

**ユーザーの処置:**
正しい列名を指定したことを確認してください。

---

**ASN2322E** **外部 CCD 表として表 *table_owner.table_name* を登録できません。なぜなら、変更前イメージ列には同じ接頭部が付いていないからです。**

**説明:**
表を外部 CCD として登録するには、CCD 表内の変更前イメージ列には、共通の接頭部が付いている必要があります。指定した表内の複数の変更前イメージ列には、共通の接頭部が付いていません。

**ユーザーの処置:**
この CCD 表を SQL レプリケーション・ソースとして使用するには、表中の変更前イメージ列に共通の接頭部が付くように Q サブスクリプションを再定義してから、もう一度同じアクションを実行してください。

---

**ASN2323E** **表 *table_owner.table_name* 内の列 *column_name* は発行の一部ではないため、この列の以前の値は送信できません。**

**説明:**
指定した列の以前の値を Q キャプチャー・プログラムから送信するよう要求しましたが、この列は、発行に組み込まれていません。

**ユーザーの処置:**
発行の一部になるような列を選択するか、または列の以前の値を要求しないでください。

---

**ASN2324I** **デフォルトの変更前イメージ接頭部 X が原因で、ターゲット表 *table_owner.table_name* において列名の競合が生じました。別の変更前イメージ接頭部 *prefix* が使用されて、ユニークな変更前イメージ列名が生成されます。**

**説明:**
表内の列は、ユニーク列である必要があります。そのため、デフォルトの変更前イメージ接頭部に起因して、名前の競合が発生しました。指定した接頭部が、代わりに使用されます。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2325E** **SQL レプリケーション用に登録されている CCD 表にデータを追加するのに、Q アプライ・スキーマ *schema* を使用できません。SQL キャプチャー・スキーマが指定されなかったからです。**

**説明:**
まず、データの追加先の CCD 表用の特定の SQL キャプチャー・スキーマを使用するように Q アプライ・プログラムを構成してから、その表を SQL レプリケーション用のソースとして登録する必要があります。

**ユーザーの処置:**
ASNCLP コマンド行プログラム内で ALTER CONFIGURATION APPLY コマンドを使用するか、またはレプリケーション・センター内で Q アプライ・プログラム用の「保管パラメーターの変更」ウィンドウを使用して、Q アプライ・スキーマを更新してください。

---

**ASN2326E** **Q サブスクリプション *receive_queue_name.q_subscription_name* の CCD ターゲット表 *table_owner.table_name* の SQL 登録を作成できません。なぜなら、この Q サブスクリプションは、Q キャプチャー・スキーマ *schema* および Q アプライ・スキーマ *schema* を使用するからです。これらのスキーマは、選択された他の Q サブスクリプションで使用される Q キャプチャー・スキーマ *schema* および Q アプラ**

**イ・スキーマ** *schema* **とは異なります。**

**説明:**
同じ Q キャプチャー・スキーマから同じ Q アプライ・スキーマへ複製された Q サブスクリプションだけを、同時に登録することができます。

**ユーザーの処置:**
指定した Q サブスクリプションを、登録しようとしている Q サブスクリプション・グループから除外してください。

---

**ASN2327E** **SQL キャプチャー・スキーマ** *schema* **内の CCD 表** *table_owner.table_name* **の既存の SQL 登録を、Q アプライ・プログラムで使用するように修正できません。この登録内のプロパティー** *property1* **の値** *value1* **は、Q サブスクリプション** *receive_queue_name.q_subscription_name* **内のプロパティー** *property2* **の値** *value2* **と競合するからです。**

**説明:**
SQL 登録と Q サブスクリプションは、CCD 表のプロパティー CONDENSED および COMPLETE に対して同じ値をもっていなければなりません。その値は、ON または OFF のどちらかにすることができます。一致するプロパティーが必要なのは、既存の登録を Q アプライ・プログラムで使用できるよう変更するためです。

**ユーザーの処置:**
CCD 表のプロパティー CONDENSED および COMPLETE が SQL 登録のプロパティーに一致するように、Q サブスクリプションを変更してください。

---

**ASN2328E** **SQL キャプチャー・スキーマ** *schema* **は、データベース** *database_alias* **に存在しません。**

**説明:**
指定された SQL キャプチャー・スキーマを、このデータベース内で見つけることができません。

**ユーザーの処置:**
名前につづりの誤りがあるかどうかを調べて、SQL キャプチャー・スキーマの名前を訂正してください。

---

**ASN2329E** **SQL キャプチャー・スキーマ** *schema* **のアーキテクチャー・レベル** *level1* **は、規定のアーキテクチャー・レベル** *level2* **より古いレベルです。**

**説明:**
SQL キャプチャー・スキーマは古すぎるスキーマです。

**ユーザーの処置:**
別の SQL キャプチャー・スキーマを選択するか、または SQL キャプチャー・スキーマを規定のアーキテクチャー・レベルにマイグレーションしてください。

---

**ASN2330E** **SQL キャプチャー・スキーマ** *schema* **は、フェデレーテッド・データベース** *database_name* **に定義されているので、Q レプリケーションのターゲットである CCD 表を登録するのに使用できません。**

**説明:**
この SQL キャプチャー・スキーマは、フェデレーテッド・データ・ソース用にセットアップされていて、DB2 ソース用に使用することはできません。

**ユーザーの処置:**
フェデレーテッド・ソース用にセットアップされていない別の SQL キャプチャー・スキーマを選択してください。

---

**ASN2331E** **Q アプライ・スキーマ** *schema* **によって管理される SQL キャプチャー・スキーマ** *schema* **を、新規スキーマ** *schema2* **に合わせて修正できません。なぜなら、アクティブな Q サブスクリプション** *receive_queue_name.q_subscription_name* **は、既存のスキーマ内のターゲット CCD 表** *table_owner.table_name* **用の SQL 登録を管理しているからです。**

**説明:**
SQL キャプチャー・スキーマが変更された場合、アクティブな Q サブスクリプションは無効になります。

**ユーザーの処置:**
Q サブスクリプションを非活動化し、アクションをやり直してください。

---

**ASN2332W** **Q アプライ・スキーマ** *schema* **によって管理される SQL キャプチャー・スキーマ** *schema* **は、新規スキーマ** *schema2* **に合わせて修正されます。既存および非アクティブの Q サブスクリプション** *receive_queue_name.q_subscription_name* **は、無効になると思われます。**

**説明:**
要求した SQL キャプチャー・スキーマの更新によって、Q サブスクリプションが無効になる可能性があります。

**ユーザーの処置:**
ユーザー処置は不要です。

**ASN2333E** **SQL キャプチャー・スキーマの値 *schema* の長さ *length1* は、サポートされる最大長 *length2* より長いです。**

**説明:**
指定した SQL キャプチャー・スキーマの長さは無効です。

**ユーザーの処置:**
SQL キャプチャー・スキーマの長さを短縮し、アクションを再実行してください。

---

**ASN2334W** **CCD 表 *table_owner.table_name* の SQL 登録は、今後は Q サブスクリプション *receive_queue_name.q_subscription_name* によってデータが追加されないように修正されます。**

**説明:**
SQL 登録が更新を受け取れるのは、1 つの Q サブスクリプションからだけです。更新が送信されるように別の Q サブスクリプションを選択すると、これまでの Q サブスクリプションは今後はターゲットを更新できなくなります。

**ユーザーの処置:**
以下のオプションのうちの 1 つを選択してください。

- 指定した Q サブスクリプションによって SQL 登録にデータが追加されるようにする予定の場合、処置は必要ありません。生成されたスクリプトを実行することができます。
- オリジナルの Q サブスクリプションを引き続き使用して SQL 登録にデータを追加する予定の場合、生成されたスクリプトを実行しないで、処置をキャンセルしてください。

---

**ASN2335E** **CCD 表 *table_owner.table_name* の SQL 登録は、データベース *database_alias* の SQL キャプチャー・スキーマ *schema* 内で見つかりません。**

**説明:**
このデータベースの SQL キャプチャー・スキーマには、指定された SQL 登録は入っていません。

**ユーザーの処置:**
指定した登録に対応する CCD 表の名前を調べて、処置をやり直してください。

---

**ASN2336E** **CCD 表 *table_owner.table_name* の SQL 登録は、データベース *database_alias* の SQL キャプチャー・スキーマ *schema* 内にすでに存在します。**

**説明:**
SQL 登録を指定しましたが、このデータベースの SQL キャプチャー・スキーマ内には同名の別の登録がすでに存在します。

**ユーザーの処置:**
指定した登録に対応する CCD 表の名前を調べて、処置をやり直してください。

---

**ASN2337W** **Q サブスクリプションをドロップすると、CCD 表 *table_owner.table_name* 用の SQL 登録にはデータは追加されなくなります。**

**説明:**
この CCD 表にデータを追加する Q サブスクリプションをドロップすると、その CCD 表の SQL 登録は今後はソースからデータを受け取らなくなります。

**ユーザーの処置:**
ユーザー処置は不要です。

---

**ASN2338W** **CCD 表 *table_owner.table_name* 用の SQL 登録はドロップされます。アプライ修飾子 *apply_qualifier* を使用する SQL サブスクリプション・セット *set_name* 内の SQL アプライ・コントロール・サーバー *database_alias* にあるターゲット表 *table_owner.table_name* の SQL サブスクリプション・セット・メンバーが、非活動化されていることを確認してください。**

**説明:**
この SQL 登録をドロップする場合、この登録からデータを受け取っているサブスクリプション・セット・メンバーを非活動化して、データ損失が起きないようにする必要があります。

**ユーザーの処置:**
指定したメンバーが非活動化されたかどうかを調べてください。

---

**ASN2339W** **CCD 表 *table_owner.table_name* の SQL 登録は、Q サブスクリプション *receive_queue_name.q_subscription_name* によってデータが追加されるように更新されます。 アプライ修飾子 *apply_qualifier* を使用する SQL サブスクリプション・セット *set_name* 内の SQL アプライ・コントロール・サーバー *database_alias* にあるターゲット表 *table_owner.table_name* 用のサブスクリプション・セット・メンバーが、非活動化されていることを確認してください。**

**説明:**
この SQL 登録を更新する場合、この登録からデータを受け取っているサブスクリプション・セット・メンバーを非活動化して、データ損失が起きないようにする必要があります。

**ユーザーの処置:**
指定したメンバーが非活動化されたかどうかを調べてください。

---

**ASN2340E** **サブスクリプション・セットの既存のメンバーは、 Q アプライ・プログラムによってデータを追加されていないソース登録を使用しているのに対して、新規メンバーは Q アプライ・スキーマ *schema* によってデータを追加されているソース登録を使用しているため、サブスクリプション・メンバーをこのサブスクリプション・セットに追加できません。**

**説明:**
サブスクリプション・セットに収容できるのは、同一の受信キューを使用する 1 つの Q アプライ・プログラムによってデータが追加されるソース登録か、または Q アプライによってデータが追加されないソース登録を持つメンバーのみです。

**ユーザーの処置:**
空のサブスクリプション・セットを選択するか、または互換性のあるメンバーが入る別のサブスクリプション・セットを選択してください。

---

**ASN2341E** **サブスクリプション・セットの既存のメンバーは Q アプライ・スキーマ *schema* によってデータを追加されているソース登録を使用しているのに対して、新規メンバーは Q アプライ・プログラムによってデータを追加されていないソース登録を使用しているため、サブスクリプション・メンバーをこのサブスクリプション・セットに追加できません。**

**説明:**
サブスクリプション・セットに収容できるのは、同一の受信キューを使用する 1 つの Q アプライ・プログラムによってデータが追加されるソース登録か、または Q アプライによってデータが追加されないソース登録を持つメンバーのみです。

**ユーザーの処置:**
空のサブスクリプション・セットを選択するか、または互換性のあるメンバーが入る別のサブスクリプション・セットを選択してください。

---

**ASN2342E** **サブスクリプション・セット・メンバーをこのサブスクリプション・セットに追加できません。なぜなら、このセット内の既存のメンバーは、受信キュー *receive_queue* を使用する Q アプライ・スキーマ *schema* によってデータを追加されるソース登録を使用するのに対して、新規メンバーは、受信キュー *receive_queue* を使用する Q アプライ・スキーマ *schema2* によってデータを追加されるソース登録を使用するからです。**

**説明:**
サブスクリプション・セットに収容できるのは、同一の受信キューから 1 つの Q アプライ・プログラムによってデータを追加されるソース登録を持つメンバーのみです。

**ユーザーの処置:**
空のサブスクリプション・セットを選択するか、または互換性のあるメンバーが入る別のサブスクリプション・セットを選択してください。

---

**ASN2343E** **ターゲット CCD *table_owner.table_name* 用の SQL 登録を、Q アプライ・プログラムによって管理されるように修正できません。プロパティー *property* の値 *value* は、サポートされていないからです。**

**説明:**
Q アプライが管理できるのは、特定の SQL 登録だけです。制限の詳細については、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『(Q レプリケーションから SQL レプリケーションに対する) 3 層データ配布構成の作成』を参照してください。

**ユーザーの処置:**
SQL 登録を更新するか、または別の SQL キャプチャー・スキーマ内の別の SQL 登録を選択してください。

---

**ASN2344I** **この Q サブスクリプション用のターゲット CCD *table_owner.table_name* は、SQL キャプチャー・スキーマ *schema* 内に既存の SQL 登録をもっており、Q アプライ・プログラムは、このスキーマ内で SQL 登録を管理するよう構成されています。この Q サブスクリプションがアクティブになると、Q アプライ・プログラムは、SQL レプリケーション用のソースとしてターゲット CCD 表を管理します。**

**説明:**

ターゲット CCD はすでに登録済みであって、Q アプライは正しく構成されているので、ターゲット CCD は自動的に SQL レプリケーション用のソースになります。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2345E** **式 *expression* の結果としてのデータ・タイプ *data_type1* は、マップされたターゲット列 *column_name* のデータ・タイプ *data_type2* に対して互換性がありません。**

**説明:**
ターゲット列に対して式を複製するには、Q アプライ・プログラムにおいて、式の結果としてのデータ・タイプが、ターゲット列のデータ・タイプに一致する必要があります。式のデータ・タイプと、そのマップ先のターゲット列のデータ・タイプが一致しません。

**ユーザーの処置:**
指定したターゲット列のデータ・タイプに対して、式の結果のデータ・タイプが一致するように式を修正するか、または式と同じデータ・タイプをもつターゲット内の別の列を選択してください。

---

**ASN2346E** **式 *expression* に指定された列 *column_name* は、ソース表 *table_owner.table_name* 内に存在しません。**

**説明:**
式の一部となる列がソース表内に存在しなければなりませんが、指定された列が見つかりません。

**ユーザーの処置:**
ソース表内に存在する別の列を指定するか、または列を式から除去してください。

---

**ASN2347E** **式 *expression* をターゲット列 *column_name* にマップできません。この式内では、NULL 値を使用できるのに対して、ターゲット列は NOT NULL 属性を指定して定義されているからです。**

**説明:**
式とターゲット列のヌル特性は一致しなければなりません。式中で選択されたソース列はいずれも、NOT NULL 属性を指定して定義されていないので、式の結果値はヌルであってもかまいません。しかし、ターゲット列は、NOT NULL と定義されています。

**ユーザーの処置:**
NOT NULL と定義されている少なくとも 1 つのソース列を式に組み入れるか、または NULL 値を収容できるターゲット内の別の列に対して式をマップしてください。

---

**ASN2348E** **ターゲット表 *table_name* の中の列 *column_name* をソース列に直接マップできません。なぜなら、指定したターゲット列は、すでに式 *expression* にマップされているからです。**

**説明:**
ソース列と式の両方に対してターゲット列をマップすることはできません。

**ユーザーの処置:**
別のターゲット列をマッピング用に選択してください。

---

**ASN2349E** **ターゲット表 *table_name* の中の列 *column_name* を式 *expression* にマップできません。なぜなら、ターゲット列は、すでにソース列 *column_name* に直接マップされているからです。**

**説明:**
式とソース列の両方に対してターゲット列をマップすることはできません。

**ユーザーの処置:**
別のターゲット列をマッピング用に選択してください。

---

**ASN2350E** **レプリケーション管理ツールは、DB2 バージョン 8 レベルで稼働中です。このツールを使用して、Q レプリケーション用の DB2 バージョン 9 サーバーを管理することはできません。**

**説明:**
レプリケーション・コントロール表の構造と、レプリケーション・アーキテクチャー・レベルに変更が加えられたため、バージョン 9 より前のレプリケーション管理ツールを使用して、DB2 バージョン 9 サーバーを管理することはできません。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション管理ツールが稼働する DB2 クライアントを、バージョン 9 にマイグレーションしてください。

**ASN2351E　CCD 表 *schema.name* をコンデンスとして定義できません。タイプ *typename* のデータベース・オブジェクト *name* は、レプリケーション・キーの一部ではない列 *column_names* のユニーク性を有効化しているためです。**

**説明:**
レプリケーション・キーの一部ではない列のユニーク性を有効化している主キー、ユニーク制約、またはユニーク索引がターゲット表に収容されている場合に、この表に変更を加えようとすると、アプライ・プログラムは失敗します。通常、これが当てはまるのは、この表に対して 2 番目のユニーク制約またはユニーク索引が定義されている場合です。**注:** 例えば IBMSNAP_INTENTSEQ や IBMSNAP_COMMITSEQ などの、2 次的なユニーク索引を CCD 列に対して定義することができます。

**ユーザーの処置:**
ユニーク制約またはユニーク索引を除去するか、あるいは新規の CCD ターゲット表の生成を検討してみてください。

---

**ASN2355E　コマンド *command* はクラシック・レプリケーション・ソースでは使用できません。**

**説明:**
以前の SET SERVER CAPTURE コマンドで、クラシック・レプリケーション・サーバーがキャプチャー・サーバーとして設定されています。指定されたコマンドは、クラシック・レプリケーション・ソースには無効です。クラシック・ソースに有効なコマンドは以下のとおりです。

- CREATE REPLQMAP
- ALTER REPLQMAP
- DROP REPLQMAP
- CREATE QSUB
- ALTER QSUB
- DROP QSUB
- LOADDONE
- START QSUB
- STOP QSUB
- LIST
- ALTER CAPPARMS

**ユーザーの処置:**
以下のいずれかのアクションを行ってください。

- 環境コマンド SET SERVER CAPTURE を発行して、キャプチャー・サーバーを、このコマンドをサポートする別のサーバーに設定します。
- クラシック・ソースでサポートされるコマンドの 1 つを使用します。

---

**ASN2356W　キャプチャー・サーバーがクラシック・レプリケーション・サーバーであるため、ASN のデフォルト・スキーマが割り当てられます。指定されていたスキーマは使用されません。**

**説明:**
以前の SET SERVER CAPTURE コマンドで、クラシック・レプリケーション・サーバーがキャプチャー・サーバーとして設定されています。サーバーには、1 組のクラシック・キャプチャー・コントロール表しか存在しません。これらの表には ASN のスキーマがあり、ASNCLP プログラムは常に ASN のデフォルト・スキーマを使用します。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2357E　オプション *option* はクラシック・レプリケーション・ソースでは使用できません。**

**説明:**
以前の SET SERVER CAPTURE コマンドで、クラシック・レプリケーション・サーバーがキャプチャー・サーバーとして設定されています。指定されたオプションは、クラシック・レプリケーション・ソースには無効です。サポートされていないオプションは以下のとおりです。

- SUPPRESS DELETES
- SEARCH CONDITION
- TRGCOLS EXCLUDE (新規ターゲット用)
- LOAD TYPE (値 1、2、または 3 を指定した場合)

**ユーザーの処置:**
以下のいずれかのアクションを行ってください。

- 環境コマンド SET SERVER CAPTURE を発行して、キャプチャー・サーバーを、このオプションをサポートする別のサーバーに設定します。
- クラシック・ソースに別のオプションを指定します。LOAD TYPE の場合、サポートされるオプションは 0 (ロードしない) または 4 (クラシック・ソースからロード) です。

---

**ASN2358E　構成ファイル *file_name* は指定された場所に存在しません。ディレクトリー名、ファイル名、およびファイルの許可について確認してください。**

**説明:**

ASNCLP プログラムは、**file_name** パラメーターに指定されたパスとファイル名を使って、指定された構成ファイルを検出できませんでした。

**ユーザーの処置:**
パスとファイル名が正しいことを確認してください。さらに、ASNCLP プログラムがファイルを読み取ることができるように、ファイルの許可が正しく設定されていることも確認します。

---

**ASN2359E** **Q サブスクリプションを作成するコマンドが正常に完了しませんでした。以下に示す *number* 個の Q サブスクリプションはクラシック・サーバーで定義されましたが、Q アプライ・サーバーでは定義されませんでした: *Q_subscription_list1*。以下に示す *number* 個の Q サブスクリプションはどちらのサーバーでも定義されませんでした: *Q_subscription_list2*。以下に示す *number* 個の Q サブスクリプションは両方のサーバーで定義されました: *Q_subscription_list3*。**

**説明:**
CREATE QSUB コマンドの処理中にエラーが発生しました。一部の Q サブスクリプションはクラシック・サーバーでのみ定義され、別の Q サブスクリプションはどちらのサーバーでも定義されませんでした。1 つのサーバーにのみ定義されている Q サブスクリプションは不完全であり、削除する必要があります。

**ユーザーの処置:**
以下に示す手順に従ってください。

- ASNCLP プログラムで DROP QSUB コマンドを使用して、クラシック・サーバーにだけ定義されているサブスクリプションを削除します。
- CREATE QSUB コマンドを使用して、どのサーバーにも定義されていない Q サブスクリプションを作成します。

両方のサーバーに定義されている Q サブスクリプションは完全であり、追加のアクションは必要ありません。

---

**ASN2360E** **1 つ以上の Q サブスクリプションを削除するコマンドが正常に完了しませんでした。以下に示す *number* 個の Q サブスクリプションはクラシック・サーバーからは削除されましたが、Q アプライ・サーバーからは削除されませんでした: *Q_subscription_list1*。以下に示す *number* 個の Q サブスクリプションはどちらのサーバーからも削除されませんでした: *Q_subscription_list2*。以下に示す *number* 個の Q サブスクリプションは両方のサーバーから削除されました: *Q_subscription_list3*。**

**説明:**
DROP QSUB コマンドの処理中にエラーが発生しました。一部の Q サブスクリプションはクラシック・サーバーでのみ削除され、別の Q サブスクリプションはどちらのサーバーでも削除されませんでした。クラシック・サーバーでのみ削除された Q サブスクリプションは、Q アプライ・サーバーにまだ存在しており、手動で削除する必要があります。

**ユーザーの処置:**
ASNCLP プログラムで DROP QSUB コマンドを使用して、クラシック・サーバーでのみ削除された Q サブスクリプションと、どちらのサーバーでも削除されなかった Q サブスクリプションを削除します。

---

**ASN2361E** **レプリケーションのためにソース表 *table_owner.table_name* の列のサブセットだけが選択されており、ソース・サーバーがクラシック・レプリケーション・サーバーであるため、Q サブスクリプションを作成できません。**

**説明:**
クラシック・レプリケーションの場合、レプリケーションにはソース表のすべての列を選択する必要があります。

**ユーザーの処置:**
Q サブスクリプションのためにソース表のすべての列を指定して、CREATE QSUB コマンドを再実行します。

---

**ASN2362E** **スキーマ *schema* の下にある Q アプライ・コントロール表のアーキテクチャー・レベルがバージョン 9 より前のものであり、ソースがクラシック・レプリケーション・サーバーであるため、アクション *action_name* はエラー終了しました。**

**説明:**

クラシック・レプリケーション・サーバーをソースとして使用するためには、Q アプライ・コントロール表のアーキテクチャー・レベルがバージョン 9 でなければなりません。指定された Q アプライ・スキーマはバージョン 9 よりも前のアーキテクチャー・レベルです。

**ユーザーの処置:**
以下のいずれかのアクションを行ってください。

- Q アプライ・コントロール表をバージョン 9 にマイグレーションします。
- 新しい Q アプライ・コントロール表一式をバージョン 9 アーキテクチャーで作成します。

---

**ASN2363E　キャプチャー・コントロール表がクラシック・レプリケーション・サーバーで見つからないため、アクション *action_name* はエラー終了しました。**

**説明:**
指定されたアクションを実行する前にコントロール表が存在している必要がありますが、見つかりませんでした。コントロール表は、クラシック・レプリケーション製品のインストール時に作成されます。

**ユーザーの処置:**
クラシック・レプリケーション・サーバーを構成する方法の詳細について、IBM WebSphere Classic インフォメーション・センターを参照し、レプリケーション・オブジェクトを定義または使用する前に手順をすべて実行します。

---

**ASN2364E　IBMQREP_CAPPARMS 表が空であるため、アクション *action_name* はエラー終了しました。**

**説明:**
ASNCLP プログラムでレプリケーションのためにオブジェクトを定義する前に、IBMQREP_CAPPARMS コントロール表に行が存在している必要があります。表に行が存在しませんでした。

**ユーザーの処置:**
このアクションを実行する前に、ASNCLP コマンド ALTER CAPPARMS を実行して表に行を追加してください。

---

**ASN2365I　Q アプライ・スキーマに、クラシック・レプリケーション・サーバーをソースとする Q サブスクリプションまたはレプリケーション・キュー・マップがあります。これらの定義はここに示すリストには表示されません。**

**説明:**
クラシック・レプリケーション・サーバーをソースとする Q サブスクリプションまたはレプリケーション・キュー・マップは、レプリケーション・センターでは表示されません。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2366E　SET コマンド *command_name* は、Oracle ソース・サーバーでは使用できません。**

**説明:**
指定されたコマンドは、Oracle ソースではサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
Oracle ソースでサポートされているコマンドについては、DB2 インフォメーション・センターの ASNCLP に関する資料を参照してください。

---

**ASN2367E　コマンドは処理できませんでした。中間フェデレーテッド・サーバーがインストールされ、構成されていない限り、Oracle サーバーはレプリケーション・ターゲットとしてサポートされません。**

**説明:**
Oracle ターゲットにデータを複製するには、Q アプライ・プログラムが DB2 フェデレーテッド・インスタンスの中で実行されるように構成する必要があります。これには、WebSphere Federation Server が必要です。

**ユーザーの処置:**
WebSphere Federation Server をインストールして構成してから SET SERVER コマンドを使用して、フェデレーテッド DB2 インスタンス上にある Q アプライ・サーバーを指定してください。

---

**ASN2368E　ソースが Oracle である場合、CREATE QSUB コマンドは SUBTYPE キーワードの値 B または P をサポートしていません。**

**説明:**
双方向 (タイプ B) およびピアツーピア (タイプ P) のレプリケーションは、ネイティブ Oracle ソースではサポートされません。許可される Q サブスクリプション・タイプは、単一方向 (タイプ U) のみです。

**ユーザーの処置:**
SUBTYPE キーワードには、値 U を指定して、コマンドを再発行してください。

---

**ASN2369E　ロード・タイプ・オプション *option* は Oracle ソースでは使用できません。**

**説明:**
これより前の SET SERVER コマンドで、Oracle サーバーが Q キャプチャー・サーバーとして指定されました。Oracle サーバーの場合、値 1、2、3、および 4 は LOAD TYPE キーワードではサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
以下のいずれかのアクションを行ってください。

- SET SERVER コマンドを発行して、このオプションがサポートされている別の Q キャプチャー・サーバーを指定する。
- Oracle ソースの場合は、LOAD TYPE キーワードに値 0 (ロードなし) または 5 (Oracle ロード) を指定する。

**ASN2370E　Q アプライ・コントロール表のアーキテクチャー・レベルが *level* であり、ソースが Oracle サーバーであるために、アクション *action* はエラー終了しました。**

**説明:**
Oracle サーバーをソースとして使用するためには、Q アプライ・コントロール表のアーキテクチャー・レベルが 0905 (バージョン 9.5) 以上でなければなりません。指定された Q アプライ・スキーマは以前のアーキテクチャー・レベルです。

**ユーザーの処置:**
以下のいずれかのアクションを行ってください。

- Q アプライ・コントロール表を必要なアーキテクチャー・レベルにマイグレーションします。
- 新しい Q アプライ・コントロール表一式を必要なアーキテクチャー・レベルで作成し、指定したアクションに対してそのスキーマを使用します。

**ASN2371E　表レベルの補足ロギングが設定されていないため、表 *table_name* は Q レプリケーション・ソースとして使用できません。**

**説明:**
表レベルの補足ロギングは、レプリケーションに必要なログ・データを Oracle が保守するように、ON に設定しておく必要があります。

**ユーザーの処置:**
ALTER コマンドを発行して、表レベルの補足ロギングができるように、ソース表を変更してください。

**ASN2372E　データベース全体の補足ロギングが有効でないため、データベース *database_name* は Q レプリケーション・ソースとして使用できません。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムは Oracle LogMiner を使用しますが、これには、最小限の補足ロギングが有効になっている必要があります。この機能では、Oracle LogMiner が DML 変更からのやり直し操作を識別、グループ化、およびマージするために必要な最小限の情報をログに記録します。最小限の補足ロギングにより、Oracle LogMiner と Q キャプチャーに、チェーニングされた行および種々のストレージ配置をサポートするための十分な情報 (クラスター表など) が与えられます。

**ユーザーの処置:**
ALTER コマンドを発行して、データベース全体にわたる最小限の補足ロギングができるように、データベースを変更してください。

**ASN2373E　Q キャプチャー・サーバーとして指定されたデータベースは、ソースとして使用できません。 Q レプリケーションは、Oracle バージョン 10g 以降のみをサポートしています。**

**説明:**
Oracle ソースからのデータを複製するには、Oracle バージョン 10g 以降のソース・データベースを Q キャプチャー・サーバーとして指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
サポートされているレベルのデータベースを指定して、コマンドを再試行してください。

**ASN2375E　CREATE PUB コマンドで XML キーワードが指定されましたが、発行に指定された発行キュー・マップは DELIMITED メッセージ形式を使用します。**

**説明:**
発行と、それが使用する発行キュー・マップのメッセージ形式は一致していなければなりません。

**ユーザーの処置:**
以下のいずれかのアクションを行ってください。

- XML メッセージ形式で発行する場合は、XML 形式を使用する発行キュー・マップを指定します。
- DELIMITED メッセージ形式で発行する場合は、発行のメッセージ形式を DELIMITED に変更します。

**ASN2376E** **発行キュー・マップ** *queue_map_name* **が、指定された Q キャプチャー・サーバー上の指定された Q キャプチャー・スキーマに存在しないために、このキュー・マップをプロモートできません。**

**説明:**
オブジェクトをプロモートするには、そのオブジェクトが、指定するスキーマの中に存在していなければなりません。指定された名前の発行キュー・マップが、このスキーマの中に存在しません。

**ユーザーの処置:**
正しい発行キュー・マップ、スキーマ、およびサーバーが指定されていることを確認して、コマンドをもう一度発行してください。

---

**ASN2377E** **発行** *publication_name* **が、指定された Q キャプチャー・サーバー上の指定された Q キャプチャー・スキーマに存在しないために、この発行をプロモートできません。**

**説明:**
オブジェクトをプロモートするには、そのオブジェクトが、指定するスキーマの中に存在していなければなりません。指定された名前の発行が、このスキーマの中に存在しません。

**ユーザーの処置:**
正しい発行、スキーマ、およびサーバーが指定されていることを確認して、コマンドをもう一度発行してください。

---

**ASN2378E** **レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **が、指定された Q キャプチャー・サーバー上の Q キャプチャー・スキーマ** *Q_Capture_schema* **または指定された Q アプライ・サーバー上の Q アプライ・スキーマ** *Q_Apply_schema* **に存在しないために、このキュー・マップをプロモートできません。**

**説明:**
レプリケーション・キュー・マップをプロモートするには、指定する Q キャプチャー・スキーマと Q アプライ・スキーマの中にそのキュー・マップが存在しなければなりません。指定された名前のレプリケーション・キュー・マップが、これらのスキーマの中に存在しません。

**ユーザーの処置:**
正しいレプリケーション・キュー・マップ、スキーマ、およびサーバーが指定されていることを確認して、コマンドをもう一度発行してください。

---

**ASN2379E** **ターゲット・データベースへのアクセスがフェデレーテッド・サーバー経由で行われたために、コマンドがサポートされません。**

**説明:**
指定されたコマンドは、フェデレーテッド・ターゲットに対してサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
このコマンドがサポートされるサーバーを指定してください。

---

**ASN2380I** **プログラム** *program_name* **に対する操作** *operation* **が、***timestamp* **にホスト** *host_name* **にあるデータベースまたはサブシステム** *name* **上のスキーマまたは修飾子** *name* **に対して開始しました。**

**説明:**
要求された操作が開始しました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2381I** **操作** *operation* **は、***timestamp* **に正常に終了しました。**

**説明:**
レプリケーションまたはイベント発行プログラムが、示されている操作を正常に実行しました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2383I** **プログラムの状況は、***status* **です。追加情報:** *information*。

**説明:**
このメッセージは、レプリケーションまたはイベント発行プログラムの状況を説明しています。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2384E** **操作** *operation* **は、プログラム** *program_name* **がアクティブではないためにエラー終了しました。**

**説明:**

示されている操作を実行するように求められたプログラムが実行されていなかったため、操作を実行できませんでした。

**ユーザーの処置:**
プログラムを開始してから、もう一度この操作を要求してください。

---

**ASN2385I** **アクティブ・プログラムの詳細な状況は *detailed_status* です。**

**説明:**
要求された状況情報に、プログラムの現行状態が詳しく記述されています。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2386I** **プログラム・パラメーター *parameter* に *value* の値があり、*origin* により定義されました。**

**説明:**
このメッセージは、プログラムが現在使用しているパラメーター値を反映したものです。この値は、コントロール表に保管されている値とは異なる場合があります。保管された値を始動時またはプログラムの実行中にオーバーライドしていなければ、プログラムが停止して再始動するときに、この保管された値が使用されます。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2387E** **アクセス方式 *method* がホスト *host* にあるデータベースまたはサブシステム *name* で使用できないため、操作 *operation* を実行できません。理由: *reason*。推奨アクション: *action*。推奨アクションを実行して、このアクセス方式を将来利用できるようにしてください。**

**説明:**
要求された操作には、指定されたアクセス方式が使用可能になっていることが必要です。

**ユーザーの処置:**
推奨アクションを実行して、操作を再試行してください。

---

**ASN2388E** **タイムアウトの *number* 秒を超えたため、*timestamp* に操作が終了しました。**

**説明:**
レプリケーションまたはイベント発行プログラムは、指定された時間内に要求された操作を実行できませんでした。

**ユーザーの処置:**
プログラムの状況を確認してから、操作を再試行してください。

---

**ASN2389E** **ホスト *host* にあるデータベースまたはサブシステム *name* に、前提条件となるセットアップ手順がないため、操作 *operation* を実行できません。理由: *reason*。推奨アクション: *action*。推奨アクションを実行して、この操作を将来利用できるようにしてください。**

**説明:**
要求された操作において、前提条件となるセットアップ手順が完了している必要があります。

**ユーザーの処置:**
推奨アクションを実行して前提条件となるセットアップ手順を完了させてから、操作を再試行してください。

---

**ASN2390E** **アクティブ・プログラム *program_name* との通信中に、エラーが発生しました。エラー・メッセージ: *message*。応答: *response*。**

**説明:**
レプリケーション・プログラムとの通信中に、内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
レプリケーションのセットアップに必要な変更についての詳細を DB2 インフォメーション・センターで調べてから、アクションを再試行してください。

---

**ASN2391E** **プログラム *program_name* に対する操作 *operation* は、*database_type* データベースではサポートされません。**

**説明:**
レプリケーション・プログラムによる一部の操作は、データベース・タイプによってはサポートされていないものがあります。

**ユーザーの処置:**
DB2 インフォメーション・センターのレプリケーションおよびイベント発行に関する資料を参照して、どの操作がサポートされているか調べてください。

---

**ASN2392W** **DB2 インスタンスを判別できませんでした。 *instance_name* の DB2 インスタンス名は、要求された操作をデータベース *database_name* で実行するためのデフォルトとして使用されます。この操作に対するその他の DB2 インスタンス名をサポートするには、推奨アクション *action* を実行してください。**

**説明:**
操作の実行には DB2 インスタンス名が必要ですが、そのインスタンス名を判別できません。デフォルトのインスタンス名が使用されます。

**ユーザーの処置:**
DB2 インスタンスの名前がデフォルトと同じである場合、アクションは不要です。それ以外の場合は、推奨アクションを実行してください。

---

**ASN2393I** **ホスト *host_name* でアクセス方式 *method* が使用可能で、要求された操作に使用されます。**

**説明:**
ホスト・データベースにアクセスして要求された操作を実行するために、複数の方式を使用できます。使用可能なアクセス方式が 1 つ見つかり、この方式が使用されました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2394W** **ホスト *host_name* にあるデータベースまたはサブシステム *name* で操作 *operation* を実行するための、推奨されるアクセス方式 *method* が使用できません。理由: *reason*。推奨アクション *action*。推奨されるアクセス方式を将来利用できるようにするため、推奨アクションを実行してください。**

**説明:**
データベースまたはサブシステムにアクセスするための推奨方式が使用できません。要求された操作を実行するために、代わりの方式を試みます。

**ユーザーの処置:**
推奨アクションを実行して、操作を再試行してください。

---

**ASN2395E** **同じスキーマまたは修飾子を持つプログラム *program_name* のインスタンスが、データベースまたはサブシステム *name* で既に実行されているため、このプログラムを開始できませんでした。**

**説明:**
1 つのデータベースの中では、特定のスキーマまたは修飾子を持つプログラム・インスタンスは 1 つしか実行できません。

**ユーザーの処置:**
同じスキーマまたは修飾子を持つ実行中のプログラムを停止するか、2 番目のプログラムのスキーマまたは修飾子をドロップしてから再作成してください。

---

**ASN2396E** **操作 *operation* は、プログラムが 1 つ以上のエラー・メッセージ *error_messages* を戻したためにエラー終了しました。**

**説明:**
プログラムは操作を実行する要求を受け取りましたが、エラーを戻しました。

**ユーザーの処置:**
エラー・メッセージを調べて問題を訂正し、操作を再試行してください。

---

**ASN2397E** **MAXAGENTS_CORRELID 値 (*number_agents*) が NUM_APPLY_AGENTS 値 (*total_agents*) より大きいために、レプリケーション・キュー・マップを作成できません。**

**説明:**
受信キューおよびレプリケーション・キュー・マップにおけるアプライ・エージェントの総数は、IBMQREP_RECVQUEUES 表の NUM_APPLY_AGENTS 値で指定されます。 MAXAGENTS_CORRELID 値は、同一のジョブ名から並列に適用するトランザクションの数を指定します。この設定により、バッチ・ワークロード中にロック競合が起きないように、Q アプライ・プログラムで並列処理を制限できます。

**ユーザーの処置:**
MAXAGENTS_CORRELID 値を、NUM_APPLY_AGENTS 値よりも小さく設定してください。

---

**ASN2398E** **MAXAGENTS_CORRELID 値 (*number_agents*) が NUM_APPLY_AGENTS 値 (*total_agents*) より大きいために、レプリケーション・キュー・マップを更新できませんでした。**

**説明:**
受信キューおよびレプリケーション・キュー・マップにおけるアプライ・エージェントの総数は、IBMQREP_RECVQUEUES 表の NUM_APPLY_AGENTS 値で指定されます。 MAXAGENTS_CORRELID 値は、同一のジョブ名から並列に適用するトランザクションの数を指定します。この設定により、バッチ・ワークロード中にロック競合が起きないように、Q アプライ・プログラムで並列処理を制限できます。

**ユーザーの処置:**
MAXAGENTS_CORRELID 値を、NUM_APPLY_AGENTS 値よりも小さく設定してください。

---

**ASN2399E** **表 *capture_schema*.IBMQREP_IGNTRAN に行がありません。この構成では、Q アプライ・プログラムの許可 ID を含む行が必要です。**

**説明:**
値に基づく競合検出を行うピアツーピア構成を使用しています。この構成では、Q キャプチャー・プログラムがトランザクションを無視して再帰を回避できるように、IBMQREP_IGNTRAN 表に Q アプライ・プログラムの許可 ID が入っている必要があります。

**ユーザーの処置:**
ALTER SERVER ADD IGNORE TRANSACTIONS コマンドを指定してください。

---

**ASN2400I** ***capture_schema*.IBMQREP_IGNTRAN 表に、指定された情報が入っている行が既に存在します。トランザクションを無視する指定を挿入する SQL スクリプトは生成されません。**

**説明:**
行が既に存在するため、このコマンドは SQL スクリプトを生成しませんでした。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2401I** ***capture_schema*.IBMQREP_IGNTRAN 表に、指定された情報が入っている行が存在しません。トランザクションを無視する指定を削除する SQL スクリプトは生成されません。**

**説明:**
行が存在しないため、このコマンドは SQL スクリプトを生成しませんでした。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN2402E** **コマンド *command* は、Q レプリケーションおよびイベント発行に対してのみサポートされています。**

**説明:**
指定されたコマンドは、SQL レプリケーションには適用されません。

**ユーザーの処置:**
このコマンドを使用する前に、ASNCLP SESSION SET TO Q REPLICATION を使用して環境を指定してください。

---

**ASN2403E** **指定されたソース表 *owner.table_name* は、キャプチャー・スキーマ *capture_schema* にサブスクリプションも発行もありません。ALTER ADD COLUMN コマンドは、IBMQREP_SIGNAL 表にシグナルを追加しませんでした。**

**説明:**
指定されたソース表に対するサブスクリプションまたは発行が存在しないため、コマンドが失敗しました。

**ユーザーの処置:**
ソース表の名前を確認して、コマンドを再発行してください。

---

**ASN2404E** **列 *column_name* は、指定されたソース表 *owner.table_name* に対するサブスクリプションまたは発行 *sub_name* のために既にサブスクライブされています。**

**説明:**
この列は、サブスクリプションまたは発行のために既にサブスクライブされているため、追加できません。

**ユーザーの処置:**
間違った表または列の名前が指定されている場合は、ステートメントを訂正して、コマンドを再発行してください。それ以外の場合、アクションは不要です。

---

**ASN2405W** **参照整合性制約 *constraint_name* が、ソース表 *owner.src_table_name* とターゲット表 *owner.tgt_table_name* で一致しません。**

**説明:**
双方向およびピアツーピアのサブスクリプションに対するソース表とターゲット表の参照整合性制約は、正確に一致しなければなりません。この制約がソース表とターゲット表で一致しないため、Q アプライ・プログラムで問題が発生する可能性があります。

**ユーザーの処置:**
制約の不一致により Q アプライ・プログラムの実行中に問題が発生しない場合、アクションは不要です。そうでない場合は、レプリケーション・プログラムを実行する前に、ソース表とターゲット表の参照整合性制約が必ず一致するようにしてください。

---

**ASN2406W** **チェック制約 *constraint_name* が、ソース表 *owner.src_table_name* とターゲット表 *owner.tgt_table_name* で一致しません。**

**説明:**
双方向およびピアツーピアのサブスクリプションに対するソース表とターゲット表のチェック制約は、正確に一致しなければなりません。この制約がソース表とターゲット表で一致しないため、Q アプライ・プログラムで問題が発生する可能性があります。

**ユーザーの処置:**
制約の不一致により Q アプライ・プログラムの実行中に問題が発生しない場合、アクションは不要です。そうでない場合は、レプリケーション・プログラムを実行する前に、ソース表とターゲット表のチェック制約が必ず一致するようにしてください。制約一致の実施を「no」に設定したため、スクリプトが生成されました。

---

**ASN2407W** **ユニーク制約 *constraint_name* が、ソース表 *owner.src_table_name* とターゲット表 *owner.tgt_table_name* で一致しません。**

**説明:**
双方向およびピアツーピアのサブスクリプションに対するソース表とターゲット表のユニーク制約は、正確に一致しなければなりません。この制約がソース表とターゲット表で一致しないため、Q アプライ・プログラムで問題が発生する可能性があります。

**ユーザーの処置:**
制約の不一致により Q アプライ・プログラムの実行中に問題が発生しない場合、アクションは不要です。そうでない場合は、レプリケーション・プログラムを実行する前に、ソース表とターゲット表のユニーク制約が必ず一致するようにしてください。

---

**ASN2408W** **サブスクリプション・セット *subs_set_name* のターゲット・メンバー *target_owner.target_table* が外部整合変更データ (CCD) 表です。この表タイプでは、LOGMARKER 列にデータを追加するために変更データ (CD) 表と作業単位 (UOW) 表を結合する必要はありません。サブスクリプション・セットにゼロ以外のコミット・カウント値を指定しました。この CCD 表を 3 層配布のソースとして使用し、ブロック化因数がゼロ以外の場合は、アプライ・プログラムの実行中にデータ損失の問題が発生する可能性があります。**

**説明:**
CCD ターゲット・タイプが「9」であるため、アプライ・プログラムは LOGMARKER 列に値を取得するための CD 表と UOW 表の結合は実行しません。サブスクリプション・セットの作成時にコミット・カウントにゼロ以外の値を指定しました。この CCD 表を 2 層目のソースとして使用する場合、ブロック化因数、またはサブスクリプション・セットに対する IBMSNAP_SUBS_SET 表の MAX_SYNCH_MINUTES 列にゼロを指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
ブロック化因数、または IBMSNAP_SUBS_SET 表の MAX_SYNCH_MINUTES 列にゼロを指定してください。

---

**ASN4003E** ***program_name* : *program_identifier* : ソース列 *source_col* のデータ・タイプまたは長さとターゲット列 *target_col* のデータ・タイプまたは長さに互換性がありません。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再実行して、タイプ、精度、および長さが等しい列を比較していることを確認してください。

---

**ASN4004E** ***program_name* : *program_identifier* : プログラムが行 *line_number* に SQL エラーを検出しました。関数名は *function_name*。 SQLCODE は *sqlcode*。 SQLSTATE は *sqlstate*。**

**説明:**
プログラムが EXEC SQL ステートメントか CLI 呼び出しを実行した際に、負の SQLCODE が戻されました。このメッセージの後には、 SQLCODE が検出され

たときにプログラムによって実行されていたアクションに関する詳細情報を示す、第 2 のメッセージが発行される場合があります。

**ユーザーの処置:**
この SQLCODE の説明と実行する必要がある修正アクションについては、ご使用のオペレーティング・システムの DB2 データベース・マネージャーのメッセージとコードの資料を参照してください。プログラムがこのメッセージの後に他のメッセージを発行した場合、そのメッセージの説明とユーザー応答を参照してください。行と関数の情報は、IBM ソフトウェア・サポート専用です。

---

**ASN4005E** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムが行** *line_number* **に SQL 警告を検出しました。関数名は** *function_name*。 **SQLCODE は** *sqlcode*。 **SQLSTATE は** *sqlstate*。

**説明:**
プログラムが EXEC SQL ステートメントか CLI 呼び出しを実行した際に、警告 SQLCODE が戻されました。このメッセージの後には、 SQLCODE が検出されたときにプログラムによって実行されていたアクションに関する詳細情報を示す、第 2 のメッセージが発行される場合があります。

**ユーザーの処置:**
この SQLCODE の説明と実行する必要がある修正アクションについては、ご使用のオペレーティング・システムの DB2 データベース・マネージャーのメッセージとコードの資料を参照してください。プログラムがこのメッセージの後に他のメッセージを発行した場合、そのメッセージの説明とユーザー応答を参照してください。行と関数の情報は、IBM ソフトウェア・サポート専用です。

---

**ASN4006I** *program_name* **:** *program_identifier* **: ソース表とターゲット表の間に、**_common_rows_**個の共通行、**_source_rows_**個のソース表でユニークな行、および** _target_rows_ **個のターゲット表でユニークな行があります。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
相違表の詳細情報を確認してください。必要な場合、asntrep コマンドを実行して表を同期してください。

---

**ASN4007E** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムが誤ったサブスクリプション定義を見つけました。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
考えられる理由コードは、以下のとおりです。

1. IBMSNAP_SUBS_COLS 表または IBMQREP_TRG_COLS 表の IS_KEY 列に指定されたキー欄が、ターゲット表にありません。
2. IBMSNAP_SUBS_COLS 表または IBMQREP_TRG_COLS 表に、ターゲット表の表列が見つかりません。

**ユーザーの処置:**
詳細については、アナライザーを実行して、サブスクリプション定義の修正に役立ててください。レプリケーション管理ツールを使用して、サブスクリプション定義を修正してください。 asntdiff または asntrep コマンドを再実行してください。

---

**ASN4008E** *program_name* **:** *program_identifier* **: WHERE パラメーター** *where_clause* **が原因で DB2 PREPARE ステートメントが失敗したので、プログラムが停止しました。**

**説明:**
指定された WHERE パラメーターが原因で SQL PREPARE ステートメントが失敗したので、プログラムが停止しました。このステートメントは、 SQL レプリケーションに関する IBMSNAP_SUBS_MEMBR 表または Q レプリケーションに関する IBMQREP_TARGETS 表から行を選択して、ターゲット表の名前を取得するのに必要です。

**ユーザーの処置:**
対話式コマンド行プロセッサーを使用して、適切なコントロール表 IBMSNAP_SUBS_MEMBR または IBMQREP_TARGETS に関する WHERE 文節をデバッグしてください。 WHERE パラメーター中に有効な WHERE 文節を使用して、コマンドを再実行してください。

---

**ASN4009E** *program_name* **:** *program_identifier* **: ソース表から取り出された行が、動的照合の順序でありませんでした。プログラムが停止されました。**

**説明:**
ソース表から行を取り出すために使用されたカーソルによって取り出された行が、順序どおりではありませんでした。この問題は、ソース表におけるキー列の実際の照合が、相違表を使用して決定された想定される照合順序

と一致していないために発生します。ソース表を含む表スペースとは異なる属性を持つ表スペースで、相違表が作成された可能性があります。あるいは、ソースとターゲットで日付またはタイム・スタンプの形式が異なっている可能性もあります。

**ユーザーの処置:**
正しい表スペースに相違表を作成する方法については、http://www-1.ibm.com/support/docview.wss?&uid=swg21251 の技術情報 1251538 を参照してください。使用している表に日付またはタイム・スタンプの形式が含まれている場合は、http://www-1.ibm.com/support/docview.wss?&uid=swg21240 の技術情報 1240630 を参照してください。

---

**ASN4010I** *program_name* **:** *program_identifier* **: ソース表とターゲット表の間で見つかった違いの数:** *number*。**詳細は、データベース** *source_DB* **中の相違表** *difference_table* **にあります。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
相違表を確認して、必要な場合は asntrep コマンドを実行して違いを修正してください。

---

**ASN4011I** *program_name* **:** *program_identifier* **: ソース表とターゲット表の間に違いが見つかりませんでした。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN4012I** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムは、このメッセージの後に示されるパラメーターのリストを使用して、表を比較しています。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN4013E** *program_name* **:** *program_identifier* **: WHERE 文節が無効なので、プログラムが停止されました。この文節は、** *number_of_rows* **個のサブスクリプション・メンバーまたは Q サブスクリプションを戻しました。**

**説明:**
WHERE パラメーターに指定された文節が、IBMSNAP_SUBS_MEMBR または IBMQREP_TARGETS 表から行を戻さなかったか、または複数の行を戻しました。

**ユーザーの処置:**
対話式コマンド行プロセッサーを使用して、適切なコントロール表 IBMSNAP_SUBS_MEMBR または IBMQREP_TARGETS に関する WHERE 文節をデバッグしてください。 WHERE パラメーター中に有効な WHERE 文節を使用して、コマンドを再実行してください。

---

**ASN4014E** *program_name* **:** *program_identifier* **: ソース表の構造** *source_structure* **はサポートされていません。**

**説明:**
次のソース表の構造は、SQL レプリケーション用にサポートされています。ユーザー、レプリカ、ユーザーのコピー、およびポイント・イン・タイム。ユーザー表のみ Q レプリケーション用にサポートされています。

**ユーザーの処置:**
WHERE 文節に変更を加えて、サポートされているソース構造を選択し、 asntdiff または asntrep コマンドを再実行してください。

---

**ASN4015E** *program_name* **:** *program_identifier* **: ターゲット表の構造** *target_structure* **はサポートされていません。**

**説明:**
次のターゲット表の構造は、SQL レプリケーション用にサポートされています。ユーザー、レプリカ、ユーザーのコピー、およびポイント・イン・タイム。ユーザー表のみ Q レプリケーション用にサポートされています。

**ユーザーの処置:**
WHERE 文節に変更を加えて、サポートされているターゲット構造を選択し、 asntdiff または asntrep コマンドを再実行してください。

---

**ASN4018E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 相違表** *table_owner_table_name* **はすでにデータベース** *database_name* **に存在し、その列はソース表のキー列との互換性がありません。**

**説明:**
相違表はすでに存在し、asntdiff プログラムはその表を再利用して相違を書き込もうとしています。その表のキ

一列情報は、asntdiff プログラムが実行される現行のソース表のキー列と一致しません。

**ユーザーの処置:**
相違表を削除するか、またはパラメーター DIFF_DROP=Y を指定して asntdiff プログラムを呼び出してください。

---

**ASN4019I** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムは相違表からの行を次のようにターゲット表に適用しました:** *number* **行は挿入され、** *number* **行は更新され、** *number* **行は削除されました。**

**説明:**
メッセージは、ターゲット表をソース表と同期するために、ターゲット表に適用された相違を要約しています。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN4020I** *program_name* **:** *program_identifier* **: このサブスクリプションで SUPPRESS_DELETES 列の値が Y に設定されているため、***number***の削除は無視されました。**

**説明:**
サブスクリプションの SUPPRESS_DELETES 値が Y の場合、asntdiff プログラムはターゲットにユニークの行を無視し、相違を報告しません。
SUPPRESS_DELETES=Y は、サブスクリプションの削除を処理しないよう、Q キャプチャーと SQL キャプチャーにプロンプトを出します。これによって、ターゲット表には行が存在し、ソース表には存在しないことになる場合があります。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN4021E** *program_name* **:***program_identifier* **: 相違表** *table_owner.table_name* **がクラシック・レプリケーション・サーバー** *server_name* **にありません。プログラムが停止されました。**

**説明:**
asntdiff ユーティリティーを実行するために必要な相違表がクラシック・レプリケーション・サーバーにありません。このユーティリティーは、相違表を自動的には作成しません。表は、手動で作成する必要があります。

**ユーザーの処置:**
クラシック・レプリケーション・サーバーで相違表を作成し、ASNTDIFF コマンドを発行してください。詳しくは、DB2 インフォメーション・センターの『表相違検出ユーティリティー (asntdiff)』を参照してください。

---

**ASN4022E** *program_name* **:***program_identifier* **:** *number* **個のキーがファイルにスピルされた後で、スピル・キー・ファイル** *spill_filename* **が入っているファイル・システムがスペース不足になりました。プログラムが停止されました。**

**説明:**
asntdiff ユーティリティーは、メモリー限度に到達したときは、ソース表から読み取ったキーを一時的にディスクにスピルします。このユーティリティーがキーを書き込んでいる時に、このスピル・ファイルが入っているファイル・システムがスペース不足になりました。スピル・ファイルにすべてのキーを書き込めない場合、asntdiff ユーティリティーは続行できません。デフォルトで、このユーティリティーはスピル・ファイルを一時ディレクトリーに作成します。

**ユーザーの処置:**
キーのスピルに使用されているファイル・システムの一時ディレクトリーでスペースを解放するか、または **diff_path** パラメーターを付けて asntdiff ユーティリティーを呼び出し、さらにスペースがあるディレクトリーを指定してください。一時ファイルのパスを表示するには、asntdiff コマンドに DEBUG=Y オプションを付けて実行します。

---

**ASN4023E** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムが行** *line_number* **に SQL エラーを検出しました。関数名は** *function_name*。 **SQLCODE は** *sqlcode*。 **SQLSTATE は** *sqlstate*。

**説明:**
プログラムがクラシック・サーバーに対して ODBC/CLI ステートメントを実行した際に、SQLCODE が戻されました。このメッセージの後には、エラーが発生したときにプログラムによって実行されていたアクションに関する詳細情報を示す、第 2 のメッセージが発行される場合があります。

**ユーザーの処置:**
この SQLCODE の説明および修正アクションについては、IBM WebSphere Classic インフォメーション・センターでクラシック・システムのメッセージについて参照してください。プログラムがこのメッセージの後に別のメッセージを発行した場合、そのメッセージの説明とユーザー応答を参照してください。行番号と関数名は、IBM ソフトウェア・サポート専用です。

**ASN4024E** *program_name* **:***program_identifier* **: 修理表** *table_owner.table_name* **が既にデータベース** *database_name* **に存在し、その列がデータベース** *database_name* **の相違表** *table_owner.table_name* **の列と非互換です。**

**説明:**
ターゲット・データベースにある修理表はソース・データベースにある相違表のコピーで、削除されるキーのみを含みます。このインスタンスでは、修理表は以前の asntrep コマンド呼び出し時から既に存在していますが、この表には非互換の列が含まれています。

**ユーザーの処置:**
修理表を削除してから asntrep コマンドを再発行するか、コマンドにパラメーター DIFF_DROP=Y を付けて発行してください。

---

**ASN5101I** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは正常に開始されました。**

**説明:**
このメッセージは、レプリケーション・アラート・モニター・プログラムが正常に開始された後に表示されます。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN5102I** **MONITOR** *monitor_qualifier* **: レプリケーション・アラート・モニターのバージョン** *version_number* **のプログラムは正常に初期化されて、***number* **アラート条件をモニターしています。**

**説明:**
レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは正常に開始されました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN5103I** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは、正常に再初期化され、** *number-of-alert-conditions* **のアラート条件をモニター中です。**

**説明:**
レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは正常に再初期化されました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN5104W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。*number-of-alert-conditions* **のアラート条件は無視されました。**

**説明:**
レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは、初期化または再初期化されました。 一部の無効なアラート条件は、直前に発行されたメッセージで通知されたように、除外されている可能性があります。

**ユーザーの処置:**
除外されたアラート条件に関するメッセージについては、IBMSNAP_CAPTRACE 表を調べてください。

---

**ASN5107I** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは停止されました。**

**説明:**
レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは終了されました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN5108W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**EMAIL_SERVER パラメーターが設定されていなかったため、E-mail 通知を送信できません。**

**説明:**
EMAIL_SERVER パラメーターの値を指定せずにレプリケーション・アラート・モニターを開始しました。IBMSNAP_MONPARMS 表の EMAIL_SERVER 列が空です。レプリケーション・アラート・モニターは IBMSNAP_ALERTS 表のアラートを保管します。

**ユーザーの処置:**
アラートの E-mail 通知を受信する場合には、EMAIL_SERVER の値を設定して、レプリケーション・アラート・モニターを再始動してください。

---

**ASN5109W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**EMAIL_SERVER パラメーターが設定されていなかったため、MONITOR_ERRORS パラメーターが無視されました。**

**説明:**

レプリケーション・アラート・モニターを開始しましたが MONITOR_ERRORS パラメーターは EMAIL_SERVER パラメーターに値が指定されていないために無視されました。 MONITOR_ERRORS パラメーターには EMAIL_SERVER パラメーターが必要です。 レプリケーション・アラート・モニターは IBMSNAP_ALERTS 表のアラートを保管します。

**ユーザーの処置:**
アラートが発生した時に E-mail による通知が必要な場合には、MONITOR_ERRORS パラメーターと EMAIL_SERVER パラメーターを設定してレプリケーション・アラート・モニターを再始動してください。

---

**ASN5111I** **MONITOR** *monitor_qualifier*。 *number-of-rows* **個の行が、表** *schema.table-name* **から** *timestamp*に整理されました。

**説明:**
レプリケーション・アラート・モニター・プログラムが、IBMSNAP_ALERTS 表または IBMSNAP_MONTRACE 表から行を整理しました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN5117E** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**モニター・サーバー** *monitor_server* **で、モニター修飾子に対して有効なアラート条件がありません。**

**説明:**
レプリケーション・エラー・モニター・プログラムは、このモニター修飾子に対するアラート条件を検出できません。

**ユーザーの処置:**
monitor_qual パラメーターで使用されているモニター修飾子が正しいことを確認し、アラート条件が使用可能になっているか調べてください。 また、これ以前に発行されたメッセージをすべて調べてください。

---

**ASN5118E** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**プログラムは、モニター・コントロール・サーバー** *server_name* **に接続できません。 SQLCODE は** *sqlcode*、**SQLSTATE は** *sqlstate* **です。**

**説明:**
モニター・プログラムは、モニター・コントロール・サーバーに接続しようとしましたが失敗し、対応する SQLCODE が戻されました。

**ユーザーの処置:**
この SQLCODE に関する対応アクションを読んで、エラーを訂正してください。

---

**ASN5119E** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**プログラムは、サーバー** *server_name* **に接続できません。 SQLCODE は** *sqlcode*、**SQLSTATE は** *sqlstate* **です。**

**説明:**
SQL CONNECT ステートメントは、モニター・プログラムがモニター対象のキャプチャーまたはアプライ・コントロール・サーバーに接続しているときに失敗しました。

**ユーザーの処置:**
この SQLCODE に関する対応アクションを読んで、エラーを訂正してください。

---

**ASN5121E** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**コンポーネント** *component*、**サーバー** *server*、**スキーマまたは修飾子** *schema_or_qualifier* 、**および条件名** *condition* **のアラート条件に対して、連絡先が存在しません。**

**説明:**
指定された連絡先は、このアラート条件では IBMSNAP_CONTACTS 表に存在していません。

**ユーザーの処置:**
連絡先情報を検証して、アラート条件を訂正してください。

---

**ASN5122E** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**連絡先グループ** *group-name* **は、存在しないか、または空です。 コンポーネントは** *component*、**サーバーは** *server*、**スキーマまたは修飾子は** *schema_or_qualifier*、**および条件名は** *condition* **です。**

**説明:**
アラート条件に指定された連絡先グループが、IBMSNAP_CONTACTGRP 表の中に対応する連絡先を持たないか、またはIBMSNAP_CONTACTGRP 表に存在していません。 連絡先グループを空にすることはできません。

**ユーザーの処置:**
このグループの連絡先を検証して、アラート条件を訂正してください。

---

**ASN5123E** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**プログラム** *program_name* **に関する表** *table_name* **が見つかりませんでした。サーバーは** *server_name*。 **スキーマは** *schema*。 **条件名は** *condition_name*。

**説明:**
モニター・プログラムが、プログラムで使用されているサーバーに関する条件のモニターの試行中に、表を見つけられませんでした。

**ユーザーの処置:**
この表がサーバー上に存在することを確認するか、またはアラート条件を訂正してください。

---

**ASN5124E** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**表** *table-name* **を検出できません。 アプライ・コントロール・サーバーは** *apply-control-server*。 **アプライ修飾子は** *apply-qualifier*。 **サブスクリプション・セット名は** *set-name*。 **条件名は** *condition-name*。

**説明:**
レプリケーション・アラート・モニター・プログラムが、アプライ・コントロール・サーバーで条件をモニターしているときに、表を検出できません。

**ユーザーの処置:**
この表がアプライ・コントロール・サーバー上に存在することを確認するか、またはアラート条件を訂正してください。

---

**ASN5125E** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**アプライ修飾子** *apply-qualifier* **またはサブスクリプション・セット** *set-name* **を検出できません。**

**説明:**
レプリケーション・アラート・モニター・プログラムが、アプライ・コントロール・サーバーで条件をモニターしているときに、アプライ修飾子またはサブスクリプション・セットを検出できません。

**ユーザーの処置:**
このアプライ修飾子とサブスクリプション・セットがアプライ・コントロール・サーバー上に存在することを確認するか、またはアラート条件を訂正してください。

---

**ASN5126E** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**通知の送信中にエラーが発生しました。 戻りコードは** *rc* **です。**

**説明:**
アラート通知の送信時に、ASNMAIL 出口がエラーを戻しました。 このエラーの理由には、以下が含まれます。

**1** SMTP プロトコルが失敗しました。 E メール・サーバーのアドレスを管理者に確認してください。

**2** SMTP ソケットが失敗しました。 E メール・サーバーまたはクライアントの構成を検証してください。

**3** E メール・アドレスが無効です。 E メール・アドレスを検証してください。

**4** ソフトウェア・エラー。

**99** ASNMAIL 出口が見つかりません。

**ユーザーの処置:**
戻りコード 1 および 2 の場合は、ご使用の E メール・サーバーとクライアントの構成を検証してください。 戻りコード 3 の場合は、E メール・アドレスが正しいか調べてください。戻りコード 99 の場合は、ASNMAIL 出口が正しくインストールされているか確認してください。

---

**ASN5127E** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**無効な値** *value* **が、表** *table-name* **の列** *column-name* **に存在します。**

**説明:**
このメッセージは、レプリケーション・アラート・モニター・プログラムが、プログラムの初期化中に、無効な値を含む列を検出したことを示しています。

**ユーザーの処置:**
示された表の列定義の値を検証してください。

---

**ASN5128W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**表** *table_name* **から行が欠落しているので、アラート条件が処理されませんでした。条件名は** *condition_name*。 **サーバーは** *server_name*。 **スキーマまたは修飾子は** *schema_or_qualifier*。

**説明:**
アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは指定された表で必要な行を見つけられませんでした。アラート条件に関する行の要件は次のとおりです。

- CAPTURE_LASTCOMMIT アラート条件では、IBMSNAP_RESTART 表に 1 行以上必要です。
- CAPTURE_LATENCY アラート条件では、IBMSNAP_REGISTER 表中のグローバル行 (GLOBAL_RECORD = Y) を読み取る必要があります。

- APPLY_SUBSDELAY および APPLY_SUBSINACT アラート条件では、 IBMSNAP_SUBS_SET 表にアプライ修飾子の行が 1 行以上指定されている必要があります。
- QCAPTURE_SUBSINACT アラート条件では、IBMQREP_SUBS 表にサブスクリプション名の行が 1 行必要です。
- QAPPLY_QDEPTH および QAPPLY_SPILLQDEPTH アラート条件では、 IBMQREP_APPLYPARMS 表に 1 行必要です。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション・プログラム (キャプチャー、アプライ、Q キャプチャー 、または Q アプライ) が適切な設定で実行していることを確認してください。アラート条件が正しく指定されていることも確認してください。スキーマ名かサーバー名が誤っている可能性があります。

---

**ASN5129I** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**サーバー** *server-name* **上のレプリケーション・アラート・モニターは、E メール・アラートを報告しました。**

**説明:**
レプリケーション・アラート・モニター・プログラムが E メール・アラートを送信しました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN5130I** **MONITOR** *monitor_qualifier*。*capture_message*。 **キャプチャー・コントロール・サーバーは** *capture-server*。 **スキーマは** *schema*。 **モニター・コントロール・サーバーは** *monitor-server*。

**説明:**
レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは、CAPTURE_ERRORS または CAPTURE_WARNINGS 条件の処理時に、IBMSNAP_CAPTRACE 表からキャプチャー・プログラム・メッセージを検索しました。

**ユーザーの処置:**
そのキャプチャー・プログラム・メッセージを読んで、適切なアクションをとってください。 また、キャプチャー・コントロール・サーバーから出力されたエラーまたは警告がないかどうか調べてください。

---

**ASN5131I** **MONITOR** *monitor_qualifier*。*apply_message*。**アプライ・コントロール・サーバーは** *apply-server*。 **アプライ修飾子は** *apply-qualifier*。 **モニター・コントロール・サーバーは** *monitor-server*。

**説明:**
レプリケーション・アラート・モニター・プログラムは、APPLY_SUBSFAILING、APPLY_ERRORS、または APPLY_WARNINGS アラート条件の処理時に、IBMSNAP_APPLYTRAIL または IBMSNAP_APPLYTRACE 表からアプライ・プログラム・メッセージを検索しました。

**ユーザーの処置:**
そのアプライ・プログラム・メッセージを読んで、適切なアクションをとってください。 また、アプライ・コントロール・サーバーから出力されたエラーまたは警告ないかどうか調べてください。

---

**ASN5133I** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**現在までの** *number_of_minutes* **分の間に、以下のアラート** *message_number* **が** *number_of_times* **回、発生しました。 このアラートの通知は延期されます。**

**説明:**
このメッセージは、MAX_NOTIFICATIONS_MINUTES パラメーターに指定した分数 (デフォルトは 60 分) の間に、アラートが、MAX_NOTIFICATIONS_PER_ALERT パラメーターに指定した回数 (デフォルトは 3 回) だけ発生した後に発行されます。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN5134I** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**アラートが発行されました。**

**説明:**
このメッセージのテキストは、レプリケーション・アラート・モニター・プログラムによって送信された E メール・アラートのサブジェクト行に表示されます。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN5135W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。*lower_bound_time* **と** *upper_bound_time* **の間に、サーバー** *server_name* **で発生したアラート** *number_of_alerts* **が多すぎます。スキーマまたは修飾子は** *schema_qual_name*、**条件名は** *condition_name*。

**説明:**
アラート・モニターが、モニター・サイクルで許可されているアラートの最大数 (1024) に達したか、またはそれらのアラートにメモリーを割り振れません。 アラート・モニターは通知を送信し、モニター・コントロール・サーバーを更新し、次の条件からサーバーに再接続します。 指定されたアラート条件の一部のアラートが送信されず、モニター・コントロール・サーバーに挿入される可能性があります。

**ユーザーの処置:**
サーバーでアラート条件を直接検証して、アラートが失われたかどうかを調べてください。

---

**ASN5136W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**DAS コンポーネントの呼び出しでエラーが発生しました。 戻りコードは、スキーマまたは修飾子** *schema_qual_name* **および条件名** *condition_name* **に関して、サーバー** *server_name* **の場合、** *rc* **です。**

**説明:**
示されたサーバーで条件名を処理中に、DAS コンポーネントがエラーを戻しました。

**ユーザーの処置:**
クライアントとリモート・サーバーの両方で DAS が正しく実行されていることを確認してください。

---

**ASN5137E** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**WebSphere MQ API の呼び出し中に、エラーが発生しました。条件名は** *condition_name*。 **サーバーは** *server_name*。 **スキーマは** *schema*。 **キュー・マネージャーは** *queue_manager*。**キュー名は** *queue_name*。**MQI API は** *mqi_api_name*。**理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
失敗理由コードが WebSphere MQ API によって生成されました。次のような理由が考えられます。

- 指定されたサーバーで WebSphere MQ が停止しました。
- キュー・マネージャーが開始されていません。
- キュー名が存在しません。
- モニター・プログラムがアクションを完了できませんでした。

**ユーザーの処置:**
指定されたサーバーで WebSphere MQ が実行していることと、キュー・マネージャーやキュー名などの必要なオブジェクトが存在していることを確認してください。

---

**ASN5150W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**プログラム** *program_name* **は実行されていません。サーバーは** *server_name*、**スキーマは** *schema* **です。**

**説明:**
アラート条件 STATUS は、このメッセージ中で指定されているプログラムが実行されていないことを示しています。

**ユーザーの処置:**
示されたサーバーで、プログラムの状況を確認してください。

---

**ASN5151W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**キャプチャー・プログラムの最後のコミット以降の経過時間が、しきい値を超えています。 キャプチャー・コントロール・サーバーは** *capture-server*。 **スキーマは** *schema*。 **最後のコミット時刻は** *time*。 **しきい値は** *seconds* **秒。**

**説明:**
CAPTURE_LASTCOMMIT アラート条件で、現在のタイム・スタンプ値と IBMSNAP_RESTART 表の MAX_COMMIT_TIME 列の値の差が、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列値によって指定された、このアラート条件のしきい値を超えていることが検出されました。

**ユーザーの処置:**
キャプチャー・コントロール・サーバーをチェックし、コミットの遅延の理由を判別してください。

---

**ASN5152W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**現在のキャプチャー待ち時間がしきい値を超えています。 キャプチャー・コントロール・サーバーは** *capture_server*。 **スキーマは** *schema*。 **キャプチャー待ち時間は** *latency* **秒。 しきい値は** *threshold* **秒。**

**説明:**
CAPTURE_CLATENCY アラート条件で、IBMSNAP_RESTART 表の CURR_COMMIT_TIME 列値と MAX_COMMIT_TIME 列値の差が、

IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列値によって指定された、このアラート条件のしきい値を超えていることが検出されました。

**ユーザーの処置:**
キャプチャー・コントロール・サーバーをチェックし、キャプチャーの遅延の理由を判別してください。

---

**ASN5153W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**待ち時間が、プログラム** *program_name* **のしきい値を超えました。サーバーは** *server_name*。 **スキーマは** *schema*。 **待ち時間は** *latency* **秒。しきい値は** *threshold* **秒。**

**説明:**
次のいずれかが発生していると考えられます。

- CAPTURE_HLATENCY アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは IBMSNAP_CAPMON 表の MONITOR_TIME 列値と SYNCTIME 列値の差が、しきい値を超えていることを検出しました。このアラート条件のしきい値は、 IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列値で指定されています。
- QCAPTURE_LATENCY アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは IBMQREP_CAPMON 表の MONITOR_TIME 列値と CURRENT_LOG_TIME 列値の差が、しきい値を超えていることを検出しました。このアラート条件のしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列値で指定されています。

**ユーザーの処置:**
サーバーをチェックし、待ち時間のしきい値を超えている理由を判別してください。

---

**ASN5154W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**プログラム** *program_name* **によって使用されたメモリー量が、しきい値を超えています。サーバーは** *server_name*。 **スキーマは** *schema*。 **使用されたメモリー量は** *memory* **バイト。 しきい値は** *threshold* **MB。**

**説明:**
CAPTURE_MEMORY または QCAPTURE_MEMORY アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、IBMSNAP_CAPMON 表か IBMQREP_CAPMON 表中の CURRENT_MEMORY 列の値が、しきい値を超えていることを検出しました。このアラート条件のしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列で指定されています。

**ユーザーの処置:**
サーバーをチェックし、メモリー使用量が増えすぎた理由を判別してください。必要に応じて、プログラムのメモリー制限パラメーターを変更してください。

---

**ASN5155W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**Q アプライ・プログラムによって使用されたメモリー量が、しきい値を超えています。 Q アプライ・サーバーは** *qapply_server*。 **Q アプライ・スキーマは** *schema*。**受信キューは** *queue_name*。**使用されたメモリー量は** *memory* **バイト。 しきい値は** *threshold* **MB。**

**説明:**
QAPPLY_MEMORY アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、 IBMQREP_APPMON 表の CURRENT_MEMORY 列の値が、しきい値を超えていることを検出しました。このアラート条件のしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列で指定されています。

**ユーザーの処置:**
Q アプライ・サーバーをチェックし、メモリー使用量が増えすぎた理由を判別してください。必要に応じて、Q アプライ・プログラムのメモリー制限パラメーターを変更してください。

---

**ASN5156W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**トランザクションのサイズが、プログラム** *program_name* **のしきい値を超えました。サーバーは** *server_name*。 **スキーマは** *schema*。**トランザクションのサイズは** *transaction_size* **バイト。しきい値は** *threshold* **MB。**

**説明:**
CAPTURE_TRANSIZE または QCAPTURE_TRANSIZE アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、IBMSNAP_CAPMON 表か IBMQREP_CAPMON 表中の列の値が、しきい値を超えていることを検出しました。このアラート条件のしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列で指定されています。

**ユーザーの処置:**
サーバーをチェックし、トランザクションのサイズが増えすぎた理由を判別してください。

---

**ASN5157W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**Q サブスクリプション** *subscription_name* **は、非アクティブです。サーバーは** *server_name*。 **スキーマは** *schema*。 **状態情報は** *stateinfo*。

**説明:**
QCAPTURE_SUBSINACT アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、 IBMQREP_SUBS 表中に非アクティブな Q サブスクリプションを検出しました。

**ユーザーの処置:**
サーバー上の IBMQREP_SUBS 表をチェックし、 Q サブスクリプションが INACTIVE 状態になった理由を判別してください。

---

**ASN5160W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**アプライ・プログラムは実行されていません。 アプライ・コントロール・サーバーは** *apply_server*、**アプライ修飾子は** *apply-qualifier*。

**説明:**
APPLY_STATUS アラート条件で、アプライ・プログラムが実行されていないことが検出されました。

**ユーザーの処置:**
示されたアプライ・コントロール・サーバーで、アプライ・プログラムの状況を確認してください。

---

**ASN5161W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**サブスクリプション・セットが非アクティブで、エラー状態にあります。 アプライ・コントロール・サーバーは** *apply-control-server*。 **アプライ修飾子は** *apply-qualifier*。 **サブスクリプション・セットの名前は** *set-name*。 **処理順序値は** *wof*。

**説明:**
APPLY_SUBSINACT アラート条件で、サブスクリプション・セットが非アクティブで、状況がゼロ (0) 以外であることが検出されました。

**ユーザーの処置:**
サブスクリプション・セットがアクティブでなければならない場合、アプライ・コントロール・サーバーでこのサブスクリプション・セットを調べてください。

---

**ASN5162W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**フル・リフレッシュが発生しました。 アプライ・コントロール・サーバーは** *apply-control-server*。 **アプライ修飾子は** *apply-qualifier*。 **サブスクリプション・セットの名前は** *set-name*。 **処理順序値は** *wof*。

**説明:**
APPLY_FULLREFRESH アラート条件で、直前のモニター・サイクル中にターゲット表がリフレッシュされたことが検出されました。

**ユーザーの処置:**
フル・リフレッシュがエラーの場合は、ここに示したターゲット表がフル・リフレッシュされた原因を検証してください。

---

**ASN5163W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**サブスクリプションが、しきい値を超えるまで遅延されました。 アプライ・コントロール・サーバーは** *apply-control-server*。 **アプライ修飾子は** *apply-qualifier*。 **サブスクリプション・セットの名前は** *set-name*。 **処理順序値は** *wof*。 **遅延時間は** *time*、**しきい値は** *threshold* **秒です。**

**説明:**
APPLY_SUBSDELAYED アラート条件で、「CURRENT TIMESTAMP から LASTRUN を引いた値がしきい値より大きい」という条件に適合するサブスクリプション・セットが検出されました。

**ユーザーの処置:**
これ以前のメッセージを調べて、このサブスクリプション・セットにエラーがあるか確かめて、アプライ・プログラムが実行されているか確認してください。

---

**ASN5164W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**サブスクリプションの中で変更された行が、しきい値を超えています。 アプライ・コントロール・サーバーは** *apply-control-server*。 **アプライ修飾子は** *apply-qualifier*。 **サブスクリプション・セットの名前は** *set-name*。 **処理順序値は** *wof*。 **変更された行数は** *rows*、**しきい値は** *threshold* **行です。**

**説明:**
APPLY_REWORKED アラート条件で、IBMSNAP_APPLYTRAIL 表の SET_REWORKED 列値が、示されたしきい値を超えているサブスクリプション・セットが検出されました。

**ユーザーの処置:**
この行数が変更された理由を確認してください。

---

**ASN5165W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**サブスクリプション・セットでトランザクションが拒否されました。 アプライ・コントロール・サーバーは** *apply-control-server*。 **アプライ修飾子は** *apply-qualifier*。 **サブスクリプション・セットの名前は** *set-name*。 **処理順序値は** *wof*。 **拒否されたトランザクションの数は** *transactions*。

**説明:**

APPLY_TRANSREJECT アラート条件で、このサブスクリプション・セットに関して拒否されたトランザクションが検出されました。

**ユーザーの処置:**
これらのトランザクションが拒否された理由を確認してください。

---

**ASN5166W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**手動フル・リフレッシュが必要です。 アプライ・コントロール・サーバーは** *apply-control-server*。 **アプライ修飾子は** *apply-qualifier*。 **サブスクリプション・セットの名前は** *set-name*。

**説明:**
示されたサブスクリプション・セットに対してフル・リフレッシュを実行する必要があります。

**ユーザーの処置:**
フル・リフレッシュが必要な理由を確認してください。

---

**ASN5167W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**エンドツーエンドの待ち時間がしきい値を超えています。 アプライ・コントロール・サーバーは** *apply-control-server*。 **アプライ修飾子は** *apply-qualifier*。 **サブスクリプション・セットの名前は** *set-name*、**エンドツーエンドの待ち時間は** *latency* **秒、しきい値は** *threshold* **秒です。**

**説明:**
APPLY_LATENCY アラート条件で、このサブスクリプション・セットのエンドツーエンドの待ち時間が、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列値によって指定された、このアラート条件のしきい値を超えていることが検出されました。

**ユーザーの処置:**
アプライ・コントロール・サーバーを調べて、エンドツーエンドの待ち時間の値が大きくなりすぎた理由を判別してください。

---

**ASN5168W** **MONITOR** *apply_control_server*。**サブスクリプション・セットの処理は、エラー終了しました。アプライ・コントロール・サーバーは** *control_server_name*、**アプライ修飾子は** *apply_qualifier*。

**説明:**
レプリケーション・アラート・モニターは、IBMSNAP_APPLYTRAIL 表に以下の情報を持つ失敗したサブスクリプション・セットを検出しました。

- STATUS 列が 0 でも 2 でもない
- APPERRM 列が NULL

**ユーザーの処置:**
アプライ・コントロール・サーバーにある IBMSNAP_APPLYTRAIL 表のデータを調べます。指定されたアプライ修飾子用の行に問題の原因を示す情報が含まれていない場合、 IBM ソフトウェア・サポートと連絡を取ってください。

---

**ASN5171W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**Q アプライ待ち時間がしきい値を超えています。サーバーは** *server_name*。 **Q アプライ・スキーマは** *schema*。**待ち時間は** *latency* **ミリ秒。しきい値は** *threshold* **秒。**

**説明:**
QAPPLY_LATENCY アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、 IBMQREP_APPLYMON 表の APPLY_LATENCY 列の値が、しきい値を超えていることを検出しました。このアラート条件のしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列で指定されています。

**ユーザーの処置:**
Q アプライ・サーバーをチェックし、待ち時間のしきい値を超えている理由を判別してください。

---

**ASN5172W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**エンドツーエンドの待ち時間が、 Q アプライ・プログラムのしきい値を超えました。サーバーは** *server_name*。 **スキーマは** *schema*。 **エンドツーエンドの待ち時間は** *eelatency* **ミリ秒。しきい値は** *threshold* **秒。**

**説明:**
QAPPLY_EELATENCY アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、 IBMQREP_APPLYMON 表の END2END_LATENCY 列の値が、このアラート条件のしきい値を超えていることを検出しました。このしきい値は、 IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列値で指定されています。

**ユーザーの処置:**
Q アプライ・サーバーをチェックし、エンドツーエンドの待ち時間がしきい値を超えている理由を判別してください。

---

**ASN5173W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**Q アプライ・プログラムに関する例外が見つかりました。サーバーは** *server_name*。 **スキーマは** *schema*。 **受信キューは** *queue_name*。**理由コードは** *reason_code*。 **SQLCODE は** *sqlcode*。 **SQLSTATE は** *sqlstate*。 **SQLERRMC は** *sql_tokens*。

**説明:**
QAPPLY_EXCEPTIONS アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、 IBMQREP_EXCEPTIONS 表中に行を検出しました。 SQLCODE か SQLSTATE に、例外の理由が説明されています。

**ユーザーの処置:**
サーバー上の QAPPLY_EXCEPTIONS 表をチェックし、例外の理由を判別してください。

---

**ASN5174W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**Q サブスクリプション** *subscription_name* **および受信キュー** *receive_queue_name* **の予備キュー** *spill_queue_name* **の項目数が、しきい値を超えています。サーバーは** *server_name*。**スキーマは** *schema*。 **現行キュー項目数は** *current_depth*%。**しきい値は** *threshold*%。

**説明:**
QAPPLY_SPILLQDEPTH アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、受信キューに関連した予備キューの項目数がしきい値を超えていることを検出しました。このアラート条件のしきい値は、IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列にあります。

**ユーザーの処置:**
追加情報について、IBMQREP_APPLYTRACE 表を調べてください。さらに、使用可能な場合は IBMQREP_SPILLQS 表中のデータを調べてください。

---

**ASN5175W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**キュー** *queue_name* **の項目数が、プログラム** *program_name* **のしきい値を超えました。サーバーは** *server_name*。 **スキーマは** *schema*。 **現行キュー項目数は** *current_depth*%。**しきい値は** *threshold*%。

**説明:**
QAPPLY_QDEPTH アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、キューの項目数がしきい値を超えていることを検出しました。このパーセント単位で指定されたしきい値は、 IBMSNAP_CONDITIONS 表の PARM_INT 列にあります。現行の項目数をキューの最大項目数の属性で除算してから、 100 を乗算すると、この値が求められます。

**ユーザーの処置:**
プログラムが予期したとおりにこのキューに関するトランザクションを処理していることを確認してください。また、処理中のトランザクションのボリュームと比較してキューの大きさが十分であることも確認してください。

---

**ASN5176I** *program_name* **:** *program_identifier* **: サーバー** *monitored_server* **のモニターが** *timestamp* **に中断されました。 モニター・サスペンションは** *suspension_name* **で、サスペンション・テンプレートは** *template_name* **です。**

**説明:**
モニター・サイクルは指定されたサスペンションおよびテンプレートの時刻、日付、および期間内にあるので、指定されたサーバーのすべてのモニター・アクティビティーが中断されます。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN5177I** *program_name* **:** *program_identifier* **: サーバー** *monitored_server* **のモニター・アクティビティーが** *timestamp* **に再開されました。**

**説明:**
指定されたサーバーに定義されているサスペンションのモニター・サイクルはすべて時刻、日付、または期間よりも後にあるので、指定されたサーバーの、以前に中断されたすべてのモニター・アクティビティーが再開されます。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN5178W** **MONITOR** *monitor_qualifier* **: 送信キュー** *send_queue_name* **は、非アクティブです。サーバーは** *server_name*。 **Q キャプチャー・スキーマは** *schema_name*。**状態情報:** *information*。

**説明:**
QCAPTURE_SENDQSINACT アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、IBMQREP_SENDQUEUES 表の STATE 列に非アクティブな送信キューを検出しました。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション管理ツール、またはメッセージ・テキストで提供される状態情報を使用して、送信キューが Q キャプチャーにより INACTIVE 状態に置かれた理由を判別してください。

---

**ASN5179W** **モニター** *monitor_qualifier* **: 受信キュー** *receive_queue_name* **は、非アクティブです。サーバーは** *server_name*。 **Q アプライ・スキーマは** *schema_name*。**状態情報:** *information*。**状態時間:** *timestamp*。

**説明:**
QAPPLY_RECVQSINACT アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、IBMQREP_RECVQUEUES 表の STATE 列に非アクティブな受信キューを検出しました。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション管理ツール、またはメッセージ・テキストに示される状態情報を使用して、Q アプライにより受信キューが INACTIVE 状態になった理由を判別してください。

---

**ASN5180W** **モニター** *monitor_qualifier* **: Q アプライ受信キュー** *receive_queue_name* **でのトランザクションのデッドロック再試行数がしきい値を超えました。サーバーは** *server_name*。 **Q アプライ・スキーマは** *schema_name*。**現在のデッドロック再試行数は** *number* **です。デッドロック再試行のアラートしきい値は** *threshold*。

**説明:**
QAPPLY_DEADLOCKRETRIES アラート条件の処理中に、モニター・プログラムは、受信キューでのトランザクションのデッドロック再試行数がアラートしきい値を超えていることを検出しました。しきい値を決定する方法について詳しくは、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの『レプリケーション・アラート・モニターのアラート条件』を参照してください。

**ユーザーの処置:**
環境をチェックしてください。z/OS バッチ・ジョブが実行されている場合は、受信キューを含むレプリケーション・キュー・マップの MAXAGENT_CORRELID 値を、キュー・マップの NUM_APPLY_AGENTS の値の半分に更新します。これらの値はともに、IBMQREP_RECVQUEUES 表に指定されています。他の OLTP トランザクションについては、環境をチェックしてデッドロックの数を減らしてください。

---

**ASN5181W** **モニター** *monitor_qualifier* **: トランザクション・サイズが、レプリケーション・キュー・マップまたは発行キュー・マップに指定された送信キューの最大メッセージ・サイズを超えたため、 Q キャプチャー・プログラムがラージ・オブジェクト (LOB) 列のデータを送信しませんでした。サーバーは** *server_name*。 **スキーマは** *schema_name*。**送信キューは** *queue_name*。**最大メッセージ・サイズに収まらない大きさであったため、適用されずに拒否された LOB 列の数は** *number* **です。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムが LOB 値を含む行を処理しましたが、LOB データは送信キューを含むレプリケーション・キュー・マップまたは発行キュー・マップの MAX_MESSAGE_SIZE に指定された値を超えたために拒否されました。トランザクション・メッセージに対してデータが大きすぎます。

QCAPTURE_LOBSTOOBIG アラート条件が、MAX_MESSAGE_SIZE 値に収まらなかったために送信されなかった LOB 列の数を検出しました。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション管理ツールを使用して、レプリケーション・キュー・マップまたは発行キュー・マップの MAX_MESSAGE_SIZE 値を大きくしてください。また、WebSphere® MQ 送信キューの MAXMSGL パラメーターのサイズも大きくする必要があります。MAX_MESSAGE_SIZE パラメーターの値は、MAXMSGL パラメーターの値より少なくとも 4KB 小さくしてください。MAX_MESSAGE_SIZE パラメーターの値を大きくできない場合は、IBMQREP_CAPPARMS 表の LOB_SEND_OPTION 値を S に設定して、トランザクション・メッセージの後に LOB メッセージの LOB 値を送信することができます。いずれの場合も、asnqccmd reinit コマンドを発行する必要があります。ソース表とターゲット表を同期するには、asntdiff および asntrep ユーティリティーを実行します。

**ASN5182W** **モニター** *monitor_qualifier* **：トランザクション・サイズが、レプリケーション・キュー・マップまたは発行キュー・マップに指定された送信キューの最大メッセージ・サイズを超えたため、 Q キャプチャー・プログラムが XML 列のデータを送信しませんでした。サーバーは** *server_name*。**スキーマは** *schema_name*。**送信キューは** *queue_name*。**最大メッセージ・サイズに収まらない大きさであったため、適用されずに拒否された XML 列の数は** *number* **です。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムが XML 値を含む行を処理しましたが、XML データは送信キューを含むレプリケーション・キュー・マップまたは発行キュー・マップの MAX_MESSAGE_SIZE に指定された値を超えたために拒否されました。トランザクション・メッセージに対してデータが大きすぎます。

QCAPTURE_XMLDOCSTOOBIG アラート条件が、MAX_MESSAGE_SIZE 値に収まらなかったために送信されなかった XML 列の数を検出しました。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション管理ツールを使用して、レプリケーション・キュー・マップまたは発行キュー・マップの MAX_MESSAGE_SIZE 値を大きくしてください。また、WebSphere MQ 送信キューの MAXMSGL パラメーターのサイズも大きくする必要があります。MAX_MESSAGE_SIZE パラメーターの値は、MAXMSGL パラメーターの値より少なくとも 4KB 小さくしてください。asnqccmd reinitq コマンドを実行して、Q キャプチャー・プログラムがキュー・マップの変更を読み取るよう指示します。ソース表とターゲット表を同期するには、asntdiff および asntrep ユーティリティーを実行します。

---

**ASN5183W** **モニター** *monitor_qualifier* **：Q キャプチャー・プログラムが、送信キューにメッセージを入れる再試行数のしきい値を超えました。 Q キャプチャー・サーバーは** *server_name*。**スキーマは** *schema_name*。**WebSphere MQ 送信キューは** *queue_name*。**再試行数は** *full_queue_retries* **で、再試行のモニター・アラートしきい値は** *threshold* **です。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムが、MQPUT コマンドを使用してメッセージを送信キューに入れることができませんでした。この条件は、いくつかの理由で発生します。

- Q アプライ・プログラムが受信キューのメッセージを処理していない。
- Q アプライ・プログラムが停止している。
- Q キャプチャー・プログラムが、WebSphere MQ が処理するよりも速くメッセージをキューに入れている。
- Q キャプチャー・プログラムの停止中に、ソース表に多くの変更が累積された。

このエラーは、多くの場合、キューを共有する環境で起こります。

QCAPTURE_QFULLNUMRETRIES アラート条件により、IBMSNAP_SENDQUEUES 表に QFULL_NUM_RETRIES 列値を持つ送信キューで、指定のしきい値を超えたものが検出されます。

**ユーザーの処置:**
このメッセージの「説明」セクションにリストされた考えられる原因をチェックします。また、Q キャプチャー・プログラムが診断ログに出力した WebSphere MQ 理由コードを確認して、該当する処置を行います。

---

**ASN5190E** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**ストアード・プロシージャー** *stored_proc_name* **の実行エラーが発生しました。条件名は** *condition_name*。 **サーバーは** *server_name*。 **スキーマは** *schema*。 **理由コードは** *reason_code*。**SQLCODE は** *sqlcode*。 **SQLSTATE は** *sqlstate*。 **SQLERRMC は** *sql_tokens*。

**説明:**
モニター・プログラムは、指定されたストアード・プロシージャーを実行できませんでした。 SQLCODE と SQLSTATE に理由が説明されています。

**ユーザーの処置:**
SQLCODE と SQLSTATE を調べてください。サーバーで、ストアード・プロシージャーの定義が正しく指定されていることを確認してください。

---

**ASN5191W** **MONITOR** *monitor_qualifier*。*message*

**説明:**
このメッセージは、ユーザー定義のアラート条件によって警告メッセージが発行されたときに表示されます。

**ユーザーの処置:**
発行されたメッセージを読んで、適切なアクションをとってください。

---

**ASN5192E** **MONITOR** *monitor_qualifier*。*message*

**説明:**
このメッセージは、ユーザー定義のアラート条件によってエラー・メッセージが発行されたときに表示されます。

**ユーザーの処置:**
発行されたメッセージを読んで、適切なアクションをとってください。

---

**ASN5193E** **MONITOR** *monitor_qualifier*。**サーバー** *server_name* **でストアード・プロシージャー** *stored_proc_name* **が見つかりませんでした。条件名は** *condition_name*。 **スキーマは** *schema*。

**説明:**
アラート条件の処理中に、モニター・プログラムで必要なストアード・プロシージャーがサーバーにありませんでした。

**ユーザーの処置:**
正しいサーバーで、メッセージ中に指定されたストアード・プロシージャー名に関する CREATE PROCEDURE ステートメントが発行されたことを確認してください。

---

**ASN5200E** **ASNSCRT: レプリケーション処理タイプは必須パラメーターなので、asnscrt コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。**

**説明:**
asnscrt コマンドが、指定されたレプリケーション処理タイプを指定せずに呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション処理タイプとして -C、-A、または -M を指定してコマンドを再入力してください。

---

**ASN5201E** **ASNSCRT: データベース・インスタンスは必須パラメーターなので、 asnscrt コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。**

**説明:**
asnscrt コマンドが、指定されたデータベース・インスタンスを使用せずに呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
データベース・インスタンス名を指定して、コマンドを再入力してください。

---

**ASN5202E** **ASNSCRT: レプリケーション処理パスは必須パラメーターなので、asnscrt コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。**

**説明:**
asnscrt コマンドが、指定されたレプリケーション処理パスを指定せずに呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
asncap、asnapply、または asnmon コマンドへのパスを指定して、コマンドを再入力してください。

---

**ASN5203E** **ASNSCRT: キャプチャー・サーバーは必須パラメーターなので、asnscrt コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。**

**説明:**
asnscrt コマンドが、指定されたキャプチャー・コントロール・サーバーを指定せずに呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
キャプチャー・コントロール・サーバー名を指定して、コマンドを再入力してください。

---

**ASN5204E** **ASNSCRT: アプライ・コントロール・サーバーは必須パラメーターなので、この asnscrt コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。**

**説明:**
asnscrt コマンドが、指定されたアプライ・コントロール・サーバーを指定せずに呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
アプライ・コントロール・サーバー名を指定して、コマンドを再入力してください。

---

**ASN5205E** **ASNSCRT: アプライ修飾子は必須パラメーターなので、この asnscrt コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。**

**説明:**
asnscrt コマンドが、指定されたアプライ修飾子を指定せずに呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
アプライ修飾子を指定して、コマンドを再入力してください。

---

**ASN5206E** **ASNSCRT: モニター・コントロール・サーバーは必須パラメーターなので、この asnscrt コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。**

**説明:**
asnscrt コマンドが、指定されたモニター・コントロール・サーバーを指定せずに呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
モニター・コントロール・サーバー名を指定して、コマンドを再入力してください。

**ASN5207E** **ASNSCRT: モニター修飾子は必須パラメーターなので、この asnscrt コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。**

**説明:**
asnscrt コマンドが、指定されたモニター修飾子を指定せずに呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
モニター修飾子を指定して、コマンドを再入力してください。

**ASN5208I** **ASNSCRT: レプリケーション・サービス** *service_name* **は、正常に作成されました。**

**説明:**
示されたサービスが、asnscrt コマンドによって正常に作成されました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

**ASN5209I** **ASNSCRT: レプリケーション・サービス** *service_name* **は、正常に開始されました。**

**説明:**
示されたサービスが、asnscrt コマンドによって正常に開始されました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

**ASN5210E** **ASNSCRT: レプリケーション・サービス** *service_name* **は、表示名がサービス・コントロール・マネージャー・データベースの中にすでに存在している (サービス名、または他の表示名として) ため、作成されませんでした。**

**説明:**
表示名が、他のサービス名または表示名としてサービス・コントロール・マネージャー・データベースにすでに存在しているため、asnscrt コマンドによって、示されたサービスを作成できません。

**ユーザーの処置:**
サービス・コントロール・マネージャー・データベースの中から、重複したサービス名または表示名を持つサービスを除去してください。 その後に、コマンドを再入力してください。

**ASN5211E** **ASNSCRT: レプリケーション・サービス** *service_name* **は、指定されたサービス名が無効なために、作成されませんでした。**

**説明:**
システムの API が、サービス名が誤りであることを示すエラー・コードを戻したため、asnscrt コマンドによって、示されたサービスを作成できません。示されたサービスのインスタンス名、データベース名、またはスキーマ名に特殊文字が含まれている可能性があります。 サービス名に特殊文字は使用できません。

**ユーザーの処置:**
可能であれば、インスタンス名、データベース名、またはスキーマ名を変更してください。 その後に、コマンドを再入力してください。

**ASN5212E** **ASNSCRT: レプリケーション・サービス** *service_name* **は、指定されたサービス名がすでに存在するために、作成されませんでした。**

**説明:**
同じサービス名を持つ別のサービスが、サービス・コントロール・マネージャーの中にすでに存在するため、asnscrt コマンドによって、示されたサービスを作成できません。

**ユーザーの処置:**
同じサービス名を持つ古いサービスを除去してください。 その後に、コマンドを再入力してください。

**ASN5213E** **ASNSCRT: レプリケーション・サービス** *service_name* **は、サービスのバイナリー・ファイルを検出できなかったために、開始されませんでした。**

**説明:**
PATH 環境変数によって指定されたシステム・パスでは対応する asncap、asnapply、または asnmon コマンドを呼び出せなかったために、示されたサービスを asnscrt コマンドによって開始できません。 完全修飾パスが指

定されている場合、asnscrt コマンドでは、そのパスで asncap、asnapply または asnmon コマンドを検出できません。

**ユーザーの処置:**
指定されたパスが正しいことを確認してください。 その後に、コマンドを再入力してください。

---

**ASN5214E** **ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、そのサービスのインスタンスがすでに実行されているために開始されませんでした。**

**説明:**
示されたサービスはすでに実行されているために、asnscrt コマンドによってこのサービスを開始できません。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN5215E** **ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、そのサービスが、存在しないか、または削除済みとしてマークされた DB2 インスタンス・サービスに依存しているため、開始されませんでした。**

**説明:**
対応する DB2 インスタンス・サービスが存在しないか、または削除されたために、ASNSCRT コマンドによって、示されたサービスを開始できません。

**ユーザーの処置:**
対応する DB2 インスタンス・サービスがサービス・コントロール・マネージャーの中に存在することを確認してください。 その後で、コマンドを再発行してください。

---

**ASN5216E** **ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、このサービスが、開始できなかった別のサービスに依存しているため、開始されませんでした。**

**説明:**
対応する DB2 インスタンス・サービスが開始できなかったために、ASNSCRT コマンドによって、示されたサービスを開始できません。

**ユーザーの処置:**
対応する DB2 インスタンス・サービスがサービス・コントロール・マネージャーで開始されたことを確認してください。 その後で、コマンドを再発行してください。

---

**ASN5217E** **ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、そのサービスが使用不可のため、開始されませんでした。**

**説明:**
示されたサービスはサービス・コントロール・マネージャーで使用不可になっていたため、asnscrt コマンドによってこのサービスを開始できません。

**ユーザーの処置:**
サービスの始動タイプがサービス・コントロール・マネージャーで自動または手動のどちらに設定されているか確認してください。 その後に、コマンドを再入力してください。

---

**ASN5218E** **ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、そのサービスがログオンできないため、開始されませんでした。このエラーは、正しい「サービスとしてログオン」アクセス権限を持たないアカウントからサービスが開始された場合に発生します。**

**説明:**
対応する DB2 インスタンス・サービスがログオンできないために、ASNSCRT コマンドによって、示されたサービスを開始できません。

**ユーザーの処置:**
サービス・コントロール・マネージャーへ進み、指定されたサービスを見つけてください。 指定されたアカウント名とパスワードが正しいことを確認してください。 その後で、コマンドを再発行してください。

---

**ASN5219E** **ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は削除済みとしてマークされているため、作成されませんでした。**

**説明:**
指定されたサービスは削除されているため、asnscrt コマンドはそのサービスを作成できません。

**ユーザーの処置:**
サービス・コントロール・マネージャーのウィンドウを閉じてください。 その後に、コマンドを再入力してください。

---

**ASN5220E** **ASNSDROP: サービス名は必須パラメーターなので、asnsdrop コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。**

**説明:**
asnsdrop コマンドが、指定されたサービス名を使用せずに呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
サービス名を指定してこのコマンドを再入力してください。

---

**ASN5221I** **ASNSDROP: サービス *service_name* は、正常に除去されました。**

**説明:**
asnsdrop コマンドが、示されたサービス名を指定して呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN5222E** **ASNSDROP: レプリケーション・サービス *service_name* は、要求されたアクセスが拒否されたために、除去できません。**

**説明:**
ユーザーには、示されたサービス名を除去するための適切な許可がないため、ASNSDROP コマンドによってこのサービス名を除去できません。

**ユーザーの処置:**
現行ユーザーが、対応する DB2 インスタンスにログオンするための許可を持っていることを確認してください。 その後で、コマンドを再発行してください。

---

**ASN5223E** **ASNSDROP: レプリケーション・サービス *service_name* は、指定されたサービス名が無効なために、除去できません。**

**説明:**
示されたサービス名に正しくない特殊文字が含まれているため、asnsdrop コマンドによってこのサービス名を除去できません。

**ユーザーの処置:**
サービス・コントロール・マネージャーへ進み、指定されたサービスを見つけてください。 サービス名が有効であることを確認して、コマンドを再入力してください。

---

**ASN5224E** **ASNSDROP: レプリケーション・サービス *service_name* は、指定されたサービスが存在しないために、除去できません。**

**説明:**
指定されたサービス名がサービス・コントロール・マネージャーの中に存在しないため、asnsdrop コマンドによってこのサービス名を除去できません。

**ユーザーの処置:**
サービス・コントロール・マネージャーへ進み、指定されたサービスを見つけてください。 サービス名が正しいことを確認して、コマンドを再入力してください。

---

**ASN5225E** **ASNSDROP: レプリケーション・サービス *service_name* は、他の実行中のサービスがこのサービスに従属しているため、停止できません。 *service_name* は除去されません。**

**説明:**
ここに示されたサービスに従属している他のサービスが、現在実行中であるため、asnsdrop コマンドによってこのサービスを除去できません。

**ユーザーの処置:**
サービス・コントロール・マネージャーの中から、ここに示されたサービスに従属しているすべてのサービスを停止してください。 その後に、コマンドを再入力してください。

---

**ASN5226E** **ASNSDROP: レプリケーション・サービス *service_name* は、システムがシャットダウンしているために、除去できません。**

**説明:**
オペレーティング・システムがシャットダウンしているため、asnsdrop コマンドによって、示されたサービスを除去できません。

**ユーザーの処置:**
システムの再始動後、コマンドを再入力してください。

---

**ASN5227I** **ASNSDROP: レプリケーション・サービス *service_name* は、すでに削除済みとしてマークされているために、除去できません。**

**説明:**
示されたサービスはすでに削除されているために、asnsdrop コマンドによってこのサービスを除去できません。

**ユーザーの処置:**
このメッセージは通知のみであり、アクションは必要ありません。

---

**ASN5228E** ***pgmname* : このコマンドは、レプリケーション・サービス *service_name* を *command_action* できません。これは、システム呼び出し *API_func_name* から、予期しないエラー・コード *error_code* が戻されたためです。**

**説明:**

asnscrt コマンドと asndrop コマンドが、サービスを処理するためにシステム呼び出しを行っています。 示されたシステム呼び出しから予期しないエラー・コードが戻されました。このエラー・コードは、指定されたコマンドが要求されたアクションを完了できないことを示しています。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。このエラー・コードは、単に一時的なシステムの状態を示している可能性があります。 このエラー・コードについては、オペレーティング・システムの資料を参照してください。

---

**ASN5229E　ASNSCRT: アカウントは必須パラメーターなので、asnscrt コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。**

**説明:**
ASNSCRT コマンドが、対応する DB2 インスタンスの指定アカウント名を使用せずに呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
対応する DB2 インスタンスのアカウント名を指定して、コマンドを再発行してください。

---

**ASN5230E　ASNSCRT: パスワードは必須パラメーターなので、asnscrt コマンドを呼び出すときは指定しなければなりません。**

**説明:**
ASNSCRT コマンドが、対応する DB2 インスタンスの指定パスワードを使用せずに呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
対応する DB2 インスタンスのパスワードを指定して、コマンドを再発行してください。

---

**ASN5231E　ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、アカウント・パラメーターに指定されたアカウント名が存在しないため、作成されませんでした。**

**説明:**
ASNSCRT コマンドが、対応する DB2 インスタンスに対して不明のアカウント名を指定して、呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
指定されたアカウント名とパスワードが正しいことを確認してください。 その後で、コマンドを再発行してください。

---

**ASN5232E　ASNSCRT: 必須パラメーター *path* が指定されませんでした。**

**説明:**
レプリケーション・コマンドをサービスとして開始するときは、そのコマンドに、コマンドにユニークなパス・キーワードによって指定されたパスが含まれていなければなりません (asncap の場合は capture_path、asnapply の場合は apply_path、asnmon の場合は monitor_path)。パス・キーワードを指定すると、エラーが発生しなければそのサービスは登録されます。

パス・キーワードを指定しない場合、asnscrt コマンドによって、DB2 グローバル・レジストリー・プロファイル変数 DB2PATH が検索されます。 この変数に非 NULL 値が含まれている場合、asnscrt コマンドで、DB2PATH の値を使用して、コマンドに適切なパス・キーワードが追加されます。 この変数が設定されていない場合、asnscrt コマンドによってサービスを登録できません。

**ユーザーの処置:**
適切なパス・キーワードを指定した後、または DB2 グローバル・レジストリー・プロファイル変数 DB2PATH を定義した後に、コマンドを再入力してください。

---

**ASN5233E　ASNSCRT: レプリケーション・サービス *service_name* は、指定されたデータベース・インスタンス *database_instance* が存在しないため、作成されませんでした。**

**説明:**
指定されたデータベース・インスタンスがシステムに存在しないため、asnscrt コマンドは、指定されたサービスを作成できません。

**ユーザーの処置:**
指定したデータベース・インスタンスがシステムに存在することを確認してください。 その後で、コマンドを再発行してください。

---

**ASN5234E　ASNSCRT: capture_server パラメーターが指定されていません。**

**説明:**
Q キャプチャー・サーバー名を指定せずに asnscrt コマンドが入力されました。 capture_server パラメーターは必須です。

**ユーザーの処置:**
capture_server パラメーターを Q キャプチャー・サーバー名に設定して、もう一度 asnscrt コマンドを入力してください。

**ASN5235E** **ASNSCRT: apply_server パラメーターが指定されていません。**

**説明:**
Q アプライ・サーバー名を指定せずに asnscrt コマンドが入力されました。 apply_server パラメーターは必須です。

**ユーザーの処置:**
apply_server パラメーターを Q アプライ・サーバー名に設定して、もう一度 asnscrt コマンドを入力してください。

---

**ASN7000I** *program_name* **:** *program_identifier* **:** *number* **サブスクリプションがアクティブです。** *number* **サブスクリプションは非アクティブです。新しい** *number* **サブスクリプションは、正常に活動化されました。新しい** *number* **サブスクリプションは、活動化できず非アクティブになっています。**

**説明:**
このメッセージは、さまざまな状態の発行または Q サブスクリプションの数を記述しています。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7001I** *program_name* **:** *program_identifier* **:** *command_name* **コマンドを受け取りました。**

**説明:**
受け取ったコマンドは非同期で処理された可能性があります。プログラムは、コマンドの処理時にメッセージを発行し、そのメッセージをトレース表 (IBMQREP_CAPTRACE) に保管します。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7002E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 送信キュー** *queue_name* **が満杯です。このエラーは、発行または Q サブスクリプション** *name* **(発行またはレプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name***) の処理中に発生しました。**

**説明:**
メッセージ数が、送信キューの MAXDEPTH 属性に設定した数に達しました。 ERROR_ACTION 値は、このエラーによるプログラムの動作を判別します。 Q キャプチャー・プログラムの値は IBMQREP_SENDQUEUES 表に保管されます。

**ユーザーの処置:**
キューをクリアしないでください。変更を含むすべてのメッセージが除去されてしまいます。

Q アプライまたはサブスクライブ・アプリケーションが実行されていることを確認してください。

必要であれば、送信キューの MAXDEPTH 属性の値を増やしてください。値を増やしたら、必要な該当アクションすべてを実行してください。

- このエラーで Q キャプチャー・プログラムが終了した場合、 Q キャプチャー・プログラムをウォーム・スタートしてください。
- 発行または Q サブスクリプションが非活動化された場合、それらを活動化してください。

---

**ASN7004E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 発行または Q サブスクリプション** *name* **でサブスクライブされたソース列** *source_column* **が、ソース表** *table_name* **に存在しません。**

**説明:**
IBMQREP_SRC_COLS 表に示されている列が、ソース表に存在しません。このエラーは、以下のいずれかの問題により発生したと思われます:

- 発行または Q サブスクリプションで列名が間違って指定された。
- 発行または Q サブスクリプションが作成されてから、ソース表が変更された。
- 発行または Q サブスクリプションで余分の列が指定された。

したがって、発行または Q サブスクリプションを活動化することはできません。

**ユーザーの処置:**
発行または Q サブスクリプションに列名が正しく指定されていることを確認してください。

発行または Q サブスクリプションが正しくない場合 (例えば、ソース表で使用できる列よりも多くの列を含むなど)、レプリケーション管理ツールを使用して、以下のステップを実行してください。

1. 発行または Q サブスクリプションをドロップしてから、再作成します。
2. 発行または Q サブスクリプションを活動化します。

---

**ASN7006E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 発行または Q サブスクリプション** *name* **が、エラーのために非活動化されました。**

**説明:**
指定した発行または Q サブスクリプションは、以前のメッセージで示されたエラーのために非活動化されました。

**ユーザーの処置:**
Q キャプチャー診断ログか IBMQREP_CAPTRACE 表を調べ、このエラー・メッセージの前のメッセージを探してください。適切なアクションを実行して、問題を訂正してください (以前のメッセージのユーザー応答の指示に従ってください)。発行または Q サブスクリプションを活動化します。

---

**ASN7007E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q キャプチャー・プログラムは、再始動情報のないデータベース・パーティションを検出したため、ウォーム・スタートできません。このデータベース・パーティションは** *node_id,...,node_id* **です。**

**説明:**
このエラー・メッセージは、以下の理由により発生したと思われます:

- 1 つ以上の新しいデータベース・パーティションがデータベースに追加された。 Q キャプチャー・プログラムは、add_partition パラメーターを 'N' に設定した状態でウォーム・スタートしようとしたため、新しいパーティションのログ・レコードを処理できませんでした。このパラメーターは、Q キャプチャー・プログラムが、最後に始動されてから追加されたパーティションのログ・ファイルの読み取りを開始するかどうかを決定します。デフォルトでは、このパラメーターは 'N' に設定されています。 add_partition パラメーターは、Q キャプチャー・プログラムがログ・ファイルを読み取る前に、 'Y' に設定しておく必要があります。
- 再始動 Q の再始動メッセージが破壊された。

**ユーザーの処置:**
新しいデータベース・パーティションが追加された場合、 add_partition='Y' オプションを使用して Q キャプチャー・プログラムをウォーム・スタートしてください。

再始動キューの再始動メッセージが破壊されている場合、 Q キャプチャー・プログラムをコールド・スタートしてください。

---

**ASN7008I** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムは、正常に再初期設定されました。** *number* **サブスクリプションはアクティブです。** *number* **サブスクリプションは非アクティブです。新しい** *number* **サブスクリプションは、正常に活動化されました。新しい** *number* **サブスクリプションは、活動化できず非アクティブになっています。**

**説明:**
REINIT コマンドは正常に処理されました。その結果、Q キャプチャー・プログラムは、発行、Q サブスクリプション、およびキュー・マップの変更された属性を認識します。新しい発行または Q サブスクリプションはすべて、自動的に活動化されました。さまざまな状態の発行または Q サブスクリプションの数については、メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7010I** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムは、ソース表** *table_name* **の発行または Q サブスクリプション** *name* **(送信キュー** *queue_name*、**発行またはレプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **を正常に活動化しました。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムは、アクティブな発行または Q サブスクリプションの変更を複製しています。

Q キャプチャー・プログラムが始動すると、新しい発行または Q サブスクリプションを活動化します。 Q キャプチャー・プログラムを実行する間、以下のアクションが行われます。

- 再初期設定時に新しい発行または Q サブスクリプションを活動化します。
- CAPSTART シグナルを受信すると、新しい、あるいは非アクティブな発行または Q サブスクリプションを活動化します。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7011E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 発行または Q サブスクリプション** *name* **(送信キュー** *queue_name*、**発行またはレプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **のソース表** *table_name* **が見つかりませんでした。**

**説明:**
発行または Q サブスクリプションに指定されたソース表が存在しません。ほとんどの場合、発行または Q サブスクリプションを活動化しようとしたときに、間違った表名が指定されたものと思われます。そうでない場合、発行または Q サブスクリプションが作成されてから、ソース表が意図的にドロップされた可能性があります。

**ユーザーの処置:**
以下のいずれかのアクションを行ってください。

- ソース表がコントロール表に正しく指定されていて、データベース内に存在することを確認してください。もう一度、発行または Q サブスクリプションを活動化してください。
- ソース表を意図的にドロップした場合、発行または Q サブスクリプションを削除してください。

---

**ASN7012I** *program_name* **:** *program_identifier* **: 発行または Q サブスクリプション** *name* **は、正常に再初期設定されました。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムは、発行を正常に再初期設定したので、新しい属性に従ってトランザクションを処理します。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7013I** *program_name* **:** *program_identifier* **: 発行または Q サブスクリプション** *name* **は非活動化されました。**

**説明:**
発行または Q サブスクリプションは、CAPSTOP シグナルを受信したために非活動化されました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7015E** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムは、発行またはレプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **の送信キュー** *send_queue_name* **で、回復不能な WebSphere MQ エラーを検出しました。キュー・マップに指定されたエラー・アクションは、** *error_action* **です。**

**説明:**
この送信キューで回復不能な WebSphere MQ エラーが発生しました。 Q キャプチャー・プログラムは停止します。送信キューでの発行または Q サブスクリプションを非活動化するエラー・アクション I の使用は推奨されません。

**ユーザーの処置:**
Q キャプチャー診断ログ・ファイルか IBMQREP_CAPTRACE 表を調べ、このエラー・メッセージの前のメッセージを探してください。適切なアクションを実行して、問題を訂正してください (以前のメッセージのユーザー応答の指示に従ってください)。エラーを修正した後で、Q キャプチャー・プログラムをウォーム・スタートしてください。

---

**ASN7016E** *program_name* **:** *program_identifier* **: LOADDONE シグナルは、発行または Q サブスクリプション** *name* **にロード・フェーズがないために失敗しました。**

**説明:**
発行または Q サブスクリプションには、ロード・フェーズがありません (HAS_LOADPHASE=N)。このエラーは、LOADDONE シグナルまたはロード終了受信メッセージに、間違った発行または Q サブスクリプション名が指定されているためである可能性があります。

**ユーザーの処置:**

**発行または Q サブスクリプションにロード・フェーズがあり、LOADDONE シグナルを挿入した場合**
シグナルの発行名または Q サブスクリプション名が正しいことを確認してから、LOADDONE シグナルを再挿入してください。

**発行または Q サブスクリプションにロード・フェーズがあり、ロード終了受信メッセージを送信した場合**
メッセージの発行名または Q サブスクリプション名が正しいことを確認してから、ロード終了受信メッセージを再送信してください。

---

**ASN7017I** *program_name* **:** *program_identifier* **: ターゲット表** *table_name* **は、すぐに発行または Q サブスクリプション** *name* **のソース表** *table_name* **からロードできます。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7018E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 発行または Q サブスクリプション** *name* **のソース表** *table_name* **には、 DATA CAPTURE CHANGES 属性が設定されていません。**

**説明:**
ソース表が間違って定義されています。この発行または Q サブスクリプションには、データがキャプチャーされていません。

**ユーザーの処置:**
ソース表を変更し、DATA CAPTURE CHANGES 属性が設定されるようにしてから、発行または Q サブスクリプションを再始動してください。例えば、

```
alter srce_owner.srce_table data capture changes
```

---

**ASN7019I** *program_name* **:** *program_identifier* **:** *signal_name* **シグナルが受信されたので処理されます。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7020I** *program_name* **:** *program_identifier* **: AUTOSTOP オプションが指定されているため、プログラムはアクティブ・ログの終了に達して終了しました。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7021E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 内部ロード・フェーズが指定されているため、発行** *name* **は開始しませんでした。**

**説明:**
発行の場合、2 つのオプションだけがサポートされています。 IBMQREP_SUBS 表の HAS_LOADPHASE 値は、以下のいずれかの値に設定する必要があります。

**N** ターゲットはロードされません。

**E** Q アプライ・プログラム以外のアプリケーションがターゲット表をロードします。

内部ロード・オプション (HAS_LOADPHASE=I) は発行ではサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
発行でサポートされているロード・オプションを指定し (正しい HAS_LOADPHASE 値が IBMQREP_SUBS 表にあることを確認してください)、 発行を開始してください。

---

**ASN7022W** *program_name* **:** *program_identifier* **: 発行または Q サブスクリプション** *name* **が、IBMQREP_SUBS コントロール表に存在しません。** *signal* **シグナルは無視されました。**

**説明:**
プログラムは、IBMQREP_SUBS コントロール表で、この発行または Q サブスクリプションを見つけられません。

**ユーザーの処置:**
発行または Q サブスクリプション名が、シグナルで使用するための正しい名前であることを確認してください。

---

**ASN7023W** *program_name* **:** *program_identifier* **: ソース表** *table_name* **には、主キー、ユニーク制約、またはユニーク索引がありません。**

**説明:**
ソース表に、主キー、ユニーク制約、またはユニーク索引がないため、 LOB 列を除くすべての列がレプリケーション・キーとして選択されました。送信されるデータ量が原因で、パフォーマンスに影響が出る可能性があります。関連した発行または Q サブスクリプションは引き続き活動化されます。

**ユーザーの処置:**
ソース表で、主キー、ユニーク制約、またはユニーク索引を作成し、必要に応じて関連するすべての発行または Q サブスクリプションを再初期設定してください。

---

**ASN7024E** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムは、再始動キュー** *restart_queue* **からの再始動メッセージを処理できません。**

**説明:**
プログラムが内部不整合を検出しました。

**ユーザーの処置:**
正しいバージョンの Q キャプチャー・プログラムを実行していることと、再始動キューが不適切に変更されていないことを確認してください。

正しいバージョンの Q キャプチャー・プログラムを判別するには、 IBMQREP_CAPPARMS 表の ARCH_LEVEL 列を参照してください。

再始動キューが不適切に変更されている場合、そのキューをクリアしてから Q キャプチャー・プログラムをコールド・スタートしてください。

---

**ASN7025E** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムは、再始動キュー** *restart_queue* **にアクセスできません。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
再始動キューが正しく指定されていて、アプリケーション・プログラムで使用可能であることを確認してください (GET が使用可能になっている)。

---

**ASN7026E** *program_name* **:** *program_identifier* **: シグナル・タイプ** *signal_type* **およびサブタイプ** *subtype* **が無効です。**

**説明:**
シグナル・タイプまたはシグナル・サブタイプがサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
IBMQREP_SIGNAL コントロール表に挿入された行の SIGNAL_TYPE および SIGNAL_SUBTYPE を検査してください。シグナル・タイプまたはシグナル・サブタイプが正しいことを確認してから、シグナルをもう一度挿入してみてください。

---

**ASN7027E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 再始動キュー** *restart_queue* **が空です。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムはウォーム・スタートできませんでした。メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
Q キャプチャー・プログラムをコールド・スタートしてください。

---

**ASN7028E** *program_name* **:** *program_identifier* **: IBMQREP_SENDQUEUES 表の発行またはレプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **の送信キュー** *queue_name* **に指定した MAX_MESSAGE_SIZE が、 WebSphere MQ で定義された** *number* **バイトの MAXMSGL キュー属性値よりも大きいです。**

**説明:**
この送信キューの MAX_MESSAGE_SIZE 列値は、WebSphere MQ キュー・マネージャーの MAXMSGL 属性を超過しているため無効です。送信キューは無効になります。

**ユーザーの処置:**
この送信キューの MAX_MESSAGE_SIZE 列値を減らしてください。必要に応じて MAXMSGL 属性を増やしてください。

- リモート送信キューの場合、伝送キューの MAXMSGL 属性を増やしてください。
- ローカル送信キューの場合、MAXMSGL 属性を増やしてください。

その送信キューで発行または Q サブスクリプションを再始動してください。

送信キューがリモートの場合、 MAX_MESSAGE_SIZE 値は、伝送キューおよびキュー・マネージャーの両方の MAXMSGL 属性より少なくとも 4 KB 小さくなければなりません。この 4 KB の違いは、メッセージが伝送キュー内にあるときにメッセージ・ヘッダーに含まれる追加情報に相当します。

---

**ASN7029E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 再始動メッセージが、再始動キュー** *restart_queue* **の最大メッセージ・サイズを超過しました。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
再始動キューの最大メッセージ・サイズを増やし、Q キャプチャー・プログラムをウォーム・スタートしてください。

---

**ASN7030E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 再始動キュー** *queue_name* **が満杯です。 Q キャプチャー・プログラムは終了します。**

**説明:**
メッセージ数が、再始動キューの MAXDEPTH 属性に設定した数に達しました。

**ユーザーの処置:**
必要であれば、再始動キューの MAXDEPTH 属性の値を増やしてください。値を増やしてから、Q キャプチャー・プログラムをコールド・スタートしてください。

---

**ASN7033E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 発行または Q サブスクリプション** *name* **で、無効な検索条件が検出されました。 列名:** *column_name*。 **理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** 列名の通常 ID は、文字で開始しなければならず、その後に文字、数値、または下線が続きます。

**1** 列名の後に二重引用符がありません。

**4** 検索条件にキーワード 'WHERE' がありません。

**5** 検索条件に、ソース表にない列が含まれています。

**6** 検索条件に、ソース表の列名が含まれていません。

**ユーザーの処置:**
検索条件が適切な書式であることを確認してから、発行または Q サブスクリプションを再始動してください。検索条件の正しい指定方法について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターの『行のフィルタリングのための検索条件 (単一方向レプリケーション)』を参照してください。

---

**ASN7034W** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムは、管理キュー** *queue_name* **からのメッセージを処理できません。メッセージ・タイプ:** *message_type*。**メッセージ内容:** *message_content*。

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
制御メッセージの書式と属性が正しいことを確認してから、メッセージをもう一度管理キューに置いてください。

---

**ASN7035W** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムは、サポートされないメッセージを含む管理キュー** *queue_name* **で、WebSphere MQ 例外レポート・メッセージを受信しました。メッセージ・タイプ:** *message_type*。**メッセージ内容:** *message_content*。

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
WebSphere MQ 構成が正しいことを確認してください。

---

**ASN7036E** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムは、管理キュー** *queue_name* **からのメッセージを処理できません。メッセージ・タイプ:** *message_type*。**メッセージ内容:** *message_content*。

**説明:**
プログラムが内部不整合を検出しました。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。受信した正確なメッセージを伝えてください。これにより、Q キャプチャー・スキーマを識別します。診断ログ・ファイルを用意してください。さらに、使用可能であれば、トレース・ダンプ (ASNTRC DMP) ファイルも用意してください。

---

**ASN7037E** *program_name* **:** *program_identifier* **: XML パーサーの初期設定に失敗しました。予想される XML パーサーのバージョンは** *version_number* **です。このエラー・メッセージを受信しました:** *error_message*。

**説明:**
内部の不整合が検出されました。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。診断ログ・ファイルを用意してください。さらに、使用可能であれば、トレース・ダンプ (ASNTRC DMP) ファイルも用意してください。

---

**ASN7038E** *program_name* **:** *program_identifier* **: XML 制御メッセージは、 mqsub.xsd ファイルで指定した制御メッセージの XML スキーマの妥当性検査制約を満たしていません。このメッセージはキューから削除されて無視されます。 XML 制御メッセージ:** *xml_message*。

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
XML 制御メッセージを訂正し、mqsub.xsd ファイルで指定した制御メッセージの XML スキーマの妥当性検査制約を満たすようにして、もう一度管理キューに置いてください。

---

**ASN7039W** *program_name* **:** *program_identifier* **: XML 制御メッセージの構文解析中にエラーが発生しました。メッセージは無視されましたが、プログラムは実行を続行します。エラー・メッセージ:** *error_message*。 **XML 制御メッセージ:** *xml_message*。

**説明:**
XML 制御メッセージは無効であり無視されました。 Q キャプチャー・プログラムは実行を続行します。

**ユーザーの処置:**

XML 制御メッセージを修正して再送信してください。

---

**ASN7040E** *program_name* **:** *program_identifier* **: XML 制御メッセージの構文解析中に DOM エラーが発生しました。 DOM 例外コード:** *exception_code*。 **XML 制御メッセージ:** *xml_message*。

**説明:**
XML 制御メッセージは無視されますが、Q キャプチャー・プログラムは実行を続行します。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。診断ログ・ファイルを用意してください。さらに、使用可能であれば、トレース・ダンプ (ASNTRC DMP) ファイルも用意してください。

---

**ASN7043W** *program_name* **:** *program_identifier* **: 存在しないかまたは非アクティブな発行または Q サブスクリプション** *name* **の管理キューで、***message_type* **メッセージを受信しました。制御メッセージは無視されました。**

**説明:**
管理キューで受信した要求は、発行または Q サブスクリプションが存在しないか非アクティブであるために実行できませんでした。

**ユーザーの処置:**
発行または Q サブスクリプションについて、名前が正しいことと、アクティブ状態であることを確認してください。もう一度、制御メッセージを管理キューに置いてください。

---

**ASN7045E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 発行またはレプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **の送信キュー** *queue_name* **がアクティブではありません。 REINITQ コマンドは無視されました。**

**説明:**
REINITQ コマンドは、アクティブな送信キューに発行する必要があります。

**ユーザーの処置:**
キュー名が正しいことを検査してから、REINITQ コマンドを再発行するか、またはレプリケーション・センターからキューを再初期設定してください。

---

**ASN7046I** *program_name* **:** *program_identifier* **: 発行またはレプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **の送信キュー** *queue_name* **は、正常に再初期設定されました。次の属性が更新されました: ERROR_ACTION は** *error_action*、 **HEARTBEAT_INTERVAL は** *heartbeat_interval*、 **MAX_MESSAGE_SIZE は** *max_message_size* **です。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7051W** *program_name* **:** *program_identifier* **: IBMQREP_SRC_COLS 表にキー列が指定されていないため、発行または Q サブスクリプション** *name* **は非活動化されました。**

**説明:**
ソース表およびターゲット表の少なくとも 1 つの列は、発行または Q サブスクリプションのキー列として指定する必要があります。この列の名前は、IBMQREP_SRC_COLS 表に指定されます。

**ユーザーの処置:**
ソース表およびターゲット表の少なくとも 1 つの列が発行または Q サブスクリプションのキー列として指定されていることを確認してから、発行または Q サブスクリプションを活動化してください。

---

**ASN7052E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 発行または Q サブスクリプション** *name* **のソース表** *table_name* **に、 LONG VARCHAR または LONGVARGRAPHIC 列が含まれていますが、DATA CAPTURE CHANGES 属性が INCLUDE LONGVAR COLUMNS に設定されていません。**

**説明:**
ソース表が間違って定義されています。この発行または Q サブスクリプションには、データがキャプチャーされていません。

**ユーザーの処置:**
ソース表を変更し、DATA CAPTURE CHANGES 属性を INCLUDE LONGVAR COLUMNS に設定してから、発行または Q サブスクリプションを再始動してください。例えば、

```
alter table owner.table data capture changes
   include longvar columns
```

---

**ASN7057I** *program_name* **:** *program_identifier* **: コントロール表 IBMQREP_SUBS の発行または Q サブスクリプション** *name* **の SUB_ID がユニークではありません。新しい SUB_ID が生成されます。**

**説明:**
発行または Q サブスクリプション *name* のコントロール表 IBMQREP_SUBS で、重複した SUB_ID が見つかりました。この列の値はユニークでなければなりません。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7059E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **は、IBMQREP_SUBS 表の GROUP_MEMBERS 列が NULL でないために活動化されませんでした。**

**説明:**
多方向レプリケーションでの非アクティブな Q サブスクリプションでは、 IBMQREP_SUBS 表の GROUP_MEMBERS 列は NULL でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、 Q サブスクリプションを活動化してください。

---

**ASN7060E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **が活動化されていませんでした。多方向レプリケーション用の Q サブスクリプション** *name* **に対応する Q サブスクリプションは、無効な状態であるか、または IBMQREP_TARGETS 表の同じ Q サブスクリプション・グループに存在しません。**

**説明:**
多方向レプリケーション用の Q サブスクリプションをアクティブ化するには、 IBMQREP_TARGETS 表の同じ Q サブスクリプション・グループにある対応するすべての Q サブスクリプションが、アクティブまたは非アクティブ状態になっている必要があります。このエラーは、同じ Q サブスクリプション・グループの Q サブスクリプションが、初期設定または非活動化されているときに生じる可能性があります。

**ユーザーの処置:**
いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、 Q サブスクリプションを活動化してください。

---

**ASN7061E** *program_name* **:** *program_identifier* **: IBMQREP_SUBS 表で同じ Q サブスクリプション・グループ** *group_name* **および表** *table_name* **を共有する他の Q サブスクリプション** *name* **に、別の SOURCE_NODE** *source_node* **があるため、Q サブスクリプション** *name* **は活動化されませんでした。**

**説明:**
多方向レプリケーションでは、同じ Q サブスクリプション・グループおよび表を共有するすべての Q サブスクリプションでは、 IBMQREP_SUBS 表に同じ SOURCE_NODE が必要です。

**ユーザーの処置:**
いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、 Q サブスクリプションを活動化してください。

---

**ASN7062E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **が無効な状態** *state* **であるため、 Q サブスクリプション** *name* **は活動化されませんでした。**

**説明:**
ピアツーピア・レプリケーション用の Q サブスクリプションをアクティブ化するには、同じ Q サブスクリプション・グループの他のすべての Q サブスクリプションが、 IBMQREP_SUBS 表でアクティブまたは非アクティブ状態になっている必要があります。このエラーは、同じ Q サブスクリプション・グループの Q サブスクリプションが、初期設定または非活動化されているときに生じる可能性があります。

**ユーザーの処置:**
いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、 Q サブスクリプションを活動化してください。

---

**ASN7063E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 同じ Q サブスクリプション・グループを共有する別の Q サブスクリプション** *name* **が活動化の途中であるため、 Q サブスクリプション** *name* **は活動化されませんでした。**

**説明:**

ピアツーピア・レプリケーションでは、Q サブスクリプション・グループの複数の Q サブスクリプションは、同時に開始することはできません。

**ユーザーの処置:**
IBMQREP_SUBS 表を調べ、他の Q サブスクリプションがアクティブ ('A') 状態であることを確認してください。その後、非アクティブ状態であった Q サブスクリプションを活動化してください。

---

**ASN7065E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **には、サポートされた範囲 (***low_limit* **から** *high_limit***) 外のソースまたはターゲット・ノード番号があります。**

**説明:**
多方向レプリケーションでは、Q サブスクリプションのソース・ノードおよびターゲット・ノードは、サポートされた範囲内である必要があります。

**ユーザーの処置:**
いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、 Q サブスクリプションを活動化してください。

---

**ASN7067E** *program_name* **:** *program_identifier* **: SIGNAL_INPUT_IN** *signal_input_in* **が無効であるため、シグナル** *signal_name* **を処理できません。望ましい形式は** *signal_input_format* **です。**

**説明:**
プログラムでは、シグナルのパラメーターを SIGNAL_INPUT_IN で指定する必要があります。このエラーは、パラメーターの一部が欠落しているか、または望ましくない形式である場合に生じます。

**ユーザーの処置:**
SIGNAL_INPUT_IN が正しく指定されていることを確認してから、シグナルを再挿入してください。

---

**ASN7073E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 発行または Q サブスクリプション** *name* **がアクティブでないため、REINIT_SUB コマンドは失敗しました。**

**説明:**
REINIT_SUB コマンドでは、発行または Q サブスクリプションがアクティブである必要があります。

**ユーザーの処置:**
コマンド・パラメーターで発行または Q サブスクリプションが正しく指定されていることを確認し、コマンドを再発行してください。

---

**ASN7074E** *program_name* **:** *program_identifier* **: REINIT_SUB コマンドまたは REINIT_SUB シグナルは、Q サブスクリプション** *name* **に有効ではありません。Q サブスクリプションは再初期設定されませんでした。**

**説明:**
REINIT_SUB コマンドまたは REINIT_SUB シグナルは、サブスクリプション・タイプ U (単一方向) の発行および Q サブスクリプションにのみ適用されます。サブスクリプション・タイプ B (双方向) または P (ピアツーピア) の Q サブスクリプションは、再初期設定できません。

**ユーザーの処置:**
発行の場合、正しい名前を指定したことを確認してください。 Q サブスクリプションの場合、正しい名前であることと、 IBMQREP_SUBS 表の SUBTYPE が U (単一方向) であることを確認してください。コマンドを再発行するか、シグナルを再挿入してください。

---

**ASN7079W** *program_name* **:** *program_identifier* **: 行操作メッセージは、短縮メッセージ形式で、キュー・マップ** *queue_map_name* **の送信キュー** *queue_name* **に送信できません。代わりに、トランザクション・メッセージが送信されます。**

**説明:**
XML メッセージ形式では行操作メッセージとトランザクション・メッセージはどちらも有効ですが、短縮形式ではトランザクション・メッセージだけが有効です。

**ユーザーの処置:**
行操作を発行するのであれば、IBMQREP_SENDQUEUES コントロール表の MESSAGE_FORMAT を、 'X' に設定する必要があります。

---

**ASN7080E** *program_name* **:** *program_identifier* **: WebSphere MQ 理由コード** *reason_code* **付きの WebSphere MQ 例外レポート・メッセージを、管理キューで受信しました。**

**説明:**
このエラーは、ターゲット WebSphere MQ キュー・マネージャーへのメッセージ配信問題に対して、受信側 MCA (メッセージ・チャネル・エージェント) によって MQ 例外レポート・メッセージが生成されるときに発行されます。

**ユーザーの処置:**

理由コードの説明と、ターゲット WebSphere MQ キュー・マネージャーに対して実行する必要のあるアクションの詳細は、 WebSphere MQ アプリケーション・プログラミング・リファレンスの理由コードの説明を参照してください。

---

**ASN7081W** *program_name* **:** *program_identifier* **: WebSphere MQ 例外レポート・メッセージで指定された発行または Q サブスクリプション** *name* **の送信キューは、IBMQREP_SUBS コントロール表に存在しなくなりました。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7083E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 発行または Q サブスクリプション** *name* **は、LOB データ・タイプの 1 つ以上の列が発行または Q サブスクリプションのキー列として指定されたために活動化されませんでした。**

**説明:**
LOB データ・タイプの列は、発行または Q サブスクリプションのキー列として指定してはなりません。

**ユーザーの処置:**
キー列として指定される発行または Q サブスクリプションのすべての列が、 LOB 以外のデータ・タイプであることを確認してください。発行または Q サブスクリプションを活動化してください。

---

**ASN7084E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **は、ソース表の一部の列が組み込まれていないために活動化されませんでした。**

**説明:**
ピアツーピア・レプリケーションでは、Q サブスクリプションにすべてのソース列およびバージョン列を組み込む必要があります。

**ユーザーの処置:**
いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、 Q サブスクリプションを活動化してください。

---

**ASN7085E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **は、バージョン列** *name* **が論理表** *table_name* **で定義されていないために活動化されませんでした。**

**説明:**
ピアツーピア・レプリケーションでは、Q サブスクリプションの論理表にはバージョン列を含める必要があります。

**ユーザーの処置:**
いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、 Q サブスクリプションを活動化してください。

---

**ASN7086E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **は、論理表** *table_name* **のバージョン列** *column_name* **が、データ・タイプ** *datatype* **で定義されていないか、またはバージョン列がソース表で定義されていないために活動化されませんでした。**

**説明:**
バージョン列のデータ・タイプが正しく定義されていないか、またはピアツーピア・レプリケーションで、バージョン列が Q サブスクリプションの論理表で定義されていませんでした。

**ユーザーの処置:**
いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、 Q サブスクリプションを活動化してください。

---

**ASN7087E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **の送信キュー** *queue_name***) は、送信キューが短縮メッセージ形式を使用していないために活動化されませんでした。**

**説明:**
多方向レプリケーションでは、Q サブスクリプションの送信キューは、短縮メッセージ形式を使用する必要があります。

**ユーザーの処置:**
いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、 Q サブスクリプションを活動化してください。

---

**ASN7088E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **で、プログラムは、 IBMQREP_SUBS 表で SUBGROUP、SOURCE_NODE、または TARGET_NODE 列の情報を見つけられません。**

**説明:**
多方向レプリケーションでは、Q サブスクリプションには、 Q サブスクリプション・グループ、ソース・ノード、およびターゲット・ノードが必要です。

**ユーザーの処置:**
いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、 Q サブスクリプションを活動化してください。

---

**ASN7089E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 発行または Q サブスクリプション** *name* **は、LOB 列が含まれていて、ソース表** *table_name* **に主キー、ユニーク制約、またはユニーク索引が存在しないために活動化されませんでした。**

**説明:**
LOB 列を含む発行または Q サブスクリプションのソース表には、 1 つ以上のキー列が必要です。キー列として指定される列はすべて、LOB データ・タイプ以外のデータ・タイプでなければなりません。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション管理ツールを使用して、以下のステップを実行してください。

1. ソース表に、主キー、ユニーク制約、またはユニーク索引があることを確認します。または、LOB データ・タイプ列を発行または Q サブスクリプションから除去します。
2. 発行または Q サブスクリプションを活動化します。

---

**ASN7090E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **は、検索条件が含まれているために活動化されませんでした。**

**説明:**
ピアツーピア・レプリケーションの Q サブスクリプションには、検索条件を含めることはできません。

**ユーザーの処置:**
この Q サブスクリプションが単一方向または双方向レプリケーションである場合、サブスクリプション・タイプをそれぞれ 'U' または 'B' に変更してください。この Q サブスクリプションがピアツーピア・レプリケーションである場合、検索条件を除去してください。どの場合も、いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、 Q サブスクリプションを活動化してください。

---

**ASN7091W** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムは、 Q サブスクリプション** *name* **の IBMQREP_SUBS 表で、対応する Q サブスクリプションを見つけられません。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。

---

**ASN7093E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name_or_subid* **は、IBMQREP_SUBS 表の中で、双方向レプリケーションの Q サブスクリプション・グループ** *subgroup* **の唯一の Q サブスクリプションではないために活動化されませんでした。**

**説明:**
双方向レプリケーションの Q サブスクリプション・グループでは、 1 つの Q サブスクリプションだけが許可されています。

**ユーザーの処置:**
いずれかのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、 Q サブスクリプションを活動化してください。

---

**ASN7094E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 発行または Q サブスクリプション** *name* **には、無効なサブタイプ** *subtype* **または無効な状態** *state* **があるため、** *signal_name* **シグナルは失敗しました。**

**説明:**
プログラムは、特定の発行または Q サブスクリプションのサブタイプか状態に関して、予期しないシグナルか無効なシグナルを受信しました。

**ユーザーの処置:**
発行または Q サブスクリプションがこのシグナルを予期するようにしてください。例えば、CAPSTART シグナルは、非アクティブな Q サブスクリプションだけをターゲットにしたものです。必要に応じて、シグナルを再挿入してください。

---

**ASN7095E** *program_name* **:** *program_identifier* **: アクティブまたはロード中状態の発行または Q サブスクリプション** *name* **で、IBMQREP_SUBS コントロール表の列 SUB_ID が NULL です。**

**説明:**
以前にアクティブであった発行または Q サブスクリプションで、表 IBMQREP_SUBS の SUB_ID は NULL にすることはできません。

**ユーザーの処置:**
ASNCLP コマンド行プログラムまたはレプリケーション・センターを使用して、発行または Q サブスクリプションを停止してから開始してください。

---

**ASN7096E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 発行または Q サブスクリプション** *name* **に、セミコロンが含まれています。**

**説明:**
IBMQREP_SUBS コントロール表の発行または Q サブスクリプション名には、セミコロンを含めることはできません。

**ユーザーの処置:**
発行または Q サブスクリプション名にセミコロンが含まれないことを確認してから、発行または Q サブスクリプションを開始してください。

---

**ASN7097E** *program_name* **:** *program_identifier* **: サブスクリプション** *name* **は開始しませんでした。双方向またはピアツーピア・レプリケーション用の別の Q サブスクリプション・グループ内に、同じ表のための Q サブスクリプションがあるためです。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
別の Q サブスクリプション・グループに同じ表のための別の Q サブスクリプションがないことを確認した上で、Q サブスクリプションを再開してください。

---

**ASN7098W** *program_name* **:** *program_identifier* **: 既に列** *column_name* **はシグナル挿入で指定された発行または Q サブスクリプション** *name* **の一部であるため、ADDCOL シグナルは失敗しました。**

**説明:**
ADDCOL シグナル挿入で指定されたソース表列は既に、Q サブスクリプションまたは発行の定義の一部となっています。

**ユーザーの処置:**
列が正しく指定されているかどうか確認し、必要な場合は ADDCOL シグナルを再び挿入してください。

---

**ASN7100I** *program_name* **:** *program_identifier* **: 列** *column_name* **が発行または Q サブスクリプションに追加されました。**

**説明:**
現在列に対する変更が Q サブスクリプションまたは発行の定義に基づいてキャプチャーされています。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7101E** *program_name* **:** *program_identifier* **: NULL 可能ではなく、デフォルト値もないため、発行または Q サブスクリプション** *name* **の ADDCOL シグナルに指定された列** *column_name* **を追加できません。**

**説明:**
ADDCOL シグナルを持つ Q サブスクリプションまたは発行に追加されている列は NULL 可能か、または NOT NULL WITH DEFAULT として定義されていなければなりません。

**ユーザーの処置:**
追加されている列が正しく定義されているかどうか確認し、ADDCOL シグナルを再び挿入してください。

---

**ASN7102E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q キャプチャー・プログラムが、自分に関係ない再始動情報を検出しました。 再始動情報は再始動キュー** *queue_name* **からのものであり、Q キャプチャー・サーバー** *name* **と Q キャプチャー・スキーマ** *schema* **に関するものです。**

**説明:**
再始動キュー内の再始動情報が無効であるため、Q キャプチャー・プログラムはウォーム・スタートできません。

**ユーザーの処置:**
再始動キューを正しく指定したことを確認してください。または再始動キューを空にし、Q キャプチャー・プログラムをコールド・スタートしてください。

---

**ASN7103W** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q キャプチャー・プログラムは、以前 DB2 に認識されていたパーティションを検出できません。このデータベース・パーティションは** *partition_name* **です。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムは、再始動情報として保管されているデータベース・パーティション情報を検証中です。このプログラムは、前の呼び出しで認識したデータベース・パーティションのうち、除去されているものがあることを検出しました。Q キャプチャー・プログラムはそのデータベース・パーティション情報を更新し、通常の処理を続けます。

**ユーザーの処置:**
リストされたデータベース・パーティションが実際に除去されているかどうか確認してください。そうであれば、これ以上のアクションは不要です。データベース・パーティションが除去されていない場合は、Q キャプチャー・プログラムは欠落しているデータベース・パーティションでのトランザクションをキャプチャーしないので、Q キャプチャー・プログラムを停止してください。Q キャプチャー・プログラムをコールド開始モードで開始してください。

---

**ASN7104E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 発行** *name* **は、発行キュー・マップ** *queue_map_name* **の送信キュー** *queue_name* **にあるアクティブな発行とは異なるトピック** *topic* **を含んでいるため、アクティブ化されませんでした。**

**説明:**
同じ送信キューを使用する発行のトピックはすべて同じでなければなりません。発行は、トピックが同じでないために活動化されませんでした。

**ユーザーの処置:**
同じ送信キューを使用する発行のトピックがすべて同じであることを確認してください。

---

**ASN7105I** *program_name* **:** *program_identifier* **: 送信キュー** *queue_name* **の再始動情報は存在しますが、レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **のこの送信キューが IBMQREP_SENDQUEUES 表にありません。**

**説明:**
この送信キューは、最後の実行後に IBMQREP_SENDQUEUES から削除されています。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7106I** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **がウォーム・スタート中に非アクティブ以外の状態になりましたが、キュー・マップ** *queue_map_name* **の対応する送信キュー** *queue_name* **の再始動情報が見つかりません。**

**説明:**
送信キューの再始動情報が再始動メッセージの中にありません。再始動メッセージが壊れている可能性があります。Q キャプチャー・プログラムがその再始動情報を修正します。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7107E** *program_name* **:** *program_identifier* **: この WebSphere MQ コミット・インターバル内に挿入された ADDCOL シグナルの数は、最大の 20 を超過しました。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムは、1 つの WebSphere MQ コミット・インターバル内に最大 20 の ADDCOL シグナルを処理できます。このインターバルは、Q キャプチャー・プログラムが WebSphere MQ へのメッセージをコミットする頻度を指定し、Q キャプチャー・プログラムの commit_interval パラメーターを使用することによって設定されます。

**ユーザーの処置:**
失敗した ADDCOL シグナルを Q キャプチャー・プログラムが新規インターバル内にコミットできるよう、それらのシグナルを挿入してください。

---

**ASN7108I** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムの初期設定時、正常に処理されたトランザクションの最も高いログ・シーケンス番号は** *max_cmitseq* **で、まだコミットされていないトランザクションの最も低いログ・シーケンス番号は** *restart_LSN* **です。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムは開始し、再始動メッセージの値を記録します。 Q キャプチャーは再始動ログ・シーケンス番号からのログの読み取りを開始し (トランザクションの最も低い LSN はこれからコミットされる)、コミットが最大コミット・シーケンス番号より前のトランザクション (成功したトランザクションの最も高い LSN) はすべて無視されます。パーティション・デー

タベースでは、これらのログ標識は Q キャプチャー・プログラムが実行されているパーティションから来ます。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7109I** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムの終了時、正常に処理されたトランザクションの最も高いログ・シーケンス番号は** *max_cmitseq* **で、まだコミットされていないトランザクションの最も低いログ・シーケンス番号は** *restart_LSN* **です。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムは終了し、再始動メッセージの値を記録します。次回実行時に、Q キャプチャーは再始動ログ・シーケンス番号からのログの読み取りを開始し (トランザクションの最も低い LSN はこれからコミットされる)、コミットが最大コミット・シーケンス番号より前のトランザクション (成功したトランザクションの最も高い LSN) はすべて無視されます。パーティション・データベースでは、これらのログ標識は Q キャプチャー・プログラムが実行されているパーティションから来ます。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7110E** *program_name* **:** *program_identifier* **: LSN パラメーターは、MAXCMTSEQ パラメーターを付けて指定する必要があります。**

**説明:**
リカバリー・ログの特定の時点から Q キャプチャー・プログラムを開始する場合、LSN パラメーターと MAXCMTSEQ パラメーターの両方を指定する必要があります。 LSN パラメーターは、これからコミットされるトランザクションの最も低い LSN を指定します。MAXCMTSEQ パラメーターは、成功したトランザクションの最も高いログ・シーケンス番号を指定します。

**ユーザーの処置:**
Q キャプチャー・プログラムを再始動し、LSN パラメーターと MAXCMTSEQ パラメーターの両方を指定してください。

---

**ASN7111E** *program_name* **:** *program_identifier* **: LSN パラメーターおよび MAXCMTSEQ パラメーターはコールド・スタート・モードで指定できません。**

**説明:**
LSN パラメーターおよび MAXCMTSEQ パラメーターはウォーム・スタート・モードで指定する必要があるので、Q キャプチャー・プログラムは停止されました。

**ユーザーの処置:**
LSN パラメーターおよび MAXCMTSEQ パラメーターを付けて、ウォーム・スタート・モードで Q キャプチャー・プログラムを再始動してください。

---

**ASN7112I サーバー名**

---

**ASN7113I スキーマ名**

---

**ASN7114I プログラム状況**

---

**ASN7115I プログラム開始以降の時間**

---

**ASN7116I ログ・ファイルの場所**

---

**ASN7117I アクティブ Q サブスクリプションの数**

---

**ASN7118I 現行メモリー**

---

**ASN7119I ログ・リーダーの現行性**

---

**ASN7120I コミット済みの最終発行トランザクション (LSN)**

---

**ASN7121I 現行アプリケーション・メモリー**

---

**ASN7122I Q キャプチャー・プログラム状況**

---

**ASN7123I 実行中**

---

**ASN7124I 停止中**

---

**ASN7125I DB2 ログ・ファイルへのパス。**

---

**ASN7126I Q キャプチャーの再始動には、最も古い DB2 ログ・ファイルが必要です。**

---

**ASN7127I 現在の DB2 ログ・ファイルがキャプチャーされます。**

---

**ASN7128I** *program_name* **:** *program_identifier* **: db2flsn ユーティリティーは、LSN** *lsn* **の入っているログ・ファイルを見つけられませんでした。戻りコードは** *return_code*。**理由は、***reason* **です。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムは、db2flsn ユーティリティーを使用して、特定のログ・シーケンス番号 (LSN) の入ったログ・ファイルを見つけます。このユーティリティーは、警告またはエラーの戻りコードで終了しました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7129I** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムは、db2flsn ユーティリティーを実行するためのパイプをオープンできませんでした。 戻りコードは** *return_code*。 **理由は、***reason* **です。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムは、db2flsn ユーティリティーを実行するためのパイプをオープンできませんでした。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7130E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 発行または Q サブスクリプション** *name* **は、送信キュー** *queue_name*、**発行またはレプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **に指定した MAX_MESSAGE_SIZE が小さすぎるため非活動化されました。***number* **バイトが必要です。**

**説明:**
メッセージの最大サイズが小さすぎて、この発行または Q サブスクリプションのトランザクション内の 1 つの行を収めることができません。

**ユーザーの処置:**
この送信キューの IBMQREP_SENDQUEUES 表にある MAX_MESSAGE_SIZE 値を増やしてください。必要に応じて MAXMSGL 属性を増やしてください。

- リモート送信キューの場合、伝送キューの MAXMSGL 属性を増やしてください。
- ローカル送信キューの場合、MAXMSGL 属性を増やしてください。

MAX_MESSAGE_SIZE 列の値も、WebSphere MQ キュー・マネージャーの MAXMSGL 属性を超過してはなりません。

送信キューがリモートの場合、 MAX_MESSAGE_SIZE 値は、伝送キューおよびキュー・マネージャーの両方の MAXMSGL 属性より少なくとも 4 KB 小さくなければなりません。この 4 KB の違いは、メッセージが伝送キュー内にあるときにメッセージ・ヘッダーに含まれる追加情報に相当します。

発行または Q サブスクリプションを再始動してください。

---

**ASN7131I** *program_name* **:***program_identifier* **: ウォーム・スタート情報が見つからなかったため、Q キャプチャー・プログラムはコールド・スタート・モードに切り替わります。**

**説明:**
再始動情報がなく、WARMSI 始動モードが指定されていたため、Q キャプチャー・プログラムがコールド・スタートに切り替わりました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7132E** *program_name* **:***program_identifier* **: ウォーム・スタート情報が見つかりませんでした。アクティブな Q サブスクリプションが存在します。 Q キャプチャー・プログラムは終了します。**

**説明:**
再始動に必要な情報がなく、Q サブスクリプションがアクティブであるため、 Q キャプチャー・プログラムが停止しました。

**ユーザーの処置:**
必要に応じて、Q キャプチャー・プログラムをコールド・スタート・モードで再始動してください。 asnqcap コマンドで **lsn** および **maxcmtseq** パラメーターを使用して再始動点を指定することもできます。詳しくは、DB2 インフォメーション・センターの『既知の再始動点からの Q キャプチャー・プログラムの開始』および asnqcap の資料を参照してください。

---

**ASN7133I** *program_name* **:** *program_identifier* **: 発行または Q サブスクリプション** *name* **は停止しました。**

**説明:**

シグナルまたはエラーのため、発行または Q サブスクリプションが停止しました。

**ユーザーの処置:**
エラーによる非活動化の場合は、Q キャプチャー診断ログ・ファイルまたは IBMQREP_CAPTRACE 表から、問題を示すメッセージを探してください。エラーを修正して、発行または Q サブスクリプションを開始します。

---

**ASN7134E** *program_name* **:***program_identifier* **: 発行または Q サブスクリプション** *name* **が、エラーのため、Q キャプチャー・プログラムの初期化中に活動化できませんでした。**

**説明:**
エラーのため、発行または Q サブスクリプションが開始できませんでした。

**ユーザーの処置:**
Q キャプチャー診断ログ・ファイルまたは IBMQREP_CAPTRACE 表から、問題を示すメッセージを探してください。エラーを修正して、発行または Q サブスクリプションを開始します。

---

**ASN7136E** *program_name* **:** *program_identifier* **: IBMQREP_SENDQUEUES 表の発行またはレプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **のリモート送信キュー** *queue_name* **に指定した MAX_MESSAGE_SIZE 値は、WebSphere MQ で伝送キュー** *queue_name* **に定義された** *number* **バイトの MAXMSGL 属性値より少なくとも 4000 バイト小さくなければなりません。**

**説明:**
この送信キューの MAX_MESSAGE_SIZE 値が大きすぎます。送信キューがリモートの場合、MAX_MESSAGE_SIZE 値は、伝送キューおよびキュー・マネージャーの両方の MAXMSGL 属性より少なくとも 4 KB 小さくなければなりません。MQ_MSG_HEADER_LENGTH により指定されるこの 4 KB の違いは、メッセージが伝送キュー内にあるときにメッセージ・ヘッダーに含まれる追加情報に相当します。

**ユーザーの処置:**
ASNCLP またはレプリケーション・センターを使用して、送信キューの MAX_MESSAGE_SIZE 値を小さくします。必要に応じて、伝送キューの MAXMSGL 属性を増やしてください。送信キューを使用する発行または Q サブスクリプションを再始動します。

---

**ASN7137W** *program_name* **:** *program_identifier* **: 発行または Q サブスクリプション** *name* **に対して指定された MAX_MESSAGE_SIZE は、送信キュー** *queue_name* **に対して小さすぎる可能性があります。最大値として** *size* **バイトを設定する必要があると考えられます。**

**説明:**
この送信キューを指定する発行キュー・マップまたはレプリケーション・キュー・マップの MAX_MESSAGE_SIZE の値が小さすぎて、WebSphere MQ メッセージの行を収容できない可能性があります。Q キャプチャー・プログラムの実行中にこの問題が発生すると、Q キャプチャーが停止します。

**ユーザーの処置:**
キュー・マップの MAX_MESSAGE_SIZE の値を大きくしてください。asnqacmd reinitq コマンドを使用して、キュー・マップを再初期化してください。

---

**ASN7138W Q キャプチャー・プログラムが、区切られた発行** *publication_name* **(送信キュー** *send_queue_name*) **について、ソース列をコード・ページ** *code_page* **からコード・ページ** *code_page* **に変換しています。**

**説明:**
ソース・データベース列のエンコードに、IBMQREP_SENDQUEUES 表の MESSAGE_CODEPAGE 列に指定されたものと異なるコード・ページが使用されています。Q キャプチャー・プログラムにより、送信キューに入れられたメッセージのすべてのデータが変換されます。

**ユーザーの処置:**
データ変換が許可できるものである場合、アクションは不要です。データ変換を行わないのであれば、Q キャプチャー・プログラムを停止して、MESSAGE_CODEPAGE 値を、ソース列のコード・ページと一致するように更新してください。その後で、Q キャプチャーを開始します。

---

**ASN7139W IBMQREP_SENDQUEUES 表の発行キュー・マップ** *queue_map_name* **の送信キュー** *send_queue_name* **について、HEARTBEAT_INTERVAL の値は、区切りメッセージ・フォーマットの場合に 0 である必要があります。**

**説明:**
区切りメッセージに発行キュー・マップを使用するよう指定した場合、 Q キャプチャー・プログラムがハート

ビート・メッセージの送信に使用するインターバルの値は 0 (ハートビート・メッセージを送信しない) である必要があります。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。 Q キャプチャー・プログラムにより、HEARTBEAT_INTERVAL 値がオーバーライドされます。このメッセージを表示しないようにするには、 ASNCLP コマンド行プログラムまたはレプリケーション・センターを使用して、キュー・マップのハートビート・インターバルを 0 に変更します。その後で、asnqccmd reinitq コマンドまたはレプリケーション管理ツールを使用して、送信キューを再度初期化します。

---

**ASN7140E** **発行の BEFORE_VALUES 属性が Y でないため、区切られた発行** *publication_name* **(送信キュー** *send_queue_name*) **が開始しませんでした。**

**説明:**
区切りメッセージを発行する場合、Q キャプチャー・プログラムは常に、更新操作の前と後の値を送信します。発行で区切りメッセージ・フォーマットを使用するよう指定した場合、変更前の値を有効にする必要があります。

**ユーザーの処置:**
ASNCLP またはレプリケーション・センターを使用して、発行の変更前の値を指定し、発行を開始します。

---

**ASN7141E** **発行の CHANGED_COLS_ONLY 属性が N でないため、区切られた発行** *publication_name* **(送信キュー** *send_queue_name*) **が開始しませんでした。**

**説明:**
区切りメッセージを発行する場合、Q キャプチャー・プログラムは常に、変更されていない場合でも行のすべての列を送信します。発行で区切りメッセージ・フォーマットを使用するよう指定した場合、CHANGED_COLS_ONLY 属性を N にする必要があります。

**ユーザーの処置:**
ASNCLP またはレプリケーション・センターを使用して、発行に CHANGED_COLS_ONLY=N を指定します。

---

**ASN7142I** **Q キャプチャー・プログラムが、MQPUT コマンドを使用してキュー** *queue_name* **にメッセージを入れたときに、WebSphere MQ エラー (理由コード** *reason_code*) **を受信しました。プログラムは、最大** *number* **回 (***number* **秒間隔) でメッセージを入れるよう再試行してから停止します。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムがメッセージをキューに入れることができませんでした。 MQPUT 操作から、以下のいずれかの WebSphere MQ 理由コードを受信しました。

- **2051:** MQRC_PUT_INHIBITED
- **2053:** MQRC_Q_FULL
- **2192:** MQRC_STORAGE_MEDIUM_FULL
- **2346:** MQRC_CF_STRUC_IN_USE
- **2373:** MQRC_CF_STRUC_FAILED

このエラーを受信すると、Q キャプチャー・プログラムは、 WebSphere MQ **qfull_num_retries** および **qfull_retry_delay** パラメーターに基づいてメッセージの送信を再試行します。このエラーは、Q アプライ・プログラムが受信キューのメッセージを処理していない場合に発生することがあります。Q アプライ・プログラムが停止しているか、 Q キャプチャー・プログラムが、WebSphere MQ が処理するよりも速くメッセージをキューに入れている可能性があります。このエラーは、Q キャプチャー・プログラムの停止中に、ソース表に多くの変更が累積された場合にも発生します。このエラーは、多くの場合、キューを共有する環境で起こります。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7143I** **キュー** *queue_name* **への WebSphere MQ MQPUT コマンドが、***number* **回の再試行後に成功しました。**

**説明:**
キューがいっぱいであるため、Q キャプチャー・プログラムが MQPUT 操作を複数回再試行する必要がありました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7166W** *program_name* **:** *program_identifier* **: トランザクション・サイズ** *size_bytes* **が送信キューの最大メッセージ・サイズ** *size_bytes* **を超えたため、 LOB または XML 列のデータが送信されませんでした。サブスクリプションまたは発行は** *name*。 **LOB または XML 列** *column_name* **はソース表** *table_name* **にあります。行のキー列** *key_columns* **のキー値は** *key_values*。**送信キューのエラー・アクションが実行されます。**

**説明:**
LOB または XML データが、トランザクション・メッセージに対して大きすぎます。

**ユーザーの処置:**
IBMQREP_SENDQUEUES 表にある MAX_MESSAGE_SIZE 値を増やしてください。また、WebSphere MQ 送信キューの MAXMSGL パラメーターのサイズも大きくする必要があります。MAX_MESSAGE_SIZE パラメーターの値は、MAXMSGL パラメーターの値より少なくとも 4KB 小さくしてください。

MAX_MESSAGE_SIZE パラメーターの値を大きくできない場合は、IBMQREP_CAPPARMS 表の LOB_SEND_OPTIONS 値を S に設定して、トランザクション・メッセージに続けて LOB メッセージの LOB 値を送信することができます。

---

**ASN7167E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q キャプチャー・プログラムは、表** *table_owner.table_name* **の Q サブスクリプションまたは発行をアクティブにできませんでした。表が変更されました。表のバージョンは** *version* **です。**

**説明:**
表が変更された場合、Q キャプチャー・プログラムはログ・レコードをデコードできません。ソース表を指定する Q サブスクリプションまたは発行を作成した後は、その Q サブスクリプションまたは発行をアクティブ化する前に表を変更しないでください。表のバージョンは 0 でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
表を再編成して Q サブスクリプションまたは発行をアクティブにしてください。

---

**ASN7505E** *program_name* **:** *program_identifier* **: ターゲット列の属性が、 Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **に対して正しくセットアップされていません。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
IBMQREP_TRG_COLS 表の列のセットアップにエラーがあります。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** IBMQREP_TRG_COLS 表で指定されている列の数が、ターゲット表の列の数と一致しません。ターゲットに存在する列よりも、IBMQREP_TRG_COLS 表で定義されている列の方が上回っています。

**1** IBMQREP_TRG_COLS 表の MSG_COL_NUMBER 列の値がユニークではありません。

**2** キー列は、IBMQREP_TRG_COLS 表の MSG_COL_NUMBER の先頭列でなければなりません。

**3** MSG_COL_NUMBER 列の値が範囲外です。 0 未満か、または定義された最大列よりも大きくなっています。

**4** 行を一意的に識別できるよう定義された列がありません。 Q レプリケーションでは、少なくとも 1 つの列がユニークであることが必要です。

**5** IBMQREP_TRG_COLS 表の次の列の 1 つ以上が NULL です。すなわち、MSG_COL_NUMBER、MSG_COL_TYPE、MSG_COL_CODEPAGE、または MSG_COL_LENGTH。

**6** 宣言されたキー列に対応するユニーク索引がありません。データベースには、ソース表の 1 つの行をターゲット表の 1 つの行のみに対応させる制約がなければなりません。 Q アプライ・プログラムは、トランザクションの適切な並列処理をスケジュールするときにユニーク索引情報を使用します。そのため、ターゲット表ごとにユニーク索引を宣言する必要があります。

**ユーザーの処置:**
説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

**0** レプリケーション管理ツールの 1 つを使用し

て Q サブスクリプションを再定義してから、Q サブスクリプションをアクティブにします。

**1** レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。 Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、アクティブにします。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。 アナライザーのレポートを提出してください。

**2** レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。 Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、アクティブにします。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡して、その際にアナライザー・レポートを用意してください。

**3** レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。 Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、アクティブにします。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。 アナライザーのレポートを提出してください。

**4** レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して、 Q サブスクリプションを再定義し、ユニークな列を識別してください。その後、Q サブスクリプションをアクティブにします。

**5** レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。 Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、アクティブにします。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。 アナライザーのレポートを提出してください。

**6** Q サブスクリプションでのキー列として定義されたユニーク索引がある別の列セットを選択するか、またはターゲット表のユニーク索引またはユニーク制約を作成してください。その後で、対応する Q サブスクリプションを再始動してください。

---

**ASN7506E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **のターゲット** *target_name* **が存在しません。 Q サブスクリプションはロードされず、変更もこのターゲットには複製できません。**

**説明:**

IBMQREP_TARGETS 表で定義されている Q サブスクリプションのターゲットが存在しません。ターゲットが適切に指定されなかったか、または存在しないかのどちらかです。

**ユーザーの処置:**

ターゲット・データベースにターゲットが存在することを確認してください。 IBMQREP_TARGETS 表の TARGET_OWNER、TARGET_NAME 列の値が、このターゲットに対して適切であることを確認してください。さらに、TARGET_TYPE 列の値がターゲットに適切であることも確かめます。例えば、ターゲットがストアード・プロシージャーである場合、 IBMQREP_TARGETS 表のターゲット・タイプが「5」であることを確認します。 Q サブスクリプションが有効でない場合、レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して再定義してください。

---

**ASN7512E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q アプライ・プログラムは Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **をアクティブにできませんでした。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**

Q サブスクリプション定義が正しくありません。レプリケーション・センターまたは ASNCLP プログラムによって生成された SQL 以外の SQL で Q サブスクリプションが更新されたため、またこれらの管理ツールによって生成された SQL が変更されたため、エラーが発生する場合があります。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** Q サブスクリプションが、IBMQREP_TARGETS コントロール表に存在しません。

**1** IBMQREP_TARGETS コントロール表の STATE 列の値が「I」ではありません。

**2** Q キャプチャーおよび Q アプライ・サーバーの Q サブスクリプションのタイプが異なります。

**3** ターゲットに対する DESCRIBE ステートメントが失敗しました。

**4** IBMQREP_TRG_COLS 表の TARGET_COLNAME 列の値が、ターゲットの任意のターゲット列と一致しません。

**5** IBMQREP_TRG_COLS 表の TARGET_COLNAME、MSG_COL_TYPE、または MSG_COL_LENGTH 列の値は、ターゲット

表またはストアード・プロシージャーの対応する列の名前、タイプ、または長さと一致しません。

**6** IBMQREP_TRG_COLS 表の SOURCE_COLNAME 列が、IBMQREP_SRC_COLS 表の SRC_COLNAME の値と一致しません。

**7** Q サブスクリプション ID が、受信キューでユニークではありません。

**8** Q サブスクリプションが双方向に定義されていて、競合規則によれば Q キャプチャーの送信オプションが正しくありません。IBMQREP_TARGETS 表の CONFLICT_RULE 列が「A」または「C」に設定されていますが、 IBMQREP_SUBS 表の BEFORE_VALUES 列の送信オプションが「Y」に設定されていません。

**9** IBMQREP_TARGETS 表の SOURCE_OWNER、SOURCE_NAME 列が、IBMQREP_SUBS 表の値と一致しません。また、IBMQREP_TARGETS 表の SOURCE_SERVER 列の値が、 Q キャプチャー・プログラムが実行されているサーバー上にありません。

**10** IBMQREP_TRG_COLS 表の IS_KEY 列の値が、 IBMQREP_SRC_COLS 表の IS_KEY 列の値と一致しません。

**11** ソース列のコード・ページが、 Q アプライ・プログラムのコード・ページに変換できません。

**12** IBMQREP_TARGETS 表の CONFLICT_ACTION 列が「F」に設定されていますが、 Q キャプチャーの送信オプションが正しくありません。 CONFLICT_ACTION 「F」の場合、そのメッセージには変更した列だけでなくすべての列を含める必要があります。 IBMQREP_SUBS 表では、CHANGED_COLS_ONLY は「N」に設定してください。

**13** IBMQREP_TARGETS の CONFLICT_RULE は「K」に設定されていますが、 Q キャプチャーの送信オプションが正しくありません。IBMQREP_SUBS 表では、BEFORE_VALUES 列は「N」に設定してください。

**14** Q キャプチャーの送信オプションは IBMQREP_SUBS 表で CHANGED_COLS_ONLY が「N」に指定されていますが、IBMQREP_TARGETS 表内の次のいずれかまたはその両方の設定のため、値を「Y」に設定してください。

- CONFLICT_ACTION が「F」ではない
- CONFLICT_RULE が「A」ではない

**15** IBMQREP_TRG_COLS 表には存在せず、 NOT NULL かつデフォルトには定義されていない余分の列がターゲットにあります。

**16** IBMQREP_SUBS 表の SEARCH_CONDITION 列の値が、正しく指定されていません。

**17** IBMQREP_SUBS 表および IBMQREP_TARGETS 表の SOURCE_NODE 列と TARGET_NODE 列の値が一致しません。

**18** 列を表すストアード・プロシージャー・パラメーターが、 IBMQREP_SRC_COLS 表の SRC_COLNAME フィールドに一致していません。

**19** Q サブスクリプションがタイプ「U」(単一方向) ですが、 IBMQREP_TARGETS 表の CONFLICT_RULE 列が「K」に設定されていません。

**20** このサブスクリプションのターゲット・タイプは CCD 表です。 CCD 表には次の 4 つの列がなければなりません。

- IBMSNAP_INTENTSEQ
- IBMSNAP_OPERATION
- IBMSNAP_COMMITSEQ
- IBMSNAP_LOGMARKER

**21** このサブスクリプションのターゲット・タイプは CCD 表で、サブスクリプション・タイプは双方向レプリケーションか対等レプリケーションのいずれかです。 CCD 表は単一方向レプリケーションでのみサポートされます。このエラーは以下のうちの 1 つが真でない場合には起こり得ません。

- レプリケーション・センターまたは ASNCLP コマンド行プログラムによって生成された SQL 以外の SQL で Q サブスクリプションが更新された。
- レプリケーション・センターまたは ASNCLP によって生成された SQL スクリプトが、その実行前に変更された。

**22** ターゲットは非コンデンス CCD 表です。IBMQREP_TARGETS 表の CONFLICT_ACTION に有効な値は F (強制) のみです。着信変更は常にすべて挿入されるため、IBMQREP_SUBS 表での有効な Q キャプ

チャー送信オプションは、BEFORE_VALUES = Y および CHANGED_COLS_ONLY = N のみです。

**23** Q サブスクリプションのターゲット・タイプは、コンデンス CCD 表およびコンプリート CCD 表です。 IBMQREP_TARGETS 表の CONFLICT_ACTION の値は、F (強制) または I (無視) でなければなりません。 F (強制) の場合、IBMQREP_SUBS 表での有効な Q キャプチャー送信オプションは、BEFORE_VALUES = Y および CHANGED_COLS_ONLY = N のみです。 I (無視) の場合、有効な Q キャプチャー送信オプションは、BEFORE_VALUES = N および CHANGED_COLS_ONLY = Y のみです。

**24** ターゲットはコンデンス CCD 表および非コンプリート CCD 表です。 IBMQREP_TARGETS 表の CONFLICT_ACTION は F (強制) です。 IBMQREP_SUBS 表での有効な Q キャプチャー送信オプションは、BEFORE_VALUES = Y および CHANGED_COLS_ONLY = N のみです。

**25** ターゲットは CCD 表です。 IBMQREP_TARGETS 表の列 CCD_CONDENSED および CCD_COMPLETE のいずれかまたは両方の値はヌルです。

**26** この Q サブスクリプションのターゲット・タイプは非コンプリート CCD 表ですが、IBMQREP_SUBS 表の HAS_LOADPHASE 列の値は N 以外になります。

**27** ターゲットは CCD 表です。 Q アプライ・プログラムは、バージョン 9 より小さいバージョン (例えば、バージョン 8.2) の Q キャプチャー・プログラムからメッセージを読み取りました。 Q アプライ・プログラムは、このような下位レベルのメッセージを処理できますが、CCD ターゲットなどのバージョン 9 の機能をこの構成でサポートすることはできません。

**28** IBMQREP_TRG_COLS 表のターゲット列情報が正しくセットアップされていません。

**ユーザーの処置:**
説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

**0** Q サブスクリプション、IBMQREP_SUBS 表および IBMQREP_TARGETS 表の SUBNAME 列の定義を検査してください。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、 Q サブスクリプションをアクティブにします。

**1** IBMQREP_TARGETS コントロール表の STATE 列の値を I に設定して、 Q サブスクリプションを非アクティブにしてください。Q キャプチャー・サーバーで、Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、アクティブにします。

**2** IBMQREP_SUBS 表の SUBTYPE 列の値が、IBMQREP_TARGETS 表の SUBTYPE 列の値と一致するか調べてください。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。

**3** SQL 戻りコード情報が含まれる、 ASN0552E メッセージの Q アプライ診断ログ・ファイルまたは IBMQREP_TRACE 表を参照してください。

**4** Q サブスクリプションが正しくセットアップされていることを確認してください。ターゲット表上の記述に関して、およびターゲット表のために IBMQREP_TRG_COLS 表に保管されている値を確認し、違いがあるか確かめます。 レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。

**5** Q サブスクリプションが正しくセットアップされていることを確認してください。ターゲット表またはストアード・プロシージャーの記述に関して、IBMQREP_TRG_COLS 表に保管されている値を確認し、違いがあるか確かめます。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。

**6** レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。

**7** レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。

**8** レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。 アナライザーのレポートを提出してください。

**9** レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。 アナライザーのレポートを提出してください。

**10** レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してくださ

い。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。 アナライザーのレポートを提出してください。

**11** 変換されなかった CCSID を指定している、ASN0568E メッセージの Q アプライ診断ログ・ファイルを参照してください。 推奨: Q アプライ・コード・ページをソース・データベース・コード・ページと同じに変更してください。

**12** レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。 アナライザーのレポートを提出してください。

**13** レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。 アナライザーのレポートを提出してください。

**14** レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。 アナライザーのレポートを提出してください。

**15** ターゲット属性を変更するか、またはこれらのエクストラ列にサブスクライブしてください。

**16** IBMQREP_SUBS 表の SEARCH_CONDITION 列のテキストをチェックし、複製されている表の列名だけが大括弧で囲まれているようにします。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。

**17** レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。 アナライザーのレポートを提出してください。

**18** レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。 アナライザーのレポートを提出してください。

**19** レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。 アナライザーのレポートを提出してください。

**20** レプリケーション・センターまたは ASNCLP プログラムを使用して CCD 表に 4 つの必須列を追加し、その後 Q サブスクリプションを活動化してください。

詳しくは、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターで、Q レプリケーション・コントロール表の資料を参照してください。

**21** 以下のいずれかの処置を実行してください。

- レプリケーション・センターまたは ASNCLP によって生成された SQL およびユーザーが変更した SQL をすべて訂正する。
- Q サブスクリプションをドロップし、管理ツールのいずれかを使ってそれを再作成する。

**22** IBMQREP_TARGETS 表の CONFLICT_ACTION 列と IBMQREP_SUBS 表の BEFORE_VALUES 列および CHANGED_COLS_ONLY 列を、説明で指定されている値に変更する。

**23** IBMQREP_TARGETS 表の CONFLICT_ACTION 列と IBMQREP_SUBS 表の BEFORE_VALUES 列および CHANGED_COLS_ONLY 列を、説明で指定されている値に変更する。

**24** IBMQREP_TARGETS 表の CONFLICT_ACTION 列と IBMQREP_SUBS 表の BEFORE_VALUES 列および CHANGED_COLS_ONLY 列を、説明で指定されている値に変更する。

**25** IBMQREP_TARGETS 表で、CCD_CONDENSED 列を Y (コンデンス CCD の場合) に設定するか、または N (非コンデンス CCD の場合) に設定してください。CCD_COMPLETE 列を Y (コンプリート CCD の場合) に設定するか、または N (非コンプリート CCD の場合) に設定してください。

**26** ターゲット表をロードする必要がある場合、CCD 表はコンプリートでなければなりません。非コンプリート CCD 表が必要な場合、HAS_LOADPHASE の値は N でなければなりません。

**27** ソース・システムの Q キャプチャー・プログラムをバージョン 9 にアップグレードしてから、Q サブスクリプションを開始してください。

**28** Q アプライ診断ログ・ファイルまたは IBMQREP_APPLYTRACE 表から、列定義の問題を示すメッセージを探してください。いずれ

かのレプリケーション管理ツールを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、 Q サブスクリプションを開始してください。

---

**ASN7513W** *program_name* **:** *program_identifier* **: SUB_ID** *subid* **が変更された行を受け取りましたが、アクティブな Q サブスクリプション (受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **がありません。 Q アプライ・プログラムは変更を適用できません。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
次の理由により、トランザクション内の行がアクティブな Q サブスクリプションに属していません。

**0** Q サブスクリプションは ERROR_ACTION または CONFLICT_ACTION のために非アクティブですが、 Q キャプチャー・プログラムは変更の送信を依然として停止していませんでした。 Q サブスクリプションが非アクティブになった理由に関しては、IBMQREP_EXCEPTIONS 表を参照してください。

**1** Q サブスクリプションのセットアップが無効なため、 Q アプライ・プログラムが Q サブスクリプションをアクティブにできませんでした。

**2** Q サブスクリプションが、IBMQREP_TARGETS 表に存在しません。

**ユーザーの処置:**
説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

1. IBMQREP_SUBS および IBMQREP_TARGETS コントロール表の SUB_ID に対応する Q サブスクリプションを調べてください。
2. Q サブスクリプションが存在する場合、IBMQREP_TARGETS 表の STATE_INFO 列を調べ、 CONFLICT_ACTION または ERROR_ACTION のために Q サブスクリプションが非アクティブにされたかどうかを判別します。
   a. Q サブスクリプションが非アクティブにされた場合、 Q キャプチャー・プログラムはこの Q サブスクリプションに対する変更の送信を最終的には停止します。ユーザー側でのアクションは不要です。
   b. Q サブスクリプションが非アクティブにされなかった場合、これがアクティブになって開始されているということは決してありません。正確な理由コードおよび必要な応答に関しては、 Q アプライ診断ログの ASN7512E メッセージを参照してください。

---

**ASN7514W** *program_name* **:** *program_identifier* **: 管理キュー** *queue_name* **がフルです。 Q サブスクリプション:** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*)。

**説明:**
メッセージの数が、管理キューの MAXDEPTH 属性で設定された数に達しました。 管理キューがフルで、Q アプライ・ブラウザーが書き込むことができません。おそらく、Q キャプチャー・プログラムはその管理キューからは読み取っていません。

**ユーザーの処置:**
Q キャプチャー・プログラムが実行中であることを確認してください。実行されていない場合には、再始動してください。

必要であれば、管理キューの MAXDEPTH 属性の値を増やします。

---

**ASN7515E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q アプライ・プログラムが、バージョン** *msgVersion* **のメッセージ・タイプ** *msgType* **を処理できません。**

**説明:**
このメッセージ・バージョンは、 Q アプライ・プログラムのこのバージョンではサポートされていません。 Q キャプチャー・プログラムは、この Q アプライ・プログラムのバージョンとは互換性がありません。

**ユーザーの処置:**
IBMQREP_CAPPARMS および IBMQREP_APPLYPARMS 表の ARCH_LEVEL に互換性があることを確認してください。

---

**ASN7517E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **の受信メッセージのロードが処理できません。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
Q アプライ・プログラムは Q キャプチャーからの受信メッセージのロードを受け取りましたが、そのメッセージを処理できません。 理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** メモリーにロードされる Q サブスクリプション情報が正しくありません。

**1** IBMQREP_TARGETS 表の STATE 列の Q サブスクリプション状態が正しくありません。

**2** この Q サブスクリプションに対して定義されたスピル・キューはありません。 IBMQREP_TARGETS の SPILLQ 列の情報が間違っているか、または物理キューが存在しません。

**ユーザーの処置:**
説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

**0** Q サブスクリプションが IBMQREP_TARGETS 表の STATE 列で非アクティブ (I) 状態であるかをチェックし、その理由について Q アプライ診断ログ・ファイルを参照します。問題を修正し、Q サブスクリプションをアクティブにします。

**1** IBMQREP_TARGETS 表の STATE 列の Q サブスクリプション値が、予期したものと異なります。 Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、アクティブにします。

**2** Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、アクティブにします。

---

**ASN7519E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **は、SUB_ID 列の値が NULL であるためロードできません。**

**説明:**
SUB_ID は、Q サブスクリプションの状態が「I」(非アクティブ) の場合にのみ NULL が可能です。 Q サブスクリプション定義が変更されました。

**ユーザーの処置:**
Q サブスクリプションを非アクティブにし、再定義してからアクティブにしてください。

---

**ASN7522E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q アプライ・プログラムは、Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **でエラーを検出したために停止しました。**

**説明:**
Q アプライ・プログラムが、このターゲットにトランザクションを適用しようとした際に、エラーまたは矛盾を検出しました。 この Q サブスクリプションのエラーまたはアクションは、「S」(Q アプライ・プログラムの停止) です。 エラーが発生した理由の詳細については、Q アプライ診断ログ・ファイルおよび IBMQREP_EXCEPTIONS 表を参照してください。

**ユーザーの処置:**
診断ログ・ファイルまたは IBMQREP_EXCEPTIONS 表で確認した問題を処理し、 Q アプライ・プログラムを再開します。変更が失われることはありません。問題がこの Q サブスクリプションのターゲットにのみ関連している場合、 Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、Q アプライ・プログラムを再開します。 Q アプライ・プログラムは、他のターゲットに変更を適用できます。

---

**ASN7523E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q アプライ・プログラムは、Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **) でエラーまたは矛盾を検出しました。 Q アプライ・プログラムは、受信キューからの読み取りを停止します。**

**説明:**
Q アプライ・プログラムが、このターゲットにトランザクションを適用しようとした際に、エラーまたは矛盾を検出しました。 この Q サブスクリプションのエラーまたはアクションは、「Q」(キューからの読み取りの停止) です。 エラーが発生した理由の詳細については、Q アプライ診断ログ・ファイルおよび IBMQREP_EXCEPTIONS 表を参照してください。

**ユーザーの処置:**
診断ログ・ファイルまたは IBMQREP_EXCEPTIONS 表で確認した問題を処理し、 startq コマンドを使用してキューからの読み取りを再開します。変更が失われることはありません。問題がこの Q サブスクリプションのターゲットにのみ関連している場合、 Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、キューからの読み取りを再開します。 Q アプライ・プログラムは、他のターゲットに変更を適用できます。

---

**ASN7524E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q アプライ・プログラムは、Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **) でエラーまたは矛盾を検出しました。 受信キューからの読み取りを停止しました。 LSN** *LSN* **に対応するトランザクションからの行の適用中にエラーが発生しました。**

**説明:**
Q アプライ・プログラムが、このターゲットにトランザクションを適用しようとした際に、エラーまたは矛盾を検出しました。 この Q サブスクリプションのエラーまたはアクションは、「Q」(キューからの読み取りの停止) です。

**ユーザーの処置:**
診断ログ・ファイルまたは IBMQREP_EXCEPTIONS 表で確認した問題を処理し、 startq コマンドを使用してキューからの読み取りを再開します。変更が失われることはありません。問題がこの Q サブスクリプションのターゲットにのみ関連している場合、 Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、キューからの読み取りを再開します。 Q アプライ・プログラムは、他のターゲットに変更を適用できます。

---

**ASN7525I** *program_name* **:** *program_identifier* **: 受信キュー** *queue_name* **(レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **がアクティブ状態ではないので、Q アプライ・プログラムは処理しません。**

**説明:**
IBMQREP_RECVQUEUES 表の STATE 列は、この受信キューに関して非アクティブとしてマークされています。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

Q アプライ・プログラムでキューを処理する場合は、Q アプライを再始動せずに「asnqacmd startq」コマンドを発行するか、またはIBMQREP_RECVQUEUES 表の STATE 列を A に変更してから Q アプライ・プログラムを再始動します。

---

**ASN7526I** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q アプライ・プログラムが、レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **の受信キュー** *queue_name* **の処理を開始しました。**

**説明:**
Q アプライ・プログラムは、受信キューからの読み取りを開始しました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7527I** *program_name* **:** *program_identifier* **: レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **の受信キュー** *queue_name* **で使用する Q アプライ・ブラウザーが、startq コマンドを使用してアクティブにされます。**

**説明:**
startq コマンドが受信キューに対して発行され、 Q アプライ・プログラムがこのキューで Q アプライ・ブラウザーを開始しました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7528I** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **に対して、Q アプライ・プログラムが** *utility_name* **ユーティリティーを使用して** *table_name* **表をロードします。**

**説明:**
この Q サブスクリプションのロード・フェーズは、内部として指定されています。 Q アプライは、ロードを実行するためにこのユーティリティーを選択しました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7529I** *program_name* **:** *program_identifier* **:** *target_name* **表の** *utility_type* **ユーティリティーが、 Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **に対して正常に完了しました。 このユーティリティーからのメッセージは次のとおりです。** *text*。

**説明:**
指定されたロード・ユーティリティーが正常に終了しました。統計に関しては、ユーティリティーからの詳細メッセージを確認してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

**ASN7530E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **に対する** *target_name* **表のロード・ユーティリティー** *utility_name* **が失敗しました。このロード・ユーティリティーからの詳細メッセージは次のとおりです。** *text*。

**説明:**
ロード・ユーティリティーが、Q サブスクリプションでエラーを検出しました。 Q サブスクリプションをアクティブにできません。

**ユーザーの処置:**
戻りコードおよび SQL 戻りコードに関しては、ロード・ユーティリティーからの詳細メッセージを参照してください。問題を修正してから、Q サブスクリプションをアクティブにします。問題が解決されない場合には、別のロード・ユーティリティーを選択してください。

---

**ASN7531I** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **に対して、ロード・ユーティリティー** *utility_name* **が Q アプライ・プログラムによって選択されました。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
この Q サブスクリプションのロード・フェーズは、内部です。レプリケーション環境で最善のユーティリティーであるので、 Q アプライ・プログラムはこのロード・ユーティリティーを選択しました。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** ターゲットは、DB2 for Linux、DB2 for UNIX、または DB2 for Windows のバージョン 8 以降であり、ソース・ニックネームが定義されているか、またはターゲット・システムまたはターゲット・データベースに対してローカルであるソースです。

**1** ターゲットは DB2 for Linux、DB2 for UNIX、または DB2 for Windows のバージョン 8 以降であり、ソースはニックネームを持たず、ターゲットに対してリモートです。

**2** ターゲットは、DB2 UDB for z/OS バージョン 7 以降です。

**3** ターゲットは、DB2 for Linux、DB2 for UNIX、または DB2 for Windows のバージョン 8 以降であり、ソース・ニックネームが定義されているか、またはソースは、ターゲットに対してローカルです。あるいは、ターゲットは、DB2 UDB for z/OS バージョン 7 以降です。

**4** ターゲットは、DB2 for Linux、DB2 for UNIX、または DB2 for Windows のバージョン 8 以降です。

**5** ターゲットは、DB2 for Linux、DB2 for UNIX、または DB2 for Windows のバージョン 8 以降であり、ターゲットはニックネームです。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7532E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **に対して、Q アプライ・プログラムが** *utility_type* **ロード・ユーティリティーを選択できませんでした。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** ターゲットは分散されますが、DB2 for Linux、DB2 for UNIX、または DB2 for Windows のバージョン 8 以降ではありません。

**1** ターゲットは、DB2 UDB for z/OS バージョン 7 以降ではありません。

**2** ターゲットは分散され、DB2 for Linux、DB2 for UNIX、 DB2 for Windows のバージョン 8 以降ですが、ソースにはニックネームがなく、ターゲット・システムまたはデータベースに対してローカルではありません。

**3** ターゲットが分散されません。

**4** ロード・タイプが無効です。

**5** ターゲットはニックネームで、指定されるロード・タイプは無効です。ニックネームの場合、有効なロード・タイプは EXPORT/IMPORT です。

**ユーザーの処置:**
戻りコードおよび SQL 戻りコードに関しては、ユーティリティーからの詳細メッセージを参照してください。この Q サブスクリプションに対して別のロード・タイプを選択してください。 Q サブスクリプションをアクティブにします。

---

**ASN7533E** *program_name* **:** *program_identifier* **: ターゲット表の** *column_name* **列は、 Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*)**の一部ではなく、なおかつ NULL 可能ではないかデフォルト値がありません。**

**説明:**
Q サブスクリプションの一部ではないターゲット表内の列は、 NULL 可能であるか、またはデフォルト値がなければなりません。

**ユーザーの処置:**
ターゲットの属性を変更するか、または列を Q サブスクリプションに追加してください。 Q サブスクリプションを非アクティブにしてから、アクティブにします。

---

**ASN7534E** *program_name* **:** *program_identifier* **: ストアード・プロシージャーは、理由** *reason code* **のために無効です。**

**説明:**
ターゲットとして使用されるストアード・プロシージャーは、4 つの必須パラメーターと、ソース列に逆マップされるパラメーターを定義しなければなりません。

以下は、有効なストアード・プロシージャーの例です。

```
CREATE TABLE mySource (Parm1 INT NOT
NULL,
Parm2 VARCHAR(20) NOT NULL, Parm3 TIMESTAMP,
Parm4 DATE, Parm5 CHAR(2),
PRIMARY KEY(Parm1, Parm2));
CREATE statement for stored procedure:
CREATE PROCEDURE storedprocedure_name(
INOUT operation integer,
IN suppression_ind VARCHAR(size),
IN src_commit_lsn CHAR(10),
IN src_trans_time TIMESTAMP,
IN XParm1 INT NOT NULL,
IN Parm1 INT NOT NULL,
IN XParm2 VARCHAR(20)
NOT NULL IN Parm2 VARCHAR(20)
NOT NULL,
IN Parm3 TIMESTAMP,
IN Parm4 DATE,
IN Parm5 CHAR(2) )
```

**0**
ストアード・プロシージャーには、ソース列ごとに 4 つの必須パラメーター (OPERATION、SUPPRESSION_IND、 SRC_COMMIT_LSN、SRC_TRANS_TIME)、および少なくとも 1 つのパラメーターの、少なくとも 5 つのパラメーターを含める必要があります。

**1**
ストアード・プロシージャーの最初のパラメーターは、OPERATION でなければなりません。

**2**
ストアード・プロシージャーの 2 番目のパラメーターは、SUPPRESSION_IND でなければなりません。

**3**
ストアード・プロシージャーの 3 番目のパラメーターは、SRC_COMMIT_LSN でなければなりません。

**4**
ストアード・プロシージャーの 4 番目のパラメーターは、SRC_TRANS_TIME でなければなりません。

**5**
OPERATION パラメーターの INOUT 属性値が、INOUT と等しくありません。

**6**
SUPPRESSION_IND、SRC_COMMIT_LSN、または SRC_TRANS_TIME パラメーターの INOUT 属性値が、IN と等しくありません。

**7**
最初のパラメーターには、パラメーター・モード INOUT がなければなりません。その他すべてのパラメーターには、パラメーター・モード IN がなければなりません。

**8**
キー列の以前の値にマップされるパラメーターが見つかりませんでした。キーの更新にはキー列の以前の値が必要です。キー列の以前の値の名前は、ソース列の名前に文字 `X` の接頭部が付いたものになります。例えばキー・パラメーターの名前が `Col3` の場合は、そのキー・パラメーターの以前の値の名前は `XCol3` でなければなりません。

**9**
ストアード・プロシージャー内のキー列に、キー列の以前の値にマップされるパラメーターがありません。キーの更新にはキー列の以前の値が必要です。キー列の以前の値の名前は、ソース列の名前に文字 `X` の接頭部が付いたものになります。例えばキー・パラメーターの名前が `Col3` の場合は、そのキー・パラメーターの以前の値の名前は `XCol3` でなければなりません。

**10**
4 つの必須パラメーターのうちのいずれかが、予期されるデータ・タイプのものではありませんでした。予期されるデータ・タイプは、以下のとおりです。

1. **OPERATION**: INTEGER
2. **SUPPRESSION_IND**: VARCHAR(x)
3. **SRC_COMMIT_LSN**: CHAR(10)
4. **SRC_TRANS_TIME**: TIMESTAMP

**ユーザーの処置:**

理由コードに対応するアクションを実行してストアード・プロシージャーを変更してください。ストアード・プロシージャーを再登録し、Q サブスクリプションを再始動してください。

**0** 最初のパラメーターとして、必須パラメーターの OPERATION、 SUPPRESSION_IND、SRC_COMMIT_LSN、 SRC_TRANS_TIME を追加してください。次に、主キー列ごとにそのデータ・タイプと一致するパラメーターを 1 つ、更新されるキー列の変更前イメージに該当するパラメーターを 1 つ、それぞれ追加します。その後、データ・タイプがソース列と一致する非キー列ごとに、パラメーターを 1 つ追加してください。

**1** ストアード・プロシージャーの最初のパラメーターは、OPERATION でなければなりません。

**2** ストアード・プロシージャーの 2 番目のパラメーターは、SUPPRESSION_IND でなければなりません。

**3** ストアード・プロシージャーの 3 番目のパラメーターは、SRC_COMMIT_LSN でなければなりません。

**4** ストアード・プロシージャーの 4 番目のパラメーターは、SRC_TRANS_TIME でなければなりません。

**5** OPERATION パラメーターを INOUT として宣言してください。

**6** パラメーター SUPPRESSION_IND、SRC_COMMIT_LSN、SRC_TRANS_TIME を、IN パラメーターとして宣言してください。

**7** 最初のパラメーターのパラメーター・モードが INOUT になるようにし、他のすべてのパラメーターのパラメーター・モードが IN になるようにしてください。

**8** ストアード・プロシージャーのパラメーターが、各キー列の以前の値にマップされるようにしてください。欠落しているパラメーターを追加して、すべてのキー列で以前の値を扱えるようにしてください。

**9** ストアード・プロシージャーのパラメーターが、各キー列の以前の値にマップされるようにしてください。パラメーターを追加して、すべてのキー列で以前の値を扱えるようにしてください。

**10** 4 つの必須パラメーターのデータ・タイプを、次のようにしてください。

1. **OPERATION**: INTEGER
2. **SUPPRESSION_IND**: VARCHAR(x)
3. **SRC_COMMIT_LSN**: CHAR(10)
4. **SRC_TRANS_TIME**: TIMESTAMP

---

**ASN7535E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 多方向レプリケーションで、Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **が IBMQREP_TARGETS 表で無効です。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
以下は、有効な理由コードの値です。

**0** Q サブスクリプションが、IBMQREP_TARGETS 表に存在しません。

**1** SUBTYPE 値が「P」(ピアツーピア) に設定されていますが、 CONFLICT_RULE 値が「V」(バージョンの検査) に設定されていないか、または CONFLICT_ACTION 値が「F」(変更を強制) に設定されていません。

**2** IBMQREP_SUBS 表には、この Q サブスクリプション・グループと同じメンバーの Q サブスクリプションがありません。

**3** SUBGROUP 列が NULL です。

**4** IBMQREP_TARGETS 表の SOURCE_NODE または TARGET_NODE、あるいはその両方が、IBMQREP_SUBS 表の値と一致しません。

**5** 特定の SUBGROUP 列に関して、IBMQREP_SUBS 表の Q サブスクリプション定義が、 IBMQREP_TARGETS 表の Q サブスクリプション定義と一致しません。

**6** IBMQREP_SUBS 表および IBMQREP_TARGETS 表には同じ数の Q サブスクリプションがありますが、Q サブスクリプションの SUBGROUP 値が一致しません。

**7** IBMQREP_TARGETS 表には、この Q サブスクリプション・グループと同じメンバーの Q サブスクリプションがありません。

**8** 以下の 1 つ以上の条件が存在します。

- ターゲット表が存在しません。
- 次のバージョン列が存在しません。「ibmqrepVERTIME」、「ibmqrepVERNODE」。
- バージョン列は存在しますが、データ・タイプまたはデフォルトが間違っています。

**9** IBMQREP_TARGETS 表で、 SUBTYPE が「B」(双方向) の場合には CONFLICT_RULE 値「V」(バージョンの検査) が許可されません。 この競合規則は、SUBTYPE「P」(ピアツーピア) に対してのみ有効です。双方向レプリケーションの Q サブスクリプションの場合、有効な競合規則値は「K」、「C」、または「A」です。

**10** 指定された SUBGROUP および TARGET_NAME に関して、 IBMQREP_SUBS 表で定義された Q サブスクリプションが複数あります。双方向レプリケーションの場合 (SUBTYPE='B')、指定された SUBGROUP に関して、 IBMQREP_SUBS 表に Q サブスクリプションが 1つのみ、および IBMQREP_TARGETS 表に 1 つでなければなりません。

**ユーザーの処置:**
説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

- 理由コード 8 の場合: ターゲット表が存在し、適切な列があることを確認してください。適切な列がない場合には、レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して適切な列のある表を作成するか、または手動で適切な列を作成します。 ターゲット表が存在しない場合、レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して、ノードに対して Q サブスクリプションを再定義し、ノードからも Q サブスクリプションを再定義します。
- その他すべての理由コードの場合: レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して、このノードに対して Q サブスクリプションを再定義し、このノードからも Q サブスクリプションを再定義します。

---

**ASN7536E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(送信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **が、IBMQREP_SUBS 表で適切に定義されていません。 Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **を SUBGROUP に追加しようとした際に、エラーが検出されました。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
新規ノードを Q サブスクリプション・グループに追加しようとした際に、エラーが検出されました。 新規ノードからアクティブなメンバーになった Q サブスクリプションが、 IBMQREP_SUBS 表で正しく定義されていません。理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** Q サブスクリプション・グループ内の Q サブスクリプション同士に、同じ SUBTYPE 値がありません。サブスクリプション・グループのすべての Q サブスクリプションには、同じ SUBTYPE 値がなければなりません。 SUBTYPE 値は、「P」(ピアツーピア) か「B」(双方向) であることが必要です。

**1** IBMQREP_SUBS 表の SOURCE_NODE が、IBMQREP_TARGETS 表の TARGET_NODE と同じではありません。

**2** IBMQREP_SUBS 表の GROUP_MEMBERS 列が NULL ではありません。

**3** IBMQREP_SUBS 表の STATE 列は「I」(非アクティブ) でなければなりません。

**4** IBMQREP_SUBS 表の TARGET_NODE 列が、複数の Q サブスクリプションで同じ値でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。

---

**ASN7537E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 多方向レプリケーションで、Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **が IBMQREP_TARGETS 表で無効です。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** Q サブスクリプション同士に、同じ SUBTYPE 値はありません。グループの Q サブスクリプションには、同じ SUBTYPE でなければなりません。 SUBTYPE は、「P」(ピアツーピア) か「B」(双方向) であることが必要です。

**1** IBMQREP_TARGETS 表の TARGET_NODE が、新規メンバー Q サブスクリプションのノードではありません。

**2** この Q サブスクリプションの状態が「I」(非アクティブ) ではありません。 STATE 列は、メンバーである Q サブスクリプションの IBMQREP_TARGETS 表では「I」にしてください。

**4** SUBGROUP 内の複数の Q サブスクリプショ

ンで、 IBMQREP_TARGETS 表の SOURCE_NODE の値が同じです。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して、このノードに対して Q サブスクリプションを再定義し、このノードからも Q サブスクリプションを再定義します。

---

**ASN7538E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 多方向レプリケーションの場合、 Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **の IBMQREP_TARGETS 表内に行がないか、またはこのサーバーの IBMQREP_SUBS 表でこの Q サブスクリプションと一致するものがありません。**

**説明:**
Q サブスクリプションが、ピアツーピア・レプリケーションまたは双方向レプリケーションに関して正しく定義されていません。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して、このサーバーの表に対して Q サブスクリプションを再定義して、このサーバーの表から Q サブスクリプションを再定義します。

---

**ASN7539E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 同じ表のすべての Q サブスクリプションを非アクティブにした際、この Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **) が非アクティブ状態ではなく、このサーバーにおいて IBMQREP_SUBS 表に対応する Q サブスクリプションがありません。**

**説明:**
一部の Q サブスクリプションが見つかりません。ある Q サブスクリプションは削除されたか、または最初から作成されていなかった可能性があります。 このノードに追加される Q サブスクリプションおよびこのノードから追加される Q サブスクリプションすべては、非アクティブにはできません。

**ユーザーの処置:**
Q サブスクリプションがこの論理表からすべての物理表へと十分に接続されていないため、適切に定義されませんでした。 ですから、非アクティブ化プロトコルによって、すべての Q サブスクリプションを自動的に非アクティブにして、このノードから追加することはできません。

変更がこの表に複製されていないこと、またはこの表から複製されていないことを確認するには、以下のステップを実行してください。

1. このサーバーで、この論理表の IBMQREP_SUBS 表内にある Q サブスクリプションに CAPSTOP シグナルを挿入します。まだ非アクティブになっていない Q サブスクリプションに対してのみ、このステップを実行してください (例えば、アクティブ状態かロード状態にあるかもしれません)。すべての Q サブスクリプションが非アクティブになるまで、 1 度に 1 つの Q サブスクリプションに対してシグナルを挿入します。
2. 他のすべてのサーバーにある Q サブスクリプションすべてに対して前述のステップを繰り返し、変更を最初のサーバーに複製します。

---

**ASN7540I** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **で、ターゲット** *target_name* **上の RI 制約** *constraint_name* **がドロップされました。**

**説明:**
Q サブスクリプションは、内部または外部のいずれかのロード・フェーズで指定されます。ロードの際、参照制約がターゲット表からドロップされ、IBMQREP_SAVERI 表に保管されます。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7541I** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **で、 RI 制約** *constraint_name* **がターゲット** *target_name* **に追加されました。**

**説明:**
Q アプライ・プログラムは Q サブスクリプションのロードを終了し、参照制約を再びターゲットに追加しました。 参照制約が、IBMQREP_SAVERI 表から除去されました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7542E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **の初期化の際に、この Q サブスクリプションと一致する Q サブスクリプションが IBMQREP_SUBS 表にありませんでした。**

**説明:**
IBMQREP_SUBS 表の Q サブスクリプション定義が、新規メンバーの初期化の際にドロップされました。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して、ノードに対して Q サブスクリプションを再定義し、ノードからも Q サブスクリプションを再定義します。

---

**ASN7543W** *program_name* **:** *program_identifier* **: 受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **のメモリー限界を変更するため、REINTIQ コマンドが発行されました。 しかし、メモリー限界** *memory_limit* **MB は変更されませんでした。**

**説明:**
受信キューのメモリー限界を変更するために REINTQ コマンドが発行されましたが、指定されたメモリー限界値は既存の値と同じでした。

**ユーザーの処置:**
メモリー限界を現行値から変更する場合には、この受信キューに対して REINITQ コマンドを再発行して新規メモリー限界を MB 単位で指定します。

---

**ASN7544W** *program_name* **:** *program_identifier* **: 受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ queue map** *queue_map_name* **のエージェントの数を変更するために REINITQ コマンドが発行されました。しかし、エージェントの数** *number* **は変更されませんでした。**

**説明:**
受信キューのアプライ・エージェントの数を変更するために REINITQ コマンドが発行されましたが、指定されたエージェントの数は既存の数と同じでした。

**ユーザーの処置:**
この受信キューのエージェントの数を変更する場合には、受信キューに対して REINITQ コマンドを再発行して、エージェントの新しい数を指定してください。

---

**ASN7545W** *program_name* **:** *program_identifier* **: 受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **に対する REINITQ コマンドが、エージェントの数がゼロに減らされてしまうので処理されませんでした。**

**説明:**
エージェントの数を変更するために REINITQ コマンドが発行されましたが、変更後に残るエージェントが 0 になります。 そのため、REINITQ コマンドが処理されませんでした。

**ユーザーの処置:**
この受信キューに対して、エージェントの正しい数が指定されたことを確認してください。

---

**ASN7547I** *program_name* **:** *program_identifier* **: REINITQ コマンドが正常に処理されました。受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **のエージェントの数が、** *number* **から** *number* **に減りました。**

**説明:**
受信キューのエージェントの数を減らすために発行した REINITQ コマンドが、正常に処理されました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7548I** *program_name* **:** *program_identifier* **: REINITQ コマンドが正常に処理されました。受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **のエージェントの数が、 number から** *number* **に増えました。**

**説明:**
エージェントの数を増やすために発行した REINITQ コマンドが、正常に処理されました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7549I** *program_name* **:** *program_identifier* **: REINITQ コマンドが正常に処理されました。受信キュー** *queue_name* **、レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **のメモリー限界が、** *memory_limit* **MB から** *memory_limit* **MB に設定されました。**

**説明:**

REINITQ コマンドが正常に発行され、この受信キューのメモリー限界が増加しました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7550E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q アプライ・プログラムは、トランザクション (受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **の最後のメッセージとして** *msgA* **タイプのメッセージを予期していましたが、** *msgB* **タイプのメッセージが検出されました。**

**説明:**
内部の不整合が検出されました。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。

---

**ASN7551E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q アプライ・プログラムは、受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **上のメッセージ番号がスキップしているのを検出しました。メッセージ ID** *message_ID* **が見つかると予想していましたが、メッセージ ID** *message_ID* **を読み取りました。Q アプライ・プログラムは、予想したメッセージが見つかるまではどのメッセージも処理できません。**

**説明:**
Q アプライ・プログラムは、予想したメッセージが見つかるまでは今後加えられる変更を複製することはできません。既に受信したメッセージに属する変更はすべて適用されます。

**ユーザーの処置:**
Q キャプチャー・プログラムおよび Q アプライ・プログラム間でメッセージを送信するのに使用される、すべての WebSphere MQ キュー・マネージャーの送達不能キューすべてにおいて、予想されるメッセージ ID を持つメッセージを探します。メッセージを回復すると、受信キューに書き込んで、WebSphere MQ メッセージ・ヘッダー情報 (特にメッセージ ID) を保持します。メッセージを回復できない場合には、次のステップを実行してください。

1. asnqacmd stopq コマンドを使用して、Q アプライ・プログラムの受信キューからの読み取りを停止します。
2. このレプリケーション・キュー・マップの Q サブスクリプションすべてを非アクティブにします。
3. 送信キューおよび受信キューを空にします。
4. asnqacmd startq コマンドを使用して、Q アプライ・プログラムが受信キューからの読み取りを再開できるようにします。
5. このレプリケーション・キュー・マップの Q サブスクリプションすべてをアクティブにします。

コマンドについて詳しくは、IBM Information Management Software for z/OS Solutions インフォメーション・センターまたは DB2 インフォメーション・センターの 『asnqacmd: 実行中の Q アプライ・プログラムの操作』を参照してください。

---

**ASN7552W** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q アプライ・プログラムが、メッセージ ID** *message_ID* **の受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・マップ** *queue_map_name* **をポーリングしています。**

**説明:**
Q アプライ・プログラムがメッセージ ID でギャップを検出し、そのメッセージ ID が見つかるまでは処理できません。予想されたメッセージ ID のメッセージが送信キューまたは受信キューに書き込まれるまでは、このメッセージは定期的に発行され続けます。

**ユーザーの処置:**
Q キャプチャー・プログラムおよび Q アプライ・プログラム間でメッセージを送信するのに使用される、すべての WebSphere MQ キュー・マネージャーの送達不能キューすべてにおいて、予想されるメッセージ ID を持つメッセージを探します。メッセージを回復すると、受信キューに書き込んで、WebSphere MQ メッセージ・ヘッダー情報 (特にメッセージ ID) を保持します。メッセージを回復できない場合には、次のステップを実行してください。

1. stopq コマンドを使用して、Q アプライ・プログラムの受信キューからの読み取りを停止します。
2. このレプリケーション・キュー・マップの Q サブスクリプションすべてを非アクティブにします。
3. 送信キューおよび受信キューを空にします。
4. startq コマンドを使用して、Q アプライ・プログラムが受信キューからの読み取りを再開できるようにします。
5. このレプリケーション・キュー・マップの Q サブスクリプションすべてをアクティブにします。

---

**ASN7553E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q アプライ・プログラムが受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **からの読み取りを停止しました。最後に読み取ったメッセージ (timestamp** *message_seq*) **よりも古いメッセージ (timestamp** *message_seq*) **が見つかったためです。**

**説明:**
メッセージ ID にはタイム・スタンプ (整数フォーマット) が含まれます。 Q アプライ・プログラムは、読み取ったメッセージよりも古いメッセージを検出する場合、キューからの読み取りを続けることができません。このエラーは、おそらく次のいずれかの理由によって生じます。

- 同一の受信キューに対して、2 つの Q キャプチャー・プログラムの書き込みメッセージが存在する。このセットアップはサポートされていません。 Q アプライ・プログラムは、任意の指定された受信キュー上にある、単一の Q キャプチャー・プログラムからのメッセージであると予想しています。
- Q キャプチャー・プログラムが実行しているシステム・クロックが正しい時刻に戻され、 Q キャプチャー・プログラムがコールド・スタートした、あるいはウォーム・スタートしたものの、このレプリケーション・マップ・キューに対するアクティブな Q サブスクリプションがなかった。

**ユーザーの処置:**
同じ受信キューに対して複数の Q キャプチャー・プログラムが書き込んでいる場合、以下のステップを実行してください。

1. 受信キューをフィードするすべての Q サブスクリプションを非アクティブにします。
2. セットアップを再定義して、各 Q キャプチャー・プログラムからのメッセージが別個の受信キューに送られるようにします。
3. 無効なセットアップに含まれていた送信キューおよび受信キューすべてからの全メッセージを削除します。
4. startq コマンドを発行して、 Q アプライ・プログラムが受信キューからの読み取りを再開できるようにします。
5. すべての Q サブスクリプションをアクティブにします。

ソースでシステム・クロックを正しい時間に戻す場合には、次のステップを実行します。

1. Q キャプチャー・プログラムを停止します。
2. クロックを本来の時間 (または遅い時間) にリセットするか、または現行の時間が本来の時間になるまで待ちます。
3. 受信キューをフィードするすべての Q サブスクリプションを非アクティブにします。
4. 無効なセットアップに含まれていた送信キューおよび受信キューすべてからの全メッセージを削除します。
5. startq コマンドを発行して、 Q アプライ・プログラムが受信キューからの読み取りを再開できるようにします。
6. すべての Q サブスクリプションをアクティブにします。

---

**ASN7554W** *program_name* **:** *program_identifier* **: 従属 Q サブスクリプション** *name* **が非アクティブ (I) 状態にあるため、 RI 制約** *constraint_name* **を Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **のターゲット** *target_name* **に追加できませんでした。制約は IBMQREP_SAVERI 表に保管されました。 引き続きプログラムは、RI 制約を使用しないで変更を Q サブスクリプションに適用します。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
従属 Q サブスクリプションが非アクティブ状態にあるかどうか判別します。アクティブにされていない場合には、アクティブにします。 エラーのために非アクティブ状態にある場合は、 Q アプライ診断ログ・ファイルを調べてエラーを修正してください。 従属 Q サブスクリプションがアクティブになると、 Q アプライ・プログラムは IBMQREP_SAVERI 表に保管されていた RI 制約を追加します。

---

**ASN7555W** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name* **レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **のターゲット** *table_name* **には、 Q アプライ・プログラムが認識していない表を使用している RI 制約** *constraint_name* **があるため、そのターゲットに RI 制約を追加できません。**

**説明:**
Q アプライ・プログラムが、 Q サブスクリプションに RI 制約を追加しようとした際に SQLCODE 667 を検出

しました。 Q アプライ・プログラムが従属表を認識していない可能性があります。従属表で定義された Q サブスクリプションがないか、または Q サブスクリプションは定義されているものの CAPSTART シグナルが全く発行されなかったためです。従属 Q サブスクリプションがアクティブになると、 Q アプライ・プログラムは IBMQREP_SAVERI 表に保管されていた RI 制約を追加します。

**ユーザーの処置:**
従属表を見つけ、その表で Q サブスクリプションを定義します。 Q サブスクリプションが定義されている場合には、 CAPSTART シグナルを発行してください。

---

**ASN7557W** *program_name* **:** *program_identifier* **: レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **の受信キュー** *queue_name* **のメモリー限界が低すぎます。 現在** *memory_limit* **MB ですが、** *memory_limit* **MB 以上でなければなりません。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
指定されたレプリケーション・キュー・マップの、IBMQREP_RECVQUEUES 表内の MEMORY_LIMIT 値を大きくしてください。

---

**ASN7558E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 予備キュー** *queue_name* **が満杯です。 Q サブスクリプション** *name***。レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name***。**

**説明:**
予備キューのメッセージ数が、この予備キューの MAXDEPTH 属性に設定された数に達しました。予備キューがフルで、Q アプライ・プログラムが書き込むことができません。Q アプライ・プログラムは依然としてターゲット表のロードを行っていると考えられますが、対応するソース表には相当の更新が加えられています。

**ユーザーの処置:**
可能なら、Q キャプチャー・プログラムを停止します。必要であれば、予備キューの MAXDEPTH 属性の値を増やしてください。

---

**ASN7559W** *program_name* **:** *program_identifier* **: レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **の受信キュー** *queue_name* **のメモリー限界が高すぎます。 現在** *memory_limit* **MB ですが、** *memory_limit* **MB 未満でなければなりません。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
指定されたレプリケーション・キュー・マップの、IBMQREP_RECVQUEUES 表内の MEMORY_LIMIT 値を下げてください。

---

**ASN7583W** *program_name* **:** *program_identifier* **: LOB データを取り出す際にエラーが発生しました。 Q アプライ・プログラムが、LOBId** *lobid* **の LOB メッセージを見つけられませんでした。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
キューからすべてのメッセージをドレーンし、 Q サブスクリプションをアクティブにします。

---

**ASN7584E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name***、レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name***) が、ストアード・プロシージャー・タイプと定義されています。ストアード・プロシージャー** *proc_name* **が見つかりませんでした。**

**説明:**
IBMQREP_TARGETS で定義された名前のストアード・プロシージャーが見つからないため、またはストアード・プロシージャーが登録されていないため、 Q サブスクリプションはアクティブにできません。

**ユーザーの処置:**
IBMQREP_TARGETS 表の TARGET_OWNER、TARGET_NAME 列のストアード・プロシージャー・スキーマおよび名前を調べてください。「CREATE PROCEDURE」ステートメントを使用して、ストアード・プロシージャーを登録します。

---

**ASN7586E** *program_name* **:** *program_identifier* **: レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **の受信キュー** *queue_name* **のメモリー限界** *memory_limit* **MB が低すぎます。メモリー限界は、入力メッセージ・サイズ** *message_size* **の少なくとも 3 倍でなければなりません。**

**説明:**
memory_limit は、Q アプライ・プログラムが適用されるトランザクションを保管するのに使用するメモリーの量です。 少なくとも入力メッセージ 1つを含められる大きさであることが必要です。

**ユーザーの処置:**
IBMQREP_SENDQUEUES 表内の入力送信キューの最大メッセージ・サイズを調べてください。メモリー限界は、多くのメッセージを含めることができるようにする必要があります。そうしないと、パフォーマンスが悪くなります。 そのためには、IBMQREP_RECVQUEUES 表の memory_limit 値を増やし、その後 REINITQ コマンドを発行するか、または Q アプライ・処理を停止してから開始します。

---

**ASN7587E** *program_name* **:** *program_identifier* **: レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **の受信キュー** *queue_name* **のメモリー限界** *memory_limit* **MB が高すぎます。メモリー限界は、** *memory_limit* **MB 未満でなければなりません。**

**説明:**
受信キューのメモリー限界が高すぎます。

**ユーザーの処置:**
指定されたレプリケーション・キュー・マップの、IBMQREP_RECVQUEUES 表内の MEMORY_LIMIT 値を下げてください。

---

**ASN7588E** *program_name* **:** *program_identifier* **: 受信キュー** *queue_name***、レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **に対する startq コマンドを完了できません。理由コード:** *reason_code*

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** キューが既に処理されています。

**1** IBMQREP_TARGETS 表には、このキューに関する情報がありません。

**2** プログラムが、まだ初期化フェーズにあります。

**3** IBMQREP_RECVQUEUES 表の MAXAGENTS_CORRELID 列の値が正しくありません。

**ユーザーの処置:**
説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

**0** アクションは不要です。

**1** このキューの情報に関して、IBMQREP_RECVQUEUES 表を調べてください。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してください。

**2** 後で、コマンドを再発行してください。

**3** IBMQREP_RECVQUEUES 表の MAXAGENTS_CORRELID 列の値を変更して、コマンドを再発行します。この値は、NUM_APPLY_AGENTS 値より小さくする必要があります。

---

**ASN7589E** *program_name* **:** *program_identifier* **: レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **の受信キュー** *queue_name* **が、IBMQREP_RECVQUEUES 表に見つかりません。**

**説明:**
この受信キューの状態を更新しようとする際に、 Q アプライ・ブラウザーは受信キュー名に対応する項目を IBMQREP_RECVQUEUES 表で見つけることができません。

**ユーザーの処置:**
IBMQREP_RECVQUEUES 表の RECVQ 列を調べてください。レプリケーション管理ツールの 1 つを使用して Q サブスクリプションを再定義してから、 Q サブスクリプションを再びアクティブにします。

---

**ASN7590I** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q アプライ・プログラムが、レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **のキュー** *queue_name* **からの読み取りを停止しました。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** Q アプライ・プログラムが AUTOSTOP パラメーター・オプションを使用して実行中に、空の受信キューを検出しました。

**1** Q アプライ・ブラウザーが、STOPQ コマンドを受け取りました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7591I** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q アプライ・プログラムが、受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **に対してアプライ・エージェント** *agent_name* **を開始しました。**

**説明:**
Q アプライ・エージェントがこの受信キューに対して開始されました。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7592E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q アプライ・プログラム (Q サブスクリプション** *name*、**キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **が、メッセージ** *message_type* **のフィールド** *field_name* **のコード・ページの変換中に、エラーを検出しました。オリジナル値は、** *field_value* **です。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムによって送信され、Q アプライ・プログラムによって処理される内部メッセージ内の文字フィールドを、 Q アプライ・プログラムのコード・ページ (コード・ページ・コードを CCSID と言います) に変換できません。不要な変換を行わないで済むよう、ソース・データベース、 Q キャプチャー・プログラム、Q アプライ・プログラム、およびターゲット・データベースを同じコード・ページで稼働することを強くお勧めします。この場合、コード・ページを別のコード・ページに変換するのに使用される ICU ライブラリーは、 Q キャプチャー・プログラムのコード・ページを Q アプライ・プログラムのコード・ページに変換することはできません。DB2 の場合、コマンド db2set DB2CODEPAGE=[CCSID] を使って、アプリケーション・コード・ページを設定することができます。

**ユーザーの処置:**
コマンドを発行して、Q アプライ・プログラムのコード・ページを Q キャプチャー・プログラムのコード・ページに設定するか、または ICU ライブラリーで変換可能なコード・ページに設定します。

---

**ASN7593E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **の列** *column_name* **にサポートされていないデータ・タイプが存在するので、複製できません。データ・タイプ・コードは、** *data_type* **です。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
列のデータ・タイプをチェックし、DB2 が、ターゲットでこのデータ・タイプをサポートしていることを確認します。サポートされていないデータ・タイプについては、 Q レプリケーション資料も調べてください。

---

**ASN7594W** *program_name* **:** *program_identifier* **: メッセージ・フォーマットが正しくないため、Q アプライ・プログラムが受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **からメッセージを除去しました。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** Q キャプチャー・プログラムが送信したメッセージは、イベント発行を意図した XML メッセージです。 Q アプライ・プログラムではサポートされていません。

**1** Q アプライ・プログラムは、メッセージが Q キャプチャー・プログラムから送信されたことを識別できませんでした。

**ユーザーの処置:**
説明の中の理由コードを調べ、適切なアクションを実行してください。

**0** IBMQREP_SENDQUEUES 表で、このレプリケーション・キュー・マップの送信キューのメッセージ・フォーマットを「C」に変更してください。

**1** Q キャプチャー・プログラム以外のプログラムが、指定されたキューにメッセージを書き込むと、プログラムが停止します。 このキューは、1 つの Q キャプチャー・プログラム専用に使用される必要があります。他のプログラムがこのキューを使用していない場合には、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。アナライザーのレポートを提出してください。

**ASN7595W** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q アプライ・プログラムが Q サブスクリプションの非アクティブなメッセージを受け取りましたが、 SUB_ID** *SUB_ID* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **) を見つけることができないか、またはまたは Q サブスクリプションが非アクティブ状態です。**

**説明:**
Q アプライ・プログラムは、入力メッセージに対応する Q サブスクリプションを複製、またはロードしていません。

**ユーザーの処置:**
Q サブスクリプションが既に非アクティブ (IBMQREP_TARGETS 表で状態が「I」) の場合には、何も行う必要はありません。 Q サブスクリプションの SUB_ID が IBMQREP_TARGETS 表で見つからない場合、 Q サブスクリプションは Q キャプチャー・プログラムに対してのみ定義されます。ターゲット情報が Q サブスクリプションの一部となるように、Q サブスクリプションを定義します。

---

**ASN7597E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **が、競合アクションまたはエラー・アクションのために使用不可にされようとしています。今後のトランザクションでの、この Q サブスクリプションの行の変更はスキップされます。**

**説明:**
Q アプライ・プログラムがトランザクションでの変更を適用しているときにエラーまたは競合を検出したため、Q サブスクリプションは、この Q サブスクリプションに指定される競合アクションまたはエラー・アクションに基づいて、使用不可になります。

**ユーザーの処置:**
競合またはエラーに関しては、IBMQREP_EXCEPTIONS 表を調べてください。問題を修正してから、Q サブスクリプションを再始動してください。
IBMQREP_EXCEPTIONS 表に行がない場合は、行が削除されているか、または初期ロード・プロセスでエラーが発生しています。ロード・プロセスでは、IBMQREP_EXCEPTIONS 表にこれ以上の情報は保管されません。代わりに、Q アプライ・ログ・ファイル (現在のログ・ファイルまたは前のログ・ファイル) に情報が保管されます。

---

**ASN7598E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **のトランザクション・メッセージには、列の以前の値が入っていません。**

**説明:**
Q サブスクリプションは IBMQREP_SUBS 表では before_values に「N」をおそらく指定していますが、IBMQREP_TARGETS 表の conflict_rule は「C」または「A」を指定しています。このような構成は無効です。IBMQREP_SUBS 表を CAPSTOP コマンドおよび CAPSTART コマンドを発行しないで変更した場合に、この構成になることがあります。

**ユーザーの処置:**
Q サブスクリプションが正しく定義されていることを確認してください。 Q サブスクリプションを正しく定義してから、 CAPSTOP を発行して、その後 CAPSTART を発行します。

---

**ASN7605I** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **はアクティブですが、ロード・フェーズの従属 Q サブスクリプションがあるため、 RI 制約をターゲット** *target_name* **に再び追加できませんでした。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7606I** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **がアクティブです。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

**ASN7607I** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **がターゲットのロードを終了しました。変更は、スピル・キュー** *queue_name* **から適用されます。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7608I** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムが Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **のロードを終了し、 Q キャプチャー・プログラムに通知しました。**

**説明:**
メッセージ・テキストを参照してください。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7609W** *program_name* **:** *program_identifier* **: ソースとターゲットのコード・ページの違いのため、受信キュー** *queue_name* **での Q サブスクリプション** *name* **の列** *name* **の変換されたデータの長さが、ターゲット列の長さより長くなっています (変換されたデータの長さは** *number_of_bytes*、**ソース・データの長さは** *number_of_bytes*)。

**説明:**
ソース表とターゲット表で同じコード・ページが使用されていません。Q アプライ・プログラムはコード・ページ変換を実行しましたが、1 つの列のデータが拡張されました。拡張されたデータはターゲット列に適合しないため、データベース・エラーが発生し、それによりこの Q サブスクリプションの Q アプライ・エラー・アクションが起動されます。 Q アプライ・エラー・アクションは、Q アプライ・ログ・ファイルと IBMQREP_APPLYTRACE 表にログとして記録されます。

**ユーザーの処置:**
ターゲット表の列を変更して列の長さを大きくしてください。例えば、列が VARCHAR(10) として宣言されている場合は、VARCHAR(30) に拡張できます。 Q アプライ・ログ・ファイルか IBMQREP_APPLYTRACE 表で、Q アプライ・エラー・アクションが起動された後に発行されるメッセージを調べてください。

---

**ASN7610E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q アプライ・プログラムは列を Q サブスクリプションに追加するメッセージを受信しましたが、SUB_ID** *subscription_identifier* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **がアクティブではありません。**

**説明:**
Q キャプチャー・プログラムに対して AddCol シグナルが発行されたために、Q アプライ・プログラムにメッセージが送信されました。しかし、Q サブスクリプションが開始されていない、エラーのために停止した、ドロップされた、のいずれかの原因により、Q サブスクリプションは Q アプライ・プログラムに認識されていません。

**ユーザーの処置:**
Q アプライ・ログ・ファイルか IBMQREP_APPLYTRACE 表で、関連メッセージを調べてください。例えば、メッセージ ASN7512E がある場合、Q サブスクリプションは開始されていません。また、メッセージ ASN7597E がある場合、Q サブスクリプションは停止していました。 Q サブスクリプションが存在する場合は、再始動してください。Q サブスクリプションが存在しない場合は、作成して開始してください。

---

**ASN7611I** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **で追加された列** *name* **は、ターゲット表** *schema_name.table_name* **にすでに存在しています。**

**説明:**
Q アプライ・プログラムはターゲット表を変更して新しい列を追加しようとしましたが、その新しい列はすでに存在しています。Q アプライ・プログラムはこの列を Q サブスクリプションに追加し、変更の複製を開始します。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7612I** *program_name* **:** *program_identifier* **: 列** *column_name* **が Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ**

*queue_map_name*) **に追加されました。**

**説明:**
Q アプライ・プログラムは AddCol シグナルを正常に処理しました。新しく追加された列の変更が、現在ターゲット表に複製されています。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7613I** *program_name* **:** *program_identifier* **: キューの処理を開始します (受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*)。**アプリケーション 1 バイト・コード・ページ** *CCSID*、**2 バイト・コード・ページ** *CCSID*、**ソース・コード・ページ** *CCSID*、**必要なエンディアン変換** *needed_or_not*、**浮動小数点変換** *encoding*。

**説明:**
このメッセージには、レプリケーション・キュー・マップのコード・ページ情報が含まれます。

**ユーザーの処置:**
この情報から、Q アプライ・プログラムでどのコード・ページ (CCSID) が使用されるかが分かります。またこの情報は、コード・ページ変換に関連した問題をデバッグするときに役立つことがあります。

---

**ASN7614W** *program_name* **:** *program_identifier* **: ローカル・クロックは、レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name* **の受信キュー** *queue_name* **にメッセージを送信しているシステムのクロックから、少なくとも** *number_of_seconds* **秒遅れています。この時間差のために、ピアツーピア構成の行の処理が遅れます。**

**説明:**
Q アプライ・プログラムは、ピアツーピア構成の複製される行のタイム・スタンプが、ローカル時刻より進んでいることを検出しました。矛盾を回避するために、この変更を処理するアプライ・エージェントは、ローカル時刻がその変更自身の時刻と同じになるかそれを超えるまで、変更を適用しません。

**ユーザーの処置:**
ローカル・クロックの時刻を調整してください。ローカル側のオペレーティング・システムおよびソフトウェア・パッケージに、ローカル時刻を調整するためのコマンドがあります。 Q アプライ・プログラムを実行するシステムのローカル時刻を進めて、Q キャプチャー・プログラムを実行するマシンの時刻に合わせる必要があります。クロックを遅らせるのは望ましくありません。

---

**ASN7615W** *program_name* **:** *program_identifier* **: ピアツーピア構成のすべてのキューが開始されているわけではないため、またはキューが非アクティブでハートビート・メッセージを送信していないために、プログラムは IBMQREP_DELTOMB 表を整理できません。**

**説明:**
ピアツーピア構成の Q サブスクリプションとしてアクティブなものがあれば、Q アプライ・プログラムは IBMQREP_DELTOMB 表の行を定期的に削除します。タイム・スタンプが現在行より後になっているトランザクション・メッセージまたはハートビート・メッセージを Q アプライ・プログラムが確認するまで、行は削除されません。キューが処理されていないか、またはメッセージがキューを通過していないか、またはQ キャプチャー・プログラムがメッセージをキューに書き込んでいません。

**ユーザーの処置:**
次のコマンドを使用して、処理されていないキューを再始動してください。

```
asnqacmd APPLY_SERVER=
database_or_subsystem_name
startq=receive_queue_name
```

また、この Q アプライ・プログラムにメッセージを送信するすべての送信キューに、最大 3600 秒 (1 時間) のハートビート値を設定する必要があります。

---

**ASN7616E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **への列追加のメッセージに含まれる LOB データ・タイプの列** *name* **は、ターゲット表** *schema_name* **に存在しません。 表は、** *table_name* **です。**

**説明:**
DB2 for z/OS では、ADDCOL シグナルを発行する前に、Q サブスクリプションに追加する LOB 列 (BLOB、CLOB、DBCLOB) をターゲット表に定義する必要があります。 ADDCOL シグナル内にあった列は、ターゲットに存在しません。

**ユーザーの処置:**
ターゲット表に LOB 列を作成し、ADDCOL シグナルを再発行してください。

**ASN7617E** *program_name* **:** *program_identifier* **:** *schema_name* **のターゲット表定義です。表** *table_name* **は、Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **への列追加のメッセージに含まれる LOB データ・タイプの列** *name* **が不完全です。表の状況は、** *status* **です。**

**説明:**
LOB 列 (BLOB、CLOB、DBCLOB) を Q サブスクリプションに追加する AddCol シグナルが、Q キャプチャー・プログラムに対して発行されました。列は見つかりましたが、列の定義が以下のいずれかの理由で不完全です。

**L** LOB 列に補助表または補助索引が定義されていません。

**P** 表に、1 次索引が欠けています。

**R** 表に、行 ID に必要な索引が欠けています。

**U** 表に、ユニーク・キーに必要な索引が欠けています。

**ユーザーの処置:**
表の状況を確認し、対応する索引を追加することで、ターゲット表に LOB 列を追加するための定義を完成してください。その後、AddCol シグナルを再発行してください。

---

**ASN7618I** *program_name* **:** *program_identifier* **: トランザクション** *LSN* **は、理由コード** *code* **でロールバックされました (エラー・メッセージ SQL0911)。 アプライ・エージェント** *agent_id* **は、Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **の** *operation* **を適用していました。このトランザクションは、デッドロック再試行限度に達するまで再試行されます。**

**説明:**
この情報メッセージ (SQL0911 に対応) は、ロック・タイムアウトまたはデッドロックのために、トランザクションが再試行されることを示しています。理由コード:

**2** トランザクションがロールバックされました。

**68** ロック・タイムアウト

同一トランザクションが複数回再試行されたかどうかを、トランザクション・ログ・シーケンス番号 (LSN) で識別できます。トランザクションは、IBMQREP_APPLYPARMS 表の DEADLOCK_RETRIES の数に達するまで、複数回再試行されます。この限度に達すると、Q アプライ・プログラムはそのレプリケーション・キュー・マップの変更処理を停止します。

**ユーザーの処置:**
ピアツーピア・レプリケーションの場合にのみ、RUNSTATS プログラムをターゲット表と Q アプライ内部表 (IBMQREP_DONEMSG、IBMQREP_SPILLEDROWS、 IBMQREP_DELTOMB) に対して実行してください。

多くの矛盾が予想されるピアツーピア環境では、デッドロックも多いことが予想されます。DEADLOCK_RETRIES 限度をデフォルトより大きい値にすることをお勧めします。 z/OS の場合、ターゲット表と Q アプライ内部表 (IBMQREP_DONEMSG、IBMQREP_SPILLEDROWS、 IBMQREP_DELTOMB) では、行レベル・ロッキングを使用するべきです。データベースまたはサブシステムが生成するデッドロック・イベント・ファイルを使用して、デッドロックの参加者を正確に判別できます。

このレプリケーション・キュー・マップのアプライ・エージェントの数を減らすことで並行性を低下させ、デッドロックの可能性を減らすことも可能です。デッドロックが続くようであれば、ターゲット表に非ユニーク 2 次索引が定義されていて、それがこの Q サブスクリプションに関係していないかどうかを確認してください (非ユニーク索引は、単純な削除ステートメントまたはキー更新ステートメントで EXPLAIN を実行することによって検査できます)。非ユニーク索引が選択されている場合は、レジストリー変数 `db2set DB2_REDUCED_OPTIMIZATION=UNIQUEINDEX` を使用して、並行性を高めるユニーク索引を DB2 オプティマイザーで選択するようにしてください。ただし、この変数はデータベース全体に影響するため、SELECT 照会の速度が低下する可能性があることに注意してください。

---

**ASN7619W** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q アプライ・プログラムは、浮動小数点変換を近似値で行いました。ソースの IEEE 浮動小数点数は、** *value* **です。ターゲット表に適用された z/OS 浮動小数点数は、** *value* **です。**

**説明:**
変更は、2 つの浮動小数点列の間で複製されます。ソースは非 z/OS サーバー、ターゲットは z/OS サーバーです。非 z/OS サーバーでは IEEE 浮動小数点数表記標準が使用されますが、z/OS サーバーでのフォーマットは独自のものです。この 2 つのフォーマットの間の変換は可能です。しかし、あらゆる値を表すことはできない

ため、値によっては近似値が使用されます。この警告が発行されても、レプリケーション構成は変更されず、Q アプライ・エラー・アクションも実行されません。この近似値のため、ターゲット表がソース表と正確に一致しない場合もあります。

z/OS サーバーと非 z/OS サーバーの間で複製を行うときは、主キー列を浮動小数点列にしないようにしてください。これは、浮動小数点値が近似値になってソースとターゲットの間の 1 対 1 のマッピングがくずれることがないようにするためです。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。ユーザー応答は不要です。

---

**ASN7620W** *program_name* **:** *program_identifier* **: プログラムは、受信キュー** *queue_name* **の** *count* **のアプライ・エージェントまたはスピル・エージェントのモニター情報を収集できませんでした。 プログラムは、この情報を次のモニター・インターバル後に報告します。**

**説明:**
Q アプライ・プログラムのモニター・スレッドは、少なくとも 1 つのアプライ・エージェントまたはスピル・エージェントのモニター情報を収集できませんでした。このモニター・インターバルでのモニター・データは信頼性がないため、このモニター・インターバルでのレポートはスキップされます。ただし、データは次のモニター・インターバル後に報告されるので、データが失われることはありません。類似したメッセージが報告され続ける場合は、アプライ・エージェントまたはスピル・エージェントが停止しているか、または内部データ破壊が発生しています。

**ユーザーの処置:**
これが一時的状態であれば、アクションは不要です。追加モニター・サイクルもスキップされる場合は、問題の識別に役立つ追加エラー・メッセージを探して、問題の訂正を試みてください。問題の識別または訂正ができない場合は、Q アプライ・プログラムを停止して開始する必要があります。 Q アプライ・プログラムの停止と開始は、データ・レプリケーションへの影響が最小限になる最適な時間を判別して行ってください。この問題によってレプリケーションが影響を受けることはないので、データ・レプリケーションは継続されています。

---

**ASN7621E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **でのソース列** *name* **は、 理由コード** *code* **のために、ターゲット列** *name* **にマップされません。**

**説明:**
Q アプライ・プログラムは、Q サブスクリプションを活動化しているときに、ソース列とターゲット列の互換性がないことを検出しました。そのため、Q サブスクリプションは開始されません。

**1** ソースとターゲットのデータ・タイプのミスマッチ。

**2** ソースとターゲットの長さのミスマッチ。文字データ・タイプの場合は、ターゲット列の長さはソースより長いか等しくなければなりません。 GRAPHIC から CHAR (または VARGRAPHIC から VARCHAR) に複製する場合は、ターゲット列の長さはソース列の少なくとも 2 倍でなければなりません (GRAPHIC および VARGRAPHIC データ・タイプは 2 バイトであるため)。

**3** NULL から NOT NULL への複製は許可されません。

**4** LONG VARCHAR から VARCHAR に複製する場合は、VARCHAR 列の長さを最大サイズにする必要があります。

**5** Q サブスクリプションは双方向またはピアツーピア構成になっていますが、ソースとターゲットのデータ・タイプか列の長さがマッチングしません。

**ユーザーの処置:**
ターゲット列またはソース列 (あるいはその両方) を、互換性がとれるように変更してください。 Q サブスクリプションを再作成し、再始動してください。

---

**ASN7622W** *program_name* **:** *program_identifier* **: ターゲット列** *name* **にマップされるソース列** *name* **は、ターゲットより長くなっています。切り捨てが発生する可能性があります。Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*)。

**説明:**
VARCHAR 列の最大長が、LONG VARCHAR 列の長さより短くなっています。受信データによっては、複製中に切り捨てが行われる可能性があります。

**ユーザーの処置:**
データ切り捨てを許容できない場合は、ターゲット列を LONG VARCHAR として作成してください。その後、Q サブスクリプションを再定義し、再始動してください。切り捨てを許容できる場合は、アクションは不要です。

---

**ASN7623E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q アプライ・プログラムは、Q サブスクリプション** *name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_ma-_name*) **への AddCol シグナルを処理できません。ターゲットは ALTER ステートメントをサポートしないニックネームであり、追加する列** *name* **は、ニックネーム定義に組み入れられていません。**

**説明:**
ニックネームがターゲットになっている Q サブスクリプションへの AddCol シグナルが、Q キャプチャー・プログラムに対して発行されました。 Q アプライ・プログラムはニックネームを直接変更することができないため、AddCol シグナルは処理されません。

**ユーザーの処置:**
ニックネームを再定義して新しい列を組み込み、AddCol シグナルを再発行してください。

---

**ASN7624I** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *Q_subscription_name* **の** *number* **2 次ユニーク索引 (複数可) が検出されました (受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*)。

**説明:**
Q アプライ・プログラムは、トランザクションを正しく順序付けし、それらを並行して適用できるよう、すべてのターゲット表に関するユニーク索引情報をロードします。このメッセージは、検出された 2 次ユニーク索引の個数を指定します。その数には、レプリケーション・キーとなるために使用されるユニーク索引は含まれません。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7625E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *Q_subscription_name* **のターゲット・タイプ (受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **はニックネームですが、Q キャプチャー送信オプションが正しくセットアップされていません。**

**説明:**
Q サブスクリプションのターゲット・タイプがニックネームでこのニックネームに複数のユニーク索引がある場合、Q アプライ・プログラムは、変更された前の列の値と変更されなかった列の値を送信するために Q キャプチャー・プログラムを必要とします。これらの送信オプションにより、Q アプライはターゲットのユニーク制約に違反することなく正しい順序でトランザクションを適用することができます。 DB2 はトランザクションの順序付けに使用される必要な索引 ID を提供するので、ターゲット・タイプがユーザー表の場合にはこれらのオプションは不要です。ただしこの識別情報は、DB2 以外のデータベースからは入手できない場合があります。

**ユーザーの処置:**
ソース・システムの IBMQREP_SUBS 表で、この Q サブスクリプションの BEFORE_VALUES 属性を Y に変更し、CHANGED_COLS_ONLY を N に変更してください。

---

**ASN7626E** *program_name* **:** *program_identifier* **: ニックネーム** *owner.nickname* **によって参照されるターゲット表は、IMPORT ユーティリティーが開始する前には空でなければなりません。 Q サブスクリプション** *Q_subscription_name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **は非活動化されます。**

**説明:**
IMPORT ユーティリティーを使ってフェデレーテッド・ターゲットにデータをロードする場合、ターゲット表は空でなければなりません。 IMPORT ユーティリティーは REPLACE オプションをサポートしていません。

**ユーザーの処置:**
ターゲット表の内容を削除し、Q サブスクリプションを活動化してください。

---

**ASN7627E** *program_name* **：** *program_identifier* **：Q アプライ・ブラウザー** *browser_name* **(受信キュー** *queue_name* **、レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **は、エラー・コード** *error_code* **で終了しました。**

**説明:**
以前のエラーまたは条件のため、Q アプライ・ブラウザーは終了しました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージの前に診断メッセージまたはエラー・メッセージがないか Q アプライ・ログ・ファイルを確認してください。

---

**ASN7628E** *program_name* **：** *program_identifier* **：Q アプライ・ブラウザー** *browser_name* **(受信キュー** *queue_name* **、レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **に、違反を受け取った保留中の RI 制約があり、制約違反を解決するための未完了トランザクションがないため、そのブラウザーは終了しました。**

**説明:**
Q アプライ・ブラウザーは表がロードされた後、表に RI 制約を追加しようとしました。しかし、制約違反のため、操作は失敗しました。この違反を解決できるトランザクションがこれ以上ないため、Q アプライ・ブラウザーは停止しました。

**ユーザーの処置:**
ソース表とターゲット表を比較し、制約違反の原因となっている行を修正してください。**ヒント:** ソース表とターゲット表の比較には asntdiff プログラムを使用できます。

---

**ASN7629E** *program_name* **：** *program_identifier* **：モデル・キュー名** *model_queue_name* **を使用する受信キュー** *receive_queue_name* **にある Q サブスクリプション** *Q_subscription_name* **の予備キュー名** *spill_queue_name* **は予備キュー名の最大文字数 48 文字を、** *number* **文字超過しました。**

**説明:**
予備 Q 名は、Q アプライで、モデル・キューの名前を Q サブスクリプション情報と連結することにより生成されます。許容最大長は 48 文字です。

**ユーザーの処置:**
IBMQREP_TARGETS 表の MODELQ 列を、より短い MODELQ 名で更新し、予備キュー名が 48 文字を超過しないようにしてください。

---

**ASN7630I** **平均の計算に使用される時間**

---

**ASN7631I** **(時間) 現在適用されるすべてのトランザクション**

---

**ASN7632I** **(LSN) 現在適用されるすべてのトランザクション**

---

**ASN7633I** **最も長い時間処理が行われているトランザクション**

---

**ASN7634I** **エンドツーエンド平均待ち時間**

---

**ASN7635I** **Q キャプチャー平均待ち時間**

---

**ASN7636I** **WSMQ 平均待ち時間**

---

**ASN7637I** **Q アプライ平均待ち時間**

---

**ASN7638I** **現行メモリー**

---

**ASN7639I** **現行キュー項目数**

---

**ASN7640I** **ログ・リーダーの現行性**

---

**ASN7641I** **Q アプライ・プログラム状況**

---

**ASN7642I** **受信キュー**

---

**ASN7643I** *program_name* **：** *program_identifier* **：ターゲット** *nickname_owner_nickname_name* **は Q サブスクリプション** *Q_subscription_name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **のニックネームです。**

**説明:**
Q サブスクリプションのターゲットは、DB2 以外のデータベースの表を参照するニックネームです。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7644W** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q キャプチャー MQPUT タイム・スタンプは、受信キュー** *queue_name* **の Q アプライ MQGET から** *number* **ミリ秒後に発生します。 ソース・サーバーおよびターゲット・サーバーの間のクロック・スキューの可能性があります。**

**説明:**
ソース・サーバー・マシンとターゲット・サーバー・マシンのクロックは同期されない場合があります。

**ユーザーの処置:**
一致するように、ソース・サーバーまたはターゲット・サーバーのクロックを調整してください。これによりクロック・スキューが回避されます。

---

**ASN7645E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *q_subscription_name* **(受信キュー** *receive_queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **のターゲット表** *table_name* **が存在しません。**

**説明:**
Q アプライ・プログラムは、Q サブスクリプションの活動化時にターゲット表を見つけようとしましたが、その表は、ターゲット・データベース内に存在しません。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション管理ツールを使って Q サブスクリプションを再定義してから、存在する表を指定するか、または管理ツールで新規のターゲット表が作成されるようにしてください。その後、Q サブスクリプションをアクティブにします。

---

**ASN7646E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q アプライ・プログラムは、IBMQREP_EXCEPTIONS 表への書き込み中に、受信キュー** *queue_name* **(レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **上の Q サブスクリプション** *Q_subscription_name* **のエラーを検出しました。オリジナルの行には、***(LSN)* **のソース・コミット・ログ・シーケンス番号 (LSN)、SQLDETAILS** *SQLDETAILS*、**および ROWDETAILS** *ROWDETAILS* **がありました。**

**説明:**
Q アプライ・エージェント・スレッドは、IBMQREP_EXCEPTIONS コントロール表に行を挿入して、Q アプライ・プログラムがレプリケーション・ターゲットに対して行を適用しようとしたときに検出した問題をレポートできませんでした。このメッセージの内容は、エージェント・スレッドが適用しようとした行を特定しています。

**ユーザーの処置:**
メッセージ内の SQLCODE、SQLERRMC、OPERATION、および REASON を使用して、Q アプライ・プログラムがターゲットに行を適用しようとした際の妨げとなった問題を判別してください。また、この Q アプライ・スキーマ用の IBMQREP_EXCEPTIONS 表が使用可能であることを確認してください。

---

**ASN7647E** *program_name* **:** *program_identifier* **: Q サブスクリプション** *q_subscription_name* **用の CCD 列** *column_name* **のデータ・タイプ** *data_type1* **または データ長** *data_length1* **(またはこの両方) が誤っています。 所定のデータ・タイプは** *data_type2* **であり、長さは** *data_length2* **です。**

**説明:**
Q サブスクリプション用に指定した CCD 列には、想定外のデータ・タイプまたはデータ長 (またはこの両方) が設定されています。

**ユーザーの処置:**
指定した列のデータ・タイプとデータ長が正しくなるように、CCD 表を変更してください。

---

**ASN7648E** *program_name* **:***program_identifier* **: SQL 式は、***data_type* **列ではサポートされません。 Q サブスクリプション** *Q_subscription_name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **の IBMQREP_TRG_COLS 表に MAPPING_TYPE が正しくセットアップされていません。**

**説明:**
Q サブスクリプションの IBMQREP_TRG_COLS 表の MAPPING_TYPE 値 E は、データ変換に SQL 式を使用するよう指定しています。ただし、指定されたデータ・タイプで式はサポートされません。

**ユーザーの処置:**
以下のいずれかのアクションを行ってください。

- Q サブスクリプションに SQL 式を指定するには、サポートされないデータ・タイプを含む列が複製されないように Q サブスクリプションを変更します。
- ASNCLP コマンド行プログラムまたはレプリケーション・センターを使用して Q サブスクリプションを

変更し、式が指定されないように、また、IBMQREP_TRG_COLS 表の MAPPING_TYPE 値が R (regular) になるようにします。

いずれかの変更を行ったら、Q サブスクリプションを開始します。

---

**ASN7649E** *program_name* **:***program_identifier* **: Q サブスクリプション** *Q_subscription_name* **(受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **の列** *column_name* **は、定数、派生した定数、または CCD 監査列です。この列では、変更前イメージ列をターゲットに定義することはできません。**

**説明:**
定数 (「IBM」など) や派生した定数 (CURRENT TIMESTAMP など)、または CCD 監査列 (IBMSNAP_LOGMARKER など) を含む SQL 式では、変更前イメージ列をターゲットに定義することはできません。

**ユーザーの処置:**
ASNCLP コマンド行プログラムまたはレプリケーション・センターを使用して Q サブスクリプションを変更し、不適格な式または列に変更前の値が指定されないようにしてから、 Q サブスクリプションを開始してください。

---

**ASN7650I** **Q アプライ・ブラウザー・スレッド (受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **は、タイム・スタンプ** *timestamp* **までにコミットされたすべてのソース・トランザクションを適用した後で停止します。ユーザー入力は、***input* **でした。**

**説明:**
指定されたタイム・スタンプに Q アプライ・ブラウザー・スレッドを停止するよう指定するコマンドが発行されました。ブラウザー・スレッドは、ソース・コミット時刻が指定されたタイム・スタンプ以内であるすべてのトランザクションを処理した後に停止します。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7651I** **Q アプライ・ブラウザー・スレッド (受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **は、ユーザー指定の停止点** *timestamp* **より後のコミット・タイム・スタンプを持つソース・トランザクションを処理しました。ブラウザー・スレッドは停止します。**

**説明:**
Q アプライ・プログラムの開始に **applyupto** パラメーターが使用されました。これにより、ブラウザー・スレッドが指定のタイム・スタンプで停止するよう指定されています。ブラウザー・スレッドは、ソース・コミット時刻がタイム・スタンプ以降であるトランザクションを検出したため、停止します。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7652E** **Q アプライ・プログラムが、開始時に、applyupto パラメーターの無効なタイム・スタンプを検出しました。タイム・スタンプ** *timestamp* **のフィールド** *field* **が正しくありません。Q アプライ・プログラムは終了します。**

**説明:**
Q アプライ・プログラムを開始するためのコマンドの **applyupto** パラメーターに指定されたタイム・スタンプの形式が無効です。予期される形式は、YYYY-MM-DD-HH.MM.SS.MMMMMM、YYYY-MM-DD-HH.MM.SS、 YYYY-MM-DD-HH.MM、YYYY-MM-DD-HH、HH.MM、または HH のいずれかです。

**ユーザーの処置:**
Q アプライ・プログラムを再始動して、**applyupto** パラメーターの有効なタイム・スタンプを指定してください。

---

**ASN7653E** **Q アプライ・プログラムを開始するコマンドに、autostop および applyupto の両方のパラメーターが含まれています。Q アプライ・プログラムは終了します。**

**説明:**
Q アプライ・プログラムを開始する際に、**autostop** および **applyupto** パラメーターをともに指定することはできません。これには、IBMQREP_APPLYPARMS 表から **autostop** を有効にする場合が含まれます。

**ユーザーの処置:**
Q アプライ・プログラムを再始動して、**autostop** パラメーターまたは **applyupto** パラメーターのどちらかを指定してください。

---

**ASN7654E** **Q アプライの操作パラメーターを変更するコマンドに、autostop パラメーターが含まれますが、 applyupto パラメーターは既に指定されています。コマンドは処理されませんでした。**

**説明:**
asnqacmd コマンドを使用して Q アプライ・プログラムを操作する場合、**autostop** および **applyupto** パラメーターを同時に有効にすることはできません。

**ユーザーの処置:**
**autostop** パラメーターを指定せずに、 asnqacmd コマンドを再発行してください。

---

**ASN7655E** *program_name* **:** *program_identifier* **: MAXAGENTS_CORRELID の値が、受信キュー** *recv_queue_name* **およびレプリケーション・キュー・マップ** *repl_qmap_name* **の IBMQREP_RECVQUEUES 表の NUM_APPLY_AGENTS の値より大きくなっています。 Q アプライ・プログラムは、この受信キューのブラウザー・スレッドを停止します。**

**説明:**
MAXAGENTS_CORRELID 値を、NUM_APPLY_AGENTS 値より大きくすることはできません。

**ユーザーの処置:**
MAXAGENTS_CORRELID 値を、IBMQREP_RECVQUEUES 表の NUM_APPLY_AGENTS 値より小さくしてください。

---

**ASN7656W** *program_name* **:** *program_identifier* **: MAXAGENTS_CORRELID の値が、受信キュー** *recv_queue_name* **およびレプリケーション・キュー・マップ** *repl_qmap_name* **の IBMQREP_RECVQUEUES 表の NUM_APPLY_AGENTS 値と同じです。ブラウザー・スレッド (レプリケーション・キュー・マップ** *repl_qmap_name*) **は、相関 ID に基づいて並列処理を制限しません。**

**説明:**
MAXAGENTS_CORRELID の値が NUM_APPLY_AGENTS 値と同じであるため、Q アプライ・ブラウザーは相関 ID に基づくトランザクションのシリアライズは行いません。

**ユーザーの処置:**
ロック競合が問題である場合は、MAXAGENTS_CORRELID 値を NUM_APPLY_AGENTS 値より小さく設定することで、トランザクションをシリアライズできます。MAXAGENTS_CORRELID 値をゼロに設定した場合、この警告が出ることはなく、ブラウザーは引き続きトランザクションを並列で適用します。

---

**ASN7657E** *program_name* **:** *program_identifier* **Q アプライ・プログラムが、指定された Q サブスクリプション** *subscription_name* **および指定された受信キュー** *queue_name* **(レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **について asnqacmd spillsub コマンドの処理に失敗しました。サブスクリプションの状態は、** *subscription_state* **です。理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** プログラムが初期化フェーズにあります。

**1** 指定された受信キューが見つかりませんでした。

**2** 指定された Q サブスクリプションが見つかりませんでした。

**3** asnqacmd spillsub コマンドは、「A」(アクティブ) 状態のサブスクリプションに対してのみ発行できます。 Q サブスクリプションは、アクティブ以外の状態にありました。

**4** 指定された Q サブスクリプションのターゲット表が、別の表との参照整合性関係を持っています。

**5** 一時スピル・キューを作成できませんでした。

**ユーザーの処置:**
理由コードに対応するアクションを実行してください。

**0** プログラムが初期化を完了した後で、コマンドを再発行します。

**1** 受信キューの名前が正しいことを確認して、コマンドを再発行します。

**2** Q サブスクリプションの名前が正しいことを確認して、コマンドを再発行します。

**3** Q サブスクリプションの状態が「I」または「T」である場合は、asnqacmd spillsub コマンドが発行される前に、Q サブスクリプションでエラーが発生した可能性があります。Q アプライ・プログラムからの直前のメッセージを確認して、エラーの原因を判別してください。その他の状態については、Q サブスクリプションがアクティブになるのを待つ必要があります。

**4** asnqacmd spillsub コマンドは、参照整合性関係を持つターゲット表ではサポートされません。

参照整合性関係を持つターゲット表に複製されたトランザクションの適用を停止するには、asnqacmd stopq コマンドを使用して、受信キュー全体を停止する必要があります。

**5** Q アプライ・プログラムのログ・ファイルから直前の診断またはエラー・メッセージを確認して、障害の原因を判別します。

---

**ASN7658E** *program_name* **:** *program_identifier* **エラー・アクション H に従い Q サブスクリプション** *Q_subscription_name* **をスピル・モードにする間に、Q アプライ・ブラウザー・スレッド (受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **に障害が発生しました。ブラウザー・スレッドは停止します。**

**説明:**
行の適用を試みる間にエラーが発生したため、 Q アプライ・プログラムが、Q サブスクリプションについて指定されたエラー・アクションを行いました。指定されたアクションは、エラーが訂正されるまでメッセージを一時スピル・キューに入れるよう Q アプライに指示します。ただし、Q アプライは Q サブスクリプションをスピル・モードにできなかったため、ブラウザーを停止します。

**ユーザーの処置:**
Q アプライ診断ログ・ファイルまたは IBMQREP_APPLYTRACE 表から、障害の原因を示すメッセージを探してください。Q サブスクリプションのスピル・キューの作成に使用する WebSphere MQ モデル・キューが作成されており、キューが IBMQREP_TARGETS 表に正しく指定されていることを確認してください。

**注:** Q アプライを開始するときに DFTMODELQ パラメーターを使用した場合、Q アプライは、このパラメーターで指定されたモデル・キューを使用します。
問題を訂正した後で、asnqacmd startq コマンドを使用して、受信キューを再始動します。

---

**ASN7659I** *program_name* **:** *program_identifier* **asnqacmd spillsub コマンドに基づき、Q アプライ・ブラウザー・スレッド (受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **が Q サブスクリプション** *Q_subscription_name* **をスピル・モードにしました。スピル・キューは** *queue_name*。

**説明:**
Q アプライ・プログラムが、asnqacmd spillsub コマンドの指示に従い、 Q サブスクリプションのメッセージを一時スピル・キューに入れています。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7660I** *program_name* **:** *program_identifier* **asnqacmd resumesub コマンドに基づき、Q アプライ・ブラウザー・スレッド (受信キュー** *queue_name*、**レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **が Q サブスクリプション** *Q_subscription_name* **を再開しました。**

**説明:**
スピル・モードにされた Q サブスクリプションが、asnqacmd resumesub コマンドに従い、通常の処理に戻されます。スピルされたメッセージが適用されます。新しいメッセージは引き続きスピルされ、ターゲット表では参照整合性制約がドロップされます。スピル・キューが空になると、制約が再び追加されるようになり、Q サブスクリプションはアクティブ (A) 状態にされます。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

---

**ASN7661I** *program_name* **:** *program_identifier* **reinitq コマンドが正常に処理されました。 Q アプライ・プログラムは、並列処理を** *number* **個のエージェントに制限します (受信キュー** *recv_queue_name* **およびレプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*)。

**説明:**
MAXAGENTS_CORRELID 値は、同一のジョブ名から並列に適用するトランザクションの数を指定します。この設定により、バッチ・ワークロード中にロック競合が起きないように、Q アプライ・プログラムで並列処理を制限できます。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

**ASN7662E** *program_name* **:** *program_identifier* **Q アプライ・プログラムが、指定された Q サブスクリプション** *subscription_name* **および指定された受信キュー** *queue_name* **(レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **について asnqacmd resumesub コマンドの処理に失敗しました。サブスクリプションの状態は、** *subscription_state*。**理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** プログラムが初期化フェーズにあります。

**1** 指定された受信キューが見つかりませんでした。

**2** 指定された Q サブスクリプションが見つかりませんでした。

**3** asnqacmd resumesub コマンドは、「S」(スピル) 状態のサブスクリプションに対してのみ発行できます。 Q サブスクリプションは、スピル以外の状態にありました。

**ユーザーの処置:**
理由コードに対応するアクションを実行してください。

**0** プログラムが初期化を完了した後で、コマンドを再発行します。

**1** 受信キューの名前が正しいことを確認して、コマンドを再発行します。

**2** Q サブスクリプションの名前が正しいことを確認して、コマンドを再発行します。

**3** Q サブスクリプションの状態が「I」または「T」である場合は、asnqacmd resumesub コマンドが発行される前に、Q サブスクリプションでエラーが発生した可能性があります。Q アプライ・プログラムからの直前のメッセージを確認して、エラーの原因を判別してください。状態が「A」または「R」の場合は、サブスクリプションは既に再開されており、これ以上のアクションは不要です。

**ASN7663E** *program_name* **:** *program_identifier* **Q アプライ・プログラムが、指定された Q サブスクリプション** *subscription_name* **および指定された受信キュー** *queue_name* **(レプリケーション・キュー・マップ** *queue_map_name*) **について asnqacmd loaddonesub コマンドの処理に失敗しました。サブスクリプションの状態は、** *subscription_state*。**理由コード:** *reason_code*。

**説明:**
理由コードとして有効な値は以下のとおりです。

**0** プログラムが初期化フェーズにあります。

**1** 指定された受信キューが見つかりませんでした。

**2** 指定された Q サブスクリプションが見つかりませんでした。

**3** asnqacmd loaddonesub コマンドは、「E」状態の Q サブスクリプションに対してのみ発行できます。

**4** asnqacmd loaddonesub コマンドは、CAPSTART シグナルに使用されたピアツーピア Q サブスクリプションに対してのみ発行されなければなりません。このサブスクリプションは、手動ロードのロード・ソースとして使用されたソース表を持つものと同一のサブスクリプションです。

**ユーザーの処置:**
理由コードに対応するアクションを実行してください。

**0** プログラムが初期化を完了した後で、コマンドを再発行します。

**1** 受信キューの名前が正しいことを確認して、コマンドを再発行します。

**2** Q サブスクリプションの名前が正しいことを確認して、コマンドを再発行します。

**3** Q サブスクリプションの状態が「I」または「T」である場合は、asnqacmd loaddonesub コマンドが発行される前に、Q サブスクリプションでエラーが発生した可能性があります。Q アプライ・プログラムからの直前のメッセージを確認して、エラーの原因を判別してください。他の状態についてはすべて、正しい Q サブスクリプションが指定されており、Q サブスクリプションの状態が「E」であることを確認してください。コマンドを再発行してください。

**4** asnqacmd loaddonesub コマンドで正しいピアツーピア Q サブスクリプションが指定されてい

ることを確認します。初期ロードの実行に使用したソース表を指定する Q サブスクリプションを使用してください。正しい Q サブスクリプションのコマンドを再発行します。

---

**ASN7664W** *program_name* **:** *program_identifier* **MAXAGENTS_CORRELID 列の値が、IBMQREP_RECVQUEUES 表の NUM_APPLY_AGENTS 列の値より大きくなっています。ブラウザー・スレッド (受信キュー** *recv_queue_name* **およびレプリケーション・キュー・マップ** *repl_qmap_name*) **は、MAXAGENTS_CORRELID の以前の値を使用します。**

**説明:**
MAXAGENTS_CORRELID 値を、NUM_APPLY_AGENTS 値より大きくすることはできません。

**ユーザーの処置:**
MAXAGENTS_CORRELID 値を、IBMQREP_RECVQUEUES 表の NUM_APPLY_AGENTS 値より小さくしてください。

# 第 5 章 AUD メッセージ

**AUD0000I** 操作が成功しました。

**AUD0001N** 操作が失敗しました。

**AUD0002N** 構文エラー。 使用法:

**AUD0003N** *directory/filename* へのアクセス中に入出力エラーがありました。ディレクトリー・ファイルが存在し、正しい許可を持っていることを確認してください。

**AUD0004N** ファイル・システムがいっぱいです。 *filename* に書き込むことができません。

**AUD0016N** 無効なデータベース名です。

**AUD0017N** 監査構成ファイルを読み取ることができません。

**AUD0018N** インスタンス SQL コード *sqlcode* の監査設定の更新中にエラーが起こりました。詳細については、SQL コードの意味をチェックしてください。

**AUD0019N** システム・エラーが起こりました。 コマンドを出し直しても失敗する場合、トレースをとって IBM サポートに連絡してください。

**AUD0020N** プルーニング中にエラーが起こりました。 **db2audit.log** はサイズ **0** に切り捨てられていますが、**db2audit.log** の本来の内容は **db2audit.cpy** にあります。

**AUD0021N** *filename* はすでに存在します。前の **db2audit** 操作によって生成されたものと思われます。 必要な情報が含まれていないことを確認してから除去し、コマンドを出し直してください。

**AUD0022N** 監査ログ・ファイルは破壊されました。

**AUD0023N** 要求されたイベント、SQL コード *sqlcode* の監査中にエラーが起こりました。詳細については、SQL コードの意味をチェックしてください。

**AUD0026I** DB2 監査機能を開始する要求が処理されています。 すでにインスタンスで監査が開始されていると思われるので注意してください。

**AUD0027I** DB2 監査機能を停止する要求が処理されています。 すでにインスタンスで監査が停止されていると思われるので注意してください。

**AUD0028N** 無効な ASCII 区切り文字が抽出に指定されました。 この区切り文字は 1 つの文字か、または有効な 16 進文字を表す 4 バイト・ストリング (**0xff** など) でなければなりません。

**AUD0029N** アーカイブ・オプション上で NODE オプションが指定されていませんが、データベース・サーバーは実行中ではありません。アーカイブを実行するノードを指示するか、または **db2start** を発行してすべてのノード上でアーカイブが実行されるようにしてください。

**AUD0035N** アクティブな監査ログ *directory-or-filename* が既にアーカイブされているため、新しいイベントをそのログに記録することができません。

**AUD0036N** アクティブな監査ログ・ファイル *directory-or-filename* で抽出を実行できません。

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

# 第 6 章 CCA メッセージ

このセクションには、構成アシスタント・インターフェース (CCA) メッセージが含まれています。メッセージは番号順にリストされています。

**CCA1001I　英数字だけを使用してください。先頭の文字を数字にすることはできません。**

**CCA1002I　10 進数 (0 から 9 まで) だけを使用してください。**

**CCA1003I　ネットワーク上で DB2 システムは見つかりませんでした。**

**CCA1004I　選択されたシステム上で DB2 インスタンスは見つかりませんでした。**

**CCA1005I　選択されたインスタンス上で DB2 データベースは見つかりませんでした。**

**CCA2001W　指定されたファイル・パターンに一致するファイルが見つかりません。**

**説明:**
指定されたファイル・パターンに一致するファイルからの読み取りが要求されました。 このパターンに一致するファイルが見つかりません。

**ユーザーの処置:**
ファイル・パターンを訂正して、操作をやり直してください。

**CCA2002W　TCP/IP サービス・ファイルを更新中にエラーが発生しました。**

**説明:**
サービス名とポート番号を TCP/IP サービス・ファイルに追加しようとして失敗したか、またはネットワーク情報サービスが使用されているのに、ローカル・サービス・ファイルだけが更新されました。 ノードをカタログするために、サービス名ではなく、ポート番号が使用されました。

**ユーザーの処置:**
ユーザーがノード・ディレクトリー項目のポート番号ではなく、サービス名を使用したい場合、ノードを手動でアンカタログしてからこのサービス名を使用して再度カタログしてください。 サービス・ファイルも手操作で更新してください。 ネットワーク情報サービス (NIS) が使用されている場合、ローカル・サービス・ファイルを更新する可能性がありますが、NIS サーバーは手操作で更新してください。 この場合、ノードもポート番号を使用してカタログされました。

**CCA2003W　発見要求が 1 つ以上の DB2 システムについてデータを戻しませんでした。**

**説明:**
発見要求が要求された 1 つ以上の DB2 システムについてデータを戻しませんでした。以下のいずれかが起きた可能性があります。

- 発見要求の送信先の Administration Server が開始されていない。
- 発見要求を実行しようとしてエラーが発生した。
- ディスカバー要求が送信された DB2 システムで、発見のための構成が行われていない。

**ユーザーの処置:**
ディスカバー要求の送信先の DB2 システムで、発見のための構成が行われていることを確認してください。発見が有効になっている場合は、DB2 システム上の Administration Server が実行されていることを確認してください。

**CCA2004W　指定された nname 値がユニークではありません。**

**説明:**
指定された nname 値は、ネットワークの他の NetBIOS アプリケーションで使用されています。

**ユーザーの処置:**
指定された nname を使用するには 'YES' を選択し、要求を取り消すには 'NO' を選択してください。 'YES' が選択された場合、既存の nname を使用するすべてのアプリケーションが影響を受けます。

**CCA2005W　指定されたソケット番号がユニークでない。**

**説明:**
指定されたソケット番号は、ワークステーションの他の DB2 インスタンスに使用されています。

**ユーザーの処置:**

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

指定されたソケットを使用するには 'YES' を選択し、要求を取り消すには 'NO' を選択してください。 'YES' が選択された場合、既存のソケット番号を使用するすべてのアプリケーションが影響を受けます。

---

**CCA2006W 指定されたサービス名とポート番号の項目は、TCP/IP サービス・ファイルにすでに存在します。**

**説明:**
指定されたサービス名とポート番号の項目は、TCP/IP サービス・ファイルにすでに存在します。 別のアプリケーションがこの項目を使用している可能性があります。

**ユーザーの処置:**
既存の項目を使用するには 'YES' を選択し、要求を取り消すには 'NO' を選択してください。 'YES' が選択された場合、既存の項目を使用するすべてのアプリケーションが影響を受けます。

---

**CCA2007W 指定されたポート番号は、他のサービス名で使用されています。**

**説明:**
TCP/IP サービス・ファイルには、指定されたポート番号を使用する項目がありますが、関連したサービス名が指定されたサービス名と一致しません。

**ユーザーの処置:**
指定されたサービス名とポート番号を使用するには 'YES' を選択し、要求を取り消すには 'NO' を選択してください。 'YES' を選択すると、サービス・ファイル名に新しい項目が追加されます。 既存のポート番号を持つこの項目を使用するすべてのアプリケーションが影響を受けます。

---

**CCA2008W 指定されたサービス名は、他のポート番号で使用されています。**

**説明:**
TCP/IP サービス・ファイルには、指定されたサービス名を使用する項目がありますが、関連したポート番号が指定されたポート番号と一致しません。

**ユーザーの処置:**
指定されたサービス名とポート番号を使用するには 'YES' を選択し、要求を取り消すには 'NO' を選択してください。 'YES' を選択すると、このサービス名を使用する、サービス・ファイルの既存の項目は、指定されたポート番号を使用するよう更新されます。 これにより、この既存の項目を使用するアプリケーションが影響を受けます。

---

**CCA2009W 要求がユーザーによりキャンセルされました。**

**説明:**
要求がユーザーによりキャンセルされました。

**ユーザーの処置:**
ありません。

---

**CCA2010W APPC スタックを更新しようとしましたが、失敗しました。**

**説明:**
APPC スタックにトランザクション・プログラム名を追加しようとしましたが、失敗しました。

**ユーザーの処置:**
APPC スタックは、必ず手動で更新してください。 トランザクション・プログラム名がスタックに追加されないと、サーバーへのリモート接続ができません。

---

**CCA2011W サービス名およびポート番号の TCP/IP サービス・ファイルへの追加の試行に失敗しました。**

**説明:**
サービス名およびポート番号の TCP/IP サービス・ファイルへの追加の試行に失敗しました。 データベース・マネージャー構成ファイルが指定されたサービス名で更新されました。

**ユーザーの処置:**
サービス名とポート番号は、 TCP/IP サービス・ファイルに必ず手動で追加してください。 項目がサービス・ファイルに追加されないと、サーバーへのリモート接続ができません。

---

**CCA2012W 発見要求が DB2 システムを検出しませんでした。**

**説明:**
ネットワークで DB2 システムを検索する要求は正常に完了しましたが、DB2 システムは見つかりませんでした。 DB2 システムが検出されなかった理由として、以下のことが考えられます。

- 検索ディスカバリーがどの DB2 システムでも有効になっていなかった (つまり、DB2 システムの Administration Server の DBM 構成ファイルに、DISCOVER = SEARCH が指定されていなかった)。
- DB2 システムが正しいディスカバリー・プロトコルを使ってセットアップされていなかったために、クライアントが検出できなかった (つまり、Administration Server 上の DISCOVER_COMM に、クライアント上

の DISCOVER_COMM に指定されているプロトコルと一致するプロトコルが含まれていない)。

- DB2 システムがルーターまたはブリッジのもう一方の側にあり、ネットワーク上のルーターまたはブリッジは、ディスカバリー・パケットをフィルター操作するが、渡さないよう構成されていた。

**ユーザーの処置:**
以下に、ディスカバリーが DB2 システムを検出するために取ることのできるアクションをリストします。

- 検出したいすべての DB2 システム上の Administration Server の DBM 構成ファイルに DISCOVER = SEARCH を設定する。
- クライアントが発見要求に使用するプロトコルを含めるように Administration Server の DISCOVER_COMM を設定する (つまり、クライアント上の DISCOVER_COMM に指定されたプロトコルのうち少なくとも 1 つを含めるように DISCOVER_COMM を設定する)。
- (指定したプロトコルの) ディスカバリー・パケットのパススルーが許可されるよう、ネットワーク管理者にルーターまたはブリッジを再構成してもらう。

---

**CCA2013W　カタログされたリモート・データベースは、APPC を使用していますがスタックが構成されていませんでした。**

**説明:**
データベースのカタログ要求により、APPC プロトコルを使用するノードがカタログされました。 ノードは、指定されたプロファイルから検索されたシンボリック宛先名を使用してカタログされました。 スタックを構成するのに十分な情報がプロファイルになかったか、または APPC が DB2 システムで検出されなかったため、APPC スタックは構成されませんでした。 クライアントではほかに一致するプロトコルが検出されなかったため、別のプロトコルを使用することはできません。

**ユーザーの処置:**
APPC がクライアントにインストールされていない場合は、データベースをアンカタログし、クライアントとサーバー両方で使用できるプロトコルを使って、手動でデータベースをカタログし直してください。 APPC がインストールされている場合は、まだスタックが構成されていないのであれば、構成してください。

---

**CCA2014W　指定されたトランザクション・プログラム名は、ユニークでないかすでに構成されています。**

**説明:**
指定されたトランザクション・プログラム名は、すでにこのサーバー上の他の DB2 インスタンスあるいは非 DB2 アプリケーションで使用されています。

**ユーザーの処置:**
指定されたトランザクション・プログラム名を使用するには 'YES' を選択し、要求を取り消すには 'NO' を選択してください。 ″YES″ を選択すると、そのトランザクション・プログラム名を並行して使用するすべてのアプリケーションに対し、APPC は最初に開始したアプリケーションでのみ操作可能になります。 新しい APPC パラメーター値が指定された場合、APPC スタックはその値で更新されます。

---

**CCA2015W　指定されたサービス名とポート番号は、サービス・ファイルの別の項目で使用されています。**

**説明:**
TCP/IP サービス・ファイルには、指定されたサービス名とポート番号を使用する項目が含まれていますが、これらは同じ項目で使用されていません。

**ユーザーの処置:**
指定されたサービス名とポート番号を使用するには 'YES' を選択し、要求を取り消すには 'NO' を選択してください。 'YES' を選択すると、このサービス名を使用する、サービス・ファイルの既存の項目は、指定されたポート番号を使用するよう更新されます。 これにより、この既存の項目を使用するアプリケーションが影響を受けます。

---

**CCA2016W　パスワードは、暗号化されないテキストとして保管されます。**

**説明:**
パスワードは、暗号化されないテキストとして db2cli.ini ファイルに保管されます。

**ユーザーの処置:**
パスワード・セキュリティーが心配な場合は、「パスワードの保管」チェック・ボックスの選択を解除してください。

---

**CCA3000C　内部エラーが発生しました。理由コード *reason-code***

**説明:**
予期しない内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
トレースをオンにして、エラーが発生したステップを再現してください。問題が解決しない場合、トレース情報をファイルに保管し、IBM サポート担当者に次の情報を報告してください。

- 問題の説明
- メッセージ番号
- 理由コード
- トレース・ファイル

---

**CCA3001N　指定されたサービス名とポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と競合します。**

**説明:**
ユーザーにより入力されたサービス名とポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と競合します。 サービス名は別のポート番号ですでに使用されている可能性があるか、ポート番号が別のサービス名ですでに使用されている可能性、またはその両方の可能性があります。

**ユーザーの処置:**
サービス・ファイルにすでにある項目と競合しないサービス名およびポート番号を指定してください。

---

**CCA3002N　入出力エラーが発生しました。**

**説明:**
ファイル位置のオープン、読み取り、変更、またはファイルのクローズを試行中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
ファイル名が指定された場合は、そのファイル名が有効であり、ユーザーがそのファイルへのアクセス権を持っていることを確認してください。 また、ディスク・エラーとシステム・エラーについてもチェックしてください。

---

**CCA3003N　ファイルのフォーマットは無効です。**

**説明:**
ファイルから読み取り中にエラーが発生しました。 ファイルのフォーマットは無効です。 次のようなエラーが考えられます。

- ファイルに無効なデータが含まれています。
- ファイルが予想されるデータを含んでいない。
- ファイル内のデータの順序が誤っている。

**ユーザーの処置:**
ファイル名が指定されており、そのファイルがユーザーによって変更されている場合は、ファイルを再生成して操作を再試行してください。 問題が解決されず、ファイルがユーザーによって変更されていない場合や、問題が発見要求中に発生した場合は、トレース機能をオンにしてエラーの原因となったステップを再試行してください。 問題が解決しない場合、トレース情報をファイルに保管し、IBM サポート担当者に次の情報を報告してください。

- 問題の説明
- メッセージ番号
- トレース・ファイル
- エラーを発生しているファイル (ファイル名が指定されている場合)

---

**CCA3004N　メモリーを割り振ろうとして失敗しました。**

**説明:**
メモリーを割り振ろうとして、エラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
システム上で実行中の他のアプリケーションで、メモリーを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。 問題が解決しない場合トレースをオンにして、エラーが発生した操作を再現してください。 問題が解決しない場合、トレース情報をファイルに保管し、IBM サポート担当者に次の情報を報告してください。

- 問題の説明
- メッセージ番号
- トレース・ファイル

---

**CCA3005N　ファイルに書き込み中にエラーが発生しました。**

**説明:**
プロファイルに書き込み中にエラーを検出しました。 このエラーは、ホスト・システムのパスワードの更新中にも検出された可能性があり、エラーは db2pem.log ファイルに記録されています。

**ユーザーの処置:**
ファイルが常駐するファイル・システムがいっぱいではなく、また損傷を受けていないことを確認してください。 また、オペレーティング・システムのエラーについてもチェックしてください。

---

**CCA3006N　マッチングする通信プロトコルが検出されませんでした。**

**説明:**
クライアントで使用できるどのプロトコルも、サーバーで使用できるプロトコルと一致しないため、データベースをカタログできません。

**ユーザーの処置:**
クライアントとサーバーが、その両方で検出できる、少なくとも 1 つの一致する通信プロトコルを持っていることを確認してください。 一致するプロトコルがクラ

イアントとサーバーの両方にインストールされている場合、このプロトコルを検出できませんでした。 その場合は、データベースとノードを手動でカタログしてください。

---

**CCA3007N　指定されたデータベース別名が無効です。**

**説明:**
指定されたデータベース別名の長さが有効でないか、別名に無効な文字が含まれています。

**ユーザーの処置:**
別名を訂正して、要求を再サブミットしてください。

---

**CCA3009N　指定されたアプリケーション要求者名が無効です。**

**説明:**
アプリケーションの要求者名の長さが無効であるか、名前に無効な文字が含まれています。

**ユーザーの処置:**
アプリケーション要求者名を訂正して、要求を再サブミットしてください。

---

**CCA3010N　指定されたパラメーター値の長さが無効です。**

**説明:**
指定されたアプリケーション要求者用のパラメーター値の長さが無効です。

**ユーザーの処置:**
パラメーター値を訂正して、要求を再サブミットしてください。

---

**CCA3011N　指定されたターゲット・データベース名が無効です。**

**説明:**
指定されたターゲット・データベース名の長さが無効か、無効な文字を含んでいます。

**ユーザーの処置:**
ターゲット・データベース名を訂正して、要求を再サブミットしてください。

---

**CCA3012N　ODBC データ・ソースの追加に失敗しました。**

**説明:**
ODBC データ・ソースの追加の要求に失敗しました。メモリー不足、ディスクがいっぱいである、あるいはディスク障害がエラーの原因として考えられます。

**ユーザーの処置:**
ODBC.INI および DB2CLI.INI ファイルが常駐するディスクがいっぱいでないこと、また損傷を受けていないことを確認します。 さらに、他のアプリケーションが巨大なメモリーを使用している場合は、そのアプリケーションを停止させてから操作を再試行します。

---

**CCA3013N　ODBC データ・ソースの除去に失敗しました。**

**説明:**
ODBC データ・ソースの除去の要求に失敗しました。メモリー不足、あるいはディスク障害がエラーの原因として考えられます。

**ユーザーの処置:**
他のアプリケーションが巨大なメモリーを使用している場合は、そのアプリケーションを停止させてから操作を再試行します。 ODBC.INI および DB2CLI.INI ファイルが常駐するディスクが損傷を受けていないことを確認します。

---

**CCA3014N　バインド要求は処理できません。**

**説明:**
他のバインド操作が進行中のためバインド要求は処理できません。

**ユーザーの処置:**
進行中のバインドの処理を完了させる、あるいは停止させてから、バインド要求を再サブミットしてください。

---

**CCA3015N　指定されたアダプターが無効です。**

**説明:**
指定されたアダプターが DB2 システムで検出されませんでした。

**ユーザーの処置:**
使用できるアダプターを指定して要求を再サブミットしてください。

---

**CCA3016N　指定された nname 値がユニークではありません。**

**説明:**
指定された nname 値は、ネットワークの他の NetBIOS アプリケーションで使用されています。

**ユーザーの処置:**
ユニークな nname を指定して、やり直してください。

---

**CCA3017N　ファイルに指定パスは無効です。**

**説明:**
指定されたファイルをオープンしようと試みましたが、指定されたパスは無効か、存在しません。

**ユーザーの処置:**
指定されたパスが有効であり、ファイルのパスが存在することを確認してください。

**CCA3018N　ファイルにアクセスする権限がありません。**

**説明:**
要求されたファイルにアクセスしようとしましたが、ユーザーがこのファイルへのアクセスに必要な権限を持っていません。

**ユーザーの処置:**
ユーザーがファイルへのアクセスに必要な権限を持っていることを確認してください。

**CCA3019N　指定されたファイル名は、ディレクトリーです。**

**説明:**
指定された名前がディレクトリーのもので、ファイル名でないために、指定されたファイルへのアクセスが失敗しました。

**ユーザーの処置:**
有効なファイル名を指定して、やり直してください。

**CCA3020N　共有違反のために、指定されたファイルへのアクセスが失敗しました。**

**説明:**
共有違反のために、指定されたファイルへのアクセスが失敗しました。 別の処理がこのファイルを排他モードでオープンしている可能性があります。

**ユーザーの処置:**
ファイルは現在、別の処理により排他モードでアクセスされています。 他の処理がファイルにアクセスしていないことを確認して操作をやり直すか、別のファイル名を指定してください。

**CCA3021N　変数 *variable-name* を DB2 プロファイル・レジストリーに追加、検索、または除去しようとして失敗しました。戻りコード *return-code*。**

**説明:**
示された変数を DB2 プロファイル・レジストリーに追加、検索、または除去しようとして失敗しました。 戻りコードは問題の原因を示しています。 戻りコードには、以下のものがあります。

- -2 指定されたパラメーターが無効である
- -3 メモリー不足で要求を処理できない
- -4 変数がレジストリーに見つからない
- -7 DB2 プロファイル・レジストリーがこの DB2 システム上に見つからない
- -8 指定されたインスタンスのプロファイルが見つからない
- -9 指定されたノードのプロファイルが見つからない
- -10 UNIX レジストリー・ファイル・ロックがタイムアウトになった

**ユーザーの処置:**
これらの理由コードに対して、以下のことを実行してください。

- -2 パラメーターが正しく指定されていることを確認する。
- -3 多くのメモリーを使用している別のアプリケーションを終了して、操作を再試行する。
- -4 変数が DB2 プロファイル・レジストリーに設定されていることを確認する。
- -7 DB2 プロファイル・レジストリーが作成されていることを確認する。
- -8 このインスタンスのプロファイルが作成されていることを確認する。
- -9 このノードのプロファイルが作成されていることを確認する。
- -10 レジストリー・ファイルが別の処理によってロックされていないことを確認する。

**CCA3022C　関数 *procedure-name* のアドレスをライブラリー *library-name* から検索しようとして失敗しました。戻りコード *return-code*。**

**説明:**
関数のアドレスを示されたライブラリーから検索しようとして失敗しました。

**ユーザーの処置:**
正しいバージョンのライブラリーが使用されていることを確認してください。誤ったバージョンが使用されている場合は、正しいバージョンをインストールしてください。問題が続く場合は、トレース機能をオンにしてエラーの原因となったステップを再試行してください。 問題が解決しない場合、トレース情報をファイルに保管し、IBM サポート担当者に次の情報を報告してください。

- 問題の説明

- メッセージ番号
- 戻りコード
- トレース・ファイル

---

**CCA3023C　ライブラリー *library-name* をロードしようとして失敗しました。戻りコード *return-code*。**

**説明:**
示されたライブラリーをロードしようとして失敗しました。

**ユーザーの処置:**
ライブラリーが置かれているパスがライブラリー・パスに含まれていることを確認してください。 また、ライブラリーをロードするのに十分なメモリーがあることを確認してください。 問題が続く場合は、トレース機能をオンにしてエラーの原因となったステップを再試行してください。 問題が解決しない場合、トレース情報をファイルに保管し、IBM サポート担当者に次の情報を報告してください。

- 問題の説明
- メッセージ番号
- 戻りコード
- トレース・ファイル

---

**CCA3024C　ライブラリー *library-name* をアンロードしようとして失敗しました。戻りコード *return-code*。**

**説明:**
示されたライブラリーをアンロードしようとして失敗しました。

**ユーザーの処置:**
トレースをオンにして、内部エラーの原因となったステップを再試行してください。 問題が解決しない場合、トレース情報をファイルに保管し、IBM サポート担当者に次の情報を報告してください。

- 問題の説明
- メッセージ番号
- 戻りコード
- トレース・ファイル

---

**CCA3025N　指定された 1 つまたは複数の IPX/SPX パラメーターが無効です。**

**説明:**
1 つ以上の入力パラメーターが無効です。以下に、起こりうるエラーをリストします。

- fileserver、objectname、および ipx_socket パラメーターのうち 1 つ以上が NULL である。
- fileserver パラメーターまたは objectname パラメーターだけが ″*″ に設定されている。
- Windows NT と Solaris で、fileserver パラメーターと objectname パラメーター、またはそのいずれかが″*″に設定されていない。
- 指定された objectname 値がユニークでない。
- 指定された ipx_socket 値がユニークでない。
- 指定された ipx_socket 値が有効範囲にない。
- DB2 システムが指定されたファイル・サーバーに ATTACH できなかった。

**ユーザーの処置:**
以下のことを検証してください。

- fileserver、objectname、および ipx_socket パラメーターが NULL でない。
- fileserver に対して指定された値が ″*″ の場合は、objectname の値も ″*″ である。
- Windows NT と Solaris では、fileserver と objectname の両方が ″*″ である。
- objectname に指定された値は、(″*″ でない場合は、) ファイル・サーバーに登録されたすべての DB2 インスタンスと IPX/SPX アプリケーションに対してユニークである。
- ipx_socket に指定された値は、DB2 システム上のすべての DB2 インスタンスでユニークである。
- ipx_socket に指定された値が有効な範囲内にある。
- 指定されたファイル・サーバーは存在しており、稼働中である。

エラーを訂正して、やり直してください。

---

**CCA3026N　使用可能な NetBIOS アダプターが検出されませんでした。**

**説明:**
NetBIOS アダプターが DB2 システムで検出されませんでした。 データベースはカタログできません。

**ユーザーの処置:**
アダプターが DB2 システム上で使用できる場合は、手動でデータベースとノードをカタログしてください。

---

**CCA3027N　指定されたポート番号は範囲外にあります。**

**説明:**
指定された TCP/IP ポート番号は範囲外にあります。ポート番号の指定できる最大値は、65534 です。

**ユーザーの処置:**
最大値を超えないポート番号を指定して、操作を再試行してください。

---

**CCA3028N　DB2INSTANCE 変数は有効ではありません。**

**説明:**
DB2INSTANCE 環境変数が設定されていないか、Administration Server インスタンスに設定されています。構成アシスタントは、Administration Server インスタンス下では稼働できません。

**ユーザーの処置:**
Administration Server インスタンス以外のインスタンスに DB2INSTANCE 変数を設定してください。

---

**CCA3029N　ODBC データ・ソース設定値の更新に失敗しました。**

**説明:**
ODBC データ・ソース設定値の更新の要求に失敗しました。メモリー不足、ディスクがいっぱいである、あるいはディスク障害がエラーの原因として考えられます。

**ユーザーの処置:**
DB2CLI.INI ファイルが常駐するディスクがいっぱいでないこと、また損傷を受けていないことを確認します。さらに、他のアプリケーションが巨大なメモリーを使用している場合は、そのアプリケーションを停止させてから操作を再試行します。

---

**CCA3030N　APPC を構成する値が欠落しています。**

**説明:**
APPC を使ってデータベースをカタログする、または APPC のサーバー・インスタンスを構成する要求が行われました。 パラメーターの指定が足りないために要求は完了できませんでした。

**ユーザーの処置:**
必須パラメーターがすべて指定されているか確認してから、もう一度やり直してください。

---

**CCA3031N　APPC スタックは、選択されたデータベース用に構成されていません。**

**説明:**
選択されたデータベースは、データベース接続に APPC を使用しています。しかし、APPC スタックは、接続用に構成されていません。

**ユーザーの処置:**
選択されたデータベース用に APPC スタックを構成してください。

---

**CCA3051N　*protocol* プロトコル・インターフェース障害が発生し、戻りコードは *return-code* です。**

**説明:**
プロトコル・インターフェースにアクセスしようとして障害が発生しました。

**ユーザーの処置:**
プロトコルが操作可能になっていることを確認してください。

---

**CCA3052N　指定された項目 *item-name* が見つかりませんでした。**

**説明:**
指定した項目名が構成データの中に見つかりませんでした。

**ユーザーの処置:**
項目名を正しく指定したことを確認してください。

---

**CCA3053N　指定された ODBC DSN *DSN-name* が無効です。**

**説明:**
指定された ODBC DSN は無効な名前です。

**ユーザーの処置:**
ODBC DSN 名に有効な文字を使用していることを確認してください。

---

**CCA3054N　ODBC DSN は登録できませんでした。**

**説明:**
ODBC DSN は登録が失敗しました。

**ユーザーの処置:**
ODBC が正しくインストールされており、機能していることを確認してください。

---

**CCA3055N　指定された項目 *item-name* はすでに存在します。**

**説明:**
指定した項目名が構成データの中にすでに存在しています。

**ユーザーの処置:**
項目名を正しく指定したことを確認してください。 別の項目名を使用するか、古い項目を削除して要求を再サブミットしてください。

---

**CCA3056N　ホスト名 *host-name* が見つかりませんでした。**

**説明:**
指定されたホスト名をネットワーク上で解決できませんでした。

**ユーザーの処置:**
指定したホスト名が正しく、ネットワーク上で有効なホスト名であることを確認してください。

**CCA3057N　サービス名 *service-name* が見つかりませんでした。**

**説明:**
指定されたサービス名がローカル・サービス・ファイルにありませんでした。

**ユーザーの処置:**
指定したサービス名が正しく、ローカル・サービス・ファイルにそのサービス名の有効な項目があることを確認してください。

**CCA3058N　ローカル・システム・オブジェクトを除去することは許可されていません。**

**説明:**
このローカル・システム・オブジェクトは、サーバー・インストールの場合は表示され、クライアント・インストールの場合は表示されません。このオブジェクトはサーバー・インストール・タイプで必要な特別なプロパティーを持つため、これを除去する直接制御がありません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**CCA3059N　ローカル・システム・オブジェクトを変更することは許可されていません。**

**説明:**
このローカル・システム・オブジェクトは、サーバー・インストールの場合は表示され、クライアント・インストールの場合は表示されません。このオブジェクトはサーバー・インストール・タイプで要求される特別なプロパティーを持つため、これを変更する直接の制御を持っていません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**CCA3060N　選択したシステム・オブジェクトを変更することは許可されていません。**

**説明:**
選択したシステムは、DB2 管理ツールでサポートされていない通信プロトコルを使用しています。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**CCA3061N　サーバーの構成が不完全です。**

**説明:**
サーバー・プロファイル内のサーバー構成情報には、要求された操作を完了するのに必要なデータがありません。詳細については、db2diag.logを参照してください。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に問い合わせて、サーバーの構成が正しいかどうかを確認してください。

**CCA3062N　″Common″ は、予約済みのデータ・ソース名です。**

**説明:**
″Common″ は、DB2 CLI により予約されているデータ・ソース名です。

**ユーザーの処置:**
別のデータ・ソース名を入力してください。

**CCA3063N　指定されたサービス名とポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と競合します。サービス・ファイルの既存値を上書きしますか?**

**説明:**
ユーザーにより入力されたサービス名とポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と競合します。 サービス名は別のポート番号ですでに使用されている可能性があるか、ポート番号が別のサービス名ですでに使用されている可能性、またはその両方の可能性があります。

**ユーザーの処置:**
サービス・ファイルの既存値を新しい値で上書きするには「はい」をクリックしてください。

操作を取り消して、サービス・ファイルの既存値を維持するには「いいえ」をクリックしてください。

**CCA3064N　指定された新しいデータ・ソース名はすでに存在します。**

**説明:**
同じ名前のデータ・ソース項目がすでに存在しますが、その内容は新しい項目の指定内容とは一致しません。このため、再利用はできません。

**ユーザーの処置:**
別のデータ・ソース名を使用してください。

**CCA3065N　要求された操作は、オフライン (OFFLINE) モードでは使用できません。**

**説明:**
モードがオフライン (OFFLINE) である間、無効または適応されない操作タスクが要求されました。操作を続行できません。

**ユーザーの処置:**
この操作をやり直す前に、オフライン (OFFLINE) モードから、モードを変更してください。

**CCA3066N　要求された操作は、リモート (REMOTE) モードでは使用できません。**

**説明:**
モードがリモート (REMOTE) である間、無効または適応されない操作タスクが要求されました。操作を続行できません。

**ユーザーの処置:**
この操作をやり直す前に、リモート (REMOTE) モードから、モードを変更してください。

**CCA5000N　指定されたユーザー ID が無効です。**

**説明:**
指定されたユーザー ID が存在しません。

**ユーザーの処置:**
正しいユーザー ID を入力して、要求を再サブミットしてください。

**CCA5001N　指定されたパスワードが誤りです。**

**説明:**
ユーザー ID に指定されたパスワードが誤りです。

**ユーザーの処置:**
ユーザー ID の正しいパスワードを入力して、要求を再サブミットしてください。

**CCA5002N　ユーザー ID のパスワードの有効期限が切れています。**

**説明:**
ユーザー ID のパスワードの有効期限が切れていて更新できません。

**ユーザーの処置:**
パスワードをリセットするには、システム管理者に連絡してください。

**CCA5003N　指定された新規パスワードが無効です。**

**説明:**
指定された新規パスワードが無効です。

**ユーザーの処置:**
有効なパスワードを入力して、要求を再サブミットしてください。

**CCA5004N　予期しないエラーが発生しました。**

**説明:**
指定されたユーザー ID のパスワードを更新しようとして、予期しないエラーが発生しました。 追加情報がこのインスタンス・ディレクトリーの db2pem.log ファイルに書き込まれている可能性があります。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に連絡して援助を要求し、db2pem.log ファイルの情報を提供してください。

**CCA5005N　新規パスワードとパスワードの確認が一致しません。**

**説明:**
新規パスワードとパスワードの確認が一致しません。

**ユーザーの処置:**
新規パスワードを両方のテキスト・ボックスに入力してください。

**CCA5006N　指定されたポート番号が無効です。**

**説明:**
指定されたポート番号は範囲外にあります。ゼロより大きく 65535 より小さい範囲である必要があります。

**ユーザーの処置:**
新規ポート番号を入力し、操作をやり直してください。

**CCA5007N　指定されたパラメーター値が無効です。**

**説明:**
指定されたパラメーター値は範囲外にあります。

**ユーザーの処置:**

新規パラメーター値を入力し、操作をやり直してください。

---

**CCA5008N　指定されたアダプター番号が無効です。**

**説明:**
指定されたアダプター番号は範囲外にあります。 0 と 255 の間である必要があります。

**ユーザーの処置:**
新規アダプター番号を入力し、操作をやり直してください。

# 第 7 章 CLI メッセージ

この項では、コール・レベル・インターフェース (CLI) メッセージについて説明されています。メッセージは番号順にリストされています。

**CLI0001W　切断エラーです。**

**説明:**
切断中にエラーが発生しました。ただし、切断は成功しました。

**ユーザーの処置:**
クライアントとサーバー間の通信がまだアクティブであるか調べてください。

**CLI0002W　データが切り捨てられました。**

**説明:**
指定された出力バッファーには、データを入れるために十分な大きさがありません。

**ユーザーの処置:**
出力バッファーのサイズを増やしてください。

**CLI0003W　権限が取り消されませんでした。**

**説明:**
ステートメントが REVOKE ステートメントで、ユーザーは指定された権限を持っていませんでした。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**CLI0004W　接続ストリング属性が無効です。**

**説明:**
接続ストリングで指定された接続ストリング属性が無効、またはサポートされていません。ただし、ドライバーはデータ・ソースに接続可能でした。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**CLI0005W　オプション値が変更されました。**

**説明:**
ドライバーは指定されたオプションの値をサポートしていないので、類似した値が代用されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**CLI0006W　SQLCancel をクローズと同様に扱いました。**

**説明:**
SQLCancel 呼び出しが、SQL_CLOSE オプションによる SQLFreeStmt 呼び出しのように処理されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**CLI0008I　キャプチャー・モードが終了しました。**

**説明:**
キャプチャー・モードまたは一致モードのいずれかで実行中の接続時間にメッセージを受け取ると、SQL ステートメントはキャプチャー・ファイルにキャプチャーされないか、またはキャプチャー・ファイルと一致しません。これは、必須の db2cli.ini キーワードが正しく構成されていないことが原因の可能性があります。メッセージを切断時間に受け取ると、これは正常な処理と見なされます。

**ユーザーの処置:**
必須の静的キャプチャーまたは静的一致 db2cli.ini キーワード (StaticMode、 StaticPackage、StaticCapFile) が資料で指定されているとおりに正しく構成されていることを確認してください。

**CLI0100E　パラメーターの数が正しくありません。**

**説明:**
SQLSetParam または SQLBindParameter に指定されたパラメーター数が、SQL ステートメントにあるパラメーター数よりも小さくなっています。

**ユーザーの処置:**
SQL ステートメントを再指定するか、SQLSetParam または SQLBindParameter を使用してパラメーター数を増やしてください。

**CLI0101E　ステートメントが結果セットを返しませんでした。**

**説明:**
前のステートメントによって結果セットが返されていません。

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

**ユーザーの処置:**
SQL ステートメントを再指定してください。

---

**CLI0102E　　無効な変換です。**

**説明:**
アプリケーションのデータ・タイプと SQL データ・タイプ間の変換は、ドライバーによってサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
ドライバーによってサポートされているデータ変換を再指定してください。

---

**CLI0103E　　列が多すぎます。**

**説明:**
SQLBindCol に指定された列数が、現在の結果セットの列数よりも多くなっています。

**ユーザーの処置:**
SQL ステートメントを再指定するか、または SQLBindCol にあるバインド済み列情報をリセットしてください。

---

**CLI0104E　　データ・ソースに接続できませんでした。**

**説明:**
ドライバーが、データ・ソースとの接続を確立できませんでした。

**ユーザーの処置:**
サーバーが始動しており、クライアントとサーバーの間の通信が正しいことを確認してください。

---

**CLI0105E　　接続が使用中です。**

**説明:**
指定された接続ハンドルはすでに使用されており、接続はまだオープンされています。

**ユーザーの処置:**
SQLAllocConnect を使用して新しい接続を割り振り、接続を再試行するか、または既存の接続を終了してください。

---

**CLI0106E　　接続がクローズされています。**

**説明:**
接続ハンドルによって指定された接続が、アクティブではありません。

**ユーザーの処置:**
新しい接続を確立してください。

---

**CLI0107E　　トランザクション中に、接続に障害が発生しました。**

**説明:**
関数の実行中に接続に障害が発生し、障害の前に COMMIT または ROLLBACK が実行されたかどうか判別できません。

**ユーザーの処置:**
新しい接続を確立してください。

---

**CLI0108E　　通信リンクに障害が発生しました。**

**説明:**
この関数の実行中に、ドライバーとデータ・ソース間の接続に障害が発生しました。

**ユーザーの処置:**
新しい接続を確立してください。

---

**CLI0109E　　ストリング・データの右側が切り捨てられました。**

**説明:**
SQLSetParam または SQLBindParameter を使用して指定されたデータが、パラメーター・マーカーの使用に対して許可された最大サイズを超えています。

**ユーザーの処置:**
SQLSetParam または SQLBindParameter を使用して、パラメーターを再指定してください。

---

**CLI0110E　　無効な出力または標識バッファーが指定されました。**

**説明:**
返されたデータが NULL でしたが、指定された出力または標識バッファーは NULL バッファーでした。

**ユーザーの処置:**
非 NULL バッファーを与えて出力または標識バッファーを再指定し、操作をやり直してください。

---

**CLI0111E　　数値が範囲外です。**

**説明:**
数値データが返されると、数値の整数部分が切り捨てられる可能性があります。

SQLPutData がパラメーターに対して複数回呼び出され、入力データは文字または バイナリー数のタイプではありませんでした。

**ユーザーの処置:**

数値データが切り捨てられないようにするために、SQLBindCol または SQLGetData のいずれかを使用して、出力バインドを再指定してください。

SQLSetParam または SQLBindParameter によってそのパラメーターに指定されたアプリケーションのデータ・タイプが SQL_C_CHAR または SQL_C_BINARY ではない場合は、パラメーターに対して SQLPutData を呼び出さないでください。

---

**CLI0112E　　割り当てにエラーがありました。**

**説明:**
パラメーターまたは列について送信されたデータが、関連する表の列のデータ・タイプと一致しません。

**ユーザーの処置:**
SQLBindCol または SQLGetData を使用して出力バインドを、あるいは SQLSetParam または SQLBindParameter を使用して入力バインドを再指定してください。

---

**CLI0113E　　無効な日付/時刻形式です。**

**説明:**
日付/時刻フィールドについて送信されたデータが無効です。 無効な日時フォーマットが検出されました。つまり、無効なストリング表現または値が指定されました。

**ユーザーの処置:**
日付データを再指定してください。

---

**CLI0114E　　日時フィールドがオーバーフローしました。**

**説明:**
日付、時刻、またはタイム・スタンプ・パラメーター、あるいは列について送信したデータが無効です。

**ユーザーの処置:**
日付、時刻、またはタイム・スタンプのデータを再指定してください。

---

**CLI0115E　　カーソル状態が無効。**

**説明:**
ステートメントが行に位置付けられていません。

**ユーザーの処置:**
SQLFetch または SQLExtendedFetch を呼び出して、ステートメントを行に位置付け、操作をやり直してください。

---

**CLI0116E　　トランザクション状態が無効。**

**説明:**
SQLDisconnect が呼び出されたとき、実行中のトランザクションがありました。

**ユーザーの処置:**
SQLDisconnect を呼び出す前に、SQLTransact を呼び出してください。

---

**CLI0117E　　カーソル名が無効。**

**説明:**
無効な、または重複したカーソル名が SQLSetCursorName に指定されました。

**ユーザーの処置:**
SQLSetCursorName を使用して、有効なカーソル名を再指定してください。

---

**CLI0118E　　SQL 構文が無効です。**

**説明:**
無効な、または誤った SQL ステートメントが指定されました。

**ユーザーの処置:**
有効な SQL ステートメントを再指定してください。

---

**CLI0119E　　予期しないシステム障害です。**

**説明:**
関数の処理中に予期しないシステム障害が発生しました。

**ユーザーの処置:**
アプリケーションを再始動して、もう一度やり直してください。

---

**CLI0120E　　メモリーの割り振りが失敗しました。**

**説明:**
ドライバーは、関数の実行または完了をサポートするために必要なメモリーを割り振ることができませんでした。

**ユーザーの処置:**
要求された操作を完了するために十分なメモリーがシステムにあるか確認してください。

---

**CLI0121E　　無効な列数です。**

**説明:**
iCol で指定された値が 0 より小さいか、結果セットにある列数より大きいか、または結果セットで許可されている列の最大数を超えています。

**ユーザーの処置:**
iCol に有効な値を再指定してください。

---

**CLI0122E　プログラム・タイプが範囲外です。**

**説明:**
fCType に指定された値が無効です。

**ユーザーの処置:**
fCType に有効な値を再指定してください。

---

**CLI0123E　SQL データ・タイプが範囲外です。**

**説明:**
fSQLType に指定された値が無効です。

**ユーザーの処置:**
fSQLType に有効な値を再指定してください。

---

**CLI0124E　引数の値が無効です。**

**説明:**
引数に指定された値が無効です。 NULL ポインター、無効な長さ、無効なオプションなどが原因として考えられます。

**ユーザーの処置:**
関数に渡された引数をもう一度調べて、無効な引数を判別してください。

---

**CLI0125E　関数のシーケンス・エラーです。**

**説明:**
この関数が誤った順序で呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
アプリケーションでの順序を訂正して、操作をやり直してください。

---

**CLI0126E　この時点で無効な操作です。**

**説明:**
システムが実行しようとした操作は、この時点では無効です。

**ユーザーの処置:**
操作の順序を訂正して、操作をやり直してください。

---

**CLI0127E　トランザクション・コードが無効です。**

**説明:**
SQLTransact に指定されたトランザクション・オプションが、SQL_COMMIT または SQL_ROLLBACK ではありませんでした。

**ユーザーの処置:**
SQL_COMMIT または SQL_ROLLBACK のどちらかを指定して、操作をやり直してください。

---

**CLI0128E　予期しない、メモリーのハンドル・エラーです。**

**説明:**
メモリー・ハンドル・エラーです。

**ユーザーの処置:**
内部メモリー・バッファーを処理中に、ドライバーで予期しないエラーが発生しました。アプリケーションを再始動してください。

---

**CLI0129E　これ以上ハンドルがありません。**

**説明:**
SQLAllocEnv、SQLAllocConnect、または SQLAllocStmt を呼び出しましたが、ドライバーで使用できるハンドルはこれ以上ありません。

**ユーザーの処置:**
SQLFreeEnv、 SQLFreeConnect、または SQLFreeStmt を呼び出して、アプリケーションで使用していないハンドルを解放してください。

---

**CLI0130E　使用できるカーソル名がありません。**

**説明:**
ステートメント上にオープン・カーソルがなく、カーソルが SQLSetCursorName で設定されていません。

**ユーザーの処置:**
SQLSetCursorName を使用して、カーソル名を指定してください。

---

**CLI0131E　ストリングまたはバッファーの長さが無効です。**

**説明:**
指定されたバッファーの長さが無効です。

**ユーザーの処置:**
有効なバッファー長を指定してください。

---

**CLI0132E　記述子タイプが範囲外です。**

**説明:**
指定された記述子タイプが無効です。

**ユーザーの処置:**
有効な記述子タイプを指定してください。

---

**CLI0133E　　オプション・タイプが範囲外です。**

**説明:**
指定されたオプション・タイプが無効です。

**ユーザーの処置:**
有効なオプション・タイプを指定してください。

**CLI0134E　　無効なパラメーター数です。**

**説明:**
パラメーター番号に指定された番号が 0 より小さいか、またはデータ・ソースによってサポートされているパラメーターの最大値を超えています。

**ユーザーの処置:**
有効なパラメーター番号を指定してください。

**CLI0135E　　位取りの値が無効です。**

**説明:**
指定された位取りの値が無効です。

**ユーザーの処置:**
有効な位取り値を指定してください。

**CLI0136E　　関数タイプが範囲外です。**

**説明:**
関数タイプが無効です。

**ユーザーの処置:**
有効な関数タイプの値を指定してください。

**CLI0137E　　情報タイプが範囲外です。**

**説明:**
情報タイプが無効です。

**ユーザーの処置:**
有効な情報タイプの値を指定してください。

**CLI0138E　　列タイプが範囲外です。**

**説明:**
列タイプが無効です。

**ユーザーの処置:**
有効な列タイプの値を指定してください。

**CLI0139E　　有効範囲のタイプが範囲外です。**

**説明:**
有効範囲のタイプが無効です。

**ユーザーの処置:**
有効な有効範囲タイプの値を指定してください。

**CLI0140E　　Uniqueness オプション・タイプが範囲外です。**

**説明:**
uniqueness オプション・タイプが無効です。

**ユーザーの処置:**
有効な uniqueness オプション・タイプの値を指定してください。

**CLI0141E　　Accuracy オプション・タイプが範囲外です。**

**説明:**
accuracy オプション・タイプが無効です。

**ユーザーの処置:**
有効な accuracy オプション・タイプの値を指定してください。

**CLI0142E　　Direction オプションが範囲外です。**

**説明:**
direction オプションが無効です。

**ユーザーの処置:**
有効な direction オプションの値を指定してください。

**CLI0143E　　精度の値が無効です。**

**説明:**
精度の値が無効です。

**ユーザーの処置:**
有効な精度の値を指定してください。

**CLI0144E　　パラメーター・タイプが無効です。**

**説明:**
パラメーター・タイプが無効です。

**ユーザーの処置:**
有効なパラメーター・タイプの値を指定してください。

**CLI0145E　　フェッチ・タイプが範囲外です。**

**説明:**
フェッチ・タイプが無効です。

**ユーザーの処置:**
有効なフェッチ・タイプの値を指定してください。

**CLI0146E　　行の値が範囲外です。**

**説明:**
行の値が無効です。

**ユーザーの処置:**

有効な行の値を指定してください。

---

**CLI0147E　　Concurrency オプションが範囲外です。**

**説明:**
concurrency オプションは無効です。

**ユーザーの処置:**
有効な concurrency オプションの値を指定してください。

---

**CLI0148E　　カーソルの位置が無効です。**

**説明:**
カーソルの位置が無効です。

**ユーザーの処置:**
有効なカーソルの位置の値を指定してください。

---

**CLI0149E　　ドライバーの完了が無効です。**

**説明:**
ドライバーの完了が無効です。

**ユーザーの処置:**
有効なドライバー完了値を指定してください。

---

**CLI0150E　　ドライバーが使用できません。**

**説明:**
この操作は有効ですが、ドライバーまたはデータ・ソースによってサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
有効な操作を指定してください。

---

**CLI0151E　　ペンディングのデータはありません。**

**説明:**
SQLParamData または SQLPutData が呼び出されましたが、このステートメントで実行をペンディングのデータがありません。

**ユーザーの処置:**
SQLSetParam または SQLBindParameter を使用して、パラメーターを再指定してください。

---

**CLI0152E　　ストリング値ではありません。**

**説明:**
関数は、ストリング引数が指定されることを予期しています。

**ユーザーの処置:**
関数に渡す引数を再指定してください。

---

**CLI0153E　　ファイル名の長さが無効です。**

**説明:**
ファイル名に指定された長さが無効です。

**ユーザーの処置:**
有効なファイル名の長さを指定してください。

---

**CLI0154E　　接続状態が無効です。**

**説明:**
接続タイプを変更しようとしましたが、接続または他の接続 (分散作業単位の場合) がすでにオープンされています。

**ユーザーの処置:**
接続がオープンされてから、接続タイプを変更しないでください。

---

**CLI0155E　　ファイル名が長すぎます。**

**説明:**
ファイル名に与えられた長さが、サポートされている長さを超えています。

**ユーザーの処置:**
有効なファイル名の長さを指定してください。

---

**CLI0156E　　ファイルのクローズ・エラーです。**

**説明:**
ファイルをクローズ中に予期しない状態が発生しました。

**ユーザーの処置:**
操作を再試行してください。

---

**CLI0157E　　ファイルのオープン・エラーです。**

**説明:**
ファイルをオープン中に予期しない状態が発生しました。

**ユーザーの処置:**
操作を再試行してください。

---

**CLI0158E　　ファイルの書き込みエラーです。**

**説明:**
ファイルの書き込み中に予期しない状態が発生しました。

**ユーザーの処置:**
操作を再試行してください。

---

**CLI0159E　ファイルの削除エラーです。**

**説明:**
ファイルを削除中に予期しない状態が発生しました。

**ユーザーの処置:**
操作を再試行してください。

**CLI0164E　NULL タイプが範囲外です。**

**説明:**
無効な NULL の値が指定されました。

**ユーザーの処置:**
NULL 値を再指定してください。

**CLI0165E　行にエラーがあります。**

**説明:**
1 つ以上の行をフェッチ中にエラーが発生しました。
(関数は SQL_SUCCESS_WITH_INFO を返しました。)

**ユーザーの処置:**
操作を再試行してください。

**CLI0166E　PARMLIST 構文エラーです。**

**説明:**
ストアード・プロシージャーのカタログ表の
PARMLIST の値に、構文エラーがあります。

**ユーザーの処置:**
このストアード・プロシージャーの行を再指定してください。

**CLI0167E　操作が取り消されました。**

**説明:**
SQLCancel がステートメントで呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
操作を再サブミットしてください。

**CLI0171E　データベースが接続できませんでした。理由:** *reason-text*

**説明:**
データベース接続が失敗しました。 「理由:」 は、データベースが接続できなかった理由を説明します。

**ユーザーの処置:**
問題を修正し、もう一度接続を試みてください。

**CLI0172E　データベースが接続できませんでした。構成を続けますか? 理由:** *reason-text*

**説明:**
データベース接続が失敗しました。 「理由:」 は、データベースが接続できなかった理由を説明します。

**ユーザーの処置:**
問題を修正し、もう一度接続を試みるか、または構成を続けてください。

**CLI0175E　ODBC Driver Manager が見つかりません。 ODBCINST.INI ファイルをオープンできません。**

**説明:**
Visigenic または Intersolv のいずれかの ODBC Driver Manager がインストールされていません。 ODBC Driver Manager は、関連した ODBCINST.INI ファイルに DB2 ODBC ドライバーを登録する前に存在していなければなりません。

**ユーザーの処置:**
ODBC Driver Manager をインストールして、このコマンドの実行をやり直してください。

**CLI0176E　ODBCINST.INI ファイルに書き込みできません。**

**説明:**
ODBC Driver Manager で使用される ODBCINST.INI ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。これは、オリジナルの ODBCINST.INI ファイルの形式が正しくないために発生することがあります。

**ユーザーの処置:**
既存の ODBCINST.INI ファイルを他の名前に変更して、このコマンドの実行をやり直してください。このエラーが続く場合には、技術サービス担当者に連絡してください。

**CLI0177E　IBM データ・サーバー・クライアントがインストールされている場所を判別することができません。**

**説明:**
IBM データ・サーバー・クライアントのインストール場所を見つけようとしている時にエラーが起こりました。

**ユーザーの処置:**
IBM データ・サーバー・クライアントが正しくインストールされていることをチェックしてください。

**CLI0178I　DB2 ODBC ドライバーが正常に登録されました。**

**説明:**
DB2 ODBC ドライバーは、インストール済みの ODBC Driver Manager に登録されました。

**ユーザーの処置:**
ユーザーはこの時点で、 ODBC Driver Manager ベンダーによる適切な ODBC 管理者ツールを使用し、 ODBC データ・ソースを構成することができます。

**CLI0179E　ダイアログ・ボックスを表示できません。**

**説明:**
DB2 ODBC ドライバーは、アプリケーションによって用意されたウィンドウ・ハンドルでダイアログ・ボックスをオープンすることができません。

**ユーザーの処置:**
アプリケーションは正しいウィンドウ・ハンドルを渡さなければなりません。

**CLI0180E　ブックマークの値が無効です。**

**説明:**
引数 fFetchOrientation は SQL_FETCH_BOOKMARK であり、SQL_ATTR_FETCH_BOOKMARK_PTR ステートメント属性の値が指すブックマークは正しくありません。

**ユーザーの処置:**
正しいブックマークの値を再指定してください。

**CLI0181E　記述子索引が無効です。**

**説明:**
列番号の引数として指定した値が無効です。

**ユーザーの処置:**
正しい列番号を再指定してください。

**CLI0182W　小数点以下切り捨てです。**

**説明:**
ある列のデータが切り捨てられました。

**ユーザーの処置:**
特になし。

**CLI0183E　関連ステートメントが準備されていません。**

**説明:**
記述子ハンドルは IRD と関連があり、関連ステートメント・ハンドルが準備状態にありません。

**ユーザーの処置:**
記述子と関連のあるステートメントを準備してください。

**CLI0184E　インプリメンテーション行の記述子を修正できません。**

**説明:**
記述子ハンドルは IRD と関連があり、 IRD レコード・フィールドを更新できません。

**ユーザーの処置:**
正しい記述子およびフィールドを指定してください。

**CLI0185E　自動割り振りの記述子ハンドルについて無効な使用です。**

**説明:**
SQLAllocHandle 関数を使用して割り振られた明示記述子のみ、この方法で使用することができます。

**ユーザーの処置:**
明示的に割り振った記述子を使用してください。

**CLI0186E　サーバーは取り消し要求を拒否しました。**

**説明:**
通信エラーのため、サーバーが取り消し要求を拒否しました。

**ユーザーの処置:**
特になし。

**CLI0187E　文字または バイナリー数のいずれでもないデータが別々に送信されました。**

**説明:**
SQLPutData が、文字でもバイナリーでもない列に対して複数回呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
文字またはバイナリー数のいずれでもないデータに対して、 SQLPutData を 1 回だけ呼び出してください。

**CLI0188E　null 値の連結を試行します。**

**説明:**
このパラメーターに対する SQLPutData の直前の呼び出しによって、長さが SQL_NULL_DATA の入力バッファーが指定されました。

**ユーザーの処置:**
正しい入力バッファーの長さで SQLPutData を呼び出すか、または SQLPutData を正確な回数で呼び出していることを確認してください。

**CLI0189E　記述子情報が矛盾します。**

**説明:**
関連する記述子が、整合性チェックで失敗しました。

**ユーザーの処置:**
記述子フィールドが正しいか、また互いに依存しているフィールドがすべて正しく設定されているかを確認してください。

**CLI0190E　間接的な参照では無効な記述子です。**

**説明:**
記述子ハンドルが無効であるか、または ARD の TYPE、 OCTECT_LENGTH、 DATA_PTR、 INDICATOR_PTR、 OCTECT_LENGTH_PTR フィールドに無効な値が入っています。

**ユーザーの処置:**
間接記述子ハンドルが正しいか、また据え置きフィールドが正しく設定されているかどうか確認してください。

**CLI0191E　属性の値が無効です。**

**説明:**
与えられた値は、指定した属性について正しくありません。

**ユーザーの処置:**
指定した属性に正しい値を使用してください。

**CLI0192E　無効なデータベース別名が指定されました。**

**説明:**
DB2CAP コマンドの -d パラメーターに無効な、または存在しないデータベース別名を指定しました。

**ユーザーの処置:**
存在するデータベース別名を指定してください。 現在カタログされているデータベースを判別するには、LIST DATABASE DIRECTORY コマンドを使用してください。

**CLI0193E　キャプチャー・ファイル *capture-file-name* が見つからないか、または使用中です。**

**説明:**
DB2CAP は、BIND パラメーター値として指定されたファイル <capture-file-name> をオープンすることができません。 ファイルが存在しないか、または別の処理が独占して使用しています。

**ユーザーの処置:**
存在するキャプチャー・ファイルの名前を指定するか、またはファイルが別のプロセスから解放されるまで待機してください。

**CLI0194E　コマンド構文エラーです。 正しい構文: db2cap [-h | -?] bind capture-file -d db-alias [-u userid [-p password]]**

**説明:**
コマンド名と同様、DB2CAP コマンドのパラメーターは、上の構文図に示されているように正しく入力しなければなりません。UNIX プラットフォームでは大文字と小文字が区別されますが、Intel プラットフォームでは区別されません。パラメーターとその値の間には、スペースを少なくとも 1 つ入れなければなりません。例: -u userid は正しい形式ですが、-uuserid は正しくありません。

構文図において、大括弧 ([ ]) はオプション・パラメーターを表しています。 userid を指定しても password を省略した場合、パスワードを入力するよう要求されます。 (パスワードを入力するとき、画面には表示されません。)

-h または -? パラメーターを指定すると、コマンドは構文ヘルプを表示し、その他のパラメーターは処理されません。

**ユーザーの処置:**
コマンドの構文がダイアグラムで説明されている形式になっているかどうか確認してください。

**CLI0195E　無効なキャプチャー・ファイル: 有効なステートメント・グループを含んでいません。**

**説明:**
キャプチャー・ファイルには、有効なステートメント・グループが少なくとも 1 つ入っていなければなりません。

**ユーザーの処置:**
同じキャプチャー・ファイルを使用してアプリケーションを再キャプチャーし、 SQL ステートメントが少なくとも 1 つキャプチャーされたかどうか確認するか、あるいはキャプチャー・ファイルを編集して、ステートメント・グループを手操作で追加してください。 ステートメント・グループを手操作で追加する場合、追加する SQL ステートメントのタイプに必須のキーワードをすべて指定してください。 その後、要求をもう一度サブミットしてください。

**CLI0196E　ユーザー切り替え操作は、この時点では無効な操作です。**

**説明:**
アプリケーションは、作業単位内でユーザーを切り替えることはできません。

**ユーザーの処置:**
操作の順序を訂正してください。アプリケーションは、作業単位が始まる前に、ユーザーを切り替える必要があります。

**CLI0197E　この接続ではトラステッド・コンテキストが有効ではありません。属性の値が無効です。**

**説明:**
初期トラステッド接続が確立される前に、属性 SQL_ATTR_TRUSTED_CONTEXT_USERID または SQL_ATTR_TRUSTED_CONTEXT_PASSWORD を設定してトラステッド接続を再利用することはできません。

**ユーザーの処置:**
SQL_ATTR_USE_TRUSTED_CONTEXT が設定されていて、トラステッド・コンテキストが有効になっていること、およびトラステッド接続が確立されていることを確認してください。

**CLI0198E　トラステッド・コンテキスト・ユーザー ID が欠落しています。**

**説明:**
必須属性 SQL_ATTR_TRUSTED_CONTEXT_USERID を指定せずに、属性 SQL_ATTR_TRUSTED_CONTEXT_PASSWORD が設定されました。

**ユーザーの処置:**
属性 SQL_ATTR_TRUSTED_CONTEXT_PASSWORD を設定する際には、SQL_ATTR_TRUSTED_CONTEXT_USERID 属性も設定されていることを確認してください。

**CLI0199E　接続ストリング属性が無効です。**

**説明:**
接続ストリングで指定された接続ストリング属性が無効、またはサポートされていません。ドライバーが、データ・ソースとの接続を確立できませんでした。

**ユーザーの処置:**
有効な接続ストリング属性を指定して、やり直してください。

**CLI0200E　DSN 値が無効です。**

**説明:**
接続ストリングまたは接続 API 内で DSN に使用しようとしている値が無効です。

ドライバーが、データ・ソースとの接続を試行しませんでした。

**ユーザーの処置:**
有効な DSN を指定して、再試行してください。

**CLI0201E　データベース値が無効です。**

**説明:**
接続ストリングまたは接続 API 内のデータベース名またはデータベース別名が無効です。

ドライバーが、データ・ソースとの接続を試行しませんでした。

**ユーザーの処置:**
有効なデータベース名を指定して、再試行してください。

**CLI0600E　無効な接続ハンドルか、または接続がクローズされています。**

**説明:**
操作よりも前に接続がクローズされました。

**ユーザーの処置:**
操作よりも前に接続クローズが呼ばれていないことを確認してください。

**CLI0601E　無効なステートメント・ハンドルか、またはステートメントがクローズされています。**

**説明:**
操作よりも前にステートメントがクローズされました。

**ユーザーの処置:**
操作の前にステートメント・クローズおよびステートメント接続クローズが呼ばれていないことを確認してください。

**CLI0602E　サーバー上のメモリー割り振りエラー。**

**説明:**
サーバー上でメモリーを割り振ることができません。

**ユーザーの処置:**
詳細については、データベース管理者に DB2 JDBC ログ・ファイルの確認を依頼してください。 プログラムを再実行してください。

**CLI0603E CallableStatement get*** メソッドが registerOutParameter なしで呼ばれました。**

**説明:**
Get*** メソッドは registerOutParameter を使用して登録されなかったパラメーター上で呼ばれました。

**ユーザーの処置:**
パラメーターに registerOutParameter 呼び出しを追加してください。

**CLI0604E CallableStatement get*** メソッドは呼び出しの実行をされずに呼ばれました。**

**説明:**
CallableStatement get*** メソッドは呼び出し中の CallableStatement の実行よりも前に呼ばれました。

**ユーザーの処置:**
どの CallableStatement get*** メソッドよりも前に CallableStatement の実行が呼ばれるようにしてください。

**CLI0605E CallableStatement get*** メソッドは registerOutParameter で使用されたタイプと一致しませんでした。**

**説明:**
CallableStatement get*** メソッドは、このパラメーターの registerOutParameter で使用されたタイプと一致するものではありません。

**ユーザーの処置:**
このパラメーターの registerOutParameter で使用されるタイプに一致する get*** メソッドに変更してください。 (JDBC 仕様を参照)

**CLI0606E 列が返した値は、get*** メソッドに対応するデータ・タイプと互換性がありません。**

**説明:**
CHAR/VARCHAR/LONGVARCHAR 列内の値は無効な数値です。

**ユーザーの処置:**
数値を返すメソッド以外の適切な get メソッドを使用してください。

**CLI0607E 無効な日付時刻形式です。**

**説明:**
CHAR、VARCHAR、LONGVARCHAR、GRAPHIC、または VARGRAPHIC 列にある日付/時刻/タイム・スタンプの値は無効です。

**ユーザーの処置:**
getDate/getTime/getTimestamp 以外の適切な get*** メソッドを使用してください。

**CLI0608E 無効な変換です。**

**説明:**
get*** メソッドはこの列タイプでは無効です。

**ユーザーの処置:**
この列からデータを検索する有効な get*** メソッドを使用してください。(JDBC 仕様を参照)

**CLI0609E 数値が範囲外です。**

**説明:**
この列の値は short または int 値として大きすぎるか、小さすぎ、変換によってデータが失われる原因となります。

**ユーザーの処置:**
値を調節できる get メソッドを使用してください。

**CLI0610E 無効な列数です。**

**説明:**
列数は 1 より小さいか ResultSet の総列数より大きい数です。

**ユーザーの処置:**
列数が 1 より小さくなく、総列数より大きくならないようにしてください。

**CLI0611E 無効な列名。**

**説明:**
指定された列名は ResultSet に見つかりません。

**ユーザーの処置:**
列名が正しいか確認してください。

**CLI0612E 無効なパラメーター数です。**

**説明:**
指定されたパラメーター数が 1 より小さく、総パラメーター数より大きい数です。

**ユーザーの処置:**
パラメーター数が 1 以上、かつ総パラメーター数以下になるようにしてください。

**CLI0613E プログラム・タイプが範囲外です。**

**説明:**
PreparedStatement/CallableStatement で指定されたオブジェクトは有効なオブジェクト・タイプではありません。

**ユーザーの処置:**
設定されるオブジェクトが setObject で許可されているオブジェクト・タイプの 1 つであることを確認してください。(JDBC 仕様を参照)

---

**CLI0614E　ソケットへの送信エラー、サーバーは応答しません。**

**説明:**
サーバーへデータを送信中に、エラーが発生し、サーバーがダウンしている可能性があります。

**ユーザーの処置:**
サーバーの稼働を確認し、プログラムを再実行してください。

---

**CLI0615E　ソケットからの受信エラー、サーバーは応答しません。**

**説明:**
サーバーからデータを受信中に、エラーが発生し、サーバーがダウンしている可能性があります。

**ユーザーの処置:**
JDBC サーバーの稼働を確認し、プログラムを再実行してください。

---

**CLI0616E　ソケットのオープン・エラー。**

**説明:**
サーバーへのソケットをオープンできません。サーバーがダウンしている可能性があります。

**ユーザーの処置:**
JDBC サーバーの稼働を確認し、プログラムを再実行してください。

---

**CLI0617E　ソケットのクローズ・エラー。**

**説明:**
サーバーへのソケットをクローズできません。 サーバーがダウンしている可能性があります。

**ユーザーの処置:**
JDBC サーバーの稼働を確認し、プログラムを再実行してください。

---

**CLI0618E　ユーザー ID またはパスワード (あるいは両方) が無効です。**

**説明:**
指定されたユーザー ID/パスワードが無効です。

**ユーザーの処置:**
ユーザー ID/パスワードが正しいことを確認して、プログラムを再実行してください。

---

**CLI0619E　無効な UTF8 データ形式です。**

**説明:**
getUnicodeStream が DBCS 列でない列で呼ばれる場合、UTF8 形式からのデコードが行われますが、データは正しくデコードできません。

**ユーザーの処置:**
getString、getBytes、getAsciiStream、または getBinaryStream を使用してください。

---

**CLI0620E　IOException、入力ストリームからの読み取りエラーです。**

**説明:**
入力ストリームから入るデータを読み取り中に、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
ファイルが存在し、ファイル長が正しく指定されているか確認してください。

---

**CLI0621E　サポートされていない JDBC サーバー構成です。**

**説明:**
ターゲット JDBC サーバー構成はサポートされていません。 コントロール・センターを実行している場合、ターゲット JDBC サーバーはスタンドアロンの db2jd 処理 (db2jstrt によって開始されたもの) でなければならず、 2 階層のネイティブ JDBC サーバーであってはなりません。

**ユーザーの処置:**
コントロール・センターのターゲットとなるポートに対して db2jstrt を使うことによって、 JDBC サーバーを再構成してください。

---

**CLI0622E　JDBC 管理サービス拡張機能へのアクセス・エラー。**

**説明:**
コントロール・センターは、 JDBC サーバーとともに実行する管理サポート・サービスに依存しています。コントロール・センターは、それらの管理サービスを見つけることができずアクセスできませんでした。

**ユーザーの処置:**
コントロール・センターの管理サービスが JDBC サーバーと共にインストールされていることを確認してください。

---

**CLI0623E　コード・ページ変換表がありません。**

**説明:**
コード・ページ変換表が見つかりません。

**ユーザーの処置:**
変換表 (ローカル・コード・ページから Unicode への変換と Unicode からローカル・コード・ページへの変換) がインストールされているかどうか、確認してください。

---

**CLI0624E　コード・ページ変換表がロードされていません。**

**説明:**
コード・ページ変換表をロードできません。

**ユーザーの処置:**
JDBC アプリケーションに、コード・ページ表へのアクセスがあり、表が破壊されていないかどうか、確認してください。

---

**CLI0625E　JDBC 1.22 の振る舞いを指定しました。JDBC 2.0 関数は使用できません。**

**説明:**
呼び出そうとしている関数は、JDBC 2.0 で定義された新規の関数ですが、JDBC 1.22 の振る舞いが必要であると指定しました。

**ユーザーの処置:**
JDBC 2.0 関数を使用する場合には、JDBCVERSION キーワードを ″122″ に設定しないでください。設定をしないか、または ″200″ に設定します。

---

**CLI0626E　*function-name* は、DB2 JDBC 2.0 ドライバーのこのバージョンではサポートされません。**

**説明:**
この機能は、DB2 JDBC 2.0 ドライバーのこのバージョンではサポートされません。

**ユーザーの処置:**
この機能を使用しないでください。

---

**CLI0627E　結果セットはスクロールできません。**

**説明:**
結果セットはスクロールできません。

**ユーザーの処置:**
ステートメント / 結果属性設定を SCROLLABLE に設定しているか、確認してください。

---

**CLI0628E　パラメーター・セット *parameter-number* 番の *set-number* 番パラメーター・マーカーが設定されていません。**

**説明:**
この入力パラメーターに対して、set<data-type> メソッドが呼び出されていません。

**ユーザーの処置:**
set<data-type> メソッドを呼び出して、この入力パラメーターの入力値のデータ・タイプを指定してください。

---

**CLI0629E　*function-name* はこの列でサポートされません。**

**説明:**
この操作は、この列では呼び出されません。

**ユーザーの処置:**
別のメソッドに変更してください。

---

**CLI0630E　識別されない結果セット・タイプ / 並列性 *number* です。**

**説明:**
結果セット・タイプまたは並列性に対して、無効な値が指定されました。

**ユーザーの処置:**
仕様で示されている正しい値に変更してください。

---

**CLI0631E　混合文字 / clob 列のランダム・アクセスがありません。**

**説明:**
ランダム・アクセスは、この混合文字列ではサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
データを順番に検索してください。

---

**CLI0632E　無効なフェッチ・サイズです。 0 から maxRows の間の値である必要があります。**

**説明:**
フェッチ・サイズは、0 以上で、maxRows 以下である必要があります。

**ユーザーの処置:**
値を修正してください。

---

**CLI0633E　現在行がないときには relative() を呼び出すことができません。**

**説明:**
カーソルが有効行にない時に、相対メソッドが呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
まず、カーソルを有効行に移動し、(absolute、next、など)、次に relative を呼び出します。

**CLI0634E　CLI 環境ハンドルの割り振りでエラーが発生しました。**

**説明:**
初期化中に SQLAllocEnv が失敗しました。

**ユーザーの処置:**
DB2INSTANCE 環境変数が正しく設定されていることを確認してください。

**CLI0635E　*function-name* はアプレットでサポートされていません。**

**説明:**
<function-name> はアプレットでサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
アプレットで <function-name> を使用しないでください。

**CLI0636E　プロパティー *property-name* が Context オブジェクトに指定されていません。**

**説明:**
Java アプリケーション中で、 Context オブジェクトのプロパティー *property-name* が指定されていません。

**ユーザーの処置:**
Java アプリケーション中で、 Context オブジェクトのプロパティー *property-name* が指定されているか確認してください。

**CLI0637E　*object* が見つかりません。**

**説明:**
<object> が存在しません。

**ユーザーの処置:**
<object> が存在するかどうか確認してください。

**CLI0638E　オブジェクト はすでに存在します。**

**説明:**
すでに存在するため、<object> を作成することができません。

**ユーザーの処置:**
操作が正しいかどうか確認してください。

**CLI0639E　ストリングが空です。**

**説明:**
空のストリングは許可されていません。

**ユーザーの処置:**
指定されているストリングを訂正してください。

**CLI0640E　*object* をリストできません。**

**説明:**
<object> をリストできません。

**ユーザーの処置:**
<object> をリストできるかどうか確認してください。

**CLI0641E　バッチに SELECT ステートメントがあります。**

**説明:**
SELECT ステートメントはバッチでは許可されていません。

**ユーザーの処置:**
バッチから SELECT ステートメントを除去してください。

**CLI0642E　フェッチ指示が無効です。**

**説明:**
指定されたフェッチ指示はサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
フェッチ指示を訂正してください。

**CLI0643E　バッチにステートメントがありません。**

**説明:**
バッチの中にステートメントがありません。

**ユーザーの処置:**
ステートメントをバッチに追加してください。

**CLI0644E　absolute() 呼び出しへの行の値が無効です。**

**説明:**

absolute() 呼び出しに指定されている行の値は無効です。

**ユーザーの処置:**
行の値を訂正してください。

---

**CLI0645E　ドライバー *class-name* の登録エラー。メッセージ: *message*。 SQLSTATE: *sqlstate*。 SQLCODE: *sqlcode*。**

**説明:**
DriverManager が DB2 JDBC ドライバーを登録できません。

**ユーザーの処置:**
返されたメッセージ、SQLSTATE、および SQLCODE に従って問題を訂正し、プログラムをもう一度実行してください。

---

**CLI0646E　ライブラリー *library-name* が見つかりません。**

**説明:**
*library-name* は、ライブラリー・パスにありません。ライブラリー・パスは以下のオペレーティング・システムで環境変数によって定義されます。

**AIX (Java 1.1)**
LD_LIBRARY_PATH

**AIX (Java 1.2 以降)**
LIBPATH

**HP-UX** SHLIB_PATH

**Linux** LD_LIBRARY_PATH

**Silicon Graphics IRIX**
LD_LIBRARY_PATH

**Solaris オペレーティング環境**
LD_LIBRARY_PATH

**Windows オペレーティング・システム**
PATH

**ユーザーの処置:**
アプリケーション環境が DB2 を使用するのに正しく構成されていることを確認してください。 UNIX プラットフォームの場合、環境変数を設定するために sqllib/db2profile スクリプトが実行されていることを確かめてください。

---

**CLI0647E　DB2 環境ハンドルの割り振りでエラーが発生しました。戻りコード = *return-code*。**

**説明:**
DB2 CLI 環境を確立できませんでした。

**ユーザーの処置:**
アプリケーション環境が DB2 を使用するのに正しく構成されていることを確認してください。 UNIX プラットフォームの場合、環境変数を設定するために sqllib/db2profile スクリプトが実行されていることを確かめてください。戻りコードの解説については、「*コール・レベル・インターフェースのガイドおよびリファレンス*」の SQLAllocHandle() の項を参照してください。

---

**CLI0648N　ResultSet はクローズされました。**

**説明:**
操作よりも前に ResultSet がクローズされました。

**ユーザーの処置:**
操作よりも前に ResultSet.close() が呼ばれていないことを確認してください。 getMoreResults() を使って複数の ResultSets を処理する場合は、必ず新しい ResultSet にアクセスする前に getResultSet() を呼び出してください。

---

**CLI0649N　executeQuery は、ResultSet を戻すステートメントにのみ許可されます。**

**説明:**
executeQuery は、ResultSet を戻すステートメントにのみ許可されます。このような SQL ステートメントには、SELECT、VALUES、WITH、および CALL ステートメントなどがあります。

**ユーザーの処置:**
executeUpdate() または execute() を使用します。

---

**CLI0650N　照会は executeUpdate() では許可されません。**

**説明:**
executeUpdate() を使って照会を発行することはできません。

**ユーザーの処置:**
executeQuery() または execute() を使用します。

---

**CLI0651N　ストリームに、指定されたより多いか少ないデータが含まれています。**

**説明:**
ストリームのバイト数または文字数が指定された長さと等しくありません。

**ユーザーの処置:**
正しい長さを指定してください。

# 第 8 章 DB2 メッセージ

このセクションには、コマンド行プロセッサーが生成するメッセージが記載されています。コマンド行プロセッサーは DB2 および SQL メッセージを返します。メッセージは番号順にリストされています。

**DB20000I** *command* **コマンドが正常に完了しました。**

**説明:**
このコマンドの実行中にはエラーは発生していません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DB21001E** **'DB2' コマンドの後ろ、または DB2OPTIONS 変数に指定された** *option-letter* **オプションが正しくありません。**

**説明:**
示されたオプションはサポートされていません。サポートされているオプションは以下のとおりです。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| -a | SQLCA を表示する |
| -c | 自動コミット |
| -e | SQLCODE/SQLSTATE を表示する |
| -f | 入力ファイルから読み込む |
| -l | 履歴ファイルにコマンドのログをとる |
| -n | 改行文字を除去する |
| -o | 出力を表示する |
| -p | 対話式プロンプトを表示する |
| -r | 出力レポートをファイルに保管する |
| -s | cmd エラーで実行を停止する |
| -t | ステートメント終了文字を設定する |
| -v | 現在のコマンドを繰り返す |
| -w | FETCH/SELECT 警告を表示する |
| -x | 列見出しの印刷を抑止 |
| -z | すべての出力をファイルに保管する |

コマンドは処理されません。

**ユーザーの処置:**
有効なオプションを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

**DB21002E** **'db2'コマンドの後ろ、または DB2OPTIONS 変数に指定された** *option-letter* **オプションのパラメーターがないか、または正しくありません。**

**説明:**
パラメーターを持つオプションのリストは以下のとおりです。

| オプション | 説明 |
|---|---|
| -ec | SQLCODE を表示する |
| -es | SQLSTATE を表示する |
| -f<filename> | 入力ファイル <filename> から読み取る |
| -l<filename> | コマンドを履歴ファイル <filename> に記録する |
| -r<filename> | 出力レポートをファイル <filename> に保存する |
| -td<x> | 終了文字を 'x' に設定する |
| -z<filename> | すべての出力をファイル <filename> に保存する |

**ユーザーの処置:**
有効なオプションとパラメーターを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

**DB21003E** *environment-variable* **の値** *value* **が無効です。**

**説明:**
DB2BQTRY の値は 0 から 4294967295 でなければなりません。 DB2BQTIME、DB2RQTIME または DB2IQTIME の値は 1 から 4294967295 でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
正しい値で環境変数を設定し、コマンドを再サブミットしてください。

**DB21004E** **コマンド行プロセッサーの呼び出しで、入力ファイルとコマンドの両方を指定することはできません。**

**説明:**
コマンド行プロセッサーを呼び出す場合、-f オプションとコマンド行コマンドの両方は指定できません。

**ユーザーの処置:**
エラーを訂正して、コマンドを再発行してください。

**DB21005E** **ファイル** *filename* **にアクセス中に、エラーが発生しました。**

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

**説明:**
以下が原因で、エラーが発生したと考えられます。

- ファイル許可がファイル・アクセスを許可しません
- ファイルが存在しません

**ユーザーの処置:**
エラーを訂正し、やり直してください。

---

**DB21006E　入力コマンドが長すぎます。最大長は *length* です。**

**説明:**
入力コマンドは、示されている長さを超えることはできません。

**ユーザーの処置:**
エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB21007E　コマンド読み取り中に、ファイルの終わりに達しました。**

**説明:**
ファイルの終わりに達したため、最後のコマンドが実行されませんでした。 -t オプションを使用している場合、最後のコマンドを ';' (または定義済みの終了文字) で終了させます。 +t オプションを使用している場合は、コマンドの最後の行から '¥' を取り除きます。

**ユーザーの処置:**
エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB21008E　コマンドは、コマンド行プロセッサーの対話モードか、ファイル入力モードでのみ入力できます。**

**説明:**
コマンド行プロセッサー・コマンドを DOS プロンプトから入力しようとしました。

**ユーザーの処置:**
コマンド行プロセッサーの対話型モード、またはファイル入力モードを使用してください。

---

**DB21009E　このコマンドは、完全な管理特権で実行しているコマンド・ウィンドウから立ち上げなければなりません。**

**説明:**
限定された特権セットで実行しているコマンド・ウィンドウからこのコマンドを実行することはできません。DB2 インストール済み環境には「コマンド・ウィンドウ - 管理者」ショートカットが提供されており、このショートカットにはこのコマンドの該当する実行権があります。

**ユーザーの処置:**
「コマンド・ウィンドウ - 管理者」ショートカットを立ち上げて、コマンドを再実行してください。

---

**DB21010I　*help-command-phrase* のヘルプです。**

**説明:**
このメッセージは、-l オプションで指定された履歴ファイルにのみ書き込まれます。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DB21011I　パーティション・データベース・サーバー環境において、現行ノード上の表スペースのみリストされます。**

**説明:**
現行ノード上の表スペースのみが LIST TABLESPACES コマンドで見ることができます。

**ユーザーの処置:**
別のノード上にある表スペースをリストするには、そのノードで LIST TABLESPACES コマンドを出さなければなりません。

---

**DB21015E　コマンド行プロセッサーのバックエンド処理の要求キューまたは入力キューが、タイムアウト時間内に作成されませんでした。**

**説明:**
DB2BQTRY および DB2BQTIME 環境変数の値を増やす必要があるか、またはコマンド行プロセッサーのバックエンド・プログラム "db2bp" が始動できないかのいずれかです。 "db2bp" プログラムは、正しいデータベース・マネージャー・インストール・パスに存在していなければならず、ユーザーはそのファイルの実行許可を持っている必要があります。

Linux および UNIX プラットフォームで、ファイル・システムに十分なファイル・ブロックと i ノードがあるか確認してください。

**ユーザーの処置:**
エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB21016E　バックエンド処理にコマンドを送信中に、コマンド行プロセッサーでシステム・エラーが発生しました。**

**説明:**
以下のいずれかが発生した可能性があります。

- バックエンド処理が異常終了しました。
- バックエンド処理キューとの間の読み取りまたは書き込み中に、システム・エラーが発生しました。
- フロントエンド処理の出力キューからの読み取り中に、システム・エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再サブミットしてください。このエラーが再び発生する場合、システム管理者に連絡して援助を受けてください。

---

**DB21017E　コマンド行プロセッサーのフロントエンド処理の出力キューで、システム・エラーが発生しました。理由コード = *reason-code*。**

**説明:**
フロントエンド処理の出力キューの作成または読み取り中に、システム・エラーが発生しました。

理由コードが -2499 の場合、コマンド行プロセッサーの出力キューが既存のキューと矛盾しています。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再サブミットしてください。このエラーが再び発生する場合、メッセージ番号と理由コードを記録して、システム管理者に報告してください。

---

**DB21018E　システム・エラーが発生しました。コマンド行プロセッサーは処理を続行できませんでした。**

**説明:**
以下のいずれかがシステム・エラーの原因です。

- スクリーンに出力されるデータが多すぎます。処理の完了時に表示できるファイルに、出力をパイプ接続してください。
- コマンド行プロセッサーが、割り込みシグナル・ハンドラーのインストールに失敗しました。
- コマンド行プロセッサーが、バックエンド処理キューのオープンに失敗しました。
- コマンド行プロセッサーが、バックエンド処理の始動に失敗しました。
- バックエンド処理が異常終了しました。
- フロントエンド処理が、メモリーの割り振りまたは解放に失敗しました。
- フロントエンドまたはバックエンド、あるいはその両方の処理が、動的にライブラリーをロードするのに失敗しました。
- コマンド行プロセッサーが、以下のいずれかのプログラム終了シグナルを受け取りました。
  - SIGILL
  - SIGTRAP
  - SIGEMT
  - SIGBUS
  - SIGSEGV
  - SIGSYS

**ユーザーの処置:**
コマンドを再試行してください。問題が解決しない場合、DB2 メッセージ番号を記録しておいてください。トレースがアクティブであった場合は、トレース情報を保管し、技術サポートに次の情報を報告してください。

- 問題の説明
- DB2 メッセージ番号
- SQLCA (可能であれば)
- トレース・ファイル (可能であれば)

---

**DB21019E　ディレクトリー *directory* にアクセス中に、エラーが発生しました。**

**説明:**
以下が原因で、エラーが発生したと考えられます。

- ディレクトリー許可がアクセスを許可しません
- ディレクトリーが存在しません

**ユーザーの処置:**
エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB21020E　デフォルトのメッセージ・ファイル *file* を作成できません。**

**説明:**
このコマンドを適切に処理するため、メッセージをコンソールに表示する前に、処理の保管中にそのメッセージを発行したファイルが CLP に必要となります。このような目的で通常使用されているディレクトリー (UNIX プラットフォームの /tmp) に、そのファイルを作成しようとしましたが、そのディレクトリーが存在しないため失敗しました。

**ユーザーの処置:**
エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB21021E　Admin Server のインスタンスが定義されていません。コマンドは失敗しました。**

**説明:**
Administration Server のインスタンスを使用するために必要なコマンドを発行しましたが、そのインスタンスは定義されていません。

**ユーザーの処置:**
Administration Server インスタンスを定義してコマンドを再サブミットしてください。

**DB21022E　Administration Server のインスタンス *instance-name* に切り替えられません。**

**説明:**
Administration Server のインスタンスを使用するために必要なコマンドを発行しました。コマンド行プロセッサーが Administration Server のインスタンス *instance-name* に切り替えようとしましたが、失敗しました。以下の理由が考えられます。

- Administration Server のインスタンスが正しく設定されていない。
- コマンド行プロセッサーがすでに DB2 インスタンスにアタッチされている。
- コマンド行プロセッサーがデータベースに接続している。

**ユーザーの処置:**
このコマンドを使用する前に、有効な Administration Server インスタンスが設定されているかどうかチェックしてください。また要求を試みる前に、DETACH、CONNECT RESET、あるいは TERMINATE コマンドを発行するようお勧めします。

**DB21023E　Administration Server から実行される場合、コマンドは無効です。**

**説明:**
GET DBM CONFIGURATION、RESET DBM CONFIGURATION、あるいは UPDATE DBM CONFIGURATION のいずれかのコマンドを出しましたが、これらのコマンドは Administration Server から実行できません。

**ユーザーの処置:**
Administration Server で有効なコマンドのいずれかを発行してください。 GET ADMIN CONFIGURATION、RESET ADMIN CONFIGURATION、あるいは UPDATE ADMIN CONFIGURATION。

**DB21024I　このコマンドは非同期であり、即時に有効にならない場合もあります。**

**説明:**
このメッセージは、ASYNC 文節を持つ FORCE コマンドか、 INPLACE 文節を持つ REORG TABLE コマンドの後に表示されます。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DB21025I　即時変更のためにサブミットされた 1 つ以上のパラメーターが動的に変更されませんでした。クライアントの変更は、次回のアプリケーション始動時、または TERMINATE コマンドが発行されるまで有効になりません。次の DB2START コマンドまで、サーバーの変更は有効になりません。**

**説明:**
データベース・マネージャーの構成変更のうちいくつかの変更を即時に適用することができませんでした。これらのパラメーターについては、DB2 の開始後に変更が適用されます。通常これは、サーバーでの **DB2START** の後、およびクライアントでのアプリケーションの再始動の後に発生します。

**ユーザーの処置:**
どのパラメーターの変更が動的に有効になったか、あるいはどのパラメーターの変更が動的に有効にならなかったかを調べるには、以下のコマンドを使用して、データベース・マネージャー構成パラメーターを検索し、詳細を表示してください。

```
DB2 GET DBM CFG SHOW DETAIL
```

ユーザーがインスタンスにアタッチされている場合にのみ、データベース・マネージャー構成パラメーターへの変更は動的に有効になります。すべての構成パラメーターが動的更新をサポートしているわけではありません。どのパラメーターを動的に変更できるのかを調べるには、「管理ガイド」を参照してください。

グループ内で複数のパラメーターがサブミットされた場合は、パラメーターを個々にサブミットしてください。構成パラメーターを動的に変更できない場合には、以下の 1 つ以上を行ってください。

- ユーザー・アプリケーション: アプリケーションの停止および開始
- CLP: TERMINATE および再接続
- サーバー: DB2STOP および DB2START の発行

**DB21026I　即時変更のためにサブミットされた 1 つ以上のパラメーターが動的に変更されませんでした。これらの構成パラメーターでは、変更を有効にする前にすべてのアプリケーションをこのデータベースから切断する必要があります。**

**説明:**
データベース構成コマンドは正常に処理されました。しかし、いくつかの変更は即座に処理されませんでした。アプリケーションがデータベースから切断された後、データベースに最初に接続すると、変更が有効になります。

**ユーザーの処置:**
どのパラメーターの変更が動的に有効になったか、あるいはどのパラメーターの変更が動的に有効にならなかったかを調べるには、以下のコマンドを使用して、データベース構成パラメーターを検索し、パラメーターの詳細を表示してください。

```
DB2 GET DB CFG FOR
   <database-alias> SHOW DETAIL
```

データベースに接続している場合にのみ、データベース構成パラメーターへの変更は動的に有効になります。すべての構成パラメーターが動的更新をサポートしているわけではありません。どのパラメーターを動的に変更できるのかを調べるには、「管理ガイド」を参照してください。

グループ内で複数のパラメーターがサブミットされた場合は、パラメーターを個々にサブミットしてください。構成パラメーターを動的に変更できない場合には、以下の 1 つ以上を行ってください。

- すべてのアプリケーションがデータベースから切断されていることを確認し、 db2 接続コマンドを発行する。
- バインド中に新規値が使用されるため、新規構成パラメーターが反映された後、パッケージを再バインドする。
- FLUSH PACKAGE CACHE コマンドを使用して、SQL キャッシュ内の動的ステートメントを無効にする。

**DB21027E　データベースに接続中は、分離レベルは変更できません。**

**説明:**
データベースに接続されている間に、分離レベルを変更しようとしました。コマンドは、無視されます。

**ユーザーの処置:**
分離レベルの変更が必要な場合、現在のデータベースから切断した後で分離レベルを設定し、そのデータベースに再接続してください。

**DB21028E　カーソル *cursor-name* が宣言されていません。**

**説明:**
OPEN、FETCH、または CLOSE SQL ステートメントを発行する前に、示されているカーソルを宣言する必要があります。

**ユーザーの処置:**
カーソルを宣言して、コマンドを再サブミットしてください。

**DB21029E　カーソル *cursor-name* は、すでに宣言されオープンされています。**

**説明:**
オープンされているカーソルを宣言しようとしました。

**ユーザーの処置:**
カーソルをクローズして、オープン・コマンドを再サブミットしてください。

**DB21030E　カーソル *cursor-name* がオープンされていません。**

**説明:**
示されたカーソルをオープンする必要があります。

**ユーザーの処置:**
カーソルをオープンして、コマンドを再サブミットしてください。

**DB21031E　カーソル *cursor-name* (*internal-cursor*) を使用している SQL ステートメントが戻されました。**

**説明:**
このメッセージは、ユーザー定義カーソルの内部カーソル名を表示します。いくつかの SQL エラー・メッセージが、内部カーソル名を示す場合があります。このメッセージは、SQL メッセージの前に表示されます。

**ユーザーの処置:**
SQL エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

**DB21032E　すでに、最大数のカーソルが宣言されています。**

**説明:**

コマンド行プロセッサーは、WITH HOLD 属性で宣言された 100 のカーソル、および WITH HOLD 属性なしで宣言された 100 のカーソルをサポートしています。

**ユーザーの処置:**
既存のカーソルのいずれかを再宣言して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB21033E　この DB2データベース・サーバーについて無効なコマンドです。**

**説明:**
以下のコマンドは、DB2 for Linux、DB2 for UNIX、または DB2 for Windows データベース・サーバーへのアクセス時のみサポートされます。

- LIST TABLES
- LIST PACKAGES
- REORGCHK

**ユーザーの処置:**
このデータベースに対してコマンドを発行しないでください。

---

**DB21034E　コマンドが、有効なコマンド行プロセッサー・コマンドでないため、 SQL ステートメントとして処理されました。 SQL 処理中に、そのコマンドが返されました。**

**説明:**
このメッセージは、SQL エラー・メッセージの前に表示されます。非 SQL コマンドの構文エラーが原因でエラーが発生します。

**ユーザーの処置:**
エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB21035E　*list-name* リストの項目の最大数を超えました。最大数は *number* です。**

**説明:**
リストの項目数は、示されている最大数を超えることはできません。このエラーは、無効な範囲指定によって発生した可能性があります。

**ユーザーの処置:**
エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB21036E　*command* コマンドが失敗しました。**

**ユーザーの処置:**
トレースをアクティブにして、コマンドを再試行してください。問題が解決しない場合、トレース情報をファイルに保管し、技術サポートに次の情報を報告してください。

- 問題の説明
- DB2 メッセージ番号
- トレース・ファイル

---

**DB21037W　データ・ソースが見つかりません。**

**ユーザーの処置:**
指定したタイプ (USER あるいは SYSTEM) の ODBC データ・ソースが見つかりませんでした。他のタイプ (SYSTEM あるいは USER) を指定して、コマンドを再試行してください。

---

**DB21040E　*number* は、有効な未確定トランザクション番号ではありません。**

**説明:**
*number* が、リストされている未確定のトランザクション番号のいずれでもありません。

**ユーザーの処置:**
リストされているトランザクション番号のいずれかを選択して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB21041W　*number* 個の未確定トランザクションが表示されていません。**

**説明:**
コマンド行プロセッサーが、すべての未確定トランザクションを表示できませんでした。表示されなかったトランザクションの数は *number* です。

**ユーザーの処置:**
システムの未確定トランザクションの合計数を減らすためには、未確定トランザクションの現在のリストの処理を完了してください。次に、未確定トランザクションのリスト・コマンドを再発行してください。

---

**DB21042E　トランザクション番号を指定しなければなりません。**

**説明:**
トランザクション番号は、commit (c)、rollback (r)、または forget (f) の未確定トランザクション・サブコマンドを使って指定してください。

**ユーザーの処置:**

適切なトランザクション番号を指定して、コマンドを再発行してください。

---

**DB21043E** ***subcommand*** **は有効な要求ではありません。**

**説明:**
示された未確定トランザクション・サブコマンドが無効です。有効なサブコマンドは、以下のとおりです。

```
サブコマンド     説明
---------- --------------------------
c <number> 未確定トランザクション
           <number> をヒューリス
           ティックにコミット
r <number> 未確定トランザクション
           <number> をヒューリス
           ティックにロールバック
f <number> 未確定トランザクション
           <number> をヒューリス
           ティックに取り消し
l <number> 未確定トランザクション
           すべて、または未確定トランザ
           クション <number> をすべてリ
           スト
q          LIST INDOUBT TRANSACTION
           プロンプトを終了
```

注: *number* コマンドは、 DB2 Extended Enterprise Edition では使用できません。

**ユーザーの処置:**
エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB21044E** **トランザクション番号** ***number*** **の COMMIT を行うことができません。**

**説明:**
commit (c) サブコマンドを発行するときは、トランザクションが準備状態 (i) でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
別のコマンドを発行してください。

---

**DB21045E** **トランザクション番号** ***number*** **の ROLLBACK を行うことができません。**

**説明:**
トランザクションは準備済み (i) またはアイドル (e) 状態である必要があります。 ロールバック (r) サブコマンドを発行する際に、

**ユーザーの処置:**
別のコマンドを発行してください。

---

**DB21046E** **トランザクション番号** ***number*** **の FORGET を行うことができません。**

**説明:**
forget (f) コマンドを発行するときは、トランザクションがヒューリスティックにコミット済み (c) またはヒューリスティックにロールバック済み (f) の状態でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
別のコマンドを発行してください。

---

**DB21050E** ***state*** **は有効な SQLSTATE ではありません。**

**説明:**
示されている sqlstate が有効でないか、または見つかりませんでした。有効な状態は、2 から 5 桁の数値です。

**ユーザーの処置:**
別の状態を使用して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB21051E** **この環境ではサポートされないコマンドです。**

**説明:**
要求されたコマンドは、現在の環境ではコマンド行プロセッサーによってサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
別のプラットフォーム、または別の環境でコマンドを再サブミットしてください。

---

**DB21052I** ***command*** **が実行のためにサブミットされました。**

**説明:**
コマンド行プロセッサーが、示されているコマンドを実行しようとしています。コマンドが正常に完了したかどうかは判別できません。

**ユーザーの処置:**
コマンドが明らかに失敗した場合、そのコマンドをコマンド行プロセッサー外からサブミットしてください。

---

**DB21053W** ***isolation-level*** **をサポートしないデータベースに接続すると、自動エスカレーションが行われます。**

**説明:**
分離レベルはデータベースによって異なります。 NC などの一部だけが、特定のデータベースにサポートされています。接続しているデータベースによってサポート

されていない分離レベルを選択すると、サポートされているレベルに自動的にエスカレートされます。

**ユーザーの処置:**
選択した分離レベルをサポートするデータベースに接続するか、または別の分離レベルを選択してください。

---

**DB21054E　コマンド行プロセッサーが、 *command* コマンドでシステム・エラーを検出しました。理由コード = *reason-code*。**

**説明:**
コマンド行プロセッサーが、示されているコマンドを処理するために十分なメモリーを確保できませんでした。処理中にシステム・エラーが発生しました。

理由
コード 説明　　構文

| コード | 説明 | 構文 |
|---|---|---|
| 1 | データ・ファイル | LOAD FROM file/pipe/dev... |
| 2 | lob データ | LOBS FROM lob-path... |
| 3 | ディレクトリー | USING directory... |
| 4 | ソース | FROM dir/dev... |
| 5 | ターゲット | TO dir/dev... |
| 6 | 表スペース | TABLESPACE tblspace-name... |
| 7 | 表スペース定義 | MANAGED BY... |
| 8 | コンテナー・データ | USING (PATH..., PATH...) または USING ( {FILE\|DEVICE}..., {FILE\|DEVICE}...) |
| 9 | ログ・パス | log-directory ..., log-directory ... |
| 10 | ノード・リスト | node-number ..., node-number ... |
| 11 | パーティション・ロード・オプション | [PARTITIONED DB CONFIG] partitioned-db-option [{partitioned-db-option}...] |
| 12 | ストレージ・パス | ON drive/path, drive/path... |

**ユーザーの処置:**
エラーを訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB21055W　コマンドはタイプ 2 接続には無効です。**

**説明:**
タイプ 2 接続には適用されない GET CONNECTION STATE コマンドから情報が返されました。

**ユーザーの処置:**
QUERY CLIENT を発行して、CONNECT = 1 を確認してください。

---

**DB21056W　ディレクトリーの変更は、ディレクトリー・キャッシュがリフレッシュされるまで反映されません。**

**説明:**
ディレクトリー・キャッシュ (DBM CFG dir_cache) が有効なら、データベース、ノード、および DCS ディレクトリー・ファイルがメモリーにキャッシュされます。ディレクトリーの変更は、ディレクトリー・キャッシュがリフレッシュされるまで反映されません。ディレクトリー・キャッシュの記述については、「管理ガイド」で dir_cache 構成パラメーターを参照してください。

**ユーザーの処置:**
CLP のディレクトリー・キャッシュをリフレッシュするには、db2 TERMINATE を発行してください。他のアプリケーションのディレクトリー情報をリフレッシュするには、そのアプリケーションの停止と再始動を行ってください。データベースのディレクトリー情報をリフレッシュするには、データベースの停止 (db2stop) と再始動 (db2start) を行ってください。

---

**DB21057E　無効なテープ装置が指定されました。**

**説明:**
オペレーティング・システムに渡されたテープ装置は受け入れられていません。 Windows NT では、これは形式 ″¥¥.¥TAPEx″ でなければなりません。ここで x はドライブ番号 (0 が最初) を表します。

**ユーザーの処置:**
有効なテープ装置を指定して、コマンドを再発行してください。

---

**DB21058E　無効なテープ位置が指定されました。**

**説明:**
指定されたテープ・マーク位置が無効です。 Windows NT では、バックアップが記録される最初のテープ位置は 1 です。後続のバックアップ・イメージはテープ・マーク 2 で開始されます。

**ユーザーの処置:**
有効なテープ位置を指定して、コマンドを再発行してください。

---

**DB21059E　無効なテープ・ブロック・サイズが指定されました。**

**説明:**
指定されたテープ・マーク・ブロック・サイズがテープ装置でサポートされる範囲内になっていません。さらに、作業のためのバックアップ/リストアでは、これは係数または 4096 の倍数でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
有効なテープ・サイズを指定して、コマンドを再発行してください。

---

**DB21060E　一般的なテープの障害。**

**説明:**
テープ操作から予期しない戻りコードが戻されました。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再サブミットしてください。このエラーが再び発生する場合、システム管理者に連絡して援助を受けてください。

---

**DB21061E　コマンド行環境が初期化されていません。**

**説明:**
db2cmd.exe によって開始されていないコマンド・ウィンドウから、コマンド行プロセッサーを呼び出そうとしました。

**ユーザーの処置:**
DB2CMD を出して、コマンド行プロセッサー環境が初期化されているコマンド・ウィンドウを開始してください。

---

**DB21070W　1 つ以上の構成パラメーターが、AUTOMATIC をサポートしていないのに AUTOMATIC に設定されました。**

**ユーザーの処置:**
パラメーターの変更がグループとしてサブミットされた場合は、どのパラメーターの変更が成功したか調べるために、変更を個々に再サブミットしてください。

1 つのパラメーターがサブミットされただけである場合は、このメッセージは、値 AUTOMATIC がこのパラメーターでサポートされていないことを示します。

どの構成パラメーターが AUTOMATIC 値をサポートするかを調べるには、「管理ガイド」を参照してください。

---

**DB21071W　構成パラメーター値がすべてのノードで変更されましたが、値の変更が動的に変更されなかったノードがあります。**

**ユーザーの処置:**
パラメーターの変更がグループとしてサブミットされた場合は、詳細情報を得るために、更新コマンドを個々に発行してください。

成功しなかったノードを次回再始動するときに、新しい値が有効になります。

ユーザーがインスタンスにアタッチされている場合にのみ、データベース・マネージャー構成パラメーターへの変更は動的に有効になります。すべての構成パラメーターが動的更新をサポートしているわけではありません。どのパラメーターを動的に変更できるのかを調べるには、「管理ガイド」を参照してください。

動的アプリケーションで失敗したノードを識別するには、各ノードでインスタンスをアタッチし、次のコマンドを発行してください。

```
DB2 GET DBM CFG SHOW DETAIL
```

---

**DB21080E　このデータベース別名に対して事前に発行した、 REDIRECT オプション付きの RESTORE DATABASE コマンドがないか、またはそのコマンドに関する情報が失われています。**

**説明:**
CONTINUE または ABORT オプションで、RESTORE DATABASE コマンドを実行しようとしました。しかし、前に REDIRECT オプションで RESTORE DATABASE コマンドを発行していないか、または失敗コマンド上で指定されたのとは別のデータベース別名以外に対してそのようなコマンドを発行しました。このメッセージが出された別の原因として、前に正しく発行された RESTORE DATABASE ... REDIRECT コマンドの情報が消失したことが考えられます。これは、CLP バックエンド処理が異常終了した場合か、または TERMINATE コマンドを発行した場合に発生することがあります。

**ユーザーの処置:**
RESTORE DATABASE ... REDIRECT コマンドおよび SET TABLESPACE CONTAINERS コマンドを再発行して、フル・リダイレクトされたリストア処理を再開してください。次に、RESTORE DATABASE ... CONTINUE コマンドを発行してください。

---

**DB21081E　db2cli.ini ファイルにはセクションがありません。**

**説明:**
GET CLI CONFIGURATION コマンドを使用することによって、 db2cli.ini ファイルの CLI パラメーターをリストしようとしましたが、ファイルが空です。ファイルにはセクションがありません。

**ユーザーの処置:**
db2cli.ini ファイルを更新するには、UPDATE CLI CONFIGURATION コマンドを使用してください。

---

**DB21082E　UPDATE CLI CONFIGURATION コマンドを実行する権限がありません。**

**説明:**
このコマンドを実行するには、SYSADM 権限が必要です。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者から必要な権限を与えてもらってから、コマンドを再発行してください。

**DB21083E　セクション *section* がありません。**

**説明:**
セクション <section> が db2cli.ini ファイルにありません。

**ユーザーの処置:**
既存のセクションを指定して、コマンドを再度発行してください。

**DB21084E　新規パスワードと確認パスワードが一致しません。**

**説明:**
ATTACH または CONNECT コマンドを使用していて、パスワードの変更を指定しました。新規パスワードは、NEW および CONFIRM 文節を使用して、あるいはプロンプトに応答して 2 回指定する必要があります。新規パスワードとして指定した 2 つのパスワードは、別々のものです。

**ユーザーの処置:**
同じパスワードを 2 回指定してください。

**DB21085I　インスタンス *instance-name* は、*32* または *64* ビットおよび DB2 コード・リリース *ver-rel-mod* をレベル ID *level-id* で使用します。**

**説明:**
このメッセージは、db2level コマンドの出力で、指定の DB2 インスタンスのコード・レベルに関する詳細情報を提供します。 この情報は、DB2 サービス技術員が問題を解決するために要求することがあります。

**ユーザーの処置:**
DB2 サービス担当に提供するため、表示されている情報をすべて記録してください。

db2level 実行プログラムは、マシン間でコピーしないようにします。 DB2 インストールおよびサービス保守プログラムのみが、このファイルを操作します。

お客様ご自身が DB2 サービス技術員からプライベート・テスト修正プログラムを受け取り、正式にサポートされているサービス・レベルの上にこれをインストールした場合、 db2level 実行プログラムは、そのプライベート・テスト修正プログラムに関するすべての情報を表示するとは限りません。

**DB21086I　このバックアップ・イメージの増分 RESTORE 操作が正常に完了しましたが、増分 RESTORE 操作全体を完了するためにリストアが必要なバックアップ・イメージが他にもあります。**

**説明:**
増分 RESTORE 操作を完了するには、そのリストア・チェーン内の増分バックアップ・イメージがそれぞれリストアされていなければなりません。現在の操作は正常に終了しますが、 RESTORE 操作全体が完了するためにはリストアが必要なバックアップ・イメージが他にもあります。

**ユーザーの処置:**
次のバックアップ・イメージをリストアします。

**DB21089I　DB2 Administration Server *server-name* は、DB2 コード・リリース *ver-rel-mod*、レベル ID *level-id* を使用します。情報トークンは、*build-id1*、*build-id2*、およびフィックス・パック *FixPak-number* です。製品は *install-path* にインストールされます。**

**説明:**
このメッセージは、db2daslevel コマンドの出力で、指定の DB2 Administration Server のコード・レベルに関する詳細情報を提供します。 この情報は、DB2 サービス技術員が問題を解決するために要求することがあります。

**ユーザーの処置:**
DB2 サービス担当に提供するため、表示されている情報をすべて記録してください。

db2daslevel 実行プログラムは、マシン間でコピーしないようにします。 DB2 インストールおよびサービス保守プログラムのみが、このファイルを操作します。

お客様ご自身が DB2 サービス技術員からプライベート・テスト修正プログラムを受け取り、正式にサポートされているサービス・レベルの上にこれをインストールした場合、 db2daslevel 実行プログラムは、そのプライベート・テスト修正プログラムに関するすべての情報を表示するとは限りません。

**DB21100E　ストアード・プロシージャー *procedure-name* が複数のスキーマに存在します。**

**説明:**
示されているプロシージャー名が複数のスキーマに見つかりました。

**ユーザーの処置:**
完全修飾プロシージャー名 (*schema.procedure-name*) を指定して、 CALL コマンドを再発行してください。

**DB21101E　ストアード・プロシージャー *"procedure-name"* に指定されたパラメーターが少なすぎます (予想 *quantity*)。**

**説明:**
このストアード・プロシージャーの定義には、CALL コマンドに指定されたより多くのパラメーターが含まれています。

**ユーザーの処置:**
ストアード・プロシージャーのパラメーターの数を確認して、コマンドを再発行してください。

**DB21102E　ストアード・プロシージャー *"procedure-name"* に指定されたパラメーターが多すぎます (予想 *quantity*)。**

**説明:**
このストアード・プロシージャーの定義には、CALL コマンドに指定されたより少ないパラメーターが含まれています。

**ユーザーの処置:**
ストアード・プロシージャーのパラメーターの数を確認してください。

**DB21103E　パラメーター *parameter-number* のデータ・タイプは CLP の CALL コマンドではサポートされていません。**

**説明:**
CLP にいる場合、データ・タイプがパラメーター *parameter-number* のデータ・タイプであるパラメーターを使ってストアード・プロシージャーを呼び出すことはできません。

**ユーザーの処置:**
このストアード・プロシージャーを CLP から呼び出さないでください。

**DB21104E　ストアード・プロシージャー *"procedure-name"* のパラメーター *parameter-number* は、INPUT パラメーターでなければなりません。**

**説明:**
パラメーター *parameter-number* は、INPUT または INPUT/OUTPUT パラメーターとして定義されています。 ただし、このパラメーターには "?" が指定されています。

**ユーザーの処置:**
パラメーター *parameter-number* の "?" を、このパラメーターの入力値で置換し、再度 CALL コマンドを発行してください。

**DB21105E　ストアード・プロシージャー *"procedure-name"* のパラメーター *parameter-number* は、OUTPUT パラメーターでなければなりません。**

**説明:**
パラメーター *parameter-number* は、OUTPUT パラメーターとして定義されています。ただし、このパラメーターには入力値が指定されています。

**ユーザーの処置:**
パラメーター *parameter-number* の入力値を "?" で置換して、再度 CALL コマンドを発行してください。

**DB21106E　ストアード・プロシージャー *"procedure-name"* が未定義です。**

**説明:**
ストアード・プロシージャーが定義されていないか、システム・カタログに入っていません。

**ユーザーの処置:**
ストアード・プロシージャーがシステム・カタログに存在することを確認してください。 ストアード・プロシージャーをドロップし、再作成を試みてください。 次に、CALL コマンドを再発行してください。

**DB21107E　ファイル *"file-name"* にアクセス中にエラーが発生しました。理由コード: *"reason-code"*。**

**説明:**
CLP コマンド REGISTER XMLSCHEMA、REGISTER XSROBJECT、ADD XMLSCHEMA DOCUMENT、COMPLETE XMLSCHEMA、または DECOMPOSE XML DOCUMENT の場合、理由コードには以下のものがあります。

**1**　ファイル・サイズが 0 です。

**2** ファイルが見つかりません。

**3** ファイルへのアクセスが拒否されました。ユーザーが、ファイルをオープンするための許可を持っていません。

**4** ファイルの読み取り中、予期しないファイルの終了が見つかりました。

**5** ファイルへのアクセスが拒否されました。ファイルが使用中です。

**6** ファイルのアクセス中に、メディア・エラーが発生しました。

**7** 文書のサイズが、コマンドによってサポートされている最大サイズを超えています。

```
XML スキーマ文書
 - 30 MB
DTD または外部エンティティー文書
 -  5 MB
XML スキーマ文書に関連したプロパティー文書
スキーマ文書
 -  5 MB
XML スキーマ文書に関連したプロパティー文書
スキーマ
 -  5 MB
分解される XML 文書
 -100 MB
```

**ユーザーの処置:**
すべてのエラーを修正して、アプリケーションを再実行してください。

---

**DB21108E　DB2 サーバーのバージョンがこの機能をサポートしていないため、この要求を実行できません。**

**説明:**
新しい機能の一部は、古い DB2 サーバーのバージョンに対してサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
最新バージョンの DB2 サーバーがインストールされている、またはサーバーが最新バージョンの DB2 サーバーにアップグレードされている DB2 サーバーに対して、要求を実行してください。

---

**DB21109E　*directive* ディレクティブの構文が正しくありません。理由コード: *reason-code*。**

**説明:**
ディレクティブ内の --#SET TERMINATOR 構文フラグメントに問題があるため、新規終止符を設定できません。終止符は変更されていません。以下のいずれかの理由コードが適用されます。

理由コード:

**1** 無効な終止符が指定されました。有効な終止符には 1 文字または 2 文字が含まれますが、スペースやタブを含めることはできません。

**2** ディレクティブに新規終止符が含まれていません。

**3** --#SET TERMINATOR のワードの後にスペースが必要です。

**ユーザーの処置:**
ディレクティブの構文を訂正してから、ディレクティブを再発行してください。

---

**DB21500I　DB2MSCS コマンドが正常に完了しました。**

**説明:**
ユーザー要求は正常に処理されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DB21501E　無効なオプション *option-name* がコマンドに指定されました。**

**説明:**
無効な引数が DB2MSCS コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

- -f:InputFileName DB2MSCS.CFG 入力ファイルが MSCS ユーティリティーで使用されることを指定します。 このパラメーターが指定されない場合、DB2MSCS ユーティリティーは、現行ディレクトリーの DB2MSCS.CFG ファイルを読み取ります。
- -d:TraceFileName デバッグ・トレースをオンにし、トレース出力ファイルを指定します。
- -u:InstanceName インスタンスの DB2MSCS 操作を取り消します。

**ユーザーの処置:**
このコマンドに関する詳細については、「管理ガイド」を参照してください。次のようにコマンドを入力し直してください。DB2MSCS -f InputFileName

---

**DB21502E　構成ファイル *file-name* をオープンできません。**

**説明:**
構成ファイルをオープンできませんでした。 メッセージ・テキスト内のファイル名によって、このエラーは次のように説明できます。

- メッセージ・テキスト内のファイル名が DB2MSCS コマンドで指定された入力ファイルの名前である場合、入力ファイルを見つけることができなかった。

- ファイル名が ″db2systm″ である場合、ターゲット・インスタンスのデータベース・マネージャー構成ファイルが欠落している。
- ファイル名が ″db2mscs.bak″ である場合、バックアップ構成ファイルをインスタンス・ディレクトリーに作成することができなかった。
- ファイル名が ″db2mscs.bak″ であり、取り消し操作が行われた場合、取り消し操作を行う際に、インスタンス・ディレクトリーからのバックアップ構成ファイルをオープンすることができなかった。

**ユーザーの処置:**
エラーが発生したファイルによって、問題は次のように訂正できる場合があります。

- メッセージ・テキスト内のファイル名が DB2MSCS コマンドで指定された入力ファイルの名前である場合、ファイルが現行ディレクトリーに存在するか、あるいは完全修飾ファイル名がコマンドで指定されたかどうかを確認する。
- ターゲット・インスタンスのデータベース・マネージャー構成ファイルがない場合、インスタンスをドロップおよび再作成する。
- バックアップ構成ファイルがインスタンス・ディレクトリーで作成できなかった場合、インスタンス・プロファイル・ディレクトリーが存在し、現行ログオン・アカウントがそのディレクトリーに書き込みアクセスできることを確認する。
- 取り消し操作を行う際にインスタンス・ディレクトリーからのバックアップ構成ファイルをオープンできなかった場合、インスタンス・プロファイル・ディレクトリーを含む MSCS ディスクが現行マシン上にオンラインで存在することを確認し、操作を再試行する。

---

**DB21503E　このコマンドを処理するのに十分なメモリーがありません。**

**説明:**
コマンドを処理するのに必要なメモリーが足りなくなりました。

**ユーザーの処置:**
システムに十分な実メモリーおよび仮想メモリーがあることを確認してください。 使用中でないすべてのアプリケーションをクローズし、システムに追加のメモリーを解放してください。

---

**DB21504E　パラメーター *parameter-name* に指定された値 *parameter-value* のパラメーターの最大長を超えました。パラメーターの最大長は *length* バイトです。**

**説明:**
キーワード *parameter-name* に指定された値 *parameter-value* が、そのパラメーターで許可されている最大限度を超えました。

**ユーザーの処置:**
以下の最大長の制限に準拠した値を指定してください。

- グループまたはリソース名の最大長は 64
- IP アドレスまたはサブネット・マスクの最大長は 15
- DB2 インスタンス名の最大長は 8
- ネットワーク名、クラスター名、またはコンピューター名の最大長は 64
- ユーザー名またはパスワードの最大長は 256

---

**DB21505E　パラメーター *parameter-name1* は、DB2MSCS 構成ファイル *file-name* で、パラメーター *parameter-name2* よりも前に指定される必要があります。**

**説明:**
DB2MSCS 構成ファイルで指定されたパラメーターの順序が無効です。 グループ名は他のリソース・パラメーターの指定よりも前に指定する必要があります。 それぞれのリソースごとに、リソース名パラメーターはリソース・パラメーターの指定よりも前に指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
DB2MSCS 構成ファイルを変更して、パラメーターの順序を訂正してください。

---

**DB21506E　クラスター *cluster-name* にアクセスできません。クラスター名が正しいこと、および現行マシン上でクラスター・サービスが開始されていることを確認してください。**

**説明:**
クラスター名が正しくないか、現行マシンでクラスター・サービスが開始されていないかのいずれかのため、DB2MSCS ユーティリティーはクラスター名をオープンできませんでした。

**ユーザーの処置:**
クラスター・サービスが現行マシンで開始されていない場合は、 ″net start clussvc″ コマンドを実行してクラスター・サービスを開始するか、「サービス」ダイアログから ″Cluster″ コマンドを開始させてください。クラスター名が DB2MSCS 構成ファイルで間違って指定された場合は、クラスター名を変更して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB21507E　インスタンス名 *instance-name* が無効です。**

**説明:**
DB2MSCS 構成ファイルで指定されたインスタンス名が無効であるか、あるいは DB2INSTANCE 環境変数が有効なインスタンス名に設定されていません。

**ユーザーの処置:**
インスタンス名が DB2MSCS 構成ファイルで指定されている場合は、インスタンス名が有効であることを確認し、コマンドを再サブミットしてください。 インスタンス名が構成ファイルで指定されていない場合は、DB2INSTANCE 環境変数が有効な DB2 インスタンスの名前に設定されていることを確認してください。

---

**DB21509E　構成ファイル *file-name* に指定されたキーワード *keyword* は、パーティション・データベース・インスタンスでのみ有効です。**

**説明:**
ターゲット・インスタンスがパーティション・データベース・インスタンスの場合にのみ、指定されたキーワードが有効です。 たとえば、DB2_NODE キーワードはパーティション・データベース・インスタンスにのみ指定できます。

**ユーザーの処置:**
構成ファイルの無効なキーワードをコメント化し、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB21510E　構成ファイル *file-name* で指定された IP アドレス *internet-address* が無効です。**

**説明:**
IP アドレスまたはサブネット・マスクのいずれかに指定された値が IP アドレスのフォーマットに準拠していません。 有効な IP アドレスは、次のようなフォーマットです: “nnn.nnn.nnn.nnn”ここで、nnn は 0 から 255 の数値です。

**ユーザーの処置:**
構成ファイルの無効なアドレスを訂正し、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB21511E　ノード *node-number* が存在しません。**

**説明:**
DB2_NODE キーワードに指定されたノード番号が、有効なデータベース・パーティション番号に対応していません。

**ユーザーの処置:**
既存のノード番号を指定するように DB2_NODE パラメーターを訂正してください。

---

**DB21512E　キーワード *keyword* は有効な DB2MSCS キーワードではありません。**

**説明:**
指定されたキーワードは有効な DB2MSCS キーワードではありませんでした。

**ユーザーの処置:**
有効な DB2MSCS キーワードを使用してください。 キーワードに関する詳細については、「管理ガイド」を参照してください。

---

**DB21513E　システム・エラー *error-msg* のために、DB2MSCS ユーティリティーが MSCS グループ *group-name* を作成するのに失敗しました。**

**ユーザーの処置:**
追加の情報については、Windows のシステム・エラー・メッセージを参照してください。

---

**DB21514E　システム・エラー *error-msg* のために、DB2MSCS ユーティリティーを完了できませんでした。**

**説明:**
Windows システム・エラーのために、DB2MSCS ユーティリティーを完了できませんでした。

**ユーザーの処置:**
追加の情報については、Windows のシステム・エラー・メッセージを参照してください。

---

**DB21515E　キーワード *keyword-name* で指定された必須リソース・プロパティーが、リソース *resource-name* で欠落しています。**

**説明:**
必須パラメーターの 1 つが指定されなかったため、リソースを作成することができませんでした。 たとえば、IP アドレス・リソース、IP アドレスおよびサブネット・マスクを指定する必要があります。 ネットワーク名リソースの場合、ネットワーク名を指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
必須パラメーターが指定されていることを確認して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB21516E　DB2MSCS はリソース *resource-name* をオンラインにすることができません。リソースのプロパティーが正しく設定されていることを確認してください。**

**説明:**
リソースが作成されたら、DB2MSCS ユーティリティーはリソースをオンラインにすることにより、リソースの妥当性検査を行います。 リソースをオンラインにするのに失敗した場合、リソース・プロパティーが正しく指定されていないか、クラスター・ネットワークが正しく機能していないかのいずれかであることを示します。

**ユーザーの処置:**

- ディスク・リソースがエラーの場合は、ディスク・サブシステムおよびディスク装置ドライバーが正しく機能していることを確認してください。 ディスク装置ドライバーの問題がイベント・ログに記録された場合は、イベント・ビューアーを使用して調べる必要があります。
- IP アドレス・リソースがエラーの場合、IP パラメーターが正しいこと、および IP アドレスが存在するネットワークが正しく機能していることを確認します。また、DB2 用に指定されている IP アドレスを、ネットワーク上の他のマシンで使用することはできません。 IP アドレス用に使用するパラメーターがよくわからない場合は、ネットワーク管理者に相談してください。
- ネットワーク名リソースがエラーの場合、ネットワークが正しく機能していること、および Netname パラメーターに指定された値がネットワーク上の任意のマシンで使用されていないことを確認してください。ネットワーク名パラメーターは必要ないことに注意してください。回避策としては、ネットワーク名パラメーターをコメント化して続けることができます。
- DB2 リソースがエラーの場合は、db2diag.log で DB2 エラーを調べてください。

**DB21517E　MSCS ネットワーク *network-name* がアクティブではありません。**

**説明:**
IP アドレスに指定されたネットワーク・パラメーターがアクティブではありません。

**ユーザーの処置:**
クラスター管理ビューから、ターゲット・ネットワークを活動化するか有効にし、コマンドを再サブミットしてください。

**DB21518E　アクティブな MSCS ネットワークがありません。**

**説明:**
ネットワーク・パラメーターが IP アドレスに指定されず、使用できるネットワークがありませんでした。

**ユーザーの処置:**
有効な MSCS ネットワークを構成する必要があります。 MSCS ネットワークを追加、構成するには、クラスターの資料を参照してください。

**DB21519E　DB2MSCS はリソース *resource-name* をオフラインにすることができません。リソースのプロパティーが正しく設定されていることを確認してください。**

**説明:**
DB2MSCS はリソースをオフラインにすることができませんでした。 リソースはクラスター・ソフトウェアで使用中である可能性があります。

**ユーザーの処置:**
操作を再試行してください。問題が解決しない場合は、トレース・オプションを指定して実行し、 IBM サービス技術員に連絡して助言を受けてください。

**DB21520E　DB2PATH プロファイル変数が定義されていません。**

**説明:**
DB2PATH レジストリー・プロファイル変数が現行マシンで定義されていません。 DB2 をインストールしているパスに DB2PATH を設定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
db2set コマンドを使用して、DB2 がインストールされているディレクトリーに DB2PATH を設定してください。たとえば、db2set -g DB2PATH=D:¥SQLLIB とします。

**DB21521E　DB2MSCS はファイル *file-name* から読み取れません。**

**説明:**
DB2MSCS ユーティリティーは指定されたファイルからデータを読み取ることができません。

**ユーザーの処置:**
ファイルがロックされていないこと、および現行ログオン・ユーザーにファイルの読み取り権限を持っていることを確認してください。

**DB21522E** **マシン・レジストリーをマシン *machine-name* でオープンできません。 マシンがアクティブであり、現行ログオン・アカウントがローカル管理者権限を持っていることを確認してください。**

**説明:**
DB2MSCS は読み取りおよび書き込みアクセスのためにリモート・マシンのレジストリーをオープンすることができませんでした。 デフォルトで、そのマシンのローカル管理者グループに属するユーザーのみが、マシン・レジストリーへの読み取り、書き込みアクセスを持っています。 このエラーは、リモート・マシンがアクティブでない場合にも返されます。

**ユーザーの処置:**
ターゲット・マシンがアクティブであることを確認し、ターゲット・マシンのローカル管理者グループに属するドメイン・アカウントにログオンしてから、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB21523E** **マシン・レジストリーをマシン *machine-name* でクローズできません。 マシンがアクティブであり、現行ログオン・アカウントがローカル管理者権限を持っていることを確認してください。**

**説明:**
リモート・レジストリーをオープンした後、DB2MSCS ユーティリティーは内部エラーのために、リモート・レジストリーへのハンドルのクローズに失敗しました。

**ユーザーの処置:**
トレース・オプションを指定して実行し、 IBM サービス技術員に連絡して助言を受けてください。

---

**DB21524E** **リソース *resource-name* の作成に失敗しました。システム・エラー: *error-msg***

**説明:**
Windows システム・エラーのために、ターゲット・リソースの作成のコマンドは失敗しました。

**ユーザーの処置:**
追加の情報については、Windows のシステム・エラー・メッセージを参照してください。

---

**DB21525E** **従属関係をリソース *resource-name* に追加するのに失敗しました。システム・エラー: *error-msg***

**説明:**
Windows システム・エラーのために、ターゲット・リソースに従属関係を追加するコマンドは失敗しました。

**ユーザーの処置:**
追加の情報については、Windows のシステム・エラー・メッセージを参照してください。

---

**DB21526E** **リソース *resource-name* の移動に失敗しました。システム・エラー: *error-msg***

**説明:**
Windows システム・エラーのために、リソースの移動を追加するコマンドは失敗しました。

**ユーザーの処置:**
追加の情報については、Windows のシステム・エラー・メッセージを参照してください。

---

**DB21527E** **ディスク・リソースがグループ *group-name* に指定されていません。**

**説明:**
グループごとに少なくとも 1 つのディスク・リソースを指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
エラー・メッセージに示されたグループに、1 つ以上のディスク・リソースを割り当ててください。

---

**DB21528E** **INSTPROF_DISK に指定された値 *keyword-value* が、同じグループ内のどのディスクとも一致していません。**

**説明:**
インスタンス・プロファイル・ディレクトリーの内容をコピーするロケーションを指定するのに INSTPROF_DISK キーワードが使用されました。 INSTPROF_DISK キーワードの値が、同じグループ内のディスク・リソースの名前と一致しません。

**ユーザーの処置:**
INSTPROF_DISK を、同じグループ内のディスク・リソースのいずれかの名前に設定してください。

---

**DB21529E** **DB2MSCS ユーティリティーはマシン *machine-name* のレジストリーにアクセスできません。 マシンがアクティブであり、現行ログオン・アカウントがローカル管理者権限を持っていることを確認してください。**

**説明:**
DB2MSCS ユーティリティーはターゲット・マシンのレジストリーにアクセスできません。

**ユーザーの処置:**

ターゲット・マシンのローカル管理者グループに属するドメイン・アカウントにログオンしてから、コマンドを再サブミットしてください。

**DB21530E　DB2MSCS ユーティリティーはクラスター *cluster-name* のクラスター・レジストリーにアクセスできません。 クラスターがアクティブであり、現行ログオン・アカウントがローカル管理者権限を持っていることを確認してください。**

**説明:**
クラスターを管理するには、両方のノードの管理許可か、あるいはクラスターを管理する特定の許可のいずれかを持つ必要があります。 デフォルトで、両方のノードのローカル管理者グループは、クラスターを管理する許可を持っています。

**ユーザーの処置:**
クラスターへのアクセスを行えるアカウントにログオンしてください。 両方のノードでユーザー管理許可を与えることなくクラスターの管理許可をユーザーに与えるには、次のようにします。 クラスター管理 GUI を実行する。クラスター名を右クリックし、プロパティーをクリックする。 セキュリティー ( または許可) をクリックする。クラスターを管理するユーザーおよびグループを指定する。

**DB21531E　MSCS ディスクのプロパティーを取得できません。 システム・エラー: *error-msg***

**説明:**
DB2MSCS ユーティリティーは MSCS ディスク・リソースからドライブ名を取得することができません。この問題は通常、 INSTPROF_DISK キーワードで指定されたディスク・リソースが IBM Netfinity ディスク・リソース ″IPSHA Disk″ である場合に発生します。

**ユーザーの処置:**
INSTPROF_DISK キーワードを使用しないでください。代わりに INSTPROF_PATH キーワードを使用して、インスタンス・プロファイル・ディレクトリーをコピーするターゲット・ロケーションを明示的に指定してください。

**DB21532E　内部エラーが発生しました。ファイル: *file-name*、行 *line-number*。 IBM サービス技術員に連絡してください。**

**説明:**
内部エラーのために DB2MSCS が失敗しました。

**ユーザーの処置:**
トレース・オプションを指定して実行し、 IBM サービス技術員に連絡して助言を受けてください。

**DB21533E　DB2 インスタンスのマイグレーション中にエラーが発生しました。 rc = *error-code***

**説明:**
必要なすべての MSCS リソースが作成された後に、DB2MSCS ユーティリティーが内部エラーのために、クラスター環境で実行する DB2 インスタンスのマイグレーションに失敗しました。インスタンスのマイグレーション中に、ユーティリティーは以下のステップを実行します。

- インスタンス・ディレクトリーを INSTPROF_DISK または INSTPROF_PATH キーワードで指定されたロケーションにコピーする。
- DB2 レジストリー・プロファイル変数をマシン・レジストリーからクラスター・レジストリーに移動する。
- DB2INSTPROF レジストリー変数を新規インスタンス・プロファイル・ロケーションへのポイントに設定する。
- DB2CLUSTERLIST を現行マシンの名前に設定する。

**ユーザーの処置:**
DB2MSCS ユーティリティーを実行する前に、以下を確認してください。

- 現行マシンで、インスタンスをコマンド行から正常に開始および停止することができる。
- 別のクラスター・ノードで、同じインスタンスを停止、および必要に応じてドロップさせることができる。
- すべてのディスク・リソースが現行マシンでアクティブであり、クラスター・ノード間で相互に正常に移動させることができる。
- 現行ログオン・ユーザーでローカル・マシン・レジストリーおよびクラスター・レジストリーへのアクセスができる。
- 問題が解決しない場合は、IBM サービス技術員に連絡し、DB2MSCS トレースおよび DB2 トレースの両方を提供してください。

**DB21534E　DB2 インスタンスに MSCS ノードを追加する際にエラーが発生しました。 rc = *error-code***

**説明:**
ユーティリティーが、他の MSCS ノードを DB2 インスタンスに追加するのに失敗しました。この操作中に、ユーティリティーは以下を行います。

- ターゲット・マシンの名前を DB2CLUSTERLIST レジストリー変数に追加して、DB2 クラスター・マシン・リストを更新する。
- DB2 サービスおよびレジストリー・インスタンス・プロファイルを、ターゲット・ノードの現行 DB2 インスタンス用に作成する。

**ユーザーの処置:**
DB2MSCS ユーティリティーを実行する前に、以下を確認してください。

- 現行マシンで、インスタンスをコマンド行から正常に開始および停止することができる。
- 別のクラスター・ノードで、同じインスタンスを停止、および必要に応じてドロップさせることができる。
- すべてのディスク・リソースが現行マシンでアクティブであり、クラスター・ノード間で相互に正常に移動させることができる。
- 現行ログオン・ユーザーでターゲット・マシン・レジストリーおよびクラスター・レジストリーへのアクセスができる。
- 問題が解決しない場合は、IBM サービス技術員に連絡し、DB2MSCS トレースおよび DB2 トレースの両方を提供してください。

---

**DB21535E　インスタンス所有のデータベース・パーティション・サーバーが現行マシンにありません。**

**説明:**
パーティション・データベース・インスタンスをマイグレーションする際、DB2MSCS ユーティリティーをインスタンス所有マシンで実行する必要があります。

**ユーザーの処置:**
DB2MSCS ユーティリティーをインスタンス所有マシンから実行してください。

---

**DB21536E　ユーザー名 *userid* が無効です。**

**説明:**
指定されたユーザー名が無効です。

**ユーザーの処置:**
有効なユーザー名を指定してください。

---

**DB21537E　パスワード *password* が無効です。**

**説明:**
指定されたパスワードが無効です。

**ユーザーの処置:**
正しいパスワードを指定してください。

---

**DB21538E　アカウント *account-name* のパスワードの有効期限が切れています。**

**説明:**
ターゲット・アカウントのパスワードの有効期限が切れています。

**ユーザーの処置:**
パスワードをリセットし、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB21540E　グループ *group-name* で、少なくとも 1 つのネットワーク名リソースが必要です。**

**説明:**
パーティション・データベース・インスタンスをマイグレーションする際、ネットワーク名リソースを、インスタンス所有ノードを含むグループで作成する必要があります。

**ユーザーの処置:**
指定されたグループにネットワーク名リソースを作成するよう指定してください。

---

**DB21541E　DB2 インスタンスから MSCS ノードを除去する際にエラーが発生しました。 rc = *error-code***

**説明:**
″undo″ 操作中に、内部エラーのため、ユーティリティーが MSCS ノードを DB2 インスタンスから除去するのに失敗しました。

**ユーザーの処置:**
手動によるクリーンアップが必要です。手動でインスタンスをクリーンアップするには、以下を行います。

- DB2 インスタンスを停止およびドロップする。
- すべての DB2 リソースおよびそれらの従属リソースを「クラスター管理」ウィンドウから除去する。

---

**DB21542E　インスタンスのフェイルオーバー・サポートを除去中に、エラーが発生しました。フェイルオーバー・サポートはこのインスタンスでまだアクティブです。 rc = *error-code***

**説明:**
″undo″ 操作中に、内部エラーのため、ユーティリティーが DB2 インスタンスを非クラスタリングするのに失敗しました。

**ユーザーの処置:**
手動によるクリーンアップが必要です。手動でインスタンスをクリーンアップするには、以下を行います。インスタンスを停止およびドロップする。すべての DB2 リ

ソースおよびそれらの従属リソースを「クラスター管理」ウィンドウから除去する。

---

**DB21543E　リソース名 *resource-name* が同じグループ内のどの IP リソースにも一致しません。**

**説明:**
ネットワーク名・リソースを、同じリソース・グループ内の IP アドレス・リソースに基づいて構成する必要があります。

**ユーザーの処置:**
同じリソース内にある IP アドレス・リソースに、ネットワーク名リソースに従属する名前を指定してください。

---

**DB21544E　MSCS リソース *resource-name* はすでに存在します。**

**説明:**
指定されたリソース名はすでにクラスター内に存在しています。

**ユーザーの処置:**
別のリソース名を指定してください。

---

**DB21545E　モジュール *file-name* がロードされましたが、関数 *function-name* が見つかりません。MSCS をサポートしている DB2 バージョンで実行していることを確認してください。**

**説明:**
DB2 のバージョンが DB2MSCS ユーティリティーのバージョンと互換性がないため、ユーティリティーが要求された関数のアドレスを取得するのに失敗しました。

**ユーザーの処置:**
DB2 製品と共に配布されたバージョンの DB2MSCS ユーティリティーを使用してください。

---

**DB21546E　モジュール *file-name* をロードできませんでした。**

**説明:**
ユーティリティーが要求された DLL をロードするのに失敗しました。

**ユーザーの処置:**
DB2 製品を再インストールしてください。

---

**DB21547E　グループ *group-name* をノード *node-number* に移動中にエラーが発生しました。システム・エラー: *error-msg***

**説明:**
1 つ以上のリソースを移動できないため、ユーティリティーがグループをターゲット・ノードに移動するのに失敗しました。

**ユーザーの処置:**
すべてのクラスター・ノードがアクティブであり、すべてのディスク・リソースをクラスター・ノード間で相互に移動できることを確認してください。問題が続く場合、IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB21548E　DB2 サービスのログオン・アカウントをパーティション・データベース・システムに指定する必要があります。DB2_LOGON_USERNAME と DB2_LOGON_PASSWORD キーワードを使用して、有効なログオン・アカウントを指定してください。**

**説明:**
パーティション・データベース・システムの DB2 サービスを、有効なドメイン・アカウントの下で実行するよう構成する必要があります。

**ユーザーの処置:**
DB2_LOGON_USERNAME および DB2_LOGON_PASSWORD キーワードを使用して、有効なドメイン・アカウントを指定してください。

---

**DB21549N　ノード *node-number* に指定されたネットワーク名 *network-name* が無効です。**

**説明:**
指定されたネットワーク名を解決できませんでした。

**ユーザーの処置:**
ネットワーク名が DNS サーバーまたはローカル etc/hosts ファイルに登録されていることを確認してください。

---

**DB21600N　*command* コマンドが正常に完了しませんでした。**

**説明:**
このコマンドの実行中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
技術サービス員に連絡してください。 db2diag.log ファイルの情報によって、サービス技術員が失敗の原因について、判別することができます。

**DB22000E　エラー: DB2LSWTCH コマンドの構文に誤りがあります。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーをプロモートまたはデモートします。

- db2lswtch.exe -db2 -promote
- db2lswtch.exe -client -promote
- db2lswtch.exe -all -promote
- db2lswtch.exe -db2 -demote
- db2lswtch.exe -client -demote
- db2lswtch.exe -all -demote

コマンド・オプションは以下のとおりです。

- -db2 -promote は、現在のコピーをデフォルト DB2 コピーにプロモートします。
- -client -promote は、現在のコピーをデフォルト IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーにプロモートします。
- -all -promote は、現在のコピーをデフォルト DB2 および IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーにプロモートします。
- -db2 -demote は、現在のデフォルト DB2 コピーをデモートします。
- -client -demote は、現在のデフォルト IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーをデモートします。
- -all -demote は、現在のデフォルト DB2 および IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーをデモートします。

**ユーザーの処置:**
有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

---

**DB22001E　ローカル・スイッチャー環境の初期化中にエラーが発生しました。システム上のコピーには変更が加えられませんでした。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーが Windows システム・レジストリー内の情報を検索しようとして、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22002E　コピー *name* のプロモーション中に、エラーが発生しました。プロモーションは継続され、システムのデフォルトとしてこのコピーが割り当てられます。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーがそのインストール先コピーをプロモートしてシステムのデフォルト・コピーにするために実行するタスクのいずれかにおいて、エラーが発生しました。ローカル・スイッチャーは、残りのタスクを継続し、プロモーションを完了するよう試みます。このコピーは、引き続きシステムのデフォルトとして割り当てられます。

**ユーザーの処置:**
コピーのプロモーションの際に失敗したタスクを完了するには、手操作による介入が必要です。

---

**DB22003E　DB2 コピー *name* のデモーション中にエラーが発生しました。デモーションは打ち切られ、このコピーが引き続きシステムのデフォルトとなります。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーがそのインストール先コピーをデモートしてシステムのデフォルトから降格するためのタスクのいずれかにおいて、エラーが発生しました。デモーションは打ち切られ、同じコピーをプロモートするためにローカル・スイッチャーが呼び出され、完了済みのタスクのロールバックが可能になります。

**ユーザーの処置:**
このエラーの原因となった問題を手動で訂正してから、同じ操作を再試行してください。問題が続く場合、IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22004I　コピー *name* は正常にデモートされ、このシステムのデフォルトの DB2 コピーではなくなりました。**

**説明:**
この操作の実行中にエラーは検出されませんでした。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DB22005I　コピー *name* は正常にプロモートされ、このシステムのデフォルトの DB2 コピーになりました。**

**説明:**
この操作の実行中にエラーは検出されませんでした。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DB22006E　グローバル・システム環境変数の中にコピー *name* の環境変数を含めるための更新処理において、エラーが発生しました。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのプロモーション中に、PATH、INCLUDE、LIB および CLASSPATH などのグローバル・システム環境変数を変更して、そのコピーのパスを指す値を変数に追加します。その操作において問題が検出されました。

**ユーザーの処置:**
グローバル・システム環境を調べて、変更する必要のある環境変数の値の中に、プロモートされたコピーのパスを指す値が正しく含まれていることを確認してください。

---

**DB22007E　グローバル・システム環境変数からコピー *name* の環境変数を除去する更新処理においてエラーが発生しました。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのデモーション中に、PATH、INCLUDE、LIB および CLASSPATH などのグローバル・システム環境変数からそのコピーのパスを指す値を削除します。その操作において問題が検出されました。

**ユーザーの処置:**
グローバル・システム環境を調べて、変更する必要のある環境変数の値の中に、デモートされたコピーのパスを指す値が含まれていないことを確認してください。

---

**DB22008E　コピー *name* の IBM ODBC ドライバーをシステムのデフォルト・ドライバーとして登録する際に、エラーが発生しました。**

**説明:**
そのコピーのプロモーションの際、ローカル・スイッチャーはデフォルトの IBM DB2 ODBC ドライバーを登録し、そのドライバーがデフォルト IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーのパスを指すようにします。その操作において問題が検出されました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22009E　コピー *name* の IBM ODBC ドライバーについて、システムのデフォルト・ドライバーとしての登録を抹消する際に、エラーが発生しました。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーは、そのインストール先コピーのデモーション中に、デフォルトの IBM DB2 ODBC ドライバーの登録を抹消し、デモートするコピーのパスがドライバーから参照されることがないようにします。その操作において問題が検出されました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22010E　コピー *name* のための IBM .NET Data Provider をグローバル・アセンブリー・キャッシュに登録しようとして、エラーが発生しました。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーは、そのインストール先コピーのプロモーション中に、そのコピーの IBM .NET Providerを、Windows オペレーティング・システムのグローバル・アセンブリー・キャッシュにコピーします。この処理は、特別な Windows API を使用して実行されます。その操作において問題が検出されました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22011E　グローバル・アセンブリー・キャッシュから、コピー *name* のための IBM .NET Data Provider の登録を抹消しようとして、エラーが発生しました。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーは、そのインストール先コピーのデモーション中に、そのコピーの IBM .NET Provider を、Windows オペレーティング・システムのグローバル・アセンブリー・キャッシュから削除します。この処理は、特別な Windows API を使用して実行されます。

その操作において問題が検出されました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22012E　コピー *name* の IBM OLEDB Provider を、システムのデフォルト・プロバイダーとして登録する際に、エラーが発生しました。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのプロモーション中に、デフォルト IBM OLEDB Provider を登録し、そのデフォルト IBM OLEDB Provider がこのコピーのプロバイダーを指すようにします。その操作において問題が検出されました。

**ユーザーの処置:**

IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22013E　コピー *name* の IBM OLEDB Provider について、システムのデフォルト・プロバイダーとしての登録を抹消する際に、エラーが発生しました。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのデモーション中に、デフォルト IBM OLEDB Provider の登録を抹消し、そのデフォルト IBM OLEDB Provider がこのコピーのプロバイダーを指さないようにします。その操作において問題が検出されました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22014E　ODBC システム DSN *name* の更新中にエラーが発生しました。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーは、そのインストール先コピーのデモーション中に、システムのデータ・ソース名を変更して、それらが引き続き機能するようにします。その操作において問題が検出されました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22015E　オペレーティング・システムが *func_name* を呼び出そうとして、エラーが発生しました。オペレーティング・システム・メッセージは *msg*、戻りコードは *return_code* です。**

**説明:**
オペレーション・システムの機能呼び出しが失敗しました。オペレーティング・システムのエラー・メッセージおよび戻りコードに、この失敗の理由に関する詳細情報が含まれています。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22016E　コピー *name* の IBM アドインを VisualStudio 2003 に登録する際に、エラーが発生しました。**

**説明:**
コピーのプロモーションの際、ローカル・スイッチャーは IBM Visual Studio 2003 アドインを Visual Studio のインストール済みコピーに登録します。その操作において問題が検出されました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22017E　VisualStudio 2003 からコピー *name* の IBM アドインの登録を抹消する際に、エラーが発生しました。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのデモーション中に、Visual Studio のインストール済みコピーから IBM Visual Studio 2003 アドインの登録を抹消します。その操作において問題が検出されました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22018E　コピー *name* の DB2 管理サービスを開始しようとして、エラーが発生しました。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのプロモーション中に、このコピーに属する DB2 管理サービスを開始します。その操作において問題が検出されました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22019E　コピー *name* の DB2 管理サービスを停止しようとして、エラーが発生しました。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのデモーション中に、このコピーに属する DB2 管理サービスを停止します。その操作において問題が検出されました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22020E　コピー *name* はデフォルトの DB2 コピーではないので、デモートできません。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーが、別のコピーから -db2 -demote スイッチを使用して実行されました。ローカル・スイッチャーがデモートできるのは、システムのデフォルト DB2 コピーだけです。

**ユーザーの処置:**
デフォルト DB2 コピーをデモートする必要がある場合は、デフォルト DB2 コピーのインストール・パスからローカル・スイッチャーを実行してください。

---

**DB22021E　別のコピー *name* がシステムのデフォルト DB2 コピーとして定義されています。現行のデフォルト・コピーをデモートしない限り、別のコピーのプロモーションを実行することはできません。**

**説明:**
システムのデフォルト DB2 コピーとして既に割り当てられているコピーがあるにもかかわらず、ローカル・スイッチャーを呼び出して DB2 の別のコピーをプロモートしようとしました。

**ユーザーの処置:**
別のコピーをプロモートする前に、現行のデフォルト DB2 コピーをデモートしてください。

---

**DB22022E　レジストリー・キー HKLM¥Sofware¥IBM¥InstalledCopied の下の default の値に、コピー *name* の名前を設定しようとして、エラーが発生しました。**

**説明:**
キー HKLM¥Sofware¥IBM¥InstalledCopied の下の値 default の内容は、現行のデフォルト・コピーの名前です。ローカル・スイッチャーが、プロモートされたコピーの名前をこの値に設定する際に問題が検出されました。

**ユーザーの処置:**
操作をもう一度やり直してください。問題が続く場合、IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22023E　レジストリー・キー HKLM¥Sofware¥IBM¥InstalledCopied の下の default の値を更新して、コピー *name* の名前を除去する際に、エラーが発生しました。**

**説明:**
キー HKLM¥Sofware¥IBM¥InstalledCopied の下の値 default の内容は、現行のデフォルト・コピーの名前です。ローカル・スイッチャーが、デモートされたコピーの名前をこの値に設定する際に問題が検出されました。

**ユーザーの処置:**
操作をもう一度やり直してください。問題が続く場合、IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22024E　COM サーバー *name* の登録中に、エラーが発生しました。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのプロモーション中に、そのコピーの一部である COM サーバーをオペレーティング・システムに登録します。その操作において問題が検出されました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22025E　COM サーバー *name* の登録抹消中に、エラーが発生しました。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのデモーション中に、オペレーティング・システムからそのコピーの一部である COM サーバーの登録を抹消します。その操作において問題が検出されました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22026E　エラー: db2swtch コマンドの構文に誤りがあります。**

**説明:**
db2swtch ユーティリティーは、システムにインストールされている DB2 コピーまたは IBM データ・サーバー・ドライバー・コピーを表示したり、デフォルト DB2 コピーまたはデフォルト IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーを設定したりできます。また、このユーティリティーを使用して、一般的な IDS .NET Data Provider と SQLI IDS .NET Data Provider との間で、machine.config にある参照をリダイレクトすることもできます。

```
db2swtch [-db2|-client]
         [-d {name of DB2 copy or IBM data
              server driver copy}]
         [-l]
         [-IDS common|SQLI]
         [-h|-?]
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

**(引数なし)**
ユーティリティーをグラフィック・モードで起動します

**-d {name of DB2 copy}**
指定した名前をデフォルトの DB2 とデフォルトの IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーとして設定します

**-db2 -d {name of DB2 copy}**
指定した名前をデフォルト DB2 コピーとして設定します

**-client -d {name of DB2 copy or IBM data server driver copy}**
指定した名前をデフォルトのデータベース・クライアント・インターフェース・コピーとして設定します

**-l** システム上の DB2 コピーおよび IBM データ・サーバー・ドライバー・コピーのリストを表示します

**-IDS common**
machine.config にある IDS .NET Data Provider の参照を、一般的な IDS .NET Data Provider にリダイレクトします

**-IDS SQLI**
machine.config にある IDS .NET Data Provider の参照を、SQLI IDS .NET Data Provider にリダイレクトします

**-h|-?** ヘルプを表示します

**ユーザーの処置:**
有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

---

**DB22027E** **コピー *name* のパフォーマンス・カウンターを登録する際に、エラーが発生しました。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのプロモーション中に、このコピーの DB2 パフォーマンス・カウンターを登録します。その操作において問題が検出されました。 DB2 パフォーマンス・カウンターを使用するのでないかぎり、通常これは重大な問題とはなりません。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22028E** **コピー *name* のパフォーマンス・カウンターを登録解除する際に、エラーが発生しました。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのデモーション中に、このコピーの DB2 パフォーマンス・カウンターを登録解除します。その操作において問題が検出されました。 DB2 パフォーマンス・カウンターを使用するのでないかぎり、通常これは重大な問題とはなりません。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22029E** **コピー *name* のデフォルト・インスタンス用の DB2 システム・トレイを登録する際に、エラーが発生しました。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのプロモーション中に、このコピーのデフォルト・インスタンス用の DB2 システム・トレイを登録します。その操作において問題が検出されました。これは通常は重大な問題ではありません。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22030E** **コピー *name* の DB2 システム・トレイを登録解除する際に、エラーが発生しました。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのデモーション中に、このコピーの DB2 システム・トレイを登録解除します。その操作において問題が検出されました。これは通常は重大な問題ではありません。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22031E** **コピー *name* のショートカット・グループの表示名を変更する際に、エラーが発生しました。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーは、そのインストール先 DB2 コピーのプロモーションまたはデモーション中に、このコピーがデフォルトの DB2 コピーであるかどうかを示すために、このコピーのショートカット・グループの表示名を変更します。その操作において問題が検出されました。これは通常は重大な問題ではありません。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22032I** **コピー *name* は正常にデモートされ、このシステムのデフォルトの IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーではなくなりました。**

**説明:**
この操作の実行中にエラーは検出されませんでした。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DB22033I** **コピー *name* は正常にデモートされ、このシステムのデフォルトの DB2 および IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーではなくなりました。**

**説明:**
この操作の実行中にエラーは検出されませんでした。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DB22034I** **コピー *name* は正常にプロモートされ、このシステムのデフォルトの IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーになりました。**

**説明:**
この操作の実行中にエラーは検出されませんでした。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DB22035I** **コピー *name* は正常にプロモートされ、このシステムのデフォルトの DB2 および IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーになりました。**

**説明:**
この操作の実行中にエラーは検出されませんでした。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DB22036E** **コピー *name* はデフォルトの IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーではないので、デモートできません。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーが、別のコピーから -client -demote スイッチを使用して実行されました。ローカル・スイッチャーがデモートできるのは、システムのデフォルト IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーだけです。

**ユーザーの処置:**
デフォルト・データベース・クライアント・インターフェース・コピーをデモートする必要がある場合は、デフォルト・クライアント・インターフェース・コピーのインストール・パスからローカル・スイッチャーを実行してください。

---

**DB22037E** **コピー *name* はデフォルトの DB2 および IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーではないので、デモートできません。**

**説明:**
ローカル・スイッチャーが、別のコピーから -all -demote スイッチを使用して実行されました。ローカル・スイッチャーがデモートできるのは、システムのデフォルト DB2 コピーおよびデフォルト IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーの両方のコピーだけです。

**ユーザーの処置:**
デフォルト DB2 および IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーをデモートする必要がある場合は、デフォルト DB2 コピーおよびデフォルト IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーの両方のコピーのインストール・パスからローカル・スイッチャーを実行してください。

---

**DB22038E** **別のコピー *name* がシステムのデフォルト IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーとして定義されています。現行のデフォルト・データベース・クライアント・インターフェース・コピーをデモートしない限り、別のコピーのプロモーションを実行することはできません。**

**説明:**
システムのデフォルト IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーとして既に割り当てられているコピーがあるにもかかわらず、ローカル・スイッチャーを呼び出してデータベース・クライアント・インターフェースの別のコピーをプロモートしようとしました。

**ユーザーの処置:**
別のコピーをプロモートする前に、現行のデフォルト IBM データベース・クライアント・インターフェース・コピーをデモートしてください。

---

**DB22039E** **レジストリー・キー HKLM¥Sofware¥IBM¥InstalledCopied の下の defaultClientInterfaceCopy の値に、コピー *name* の名前を設定しようとして、エラーが発生しました。**

**説明:**
キー HKLM¥Sofware¥IBM¥InstalledCopied の下の値 defaultClientInterfaceCopy の内容は、現行のデフォル

ト・コピーの名前です。ローカル・スイッチャーが、プロモートされたコピーの名前をこの値に設定する際に問題が検出されました。

**ユーザーの処置:**
操作をもう一度やり直してください。問題が続く場合、IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22040E　レジストリー・キー HKLM¥Sofware¥IBM¥InstalledCopied の下の defaultClientInterfaceCopy の値を更新して、コピー *name* の名前を除去する際に、エラーが発生しました。**

**説明:**
キー HKLM¥Sofware¥IBM¥InstalledCopied の下の値 defaultClientInterfaceCopy の内容は、現行のデフォルト・データベース・クライアント・インターフェース・コピーの名前です。ローカル・スイッチャーが、デモートされたコピーの名前をこの値に設定する際に問題が検出されました。

**ユーザーの処置:**
操作をもう一度やり直してください。問題が続く場合、IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DB22041E　DB2 コピー *name* が存在しません。**

**説明:**
指定された DB2 コピーが存在しません。

**ユーザーの処置:**
既存の DB2 コピーを指定して、再度コマンドを発行してください。

---

**DB29320W　出力が切り捨てられました。**

**説明:**
全照会結果が提供されているようにフェッチされません。

**ユーザーの処置:**
CLP 照会はさらに短いストリングをフェッチするように再書き込みされます。 DB2 に対して、別のインターフェースを使用しても、CLP の制限を克服することができます。

---

**DB29501E　DB2 は不整合な環境を検出しました。次を調査してください: *error***

**説明:**
操作環境内でエラーが検出されました。

**ユーザーの処置:**
このエラーは、不整合な DB2 環境またはオペレーティング・システム環境が原因で発生する場合があります。エラー・メッセージに示されている問題を訂正して、コマンドを再発行してください。

---

**DB29502E　非互換 Java ランタイム環境が検出されました。 Java ランタイム環境に必要なレベルがインストールされているかどうかを確認してください。 Java アプリケーションが DB2 と共にインストールされた Java ランタイムを使用して起動されている可能性があります。**

**説明:**
インストールされた Java ランタイムが、DB2 Java アプリケーションによってサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
インストールした DB2 Java ランタイムは、DB2 Java アプリケーションを立ち上げるために使用されます。インストールした Java ランタイムを使用する他の Java アプリケーションを先に終了してから、DB2 Java アプリケーションを実行し、正しく動作しているかを確認してください。

---

**DB29503E　複数のデータベースへの接続はサポートされていません。**

**説明:**
複数のデータベースには接続できません。

**ユーザーの処置:**
1 つのデータベースにだけ接続してください。

---

**DB29504E　複数のユーザーへの接続はサポートされていません。**

**説明:**
複数のユーザーに接続することはできません。

**ユーザーの処置:**
1 つのユーザーにのみ接続してください。

---

**DB29523W　照会を取り消していいですか。**

---

**DB29524E　LogSQLError() が失敗しました**

---

**DB29525E　LogSQLError() *param-1 param-2***

---

**DB29526E　この表をドロップできません; 存在しません。 結果を持っているジョブを選択して再試行するか、またはスケジュールされている繰り返し実行するジョブを選択して再試行してください。**

**説明:**

関連する結果表をもたないジョブに対して、結果表をドロップする要求が出ました。

**ユーザーの処置:**
結果が出ているジョブを選択するか、スケジュールする繰り返し実行するジョブを選択してから、再試行してください。

---

**DB29527W** **ジョブ #*param-1* を取り消しますか。**

---

**DB29528W** **DB29528W ジョブ #*param-1* を表示しなくていいですか。**
**警告: このオプションを選択すると、このジョブは 2 度と表示されません。**

---

**DB29530W** **このオプションは、「キャンセル」や「隠蔽」のようなアクションから、確認メッセージを除去します。 よろしいですか?**

---

**DB29537E** **不明なタイプ:** *param-1*

---

**DB29542E** **接続 SQL エラー:** *param-1*
**エラー番号:** *param-2*
**エラー・メッセージ:** *param-3*

---

**DB29543E** **リソース DLL rqsres.dll が見つかりません。**

**説明:**
リソース DLL rqsres.dll を正常にロードできませんでした。

**ユーザーの処置:**
DB2 Query Patroller 回帰照会スケジューラーの初期化中にリソース DLL rqsres.dll が損傷を受けたか、または削除されたため、ロードできませんでした。 DB2 Query Patroller QueryEnabler を再インストールしてください。

---

**DB29544E** **リソース DLL qeres.dll が見つかりません。**

**説明:**
リソース DLL qeres.dll を正常にロードできませんでした。

**ユーザーの処置:**
DB2 Query Patroller QueryEnabler の初期化中に、リソース DLL qeres.dll が損傷を受けたか、または削除されたため、ロードできませんでした。 DB2 Query Patroller QueryEnabler を再インストールしてください。

---

**DB29545E** **無効な名前: 照会名は 20 文字以内にしてください。名前を変更して再試行してください。**

**説明:**
20 文字を超える照会名が指定されました。

**ユーザーの処置:**
最大 20 文字で照会名を指定してください。

---

**DB29546E** **無効な名前: 照会名には英数字とスペースしか使用できません...(
″a..z″、″A..Z″、″0..9″ )。 名前を変更して再試行してください。**

**説明:**
英数字以外の文字の入った照会名が指定されました。

**ユーザーの処置:**
照会名を英数字のみで指定してください。

---

**DB210200I** **変更を有効にするには、データベースからすべてのアプリケーションを切断する必要があります。**

**説明:**
ADD または DROP DATALINKS MANAGER コマンドは正常に処理されました。ただし、すべてのアプリケーションがデータベースから切断されるまで、変更は有効になりません。 アプリケーションがデータベースから切断された後、データベースに最初に接続すると、変更が有効になります。

**ユーザーの処置:**
すべてのアプリケーションがデータベースから切断されていることを確認して、 CONNECT ステートメントを発行してください。

---

**DB210201I** **調整ユーティリティーを、DB2 Data Links Manager のファイルへのリンクの入ったデータベース表で実行する必要があります。 DB2 Data Links Manager はこれらのファイルのリンク解除処理を行いません。**

**説明:**
DROP DATALINKS MANAGER コマンドは正常に処理されました。 DB2 Data Links Manager をドロップする前に、DB2 Data Links Manager 上のファイルへのリンクの入ったデータベース表がないことを確認してください。 このようなリンクがある場合は、調整ユーティリティーを使用してデータベース表から除去する必要があります。ファイル自体はファイル・システムにリンク状態で残ることに注意してください。詳細については、

「コマンド・リファレンス」にある DROP DATALINKS MANAGER コマンドの使用上の注意を参照してください。

---

**DB210202E** *number* **MB より小さいメモリーがサーバーに占有されます。 推奨値は実施されていません。現行値は、提案値と一致しています。**

**説明:**
サーバー専用のメモリー量が少ないため、パフォーマンス構成ウィザードは推奨値を実施することができません。構成パラメーターは変更されません。

**ユーザーの処置:**
サーバー専用のメモリーが増加可能の場合、MEM_PERCENT オプションからより大きな値でコマンドを再実行してください。

---

**DB210203I** **AUTOCONFIGURE 正常に完了しました。 変更の適用を選択した場合は、データベース・マネージャーまたはデータベース構成値が変更されている可能性があります。この種の適用した変更を有効にするには、インスタンスを再始動する必要があります。また、新しい構成パラメーターを有効にした後は、新しい値が使用されるように、パッケージを再バインドすることができます。**

**説明:**
構成アドバイザーは推奨値を生成し、ユーザーの要求に応じて構成パラメーターとバッファー・プール・サイズを更新しました。

サーバー上のインスタンスが再開するまで変更は有効になりません。

パッケージが前の構成パラメーターでバインドされました。 これらの新規パラメーターが効力を持った後で再バインドする必要があります。

**ユーザーの処置:**
新規構成パラメーターを使用する準備ができたら、インスタンスを停止して再始動してください。 必要に応じて、パッケージを再バインドしてください。

---

**DB210204E** **構成アドバイザーがサーバーからシステム情報を取得しようとしたときにエラーが発生しました。**

**説明:**
予期しないエラーが発生しました。 構成アドバイザーを続行できません。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に連絡してください。

---

**DB210205W** **構成アドバイザーは、応答により決定された他のメモリー要件のため、バッファー・プールのサイズを増やせません。バッファー・プール・サイズは未変更のままです。構成値の推奨設定を使用すると、サーバーのページングを引き起こす可能性があります。**

**説明:**
これは、指定されたワークロードを実行するのにサーバーには十分なメモリーがない可能性があることを知らせる警告です。

**ユーザーの処置:**
このコマンドの入力を調べて、ワークロード記述が適切であることを確認するか、サーバーにメモリーを追加してください。

---

**DB210206W** **入力したトランザクション・レートが、接続済みアプリケーションの平均数の 10 倍を超えています。トランザクション・マネージャーを使用する場合、このメッセージを無視してください。使用していない場合は、レートの変更を検討してください。**

**説明:**
構成アドバイザーは、トランザクション・レートが妥当かどうかをチェックします。 トランザクション・マネージャーを使用していない場合、トランザクション・レートが高くなりすぎる可能性があります。

**ユーザーの処置:**
トランザクション・マネージャーを使用する場合、このメッセージを無視してください。そうでない場合は、一分ごとにトランザクションの低い数値を使用するか、または接続されたアプリケーションの平均数値を増やしてください。

---

**DB210207E** *database-name* **を自動構成できません。データベース** *database-name* **の作成に失敗しました。**

**説明:**
予期しないエラーが発生しました。 構成アドバイザーを継続できません。また、作成中しようとしていたデータベースは失敗しました。

**ユーザーの処置:**
AUTOCONFIGURE オプションを指定せずに CREATE DATABASE を実行し、次にデータベースを構成するために AUTOCONFIGURE を実行してみてください。

**DB210208E　データベースを EEE システムで自動構成できません。 データベース *database-name* の作成に失敗しました。**

**説明:**
AUTOCONFIGURE オプションは EEE では使用できません。データベースは作成できませんでした。

**ユーザーの処置:**
AUTOCONFIGURE オプションを指定せずに CREATE DATABASE を実行し、次にデータベースを構成するために AUTOCONFIGURE を実行してみてください。

---

**DB210209I　データベースは正常に作成されました。 構成の変更を有効にするために、インスタンスを再始動してください。**

**説明:**
構成アドバイザーは、データベース・マネージャー構成パラメーター、データベース構成パラメーター、および SYSBUFFERPOOLS カタログのバッファー・プール・サイズを更新しました。

サーバー上のインスタンスが停止するまで変更は有効になりません。

パッケージが前の構成パラメーターでバインドされました。 これらの新規パラメーターが効力を持った後で再バインドする必要があります。

**ユーザーの処置:**
新規構成パラメーターを使用する準備ができたら、インスタンスを停止して再始動してください。 必要に応じて、パッケージを再バインドしてください。

---

**DB210210E　APPLY のパラメーターは、このサーバー・リリースの構成アドバイザーでサポートされていません。**

**説明:**
このサーバー・リリースの構成アドバイザーでは、APPLY DB OR DBM か APPLY NONE だけが有効パラメーターです。

**ユーザーの処置:**
APPLY DB OR DBM または APPLY NONE を使ってコマンドを再発行してください。

---

**DB210211W　AUTOCONFIGURE が正常に完了しましたが、現在のデータベース・パーティションの推奨値を計算しただけです。 すべてのデータベース・パーティションに対して AUTOCONFIGURE を実行したり、これらの推奨値をシステム上のすべてのデータベース・パーティションに伝搬することができます。**

**説明:**
構成アドバイザーは、推奨値を生成し、現在のデータベース・パーティションに対してのみ、ユーザーの要求に応じて構成パラメーターとバッファー・プール・サイズを更新しました。

変更は、サーバーでインスタンスを再始動するまで有効になりませんが、各データベース・パーティションに対して AUTOCONFIGURE を実行するか、別々のユーザー・アクションを実行して、このシステム上の他のデータベース・パーティションにその変更を伝搬する必要があります。

パッケージが前の構成パラメーターでバインドされました。 これらの新規パラメーターが効力を持った後で再バインドする必要があります。

**ユーザーの処置:**
新規構成パラメーターを使用する準備ができたら、インスタンスを停止して再始動してください。 必要に応じて、パッケージを再バインドしてください。

---

**DB210212W　構成アドバイザーの推奨値には、指定されたよりも多くのパーセンテージのメモリーが必要です。 推奨値は実施されていません。現行値は、提案値と一致しています。**

**説明:**
構成アドバイザーによる推奨値を割り当てるのに十分なメモリーがありません。

**ユーザーの処置:**
より大きなパーセンテージのメモリーを指定して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB210213W　指定された入力に対して推奨されているディスク数が、使用できる数を超えています。推奨値は実施されていません。現行値は、提案値と一致しています。**

**説明:**
パフォーマンス構成ウィザードによる推奨値を満たすのに十分な数のディスクがありません。

**ユーザーの処置:**

使用できるディスクの数が増えた時点でコマンドを再サブミットしてください。

---

**DB210214W　指定された入力に対して推奨されているメモリー量が、使用できるメモリー量を超えています。推奨値は実施されていません。現行値は、提案値と一致しています。**

**説明:**
構成アドバイザーによる推奨値を割り当てるのに十分なメモリーがありません。

**ユーザーの処置:**
別の入力値を指定するか、使用できるメモリー量が増えた時点でコマンドを再サブミットしてください。

---

**DB210215W　構成アドバイザーは、応答によって判別した他のメモリー要件のために、バッファー・プールの最小メモリーを割り当てることができませんでした。**

**説明:**
構成アドバイザーは、指定されたメモリー・リソースで指定されたデータベース要件に基づく一連の推奨値を提供できません。

**ユーザーの処置:**
利用できるメモリー・リソースがまだあるなら、割り振る物理メモリーのパーセンテージをもっと大きくしてください。そうでない場合は、サーバーの物理メモリーを増設してください。

---

**DB210220E　指定されたコマンド番号が無効です。**

**説明:**
EDIT または RUNCMD コマンドに対して、無効なコマンド番号が指定されました。このコマンドは、現在の CLP 対話モード・コマンド履歴に存在しません。

**ユーザーの処置:**
HISTORY コマンドを実行して、有効なコマンド番号のリストを確認し、有効なコマンド番号を指定して、EDIT または RUNCMD コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB210221E　エディター *editor* を起動できませんでした。**

**説明:**
無効なエディターが EDIT コマンドに対して指定されました。 このエディターが存在しないか、または PATH に含まれていません。

**ユーザーの処置:**
EDIT コマンドで使用されるエディターは、次の順に決定されます。

- EDIT コマンド の EDITOR パラメーターの値を使用して (パラメーターが指定されている場合)
- DB2_CLP_EDITOR レジストリー変数の値を使用して (レジストリー変数が設定されている場合)
- VISUAL 環境変数の値を使用して (環境変数が設定されている場合)
- EDITOR 環境変数の値を使用して (環境変数が設定されている場合)

EDIT コマンドの EDITOR パラメーターの PATH か、適切なレジストリー/環境変数に含まれている有効なエディターを指定してください。

---

**DB210222E　*parameter* で指定された値が、 *number* と *number* の有効範囲内にありません。**

**説明:**
無効な値が *parameter* で指定されました。 この値は、*number* と *number* の有効範囲内に含まれていません。

**ユーザーの処置:**
*parameter* の有効範囲について、該当する資料を参照し、有効な値を指定して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DB210223E　コマンド *command* は CLP の対話モードでのみ実行することができます。**

**説明:**
DB2 コマンドを CLP のコマンドまたはバッチ・モードで実行しようとしましたが、このコマンドは CLP の対話モードでしか実行できません。

**ユーザーの処置:**
同じコマンドを CLP の対話モードで再実行してください。

# 第 9 章 DBA メッセージ

このセクションには、データベース管理 (DBA) ツールによって生成されるメッセージが含まれています。 メッセージは番号順にリストされています。

**DBA0000I 関数の処理が正常に完了しました。**

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DBA0001E メモリーを割り振り中に内部エラーが発生しました。**

**説明:**
メモリーを割り振り中に内部エラーが発生しました。 アプリケーションは終了します。

**ユーザーの処置:**
いくつかのアプリケーションをクローズしてメモリーを解放してください。問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

**DBA0002E 内部エラーが発生しました。予期しない入力を要求から受け取りました。**

**説明:**
予期しない入力値を要求から受け取りました。 アプリケーションは終了します。

**ユーザーの処置:**
IBM サービスに連絡してください。

**DBA0003E 変更要求を処理中に、表定義の不整合が検出されました。**

**説明:**
表の変更要求を処理しているときに、最新の既知の表定義とデータベースからフェッチされた表定義との間で不整合が検出されました。 表定義は、管理ツールのコンテキストの外で変更する場合があります。 表は変更できません。 要求を終了します。

**ユーザーの処置:**
「表」のポップアップ・メニューで「リフレッシュ」を選択し、データベースから更新された表のリストを入手します。 表の変更を再度行ってください。

**DBA0004E データベースへの接続の妥当性検査中にエラーが発生しました。**

**説明:**
無効な接続を検出しました。 サーバーがダウンしていて現在保留中の接続が有効でなく、新規接続を取得できない場合に問題が発生します。 要求を終了します。

**ユーザーの処置:**
サーバーが開始しているか確認してください。 接続するデータベースのポップアップ・メニューで、「接続」アクションを選択してください。アクションを再試行してください。

再度アクションが失敗した場合、ネットワークがターゲット・システムで動作していることと、データベースがそのシステムで稼働中であることを確認してください。

ネットワークが作動可能である場合、システムの内部エラーが発生する場合があります。 IBM サービスに連絡してください。

**DBA0005E インスタンスへのアタッチの妥当性検査中にエラーが発生しました。**

**説明:**
無効な接続を検出しました。 データベースが停止しているか接続が存在していない可能性があります。 要求を終了します。

**ユーザーの処置:**
サーバーが開始しているか確認してください。 接続するデータベースのポップアップ・メニューで、「接続」アクションを選択してください。アクションを再試行してください。

再度アクションが失敗した場合、ネットワークがターゲット・システムで動作していることと、データベースがそのシステムで稼働中であることを確認してください。

ネットワークが作動可能である場合、システムの内部エラーが発生する場合があります。 IBM サービスに連絡してください。

**DBA0006E 持続データベース接続またはインスタンス・アタッチのハンドルを妥当性検査中にエラーが発生しました。**

**説明:**

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

無効な接続を検出しました。 データベースが停止しているか接続が存在していない可能性があります。 要求を終了します。

**ユーザーの処置:**
サーバーが開始しているか確認してください。 接続するデータベースのポップアップ・メニューで、「接続」アクションを選択してください。アクションを再試行してください。

再度アクションが失敗した場合、ネットワークがターゲット・システムで動作していることと、データベースがそのシステムで稼働中であることを確認してください。

ネットワークが作動可能である場合、システムの内部エラーが発生する場合があります。 IBM サービスに連絡してください。

---

**DBA0007E 接続のコンテキスト・タイプを設定中に内部エラーが発生しました。**

**説明:**
アプリケーションで確立された接続に対するコンテキスト・タイプを設定中にエラーが発生しました。 アプリケーションは終了します。

**ユーザーの処置:**
IBM サービスに連絡してください。

---

**DBA0008E 内部エラーが発生しました。予期しないリスト・タイプが要求されました。**

**説明:**
リストされるオブジェクトのタイプはアプリケーションにより有効なタイプとして認識されませんでした。 アプリケーションは終了します。

**ユーザーの処置:**
IBM サービスに連絡してください。

---

**DBA0009E 内部エラーが発生しました。予期しない要求タイプを受け取りました。**

**説明:**
実行される要求のタイプはアプリケーションにより有効なタイプとして認識されませんでした。 アプリケーションは終了します。

**ユーザーの処置:**
IBM サービスに連絡してください。

---

**DBA0010E 内部エラーが発生しました。予期しないオブジェクト・タイプを検出しました。**

**説明:**
処理されるオブジェクトのタイプはアプリケーションの有効なタイプとして認識されませんでした。 アプリケーションは終了します。

**ユーザーの処置:**
IBM サービスに連絡してください。

---

**DBA0011E オープン接続が多すぎます。**

**説明:**
オープンできるデータベース接続の最大数に達しました。 要求を終了します。

**ユーザーの処置:**
次のいずれかを行ってください。

- 他のデータベースから接続を切断して必要なデータベースに接続してください。 切断するデータベースのポップアップ・メニューから「切断」を選択します。接続するデータベースのポップアップ・メニューから「接続」を選択します。
- 構成パラメーターを更新して接続できる数を増やします。

---

**DBA0012E 接続ハンドルを割り振ることができません。**

**説明:**
接続ハンドルを割り振るときにエラーが発生しました。アプリケーションは終了します。

**ユーザーの処置:**
IBM サービスに連絡してください。

---

**DBA0013W リスト可能なオブジェクトの最大数に達しました。**

**説明:**
アプリケーションでリスト可能なオブジェクトの最大数に達しています。 最大数は 20,000 です。

**ユーザーの処置:**
ありません。

---

**DBA0014E 内部エラーが発生しました。予期しないドロップ・タイプが要求されました。**

**説明:**
ドロップされるオブジェクトのタイプはアプリケーションにより有効なタイプとして認識されませんでした。アプリケーションは終了します。

**ユーザーの処置:**
IBM サービスに連絡してください。

---

**DBA0015E　内部エラーが発生しました。ラッチ要求が失敗しました。**

**説明:**
ラッチ要求が失敗しました。 アプリケーションは終了します。

**ユーザーの処置:**
IBM サービスに連絡してください。

**DBA0016E　内部エラーが発生しました。アンラッチ要求が失敗しました。**

**説明:**
アンラッチ要求が失敗しました。 アプリケーションは終了します。

**ユーザーの処置:**
IBM サービスに連絡してください。

**DBA0017E　使用可能なエラー情報がありません。 管理ツールのログを参照してください。**

**説明:**
表示できるエラー情報がありません。

**ユーザーの処置:**
エラー情報については管理ツールのログを参照してください。

**DBA0018E　Administration Server が開始されていません。 Administration Server を開始し、このアクションを再度試行してください。**

**説明:**
Administration Server が開始されていません。

**ユーザーの処置:**
ターゲット・システムで DB2ADMIN START コマンドを使用して Administration Server を開始してアクションを再度行ってください。

**DBA0019E　オブジェクト *object-name* が使用中です。後でこのアクションを再度試行してください。**

**説明:**
アクションが要求されたオブジェクトあるいは関連オブジェクトは、すでに別のアクションで使用されています。 オブジェクトあるいは関連オブジェクトに対する修正が進行中である可能性があります。

要求されたアクションが現行のアクションと同時に実行できません。

例:

- 表が変更されている場合、同じ表の名前変更要求は「変更」ウィンドウでの作業が完了するまで許可されません。 ただし、その表の内容をサンプルする要求は許可されます。
- オブジェクト (表など) をドロップする要求は、他のアクションが関連オブジェクト (データベース、ビュー、トリガーなど) でペンディングの場合、許可されません。

アクションは実行されません。

**ユーザーの処置:**
オブジェクトが使用可能なときに、後でアクションを再度試行してください。

**DBA0020E　管理ツール・トレース・ファイルをオープン中にエラーが発生しました。**

**説明:**
管理ツール・トレース・ファイルをオープン中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービスに連絡してください。

**DBA0021E　管理ツール・トレース・ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。**

**説明:**
管理ツール・トレース・ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービスに連絡してください。

**DBA0022W　管理ツール・トレース・ファイルをクローズ中にエラーが発生しました。**

**説明:**
管理ツール・トレース・ファイルをクローズ中にエラーが発生しました。 処理を続行します。

**ユーザーの処置:**
管理ツール・ログ・ファイルが正しく指定されているか確認してください。

**DBA0023W　管理ツール・ログ・ファイルをオープン中にエラーが発生しました。**

**説明:**
管理ツール・ログ・ファイルをオープン中にエラーが発生しました。 処理を続行します。

**ユーザーの処置:**
管理ツール・ログ・ファイルが正しく指定されているか確認してください。

**DBA0024W　管理ツール・ログ・ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。**

**説明:**
管理ツール・ログ・ファイルへの書き込み試行中にエラーが発生しました。 処理を続行します。

**ユーザーの処置:**
管理ツール・ログ・ファイルが正しく指定されていて書き込みが可能であるか確認してください。

**DBA0025W　管理ツール・ログ・ファイルをクローズ中にエラーが発生しました。**

**説明:**
管理ツール・ログ・ファイルのクローズを試行中にエラーが発生しました。処理を続行します。

**ユーザーの処置:**
管理ツール・ログ・ファイルが正しく指定されているか確認してください。

**DBA0026E　内部管理ツール・エラーが発生しました。**

**説明:**
リカバリー不能エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービスに連絡してください。

**DBA0027E　内部エラーが発生しました。管理ツールでロックの競合が発生しました。**

**説明:**
管理ツールでロックの競合が発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービスに連絡してください。

**DBA0028I　現行管理ツール・セッションは、リカバリー不能エラーのために終了します。**

**説明:**
重大な内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービスに連絡してください。

**DBA0029C　アプリケーション・プログラミング・インターフェース *program* は理由コード *name* を伴うオブジェクト *name* のために正常終了しませんでした。再度やり直すか、またはサポート担当者に連絡してください。**

**説明:**
アプリケーション・プログラミング・インターフェースの呼び出しが完了しませんでした。

**ユーザーの処置:**
操作をもう一度やり直すか、またはシステム管理者に連絡してください。

**DBA0030E　データベース *name* に接続を試行中にエラーが発生しました。**

**説明:**
要求された操作はデータベース *name* への接続を必要とするため、完了できませんでした。 接続は成功しませんでした。

**ユーザーの処置:**
データベースがアクセス可能なことを確認してください。 データベース・ポップアップ・メニューの接続アクションを使用してデータベースへの接続を明示的に試行してください。 接続の共通エラーは無効なユーザー ID およびパスワードです。 適切なユーザー ID およびパスワードを指定しているか確認してください。操作をもう一度やり直すか、またはシステム管理者に連絡してください。

**DBA0031E　インスタンス *name* にアタッチを試行中にエラーが発生しました。**

**説明:**
要求された操作はインスタンス *name* へのアタッチメントを必要とするため、完了できませんでした。アタッチメントは正常に終了しませんでした。

**ユーザーの処置:**
インスタンスがアクセス可能なことを確認してください。インスタンス・ポップアップ・メニューの接続アクションを使用して明示的にインスタンスの接続を試行してください。 接続の共通エラーは無効なユーザー ID およびパスワードです。 適切なユーザー ID およびパスワードを指定しているか確認してください。操作をもう一度やり直すか、またはシステム管理者に連絡してください。

**DBA0032C　DLL *name* のロードを試行中にエラーが発生しました。**

**説明:**
ダイナミック・リンク・ライブラリー *name* が検出されなかったか、またはファイルの読み取り中にエラーが起こりました。

**ユーザーの処置:**
DLL がインストールされて、壊されることなく、そのロケーションが CONFIG.SYS ファイルの LIBPATH パラメーターに指定されていることを確認してください。

**DBA0033C** *name* **は、現在管理ツールによって使用されているためドロップできません。いくつかのウィンドウをクローズしてコマンドを再試行してください。**

**説明:**
ドロップするために選択したオブジェクト *name* またはドロップするために選択したオブジェクトが所有する項目が、まだ別の管理ツールによって使用されています。 たとえば、ドロップしようとしているデータベースに対して「表の変更」ウィンドウをオープンしている可能性があります。 この場合は、「表の変更」ウィンドウをクローズするまでデータベースをドロップできません。

**ユーザーの処置:**
選択したオブジェクトを使用しているすべてのウィンドウをクローズするか、またはそのオブジェクトが所有する項目を使用しているすべてのウィンドウをクローズしてからコマンドを再試行してください。

---

**DBA0034C** *name* **は、現在管理ツールによって使用されているため除去できません。いくつかのウィンドウをクローズしてコマンドを再試行してください。**

**説明:**
除去するために選択したオブジェクト *name* または除去するために選択したオブジェクトが所有する項目が、まだ別の管理ツールによって使用されています。 たとえば、除去しようとしているデータベースに対して、「表の変更」ウィンドウをオープンしている可能性があります。 この場合は、「表の変更」ウィンドウをクローズするまでデータベースを除去できません。

**ユーザーの処置:**
選択したオブジェクトを使用しているすべてのウィンドウをクローズするか、またはそのオブジェクトが所有する項目を使用しているすべてのウィンドウをクローズしてからコマンドを再試行してください。

---

**DBA0035C** *operation* **操作は、オブジェクト** *name* **が現在管理ツールによって使用されているため実行できません。いくつかのウィンドウをクローズしてコマンドを再試行してください。**

**説明:**
この操作 *operation* では、*name* が *name* 状態にあることが必要です。

**ユーザーの処置:**
選択されたオブジェクトでペンディングになっている他のすべての操作が完了したことを確認して、コマンドを再試行してください。

---

**DBA0036I** **データベース構成は正常に更新されました。変更が反映される前にデータベース** *name* **からすべてのアプリケーションを切断してください。 すでにバックアップが行われている場合には、新しい構成値を選択するために、データベースのバックアップをもう一度行うことをお勧めします。**

**説明:**
データベース構成の更新は成功しましたが、すべてのアプリケーションがデータベースから切断されるまで、アクティブなデータベース構成は変更できません。 すべてのアプリケーションが切断されると、データベースへの最初の接続時に、変更が反映されます。

**ユーザーの処置:**
すべてのアプリケーションがデータベースから切断された後で、そのデータベースに再接続されたことを確認してください。

---

**DBA0037I** **インスタンス構成は正常に更新されました。変更が反映される前に、インスタンス** *name* **を 停止してください。**

**説明:**
インスタンス構成は正常に更新されました。

構成パラメーター ″dftdbpath″ に対する変更は、即時に反映されます。

残りの構成パラメーターについては、すべてのアプリケーションがデータベースから切断され、インスタンスの停止と始動が再度成功するまで、変更は反映されません。

**ユーザーの処置:**
すべての変更を有効にするためには、すべてのアプリケーションをデータベースから切断し、インスタンスを停止して再始動してください。

コントロール・センターのインスタンス・ポップアップ・メニューの停止アクションを選択して、インスタンスを停止できます。 その後、コントロール・センターのインスタンス・ポップアップ・メニューの開始アクションを選択して、インスタンスを開始できます。

---

**DBA0039W** **現在データベース・オブジェクトがロックされているか、あるいはデータベース接続が使用されています。 シャットダウンを続行しますか ?**

**説明:**
コントロール・センターのデータベース・オブジェクトは、表の変更などのアクションが行われたときにロック

されます。 他のアクションは、タスクを完了するために必要なデータベースへの接続を保守します。

**ユーザーの処置:**
「シャットダウンして続行」を選択すると、すべてのロックおよび接続が強制され、ツールがシャットダウンします。 ただしこれを行うのは危険です。いくつかのアクション (データベース・リストアなど) を、タスクを介して不十分に実行すると、データベースが破壊された状態のままになるためです。

最も安全な方法は、まず DB2 ツールに戻り、未解決のデータベース操作がないか確認することです。

---

**DBA0040W　シャットダウンによってスナップショット・モニターが停止します。シャットダウンを続行しますか ?**

**説明:**
スナップショット・モニターが 1 つまたは複数のデータベース・オブジェクトで開始しています。モニターを続行するには、DB2 ツールが実行中である必要があります。

**ユーザーの処置:**
スナップショット・モニターがこれ以上必要ない場合にのみ、シャットダウンを続行します。

---

**DBA0041I　要求された操作は、DB2 管理ツールが未承認アプレットであるため、実行できませんでした。**

**説明:**
ネットワークを経由してロードされたアプレットは、通常、未承認とされます。 別の Web ブラウザーおよびアプレット・ビューアーを使用すると、多くのローカルなシステム操作 (たとえば、ファイルの読み取り、ファイルの書き込み、およびファイルの印刷) を含む、未承認のアプレットに関して、別の制限がつく可能性があります。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に問い合わせて、この制限が緩和あるいはカスタマイズできるかどうか調べてください。

---

**DBA0042I　このデータベースへの接続に使用されたユーザー ID およびパスワードの設定をクリアしますか。**

**説明:**
この設定のクリアを選択した場合、ご使用のワークステーションからの本データベースへの無許可アクセスを防ぐことができます。 ただし、本データベースに次回接続するときには、正しいユーザー ID とパスワードを入力するよう要求されます。

**ユーザーの処置:**
ユーザー ID およびパスワード設定をクリアするには、「はい」をクリックしてください。 コントロール・センターを終了するまで、ユーザー ID とパスワードを保管するには、「いいえ」をクリックしてください。

---

**DBA0043I　コマンドが実行されていません。**

**説明:**
操作は発生せず、中断されています。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再サブミットしてください。

---

**DBA0044N　Java VM ヒープ・サイズは、ユーザーの要求を処理するのに十分な大きさではありません。**

**説明:**
大容量のデータにアクセスする要求の場合には、これは想定内の反応と考えられます。

大容量のデータにアクセスする要求以外の場合には、メモリーの問題を示す反応である可能性があることに注意してください。

**ユーザーの処置:**
Java 仮想マシン・ヒープのサイズを増加してから、アプリケーションを再始動してください。 Java VM ヒープ・サイズを増加するには、アプリケーションを呼び出す時に -Xmx<size> オプションを付けます。ただし、<size> は、バイト単位の最大サイズです。必要があれば、キロバイトを示す文字 k または K、またはメガバイトを示す m または M を付加して、別の単位を指定してください。

たとえば、128 メガバイトの Java VM ヒープ・サイズを使ってコントロール・センターを開始するには、db2cc -Xmx128m と入力します。

---

**DBA0045N　「XSR の登録 (Register XSR)」ダイアログ内の少なくとも 1 つの必須フィールドが未完了です。**

**説明:**
「XSR の登録 (Register XSR)」ダイアログで XSR オブジェクト登録プロセスを完了するには、すべての必須フィールドへの入力があらかじめ完了していなければなりません。

**ユーザーの処置:**
「XSR の登録 (Register XSR)」ダイアログのすべての必須フィールドが完了していることを検証してから、やり直してください。

**DBA0046N　XSR オブジェクトの登録に必要なファイルが見つかりません。**

**説明:**
「XSR の登録 (Register XSR)」ダイアログを使って XSR オブジェクトを追加する場合、参照するファイルは、登録プロセス中にそろっていなければなりません。少なくとも 1 つのファイルが見つかりません。

**ユーザーの処置:**
XSR オブジェクトの登録プロセスで参照するファイルがすべてそろっているかどうかを確認してから、やり直してください。

---

**DBA0047N　要求したネイティブの XML データ・ストア機能は、このデータベースでは使用可能ではありません。**

**説明:**
ネイティブの XML データ・ストアをサポートしないデータベースに対して、ネイティブの XML データ・ストア管理ツールでサポートされている XML 機能を使用しようとした場合には、このメッセージは想定どおりの反応です。 XML Extender は、ネイティブの XML データ・ストアの一角をなしていないことに注意してください。

**ユーザーの処置:**
DB2 インスタンスがネイティブの XML データ・ストア機能をサポートしていない場合、ユーザー応答は必要ありません。そのようなデータベースに対して、ネイティブの XML データ・ストア管理ツールでサポートされている XML 機能を使用することはできません。

サポートされているネイティブ XML データ・ストア機能の使用方法の詳細は、http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9index.jsp の DB2 インフォメーション・センターにアクセスし、「ネイティブ XML データ・ストア」および「概要」を検索してください。

---

**DBA0048N　自動ストレージをこのデータベースに追加できません。**

**説明:**
自動ではないストレージ・データベースで、「自動ストレージの追加」ウィンドウにアクセスしようとしました。

**ユーザーの処置:**
自動ではないストレージ・データベース用のストレージを追加するには、「表スペース」フォルダーに一覧で示されている表スペースを選択します。表スペース名を右マウス・ボタンでクリックし、「変更...」を選択します。 .「表スペースの変更」ノートブックがオープンします。 「コンテナー」タブを選択して、データベース用のストレージを追加します。

---

**DBA0049N　選択したファイルの読み取りまたは処理でエラーが生じたため、XML スキーマ・リポジトリー (XSR) への登録は失敗しました。**

**説明:**
XSR へのオブジェクトの追加時に、「XSR の登録 (Register XSR)」ノートブックは、特定のファイル拡張子のみをサポートします。サポートされている拡張子を使用している場合、ファイルの処理中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
サポートされている拡張子は、.dtd (XML DTD)、.mod (XML DTD モジュール)、.ent (外部エンティティー)、および .XML スキーマ) です。サポートされている拡張子を使用している場合、XML エディターを使用して、ファイル内容の検証を試みてください。エラーがない場合、オブジェクトの登録をもう一度やり直してください。登録が引き続き失敗する場合、IBM サービスに問い合わせてください。

---

**DBA0099N　Java VM ヒープ・サイズは、ユーザーの要求を処理するのに十分な大きさではありません。**

**説明:**
大容量のデータにアクセスする要求の場合には、これは正常な応答です。 しかし、大容量のデータにアクセスする要求以外の場合には、メモリーに問題がある可能性があります。

**ユーザーの処置:**
プログラムを呼び出す時に、Java 仮想マシンのヒープ・サイズの最大値を -Xmx<size> オプションを使用して変更してください。 最大サイズをバイトで指定してください。 キロバイトを示す場合には、 文字 k または K を、またメガバイトを示す場合には m または M を付加してください。

たとえば、 db2cc -Xmx128m です。

問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

---

**DBA0100I　コントロール・センターは、インスタンス *instance* のノード・ディレクトリー情報を更新しています。 誤った情報は訂正されています。 現行要求は実行できません。**

**説明:**

コントロール・センターがインスタンスで変更されたノード・タイプを検出し新規の情報に基づいてインスタンスを再カタログしました。インスタンスのノード・タイプ値に応じて、コントロール・センターからのアクションが異なります。

**ユーザーの処置:**
要求の実行可能であれば、要求を再試行してください。

---

**DBA0101W　例外リストで指定された項目は使用されません。続行しますか?**

**説明:**
「例外が含まれるノード」チェック・ボックスの選択を解除しますが例外コンテナーは「例外リスト」ダイアログで指定されます。

**ユーザーの処置:**
例外コンテナー・リストをクリアするには「はい」を「例外が含まれるノード」チェック・ボックスを再度選択するには「いいえ」をクリックしてください。

---

**DBA0102W　インスタンス - *instance* に対するノード・タイプが検出できません。理由コード : *reason-code***

**説明:**
Nodetype はインスタンスが単一データベース・パーティション・サーバーで構成されるか、または複数のデータベース・パーティション・サーバーで構成されるかを識別するデータベース・マネージャー構成パラメーターです。

ディスカバリー機能によって nodetype 値の解決を試行します。このインスタンス間の区別はコントロール・センターでのアクションが単一データベース・パーティション・サーバー環境と複数データベース・パーティション・サーバー環境との間で違うため、必要です。

理由コードが -1 の場合、ディスカバリーは有効な DB2 インスタンスに対してカタログ済みのインスタンスをマップできません。

他のすべての理由コードは有効な SQL メッセージにマップを行います。 対応する SQL メッセージのヘルプを調べてください。

**ユーザーの処置:**
ディスカバリーには次の要件があります。

1. DB2 Administration Server が、カタログまたはアクセスするリモート・インスタンスでセットアップおよび実行されている必要があります。
2. インスタンスがレジストリーでリストされているかを確認してください。 カタログしているホストから db2set -l を発行してください。
3. 次のグローバル DB2 レジストリー値が設定されている必要があります。
   - DB2SYSTEM
   - DB2ADMINSERVER
4. 次のインスタンス DB2 レジストリー値が設定されている必要があります。
   - DB2COMM
5. 次の Administration Server 構成パラメーターが設定されている必要があります。
   - DISCOVER = KNOWN and DISCOVER_COMM = null

   または
   - DISCOVER = SEARCH and DISCOVER_COMM = protocol (たとえば、TCPIP )

以上のレジストリー値の設定について db2set -all を入力して検証してください。

---

**DBA0103W　構成パラメーター値に対して行った変更は使用されません。 続行しますか?**

**説明:**
別のデータベース・パーティションが選択されましたが、構成パラメーターに対する変更は直前に選択されたデータベース・パーティションに適用します。

**ユーザーの処置:**
「はい」をクリックして次のデータベース・パーティションに対する構成パラメーターの値を取得し、直前に選択したデータベース・パーティションに対して指定された変更を廃棄してください。

---

**DBA0113E　例外コンテナーが指定されましたが、ノード・グループのすべてのノードが含まれているわけではありません。 次のノードに対して指定されたコンテナーがありません : *node-list***

**説明:**
指定の例外コンテナーには共通コンテナーがありません。共通コンテナーが指定されていないため、例外コンテナーがノード・グループのすべてのノードで定義される必要があります。

**ユーザーの処置:**
指定のノードにコンテナーを追加するには「OK」をクリックしてください。

**DBA0114W　コントロール・センターは、インスタンス - *instance* に対する誤ったノード・ディレクトリー情報を検出しました。 誤った情報は訂正されています。 コントロール・センターを終了して再始動してください。 現行要求は実行できません。**

**説明:**
コントロール・センターがインスタンスで変更されたノード・タイプを検出しました。

**ユーザーの処置:**
コントロール・センターを終了して再始動してください。

---

**DBA0115I　ノード・ディレクトリー情報がこのインスタンスに対して訂正されました。 インスタンス *instance* をリフレッシュしてください。**

**説明:**
インスタンスに対してカタログされた情報が更新されているため、表示されたオブジェクトとアクションが正しくない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
インスタンス・ポップアップ・メニューから「リフレッシュ」を選択してコントロール・センターを更新して要求を再度試行してください。

---

**DBA0116I　JDBC サーバーで処理できる操作はありません。しばらくしてからやり直してください。**

**説明:**
JDBC サーバーは、既存の操作で現在使用されており、ユーザーの操作を実行することができません。

**ユーザーの処置:**
JDBC サーバーが既存の操作を完了するまで待機し、操作をやり直してください。

---

**DBA0117W　データベース・パーティション情報を検索できませんでした。 理由コード = *reason-code*、オブジェクト = *object*。**

**説明:**
データベース・パーティション情報の正常な検索に依存する機能は使用不可であるか除去されます。 これには、実際のダイアログ機能と同様、メニュー項目も含まれる場合があります。

**ユーザーの処置:**
オブジェクトが存在するサーバーで DAS が開始されていることを確認してください。 DAS が開始されている場合は、戻りコードを DAS エラーとして扱い、トラブルシューティングを継続してください。

---

**DBA0200E　ファイル *filename* のオープンまたは読み取りが失敗しました。エラー・コード = *error-code*。**

**説明:**
データベース管理サーバー (DAS) を使って、ファイルのオープンまたは読み取りが試行されました。 しかし、処理は失敗しました。

**ユーザーの処置:**
DAS が実行されていることと、ファイルが存在しており、この DAS と関連したユーザー ID に対する読み取り許可を持っていることを確認してください。

問題が解決されない場合は、IBM サービス技術員に連絡して、該当のファイル名とエラー・コードを伝えてください。

---

**DBA0201E　ファイル *filename* のオープンまたは書き込みが試行されましたが、失敗しました。エラー・コード = *error-code*。**

**説明:**
データベース管理サーバー (DAS) を使って、ファイルのオープンまたは書き込みが試行されました。 しかし、処理は失敗しました。

**ユーザーの処置:**
DAS が実行されていることと、ファイル・システムがいっぱいでなく、この DAS と関連したユーザー ID に対する書き込み許可を持っていることを確認してください。

問題が解決されない場合は、IBM サービス技術員に連絡して、該当のファイル名とエラー・コードを伝えてください。

---

**DBA0202E　ファイル *filename* のオープンまたは読み取りが失敗しました。エラー・コード = *error-code*。**

**説明:**
ファイルのオープンまたは読み取りが試行されました。しかし、処理は失敗しました。

**ユーザーの処置:**
このファイルが存在しており、適切な読み取り許可を持っていることを確認してください。

問題が解決されない場合は、IBM サービス技術員に連絡して、該当のファイル名とエラー・コードを伝えてください。

**DBA0203N　ファイル *filename* のオープンまたは書き込みが試行されましたが、失敗しました。エラー・コード = *error-code*。**

**説明:**
ファイルのオープンまたは書き込みが試行されました。しかし、処理は失敗しました。

**ユーザーの処置:**
ファイル・システムがいっぱいでなく、適切な書き込み許可を持っていることを確認してください。

問題が解決されない場合は、IBM サービス技術員に連絡して、該当のファイル名とエラー・コードを伝えてください。

---

**DBA0900N　パス *path-name* はすでに存在します。**

**説明:**
存在しないパスを指定するコンテキストでパス *path-name* が指定されましたが、このパスはすでに存在しています。

**ユーザーの処置:**
存在しないパスを指定してください。

---

**DBA0901N　パス *path-name* は存在しません。**

**説明:**
存在しているパスを指定するコンテキストでパス *path-name* が指定されましたが、このパスは存在しないか、またはアクセス不能です。

**ユーザーの処置:**
既存のアクセス可能なパスを指定してください。

---

**DBA0902E　パス *path-name* で指定されたファイルまたはディレクトリーは読み取り専用です。**

**説明:**
パス *path-name* で指定されたファイルまたはディレクトリーを変更しようとしましたが、これは現在読み取り専用です。

**ユーザーの処置:**
読み取り専用ではないファイルまたはディレクトリーを指定してください。

---

**DBA0903E　パス *path-name* で指定されたファイルまたはディレクトリーは、現在別のアプリケーションが使用中です。**

**説明:**
パス *path-name* で指定されたファイルまたはディレクトリーを変更または削除しようとしましたが、これは現在別のアプリケーションが使用中です。

**ユーザーの処置:**
ファイルまたはディレクトリーにアクセス中のアプリケーションをすべてクローズしてから、操作をやり直してください。

---

**DBA0904E　パス *path-name* で指定されたファイルまたはディレクトリーはアクセス不能です。**

**説明:**
パス *path-name* で指定されたファイルまたはディレクトリーは、現行ユーザーからアクセス不能です。

**ユーザーの処置:**
ファイルまたはディレクトリーの許可セットが現行ユーザーにアクセスを許可していることを検査してから、操作をやり直してください。

---

**DBA0905E　パスまたは装置 *name* は使用不可です。**

**説明:**
パスまたは装置 *name* は、現時点では使用不可です。

**ユーザーの処置:**
パスまたは装置が依然として使用可能であることを検査してから、操作をやり直してください。

---

**DBA0906E　ディレクトリー *directory-name* は空ではありません。**

**説明:**
空のディレクトリーを指定するコンテキストでディレクトリー *directory-name* が指定されましたが、このディレクトリーは空ではありません。

**ユーザーの処置:**
ディレクトリーが空であることを検査してから、操作をやり直してください。

---

**DBA0907E　パス *path-name* はディレクトリーを指していません。**

**説明:**
ディレクトリーを指定するコンテキストでパス *path-name* が指定されましたが、このパスはディレクトリーを指していません。

**ユーザーの処置:**
パスが有効なディレクトリーを指していることを検査してから、操作をやり直してください。

---

**DBA0908E　パス *path-name* は無効です。**

**説明:**
パス *path-name* は有効なパスを指していません。

**ユーザーの処置:**

有効なパスを指定してから、操作をやり直してください。

---

**DBA0909E　パス *path-name* は長すぎます。**

**説明:**
パス *path-name* の長さは、オペレーティング・システムで許可されている最大値を超えています。

**ユーザーの処置:**
オペレーティング・システムで許可されている最大値に収まる長さのパスを指定してから、操作をやり直してください。

---

**DBA0910E　ファイル・システムにはこれ以上使用可能なスペースがありません。**

**説明:**
ファイル・システムにはこれ以上使用可能なスペースがないため、操作を正常に完了することができません。

**ユーザーの処置:**
操作を完了するのに必要なスペースがファイル・システムにあることを確認してから、操作をやり直してください。

---

**DBA0911E　開くことのできるファイルの最大数に達しました。**

**説明:**
オペレーティング・システムで開くことが許可されているファイルの最大数に達しました。

**ユーザーの処置:**
1 つ以上のファイルをクローズしてから、操作をやり直してください。

---

**DBA0912E　ファイル *file-name* の終わりに達しました。**

**説明:**
ファイル *file-name* の終わりを超えて読み取りまたはシークをしようとしました。

**ユーザーの処置:**
ファイルの終わりを超えて読み取りまたはシークをしようとしていないことを検査してから、操作をやり直してください。

---

**DBA0913E　物理入出力エラーが発生しました。**

**説明:**
ファイル・システムのアクセス中の、未解決の物理入出力エラー。

**ユーザーの処置:**
操作を再試行してください。問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

---

**DBA1005W　このアクションによりローカル・データベースとゲートウェイ・アプリケーションの両方が強制終了されます。 続行しますか?**

**説明:**
インスタンス上のすべてのアプリケーションの強制終了を要求しました。

**ユーザーの処置:**
要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

---

**DBA1006E　無効なプラグイン拡張子がコントロール・センターにより検出されました。**

**説明:**
ファイル ″db2plug.zip″ が壊れているか、または正しくセットアップされていません。

**ユーザーの処置:**
″db2plug.zip″ ファイルは、 sqllib ディレクトリーの下の tool ディレクトリーに組み込まれている必要があります。

″db2plug.zip″ ファイルの定義に関する説明について資料を参照し、 ″db2plug.zip″ ファイルを再作成してください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して支援を求めるか、またはコントロール・センターのトレース・コマンドを使用してプラグイン・クラスがロードされているかどうか判別してください。コマンド ″db2cc -tf <filename>″ により、コントロール・センターのトレース情報を指定したファイル名に置くことができます。ファイル名を指定する場合、ファイルへの絶対パスを指定する必要があります。プラグイン・クラスがロードされているかどうか判別するには、テキスト ″PluginLoader″ が含まれる行について、ファイルを検索してください。

---

**DBA1007W　無効なオブジェクト名またはパラメーターが入力されました。 コントロール・センターはシステム・フォルダーをナビゲーター・ツリーのルートとして開始します。**

**説明:**
オブジェクト名が無効であるという場合は、入力されたシステム、インスタンス、サブシステム、またはデータベース名が存在しないか入力された名前の組み合わせが無効であるために検出できないことを示します。 たとえば入力されたデータベース名が存在していても、指定

されたシステム名内にはない場合もあります。 パラメーターが無効であるという場合は、-h、-i、-sub、または -d 以外のパラメーターが入力されたことを示します。

**ユーザーの処置:**
有効なオブジェクト名およびパラメーターを使用していることを確認してから、再試行してください。

---

**DBA1100W** *number* **MB より小さいメモリーがサーバーに占有されます。 推奨はされていません。結果ページの現行値は推奨値と一致しています。**

**説明:**
サーバー専用のメモリーの量が少ないため、構成アドバイザーはこの値を推奨できません。

「結果ページ」の推奨値は現行値と同じです。

**ユーザーの処置:**
サーバー専用のメモリーが増加可能の場合、「サーバー・ページ」に移って、メモリーを増やしてから再試行してください。それ以外の場合は、「キャンセル」をクリックして構成アドバイザーをクローズしてください。

---

**DBA1101I** **表スペース・コンテナーのストライプ・セット情報を取得できません。ストライプ・セットは表示されません。**

**説明:**
接続ユーザーにストライプ・セット情報を取得するための十分な権限がない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
ストライプ・セット情報を取得するには SYSADM 権限が必要です。

---

**DBA1102E** **構成アドバイザーがシステム・ファイルに推奨値を保管しようとしたときに、エラーが発生しました。**

**説明:**
構成アドバイザーが、インスタンス・ディレクトリーの下に CFG サブディレクトリーを作成できなかったか、または、推奨値を含むシステム・ファイルをインスタンス・ディレクトリーの CFG サブディレクトリーに保管できませんでした。

**ユーザーの処置:**
インスタンス・ディレクトリーを含むディスクがいっぱいではなく、このディスクに対する書き込みアクセスがあることを確認してください。その後、「完了」をクリックして再試行してください。

---

**DBA1103W** **構成アドバイザーは、応答によって判別した他のメモリー要件のために、バッファー・プールの最小メモリーを割り当てることができませんでした。**

**説明:**
構成アドバイザーは、指定されたメモリー・リソースで指定されたデータベース要件に基づく一連の推奨値を提供できません。

**ユーザーの処置:**
追加のメモリー・リソースが使用可能な場合、割り振られた物理メモリーの割合を増やします。 使用可能でない場合は、サーバー上の物理メモリー容量を増やしてください。

---

**DBA1104I** **インスタンスおよびデータベース構成パラメーターは正常に更新されました。 変更が反映される前に、インスタンス** *name* **を 停止してください。バインド中に新規値が使用されるため、新規構成パラメーターが反映された後、パッケージを再バインドする場合があります。**

**説明:**
構成アドバイザーが、データベース・マネージャー構成パラメーター、データベース構成パラメーター、および SYSBUFFERPOOLS カタログのバッファー・プール・サイズを更新しました。

サーバー上のインスタンスが停止するまで変更は反映されません。

パッケージが前の構成パラメーターでバインドされました。新規パラメーターを活用するためには、これらの新規パラメーターが反映されたあとで再バインドする必要があります。

**ユーザーの処置:**
新規構成パラメーターを使用する準備ができたら、インスタンスを停止して再始動してください。

必要に応じて、パッケージを再バインドしてください。

---

**DBA1107E** **構成アドバイザーがサーバーからシステム情報を取得しようとしたときに、エラーが発生しました。**

**説明:**
予期しないエラーが発生しました。構成アドバイザーを続行できません。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に連絡してください。

**DBA1108W　構成アドバイザーは、応答によって判別した他のメモリー要件のために、バッファー・プールのサイズを増やすことができませんでした。バッファー・プール・サイズは未変更のままです。構成値の推奨設定を使用すると、サーバーのページングを引き起こす可能性があります。**

**説明:**
これは、指定されたワークロードを実行するのにサーバーには十分なメモリーがない可能性があることを知らせる警告です。

**ユーザーの処置:**
構成アドバイザーの前のページの選択項目を調べて、ワークロード記述が適切であることを確認するか、またはサーバーにメモリーを追加してください。

---

**DBA1109W　入力したトランザクション・レートが、接続済みアプリケーションの平均数の 10 倍を超えています。トランザクション・マネージャーを使用する場合、このメッセージを無視してください。使用していない場合は、レートの変更を検討してください。**

**説明:**
構成アドバイザーはトランザクション・レートが妥当であるかどうかを検査します。トランザクション・マネージャーを使用していない場合、トランザクション・レートが必要以上に高くなる可能性があります。

**ユーザーの処置:**
トランザクション・マネージャーを使用する場合、このメッセージを無視してください。そうでない場合は、1 分あたりのトランザクション数が少ないものを使用するか、または接続されたアプリケーションの平均数値を増やしてください。

---

**DBA1110I　システム・データベース・ディレクトリーに項目がありません。**

**説明:**
現在、このデータベース・ディレクトリーで記入項目がありませんでした。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA1111E　データベース別名 *name* は別のデータベースに存在しています。**

**説明:**
新しいデータベースへのバックアップ・リカバリーを要求しましたが、指定されたデータベース名は、既存のデータベースの別名としてすでに使用されています。データベースを作成すると、そのデータベースは、データベース名を別名として使用して、システム・データベース・ディレクトリーにカタログされますが、この別名はユニークでなければなりません。

**ユーザーの処置:**
別名として使用されていないデータベース名を指定するか、またはバックアップを既存のデータベースにリカバリーすることを要求してください。

---

**DBA1112E　データベース別名 *name* がシステム・データベース・ディレクトリーで見つかりませんでした。**

**説明:**
バックアップの既存のデータベースへのリカバリーを要求しましたが、この別名を持つデータベースは存在しません。

**ユーザーの処置:**
既存のデータベースを選択するか、またはバックアップを新しいデータベースにリカバリーすることを要求してください。

---

**DBA1113E　データベースに対し未確定なトランザクションが存在しているため再始動は失敗し、データベースの接続がドロップされました。**

**説明:**
再始動操作で未確定トランザクションが見つかりました。 これにより、データベースが不整合状態になりました。 DBA ユーティリティーが、データベースへの接続をドロップしました。

**ユーザーの処置:**
未確定トランザクションを解決してください。 解決できない場合は、データベースが必要になるたびに、アプリケーションがデータベースを再始動する必要があります。

XA/DTP 環境にある場合、およびデータベースを使用していたトランザクション・マネージャーが使用可能である場合はこれを使用して、未確定トランザクションを解決してください。

その他の場合は、コマンド行プロセッサーを使用して、各未確定トランザクションを手動で完了してください。

---

**DBA1114E　データベース *name* はバックアップ・ペンディング状態にあります。データベースが使用される前に全バックアップを終了してください。**

**説明:**

この状態ではデータベースを更新できません。 更新が行われる前に、データベースをバックアップする必要があります。

**ユーザーの処置:**
データベースをバックアップしてください。

---

**DBA1115E** *name* **の値を入力してください。**

**説明:**
値が必要です。

**ユーザーの処置:**
値を指定して、要求を再試行してください。

---

**DBA1116E** *parameter* **値は** *minimum* **と** *maximum* **の間である必要があります。**

**説明:**
値は指定された範囲内である必要があります。

**ユーザーの処置:**
指定された範囲の値を入力して、要求を再試行してください。

---

**DBA1117E** *name* **の値が無効です。**

**説明:**
入力した値は無効です。

**ユーザーの処置:**
値を訂正して、要求を再試行してください。

---

**DBA1118E** *name* **値は** *maximum* **を超えてはいけません。**

**説明:**
入力した値は無効です。

**ユーザーの処置:**
値を訂正して、要求を再試行してください。

---

**DBA1119E** *name* **値を** *minimum* **より小さい値にすることはできません。**

**説明:**
入力した値は無効です。

**ユーザーの処置:**
値を訂正して、要求を再試行してください。

---

**DBA1121I** **システム** *system* **の要求** *description* **のためにジョブが作成されました。 ジョブ番号は** *number* **です。 ジョブの状況および出力を表示するには、ジャーナルの「ジョブ」ページを使用してください。**

**説明:**
ジョブが正常に始動しました。

**ユーザーの処置:**
ジョブの状況および出力を表示するには、ジャーナルの「ジョブ」ページを使用してください。

---

**DBA1122I** **システム** *system* **の要求** *description* **のためにジョブが完了しました。 ジョブの状況および出力については、ジャーナルの「ジョブ」ページにあるジョブ** *number* **をご覧ください。**

**説明:**
ジョブが完了しました。

**ユーザーの処置:**
ジョブの状況および出力を表示するには、ジャーナルの「ジョブ」ページを使用してください。

---

**DBA1123I** **ジョブ** *description* **を終了します。**

**説明:**
ユーザーの要求でジョブが取り消されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA1126I** **データベースに表スペースがありません。**

**説明:**
データベースに表スペースがありません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA1127I** **表スペースにコンテナーがありません。**

**説明:**
表スペースにコンテナーがありません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA1128E** **コンテナーが指定されていません。 コンテナーを作成するには「追加」を選択してください。**

**説明:**
現在のリストには、新しいコンテナーが含まれていません。

**ユーザーの処置:**
「追加」を選択して必須フィールドに入力し、コンテナーをリストに追加してください。

---

**DBA1129E** *name* **の値を提供してください。**

**説明:**
要求した操作は、*name* の値を入力した時のみ、実行されます。

**ユーザーの処置:**
値を入力して、「OK」をクリックしてください。

---

**DBA1130E** *name* **項目は** *maximum* **文字を超えてはいけません。**

**説明:**
入力された値は最大文字数を超えています。

**ユーザーの処置:**
有効な値を入力して、「OK」をクリックしてください。

---

**DBA1131E** *device* **は無効な磁気テープ装置です。**

**説明:**
オペレーティング・システムは、指定された磁気テープ装置を受け入れませんでした。ローカルの磁気テープ装置は ″¥¥.¥TAPEn″ の形式で、 n はドライブ番号 (0 が最初) を示します。

**ユーザーの処置:**
磁気テープ装置の有効な値を入力して、「OK」をクリックしてください。

---

**DBA1132E** **磁気テープ装置** *device* **は** *blocksize* **のテープ・マーク・ブロック・サイズをサポートしません。**

**説明:**
コントロール・センターは、指定された磁気テープ装置がサポートしていないテープ・マーク・ブロック・サイズを使用します。

**ユーザーの処置:**
コマンド行プロセッサーを使用して、要求をサブミットしてください。サポートされているブロック・サイズを、DB2 INITIALIZE TAPE コマンドで指定してください。

---

**DBA1133E** **磁気テープ装置** *device* **を処理中にエラーが発生しました。**

**説明:**
指定された磁気テープ装置の操作中に、予期しないエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
要求を再サブミットしてください。 問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA1134I** **要求** *description* **のためにジョブが作成されました。ただし、データベース管理サーバー (DAS) インスタンスにアクセスできなかったため、ジョブに関連した項目をジャーナル内で作成できません。**

**説明:**
ジョブは正常に始動しましたが、ジョブの状況および出力はジャーナルに記録されません。 これは DAS インスタンスを開始していない場合に起こります。

**ユーザーの処置:**
ジャーナルでジョブの状況および出力を記録するため、バックアップ操作を開始する前に、最初に DAS インスタンスを開始してください。

---

**DBA1135I** **要求** *description* **に応じてジョブが終了しました。**

**説明:**
ジョブが完了しました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA1136E** **データベース** *db* **が順方向リカバリーで使用できないため、表スペース・レベルでのバックアップを実行できません。**

**説明:**
最初にそのデータベースを順方向リカバリー用として使用可能にした場合のみ、表スペース・レベルのデータベースのバックアップができます。

**ユーザーの処置:**
データベースを順方向リカバリー用として使用可能にするには、次のいずれかを行うことができます。

- データベース・ロギング・ウィザードを使用して、ロギング・タイプを ARCHIVE ロギングに変更する。
- LOGRETAIN または USEREXIT データベース構成パラメーターを ON に設定し、既存の全アプリケーションをデータベースから切断してデータベースのオフライン・バックアップを取る。

---

**DBA1137E** *name* **値を** *minimum units* **より小さい値にすることはできません。**

**説明:**
入力された値は、最小 *minimum units* より小さいです。

**ユーザーの処置:**
有効な値を入力して、要求を再試行してください。

---

**DBA1138E** *name* **値は** *maximum units* **を超えてはいけません。**

**説明:**
入力された値は *unit* にある *maximum* の最大数を超えています。

**ユーザーの処置:**
有効な値を入力して、要求を再試行してください。

---

**DBA1139E** **システム・カタログに少なくとも** *pages* **を割り振る必要があります。**

**説明:**
各表スペース・コンテナーでは *pages* を超えてはいけません。データの各ページには 4 KB 必要です。 したがって、1 MB のストレージは、これら 4 KB ページの 256 ページ分に等しくなります。

**ユーザーの処置:**
有効な値を入力して、要求を再試行してください。

---

**DBA1140E** **単一コンテナーに** *pages* **より多くのページを割り振ることはできません。**

**説明:**
データの各ページには 4 KB 必要です。 したがって、1 MB のストレージは、これら 4 KB ページの 256 ページ分に等しくなります。

**ユーザーの処置:**
有効な値を入力して、要求を再試行してください。

---

**DBA1141E** **コンテナーごとに少なくとも** *pages* **ページを割り振る必要があります。**

**説明:**
表スペース・コンテナーの最小ページ数は表スペースのエクステント・サイズに関連します。エクステント・サイズの 5 倍 プラス 1 ページです。したがって、エクステント・サイズ 32 ページ (デフォルトの値) の表スペースに対して、単一コンテナーの最小サイズは 161 ページです。

**ユーザーの処置:**
有効な値を入力して、要求を再試行してください。

---

**DBA1142W** **LOGARCHIVE データベース構成パラメーターはデータベース** *name* **に対して現在 ON に設定されています。すべてのアプリケーションがデータベースから切断されるとすぐに、データベースはバックアップ・ペンディング状態になります。 この状態はデータベースの更新を防ぎます。 データベースは追加の更新を行う前にバックアップする必要があります。**

**説明:**
データベース・マネージャーは、データベースで各トランザクションのロギングを開始する前に、開始点として使用するためのフル・オフライン・データベース・バックアップを持っている必要があります。

**ユーザーの処置:**
すぐにフル・オフライン・データベースのバックアップを作成してください。 不可能である場合は、LOGARCHIVE パラメーターを OFF に設定してください。

---

**DBA1143E** **少なくとも 1 つのアプリケーションがまだデータベースに接続されているため、即座にオフライン・バックアップを実行できません。あとで再試行するか、またはインスタンス・オブジェクトのポップアップ・メニューから強制を選択してデータベースに接続しているすべてのアプリケーションを即時に切断してください。**

**説明:**
オフライン・バックアップは選択されたデータベースに接続しているすべてのアプリケーションが停止するまで、実行されません。 アプリケーション自体が切断するのを待機するか、または接続されているアプリケーションを即座に強制クローズしてください。

**ユーザーの処置:**
このアクションをあとで再試行するか、または選択されたデータベースに接続しているすべてのアプリケーションを即時に強制クローズするには、インスタンス・オブジェクトのポップアップ・メニューから「強制」を選択してください。

---

**DBA1144E** **コンテナー** *container-name* **はすでに存在します。**

**説明:**
各表スペース・コンテナーはユニークである必要があります。

**ユーザーの処置:**
システムに現存していないファイル名あるいはディレクトリーを指定してください。

---

**DBA1145E** **コンテナー** *container-name* **が複数回指定されています。**

**説明:**
各表スペース・コンテナーはユニークである必要があります。

**ユーザーの処置:**

新規コンテナー・リストに現存しないファイル名あるいはディレクトリーを指定してください。

---

**DBA1146E　コンテナー *container-name* がユーザーおよび一時ストレージ・スペースの両方に含まれます。**

**説明:**
各表スペース・コンテナーはユニークである必要があります。

**ユーザーの処置:**
ユーザーまたは TEMPORARY 表スペースのいずれかで、コンテナーのファイル名またはディレクトリーを変更してください。

---

**DBA1147E　コンテナー *container-name* はカタログおよび一時ストレージ・スペースの両方に含まれます。**

**説明:**
各表スペース・コンテナーはユニークである必要があります。

**ユーザーの処置:**
カタログまたは TEMPORARY 表スペースのいずれかで、コンテナーのファイル名またはディレクトリーを変更してください。

---

**DBA1148E　コンテナー *container-name* はユーザーおよびカタログ・ストレージ・スペースの両方に含まれます。**

**説明:**
各表スペース・コンテナーはユニークである必要があります。

**ユーザーの処置:**
ユーザーまたはカタログ表スペースのいずれかで、コンテナーのファイル名またはディレクトリーを変更してください。

---

**DBA1149E　*param-1* には指定したコンテナーに対する十分なフリー・スペースがありません。**

**説明:**
DMS コンテナーが作成されると、割り振ったスペースの全量を消費します。

**ユーザーの処置:**
より多くのストレージがあるエリアにコンテナーのロケーションを変更するか、またはコンテナーの現在のロケーションで使用可能なストレージを増やしてください。

---

**DBA1150E　同じ名前の列がすでに存在します。**

**説明:**
同じ名前を持つ列がすでに指定されているか、あるいは作成または変更中の表にすでに存在しているため、追加できません。

**ユーザーの処置:**
別の列名を指定してください。

---

**DBA1151W　要求された操作は、列または制約に対して実行されませんでした。理由コード = *reason-code*。**

**説明:**
表の作成または変更中に、列または制約の追加、変更、または除去を試みました。 与えられた理由コードは、以下のような実規則違反を示します。

**1**　同じ名前を持つ列または制約がすでに存在します。

**2**　列が主キーまたは分散キーと関係しているため、除去できません。

**3**　列がユニーク・キーと関係しているため、除去できません。

**4**　列が外部キーと関係しているため、除去できません。

**5**　列が表ディメンションと関係しているため、除去できません。

**6**　列が表チェック制約と関係している可能性があります。 操作は許可されました。

**7**　主キーおよびユニーク・キーをすべてのディメンション列のサブセットとして定義することはできません。

**8**　主キーまたはユニーク・キーがすべてのディメンション列のサブセットとなるようにディメンションを定義することはできません。

**9**　主キーおよびユニーク・キーを分散キーのスーパーセットとして定義する必要があります。

**10**　分散キーをすべての既存の主キーおよびユニーク・キーのサブセットとして定義する必要があります。

**11**　該当の列セットを持つオブジェクトがすでに存在します。

**12**　列がパーティション列として関係しているため、除去できません。

**13**　列がパーティション列およびそのデータ・タイプとして関係しているため、変更できません。

**14** XML データ・タイプの列は、範囲でパーティション化されている表でサポートされません。

**ユーザーの処置:**
操作が失敗する原因となる状態を訂正して、操作を再試行してください。

---

**DBA1152E 同じ名前を持つ制約がすでに存在します。**

**説明:**
同じ名前を持つ制約がすでに指定されているか、あるいは作成または変更中の表にすでに存在しているため、追加できません。

**ユーザーの処置:**
別の制約名を指定してください。

---

**DBA1153E このオブジェクトはリストにすでに存在します。**

**説明:**
指定オブジェクトはリストにすでに存在します。 アクションは実行されません。

**ユーザーの処置:**
別のオブジェクトを指定するか、またはウィンドウをクローズしてください。

---

**DBA1154E 指定されたシステム、インスタンスおよびデータベースは、認識データベースを識別しません。**

**説明:**
システム、インスタンス、およびデータベース指定はアプリケーションで認められたデータベースを識別しません。 アクションは実行されません。

**ユーザーの処置:**
システム、インスタンス、およびデータベース名が正しいか確認してください。あるいは、アプリケーションにアクセスするシステム、インスタンス、およびデータベースを追加してください。

---

**DBA1155E オブジェクト *object-name* はデータベースに存在しません。要求を実行できません。**

**説明:**
指定オブジェクトはデータベースに存在せず、操作できません。 要求を終了します。

**ユーザーの処置:**
オブジェクトの更新リストを入手するために、オブジェクト・フォルダーのポップアップ・メニューから「リフレッシュ」を選択してください。

---

**DBA1156W この要求は警告を伴い終了しました。詳細は管理ツールのログを参照してください。**

**説明:**
要求されたアクションは完了しましたが、1 つ以上の警告メッセージが出されました。

**ユーザーの処置:**
詳しくは管理ツールのログを参照してください。

---

**DBA1157E *user-name* の *object-name* で権限または特権は、付与、または取り消されていません。 詳細は管理ツールのログを参照してください。**

**説明:**
要求されたアクションは完了しました。 指定のオブジェクトでの指定のユーザーまたはグループの権限または特権に対するアクションは行われませんでした。

**ユーザーの処置:**
ありません。

---

**DBA1158I ロード中に読み取られたレコード数は *count* です。ロードが始まる前にスキップされたレコード数は *count* です。ターゲット表にロードされる行数は *count* です。ロードできなかったレコード数は *count* です。削除された重複行の数は *count* です。正常にロードされ、データベースにコミットされたレコード数は *count* です。**

**説明:**
アクションは示された結果で完了しました。

**ユーザーの処置:**
ありません。

---

**DBA1159I エクスポートが完了しました。**
***item-description* = *count*。**

**説明:**
エクスポート・アクションは示された結果で完了しました。

**ユーザーの処置:**
ありません。

**DBA1160I** **インポートが完了しました。インポート中に読み取られたレコード数は** *count* **です。インポートが始まる前にスキップされたレコード数は** *count* **です。ターゲット表にインポートされた行数は** *count* **です。インポートできなかったレコード数は** *count* **です。削除された重複行の数は** *count* **です。正常にインポートされ、データベースにコミットされたレコード数は** *count* **です。**

**説明:**
インポート・アクションは示された結果で完了しました。

**ユーザーの処置:**
ありません。

---

**DBA1161I** *item-description* **=** *count*。

**説明:**
インポートあるいはエクスポートは指定された結果で完了しました。

**ユーザーの処置:**
ありません。

---

**DBA1162I** **ロードが完了しました。ロード中に読み取られたレコード数は** *count* **です。ロードが始まる前にスキップされたレコード数は** *count* **です。ターゲット表にロードされる行数は** *count* **です。ロードできなかったレコード数は** *count* **です。削除された重複行の数は** *count* **です。正常にロードされ、データベースにコミットされたレコード数は** *count* **です。**

**説明:**
ロード・アクションは示された結果で完了しました。

**ユーザーの処置:**
ありません。

---

**DBA1163E** **表はコピーされませんでした。詳細は管理ツールのログを参照してください。**

**説明:**
表のコピー中に 1 つまたは複数の警告あるいはエラーが発生しました。表はコピーされませんでした。

**ユーザーの処置:**
詳しくは管理ツールのログを参照してください。

---

**DBA1164E** **指定したターゲット表はすでに存在します。 ソース表はコピーされませんでした。**

**説明:**
表のコピー・アクションはターゲット表がすでに存在しているため、失敗しました。

**ユーザーの処置:**
新規のターゲット表を指定するか、あるいはすでに存在するターゲット表を削除してアクションを再試行してください。

---

**DBA1165E** *user-name* **の特権が付与または取り消されませんでした。**

**説明:**
特権が変更されていないため、指定されたユーザーまたはグループに対して特権が認可されなかったか、または取り消されました。

**ユーザーの処置:**
現行の特権を変更後、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DBA1166E** **ID** *identifier-name* **の引用符が対になっていません。 ID を訂正し、アクションを再試行してください。**

**説明:**
示された ID に、対になっていない単一あるいは二重引用符があります。 命名規則は引用符が対になっていることを必要とします。 アクションは実行されません。

**ユーザーの処置:**
ID を訂正し、アクションを再試行してください。

---

**DBA1167E** **ID** *identifier-name* **にはブランクが含まれています。 ID を訂正し、アクションを再試行してください。**

**説明:**
指定の ID にはブランク文字が含まれています。これは通常 ID の命名規則に違反しています。 アクションは実行されません。

**ユーザーの処置:**
ブランクを除去するか、またはID を二重引用符で区切って、アクションを再試行してください。

---

**DBA1168E** **ID** *identifier-name* **の最初の文字が無効です。 ID を訂正し、アクションを再試行してください。**

**説明:**

指定の ID の先頭文字が無効です。 通常 ID の命名規則に従ってください。 アクションは実行されません。

**ユーザーの処置:**
先頭文字を有効な文字に置換するか、またはID を二重引用符で区切って、アクションを再試行してください。

---

**DBA1169I　インスタンスおよびデータベース構成パラメーターの更新が可能なコマンド・スクリプトが正常に作成されました。 スクリプト・センターを使用してスクリプトの実行あるいはスケジュールを行ってください。**

**説明:**
新規スクリプトが正常にスクリプト・センターで保管されました。スクリプト・センターをオープンして新規コマンド・スクリプトを表示、実行あるいはスケジュールしてください。

スクリプトの実行後、変更はインスタンスがサーバー上で停止するまで反映されません。

パッケージが前の構成パラメーターでバインドされました。新規パラメーターを活用するためには、これらの新規パラメーターが反映されたあとで再バインドする必要があります。

**ユーザーの処置:**
新しく保管されたスクリプトの表示、実行またはスケジュールについては、アイコン・バーからスクリプト・センターのアイコンを選択して、スクリプト・センターをオープンしてください。

スクリプトの実行後、新規構成パラメーターを使用する準備ができたら、インスタンスを停止して再始動してください。

必要に応じて、パッケージを再バインドしてください。

---

**DBA1170E　表スペースのページ・サイズとバッファー・プール *buffer-pool* のページ・サイズは、同じでなければなりません。**

**説明:**
作成する表スペースと一致するページ・サイズの、既存のバッファー・プールを選択してください。 デフォルトのバッファー・プールのデフォルトのページ・サイズは 4K です。 表スペースに他のページ・サイズが必要な場合、一致するページ・サイズのバッファー・プールがなければなりません。

**ユーザーの処置:**
「詳細表スペース」ウィンドウで表スペースのページ・サイズを変更してバッファー・プールのページ・サイズに合わせるか、または表スペースのページ・サイズと同じページ・サイズのバッファー・プールに変更します。必要なページ・サイズのバッファー・プールがなければ、「バッファー・プールの作成」ウィンドウで作成できます。

---

**DBA1171N　指定した TEMPORARY 表スペース *tablespace* をこのユーティリティー操作で使用することはできません。**

**説明:**
バックアップおよびリストア・コマンドを TEMPORARY 表スペースで実行することはできません。

**ユーザーの処置:**
TEMPORARY 表スペースではない、有効な表スペースのみを使用して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DBA1172W　データベースがバックアップ・ペンディング状態にあるため、オフライン・データベース・バックアップを実行する必要があります。バックアップするデータベースは事前に選択されています。すでに使用できでない他のオプションは、使用不可になっています。**

**説明:**
バックアップ・ペンディング状態にあるデータベースで有効な操作は、オフライン・データベース・バックアップを取ることだけです。 これらのオプションが選択されていることをウィザードが確認しました。 使用可能でない他のオプションもウィザードで使用不可となりました。

**ユーザーの処置:**
ウィザードを完了してコマンドを実行してください。データベースのフル・バックアップを取ることをお勧めします。

---

**DBA1173N　データベース *database* が順方向リカバリーで使用できないため、表スペース・レベルでのリストアを実行できません。**

**説明:**
そのデータベースを順方向リカバリー用に使用可能にした場合のときのみ、表スペース・レベルのデータベースのリストアができます。

**ユーザーの処置:**
データベースで順方向リカバリーが使用できるようにするためには、データベース構成パラメーターの LOGRETAIN または USEREXIT を ON に設定して、

データベースから既存のアプリケーション接続を切断し、データベースのオフライン・バックアップを実行してください。

---

**DBA1174I　同じデータベース・パーティションに対して複数のイメージを選択しました。ほとんどの場合、これを行うことを推奨しません。**

**説明:**
ほとんどの場合、リストアするのに複数のバックアップ・イメージを選択することは有益ではなく、実際、リストアを完了するための合計時間が長くなります。

**ユーザーの処置:**
データベース・パーティションごとにイメージを 1 つだけ選択するようにします。

---

**DBA1175W　この機能には、それぞれのデータベース・パーティションにイメージが必要です。**

**説明:**
ポイント・イン・タイムへのロールフォワードでは、それぞれのデータベース・パーティションにイメージが必要です。「選択可能イメージ」ページですべてのデータベース・パーティションを選択していないため、このオプションを使用することはできません。

**ユーザーの処置:**
「選択可能イメージ」ページに戻って、データベースのそれぞれのデータベース・パーティションにイメージを 1 つ選択してください。

---

**DBA1176N　コントロール・センターで、システム *system-name* のツール・カタログ・データベース *database-name* を自動的にカタログするのに失敗しました。**

**説明:**
説明は以下のとおりです。

- システム *system-name* の DB2 Administration Server で指定されたデータベースが正しくありません。
- データベースを含むデータベース・マネージャーが TCP/IP 通信用に構成されていません。

**ユーザーの処置:**
可能な解決方法は、以下のとおりです。

- DB2 Administration Server 構成パラメーターが正しく指定されていることを検査してください。
- データベース・マネージャーが TCP/IP 通信用に構成されていることを検査してください。

問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**DBA1177N　ツール・カタログ・データベース *database-name* へのデータベース接続を行うことができません。 SQLCODE は *sqlcode* です。**

**説明:**
DB2 Administration Server 構成パラメーターで定義されているツール・カタログ・データベース *database-name* への接続を行うことができません。

このメッセージは以下のいずれかの条件下で現れます。

1. ツール・カタログ・データベースは作成されませんでした。
2. ツール・カタログ・データベースは作成されましたが、DB2 Administration Server 構成パラメーターが更新されていません。
3. ツール・カタログ・データベースの構成は正しく行われていますが、接続に失敗しました。

**ユーザーの処置:**
上記 3 つの条件に関して、以下のように提案されています。

1. コントロール・センターの「ツール設定」ノートブックの「スケジューラー設定」ページを使ってツール・カタログ・データベースを作成するか、または CLP から CREATE TOOLS CATALOG コマンドを呼び出します。
2. DB2 Administration Server 構成パラメーターを更新して、ツール・カタログ・データベースを定義します。 UPDATE ADMIN CONFIGURATION コマンドを使用して次の 4 つのパラメーターを更新する必要があります。
   - SCHED_ENABLE
   - TOOLSCAT_INST
   - TOOLSCAT_DB
   - TOOLSCAT_SCHEMA
3. 接続操作から戻された SQLCODE のユーザー応答を参照してください。

---

**DBA1178W　タスク *task-name* がより新しいバージョンのコントロール・センターで作成されました。**

**説明:**
選択されたタスクは、より新しいバージョンのコントロール・センターを使用して作成されました。 タスクの機能のいくつかはローカル・マシンのコントロール・センターではサポートされません。

**ユーザーの処置:**

タスクを進めて編集するよう選択することができます。次のようにしてタスクを保管することができます。

- 変更を既存のタスクに保管する。 これにより、より新しいバージョンのコントロール・センターに特有の機能が失われます。
- 新規タスクを作成して変更を保管する。 これにより、オリジナル・タスクは変更されません。

---

**DBA1179W　より新しいバージョンのコントロール・センターで作成されたタスク *task-name* が上書きされます。**

**説明:**
元々、より新しいバージョンのコントロール・センターで作成されていたタスクは上書きされます。 この操作を進めると、より新しいバージョンのコントロール・センターに特有の機能が失われます。

**ユーザーの処置:**
以下を選択できます。

- 変更を既存のタスクに保管する。 これにより、より新しいバージョンのコントロール・センターに特有の機能が失われます。
- 新規タスクを作成して変更を保管する。 これにより、オリジナル・タスクは変更されません。

---

**DBA1180W　表示できる SQL がありません。**

**説明:**
「SQL を表示」では、現行の特権を変更する SQL ステートメントのみが表示されます。特権が変更されていない場合、SQL ステートメントは生成されません。

**ユーザーの処置:**
現行の特権を変更後、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DBA1181W　他のデータベース・パーティションがオフラインでバックアップされているときに、カタログ・パーティションを同時にバックアップすることはできません。**

**説明:**
オフライン・バックアップでは、他のデータベース・パーティションと同時に、カタログ・パーティションをバックアップすることはできません。 継続すると、バックアップは失敗します。

**ユーザーの処置:**
カタログ・パーティションが、このウィザードの「パーティション」ページで他のデータベース・パーティションと一緒にグループ化されていないことを確認してください。

---

**DBA1183N　タスク *task-name* を編集できません。**

**説明:**
選択されたタスクは、より新しいバージョンのコントロール・センターを使用して作成されました。 このバージョンのコントロール・センターでは、このタイプのタスクと関連したエディターがありません。

**ユーザーの処置:**
このタスクを編集するには、新しいバージョンのコントロール・センターを使用してください。

---

**DBA1184W　データベースが即時にオフラインになって、データベースの完全なバックアップが実行されます。**

**説明:**
これから、このウィザードの実行の一環として、オフラインでデータベースの完全なバックアップが実行されます。この操作に伴い、すべての現行ユーザーがシステムから除去され、バックアップ期間中、データベースは利用不可になります。この操作は長時間実行される可能性があります。

**ユーザーの処置:**
続行する場合は「OK」をクリックし、ウィザードに戻る場合は「キャンセル」をクリックします。

---

**DBA1185W　このデータベースは自動保守が使用可能です。**

**説明:**
このデータベースは自動保守を行うよう構成されており、データベース自動バックアップを実行します。「バックアップ」ウィザードで手動のデータベースのバックアップを実行する代わりに、自動バックアップ設定を変更することができます。これは、「自動保守の構成」ウィザードを使って実行します。

**ユーザーの処置:**
「自動保守の構成」ウィザードを起動してデータベース自動バックアップ設定を構成するか、「バックアップ」ウィザードを使用して手動でバックアップを続行します。

---

**DBA1186W　操作は正常に完了しましたが、必要なデータベースのバックアップだけが済んでいません。現在、データベースはバックアップ・ペンディング状態です。**

**説明:**
バックアップ・ペンディング状態にあるデータベースで有効な操作は、オフライン・データベース・バックアップを取ることだけです。 オフライン・バックアップは「バックアップ」ウィザードから実行できます。

**ユーザーの処置:**
「バックアップ」ウィザードを起動するか、または「キャンセル」を押して戻ります。

---

**DBA1187N　入力した日付は無効です。**

**説明:**
保守ウィンドウの指定に際して、これを特定の日付にだけ適用するよう選択しました。入力した日付または日付の範囲に無効文字が含まれているか、または日付の範囲が無効です (あるいはその両方)。

**ユーザーの処置:**
有効な日付のリストおよび日付の範囲を入力してから、「OK」を押してください。

---

**DBA1188E　保守設定の更新または検索ができませんでした。**

**説明:**
自動保守の設定は、データベースの表に保管されています。表にアクセスできなかったか、または表に補完されている設定に無効なデータが含まれていたかのどちらかです。

**ユーザーの処置:**
問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**DBA1189I　このデータベースの自動保守設定の構成の中に、認識されない設定があります。**

**説明:**
認識されない設定は無視されます。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA1350I　設計アドバイザーは、索引を推奨できませんでした。「計算」ページでより長い時間制限を設定し、推奨オブジェクトの計算を再試行してください。**

**説明:**
最大検索時間が短すぎるため、設計アドバイザーは索引を推奨できませんでした。

**ユーザーの処置:**

1. 設計アドバイザーの「計算」ページで、もっと長い時間制限を設定するか、または制限をまったく設定しないでください。
2. 設計アドバイザーを再度実行してください。

---

**DBA1351I　設計アドバイザーは、オブジェクトを推奨できませんでした。「制限」ページでより大きなサイズを設定して、推奨オブジェクトの計算を再試行してください。**

**説明:**
すべてのオブジェクトの最大論理サイズが小さすぎるため、設計アドバイザーはオブジェクトを推奨できませんでした。

**ユーザーの処置:**

1. 設計アドバイザーの「制限」ページで、もっと大きな最大論理サイズを設定するか、または制限をまったく設定しないでください。
2. 設計アドバイザーを再度実行してください。

---

**DBA1352I　設計アドバイザーは、ユーザーのワークロードのパフォーマンスを改善するオブジェクトを推奨できませんでした。**

---

**DBA1353W　ワークロードに 1 つの SQL ステートメントのみを指定しました。データベースで他の活動が行われている可能性があります。ほかの理由によりそのオブジェクトが必要でないと確信できない限り、オブジェクトをドロップしないでください。**

**説明:**
ワークロードに 1 つの SQL ステートメントしか指定しなかったため、データベースに対する活動のすべてを表現していない可能性があります。

デザイン・アドバイザーの「ドロップ」ページには、この 1 つの SQL ステートメントに対して推奨されなかった、既存のオブジェクトがすべてリストされています。

**ユーザーの処置:**
ほかの理由によりそのオブジェクトが必要でないと確信できない限り、オブジェクトをドロップしないでください。

---

**DBA1354E　指定されたワークロード内の SQL ステートメントのコンパイル中に、エラーを検出しました。**

**説明:**
設計アドバイザーは、指定されたワークロード内の SQL ステートメントのコンパイル中に問題を検出しました。1 つ以上のステートメントに SQL 構文エラーがある可能性があります。そのようなステートメントはアドバイザーの分析から除外されます。

**ユーザーの処置:**

「ワークロード詳細ダイアログ」を開き、エラーがあるステートメントを表示します。「ワークロード」ページから、ワークロード内のステートメントを編集して、必要な修正を加えてください。修正したら、「推奨」ページを選択して、分析を開始してください。

---

**DBA1355E　ADVISE 表と EXPLAIN 表が一致しません。**

**説明:**
ADVISE 表と EXPLAIN 表が、現行バージョンの IBM DB2 と一致しません。

**ユーザーの処置:**
問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**DBA1356E　推奨アドバイザーが *alert* に関する推奨事項を検索しようとして、重大でないエラーを検出しました。**

**説明:**
推奨アドバイザーがヘルス・インディケーターのアラートを解決するための情報を検索しているときに、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**DBA1357E　*GUI-tool* の起動を試みている間にエラーが発生しました。**

**説明:**
指定されたツールを起動しようとして、予期しないエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
代わりの方法でツールを起動してみてください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**DBA1358E　設計アドバイザーが予期しないエラーを検出しました。戻りコード = *return-code*。**

**ユーザーの処置:**
問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**DBA1500E　ローカル・システム・オブジェクトは除去が許可されていません。**

**説明:**
これがサーバー・インストールの場合、ローカル・システム・オブジェクトがツリーで表示されますが、クライアント・インストールの場合は表示されません。このオブジェクトは、サーバー・インストール・タイプによって要求される特別なプロパティーを持つため、ユーザーはオブジェクトを直接除去できません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA1501E　ローカル・システム・オブジェクトは変更が許可されていません。**

**説明:**
これがサーバー・インストールの場合、ローカル・システム・オブジェクトがツリーで表示されますが、クライアント・インストールの場合は表示されません。このオブジェクトは、サーバー・インストール・タイプによって要求される特別なプロパティーを持つため、ユーザーはオブジェクトを直接変更できません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA1502E　不明なシステム・オブジェクトは除去が許可されていません。**

**説明:**
不明なシステム・オブジェクトは、既存のシステムに属すると認識されていない孤立したインスタンスが検出された場合にのみ、ツリーに表示されます。このオブジェクトは、必要時に応じて自動的に表示されるため、ユーザーはオブジェクトを直接除去できません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。ただし、オブジェクトをツリーで表示するため必要性を除去する時は、次のステップに従ってください。

- 不明なシステム・オブジェクトを展開して、すべての孤立したインスタンスを表示してください。
- 必要に応じて、孤立したインスタンスを含むコントロール・センターに新規システム・オブジェクトを追加してください。
- 必要に応じて、変更アクションを使用して、残りの任意の孤立したインスタンス上でシステム名を更新してください。
- 不明なインスタンス・オブジェクトも表示される場合、既存のインスタンスに属すると認識されていない孤立したデータベースも存在します。孤立が表示されなくなるまでインスタンスを追加するか、またはデータベースを変更することでオブジェクト表示の要求を除去してください。

---

**DBA1503E　不明なシステム・オブジェクトは変更が許可されていません。**

**説明:**
不明なシステム・オブジェクトは、既存のシステムに属すると認識されていない孤立したインスタンスが検出された場合にのみ、ツリーに表示されます。このオブジェクトは、必要に応じて自動的に表示されるため、また変更できない特定のプロパティーを持つため、ユーザーはオブジェクトを変更できません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA1510E　システム名を指定してください。**

**説明:**
新規システム・オブジェクトを追加する前に、システム名を指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
該当する入力フィールドでシステム名を指定して、アクションを再試行してください。

---

**DBA1511E　指定したシステム名はすでに使用されています。ユニークなシステム名を指定してください。**

**説明:**
指定されたシステム名は、ツリーの別のシステム・オブジェクトに使用された名前と一致しています。システム名はコントロール・センター内でユニークでなければなりません。また、それらは大文字と小文字の区別を必要とします。「ローカル」または「不明」をシステム名として使用することはできません。それは、この 2 つは、ローカルおよび不明のシステム・オブジェクトで使用するため、予約されているためです。混乱を避けるため、ツールでは使用することができますが、既存のインスタンス名またはデータベース名をシステム名として使用しないようにしてください。

**ユーザーの処置:**
ユニークなシステム名を指定して、アクションを再試行してください。

---

**DBA1520W　このシステム・オブジェクトのオペレーティング・システムは *newos* であると検出されますが、ローカル情報では *oldos* であると表示されます。即時にローカル情報を更新し、正しいオペレーティング・システムのタイプを反映しますか?**

**説明:**
新規システム・オブジェクトを追加するとき、リモート・システムに対してローカルに保管されるオペレーティング・システム・タイプを指定します。その後、実際の接続がリモート・システムに対して実行されたとき、真のオペレーティング・システム・タイプが報告し直されます。オリジナルのオペレーティング・システム・タイプが不正に設定されたため、リモート・システムの真の設定と一致しない可能性があります。この場合は、リモート・システムの真の設定と一致するため、ローカル情報を更新してください。

**ユーザーの処置:**
ローカル情報を更新するには「はい」を、更新しない場合は「いいえ」を選択してください。

---

**DBA1521W　このシステム・オブジェクトのバージョン・タイプは *newtyp* であると検出されていますが、ローカル情報では *oldtyp* であると表示します。即時にローカル情報を更新し、正しいバージョン・タイプを反映しますか?**

**説明:**
新規のシステム・オブジェクトを追加するとき、選択したオペレーティング・システム・タイプによって、サーバー・バージョン・タイプが自動的に DB2 V5 または DRDA に設定されます。その後、実際の接続がリモート・システムに対して行われたとき、(DB2 V2 のような前のリリースの可能性がある) 真のサーバー ・バージョン・タイプが報告し直されます。この場合は、リモート・システムの真の設定と一致するため、ローカル情報を更新してください。

**ユーザーの処置:**
ローカル情報を更新するには「はい」を、更新しない場合は「いいえ」を選択してください。

---

**DBA1522W　このシステム・オブジェクトのオペレーティング・システムとサーバー・バージョン・タイプは、それぞれ *newos* および *newtyp* であると検出されていますが、ローカル情報では *oldos* および *oldtyp* であると表示されています。即時にローカル情報を更新し、これらの正しい値の設定を反映しますか?**

**説明:**
新規システム・オブジェクトを追加するとき、リモート・システムに対してローカルに保管されるオペレーティング・システム・タイプを指定します。また、選択したオペレーティング・システム・タイプによって、サーバー・バージョン・タイプが自動的に DB2 V5 または DRDA に設定されます。その後、実際接続がリモート・システムに対して行われたとき、真のオペレーティング・システム・タイプおよびサーバー・バージョン・タイプが報告し直されます。この情報のオリジナル設定が

不正のため、リモート・システムの真の設定と一致しない可能性があります。この場合は、リモート・システムの真の設定と一致するため、ローカル情報を更新してください。

**ユーザーの処置:**
ローカル情報を更新するには「はい」を、更新しない場合は「いいえ」を選択してください。

---

**DBA1530E　指定されたシステムは、ご使用になっているローカル・システムが使用するプロトコルをサポートするように構成されていません。**

**説明:**
指定したシステムはネットワーク上にありますが、このリモート・システムの Administration Server は、ご使用のローカル・システムが使用するプロトコルをサポートするように構成されていません。

**ユーザーの処置:**
DB2COMM パラメーターも含めて、リモート・システムの Administration Server で通信を構成しないと、正常にアクセスすることはできません。

---

**DBA1533E　サーバー・プロファイルをエクスポートできません。**

**説明:**
ターゲット・ファイル・システムに、エクスポート操作を完了するための十分なディスク・スペースがない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
ターゲット・ファイル・システムのディスク・スペースを解放して、操作をやり直してください。問題が解決しない場合、DB2 システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA1534W　有効なメール・サーバーが構成されていません。**

**説明:**
SMTP_SERVER DB2 Administration Server 構成パラメーターの現行値が無効です。

**ユーザーの処置:**
「ヘルス・アラート通知のトラブルシューティング」ウィザードを使って、有効なメール・サーバーを識別してください。

---

**DBA1540E　アクティブなローカル・インスタンスは除去が許可されていません。**

**説明:**
アクティブなローカル・インスタンス・オブジェクトはいつも、ローカル・システム・オブジェクト下の最初のインスタンスとしてツリーで表示されます。これは現行の DB2INSTANCE 環境変数設定を指示するのに使用される、特定のインスタンス・ オブジェクトです。このオブジェクトは、ローカル・システムによって要求される特別なプロパティーを持つため、ユーザーはオブジェクトを直接除去できません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA1541E　アクティブなローカル・インスタンスは変更が許可されていません。**

**説明:**
アクティブなローカル・インスタンス・オブジェクトはいつも、ローカル・システム・オブジェクト下の最初のインスタンスとしてツリーで表示されます。これは現行の DB2INSTANCE 環境変数設定を指示するのに使用される、特定のインスタンス・ オブジェクトです。このオブジェクトは、ローカル・システムによって要求される特別なプロパティーを持つため、ユーザーはオブジェクトを直接変更できません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA1550E　インスタンス名を指定してください。**

**説明:**
新規システム・オブジェクトを追加する前に、インスタンス名を指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
該当する入力フィールドでインスタンス名を指定して、アクションを再試行してください。

---

**DBA1551E　指定したインスタンス名はすでに使用されています。ユニークなインスタンス名を指定する必要があります。あるいは、インスタンス名を指定しないと、自動的に生成されます。**

**説明:**
指定されたインスタンス名は、ツリーの別のインスタンス・オブジェクトに使用された名前と一致しているか、またはツリーのシステム・オブジェクトによって使用されています。インスタンス名はコントロール・センター内のユニークなもので、いつも大文字である必要があります。さらに、システム・オブジェクトは、(選択された

システム名の短形式のインスタンス名) 自動的に生成されたインスタンス名を使用してプロトコル情報を保管します。インスタンス名に対して、'LOCAL'の名前または現行の DB2INSTANCE 環境変数設定を使用できません。

**ユーザーの処置:**
別のインスタンス名を指定して、アクションを再試行してください。

---

**DBA1552E　リモート・インスタンスを指定してください。**

**説明:**
新規インスタンス・オブジェクトを追加する前に、リモート・インスタンスを指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
該当する入力フィールドでリモート・インスタンスを指定して、アクションを再試行してください。

---

**DBA1560E　宛先名を指定してください。**

**説明:**
新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルの宛先名を指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
該当する入力フィールドで宛先名を指定して、アクションを再試行してください。

---

**DBA1561E　ファイル・サーバーを指定してください。**

**説明:**
新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのファイル・サーバーを指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
該当する入力フィールドでファイル・サーバーを指定して、アクションを再試行してください。

---

**DBA1562E　ワークステーション名を指定してください。**

**説明:**
新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのワークステーション名を指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
該当する入力フィールドでワークステーション名を指定して、アクションを再試行してください。

---

**DBA1563E　ホスト名を指定してください。**

**説明:**
新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのホスト名を指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
該当する入力フィールドでホスト名を指定して、アクションを再試行してください。

---

**DBA1564E　サービス名を指定してください。**

**説明:**
新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのサービス名を指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
該当する入力フィールドでサービス名を指定して、アクションを再試行してください。

---

**DBA1565E　コンピューター名を指定してください。**

**説明:**
新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのコンピューター名を指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
該当する入力フィールドでコンピューター名を指定して、アクションを再試行してください。

---

**DBA1566E　インスタンス名を指定してください。**

**説明:**
新規オブジェクトを正確に追加する前に、選択されたプロトコルのインスタンス名を指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
該当する入力フィールドでインスタンス名を指定して、アクションを再試行してください。

---

**DBA1567E　このアクションまたは機能は、このインスタンス・タイプまたは関連するシステムでは選択可能ではありません。**

**説明:**
選択されたアクションまたは関連機能は現在、そのアクションまたは機能が開始されたインスタンスのタイプについてはサポートされていません。 ただし、Satellite Edition など、インスタンス・タイプの全機能がサポートされないわけではありません。

**ユーザーの処置:**
このインスタンス・タイプで使用できる機能について説明されている資料を参照してください。

**DBA1568W　データベース接続は確立されましたが、同期点 2 フェーズ接続を確立しませんでした。**

**説明:**
同期点 2 フェーズ接続タイプを使用して、データベースへの接続が試みられました。接続は確立されましたが、同期点 2 フェーズ接続を作成できませんでした。このデータベース接続が関連する複数サイトの更新は成功しません。

**ユーザーの処置:**
複数サイトの更新のシナリオが、ご使用の環境用に正しく構成されているか、および調整インスタンスが、構成の完了後に再始動しているかどうか、チェックしてください。 DB2 の同期点マネージャーが使用されている場合、これが正常に開始されているかどうか調べるには、db2diag.log をチェックしてください。

---

**DBA1569E　リモート・インスタンス名が認識されていないため、このインスタンスではアクションを完了できません。**

**説明:**
リモート・インスタンス名はオプション・パラメーターで、指定されていませんでした。 このアクションをリモート・インスタンスで実行するには、リモート・インスタンス名を認識させてください。

**ユーザーの処置:**
「インスタンス変更」ウィンドウを呼び出して、リモート・インスタンスの名前を指定します。

---

**DBA1570E　このシステムの DB2 Administration Server が定義されていません。**

**説明:**
この操作ではシステムの Administration Server にアタッチする必要がありますが、そのインスタンス名が指定されていません。

**ユーザーの処置:**
ターゲット・システムで変更アクションを呼び出して、インスタンス名、オペレーティング・システム、およびその他のプロトコル・パラメーターを指定します。

---

**DBA1571W　ローカル・システムの名前が DB2SYSTEM 環境変数と一致しません。**

**説明:**
ローカル管理ノードのシステム名が DB2SYSTEM 環境変数の値と異なります。

**ユーザーの処置:**
次の 3 つのオプションがあります。

- DB2SYSTEM 環境変数の値を、ローカル管理ノードのシステム名と一致するように変更する。
- ローカル管理ノードをアンカタログして、自動的に再カタログするコントロール・センターを呼び出す。
- ローカル管理ノードをアンカタログして、DB2SYSTEM 環境変数の値と一致するシステム名で再カタログする。

---

**DBA1572E　指定されたインスタンス名 *instance-name* が無効です。**

**説明:**
指定されたインスタンス名が無効です。 インスタンス名は 1 から 8 文字で、すべての文字はデータベース・マネージャーの基本文字セットから使用する必要があります。 また、インスタンス名はその他のカタログ・インスタンスの名前と一致しないものにしてください。

**ユーザーの処置:**
インスタンス名に異なる値を指定します。

---

**DBA1573E　このアクションは選択されたシステムでは使用できません。**

**説明:**
コントロール・センター・アクションの中には、ターゲット・システムで Administration Server が使用可能であることが前提となっているものもあります。 選択されたシステムには Administration Server がありません。要求されたアクションは、このシステムでは使用できません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA1580E　新規データベース・オブジェクトは不明システムへの追加が許可されていません。**

**説明:**
不明なインスタンス・オブジェクトは、既存のインスタンスに属すると認識されていない孤立したデータベースが検出される場合にのみツリーに表示されます。ツールは新たに孤立が起きることを可能な限り妨げるため、不明なインスタンスに対して新規に追加することはできません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA1581E　データベース名を指定してください。**

**説明:**
新規データベース・オブジェクトを追加する前に、データベース名を指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
該当する入力フィールドでデータベース名を指定して、アクションを再試行してください。

---

**DBA1582E　別名を指定してください。**

**説明:**
新規データベース・オブジェクトを追加する前に、別名を指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
該当する入力フィールドで別名を指定して、アクションを再試行してください。

---

**DBA1583E　指定された別名はすでに使用されています。**

**説明:**
指定した別名は、ツリーの別のデータベース・オブジェクトに使用された別名と一致しています。データベース別名はコントロール・センター内のユニークなもので、いつも大文字である必要があります。

**ユーザーの処置:**
ユニークな別名を指定して、アクションを再試行してください。

---

**DBA1590W　*dbase* データベースは DB2 V5 よりも前の DB2 のバージョンを使用して作成されました。このデータベースがマイグレーションされるまで、限られた機能のみが許可されます。**

**説明:**
DB2 V5 タイプ・システム・オブジェクトの下で見つかったすべてのデータベースは、最初 DB2 V5 データベースである想定されます。このデータベースは実際に、まだ DB2 V5 にマイグレーションしていないバックレベル・データベースだと分かりました。このデータベースにアクセスはできますが、実際にマイグレーションするまでに、限られた機能のバックレベルだけが使用可能です。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA2000E　ジョブ記述が指定されていません。**

**説明:**
ジョブの記述は必須情報です。

**ユーザーの処置:**
入力フィールドにジョブ記述を入力して、「OK」をクリックしてください。

---

**DBA2001E　選択内容の時間数が指定されていません。**

**説明:**
選択に対する時間数は必須情報です。

**ユーザーの処置:**
時間入力フィールドで数値を入力してください。

---

**DBA2002E　選択内容に対して少なくとも 週の 1 日を選択してください。**

**説明:**
繰り返し実行するジョブをスケジュールするには、ジョブに対して少なくとも 1 週間の 1 日を指定してください。

**ユーザーの処置:**
繰り返し実行するジョブをスケジュールするときは、少なくとも 1 週間の 1 日を指定してください。

---

**DBA2003E　無効な日付を指定しました。**

**説明:**
指定された日付が無効です。 指定された日付が過ぎた可能性があります。

**ユーザーの処置:**
有効な日付を入力してください。

---

**DBA2004E　指定された日付または時刻、またはそれら日時の組み合わせが無効です。**

**説明:**
次の実行日時を計算できないため、ジョブがスケジュールされません。 可能なエラーとしては、実行されるジョブに対して指定された時刻が過ぎた時刻だったことです。 スケジュールされたジョブを実行する管理ホストでの日時の組み合わせが有効でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
有効な日時組み合わせを入力してください。

---

**DBA2005E　スクリプト名が指定されていません。**

**説明:**
スクリプト名は必須情報です。

**ユーザーの処置:**
スクリプト・ファイル名を入力して、「OK」をクリックしてください。

---

**DBA2006E　コメントが指定されていません。**

**説明:**
ジョブ完了後にコメントを記録する指示があったが、コメント入力フィールドが空です。

**ユーザーの処置:**
コメントを入力するか、または「コメントを結果とともに表示」チェック・マークを外してください。

---

**DBA2007E　無効なスクリプト名を指定しました。**

**説明:**
コマンド・スクリプトはファイル・システムでファイルとして保管されています。スクリプト・パスは最大 255 バイトまでです。 スクリプト名のファイル名部分は最長 8 バイトです。 拡張子を指定する場合は 3 バイトまでです。 スクリプト名にはブランクを含んではなりません。 たとえば、有効なスクリプト名は次の通りです。 j:¥script¥new.cmd c:¥data¥test¥crtdb.bat

**ユーザーの処置:**
有効なスクリプト名を入力して、「OK」をクリックしてください。

---

**DBA2008I　ジョブ *job-id* は正常に作成されました。**

**説明:**
新規ジョブが正常にスケジュールされました。 新しく作成されたジョブの表示については、ジャーナル・ジョブ・サマリーを参照してください。

**ユーザーの処置:**
新しく作成されたジョブの表示については、アイコン・バーのジャーナル・アイコンを選択して、ジャーナル・ジョブ・サマリーを参照してください。

---

**DBA2009E　システム・エラーが発生しました。スケジューラー InfoBase 呼び出しが失敗しました。 RC = *return-code*。Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2010E　スケジューラー・サービスは稼働中ではありません。 Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。**

**説明:**
ジョブ・スケジューラーまたはスクリプト・センターに関連する任意のアクションを行うには、スケジューラー・サービスが稼働中でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。

---

**DBA2011E　システム・エラーが発生しました。 スケジューリング・タイプ (DBA または PGM) が無効です。 Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2012E　システム・エラーが発生しました。 OS エラーを検出しました。 RC = *return-code*。Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2013E　ジョブ ID が見つかりませんでした。 Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2014E　システム・エラーが発生しました。ジョブの状況を変更できません。 Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**

Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2015E　システム・エラーが発生しました。クライアントでのメモリー割り振りに異常がありました。 Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2016E　システム・エラーが発生しました。スキャン・ハンドルが無効です。 Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2017I　選択したジョブを本当に除去しますか?**

**説明:**
選択したジョブの除去を指定しました。 選択したジョブを除去して継続するか、あるいは要求を取り消すかを今再確認できます。

**ユーザーの処置:**
選択したジョブを除去するには「はい」を選択してください。 除去の要求を取り消すには「いいえ」を選択してください。

---

**DBA2018I　選択した保管スクリプトを本当に除去しますか?**

**説明:**
現在保管済みの選択スクリプトの除去を指定しました。選択したスクリプトを除去して、そのあと要求を継続するか取り消すかを二重チェックすることができます。

**ユーザーの処置:**
選択したスクリプトを除去するには「はい」を選択してください。 除去の要求を取り消すには「いいえ」を選択してください。

---

**DBA2019E　選択内容の日数が指定されていません。**

**説明:**
選択に対する日数は必須情報です。

**ユーザーの処置:**
日数入力フィールドで数値を入力してください。

---

**DBA2020E　システム・エラーが発生しました。スクリプト・タイプを判別できません。 コマンド・スクリプトが実行されていません。**

**説明:**

**ユーザーの処置:**

---

**DBA2021I　本当に、変更を廃棄してもいいですか?**

**説明:**
変更がスクリプト・センターで保管されないように指定しました。変更の廃棄を継続するか、または要求を取り消して編集を再開することができます。

**ユーザーの処置:**
変更を廃棄するには「はい」を選択してください。 コマンド・スクリプトの編集を再開するには「いいえ」を選択してください。

---

**DBA2022I　コマンド・スクリプト *script-id* が正常に作成されました。**

**説明:**
新規スクリプトが正常にスクリプト・センターで保管されました。新規コマンド・スクリプトを表示するには、スクリプト・センターを参照してください。

**ユーザーの処置:**
新しく保管されたスクリプトの表示については、アイコン・バーのスクリプト・センターのアイコンを選択して、スクリプト・センターを参照してください。

---

**DBA2023E　インスタンス *instance-name* が存在しません。 コマンド・スクリプトが実行されていません。**

**説明:**
スクリプト・ファイルに関連するインスタンス名が存在しません。

**ユーザーの処置:**
スクリプト・センターから「編集」を選択して、インスタンス名を既存のインスタンスへ更新してください。

---

**DBA2024E　コマンド・スクリプト *script-id* が存在しません。**

**説明:**
ジョブに関連するスクリプト・ファイルが存在しないため、スケジュールされたジョブを実行できません。

**ユーザーの処置:**

---

**DBA2025E　システム・エラーが発生しました。この問題は、クライアントのメモリー割り振りに関連している可能性があります。Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2026I　選択したジョブを本当に除去しますか?**

**説明:**
選択したジョブの除去を指定しました。 選択したジョブを除去し、要求を継続するか取り消すかを二重チェックすることができます。

**ユーザーの処置:**
選択されたジョブを除去するには「はい」を選択してください。 除去の要求を取り消すには「いいえ」を選択してください。

---

**DBA2027I　選択した保管スクリプトを除去しますか?**

**説明:**
現在保管済みの選択スクリプトの除去を指定しました。選択したスクリプトを除去、要求を継続するか取り消すかを二重チェックすることができます。

**ユーザーの処置:**
選択されたスクリプトを除去するには「はい」を選択してください。 除去の要求を取り消すには「いいえ」を選択してください。

---

**DBA2028E　選択内容の週数が指定されていません。**

**説明:**
選択に対する週数は必須情報です。

**ユーザーの処置:**
週入力フィールドに数値を入力してください。

---

**DBA2029E　システム・エラーが発生しました。スケジューラー・キーが見つかりません。Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2030E　システム名を指定していません。 リストより選択してください。**

**説明:**
アクションを処理するには、システム名が必須情報になります。

**ユーザーの処置:**
ドロップダウン・リストからシステム名を選択してください。

---

**DBA2031I　ジョブ *job-id* は正常に再スケジュールされました。**

**説明:**
要求されたジョブが正常に再スケジュールされました。

**ユーザーの処置:**

---

**DBA2032E　スクリプト名が指定されていません。**

**説明:**
スクリプト名は必須情報です。

**ユーザーの処置:**
入力フィールドにスクリプト名を入力して「OK」をクリックしてください。

---

**DBA2033E　コマンド・スクリプトが入力されていません。**

**説明:**
コマンド・スクリプトが空です。

**ユーザーの処置:**
コマンド・スクリプトの内容を入力して、「OK」をクリックしてください。

---

**DBA2034I　コマンド・スクリプト *script-id* が正常に更新されました。**

**説明:**

**ユーザーの処置:**

**DBA2035E　システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプト *script-id* を検索できませんでした。 Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2036E　システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプトを作成できませんでした。 Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2037E　システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプト *script-id* を置換できません。 Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2038E　システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプト *script-id* をコピーできませんでした。 Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2039E　選択内容の月数が指定されていません。**

**説明:**
選択に対する月数は必須情報です。

**ユーザーの処置:**
月入力フィールドに数値を入力してください。

---

**DBA2040E　選択に対し、少なくとも月の 1 日を選択する必要があります。**

**説明:**
繰り返し実行するジョブをスケジュールするには、ジョブに対して月ごとに少なくとも 1 日を指定してください。

**ユーザーの処置:**
繰り返し実行するジョブをスケジュールするときは、月ごとに少なくとも 1 日を指定してください。

---

**DBA2041E　システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプト *script-id* を移動できません。 Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2042E　システム・エラーが発生しました。コマンド・スクリプト *script-id* を実行できません。 Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2043I　ジョブ *job-id* はコマンド・スクリプト *script-id* の実行用に正常に作成されました。**

**説明:**

**ユーザーの処置:**

---

**DBA2044E　スクリプト記述が指定されていません。**

**説明:**
スクリプト・ファイルの記述は必須情報です。

**ユーザーの処置:**
スクリプト・ファイルの記述を入力して、「OK」をクリックしてください。

---

**DBA2046E　コマンド・スクリプト *script-id* はシステムにより生成されます。 内容の編集はできません。**

**説明:**
バックアップまたは再編成表アクションに関連するスクリプトは、読み取り可能フォーマットではありません。

**ユーザーの処置:**
編集するには、別のコマンド・スクリプト・ファイルを選択してください。

---

**DBA2047E　システム・エラーが発生しました。スクリプト・タイプが不明です。 Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2048E　指定したファイル名はすでに存在します。別のスクリプト・ファイル名を指定してください。**

**説明:**
各スクリプト・ファイル名がユニークである必要があります。 指定されたファイル名はすでに存在します。

**ユーザーの処置:**
ユニークなスクリプト・ファイル名を指定してください。

---

**DBA2049E　システム・エラーが発生しました。ファイル・アクセスが拒否されました。**

**説明:**
アプリケーションはファイル・システムのファイルにアクセスできませんでした。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再試行してください。 問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2050E　システム・エラーが発生しました。ディスクがいっぱいです。**

**説明:**
ディスクにスペースがありません。 処理を継続できません。

**ユーザーの処置:**
ファイル・システムから不要なファイルを削除してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2051E　システム・エラーが発生しました。ハード・ディスク・エラーが発生しました。**

**説明:**
ハード・ディスクに関連する内部エラーが発生しました。 アプリケーションはファイルにアクセスできませんでした。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再試行してください。 問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2052E　ログオンの失敗が原因でジョブを実行できません。ユーザー ID = *user-id*.**

**説明:**
パスワードが与えられたユーザー ID に対して無効、またはユーザー ID が無効です。

**ユーザーの処置:**
プロンプトが出されるときに有効なユーザー ID およびパスワードを入力します。

---

**DBA2053E　システム・エラーが発生しました。ジョブ履歴項目を除去できません。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2054E　システム・エラーが発生しました。ジョブ *job-id* を実行できません。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

**DBA2055E　コマンド・スクリプト *script-id* がスクリプト・センターから除去されました。**

**説明:**

**ユーザーの処置:**

---

**DBA2056I　コマンド・スクリプト *script-id* が変更されませんでした。**

**説明:**

**ユーザーの処置:**

---

**DBA2057E　システム・エラーが発生しました。パスが有効ではありませんでした。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2058E　ファイルの行は *number* バイトより大きいです。**

**説明:**
行の最大バイト数を超えています。

**ユーザーの処置:**
制限を超えずに、長い行を分離して再書き込みしてください。

---

**DBA2059E　システム・エラーが発生しました。共用違反がありました。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2060E　システム・エラーが発生しました。スクリプト *script-id* をコピーできません。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2061I　スクリプト *script-name* が正常に作成されました。**

**説明:**
名前 *script name* の新規スクリプト・ファイルが正常に作成されました。

**ユーザーの処置:**
新しく作成されたスクリプトを表示するには、アイコン・バーからスクリプト・センターのアイコンを選択してスクリプト・センターを参照してください。

---

**DBA2062E　システム・エラーが発生しました。新規スクリプトを作成できません。Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2063E　システム・エラーが発生しました。ジョブ *job-id* の結果を検索できません。Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。**

**説明:**
内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を 再始動してからコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA2064E　このスクリプト・ファイル名のスクリプト・センター・レコードはすでに存在します。別のスクリプト・ファイル名を指定してください。**

**説明:**
各スクリプト・ファイル名がスクリプト・センター内でユニークである必要があります。 指定されたファイル名はすでに存在します。

**ユーザーの処置:**
ユニークなスクリプト・ファイル名を指定してください。

---

**DBA2065E　システム・エラーが発生しました。スクリプト・ファイルがファイル・システムに存在しません。**

**説明:**
スクリプト・ファイルがファイル・システムで見つかりませんでした。ファイルが消去された可能性があります。

**ユーザーの処置:**
スクリプト項目を除去して再度作成してください。

---

**DBA2067I　REORG TABLE コマンドは正常に完了しました。**

**説明:**

**ユーザーの処置:**

---

**DBA2068E　インスタンス名が入力されていません。**

**説明:**
インスタンス名は必須情報です。

**ユーザーの処置:**
入力フィールドにインスタンス名を入力して、「OK」をクリックしてください。

---

**DBA2069W　ジョブの最大数 *number* が作成されました。 古くなったジョブを除去してください。**

**説明:**

**ユーザーの処置:**
他の新規ジョブを作成する前に、不要になったジョブを除去してください。

---

**DBA2070W　スクリプトの最大数 *number* が作成されました。 古くなったスクリプトを除去してください。**

**説明:**

**ユーザーの処置:**
別の新規スクリプトを作成する前に、不要になったスクリプトを除去してください。

---

**DBA2071W　バイトの最大数 *number* に達しました。表示されるデータは切り捨てられます。完全なファイル *file-name* がサーバーにあります。**

**説明:**
エディターは、現行のファイルが大きすぎるためハンドルできません。表示されたデータが切り捨てられました。

**ユーザーの処置:**
ファイル全体が、指示されたロケーションのサーバーで表示されます。

---

**DBA2072E　ジョブ *job-id* に関連するスクリプトはスクリプト・センターから除去されました。**

**説明:**
スクリプト・ファイルは存在しません。

**ユーザーの処置:**

---

**DBA2073E　ユーザー ID およびパスワードを指定していません。**

**説明:**
ジョブを実行するためのユーザー ID およびパスワードが必要です。

**ユーザーの処置:**
ジョブを実行するためのユーザー ID およびパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

---

**DBA2074E　システム・エラーが発生しました。作業ディレクトリー・パスが無効でした。**

**説明:**
指定の作業ディレクトリーは、スクリプトの実行に使用されないため、存在しません。

**ユーザーの処置:**
有効な作業ディレクトリー・パスを選択するには、「ブラウズ...」ボタンを使用してください。

---

**DBA2075I　ジョブ *job-id* がサブミットされました。結果を見るにはジャーナルの「ジョブ」ページを使用してください。**

**説明:**

**ユーザーの処置:**

---

**DBA2076E　ジョブが異常終了しました。**

**説明:**

**ユーザーの処置:**

---

**DBA2077E　ファイル名 *file-name* はすでにファイル・システムにあります。**

**説明:**
ファイル名はユニークである必要があります。

**ユーザーの処置:**
別のファイル名を指定してください。

---

**DBA2078E　予期しないエラーが発生しました。ジョブの出力がありません。**

**説明:**
ジョブの実行からのジョブ出力がありません。

**ユーザーの処置:**
無効なファイル拡張子がオペレーティング・システムで使用されている可能性があります。 有効な拡張子でスクリプトを再作成してください。

---

**DBA2081W　ファイル *file-name* がスクリプト・センターの最大バイト数 (*maximum-bytes*) を超えています。ファイルを表示または編集するには、外部エディターを使用する必要があります。**

**説明:**
ファイルのサイズが、スクリプト・センターで表示できる最大サイズを上回っています。

**ユーザーの処置:**
外部エディターを使用して、ファイルを表示または編集してください。

---

**DBA2082W　このスクリプト用のファイル許可では、スクリプト・センターは現在のユーザー ID でスクリプトを読み取ることはできません。**

**説明:**
このスクリプト用のファイル許可では、スクリプト・センターは現在のユーザー ID でスクリプトを読み取ることはできません。

**ユーザーの処置:**
スクリプトについてのファイル許可が適切に設定されていることを確認してください。

---

**DBA2083I　タスク・ベースのダイアログを編集しようとしています。編集すると、そのダイアログを使用してタスクを編集できなくなります。 続行しますか?**

**説明:**
編集しようとしているタスクは、DBA ツール・ダイアログまたはウィザードによって作成されたものです。手動で編集せず、「ダイアログによる編集」アクションを使用することをお勧めします。 このタスクを手動で編集する選択をすると、「ダイアログによる編集」の機能を将来失うことになります。 「進行の表示」などの他の機能も失われます。

**ユーザーの処置:**
ダイアログを基にしたタスク・フォーマットでタスクを保持するには「いいえ」を選択します。 タスクを単純なタスクへ変換して、手動での編集を続行するには、「はい」を選択します。

---

**DBA2151E　スクリプトが保管されていないため、スケジュールできません。**

**説明:**
保管アクションを取り消したため、スクリプトがスケジュールされません。そのため、スクリプトがスクリプト・センターに保管されませんでした。

**ユーザーの処置:**
スクリプトを保管してスケジューリングを再試行してください。

---

**DBA2152I　スケジュールされる前に、スクリプトはスクリプト・センターに保管される必要があります。**

**説明:**
スクリプト・センターに保管されているスクリプトのみが、スケジュールおよび実行可能です。

**ユーザーの処置:**
スクリプト・センターにスクリプトを保管する場合は「OK」を、スクリプトのスケジュールをしない場合は「キャンセル」を選択してください。

---

**DBA2153I　ファイル *file-name* は正常にオープンしました。**

**説明:**

**ユーザーの処置:**

---

**DBA2154I　スクリプト *script-name* は正常にオープンしました。**

**説明:**

**ユーザーの処置:**

---

**DBA2155I　ファイル *file-name* に上書きしますか?**

**説明:**
ファイル *file name* は現在ファイル・システムに存在しており、保管操作により内容が上書きされます。

**ユーザーの処置:**
ファイル内容を上書きする場合は「OK」を、内容を変更しない場合は「キャンセル」を選択してください。

---

**DBA2156I　スクリプト *script-name* に上書きしますか ?**

**説明:**
スクリプト *script name* は現在スクリプト・センターに存在しており、保管操作により内容が上書きされます。

**ユーザーの処置:**
スクリプトの内容を上書きする場合は「OK」を、内容を変更しない場合は「キャンセル」を選択してください。

**DBA2157I　ファイル *file-name* は正常に更新されました。**

**説明:**

**ユーザーの処置:**

**DBA2158I　ファイル *file-name* は正常に作成されました。**

**説明:**
名前 *file name* の新規ファイルはファイル・システムに正常に作成されました。

**ユーザーの処置:**

**DBA2160I　スケジュールされる前に、スクリプトはタスク・センターに保管される必要があります。**

**説明:**
タスク・センターに保管されているスクリプトのみが、スケジュールおよび実行可能です。

**ユーザーの処置:**
タスク・センターにスクリプトを保管する場合は「OK」を、スクリプトのスケジュールをしない場合は「キャンセル」を選択してください。

**DBA2161I　スクリプト *script-name* に上書きしますか ?**

**説明:**
スクリプト *script name* は現在タスク・センターに存在しており、保管操作により内容が上書きされます。

**ユーザーの処置:**
スクリプトの内容を上書きする場合は「OK」を、内容を変更しない場合は「キャンセル」を選択してください。

**DBA2171I　スクリプトに対するすべての変更を廃棄してコマンド・センターを終了しますか?**

**説明:**
コマンド・センターの終了を選択しましたが、現行スクリプトに対する変更はまだ保管されていません。 終了要求を取り消さないかぎり、変更内容は失われます。

**ユーザーの処置:**
変更を廃棄してコマンド・センターを終了する場合は「はい」を、終了要求を取り消す場合は「いいえ」を選択してください。

**DBA2172I　現行スクリプトに対するすべての変更を廃棄して新規のスクリプトを作成しますか ?**

**ユーザーの処置:**
変更を廃棄して新規スクリプトを作成する場合は「はい」を、要求を取り消す場合は「いいえ」を選択してください。

**DBA2173I　コマンド・センターがまだコマンドを処理しています。 後で再試行してください。**

**説明:**
スクリプトの実行あるいはコマンド・セットの発行を試行しましたが、コマンド・センターは、現行コマンドの処理を完了しないかぎりコマンドを処理できません。

**ユーザーの処置:**
後ほど再試行してください。 現行コマンドを停止するには、ツールバーのギア変更アイコンをクリックするか、または「結果」ページの結果メニューから「終了」を選択します。

**DBA2174E　コマンド行で指定されたファイル *file-name* をオープンできません。ファイルの存在とファイルへの読み取りアクセス権があることを確認して、再度試行してください。**

**説明:**
インポートするスクリプトを含むファイルの名前を指定しましたが、コマンド・センターが該当するファイルにアクセスできません。

**ユーザーの処置:**
コマンド行でファイル名を正しく入力したこと、ファイルが存在すること、およびユーザー ID に該当ファイルへの読み取りアクセスがあることを確認してください。

**DBA2175E 「コマンド・センター」ウィンドウを作成するためのメモリーが不足しています。アプリケーションを続行できません。**

**説明:**
「コマンド・センター」ウィンドウの作成を試行する際に、メモリー割り振りの問題がシステムに発生しました。

**ユーザーの処置:**
コマンド・センターを実行するための十分なメモリーがシステムにあることを確認して再試行してください。

---

**DBA2176E システム環境が初期設定されませんでした。 アプリケーションを続行できません。 データベース・マネージャーを再始動して再度試行するか、またはローカル・サポート担当者に連絡してください。**

**説明:**
コマンド・プロセッサー環境が正しく初期設定されませんでした。

**ユーザーの処置:**
ディスク・スペースが十分あることを確認し、再試行してください。

---

**DBA2177E Visual Explain に関連した問題が起きたため、システムはアクセス・プランを作成できませんでした。**

**説明:**
コマンド・センターで、アクセス・プランを作成中に問題が発生しました。

**ユーザーの処置:**
直前のメッセージからヘルプを参照してください。

---

**DBA2178E アクセス・プランを作成するにはデータベース接続が必要です。 「接続」ステートメントを使用してデータベースに接続し、コマンドを再試行してください。**

**ユーザーの処置:**
まず「接続」を使用してデータベース接続を確立し、次にそのデータベースのアクセス・プランを作成します。使用可能なデータベースのリストを見るには、「データベース・ディレクトリーのリスト」コマンドを発行してください。

---

**DBA2179E 使用したステートメントが正しいフォーマットでないか、または照会でないためアクセス・プランが作成されません。**

**説明:**
アクセス・プランを作成するために使用したステートメントは正しい照会のフォーマットではないか、または照会ではありません。

**ユーザーの処置:**
照会フォーマット中にエラーがないかステートメントをチェックして、必要な変更を行い、ステートメントを再試行してください。 有効な照会形式については、Visual Explain の資料を参照してください。

---

**DBA2180I ステートメントの前のプログラム名 ″db2″ は必要ないため無視されます。**

**説明:**
コマンド・センターでは、ステートメントの前に ″db2″ を入力する必要はありません。入力が必要なのは、オペレーティング・システムのコマンド・プロンプトの場合です。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA2181I コマンド・センターは現在使用できません。しばらくしてからやり直してください。**

**説明:**
JDBC サーバーは、複数の WEBCC コマンド・センター・セッションをサポートしていません。 JDBC サーバーは、既存のコマンド・センター・セッションですでに使用されています。

**ユーザーの処置:**
現在のコマンド・センター・セッションが完了するまで待機し、操作をやり直してください。

---

**DBA2182N パターン *script-name-pattern* に従ったスクリプト名は、同じパターンに従った名前のスクリプトがスクリプト・センターにすでに多く含まれているために保管できません。スクリプト・センターからこのパターンに従う古いスクリプトを除去して、*tool-name* を再び呼び出してください。**

**説明:**
*script_name_pattern* のような名前を持つ、自動的に生成されたスクリプトが多すぎます。

**ユーザーの処置:**
スクリプト・センターで、*script_name_pattern* のような名前を持つスクリプトを少なくとも 1 つ除去し、*tool_name* を再度呼び出してください。

---

**DBA2192E　データベース接続が失敗しました。**

**説明:**
データベースへの JDBC 接続が失敗しました。JDBC 接続が機能していないと、SQL Assist は使用できません。

**説明:**
JDBC ドライバーが実行中であることを確認してください。データベースに再接続し、SQL Assist を再び起動してみてください。

JDBC ドライバーが実行中なのに問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**DBA2193W　*window-name* は *program-name* がなければ実行できません。 データベース・ツールサブコンポーネントがインストールされていることを確認してください。**

**説明:**
*window-name* を呼び出すには、*program-name* のアプリケーションがサーバーにインストールされていなければなりません。デフォルトでは、管理および構成ツール・コンポーネントのデータベース・ツール・サブコンポーネントは、インストール時に選択されます。
*program-name* のアプリケーションをインストールするには、インストール時にデータベース・ツール・サブコンポーネントを選択してください。

**ユーザーの処置:**
データベース・ツール・サブコンポーネントがインストールされていることを確認してください。データベース・サーバーのインストール時にデータベース・ツールを選択しなかった場合は、 DB2 セットアップをもう一度実行する必要があります。

1. すべての DB2 サービスを停止します。
2. DB2 セットアップを実行します。
3. 「カスタム・インストール」を選択します。
4. 「管理および構成ツール」を除くすべてのコンポーネントのチェックをはずします。
5. 「管理および構成ツール」の詳細で、「データベース・ツール」を選択します。
6. インストールを完了します。
7. すべての DB2 サービスを再始動します。
8. *window-name* を使用します。

---

**DBA2194E　XQuery Assist コンポーネントがオープンできませんでした。**

**説明:**
XQuery Assist コンポーネントは IBM データ・サーバー開発者ツールの一部ですが、これが正しくインストールされていない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
IBM データ・サーバー開発者ツールを再インストールしてください。

---

**DBA3007W　EXPLAIN された ステートメントを削除してもいいですか?**

**説明:**
EXPLAIN されたステートメントを削除しようとしています。 これにより、対応する EXPLAIN 表の行が削除されます。

**ユーザーの処置:**
EXPLAIN されたステートメントを削除する必要があることを確認してください。

---

**DBA3008W　EXPLAIN されたステートメントを削除してもいいですか?**

**説明:**
EXPLAIN されたステートメントを削除しようとしています。 これにより、対応する EXPLAIN 表の行が削除されます。

**ユーザーの処置:**
EXPLAIN されたステートメントを削除する必要があることを確認してください。

---

**DBA3009E　システム・エラーが発生しました。 Visual Explain ツールが、処理を続行できませんでした。**

**説明:**
操作の停止を引き起こす予期しないエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
可能な解決方法は、以下のとおりです。

- システムに十分なメモリーがあることを確認してください。
- 該当する場合は、システムを使用している他のプログラムを停止してください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA3010E　Explain スナップショットが削除されています。 要求を完了できません。**

**説明:**
この要求に必要な Explain スナップショットが、Explain 表から削除されています。

**ユーザーの処置:**
スナップショットを再生成してください。

**DBA3011E　この Explain スナップショットは Visual Explain Tool のデータベース・マネージャーの別のバージョンを使用して作成されました。 要求を完了できません。**

**説明:**
この Explain スナップショットは Visual Explain ツールのデータベース・マネージャーの新規バージョンまたは前のバージョンを使用して作成されました。 アクセス・プランのグラフは、このツールでは構成できません。

**ユーザーの処置:**
データベース・マネージャーの同じバージョンを Visual Explain ツールとして使用して Explain スナップショットをグラフ表示します。

**DBA3012I　ストリングがありません。**

**説明:**
検索ストリングが、表示されているテキストに見つかりません。

**ユーザーの処置:**
ありません。

**DBA3013E　テキストがありません。 検索するテキスト・ストリングを指定する必要があります。**

**説明:**
検索文字列が指定されませんでした。

**ユーザーの処置:**
検索文字列を指定してください。

**DBA3014E　リスト内で選択が行われていません。 リストの項目を少なくとも 1 つは選択しなくてはなりません。**

**説明:**
リストで選択されませんでした。

**ユーザーの処置:**
リストで少なくとも 1 つの項目を選択してください。

**DBA3015I　このアクセス・プランに関連して参照された列はありません。**

**説明:**
参照表に対する照会で、参照された列はありませんでした。

**ユーザーの処置:**
ありません。

**DBA3016I　この索引に関連するページ・フェッチ・ペア統計がありません。**

**説明:**
この索引について、カタログ表に格納されているページ・フェッチ・ペア統計がありません。 詳細情報については、*管理ガイド* の「システム・カタログ統計」セクションを参照してください。

**ユーザーの処置:**
ありません。

**DBA3017I　このアクセス・プランに関連して参照された機能はありません。**

**説明:**
このアクセス・プランでは、機能を使用する必要がありません。

**ユーザーの処置:**
ありません。

**DBA3018I　この列に関連する列分布統計がありません。**

**説明:**
この列について、カタログ表に格納されている列分布統計はありません。 詳細情報については、*管理ガイド* の「システム・カタログ統計」セクションを参照してください。

**ユーザーの処置:**
ありません。

**DBA3019I　この表に関連する索引はありません。**

**説明:**
EXPLAIN 時に参照された表に定義された索引および表に現在定義されている索引はありません。

**ユーザーの処置:**
ありません。

**DBA3020E　データベースに対する COMMIT を試行中にエラーが発生し、 SQLCODE が返りませんでした。**

**説明:**
予期しないエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に連絡してください。

**DBA3021E　データベースに対する ROLLBACK を試行中にエラーが発生し、 SQLCODE が返りませんでした。**

**説明:**
予期しないエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に連絡してください。

**DBA3022E　データベース・マネージャー構成取得 API からゼロでない戻りコードが戻されました。**

**説明:**
操作の停止を引き起こす予期しないエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に連絡してください。

**DBA3023E　データベース構成取得 API からゼロでない戻りコードが戻されました。**

**説明:**
操作の停止を引き起こす予期しないエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に連絡してください。

**DBA3024E　ファイル *file* への保管中に、エラーが発生しました。**

**説明:**
考えられる問題は、以下のとおりです。

- ファイルが、書き込み用にオープンできませんでした。
- ファイル名が、ファイル・システム規則に準拠していません。

**ユーザーの処置:**
可能な解決方法は、以下のとおりです。

- ファイル属性を、読み書きに変更してください。
- 正しいファイル名を指定してください。

**DBA3025E　ファイル *file* からの取り出し中に、エラーが発生しました。**

**説明:**
考えられる問題は、以下のとおりです。

- ファイルが読み取り可能ではありません。
- ファイルが存在しません。

**ユーザーの処置:**
正しいファイル名を指定してください。

**DBA3026E　プリンターがインストールされていません。**

**説明:**
マシンにインストールされているプリンターがありません。

**ユーザーの処置:**
マシンにプリンターをインストールしてください。

**DBA3033I　参照された表スペースの中で、このアクセス・プランと関連付けられたものはありません。**

**説明:**
このアクセス・プランは、表スペースに含まれているデータベース・オブジェクトを参照しませんでした。

**ユーザーの処置:**
ありません。

**DBA3034W　スナップショットはコード・ページ *codepage* を使用して作成されましたが、Visual Explain ツールを実行するウィンドウのコード・ページに変換されていません。**

**説明:**
グラフ表示されたアクセス・プランのスナップショットは、Visual Explain ツールを実行するウィンドウのコード・ページと異なったコード・ページで作成されました。スナップショットが大きすぎるため、コード・ページの変換に失敗しました。 アクセス・プラン・グラフはコード・ページ変換なしで表示されます。統計ウィンドウをオープンする時、現行の統計を表示できない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
Visual Explain ツールを実行するウィンドウのコード・ページをスナップショットの作成に使用した同じコード・ページに変更して、アクセス・プラン・グラフを再表示してください。

**DBA3035W　スナップショットはコード・ページ *codepage* を使用して作成されましたが、Visual Explain ツールを実行するウィンドウのコード・ページに変換されていません。 データベース・マネージャー構成パラメーター ASLHEAPSZ の値が小さすぎます。**

**説明:**
グラフ表示されたアクセス・プランのスナップショットは、Visual Explain ツールを実行するウィンドウのコード・ページと異なったコード・ページで作成されました。コード・ページ間変換に使用されるユーザー定義関数が実行するための十分なメモリーがないため、コード・ページ変換を正常に行えません。アクセス・プラン・グラフはコード・ページ変換なしで表示されます。統計ウィンドウをオープンする時、現行の統計を表示できない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
可能な解決方法は、以下のとおりです。

- サーバーのデータベース・マネージャー構成パラメーター ASLHEAPSZ を 512 に変更して、再びアクセス・プラン・グラフを表示してください。 構成パラメーターは、サーバーで次の **db2start** を行うまで反映されないことに注意してください。
- Visual Explain ツールを実行するウィンドウのコード・ページをスナップショットの作成に使用した同じコード・ページに変更して、アクセス・プラン・グラフを再表示してください。

---

**DBA3036I　ユーザーの動的 EXPLAIN 要求を処理するため、EXPLAIN 表が作成されました。**

**説明:**
現行のユーザー ID 下で 1 つまたは複数の EXPLAIN 表が作成されました。 これらの表は、ユーザーの動的 EXPLAIN 表が必要とする情報を保管するために使用されます。

**ユーザーの処置:**
ありません。

---

**DBA3037E　Explain スナップショットが破壊されています。 要求を完了できません。**

**説明:**
この要求に必要な Explain スナップショットが、Explain 表から破壊されています。

**ユーザーの処置:**
スナップショットを再生成してください。

---

**DBA3038I　このアクセス・プランに関連して参照されたバッファー・プールはありません。**

**説明:**
このアクセス・プランは、バッファー・プールに含まれているデータベース・オブジェクトを参照しませんでした。

**ユーザーの処置:**
ありません。

---

**DBA3039E　EXPLAIN 表が見つかりません。**

**説明:**
EXPLAIN 表が存在しません。

**ユーザーの処置:**
以下のいずれかの方法で、EXPLAIN 表を作成してください。

- EXPLAIN.DDL ファイルで提供されているサンプル・コマンド・ファイルを使用する。 このファイルは、sqllib¥misc ディレクトリーにあります。 コマンド・ファイルを実行するには、このディレクトリーに移って、 **db2 -tf EXPLAIN.DDL** コマンドを発行してください。
- コントロール・センターから、あるいは EXPLAIN 済みステートメント履歴ウィンドウで、 **SQL の選択** をメニュー選択から選ぶ。 「SQL ステートメントの EXPLAIN」ウィンドウを使用して、動的に SQL ステートメントを EXPLAIN し、EXPLAIN 表を自動作成します。

---

**DBA3040E　コマンドが正しく指定されていません。**

**説明:**
コマンドに、無効な構文があります。

**ユーザーの処置:**
コマンドを -h オプションとともに発行して、正しい構文を参照してください。

---

**DBA3041E　データベースの名前は、1 文字から *maximum* 文字の間である必要があります。**

**説明:**
指定されたデータベース名が空か、または長すぎます。

**ユーザーの処置:**
有効なデータベース名を使用して、コマンドを再発行してください。

---

**DBA3042E　EXPLAIN 可能ステートメント・テキストは、1 文字から *maximum* 文字の間である必要があります。**

**説明:**
指定された EXPLAIN 可能ステートメント・テキストが空か、または長すぎます。

**ユーザーの処置:**
有効な EXPLAIN 可能ステートメント・テキストを使用して、コマンドを再発行してください。

**DBA3043E　照会タグには、*maximum* 文字より多くの文字は使用できません。**

**説明:**
指定された照会タグは長すぎます。

**ユーザーの処置:**
有効な照会タグを使用して、コマンドを再発行してください。

**DBA3044E　ユーザー ID の文字数は、*maximum* を超えてはいけません。**

**説明:**
指定されたユーザー ID が長すぎます。

**ユーザーの処置:**
有効なユーザー ID を使用して、コマンドを再発行してください。

**DBA3045E　照会番号の有効な範囲は 0 から *maximum* までです。**

**説明:**
指定された照会番号が小さすぎるか、または大きすぎます。

**ユーザーの処置:**
有効な照会番号を使用して、コマンドを再発行してください。

**DBA3046E　最適化クラスに有効な値は 0、1、2、3、5、7 および 9 です。**

**説明:**
指定された最適化クラスが、有効な値のいずれでもありません。

**ユーザーの処置:**
有効な最適化クラスを使用して、コマンドを再発行してください。

**DBA3047E　データベース *name* が見つかりません。**

**説明:**
コマンドに指定されたデータベース名が、システム・データベース・ディレクトリーに存在しません。

**ユーザーの処置:**
既存のデータベース名を使用して、コマンドを再発行するか、またはデータベースをシステム・データベース・ディレクトリーにカタログしてください。

**DBA3059I　選択した演算子 *operator* に関連する詳細情報がありません。**

**説明:**
選択した演算子の詳細情報は、DB2 管理ツールの現行リリースでは使用することができません。

**ユーザーの処置:**
ありません。

**DBA3060I　選択した演算子 *operator* に関連するヘルプ情報がありません。**

**説明:**
選択した演算子のヘルプ情報は、DB2 管理ツールの現行リリースでは使用することができません。

**ユーザーの処置:**
ありません。

**DBA3061I　この表に関連する列グループはありません。**

**説明:**
EXPLAIN 時に参照された表に定義された列グループがなく、表に現在定義されている列グループもありません。

**ユーザーの処置:**
応答は必要ありません。

**DBA3062N　DDL の生成をシステム表で実行することはできません。**

**説明:**
スキーマ SYSIBM、SYSCAT、または SYSSTAT を持つ表は、システム表です。

**ユーザーの処置:**
DDL の生成をシステム表以外で実行してください。

**DBA3063N　1 つ以上のシステム表が DDL の生成に選択されました。 DDL は選択されたユーザー表にのみ生成されます。 続行しますか?**

**ユーザーの処置:**
スキーマ SYSTEM、SYSCAT、および SYSSTAT を持つ表はシステム表です。

**ユーザーの処置:**
システム表以外の表のみに DDL を生成するには「はい」をクリックしてください。 DDL の生成操作を打ち切るには「いいえ」をクリックしてください。

---

**DBA3064N　最初の *number* 表のみが db2look によって処理されます。**

**説明:**
db2look -t オプションは *number* 表のみを処理します。

**ユーザーの処置:**
選択された表のリストを選択可能な表のリストに移動してください。

---

**DBA3065E　CLI エラーのため、スナップショットを処理できません。**

**説明:**
スナップショット処理中に CLI エラーが発生しました。 アクセス・プランを表示できません。

**ユーザーの処置:**
次のコマンドを発行して、CLI 構成をチェックしてください。
db2 get cli cfg
for section <db-name>

LONGDATACOMPAT を 1 に設定すると、異なる別名でデータベースをカタログします。
catalog db <db-name> as <db-alias-name>

データベース別名には LONGDATACOMPAT=0 を設定してください。
db2 update cli cfg for section <db-alias-name> using
longdatacompat 0

別名データベースの EXPLAIN について照会をサブミットしてください。

LONGDATACOMPAT が 1 に設定されていないか、またはパラメーターが CLI 構成に設定されていない場合は、IBM サービスに連絡してください。

---

**DBA3066E　スナップショットのためのステートメント・テキストに空ストリングが含まれています。**

**説明:**
EXPLAIN レコードのステートメント・テキストに空ストリングが含まれています。 EXPLAIN されたステートメント履歴は、正常に検索されません。

**ユーザーの処置:**
次のコマンドを発行して、CLI 構成をチェックしてください。
db2 get cli cfg
for section <db-name>

LONGDATACOMPAT を 1 に設定すると、異なる別名でデータベースをカタログします。
catalog db <db-name>
as <db-alias-name>

データベース別名には LONGDATACOMPAT=0 を設定してください。
db2 update cli cfg
for section <db-alias-name> using
longdatacompat 0

別名データベースの EXPLAIN について照会をサブミットしてください。

LONGDATACOMPAT が 1 に設定されていないか、またはパラメーターが CLI 構成に設定されていない場合は、IBM サービスに連絡してください。

---

**DBA4000W　本当に、モニターを停止して、スナップショット・モニターを終了してもいいですか?**

**説明:**
現在モニター中のすべてのデータベース・オブジェクトのモニターを停止し、パフォーマンス・モニターを終了することを要求しました。

**ユーザーの処置:**
要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

---

**DBA4001I　選択した項目についてのモニター・サマリーが存在しません。**

**説明:**
何もモニターされていないオブジェクトのレベルでのモニター活動を表示するよう要求しました。 表示するサマリー活動が存在しません。

**ユーザーの処置:**

選択したレベルに対応するオブジェクトについてモニターを開始したときに、アクションを再試行してください。

---

**DBA4002W** *name* **のモニターを停止しますか?**

**説明:**
現在モニター中のオブジェクトのモニター停止を要求しました。

**ユーザーの処置:**
要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

---

**DBA4003I IBM 提供のモニターでデフォルト・レベルのみが変更されました。**

**説明:**
IBM 提供のモニターの場合、変更可能な属性はこのモニターがデフォルトとして指定されているレベルのみです。

**ユーザーの処置:**

---

**DBA4004E 「除去」アクションにのみ複数の選択が許可されています。**

**説明:**
モニターのリストから複数のモニターを選択しました。複数のオブジェクトに対して実行できるアクションは「除去」のみです。

**ユーザーの処置:**
リストから 1 つのモニターを除くすべてのモニターを選択解除して、アクションをやり直してください。

---

**DBA4005W 選択したモニターを除去しますか?**

**説明:**
選択されたモニターをリストから除去するよう要求しました。

**ユーザーの処置:**
要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

---

**DBA4006W カウンターをリセットしますか?**

**説明:**
データベース・カウンターのリセットを要求しました。

**ユーザーの処置:**
要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

---

**DBA4007W このレベル内のすべてのオブジェクトのモニターを停止しますか?**

**説明:**
現在モニター中の、このレベル内のすべてのオブジェクトのモニターを停止することを要求しました。

**ユーザーの処置:**
要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

---

**DBA4008W このオブジェクト内のすべてのデータベース・パーティションのモニターを停止しますか?**

**説明:**
現在モニター中の、このオブジェクト内のすべてのデータベース・パーティションのモニターを停止することを要求しました。

**ユーザーの処置:**
要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

---

**DBA4009I IBM 提供のモニターを作成中です。**

**説明:**
IBM 提供のモニターを作成中です。 しばらくお待ちください。

**ユーザーの処置:**

---

**DBA4010E パフォーマンス・モニターが問題を検出したため、続行できません。アクションを再試行してください。 問題が解決しない場合、クライアントおよびサーバーのトレースを用意して、サポート担当者に連絡してください。**

**説明:**
予期しないエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
クライアントおよびサーバーのトレースを用意して、サポートに連絡してください。

---

**DBA4011E プログラム** *name* **は有効な名前ではありません。プログラムを実行できません。名前を確認して、アクションをやり直してください。**

**説明:**
無効なプログラム名を指定しました。

**ユーザーの処置:**

有効なプログラム名を指定して、アクションをやり直してください。

---

**DBA4012E　プログラム *name* を実行できません。現在実行中のスレッドは指定されたプログラムを実行することを許可されていません。**

**説明:**
指定されたプログラムの実行時にセキュリティー例外が発生しました。実行コマンドはアプリケーション・モードでのみ有効です。

**ユーザーの処置:**
コントロール・センターをアプリケーションとして実行するときに、アクションをやり直してください。

---

**DBA4013I　データベース・マネージャー・ノード *name* がダウンしています。**

**説明:**
ツール設定の「ノード状況」ページで、データベース・マネージャー・ノードのダウン時にその状況を通知するよう選択しました。

**ユーザーの処置:**
処理を続行するには、データベース・マネージャー・ノードを再始動してください。

---

**DBA4014I　データベース・マネージャー・ノード *name* の状態が不明です。**

**説明:**
ツール設定の「ノード状況」ページで、データベース・マネージャー・ノードの状態が不明のときにその状況を通知するよう選択しました。

**ユーザーの処置:**

---

**DBA4015E　*name* には無効入力が含まれています。項目を再入力してください。**

**説明:**
項目に無効な文字が含まれています。

**ユーザーの処置:**
新しい項目でアクションをやり直してください。

---

**DBA4016E　新しいモニターを作成できません。 モニターの最大数は *number* です。**

**説明:**
作成、別名保管、またはコピー要求が失敗しました。モニターの最大数に達しています。

**ユーザーの処置:**
未使用のモニターを除去して、アクションをやり直してください。

---

**DBA4017E　モニター接続を確立できません。モニター接続の最大数は *number* です。**

**説明:**
モニター接続の最大数に達しています。

**ユーザーの処置:**
後でアクションをやり直すか、またはマシンで実行されているモニター・セッションを停止してください。

---

**DBA4018W　*name* の入力が長すぎます。 文字の最大数は *number* です。 項目は切り捨てられます。**

**説明:**
項目が制限を超えています。

**ユーザーの処置:**

---

**DBA4019E　*name* の入力が長すぎます。 文字の最大数は *number* です。 有効な入力でアクションを再試行してください。**

**説明:**
項目が制限を超えています。

**ユーザーの処置:**
有効な入力でアクションを再試行してください。

---

**DBA4020W　パフォーマンス・モニター *name* を変更しました。変更を保管しますか?**

**説明:**
保管しないままパフォーマンス・モニターに対して 1 つまたは複数の変更を行い、「モニターの表示」ウィンドウを終了、または実行モニターに別のモニターを設定するよう要求しました。 「はい」をクリックしない場合は、変更が失われます。

**ユーザーの処置:**
要求を処理するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

---

**DBA4021W　*name* のパフォーマンス変数設定に変更を加えました。変更を次のスナップショットに適用しますか?**

**説明:**
パフォーマンス変数設定に対して 1 つまたは複数の変更を行いましたが、まだ保管されておらず、別のパフォーマンス変数の操作を選択しました。「はい」をクリックしない場合は、変更が失われます。

**ユーザーの処置:**
次のスナップショットに変更を適用するには「はい」を、取り消すには「いいえ」をクリックしてください。

---

**DBA4023E　パフォーマンス変数 *name* に、無効なアラームしきい値と警告しきい値の組み合わせが入力されました。 1 つまたは複数のしきい値を変更して、再試行してください。**

**説明:**
上限アラームしきい値は、上限警告しきい値よりも大きい必要があります。つまり、「上限アラームしきい値 > 上限警告しきい値 > 下限警告しきい値 > 下限アラームしきい値」である必要があります。 しきい値は、9 桁を超えない浮動値です。

**ユーザーの処置:**
しきい値を確認して、操作をやり直してください。

---

**DBA4024W　「サマリー」ページは、*number* 列を超えて表示することはできません。「詳細」ページに戻って、すべてのパフォーマンス変数を確認してください。**

**説明:**
「サマリー」ページには現在、収容可能な列数が表示されていますが、いくつかのパフォーマンス変数が示されていません。

**ユーザーの処置:**
「詳細」ページに戻って、すべてのパフォーマンス変数を確認してください。

---

**DBA4025W　*type* ビューは、*number* のパフォーマンス変数を超えて表示することはできません。**

**説明:**
パフォーマンス変数の最大数が表示されています。

**ユーザーの処置:**
パフォーマンス変数を追加する前に、1 つまたは複数のパフォーマンス変数を *type* ビューから除去してください。

---

**DBA4026E　適用外モニターがこのレベルのデフォルトとして設定されました。**

**説明:**
モニターにはこのレベルのパフォーマンス変数が少なくとも 1 つは組み込まれていなければなりません。

**ユーザーの処置:**
モニターを変更して、このレベルのパフォーマンス変数を少なくとも 1 つは組み込むようにします。

---

**DBA4027I　モニターするものがないので、モニターはまだ開始されていません。**

**説明:**
現在このインスタンスでモニターされるデータベースまたはゲートウェイ接続はありません。

**ユーザーの処置:**
モニターを開始するデータベースまたはゲートウェイ接続をカタログします。

---

**DBA4060E　パフォーマンス・モニターは現在、このインスタンスの別のモニターでアクティブです。**

**説明:**
インスタンスごとに一度にアクティブにできるモニターは 1 つだけです。 たとえば、データベース用のデフォルト・モニターと接続用のデフォルト・モニターが異なる場合、データベースのモニターと接続のモニター (またはリスト) を同時に行うことはできません。

**ユーザーの処置:**
「モニターのリスト」ウィンドウでは、以下を行うことができます。

1. どのモニターが実行中かを調べ、別のモニターを指定できるようにそのモニターを停止します。
2. どのモニターが実行中かを調べ、次のモニター・アクションにそのモニターを指定します。
3. すべてのレベルについてパフォーマンス変数を持つモニターを作成し、そのモニターを各レベルのデフォルト・モニターとして選択します。

---

**DBA4065E　しきい値をブランクにしたり、9 文字より多くすることはできません。有効なしきい値を入力してください。**

**説明:**
無効なしきい値が入力されたか、または値が内部で変更されています。 たとえば 123456789 は 123,456,789.0 と変更されますが、この場合しきい値に許容される文字数を超えてしまいます。

**ユーザーの処置:**
しきい値を再入力して、アクションをやり直してください。

---

**DBA4070E　JDBC サーバーが問題を検出しました。パフォーマンス・モニターのリストを処理できませんでした。**

**説明:**
予期しない問題が見つかりました。

**ユーザーの処置:**

JDBC サーバーが稼働中であるかどうか確認してください。稼働中であれば、JDBC サーバーのトレースを用意してサポート担当者に連絡してください。

---

**DBA4071W　モニターのいくつかは現在ローカルで使用中です。 リフレッシュされたリストには、ローカル・モニターのみが表示されます。**

**説明:**
モニターのリストは、ローカル・モニターでのみリフレッシュされます。

**ユーザーの処置:**
全リストを表示するには、アクティブ・モニターを停止して操作をやり直してください。

---

**DBA4072E　このモニター名はすでに存在しています。ユニーク名を指定してください。**

**説明:**
JDBC サーバーのパフォーマンス・モニター名は、モニターの作成者に関係なくユニークでなければなりません。

**ユーザーの処置:**
ユニークなモニター名を指定してください。

---

**DBA4074E　JDBC サーバーが問題を検出しました。操作を実行できませんでした。**

**説明:**
予期しない問題が見つかりました。

**ユーザーの処置:**
JDBC サーバーが稼働中であるかどうか確認してください。稼働中であれば、JDBC サーバーのトレースを用意してサポート担当者に連絡してください。

---

**DBA4075E　このパフォーマンス・モニターが空であるため、保管できません。少なくとも 1 つのパフォーマンス変数をモニターに追加して、操作を再試行してください。**

**説明:**
モニターは、有効にするために少なくとも 1 つのパフォーマンス変数を持っている必要があります。

**ユーザーの処置:**
少なくとも 1 つのパフォーマンス変数をモニターに追加して、操作を再試行してください。

---

**DBA4076E　モニターの作成者でないため、アクションを実行できません。**

**説明:**
モニターの変更、名前変更、または除去を行うには、そのモニターを所有していなければなりません。

**ユーザーの処置:**
モニターを変更する場合、そのモニターを別の名前の下にコピーしてから変更してください。

---

**DBA4079E　このモニターは現在、ローカルで使用中です。モニターを停止してから、除去または名前変更を行ってください。**

**説明:**
アクティブなモニターを除去または名前変更することはできません。

**ユーザーの処置:**
除去または名前変更を行う前に、モニターを停止してください。

---

**DBA4080E　このモニターは現在、リモートで使用中です。モニターが停止されてから、除去または名前変更を行ってください。**

**説明:**
アクティブなモニターを除去または名前変更することはできません。

**ユーザーの処置:**
モニターが停止されてから、除去または名前変更を行ってください。

---

**DBA4083E　このモニターが見つかりませんでした。他のユーザーがモニターを除去した可能性があります。すべてのモニターを停止してから、モニターのリストをリフレッシュしてください。**

**説明:**
あなたが使用しているモニターを他のユーザーが除去した可能性があります。

**ユーザーの処置:**
すべてのモニターを停止して、モニターのリストをリフレッシュしてください。

---

**DBA4090E　JDBC サーバーへの接続が異常終了しました。コントロール・センターをクローズして、操作をやり直してください。問題が解決しない場合、JDBC サーバーのトレースを用意して、サポート担当者に連絡してください。**

**説明:**
予期しないエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
コントロール・センターをクローズして、操作をやり直してください。問題が解決しない場合、JDBC サーバーのトレースを用意して、サポート担当者に連絡してください。

---

**DBA4095I　この機能はこのオブジェクトでは実装されていません。**

**説明:**
この機能は将来のリリース用のもので、現在このオブジェクトでは実装されていません。

**ユーザーの処置:**
ありません。

---

**DBA4220I　全データベース・リストアは表スペースのバックアップ・イメージからは実行することができません。**

**説明:**
全データベース・リストアは表スペースのバックアップ・イメージからは実行することができません。

**ユーザーの処置:**
ありません。

---

**DBA4221I　表スペースの選択はメディアのタイプではできません。**

**説明:**
表スペースの選択はメディアのタイプではできません。

**ユーザーの処置:**
ありません。

---

**DBA4222I　データベースがバックアップ・ペンディング状態にあるため、表スペースを選択できません。**

**説明:**
データベースがバックアップ・ペンディング状態にあるため、表スペースを選択できません。

**ユーザーの処置:**
ありません。

---

**DBA4223I　バックアップ・イメージ情報が手動で入力されているときには、全データベースが必要です。**

**説明:**
バックアップ・イメージ情報が手動で入力されているときには、全データベースが必要です。

**ユーザーの処置:**
ありません。

---

**DBA4730E　モニター・サーバーへのアクセス中にパフォーマンス・モニターが問題を見つけました。モニターを続行できません。 smcode:** *Error-code*

**説明:**
詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

**ユーザーの処置:**
技術サービス担当者に smcode を報告してください。

---

**DBA4731E　リソース問題がモニター・サーバーで発生しました。 smcode:** *Error-code*

**説明:**
詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

**ユーザーの処置:**
サーバー・リソースを解放して、操作を再試行してください。問題が解決しない場合、技術サービス担当者に smcode を報告してください。

---

**DBA4732E　データベース・インスタンスへの ATTACH を試みたときに問題が発生しました。 smcode:** *Error-code*

**説明:**
詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

**ユーザーの処置:**
操作を再試行してください。問題が解決しない場合、技術サービス担当者に smcode を報告してください。

---

**DBA4733W　モニターしたデータベース・インスタンスが停止しました。インスタンスを再始動してください。 smcode:** *Error-code*

**説明:**
詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

**ユーザーの処置:**
インスタンスを再始動してください。 問題が解決しない場合、技術サービス担当者に smcode を報告してください。

---

**DBA4734E　モニター・サーバーへのアクセス中にパフォーマンス・モニターが問題を見つけました。 smcode:** *Error-code*

**説明:**
詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

**ユーザーの処置:**
操作を再試行してください。問題が解決しない場合、技術サービス担当者に smcode を報告してください。

---

**DBA4735E　データベース・インスタンスへの ATTACH を試みたときに問題が発生しました。 smcode:** *Error-code*

**説明:**
詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

**ユーザーの処置:**
技術サービス担当者に smcode を報告してください。

---

**DBA4736E　クライアントで使用中の現行テリトリー・コードあるいは現行コード・ページを判別できません。 smcode:** *Error-code*

**説明:**
正しいコード・ページでデータが戻されるように、クライアントのテリトリー・コードとコード・ページをサーバーに送信する必要があります。モニター・サーバーが、有効なテリトリー・コードまたはコード・ページを判別できませんでした。

**ユーザーの処置:**
システムのテリトリー・コードおよび有効なコード・ページの設定方法を判別するためにオペレーティング・システムの資料を参照してください。 テリトリー・コードおよびコード・ページを設定してから操作を再試行してください。

---

**DBA4737E　サーバー上に現行クライアントのテリトリー・コードあるいは現行コード・ページを設定できません。 smcode:** *Error-code*

**説明:**
正しいコード・ページでデータが戻されるように、クライアントのテリトリー・コードとコード・ページをサーバーに送信する必要があります。モニター・サーバーが、クライアントの有効なテリトリー・コードまたはコード・ページをサーバー上に設定できませんでした。

**ユーザーの処置:**
サーバー・システムでクライアントのテリトリー・コードとコード・ページをアクティブ化する方法について判別するにはオペレーティング・システムの資料を参照してください。 テリトリー・コードおよびコード・ページを活動化してから操作を再試行してください。

---

**DBA4738E　システム** *name* **の Administration Server が始動していません。 smcode:** *Error-code*

**説明:**
システム *name* でリストされた Administration Server が始動していません。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を始動して、操作をやり直してください。

---

**DBA4739E　クライアント・システムのコード・ページを判別できませんでした。クライアント・システムが正しくセットアップされていない可能性があります。 smcode:** *Error-code*

**説明:**
これはクライアント・システム上のセットアップの問題です。

**ユーザーの処置:**
IBM サービスに連絡してください。

---

**DBA4740E　クライアント・コード・ページ** *name* **は、インスタンス** *name* **で使用できません。 smcode:** *Error-code*

**説明:**
リストされたコード・ページが、インスタンス *name* にインストールされていません。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に連絡してください。 管理者が、コード・ページ *name* をインスタンス *name* にインストールする必要があります。

---

**DBA4741E　クライアント・コード・ページ** *name* **がインスタンス** *name*、**ノード** *name* **で使用できません。 smcode:** *Error-code*

**説明:**
リストされたコード・ページが、インスタンス *name*、ノード *name* にインストールされていません。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に連絡してください。管理者が、コード・ページ *name* をインスタンス *name*、ノード *name* にインストールする必要があります。

---

**DBA4742E** **Administration Server** *name* **が見つかりません。 smcode:** *Error-code*

**説明:**
この問題が発生すると考えられる理由は 1) リモート・インスタンス名が無効である。 2) ホスト名が無効である。のいずれかです。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に連絡してください。

---

**DBA4743E** **Administration Server** *name* **が問題を検出しました。 sqlcode:** *Error-code***. smcode:** *Error-code*

**説明:**
Administration Server *name* に内部エラーがあります。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に連絡してください。

---

**DBA4744E** **コントロール・センターがノード** *name* **のインスタンス** *name* **で並列ツールと通信できませんでした。 通信を開始してみてください。 smcode:** *Error-code*

**説明:**
通信が始動していない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に連絡してください。

---

**DBA4745E** **コントロール・センターとノード** *name* **インスタンス** *name* **のリスナー (db2cclst) との間で TCP/IP ポート構成が間違っています。 smcode:** *Error-code*

**説明:**
ノード *name* にある /etc/services ファイルに誤った情報が含まれている可能性があります。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に連絡してください。管理者は db2ccmsrv のポート名がノード *name* の /etc/services ファイルに正しく入力されているか、チェックする必要があります。

---

**DBA4746E** **インスタンス・ノード・ホスト名** *name* **はインスタンス** *name* **では無効です。 smcode:** *Error-code*

**説明:**
インスタンス *name* に対する db2nodes.cfg ファイルに誤った情報が含まれている可能性があります。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に連絡してください。管理者はインスタンス *name* に対する db2nodes.cfg ファイルで見つかるホスト名の妥当性検査をする必要があります。

---

**DBA4747E** **パフォーマンス・モニターが、スナップショット・キャプチャー・インターバル内にノード** *name* **から応答を受け取りませんでした。 smcode:** *Error-code*

**説明:**
リストされたノードのパフォーマンス上あるいは通信上の問題により、応答が送信されません。あるいはスナップショット・キャプチャー・インターバルが不十分なため、各ノードの時間が足りず、要求に応答できません。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に連絡してください。管理者は次のいずれかを行ってください。1) リストされたノードでのパフォーマンスの妥当性検査を行う。 2) スナップショット・キャプチャー・インターバルを大きくして、スナップショット要求に対応するノードに対してさらに多くの時間を使用できるようにする。

---

**DBA4748E** **インスタンス** *name* **の論理ノード** *name* **は無効です。 smcode:** *Error-code*

**説明:**
インスタンス *name* に対する db2nodes.cfg ファイルに誤った情報が含まれている可能性があります。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に連絡してください。

---

**DBA4749E** **インスタンス** *name* **のモニター・サーバーが、ノード** *name* **との通信を確立できません。 smcode:** *Error-code*

**説明:**
通信サブシステムが始動していない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
上で指定したノードで db2cclst 処理を開始します。 それでも問題が解決されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

---

**DBA4750E** **切り替えられるインスタンスがありません。 smcode:** *Error-code*

**説明:**
詳細については Administration Server エラー・ログを参照してください。

**ユーザーの処置:**
技術サービス担当者に smcode を報告してください。

---

**DBA5006E** *evname* **は Named PIPE に書き込むイベント・モニターです。イベント・アナライザーは PIPE イベント・モニターをサポートしません。**

**説明:**
イベント・アナライザーだけが、FILE イベント・モニターが作成したトレースを処理できます。

**ユーザーの処置:**
FILE イベント・モニターを使用してください。

**DBA5007E** **イベント・モニター** *event-monitor* **が存在しません。**

**説明:**
-evm オプションで指定されたイベント・モニターが、-db オプションで指定されたデータベースのカタログに見つかりませんでした。イベント・モニターがドロップされているか、または間違ったデータベースに接続しようとしています。

**ユーザーの処置:**
-db で指定されているデータベース別名が正しくカタログされており、イベント・モニターがドロップされていないことを確認してください。 後者の場合は、イベント・モニターを再作成してください。

**DBA5250I** **検索したレコード数がウィンドウの限界を超えました。 リストの一部が表示されます。**

**説明:**
取り出されたオブジェクトの表示に必要なウィンドウの高さが、システム制限を超えています。

**ユーザーの処置:**
以下を行うことにより、ウィンドウに表示されるオブジェクトの数を減らすことができます。

- “組み込み” 項目が “表示” メニューで使用可能な場合は、ウィンドウに表示するオブジェクトのサブセットを指定できます。 “組み込み” を選択すると、ウィンドウが表示され、基準のサブセットの入力を要求するプロンプトが表示されます。

**DBA5300E** **イベント・アナライザーの呼び出しエラー。**
**使用法:**
**db2eva [ - db database-alias**
**-evm evmon-name ]**

**説明:**
db2eva のコマンド・パラメーターは以下のとおりです。

**-db database-alias**
トレースを解析したマシンでカタログするときに、イベント・モニターが定義されたデータベースを指定します。

**-evm evmon-name**
解析するイベント・モニター・トレース表。イベント・モニターは、データベースで -db パラメーターを指定して定義する必要があります。

データベースおよびイベント・モニター名を指定すると、 db2eva はデータベースに接続し、 ’select target from sysibm.syseventmonitors’ を発行して、イベント・モニターがトレースを書き込んだ表を探索します。このモードを使用中は、イベント・モニターおよび関連する表をドロップしないでください。

パラメーターを指定しない場合はダイアログ・ボックスがオープンし、データベース別名と解析するイベント・モニター名を促すプロンプトが出されます。

**ユーザーの処置:**
有効な引数を使用して、コマンドを再発行してください。

**DBA5311E** **イベント・モニターの呼び出しエラー。**
**Usage: db2emcrt database-alias**

**説明:**
db2emcrt コマンドのコマンド・パラメーターは次のとおりです。

**database-alias**
db2emcrt コマンドが呼び出されるマシンにカタログされているとおりに、イベント・モニターを作成または解析するデータベースを指定します。 database-alias は、トレースで指定したデータベース名をオーバーライドします。

**ユーザーの処置:**
有効な引数を使用して、コマンドを再発行してください。

**DBA5350E** **ファイル** *file-name* **のオープン中にエラーが発生しました。**

**説明:**
不明な原因により、指定されたファイルが読み取り専用でオープンできませんでした。

**ユーザーの処置:**
-path オプションで指定したディレクトリーのスペル、このディレクトリーのアクセス権限、およびこのディレクトリーが空ではなく、00000000.evt という名前の読み取り可能なトレース・ファイルを含んでいることをチェックしてください。

注: イベント・モニターの最初のトレース・ファイルは、常に 00000000.evt という名前で、この名前は変更できません。

---

**DBA5351E　ファイル *file-name* が見つかりません。**

**説明:**
-path で指定されたディレクトリーに 00000000.evt ファイルがありません。

**ユーザーの処置:**
-path オプションで指定したディレクトリーのスペル、このディレクトリーのアクセス権限、およびトレース・ファイル 00000000.evt を含んでいることをチェックしてください。

注: イベント・モニターの最初のトレース・ファイルは、常に 00000000.evt という名前で、この名前は変更できません。

---

**DBA5352E　パス *path-name* が見つかりません。**

**説明:**
-path オプションが、存在しないディレクトリーを指定しています。

**ユーザーの処置:**
-path オプションで指定したディレクトリーのスペル、このディレクトリーのアクセス権限、およびトレース・ファイル 00000000.evt を含んでいることをチェックしてください。

注: イベント・モニターの最初のトレース・ファイルは、常に 00000000.evt という名前で、この名前は変更できません。

---

**DBA5353E　*param-1* へのアクセスが拒否されました。**

**説明:**
指定されたファイルが、読み取り専用でオープンできませんでした。 -path オプションが、あなたが十分なアクセス権限を持っていないディレクトリーを指定している可能性があります。

**ユーザーの処置:**

- -path オプションで指定されているディレクトリーに対するアクセス権限をチェックしてください。
- 指定されたファイルが、排他モードでロックされていないことを確認してください。

---

**DBA5354E　*file-name* から、データが読み取れません。**

**説明:**
イベント・モニター・トレース・ファイルに予期しないデータが含まれているか、またはアクセスできません。

トレース・ファイルが伝送中に壊れた可能性があるか、または除去されています。

**ユーザーの処置:**
もう一度、サーバーからトレース・ファイルを伝送してください。トレース・ファイルをリモート・サーバーから伝送する場合は、伝送がバイナリー・モードで実行されていることを確認してください。

---

**DBA5355E　イベント・モニター・ログ・ヘッダーが、*file-name* に見つかりませんでした。**

**説明:**
イベント・モニターによって書き込まれる最初のファイル名は 00000000.evt で、このファイルには、トレースの特性を識別するデータ構造が含まれています。 このデータ構造が読み取れませんでした。 考えられる理由は、以下のとおりです。

- トレース・ファイルが破壊されました。
- トレース・ファイルが空です。 これは、イベント・モニターがアクティブになっていてもバッファーをフラッシュしていない場合に起こる可能性があります。

**ユーザーの処置:**

- トレースがリモート・サーバーから伝送された場合は、伝送がバイナリー・モードで実行されることを確認して、再伝送してください。
- トレース・ファイルが空の場合は、イベント・モニターをオフにして、強制的にバッファーをフラッシュしてください。

---

**DBA5356E　*file-name* でバイト・オーダーが無効です。**

**説明:**
イベント・モニターのログ・ヘッダー (新しいトレースに最初に書き込まれるレコード) が、トレースに含まれているのが、little-endian なのか、big-endian (たとえば、 AIX) なのかを示します。 指定されたトレース・ファイルに存在する値が、サポートされる 2 つのタイプのデータのいずれでもありません。

トレース・ファイルが、伝送中に壊れた可能性があります。

**ユーザーの処置:**

もう一度、サーバーからトレース・ファイルを伝送してください。トレース・ファイルをリモート・サーバーから伝送する場合は、伝送がバイナリー・モードで実行されていることを確認してください。

---

**DBA5357E　ファイル *file-name* のオフセット *offset-value* で予期しないデータが検出されました。**

**説明:**
イベント・モニター・トレース・ファイルに予期しないデータが含まれています。

トレース・ファイルが、伝送中に壊れた可能性があります。

**ユーザーの処置:**
伝送が バイナリー・モードで実行されることを確認して、トレース・ファイルをサーバーから再伝送してください。

---

**DBA5358I　アクティブなローカル Administration Server がないと、ローカル・ファイル・システムをブラウズできません。**

**説明:**
ファイル・ブラウザーには、ファイル・システムをブラウズするために、データベース管理サーバー (DAS) インスタンスが必要です。これがクライアント・インストールの場合、DAS インスタンスは存在せず、ローカル・ファイルのブラウズもできません。

**ユーザーの処置:**
サーバーのインストールの場合、DAS インスタンスが開始されていることを確認して操作を再試行してください。

---

**DBA5500E　システム・エラーが発生しました。イベント・アナライザー・ツールが処理を続行できませんでした。**

**説明:**
アプリケーション環境の初期化を試行中に、不明な理由によりシステム・エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再発行してください。

---

**DBA5501W　除去するイベント・モニター *evname* に関連するイベント・ファイルを削除しますか?**

**説明:**

**ユーザーの処置:**
選択されたイベント・モニターのイベント・ファイルを削除する場合は、「OK」をクリックしてください。 イベント・ファイルを削除しないで、イベント・モニターを除去する時は「いいえ」をクリックしてください。

---

**DBA5502E　イベント・タイプ・リストからなにも選択されていません。 リストから 1 つまたは複数のタイプを選択する必要があります。**

**説明:**
イベント・モニターを作成するときは、少なくとも 1 つのイベント・タイプを選択する必要があります。

**ユーザーの処置:**
作成イベント・モニター・ウィンドウから 1 つまたは複数のイベント・タイプ・チェック・ボックスを選択してください。

---

**DBA5503I　イベント・モニター *evname* が正常に作成されました。**

**説明:**
イベント・モニターが正常に作成され、イベント・モニターのデータベースのリストに追加されました。

**ユーザーの処置:**
OK をクリックしてメッセージを除去してください。

---

**DBA5504W　イベント・ファイルを削除できなかったため、いくつかのイベント・モニターが除去されませんでした。 除去されていないイベント・モニターのリストは、ジャーナル・ノートブックのメッセージ・ページを参照してください。**

**説明:**
選択されたいくつかのイベント・モニターが正常に除去されましたが、その他は、関連のイベント・トレース・ファイルを削除できなかったため、除去されませんでした。

これは、イベント・ファイルが読み取り専用のときまたは別のアクティブ処理によって使用される場合に発生します。

**ユーザーの処置:**
除去されていないイベント・モニターのリストは、ジャーナル・ノートブックのメッセージ・ページを参照してください。 ファイルを削除するには、ファイルを使用中の処理を終了して、ファイルのアクセス権限をチェックしてください。 その後、イベント・モニターのリストからイベント・モニターを選択してメニューから除去を選択してください。

---

**DBA5505E　最大ファイル・サイズが指定されていません。**

**説明:**
4K ページの最大ファイル・サイズが、イベント・モニター作成オプション・ウィンドウで選択された場合、イベント・ファイルの最大サイズを指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
1 から 2,147,483,647 4K ページまでの最大ファイル・サイズを入力するか、または最大オプションなしを選択できます。 最大オプションなしを選択した場合は、イベント・ファイルの最大数が 1 です。

**DBA5506E　ファイルの最大数が指定されていません。**

**説明:**
最大ファイル・サイズが、イベント・モニター作成オプション・ウィンドウで選択された場合、イベント・ファイルの最大数を指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
1 から 2,147,483,647 までのイベント・ファイルの最大数を入力するか、または最大オプションなしを選択できます。

**DBA5507E　バッファー・サイズが指定されていません。**

**説明:**
4K ページのイベント・モニター・バッファー・サイズを指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
1 から 2,147,483,647 4K ページまでのイベント・モニター・バッファー・サイズを入力する必要があります。

**DBA5508W　除去するイベント・モニター関連のイベント・ファイルを削除しますか?**

**ユーザーの処置:**
選択されたイベント・モニターのイベント・ファイルを削除する場合は、OK をクリックしてください。 イベント・ファイルを削除せずにイベント・モニターを除去する時は「いいえ」をクリックしてください。選択されたイベント・モニターを除去しない場合、またはイベント・ファイルを削除しない場合には、「キャンセル」をクリックしてください。

**DBA5509E　イベント・モニターに対して入力された名前は無効です。**

**説明:**
イベント・モニター・フィールドに入力された名前は、1 つまたは複数の許可されない文字を含んでいます。イベント・モニターは英数字を含めますが、文字で始める必要があります。

**ユーザーの処置:**
英数字以外のを名前から除去して、名前は文字で始めてください。

**DBA5510E　モニターを活動化するとき、データ・ファイルのディレクトリーが見つかりませんでした。**

**説明:**
イベント・モニターを活動化するとき、イベント・モニター作成時に指定されたディレクトリーが存在しなければなりません。 バッファーをフラッシュするには、イベント・モニターは既存のファイルおよびパスを必要とします。

**ユーザーの処置:**
イベント・モニター作成時に指定されたディレクトリーを作成してください。 イベント・モニターを再び活動化してください。

**DBA5511E　入力 *name* は許容範囲外の値であるため、無効です。**

**説明:**
イベント・モニター最大ファイル・サイズの値、ファイルの最大数、およびバッファー・サイズが 1 から 2,147,483,647 までででなければなりません。

**ユーザーの処置:**
入力フィールドに、与えられた範囲内の値を入力してください。

**DBA5512E　イベント・モニターに対して入力された *character* 文字は許可されません。**

**説明:**
イベント・モニター名入力フィールドで入力された文字はイベント・モニター名に対して無効な文字です。

**ユーザーの処置:**
イベント・モニター名から英数字以外を除去して、名前は文字で始めてください。

**DBA5513E　ダイナミック・リンク・ライブラリー “DB2EVA.DLL” を正常にロードできませんでした。**

**説明:**
イベント・アナライザーの初期化中に、dll が削除または除去されたためロードされません。

**ユーザーの処置:**
インストール処理中にパフォーマンス・モニターを選択してイベント・アナライザーを再インストールしてください。

---

**DBA5514I　イベント・モニター *evname* のイベント・ファイルを削除できませんでした。**

**説明:**
イベント・モニターのイベント・ファイルを、ファイルがアクティブ処理によって使用中か、または読み取り専用のため削除できませんでした。

**ユーザーの処置:**
ファイルを削除するには、ファイルを使用中の処理を終了して、ファイルのアクセス権限をチェックしてください。 イベント・モニターを再選択してメニューから除去を選択してください。

---

**DBA5515E　データベース別名またはデータベース名 *dbname* が見つかりません。**

**説明:**
コマンド行で入力された別名はこのマシンではカタログされていません。

**ユーザーの処置:**
このマシンの別名をカタログしてコマンドを再入するか、または有効な別名でコマンドを再発行してください。

---

**DBA5516W　このイベント・モニターのトレースの表示には時間がかかります。 処理を継続しますか?**

**説明:**
ユーザーはイベント・モニターの大きなトレースの表示を要求しました。読み取りファイルを完了するには時間がかかります。

**ユーザーの処置:**
トレース処理を継続する場合は、OK をクリックしてください。トレース・ファイル処理を継続しない場合はいいえ をクリックしてください。

---

**DBA5517E　理由コード *reason-code* のため、イベント・モニターを開始できません。**

**説明:**
*reason-code*: によって示されている以下の理由のため、イベント・モニターを開始できませんでした。

1. イベント・モニター・パスが無効です。
2. イベント・モニターが開始される装置が作動不能です。
3. Administration Server とのアタッチメントが失敗しました。

**ユーザーの処置:**
イベント・モニターを開始するには、イベント・モニター・パスが有効であること、Administration Server が開始したこと、および装置の正確な権限が存在していることを確認してください。「OK」をクリックします。

問題が継続する場合、装置にイベント・モニターのディレクトリーを手動で作成して「OK」をクリックしてください。

イベント・モニターを開始せずに作成する場合、「今開始する」チェック・ボックスを選択解除して、「OK」をクリックしてください。

---

**DBA5518E　イベント・モニターの出力ディレクトリーが作成されないため開始できません。**

**説明:**
以下のいずれかの理由で、ディレクトリーが作成できません。

1. 要求ファイル・システムにディレクトリーを作成するために適切な権限がない。
2. イベント・モニターの作成が Intel 以外のプラットフォーム上のディレクトリーの作成をサポートしていない。
3. FAT ファイル・システムで 8 文字より大きいディレクトリーを作成できない。

**ユーザーの処置:**
ディレクトリー作成に適切な権限があるかを確認してください。

Intel 以外のプラットフォームでイベント・モニター出力・ディレクトリーを手操作で作成してください。

---

**DBA5519I　イベント・モニター表がイベント・ソース・データベースで見つかりませんでした。**

**説明:**
イベント・モニター・レコードを保留しているイベント・モニター表が指定されたソース・データベースで見つかりませんでした。

**ユーザーの処置:**
イベント・モニター表がソース・データベースに存在していて、表名が SYSIBM.SYSEVENTTABLES にあることを確認してください。

---

**DBA5520E** **イベント・モニター・コントロール表がイベント・ソース・データベースで見つかりませんでした。**

**説明:**
イベント・モニター・コントロール表をオープンできません。

**ユーザーの処置:**
イベント・モニター・コントロール表がソース・データベースに存在していて、表名が SYSIBM.SYSEVENTTABLES にあることを確認してください。

**DBA5521I** **データベースへの接続が確立されていません。 イベント・モニター・リストを検索できません。**

**説明:**
データベースへの接続が確立されていません。

**ユーザーの処置:**
データベース・マネージャー・コマンドが発行されていることを確認してください。問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

**DBA6001I** **レプリケーション・サブスクリプション設定** *subscription-set* **は使用されています。しばらくしてから再試行してください。**

**説明:**
アプライ・プログラムは現在レプリケーション・サブスクリプションを処理中のため、このアクションを非活動にできません。 アプライ・プログラムが処理を完了するまで待機して、コマンドを再試行してください。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DBA6002I** **レプリケーション・ソース** *source-name-1.source-name-2* **は正常に定義されました。 レプリケーション・ソースに変更を収集するには、コマンド行からキャプチャー・プログラムを開始してください。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは、実行するために、定義済みのレプリケーション・ソースが必要です。

**ユーザーの処置:**
キャプチャー・プログラムが実行中であることを確認してください。

**DBA6003I** **レプリケーション・サブスクリプションは正常に定義されました。 サブスクリプション設定の複製を始めるには、コマンド行からアプライ・プログラムが開始済みであるか確認してください。**

**説明:**
アプライ・プログラムは、実行するために、定義済みのレプリケーション・ソースが必要です。

**ユーザーの処置:**
アプライ・プログラムが実行中であることを確認してください。

**DBA6004I** **レプリケーション・サブスクリプションは正常に変更されました。**

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DBA6005I** **レプリケーション・ソースは正常に除去されました。**

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DBA6006I** **レプリケーション・ソース** *source-name* **を除去できませんでした。**

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DBA6007I** **レプリケーション・サブスクリプション** *subscription-name* **を除去できませんでした。**

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DBA6008I** **レプリケーション・サブスクリプションは正常に除去されました。**

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA6009I** *file-name* **は別のアクションによりロックされています。**

**説明:**
現在ファイルは別のアクションによって使用中です。

**ユーザーの処置:**
アクションが完了するまで待機して、コマンドを再試行してください。

---

**DBA6010I 結合は正常に定義されました。**

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA6012I レプリケーション・ソースは正常に定義されました。 レプリケーション・ソースへの変更の収集を開始するにはコマンド行からキャプチャー・プログラムが開始済みであることを確認してください。**

**説明:**
キャプチャー・プログラムは、実行するために、定義済みのレプリケーション・ソースが必要です。

**ユーザーの処置:**
キャプチャー・プログラムが実行中であることを確認してください。

---

**DBA6013I レプリケーション・サブスクリプションは正常に更新されました。**

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA6014I レプリケーション・サブスクリプションは正常にクローンされました。**

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA6015I このアクションの SQL ステートメントはこれからの編集および実行のためにファイルに保管されています。**

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA6016I SQL スクリプト・ファイルは正常に実行されています。**

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA6100I アプライ・プログラムは、このセットへのフル・リフレッシュ・コピーのみを行います。**

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA6101E 表** *table-name-1.table-name-2* **を検索できません。**

**説明:**
指定されたコントロール表はデータベースで見つからないか、または誤ってドロップされました。

**ユーザーの処置:**
コントロール表を作成してください。 詳細については「表」の章を参照してください。

---

**DBA6102I このアクションは、終了までしばらく時間がかかります。 お待ちください...**

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA6103E SQL ファイル** *file-name* **を実行できません。**

**説明:**
ユーザーは、レプリケーション・ソースの定義のようなレプリケーション・アクションに対して SQL ステート

メントを編集した可能性があるため、SQL ステートメント・ファイルでエラーが起きました。

**ユーザーの処置:**
SQL ステートメント・ファイルのエラーを訂正して、ファイルを再実行してください。

---

**DBA6104W　ユニークな接頭部文字が見つかりませんでした。 接頭部文字は NULL に設定されました。**

**説明:**
接頭部文字は、ソース表で変更前イメージ列を識別するために使用される英字文字または数値文字です。 すべての可能な接頭部文字がすでに使用中のため、接頭部文字が割り当てられない場合は、この警告が出されます。変更データ表は作成されません。

**ユーザーの処置:**
変更前イメージ列をチェック解除してアクションをやり直してください。

---

**DBA6105E　フィールド *field-name* には入力が必要です。**

**説明:**
ユーザーは必須フィールドに記入していません。

**ユーザーの処置:**
パラメーターを指定して、**OK** を選択してください。

---

**DBA6106E　レプリケーション・アクションは現在このデータベース・システムをサポートしていません。**

**説明:**
レプリケーション・アクションは、実行するためにデータベース・システムをサポートする必要があります。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DBA6107E　フィールド *field-name* に対して別の値を入力してください。**

**説明:**
レプリケーション・サブスクリプションをクローンするとき、**ターゲット・サーバー**および**アプライ修飾子**フィールドがオリジナルの**ターゲット・サーバー**および**アプライ修飾子**フィールドと異なる必要があります。

**ユーザーの処置:**
別のターゲット・サーバー名を入力するか、または修飾子を適用して「**OK**」を選択してください。

---

**DBA6108E　構文エラーのためアクションを完了できません。**

**説明:**
SQL ステートメントには構文エラーが含まれます。

**ユーザーの処置:**
正しい構文については、「SQL リファレンス」をチェックしてください。 サブスクリプション・アクションについては、 WHERE 文節、行ページ、あるいは CREATE 列をチェックしてください。 define-join アクションについては、 CREATE VIEW ステートメントをチェックしてください。

---

**DBA6109E　SHOW COLUMNS アクションを完了できません。**

**説明:**
SHOW COLUMNS アクションには選択された表が必要です。

**ユーザーの処置:**
「選択表」リスト・ボックスから表を選択して、SHOW COLUMNS キーを押してください。

---

**DBA6110E　SQL ファイル *file-name* をオープンできません。**

**説明:**
SQL ファイルが存在していない、間違ったサブディレクトリーにある、あるいは別の処理で使用中であるかのいずれかです。

**ユーザーの処置:**
正しいファイル名を入力していて、そのファイルが正しいサブディレクトリーにあるか確認してください。 ファイルが別の処理に使用されている場合、処理を終了してファイル名を再入力します。

---

**DBA6111E　ファイル *file-name* をオープンできません。**

**説明:**
ファイルが存在しないか、あるいは間違ったサブディレクトリーにあります。

**ユーザーの処置:**
「ツール設定」ノートブックの「レプリケーション」ページで正しいファイル名を入力しているか、確認してください。

---

**DBA6112I** **「ツール設定」ノートブックにレプリケーション・オブジェクトを定義するためにユーザー定義の値の置換を選択しました。 ファイル *file-name* にこの値を提供してください。**

**説明:**
これは情報メッセージです。

**ユーザーの処置:**
ファイルにすでにユーザー定義の値を提供している場合にはアクションは不要です。

---

**DBA6113E** ***keyword* はファイル *file-name* で無効なキーワードです。**

**説明:**
指定されたキーワードは無効で、タイプミスによるエラーの可能性があります。

**ユーザーの処置:**
デフォルト・ファイル ″DPREPL.DFT″ で与えられたようにキーワードを使用してください。

---

**DBA6114E** **キーワード *keyword* に対する値がファイル *file-name* では見つかりません。**

**説明:**
このキーワードに対する値はこのアクションを完了するのに必要です。

**ユーザーの処置:**
このキーワードに対する値をファイルに指定してください。

---

**DBA6115E** **列リストの項目で選択された項目はありません。 このアクションを完了することができません。**

**説明:**
このアクションを完了するには、列リストの少なくとも 1 つの項目が選択される必要があります。

**ユーザーの処置:**
列リストから 1 つまたは複数の項目を選択して **OK** を押してください。

---

**DBA6116E** **キーワード *keyword* に対する値がファイル *file-name* で無効です。**

**説明:**
このキーワードに対する値が長すぎて間違ったデータ・タイプか、あるいはフォーマットが間違っているかのどちらかです。

**ユーザーの処置:**
値を訂正してアクションを再度呼び出してください。

---

**DBA6117W** **変更前イメージ列 *column-list* が *number* バイトに切り捨てられました。これは、オリジナル列の長さが変更前イメージ接頭部 *before-image-prefix* に付加される前にデータベース制限に達していたためです。**

**説明:**
元のソース表からの列の長さがデータベースの制限に達しています。 変更前イメージ接頭部に追加される前に、列名の終わりにある文字が、データベースの制限に適合するように、切り捨てられています。 新しい変更前イメージ列名は、切り捨てられた文字にユニーク名を保証する必要があるため、ユニークとはならなくなります。

**ユーザーの処置:**
切り捨てられた名前がユニークでない場合には、変更前イメージ列をチェック解除して、アクションを再実行してください。

---

**DBA6118W** **データ・タイプ *datatype-list* はデータベース *database* でサポートされません。データ・タイプは SQL スクリプトで *datatype-list* に変換されます。**

**説明:**
ソースからのデータ・タイプの中には、名前付きデータベースではサポートされないものもあります。 ただし、同等のデータ・タイプが名前付きデータベースにあります。 生成された SQL ステートメントは、サポートされないデータ・タイプの代わりに、変換されたデータ・タイプを使用します。

**ユーザーの処置:**
変換されたデータ・タイプが許可できるものである場合、アクションは不要です。許可できるものでない場合、ターゲット列をチェック解除して、アクションを再実行してください。

---

**DBA6119W** **データ・タイプ *datatype-list* はデータベース *database* でサポートされません。これらのデータ・タイプが含まれる列は、SQL スクリプトから排除されます。**

**説明:**
ソースからのデータ・タイプの中には、名前付きデータベースではサポートされないものもあります。 同等のデータ・タイプが名前付きデータベースにありません。 生成された SQL ステートメントは、サポートされないデータ・タイプが含まれる列を排除します。

**ユーザーの処置:**

特定のデータ・タイプを、将来名前付きデータベースでサポートしてもらいたい場合には、IBM サービスに連絡してください。

---

**DBA6120W** **ソース表 *table-name* は 主キーで定義されていません。ターゲット表の 主キーを「ターゲット列」ページで指定してください。**

**説明:**
サブスクリプション定義アクションは、ソース表に対する修飾 主キーを検出できませんでした。そのため、サブスクリプション定義はターゲット表に対する該当 主キーを判別できません。

**ユーザーの処置:**
ターゲット表の 主キーを「詳細」ノートブックの「ターゲット列」ページで指定してください。

---

**DBA6121W** **非互換 Java ランタイム環境が検出されました。 Java ランタイム環境に必要なレベルがインストールされているかどうかを確認してください。**

**説明:**
インストールされた Java ランタイムが、DB2 Java アプリケーションによってサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
前提となる Java ランタイム環境レベルの情報については、コントロール・センターの readme.htm を参照してください。

---

**DBA6123E** **オブジェクトのスキーマ名の長さが *number* バイトを超えているので、要求されたアクションを実行できません。**

**説明:**
データ・レプリケーション・コンポーネントは最長 128 バイトのスキーマ名をサポートします。 それよりも長いスキーマ名のオブジェクトに対してレプリケーション・アクションを実行しようとしました。 アクションを実行できません。

**ユーザーの処置:**
スキーマ名が 128 バイト以下のオブジェクトを選択して、アクションを再実行してください。

---

**DBA6124W** **一部のオブジェクトのスキーマ名の長さが *number* バイトを超えているため、選択されたそれらのオブジェクトでは要求されたアクションを実行できません。**

**説明:**
データ・レプリケーション・コンポーネントは最長 128 バイトのスキーマ名をサポートします。 それよりも長いスキーマ名の一部のオブジェクトに対してレプリケーション・アクションを実行しようとしました。 アクションはスキーマ名が 128 バイト以下のオブジェクトを選択して、アクションを再実行してください。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA6125W** **フィールド *field* に *number* バイトを超える長さのスキーマ名があります。 スキーマ名は *number* バイトで切り捨てられます。**

**説明:**
データ・レプリケーション・コンポーネントは最長 128 バイトのスキーマ名をサポートします。 フィールド内のスキーマ名は 128 バイトを超えるので、128 バイトに切り捨てられます。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。ただし既存のスキーマ名を切り捨てたくない場合は、フィールドにより短いスキーマ名を入力してください。

---

**DBA7000E** ***product-name* のライセンスは除去できません。 RC = *return-code*。**

**説明:**
ライセンスを除去できませんでした。 ライセンスが nodelock ファイルに見つからないか、またはnodelock ファイルを更新できませんでした。

**ユーザーの処置:**
nodelock ファイルの許可をチェックして、ライセンスがあることをチェックしてください。

ファイルのロケーションは、以下のようにプラットフォームによって特定されます。

- AIX - /var/ifor/nodelock
- Windows オペレーティング・システム - $DB2PATH/license/nodelock
- それ以外のすべてのオペレーティング・システム - /var/lum/nodelock

---

**DBA7001E** **ライセンスを nodelock ファイルに追加できませんでした。 RC = *return-code*。**

**説明:**
ライセンス・ファイルの転送中またはライセンスのインストール中に、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**

nodelock ファイルの許可をチェックしてください。 ファイルのロケーションは、以下のようにプラットフォームによって特定されます。

- AIX - /var/ifor/nodelock
- Windows オペレーティング・システム - $DB2PATH/license/nodelock
- それ以外のすべてのオペレーティング・システム - /var/lum/nodelock

またコマンド行ユーティリティーの db2licm を使用してライセンスを追加することもできます。

問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

---

**DBA7002E　ライセンス証明書が無効です。 有効なライセンス・ファイルでこのコマンドを再度試行してください。 RC = *return-code*。**

**説明:**
指定されたファイルに含まれるライセンス証明書に有効な db2 ライセンスがないか、または認識されていないフォーマットになっています。

**ユーザーの処置:**
IBM 担当員または正規販売代理店から有効な DB2 ライセンス証明書を入手してください。

---

**DBA7003W　現在のユーザーのリストを検索できません。 RC = *return-code*。**

**説明:**
ユーザーをトラックするデーモンまたはサービスが正しく機能していないか、またはまだ開始されていません。並行ユーザー・ポリシーまたは登録されているユーザー・ポリシーを活動化してください。

**ユーザーの処置:**
並行ユーザー・ポリシーまたは登録されているユーザー・ポリシーをオンにして、すべてのインスタンスを再始動してください。

問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

---

**DBA7004E　登録済みユーザーを登録済みユーザー・リストから除去できませんでした。 RC = *return-code*。**

**説明:**
サーバーにある登録済みユーザー・リストを、要求された変更を行って更新することができませんでした。

**ユーザーの処置:**
ユーザーが存在し、これがこの製品に対して有効なアクションであることを確認してください。 問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

---

**DBA7005E　登録済みユーザーの追加ができませんでした。 RC=*return-code*。**

**説明:**
サーバーにある登録済みユーザー・リストを、要求された変更を行って更新することができませんでした。

**ユーザーの処置:**
ユーザー名が有効で、登録済みユーザー・ポリシーがこの製品にとって有効であることを確認してください。問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

---

**DBA7006E　ライセンス・ポリシーを更新できませんでした。 RC = *return-code*。**

**説明:**
この製品のライセンス・ポリシーを更新しようとしましたが、できませんでした。

**ユーザーの処置:**
コマンド db2licd -xxx を使用するか、またはWindows NT の場合は Services Control Manager を使用して、インスタンスとライセンス・サーバーを再始動してください。

問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

---

**DBA7007E　ライセンス使用法に関する統計を検索できませんでした。 RC = *return-code*。**

**説明:**
統計が破壊されているか、または通信エラーが発生したか、または使用できるデータがありません。 データはポリシーが更新されてインスタンスが再始動された後に、接続と切断によって生成されます。

**ユーザーの処置:**
統計が破壊されている場合は、統計データベースを除去することができます。 これにより、以前に収集されたすべての統計が除去されます。 ロケーションはプラットフォームにより特定されており、また製品がどこにインストールされているかにも影響されます。

- UNIX - DB2 インストール・ディレクトリー/misc/db2licst
- Windows オペレーティング・システム - DB2 インストール・ディレクトリー¥license¥db2licst.dat

---

**DBA7008I　インスタンスが開始されるまで、ライセンス・ポリシーは完全には有効にはなりません。**

**説明:**
インスタンスが再始動されると、ライセンス構成を再読み取りします。

**ユーザーの処置:**
サーバーのインスタンスを再始動します。

---

**DBA7009E　この製品 *product* は指定されたライセンス・ポリシーをサポートしません。 RC = *return-code*。**

**説明:**
指定されたライセンス・ポリシーはこの製品で使用することはできません。

**ユーザーの処置:**
有効なライセンス・ポリシーを入力してください。

---

**DBA7010E　ライセンス・センターは指定されたサーバーから製品のリストを検索できませんでした。 RC = *return-code*。**

**説明:**
このサーバーの製品のリストを取得できませんでした。

**ユーザーの処置:**
管理インスタンスとコントロール・センターを再始動して、再試行してください。 問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

---

**DBA7011E　指定されたアクションを実行するための適切な権限がありません。**

**説明:**
ユーザーはこの操作をするための許可を持っていません。

**ユーザーの処置:**
このコマンドを実行するのに適切な許可を持つユーザー ID を使ってログインしてください。

---

**DBA7012E　指定された期間は、統計が使用できません。**

**説明:**
指定された期間は、統計が使用できません。

**ユーザーの処置:**
統計のある有効な日付範囲を入力してください。

---

**DBA7013E　ライセンス証明書 *filename* が見つかりませんでした。 有効なライセンス・ファイルでこのコマンドを再度試行してください。 RC = *return-code*。**

**説明:**
指定されたファイルがないか読み取れません。

**ユーザーの処置:**
IBM 担当員または正規販売代理店から有効な DB2 ライセンス証明書を入手してください。

---

**DBA7014E　コントロール・センターおよび管理インスタンスを再始動して、コマンドを再試行してください。**

**説明:**
コントロール・センターおよび管理インスタンスを再始動して、コマンドを再試行してください。

**ユーザーの処置:**
問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

---

**DBA7015E　DB2 OLAP Server のライセンスを更新することはできません。 DB2 OLAP 処理は、現在アクティブになっています。**

**説明:**
DB2 は、DB2 OLAP Server の実行中は DB2 OLAP Server のライセンスを更新できません。

**ユーザーの処置:**
OLAP ライセンスを更新するには、 OLAP 処理をすべて停止してからこの DB2 ライセンスを再インストールしてください。

---

**DBA7016E　選択したシステムに指定されたインスタンスがありません。**

**説明:**
選択したシステムで有効な DB2 インスタンスが見つかりませんでした。選択した DB2 システムに常駐する、少なくとも 1 つの有効な DB2 インスタンスを正しくカタログしたことを確認してください。

**ユーザーの処置:**
選択したシステムで有効な DB2 インスタンスをカタログし、コントロール・センターを再始動して、コマンドを再試行してください。

---

**DBA7017E　選択したシステムには、有効な DB2 インスタンスがありません。**

**説明:**
選択したシステムで有効な DB2 インスタンスが見つかりませんでした。選択したシステムに、少なくとも 1 つの実行中の DB2 インスタンスがあることを確認してください。

**ユーザーの処置:**
選択したシステムに有効な DB2 インスタンスを作成し、コマンドを再試行してください。

---

**DBA7018E　サーバーのプロセッサー数は、この製品のプロセッサー・ライセンス数を超過しています。**

**説明:**
ご使用条件で許可されているプロセッサー数を超過しています。

**ユーザーの処置:**
IBM 担当員または認定販売店からプロセッサー・ライセンスをさらに購入し、ライセンス・センターあるいは db2licm コマンド行ユーティリティーを使用してライセンスを更新してください。プロセッサーを基にしたライセンス更新について詳しくは、ご使用プラットフォーム用の「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。db2licm ユーティリティーの詳細については、「DB2 コマンド・リファレンス」を参照してください。

---

**DBA7019E　選択したシステムには、サポートされる DB2 インスタンスがありません。**

**説明:**
選択したシステムで、サポートされる DB2 インスタンスが見つかりませんでした。選択したシステムに、このバージョンの DB2 ライセンス・センターでサポートされる DB2 のインスタンスが最低 1 つあることを確認してください。

**ユーザーの処置:**
選択したシステムにサポートされる DB2 インスタンスを作成し、コマンドを再試行してください。

---

**DBA7100W　ファイル *file-name* がオープンできませんでした。そのファイルに対応するインフォメーション・センター内のページ *page-name* は表示されません。**

**説明:**
インフォメーション・センターのデータは複数の NDX ファイルに保管されます。ファイル *file-name* が正しいディレクトリーからなくなっている可能性があります。

**ユーザーの処置:**
NDX ファイルがファイル・システムにインストール済みであるか確認してください。

インフォメーション・センター内のページおよび対応する NDX ファイルは以下のとおりです:

- 概念 - db2booksuc.ndx
- タスク - db2tasksuc.ndx
- 参照 - db2refsuc.ndx
- トラブルシューティング - db2msgsuc.ndx
- サンプル・プログラム - db2sampsuc.ndx
- チュートリアル - db2webuc.ndx

---

**DBA7101E　インフォメーション・センターのどの NDX ファイルもオープンできないので、インフォメーション・センターを表示できません。**

**説明:**
DB2 情報のいずれかのリンクを表示するには、インフォメーション・センターは少なくとも 1 つの NDX ファイルを読み取る必要があります。

インフォメーション・センターのデータは複数の NDX ファイルに保管されます。ファイルがファイル・システムにありません。

**ユーザーの処置:**
NDX ファイルが、ファイル・システムにあるかどうか確認してください。

インフォメーション・センター内のページおよび対応する NDX ファイルは以下のとおりです:

- 概念 - db2booksuc.ndx
- タスク - db2tasksuc.ndx
- 参照 - db2refsuc.ndx
- トラブルシューティング - db2msgsuc.ndx
- サンプル・プログラム - db2sampsuc.ndx
- チュートリアル - db2webuc.ndx

---

**DBA7102W　ファイル *file-name* が正しくフォーマットされていません。次の行は無視されます: *line-numbers*. これらの行を正しくフォーマットしてください。**

**説明:**
NDX ファイル内の各行はコンマで区切られたリストの形式になっていなければなりません。 以下はその例です。

```
"IBM",1,"IBM Home Page",
http://www.ibm.com
```

リストのフォーマットは以下のとおりです。

**1** ツリー形式で表示される項目の名前またはインフォメーション・センターの項目のリストの名前

**2** この項目のカテゴリーを表す数

**3** この項目が選択されたときに状況表示行に表示される記述

**4** 項目のロケーションを示す完全 Web アドレス

**ユーザーの処置:**
このファイルを編集した場合、各行が以下のように正しくフォーマットされていることを確認してください。

- 名前および記述の最初と最後は二重引用符でなければなりません。
- 名前と記述には二重引用符を含めないでください。
- 区切り文字にはコンマを使用してください。
- ファイル内の最初項目はファイル内の項目数に対応する数です。 項目を追加または除去する場合、この数を手操作で更新してください。

---

**DBA7200E 最大 10 の列を geocoder への入力として選択できます。**

**説明:**
10 列を超える列が geocoder への入力として選択されました。

**ユーザーの処置:**
**選択列**ボックスが 10 個以下の名前をリストするまでは、列名を**選択列**から**使用可能列**に移動します。

---

**DBA7201E データベースを使用して Spatial Extender を実行することはできません。**

**説明:**
Spatial Extender のデータベースを使用可能にしないと、Spatial Extender の操作を実行できません。

**ユーザーの処置:**
データベースを右クリックして、メニューから **Spatial Extender -> 使用可能**を選択します。

---

**DBA7300W カタログされた有効なノードがないため、データベース *database-name* を表示することができません。**

**説明:**
データベース・ディレクトリーの指定されたデータベースに提供されたノード名に対応するノード・ディレクトリーの項目がありません。

**ユーザーの処置:**
データベースがカタログされたノードに対応するノード・カタログ項目があることを確認してください。

---

**DBA7301W ヘルス・センターで表示するインスタンスがありません。**

**説明:**
ノード・カタログに項目がなく、DB2INSTANCE が設定されていません。

**ユーザーの処置:**
ノードをカタログするか、またはクライアントでデフォルト DB2 インスタンスを指定してください。

---

**DBA7302E インスタンス・カタログ・パーティションがダウンしているため、アラート情報をインスタンス *instance-name* またはそのオブジェクト用に検索することはできません。**

**説明:**
インスタンス・パーティションおよびモニターがダウンしているため、ヘルス・モニターでアラート情報を照会することはできません。

**ユーザーの処置:**
データベース・パーティションを再始動して、アクションを再試行してください。

---

**DBA7303E インスタンスがダウンしているため、アラート情報をインスタンス *instance-name* またはそのオブジェクト用に検索することはできません。**

**説明:**
インスタンスおよびモニターがダウンしているため、ヘルス・モニターでアラート情報を照会することはできません。

**ユーザーの処置:**
インスタンスを再始動して、アクションを再試行してください。

---

**DBA7304W 選択されたオブジェクト *object-name* は現行トグル・フィルターには存在しません。**

**説明:**
選択されたオブジェクトは、データの最新のリフレッシュで状態が変更しました。 その結果、オブジェクトは、現行トグル・フィルター選択のナビゲーション・ビューで表示できなくなりました。

**ユーザーの処置:**
現行トグル・フィルター選択から別のインスタンスまたはデータベースを選択するか、または別のトグル・ボタンを選択して他の状態を表示してください。

**DBA7305E　選択されたアラートは存在しません。**

**説明:**
選択されたアラートはヘルス・モニターで存在しません。

**ユーザーの処置:**
NOTIFYLEVEL 設定がアラート・タイプを組み込むような設定になっている場合は、「ジャーナル通知ログ」ページに進み、アラートの詳細を参照してください。

**DBA7306E　アラートは存在しません。 「詳細」ダイアログをクローズしますか?**

**説明:**
現行の「詳細」ダイアログでは、存在しないアラートの情報が表示されています。

**ユーザーの処置:**
ダイアログをクローズするには「はい」を、「詳細」ダイアログをオープンしたままにするには「いいえ」をクリックしてください。

**DBA7307W　ダイアログが最後にリフレッシュされた後に、データベース・マネージャー構成パラメーターの値が変更されました。 続行しますか?**

**説明:**
この「詳細」ダイアログが最後にリフレッシュされた後に、構成パラメーターの値が変更されました。

**ユーザーの処置:**
変更を適用し現在の設定を上書きするには「はい」をクリックし、「詳細」ダイアログに戻るには「いいえ」をクリックしてください。 「いいえ」をクリックすると、ダイアログの内容がリフレッシュされ、構成パラメーターの現在の設定が表示されます。

**DBA7308W　ダイアログが最後にリフレッシュされた後に、データベース構成パラメーターの値が変更されました。 現行値を上書きしますか?**

**説明:**
この「詳細」ダイアログが最後にリフレッシュされた後に、構成パラメーターの値が変更されました。

**ユーザーの処置:**
変更を適用し現在の設定を上書きするには「はい」をクリックし、「詳細」ダイアログに戻るには「いいえ」をクリックしてください。 「いいえ」をクリックすると、ダイアログの内容がリフレッシュされ、構成パラメーターの現在の設定が表示されます。

**DBA7309W　一方または両方のしきい値は、ダイアログが最後にリフレッシュされた時点以降に変更されています。現行値を上書きしますか?**

**説明:**
このダイアログが最後にリフレッシュされた後に、警告またはアラーム、あるいはその両方のしきい値が変更されました。

**ユーザーの処置:**
変更を適用し現在の設定を上書きするには「はい」をクリックし、「詳細」ダイアログに戻るには「いいえ」をクリックしてください。 「いいえ」をクリックすると、ダイアログの内容がリフレッシュされ、しきい値の現在の設定が表示されます。

**DBA7310I　設定されたしきい値の構成が更新されました。**

**説明:**
設定されたしきい値の構成が更新されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DBA7311I　構成パラメーターの更新が適用されました。**

**説明:**
構成パラメーターの更新が適用されました。 変更が有効になるまで、しばらく時間がかかる場合があります。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DBA7312I　構成の設定が、インストール時のオリジナル・デフォルト設定にリセットされました。**

**説明:**
構成の設定が、インストール時のオリジナル・デフォルト設定にリセットされました。 これらのヘルス・インディケーターの設定は、ヘルス・モニターの初期設定として製品のインストール時に使用されたものです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DBA7313I　オブジェクト *object-name* の構成設定が、現行オブジェクトのデフォルト・ヘルス・インディケーターの設定にリセットされました。**

**説明:**

指定されたオブジェクトの構成設定が、現行オブジェクトのデフォルト・ヘルス・インディケーターの設定にリセットされました。 これらの設定は、指定されたオブジェクトのオブジェクト・タイプのグローバル・ヘルス・インディケーターのデフォルト設定に基づいています。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA7314W　更新された構成設定は、既存のオブジェクトに適用できます。 すべての変更を既存のオブジェクトに反映させ、これらのオブジェクトの現行設定を上書きしますか? 「いいえ」を選択すると、デフォルト設定のみが更新されます。**

**説明:**
新規グローバル・デフォルト・ヘルス・インディケーターの設定を、変更されたヘルス・インディケーターのオブジェクト・タイプに基づいて影響を受けるすべての既存のオブジェクトに反映させることができます。 変更を既存のオブジェクトに反映させることなく、グローバル設定を更新することができます。

**ユーザーの処置:**
グローバル・デフォルト・ヘルス・インディケーターの更新およびこれらの変更を既存のオブジェクトに適用するには「はい」をクリックし、グローバル・デフォルト・ヘルス・インディケーターの設定の更新のみを適用するには「いいえ」をクリックしてください。

---

**DBA7315W　すべてのデータベース・パーティションで成功するアクションのために、すべてのデータベース・パーティションでアクセス可能なスクリプト・ロケーションを提供する必要があります。 スクリプトの作成を継続しますか?**

**説明:**
すべてのデータベース・パーティションで成功させるには、アラート・アクションのために定義中のスクリプトをすべてのデータベース・パーティションでアクセス可能にする必要があります。

**ユーザーの処置:**
スクリプトの作成を継続するには「はい」をクリックし、「スクリプトの詳細」ダイアログに戻るには「いいえ」をクリックしてください。

---

**DBA7316E　通知ログの最大レコード番号よりも大きい開始レコード値を選択しました。 レコードを戻すことはできません。**

**説明:**
開始レコードの引数として指定した数よりも少ないレコードが通知ログにあります。 レコードを表示することはできません。

**ユーザーの処置:**
フィルター条件の開始レコード番号を減らしてください。

---

**DBA7317W　通知ログの最大レコード番号よりも大きい終了レコード値を選択しました。 続行しますか?**

**説明:**
終了レコード・カウントとして指定したカウントよりも少ないレコードが通知ログにあります。 ログ・レコードはファイルの終わりまで検索できます。

**ユーザーの処置:**
すべてのログ・レコードをファイルの終わりまで検索するには「はい」をクリックし、フィルター条件を変更するには「いいえ」をクリックしてください。

---

**DBA7318I　ヘルス・センターに現在 *number* 個のアラートがあります。 詳細については、ツールバーまたは状況表示行のビーコンからヘルス・センターを立ち上げてください。**

**説明:**
現在ヘルス・センターで表示されるアラートがあります。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA7319E　最後にリフレッシュされた後に、選択されたインスタンス *instance-name* がドロップされました。**

**説明:**
選択したオブジェクトはもう存在しないため、アラート情報を検索することはできません。

**ユーザーの処置:**
オブジェクトを再作成し、アクションを再試行してください。

---

**DBA7320E　最後にリフレッシュされた後に、選択されたデータベース *database-name* がドロップされました。**

**説明:**
選択したオブジェクトはもう存在しないため、アラート情報を検索することはできません。

**ユーザーの処置:**
オブジェクトを再作成し、アクションを再試行してください。

---

**DBA7321E　このアラートが生成されたオブジェクト *object-name* がドロップされました。 要求されたアクションは完了できません。**

**説明:**
選択したオブジェクトはもう存在しないため、アクションを完了することはできません。

**ユーザーの処置:**
オブジェクトを再作成し、アクションを再試行してください。

---

**DBA7323I　連絡先リストから連絡先を除去しても、タスク・センターまたはヘルス・モニターで構成されている通知設定は変更されません。**

**説明:**
除去された連絡先を使用した通知アクションは更新されません。 これらの通知アクションは失敗します。

**ユーザーの処置:**
除去された連絡先に関連する通知アクションを除去してください。

---

**DBA7324I　通知用に選択した連絡先 *contact-name* はもう存在しません。 連絡先は選択リストから除去されています。**

**説明:**
ヘルス通知に選択されたリストから無効な連絡先が除去されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA7325W　ダイアログに保管されていない変更があります。 変更を廃棄して詳細をリフレッシュしますか?**

**説明:**
このダイアログでリフレッシュまたはリセット・オプションを選択しました。 適用されていないすべての変更が廃棄されます。

**ユーザーの処置:**
変更を保存する場合は「いいえ」を選択してください。保存しない場合は、「はい」を選択して適用されていない変更を廃棄してください。

---

**DBA7326E　スケジューラー・システムは見つかりませんでした。 タスク・アクションを指定できません。**

**説明:**
スケジューラー・システムは管理ノード・ディレクトリーにカタログされていません。 よって、「タスクの選択」ダイアログにタスクは配置されません。

**ユーザーの処置:**
スケジューラー・システム用の DB2 Administration Server が管理ノード・ディレクトリーでカタログされていることを確認してください。

---

**DBA7327I　構成パラメーターの更新が適用されました。 グローバル・オブジェクト・タイプのデフォルトへのこれらの変更は、特定のデータベース・オブジェクトの既存の設定には影響しません。**

**説明:**
更新された構成設定はグローバル・デフォルト・ヘルス・インディケーター設定にのみ適用されます。特定のオブジェクトでヘルス・インディケーターの設定をすでに指定している場合は、それらの設定がこれらの変更により影響を受けることはありません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA7328I　選択されたアラートについて、ヘルス・インディケーターで評価が使用不可になっています。ヘルス・インディケーターは、ヘルス・モニターのリフレッシュで評価されません。**

**説明:**
選択されたアラートのヘルス・インディケーターについてアラート構成が更新されており、しきい値または状況の評価が使用不可になっています。 ヘルス・モニターの次回のリフレッシュまで、この変更は反映されません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA7329W　タスク *task-name* が、タスク・メタデータで見つかりません。 タスク名は task-id-number.task-suffix-number のように表示されます。**

**説明:**
アクションの選択ダイアログは、タスク・メタデータからタスク・アクションに対するタスク名を検索します。タスク・メタデータのタスク ID 番号と接尾部番号に一致するタスクがないため、タスク名をダイアログに表示できません。

**ユーザーの処置:**
メタデータにタスクが存在しているかどうか確認してください。 タスクが削除されている場合には、正しいタスク ID 番号と接尾部番号で、ヘルス・インディケーターのアクションを更新してください。

---

**DBA7330E　リモート・インスタンス名が認識されていないため、このインスタンスではアクションを完了できません。**

**説明:**
リモート・インスタンス名はオプション・パラメーターで、指定されていませんでした。 このアクションをリモート・インスタンスで実行するには、リモート・インスタンス名を認識させてください。

**ユーザーの処置:**
コントロール・センターを使用して、リモート・インスタンスを選択してください。 インスタンスを右クリックし、「変更」オプションを選択してリモート・インスタンスの名前を変更してください。 あるいは、REMOTE_INSTANCE パラメーターを指定して、インスタンスをドロップし、再カタログしてください。

---

**DBA7331W　インスタンス *instance-name* のヘルス通知連絡先リストに、 1 つ以上の孤立した連絡先があります。**

**説明:**
孤立した連絡先とは、ヘルス通知連絡先リストにはあるものの、DB2 Administration Server の CONTACT_HOST 構成パラメーターで指定されたシステムに保管された連絡先リストには定義されていない連絡先のことです。

現在のところ、インスタンス *instance-name* のヘルス通知連絡先リストには、最低 1 つの孤立した連絡先があります。

**ユーザーの処置:**
これらの孤立した連絡先がこの先不要であるなら、削除します。それ以外の場合は、これらの連絡先がヘルス・アラート通知を受け取れるように再定義します。これらのアクションは、「ヘルス・アラート通知のトラブルシューティング」ウィザードを使って実行できます。

---

**DBA7332W　モニター・タスク *monitoring-task-name* のフィルターは複雑すぎて表示できません。**

**説明:**
モニター・タスク *monitoring-task-name* のフィルターは複雑すぎて、「アクティビティー・モニターのセットアップ」ウィザードに表示できません。結果として、「アクティビティー・モニターのセットアップ」ウィザードではフィルターの表示または変更ができません。

**ユーザーの処置:**
フィルターを表示するには、ビュー SYSTOOLS.AM_TASKS を照会してください。フィルターを変更するには、ストアード・プロシージャー SYSPROC.AM_SAVE_TASK を呼び出してください。

---

**DBA7500N　指定されたしきい値がしきい値の範囲内にありません。**

**説明:**
指定されたしきい値は無効です。 直前の値にリセットされました。

**ユーザーの処置:**
有効範囲内の値を指定してください。

---

**DBA7501N　指定された構成パラメーター値が有効範囲内にありません。**

**説明:**
指定された構成パラメーター値が無効です。直前の値にリセットされました。

**ユーザーの処置:**
有効範囲内の値を指定してください。

---

**DBA7502N　指定された構成パラメーター値が無効です。**

**説明:**
指定された構成パラメーター値が無効です。直前の値にリセットされました。

**ユーザーの処置:**
有効な構成パラメーター値を指定してください。

---

**DBA7503N　指定されたしきい値が無効です。**

**説明:**
指定されたしきい値は無効です。 直前の値にリセットされました。

**ユーザーの処置:**

有効な数値を指定してください。

---

**DBA7504N　メモリー・ビジュアライザーを呼び出すには、インスタンス・アタッチメントが必要です。**

**説明:**
メモリー使用率および割り振りを表示するには、メモリー・ビジュアライザーでインスタンス・アタッチメントが必要です。

**ユーザーの処置:**
バージョン 8.1 またはそれ以降のインスタンスを選択または指定してください。

---

**DBA7510W　このアクションは現在、このバージョンの DB2 サーバーでは使用できません。このアクションでは、DB2 サーバーのレベルは *db2-version* でなければなりません。**

**説明:**
コントロール・センター・クライアントおよび DB2 サーバーのレベルが異なっています。要求されたアクションは現行レベルの DB2 サーバーでは使用できません。DB2 サーバーのレベルは *db2-version* でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
DB2 サーバーを要求されているレベルにアップグレードしてください。

---

**DBA7511W　このアクションは現在、このバージョンのデータベースでは使用できません。 このアクションでは、データベースのレベルは *db-version* でなければなりません。**

**説明:**
要求されたアクションは現行レベルのデータベースでは使用できません。 データベースのレベルは *db-version* でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
データベースを要求されているレベルにアップグレードしてください。

---

**DBA7512W　必要なライセンスが見つからないため、このアクションは現在、使用できません。**

**説明:**
DB2 Administration Server が開始されていないか、またはライセンスがインストールされていないため、要求されたアクションは使用できません。

**ユーザーの処置:**
DB2 Administration Server が開始済みで、必要なライセンスがインストールされていることを確認してください。

---

**DBA7513W　アクションは現在使用できません。**

**説明:**
アクションを使用できない原因として、以下の理由が考えられます。

1. 正しいライセンスがインストールされていない。
2. 正しい製品がインストールされていない。
3. コントロール・センター・クライアントおよび DB2 サーバーのレベルが異なっています。
4. DB2 Administration Server が開始されていない。

**ユーザーの処置:**

1. 適切なライセンスがインストールされていることを確認してください。
2. 製品がインストールされていることを確認してください。
3. クライアントとサーバーが同じレベルであることを確認してください。
4. DB2 Administration Server が開始されていることを確認してください。

---

**DBA7514W　サテライト・コントロール・データベースがインスタンス *instance* で見つかりませんでした。**

**説明:**
サテライト・コントロール・データベースがインスタンス *instance* に存在しないか、またはデータベース・ディレクトリーにカタログされていません。

**ユーザーの処置:**
インスタンス *instance* でサテライト・コントロール・データベースを処理するには、サテライト・コントロール・データベースが作成されており、データベース・ディレクトリーにカタログされていることを確認してください。 あるいは、(もし存在すれば) 別のインスタンスでサテライト・コントロール・データベースを処理することも可能です。

---

**DBA7515W　データベースが下位レベルのサーバーであるため、前のバージョンで使用できない新規オプションは除去されたかまたは使用不可となりました。**

**説明:**

下位レベルのサーバーに接続しているため、ご使用のサーバー・バージョンで使用できない新規オプションは使用不可となったか、または選択可能ではなくなりました。

**ユーザーの処置:**
ダイアログを完了してコマンドを実行してください。

---

**DBA7516N　メモリー・ビジュアライザーは指定されたデータ・ファイルを検出できませんでした。**

**説明:**
指定されたファイルが存在しないか、または無効なメモリー・ビジュアライザーのデータ・ファイルです。

**ユーザーの処置:**
指定されたファイル名が正しいことを確認してください。

---

**DBA7517N　メモリー・ビジュアライザーは指定されたデータ・ファイルに書き込むことができませんでした。**

**説明:**
メモリー・ビジュアライザーはデータ・ファイルを指定されたパスおよびファイル名に保管できませんでした。

**ユーザーの処置:**
指定されたパスが存在し、ファイル許可が正しいことを確認してください。

---

**DBA7604N　現行のデータベース・パーティション・グループのストレージ管理スナップショットが見つかりません。**

**説明:**
ストレージ管理スナップショットを取るには、コントロール・センターから、データベース・パーティション・グループ・オブジェクトが表示されるまでオブジェクト・ツリーを展開します。 データベース・パーティション・グループ・オブジェクトを右クリックし、ポップアップ・メニューで「ストレージの管理」を選択してください。

**ユーザーの処置:**
「再配分ストラテジー」ページで別のオプションを選択して再配分ウィザードを続行するか、またはウィザードをクローズして、再配分操作を続ける前に、まずストレージ・スナップショットを取ってください。

---

**DBA7608N　*database-name*.*database-partition-group-name* の段階的な再配分設定のレジストリーを作成中にエラーが発生しました。**

**説明:**
レジストリー・レコードなしでは、段階的な再配分タスクは失敗します。

**ユーザーの処置:**
ファイル許可を検査し、ウィザードを使用してレジストリー・レコードの再配分設定を再作成してください。

---

**DBA7609W　データベース・パーティション・グループはパーティション化されていません。**

**説明:**
現行データベース・パーティション・グループにはデータベース・パーティションが 1 つしかありません。

**ユーザーの処置:**
これに対して再配分ユーティリティーを実行する必要はありません。

---

**DBA7610W　表が分散されません。**

**説明:**
データベース・パーティションが 1 つしかないデータベース・パーティション・グループに表が定義されます。

**ユーザーの処置:**
データ分散ファイルは指定された表用に作成されません。

---

**DBA7611N　段階的な再配分プロパティー・タイプが無効です。**

**説明:**
要求された段階的な再配分プロパティー項目を検索または更新できません。

**ユーザーの処置:**
有効なプロパティー・タイプを入力してください。

---

**DBA7612N　ファイルのアクセス時にエラーが発生しました。**

**説明:**
理由コードには、以下のものが含まれます。

- ファイル・フォーマットのエラー
- 通信エラー
- ファイルを読み込むときのメモリー割り振りのエラー

**ユーザーの処置:**

ファイル内のフォーマット・エラーを修正してください。 db2diag.log ファイルで、通信またはメモリー割り振りエラーを解決するのに役立つ詳細情報をチェックしてください。アプリケーションを再実行してください。

---

**DBA7613W　データベース・パーティション・グループ内の影響を受ける表が長い期間ロックされ、使用できなくなる可能性があります。**

**説明:**
再配分はログ主体のアクティビティーである可能性があります。

**ユーザーの処置:**
再配分を実動システムで実行する前にテスト・データベースで実行して、再配分でかかる時間を判別することをお勧めします。

再配分中にアクティブ・ログ・スペースが足りなくなるリスクを最小化するために、以下のいずれかまたはすべてを実行することをお勧めします。

- 他のログ主体のデータベース・アクティビティーを削減または除去する
- 永久ロギングを使用する
- ウィザードで推奨される段階的な再配分を使用する

---

**DBA7614W　複数データベース・パーティション・グループを再配分するときに、データベース・パーティション・グループ内の影響を受ける表が長い期間ロックされ、使用できなくなる可能性があります。**

**説明:**
再配分はログ主体のアクティビティーである可能性があります。

**ユーザーの処置:**
再配分を実動システムで実行する前にテスト・データベースで実行して、再配分でかかる時間を判別することをお勧めします。

再配分中にアクティブ・ログ・スペースが足りなくなるリスクを最小化するために、以下のいずれかまたはすべてを実行することをお勧めします。

- 他のログ主体のデータベース・アクティビティーを削減または除去する
- 永久ロギングを使用する
- 各データベース・パーティション・グループの再配分を異なる時間に起きるようスケジュールし、使用可能なログ・スペースの競合を最小化する
- ウィザードで推奨される段階的な再配分を使用する

---

**DBA7615N　アプリケーションで要求されている 1 つ以上の表が、期待されている定義どおりに定義されていません。**

**説明:**
アプリケーションがアクセスしようとしている表が期待されている定義と一致していません。これは、以下の 1 つまたはいくつかの問題が原因である可能性があります。

- 表が存在しない
- 表の列定義が期待されている定義と異なる

**ユーザーの処置:**
表をドロップして、適切な定義で再作成する必要がある場合があります。ドロップ中にこのエラーが発生した場合は、DROP コマンドの FORCE オプションを指定して表を強制的にドロップすることができます。

---

**DBA7616N　段階的な再配分操作のパーティションの重みが無効です。**

**説明:**
パーティションの重みの値は 0 から 32767 の間でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
有効範囲内の整数を入力して、再試行してください。

---

**DBA7617N　1 つ以上の入力パラメーターが、ルーチンで期待されている有効な値を含んでいません。**

**説明:**
これは、以下の 1 つまたはいくつかの問題が原因である可能性があります。

- 数値パラメーターが期待されている範囲内にない
- パラメーターで参照されているオブジェクトが存在しない

**ユーザーの処置:**
入力パラメーターをルーチン指定と比べて検査して、再試行してください。

---

**DBA7618W　インスタンス *instance-name* にあるすべてのデータベースがカタログされていることを確認してください。**

**説明:**
データベース・パーティションをインスタンスに追加する場合、すべてのデータベースのすべての TEMPORARY 表スペースが、新しいデータベース・パーティション上の新しいコンテナーを使って変更されている必要があります。 データベースは、その TEMPORARY 表スペースを検出するために、「データ

ベース・パーティションの追加」ウィザードのインスタンス上にカタログされている必要があります。

**ユーザーの処置:**
「データベース・パーティションの追加」ウィザードの 1 ページ目で、データベースのリストを検討してください。

欠落しているデータベースがある場合は、以下のことを実行してください。

1. ウィザードをクローズする。
2. 「データベース・パーティションの追加」ランチパッドをクローズする。
3. 欠落しているデータベースを、コントロール・センターの「データベース」フォルダーに追加する。

実際には存在していないデータベースがインスタンスにリストされている場合は、コントロール・センターの「データベース」フォルダーからそのデータベースを除去してください。

---

**DBA7619W　インスタンス *instance-name* にあるすべてのデータベースがカタログされていることを確認してください。**

**説明:**
インスタンスからデータベース・パーティションをドロップする場合は、すべてのデータベースのすべてのデータを、影響のあるデータベース・パーティションからドロップする必要があります。 データベースは、そのデータベース・パーティション・グループを検出するために、「データベース・パーティションの追加」ウィザードのインスタンス上にカタログされている必要があります。

**ユーザーの処置:**
「データベース・パーティション・グループからデータベース・パーティションをドロップ」ウィンドウで、データベースのリストを検討してください。

欠落しているデータベースがある場合は、以下のことを実行してください。

1. ウィンドウをクローズする。
2. 「データベース・パーティションのドロップ」ランチパッドをクローズする。
3. 欠落しているデータベースを、コントロール・センターの「データベース」フォルダーに追加する。

実際には存在していないデータベースがインスタンスにリストされている場合は、コントロール・センターの「データベース」フォルダーからそのデータベースを除去してください。

---

**DBA7620N　指定された表に対して分散キーが定義されていません。**

**説明:**
分散キーは、データの特定行を保管するデータベース・パーティションを決定するために使用される列 (または列のグループ) です。分散キーのない表は、単一パーティション・データベース・パーティション・グループでのみ使用できます。分散キーがないと、データ分散ファイルを生成できず、またデータ分散の分析を実行できません。

**ユーザーの処置:**
分散キーは、ALTER TABLE ステートメントを使用して追加またはドロップすることができます。分散キーの変更は、表スペースが単一区画のデータベース・パーティション・グループと関連した表にのみ実行できます。

---

**DBA7621W　1 つのデータベース・パーティションから多くのデータベース・パーティションへ分散キーを再配分する前に、表にこれらのキーが必要です。 1 つのパーティションから多くのデータベース・パーティションへ移動する前に、データベースの設計を検討してください。**

**説明:**
分散キーは、データベース・パーティションのコレクションにまたがる表のデータをパーティションで区切るために必要です。

分散キーのない表は、単一パーティション・データベース・パーティション・グループでのみ使用できます。

**ユーザーの処置:**
「表の変更」ノートブックを使用して、パーティションに区切られるすべての表に分散キーを追加してください。

別のデータベース・パーティション・グループを作成することを考慮に入れてください。 通常は、小さい方の表が、小さい番号のデータベース・パーティションに置かれます (1 つしかなくてもこの状態になります)。大きい方の表は、すべてのデータベース・パーティションまたはデータベース・パーティションの大半にまたがって分散される必要があります。

---

**DBA7627N　スナップショット・データをロードできません。**

**説明:**
選択したスナップショットは、すでに存在しません。

**ユーザーの処置:**

ストレージ管理ツールバーの現行スナップショット・リストから別のスナップショットを選択してください。

スナップショットが他に存在しない場合は、データベース、データベース・パーティション・グループ、または表スペースを右クリックし、「スナップショットのキャプチャー」メニュー・オプションを選択して、新規スナップショットをキャプチャーすることができます。

---

**DBA7628N　データベース・パーティションのドロップ・タスクは、最後のデータ再配分が完了した後に開始しなければなりません。最後の再配分タスクは *start-date start-time* に開始するようスケジュールされています。**

**説明:**
すべてのデータ再配分タスクは、データベース・パーティションのドロップ・タスクを実行する前に完了していなければなりません。再配分により、ドロップされるデータベース・パーティションからデータが移動します。

**ユーザーの処置:**
データベース・パーティションのドロップ・タスクの新規開始時刻を選択するか、または単にこれをタスク・センターに保管し、すべての再配分タスクが完了した後に手動で実行してください。

---

**DBA7630W　次のホストを見つけることができませんでした: *host-names***

**説明:**
これらのホスト名がネットワークで見つからないと、データベース・パーティションの追加は失敗します。 このデータベース・パーティションの追加タスクの実行がスケジュールされているときに、指定されたホスト名が既存のシステムを参照している必要があります。

**ユーザーの処置:**
リストされているすべてのホスト名が正しいことを検査してください。 タスクを実行するようスケジュールされているときに、指定されたホスト名が存在することを確認してください。

---

**DBA7631W　このタスクが実行されるときに、インスタンス *instance-name* は停止され、再始動されます。**

**説明:**
実行されるスクリプトには、以下のコマンドが含まれています。

```
db2stop force
db2start
```

これにより、データベース・インスタンスは停止され、すべての接続アプリケーションへのアクセスが拒否されます。 インスタンスの再始動時に、このインスタンスのすべてのデータベースが使用可能ではなくなります。

**ユーザーの処置:**
スケジュールされた時刻にインスタンスを再始動したり、異なる時刻にタスクを実行するようスケジュールしたり、あるいはタスクをタスク・センターに保管して後で実行したりする場合に、このタスクを実行します。

---

**DBA7632N　データベース・パーティション *database-partitions* を次のデータベース・パーティション・グループ *partition-groups* から除去することができません。**

**説明:**
すべてのデータベース・パーティション・グループに少なくとも 1 つのデータベース・パーティションがなければなりません。

**ユーザーの処置:**
データベース・パーティション・グループを変更するときに、データベース・パーティション・グループに少なくとも 1 つのデータベース・パーティションを保持する必要があります。 データベース・パーティション・グループにデータベース・パーティションを持たせたくない場合は、データベース・パーティション・グループをドロップする必要があり、既存のデータは失われてしまいます。

---

**DBA7633N　データベース・パーティション *partition-names* は 1 つまたは複数のデータベースのカタログ・パーティションであるため、ドロップできません。**

**説明:**
まず関連のデータベースをドロップしないと、カタログ・パーティションをドロップすることはできません。Windows システムでは、データベース・パーティション 0 をドロップできません。

**ユーザーの処置:**
インスタンスからドロップする 1 つまたは複数の他のデータベース・パーティションを選択してください。またはデータベース・パーティションをドロップする前に、ドロップしようとしているカタログ・パーティションに対するデータベースをドロップしてください。

---

**DBA7634N　コンテナー名 *container-name* が無効です。**

**説明:**
コンテナー・タイプがディレクトリーかファイルである場合、コンテナー名は有効なパスである必要があり、コンテナー・タイプがロー・デバイスである場合、コンテナー名は有効なロー・デバイスである必要があります。

**ユーザーの処置:**
コンテナー名を有効なパスまたはロー・デバイスに再定義して変更するか、または新規のコンテナーを追加してから無効なコンテナーを除去してください。

---

**DBA7666W　直前に選択されたデータベース・パーティションに対して構成変更が行われました。この変更を保管しますか?**

**説明:**
別のデータベース・パーティションが選択されましたが、直前に選択されたデータベース・パーティションの変更が保管されていません。

**ユーザーの処置:**
「はい」をクリックすると、次のデータベース・パーティションの構成パラメーター値を取得して、直前に選択されたデータベース・パーティションに対して指定された変更を保管します。

「いいえ」をクリックすると、次のデータベース・パーティションの構成パラメーター値を取得して、直前に選択されたデータベース・パーティションに対して指定された変更を廃棄します。

「キャンセル」をクリックすると、直前に選択したデータベース・パーティションの構成パラメーター値に戻ります。

---

**DBA7900N　SYSPROC.ALTOBJ ストアード・プロシージャーの入力パラメーター *parameter* が無効です。**

**説明:**
無効なパラメーター値が指定されました。

**ユーザーの処置:**
以下の有効なパラメーター値を指定して、ストアード・プロシージャー呼び出しを再発行してください。

- パラメーター 1 (IN)、execModeName。以下の 6 つの値のうちの 1 つを選択します。
  「GENERATE」、「VALIDATE」、「APPLY_CONTINUE_ON_ERROR」、「APPLY_STOP_ON_ERROR」、 「UNDO」、および「FINISH」。
- パラメーター 2 (IN)、sqlStmt。有効な CREATE TABLE DDL が予期されます。
- パラメーター 3 (IN/OUT)、alterId。先に変更プランと ID が生成されていない場合は -1 を使用し、既存のプランに従う場合は先に生成された整数 ID を使用します。
- パラメーター 4 (OUT)、msg。呼び出しステートメントの中で ? を使用します。

---

**DBA7901W　ユーザーは、列 *column name* をソース・タイプ *source type* からターゲット・タイプ *target type* にトランスフォームするよう要求しました。しかし、使用可能なデフォルトの cast 関数がありません。**

**説明:**
ストアード・プロシージャーは、システム定義のスカラー列関数を使って、表の中の既存のデータを、ソース・タイプからターゲット・タイプにトランスフォームしようとします。要求されたデータ・タイプのトランスフォーメーションを実行できる、システム定義の列関数がありません。データをトランスフォームするための UDF を作成するようにします。さもないと、既存のデータを新しい表にトランスフォームすることはできません。

**ユーザーの処置:**
データをターゲット・タイプにトランスフォームできる列関数がある場合は、次のステートメントで SYSTOOL.ALTOBJ_INFO 表を更新します。

```
UPDATE SYSTOOLS.ALTOBJ_INFO_V
SET SQL_STMT='編集した SELECT ステートメント'
WHERE ALTER_ID="<alterId>"
AND SQL_OPERATION='SELECT'
AND EXEC_MODE LIKE '_1____'
```

あるいは、3 番目のパラメーターを、データ・トランスフォーメーションに使用可能なシステム定義の列関数のある、ターゲット列タイプに変更します。それから、新しい入力を使ってストアード・プロシージャーを再度呼び出します。

---

**DBA7902N　変更される表には、SYSPROC.ALTOBJ ストアード・プロシージャーのサポートしていない列データ・タイプが最低 1 つ含まれています。**

**説明:**
DATALINK タイプ、構造化タイプ UDT、および参照タイプ UDT はサポートされていません。
SYSPROC.ALTOBJ ストアード・プロシージャーは、未サポートの列データ・タイプを含んだ表を変更するために使用することができません。

**ユーザーの処置:**

未サポートの列データ・タイプを含んだ表を変更しようとしないでください。

---

**DBA7903N　表タイプが SYSPROC.ALTOBJ ストアード・プロシージャーでサポートされていません。**

**説明:**
以下のタイプの表は SYSPROC.ALTOBJ を使って変更することができません。

- マテリアライズ照会表
- タイプ表 (何らかの既存の参照列の有効範囲となっている表)
- ニックネームで参照されるリモート表

**ユーザーの処置:**
その表を SYSPROC.ALTOBJ ストアード・プロシージャーで変更しようとしないでください。

---

**DBA7904N　ユーザーには *authority name* 権限がありませんが、 SYSPROC.ALTOBJ ストアード・プロシージャーを実行するにはこの権限が必要です。**

**説明:**
SYSPROC.ALTOBJ ストアード・プロシージャーを実行するには、 DBADM 権限と LOAD 権限が両方必要です。

**ユーザーの処置:**
必要な権限を取得してから、ストアード・プロシージャーを実行してください。

---

**DBA7905N　列のドロップのアクションを、列の追加または名前変更と同時に実行することはできません。**

**説明:**
既存の列をドロップするときには、既存の列とその新しい定義を突き合わせるために列名が使用されます。列を追加または名前変更するときには、既存の列と新しい列を突き合わせるために列索引が使用されます。

**ユーザーの処置:**
列のドロップ操作は、列の追加または名前変更操作と別個に試行しなければなりませんが、列の追加と名前変更を同時に実行することは可能です。変更を使用して、既存の列のシーケンスを変更することはできません。

複数のタイプの変更操作を実行することが必要な場合は、SYSPROC.ALTOBJ を複数回呼び出す必要があります。互換性のある変更操作グループごとに、異なる DDL を使用して 1 回ずつ呼び出します。

---

**DBA7906N　変更プロセスのために生成された SQL ステートメントの数が、予想される限界を超過しています。**

**説明:**
これが生じる可能性があるのは、表に関係するオブジェクト (トリガー、別名、ビュー、SQL ストアード・プロシージャー、およびマテリアライズ照会表など) を多数変更する場合です。

**ユーザーの処置:**
指定の表を変更するために SYSPROC.ALTBJ ストアード・プロシージャーを使用することはできません。

---

**DBA7907W　変更プロセスはエラーを出して完了しました。**

**説明:**
この警告が出される可能性があるのは、変更された列に依存する表の関連オブジェクトがある場合、既存のデータをターゲット・データ・タイプにトランスフォームできない場合、あるいは既存のデータが新しい制約に適合しない場合です。

**ユーザーの処置:**
関連オブジェクトを再作成できるよう、次のパラメーター入力を指定して SYSPROC.ALTBJ ストアード・プロシージャーを実行します。

```
CALL SYSPROC.ALTBJ('UNDO', CAST
   (NULL AS VARCHAR(2)), alterID, ?)
```

あるいは、SYSTOOLS.ALTOBJ_INFO_V でエラーを調べ、実行時エラーの原因となった SQL ステートメントを更新し、APPLY モードでストアード・プロシージャーを再度実行します。

---

**DBA7908E　*subsystem-name* のストアード・プロシージャーのセットがインストールされていないため、一部の関数が使用不可です。ストアード・プロシージャー *stored-procedures* が欠落している可能性があります。**

**説明:**
コントロール・センターは、以下のいずれかを実行できませんでした。

- SYSPROC.DSNUTILS を呼び出して、インストール済みのユーティリティーを判別する。
- SYSPROC.DSNWZP を呼び出して、サブシステムのパラメーターを検索する。
- OS/390 Enablement ストアード・プロシージャーのうち最低 1 つを見つける。

**ユーザーの処置:**

OS/390 Enablement ストアード・プロシージャー、および DB2 ストアード・プロシージャー DSNWZP と DSNUTILS をインストールし、活動化のステップが実行されたことを確認してください。詳しくは「DB2 management Clients Program Directory」を参照してください。

---

**DBA8000E　許容される接尾部 ID の最大数に達したため、新しいポリシー ID を生成することができません。**

**説明:**
各ポリシーには内部生成された ID があります。ID は接頭部と接尾部からなります。接頭部はサブシステムの ID で、接尾部は 000 から 999 までの数字です。許容される接尾部 ID の最大数に達したため、「オブジェクト保守」ウィザードは新しいポリシー ID の生成に失敗しました。

**ユーザーの処置:**
「ポリシーのリスト」ダイアログを開いて、不要になったポリシーを除去してから、新しいポリシーを再度作成してみてください。

---

**DBA8001E　ウィザードの初期化中にエラーが検出されました。**

**説明:**
データ・セットを読み取るようにとの DB2 Administration Server 要求の実行中にエラーが検出されたため、ウィザードの一部のページは初期化されませんでした。

**ユーザーの処置:**
追加情報については、DB2 Administration Server の First Failure Data Capture Log を参照してください。

---

**DBA8002E　この作業セットの選択基準を変更することを選択しました。この変更によって、この作業セットに関連した、現行の選択基準を使用して識別されるアラート・オブジェクトはすべてヘルス・モニターの保守表から削除されます。**

**説明:**
選択基準を変更すると、ヘルス・モニターによって評価されるオブジェクトのセットが変更されます。これによって、この作業セットの最後のヘルス・モニターの評価によって識別された保守表のアラート・オブジェクトは無効にされ、それらはヘルス・モニターの保守表から削除されます。

**ユーザーの処置:**
この作業セットの選択基準を変更し、この作業セットに現在関連付けられているすべてのアラート・オブジェクトをヘルス・モニターの保守表から削除する場合は「はい」をクリックしてください。

この作業セットの現在の選択基準を維持する場合は「いいえ」をクリックしてください。

---

**DBA8010N　XML 文書のツリー・ビューを作成できません。**

**説明:**
文書が破壊されている可能性があります。

**ユーザーの処置:**
文書の形式が正しいか、また文字エンコードの設定が正しいか確認してください。

---

**DBA8011N　内部エラーのため XML 文書のソース・ビューを作成できません。**

**ユーザーの処置:**
IBM に連絡してください。

---

**DBA8012I　XML 文書が空です。**

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA8013I　インスタンス・アタッチは正常終了しました。**

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBA8015N　入出力エラーが発生しました。**

**説明:**
ファイルをオープンまたはクローズしようとして、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
ファイル名が有効で、ユーザーにファイルへのアクセス権があるかどうか確認してください。ディスクまたはオペレーティング・システムにエラーがないかどうかも確認してください。

---

**DBA8016N　入出力エラーが発生しました。**

**説明:**
結果セットを読み取ろうとして、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
データ・ソースが使用可能かどうか確認してください。データ・ソースがネットワーク上にある場合、ネットワークが正しく機能しているかどうか確認してください。

# 第 10 章 DBI メッセージ

このセクションでは、DB2 製品のインストールおよび構成時に生成される可能性のあるエラー・メッセージについて説明します。 メッセージは番号順にリストされています。

---

**DBI1001I** **使用法:**

**db2icrt [-h|-?]**
**[-d]**
**[-a AuthType]**
**[-p PortName]**
**[-s InstType]**
**-u FencedID InstName**

**説明:**

db2icrt コマンドに無効な引数が入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h|-?** 使用情報を表示する

**-d** デバッグ・モードをオンにする

**-a AuthType**
インスタンスの認証タイプ (SERVER、CLIENT、または SERVER_ENCRYPT)

**-p PortName**
このインスタンスで使用されるポート名あるいはポート番号。

**-s** InstType は、作成されるインスタンスのタイプ (ese、wse、standalone、あるいは client) です。

**ese** DPF がサポートされているローカルおよびリモート・クライアントのある DB2 データベース・サーバーのインスタンスを作成する場合に使用します。このタイプは、DB2 Enterprise Server Edition のデフォルト・インスタンス・タイプです。

**wse** ローカルおよびリモート・クライアントのある DB2 データベース・サーバーのインスタンスを作成する場合に使用します。このタイプは、DB2 Workgroup Edition、DB2 Express または Express-C Edition、および DB2 Connect Enterprise Edition のデフォルト・インスタンス・タイプです。

**standalone**
ローカル・クライアントのある DB2 データベース・サーバーのインスタンスを作成する場合に使用します。このタイプは、DB2 Personal Edition のデフォルト・インスタンス・タイプです。

**client** IBM データ・サーバー・クライアントのインスタンスを作成する場合に使用します。このタイプは、IBM データ・サーバー・クライアント製品および DB2 Connect Personal Edition のデフォルト・インスタンス・タイプです。

DB2 製品では、デフォルトのインスタンス・タイプ、およびデフォルトより低位のインスタンス・タイプがサポートされています。例えば、DB2 Enterprise Edition では 'ese'、'wse'、'standalone'、および 'client' のインスタンス・タイプがサポートされています。

**-u FencedID**
fenced UDF および fenced ストアード・プロシージャーの実行に使用するユーザー名。 IBM データ・サーバー・クライアントのみがインストールされている場合はこのフラグは不要です。

**InstName**
インスタンスの名前

**ユーザーの処置:**

DB2 インスタンスの作成に使用されるユーザー ID およびグループ名が有効であることを確認してください。命名規則について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターでトピック『ユーザー、ユーザー ID、およびグループの命名規則』を参照してください。

このコマンドの詳しい説明については、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。構文を訂正してからコマンドを再発行してください。

---

**DBI1002I** **使用法:**

**db2uit [-d] [-Q] [-D]**
**[-q <field>]**

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

**[-i <id>]**
**[-a <action>]**
**[-r <runlevels>]**
**[-p <process>]**

**説明:**
無効な引数が db2uit コマンドに対して入力されました。 このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-d** デバッグ・モードをオンにする

**-q** 検索パラメーターを指定してフィールドを照会する。 -q が指定されていない場合、(-i ID がすでに指定されている場合には) 更新、または挿入になります。 有効フィールド: i、r、a、p

**-i** 項目の ID

**-r** 実行レベル

**-a** 実行するアクション

**-p** 立ち上げる処理

**-Q** 静止: 出力なし

**-D** レコードの削除

**FileName**
変更するファイル

戻りコード:

**-q** 一致するフィールドがない場合は非ゼロ。それ以外はゼロ

**update/insert**
ファイルを更新できなかった場合は非ゼロ。それ以外はゼロ

**ユーザーの処置:**
このコマンドに関する詳細については、「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。コマンドを再試行してください。

---

**DBI1003I** **使用法:**
**dlfmcrt [-b BackupDir]**
**-p PortName**
**-g DLFMGid**
**DLFMAdmin**

**説明:**
無効な引数が dlfmcrt コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h|-?** 使用情報を表示する

**-p** PortName は、このインスタンスで使用されるポート名あるいはポート番号です。

**-b** BackupDir は、dlfm データベースのバックアップを作成するために使用されるディレクトリーです。

**-g DLFMGid**
DLFM 管理グループ (このグループは DLFMAdmin の 2 次グループでなければなりません)

**DLFMAdmin**
DB2 Data Links Manager 管理者の名前

**ユーザーの処置:**
次のようにコマンドを入力し直してください。
dlfmcrt -p PortNum -g DLFMGid DLFMAdmin

---

**DBI1004W** ***libdb2-link*** **が検出されました。この DB2 コピーで、ライブラリーのロードの際に問題が発生した可能性があります。**

**説明:**
db2ln コマンドが、/usr/lib 内にシンボリック・リンクを作成する別の DB2 コピーから実行されました。こうしたシンボリック・リンクは、DB2 コピー間でバージョンが同じでフィックスパックが異なる場合でも、バージョンが異なる場合でも、同一のシステム上で複数の DB2 コピーを実行するのに妨げとなります。

**ユーザーの処置:**
db2ln コマンドが実行されたインストール・パスから、db2rmln コマンドを実行してこうしたリンクを除去してください。

---

**DBI1005I** **使用法:**
**db2idrop InstName**

**説明:**
間違った引数が db2idrop コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h|-?** 使用情報を表示する

**-d** デバッグ・モードをオンにする

**InstName**
インスタンスの名前

**ユーザーの処置:**
次のようにコマンドを入力し直してください。
db2idrop InstName

---

**DBI1006I** **使用法:**
**db2idrop [-f] InstName**

**説明:**
間違った引数が db2idrop コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h|-?** 使用情報を表示する

**-d** デバッグ・モードをオンにする

**-f** 強制アプリケーション・フラグ。このフラグが指定された場合、インスタンスを使用しているすべてのアプリケーションは強制的に終了します。

**InstName**
インスタンスの名前

**ユーザーの処置:**
次のようにコマンドを入力し直してください。
db2idrop [-f] InstName

---

**DBI1007I 使用法:**
**dlfmdrop DLFMAdmin**

**説明:**
無効な引数が dlfmdrop コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h|-?** 使用情報を表示する

**DLFMAdmin**
DB2 Data Links Manager 管理者の名前

**ユーザーの処置:**
次のようにコマンドを入力し直してください。
dlfmdrop DLFMAdmin

---

**DBI1008E インストールのメディアと AIX バージョンがミスマッチです。**

**説明:**
AIX に DB2 64 ビットをインストールするには、 AIX バージョン 4 および AIX バージョン 5 の CD が必要です。

db2setup は、ご使用のシステムが AIX バージョン 5 を実行していることを検出しましたが、 AIX バージョン 4 用の DB2 CD からインストールしています。

**ユーザーの処置:**
AIX バージョン 5 用の DB2 CD を挿入して、インストールをやり直してください。

---

**DBI1009E インストールのメディアと AIX バージョンがミスマッチです。**

**説明:**
AIX に DB2 64 ビットをインストールするには、 AIX バージョン 4 および AIX バージョン 5 の CD が必要です。

db2setup は、ご使用のシステムが AIX バージョン 4 を実行していることを検出しましたが、 AIX バージョン 5 用の DB2 CD からインストールしています。

**ユーザーの処置:**
AIX バージョン 4 用の DB2 CD を挿入して、インストールをやり直してください。

---

**DBI1011I 使用法:**
**db2iupdt [-h|-?] [-d] [-k] [-s] [-D]**
**[-a AuthType]**
**[-u FencedID]**
**{-e|InstName}**

**説明:**
間違った引数が db2iupdt コマンドに入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h|-?** 使用情報を表示する

**-d** デバッグ・モードをオンにする

**-k** 更新中の現行インスタンス・タイプを保持する

**-s** 既存の SPM ログ・ディレクトリーを無視する

**-D** 現在のコード・レベルより低いコードにインスタンスを更新する。このオプションは、複数のフィックスパック環境でのみ有効です。

**-a AuthType**
インスタンスの認証タイプ (SERVER、CLIENT、 DCS、 SERVER_ENCRYPT、または DCS_ENCRYPT)。デフォルトは SERVER です。

**-u FencedID**
fenced UDF および fenced ストアード・プロシージャーの実行に使用するユーザー名。 IBM データ・サーバー・クライアントのみがインストールされている場合はこのフラグは不要です。

**-e** すべてのインスタンスが更新されるよう指定する

**InstName**
インスタンスの名前

**ユーザーの処置:**
正しいオプションおよび引数でコマンドを再入力してください。

---

**DBI1012I 使用法:**
**db2iupdt [-f] -u FencedID**
**InstName**

**説明:**

間違った引数が db2iupdt コマンドに入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h|-?** 使用情報を表示する

**-d** デバッグ・モードをオンにする

**-f** 強制アプリケーション・フラグ。このフラグが指定された場合、インスタンスを使用しているすべてのアプリケーションは強制的に終了します。

**-u FencedID**
fenced UDF および fenced ストアード・プロシージャーの実行に使用するユーザー名。 IBM データ・サーバー・クライアントのみがインストールされている場合はこのフラグは不要です。

**InstName**
インスタンスの名前

**ユーザーの処置:**
次のようにコマンドを入力し直してください。
db2iupdt [-f] -u FencedID InstName

---

**DBI1013I 使用法:**
**dlfmupdt [-h|-?] DLFMAdmin**

**説明:**
無効な引数が dlfmupdt コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h|-?** 使用情報を表示する

**DLFMAdmin**
DB2 Data Links Manager 管理者の名前

**ユーザーの処置:**
次のようにコマンドを入力し直してください。
dlfmupdt [-h|-?] DLFMAdmin

---

**DBI1014E 32 ビットへのインスタンス・マイグレーションはサポートされていません。**

**説明:**
64 ビットから 32 ビットへのマイグレーションは、このバージョンではサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBI1015I 使用法:**
**db2imigr [-d] [-a AuthType]**
**[-u FencedID]**
**InstName**

**説明:**
間違った引数が入力されました。 このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h|-?** 使用情報を表示する

**-d** デバッグ・モードをオンにする

**-a AuthType**
インスタンスの認証タイプ (SERVER、CLIENT、または SERVER_ENCRYPT)

**-u FencedID**
fenced UDF および fenced ストアード・プロシージャーの実行に使用するユーザー名。 IBM データ・サーバー・クライアントのみがインストールされている場合はこのフラグは不要です。

**InstName**
インスタンスの名前

**ユーザーの処置:**
このコマンドに関する詳細については、「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。次のようにコマンドを入力し直してください。
db2imigr [-a AuthType]
-u FencedID InstName

---

**DBI1016I プログラム *program-name* がアンインストールを実行中です。お待ちください。**

---

**DBI1017I installFixPack は、*location* の位置にインストールされた DB2 製品を更新中です。**

---

**DBI1018I 使用法:**
**db2istop [-h|-?] [-d]**
**[-f] InstName**

**説明:**
間違った引数が入力されました。 このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h|-?** 使用情報を表示する

**-d** デバッグ・モードをオンにする

**-f** 強制アプリケーション・フラグ。このフラグが指定された場合、インスタンスを使用しているすべてのアプリケーションは強制的に終了します。

**InstName**
インスタンスの名前

**ユーザーの処置:**
次のようにコマンドを入力し直してください。
db2istop [-h|-?] [-d] [-f] InstName

**DBI1019E　DB2 Administration Server *DAS* が更新できません。**

**説明:**
DB2 Administration Server を更新しようとして、以下の理由により、*DAS* が障害を起こしました。

- このバージョンの dasupdt コマンドが、DB2 Administration Server を更新するために使用できない。
- DB2 Administration Server でこのレベルのコードを使用するには、(更新ではなく) マイグレーションが必要です。

**ユーザーの処置:**
DB2 Administration Server をこのコード・レベルまで移動するには、<現行の DB2 インストール・パス >/instance ディレクトリーからコマンド dasmigr を発行して、DB2 Administration Server をマイグレーションします。

---

**DBI1020I　使用法:**

**db2setup [-h|-?]**
**[-t <TrcFile>]**
**[-r <RspFile>]**
**[-l <LogFile>]**
**[-i <Lang>]**

**説明:**
このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h|-?**　ヘルプ情報を表示します。

**-t**　デバッグ・モードをオンにします。デバッグ情報は、名前を指定したファイルに書き込まれます。

**-r**　名前を指定したファイルを使用して、応答ファイル・インストールを実行します。

**-l**　名前を指定したファイルにログを書き込みます。ルート・インストールの場合、デフォルトのログ・ファイルは /tmp/db2setup.log です。非ルート・インストールの場合、デフォルトのログ・ファイルは /tmp/db2setup_<userID>.log です。<userID> は、非ルート・インストールを所有するユーザー ID を表します。 db2setup を使用して IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) をインストールする場合、SA MP Base Component のインストール・ログ・ファイルは DB2 ログ・ファイルと同じディレクトリーに入れられます。

**-i**　db2setup ユーティリティーを指定された言語で表示します。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。

---

**DBI1021I　使用法:**

**db2imigrev [-h|-?] [-m Version]**
**InstName**

**説明:**
間違った引数が入力されました。 このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h|-?**　使用情報を表示する

**-d**　デバッグ・モードをオンにする

**-m**　DB2 のバージョンを指定する

**Version**　逆方向へマイグレーションされるインスタンスのバージョン。

**InstName**
DB2 のバージョン 8 から以前のバージョンにマイグレーションされるインスタンスの名前。

**ユーザーの処置:**
次のようにコマンドを入力し直してください。
db2imigrev [-h|-?] InstName

---

**DBI1022I　使用法:**

**db2imigrev [-h|-?]**
**[-f] InstName**

**説明:**
間違った引数が入力されました。 このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h|-?**　使用情報を表示する

**-d**　デバッグ・モードをオンにする

**-f**　強制アプリケーション・フラグ。このフラグが指定された場合、インスタンスを使用しているすべてのアプリケーションは強制的に終了します。

**InstName**
DB2 のバージョン 8 から以前のバージョンにマイグレーションされるインスタンスの名前。

**ユーザーの処置:**
次のようにコマンドを入力し直してください。
db2imigrev [-h|-?] [-f] InstName

---

**DBI1023I　使用法:**

**db2ginfo [-h|-?] [-y]**
**[-c InstName**
**[-a AuthType]**
**[-u FencedID]]**
**OutputDir**

**説明:**
db2ginfo コマンドに無効な引数が入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h|-?** 使用法を表示する

**-y** スクリプト表示 (警告を表示するのみ)。

**-c InstName**
テストするインスタンスの指定。

**-a AuthType**
認証タイプ (SERVER、CLIENT、または SERVER_ENCRYPT) を指定。

**-u FencedID**
fenced ユーザー ID を指定する

**OutputDir**
出力ファイル dbginfo.txt が置かれるディレクトリー。

**ユーザーの処置:**
次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2ginfo [-h|-?] [-y]
         [-c InstName [-a AuthType]
         [-u FencedID]] OutputDir
```

---

**DBI1024I 使用法:**

```
db2iauto [-h|-?] -on|-off
         InstName
```

**説明:**
間違った引数が入力されました。 このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h|-?** 使用情報を表示する

**-on|-off** インスタンスの自動開始を有効/無効にする

**InstName**
インスタンスの名前

**ユーザーの処置:**
次のようにコマンドを入力し直してください。

```
db2iauto [-h|-?] -on|-off InstName
```

---

**DBI1025I 使用法:**

```
dascrt [-d] -u ASUser
```

**説明:**
dascrt コマンドに対して無効な引数が入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-d** DB2 サービスで使用するために、デバッグ・モードに入る

**-u ASUser**
DAS の実行に使用するユーザー

**ユーザーの処置:**
このコマンドに関する詳細については、「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。次のようにコマンドを入力し直してください。

```
dascrt -u ASUser
```

DB2 インスタンスの作成に使用されるユーザー ID およびグループ名が有効であることを確認してください。命名規則について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターでトピック『ユーザー、ユーザー ID、およびグループの命名規則』を参照してください。

---

**DBI1026I 使用法:**

```
dlfmfsmd [-h|-?] [-j] dlfsMntPt
```

**説明:**
dlfmfsmd コマンドに無効な引数が入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h|-?** 使用情報を表示する

**-j** 名前付きファイル・システムを dlfs から jfs (AIX) または ufs (Solaris オペレーティング環境) に変更する

**dlfsMntPt**
Data Links Manager フィルターのファイル・システム用マウント・ポイント (スラッシュ: / が含まれる)。

**ユーザーの処置:**
次のようにコマンドを入力し直してください。

```
dlfmfsmd dlfsMntPt
```

---

**DBI1027I 使用法:**

```
command-name [-d]
```

**説明:**
無効な引数が *command-name* コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-d** DB2 サービスで使用するために、デバッグ・モードに入る

**ユーザーの処置:**
このコマンドに関する詳細については、「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。次のようにコマンドを入力し直してください。

```
command-name
```

---

**DBI1028I 使用法:**

```
dasupdt [-d] [-D] [-h|-?]
```

**説明:**
dasupdt コマンドに無効な引数が入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-d** DB2 サービスで使用するために、デバッグ・モードに入る

**-D** DAS を、あるパスの高位コード・レベルから別のパスにインストールされた低位コード・レベルに移動します。

**-h|-?** 使用法を表示します。

**ユーザーの処置:**
このコマンドに関する詳細については、「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。次のようにコマンドを入力し直してください。

dasupdt

---

**DBI1029I 使用法:**
**db2nqadm [start|stop]**

**説明:**
無効な引数が db2nqadm コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。
start (すべての NetQ サービスおよびデーモンを開始)
stop (すべての NetQ サービスおよびデーモンを停止)

いずれかの引数を指定してください。

**ユーザーの処置:**
正しい引数で、コマンドを再入力してください。

---

**DBI1030E カーネル・パラメーター *name* は *value* に設定してください。**

**説明:**
DB2 ではある特定のカーネル・パラメーターを更新する必要があります。

**ユーザーの処置:**

- 「概説およびインストール」マニュアルの説明どおりに、必要なすべてのカーネル・パラメーターを更新します。
- システムをリブートします。
- コマンドを再試行してください。

---

**DBI1031E 選択した製品をインストールするには、まず DB2 Workgroup Server Edition または DB2 Enterprise Server Edition のいずれかをインストールしなければなりません。**

**ユーザーの処置:**

- DB2 Workgroup Server Edition または DB2 Enterprise Server Edition のいずれかをインストールしてください。
- 製品をもう一度インストールしてください。

---

**DBI1032E 選択した製品は、バージョン 4.3 より前の AIX にはインストールできません。**

**説明:**
選択した DB2 製品には、バージョン 4.3 以上の AIX が必要です。

---

**DBI1033E 選択した製品には、DB2 Enterprise Server Edition を最初にインストールする必要があります。**

**ユーザーの処置:**

- いずれかの DB2 Enterprise Server Edition をインストールしてください。
- 製品をもう一度インストールしてください。

---

**DBI1034W 前提条件パッケージが見つかりません。**

**説明:**
パッケージ: <pkg-name> のいずれかをインストールするよう選択しましたが、インストールされている <pkg-name> ファイル・セットのレベルが <name> よりも低くなっているか、またはこれを検出できません。

**ユーザーの処置:**
<pkg-name> ファイル・セットのバージョンが <name> またはそれ以上であることを確認してください。

<pkg-name> のレベルは DB2 のインストールに影響を与えません。

---

**DBI1035E ファイル・システム *File-System* のマウントに失敗しました。**

**説明:**
示されているファイル・システムをマウントしようとしましたが、失敗しました。

**ユーザーの処置:**
ファイル・システムが定義されていることを確認してください。マウント・コマンドのエラーを訂正して、やり直してください。

---

**DBI1036E ファイル・システム *File-System* のアンマウントに失敗しました。**

**説明:**
示されているファイル・システムをアンマウントしようとしましたが、失敗しました。

**ユーザーの処置:**
アンマウント・コマンドのエラーを訂正して、やり直してください。

**DBI1037E　ファイル・システム *File-System* は存在しません。**

**説明:**
示されているファイル・システムは、このワークステーションに定義されていません。

**ユーザーの処置:**
ワークステーションにファイル・システムを定義して、やり直してください。

**DBI1038E　ファイル・システム *File-System* を変更できません。**

**ユーザーの処置:**
ファイル・システム定義を含むシステム・ファイルへの書き込み許可があるかどうか確認して、やり直してください。

**DBI1039W　前提条件パッケージが見つかりません。**

**説明:**
パッケージ“<name>”のいずれかをインストールするよう選択しましたが、 “<name>”ファイル・セットのレベルが “<name>”よりも低くなっています。

**ユーザーの処置:**
CD で提供されている“<name>”ファイル・セット・バージョン“<name>”をインストールしてください。

**DBI1040I　次のメッセージの変換バージョンはこのシステムでは使用できません。**

**ユーザーの処置:**
次のメッセージの変換バージョンはこのシステムでは使用できません。 PRODDIR/Readme/LOCALE ディレクトリーの「インストール・ノート」ファイルを参照してください。 PRODDIR は製品のディレクトリーで LOCALE はロケール名です。たとえば、製品ディレクトリーは次のものがあります。

/usr/opt/db2_08_xx (xx は 01 または FPn、
n はフィックスパックの番号)
または /opt/IBM/db2/V8.x (x は 1 または FPn、
n はフィックスパックの番号)

**DBI1041E　ファイル・システム *inputMntPt* を dlfs に変換できません。**

**説明:**
ファイル・システム ″/″, ″/var″, ″/usr″, and ″/tmp″ は、dlfs ファイル・システムに変換できません。これは、dlfs ファイル・システムを作成すると発生する可能性のあるブート問題が発生しないようにするための措置です。

**ユーザーの処置:**
別のファイル・システムを指定してコマンドをもう一度実行してください。

**DBI1042E　基本ファイル・システム *BaseFS* を dlfs に変更できません。**

**説明:**
Aix では、vfs が fsm または jfs の場合にのみ、ファイル・システムを dlfs に変更できます。 他の vfs では dlfs はサポートされてません。

**ユーザーの処置:**
jfs または fsm ファイル・システムでコマンドをもう一度実行してください。

**DBI1043E　選択した製品はまず、DB2 Administration Client のインストールを要求しています。**

**ユーザーの処置:**

- DB2 Administration Client をインストールしてください。
- 製品をもう一度インストールしてください。

**DBI1044E　前提条件である DB2 製品がインストール・ロケーション *install-path* にインストールされていないので、DB2 各国語パッケージのインストールを開始できません。**

**説明:**
DB2 各国語パッケージは、以下を含むインストール済みの DB2 製品に各国語サポートを追加するためにのみ使用できます。

**DBI1045I　使用法:**
**db2_install [-b <installpath>] [-p <db2producttobeinstalled>]**
**[-c <imagelocation>] [-l <logfile>] [-f NOTSAMP]**
**[-t <trcFile>] [-n] [-L <language>] [-h|-?]**

**説明:**

**-b** このオプションは、-n が指定されているとき root インストールの場合は必須ですが、非 root インストールの場合はオプションです。 DB2 製品がインストールされるパスを指定します。-n を指定する場合には必須です。パスは絶対パス名で、長さは 128 文字に限定されます。

**-p** インストールする DB2 製品を指定します。-n を指定する場合には必須です。

**-c** 関連する DB2 各国語パック (NLPACK) のロケーションを指定します。このパラメーターは、-n を指定する場合には必須です。

以下のすべての条件に適合する場合、DB2 NLPACK ロケーションを明示的に指定する必要があります。

- -n オプションが指定されている
- 現在のインストール済み環境が各国語 (非英語) 言語サポートのインストールを必要とする
- DB2 NLPACK が DB2 DVD 上にもインストール中の DB2 製品と同じサブディレクトリー内にもない

**-l** ログ・ファイルを指定します。ルート・インストールの場合、デフォルトのログ・ファイルは /tmp/db2_install.log$$ で、$$ はプロセス ID を表します。非ルート・インストールの場合、デフォルトのログ・ファイルは /tmp/db2_install_<userID>.log です。<userID> は、非ルート・インストールを所有するユーザー ID を表します。 db2_install コマンドを使用して IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) をインストールするか更新する場合、対応するログ・ファイルは DB2 ログ・ファイルと同じディレクトリーに入れられます。

**-f NOTSAMP**
SA MP Base Component をインストールまたは更新できないことを指定します。

**-t** デバッグ・モードをオンにします。デバッグ情報は、名前を指定したファイルに書き込まれます。

**-n** 非対話式モードを指定します。指定する場合、-b、-p、および -c も指定する必要があります。

**-L** 各国語サポートを指定します。同時に複数の言語をインストールするため、このパラメーターを複数回指定できます。

たとえば、英語とドイツ語の両方をインストールするには、-L EN -L DE を指定します。

**-h|-?** ヘルプ情報を表示します。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。

---

**DBI1046I** **使用法:**
**doce_install [-b <installpath>] [-p <db2producttobeinstalled>] [-c <imagelocation>] [-l <logfile>] [-t <trcFile>] [-n] [-L <language>] [-h|-?]**

**説明:**

**-b** DB2 製品がインストールされるパスを指定します。-n を指定する場合には必須です。パスは絶対パス名で、長さは 128 文字に限定されます。

**-p** インストールする DB2 製品を指定します。-n を指定する場合には必須です。

**-c** 関連する DB2 各国語パック (NLPACK) のロケーションを指定します。このパラメーターは、-n を指定する場合には必須です。

以下のすべての条件に適合する場合、DB2 NLPACK ロケーションを明示的に指定する必要があります。

- -n オプションが指定されている
- 現在のインストール済み環境が各国語 (非英語) 言語サポートのインストールを必要とする
- DB2 NLPACK が DB2 DVD 上にもインストール中の DB2 製品と同じサブディレクトリー内にもない

**-l** ログ・ファイルを指定します。デフォルトのログ・ファイルは /tmp/doce_install.log$$ で、$$ はプロセス ID です。

**-t** デバッグ・モードをオンにします。デバッグ情報は、名前を指定したファイルに書き込まれます。

**-n** 非対話式モードを指定します。指定する場合、-b、-p、および -c も指定する必要があります。

**-L** 各国語サポートを指定します。同時に複数の言語をインストールするため、このパラメーターを複数回指定できます。

たとえば、英語とドイツ語の両方をインストールするには、-L EN -L DE を指定します。

**-h|-?** ヘルプ情報を表示します。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。

**DBI1047I** **使用法:**

```
db2_deinstall -F <featureName> | -a
              [-l <logFile>]
              [-b <installPath>]
              [-t <trcFile>]
              [-f sqllib]
              [-h|-?]
```

**説明:**

**-F** 1 つのフィーチャーの除去を指定します。指定した DB2 コンポーネントの除去後に、DB2 のインストール・ロケーションに関連した DB2 インスタンスを手動で更新する必要があります。1 つの例外を除いて、-a と組み合わせて使用することはできません。除去するフィーチャーが IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (TSAMP) で、root 権限がある場合は、-F と -a を組み合わせて使用できます。

**-a** 現行のロケーションにインストールされている DB2 製品すべてを除去します。1 つの例外を除いて、-F と組み合わせて使用することはできません。除去するフィーチャーが IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (TSAMP) で、root 権限がある場合は、-F と -a を組み合わせて使用できます。非 root インストールでは、-a と -f を併用すると、$HOME/sqllib ディレクトリーの除去を含めて、非 root インスタンスも除去されます。

**-l** ログ・ファイルを指定します。ルート・インストールの場合、デフォルトのログ・ファイルは /tmp/db2_deinstall.log$$ で、$$ はプロセス ID を表します。非ルート・インストールの場合、デフォルトのログ・ファイルは /tmp/db2_deinstall_<userID>.log です。<userID> は、非ルート・インストールを所有するユーザー ID を表します。除去するフィーチャーが IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (TSAMP) の場合は、SA MP Base Component のインストール・ログ・ファイルは DB2 ログ・ファイルと同じディレクトリーに入れられます。

**-b** このオプションは、コマンドが DB2 メディアから実行される場合に有効になります。アンインストールする DB2 製品がインストールされている場所の絶対パスを指定します。このオプションを指定しないと、コマンドによりパスを入力するよう促されます。

**-t** デバッグ・モードをオンにします。デバッグ情報は、名前を指定したファイルに書き込まれます。

**-f sqllib** このオプションは、非 root インストールのみ有効です。-a と併用すると、インスタンスのトップ・ディレクトリーと、その下のすべてのディレクトリーが除去されます。

**-h|-?** ヘルプ情報を表示します。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。

---

**DBI1048I** **使用法:**

```
doce_deinstall -a
               [-l <logFile>]
               [-b <installPath>]
               [-t <trcFile>]
               [-h|-?]
```

**説明:**

**-a** 現行のロケーションにインストールされている DB2 製品すべてを除去します。

**-b** このオプションは、コマンドが DB2 メディアから実行される場合に有効になります。アンインストールする DB2 製品がインストールされている場所の絶対パスを指定します。このオプションを指定しないと、コマンドによりパスを入力するよう促されます。

**-l** ログ・ファイルを指定します。デフォルトのログ・ファイルは /tmp/doce_deinstall.log$$ で、$$ はプロセス ID です。

**-t** デバッグ・モードをオンにします。デバッグ情報は、名前を指定したファイルに書き込まれます。

**-h|-?** ヘルプ情報を表示します。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。

---

**DBI1049I** **使用法:**

```
db2ls [-q] [-b <baseInstallpathOfDB2>]
      [-c] [-f <feature rsp file ID>]
      [-l <logfile>]
      [-p] [-a]
```

**説明:**

**-q** これがローカル・コンポーネントの照会であることを指定します。-a を指定しない限り、デフォルトでは、表示可能なコンポーネント (フィーチャー) のみが表示されます。

**-b** -q を指定して、グローバル db2ls コマンドを実行中の場合には必須です。

**-c** 項目を列ベースではなく、コロンで区切られたリストとして出力を印刷します。シェル・スクリプトを使用して、この情報を正確に処理できるようにします。

例: #FEATURE:NAME:VRMF:FIXPACK: SPECIALINSTALL:PREREQS.

**-f** 特定のフィーチャーがインストールされているかどうかを確認するために照会します。フィーチャーがインストールされている場合、戻りコードはゼロ以外になります。フィーチャーがインストールされていない場合、戻りコードはゼロになります。

**-l** ログ・ファイルを指定します。デフォルトのログ・ファイルは /tmp/db2ls.log です。

**-p** インストール済み DB2 製品をリストします。-f または -a と結合させることはできません。

**-a** すべての非表示コンポーネントおよび表示可能なフィーチャーをリストします。デフォルトでは、表示可能なフィーチャーのみをリストします。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。

---

**DBI1050E サポートされていないオペレーティング・システム - *OS-name*、バージョン*OS-ver*。**

**説明:**
現行のオペレーティング・システムがサポートされていないか、あるいはオペレーティング・システムのこのバージョンがサポートされていません。 「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。

---

**DBI1051E このプログラムを root で実行することはできません。**

**説明:**
このプログラムは root 以外のユーザー ID でのみ実行できます。

**ユーザーの処置:**
root 以外のユーザー ID でログインしてから、コマンドを再発行してください。

---

**DBI1052E このプログラムを実行するには root である必要があります。**

**説明:**
このプログラムは root ユーザー ID でのみ実行できます。 このプログラムを実行するには特別な特権が必要です。

**ユーザーの処置:**
root でログインしてから、コマンドを再発行してください。

---

**DBI1053E *fsys-type* のファイル・システム・タイプはサポートされていません。**

**説明:**
このタイプのファイル・システム上にインスタンスのホーム・ディレクトリーを作成することはサポートされていません。 インスタンスのホーム・ディレクトリーは、ローカル・ファイル・システムあるいは NFS が取り付けられたファイル・システムに存在する必要があります。

**ユーザーの処置:**
サポートされているファイル・システムにホーム・ディレクトリーを変更してインスタンスの再作成をしてください。

---

**DBI1054I 使用法:**
**installFixPack**
**[-b <baseInstallPath>]**
**[-c <imagelocation>]**
**[-f level]**
**[-f db2lib]**
**[-f install|update]**
**[-f NOTSAMP]**
**[-l <logFile>]**
**[-t <traceFile>]**
**[-n]**
**[-h|-?]**

**説明:**

**-b** DB2 製品がインストールされるパスを指定します。-n を指定する場合には必須です。パスは絶対パス名で、長さは 128 文字に限定されます。

**-c** 関連する DB2 各国語パック (NLPACK) のロケーションを指定します。このパラメーターは、-n を指定する場合には必須です。

以下のすべての条件に適合する場合、DB2 NLPACK ロケーションを明示的に指定する必要があります。

- -n オプションが指定されている
- 現在のインストール済み環境が各国語 (非英語) 言語サポートのインストールを必要とする
- DB2 NLPACK が DB2 DVD 上にもインストール中の DB2 製品と同じサブディレクトリー内にもない

**-f** 引数なしの -f はサポートされていません。以下の強制引数を組み合わせることができます。例えば、-f level -f db2lib とします。

**-f level** 下位レベルまたは同じレベルのフィックスパック・インストールを強制します。

**-f db2lib**
installFixPack が DB2 ライブラリーのロードに関する検査をバイパスするよう強制します。インストール後にインスタンスやアプリケーションの作業が適切になるようにするには、すべての関連インスタンス (関連する DPF インスタンスのすべてのノードを含む) に関する DBM を停止し、インストール・パスに関連したすべての DB2 ライブラリーをアンロードしなければなりません。

**-f install**
installFixPack がすべての検査をバイパスするよう強制します。インストール後にインスタンスやアプリケーションの作業が適切になるようにするには、すべての関連インスタンス (関連する DPF インスタンスのすべてのノードを含む) に関する DBM を停止し、インストール・パスに関連したすべての DB2 ライブラリーをアンロードしなければなりません。このオプションを指定すると、instance/DAS は更新されません。インストール後にユーザーが手動で instance/DAS を更新する必要があります。また、オプションの更新とインストールは相互に排他的で、同一のインストールでは指定できないことに注意してください。

**-f update**
installFixPack がすべての検査をバイパスするよう強制します。インストール後にインスタンスやアプリケーションの作業が適切になるようにするには、すべての関連インスタンス (関連する DPF インスタンスのすべてのノードを含む) に関する DBM を停止し、インストール・パスに関連したすべての DB2 ライブラリーをアンロードしなければなりません。このオプションを指定すると、instance/DAS は更新されます。また、オプションの更新とインストールは相互に排他的で、同一のインストールでは指定できないことに注意してください。

**-f NOTSAMP**
SA MP Base Component を更新できないことを指定します。

**-l** ログ・ファイルを指定します。ルート・インストールの場合、デフォルトのログ・ファイルは /tmp/installFixPack.log$$ で、$$ はプロセス ID を表します。非ルート・インストールの場合、デフォルトのログ・ファイルは /tmp/installFixPack_<userID>.log です。<userID> は、非ルート・インストールを所有するユーザー ID を表します。 installFixPack を使用して IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) を更新する場合、対応するログ・ファイルは DB2 ログ・ファイルと同じディレクトリーに入れられます。

**-t** デバッグ・モードをオンにします。デバッグ情報は、名前を指定したファイルに書き込まれます。

**-n** 非対話式モードを指定します。指定する場合、-b および -c も指定する必要があります。

**-h|-?** ヘルプ情報を表示します。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。

---

**DBI1055E メッセージ・ファイル *file-name* が見つかりません。**

**説明:**
インスタンス・コマンドが必要とするメッセージ・ファイルが、システムから失われていますが、これが削除されているか、またはデータベース製品が正しくインストールされていない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
メッセージ・ファイルを備えた製品オプションが正しくインストールされているかを調べてください。検証エラーがある場合は、製品オプションを再インストールしてください。

---

**DBI1056I 使用法:**
**db2chgpath [-d] [-f <relativePath/FileName>]**

**説明:**

**-d** デバッグ・モードをオンにする

**-f** 特定のファイル名を指定して、ランタイム・パスを更新します。指定のファイル名は、現在の

DB2 インストール・ロケーションのベースに対して相対的なパス名を持っていなければなりません。ルート権限が必要で、このコマンドは DB2DIR/install ディレクトリーから直接実行しなければなりません。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。

---

**DBI1057E　必須ロケール *locale* が無効です。**

**説明:**
必須ロケールのディレクトリー、 /usr/lib/locale/LANG/LC_MESSAGES が存在しません。ここで LANG は現行ロケール名です。

**ユーザーの処置:**
指定されたロケールが正しくインストールされたかどうか確認してください。 さらに、読み取りと実行の許可がそのディレクトリーに正しく設定されているかチェックしてください。

---

**DBI1058E　gunzip コマンドが見つかりません。**

**説明:**
gunzip ユーティリティーは、DB2 製品をインストールまたは更新するためにシステムで使用する必要があります。

**ユーザーの処置:**
gunzip ユーティリティーが PATH 環境変数でインストールされていることを確認してください。コマンドを再入力してください。

---

**DBI1059E　DB2 Suite ファイル・セットを完全にアンインストールする予定の現行のインストール・ディレクトリーに関連した DB2 インスタンスが依然として存在しています。そのため、アンインストール処理を続行できません。**

**ユーザーの処置:**

1. アンインストールが現行の DB2 インストールの DB2 レベルの上昇または下降のためである場合には、意図した DB2 レベルのDB2 イメージ内の installFixPack を使用して、現行の DB2 インストールを更新する必要があります。
2. DB2 をアンインストールしてから、同じ位置に再インストールすることが目的である場合、-f オプションを指定して installFixpack を使用してください。
3. 現在のロケーションの DB2 を単にアンインストールすることが目的の場合、不必要であるならば、インストール・ディレクトリーに関連した DB2 インスタンスをドロップしなければなりません。または、同じバージョンの DB2 の別の DB2 インストール・ロケーションに DB2 インスタンスを更新してから、db2_deinstall を再始動する必要があります。

---

**DBI1060E　無効なパッケージ名 *pkg-name*。**

**説明:**
間違った名前が入力されました。 そのパッケージは存在しないか、または名前が間違えて入力されました。

**ユーザーの処置:**
指定されたパッケージ名が分散メディアに存在するか確認してください。 存在する場合、名前につづりの誤りがないか調べてください。 すべてのパッケージ名は小文字である必要があります。

---

**DBI1061E　ファイル・セットまたはパッケージ名 *pkg-name* がありません。**

**説明:**
ソフトウェアの前提条件を検証中にエラーが発生しました。このコマンドを使用する前に上記のファイル・セットまたはパッケージをインストールする必要があります。

**ユーザーの処置:**
与えられたパッケージの名前がシステムにインストールされているかどうか確認してください。

---

**DBI1062E　ファイル・セットまたはパッケージ名 *pkg-name* がありません。**

**説明:**
このコマンドを使用する前に上記のファイル・セットまたはパッケージをインストールする必要があります。

**ユーザーの処置:**
ファイル・セットまたはパッケージをインストールして、コマンドを再発行してください。

---

**DBI1063E　PTF またはパッチ *patch-name* がありません。**

**説明:**
このコマンドを使用する前に、上記の PTF またはパッチをインストールする必要があります。このコマンドを正常に実行完了するには、この PTF またはパッチが必要です。

**ユーザーの処置:**
必要な PTF またはパッチをインストールして、コマンドを再発行してください。

---

**DBI1064E** **ユーザー *user* が DB2 インスタンスによって使用されているため、DB2 Administration Server の作成に使用できません。**

**説明:**
DB2 Administration Server の作成に使用しようとしているユーザーが DB2 インスタンスによって使用されています。このユーザーで DB2 Administration Server を作成しないでください。

**ユーザーの処置:**
DB2 Administration Server を作成するには、DB2 インスタンスによって使用されていない別のユーザー名を使用してください。

---

**DBI1065E** **プログラム *program-name* が異常終了しました。**

**説明:**
実行中にエラーが発生し、このプログラムが異常終了しました。

**ユーザーの処置:**
問題を訂正してコマンドを再試行してください。

---

**DBI1066E** **プログラム *program-name* は要求によって終了されました。**

**説明:**
このプログラムはユーザーによって終了されました。

**ユーザーの処置:**
同じコマンドを発行しプログラムを再始動してください。

---

**DBI1067E** **ロケール *locale-name* の DB2 製品ライブラリーはインストールされていません。**

**説明:**
DB2DIR/doc/“<locale-name>”/html ディレクトリーに、tar 圧縮された HTML ファイルがありません。ここで、
DB2DIR =
/usr/opt/db2_08_xx (xx は 01 または FPn、n はフィックスパックの番号)
または /opt/IBM/db2/V8.x (x は 1 または FPn、n はフィックスパックの番号)

**ユーザーの処置:**
必要なロケールの DB2 製品ライブラリーをインストールして、このコマンドを再発行してください。

---

**DBI1068E** **ディレクトリー *dir-name* に HTML ファイルのすべてを圧縮解除および un-tar するのに十分なスペースがありません。**

**説明:**
ファイル・システムがフルのため、圧縮解除および un-tar を行った後で、HTML ファイルをすべて上記のディレクトリーに保管できません。

**ユーザーの処置:**
ファイル・システムのサイズを増やすか、またはファイル・システムで十分なディスク・スペースを解放してください。 コマンドをもう一度発行してください。

---

**DBI1069E** **予期しないエラー。関数 = *fname*、戻りコード = *return-code*。**

**説明:**
このプログラムの実行中、想定外のエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

- メッセージ番号
- 関数名
- 戻りコード
- 問題の説明

---

**DBI1070I** **プログラム *program-name* は正常に完了しました。**

---

**DBI1071E** **ファイル *tar_filename* を untar する際に問題がありました。**

---

**DBI1072I** **db2licm が nodelock ファイルを更新できませんでした。 詳細情報については、ログ・ファイル *log-name* を参照してください。**

**説明:**
db2licm が nodelock ファイルにライセンスを追加できなかったため、DB2 は製品ライセンスがインストールされるまで試供版のライセンスで実行されます。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再試行しても失敗が継続する場合には、nodelock ファイルにライセンス・キーを手動で追加してください。 ライセンスの詳細情報については、「概説およびインストール」を参照してください。

---

**DBI1073E** **-b <baseInstallPathOfDB2> が、インストーラー・スクリプト *installer_name* で必要です。**

**DBI1074E** **Administration server が存在しません。**

**説明:**
Administration server を更新またはマイグレーションしようとしました。 Administration server が存在しません。

**ユーザーの処置:**
dascrt ツールを使用して Administration server を作成します。

**DBI1075E** **Administration server をマイグレーションできません。**

**説明:**
Administration server をマイグレーションできません。 Administration server は、サポートされる DB2 マイグレーション・レベルではないレベルで実行しています。

**ユーザーの処置:**

- Administration server が DB2 と同じバージョンで実行している場合、dasupdt を使用して Administration server を更新します。
- Administration server がサポートされないマイグレーション・レベルで実行している場合、dasdrop コマンドを使用して Administration server を除去し、現行の DB2 レベルで dascrt コマンドを使用して Administration server を再作成します。

**DBI1077E** **ユーザー *user* が DB2 Administration Server によって使用されているため、DB2 インスタンスの作成に使用できません。**

**説明:**
DB2 インスタンスの作成に使用しようとしているユーザーが DB2 Administration Server によって使用されています。このユーザーで DB2 インスタンスを作成しないでください。

**ユーザーの処置:**
DB2 インスタンスを作成するには、DB2 Administration Server によって使用されていない別のユーザー名を使用してください。

**DBI1078E** **SA MP Base Component の更新に失敗しました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file-name* を参照してください。 (TSAMP_RC=*TSAMP_RC*)。**

**説明:**
DB2 インストーラーは、installSAM ユーティリティーを使用して、IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) を更新します。 installSAM ユーティリティーからエラーが戻されました。 installSAM ログ・ファイルに、さらに詳しい情報が含まれています。

TSAMP_RC は installSAM ユーティリティーからの戻りコードです。

DB2 インストーラーを使用して SA MP Base Component を更新するには、root 権限がなければならないことに注意してください。

SA MP Base Component は更新されませんでした。

**ユーザーの処置:**
詳細は、示されているログ・ファイルを参照してください。

SA MP Base Component を手動で更新するには、installSAM コマンドを使用してください。

installSAM ユーティリティーについての詳細は、http://publib.boulder.ibm.com/tividd/td/IBMTivoliSystemAutomationforMultiplatforms2.2.html を参照してください。

**DBI1079I** **出力はログ・ファイル *log-name* に保存されています。**

**説明:**
処理済みの、または失敗したすべての操作は、このログ・ファイルに保管されています。

**ユーザーの処置:**
ログ・ファイルは修正しないでください。 このファイルは IBM 技術サポートが参照するためのものです。

**DBI1080E** **ディスクがいっぱいです。 *dir-name* には *KB* KB 最低限必要ですが、使用できるスペースは *KB* KB しかありません。**

**説明:**
ファイル・システムあるいはディレクトリーに十分なフリー・スペースがありません。

**ユーザーの処置:**

ディスク・スペースを開放してコマンドを再試行してください。

---

**DBI1081E　ファイルまたはディレクトリー *file-name* がありません。**

**説明:**
このコマンドの処理に必要なファイルまたはディレクトリーがありません。

**ユーザーの処置:**
ファイルがいずれかのデータベース製品に属するものである場合は、その製品が正しくインストールされているかどうかを調べて、必要であればその製品を再インストールしてください。 ファイルがインスタンスに属するものである場合は、そのインスタンスがすでに除去されているか、または壊れている可能性があります。

与えられたディレクトリーの名前がファイル・システムに存在しているかどうか確認してください。存在する場合、名前につづりの誤りがないか調べてください。
UNIX のどのファイルおよびディレクトリー名でも、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

---

**DBI1082E　ファイルまたはディレクトリー *file-name* がすでに存在しています。**

**説明:**
コマンドが作成すべきファイルまたはディレクトリーが、すでに存在しています。

**ユーザーの処置:**
示されたファイルまたはディレクトリーを調べてください。前にコマンドが正常に完了した結果としてファイルまたはディレクトリーが存在する場合は、アクションは不要です。そうでない場合は、コマンドを再発行する前に、示されたファイルまたはディレクトリーを名前変更または除去する必要があります。

---

**DBI1083E　*file-name* を除去しようとしましたが、失敗しました。**

**説明:**
与えられたファイルまたはディレクトリーの削除中にエラーが発生しました。 これはこのファイルまたはディレクトリーの所有権が不適当である可能性があります。

**ユーザーの処置:**
示されたファイルまたはディレクトリーのファイル許可または所有権を調整して、コマンドを再発行してください。

---

**DBI1084E　*file-name* を作成しようとしましたが、失敗しました。**

**説明:**
与えられたファイルまたはディレクトリーの作成中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
ファイル・システムに十分なスペースがあること、また必要なディレクトリーに対して書き込み許可があることを確かめてください。推奨ディレクトリー許可は u=rwx,go=rx です。

---

**DBI1085E　ファイルまたはディレクトリー *file-name* を *file-name* へ移動しようとしましたが、失敗しました。**

**説明:**
与えられたファイルまたはディレクトリーの再配置中にエラーが発生しました。コマンドは正常に処理されませんでした。

**ユーザーの処置:**
示されたファイルまたはディレクトリーが移動できなかった理由を判別して、コマンドを再発行してください。

---

**DBI1086E　ファイルまたはディレクトリー *file-name* を *file-name* へコピーしようとしましたが、失敗しました。**

**説明:**
与えられたファイルまたはディレクトリーの複製中にエラーが発生しました。コマンドは正常に処理されませんでした。

**ユーザーの処置:**
示されたファイルまたはディレクトリーがコピーできなかった理由を判別して、コマンドを再発行してください。

---

**DBI1087E　リンク *filename* を作成しようとしましたが、失敗しました。**

**説明:**
与えられたリンクを作成できません。 親ディレクトリーの書き込み許可がオフになっているか、あるいはこのファイルまたはディレクトリーと同一の名前がすでに存在していることが考えられます。

**ユーザーの処置:**
ファイルの親ディレクトリーの許可をチェックし、インストール処理を再始動してください。推奨ディレクトリー許可は u=rwx,go=rx です。

---

**DBI1088E　ディレクトリー *directory* で無効なアクセス許可が検出されました。**

**説明:**
このエラーが発生する場合、いくつかの理由が考えられます。以下の状態のいずれかが発生していると考えられます。

- 与えられた名前がディレクトリー名でない、あるいは読み取りおよび実行許可がない。
- 与えられたディレクトリーは作成できるがアクセスできない。
- このパスにある親ディレクトリーのいずれかの許可が、正しく設定されていません。

**ユーザーの処置:**
与えられたディレクトリーの許可をチェックし、インストール処理を再始動してください。推奨ディレクトリー許可は u=rwx,go=rx です。

---

**DBI1089E　*backup-dir* ディレクトリーに現行インスタンス関連情報を保管中のエラーです。**

**説明:**
このエラーが発生する場合、いくつかの理由が考えられます。以下の状態のいずれかが発生していると考えられます。

- 指定されたディレクトリーに十分な許可がないか、あるいは書き込み許可がありません。
- ファイル・システムに残っているスペースがありません。

**ユーザーの処置:**
適切な訂正アクションを行なって、コマンドを再発行してください。

---

**DBI1090E　*file-name* の *parameter* を更新しようとしましたが、失敗しました、**

**説明:**
提供されたファイルの更新でエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
<file-name> 中にあるすべての <parameter> が <value> に設定されていることを確認してください。

---

**DBI1091E　*directory* に対する許可を変更しようとしましたが、失敗しました。**

**説明:**
指定されたファイルまたはディレクトリーの許可の変更中にエラーが発生しました。これは、このファイルまたはディレクトリーの所有権が不適当である可能性があります。

**ユーザーの処置:**
与えられたディレクトリーの許可および所有権をチェックし、インストール処理を再始動してください。 推奨ディレクトリー許可は u=rwx,go=rx です。

---

**DBI1092E　*directory* に対する所有権を変更しようとしましたが、失敗しました。**

**説明:**
与えられたファイルまたはディレクトリーの所有権の変更中にエラーが発生しました。これはこのファイルまたはディレクトリーの所有権が不適当である可能性があります。

**ユーザーの処置:**
与えられたディレクトリーの所有権をチェックし、インストール処理を再始動してください。

---

**DBI1093E　*directory* に対するグループ所有権を変更しようとしましたが、失敗しました。**

**説明:**
与えられたファイルまたはディレクトリーのグループ所有権の変更中にエラーが発生しました。これは、このファイルまたはディレクトリーの所有権が不適当である可能性があります。

**ユーザーの処置:**
与えられたディレクトリーの所有権をチェックし、インストール処理を再始動してください。

---

**DBI1094E　ディレクトリー・アクセス・エラーです。**

**説明:**
ツールが、ディレクトリー・サーバーでの入出力操作中にアクセス・エラーを見つけました。

**ユーザーの処置:**
ディレクトリー・サーバーがオンラインで、LAN でアクセス可能であることを確認してください。

---

**DBI1095W　ファイルまたはディレクトリー *name* が見つかりません。**

**ユーザーの処置:**
ファイル/ディレクトリーを提供するファイル・セット/パッケージがインストールされていることを確認してください。

---

**DBI1096E　ファイルまたはディレクトリー *file-name* がすでに存在しています。**

**説明:**
コマンドが作成すべきファイルまたはディレクトリーが、すでに存在しています。

**ユーザーの処置:**
示されたファイルまたはディレクトリーを調べてください。このファイルまたはディレクトリーが必要でない場合、除去してコマンドを再実行してください。そうでない場合は、コマンドを再発行する前に、示されたファイルまたはディレクトリーを名前変更または除去する必要があります。

---

**DBI1097E　ファイルまたはディレクトリー *file-name* が存在しません。**

**説明:**
コマンドが必要なファイルまたはディレクトリーが存在しません。

**ユーザーの処置:**
ファイルまたはディレクトリーが存在しない場合、ファイルまたはディレクトリーを提供するソフトウェアをインストールする必要がある場合があります。ファイルまたはディレクトリーが存在する場合、PATH 変数が正しく設定されているかどうか、チェックしてください。ファイルまたはディレクトリーが PATH に設定されたら、コマンドを再試行してください。

---

**DBI1098I　使用法:**

**db2cptsa [-h|-?]**
**[-c]**
**[-f]**
**[-r]**

**説明:**
このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h|-?** ヘルプ情報を表示します。

**-c** DB2 HA スクリプトが /usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 中に存在し、レベルが適切であることを確認します。

**-f** /usr/sbin/rcst/sapolicies/db2 中への DB2 HA スクリプトの再インストールを強制します。この引数を指定しない場合、既にインストール済みの DB2 HA スクリプトのバージョンが、インストールしようとしているスクリプトのバージョンと同じか、またはそれ以上である場合、インストール済みのスクリプトは上書きされません。

**-r** ディレクトリー /usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 を除去します。このディレクトリーには、SA MP Base Component の DB2 HA スクリプトがあります。これらのスクリプトとこのディレクトリーは、SA MP Base Component がインストールされていない場合のみ除去されます。

このユーティリティーは、/usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 中で DB2 HA スクリプトをインストールするか更新します。IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) と DB2 HA フィーチャーを併用するには、これらの DB2 HA スクリプトが必要です。

デフォルトではこのユーティリティーは、DB2 HA スクリプトが /usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 中にまだインストールされていない場合か、すでにインストール済みのスクリプトのバージョンがインストールしようとしているスクリプトのバージョンより古い場合に、このスクリプトをこの場所にインストールします。このユーティリティーは、SA MP Base Component が既にインストール済みの場合に限り、DB2 HA スクリプトのインストールか更新を行います。

このコマンドは root 権限で実行しなければなりません。

このコマンドは、DB2 インストール・メディア上の以下のディレクトリー中にあります。

- db2/<plat>/tsamp

<plat> は以下のとおりです。

- DB2 for AIX 5L の場合は aix
- 32 ビット AMD および Intel システム (x86) 上の DB2 for Linux の場合は linux
- AMD64 および Intel EM64T システム (x86-64) 上の DB2 for Linux の場合は linuxamd64
- POWER (System i(TM) および System p) システム上の DB2 for Linux の場合は linuxppc
- System z9 および zSeries 上の DB2 for Linux の場合は linux390

このコマンドは <DB2DIR>/install/tsamp ディレクトリーでも使用できます。<DB2DIR> は DB2 データベースのインストール・パスです。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。

---

**DBI1099I　SA MP Base Component の DB2 HA スクリプトが /usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 中に正常にインストールされました。**

**説明:**
IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component と DB2 HA フィーチャーを併用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。

これらの DB2 HA スクリプトは /usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 にあります。 DB2 インストーラーは、これらの

DB2 HA スクリプトをインストールする必要があるか、それとも更新する必要があるかを検出します。

DB2 インストーラーは DB2 HA スクリプトを正常にインストールしました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBI1100E　インスタンス・ロックが検出されました。別のインスタンス管理コマンドが実行中です。**

**説明:**
別のインスタンス管理コマンド (たとえば、db2icrt, db2idrop, db2iupdt, または db2imigr) が実行中であるため、このコマンドが失敗しました。インスタンス管理コマンドは、排他ロックを取得しているため、同一インスタンスに対して同時にコマンドを実行することができません。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再発行する前に、インスタンス・コマンドの他のすべてのオカレンスの実行が完了するのを待ってください。他のインスタンス・コマンドが実行されていない場合、以下のいずれかのディレクトリーでファイル“instance.lock”を削除します。
/usr/opt/db2_08_xx (xx は 01 または FPn、n はフィックスパックの番号)
または /opt/IBM/db2/V8.x (x は 1 または FPn、n はフィックスパックの番号)

---

**DBI1101E　ユーザー名 *user-name* が無効です。**

**説明:**
指定されたユーザー名は既存ユーザーのログイン名でなければならず、以下のようにすることはできません。

1. 8 文字より長い名前。
2. “sql”、“ibm”または“sys”で始まる名前。
3. 数字で始まる名前、または a-z、_、0-9 以外の文字を使用した名前。

**ユーザーの処置:**
詳しくは、「DB2 管理ガイド」中の『ユーザー、ユーザー ID、およびグループの命名規則』を参照してください。

有効なユーザー名を使用して、コマンドを再試行してください。

---

**DBI1102E　DAS 名が無効です。**

**説明:**
DAS 名は既存ユーザーのログイン名でなければならず、以下のようにすることはできません。

- 8 文字より長い名前。
- ″SYS″、″sys″、″IBM″、″ibm″、″SQL″、または ″sql″ で始まっている。
- 数字で始まる名前、または a-z、$、#、@、_、0-9 以外の文字を使用した名前。

**ユーザーの処置:**
有効な DAS 名を使用して、コマンドを発行してください。

---

**DBI1103E　Administration Server はすでに存在しています。**

**説明:**
Administration Server がすでにご使用のシステムに作成されていることを検出しました。 1 つのシステムに Administration Server は 1 つしか作成できません。

**ユーザーの処置:**
Administration Server を再作成する場合、先に Administration Server をドロップしないと再作成できません。

---

**DBI1104E　Administration Server はドロップできません。**

**説明:**
Administration Server をドロップ (ドロップ) しようとして、失敗しました。 システムは、Administration Server が存在しないことを検出しました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBI1105E　DB2 Data Links Manager 管理者はすでに存在します。**

**説明:**
システムが、DB2 Data Links Manager 管理者がシステムにすでに作成されていることを検出しました。 DB2 Data Links Manager 管理者は、システムごとに 1 つしか作成できません。

**ユーザーの処置:**
DB2 Data Links Manager 管理者を再作成する場合、その前に DB2 Data Links Manager 管理者をドロップしなければなりません。

---

**DBI1106E　DB2 Data Links Manager 管理者をドロップできません。**

**説明:**
DB2 Data Links Manager 管理者をドロップしようとしましたが、失敗しました。 システムが、DB2 Data Links Manager 管理者が存在しないか、または別のユーザー ID で作成されていることを検出しました。

**ユーザーの処置:**
“dlfmlist”コマンドで報告されている DB2 Data Links Manager 管理者の名前が正しいことを確認して、やり直してください。

**DBI1107E　DB2 Data Links Manager 管理者を作成できません。**

**説明:**
DCE によって DB2 Data Links Manager 管理者を作成するには、システム上の DFS がバージョン 3.1 またはそれ以上でなければなりません。

**DBI1108E　DLFM ユーザー *user* に対して有効なグループ名または数値 *group-name* が指定されていません。**

**説明:**
dlfm インスタンスを作成している場合、または DB2 V7 以前から dlfm インスタンスをマイグレーションしている場合、 -g DLFMGid を指定する必要があります。

DLFMGid には、数値のグループ ID かグループ名を指定することができます。そのグループ *group-name* は DLFM ユーザー *user* の 2 次グループ・リストに含まれていなければなりません。

V8 またはそれ以降の dlfm インスタンスをマイグレーションするときに、そのインスタンスにすでにセットアップされている DLFMGid と同じでない -g DLFMGid が指定された場合は、指定されたパラメーターは無視されて、古い Gid が使用されます。

Solaris オペレーティング環境で Datalinks を使用している場合、このグループ名は Solaris のカーネルにもなければなりません。この要件については、「Quick Beginnings Guide for Datalinks」を参照してください。

**ユーザーの処置:**
グループ *group-name* を DLFM ユーザー *user* の 2 次グループ・リストに設定し、コマンドを再発行してください。

**DBI1109E　カーネル・パラメーターはこのコマンドを使用する前に更新される必要があります。**

**説明:**
正しく構成されていないカーネル・パラメーターがあります。

**ユーザーの処置:**

- 「概説およびインストール」マニュアルの説明どおりに、必要なすべてのカーネル・パラメーターを更新します。
- システムをリブートします。
- コマンドを再試行してください。

**DBI1110I　SA MP Base Component の DB2 HA スクリプトが /usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 中で正常に更新されました。**

**説明:**
IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component と DB2 HA フィーチャーを併用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。

これらの DB2 HA スクリプトは /usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 にあります。 DB2 インストーラーは、これらの DB2 HA スクリプトをインストールする必要があるか、それとも更新する必要があるかを検出します。

DB2 インストーラーは DB2 HA スクリプトを正常に更新しました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DBI1111E　fencedID パラメーターはこのコマンドでは -u flag を使用して指定する必要があります。**

**説明:**
fencedID パラメーターはこのコマンドを使用して指定する必要があります。 fencedID パラメーターは fenced ユーザー定義関数 (UDF) および fenced ストアード・プロシージャーが動作するユーザーの名前に設定されます。

**ユーザーの処置:**
引数“-u FencedID”を追加してコマンドを再入力してください。ここで fencedID は fenced UDF あるいは fenced ストアード・プロシージャーが動作するユーザーの名前です。

セキュリティー上の理由から、fencedID としてインスタンス名を使用しないことをお勧めします。 ただし、ユーザー定義関数 (UDF) あるいはストアード・プロシー

ジャーを使用する予定のない場合に、fencedID をインスタンス名に設定すると、fencedID に別のユーザーを作成する手間が省けます。

---

**DBI1112E　fencedID パラメーター *fenced-id* は無効です。**

**説明:**
fenced ユーザー定義関数および fenced ストアード・プロシージャーが実行されるユーザー名を指定する fencedID パラメーターの条件は以下のとおりです。

- 既存ユーザーのログイン名。
- root または bin ユーザーの設定は不可。

**ユーザーの処置:**
有効な fencedID パラメーターでこのコマンドを再度試行してください。

---

**DBI1113W　fencedID パラメーターの前の値 *old-value* が異なっています。新規の値 *new-value* が無視されます。**

**説明:**
コマンド行で入力された fencedID パラメーターはこのユーザー ID の前に使用されたパラメーターと異なります。 このパラメーターの新規の値は無視されます。

---

**DBI1114W　SA MP Base Component の DB2 HA スクリプトが /usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 中にありませんでした。**

**説明:**
IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component と DB2 HA フィーチャーを併用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。

db2cptsa ユーティリティーは、これらのスクリプトと、spec という名前のファイルが /usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 中にあると予期します。

DB2 インストーラーは DB2 HA スクリプトか spec ファイルを検出できませんでした。

**ユーザーの処置:**
root 権限で db2cptsa ユーティリティーを実行し、DB2 HA スクリプトを手動でインストールしてください。

---

**DBI1115E　無効な AuthType パラメーター *auth-type* が -a フラグを付けて指定されました。**

**説明:**
インスタンスに使用される認証タイプを指定する AuthType パラメーターが無効です。有効な認証タイプは以下のとおりです。

- SERVER
- CLIENT
- SERVER_ENCRYPT

**ユーザーの処置:**
有効な AuthType パラメーターを指定して、コマンドを再発行してください。

---

**DBI1116W　/usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 中にある SA MP Base Component の DB2 HA スクリプトのバージョンは、現在 DB2 インストール・メディア上にある同じスクリプトのバージョンより古いバージョンです。**

**説明:**
IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。

DB2 インストール・メディアからインストールする SA MP Base Component と DB2 HA フィーチャーには、同じく DB2 インストール・メディア上にあるスクリプトと同じバージョンの、またはそれより高いバージョンの DB2 HA スクリプトが必要です。

現在インストール済みの DB2 HA スクリプトのバージョンは、DB2 インストール・メディア上のスクリプトより古いバージョンです。

**ユーザーの処置:**
root 権限で db2cptsa ユーティリティーを実行し、DB2 HA スクリプトを手動で更新してください。

---

**DBI1117I　/usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 中にある SA MP Base Component の DB2 HA スクリプトのバージョンは、現在 DB2 インストール・メディア上にある同じスクリプトのバージョンより新しいバージョンです。**

**説明:**
IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。

DB2 インストール・メディアからインストールする SA MP Base Component と DB2 HA フィーチャーには、同じく DB2 インストール・メディア上にあるスクリプトと同じバージョンの、またはそれより高いバージョンの DB2 HA スクリプトが必要です。

現在インストール済みの DB2 HA スクリプトのバージョンは、DB2 インストール・メディア上のスクリプトより新しいバージョンです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBI1118W　DB2 は、ユーザー *name* (インスタンス所有者または DAS) のホーム・ディレクトリーの下に .profile ファイルを作成し、そのファイルにはデフォルト環境 (インスタンスまたは DAS) をセットアップする項目が含まれます。**

**説明:**
インスタンスまたは DAS *name* のユーザー ID は Korn シェルを使用していますが、ホーム・ディレクトリーの下に .profile ファイルがありません。DB2 インストール・スクリプトはユーザー ID 用の .profile ファイルを作成し、そのファイルにデフォルト・インスタンスまたは DAS 環境の設定に必要な項目を取り込みました。これにより、ユーザーのログイン時に、ユーザーは自動的にインスタンスまたは DAS 環境を獲得できます。

**ユーザーの処置:**
Korn シェルを使用していて、インスタンスまたは DAS *name* の環境を手動でセットアップする場合には、DB2 スクリプトが作成した .profile を除去して、インスタンスまたは DAS 環境を手動でセットアップできます。

---

**DBI1119I　/usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 中にある SA MP Base Component の DB2 HA スクリプトのバージョンは、現在 DB2 インストール・メディア上にあるスクリプトのバージョンと同じバージョンです。**

**説明:**
IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。

DB2 インストール・メディアからインストールする SA MP Base Component と DB2 HA フィーチャーには、同じく DB2 インストール・メディア上にあるスクリプトと同じバージョンの、またはそれより高いバージョンの DB2 HA スクリプトが必要です。

現在インストール済みの DB2 HA スクリプトのバージョンは、DB2 インストール・メディア上のスクリプトと同じバージョンです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBI1120E　インスタンス *inst-name* をドロップすることができません。**

**説明:**
まだアクティブである可能性のあるインスタンスをドロップしようとしました。

---

**DBI1121E　“db2idrop”を使用して Administration Server をドロップできません。**

**説明:**
“db2idrop”を使用して Administration Server のドロップをしようとしました。この操作はレジストリーの不整合状態を引き起こすため許可されません。

**ユーザーの処置:**
“dasidrop”コマンドを使用して Administration Server を除去してください。

---

**DBI1122E　インスタンス *inst-name* は更新/マイグレーションできません。**

**説明:**
インスタンスを更新/マイグレーションしようとしました。このインスタンスは、以下の理由で更新/マイグレーションできません。

- この“db2iupdt”/“db2imigr”コマンドは、このインスタンスを更新/マイグレーションするためには使用できません。
- インスタンスがまだアクティブである。

**ユーザーの処置:**
適切なバージョンの“db2iupdt”/“db2imigr”コマンドを使用していることを確認してください。また、インスタンスで実行中の db2 処理がないことも確認してください。コマンドを再試行してください。

---

**DBI1123E　“db2iupdt”を使用して Administration Server を更新できません。**

**説明:**
“db2iupdt”を使用して Administration Server の更新をしようとしました。この操作はレジストリーの不整合状態を引き起こすため許可されません。

**ユーザーの処置:**
“dasiupdt”コマンドを使用して Administration Server を更新してください。

---

**DBI1124E　インスタンス *inst-name* をマイグレーションすることができません。**

**説明:**

インスタンスをマイグレーションしようとしました。このインスタンスは以下の理由からマイグレーションできません。

- インスタンスがまだアクティブである。
- このインスタンスのマイグレーションがサポートされていない。
- このバージョンの“db2imigr”がこのインスタンスをマイグレーションするためには使用できない。

**ユーザーの処置:**
インスタンスが、マイグレーションに使用できて、適切なバージョンの “db2imigr”コマンドを使用しているかを確認してください。インスタンスのマイグレーションの詳細については、ご使用のプラットフォームの「概説およびインストール」マニュアルを参照してください。

---

**DBI1125E “db2idrop”では DB2 Data Links Manager 管理者をドロップできません。**

**説明:**
“db2idrop”を使用して DB2 Data Links Manager 管理者をドロップしようとしました。この操作はレジストリーの不整合状態を引き起こすため許可されません。

**ユーザーの処置:**
“dlfmdrop”コマンドを使用して、DB2 Data Links Manager 管理者を除去してください。

---

**DBI1126W 1 つ以上のビューがデータベース・マイグレーションに影響する可能性があります。**

**説明:**
DB2 が、変更されたデータベース・エンティティーに従属するビューを見つけました。これは、データベース・マイグレーションの失敗を引き起こす原因となります。ユーザーの処置については Release.Notes を参照してください。

---

**DBI1127E SA MP Base Component が依然としてインストール済みだったので、/usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 中にある SA MP Base Component の DB2 HA スクリプトは除去されませんでした。**

**説明:**
IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。

SA MP Base Component が依然としてインストール済みの間は、これらのスクリプトをアンインストールできません。その理由は、スクリプトがインストールされていない状態で SA MP Base Component と DB2 HA フィーチャーを併用した結果、予期しない動作が発生しないようにするためです。

DB2 HA スクリプトはアンインストールされませんでした。

**ユーザーの処置:**

- SA MP Base Component と DB2 HA スクリプトを手動でアンインストールするつもりの場合は、最初に uninstallSAM ユーティリティーを使用して SA MP Base Component をアンインストールしてください。
  - uninstallSAM ユーティリティーについて詳しくは、http://publib.boulder.ibm.com/tividd/td/IBMTivoliSystemAutomationforMultiplatforms2.2.html を参照してください。
- 別の方法としては、-a および -f TSAMP 引数を指定して db2_deinstall を使用し、SA MP Base Component と DB2 HA スクリプトをアンインストールしてください。なぜなら、db2_deinstall はこれらのものを正しい順序でアンインストールするからです。

---

**DBI1128E “dlfmdrop”を使用して Administration Server をドロップできません。**

**説明:**
“dlfmdrop”を使用して Administration Server のドロップをしようとしました。この操作はレジストリーの不整合状態を引き起こすため許可されません。

**ユーザーの処置:**
“dasidrop”コマンドを使用して Administration Server を除去してください。

---

**DBI1129E “dlfmupdt”を使用して Administration Server を更新できません。**

**説明:**
“dlfmupdt”を使用して Administration Server の更新をしようとしました。この操作はレジストリーの不整合状態を引き起こすため許可されません。

**ユーザーの処置:**
“dasiupdt”コマンドを使用して Administration Server を更新してください。

---

**DBI1130E システム前提条件が満たされていなかったので、SA MP Base Component のインストールまたは更新を行えませんでした。詳しくは、ログ・ファイル *log-file-name* を参照してください。**

**説明:**

IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) のインストールまたは更新に関するシステム前提条件があります。これらの前提条件が満たされていません。

示されているログ・ファイルには、満たされていない前提条件に関する詳細情報が含まれています。

SA MP Base Component のシステム前提条件に関する詳細情報を見つけるには、http://publib.boulder.ibm.com/tividd/td/IBMTivoliSystemAutomationforMultiplatforms2.2.html で、「インストールおよび構成ガイド」を参照してください。

SA MP Base Component をインストールまたは更新できません。

**ユーザーの処置:**
前提条件を満たすようにシステムに変更を加えてください。さらに installSAM ユーティリティーを使用して、SA MP Base Component を手動でインストールしてください。

---

**DBI1131E　ユーザー ID *user-id* が無効です。**

**説明:**
与えられたユーザー ID にアクセスしようとして失敗しました。以下の状態のいずれかが発生しました。

- このユーザー ID がシステムにない。
- このユーザーのホーム・ディレクトリーが正しく設定されていない。
- DB2 で必要なユーザー属性のいずれかが設定されていない。
- このユーザーの UID が 0 である。

**ユーザーの処置:**
有効なホーム・ディレクトリーの有効なユーザー ID、シェル、1 次グループ、および 2 次グループが使用されているかを確認してください。 必要なら、ユーザーを新規作成してください。

---

**DBI1132E　DB2 インストーラーは SA MP Base Component のインストールまたは更新のための正しいライセンスを検出できませんでした。DB2 インストーラーは、ライセンス・ファイルが DB2 インストール・メディア上の *directory-name* にあると予期していました。**

**説明:**
IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) の正規ライセンスの名前は sam22.lic で、試用版ライセンスの名前は sam22tb.lic です。 DB2 インストーラーが SA MP Base Component のインストールまたは更新を実行するには、DB2 インストール・メディア上の指定されたディレクトリーに、これらのファイルの両方ではなく一方だけが存在していなければなりません。

適切なライセンスがないと、SA MP Base Component をインストールできません。

**ユーザーの処置:**
指定されたディレクトリーに該当するライセンス・ファイルがあることを確認し、コマンドを再発行してください。

---

**DBI1134W　SA MP Base Component がインストールされていなかったので、SA MP Base Component の DB2 HA スクリプトはインストールされませんでした。**

**説明:**
IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。 SA MP Base Component を使用していない場合は、これらのスクリプトは不要です。

DB2 HA スクリプトはインストールされませんでした。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBI1135E　ユーザー ID '*test-user*' の 1 次グループ '*users*' が無効です。**

**説明:**
インスタンス・ユーザー ID の 1 次グループ名の条件を以下に示します。

1. ″guests″、″admins″、″users″ または ″local″ にすることができません。
2. ″sql″ または ″ibm″ で始めることはできません。
3. 数字で始めることはできません。
4. 小文字 (a-z)、数値 (0-9)、および下線文字 ( _ ) のみを含めることができます。

**ユーザーの処置:**
root 特権を持つユーザーに、インスタンス・ユーザー ID の 1 次グループを上記の条件を満たす有効なグループに変更してもらって、コマンドを再発行してください。

---

**DBI1136W　OLAP Start Kit がインストールされていません。**

**説明:**
マイグレーションしているインスタンスは OLAP の機能を持っています。 OLAP Starter Kit は、このバージョンの DB2 では利用不能です。このインスタンスは、-F パラメーターが指定された場合にのみマイグレーションされます。

**ユーザーの処置:**
プログラムが打ち切られた場合は、マイグレーションを強制するための -F パラメーターを指定して、同じ db2imigr コマンドを実行してください。 OLAP の機能はなくなります。

**DBI1137W　サーバー製品がインストールされていません。**

**説明:**
マイグレーションしているインスタンスはサーバー・インスタンスです。 DB2 サーバー製品が検出されていません。このインスタンスは、-F パラメーターが指定された場合にのみマイグレーションされます。

**ユーザーの処置:**
プログラムが打ち切られた場合は、マイグレーションを強制するための -F パラメーターを指定して、同じ db2imigr コマンドを実行してください。 DB2 サーバーの機能はなくなります。 DB2 サーバー製品をインストールし、マイグレーションしているインスタンスに対して手動で db2iupdt を実行し、サーバーの機能を再度有効にする必要があります。

**DBI1138W　Query Patroller がインストールされていません。**

**説明:**
マイグレーションしているインスタンスは Query Patroller の機能を持っています。インストールされている DB2 製品で、Query Patroller が検出されませんでした。このインスタンスは、-F パラメーターが指定された場合にのみマイグレーションされます。

**ユーザーの処置:**
プログラムが打ち切られた場合は、マイグレーションを強制するための -F パラメーターを指定して、同じ db2imigr コマンドを実行してください。 Query Patroller は存在しません。 Query Patroller をインストールし、マイグレーションしているインスタンスに対して手動で dqpcrt を実行して、Query Patroller の機能を再度有効にする必要があります。

**DBI1139E　データ・リンク・ファイル・マネージャーがインストールされていません。**

**説明:**
マイグレーションしているインスタンスにはデータ・リンクの機能があります。データ・リンク・ファイル・マネージャーは、マイグレーションしようとしている DB2 製品のバージョンではサポートされていません。

**DBI1140W　コマンドが強制されています。上記の警告で示された障害のポイントを超えて、発行されたコマンドを強制するための -F フラグが指定されています。**

**DBI1141E　Visual Warehouse 3.1 のインスタンスが検出されました。 Visual Warehouse 3.1 のインスタンスを V8 にマイグレーションすることはサポートされていません。 Visual Warehouse 5.2 またはそれ以上だけを V8 にマイグレーションできます。**

**DBI1142W　Visual Warehouse 5.2 のインスタンスが検出されました。インスタンスはマイグレーションされますが、ウェアハウスのメタデータはマイグレーションされません。**

**DBI1143W　Relational Connect がインストールされていません。**

**説明:**
マイグレーション先のバージョンで Relational Connect が検出されませんでしたが、DB2 および非 DB2 データ・ソース、またはそのいずれかのデータ・ソースの設定ファイルが、マイグレーションしているインスタンスで検出されました。 この構成はマイグレーションされますが、これらの構成パラメーターを使用するには、Relational Connect for DB2 をインストールする必要があります。

**ユーザーの処置:**
構成パラメーターを使用するために、Relational Connect for DB2 をインストールしてください。

**DBI1144E　Relational Connect がインストールされていません。**

**説明:**
マイグレーション先のバージョンで Relational Connect が検出されませんでしたが、非 DB2 データ・ソースを持っていることを示す環境変数が検出されました。 Relational Connect がインストールされていないと、このインスタンスはマイグレーションできません。

**ユーザーの処置:**
Relational Connect をインストールして、コマンドをやり直してください。

---

**DBI1145W　同期点マネージャー (SPM) ログ・ディレクトリーがすでにあります。**

**説明:**
同期点マネージャー (SPM) ログ・ディレクトリーがすでにあります。 SPM の新規バージョンはログの古いバージョンを処理できません。この SPM の新規バージョンを使用する前に、未確定のトランザクションがないかどうかを確認する必要があります。

**ユーザーの処置:**

- 未確定トランザクションに特に懸念がない場合は、-s フラグを付けて db2iupdt コマンドを再発行し、インスタンスを更新して処理を続行します。この結果、sqllib/spmlog50 の下に、sqllib/spmlog ディレクトリーのコピーを作成します。
- 未確定トランザクションの存在に懸念がある場合には、DB2 製品を前のバージョンに戻す必要があり、また未確定トランザクションに関する製品の readme にある指示に従う必要があります。

---

**DBI1146E　DB2 インスタンス・セットアップ・ウィザードはインストールされていません。**

**説明:**
db2isetup スクリプトは、応答ファイルを使用して構成およびインスタンスのセットアップ作業を実行できます。または、DB2 インスタンス・セットアップ・ウィザードを起動し、グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用してこれらの作業を実行できます。現在、応答ファイル・サポート・モードのみインストールされます。グラフィカル・モードを使用するには、DB2 インスタンス・セットアップ・ウィザード機能をインストールする必要があります。

**ユーザーの処置:**

- DB2 インスタンス・セットアップ・ウィザードをインストールします。それには、DB2 セットアップ・ウィザードを CD (Runtime Client の一部として使用不可)から起動します。
- 応答ファイルを作成し、コマンドを db2isetup -r <responsefile> として再発行します。

---

**DBI1147E　db2iupdt はユーザー ID *userid* を更新できませんでした。**

**説明:**
指定されたユーザー ID が DB2 インスタンスではありません。

---

**DBI1148E　dasupdt はユーザー ID *userid* を更新できませんでした。**

**説明:**
指定されたユーザー ID が Administration Server ではありません。

---

**DBI1149E　このプログラムを実行するには、インストールされているコピーの所有者でなければなりません。**

**説明:**
現在の DB2 コピーは、プログラムを実行しようとしているユーザーがインストールしたものではありません。

**ユーザーの処置:**
DB2 の現在のコピーをインストールしたユーザーとしてログインし、コマンドを再実行してください。

---

**DBI1150W　db2iupdt がこのインスタンスを 64 ビット非サーバー・インスタンスに更新しました。**

**説明:**
64 ビット Express サーバー・インスタンスを作成またはこれにマイグレーションすることはできません。 64 ビットのサーバー・インスタンスを実行するには、Enterprise Server Edition がインストール済みである必要があります。

**ユーザーの処置:**
サーバー・インスタンスを必要としない場合は、作成された、あるいはマイグレーションされたインスタンスを継続して使用することができます。 64 ビットのサーバー・インスタンスを使用するには、 DB2 Enterprise Server Edition をインストールし、次のコマンドを実行してください。

```
db2iupdt -w 64 <instance-name>
```

---

**DBI1151E　db2icrt/db2imigr が 64 ビット非サーバー・インスタンスを作成しました。**

**説明:**
64 ビット Express サーバー・インスタンスを作成またはこれにマイグレーションすることはできません。 64 ビットのサーバー・インスタンスを実行するには、Enterprise Server Edition がインストール済みである必要があります。

**ユーザーの処置:**
サーバー・インスタンスを必要としない場合は、作成された、あるいはマイグレーションされたインスタンスを継続して使用することができます。 64 ビットのサーバ

ー・インスタンスを使用するには、 DB2 Enterprise Server Edition をインストールし、次のコマンドを実行してください。

```
db2iupdt -w 64 <instance-name>
```

---

**DBI1152E　このプログラムを実行するには、root ユーザー以外でなければなりません。**

**説明:**
root 権限のあるユーザーは *tool-name* を実行できません。

**ユーザーの処置:**
非 root ユーザーとしてコマンドを再実行してください。

---

**DBI1153E　AIO は使用できません。**

**説明:**
DB2 を実行するには、システム上で AIO を有効にする必要があります。

**ユーザーの処置:**
root 特権を付与されたユーザーに AIO を有効にするよう要請し、コマンドを再実行してください。

---

**DBI1154E　*instance-name* は、非 root ユーザーによってインストールされた DB2 コピーに属するインスタンスです。このインスタンスは、root ユーザーによってインストールされた DB2 コピーからは更新できません。インスタンスを更新する場合は、非 root ユーザーによってインストールされた DB2 コピーから db2nrupdt を実行してください。**

---

**DBI1155E　DB2 非ルート・インスタンス *instance-name* でコマンドが失敗しました。**

**説明:**
サポートされていない、以下のアクションのいずれかを試行したため、コマンドが失敗しました。

1. DB2 非ルート・インスタンスが DB2 ルート・インスタンスになるように更新する
2. DB2 非ルート・インスタンスが DB2 ルート・インスタンスになるようにマイグレーションする
3. DB2 ルートのインストール・ロケーションから db2idrop コマンドを実行して、DB2 非ルート・インスタンスをドロップする

**ユーザーの処置:**

1. DB2 非ルート・インスタンスを更新するには、$HOME/sqllib/instance/ ディレクトリーで db2nrupdt コマンドを実行します。$HOME は、DB2 非ルート・インスタンスをインストールしたユーザー ID のホーム・ディレクトリーです。
2. DB2 非ルート・インスタンスでは、マイグレーションはサポートされていません。
3. DB2 非ルート・インスタンスをドロップするには、$HOME/sqllib/install/ ディレクトリーで db2_deinstall コマンドを実行して、DB2 非ルート・インストールをアンインストールします。$HOME は、DB2 製品をインストールしたユーザー ID のホーム・ディレクトリーです。

---

**DBI1156I　非 root ユーザーとしてインストールする際には、システム前提条件を完全にはチェックできません。**

**説明:**
root 権限が必須なので、完全なシステム・チェックを実行できません。

**ユーザーの処置:**
非 root ユーザーは、DB2 ドキュメンテーションからシステム前提条件をチェックしなければなりません。システム管理者は、現在の DB2 レベルをインストールして使用するためのすべての要件をシステムが満たしていることを確認しなければなりません。

---

**DBI1157E　値が無効です。**

**説明:**
インストーラー・コマンド *cmd* に渡された *parameter-or-value* が無効です。

**ユーザーの処置:**
エラーを訂正して、コマンドを再実行してください。

---

**DBI1158I　DB2 は *installpath* にインストールされます。**

---

**DBI1159E　db2iupdt では、インスタンスを非 root インストールの使用から root インストールの使用に更新したり、その逆に更新したりできません。**

---

**DBI1160I　非 root インストールが実行中です。**

---

**DBI1161I** **使用法:**

**db2rfe [-h|-?]**
**[-d]**
**[-l logfile_name]**
**[-q]**
**-f <db2rfe_configuration_file>**

**説明:**

**-h|-?** 使用情報を表示する

**-d** デバッグ・モードをオンにする

**-l** logfile_name はログ・ファイルを指定したユーザー

**-q** インストールされたルート機能が使用可能または使用不可になっているか、あるいは構成されたサービス・ポートが予約済みかまたは予約されていないかについての照会。 -q オプションは -f オプションと一緒に使用しないでください。

**-f** 必須オプション。db2rfe_configuration_file は、db2rfe の構成ファイルの絶対パス名です。

**注:** このコマンドは $DB2DIR/instance ディレクトリーから実行しなければなりません。db2rfe コマンドが、使用可能になっているルート機能、あるいは DB2 インスタンスによって予約および使用されているポート番号を検出した場合、要約報告書には以下の情報が表示されます。

- 使用可能にされた (または使用可能にされていない)、インストールされたルート機能
- システムのサービス・ファイルで予約された (または予約されていない)、DB2 インスタンスによって使用される DB2 サービス・ポート。

---

**DBI1162I** **使用法:**

**db2nrcfg [-h|-?]**
**[-d]**
**[-a AuthType]**
**[-p PortName]**
**[-s InstType]**

**説明:**

**-h|-?** 使用情報を表示する

**-d** デバッグ・モードをオンにする

**-a** AuthType はインスタンスの認証タイプ (SERVER、CLIENT、または SERVER_ENCRYPT)

**-p** PortName は、このインスタンスで使用されるポート名あるいはポート番号です。

**-s** InstType は、作成されるインスタンスのタイプ (ese、wse、standalone、あるいは client) です。

**ese** DPF がサポートされているローカルおよびリモート・クライアントのある DB2 データベース・サーバーのインスタンスを作成する場合に使用します。このタイプは、DB2 Enterprise Server Edition のデフォルト・インスタンス・タイプです。

**wse** ローカルおよびリモート・クライアントのある DB2 データベース・サーバーのインスタンスを作成する場合に使用します。このタイプは、DB2 Workgroup Edition、DB2 Express または Express-C Edition、および DB2 Connect Enterprise Edition のデフォルト・インスタンス・タイプです。

**standalone**
ローカル・クライアントのある DB2 データベース・サーバーのインスタンスを作成する場合に使用します。このタイプは、DB2 Personal Edition のデフォルト・インスタンス・タイプです。

**client** IBM データ・サーバー・クライアントのインスタンスを作成する場合に使用します。このタイプは、IBM データ・サーバー・クライアント製品および DB2 Connect Personal Edition のデフォルト・インスタンス・タイプです。

DB2 製品では、デフォルトのインスタンス・タイプ、およびデフォルトより低位のインスタンス・タイプがサポートされています。例えば、DB2 Enterprise Edition では 'ese'、'wse'、'standalone'、および 'client' のインスタンス・タイプがサポートされています。

**注:**

このコマンドは $DB2DIR/instance ディレクトリーから実行しなければなりません。

sqllib ディレクトリー中で db2profile または db2cshrc を入手するか、またはログアウトして再ログインしてから DB2 を使い始めるようにしてください。

---

**DBI1163I　使用法:**
**db2nrupdt [-h|-?] [-d] [-k ] [-a AuthType]**

**説明:**

**-h|-?**　使用情報を表示する

**-d**　デバッグ・モードをオンにする

**-a**　AuthType はインスタンスの認証タイプ (SERVER、CLIENT、または SERVER_ENCRYPT)

**-k**　更新中の現行インスタンス・タイプを保持する

**注:**　このコマンドは $HOME/sqllib/instance ディレクトリーから実行しなければなりません。$HOME は、非ルート DB2 インスタンス ID のホーム・ディレクトリーです。このコマンドは、$HOME/sqllib での非ルート DB2 インストールを所有する、非ルート DB2 インスタンスとしてのみ実行することができます。

---

**DBI1164E　*entry-name* には値が必要です。**

**説明:**
リモート接続を有効にするには、構成ファイル中の *entry-name* の値を指定してください。

---

**DBI1168W　64 ビット・インスタンスの作成または更新を試行中に、bos.rte.libc のインストール・レベルが 64 ビットのインスタンスの最小要件よりも低いことが検出されました。**

**説明:**
bos.rte.libc のインストール・レベルは、64 ビットのインスタンスのサポートに必要な最小レベルの 5.1.0.28 より低くなっています。

**ユーザーの処置:**
処理を進める前に、APAR IY32466 をダウンロードしてご使用のシステムを更新してください。

APAR のダウンロードに関する情報は http://www.ibm.com/aix から使用できます。

警告ポイントを超えて実行を強制するために、-F パラメーターを指定してコマンドを再発行することができます。

---

**DBI1169E　DB2 HTML ドキュメンテーションがインストールされていません。**

**説明:**
DB2 HTML ドキュメンテーションがインストールされていないか、または検出できません。

DB2 HTML ドキュメンテーションをこのフィックスパックに更新するには、DB2 HTML ドキュメンテーションをインストール済みである必要があります。

**ユーザーの処置:**
DB2 HTML ドキュメンテーションをインストールして、コマンドを再試行してください。

---

**DBI1171E　DB2 64 ビット・サポートはインストールされていません。**

**説明:**
64 ビット・インスタンス はこのプラットフォームでサポートされていないか、または暗黙指定になっています。

**ユーザーの処置:**

- Linux IA64 の場合、64 ビット・インスタンスを作成するために、-w オプションを指定せずにコマンドを再発行してください。
- その他のプラットフォームでは、32 ビット・インスタンスを作成するために、-w 64 オプションを指定せずにコマンドを再発行してください。

---

**DBI1172W　64 ビットのインスタンスを作成または更新しようとしている時に、 bos.rte.libc と bos.adt.prof のいずれかまたは両方のインストール済みレベルが、64 ビットのインスタンスに必要な最低要件より低いことがわかりました。**

**説明:**
bos.rte.libc と bos.adt.prof のいずれかまたは両方のインストール済みレベルが 4.3.3.50 より低くなっています。このレベルは 64 ビットのインスタンスをサポートするために必要な最低限の要件です。

**ユーザーの処置:**
処理を進める前に、次の PTF のいずれかまたは両方をダウンロードしてシステムを更新してください。

- bos.rte.libc の場合、PTF は U473728.bff です。
- bos.adt.prof の場合、PTF は U473581.bff です。

PTF のダウンロードに関する情報は http://www.ibm.com/aix から使用できます。

警告ポイントを超えて実行を強制するために、-F パラメーターを指定してコマンドを再発行することができます。

**DBI1173W db2iupdt がこのインスタンスを 64 ビット非サーバー・インスタンスに更新しました。**

**説明:**
Enterprise Server Edition がインストール済みの場合、32 ビット Workgroup サーバー・インスタンスを 64 ビットのサーバー・インスタンスにのみ更新することができます。

**ユーザーの処置:**
サーバー・インスタンスに更新したくない場合は、更新されたインスタンスを継続して使用することができます。 このインスタンスを 32 ビット Workgroup サーバー・インスタンスに戻したい場合は、次のコマンドを実行してください。

```
db2iupdt -w 32 <instance-name>
```

64 ビットのサーバー・インスタンスを使用するには、DB2 バージョン 8 Enterprise Server Edition をインストールし、次のコマンドを実行してください。

```
db2iupt -w 64 <instance-name>
```

**DBI1175W 64 ビット・インスタンスの作成または更新を試行中に、Solaris オペレーティング環境のインストール・レベルが 64 ビットの最小要件よりも低いことが検出されました。**

**説明:**
Solaris オペレーティング環境のインストール・レベルは、64 ビットのインスタンスのサポートに必要な最小レベルの 5.7 より低くなっています。

**ユーザーの処置:**
先に進む前に、ご使用のシステムを Solaris オペレーティング環境のを最小必須レベルに更新してください。

警告ポイントを超えて実行を強制するために、-F パラメーターを指定してコマンドを再発行することができます。

**DBI1176I 使用法:**
**installAltFixPak [-h] [-s] [-y]**

**説明:**

**-h** 使用情報を表示する

**-s** /usr/opt/db2_08_01 または /opt/IBM/db2/V8.1 にインストールされているのとまったく同じファイル・セット/パッケージを、 (サポートされている製品の) 代替パスにインストールする

installAltFixPak が、 /usr/opt/db2_08_01 または /opt/IBM/db2/V8.1 に DB2 がインストールされていないことを検出すると、 -s オプションは使用されません。 この場合は、db2_install ユーティリティーを呼び出します。

**-y** このシステムのすべての DB2 バージョン 8 製品について、ディレクトリー db2/license にあるライセンス条項が検討され、了解されました。

インストール済み製品について、ディレクトリー db2/license にあるライセンス条項が検討されているかどうか確認してください。ライセンス条項を承諾する場合は、-y オプションを指定して FixPak インストールを再始動してください。

-y オプションの指定で、この製品に規定されたライセンス条項への合意が表明されます。

**DBI1177W インスタンスが現在使用しているレベルより低いコード・レベルにインスタンスを更新します。**

**説明:**
現在インスタンスが使用しているレベルより低いコード・レベルに、インスタンスを更新しようとしました。

**ユーザーの処置:**
現在のレベルよりも低いコード・レベルにインスタンスを更新するには、次のように -D オプションを指定して db2iupdt コマンドを発行してください。
db2iupdt -D <instance-name>

**DBI1178W DAS が現在使用しているレベルより低いコード・レベルに DAS を更新します。**

**説明:**
現在 DAS が使用しているレベルより低いコード・レベルに、 DAS を更新しようとしました。

**ユーザーの処置:**
現在のレベルよりも低いコード・レベルに DAS を更新するには、次のように -D オプションを指定して dasupdt コマンドを発行してください。

dasupdt -D

**DBI1179E Portname パラメーターを指定した場合、db2icrt コマンドを使ってクライアント・インスタンスを作成することはできません。**

**説明:**
PortName パラメーターは、インバウンド TCP/IP 接続に使用するパラメーターであって、クライアント・インスタンスに用いることはできません。

**ユーザーの処置:**
PortName パラメーターを指定しないで db2icrt コマンドを再発行してください。

---

**DBI1180E　32 ビット・サーバー・インスタンスはサポートされていません。**

**説明:**
現在のプラットフォームでは、32 ビット・サーバー・インスタンスがサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
このプラットフォームでサポートされているインスタンス・タイプについては、「概説およびインストール」のマニュアルを参照してください。

---

**DBI1181E　DB2 64 ビット・サポートはインストールされていません。**

**説明:**
64 ビット・インスタンスはこのプラットフォームではサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
先に進む前に、以下のいずれかを行ってください。

- ご使用のシステムを 64 ビット DB2 を実行する最小必須レベルに更新し、コマンドを再発行します。
- マイグレーション中または更新中のインスタンスをドロップし、32 ビット・インスタンスとして再作成します。

---

**DBI1182W　DB2 Warehouse Manager または DB2 Warehouse Manager Connectors (あるいはその両方) を使用できません。**

**説明:**
マイグレーションしようとしているインスタンスは、Warehouse Manager または Warehouse Manager Connectors の機能を持っています。 Warehouse Manager および Warehouse Manager Connectors は、マイグレーションしようとしている製品リリースでは使用できません。正常なマイグレーションとは、マイグレーションされたインスタンスにこれらの機能がないことを意味します。これが予想通りの結果である場合、-F パラメーターを指定して db2imigr コマンドを再実行できます。

**ユーザーの処置:**
マイグレーションを強制するための -F パラメーターを指定して、 db2imigr コマンドを再実行してください。 マイグレーションが完了すると、Warehouse Manager または Warehouse Manager Connectors (あるいはその両方) は使用できません。

---

**DBI1183W　Spatial Extender がインストールされていません。**

**説明:**
マイグレーションしているインスタンスは Spatial Extender の機能を持っています。 インストールされている DB2 製品で、Spatial Extender が検出されませんでした。このインスタンスは、-F パラメーターが指定された場合にのみマイグレーションされます。

**ユーザーの処置:**
マイグレーションを強制するための -F パラメーターを指定して、 db2imigr コマンドを再実行してください。 Spatial Extender はなくなります。 Spatial Extender の機能を再び有効にするには、Spatial Extender をインストールし、マイグレーションしているインスタンスで db2iupdt を手動で実行する必要があります。

---

**DBI1184W　Life Sciences Data Connect がインストールされていません。**

**説明:**
マイグレーションしているインスタンスは Life Sciences Data Connect の機能を持っています。インストールされている DB2 製品で、Life Sciences Data Connect が検出されませんでした。このインスタンスは、-F パラメーターが指定された場合にのみマイグレーションされます。

**ユーザーの処置:**
マイグレーションを強制するための -F パラメーターを指定して、 db2imigr コマンドを再実行してください。 Life Sciences Data Connect はなくなります。 Life Sciences Data Connect の機能を再び有効にするには、Life Sciences Data Connect をインストールし、マイグレーションしているインスタンスで db2iupdt を手動で実行する必要があります。

---

**DBI1185I　サーバー・プロトコル *protocol* は、すでにサポートされていません。 DB2COMM から除去されました。**

---

**DBI1186I　使用法:**
**db2cdbcr [-d] -n CDBName**

**説明:**
間違った引数が db2cdbcr コマンドに入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h|-?**　使用情報を表示する

**-d**　デバッグ・モードをオンにする

**-n CDBName**
CDBName は、作成するウェアハウス・コントロール・データベースの名前。

**ユーザーの処置:**
次のようにコマンドを入力し直してください。
db2cdbcr -n CDBName

---

**DBI1187E** **DB2 ウェアハウス・コントロール・データベースのセットアップを完了できません。**

**説明:**
DB2 ウェアハウス・コントロール・データベースを作成しようとしましたが、失敗しました。

**ユーザーの処置:**
ノード・グループ (ノード 0 に作成) と表スペース (どちらも FLG32K と呼ばれる) も同様に作成しなければなりません。 詳細については DB2 DataWarehouse の資料を参照してください。

---

**DBI1188E** **マイグレーションは失敗しました。 グループ *group-name* が DLFM ユーザー *user-name* の 2 次グループ・リストにありません。**

**ユーザーの処置:**
グループ *group-name* を DLFM ユーザー *user-name* の 2 次グループ・リストに設定し、コマンドを再発行してください。

---

**DBI1189E** **db2_deinstall の実行場所である現在のプラットフォーム *platform* とは異なるプラットフォームのためのイメージに対して、それを使用しようとしました。**

**説明:**
可能性のある理由は、以下のとおりです。

- この DB2 インストール・イメージが現在のプラットフォームに対して有効なものではない。
- 現在のプラットフォームが DB2 でサポートされていない。

**ユーザーの処置:**
現在のプラットフォーム *platform* に対応する DB2 インストール・イメージを使用して、 DB2 をインストールしてください。

---

**DBI1190I** **db2setup が DB2 セットアップ・ウィザードを準備中です。このウィザードがプログラムのセットアップ操作を案内します。お待ちください。**

---

**DBI1191I** **提供された応答ファイルに従って、db2setup が DB2 をインストールおよび構成しています。 お待ちください。**

---

**DBI1192I** **DB2 のインストールが正常に完了しました。 *location* にインストール・ログ db2setup.log および db2setup.err があります。**

---

**DBI1193W** **DB2 のインストールが完了しましたが、警告が出されました。このコンピューターへのインストール中に小さいエラーが発生しました。一部の機能が正しく動作しない可能性があります。 *location* にインストール・ログ db2setup.log および db2setup.err があります。**

---

**DBI1194E** **このコンピューターへの DB2 インストール中にエラーが発生しました。インストール作業を続行できません。 *location* にインストール・ログ db2setup.log および db2setup.err があります。**

---

**DBI1195E** **db2nrupdt は、ユーザー *user-name* の更新に失敗しました。**

**説明:**
インスタンスが依然としてアクティブなので更新できません。

**ユーザーの処置:**
インスタンスが停止していることを確認してください。次にコマンドを再実行してください。

---

**DBI1199I** **DB2IDROP が正常に完了しました。DB2INSTDEF レジストリー変数が、ドロップされたインスタンスに設定されていました。この変数はクリアされています。このレジストリー変数を、別の有効なインスタンス名に明示的に設定する必要があります。**

---

**DBI1200E** **ディレクトリー *directory-name* が、バージョン *version-number* インスタンスではありません。**

**説明:**
示されたディレクトリーが、データベース製品の必要なバージョンを指していないために、コマンドが処理できません。

**ユーザーの処置:**

示されたインスタンスでは、コマンドを実行できません。

---

**DBI1202E　インスタンス *inst-name* のマイグレーションがサポートされていません。**

**説明:**
インスタンスは以下の理由により、マイグレーションできません。

1. このバージョンのインスタンスからのマイグレーションがサポートされていない。
2. インスタンスがすでに製品の現行バージョンを使用していてマイグレーションが必要ない。

**ユーザーの処置:**
このインスタンスがマイグレーションに対して有効であるか確認して有効なインスタンス名を指定して、コマンドを再試行します。

---

**DBI1203I　SA MP Base Component の DB2 HA スクリプトが正常にアンインストールされました。**

**説明:**
IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。

これらのスクリプトが除去されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBI1204E　キーワード *keyword* に無効値があります。**

**説明:**
このキーワードの有効値について詳しくは、サンプル構成ファイル *file_name* を参照してください。

**ユーザーの処置:**
上記のエラーを訂正し、コマンドを再実行してください。

---

**DBI1205E　新しいバージョンにマイグレーションできない 1 つ以上のローカル・データベースが検出されました。エラー・リストのログファイル *logfile-name* を調べてください。**

**説明:**
以下に示す条件の 1 つが成立しています。

- データベースはバックアップ・ペンディング状態です。データベースをバックアップしてください。
- データベースはロールフォワード・ペンディング状態です。ログの終わりまでデータベースをロールフォワードし、停止してください。
- データベースはリストア・ペンディング状態です。データベースのリストアを実行してください。
- データベースは不整合です。一致した状態に戻すようにデータベースを再始動してください。
- 正常な状態でない 1 つ以上の表スペースがデータベースにあります。データベースのロールフォワードを実行してください。
- SYSCAT、SYSSTAT、または SYSFUN というスキーマ名のデータベース・オブジェクトがデータベースに入っています。オブジェクトをドロップし、正しいスキーマ名 (修飾子) でオブジェクトを再作成してください。オブジェクトが表の場合、最初にそのデータをエクスポートし、表をドロップし、正しいスキーマ名で表を再作成してから、新しい表にデータをインポートまたはロードしてください。
- SYSFUN.DIFFERENCES 関数に依存しているデータベース・オブジェクトがデータベースに入っています。考えられる違反オブジェクトと、違反を訂正する関連アクションは以下のとおりです。
  - 制約 - 制約をドロップするように表を変更してください。
  - 関数 - 関数をドロップしてください。
  - トリガー - トリガーをドロップしてください。
  - ビュー - ビューをドロップしてください。
- 新しいバージョンで予約されているユーザー定義のデータ・タイプが、データベースに入っています。データ・タイプを名前変更してください。
- システム・カタログ表中の孤立行がデータベースに入っています。 IBM 技術サービス員に連絡してください。
- カタログされているデータベースが存在しません。カタログされているデータベースを作成してください。
- SYSCATSPACE が DMS 表スペースで、AUTORESIZE が有効でない場合、SYSCATSPACE に少なくとも 50% の空きページがありません。SYSCATSPACE 表スペースのうち使用できるスペースを増やしてください。
- データベースが HADR 1 次データベースとして正常に接続できません。 1 次データベース上で HADR を停止してください。
- データベースに HADR「スタンバイ」役割が与えられています。スタンバイ・データベース上で HADR を停止し、スタンバイ・データベースをドロップして

ください。HADR 1 次データベースをマイグレーションしてください。restore または db2inidb を使用して、マイグレーションした 1 次データベースのコピーからスタンバイ・データベースを再初期化してください。

**ユーザーの処置:**
説明中に指定されている、該当するアクションを取ってください。

---

**DBI1206E** **root フィーチャー *feature-name* の使用可能化に失敗しました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file-name* を参照してください。**

---

**DBI1207E** ***feature-name* に関するサービスの予約に失敗しました。**

**説明:**
サービス・ファイル中でサービスを予約できません。次のような理由が考えられます。

- サービス名とポート番号が、サービス・ファイル中で使用されています。
- サービス名あるいはポート番号が無効値です。

**ユーザーの処置:**
上記のエラーを訂正し、コマンドを再実行してください。

---

**DBI1208E** ***feature-name* に関するサービスの予約に失敗しました。**

---

**DBI1209E** **構成ファイル中に *keyword* がありません。**

**説明:**
root フィーチャー *feature-name* を有効にするには、構成ファイル中に *keyword* が必要です。

**ユーザーの処置:**
*keyword* の有効値を指定してコマンドをやり直してください。

---

**DBI1210E** **不明なシステム・エラーです。**

---

**DBI1211E** ***directory-name* のマイグレーションが失敗しました。**

**説明:**
ディスク・スペースまたはメモリーの不足などのシステム・エラーが、ディレクトリーのマイグレーション中に見つかりました。 インスタンスのマイグレーションは失敗しました。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再発行する前に、十分なディスク・スペースとメモリーがあることを確認してください。

---

**DBI1212W** ***path* にあるローカル・データベースのマイグレーションが失敗しました。**

**説明:**
想定外のエラーが発生したため、ローカル・データベース・ディレクトリーのマイグレーション処理は完了しません。

**ユーザーの処置:**
エラー・ファイル“db2mgdbd.err”およびローカル・データベース・ディレクトリーのバックアップ“sqldbdir/sqldddir.bak”は上記のディレクトリー・パスに作成されます。

ご使用のディレクトリーを修理をする方法についての指示は、2 つのファイルを保持し、IBM サービスに連絡してください。ローカル・データベース・ディレクトリーがない場合、ローカル・データベース・ディレクトリーにカタログされているデータベースはこれ以上のアクセスはできません。

---

**DBI1213I** **root フィーチャー *feature-name* を有効にする処理が正常に実行されました。**

---

**DBI1214I** ***feature-name* に関するサービスが正常に予約されました。**

---

**DBI1215I** ***feature-name* に関するサービスが正常に予約されました。**

---

**DBI1216E** **予期されたディレクトリー: *directory* にコマンド uninstallSAM がなかったので、SA MP Base Component のアンインストールに失敗しました。**

**説明:**
db2_deinstall は uninstallSAM ユーティリティーを使用して、IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) をアンインストールします。 db2_deinstall は、指定されたディレクトリー中に uninstallSAM ユーティリティーがあると予期しますが、今回は検出できませんでした。現行バージョンの SA MP Base Component がバージョン 2.2 より前であることが理由である可能性があります。db2_deinstall コマンドを使用して SA MP Base Component をアンインストールするオプションは、SA MP Base Component バージョン 2.2 またはそれ以上に限りサポートされています。

SA MP Base Component はアンインストールされませんでした。

**ユーザーの処置:**
SA MP Base Component を手動でアンインストールするには、uninstallSAM コマンドを使用します。

uninstallSAM ユーティリティーについての詳細は、http://publib.boulder.ibm.com/tividd/td/IBMTivoliSystemAutomationforMultiplatforms2.2.html を参照してください。

---

**DBI1217E　有効なインストール ID が検出されません。**

**説明:**
すべての有効な ID がイメージから除去されました。インストーラーは、イメージ上で使用できる有効な製品を判別できないため、インストール選択を表示することができません。

**ユーザーの処置:**
製品イメージが変更されたため、インストーラーが選択可能なオプションを表示するための有効な ID がありません。元の DB2 製品イメージを使用してインストールしてください。

---

**DBI1218I　SA MP Base Component のライセンス証明書 *license-certificate-file-name* が正常にインストールされました。**

**説明:**
IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、有効なライセンス証明書が必要です。このライセンス証明書のインストールまたは更新は正常に行われました。

**ユーザーの処置:**
応答は必要ありません。

---

**DBI1219E　SA MP Base Component のライセンス証明書 *license-certificate-file-name* は正常にインストールされませんでした。**

**説明:**
IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、有効なライセンス証明書が必要です。このライセンス証明書は正常にインストールまたは更新されませんでした。

DB2 インストーラーを使用してこのライセンス証明書のインストールまたは更新を実行した場合は、DB2 インストール・ログ・ファイル中に、インストールまたは更新が失敗した理由に関する詳細情報が含まれています。

**ユーザーの処置:**
SA MP Base Component に関するこのライセンス証明書のインストールまたは更新を手動で実行するには、以下のコマンドを発行してください。

- samlicm -i *license-certificate-file-name*

samlicm コマンドについて詳しくは、http://publib.boulder.ibm.com/tividd/td/IBMTivoliSystemAutomationforMultiplatforms2.2.html を参照してください。

---

**DBI1220W　*path* 上のノード・ディレクトリーのマイグレーションは失敗しました。**

**説明:**
想定外のエラーが発生したため、ノード・ディレクトリーのマイグレーション処理は完了しません。

**ユーザーの処置:**
リカバリーするためには 2 つのオプションがあります。

1. ノード・ディレクトリーを除去し、ノード項目を再カタログしてください。
2. エラー・ファイル“db2mgndd.err”およびノード・ディレクトリーのバックアップ“sqlnodir/sqlnddir.bak”は上記で言及しているディレクトリー・パスに作成されます。

   ご使用のディレクトリーを修理をする方法についての指示は、2 つのファイルを保持し、IBM サービスに連絡してください。ノード・ディレクトリーをリカバリーするには、IBM サービスに連絡してください。

---

**DBI1221W　ノード・ディレクトリーが壊れているので、マイグレーションできません。**

**説明:**
ノード・ディレクトリー・ファイルが同じでないか、またはノード・ディレクトリー・ファイルが壊れています。

**ユーザーの処置:**
ノード・ディレクトリーを除去し、ノード項目を再カタログしてください。

---

**DBI1222W　システム・データベース・ディレクトリーが壊れているので、マイグレーションできません。**

**説明:**
プライマリーおよびバックアップ・システム・データベース・ディレクトリー・ファイルが同一でないか、あるいはシステム・データベース・ディレクトリーが壊れています。

**ユーザーの処置:**
システム・データベース・ディレクトリーを除去し、すべてのデータベース項目を再カタログしてください。

**DBI1223W　ローカル・データベース・ディレクトリー・ファイルが壊れているので、マイグレーションできません。**

**説明:**
プライマリーおよびバックアップ・データベース・ディレクトリー・ファイルが同一でないか、あるいはローカル・データベース・ディレクトリー・ファイルが壊れています。

**ユーザーの処置:**
エラー・ファイル“db2mgdbd.err”およびローカル・データベース・ディレクトリーのバックアップ“sqldbdir/sqldddir.bak”は上記のディレクトリー・パスに作成されます。

ご使用のディレクトリーを修理をする方法についての指示は、2 つのファイルを保持し、IBM サービスに連絡してください。ローカル・データベース・ディレクトリーがない場合、ローカル・データベース・ディレクトリーにカタログされているデータベースはこれ以上のアクセスはできません。

**DBI1225W　カタログ済みローカル・データベースの認証タイプが変更されました。**

**説明:**
インスタンスに指定されている認証タイプと異なる認証タイプを持つ、1 つ以上のカタログ済みデータベース項目が見つかりました。何もアクションを行なわないと、すべてのカタログ済みローカル・データベース項目が、それらが属しているインスタンスの認証タイプを想定します。

**ユーザーの処置:**
インスタンスに指定されている認証と同じでないカタログ済みローカル・データベース項目のリストについては、インスタンスのホーム・ディレクトリーのファイル migration.log をチェックしてください。データベースに前の認証タイプを維持させたい場合は、インスタンスの認証タイプを変更するか、またはデータベースを必要な認証タイプを持つ別のインスタンスに移動することができます。ただし、インスタンスの認証タイプを変更する前に、すべてのカタログ済みローカル・データベース項目に、新しい認証タイプを持たせることを確認する必要があります。

**DBI1227E　*product-name* は、非ルート・インストール用にサポートされている DB2 製品ではありません。**

**DBI1228E　インスタンス *inst-name* はサーバー・インスタンスではありません。**

**説明:**
一部の構成タスクは DB2 サーバー・インスタンスのみに対して実行できます。この種の構成タスクには、リモート接続や DB2 テキスト検索が含まれます。

**ユーザーの処置:**
指定されたインスタンスがクライアント・インスタンスで、DB2 サーバー製品がインストールされている場合、db2iupdt または db2nrupdt を実行してクライアント・インスタンスをサーバー・インスタンスに更新してください。その後、構成タスクを再試行してください。

**DBI1229E　Windows 上の IBM システム・マイグレーションは、・ロケーション *installation-location* にインストールされた IBM Data Server Runtime Client または DB2 Thin Client の場合はサポートされていません。**

**説明:**
マイグレーション元として選択した旧バージョンの DB2 のコピーか、またはインストールしようとしている DB2 が、IBM Data Server Runtime Client または Thin Client です。Windows では、IBM Data Server Runtime Client または DB2 Thin Client をマイグレーション元またはマイグレーション先とする DB2 システム・マイグレーションはサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
「新規インストール」を選択して新しいロケーションに IBM Data Server Runtime Client または Thin Client をインストールし、db2imigr コマンドを使用して既存のクライアント・インスタンスを DB2 の新しいコピーにマイグレーションしてください。

**DBI1230E　*installation-location* にインストールされている、選択された DB2 コピーの DB2 システム・マイグレーションはサポートされていません。**

**説明:**

以下の一方または両方の理由で、選択された DB2 コピーの DB2 システム・マイグレーションはサポートされていません。

1. インストールしようとしている DB2 製品でサポートされていないインスタンス・タイプの DB2 インスタンスが少なくとも 1 つ存在している。 Windows では、DB2 インスタンス・タイプのダウングレードはサポートされていません。
2. DB2 DAS は DB2 システム・マイグレーションの要求元の DB2 インストール・ロケーションに関連しているが、インストールしようとしている DB2 製品はこの DB2 DAS をサポートしていない。

**ユーザーの処置:**
すべてのインスタンスをサポートしている DB2 製品か、またはマイグレーション元の DB2 コピーに関連した DAS を選択してください。

---

**DBI1231E　インスタンス *instance-name* の DB2 インスタンス・マイグレーションはサポートされていません。 (元のインスタンス・タイプは、*original-instance-type* です。マイグレーション先のインスタンス・タイプは *migrated-instance-type* です。)**

**説明:**
指定された DB2 インスタンスを DB2 の現在のコピーにマイグレーションできません。Windows では、DB2 インスタンス・タイプのダウングレードはサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
このインスタンス・タイプをサポートしている DB2 製品をインストールし、db2imigr を再実行してください。

---

**DBI1232E　アンインストールを続行できません。**

**説明:**
以下の理由が考えられます。

1. インスタンス *inst-name* に関するデータベース・マネージャーがまだアクティブである。
2. DB2 Text Search サービスがまだアクティブである。

**ユーザーの処置:**
データベース・マネージャーと DB2 Text Search サービスを停止してから、コマンドを再実行してください。

---

**DBI1233E　インスタンス *inst-name* をドロップすることができません。**

**説明:**
DB2 Text Search サービスがアクティブの場合、インスタンスをドロップできません。

**ユーザーの処置:**
DB2 Text Search サービスを停止してから、コマンドを再実行してください。

---

**DBI1234E　インスタンス *instance-name* の DB2 インスタンス更新はサポートされていません。 (元のインスタンス・タイプは、*original-instance-type* です。更新先のインスタンス・タイプは *updated-instance-type* です。)**

**説明:**
指定された DB2 インスタンスは更新できません。 DB2 インスタンス・タイプのダウングレードはサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
このインスタンス・タイプをサポートしている DB2 製品をインストールし、db2iupdt コマンドを再実行してください。

---

**DBI1235E　一度にインストールできる製品は 1 つだけです。**

**説明:**
DB2 インストーラーは、一度に 1 つの製品のインストールのみサポートしています。

**ユーザーの処置:**
製品を 1 つのみ指定して、コマンドを再実行してください。

---

**DBI1236E　複数パーティション・インスタンス *instance-name* から非複数パーティション・インスタンスへのマイグレーションまたは更新を行うことはできません。**

**説明:**
マイグレーションまたは更新を行おうとしているインスタンスは、複数パーティション・インスタンスです。インスタンスのマイグレーションまたは更新先の現在の DB2 コピーは、複数パーティション・インスタンスをサポートしていません。

**ユーザーの処置:**
DB2 インスタンスにパーティション・ローカル・データベースがない場合に、複数パーティションでない DB2 インスタンスを使用するには、パーティションが 1 つだけ含まれるように現在の db2nodes.cfg を更新してから、コマンドを再実行してください。

パーティション・ローカル DB2 データベースと DB2 インスタンスが存在する場合、複数パーティション・インスタンスをサポートする DB2 コピーへのマイグレーションまたは更新を実行する必要があります。 DB2

Enterprise Server Edition は複数パーティション・インスタンスをサポートしています。

**DBI1237E** **現在の DB2 インストールに関連したすべてのインスタンス上で DB2 データベース・マネージャーが停止していないので、指定されたコンポーネント *component-name* をアンインストールできません。**

**説明:**
アンインストールするよう要求されたコンポーネントは、DB2 データベース・マネージャーに関連しています。指定されたコンポーネントをドロップするには、その前に現在の DB2 コピーに関連したすべてのインスタンス上で DB2 データベース・マネージャーを停止する必要があります。

**ユーザーの処置:**
DB2 の現在のインストールに関連したすべての DB2 インスタンス上で DB2 データベース・マネージャーを停止し、コマンドを再実行してください。

**DBI1239I** **DB2 インフォメーション・センターは、ポート *port-number* に関する要求を listen しています。**

**DBI1240E** **データベース・マネージャーが始動できませんでした。**

**説明:**
カタログ済みローカル・データベースがマイグレーション可能かどうかをチェックしようとしたときに、データベース・マネージャーが始動できませんでした。

**ユーザーの処置:**
データベース・マネージャーが始動できなかった理由を解決して、コマンドを再発行してください。

**DBI1241I** **インフォメーション・センター・デーモンは既にアクティブです。**

**説明:**
DB2 インフォメーション・センターを開始するコマンドは既に処理されています。

コマンドは処理されません。

**ユーザーの処置:**
アプリケーションは既に listen 中です。

**DBI1242I** **DB2 インフォメーション・センターを停止する STOP コマンドが正常に完了しました。**

**DBI1243I** **DB2 インフォメーション・センターを開始する START コマンドが正常に完了しました。**

**DBI1244I** **DB2 の非 root インストールに関するディレクトリー - *directory***

**DBI1245e** **指定された DB2 インストール・パス *install-path* に 1 つ以上のスペース文字が見つかりましたが、これはサポートされていません。**

**説明:**
指定された DB2 のインストール・パスに 1 つ以上のスペース文字が含まれていますが、これは UNIX および Linux プラットフォーム上の DB2 インストールの場合はサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
スペース文字のないインストール・パスを指定し、コマンドを再実行してください。

**DBI1246I** **db2_deinstall コマンドは DB2 インストール・ディレクトリーからのみ実行することができます。**

**説明:**
DB2 9 以降、db2_deinstall コマンドを実行できるのは DB2 インストール・パスからに限られます。このパスは DB2DIR/install の下にあります。DB2DIR は DB2 製品のインストール場所のディレクトリーです。

**ユーザーの処置:**
DB2DIR/install ディレクトリーからコマンドを再入力してください。

**DBI1247W** **root フィーチャー *feature-name* は、現在のインストール済み環境に存在しないフィーチャーであるため、有効にすることはできません。**

**DBI1248E** **このバージョンの db2_deinstall コマンドは、DB2 バージョン *version* 製品のアンインストールにのみ使用できます。**

**説明:**

DB2 製品をアンインストールするには、同じバージョン・レベルの db2_deinstall コマンドを使用する必要があります。

**ユーザーの処置:**
該当する DB2 メディアを探してコマンドを再実行するか、<DB2DIR>/install ディレクトリーから db2_deinstall コマンドを再実行します。<DB2DIR> は、除去する DB2 製品のインストール・パスを表します。

---

**DBI1249E　このバージョンの doce_deinstall コマンドは、DB2 インフォメーション・センター・バージョン *version* のアンインストールにのみ使用できます。**

**説明:**
DB2 インフォメーション・センターをアンインストールするには、同じバージョン・レベルの doce_deinstall コマンドを使用する必要があります。

**ユーザーの処置:**
該当する DB2 インフォメーション・センター・メディアを探して、コマンドを再実行するか、<DB2DIR>/install ディレクトリーから doce_deinstall コマンドを実行します。<DB2DIR> は、除去する DB2 インフォメーション・センターのインストール・パスを表します。

---

**DBI1250E　アプリケーションは、インスタンス *instance-name* をまだ使用中です。**

**説明:**
指定されたインスタンスを使用している実行中のアプリケーションが、まだ存在します。 コマンドを正常に完了させるには、このインスタンスを使用しているすべてのアプリケーションを終了する必要があります。次のコマンドを発行すると、現在インスタンスを使用中のアプリケーションのリストを取得できます。

```
db2 list applications
```

**ユーザーの処置:**
アプリケーションが終了するのを待つか、またはアプリケーションを明示的に強制終了させることができます。インスタンス所有者としてログオンし、次のコマンドを実行することもできます。

```
db2 force application all
```

上記のコマンドを使用して終了したときに、想定外の動作をするアプリケーションがある可能性があることに注意してください。すべてのアプリケーションが停止してから、「db2stop」コマンドを使用してデータベース・マネージャーを停止してください。

---

**DBI1251N　このインスタンスのクラスター・リソースの作成中に、エラーが発生しました。**

**説明:**
dbimigr はクラスター・サービスを初期設定できないか、またはマイグレーションする既存の DB2 リソースを見つけられません。

**ユーザーの処置:**
現在のログオン・ユーザー・アカウントにクラスター・サービスにアクセスできるだけの権限があることを確認してください。また、クラスター・サービスがシステム上でアクティブになっていること、およびマイグレーションする DB2 リソースが依存しているリリースが現行ノード上でオンラインになっていることを確認してください。

問題が解決しない場合は IBM サービス技術員に連絡して助言を受けてください。

---

**DBI1252N　クラスター・サービスで DB2 サーバー・リソース・タイプの登録中に、エラーが発生しました。**

**説明:**
DB2 は、リソース・タイプがクラスター・サービスで使用可能になっていることを必要としますが、リソース・タイプを登録するためのコマンドが失敗しました。

**ユーザーの処置:**
現在のログオン・ユーザー・アカウントにクラスター・サービスにアクセスできるだけの権限があることを確認してください。

ユーティリティー ″db2wolfi.exe i″ を使用して、リソース・タイプを手動で登録してください。

問題が解決しない場合は IBM サービス技術員に連絡して助言を受けてください。

---

**DBI1253N　このインスタンスのクラスター・リソースの作成中に、エラーが発生しました。システムを元の設定に復帰できませんでした。**

**説明:**
このインスタンスに必要なクラスター・リソースの作成中に、エラーが発生しました。このインスタンスの既存のクラスター・リソースが削除され、リストアできませんでした。

**ユーザーの処置:**
現在のログオン・ユーザー・アカウントにクラスター・サービスにアクセスできるだけの権限があることを確認してください。また、クラスター・サービスがシステム上でアクティブになっていること、およびマイグレーシ

ョンする DB2 リソースが依存しているリリースが現行ノード上でオンラインになっていることを確認してください。

管理ツール・コントロール・パネル・アプレットで使用可能な「クラスター管理」を使用して、インスタンスのリソースを再作成してください。

問題が解決しない場合は IBM サービス技術員に連絡して助言を受けてください。

---

**DBI1254N　既存のリソースを除去できないため、このインスタンスのクラスター・リソースのマイグレーション中に、エラーが発生しました。**

**説明:**
インスタンスをマイグレーションするには、クラスター・リソースを除去し、DB2 サーバー・タイプを使用して新規のクラスター・リソースを作成する必要があります。コマンドでは既存のクラスター・リソースを除去できなかったため、このインスタンスをマイグレーションできません。

**ユーザーの処置:**
現在のログオン・ユーザー・アカウントにクラスター・サービスにアクセスできるだけの権限があることを確認してください。また、クラスター・サービスがシステム上でアクティブになっていること、およびマイグレーションする DB2 リソースが依存しているリリースが現行ノード上でオンラインになっていることを確認してください。

問題が解決しない場合は IBM サービス技術員に連絡して助言を受けてください。

---

**DBI1255E　指定されたインスタンス・タイプを作成するのに必要な構成ファイル *filename* が見つかりません。**

**説明:**
指定されたインスタンス・タイプを作成するための必須の構成ファイルが見つかりません。

**ユーザーの処置:**
DB2 の現在のインストールでサポートされているインスタンス・タイプを指定し、コマンドを再実行してください。

---

**DBI1257I　DB2 インフォメーション・センターは、要求を listen していません。**

---

**DBI1258E　DB2 インフォメーション・センターを開始できません。**

**説明:**
DB2 インフォメーション・センターを開始するコマンドは正常に実行されませんでした。

**ユーザーの処置:**
DB2 インフォメーション・センターのインストール・パスからログ・ファイル doc/eclipse/workspace/.metadata/.log 中にメッセージが書き込まれます。

---

**DBI1259I　使用可能なルート・フィーチャー:**

---

**DBI1260E　応答ファイルから読み取ることができません。**

**説明:**
指定された応答ファイルからの読み取りに失敗しました。 応答ファイルに読み取りアクセスがあり、応答ファイルへの指定パスが正しいことを確認してください。

**ユーザーの処置:**
アクセス許可および応答ファイルのロケーションを訂正して、再試行してください。

---

**DBI1261E　値は、キーワードでは無効です。**

**説明:**
応答ファイルで指定された値は、応答キーワードとして無効です。 有効な入力については、サンプル応答ファイルを参照してください。

**ユーザーの処置:**
応答ファイルの次の行にある問題を訂正して、再試行してください。

---

**DBI1262E　応答ファイルに不明のキーワードがあります。**

**説明:**
応答ファイルで指定されたキーワードは無効です。 有効なキーワードについては、サンプル応答ファイルを参照してください。

**ユーザーの処置:**
応答ファイルの次の行にある問題を訂正して、再試行してください。

---

**DBI1263I　使用可能でないルート・フィーチャー:**

---

**DBI1264E** *program-name* **実行中にエラーが発生しました。 詳細情報については、インストール・ログ・ファイル** *log-name* **を参照してください。**

**説明:**
処理済みの、または失敗したすべての操作は、このログ・ファイルに保管されています。

**ユーザーの処置:**
ログ・ファイルは修正しないでください。 このファイルは IBM 技術サポートが参照するためのものです。

**DBI1265I** **予約済みサービス項目:**

**DBI1266I** **詳細情報については、ログ・ファイル** *log-name* **を参照してください。**

**説明:**
処理済みの、または失敗したすべての操作は、このログ・ファイルに保管されています。

**ユーザーの処置:**
ログ・ファイルは修正しないでください。 このファイルは IBM 技術サポートが参照するためのものです。

**DBI1267I** **予約されていないサービス項目:**

**DBI1268E** **ファイル・セット** *fileset* **はインストール・メディアでは使用できません。**

**説明:**
インストールされるファイル・セットのいずれかが、インストール・メディアで見つかりません。ファイル・セットがインストール・メディアに見つからない場合には、インストールができません。

**ユーザーの処置:**
ファイル・セットがインストール・メディアにあるかどうかを確認してください。ファイル・セットがインストール・メディアに見つからない場合には、このファイル・セットの選択を取り消し、再試行してください。

**DBI1269I** **サマリー:**

**DBI1270E** **応答ファイルにエラーがあります。**

**説明:**
応答ファイルの処理中にエラーを検出しました。 問題が訂正されない限り、インストールは続行できません。

**ユーザーの処置:**
応答ファイルの次の行にある問題を訂正して、再試行してください。

**DBI1271E** **構成ファイル** *configuration-file* **が無効です。**

**DBI1272I** **DB2 インスタンス** *instance-name* **を使用するには、db2profile または db2cshrc を sqllib ディレクトリーに提供して DB2 インスタンス環境をセットアップする必要があります。あるいは、DB2 インスタンス・ユーザーのログイン・ウィンドウを新しくオープンすることもできます。**

**説明:**
DB2 インスタンスは、db2profile (Bourne または Korn シェル・ユーザーの場合) または db2cshrc (C シェル・ユーザーの場合) を提供した後に使用できます。

**ユーザーの処置:**
DB2 インスタンス環境をセットアップするには、DB2 インスタンスを所有する ID で新規のログイン・ウィンドウをオープンするか、あるいは DB2 インスタンスを所有する ID で該当する以下のコマンドを実行することによって DB2 インスタンス環境を提供します。

```
. $HOME/sqllib/db2profile

source $HOME/sqllib/db2cshrc
```

$HOME は、DB2 インスタンスを所有するユーザー ID のホーム・ディレクトリーを表します。

**DBI1273W** **インスタンス用の DB2 Text Search サーバーを構成できませんでした。理由コード : *reason-code***

**説明:**
DB2 Text Search のインスタンスを構成しようとして失敗しました。次のような理由が考えられます。

**1** DB2 Text Search がインストールされていません。インストール・メディアから DB2 Text Search をインストールしてから、再度試行してください。

**2** 指定されたサービス名またはポート番号が無効です。有効なサービス名の長さは 14 文字を超えてはならず、有効なポート番号は 1024 から 65535 の範囲でなければなりません。

**3** 指定されたポート番号は、別のアプリケーションによって使用されています。システムで使用可能なポート番号を選択してください。

**4** 指定されたサービス名あるいはポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と競

合します。システムで使用可能なサービス名およびポート番号を指定してください。

**5** TCP/IP サービス・ファイルにアクセスできませんでした。サービス・ファイルの読み取りおよび書き込みを行う権限があるかどうかを確認してください。また、ファイルの内容が有効で、項目の重複がないことも確認してください。

**6** デフォルトのサービス名が、指定されたポート番号とは異なるポート番号に予約されています。TCP/IP サービス・ファイルにすでにある項目と競合しないサービス名およびポート番号を指定してください。

**7** デフォルトのサービス名が、別のアプリケーションによって使用されているポート番号に予約されています。システムで使用可能なサービス名およびポート番号を選択してください。

**8** 指定されたサービス名は、別のアプリケーションによって使用されているポート番号に予約されています。システムで使用可能なサービス名およびポート番号を選択してください。

**9** インスタンス・ディレクトリーに DB2 Text Search ディレクトリーまたはファイルを作成あるいはコピーしようとして失敗しました。

**10** インスタンス・ディレクトリーで DB2 Text Search ファイルの読み取りあるいは書き込みを行おうとして失敗しました。

**11** DB2 Text Search サーバー NT サービスを作成しようとして失敗しました。

**12** 予期しない内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
理由コードと関連する提案されたアクションを行っても問題が解決しなかった場合は、IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DBI1274N　インスタンス用の DB2 Text Search サーバーを停止できませんでした。**

**説明:**
DB2 Text Search サーバーを停止しようとして失敗しました。NT サービスを停止できませんでした。

**ユーザーの処置:**
インスタンス用の DB2 Text Search サーバーを停止し、コマンドを再試行してください。

---

**DBI1275N　インスタンス用の DB2 Text Search サーバーを停止できませんでした。**

**説明:**
DB2 Text Search サーバーを停止しようとして失敗しました。NT サービスを停止できませんでした。

**ユーザーの処置:**
インスタンス用の DB2 Text Search サーバーを停止し、コマンドを再試行してください。

---

**DBI1276E　インストールを実行したユーザー ID でログイン中に *install-path* での DB2 インストールを更新する必要があります。**

**説明:**
DB2 インストールを更新できるのは、DB2 インストールを実行したユーザー ID で installFixPack コマンドを実行する場合のみです。

DB2 ルート・インストールを更新するには、root 権限を持つユーザーとして installFixPack コマンドを実行する必要があります。

**ユーザーの処置:**
該当するユーザー ID を使用してコマンドを再実行してください。

---

**DBI1277E　インストール・パスとランタイム・パスとが一致しません。**

**説明:**
db2chgpath を使用してランタイム・パスを設定する際に、DB2 の実行元である現行パスとは一致しないパスが指定されました。

**ユーザーの処置:**
以下のいずれかのアクションを行ってください。

- インストール・パスをランタイム・パスと一致するように移動する。
- db2chgpath に現在のインストール・パスと一致する正しいランタイム・パスを指定して実行する。

---

**DBI1278W　応答ファイルから警告が出されました。**

**説明:**
応答ファイルの処理中に警告を検出しました。 DB2 インストーラーは停止せずに続行します。

**ユーザーの処置:**
必要であれば、応答ファイルの次の行にある問題を訂正して、再試行してください。

---

**DBI1279I　応答ファイルから注意が出されました。**

**説明:**
応答ファイルの処理中に注意を検出しました。 DB2 インストーラーは停止せずに続行します。

**ユーザーの処置:**
これは情報メッセージです。アクションは不要です。

**DBI1280E　ユーザー *user-name* は NIS/NIS+ によって管理されています。これは DB2 ではサポートされていません。**

**DBI1281E　データベース・マネージャー構成ファイルが初期化できませんでした。**

**説明:**
データベース・マネージャー構成ファイルの初期化中にエラーが発生しました。 DB2 インスタンスを作成またはマイグレーションできませんでした。

**ユーザーの処置:**
トラブルシューティングについては、ログ・ファイルを参照してください。問題を解決してコマンドを再試行してください。 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

**DBI1282W　データベース・マネージャー構成ファイルがマージできませんでした。元の構成ファイルは、*dbm-cfg-file-name* として保管されました。 (元のインスタンス・タイプは、*original-instance-type* です。マイグレーションまたは更新されるインスタンス・タイプは、*instance-type-migrated* です。)**

**説明:**
2 つのデータベース・マネージャー構成ファイルのマージ中に、エラーが検出されました。前のデータベース・マネージャー構成ファイルが、新しいデータベース・マネージャー構成ファイルとマージできませんでした。

このエラーは、インスタンスが高位のインスタンス・タイプから低位のインスタンス・タイプにマイグレーションまたは更新される場合に生じることがあります。更新またはマイグレーションが成功した場合、新しいインスタンスは新しいインスタンス・タイプ用のデフォルトの構成設定を使用します。

**ユーザーの処置:**
新しいデータベース・マネージャー構成ファイル内の値を調べて、必要ならパラメーターを更新してください。

**DBI1283E　*instance* に対する通信情報を更新できません。**

**説明:**
SVCENAME パラメーターまたは DB2COMM レジストリー値、あるいはその両方を、インスタンス作成中に更新できませんでした。

**ユーザーの処置:**
SVCENAME パラメーターがデータベース・マネージャー構成ファイルで“<profile-name>”に設定されていて、次の例を使用して更新されることを確認してください。

```
db2 update dbm cfg using
    SVCENAME “<profile-name>”
```

また、DB2COMM 変数は、次のコマンドを実行して tcpip に更新されることを確認してください。

```
db2set DB2COMM=tcpip
```

**DBI1284I　*feature-name* が正常に設定されました。**

**DBI1285E　*feature-name* の設定が失敗しました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file-name* を参照してください。**

**DBI1286E　ユーティリティー *utility-name* が見つかりませんでした。**

**説明:**
ユーティリティーは、DB2 製品をインストールまたは更新するためにシステムで使用する必要があります。

**ユーザーの処置:**
ユーティリティーがインストールされており、そのロケーションが PATH 環境変数内であることを確認してください。

コマンドを再入力してください。

**DBI1287E　db2_deinstall の実行場所である現在のプラットフォーム *platform* とは異なるプラットフォームのためのイメージに対して、それを使用しようとしました。**

**説明:**
可能性のある理由は、以下のとおりです。

- この DB2 インストール・イメージが現在のプラットフォームに対して有効なものではない。
- 現在のプラットフォームが DB2 でサポートされていない。

**ユーザーの処置:**
現在のプラットフォーム *platform* に対応する DB2 インストール・イメージを使用して、 DB2 を除去するか、

またはコマンド db2_deinstall をディレクトリー 'DB2DIR/install' から直接実行してください。ここで、DB2DIR は DB2 インストール・パスです。

---

**DBI1288E　プログラム *program-name* の実行が失敗しました。このプログラムが失敗したのは、ディレクトリーまたはファイル *directory-or-file-name* に対する書き込み許可がないためです。**

**説明:**
このエラーの理由には、以下が含まれます。

- 指定のディレクトリーまたはファイルは現在のマシンのローカル・ファイル・システム上にありますが、プログラムを実行中のユーザー ID にはそのディレクトリーまたはファイルに対する書き込み許可がありません。
- 指定のディレクトリーまたはファイルは現在のマシンにマウントされた NFS マウント・ファイル・システム上にありますが、現在のユーザー ID にはそのディレクトリーまたはファイルに対する書き込み許可がありません。
- 現在のユーザー ID には、ターゲット・パーティションに存在する指定のディレクトリーまたはファイルに対する書き込み許可がありません。これは、現在のマシンのオペレーティング・システムが IBM AIX バージョン 6.1 以降であり、Workload Partition の root ユーザー ID が Global Partition に書き込もうとしている場合に発生することがあります。
- 現在のユーザー ID には、ターゲット・ゾーンに存在するディレクトリーまたはファイルに対する書き込み許可がありません。これは、現在のマシンのオペレーティング・システムが Sun Solaris 10 以降であり、ローカル・ゾーンの root ユーザー ID がグローバル・ゾーンに書き込もうとしている場合に発生することがあります。
- 現在のマシンは Sun Solaris Operating System を、グローバル・ゾーンに存在するディレクトリーまたはファイルに対して書き込み許可を持たないローカル・ゾーンで実行しています。

**ユーザーの処置:**
このメッセージに応答するには、以下に示すいくつかの方法があります。

- 指定のディレクトリーまたはファイルに対する書き込み許可を持つユーザー ID を使用してプログラムを実行します。
- ディレクトリーまたはファイルの許可を変更して、ユーザー ID がそのディレクトリーまたはファイルに書き込むことができるようにしてから、プログラムを再実行します。
- ユーザー ID の権限を変更して、そのユーザー ID が指定のディレクトリーまたはファイルに書き込むことができるようにしてから、プログラムを再実行します。

---

**DBI1289W　DB2 インストールまたはインスタンス・ユーティリティー *utility-name* が、DB2 拡張コピー・サービス (ACS) に関連するファイルのファイル許可および所有権プロパティーの構成に失敗しました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file-name* を参照してください。**

**説明:**
DB2 インストールまたはインスタンス・ユーティリティーは、DB2 インスタンス・ホーム・ディレクトリーの下の sqllib/acs ディレクトリーにある DB2 ACS ファイルの許可および所有権を構成しようとしました。指定されたログ・ファイルには、DB2 インストールまたはインスタンス・ユーティリティーが失敗した理由についての情報が含まれます。

DB2 インストールまたはインスタンス・ユーティリティーがこれらのファイルの許可および所有権の構成に失敗したので、DB2 ACS は使用できない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
DB2 ACS を使用しない場合は、IBM データ・サーバーを再インストールしたり、DB2 インスタンスを再作成したりする必要はありません。

DB2 ACS を使用する場合は、以下の手順に従います。

1. 指定のログ・ファイルで障害に関する詳細を調べる。
2. 障害の原因を正し、ログ・ファイルが推奨する処置を取る。

DB2 ACS の構成について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターでトピック『DB2 拡張コピー・サービスの構成』を参照してください。

---

**DBI1290E　プロファイル・レジストリー *profile-name* を作成しようとしましたが、失敗しました。**

**説明:**
プロファイル・レジストリーの作成中にエラーが発生しました。以下の状態のいずれかが発生しました。

- 現行の DB2 インストールのトップ・ディレクトリーにおけるアクセス許可に誤りがある。
- ファイル・システムに十分なフリー・スペースがない。

**ユーザーの処置:**
現行の DB2 インストールのトップ・ディレクトリーにおけるディレクトリー許可を確認してください。

---

**DBI1291E　インスタンス *instance-name* がインスタンス・リストに見つかりませんでした。**

**説明:**
示されたインスタンスが、インスタンス・リストに見つかりませんでした。

**ユーザーの処置:**
“db2ilist”コマンドによって報告されたインスタンスのリストが正しいことを確認してください。有効なインスタンス名を指定して、コマンドを再試行してください。

---

**DBI1292E　インスタンス *instance-name* はすでにインスタンス・リストにあります。**

**説明:**
作成またはマイグレーション中のインスタンスが、すでにインスタンス・リストにあります。

**ユーザーの処置:**
“db2iset -l”コマンドで報告されているインスタンス・リストの一部でない別のインスタンス名を使用してください。

---

**DBI1293E　このシステムには DB2 Query Patroller サーバーがセットアップされていません。**

**ユーザーの処置:**
DB2 インストーラーによって DB2 Query Patroller がインストールされていない場合、このインストーラーを使用して DB2 Query Patroller サーバーで使用するインスタンスを正しくセットアップします。インスタンスがセットアップされている場合は、それが default.env ファイルに記録されていて、そのファイルが全ユーザー読み取り可能であることを確認してください。default.env ファイルは以下のいずれかにあります。

/usr/opt/db2_08_xx (xx は 01 または FPn、n はフィックスパックの番号)
または /opt/IBM/db2/V8.x (x は 1 または FPn、n はフィックスパックの番号)

---

**DBI1294W　DB2 インストールまたはインスタンス・ユーティリティー *utility-name* が、DB2 拡張コピー・サービス (ACS) の開始に失敗しました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file-name* を参照してください。**

**説明:**
DB2 ACS を使用する前に、このサービスを開始する必要があります。DB2 インストールまたはインスタンス・ユーティリティーはサービスを開始しようとしましたが、失敗しました。

DB2 インスタンスは使用できますが、DB2 ACS はこのサービスが開始するまでは使用できません。

**ユーザーの処置:**
DB2 ACS を開始するには、以下の手順に従います。

1. 指定のログ・ファイルで障害に関する詳細を調べる。
2. 障害の原因を正す。
3. DB2 ACS を手動で開始する。

DB2 ACS の手動開始について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターでトピック『DB2 拡張コピー・サービスの開始』を参照してください。

---

**DBI1295E　インスタンス・リストを更新できませんでした。**

**説明:**
インスタンスをインスタンス・リストへ追加できなかったか、またはインスタンス・リストから除去できませんでした。インスタンス・リストからインスタンスを追加または削除しているときにエラーが発生しました。以下の状態のいずれかが発生しました。

- レジストリー・プロファイルに誤ったアクセス許可がある。
- プロファイル・レジストリーが正しく設定されていない。
- ファイル・システムに十分なフリー・スペースがない。

**ユーザーの処置:**
現行の DB2 インストールのトップ・ディレクトリー下のインスタンス・リスト・プロファイルにおけるファイル許可を確認してください。

---

**DBI1296E　DB2 インストールまたはインスタンス・ユーティリティー *utility-name* が、DB2 拡張コピー・サービス (ACS) の停止に失敗しました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file-name* を参照してください。**

**説明:**
DB2 インスタンスを更新またはマイグレーションする前に、DB2 ACS を停止する必要があります。DB2 インストールまたはインスタンス・ユーティリティーはサービスを停止しようとしましたが、失敗しました。

DB2 インスタンスの更新またはマイグレーションは、DB2 ACS が停止するまでは行うことができません。

**ユーザーの処置:**
DB2 ACS を停止するには、以下の手順に従います。

1. 指定のログ・ファイルで障害に関する詳細を調べる。
2. 障害の原因を正す。
3. DB2 ACS を手動で停止する。

DB2 ACS の手動停止について詳しくは、DB2 インフォメーション・センターでトピック『DB2 拡張コピー・サービスの停止』を参照してください。

---

**DBI1297E　インスタンス・プロファイル *profile-name* を更新できませんでした。**

**説明:**
インスタンス・プロファイル・レジストリーの更新中にエラーが発生しました。以下の状態のいずれかが発生しました。

- インスタンス・プロファイル・レジストリーに誤ったアクセス許可がある。
- プロファイル・レジストリーが正しく設定されていない。
- ファイル・システムに十分なフリー・スペースがない。

**ユーザーの処置:**
現行の DB2 インストールのトップ・ディレクトリー下のインスタンス・リスト・プロファイルにおけるファイル許可を確認してください。

---

**DBI1298E　DB2 インストールまたはインスタンス・ユーティリティー *utility-name* が、DB2 拡張コピー・サービス (ACS) を使用不可にできませんでした。詳しくは、ログ・ファイル *log-file-name* を参照してください。**

**説明:**
DB2 インスタンスをドロップする、あるいは IBM Data Server の非ルート・インストールを除去する前に、DB2 ACS を停止する必要があります。DB2 インストールまたはインスタンス・ユーティリティーはサービスを使用不可にしようとしましたが、失敗しました。

DB2 インスタンスのドロップまたは IBM データ・サーバーの非ルート・インストールの除去は、DB2 ACS が使用不可にされるまでは行えません。

**ユーザーの処置:**
DB2 ACS を使用不可にするには、以下の手順に従います。

1. 指定のログ・ファイルで障害に関する詳細を調べる。
2. 障害の原因を正す。
3. DB2 ACS を手動で使用不可にする。

DB2 ACS を手動で使用不可にすることに関して詳しくは、DB2 インフォメーション・センターでトピック『DB2 拡張コピー・サービスを使用不可にする』を参照してください。

---

**DBI1299E　集約セットのメンバーであるため、DB2 プロファイル・レジストリー変数 *variable-name* が無効になりませんでした。**

**説明:**
複数の DB2 プロファイル・レジストリー変数をグループ化して、1 つの集約 DB2 プロファイル・レジストリー変数として設定できます。集約 DB2 プロファイル・レジストリー変数を構成すると、そのセットのメンバーである DB2 プロファイル・レジストリー変数は、事前定義値に自動的に構成されます。

集約セットのメンバーであるDB2 プロファイル・レジストリー変数を、以下の db2set コマンド構文を使用して無効にすることはできません。

db2set *variable-name*=

変数は無効になりませんでした。

**ユーザーの処置:**
集約セットのメンバーである DB2 プロファイル・レジストリー変数を無効にするには、 以下の db2set コマンド構文を使用して変数を NULL に設定します。

db2set -null *variable-name*

---

**DBI1300N　db2set は DB2 プロファイル変数を表示、設定、あるいは取り除きます。**

**db2set [variable=[value]]**
**[-g|-i instance [db-partition-number]]**
**[-all]**
**[-null]**
**[-r [instance] [node-number]]**
**[-n DAS node[-u user[-p password]]]**
**[-l|-lr]**
**[-v]**

**[-ul|-ur]**
**[-?|-h]**

**説明:**
コマンド・オプションは以下のとおりです。

**-g** グローバル・プロファイル変数にアクセスする

**-i** 現行あるいはデフォルト値の代わりに使用するインスタンス・プロファイルを指定する

**-n** リモート DB2 Administration Server ノード名を指定する

**-u** Administration Server アタッチで使用するユーザー ID を指定する

**-ul** ユーザー・プロファイル変数にアクセスする

**-ur** ユーザー・プロファイル変数をリフレッシュする

**-p** Admin Server アタッチで使用するパスワードを指定する

**-r** 与えられたインスタンスに対するプロファイル・レジストリーをリセットする。 何も指定されない場合、デフォルトまたは現行のインスタンスが使用されます

**-l** すべてのインスタンス・プロファイルをリストする

**-lr** サポートされたすべてのレジストリー変数をリストする

**-v** Verbose モード

**-?** コマンド・ヘルプ・メッセージを表示する

**-h** -? オプションと同じ

**-all** 次のように定義されているローカル環境変数のすべてのオカレンスを表示する

- 環境は、[e] で示されます。
- ユーザー・レベル・レジストリーは、[u] で示されます。
- ノード・レベル・レジストリーは、[n] で示されます。
- インスタンス・レベル・レジストリーは、[i] で示されます。
- グローバル・レベル・レジストリーは、[g] で示されます。

**-null** 指定されたレジストリー・レベルで変数の値を null に設定し、変数値の検索順序で定義されている次のレジストリー・レベルの変数を参照できないようにする。

注:

- 変数名なしの db2set では定義されている変数をすべて表示します。
- db2set <variable> では <variable> の値を表示します。
- db2set <variable>= (nothing) では <variable> を削除します。
- db2set <variable>=<value> では <variable> の値を修正します。
- db2set <variable> -null では <variable> の値を NULL に設定します。
- db2set <variable> -all では定義されているすべての <variable> の値を表示します。
- db2set -ur では現行ユーザー・プロファイルをリフレッシュします。
- db2set <variable> -ul ではユーザー・レベルで定義された <variables> を表示します。
- db2set -all では、すべてのレジストリー・レベルで定義されているすべての変数を表示します。

---

**DBI1301E 値が無効です。**

**説明:**
レジストリー変数に指定した値は無効です。

**ユーザーの処置:**
DB2 インフォメーション・センターを参照して、レジストリー変数の有効な値を確かめてください。

---

**DBI1302E 無効なパラメーターを検出しました。**

**説明:**
無効なパラメーターが使用されました。

**ユーザーの処置:**
使用法のヘルプ・メッセージを調べるには、-? を使ってください。

---

**DBI1303W 変数が設定されていません。**

**説明:**
変数がプロファイル・レジストリーに設定されていません。

**ユーザーの処置:**
これ以上のアクションは不要です。

---

**DBI1304E 予期しないエラー。**

**説明:**
ツールで想定外のシステム・エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
DB2 サービス技術員に連絡してください。

**DBI1305E　プロファイル・レジストリーが見つかりません。**

**説明:**
ターゲット・マシンにはプロファイル・レジストリー設定がありません。

**ユーザーの処置:**
DB2 のインストールでターゲット・マシンにレジストリーを作成してください。

**DBI1306N　インスタンス・プロファイルが定義されていません。**

**説明:**
インスタンスがターゲット・マシン・レジストリーで定義されていません。

**ユーザーの処置:**
既存のインスタンス名を指定するか、あるいは必要なインスタンスを作成してください。

**DBI1307N　インスタンス・ノード・プロファイルが定義されていません。**

**説明:**
インスタンス・ノードがターゲット・マシン・レジストリーで定義されていません。

**ユーザーの処置:**
必要な DB2 製品パーツをインストールしてレジストリーを作成してください。

**DBI1308E　メモリー不足状態が発生しました。**

**説明:**
ツールで「メモリー・リソース不足」エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
システムのメモリー・リソースが少なくなっています。不要なアプリケーションを終了するか、またはあとで再試行してください。

**DBI1309E　システム・エラー。**

**説明:**
ツールでオペレーティング・システム・エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
システム・エラーがレジストリーにアクセス中に発生しました。 レジストリーがある場所のファイル・システムにメモリーが十分あるか、およびレジストリーがリモートの場合、LAN 接続が有効であるか確認してください。

**DBI1310E　リモート・レジストリー・アクセスがサポートされていません。**

**説明:**
ツールではリモート・レジストリー・オプションをサポートしていません。

**ユーザーの処置:**
レジストリーにリモート・アクセスする方法についてはコマンド・リファレンスを参照してください。

**DBI1311I　レジストリー・インスタンス・プロファイルをリスト中...**

**DBI1312I　定義済みグローバル変数をリスト中...**

**DBI1313I　定義済みインスタンス変数をリスト中...**

**DBI1314I　サポートされているすべてのレジストリー変数をリスト中...**

**DBI1315E　指定された変数は集約タイプのレジストリー変数ではありません。**

**説明:**
グループ定義を表示するには、レジストリー変数が集約タイプのレジストリー変数でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
-gd オプションを指定しないでください。 -gd オプションを使用する場合は有効な集約変数名を指定してください。

**DBI1316E　インスタンスが MPP でありません。**

**説明:**
ターゲット・インスタンスが DB2 MPP インスタンスではありません。

**ユーザーの処置:**
MPP インスタンスを選択してください。

**DBI1317E　インスタンス・ノードがすでにあります。**

**説明:**
インスタンス・ノードが重複して存在しています。

**ユーザーの処置:**
別のインスタンス・ノードを選択してください。

**DBI1318E　レジストリー変数に指定した値は長すぎます。**

**説明:**
レジストリー変数に指定した値は、上限を超えています。レジストリー変数値の上限の長さは 255 バイトです。

**ユーザーの処置:**
それより短い値をレジストリー変数に指定してください。

---

**DBI1319W　変数 *variable-name* は明示的に設定され、集約変数 *aggregate-var-name* の構成によって影響を受けません。**

**説明:**
集約レジストリー変数は、グループ定義に明示的に構成された変数の設定が含まれる値に構成されました。明示的に構成された値は保存されます。

**ユーザーの処置:**
必要であれば、明示的に変数を構成してください。

---

**DBI1320W　警告:**

**説明:**
このスクリプトは、ユーザーに起こりうる問題のデバッグのために IBM サポートが有益な情報を収集するために使用されます。この情報は、機密情報の場合があります。出力ファイル db2ginfo.txt は IBM サポートに送信する前に編集することができます。

**ユーザーの処置:**
上記の警告を認識および受諾したことを通知するには、このスクリプトを -y フラグ付きで実行してください。

---

**DBI1321W　DB2 インスタンス *instance-name* の ulimit 設定は、現在のプラットフォーム上の DB2 のための推奨値を遵守していません。**

**説明:**
現在の root 以外の DB2 インスタンスに対する ulimit 設定では、「data」および「nofiles」の値が現在のプラットフォーム用に DB2 が推奨する値よりも小さくなっています。「data」を「unlimited」に設定し、「nofiles」を「unlimited」またはシステムで許可される最大値に設定することが推奨されています。「data」を「unlimited」に設定できない場合、以下の公式を参照として使用して、現在のプラットフォーム用に DB2 が必要とする「data」の推定値をキロバイト単位で判別できます。

default_data_ulimit + ( ( 20 * max_concurrent_active_databases ) + estimated_max_connections ) * max_querydegree * 8192

説明:

1. default_data_ulimit は、システム上のユーザーに対する ulimit の「data」のデフォルト値です。例えば、IBM AIX システムでのデフォルト値は 262144 です。
2. max_concurrent_active_databases は、DB2 インスタンス用に並行してアクティブなデータベースの最大数です。
3. estimated_max_connections は、DB2 インスタンス用のデータベース接続の推定最大数です。
4. max_querydegree は、INTRA_PARALLEL が DB2 データベース・マネージャー構成で有効な場合に、DB2 データベース・マネージャー構成のパラメーター ″MAX_QUERYDEGREE″ の値です。INTRA_PARALLEL が有効でない場合、max_querydegree の値は 1 です。

**ユーザーの処置:**
root 特権を付与されているシステム管理者に、現在の DB2 インスタンス用に ulimit 設定の更新を依頼してください。

---

**DBI1330W　アクションが別のインスタンスに影響する可能性があります。**

**説明:**
ファイル IWH.environment には、すべてのインスタンスのグローバル情報が入っています。このファイルを更新すると、すべてのインスタンスに影響する可能性があります。 続行しますか?

---

**DBI1332E　IWH.environment のテンプレート・ファイルが見つかりません。**

**説明:**
IWH.environment のテンプレート・ファイルが必要です。

---

**DBI1351E　このコマンドを実行するには、インスタンス所有者でなければなりません。**

**説明:**
このコマンドを実行するには、DB2 Query Patroller サーバー・インスタンス所有者でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
DB2 Query Patroller サーバー・インスタンスがファイル default.env に正しく記録されていることを確認します。DB2 Query Patroller サーバー・インスタンス所有者とし

てログインし、このコマンドを再発行してください。 default.env は、現行の DB2 インストールのトップ・ディレクトリーの下にあります。

---

**DBI1352E　インスタンス *instance-name* は ESE インスタンスではありません。**

**説明:**
DB2 Query Patroller サーバー/エージェントは、ESE インスタンスに作成する必要があります。

**ユーザーの処置:**
有効な ESE インスタンス名を使ってこのコマンドを再実行するか、またはこのコマンドを再実行する前に、新しい ESE インスタンスを作成してセットアップしてください。

---

**DBI1353E　DB2 Query Patroller サーバーはすでにインスタンスにセットアップされています。**

**説明:**
DB2 Query Patroller サーバーは 1 つの DB2 インスタンスにのみセットアップできます。

**ユーザーの処置:**
コマンド dqplist を実行して、DB2 Query Patroller サーバーとして使用されているインスタンスの名前を見つけます。 インスタンス名が正しい場合には、サーバーのセットアップに dqpcrt を実行する必要はありません。 エージェントをセットアップする場合は、正しいインスタンス名を使用する必要があります。このインスタンスがエージェントをセットアップする目的で使用されない場合、次のコマンドを実行して除去します。

```
dqpdrop inst_name
```

次に、 dqpcrt コマンドを再実行してください。

---

**DBI1354E　インスタンス *instance-name* が DB2 Query Patroller サーバー・インスタンスではありません。**

**ユーザーの処置:**
dqplist で正しいサーバー・インスタンス名を探して、コマンドを再実行してください。

---

**DBI1355I　使用法:**

**dqpcrt [-h|-?]** *-s|-a*
**-p PortName InstName**

**説明:**
間違った引数が入力されました。 このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**PortName**
DB2 Query Patroller サーバー/エージェントで使用するポート名

**InstaName**
DB2 Query Patroller サーバー・インスタンスとして指定するインスタンスの名前

**-s**　指定のインスタンスに DB2 Query Patroller サーバーを作成する

**-a**　指定のインスタンスに DB2 Query Patroller エージェントを作成する

**-h|-?**　使用情報を表示する

-a オプションは、複数パーティションのデータベース・インスタンスにのみ有効です。

**ユーザーの処置:**
正しい構文を使用してコマンドを再入力してください。

---

**DBI1356I　使用法:**

**dqplist [-h|-?]**

**説明:**
間違った引数が入力されました。 このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h|-?**　使用情報を表示する

**ユーザーの処置:**
正しい構文を使用してコマンドを再入力してください。

---

**DBI1357I　使用法:**

**dqpdrop [-h|-?] InstName**

**説明:**
間違った引数が入力されました。 このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**InstName**
DB2 Query Patroller サーバーを除去したいインスタンスの名前

**-h|-?**　使用情報を表示する

このコマンドは、DB2 Query Patroller サーバーが作成されたノードでのみ発行できます。

**ユーザーの処置:**
正しい構文を使用してコマンドを再入力してください。

---

**DBI1358W　DB2 Query Patroller プロファイル・ファイルを変更できませんでした。**

**説明:**

dqpprofile ファイルか dqpcshrc ファイルのいずれか、またはその両方を更新しようとしましたが、失敗しました。可能性のある原因は、以下のとおりです。

- これらのファイルがインスタンス・ホーム・ディレクトリーの下の sqllib ディレクトリーに存在しない。
- これらのファイルへの書き込み許可がない。
- /tmp ディレクトリーに一時ファイルを作成できなかった。

**ユーザーの処置:**
これらのファイルが存在しているか、またファイルの許可について調べます。 /tmp への書き込みが可能であることを確認してください。コマンドをもう一度発行してください。

---

**DBI1359E　DB2 Query Patroller サーバーをインスタンス *instance-name* から除去できません。**

**説明:**
DB2 Query Patroller サーバーを指定のインスタンスから除去しようとしましたが、失敗しました。

**ユーザーの処置:**
ファイル sqllib/cfg/dqplevel を手操作でインスタンス所有者のホーム・ディレクトリーから除去してください。また、ファイル default.env を編集して、DQPSERVER 行をこのファイルから除去します。 default.env は、現行の DB2 インストールのトップ・ディレクトリーの下にあります。

---

**DBI1360E　DB2 Query Patroller のセットアップを完了できません。**

**説明:**
DB2 Query Patroller サーバーをセットアップしようとしましたが、失敗しました。考えられる原因は、以下のとおりです。

- DB2 Query Patroller サーバーのデータベースを作成できなかった。
- 指定のノードにノード・グループを作成できなかった。
- ノード・グループに表スペースを作成できなかった。

**ユーザーの処置:**
データベースまたはノード・グループの作成が失敗した場合、これらを手操作で作成してコマンドを再実行してください。

表スペースの作成が失敗した場合は、指定したパスへの書き込み許可を持っていることを確認します。表スペースを手操作で作成してみてください。

---

**DBI1361E　DB2 Query Patroller サーバー・コードがインストールされていません。**

**説明:**
DB2 Query Patroller サーバー・コードがインストールされていないため、現行操作の完了が要求されました。

**ユーザーの処置:**
DB2 Query Patroller サーバー・コードをインストールして、コマンドを再試行してください。

---

**DBI1362W　IWM スキーマ・オブジェクトが検出されました。**

**説明:**
DB2 が IWM スキーマ・オブジェクトを検出しましたが、これは以前の IWM のインストールによって作成された可能性があります。

**ユーザーの処置:**
既存の IWM スキーマ・オブジェクトを保持したい場合、何もする必要はありません。既存のオブジェクトを除去して新しいオブジェクトを再作成したい場合は、dqpsetup コマンドを -o フラグ付きで再発行してください。

---

**DBI1363E　IWM スキーマ・オブジェクトを作成できませんでした。**

**説明:**
IWM スキーマ・オブジェクトを作成しようとしましたが、失敗しました。

**ユーザーの処置:**
ファイル db2_qp_schema および iwm_schema.sql が両方ともディレクトリー /usr/opt/db2_08_xx/bin にあることを確認します。ここで xx は 01 または FPn、ここで n はフィックスパック番号です。

両方のファイルが存在する場合、 IWM スキーマ作成プロシージャーの出力が /tmp/iwmschcr.log にあります。エラーを訂正して、dqpsetup コマンドを再実行してください。

---

**DBI1364E　前の DB2 Query Patroller スキーマ・オブジェクトが存在しません。**

**説明:**
マイグレーションすべき前の DB2 Query Patroller スキーマ・オブジェクトが存在しません。

**ユーザーの処置:**
正しい構文で dqpsetup を再実行してください。 正しい構文を調べるには 'dqpsetup -h' を使用してください。

**DBI1365E　ノード番号が定義されていません。**

**説明:**
ノード番号が db2nodes.cfg に定義されていません。

**ユーザーの処置:**
db2nodes.cfg ファイルを調べて、必要な項目が存在することを確認します。 db2nodes.cfg ファイルに記録されているものと正確に同じノード番号を使用して、コマンドを再入力してください。

**DBI1366E　コンテナー *sms-path* はすでに使用中です。**

**説明:**
表スペースのコンテナーとして指定されたディレクトリーはすでに存在します。

**ユーザーの処置:**
表スペースのコンテナーに別のパスを使用して、コマンドを再実行してください。

**DBI1367E　*bind-list* にリストされているファイルをバインドできませんでした。**

**説明:**
指定のファイルにリストされたバインド・ファイルのバインドで問題が発生しました。

**ユーザーの処置:**
バインドを手操作で行ってください。

**DBI1368E　DQP データベース *db2dbdft* に接続できませんでした。**

**説明:**
このデータベースは存在しないと思われます。

**ユーザーの処置:**
dqpsetup に必要なパラメーターをすべて使用して、新しい DQP インスタンスをセットアップするよう指定してください。 このインスタンスをマイグレーションすることはできません。

**DBI1370W　ユーザー *inst-name* の .profile あるいは .login ファイルの修正はできません。**

**説明:**
DB2 は、このユーザーの .profile ファイルまたは .login ファイルを修正することができません。 これらのファイルが存在しないか、または書き込み許可がない可能性があります。変更を行わないと、DB2 Query Patroller を使用するためにこのユーザーでログインするたびに、手操作で環境を設定しなければなりません。

**ユーザーの処置:**
DB2 環境を自動的に設定する方法に関する詳細については、「概説およびインストール」をご覧ください。

**DBI1371E　Query Patroller サーバーをセットアップするための引数が見つかりません。**

**説明:**
DB2 Query Patroller サーバーがインストールされている場合、Query Patroller インスタンスをサーバーとしてセットアップする必要があります。 そのため、以下の引数を与えなければなりません。

1. ノード・グループ
2. ノード番号
3. データベース名
4. 表スペース
5. 結果表スペース。
6. 表スペース・パス

オプション:
DMS 表スペース・サイズ。

**ユーザーの処置:**
応答ファイルに必須またはオプション引数、あるいは両方の引数を指定してください。

**DBI1372E　Query Patroller サーバー・インスタンスをセットアップできません。**

**説明:**
Query Patroller サーバー・インスタンスをセットアップするには、DB2 Query Patroller サーバーがインストールされていなければなりません。

**ユーザーの処置:**

- DB2 Query Patroller サーバーをインストールしてください。
- Query Patroller エージェントをセットアップしたい場合、ノード・グループ、ノード番号、データベース名、表スペース、結果表スペース、表スペース・パス、および DMS 表スペース・サイズの引数を取り除いてください。

**DBI1373E　新しい ESE インスタンスの作成中は、Query Patroller サーバー・インスタンスをセットアップできません。**

**ユーザーの処置:**
ESE インスタンスを作成し、別々のステップでインスタンスを Query Patroller サーバーとしてセットアップしてください。

**DBI1375E　ESE をインストールせずに、Query Patroller インスタンスをセットアップすることはできません。**

**ユーザーの処置:**

ESE と DB2 Query Patroller エージェント/サーバーをインストールしてください。

**DBI1376E　Query Patroller インスタンスをセットアップするには、IWM ユーザーのサービス名およびポート番号を与える必要があります。**

**ユーザーの処置:**

- Query Patroller インスタンスをセットアップしたい場合、IWM ユーザーのサービス名およびポート番号を入力してください。
- Query Patroller インスタンスをセットアップしたくない場合、ノード・グループ、ノード番号、データベース名、表スペース、結果表スペース、表スペース・パス、および DMS 表スペース・サイズの指定を応答ファイルから取り除いてください。

**DBI1377N　db2isetup は、ご使用のコンピューターで適切な Java ランタイム環境を見つけられませんでした。 Java ランタイム環境 *jre-version* が存在する場合は、JAVA_HOME 環境変数を設定して、再度コマンドの実行を試行してください。それ以外の場合は、DB2 のインストールの手引きで、ご使用のオペレーティング・システムに対して推奨されている Java 環境に関する情報を確認してください。**

**DBI1378N　db2setup は、ご使用のコンピューターで適切な Java ランタイム環境を見つけられませんでした。 Java ランタイム環境 *jre-version* が存在する場合は、JAVA_HOME 環境変数を設定して、再度コマンドの実行を試行してください。それ以外の場合は、DB2 のインストールの手引きで、ご使用のオペレーティング・システムに対して推奨されている Java 環境に関する情報を確認してください。 適切な Java ランタイム環境が得られない場合は、doc_install スクリプトを使用するコマンドからインストールすることができます。 このスクリプトの使用方法を表示するには、パラメーターを指定せずにこのスクリプトを実行してください。**

**DBI1400N　db2licm コマンドの構文に誤りがあります。**

**説明:**

コントロール・センターがない場合には、db2licm ツールが基本ライセンス機能を実行します。これで、ローカル・システムにインストールされたライセンスが追加、除去、リスト、および変更されます。 -l パラメーターを指定して db2licm ツールを実行することにより、ご使用の製品の製品 ID を調べてください。

```
db2licm [-a filename]
        [-e product-identifier HARD | SOFT]
        [-p product-identifier
        REGISTERED | CONCURRENT | OFF]
        [-r product-identifier]
        [-u product-identifier num-users]
        [-c product-identifier num-connectors]
        [-l]
        [-v]
        [-?]
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

**-a**　製品のライセンスを追加します。有効なライセンス情報の入ったファイル名を指定します。これはライセンス製品 CD に収められていますが、お持ちでない場合は、 IBM 担当員または販売代理店に連絡してください。

**-e**　システムの制約ポリシーを更新します。有効な値は HARD および SOFT です。HARD は非ライセンス要求が許可されないことを指定します。 SOFT は非ライセンス要求が制限なしでログに記録されることを指定します。

**-p**　システムで使用するライセンス・ポリシー・タイプを更新します。キーワード CONCURRENT、REGISTERED、または CONCURRENT REGISTERED を指定できます。「OFF」を指定して、すべてのポリシーをオフにします。

**-r**　製品のライセンスを除去します。ライセンスが除去された後は、製品は「試用版」モードで機能します。特定の製品のパスワードを取得するには、-l オプション付きでコマンドを呼び出します。

**-u**　購入したユーザー・ライセンス数を更新します。ライセンスを購入した製品のパスワード、およびユーザーの数を指定してください。

**-c**　購入したコネクター・ライセンス数を更新します。ライセンスを購入した製品のパスワードとコネクターの数を指定してください。

**-l** 使用できるライセンス情報 (製品 ID を含む) と共に、すべての製品を一覧で示します。

**-v** バージョン情報を表示します。

**-?** ヘルプ情報を表示します。このオプションが指定されると、その他のすべてのオプションが無視され、ヘルプ情報のみが表示されます。

**ユーザーの処置:**
有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

---

**DBI1401I コマンド行 DB2 ライセンス・マネージャー**

**説明:**
コントロール・センターがない場合には、db2licm ツールが基本ライセンス機能を実行します。これで、ローカル・システムにインストールされたライセンスが追加、除去、リスト、および変更されます。

使用している製品の製品 ID を調べるには、 db2licm -l コマンドを使用します。

```
db2licm [-a filename]
        [-e product-identifier HARD | SOFT]
        [-p product-identifier
        REGISTERED | CONCURRENT | OFF]
        [-r product-identifier]
        [-u product-identifier num-users]
        [-c product-identifier num-connectors]
        [-l]
        [-v]
        [-?]
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

**-a** 製品のライセンスを追加します。有効なライセンス情報の入ったファイル名を指定します。これはライセンス製品 CD に収められていますが、お持ちでない場合は、 IBM 担当員または販売代理店に連絡してください。

**-e** システムの制約ポリシーを更新します。有効な値は HARD および SOFT です。HARD は非ライセンス要求が許可されないことを指定します。 SOFT は非ライセンス要求が制限なしでログに記録されることを指定します。

**-p** システムで使用するライセンス・ポリシー・タイプを更新します。キーワード CONCURRENT、REGISTERED、または CONCURRENT REGISTERED を指定できます。「OFF」を指定して、すべてのポリシーをオフにします。

**-r** 製品のライセンスを除去します。ライセンスが除去された後は、製品は「試用版」モードで機能します。

**-u** 購入したユーザー・ライセンス数を更新します。ライセンスを購入した製品のパスワード、およびユーザーの数を指定してください。

**-c** 購入したコネクター・ライセンス数を更新します。ライセンスを購入した製品のパスワードとコネクターの数を指定してください。

**-l** 使用できるライセンス情報 (製品 ID を含む) と共に、すべての製品を一覧で示します。

**-v** バージョン情報を表示します。

**-?** ヘルプ情報を表示します。このオプションが指定されると、その他のすべてのオプションが無視され、ヘルプ情報のみが表示されます。

---

**DBI1402I ライセンスが正常に追加されました。**

---

**DBI1403I ライセンスが正常に除去されました。**

---

**DBI1404N 製品 ID が見つかりません。**

**説明:**
指定された ID が無効であるか、またはこの製品のライセンスが nodelock ファイル中に見つかりませんでした。

**ユーザーの処置:**
-l オプションを指定してこのコマンドを発行し、入力された ID がこのアクションの対象となる製品にとって正しい製品 ID であるかどうかを確認してください。
nodelock パスワードを使用している場合は、この製品のライセンス・キーが nodelock ファイルにインストールされているかチェックしてください。

---

**DBI1405I ライセンス・ポリシー・タイプが正常に更新されました。**

---

**DBI1406N 無効なライセンス・ポリシー・タイプです。**

**説明:**
入力されたライセンス・ポリシー・タイプが、指定された製品には無効でした。

**ユーザーの処置:**
有効なライセンス・ポリシーを入力してください。オプションは、以下のとおりです。

- CONCURRENT
- REGISTERED

- CONCURRENT REGISTERED
- オフ

---

**DBI1407N　無効なライセンス証明書ファイルです。**

**説明:**
ライセンス証明書ファイルが正しいフォーマットではありません。

**ユーザーの処置:**
正しいライセンス証明書フォーマットを持つファイルの名前を入力してください。

---

**DBI1408N　ファイル *file-name* をオープンできませんでした。**

**説明:**
ファイルが見つからないか、またはファイルへのアクセスが拒否されました。

**ユーザーの処置:**
存在していて、オープン可能なファイルの名前を入力し、コマンドを再試行してください。

---

**DBI1409N　無効な制約ポリシー・タイプです。**

**説明:**
指定された制約ポリシー・タイプはこの製品には無効です。

**ユーザーの処置:**
指定の製品がサポートする有効な制約ポリシー・タイプを入力してください。

---

**DBI1410I　並行ライセンスが正常に更新されました。**

---

**DBI1411I　制約ポリシー・タイプが正常に更新されました。**

---

**DBI1412W　ハード・ストップ制約ポリシーは、ライセンス交付数を超えたときに非ライセンス・ユーザーによる製品の使用を停止します。**

---

**DBI1413W　ソフト・ストップ制約ポリシーは、ライセンス違反をログに記録しますが、非ライセンス・ユーザーによる製品の使用を許可します。**

---

**DBI1416N　ライセンスを自動的に nodelock ファイルに追加できませんでした。**

**説明:**
戻りコードは“<return-code>”です。

**ユーザーの処置:**
ライセンス証明書が読み取り可能であることを確認してください。 また、手操作でライセンスを nodelock ファイルに入力することもできます。 指示については、ライセンス・ファイルを参照してください。

---

**DBI1417N　指定されたライセンスを nodelock ファイルから除去できません。**

**説明:**
戻りコードは“<return-code>”です。

**ユーザーの処置:**
この製品のライセンスが nodelock ファイルに存在することを確認してください。

---

**DBI1418I　このマシンでライセンスされたプロセッサー数が正しく更新されました。**

---

**DBI1419N　ライセンス・プロセッサー数を更新しようとしてエラーが発生しました。**

**説明:**
戻りコードは“<return-code>”です。

---

**DBI1420N　この製品は、このライセンス・ポリシーのタイプをサポートしていません。**

**説明:**
指定されたライセンス・ポリシーはこの製品に適用されないか、またはサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
有効なライセンス・ポリシーを入力してください。

---

**DBI1421N　指定された製品は、このシステムにインストールされていません。**

**説明:**
製品がインストールされるまで、この製品のライセンス・ポリシーを構成することはできません。

**ユーザーの処置:**
製品をインストールしてからコマンドを実行するか、または正しい製品 ID を指定してください。システムにインストールされている製品をリストするには、db2licm -l コマンドを使用してください。

---

**DBI1422N　並行ライセンス数は更新されませんでした。**

**説明:**
戻りコードは“<return-code>”です。

**ユーザーの処置:**

この製品で並行ポリシーが可能であることを確認してください。

**DBI1423N　このオプションには、インスタンスの作成が必要です。**

**説明:**
このアクションを行うために必要な機能は、インスタンスの作成後にアクセス可能になります。

**ユーザーの処置:**
インスタンスを作成し、このコマンドを出し直してください。

**DBI1424N　プロセッサー情報にアクセスしているときに、予期しないエラーが発生しました。**

**説明:**
戻りコードは“<return-code>”です。

**ユーザーの処置:**
ありません。

**DBI1425E　DB2 OLAP Server のライセンスを更新することはできません。 DB2 OLAP 処理は、現在アクティブになっています。**

**説明:**
DB2 は、DB2 OLAP Server の実行中は DB2 OLAP Server のライセンスを更新できません。

**ユーザーの処置:**
OLAP ライセンスを更新するには、 OLAP 処理をすべて停止してからこの DB2 ライセンスを再インストールしてください。

**DBI1426I　この製品は現在、この製品のライセンス・コピーに付属するご使用条件の指定に基づいてご使用いただくことができます。 この製品をご使用いただくには、次のディレクトリーにある IBM ご使用条件への同意が必要です:** *dir-name*

**DBI1427I　この製品は現在、この製品の評価版 (「試用版」) に付属するご使用条件の指定に基づいてご使用いただくことができます。 この製品をご使用いただくには、次のディレクトリーにある IBM ご使用条件への同意が必要です:** *dir-name*

**DBI1428N　ライセンス・プロセッサー数を更新しようとしてエラーが発生しました。**

**説明:**
入力されたライセンス・プロセッサーの数が、この製品で許可されているライセンス・プロセッサーの最大数を超えています。

**ユーザーの処置:**
定義されている最大数を超えないライセンス・プロセッサーの数を入力してください。 ご使用のシステムのプロセッサーの数がこの製品に対して許可されているプロセッサーの最大数を超える場合は、IBM 担当員または許可されている販売業者にご連絡ください。

**DBI1429N　この製品は、このライセンス・ポリシーの組み合わせをサポートしていません。**

**ユーザーの処置:**
有効なライセンス・ポリシーの組み合わせを入力してください。 たとえば、有効な組み合わせとして ″CONCURRENT REGISTERED″ を指定できます。

**DBI1430N　ライセンス日付がオペレーティング・システムの日付よりも後であるため、ライセンスを nodelock ファイルに追加できませんでした。**

**ユーザーの処置:**
証明書ファイルをチェックして、ライセンスの開始日が現在日付 (オペレーティング・システムに設定されている日付) よりも前であることを確認してください。

**DBI1431N　このユーザーは、指定されたアクションを実行するための適切な権限を持っていません。**

**説明:**
このプログラムは、root ユーザー ID または SYSADM 権限を持つユーザー ID でしか実行できません。

**ユーザーの処置:**
このコマンドを実行するのに適切な許可を持つユーザー ID を使ってログインしてください。

**DBI1432N　ライセンスを nodelock ファイルに追加できませんでした。**

**説明:**
この製品は、最大数の評価ライセンスを使用しています。評価ライセンスの最大数は *lic-number* です。

**ユーザーの処置:**
永続ライセンス・キーを指定してこのコマンドをもう一度実行してください。

**DBI1433N　ライセンス数は更新されませんでした。**

**説明:**
指定したライセンス数は有効範囲内にありません。

**ユーザーの処置:**
有効なライセンス数を使ってこのコマンドをもう一度実行してください。

---

**DBI1434N　DB2 によって nodelock ファイルにライセンス項目が追加されましたが、そのライセンス項目はアクティブではありません。**

**説明:**
DB2 はこのライセンス項目をアクティブにできなかったため、このライセンスがアクティブになるまでの間、DB2 は前のライセンス構成で実行されます。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再試行しても引き続き失敗する場合は、手動で nodelock ファイルを編集するか、または IBM サポートに連絡してください。

nodelock ファイルを手動で編集する場合は、新しいライセンス項目をライセンス項目リストの先頭に移動してください。

nodelock ファイルのロケーションは、プラットフォームごとに以下のとおりです。

**AIX**　/var/ifor/nodelock

**Windows**
$DB2PATH/license/nodelock

**その他のすべてのオペレーティング・システム:**
/var/lum/nodelock

ライセンスについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

---

**DBI1435E　DB2 の「ファースト・ステップ」をオープンしているときに、エラーが発生しました。サポートされる Web ブラウザーが見つかりません。**

**説明:**
DB2 の「ファースト・ステップ」にはサポートされる Web ブラウザーが必要です。

**ユーザーの処置:**
以下のいずれかの Web ブラウザーをインストールします。

- Internet Explorer 5.5 以上
- Mozilla 1.4 以上
- Firefox 1.0 以上
- Netscape 7.0 以上

Windows オペレーティング・システムを使用する場合は、デフォルト・ブラウザーを上記のリストから選択したブラウザーに設定してください。

---

**DBI1500I　使用法:**
**db2inst [-f** *response-file***]**

**説明:**
間違った引数が入力されました。 コマンドは、「DB2 インストーラー」応答ファイルのパスの前にオプションのフラグ -f を受け入れます。

**ユーザーの処置:**
有効な引数を指定して、コマンドを再入力してください。

---

**DBI1501E　内部エラーが発生しました。**

**説明:**
内部処理を実行中にエラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
ファイルが置かれているファイル・システムが損傷していないか調べてください。 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 内部エラー・メッセージの説明
3. 問題の説明

---

**DBI1502E　ファイル** *file-name* **のオープンあるいは読み取り中にエラーが発生しました。**

**説明:**
ファイルのオープンあるいは読み取り中にエラーが発生しました。次のエラーのいずれかが発生していると考えられます。

- ファイルのオープンあるいは読み取りで入出力エラーが発生した。
- 予定の値がファイルに見つからない。
- ファイル内のデータの順序が誤っている。

**ユーザーの処置:**
ファイルがユーザーによって修正されている場合、ファイル内のデータが有効かどうか調べてください。 ファイルがユーザーによって修正されていない場合、次の情報を IBM サポート担当者に連絡してください。

1. メッセージ番号
2. メッセージの説明
3. 問題の説明

**DBI1503E　ファイル *file-name* のオープンあるいは書き込み中にエラーが発生しました。**

**説明:**
データのファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。次のエラーのいずれかが発生していると考えられます。

- 与えられたディレクトリーに誤ったアクセス許可がある。
- ファイル・システムに十分なフリー・スペースがない。

**ユーザーの処置:**
ファイルの親ディレクトリーの許可が正しく設定されているかチェックしてください。 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. メッセージの説明
3. 問題の説明

---

**DBI1504E　メッセージ・ファイルのオープンでエラーが発生しました。**

**説明:**
“DB2 インストーラー”メッセージ・カタログ・ファイルのオープンおよび読み取りをしようとして失敗しました。 DB2 インストーラーを始動する前に、以下のロケーションで db2inst.rcx および db2inst.cat の 2 つのリソース・ファイルを検索します。

- DB2 製品ディレクトリー、または
- 分散メディア、または
- 環境変数 DB2IRCX および DB2ICAT

**ユーザーの処置:**
環境変数 DB2IRCX と DB2ICAT を db2inst.rcx と db2inst.cat の絶対ロケーションに設定してください。

---

**DBI1505E　メモリーを割り振ろうとして失敗しました。**

**説明:**
メモリーを割り振ろうとして、エラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
システム上で実行中の他のアプリケーションで、メモリーを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. メッセージの説明
3. 問題の説明

---

**DBI1507E　DB2 インストーラーのインスタンスはすでに開始しています。**

**説明:**
DB2 インストーラーを開始しようとして、エラーを検出しました。 DB2 インストーラーの別のインスタンスがまだ実行中です。

**ユーザーの処置:**
DB2 インストーラーのすべてのインスタンスを終了して、インストール処理を再始動してください。問題が解決しない場合、ロック・ファイル /tmp/.db2inst.lck を除去してから、DB2 インストーラーを再始動してください。

---

**DBI1511E　SA MP Base Component のインストールが失敗しました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file-name* を参照してください。 (TSAMP_RC=*TSAMP_RC*)。**

**説明:**
DB2 インストーラーは installSAM ユーティリティーを使用して、 IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) をインストールします。 installSAM ユーティリティーからエラーが戻されました。 installSAM ログ・ファイルに、さらに詳しい情報が含まれています。

TSAMP_RC は installSAM ユーティリティーからの戻りコードです。

DB2 インストーラーを使用して SA MP Base Component をインストールするためには、root 権限が必要なことに注意してください。

SA MP Base Component は、インストールされませんでした。

**ユーザーの処置:**
詳細は、示されているログ・ファイルを参照してください。

SA MP Base Component を手動でインストールするには、installSAM コマンドを使用します。

installSAM ユーティリティーについての詳細は、http://publib.boulder.ibm.com/tividd/td/IBMTivoliSystemAutomationforMultiplatforms2.2.html を参照してください。

---

**DBI1513E　SA MP Base Component のアンインストールに失敗しました。詳しくは、ログ・ファイル *log-file-name* を参照してください。(TSAMP_RC=*TSAMP_RC*)。**

**説明:**
db2_deinstall は uninstallSAM ユーティリティーを使用して、IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) をアンインストールします。 uninstallSAM ユーティリティーは、エラーを戻しました。 uninstallSAM ログ・ファイルに、さらに詳しい情報が含まれています。

TSAMP_RC は、uninstallSAM ユーティリティーからの戻りコードです。

db2_deinstall を使用して SA MP Base Component をアンインストールするためには、 root 権限が必要なことに注意してください。

SA MP Base Component はアンインストールされませんでした。

**ユーザーの処置:**
詳細は、示されているログ・ファイルを参照してください。

SA MP Base Component を手動でアンインストールするには、uninstallSAM コマンドを使用します。

uninstallSAM ユーティリティーについての詳細は、http://publib.boulder.ibm.com/tividd/td/IBMTivoliSystemAutomationforMultiplatforms2.2.html を参照してください。

---

**DBI1514I　SA MP Base Component 用の DB2 HA スクリプトは、正常にインストールされました。**

**説明:**
IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。

これらの DB2 HA スクリプトは /usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 にあります。 DB2 インストーラーは、これらの DB2 HA スクリプトをインストールする必要があるか、それとも更新する必要があるかを検出します。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBI1515E　サブプロセスに対するリソースを割り振ろうとして失敗しました。**

**説明:**
サブプロセスを開始しようとして、エラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
システム上で実行中の他のアプリケーションで、リソースを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題の説明

---

**DBI1516E　サブプロセスを終了しようとして失敗しました。**

**説明:**
サブプロセスを終了しようとして、エラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
システム上で実行中の他のアプリケーションで、リソースを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題の説明

---

**DBI1517E　サブプロセスでコマンドを実行しようとして失敗しました。**

**説明:**
サブプロセスでコマンドを実行しようとして、エラーを検出しました。以下の問題のいずれかが発生しました。

- コマンドが存在しない。
- コマンド検索パスが不完全である。
- コマンドに誤ったアクセス許可がある。
- システム・リソースに問題がある。

**ユーザーの処置:**
問題を訂正して再度試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題の説明

---

**DBI1518E　DB2 インストーラーは、SA MP Base Component 用の DB2 HA スクリプトをインストール中または更新中にエラーを戻しました。**

**説明:**
IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、DB2 HA スクリプトが必要です。

これらの DB2 HA スクリプトは /usr/sbin/rsct/sapolicies/db2 にあります。 DB2 インストーラーは、これらの DB2 HA スクリプトをインストールする必要があるか、それとも更新する必要があるかを検出します。

DB2 インストーラーは DB2 HA スクリプトのインストールまたは更新を試行しましたが、成功しませんでした。

**ユーザーの処置:**
コマンド db2cptsa を使用して、これらのスクリプトを手動でインストールまたは更新してください。

**DBI1520E　端末表示の最小サイズは 24 x 80 です。**

**説明:**
現在の端末またはウィンドウ・サイズが十分な大きさではありません。 このプログラムでは最低 24 行 80 列の端末表示が必要です。

**ユーザーの処置:**
端末またはウィンドウ・サイズをチェックして再試行してください。

**DBI1521E　端末機能情報の読み取りに失敗しました。**

**説明:**
端末表示の初期化をしようとして、エラーを検出しました。このエラー・タイプが発生する場合は、次の 2 つが考えられます。

- この関数が、環境変数 TERM を検出できないか、あるいは端末についての正しい terminfo データベース項目を検出できないかのいずれかである。
- 端末表示を初期化中に使用できるメモリー・スペースが十分にない。

**ユーザーの処置:**
環境変数 TERM を正しい端末タイプに設定してください。 問題が解決しない場合には、システム上で実行中の他のアプリケーションで、メモリーを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。 それでも問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題の説明

**DBI1522E　端末機能情報のリストアに失敗しました。**

**説明:**
端末表示を元の状態にリストアしようとして、エラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
環境変数 TERM を正しい端末タイプに設定してください。 問題が解決しない場合には、システム上で実行中の他のアプリケーションで、メモリーを大量に使用している可能性のあるものを終了してください。 それでも問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題の説明

**DBI1530E　イメージ・ファイルをアンパックできません。**

**説明:**
分散メディアから tar イメージをアンパック中にエラーが発生しました。以下の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられたパス名が存在していないディレクトリーである。
- ファイル・システムに十分なスペースがない。
- 与えられたパスのアクセス許可が誤っている。
- tar コマンドが現行検索パスで見つからない。

**ユーザーの処置:**
インストール処理を再始動して、正しいパス名で再試行してください。

**DBI1540E　無効な分散メディア・パスが指定されました。**

**説明:**
分散メディア上でインストール可能イメージを見つけようとしてエラーを検出しました。 次のエラーのいずれかが発生していると考えられます。

- 指定されたパスと関連付けられたファイル・システムが正しくマウントされていない。
- 指定されたパスに誤ったアクセス許可が割り当てられている。

**ユーザーの処置:**
パスをチェックしてコマンドを再試行してください。 UNIX のどのファイルおよびディレクトリーの名前でも、大/小文字の区別があります。

**DBI1541E　与えられた状況ファイルからのオープンまたは読み取りに失敗しました。**

**説明:**
状況ファイルからのオープンまたは読み取りを行おうとしてエラーを検出しました。状況ファイルを手動で修正していない場合、以下のいずれかのエラーが発生しました。

- 誤ったファイル・パスが指定された。
- 誤ったアクセス許可が、状況ファイルに割り当てられている。
- 指定されたパスと関連付けられたファイル・システムが正しくマウントされていない。

**ユーザーの処置:**
パスをチェックしてコマンドを再試行してください。UNIX のどのファイルおよびディレクトリーの名前でも、大/小文字の区別があります。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

1. メッセージ番号
2. 問題の説明
3. 状況ファイル

---

**DBI1550E　ファイル・システムに十分なディスク・スペースがありません。**

**説明:**
ファイル・システムにもっと多くのディスク・スペースを割り振ろうとしてエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
十分なスペースが指定の処理のために用意されてから、コマンドを再試行してください。

---

**DBI1570I　使用法:**
**db2olset InstName**

**説明:**
間違った引数が db2olset コマンドに入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h|-?**　使用情報を表示する

**-d**　デバッグ・モードをオンにする

**InstName**
OLAP スターター・キットで使用できるようセットアップしたいインスタンスの名前

**ユーザーの処置:**
次のようにコマンドを入力し直してください。
db2olset InstName

---

**DBI1631E　サンプル・データベースを作成中にエラーが発生しました。**

**説明:**
以下の状態のいずれかが発生しました。

- ファイル・システムに十分なディスク・スペースがありません。
- DB2 製品が正しくインストールされていないか、あるいはコンポーネント・ファイルの一部が欠落している。

**ユーザーの処置:**
ディスク・スペースの問題ではない場合、製品の再インストールを行います。問題が解決しない場合、トレースをオンにして CLP を介してデータベースを作成するステップを再試行してください。次に、ファイルにトレース情報を保管して、IBM サポート担当者に次の情報を伝えてください。

- メッセージ番号
- 問題の説明
- トレース・ファイル

---

**DBI1632E　「自動開始」インスタンスの構成中にエラーが発生しました。**

**説明:**
以下の状態のいずれかが発生しました。

- インスタンスを「自動開始」する機能がすでに有効である。
- “/etc/inittab”ファイルに入力を追加しようとして、エラーが発生した。これはファイル許可の問題である場合があります。
- db2uit ツールがない。

**ユーザーの処置:**
上記 3 つのいずれかの状態に当てはまる場合、問題を訂正してコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

- メッセージ番号
- 問題の説明

---

**DBI1633E　インスタンスを「自動開始」する構成を削除中にエラーが発生しました。**

**説明:**
以下の状態のいずれかが発生しました。

- インスタンスを「自動開始」する機能が使用できない。

- “/etc/inittab”ファイルの入力を削除しようとして、エラーが発生した。これはファイル許可の問題である場合があります。
- db2uit ツールがない。

**ユーザーの処置:**
上記 3 つのいずれかの状態に当てはまる場合、問題を訂正してコマンドを再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡して次の情報を伝えてください。

- メッセージ番号
- 問題の説明

---

**DBI1634W /etc/rc.db2v08 を更新して、dlfs ファイル・システムを自動マウントすることができません。**

**説明:**
/etc/rc.db2v08 を更新して、システム・リブート時に dlfs ファイル・システムの自動マウントを可能にしようとしましたが、失敗しました。

**ユーザーの処置:**
ファイル /etc/rc.db2v08 を手操作で編集し、次の行を追加してください。

```
if [ -x /etc/rc.dlfs ]; then
      /etc/rc.dlfs
fi
```

---

**DBI1635E Administration Server グループ・リストに追加中に、エラーが発生しました。**

**説明:**
DB2 インスタンスを Administration Server グループ・リストに追加するときに、エラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
このコマンドを NIS クライアントで実行中の場合、DB2 インスタンスのグループ名をご使用の NIS サーバーの Administration Server の第 2 グループに追加してみてください。

---

**DBI1637W 「OK」をクリックすると、前のインスタンス設定は失われます。**

**ユーザーの処置:**
続行するには「OK」をクリックしてください。 取り消すには「キャンセル」をクリックしてください。

---

**DBI1639E 新規インスタンスをセットアップできません。**

**説明:**
与えられたインスタンス名は既存のインスタンスに属していません。

**ユーザーの処置:**

- 新しいインスタンスを作成してください。
  - 対話式インストーラーを使用している場合、インスタンス作成パネルで新しいインスタンスを作成するよう選択してください。
  - 応答ファイル・インストーラーを使用している場合、ユーザーについての追加情報を与えてください。
- 既存のインスタンスの名前を入力してください。

---

**DBI1640W 指定されたインスタンスはサーバー・インスタンスではありません。**

**説明:**
DB2 サーバー・インスタンスとして構成できるのは、DB2 コンポーネントの一部だけです。

**ユーザーの処置:**

- 指定されたインスタンスがクライアント・インスタンスで、DB2 サーバー製品がインストールされている場合、db2iupdt を実行してクライアント・インスタンスをサーバー・インスタンスに更新してください。
- 指定されたインスタンスがデータ・リンク Administration Server である場合、インストーラーを終了し、必要であれば、インスタンスをコマンド行でセットアップしてください。

---

**DBI1651E 指定の UID は無効です。**

**説明:**
無効な UID が入力されています。以下の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられた UID はシステム上の既存のユーザーにすでに割り当てられている。
- 与えられた UID が大きすぎるか、あるいは無効文字が入っている。
- 与えられた UID が 100 より小さいか等しい。

**ユーザーの処置:**
別のユーザー ID で再試行してください。

---

**DBI1652E 指定のユーザー名が無効です。**

**説明:**
無効な名前が入力されました。以下の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられたユーザー名がシステムにすでに存在している。

- 与えられたユーザー名がシステムにすでに存在しているが別のグループ名に属している。
- 与えられたユーザー名が大きすぎるか、あるいは無効文字が入っている。

**ユーザーの処置:**
別のユーザー名で再試行してください。

---

**DBI1653E　指定のグループが無効です。**

**説明:**
無効なグループ ID あるいはグループ名が入力されています。以下の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられたグループ ID がすでに存在しているがシステムの別のグループ名に属しているか、あるいは与えられたグループ名がすでに存在しているが別のグループ ID に属している。
- 与えられたグループ ID あるいはグループ名が大きすぎるか、あるいは無効文字が入っている。
- 与えられたグループ ID が 100 より小さいか等しい。

**ユーザーの処置:**
別のグループ ID あるいはグループ名で、再試行してください。

---

**DBI1654E　指定したディレクトリーが無効です。**

**説明:**
無効なディレクトリーが入力されています。以下の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられたユーザーはすでに存在するがシステム上に別のホーム・ディレクトリーを指定している。
- 与えられたディレクトリーが大きすぎるか、あるいは無効文字が入っている。

**ユーザーの処置:**
システム上で指定されたユーザーのホーム・ディレクトリーあるいは別のディレクトリーを指定して再試行してください。

---

**DBI1655E　指定されたパスワードが無効です。**

**説明:**
無効なパスワードが入力されています。以下の状態のいずれかが発生しました。

- 与えられたパスワードの長さがゼロである。
- 与えられたパスワードが確認パスワードと一致しない。
- 与えられたパスワードに無効文字が入っている。

**ユーザーの処置:**
別のパスワードで再試行してください。

---

**DBI1657E　インスタンス名はすでに使用されています。**

**説明:**
同じ名前を持つインスタンスがすでにシステムに存在します。

**ユーザーの処置:**
“db2ilist”コマンドによって報告されたインスタンスのリストで確認してください。別のユーザー名で再試行してください。

---

**DBI1701E　指定された 1 つ以上の TCP/IP パラメーターが無効です。**

**説明:**
以下の状態のいずれかが発生しました。

- サービス名の長さが 14 文字を超えています。
- 指定されたポート番号は範囲外にあります。この番号は 1024 から 65535 の間の数値にしてください。

**ユーザーの処置:**
問題を訂正して再度試行してください。

---

**DBI1702E　指定されたサービス名あるいはポート番号は TCP/IP サービス・ファイルに存在する値と競合します。**

**説明:**
サービス名あるいはポート番号はサービス・ファイルに存在する値と競合します。サービス名は別のポート番号ですでに使用されている可能性があるか、あるいはポート番号が別のサービス名ですでに使用されている可能性があります。

**ユーザーの処置:**
サービス・ファイルにすでにある項目と競合しないサービス名およびポート番号を指定してください。

---

**DBI1703E　有効なサービス名あるいはポート番号が見つかりません。**

**説明:**
このインスタンスの有効なサービス名あるいはポート番号が TCP/IP サービス・ファイルに見つかりません。この情報は存在しないか、または無効かのいずれかです。

“DB2 Extended Server Edition”製品をインストールした場合、このコマンドの使用前に、インスタンスのサービス名を指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
このインスタンスの有効なサービス名およびポート番号を指定して、このコマンドを再入力してください。

**DBI1704W TCP/IP はシステムで実行されていません。**

**説明:**
TCP/IP はシステムで実行されていません。 TCP/IP サービス・ファイルは更新されません。

**DBI1705E 指定されたポート番号 *port-number* は、別のアプリケーションによって使用されています。**

**説明:**
指定されたポート番号は、現在実行中の別のアプリケーションによって使用されているために、使用できません。

**ユーザーの処置:**
使用されていない別のポート番号を指定してください。 ポート番号の範囲は、1024 から 65535 でなければなりません。

**DBI1709E TCP/IP サービス・ファイルを更新中にエラーが発生しました。**

**説明:**
サービス名およびポート番号の TCP/IP サービス・ファイルへの追加の試行に失敗しました。

**ユーザーの処置:**
ユーザーがノード・ディレクトリー項目のポート番号ではなく、サービス名を使用したい場合、ノードを手動でアンカタログしてからこのサービス名を使用して再度カタログしてください。 サービス・ファイルも手操作で更新してください。 ネットワーク情報サービス (NIS) が使用されている場合、ローカル・サービス・ファイルを更新する可能性がありますが、NIS サーバーは手操作で更新してください。 この場合、ノードもポート番号を使用してカタログされました。

**DBI1711E 指定された 1 つ以上の IPX/SPX パラメーターが無効です。**

**説明:**
以下の状態のいずれかが発生しました。

- fileserver、objectname、あるいは ipx_socket パラメーターが Null である。
- fileserver サーバー・パラメーターが * に設定されているが objectname は * に設定されていない。
- 指定された objectname あるいは ipx_socket 値がユニークでない。
- 指定された ipx_socket 値が有効範囲にない。

**ユーザーの処置:**
問題を訂正して再度試行してください。

**DBI1715E NetWare ユーザー ID または NetWare パスワードが無効です。**

**説明:**
指定する NetWare ユーザー ID および NetWare パスワードは既に存在していなければならず、NetWare ファイル・サーバーで DB2 オブジェクト名を登録するために使用されます。また、監視あるいはそれと同等の権限を持っている必要があります。

**ユーザーの処置:**
問題を訂正して再度試行してください。

**DBI1720E 指定されたユーザー ID あるいはグループ ID は NIS が実行中のため追加されません。**

**説明:**
NIS がシステムで実行中です。 新規ユーザー ID あるいはグループ ID は NIS がシステムで実行中の間は作成されません。

**ユーザーの処置:**
以前作成されたユーザー ID およびグループ ID を使用してください。

**DBI1722E 指定されたサービスは NIS が実行中のため /etc/services ファイルに追加されません。**

**説明:**
NIS がシステムで実行中です。 新規サービスは NIS がシステムで実行中の間は /etc/services ファイルに作成されません。

**ユーザーの処置:**
/etc/services ファイルの以前作成されたサービス名およびポート番号を使用して再試行してください。

**DBI1725W データウェアハウス・エージェント用のエージェント・デーモンおよびロガー・サービスを作成できません。**

**説明:**
TCP/IP はシステムで実行されていません。 インストールは続行されますが、エージェント・デーモンとロガー・サービスを手操作で作成する必要があります。

**ユーザーの処置:**
システムで TCP/IP を活動化し、インストーラーを実行してください。

**DBI1740W　セキュリティー・リスクです。**

**説明:**
ここでデフォルト・インスタンスのユーザー ID を使用すると、このインスタンスにシステム上の他のインスタンスに対するフル・アクセス権限許可が与えられます。セキュリティー上の理由から別のユーザー ID を使用することをお勧めします。

**ユーザーの処置:**
セキュリティー・リスクの可能性を回避するには、別のユーザー ID を使用してください。

**DBI1741W　プロトコルが検出されません。**

**説明:**
選択プロトコルが検出されません。 DB2 インストーラーはプロトコルで必要な設定のすべてを更新することはできません。ただし、このユーザーがこのプロトコルの設定値を提供することができます。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DBI1744W　DB2 Data Links Manager 管理者が作成されていません。**

**説明:**
DB2 Data Links Manager 管理者を作成していません。DB2 Data Links Manager 管理者を作成していないと、DB2 Data Links Manager を管理することができません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DBI1745W　Administration Server が作成されません。**

**説明:**
Administration Server を作成していません。Administration Server がなければ、DB2 データベースへの接続の構成を自動で行うクライアント・ツールをサポートするサービスを提供できず、サーバー・システムまたはコントロール・センターを使用してリモート・クライアントから DB2 を管理することができません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DBI1746W　DB2 インスタンスは作成されません。**

**説明:**
DB2 インスタンスを作成していません。 DB2 インスタンスはデータの保管およびアプリケーションの実行環境です。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DBI1747W　指定されたディレクトリーはすでに存在します。**

**説明:**
ホーム・ディレクトリー・フィールドで指定されたディレクトリーはすでに存在します。 このディレクトリーの使用を選択すると、許可上の問題が発生する可能性があります。

**ユーザーの処置:**
これが問題となる場合には、別のディレクトリーを選択してください。

**DBI1750W　セキュリティー・リスクです。**

**説明:**
ここでデフォルト・インスタンスのユーザー ID を使用すると、このインスタンスにシステム上の他のインスタンスに対するフル・アクセス権限許可が与えられます。セキュリティー上の理由から別のユーザー ID を使用することをお勧めします。

**ユーザーの処置:**
- 処理を継続する場合には「OK」を押してください。
- 「キャンセル」を押して別のユーザー ID を入力してください。

**DBI1751W　プロトコルが検出されません。**

**説明:**
選択プロトコルが検出されません。 DB2 インストーラーはプロトコルで必要な設定のすべてを更新することはできません。ただし、このユーザーがこのプロトコルの設定値を提供することができます。

**ユーザーの処置:**
- プロトコルの設定を提供するのであれば「OK」を押してください。
- 無視するのであれば「キャンセル」を押してください。

**DBI1753W　Administration Server が作成されません。**

**説明:**
Administration Server を作成していません。 DB2 Administration Server なしでは、データウェアハウス・エージェントは完全にセットアップされません。

**ユーザーの処置:**
- 処理を継続する場合には「OK」を押してください。

- 戻るには、「キャンセル」を押してください。

---

**DBI1754W　DB2 Data Links Manager 管理者が作成されていません。**

**説明:**
DB2 Data Links Manager 管理者を作成していません。 DB2 Data Links Manager 管理者を作成していないと、DB2 Data Links Manager を管理することができません。

**ユーザーの処置:**

- 処理を継続する場合には「OK」を押してください。
- 戻るには、「キャンセル」を押してください。

---

**DBI1755W　Administration Server が作成されません。**

**説明:**
Administration Server を作成していません。
Administration Server がなければ、DB2 データベースへの接続の構成を自動で行うクライアント・ツールをサポートするサービスを提供できず、サーバー・システムまたはコントロール・センターを使用してリモート・クライアントから DB2 を管理することができません。

**ユーザーの処置:**

- 処理を継続する場合には「OK」を押してください。
- 戻るには、「キャンセル」を押してください。

---

**DBI1756W　DB2 インスタンスは作成されません。**

**説明:**
DB2 インスタンスを作成していません。 DB2 インスタンスはデータの保管およびアプリケーションの実行環境です。

**ユーザーの処置:**

- 処理を継続する場合には「OK」を押してください。
- 戻るには、「キャンセル」を押してください。

---

**DBI1757W　指定されたディレクトリーはすでに存在します。**

**説明:**
ホーム・ディレクトリー・フィールドで指定されたディレクトリーはすでに存在します。 このディレクトリーの使用を選択すると、許可上の問題が発生する可能性があります。

**ユーザーの処置:**

- このディレクトリーを使用するばあいは「OK」を押してください。
- 戻るには、「キャンセル」を押してください。

---

**DBI1758W　DB2 インスタンスまたは Administration Server を検出しました。**

**説明:**
全 DB2 製品の除去が選択されました。 しかし、DB2 インスタンスまたは Administration Server がシステムで検出されました。 最初にこれらのインスタンスをドロップせずに DB2 製品をドロップすると、DB2 インスタンスが後で正しく機能できない場合があります。

**ユーザーの処置:**

- 処理を継続する場合には「OK」を押してください。
- 戻るには、「キャンセル」を押してください。

---

**DBI1759W　DB2 インスタンスまたは Administration Server 構成を検出しました。**

**説明:**
選択した Administration Server がありません。 これによって、Administration Server および DB2 インスタンス構成が廃棄されてしまいます。

**ユーザーの処置:**

- 処理を継続する場合には「OK」を押してください。
- 戻るには、「キャンセル」を押してください。

---

**DBI1760E　*pkg-name* をセットアップするには、パッケージをインストールする必要があります。**

**説明:**
インスタンスの DB2 コンポーネントを構成するよう選択しました。 パッケージがインストールされていなければ、これを行うことはできません。

**ユーザーの処置:**
パッケージをインストールして、もう一度やり直してください。

---

**DBI1761W　ソフトウェア前提条件が、ファイル・セットまたはパッケージ *pkg-name* で違反しています。**

**説明:**
ソフトウェアの前提条件を上記ファイル・セットまたはパッケージで検証中にエラーが発生しました。処理を続行すると、製品が正しく機能しない可能性があります。前提条件をインストールしないまま処理を続行しますか ?

**ユーザーの処置:**

- 前提条件をインストールしないまま処理を続行する場合には「OK」を押してください。

- インストールを中止するのであれば「キャンセル」を押してください。

---

**DBI1762W　ソフトウェア依存関係が、ファイル・セットまたはパッケージ *pkg-name* で違反しています。**

**説明:**
ソフトウェアの依存関係を上記ファイル・セットまたはパッケージで検証中にエラーが発生しました。処理を続行すると、ソフトウェア依存関係をすべて削除する可能性があります。ソフトウェア依存関係を除去しますか?

**ユーザーの処置:**

- 処理を継続する場合には「OK」を押してください。
- 戻るには、「キャンセル」を押してください。

---

**DBI1763I　英語の HTML ドキュメンテーション・ファイルもインストールされます。**

**説明:**
英語の HTML ドキュメンテーション・ファイルは、英語以外の HTML ドキュメンテーション・ファイルをインストール対象として選択した場合に必要です。 これは、ユーザーが DB2 ドキュメンテーション・ライブラリー全体を検索することができるどうかを確認するためのものです。

---

**DBI1765W　存在しないユーザー ID *InstName* がレジストリーから検出されました。**

**説明:**
レジストリーに存在しないユーザー ID が入っています。 この状態は、最初にインスタンスをドロップせずにユーザー ID のみをドロップしたために発生します。DB2 の通常の操作には影響しませんが、レジストリーのインスタンス・リストからこのユーザー ID を除去することをお勧めします。

**ユーザーの処置:**
次のコマンドを指定してレジストリーからこのユーザー ID を除去してください。 db2iset -d “<InstName>”

---

**DBI1766W　*userId* の第 2 グループ・リストを変更することができません。**

**説明:**
与えられたユーザー ID の第 2 グループ・リストを変更しようとしてコード“<code>”が返されました。以下の状態のいずれかが発生しました。

- NIS が実行中である。
- 与えられたユーザー ID で現在実行中の処理が 1 つ以上ある。

**ユーザーの処置:**
Administration Server が正しく機能するように、グループ ID“<groupId>”をユーザー ID“<userId>”の第 2 グループ・リストに追加する必要があります。

- 与えられたユーザー ID で実行中の処理がある場合には、この処理をすべて終了して、上記の指示に従ってこのユーザー ID の 2 次グループ・リストをセットアップしてください。
- このコマンドを NIS クライアントで実行中の場合、上記の指示に従ってご使用の NIS サーバーにあるユーザー ID の第 2 グループをセットアップしてください。

---

**DBI1767W　DB2 レジストリーには破壊された情報が入っている可能性があります。**

**説明:**
レジストリーには無効なインスタンス情報が入っている可能性があります。これは、インスタンスあるいは Administration Server が、DB2 製品を除去する前に、正しく削除されていないことが原因となっている可能性があります。製品を再インストールして、レジストリー中の既存のインスタンス情報を保持する場合には、「キャンセル」を押してください。そうでない場合には、「OK」を押して、レジストリーを再作成します。レジストリーを再作成しますか。

**ユーザーの処置:**

- レジストリーを再作成するには、「OK」を押してください。
- 現在のレジストリー情報を保持するには、「キャンセル」を押してください。

---

**DBI1768W　*db2profile* をユーザー *inst-name* の .profile ファイルに、あるいは *db2cshrc* をこのユーザーの .login ファイルに追加できません。**

**説明:**
DB2 は、このユーザーの .profile ファイルまたは .login ファイルを修正することができません。 これらのファイルが存在しないか、または書き込み許可がない可能性があります。修正をしないと、DB2 を使用するために、このユーザーでログインするたびに、手動で環境を設定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
次の行を .profile ファイルあるいは .login に追加してください。
. *db2profile* (.profile ファイルに)、または
source *db2cshrc* (.login ファイルに)

DB2 環境を自動的に設定する方法に関する詳細については、「概説およびインストール」をご覧ください。

---

**DBI1769W　DB2 プロファイル項目を *inst-name* の .profile あるいは .login ファイルから除去することができません。**

**説明:**
DB2 は、このユーザーの .profile ファイルまたは .login ファイルにある DB2 環境設定行をコメント化することができません。次回このユーザーでログインする時に、ファイル db2profile (あるいは db2cshrc) が見つからないというメッセージを受け取る可能性があります。以下のいずれかが原因だと考えられます。

- 2 ファイル (.profile と .login) が存在していない。
- 2 ファイルに対する書き込み許可がない。

**ユーザーの処置:**
db2profile あるいは db2chsrc の脱落に関するメッセージを受け取った場合、ご使用の .profile あるいは .login ファイルを探索し、以下の行をコメント化してください。
. sqllib/db2profile　from your .profile file
source sqllib/db2cshrc from your .login file

---

**DBI1770E　ファイル /etc/vfs を更新することができません。**

**説明:**
次の DB2 Data Links Manager 特定項目が /etc/vfs ファイルに必要です。
dlfs dlfs_num /sbin/helpers/dlfs_mnthelp none

dlfs_num は 12 に設定されるか、または 12 がすでに別の fs に割り当てられている場合は、8 から 15 までの番号を設定します。この行を /etc/vfs ファイルに挿入しようとして、インストール処理が失敗しました。 以下のような、さまざまな理由が考えられます。

- このファイルに対する書き込み許可がない。
- 8 から 15 までの番号がすべて使用されており、dlfs に割り当てられる番号がない。

**ユーザーの処置:**
手動で /etc/vfs ファイルを編集して、dlfs 項目を追加してください。

---

**DBI1771I　ファイル /etc/vfs は /tmp/.db2.etcvfs.backup にコピーされました。**

**説明:**
DB2 Data Links Manager を作動させるためには、次の行を /etc/vfs ファイルに挿入する必要があります。
dlfs dlfs_num /sbin/helpers/dlfs_mnthelp none

オリジナルの /etc/vfs ファイルのバックアップ・コピーは /tmp/.db2.etcvfs.backup にあります。

---

**DBI1775W　既存の /etc/rc.dlfs ファイルが変更されました。**

**説明:**
DB2 が、既存の /etc/rc.dlfs ファイルを新しい dlfs ファイル・システム・マウント項目で変更しました。

**ユーザーの処置:**
ファイル /etc/rc.dlfs を調べて、すべての項目が正しいことを確認してください。

---

**DBI1780W　DB2 Data Links Manager は、現行オペレーティング・システムのバージョンではサポートされていません。**

**説明:**
現行オペレーティング・システムのバージョンは、DB2 Data Links Manager の実行をサポートしていません。ただし、ご自分の責任において、製品をインストールして構成することはできます。 DB2 Data Links Manager をサポートしているオペレーティング・システムを以下にリストします。

- ″<OSlist>″

---

**DBI1782E　言語が指定されていません。**

**説明:**
使用できるこれらの言語の中から少なくとも 1 つの言語を指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
完全リストを表示するには、パラメーターを指定せずにコマンドを発行してください。

---

**DBI1783E　トピックが指定されていません。**

**説明:**
使用できるこれらのトピックの中から少なくとも 1 つのトピックを指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
完全リストを表示するには、パラメーターを指定せずにコマンドを発行してください。

---

**DBI1784E　言語は使用できません。**

**説明:**
インストールに使用できない言語を指定しました。

**ユーザーの処置:**
完全リストを表示するには、パラメーターを指定せずにコマンドを発行してください。

**DBI1785E　トピック・パッケージは使用できません。**

**説明:**
インストールに使用できないドキュメンテーション・パッケージを指定しました。

**ユーザーの処置:**
完全リストを表示するには、パラメーターを指定せずにコマンドを発行してください。

---

**DBI1790E　ODSSI ユーティリティーはまだインストールされていないため、DB2 検索索引を作成することはできません。**

**説明:**
ODSSI ユーティリティーはまだインストールされていません。 次のユーティリティー (config_search、config_view および config_help) は、DB2 オンライン資料の検索索引を作成するために必要です。

**ユーザーの処置:**
ODSSI ユーティリティーをインストールして、次のコマンドを実行してください。
/opt/IBM/db2/V8.x/doc/db2insthtml lang_locale,
(x は 1 または FPn、
n はフィックスパック番号)

このコマンドは、言語ロケールである lang_locale に、DB2 ドキュメンテーションの検索索引を作成します。どの言語でドキュメンテーションをインストールしても、英語のドキュメンテーションもインストールされることに注意してください。英語ファイルの索引を作成するには、次のコマンドを実行しなければなりません。
/opt/IBM/db2/V8.x/doc/db2insthtml en_US,
(x は 1 または FPn、
n はフィックスパック番号)

---

**DBI1791W　html ファイルで DB2 検索索引を作成/除去する時に発生する可能性があるエラーです。**

**説明:**
DB2 は、システム・ユーティリティー config_view と config_help を実行して、SCOHELP で使用される DB2 検索索引の作成あるいは除去を行います。 ただし、システム上に、正しく作成/除去されていない DB2 以外の別の索引がある場合、エラー・メッセージが戻る可能性があります。

**ユーザーの処置:**

- DB2 索引を作成していた場合、SCOHELP を開始して、DB2 項目がトピック・パネルに追加されているかどうか、調べてください。 ″TCP/IP″ のようなストリングをテスト検索して、その結果が得られるか調べます。 検索が可能であれば、DB2 検索索引は正常に作成されています。
- DB2 索引を除去していた場合、SCOHELP を開始して、DB2 項目がトピック・パネルから除去されているかどうかを確認してください。 項目がなくなっていると、DB2 索引は正常に除去されています。
- DB2 索引が正常に作成あるいは除去されているかどうか確認することができない場合、IBM サポートに連絡してください。

---

**DBI1792I　DB2 ドキュメンテーション・ファイルの検索索引を作成しています。お待ちください ...**

**説明:**
DB2 ドキュメンテーション・ファイルの検索索引を作成しています。 選択した言語によって、時間がかかる場合があります。

---

**DBI1793W　ユーザー ID *userID* は不明です。**

**説明:**
指定されたユーザーは不明か、または現行システム上で見つかりません。

**ユーザーの処置:**
ユーザーがこのシステムに存在することを確認してから再試行してください。

---

**DBI1794E　1 つのグループに入れようとしたアイコンの数が多すぎます。**

**説明:**
デスクトップ・マネージャーによって許可される数を超えるアイコンを必須フォルダーに入れようとしました。

**ユーザーの処置:**
デスクトップから不要なアイコンを除去して、コマンドを再試行してください。

---

**DBI1795E　空きメモリーが不足しているため、すべての必要なアイコンを作成できません。**

**説明:**
アイコンの生成中、アイコン作成ユーティリティーがメモリー不足になりました。

**ユーザーの処置:**
不要なプログラムをクローズして、もう一度やり直してください。

---

**DBI1796W　適切な許可なしでディレクトリーにアイコンを作成しようとしました。**

**説明:**
このユーザー ID は、要求されたユーザーのアイコンを作成するのに必要な許可を持っていません。

**ユーザーの処置:**
ルート権限を持つユーザー、またはユーザー・ディレクトリーにファイルを作成するのに必要な許可を持つユーザーとしてログオンして、コマンドを再試行してください。

**DBI1797I　アイコンが正常に作成されました。**

**DBI1900N　Windows NT クラスター・サポートはアクセスできません。**

**説明:**
DB2 は Windows NT クラスターにアクセスできません。

**ユーザーの処置:**
Windows NT クラスター・サポートが正しくインストールされていてクラスター・サービスが開始済みであることを確認してください。

**DBI1901N　DB2/NT クラスター・サービスに対するユーザーの権利を更新しようとしてエラーが発生しました。**

**説明:**
DB2 サービスで使用するように指定されたアカウントに対して必要なユーザー権利を与えようとしたときに DB2 でエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
有効なアカウントが指定されていてユーザーの権利を与えるのに必要な特権があることを確認してください。

**DBI1902N　DB2/NT クラスター・サービス構成を更新しようとしてエラーが発生しました。**

**説明:**
DB2/NT クラスター・サービス構成を更新しようとして DB2 でエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
サービス・データベースがロックされていないこととアクセス可能であることを確認してください。また、DB2/NT クラスター・サービスが作成されていることも確認してください。

**DBI1903N　クラスター・レジストリーのアクセス中にエラーが発生しました。**

**説明:**
Windows NT クラスター・レジストリーを読み取りあるいは更新しようとして DB2 でエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Windows NT クラスター・サポートが正しくインストールされていてクラスター・サービスが開始済みであることを確認してください。 現在のログオン・ユーザー・アカウントにクラスター・レジストリーにアクセスできるだけの権限があることを確認してください。

**DBI1904N　DB2 インスタンスがクラスターされていません。**

**説明:**
DB2 はクラスター操作を行うためにインスタンスにアクセスしようとしましたがインスタンスは DB2 クラスター・インスタンスとして識別されませんでした。

**ユーザーの処置:**
インスタンスがクラスター・オプションで作成されたか確認してください。インスタンスがドロップされてクラスター・オプションで再作成される可能性がありますが、ノード・ディレクトリー、データベース・ディレクトリー、およびデータベース・マネージャー構成ファイルは失われます。

**DBI1905N　DB2 クラスター操作中にシステム・エラーが発生しました。**

**説明:**
DB2 がクラスター操作を実行中にシステム・エラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
Windows NT オペレーティング・システムが、クラスター・サポートに対して適切なレベルにあることを確認してください。

また、Windows NT クラスター・サポートが正しくインストールされていてクラスター・サービスが開始済みであることを確認してください。

**DBI1906N　DB2 クラスター・インスタンスにノードを追加しようとしてエラーが発生しました。**

**説明:**
DB2 クラスター・インスタンスをサポートするノードを更新しようとしてエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**

リモート・システムがオンラインで LAN でアクセス可能であることを確認してください。また、リモート・システムでレジストリーの更新を行うのに必要な特権があることも確認してください。

---

**DBI1907N　DB2 クラスター・インスタンスからノードを削除しようとしてエラーが発生しました。**

**説明:**
DB2 クラスター・インスタンスからノードを削除しようとしてエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
リモート・システムがオンラインで LAN でアクセス可能であることを確認してください。また、リモート・システムでレジストリーの更新を行うのに必要な特権があることも確認してください。

ワークステーション自体からクラスター・サポートをドロップできません。 このタスクを実行するためにインスタンスをドロップしてください。

---

**DBI1908N　リモート・システム上にインスタンス・プロファイルを作成しようとしてエラーが発生しました。**

**説明:**
クラスター・サポートを有効にするために、リモート・システム上にインスタンス・プロファイルを作成しようとしてエラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
リモート・システムがオンラインで LAN でアクセス可能であることを確認してください。また、リモート・システムでレジストリーの更新を行うのに必要な特権があることも確認してください。

---

**DBI1909N　リモート・システム上のインスタンス・プロファイルを削除しようとしてエラーが発生しました。**

**説明:**
クラスター・サポートを無効にするために、リモート・システム上のインスタンス・プロファイルを削除しようとしてエラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
リモート・システムがオンラインで LAN でアクセス可能であることを確認してください。また、リモート・システムでレジストリーの更新を行うのに必要な特権があることも確認してください。

---

**DBI1910N　使用法 : DB2NCRT -I:*Instance-Name* -C:*cluster-node***

**説明:**
ユーザーが DB2NCRT コマンドに対して誤った引数を指定しました。

**ユーザーの処置:**
クラスターされたインスタンスおよびクラスター・ノードに対する有効なワークステーション名を指定してコマンドを再発行してください。

---

**DBI1911N　使用法: DB2NLIST -I:*Instance-Name***

**説明:**
ユーザーが DB2NLIST コマンドに対して誤った引数を指定しました。

**ユーザーの処置:**
クラスターされたインスタンスを指定してコマンドを再発行してください。

---

**DBI1912I　DB2 クラスター・コマンドは成功しました。**

**説明:**
ユーザー要求は正常に処理されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBI1913N　リモート・マシン・レジストリーへの接続ができません。**

**説明:**
リモート・マシンの Windows NT レジストリーに接続しようとして DB2 でエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
ターゲット・マシンが実行中でコンピューター名が正しいことを確認してください。 また、現在のログオン・ユーザー・アカウントにリモート・マシン・レジストリーに接続できるだけの権限があることを確認してください。

---

**DBI1914N　クラスター・レジストリーへの接続ができません。**

**説明:**
Windows NT クラスター・レジストリーに接続しようとして DB2 でエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
Windows NT クラスター・サポートが正しくインストールされていてクラスター・サービスが開始済みであることを確認してください。

**DBI1915N　ターゲット・マシンは Windows NT クラスターに所属しません。**

**説明:**
コマンドは次の理由のいずれかで失敗しました。

**(1)** db2iclus ユーティリティーが DB2 MSCS インスタンスからマシンを除去しようとしたがターゲット・マシンが DB2 MSCS インスタンスに追加されていない。

**(2)** db2iclus ユーティリティーがマシンを DB2 MSCS インスタンスに追加しようとしたがターゲット・マシンに、必要な Windows NT クラスターのサポート・ソフトウェアがインストールされていない。

**ユーザーの処置:**
問題の原因に対応するアクションに従ってください。

**(1)** ″db2iclus list″ コマンドを実行してマシンが DB2 MSCS インスタンスの一部であることを確認する。

**(2)** ターゲット・マシンに Windows NT クラスター・ソフトウェアをインストールしてコマンドをやり直す。

---

**DBI1916N　指定されたインスタンス名が無効です。**

**説明:**
インスタンス名パラメーターで指定されたインスタンスがローカル・マシンに存在しません。

**ユーザーの処置:**
有効なインスタンスのリストを検出するには、db2ilist コマンドを実行してください。有効なインスタンス名を使用して、コマンドを再発行してください。

---

**DBI1917I　インスタンスのマイグレーションまたは更新は完了しましたが、このインスタンス下にカタログされたインスタンスに対して ODBC データ・ソースの再構成が必要な可能性があります。**

**説明:**
マイグレーションまたはインスタンスの更新では、どの ODBC データ・ソースが、マイグレーションまたは削除されたインスタンスと関連があるかを判別することはできません。その結果、それらのデータ・ソースは変更されていません。

**ユーザーの処置:**
CATALOG ODBC DATA SOURCE DB2 コマンドを使用してデータ・ソースを再構成すると、構成アシスタントまたはデータ・ソース (ODBC) コントロール・パネル・アプレットからデータ・ソースにアクセスできます。

---

**DBI1918N　Windows NT レジストリーのアクセス中にエラーが発生しました。**

**説明:**
ターゲット・マシンの Windows NT レジストリーを読み取りあるいは更新しようとして DB2 でエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
現在のログオン・ユーザー・アカウントにターゲット・マシンの Windows NT レジストリーにアクセスできるだけの権限があることを確認してください。問題が解決しない場合は IBM サービス技術員に連絡して助言を受けてください。

---

**DBI1919N　TCP/IP サービス・ファイルのアクセス中にエラーが発生しました。**

**説明:**
TCP/IP サービス・ファイルの読み取りあるいは更新中に DB2 でエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
システムにサービス・ファイルが存在しておりそのファイルが読み取りおよび書き込み権限にアクセスすることができることを確認してください。また、ファイルの内容が有効で、サービス・ファイルに項目の重複がないことも確認してください。

---

**DBI1920N　DB2 インスタンス・プロファイル・パス・パラメーターが無効です。**

**説明:**
DB2 インスタンス・プロファイル・パスが存在しないか、または書き込みアクセスが現在のログオン・ユーザー・アカウントに与えられていないため、指定した DB2 インスタンス・プロファイル・パスに DB2 はアクセスできません。

**ユーザーの処置:**
DB2 インスタンス・プロファイル・ポイントのパス名が有効なディレクトリーとなっていて、現在のログオン・ユーザー・アカウントがそのディレクトリーに対して書き込みアクセスがあることを確認してください。

---

**DBI1921N　ユーザー・アカウントあるいはパスワードが無効です。**

**説明:**
ユーザー・アカウントあるいはパスワードが無効です。

**ユーザーの処置:**
正しいアカウントでコマンドを再発行してください。

---

**DBI1922N　ホスト名が無効です。**

**説明:**
TCP/IP ホスト名パラメーターが無効であるか存在しないかのいずれかです。

**ユーザーの処置:**
TCP/IP がシステムで操作可能であることを確認してください。 ドメインのネーム・サーバーを使用している場合、ドメインのネーム・サーバーがアクティブであることを確認してください。 正しい TCP/IP ホスト名を使用してコマンドを再発行してください。

---

**DBI1923N　TCP/IP ポート範囲パラメーターが指定されていません。**

**説明:**
パーティション・データベース・インスタンスに対する TCP/IP ポート範囲のエントリーがサービス・ファイルに追加されていない場合にこのインスタンスを作成するには、db2icrt ユーティリティーには TCP/IP ポート範囲の指定が必要です。

**ユーザーの処置:**
システムで使用できる TCP/IP ポートの範囲を選択し、db2icrt コマンドに -r オプションを付けて再発行してください。

---

**DBI1924N　コンピューター名が無効です。**

**説明:**
コンピューター名パラメーターが無効です。

**ユーザーの処置:**
ターゲット・マシンが実行中でコンピューター名が正しいことを確認してください。 また、現在のログオン・ユーザー・アカウントにマシン・レジストリーに接続できるだけの権限があることを確認してください。

---

**DBI1925N　DB2 サービスの状況を照会できません。**

**説明:**
DB2 が DB2 サービスの状況を照会することはできません。

**ユーザーの処置:**
DB2 サービスがターゲット・マシンに存在しているか確認してください。 現在のログオン・ユーザー・アカウントにターゲット・マシンのサービス状況を照会できるだけの権限があることを確認してください。

---

**DBI1926N　パスワードが期限切れです。**

**説明:**
アカウント・パスワードの期限が切れています。

**ユーザーの処置:**
パスワードを変更した後で、新しいパスワードを使用して要求を再試行してください。

---

**DBI1927N　使用法:**

```
db2iclus { ADD /u:Username,Password
           [/m:Machine name] |
           DROP [/m:Machine name] |
           MIGRATE /
p:Instance profile path |
           UNMIGRATE }
           [/i:instance name]
           [/DAS DASname]
           [/c:Cluster name]
```

**説明:**
このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**ADD**　DB2 MSCS インスタンスに MSCS ノードを追加する

**DROP**　DB2 MSCS インスタンスから MSCS ノードを除去する

**MIGRATE**
MSCS 以外のインスタンスを MSCS インスタンスにマイグレーションする

**UNMIGRATE**
MSCS マイグレーションを取り消す

このコマンドの有効なオプションは以下のとおりです。

**/DAS**　DAS インスタンス名を指定する。このオプションは、 DB2 Administration Server に対してクラスター操作を実行するときに必要です。

**/c**　デフォルト/現行クラスターと異なる場合、MSCS クラスター名を指定する

**/p**　インスタンス・プロファイル・パスを指定する。このオプションは、 MSCS 以外のインスタンスを MSCS インスタンスにマイグレーションするときに必要です。

**/u**　DB2 サービスのアカウント名およびパスワードを指定する。このオプションは別の MSCS ノードを DB2 MSCS パーティション・データベース・インスタンスに追加する時に必要です。

**/m**　MSCS ノードを追加または除去するためのリモート・コンピューター名を指定する

**/i** デフォルト/現行インスタンス名と異なる場合インスタンス名を指定する

**ユーザーの処置:**
有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

---

**DBI1928N ユーザー・アカウントが指定されていません。**

**説明:**
パーティション・データベース・インスタンスを作成したり、パーティション・データベース・インスタンスにノードを追加したりする場合には、ユーザー・アカウント・パラメーターを指定する必要があります。 Windows NT 環境では、インスタンス・ディレクトリーが置かれたネットワーク共有にアクセスするためには、有効な Windows NT アカウントの下でそれぞれのデータベース・マネージャー・パーティション (あるいは MPP ノード) を実行する必要があります。

**ユーザーの処置:**
コマンドに -u オプションを指定して、ユーザー・アカウント名とパスワードを指定して、再発行してください。

---

**DBI1929N インスタンスは MSCS サポートですでに構成されています。**

**説明:**
インスタンスは MSCS サポートですでに構成されているため、 MSCS インスタンスへのインスタンスのマイグレーションが失敗しました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBI1930N ターゲット・マシンはすでに DB2 MSCS インスタンスの一部です。**

**説明:**
ターゲット・マシンがすでに DB2 MSCS インスタンスの一部であるため MSCS ノードの DB2 MSCS インスタンスへの追加が失敗しました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBI1931N データベース・パーティション・サーバー (ノード) がアクティブです。**

**説明:**
データベース・パーティション・サーバーがアクティブのためドロップあるいは修正はできません。

**ユーザーの処置:**
データベース・パーティション・サーバーがドロップあるいは変更の前に停止していることを確認してください。 データベース・パーティション・サーバーを停止するには、次のように db2stop コマンドを使用します。

```
db2stop nodenum <node-number>
```

---

**DBI1932N リモート・マシン上に同一インスタンスが存在しているためリモート・マシン上にデータベース・パーティション・サーバーを追加できません。**

**説明:**
リモート・マシンにインスタンスが存在しているため db2ncrt コマンドはリモート・マシン上に新規のデータベース・パーティション・サーバーを追加できません。

**ユーザーの処置:**
リモート・マシン上のインスタンスが使用できない場合リモート・マシン上で db2idrop コマンドを実行してインスタンスを除去してください。

---

**DBI1933N システムにデータベースが存在しているためデータベース・パーティション・サーバーは新規のマシンに移動されません。**

**説明:**
db2nchg コマンドが /m:machine オプションを指定して発行されるとこのコマンドはデータベース・パーティション・サーバーを新規のマシンに移動します。システムにデータベースが存在している場合には db2nchg は失敗します。

**ユーザーの処置:**
データベースが存在する時に新規マシンにデータベース・パーティション・サーバーを移動するには、db2start restart コマンドを使用してください。 db2start コマンドの詳細については、『DB2 コマンド・リファレンス』を参照してください。

---

**DBI1934N 使用法:**

```
db2iupdt InstName
        /u:username,password
        [/p:instance profile path]
        [/r:baseport,endport]
        [/h:hostname]
        [/?]
        [/q]
        [/a:authType]
```

**説明:**
無効な引数が db2iupdt コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**InstName**
インスタンスの名前

**/u** DB2 サービスのアカウント名およびパスワードを指定する。このオプションはパーティション・データベース・インスタンスを作成する時に必要です。

**/p** 更新されたインスタンスに対して新規のインスタンス・プロファイル・パスを指定する

**/r** MPP モードで実行する時にパーティション・データベース・インスタンスで使用される TCP/IP ポートの範囲を指定する。ローカル・マシンのサービス・ファイルはこのオプションが指定された場合に、次の項目で更新されます。

```
DB2_InstName          baseport/tcp
DB2_InstName_END      endport/tcp
```

**/h** 現行マシンに TCP/IP ホスト名が複数ある場合、デフォルトの TCP/IP ホスト名をオーバーライドする。

**/?** この使用情報

**/q** 抑止モード

**/a** authType はインスタンスの認証タイプ (SERVER、CLIENT、または SERVER_ENCRYPT)

**ユーザーの処置:**
有効な引数を使用してコマンドを再入力してください。

---

**DBI1935N db2iupdt コマンドがインスタンス・ディレクトリーの更新に失敗しました。**

**説明:**
次の理由のいずれかで db2iupdt コマンドがインスタンス・ディレクトリーの更新に失敗しました。

**(1)** db2audit.cfg ファイルが ¥SQLLIB¥CFG ディレクトリーに存在しない。

**(2)** db2iupdt コマンドにインスタンス・ディレクトリー内にファイルあるいはサブディレクトリーを作成するのに必要な権限がない。

**ユーザーの処置:**
db2audit.cfg ファイルが ¥SQLLIB¥CFG ディレクトリーに存在し現行のログオン・アカウントにインスタンス・ディレクトリーにファイルおよびディレクトリーを作成するだけの権限があることを確認してください。 インスタンス・ディレクトリーは ¥SQLLIB¥InstName にあります (ここで InstName はインスタンスの名前です)。

---

**DBI1936N db2iupdt コマンドはデータベース・マネージャー構成ファイルの更新に失敗しました。**

**説明:**
前のデータベース・マネージャー構成ファイルが、壊れているか欠落しているため、db2iupdt コマンドはデータベース・マネージャー構成ファイルの更新ができませんでした。 現在のインスタンスは不整合状態で使用できません。

**ユーザーの処置:**
デフォルトのデータベース・マネージャー構成ファイルをインスタンス・ディレクトリーにコピーしてコマンドを再実行してください。インスタンス・ディレクトリーは ¥SQLLIB¥InstName にあります。デフォルトのデータベース・マネージャー構成ファイルは db2systm という名前で ¥sqllib¥cfg ディレクトリーにあります。

---

**DBI1937W db2ncrt コマンドは正常にノードを追加しました。このノードは、すべてのノードを再び停止および開始するまでアクティブになりません。**

**説明:**
すべてのノードが STOP DATABASE MANAGER (db2stop) コマンドで同時に停止されない限り、db2nodes.cfg ファイルが更新されて新規ノードが組み込まれることはありません。 ファイルが更新されるまで、既存のノードは新規ノードと通信できません。

**ユーザーの処置:**
db2stop を発行してすべてのノードを停止してください。 すべてのノードが正常に停止したら、db2start を発行して、新規のノードを含むすべてのノードを開始してください。

---

**DBI1940N DB2 Administration Server はアクティブです。**

**説明:**
DB2 Administration Server はアクティブのため変更できません。

**ユーザーの処置:**
DB2 Administration Server を変更する前に、これが停止されていることを確認してください。 DB2 Administration Server を停止するには、次のように db2admin コマンドを使用してください。

```
db2admin stop
```

---

**DBI1941W DB2 Administration Server が存在しません。**

**説明:**
DB2 Administration Server がこのマシンで見つかりませんでした。

**ユーザーの処置:**
マシン上に DB2 Administration Server を作成してください。

---

**DBI1942N DB2 Administration Server がすでにターゲット・マシンに存在しています。**

**説明:**
DB2 Administration Server がすでにターゲット・マシンに存在しているため、操作を完了できませんでした。

**ユーザーの処置:**
DB2 Administration Server をターゲット・マシンから除去し、操作を再試行してください。

---

**DBI1943N DB2 Administration Server はクラスター化されていません。**

**説明:**
DB2 が DB2 Administration Server にアクセスしてクラスター操作を実行しようとしましたが、 DB2 Administration server が MSCS サポートで構成されていません。

**ユーザーの処置:**
DB2 Administration Server が MSCS サポートで構成されていることを確認してください。

---

**DBI1944N DB2 Administration Server は MSCS サポートですでに構成されています。**

**説明:**
DB2 Administration Server をマイグレーションしようとしましたが、 DB2 Administration Server が MSCS サポートですでに構成されているため失敗しました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DBI1945N システムは、指定の DB2 コピー名を検出できませんでした。**

**説明:**
特定の DB2 コピーに対してインスタンスを更新またはマイグレーションするには、その DB2 コピーが存在していなければなりません。指定の DB2 コピー名が存在しないか、DB2 レジストリーが破損しています。

**ユーザーの処置:**
DB2 レジストリー表を確認して、有効な DB2 コピー名を提供してください。

---

**DBI1946N 使用法:**
**db2imigr instanceName**
**[/?]**
**[/q]**
**[/a:authType]**
**[/p:instanceProf]**
**[/u:username,password]**

**説明:**
db2imigr コマンドに無効な引数が入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**instanceName**
インスタンスの名前

**/?** この使用情報

**/q** 抑止モード

**/a** authType はインスタンスの認証タイプ (SERVER、CLIENT、または SERVER_ENCRYPT)

**/p** instanceProf は、マイグレーションされるインスタンスのインスタンス・プロファイル・パス

**/u** DB2 サービスのアカウント名およびパスワードを指定するためのユーザー名、パスワード。このオプションは、パーティション化されたインスタンスをマイグレーションする際に必要です。

**ユーザーの処置:**
有効な引数を使用してコマンドを再入力してください。

---

**DBI1947N db2imigr コマンドはデータベース・マネージャー構成ファイルの更新に失敗しました。**

**説明:**
前のデータベース・マネージャー構成ファイルが、壊れているか欠落しているため、db2imigr コマンドはデータベース・マネージャー構成ファイルの更新ができませんでした。現在のインスタンスは不整合状態で使用できません。

**ユーザーの処置:**
デフォルトのデータベース・マネージャー構成ファイルをインスタンス・ディレクトリーにコピーしてコマンドを再実行してください。インスタンス・ディレクトリーは ¥SQLLIB¥instanceName にあります。デフォルトのデータベース・マネージャー構成ファイルは db2systm という名前で、インストール・パス下の cfg ディレクトリーにあります。

**DBI1948N　ファイルを削除できませんでした。**

**説明:**
指定されたインスタンスに属するファイルあるいはディレクトリーを削除中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
ファイルの存在位置への書き込みアクセスがあることを確認してください。

---

**DBI1949E　インスタンス *inst-name* のマイグレーションがサポートされていません。**

**説明:**
インスタンスは以下の理由により、マイグレーションできません。

**1**　このバージョンのインスタンスからのマイグレーションがサポートされていない。

**2**　インスタンスがすでに製品の現行バージョンを使用していてマイグレーションが必要ない。

**ユーザーの処置:**
このインスタンスがマイグレーションに対して有効であるか確認して有効なインスタンス名または DB2 コピー名を指定して、コマンドを再試行します。

---

**DBI1950W　インスタンス *instance-name* はすでにインスタンス・リストにあります。**

**説明:**
作成またはマイグレーション中のインスタンスが、すでにインスタンス・リストにあります。

**ユーザーの処置:**
db2ilist コマンドによって報告されたインスタンスのリストが正しいかを調べてください。

---

**DBI1951W　インスタンス *instance-name* がインスタンス・リストに見つかりませんでした。**

**説明:**
示されたインスタンスが、インスタンス・リストに見つかりませんでした。

**ユーザーの処置:**
db2ilist コマンドによって報告されたインスタンスのリストが正しいかを調べてください。

---

**DBI1952E　インスタンス名 *instance-name* が無効です。**

**説明:**
インスタンス名が無効です。以下のものは使用できません。

1. 8 文字より長い名前。
2. “sql”、“ibm”または“sys”で始まる名前。
3. 数字で始まる名前、または a-z、$、#、@、_、0-9 以外の文字を使用した名前。

**ユーザーの処置:**
有効なインスタンス名を指定して、コマンドを再発行してください。

---

**DBI1953E　インスタンスがアクティブ中です。**

**説明:**
アクティブなインスタンスをドロップしようとしました。

**ユーザーの処置:**
db2stop を発行 (そのインスタンスのユーザー ID から) して、インスタンスを停止する前に、インスタンスを使用しているアプリケーションがすべて完了しているかを確認してください。

---

**DBI1954E　インスタンス名は DB2 Admin Server で使用中です。**

**説明:**
インスタンスを DB2 Admin Server で使用中のため作成できません。

**ユーザーの処置:**
別のインスタンス名を指定して、コマンドを再試行してください。

---

**DBI1955E　使用法: db2idrop [-h] [-f] InstName**

**説明:**
間違った引数が db2idrop コマンドに対して入力されました。このコマンドの有効な引数は以下のとおりです。

**-h**　使用情報を表示する

**-f**　強制アプリケーション・フラグ。このフラグが指定された場合、インスタンスを使用しているすべてのアプリケーションは強制的に終了します。

**InstName**
インスタンスの名前

**ユーザーの処置:**
次のようにコマンドを入力し直してください。
db2idrop [-h] [-f] InstName

---

**DBI1956E　使用法: db2ilist [-h]**

**説明:**

間違った引数が db2ilist コマンドに入力されました。db2ilist コマンドは、db2ilist が実行される DB2 インストール・パスに関連した DB2 インスタンスの名前をリストします。

このコマンドの唯一の引数は次のとおりです。

**-h** 使用情報を表示する

**ユーザーの処置:**
引数を指定しないで、db2ilist コマンドを入力してください。

---

**DBI1957E db2icrt コマンドの構文に誤りがあります。**

**説明:**
db2icrt ユーティリティーはデータベース・インスタンスを作成します。

```
db2icrt InstName [-s {ese|wse|standalone|client}]
                 [-p instance profile path]
                 [-u username,password]
                 [-h hostname]
                 [-r baseport,endport]
                 [-?]
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

**-s** 作成するインスタンスのタイプを指定する

**ese** DPF がサポートされているローカルおよびリモート・クライアントのある DB2 データベース・サーバーのインスタンスを作成する場合に使用します。このタイプは、DB2 Enterprise Server Edition のデフォルト・インスタンス・タイプです。

**wse** ローカルおよびリモート・クライアントのある DB2 データベース・サーバーのインスタンスを作成する場合に使用します。このタイプは、DB2 Workgroup Edition、DB2 Express または Express-C Edition、および DB2 Connect Enterprise Edition のデフォルト・インスタンス・タイプです。

**standalone**
ローカル・クライアントのある DB2 データベース・サーバーのインスタンスを作成する場合に使用します。このタイプは、DB2 Personal Edition のデフォルト・インスタンス・タイプです。

**client** IBM データ・サーバー・クライアントのインスタンスを作成する場合に使用します。このタイプは、IBM データ・サーバー・クライアント製品および DB2 Connect Personal Edition のデフォルト・インスタンス・タイプです。

DB2 製品では、デフォルトのインスタンス・タイプ、およびデフォルトより低位のインスタンス・タイプがサポートされています。例えば、DB2 Enterprise Edition では 'ese'、'wse'、'standalone'、および 'client' のインスタンス・タイプがサポートされています。

**-p** インスタンス・プロファイル・パスを指定する。

**-u** DB2 サービスのアカウント名およびパスワードを指定する。このオプションは ese インスタンスを作成する時に必要です。

**-h** 現行マシンに TCP/IP ホスト名が複数ある場合、デフォルトの TCP/IP ホスト名をオーバーライドする。TCP/IP ホスト名はデフォルトのノード (ノード 0) を作成するときに使用されます。

**-r** MPP モードで実行する時にパーティション・データベース・インスタンスで使用される TCP/IP ポートの範囲を指定する。ローカル・マシンのサービス・ファイルはこのオプションが指定された場合に、次の項目で更新されます。

| | |
|---|---|
| DB2_InstName | baseport/tcp |
| DB2_InstName_1 | baseport+1/tcp |
| DB2_InstName_2 | baseport+2/tcp |
| DB2_InstName_END | endport/tcp |

**-?** ヘルプを表示する

**ユーザーの処置:**
有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

---

**DBI1958N インスタンス・プロファイルがレジストリーに追加できません。**

**説明:**
レジストリーにインスタンス・プロファイルを追加しようとしてエラーが発生しました。 インスタンスは作成されませんでした。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**DBI1959N　インスタンス・ディレクトリーが作成できません。**

**説明:**
新規インスタンスに必要なファイルあるいはディレクトリーを作成しようとしてエラーが発生しました。インスタンスは作成されませんでした。

**ユーザーの処置:**
インスタンス・ディレクトリーが作成されているロケーションに書き込みアクセスがあることを確認してください。インスタンス・ディレクトリーは製品がインストールされているパスの下に作成されます。 DB2INSTPROF プロファイル変数を使用してインスタンス・ディレクトリーに別のロケーションを指定することも可能です。

**DBI1960N　DB2 サービスが作成できません。**

**説明:**
以下の理由により、DB2 サービスを登録中にエラーが発生しました。

1. 同じ名前のサービスがすでに存在しているか、または削除としてマークされましたが、次回システムがリブートされるまでクリーンアップされません。
2. Windows サービスを作成するための十分なアクセス権がありません。

**ユーザーの処置:**

1. インスタンスの名前が、どの既存の Windows サービスとも一致していないことを確認してください。 システムのサービスのリストは、Windows レジストリーの HKEY_LOCAL_MACHINE¥System ¥CurrentControlSet¥Services の下にあります。このサービスが削除としてマークされている場合は、マシンをリブートして、システムからサービスを除去する必要があります。
2. ローカル管理者グループに属しているユーザー・アカウントにログオンして、操作を再試行してください。

**DBI1961N　新規インスタンスのノード・キーをレジストリーに追加できません。**

**説明:**
インスタンス・プロファイル・レジストリーで新規のインスタンスに対するノード・キーを追加中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

**DBI1962N　新規ノードをレジストリーに追加できません。**

**説明:**
インスタンス・プロファイル・レジストリーに新規のノード・キーを追加中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

**DBI1963N　インスタンスのアカウントに対するユーザー権限を付与中、エラーが発生しました。**

**説明:**
DB2 サービスのアカウントを構成する場合、アカウントに次のユーザー権限を付与する必要があります。

1. オペレーティング・システムの一部として機能
2. トークン・オブジェクトの作成
3. クォータの増加
4. サービスとしてログオン
5. プロセス・レベル・トークンの置換

インスタンスのアカウントに対するユーザー権限を付与中、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
マシンが NT ドメインに属している場合、1 次ドメイン・コントローラーがアクティブでネットワークからアクセス可能あることを確認してください。そうでない場合には IBM サービス技術員に連絡してください。

**DBI1964N　ログオン・アカウントが DB2 サービスに割り当てられません。**

**説明:**
DB2 サービスにログオン・アカウントを割り当て中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
ログオン・アカウントのユーザー名およびパスワードが有効であることを確認してください。

**DBI1965N　ノード *node-number* がノード・リストに見つかりませんでした。**

**説明:**
指定されたノードがノード・リストで見つかりませんでした。

**ユーザーの処置:**
DB2NLIST コマンドを使用してノードのリストを表示して、ノードが存在することを確認してください。

**DBI1966N　ノードがレジストリーから削除できません。**

**説明:**
インスタンス・プロファイル・レジストリーから指定のノードを削除中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

**DBI1967N　DB2 サービスを登録解除できません。**

**説明:**
DB2 サービスの登録解除中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
NT サービスを削除するのに十分な権限があることを確認してください。

**DBI1968N　プロファイル・レジストリーのノード構成を変更中にエラーが発生しました。**

**説明:**
プロファイル・レジストリーのノード構成を変更中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

**DBI1969N　インスタンス・ディレクトリーで新規ファイルを作成中にエラーが発生しました。**

**説明:**
インスタンス・ディレクトリーで新規ファイルを作成中に内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
インスタンス・ディレクトリーに書き込みアクセスがあることを確認してください。

**DBI1970N　インスタンス・ディレクトリーでファイルからの読み取りまたはファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。**

**説明:**
インスタンス・ディレクトリーでファイルからの読み取りまたはファイルへの書き込み中に内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

**DBI1971N　インスタンス・プロファイルをレジストリーから除去できません。**

**説明:**
レジストリーから インスタンス・プロファイルを削除中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

**DBI1972N　インスタンス・ディレクトリーを除去できません。**

**説明:**
指定されたインスタンスに属する必要なファイルあるいはディレクトリーを削除中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
インスタンス・ディレクトリーがあるロケーションへの書き込みアクセスがあることを確認してください。

**DBI1973N　DB2 サービスの自動開始を構成する試みが失敗しました。**

**説明:**
DB2 サービスの自動開始を設定中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
マシンをリブートしてコマンドを再度試行してください。問題が続く場合、IBM サービス技術員に連絡してください。

**DBI1974N　プロファイル変数 DB2ADMINSERVER をプロファイル・レジストリーに設定できません。**

**説明:**
プロファイル・レジストリーにプロファイル変数 DB2ADMINSERVER を設定中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

**DBI1975N　環境変数 DB2ADMINSERVER をプロファイル・レジストリーから除去できません。**

**説明:**
プロファイル・レジストリーの環境変数 DB2ADMINSERVER を削除中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

**DBI1978E　インスタンス *inst-name* の更新がサポートされていません。**

**説明:**
インスタンスの DB2 コピー名に、ターゲット DB2 コピー名と同じバージョン番号がありません。

**ユーザーの処置:**
このインスタンスが更新に対して有効であるかを確認してから、有効なインスタンス名または DB2 コピー名を指定して、コマンドを再試行します。

**DBI1980W　UPM でユーザー ID *userID* を作成できません。**

**説明:**
製品のインストール中に提供したユーザー ID が、ユーザー・プロファイル管理 (UPM) で作成されませんでした。このユーザー ID は DB2 Administration Server を開始するために必要です。

**ユーザーの処置:**
UPM を使用するユーザー ID とパスワードを手動で作成し、次に DB2 Administration Server を手動で開始します。 “db2admin”コマンドを使用して、このユーザー ID とパスワードの組み合わせを使用するよう DB2 Administration Server を設定する必要がある場合があります。

# 第 11 章 DBT メッセージ

**DBT1000I　ツールは正常に完了しました。**

**説明:**
ツールの処理はエラー無しで完了しました。

**ユーザーの処置:**
これ以上のアクションは不要です。

**DBT1001N　DB2INIDB ツールの構文が無効です。**

**説明:**
DB2INIDB ツールの構文は、以下のとおりです。

```
db2inidb <database_alias>
 AS < SNAPSHOT | STANDBY | MIRROR >
  [ RELOCATE USING config_file ]
```

**ユーザーの処置:**
正しい構文で再度コマンドを実行してください。

**DBT1002N　データベース名 *database-name* が無効です。**

**説明:**
コマンドに指定されたデータベース名が無効です。データベース名は 1 から 8 文字で、すべての文字はデータベース・マネージャーの基本文字セットから使用する必要があります。

**ユーザーの処置:**
有効なデータベース名を指定して、コマンドを再度実行してください。

**DBT1003N　プログラム *program-name* が見つかりません。**

**説明:**
指定されたプログラムを実行しようとしましたが、プログラムが見つからなかったため、失敗しました。

**ユーザーの処置:**
指定されたプログラムが存在することを確認してください。また、プログラムのパスが PATH 環境変数にあるか調べてください。問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

**DBT1004N　プログラム *program-name* を実行できません。**

**説明:**
指定されたプログラムを実行しようとして、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
指定されたプログラムが存在しており、適切なファイル許可が含まれていることを確認してください。 問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

**DBT1005N　ファイル *file-name1* は *file-name2* にコピーできませんでした。**

**説明:**
指定されたファイルを複製しようとして、エラーが発生しました。 コマンドは正常に処理されませんでした。

**ユーザーの処置:**
指定されたソース・ファイルが存在し、適切なファイル許可が含まれていることを確認してください。また、指定されたターゲット・ファイルがもう存在していないことを確認してください。 問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

**DBT1006N　ファイル / デバイス *file-device-name* がオープンできませんでした。**

**説明:**
指定されたファイル/装置をオープンしようとして、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
ファイル/装置が存在しており、許可が正しいことを確認してください。 問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

**DBT1007N　ファイル/装置 *file-device-name* に対して操作 *operation-name* を実行しようとして、エラーが発生しました。**

**説明:**
指定されたファイル/装置において指定された操作の実行は失敗しました。

**ユーザーの処置:**
可能な解決方法は、以下のとおりです。

- 十分なディスク・スペースがあることを確認してください。
- ファイル許可が正しいことを確認してください。

問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。問題が解決されない場合は、技術サービス担当者に連絡してください。

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

**DBT1008N　データベース *database-name* はスプリット・ミラー・イメージではありません。**

**説明:**
スプリット・ミラー・イメージではないデータベースで DB2INIDB ツールを使用しようとしました。

スプリット・ミラー・イメージは、I/O 書き込みが中断されている間にコピーされるデータベースのミラー・コピーです。 データベースに接続中に、以下のコマンドを使用して、I/O 書き込みを中断することができます。

```
SET WRITE SUSPEND FOR DATABASE
```

スプリット・ミラー・イメージが作成されたら、以下のコマンドを使用して、1 次データベースへの I/O 書き込みを再開することができます。

```
SET WRITE RESUME FOR DATABASE
```

スプリット・ミラー・イメージを使用する前に、延期状態を解除して、クラッシュ・リカバリーを実行するかロールフォワード・ペンディング状態にして初期設定するために、DB2INIDB ツールを実行する必要があります。

**ユーザーの処置:**
スプリット・ミラー・イメージ・データベースを指定して、コマンドを再度実行してください。

---

**DBT1009N　データベース *database-name* は、リカバリー可能なデータベースではありません。**

**説明:**
リカバリー不能なスプリット・ミラー・イメージ・データベースに DB2INIDB ツールの STANDBY または MIRROR オプションを使用しようとしました。 STANDBY および MIRROR オプションでは、リカバリー可能なスプリット・ミラー・イメージが必要です。

スプリット・ミラー・イメージは、I/O 書き込みが中断されている間にコピーされるデータベースのミラー・コピーです。 データベースに接続中に、以下のコマンドを使用して、I/O 書き込みを中断することができます。

```
SET WRITE SUSPEND FOR DATABASE
```

スプリット・ミラー・イメージが作成されたら、以下のコマンドを使用して、1 次データベースへの I/O 書き込みを再開することができます。

```
SET WRITE RESUME FOR DATABASE
```

スプリット・ミラー・イメージを使用する前に、延期状態を解除して、クラッシュ・リカバリーを実行するかロールフォワード・ペンディング状態にして初期設定するために、DB2INIDB ツールを実行する必要があります。

STANDBY および MIRROR オプションの目的は、スプリット・ミラー・イメージをロールフォワード・ペンディング状態にして、1 次データベースからのログの適用を許可することです。 1 次データベースは、スプリット・ミラー・イメージ・データベースに適用できるように、ログ・レコードを保存する必要があります。

**ユーザーの処置:**
リカバリー可能なデータベースのスプリット・ミラー・イメージを指定して、コマンドを再度実行してください。 LOGRETAIN データベース構成変数をオンにすると、データベースをリカバリー可能にすることができます。

---

**DBT1010N　スプリット・ミラー・イメージ・データベース *database-name* は、以前にスナップショットとして初期化されています。**

**説明:**
以前に SNAPSHOT オプションを指定して初期化されたスプリット・ミラー・イメージに DB2INIDB ツールの STANDBY または MIRROR オプションを使用しようとしました。 SNAPSHOT オプションによってこのスプリット・ミラー・イメージが新しいログ・チェーンを開始するので、 STANDBY および MIRROR オプションを使用して、ログ・ファイルを 1 次データベースからロールフォワードすることは、もはやできません。

スプリット・ミラー・イメージは、I/O 書き込みが中断されている間にコピーされるデータベースのミラー・コピーです。 データベースに接続中に、以下のコマンドを使用して、I/O 書き込みを中断することができます。

```
SET WRITE SUSPEND FOR DATABASE
```

スプリット・ミラー・イメージが作成されたら、以下のコマンドを使用して、1 次データベースへの I/O 書き込みを再開することができます。

```
SET WRITE RESUME FOR DATABASE
```

スプリット・ミラー・イメージを使用する前に、延期状態を解除して、クラッシュ・リカバリーを実行するかロールフォワード・ペンディング状態にして初期設定するために、DB2INIDB ツールを実行する必要があります。

**ユーザーの処置:**
新しいスプリット・ミラー・イメージ・データベースを指定して、コマンドを再度実行してください。

---

**DBT1011N　データベース *database-name* を WRITE RESUME オプションで再始動できません。 SQLCODE = *sqlcode*。**

**説明:**

指定したデータベースを WRITE RESUME オプションで再始動しようとしましたが失敗しました。

**ユーザーの処置:**
指定した SQLCODE を調べて、問題を訂正してから、コマンドを再度実行してください。

---

**DBT1012N　データベース・ディレクトリーで操作 *operation-name* を実行できません。**

**説明:**
データベース・ディレクトリーにおいて指定された操作の実行は失敗しました。

次のような理由が考えられます。

- システムのメモリー量が不十分であるために、データベース・マネージャーが要求を処理できなかった。
- データベース項目がシステム・データベース・ディレクトリーに無かった。
- データベースがシステム・データベース・ディレクトリーに存在していない。

**ユーザーの処置:**
可能な解決方法は、以下のとおりです。

- 十分なシステム・リソースが使用できるようにしてください。
- データベースが正しくカタログされているようにしてください。

問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DBT1013N　データベース *database-name* が見つかりません。**

**説明:**
指定したデータベースが既存のデータベースではないか、あるいは、データベースがローカルまたはシステム・データベース・ディレクトリーで見つかりません。

**ユーザーの処置:**
指定したデータベース名が、システム・データベース・ディレクトリーに存在することを確認してください。データベース名がシステム・データベース・ディレクトリーに無い場合には、データベースが存在しないか、あるいはデータベース名がカタログされていないかのいずれかです。

データベース名がシステム・データベース・ディレクトリーに存在し、項目タイプが INDIRECT である場合には、そのデータベースが指定したローカル・データベース・ディレクトリーに存在することを確認してください。

---

**DBT1014N　インスタンス名を判別できませんでした。**

**説明:**
現行のインスタンス名を判別しようとしましたが、失敗しました。

**ユーザーの処置:**
DB2INSTANCE 環境変数が、現行のインスタンス名に設定されているか確認してください。問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DBT1015N　メモリーを割り振りできません。**

**説明:**
処理時に、処理を継続するのに十分なメモリーがありませんでした。

**ユーザーの処置:**
可能な解決方法は、以下のとおりです。

- ご使用になっているシステムに、十分な実および仮想メモリーがあるか確認してください。
- バックグラウンド処理を除去してください。

---

**DBT1016N　表スペース・ファイル *file-name1* と *file-name2* のサイズが異なっています。**

**説明:**
指定した 2 つの表スペース・ファイルのサイズは、同じであるはずなのに、違っています。

**ユーザーの処置:**
技術サービス担当者に以下の情報を報告してください。

- 問題の説明
- 表スペース・カタログ表の内容
- 表スペース・ファイル

---

**DBT1017N　DB2RELOCATEDB ツールの構文が無効です。**

**説明:**
DB2RELOCATEDB ツールの構文は、以下のとおりです。

```
db2relocatedb -f <config_file>
```

<configFile>: 構成情報が含まれているファイルの名前。

ファイル形式は、次のとおりです:

```
DB_NAME=oldName,newName
DB_PATH=oldPath,newPath
INSTANCE=oldInst,newInst
NODENUM=nodeNumber
LOG_DIR=oldDirPath,newDirPath
CONT_PATH=oldContPath1,newContPath1
CONT_PATH=oldContPath2,newContPath2
...
```

注意:

- データベース名、データベース・パス、およびインスタンス名は、すべて必須フィールドです。これらのフィールドのいずれかが変更されていない場合は、フィールドの古い値と新しい値をリストする必要はなく、古い値/現行の値だけがリストされます。
- ブランク行またはコメント文字 (#) で始まる行は、無視されます。

**ユーザーの処置:**
正しい構文で再度コマンドを実行してください。

---

**DBT1018N** *field-name* **は、構成ファイルの必須フィールドです。**

**説明:**
指定されたフィールドは、構成ファイルの必須フィールドですが、指定されていません。

**ユーザーの処置:**
指定されたフィールド情報を構成ファイルに追加してから、コマンドを再度実行してください。

---

**DBT1019N** **構成ファイルに無効なデータベース・パスが指定されました。**

**説明:**
構成ファイルに指定されているデータベース・パスが無効です。

Windows の場合、データベース・パスは、ドライブ名の後にコロン文字を付けて指定しなければなりません。それ以外のプラットフォームの場合、データベース・パスは、絶対パスで、パス区切り記号で終了しなければなりません。

**ユーザーの処置:**
正しくないデータベース・パスを訂正して、コマンドを再度実行してください。

---

**DBT1020N** **構成ファイルの** *line-number* **行目に無効な項目があります。理由コード =** *reason-code*。

**説明:**
理由コードによって示されている以下の条件が解決されるまで、DB2RELOCATEDB ツールを使用して再配置することはできません。

**1** 指定された行が、最大文字数を超えています。

**2** フィールドが指定されましたが、値がありません。

**3** フィールドが複数回指定されています。

**4** 古いデータベース名または新しいデータベース名のいずれかの文字数が多すぎます。

**5** 古いデータベース・パス名または新しいデータベース・パス名のいずれかの文字数が多すぎます。

**6** 古いインスタンス名または新しいインスタンス名のいずれかの文字数が多すぎます。

**7** NODENUM 項目に無効なノード番号が指定されています。

**8** 古いログ・ディレクトリー・パスまたは新しいログ・ディレクトリー・パスのいずれかの文字数が多すぎます。

**9** 古いコンテナー名または新しいコンテナー名のいずれかの文字数が多すぎます。

**10** CONT_PATH 項目に重複したコンテナー名が見つかりました。

**11** 指定された行が無効です。

**12** ワイルドカード文字 (*) の使用法が間違っています。

**13** 古いストレージ・パス名または新しいストレージ・パス名のいずれかの文字数が多すぎます。

**14** STORAGE_PATH 項目に重複したストレージ・パスが見つかりました。

**ユーザーの処置:**
理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。

**1** 指定された行が 1000 文字以内になるようにしてください。

**2** 問題となっているフィールドに必須の値を指定してください。

**3** 問題となっているフィールドを 1 度しか指定しないようにしてください。

**4** 古いデータベース名および新しいデータベース名を 8 文字以下にしてください。

**5** 古いデータベース・パス名および新しいデータベース・パス名を 215 文字以下にしてください。

**6** 古いインスタンス名および新しいインスタンス名を 8 文字以下にしてください。

**7** ノード番号を 4 桁以下にしてください。

**8** 古いログ・ディレクトリー・パスおよび新しいログ・ディレクトリー・パスを 242 文字以下にしてください。

**9** 古いコンテナー名および新しいコンテナー名を 256 文字以下にしてください。

**10** CONT_PATH 項目で、各コンテナー名を 1 度しか指定しないようにしてください。

**11** 問題となっている行の妥当性を検証してください。

**12** ワイルドカード文字は、以前のパスと新しいパスの両方で最後の文字である必要があります。

**13** 古いストレージ・パス名および新しいストレージ・パス名を 190 文字以下にしてください。

**14** STORAGE_PATH 項目で、各ストレージ・パス名を 1 度しか指定しないようにしてください。

問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DBT1021N すべてのコンテナー名の合計サイズが大きすぎます。**

**説明:**
コンテナーのリストを保管するのに必要な合計スペースが、表スペース・ファイル内の指定された表スペースに割り振られているスペースを超えています。

**ユーザーの処置:**
以下の 1 つ以上を試みてください。

- シンボリック・リンク、マウント・ファイル・システムなどを使用して、新しいコンテナー名を短縮してください。
- 表スペースのバックアップを行った後で、データベース管理ユーティリティーを使用して、コンテナーの数と名前の長さ、またはそのいずれかを減らしてください。表スペースを新しいコンテナーにリストアしてください。

問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DBT1022N DB2RELOCATEDB ツールは、インスタンス *instance-name* の下で実行しなければなりません。**

**説明:**
誤ったインスタンスから DB2RELOCATEDB ツールを実行しようとしました。 インスタンスを変更している場合には、ツールを新しいインスタンスから実行してください。

**ユーザーの処置:**
正しいインスタンスでコマンドを再度実行してください。

---

**DBT1023N データベース *release-number* が無効です。**

**説明:**
使用されているツールは、データベースの現行リリースと異なるリリースのものです。 コマンドは処理されません。

**ユーザーの処置:**
正しいバージョンのツールを使用してください。 問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DBT1024N データベース名の変更により、ローカル・データベース・ディレクトリーに重複名が作成されました。**

**説明:**
データベースをリネームしようとしましたが、ローカル・データベース・ディレクトリーの項目がすでに同じ名前で存在しているため、失敗しました。

**ユーザーの処置:**
データベース名をまだ存在していない名前に変更するか、または、そのデータベースがもう存在していない場合にはデータベースをアンカタログしてください。 問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DBT1025N データベース・ディレクトリーに、新規または旧データベース名のいずれも見つかりません。**

**説明:**
データベース・パスの検索に必要なデータベース・トークンを判別しようとしましたが、データベース・ディレクトリーに新規データベース名も旧データベース名も見つからなかったため、失敗しました。

**ユーザーの処置:**
旧データベース名のデータベースが存在しており、正しくカタログされているか確認してください。問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DBT1026N コンテナー名 *container-name* の新規データベース・パス *database-path* の置換は、長さ制限を超えています。**

**説明:**
データベース・パスをリネームしようとしましたが、指定したコンテナー名の先頭に追加すると、コンテナー名の長さ制限を超えるため、失敗しました。

**ユーザーの処置:**

データベース・パスまたはコンテナー名、あるいはその両方を、結合したときに長さ制限を超えないように、リネームしてください。 問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DBT1027N　ログ・ディレクトリー・パス *log-path* の新規データベース・パス *database-path* の置換は、長さ制限を超えています。**

**説明:**
データベース・パスをリネームしようとしましたが、指定したログ・ディレクトリー・パスの先頭に追加すると、ログ・ディレクトリー・パスの長さ制限を超えるため、失敗しました。

**ユーザーの処置:**
データベース・パスまたはログ・ディレクトリー・パス、あるいはその両方を、結合したときに長さ制限を超えないように、リネームしてください。 問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DBT1028N　表スペース・ファイルをコピーできません。**

**説明:**
表スペース・ファイル SQLSPCS.1 を複製しようとしましたが、失敗しました。

**ユーザーの処置:**
表スペース・ファイルを複製するのに十分なディスク・スペースがあるか確認してください。 問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DBT1029N　バッファー・プール・ファイルをコピーできません。**

**説明:**
バッファー・プール・ファイル SQLBP.1 を複製しようとしましたが、失敗しました。

**ユーザーの処置:**
バッファー・プール・ファイルを複製するのに十分なディスク・スペースがあるか確認してください。 問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DBT1030N　ローカル・データベース・ディレクトリー・ファイルをコピーできません。**

**説明:**
ローカル・データベース・ディレクトリー・ファイルを複製しようとしましたが、失敗しました。

**ユーザーの処置:**
ローカル・データベース・ディレクトリー・ファイルを複製するのに十分なディスク・スペースがあるか確認してください。 問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DBT1031N　ログ制御ファイルの更新中にエラーが発生しました。**

**説明:**
2 つのログ制御ファイルがあります。

- 1 次ログ制御ファイル SQLOGCTL1.LFH
- 2 次ログ制御ファイル SQLOGCTL2.LFH

  2 次ログ制御ファイルは、1 次ログ制御ファイルのミラー・コピーで、1 次ログ制御ファイルに問題が発生した場合に使用されます。

このエラーは、DB2 データベース・マネージャーが 1 次ログ制御ファイルおよび 2 次ログ制御ファイルのどちらも更新できなかったために戻されました。考えられる理由は、以下のとおりです。

- ログ制御ファイルがデータベース・ディレクトリーに存在しない
- ログ制御ファイルのサイズが大きくなった場合にディスク・スペースが不足する

**ユーザーの処置:**

1. DB2 データベース・マネージャーがログ制御ファイルの更新に失敗した理由を調べて判別します。
2. DB2 データベース・マネージャーによるログ制御ファイルの更新を妨げる問題を訂正します。例えば、
   - 1 次ログ制御ファイルと 2 次ログ制御ファイルがともにデータベース・ディレクトリーに存在することを確認します。
   - ログ制御ファイルのサイズが大きくなった場合に十分なディスク・スペースがあることを確認します。
3. コマンドを再サブミットしてください。

---

**DBT1032N　インスタンスは、現在アクティブではありません。**

**説明:**
ツールでは、処理を行う前に、インスタンスがアクティブになっている必要があります。

**ユーザーの処置:**
db2start を発行してから、コマンドを発行してください。

---

**DBT1033N　インスタンス *instance-name* にアタッチできません。 SQLCODE = *sqlcode*。**

**説明:**
指定されたインスタンスにアタッチしようとして失敗しました。

**ユーザーの処置:**
指定した SQLCODE を調べて、問題を訂正してから、コマンドを再度実行してください。

---

**DBT1034N　コンテナー *container-name* のストリング *string-one* を *string-two* と置き換えると、制限文字数を超えます。**

**説明:**
ワイルドカードを使用してコンテナー・パスの名前を変更しようとしましたが、変更後のパスが長すぎるため、失敗しました。

**ユーザーの処置:**
コンテナー・パスの最大長は 256 文字です。コンテナー・パスを制限文字数内に変更し、コマンドを再発行してください。

---

**DBT1035N　HADR データベース役割をデータベース *database-name* の標準に設定できません。 SQLCODE = *sqlcode*。**

**説明:**
HADR データベース役割を標準に設定することに失敗しました。

**ユーザーの処置:**
指定した SQLCODE を調べて、問題を訂正してから、コマンドを再度実行してください。

---

**DBT1036N　データベース *database-name* の再配置が成功した後、ディレクトリー・キャッシュのリフレッシュができません。 SQLCODE = *sqlcode*。**

**説明:**
必要なディレクトリー・キャッシュのリフレッシュの試行が失敗しました。

**ユーザーの処置:**
現在のノードでインスタンスを再始動し、RELOCATE USING オプションを指定せずに DB2INIDB ツールを再実行してください。問題が解決されない場合は、技術サービス担当者に連絡してください。

---

**DBT1037N　自動ストレージ表スペースに CONT_PATH 項目は指定できません。**

**説明:**
自動ストレージ表スペースのコンテナー・パスを再配置しようとしました。

**ユーザーの処置:**
自動ストレージ表スペースに対応する CONT_PATH 項目を除去してください。自動ストレージ表スペースの再配置に使用できるのは、STORAGE_PATH 項目のみです。

---

**DBT1038N　データベースに自動ストレージは定義されていません。**

**説明:**
自動ストレージが使用可能でないデータベースのストレージ・パスを再配置しようとしました。

**ユーザーの処置:**
構成ファイルから STORAGE_PATH 項目を除去してください。

---

**DBT1039N　ストレージ・グループ・ファイルをコピーできません。**

**説明:**
ストレージ・グループ・ファイル SQLSGF.1 を複製しようとしましたが、失敗しました。

**ユーザーの処置:**
複製ストレージ・グループ・ファイル用に十分なディスク・スペースがあるか確認してください。 問題を訂正して、コマンドを再サブミットしてください。

---

**DBT2002W　テープ終了マーカーを書き込むことができません。理由: *reason***

**説明:**
テープ終了マーカーへの書き込みに失敗しました。

**ユーザーの処置:**
これ以上のアクションは不要です。

---

**DBT2006I　db2tapemgr が正常に完了しました。**

**説明:**
エラーや警告なしで処理が完了しました。

**ユーザーの処置:**
これ以上のアクションは不要です。

---

**DBT2007W　db2tapemgr が警告を出して完了しました。**

**説明:**
db2tapemgr コマンドはエラーなしで完了しましたが、警告が出されました。

**ユーザーの処置:**
詳細情報については、出力を参照してください。

**DBT2008N　db2tapemgr がエラーを出して失敗しました。**

**説明:**
db2tapemgr がエラーを出して完了しました。

**ユーザーの処置:**
詳細情報については、出力を参照してください。

**DBT2009N　内部エラーが発生しました。理由: *error*。**

**説明:**
予期しないエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
さらに取るべき処置については、理由のテキストを参照してください。

**DBT2015W　ログ・ファイル *log-file-name* がディスク上にありません。**

**説明:**
ログ・ファイルが見つかりません。

**ユーザーの処置:**
誤ってログ・ファイルが削除された場合は、ログ・ファイルをリストアしてからコマンドを再発行するか、履歴ファイルの中にある、欠落したログ・ファイルの位置フィールドを更新します。

**DBT2016I　処理するログ・ファイルが見つかりません。**

**説明:**
履歴ファイルにはログ・ファイルに関する情報がありません。

**ユーザーの処置:**
これ以上のアクションは不要です。

**DBT2017N　ラベル *label-one* が磁気テープ・ドライブに挿入されていません。ドライブに挿入されているテープのラベルは *label-two* です。**

**説明:**
2 つの異なるテープが同じ名前を持つことはありません。

**ユーザーの処置:**
正しいテープが磁気テープ・ドライブに入っていることを確認してください。テープが読めない場合は、DELETE TAPE LABEL オプションを使用して、履歴ファイルからこのテープの情報を除去してください。既存の磁気テープ・ラベルを指定した場合は、別のラベルを選択してコマンドを再発行してください。

**DBT2018N　変数 *variable* の値 *value* が無効です。**

**説明:**
指定した値は無効です。

**ユーザーの処置:**
有効な値を指定してください。

**DBT2019N　テープの有効期限が切れていません。テープの有効期限が切れるのは、*expiration-date* です。**

**説明:**
テープの有効期限が切れていないので、書き込みはできません。データベースのリカバリーに必要なログ・ファイルがテープに入っている可能性があります。

**ユーザーの処置:**
DB2_TAPEMGR_TAPE_EXPIRATION の値を削減するか、別のテープを挿入してください。

**DBT2020N　テープのログ・ファイルは別のデータベース *database-name* のものです。**

**説明:**
テープのログ・ファイルは別のデータベースのものです。

**ユーザーの処置:**
別のテープを挿入するか、FORCE オプションを指定してください。

**DBT2021N　テープのログ・ファイルは別のデータベース・インスタンス *instance-name* のものです。**

**説明:**
テープのログ・ファイルは別のデータベース・インスタンスのものです。

**ユーザーの処置:**
別のテープを挿入するか、FORCE オプションを指定してください。

**DBT2022N　テープのログ・ファイルは別のデータベース・パーティション *database-partition* のものです。**

**説明:**
テープのログ・ファイルは別のデータベース・パーティションのものです。

**ユーザーの処置:**
別のテープを挿入するか、FORCE オプションを指定してください。

---

**DBT2027N　テープは、これまでログ・ファイルを保管するために使用されたことのないものです。**

**説明:**
テープの内容が、db2tapemgr によって書き込まれたファイルとして認識されません。

**ユーザーの処置:**
これ以上のアクションは不要です。

---

**DBT2032W　*number-of-log-files* 個のログ・ファイルしかテープに収まりません。**

**説明:**
選択した数のログ・ファイルはテープに収まりません。

**ユーザーの処置:**
この警告を回避するには、n LOGS オプションを使用して、テープに書き込むログ・ファイルの最大数を指定してください。

---

**DBT2036W　履歴ファイルをテープに保管することに失敗しました。理由: *reason***

**説明:**
ログ・ファイルはすでにテープに正常に書き込まれています。

**ユーザーの処置:**
テープがフルの場合は、n LOGS オプションを使用して、テープに書き込むログ・ファイルの数を制限してください。

---

**DBT2039I　履歴の中で、現在テープ *tape-name* にあるログ・ファイルの位置をクリアすることに失敗しました。**

**説明:**
履歴ファイルの中の、ログ・ファイル項目の位置フィールドがクリアされています。ログ・ファイル項目の位置フィールドが空である場合、それはログ・ファイルが削除または上書きされて、データベースのリカバリーに使用できなくなったことを意味します。

**ユーザーの処置:**
これ以上のアクションは不要です。

---

**DBT2047N　テープには、データベース・パーティション番号 *db-partitionnum-1* 用のログ・ファイルが入っていますが、データベース・パーティション番号は *db-partitionnum-2* です。**

**説明:**
テープには、指定されたデータベース・パーティションに対応しないデータベース・パーティションのログが入っています。

**ユーザーの処置:**
正しいデータベース・パーティション番号を指定してください。値を指定しないと、DB2NODE の値が使用されます。

---

**DBT2048I　テープにはデータベース *database-name1* のログ・ファイルが入っていますが、データベース *database-name2* が指定されました。**

**説明:**
テープには、別のデータベースのログ・ファイルが入っています。

**ユーザーの処置:**
リダイレクトしたリストア操作を実行する場合にだけ、先に進んでください。

---

**DBT2049I　テープにはインスタンス *instance1* のログ・ファイルが入っていますが、インスタンス *instance2* が指定されました。**

**説明:**
テープには、別のデータベース・インスタンスのログ・ファイルが入っています。

**ユーザーの処置:**
リダイレクトしたリストア操作を実行する場合にだけ、先に進んでください。

---

**DBT2050I　ログ・ファイル *log-file* はディスクにあります。**

**説明:**
ログ・ファイルはすでにディスク上にあるので、テープから検索されません。

**ユーザーの処置:**

ログ・ファイルをテープから検索し直すには、ディスク上のログ・ファイルを削除して、RETRIEVE オプションを指定します。それ以外の場合、これ以上のアクションは不要です。

---

**DBT2051N　履歴ファイルに、一致するバックアップが見つかりません。**

**説明:**
履歴ファイルにバックアップが入っていません。

**ユーザーの処置:**
別のロールフォワード時間を指定して、コマンドを再発行してください。あるいは、ALL LOGS または LOGS n TO m オプションを使用して、手動でログ・ファイルをリストアしてください。

---

**DBT2052I　必須のログ・ファイルが見つかりませんでした。**

**説明:**
ロールフォワード操作にはログ・ファイルが必須です。

**ユーザーの処置:**
履歴ファイルが現行のものである場合、これ以上のアクションは不要です。それ以外の場合、履歴ファイルにはロールフォワード操作に必要な情報すべてが入っていない可能性があります。その場合は、RETRIEVE HISTORY FILE オプションを使用して最新のテープから履歴ファイルをリストアし、 USING HISTORY FILE オプションを指定してコマンドを再発行してください。

---

**DBT2053I　必須のログ・ファイルがテープ上にありません。**

**説明:**
ロールフォワード操作のためにテープからログ・ファイルを検索する必要があると指定している項目は、履歴ファイルにありません。

**ユーザーの処置:**
履歴ファイルが現行のものである場合、これ以上のアクションは不要です。現行のものではない場合は、履歴ファイルにロールフォワード操作に必須のすべての情報が含まれていない可能性があります。その場合は、RETRIEVE HISTORY FILE オプションを使用して最新のテープから履歴ファイルをリストアし、 USING HISTORY FILE オプションを指定してコマンドを再発行してください。

---

**DBT2054I　タイム・スタンプ *timestamp* に取得されたバックアップに必須のログ・ファイル:**

**説明:**
ロールフォワードにはログ・ファイルが必要です。

**ユーザーの処置:**
履歴ファイルが最新のものである場合、これ以上のアクションは不要です。それ以外の場合、履歴ファイルにはロールフォワード操作に必要な情報すべてが入っていない可能性があります。その場合は、RETRIEVE HISTORY FILE オプションを使用して最新のテープから履歴ファイルをリストアし、 USING HISTORY FILE オプションを指定してコマンドを再発行してください。

---

**DBT2055I　ロールフォワード操作にテープは不要です。**

**ユーザーの処置:**
履歴ファイルが最新のものである場合、これ以上のアクションは不要です。それ以外の場合、履歴ファイルにはロールフォワード操作に必要な情報すべてが入っていない可能性があります。その場合は、RETRIEVE HISTORY FILE オプションを使用して最新のテープから履歴ファイルをリストアし、 USING HISTORY FILE オプションを指定してコマンドを再発行してください。

---

**DBT2062I　データベース *database-name* に対して作業を実行します。**

**説明:**
DATABASE オプションが指定されていません。デフォルト値 (DB2DBDFT 変数によって制御される) が使用されます。

**ユーザーの処置:**
別のデータベースに操作を加えるには、DATABASE オプションを指定してください。

---

**DBT2063N　DATABASE オプションが指定されておらず、DB2DBDFT が設定されていません。**

**ユーザーの処置:**
DATABASE オプションを指定するか、DB2DBDFT 変数を設定してください。

---

**DBT2065I　データベース・パーティション *partition-number* を使用します。**

**説明:**
デフォルト値は 0 か、DB2NODE 変数の値です。

**ユーザーの処置:**

データベース・パーティションを変更するには、DATABASE オプションを指定するか、DB2DBDFT 変数を設定してください。

---

**DBT2067N　ディレクトリーが指定されておらず、データベース構成パラメーター OVERFLOWLOGPATH が設定されていません。**

**説明:**
検索操作では、宛先ディレクトリーを設定することが必要です。

**ユーザーの処置:**
TO オプションを指定するか、OVERFLOWLOGPATH データベース構成パラメーターを設定します。

---

**DBT2068N　データベース構成パラメーター OVERFLOWLOGPATH の値 *value* が、ディレクトリーではありません。**

**ユーザーの処置:**
OVERFLOWLOGPATH ディレクトリーが存在していることを確認してください。

---

**DBT2069N　同じテープに二重保管することはできません。**

**説明:**

**ユーザーの処置:**
二重保管操作用に、別のテープを選択してください。

---

**DBT2071I　自動生成された磁気テープ・ラベル *label* を使用します。**

**説明:**
ラベルのフォーマットは、現在時刻にデータベース別名が続くものとなります。

**ユーザーの処置:**
表ラベルを指定するには、TAPE LABEL オプションを使用してください。

---

**DBT2102N　ファイル名 *filename1* が *filename2* と一致しません。**

**説明:**
ファイル名が、予想されるファイル名に一致しません。別のプログラムがファイルをテープに書き込んだ場合、これが生じる可能性があります。

**ユーザーの処置:**
これ以上のアクションは不要です。

---

**DBT2103N　ディレクトリー *directory-name* が存在しません。**

**説明:**
指定されたディレクトリーは存在しません。

**ユーザーの処置:**
指定されたディレクトリーを作成してください。

---

**DBT2104N　ファイル *file-name* が見つかりました。**

**説明:**
このテープには複数のファイルがあります。

**ユーザーの処置:**
これ以上のアクションは不要です。

---

**DBT2106N　データベース *database-name* はリモートです。**

**説明:**
指定されたデータベースはリモート・データベースとしてカタログされています。db2tapemgr はローカル・データベースでしか使用できません。

**ユーザーの処置:**
ローカルにログインし、ツールを再呼び出ししてください。

---

**DBT2108N　データベース・ディレクトリーにデータベース *database-name* が見つかりません。**

**説明:**
指定されたデータベースがデータベース・ディレクトリーに見つかりません。

**ユーザーの処置:**
別のデータベース名を選択するか、データベースが存在しているなら、データベースがカタログされていることを確認します。

---

**DBT2109N　パラメーター *parameter* が期待されています。**

**説明:**
指定されているパラメーターが期待されています。

**ユーザーの処置:**
正しい構文で再度コマンドを発行してください。

---

**DBT2110N　パラメーター *parameter* の値 *value* は長すぎます。**

**説明:**
このパラメーターの指定された値は長すぎます。

**ユーザーの処置:**

正しい構文で再度コマンドを発行してください。

**DBT2111N　パラメーター *parameter* の値 *value* は短すぎます。**

**説明:**
このパラメーターの指定された値は短すぎます。

**ユーザーの処置:**
正しい構文で再度コマンドを発行してください。

**DBT2112N　装置 *device-name* は磁気テープ装置ではありません。**

**説明:**
指定された装置は、磁気テープ装置として認識されていません。

**ユーザーの処置:**
認識されている磁気テープ装置名を指定して、コマンドを再発行してください。

**DBT2113N　装置 *device-name* は巻き戻し装置です。**

**説明:**
指定された装置は、非巻き戻し磁気テープ装置として認識されていません。

**ユーザーの処置:**
認識されている磁気テープ装置名を指定して、コマンドを再発行してください。

**DBT2114N　履歴ファイル *history-file* は存在しません。**

**説明:**
指定された履歴ファイルは存在していません。

**ユーザーの処置:**
履歴ファイルへのパスを検査し、コマンドを再発行してください。

**DBT2115N　履歴ファイル *history-file* は、*value* で終了していません。**

**説明:**
指定された履歴ファイルは、db2rhist.asc で終了していません。

**ユーザーの処置:**
履歴ファイルのファイル名を検査し、コマンドを再発行してください。

**DBT2116N　パラメーター *parameter* の値 *value* が英数字ではありません。**

**説明:**
パラメーターの値は英数字でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
正しい構文で再度コマンドを発行してください。

**DBT2117N　パラメーター *parameter* の値 *value* は範囲外です。**

**説明:**
パラメーターの値が範囲外です。

**ユーザーの処置:**
正しい構文で再度コマンドを発行してください。

**DBT2118N　パラメーターのブロック・サイズは 512 の倍数でなければなりません。**

**ユーザーの処置:**
512 の倍数のブロック・サイズを選択し、コマンドを再発行してください。

**DBT2119N　パラメーター *parameter* の値 *value* が数値ではありません。**

**ユーザーの処置:**
正しい構文で再度コマンドを発行してください。

**DBT2120N　操作が指定されていません。**

**説明:**
操作を指定するパラメーターが指定されていません。

**ユーザーの処置:**
正しい構文で再度コマンドを発行してください。

**DBT2121N　不明な操作 *operation* が指定されています。**

**ユーザーの処置:**
正しい構文で再度コマンドを発行してください。

**DBT2122N　以下のコマンド・パラメーターに指定されているコマンド引数が多すぎます: *parameter*。**

**ユーザーの処置:**
正しい構文で再度コマンドを発行してください。

**DBT2123N　時刻形式 *time-format* は無効です。**

**説明:**
時刻形式は YYYY-MM-DD:HH:MM:SS という形式に準拠していなければなりません。

**ユーザーの処置:**
正しい時刻形式の構文でコマンドを再発行してください。

**DBT2124N　ログ・ファイルの数を削減することはできません。**

**ユーザーの処置:**
n LOGS オプションを使用してテープに書き込むログ・ファイルの量を制限し、コマンドを再発行してください。

**DBT2125N　ファイル *file-name1* はテープ・ヘッダー・ファイルではありません。ファイル *file-name2* が見つかりました。**

**説明:**
テープには別のタイプのファイルが入っています。別のプログラムがファイルをテープに書き込んだ場合、これが生じる可能性があります。

**ユーザーの処置:**
これ以上のアクションは不要です。

**DBT2126N　無効なテープ・ヘッダー・フォーマット。**

**説明:**
テープ・ヘッダーの内容は認識されません。

**ユーザーの処置:**
テープから手動でログ・ファイルを検索してみてください。

**DBT2127N　更新中に履歴ファイルに変更が加えられました。**

**説明:**
別のプロセスが履歴ファイルに更新を加えたため、履歴ファイルの更新は失敗しました。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再発行してください。

**DBT2128N　オープン・スキャンの最大値が限界を超過しました。**

**説明:**
履歴ファイルにアクセス中のプロセスが多すぎるため、履歴ファイルの読み取りが失敗しました。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再発行してください。

**DBT2129W　損傷した履歴ファイルが修正されました。**

**説明:**
損傷した履歴ファイルが自動的に修正されました。

**ユーザーの処置:**
これ以上のアクションは不要です。

**DBT2130N　履歴ファイルを修正できません。**

**説明:**
損傷した履歴ファイルが検出されましたが、これを修正できません。

**ユーザーの処置:**
別のバージョンの履歴ファイルをリストアし、コマンドを再発行してください。

**DBT2131N　履歴ファイル内の表スペースの数が変更されました。**

**説明:**
履歴ファイルの内容が、別のプロセスによって変更されました。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再発行してください。

**DBT2132N　履歴ファイルの中に、重複したタイム・スタンプが存在しています。**

**説明:**
履歴ファイルに、タイム・スタンプの同じ複数の項目が入っています。

**ユーザーの処置:**
別のバージョンの履歴ファイルをリストアし、コマンドを再発行してください。

**DBT2138N　履歴ファイルは現行のパーティションに対応していません。**

**ユーザーの処置:**
ユーティリティーの開始時に指定した ON DBPARTITIONNUM パラメーターに対応する履歴ファイルを指定してください。ユーティリティー開始時にこのパラメーターが指定されていない場合は、値 DB2NODE が使用されています。

# 第 12 章 DQP メッセージ

**DQP0001E　コマンドにデータベース名を指定してください。**

**説明:**
コマンド構文により、データベース名の指定が必要です。

**ユーザーの処置:**
コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

データベース名を指定して、再度コマンドを発行してください。

**DQP0002E　Query Patroller は、データベース *databasename* に接続できません。**

**説明:**
Query Patroller は、*databasename* データベースへの接続を確立できませんでした。

**ユーザーの処置:**
データベース名が正しく、データベース・マネージャーが実行中であることを確認してください。

このメッセージが表示された原因については、qpdiag.log ファイルを参照してください。 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

**DQP0003E　Query Patroller サーバーを始動できません。**

**説明:**
Query Patroller を始動できませんでした。

**ユーザーの処置:**
このメッセージが表示された原因については、qpdiag.log ファイルを参照してください。 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

**DQP0004E　Query Patroller サーバーを停止できません。**

**説明:**
Query Patroller サーバーを停止できません。

**ユーザーの処置:**
Query Patroller サーバーを停止しようとした時に、実際に Query Patroller サーバーが実行中であったか確認してください。 このメッセージが表示された原因については、qpdiag.log ファイルを参照してください。 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

**DQP0005E　データベース *databasename* に対する Query Patroller 構成が見つかりません。**

**説明:**
データベース *databasename* に対する構成が見つかりません。

**ユーザーの処置:**
qpstop コマンドを発行して、Query Patroller を停止してください。

**DQP0006E　Java プロパティー・ファイル *filename* が見つかりません。**

**説明:**
必要なプロパティー・ファイル *filename* が見つかりません。

**ユーザーの処置:**
sqllib/msg/<locale>/qp/ ディレクトリーをチェックして、プロパティー・ファイルが存在するかどうか判別してください。

問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

**DQP0007E　内部エラー *error* が発生しました。**

**説明:**
処理中に内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージが表示された原因については、qpdiag.log ファイルを参照してください。 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

**DQP0008E　ユーザー *username* はサブミッター・プロファイルを持っていません。**

**説明:**
ユーザーは、それぞれサブミッター・プロファイルを持っている必要があります。

**ユーザーの処置:**
管理者が、ユーザー用にサブミッター・プロファイルを定義するよう要求してください。

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

**DQP0009E　ファイル *filename* をオープンできません。**

**説明:**
指定されたファイルをオープンしようとしてエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
ファイルが存在し、その許可が正しいかどうか、確認してください。

このメッセージが表示された原因については、qpdiag.log ファイルを参照してください。 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**DQP0010E　ユーザー *user-ID* は有効なサブミッター・プロファイルを持っていません。**

**説明:**
ユーザー *user-ID* には、Query Patroller の有効なサブミッター・プロファイルがありません。以下の 1 つ以上の理由により、発生している可能性があります。

- ユーザーにサブミッター・プロファイルがない可能性があります。
- ユーザーに所属しているユーザーまたはグループ、あるいはその両方のサブミッター・プロファイルが一時停止となる可能性があります。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に、サブミッター・プロファイルを作成するか、またはサブミッター・プロファイルを再活動化するよう要求してください。

---

**DQP0011E　*property-file1* および *property-file2* のいずれも見つからなかったため、サブミット設定ダイアログを表示できません。**

**説明:**
プロパティー・ファイルが見つかりません。 この結果、サブミット設定ダイアログを表示できません。

**ユーザーの処置:**
ファイルが存在するかどうか確認してください。

---

**DQP0012E　データベース *databasename* は、Query Patroller で使用するためにセットアップされていません。**

**説明:**
Query Patroller をデータベース上で使用するには、そのデータベースが含まれるサーバーに、 Query Patroller をインストールする必要があります。 Query Patroller のインストール中に、管理対象となるデータベースの照会を選択し、 Query Patroller コントロール表およびストアード・プロシージャーが、このデータベースで作成されます。 Query Patroller を使用して、追加データベースの照会を管理する必要がある場合、データベースごとに、qpsetup コマンドを実行しなければなりません。

**ユーザーの処置:**
データベースが含まれるサーバーに Query Patroller をインストールするよう、管理者に要求するか、すでにサーバーにインストールされている場合には、そのデータベースに対して qpsetup コマンドを実行し、Query Patroller をセットアップするよう要求してください。

qpsetup コマンドがデータベースに対して実行されていても問題が解決しない場合は、 UNIX では INSTPATH/function にファイル db2qp、および INSTPATH/function/unfenced にファイル db2qpt があるかどうかを、Windows では INSTPATH¥function にファイル db2qp.dll、および INSTPATH¥function¥unfenced に db2qpt.dll があるかどうかをチェックしてください。 INSTPATH は、DB2 インスタンス・ディレクトリーを意味します。これらのファイルが存在する場合、このメッセージが表示された考えられる原因について qpdiag.log を参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**DQP0019E　*command-name* コマンドを発行するには、SYSADM 権限が必要です。**

**説明:**
このコマンドには SYSADM 権限が必要です。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に、このコマンドを実行するよう要求してください。

---

**DQP0020E　この機能はサポートされていません。 理由コード = *reason-code*。**

**説明:**
以下の理由コードによって示されている制限に違反しているため、ステートメントを処理できません。

**1**　機能が使用できないため、接続コード・ページを設定できません。

**2**　制約事項が不明です。

**ユーザーの処置:**
理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。

**1**　Query Patroller クライアントを新しいバージョンに更新してください。

**2**　問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**DQP0021E　DB2 サーバーと Query Patroller サーバーの製品レベルが異なります。**

**説明:**
DB2 サーバーと Query Patroller サーバーの製品レベルは、同じでなければなりません。

**ユーザーの処置:**
DB2 サーバーと Query Patroller サーバーが、同じ製品レベルであるかどうか確認してください。 Query Patroller サーバーをインストールする前に、DB2 サーバーにフィックスパックを適用している場合は、そのフィックスパックを再適用してください。

製品の前提条件の記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

**DQP0024E　予期しないエラー *error* が発生しました。**

**説明:**
予期しないエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
このエラーが表示された原因については、qpdiag.log ファイルを参照してください。

**DQP0025E　タイム・スタンプ・フォーマット *format* が無効です。**

**説明:**
ユーザーが指定したタイム・スタンプ・フォーマットが無効です。 正しいタイム・スタンプ・フォーマットは YYYY-MM-DD HH24:MI:SS です。

**ユーザーの処置:**
コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

正しいタイム・スタンプ・フォーマットを指定し、コマンドを再実行してください。

**DQP0406E　最大数 *maxnumber* のクエリー・コントローラーがすでに実行中のため、クエリー・コントローラーを開始できません。**

**説明:**
許可されているクエリー・コントローラーの最大数よりも多くのクエリー・コントローラーを開始しようとしました。

**ユーザーの処置:**
現在実行中のクエリー・コントローラーの 1 つを使用してください。

**DQP0408E　コマンド *commandname* を実行するには、DBADM 権限が必要です。**

**説明:**
コマンド *command-name* には、DBADM 権限が必要です。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に DBADM 権限を付与するよう要求し、コマンドを再発行してください。

**DQP0409E　Query Patroller のシステム設定が存在しません。**

**説明:**
システム設定が存在しない場合には、Query Patroller を実行することはできません。

**ユーザーの処置:**
qpsetup コマンドを発行して、 Query Patroller システム設定を作成してください。

qpsetup コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

**DQP0410E　PUBLIC グループのサブミット設定が存在しません。**

**説明:**
PUBLIC グループに対するサブミット設定が存在しない場合には、Query Patroller を実行することはできません。

**ユーザーの処置:**
PUBLIC グループに対するサブミット設定を再作成し、qpstart コマンドを発行して Query Patroller を開始してください。

**DQP0412I　データベース接続が再確立されました。**

**説明:**
データベース接続が再確立されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP0413E　データベース接続は失われました。Query Patroller が終了しました。**

**説明:**
データベース接続は失われました。この結果、Query Patroller が終了しました。

**ユーザーの処置:**
データベース接続を再確立してから qpstart コマンドを発行して Query Patroller を再始動してください。

**DQP0414E　アクティブな照会があるため、Query Patroller を停止しませんでした。**

**説明:**
キューに入っている照会またはアクティブな照会があるため、Query Patroller を停止しませんでした。

**ユーザーの処置:**
FORCE オプションを使用して、コマンドを再実行してください。 アクティブな照会が強制されると、Query Patroller を再始動し、照会のリカバリーが完了するまでは、これらの照会は不整合状態になります。

**DQP0415I　照会の見積コストが、ユーザーのサブミッター・プロファイルに許可された最大数を超えています。**

**説明:**
照会は保留となります。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に、照会を実行または取り消すように要求してください。

**DQP0416E　照会の見積コストが、システムの最大照会コストを超えています。**

**説明:**
照会は保留となります。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に、照会を実行または取り消すように要求してください。

**DQP0417E　実行中の照会数がシステムで許可されている最大数に到達しました。**

**説明:**
照会はキューに入れられます。

**ユーザーの処置:**
実行中の照会数が、システムで許可されている最大数まで減ると、照会が自動的に実行されます。

**DQP0418E　ユーザー *username* に対して実行されている照会の数が、サブミッター・プロファイルに許可された最大数を超えています。**

**説明:**
照会はキューに入れられます。

**ユーザーの処置:**
実行中の照会数が、システムで許可されている最大数まで減ると、照会が自動的に実行されます。

**DQP0419E　照会クラス *queryclassnumber* の下で実行中の照会の数は、この照会クラスに許可されている最大数です。**

**説明:**
照会はキューに入れられます。

**ユーザーの処置:**
実行中の照会数が、照会クラスで許可されている最大数まで減ると、照会が自動的に実行されます。

**DQP0420I　見積コストと現行システム・ワークロードの合計が、許可されている最大システム・ワークロードを超えています。**

**説明:**
サブミットされている照会の見積コストと現行システム・ワークロードの合計が、許可されている最大システム・ワークロードを超えています。

**ユーザーの処置:**
必要に応じて、システム・ワークロードの最大許可数を増やしてください。

**DQP0421I　照会の見積コストが、許可されている最大システム・ワークロードを超えました。**

**説明:**
照会の見積コストが、許可されている最大システム・ワークロードを超えているために、照会は保留となります。

**ユーザーの処置:**
照会を実行できるように、管理者に照会を解放するよう要求するか、または許可される最大システム・ワークロードを増やしてください。

**DQP0422E　DB2 Query Patroller ライセンスが見つかりません。**

**説明:**
DB2 Query Patroller が見つからないか、期限が切れています。

**ユーザーの処置:**
製品の完全許可版があるバージョンのライセンス・キーをインストールしてください。製品のライセンス・キーの取得に関しては、弊社または販売店でお訪ねください。

**DQP0423E　Query Patroller はすでに開始済みです。**

**説明:**
Query Patroller はすでに実行中のため、開始できません。

**ユーザーの処置:**
Query Patroller を再始動するには、qpstop コマンドを発行してから qpstart を発行してください。

---

**DQP0424E　Query Patroller の開始コマンドが出されていません。**

**説明:**
Query Patroller の開始コマンドは処理されていません。Query Patroller の停止コマンドを発行する前に、処理されている必要があります。

**ユーザーの処置:**
Query Patroller の開始コマンド qpstart を発行してから、現行コマンドを再発行してください。

---

**DQP0431E　DB2 Query Patroller サービスを始動できませんでした。 理由コード *reason-code***

**説明:**
理由コードに対応する説明は、以下のとおりです。

1. サービスが存在しません。
2. 現行ユーザーは、サービスを開始または停止するための適切な権限を持っていません。
3. サービスを開始できません。
4. サービスのログオン情報は正しくありません。

**ユーザーの処置:**
理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。

1. サービスが存在するかどうか確認してください。 サービスが存在しない場合、手動で除去されたか、DB2 Query Patroller のインストールが正常に完了しなかった可能性があります。 いずれの場合でも、DB2 Query Patroller を再インストールする必要があります。
2. サービスのログオン情報が正しいことを確認し、コマンドを再発行してください。
3. コマンドを再発行してください。問題が解決しない場合は、システムシステム管理者に連絡するか、このメッセージが表示された原因について、qpdiag.log ファイルを参照してください。
4. サービスのログオン情報が正しいことを確認し、コマンドを再発行してください。

---

**DQP0432E　DB2 Query Patroller Java プロセスと通信できません。**

**説明:**
コマンドは、DB2 Query Patrollerの Java プロセスを正常に作成しましたが、出力を入手しようとするときに通信エラーがありました。 ネットワーク・エラーが存在するか、Java プロセスが異常終了した場合に、通信エラーが発生する可能性があります。

**ユーザーの処置:**
このメッセージが表示された原因については、qpdiag.log ファイルを参照してください。 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**DQP1001E　指定された日付および時刻は無効です。**

**説明:**
指定された日付または時間が、誤ったフォーマットになっています。

**ユーザーの処置:**
正しいフォーマットの日時を入力してください。

---

**DQP1002E　指定される開始日時は、終了日時よりも前でなければなりません。**

**説明:**
指定される開始日時は、終了日時よりも前でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
終了日時よりも前に発生する開始日時を指定してください。

---

**DQP1003E　日付の整合性に違反するため、操作が打ち切られました。 SQLSTATE = *sqlstate*。**

**説明:**
Query Patroller のコントロール表には、そこに含まれているデータの整合性を保護するためのトリガーがあります。 そのようなトリガーは、試行されたアクションを介して活動化されています。 構成の整合性の制約違反により、操作が打ち切られました。

**ユーザーの処置:**
qpschema.sql ファイルを調べて、SQLSTATE のシグナルを出したトリガーを見つけてください。この調査を基に、再びトリガーがアクションを打ち切らないように、必要な調整を行ってください。

---

**DQP1004E　メモリーの割り振りエラーが発生しました。**

**説明:**
処理を続行することのできる十分なメモリーがありません。

**ユーザーの処置:**
システムに十分なメモリーがあるか確認してください。

システム・メモリー要件については、Query Patroller の資料を参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**DQP1005E　時刻範囲を 2 年より大にすることはできません。**

**説明:**
指定された時刻範囲が 2 年を超えています。

**ユーザーの処置:**
次の 2 年以内の時刻範囲を指定して、再度コマンドを発行してください。

---

**DQP1006E　SQL ステートメント *sqlstmt* が失敗しました。SQLCODE *SQLCODE*。**

**説明:**
SQL ステートメントが失敗しました。

**ユーザーの処置:**
このメッセージの原因については、qpdiag.log ファイルをチェックしてください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**DQP1008E　SQL データ・タイプ *datatype* はサポートされていません。**

**説明:**
SQL データ・タイプはサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
サポートされる SQL データ・タイプに関する情報については、Query Patroller の資料を参照してください。

---

**DQP1009E　結果宛先が大きすぎて表示できません。**

**説明:**
結果がコントロール表の最大サイズ限度を超えているため、クエリー・パトローラー・センターおよび Query Patroller コマンド行プロセッサーは、結果を戻すことができません。

**ユーザーの処置:**
照会を再サブミットして、結果が結果表に保管されるのではなく、アプリケーションに戻されることを確認してください。

照会がバックグラウンドで実行されたために結果表を生成した場合は、結果が戻されるまで待機するようサブミット設定を設定して、照会を再サブミットしてください。

照会が保留後に実行されたために、結果表が生成された場合は、照会を保留せずに再サブミットできるように、サブミッター・プロファイルの照会コストを上げるよう管理者に要求してください。

別の方法として、結果表から直接選択するよう選択することもできますが、結果表の列の名前はユーザーの照会の名前と一致せず、結果表には追加の列である A0000 が含まれます。

---

**DQP1010E　ファイル *filename* にアクセスできません。**

**説明:**
指定されたファイルにアクセスできません。

**ユーザーの処置:**
ファイルが存在し、ファイル許可が正しいかどうか、確認してください。

---

**DQP1011E　ユーザー *username* はこのコマンドの発行を許可されていません。**

**説明:**
ユーザーが必要な許可レベルを所有していないため、コマンドを実行できません。

**ユーザーの処置:**
必要な許可については、Query Patroller の資料をチェックしてください。ユーザーに必要な権限を付与するようデータベース管理者に要求して、コマンドを再発行してください。

---

**DQP1012E　ファイル *filename* は存在しません。**

**説明:**
指定されたファイルが存在しません。

**ユーザーの処置:**
ファイルが存在するかどうか確認してください。 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**DQP1023E　ファイル *filename* へ保管中に、エラーが発生しました。**

**説明:**
このメッセージが表示される原因として、次のものがあります。

- ファイルに、正しいファイル許可がない。
- ファイル名が、ファイル・システム規則に準拠していません。

**ユーザーの処置:**
可能な解決方法は、以下のとおりです。

- ファイル許可を確認してください。
- 正しいファイル名を指定してください。

**DQP1024W　照会クラスの作成、変更、除去は、Query Patroller サーバーが再始動されるまで反映されません。**

**説明:**
照会クラスの作成、変更、または削除を行ったところです。これは、Query Patroller サーバーによる詳細の処理方法の動作を変更します。 この動作の変更は、 Query Patroller が次回開始されるまで発生しません。

**ユーザーの処置:**
Query Patroller サーバーが実行中のコンピューターで、qpstop, qpstart の順でコマンドを実行し、Query Patroller を再始動するよう管理者に要求してください。

---

**DQP1025W　更新は、Query Patroller サーバーの再始動まで反映されません。**

**説明:**
設定は、Query Patroller サーバーの再始動まで反映されません。

**ユーザーの処置:**
Query Patroller サーバーを再始動して、変更を反映させてください。

---

**DQP1026W　更新が正常に行われました。 ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。**

**説明:**
更新が正常に行われました。 ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

**ユーザーの処置:**
Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

---

**DQP1028E　ネットワークの操作が妥当な時間内に完了しませんでした。コマンドを完了することができません。**

**説明:**
ネットワークの操作が妥当な時間内に完了しませんでした。コマンドを完了することができません。

**ユーザーの処置:**
ネットワークが混んでいない時に、コマンドを再実行してください。 問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡し、ネットワーク・エラーがないかどうか分析してください。

---

**DQP2020E　パス *path* が無効です。**

**説明:**
指定したパスは無効です。

**ユーザーの処置:**
パスを確認し、コマンドを再実行してください。

---

**DQP2101I　ユーザー *username* の演算子プロファイルは正常に追加されました。**

**説明:**
このユーザーの演算子プロファイルが作成されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2102I　グループ *groupname* の演算子プロファイルが正常に追加されました。**

**説明:**
このグループの演算子プロファイルが作成されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2103I　ユーザー *username* の演算子プロファイルが正常に更新されました。**

**説明:**
既存のユーザー演算子プロファイルが更新されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2104I　グループ *groupname* の演算子プロファイルが正常に更新されました。**

**説明:**
既存のグループ演算子プロファイルが更新されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2105I　ユーザー *username* の演算子プロファイルが正常に除去されました。**

**説明:**
ユーザーの演算子プロファイルが除去されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2106I　グループ *groupname* の演算子プロファイルが正常に除去されました。**

**説明:**
グループの演算子プロファイルが除去されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2107E　ユーザー *username* の演算子プロファイルが存在しません。**

**説明:**
ユーザーの演算子プロファイルが定義されていません。

**ユーザーの処置:**
指定されたユーザー名が正しいことを確認して、コマンドを再発行してください。

**DQP2108E　グループ *groupname* の演算子プロファイルが存在しません。**

**説明:**
グループの演算子プロファイルが定義されていません。

**ユーザーの処置:**
指定されたグループ名が正しいことを確認して、コマンドを再発行してください。

**DQP2109E　ユーザー *username* の演算子プロファイルはすでに存在しています。**

**説明:**
ユーザーの演算子プロファイルはすでに存在しています。

**ユーザーの処置:**
指定されたユーザー名がユニークであることを確認して、コマンドを再発行してください。

**DQP2110E　グループ *groupname* の演算子プロファイルはすでに存在しています。**

**説明:**
グループの演算子プロファイルはすでに存在しています。

**ユーザーの処置:**
指定されたグループ名がユニークであることを確認して、コマンドを再発行してください。

**DQP2111I　演算子プロファイルが定義されていません。**

**説明:**
表示する演算子プロファイルが定義されていません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2112I　照会クラス *queryclassID* は正常に追加されました。**

**説明:**
新規照会クラスが定義されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2113I　照会クラス *queryclassID* は正常に更新されました。**

**説明:**
既存の照会クラスが更新されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2114I　照会クラス *queryclassID* は正常に除去されました。**

**説明:**
照会クラスが除去されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2115E　照会クラス *queryclassID* は存在しません。**

**説明:**
照会クラスが存在しません。

**ユーザーの処置:**
指定された照会クラス ID が正しいことを確認して、コマンドを再発行してください。

**DQP2116E　同じ最大照会コスト値を持つ照会クラスがすでに存在します。**

**説明:**
照会クラスがすでに存在します。

**ユーザーの処置:**
まだ存在しない照会クラスを指定して、コマンドを再実行してください。

**DQP2117I　照会クラスが定義されていません。**

**説明:**
既存の照会クラスはありません。 リストにも情報がありません。

**ユーザーの処置:**

アクションは不要です。

**DQP2118I　ユーザー *username* のサブミッター・プロファイルが正常に追加されました。**

**説明:**
このユーザーに対する新規ユーザー・サブミッター・プロファイルが作成されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2119I　グループ *groupname* のサブミッター・プロファイルが正常に追加されました。**

**説明:**
このグループの新規グループ・サブミッター・プロファイルが作成されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2120I　ユーザー *username* のサブミッター・プロファイルが正常に更新されました。**

**説明:**
既存のユーザー・サブミッター・プロファイルが更新されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2121I　グループ *groupname* のサブミッター・プロファイルが正常に更新されました。**

**説明:**
既存のグループ・サブミッター・プロファイルが更新されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2122I　ユーザー *username* のサブミッター・プロファイルが正常に除去されました。**

**説明:**
ユーザー・サブミッター・プロファイルが除去されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2123I　グループ *groupname* のサブミッター・プロファイルが正常に除去されました。**

**説明:**
グループ・サブミッター・プロファイルが除去されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2124E　ユーザー *username* のサブミッター・プロファイルが存在しません。**

**説明:**
このユーザーのサブミッター・プロファイルは存在しません。

**ユーザーの処置:**
既存のユーザー名を指定して、再度コマンドを発行してください。

**DQP2125E　グループ *groupname* のサブミッター・プロファイルが存在しません。**

**説明:**
このグループのサブミッター・プロファイルが存在しません。

**ユーザーの処置:**
既存のグループ名を指定して、再度コマンドを発行してください。

**DQP2126E　ユーザー *username* のサブミッター・プロファイルはすでに存在します。**

**説明:**
このユーザーのサブミッター・プロファイルは存在しています。

**ユーザーの処置:**
ユニークなユーザー名を指定して、再度コマンドを発行してください。

**DQP2127E　グループ *groupname* のサブミッター・プロファイルはすでに存在します。**

**説明:**
このグループのサブミッター・プロファイルは存在しています。

**ユーザーの処置:**
ユニークなグループ名を指定して、再度コマンドを発行してください。

**DQP2128I　サブミッター・プロファイルが存在しません。**

**説明:**
サブミッター・プロファイルがありません。 リストにも情報がありません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2129I　Query Patroller システムの設定が正常に更新されました。**

**説明:**
Query Patroller システムの設定が正常に更新されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2130E　照会 *queryID* は存在しません。**

**説明:**
指定された照会 ID は存在しません。

**ユーザーの処置:**
存在する照会 ID を指定して、再度コマンドを発行してください。

**DQP2131I　入力基準に一致する照会がありません。**

**説明:**
入力基準に一致する照会がないため、リストする情報がありません。

**ユーザーの処置:**
必要な場合には入力基準を変更してください。

**DQP2132I　ユーザー *username* の新規サブミット設定が追加されました。**

**説明:**
ユーザーに対して新規ユーザー・サブミット設定が作成されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2133I　ユーザー *username* のサブミット設定が正常に更新されました。**

**説明:**
既存のサブミット設定が更新されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2134I　ユーザー *username* のサブミット設定が除去されました。 このユーザーは、デフォルトのサブミット設定を使用します。**

**説明:**
個人のサブミット設定が除去されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2135E　ユーザー *username* のサブミット設定はすでに存在します。**

**説明:**
このユーザーのサブミット設定はすでに存在しています。

**ユーザーの処置:**
ユニークなユーザー名を指定して、再度コマンドを発行してください。

**DQP2136I　すべての結果表が正常に除去されました。**

**説明:**
すべての結果表がドロップされました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2137I　ドロップする既存の結果表がありません。**

**説明:**
ドロップする結果表がありません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2138I　ユーザー *username* に所属する結果表が正常に除去されました。**

**説明:**
結果表がドロップされました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2139I　ユーザー *username* に属す結果表がありません。 何も除去されませんでした。**

**説明:**
ドロップする結果表がありません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2140I　照会 *queryID* の結果表が正常に除去されました。**

**説明:**
結果表がドロップされました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2141I　照会 *queryID* の結果表が存在しません。何も除去されませんでした。**

**説明:**
指定された照会の結果表が存在しません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2142E　照会 *queryID* が正しい状態にありません。**

**説明:**
照会は、コマンドを実行する正しい状態ではありません。

**ユーザーの処置:**
照会の状態を確認し、コマンドを再実行してください。

**DQP2143E　無効な時間単位 *timeunit* がパラメーター *parametername* に対して指定されました。**

**説明:**
パラメーターに指定された時間単位は無効です。

**ユーザーの処置:**
コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

正しい訂正単位を指定し、コマンドを再実行してください。

**DQP2144E　指定されたパラメーター *parametername* は正しくありません。**

**説明:**
指定されたパラメーターは正しくありません。

**ユーザーの処置:**
コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。 構文を訂正してからコマンドを再発行してください。

**DQP2145E　パラメーター *parametername* を指定する必要があります。**

**説明:**
指定されたコマンド構文は正しくありません。

**ユーザーの処置:**
コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。 構文を訂正してからコマンドを再発行してください。

**DQP2146E　誤った値 *value* がパラメーター *parametername* に対して指定されました。**

**説明:**
パラメーターに対して誤った値が指定されました。

**ユーザーの処置:**
コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。 パラメーター値を訂正して、再度コマンドを発行してください。

**DQP2147E　パラメーター *parametername* の値が欠落しています。**

**説明:**
必要なパラメーター値がコマンドから欠落しています。

**ユーザーの処置:**
コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。 必要なパラメーター値を指定して、再度コマンドを発行してください。

**DQP2148E　予期しないキーワード *keyword*、予期されているキーワードは *keyword* である可能性があります。**

**説明:**
コマンドに適用されないキーワードを検出しました。

**ユーザーの処置:**
コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。 構文を訂正してからコマンドを再発行してください。

**DQP2149E　予期しないコマンドの終わり。予期される値には、*value* が含まれている可能性があります。**

**説明:**
コマンドで構文エラーが検出されました。

コマンドは処理されません。

**ユーザーの処置:**

コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

構文を訂正してからコマンドを再発行してください。

---

**DQP2150E　パラメーター *parametername* を複数回指定することはできません。**

**説明:**
パラメーター *parametername* が複数回指定されました。

**ユーザーの処置:**
コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。 構文を訂正してからコマンドを再発行してください。

---

**DQP2151E　パラメーター *parametername* のデフォルト値はありません。**

**説明:**
このパラメーターには、デフォルト値はありません。

**ユーザーの処置:**
コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。 有効なパラメーター値を指定して、再度コマンドを発行してください。

---

**DQP2152E　パラメーター *parametername* の値を NULL にすることはできません。**

**説明:**
パラメーター *parametername* の値を指定してください。

**ユーザーの処置:**
コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。 このパラメーターの値を指定して、再度コマンドを発行してください。

---

**DQP2153E　パラメーター *parametername* の値は、単一引用符で囲む必要があります。**

**説明:**
このパラメーターは、単一引用符で囲む必要があります。

**ユーザーの処置:**
コマンドの実行方法の記述については、Query Patroller の資料を参照してください。 パラメーター値を単一引用符で囲んで、再度コマンドを発行してください。 the command.

---

**DQP2154E　この照会は現在実行中ではなく、照会の状況は不明です。**

**説明:**
照会は実行中ではありませんが、その最終状況を判別できません。正常に完了しているか、または失敗している可能性があります。 これは、次のシナリオによって起きることのある異常な状態です。

- この照会の実行中に、Query Patroller サーバーの破損、または FORCE オプションによるシャットダウン、停電による終了、またはDB2 への接続の強制切断が起きた。
- この照会が待機または実行中に、DB2 サーバーの破損、または FORCE オプションによるシャットダウン、停電による終了が起きた。
- DB2 が照会完了状況をレポートしようとする予想時間枠以内で、Query Patroller サーバーが応答しない。

**ユーザーの処置:**
照会状況および結果のために、照会をサブミットしたクライアント・アプリケーションを調査してください。 必要であれば、照会を再サブミットしてください。

---

**DQP2155E　ユーザー *username* は一時停止されています。**

**説明:**
このユーザーは照会をサブミットしたり、Query Patroller のコマンドを実行する許可を持っていません。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者にこのユーザーのサブミッター・プロファイルを再活動化するよう要求してください。

---

**DQP2156E　Query Patroller サーバーとの通信がタイムアウトになりました。**

**説明:**
DB2 サーバーは、予想時間枠内に Query Patroller サーバーへの接続または通信ができません。

**ユーザーの処置:**
Query Patroller サーバーが一時的に多重定義となっているため、通常の応答時間より時間がかかりました。 システムのワークロードをチェックして、 Query Patroller システムが、最適なパフォーマンスのために正しく調整されていることを確認してください。必要であれば、照会を再サブミットしてください。

問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

---

**DQP2157E　ユーザー *username* のサブミット設定が存在しません。**

**説明:**
このユーザーに対する既存のサブミット設定がありません。

**ユーザーの処置:**
ユーザーのサブミット設定を作成するか、既存のサブミット設定を持つユーザー名を指定してください。

---

**DQP2158E　ユーザー *username* に属するサブミット設定を自分自身にコピーすることはできません。**

**説明:**
サブミット設定を自身にコピーすることはできません。

**ユーザーの処置:**
別のユーザー名を指定して、コマンドを再実行してください。

---

**DQP2159I　照会 *queryID* の照会情報が除去されました。**

**説明:**
*queryID* 照会に関連した既存の情報はありません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2160I　照会 *queryID* の履歴情報が除去されました。**

**説明:**
*queryID* 照会に関連した既存の履歴情報はありません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2161I　すべての照会情報が除去されました。**

**説明:**
照会情報が除去されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2162I　すべての履歴照会情報が除去されました。**

**説明:**
履歴照会情報が除去されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2163I　照会 *queryID* が取り消されました。**

**説明:**
照会が取り消されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2164I　*number* の照会の照会情報のうち、*timeunit* よりも古いものが除去されました。**

**説明:**
*timeunit* より古い照会に関連する情報が除去されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2165I　*number* の照会の履歴照会情報のうち、*timeunit* よりも古いものが除去されました。**

**説明:**
*timeunit* より古い照会に関連する履歴情報が除去されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2166E　照会 *queryID* を取り消すことはできません。 照会がすでに完了、キャンセル、またはアボートしています。**

**説明:**
照会がすでに完了、キャンセル、またはアボートしているため、照会 *queryID* をキャンセルすることはできません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2167E　予期しないキーワード *keyword* です。コマンドの終わりを予想しました。**

**説明:**
コマンドに適用されないキーワードを検出しました。

**ユーザーの処置:**
コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。 構文を訂正してからコマンドを再発行してください。

---

**DQP2168I　指定されたすべての照会の情報が除去されました。**

**説明:**
照会情報が除去されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2169I　指定されたすべての照会の履歴情報が除去されました。**

**説明:**
照会の履歴情報が除去されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2170I　*Number* の結果表のうち、 *timeunit* よりも古いものがドロップされました。**

**説明:**
*timeunit* より古いため、結果表は除去されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2171I　Query Patroller は *number* の照会を処理し、履歴データが *number* の照会に対して正常に生成されました。**

**説明:**
履歴データが識別された照会数に対して生成されました。

**ユーザーの処置:**
処理済みの照会の数と履歴データ用に生成された照会の数とが同じであれば、アクションは必要ありません。

そうではない場合、このメッセージが表示された原因について qpdiag.log を参照してください。 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

**DQP2172I　照会クラスの更新には、かなり時間がかかる場合があります。 現在待機中の照会および新たにサブミットされる照会は、このプロセスが完了するまで待機中になります。**

**説明:**
照会クラスの更新には、完了までかなり時間がかかる場合があります。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2173E　照会クラスの更新が進行中です。 この時には、別の更新を実行することはできません。**

**説明:**
別の照会クラスの更新が進行中の場合には、照会クラスの更新を実行することができません。

**ユーザーの処置:**
現行の更新が完了してから、コマンドを再実行してください。

**DQP2174I　照会クラスの最大数を超えました。**

**説明:**
照会クラスの最大数に到達しました。 新規照会クラスを作成できません。

**ユーザーの処置:**
既存の照会クラス数を減らしてください。

**DQP2175I　同じ最大照会コスト値を持つ照会クラスがすでに存在するか、照会クラスの最大数を超えました。**

**説明:**
照会クラスの最大数に到達しました。 新規照会クラスを作成できません。

照会クラスにはユニークな照会コスト値が必要です。

**ユーザーの処置:**
既存の照会クラス数を減らし、すべての照会クラスにユニークな照会コスト値があることを確認してください。

**DQP2176E　キーワード *keyword* の長さが最大許可長を超えています。**

**説明:**
指定されたキーワードの長さが、最大許可長を超えています。

**ユーザーの処置:**
キーワードが有効であることを確認し、コマンドを再実行してください。

**DQP2177E　PUBLIC サブミッター・プロファイルを指定することはできません。**

**説明:**
デフォルトでは、ユーザー自身のサブミッター・プロファイルはが存在する場合は、自動的に作成されます。 サブミッター・プロファイルが存在しない場合は、ユーザーの所属するグループのサブミッター・プロファイルを指定することができます。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再実行して、グループ・サブミッター・プロファイルを指定するか、またはこの指定を行わないでください。

**DQP2178E　無効なユーザー名またはパスワードが入力されました。**

**説明:**
無効なユーザー名またはパスワードが入力されました。

**ユーザーの処置:**
正しいユーザー名とパスワードを指定して、コマンドを再実行してください。

**DQP2179I　履歴照会情報が存在しません。**

**説明:**
情報が存在しないため、照会の中には履歴情報を除去できないものがあります。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2180W　照会 *queryid* は現在バックグラウンドで実行中です。**

**説明:**
指定された照会はバックグラウンドで実行中です。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2181E　結果セットの行数が結果表に入れることのできる行数を超えているため、照会が打ち切られました。**

**説明:**
この照会がバックグラウンドで実行されていたか、またはいったん保留されてから開放されたため Query Patroller は、この照会に対する結果表を作成しようとしました。このサブミッターのサブミット設定は、イベントで結果セットが許可されている最大セットより大きいため、結果が戻らないことを示しました。

照会から戻った行数が、この照会をサブミットしたサブミッター・プロファイルの指定した結果表の最大サイズを超過した場合、Query Patroller は照会を打ち切ります。

**ユーザーの処置:**
照会から戻る行数を減らすか、あるいは管理者または演算子に結果表で許可される行数を増やすよう要求してください。 照会がバックグラウンドで実行されている場合は、照会を開放せず結果を待機するようにしてください。

**DQP2182I　保留照会 *queryid* が実行されています。**

**説明:**
指定された照会はバックグラウンドで実行中です。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2183E　照会 *queryid* は、バックグラウンドで実行できません。**

**説明:**
指定された照会はバックグラウンドで実行できません。

**ユーザーの処置:**
バックグラウンドで実行できる照会クラスに関しては、Query Patroller の資料を参照してください。

**DQP2184E　*time-unit* より古い結果表は存在しません。**

**説明:**
結果表が存在しません。 何も除去されませんでした。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2185I　*time-value* より古い照会情報は存在しません。**

**説明:**
照会情報が存在しないため、除去することができません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2186I　*time-value* より古い履歴照会情報は存在しません。**

**説明:**
履歴照会情報が存在しないため、除去することができません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2187W　ユーザー *username* のサブミット設定が正常に追加されました。 ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。 変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。**

**説明:**

ユーザーに対する新規サブミット設定が正常に追加されました。 ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

**ユーザーの処置:**
Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

---

**DQP2188W** **ユーザー *username* のサブミット設定が正常に更新されました。 ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。 変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。**

**説明:**
ユーザーに対するサブミット設定が正常に更新されました。 ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

**ユーザーの処置:**
Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

---

**DQP2189W** **ユーザー *username* のサブミッター・プロファイルが正常に追加されました。 ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。 変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。**

**説明:**
ユーザーに対するサブミッター・プロファイルが正常に追加されました。 ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

**ユーザーの処置:**
Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

---

**DQP2190W** **ユーザー *username* のサブミッター・プロファイルが正常に更新されました。 ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。 変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。**

**説明:**
ユーザーに対するサブミッター・プロファイルが正常に更新されました。 ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

**ユーザーの処置:**
Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

---

**DQP2191W** **グループ *groupname* のサブミッター・プロファイルが正常に追加されました。 ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。 変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。**

**説明:**
グループに対するサブミッター・プロファイルが正常に追加されました。 ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

**ユーザーの処置:**
Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

---

**DQP2192W** **グループ *groupname* のサブミッター・プロファイルが正常に更新されました。 ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。 変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。**

**説明:**
グループに対する新規サブミッター・プロファイルが正常に更新されました。 ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

**ユーザーの処置:**
Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

---

**DQP2193W** **Query Patroller システムの設定が正常に更新されました。 ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。 変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。**

**説明:**
Query Patroller システムの設定が正常に更新されました。 ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

**ユーザーの処置:**
Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

---

**DQP2194W** **ユーザー *username* のサブミット設定が正常に除去されました。 ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。 変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。**

**説明:**

ユーザーに対するサブミット設定が正常に除去されました。 ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

**ユーザーの処置:**
Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

---

**DQP2195W　ユーザー *username* のサブミッター・プロファイルが正常に除去されました。 ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。 変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。**

**説明:**
ユーザーに対するサブミッター・プロファイルが正常に除去されました。 ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

**ユーザーの処置:**
Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

---

**DQP2196W　グループ *groupname* のサブミッター・プロファイルが正常に除去されました。 ただし、Query Patroller サーバーとの通信は失敗しました。 変更は、Query Patroller サーバーに反映されていません。**

**説明:**
グループに対するサブミッター・プロファイルが正常に除去されました。 ただし、変更を反映するための Query Patroller サーバーへの接続はできません。

**ユーザーの処置:**
Query Patroller サーバーを再始動して、影響を受けた変更を参照してください。

---

**DQP2197I　照会 *queryID* は除去できません。**

**説明:**
照会情報を除去することはできません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2198E　照会 *queryID* の結果セットを表示またはファイルできません。 結果セットが存在しません。**

**説明:**
照会の結果セットが存在しません。 このエラーは、照会が SELECT ステートメントではない場合、結果セットが手動でドロップされた場合、またはクライアント・アプリケーションが結果宛先として指定される場合に生じる可能性があります。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2199W　管理対象照会に対して指定されたパージ期間が、結果表に対して指定されたパージ期間より短くなっています。管理対象照会が削除されると、関連した結果表も削除されます。**

**説明:**
管理対象照会に対して指定されたパージ期間が、結果表に対して指定されたパージ期間より短くなっています。管理対象照会が削除されると、関連した結果表も削除されます。そのため、結果表のパージ期間は無視されます。

**ユーザーの処置:**
管理対象照会に対するパージ期間を、結果表に対するパージ期間以上になるよう設定してください。

---

**DQP2200W　履歴照会に対して指定されたパージ期間が、管理対象照会に対して指定されたパージ期間より短くなっています。 履歴照会が削除されると、関連した管理対象照会も削除されます。**

**説明:**
履歴が削除されると、関連した管理対象照会も削除されます。そのため、管理対象照会の管理対象パージ期間は無視されます。

**ユーザーの処置:**
履歴照会に対するパージ期間を、管理対象照会に対するパージ期間以上になるよう設定してください。

---

**DQP2202I　履歴分析データ生成プログラムがユーザーによって停止されました。 停止の前に、Query Patroller は *number* の照会を処理し、履歴データが *number* の照会に対して正常に生成されました。**

**説明:**
独立したプロセスで GENERATE HISTORICAL_DATA STOP コマンドが発行されました。 履歴データが識別された照会数に対して生成されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2203I　履歴データの生成の停止を試行中です。**

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2204I　現時点で Query Patroller は履歴データを生成していません。**

**説明:**
現時点で履歴データがデータを生成していないため、Query Patroller は GENERATE HISTORICAL_DATA STOP コマンドを発行できません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2205E　照会サブミッターだけがバックグラウンドで照会を実行できます。**

**説明:**
照会をバックグラウンドで実行するには、照会を元々実行したサブミッターでなければなりません。

**ユーザーの処置:**
照会をバックグラウンドで実行することの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

**DQP2206E　パラメーター *parameter1* の値は、パラメーター *parameter2* が *parameter2-value* に設定されたときのように設定する必要があります。**

**説明:**
*parameter1* の値を設定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
パラメーター *parameter1* の値を指定して、再度コマンドを発行してください。

**DQP2207E　コマンドは正常に完了しました。**

**説明:**
このコマンドの実行中にはエラーは発生していません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2208E　指定されたコマンドの長さが、最大許可長を超えています。**

**説明:**
コマンドの長さが長すぎます。

**ユーザーの処置:**
コマンドの詳細な記述については、Query Patroller の資料を参照してください。

コマンドを再発行してください。

**DQP2209W　この照会を解放すると、システムは最大システム・ワークロード・コストを超過するワークロードを実行します。**

**説明:**
解放される照会には、システム・ワークロード・コストを超えるコストがかかります。 照会が保留状態から解放されると、Query Patroller はキューに入れられた他の照会がなくなるまで、その照会をキューに入れていきます。

これは、この照会と同時に実行される他の照会が存在しないことを保証するものではありません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP2210E　キュー照会は存在しなくなりました。照会の状況は打ち切られています。**

**説明:**
照会はキューに入れられて、実行を開始しませんでしたが、存在しなくなりました。 これは、以下のいずれかのシナリオによって起きることのある異常な状態です。

- 照会が待機中に、DB2 サーバーの破損、または FORCE オプションによるシャットダウン、停電による終了が起きた。
- DB2 が照会状況をレポートしようとする予想時間枠以内で、Query Patroller サーバーが応答しない。

**ユーザーの処置:**
照会状況および結果のために、照会をサブミットしたクライアント・アプリケーションを調査してください。必要であれば、照会を再サブミットしてください。

**DQP2211E　履歴分析データ生成プログラムが現在実行中であるため、実行することができません。**

**説明:**
1 つのデータベースで一度に実行できる履歴分析データ生成プログラムは 1 つだけです。

**ユーザーの処置:**
現在実行中の履歴分析データ生成プログラムが完了するのを待ってから、もう一度実行してみてください。 または、Query Patroller の GENERATE HISTORICAL_DATA STOP コマンドを発行して、現在実行中の履歴分析データ生成プログラムを停止してください。

**DQP2212W　指定した照会の結果は、ファイル *filename* へ正常に保管されましたが、ユーティリティーに警告が出されました。 詳しくは、メッセージ・ファイル *message-file* を参照してください。**

**説明:**
DB2 Query Patroller は、DB2 エクスポート・ユーティリティーを使用して、照会結果を保管またはファイルします。 結果は正常にファイルへエクスポートされましたが、DB2 エクスポートは、警告を含むメッセージ・ファイル *message-file* を生成しました。

**ユーザーの処置:**
警告を見るには、メッセージ・ファイルを参照してください。 DB2 エクスポート・ユーティリティーの詳細は、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

---

**DQP2213W　1 つ以上の結果表を除去できませんでした。**

**説明:**
1 つ以上の結果表を除去できませんでした。 このエラーは、ユーザーが不十分な権限を持っているときに発生する可能性があります。

**ユーザーの処置:**
qpuser.log ファイルを参照して、除去できなかった結果表を探し出し、このメッセージの考えられる原因を判別してください。

---

**DQP2214E　ユーザー *username* には、照会 *queryID* の結果表を除去する権限がありません。**

**説明:**
ユーザーが十分な権限を持っていないため、結果表を除去できません。

**ユーザーの処置:**
結果表をドロップするときの許可要件については、Query Patroller の資料を参照してください。

---

**DQP2215E　DYN_QUERY_MGMT が使用不可であるため、Query Patroller は照会 *queryid* を保留解除できません。**

**説明:**
照会を保留状態から解除するには、データベース構成パラメーター DYN_QUERY_MGMT を使用可能にする必要があります。現在は使用不可です。

**ユーザーの処置:**
データベース構成パラメーター DYN_QUERY_MGMT を使用可能状態に更新するよう管理者に依頼し、保留状態からの照会の解除を再試行してください。

---

**DQP2216E　DYN_QUERY_MGMT が使用不可であるため、Query Patroller は照会 *queryid* をバックグラウンドで実行できません。**

**説明:**
照会をバックグラウンドで実行するには、データベース構成パラメーター DYN_QUERY_MGMT を使用可能にする必要があります。現在は使用不可です。

**ユーザーの処置:**
データベース構成パラメーター DYN_QUERY_MGMT を使用可能状態に更新するよう管理者に依頼し、照会のバックグラウンドでの実行を再試行してください。

---

**DQP2217E　Query Patroller は、エラーのために履歴データを生成できませんでした。 SQLCODE = *sqlcode***

**説明:**
履歴データを生成しようとしてエラーが発生しました。履歴データは生成されませんでした。

**ユーザーの処置:**
このメッセージが表示された原因については、qpdiag.log ファイルを参照してください。 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**DQP2218I　ユーザー *user-id* のサブミット設定が正常に追加されました。 ユーザーが、サブミッター・プロファイルの選択されているグループに属していない場合、Query Patroller は、ユーザーによってサブミットされた照会を処理するときに、別のサブミッター・プロファイルを自動的に選択します。**

**説明:**
指定したユーザーの照会サブミット設定は正常に作成され、グループ・サブミッター・プロファイルが選択されました。 指定したユーザーがグループに属していないか、グループに属さなくなった場合、照会をサブミットするときに、 Query Patroller は、ユーザーが属するグループからもっとも制限的なサブミッター・プロファイルを選択します。

**ユーザーの処置:**
照会がサブミットされるときに、ユーザーがサブミッター・プロファイルの指定されたグループに属していることを確認してください。 そうではない場合、Query Patroller がもっとも制限的なサブミッター・プロファイルを選択するようにしてください。

**DQP2505I** **データベース・パーティション・グループ *dbpartitiongroupname* は存在しません。 qpsetup コマンドが新規データベース・パーティション・グループの作成を試行します。**

**説明:**
指定されたデータベース・パーティション・グループが存在しません。

**ユーザーの処置:**
qpsetup コマンドが新規データベース・パーティション・グループの作成を試行します。

**DQP2506E** **1 つ以上の Query Patroller のコントロール表がすでに存在します。**

**説明:**
1 つ以上の Query Patroller のコントロール表が見つかりました。 qpsetup コマンドを実行できません。

**ユーザーの処置:**
コントロール表が有効で完全であるか、確認してください。 このコントロール表を、新規のコントロール表と置き換えたい場合、 REPLACE オプションを指定して、qpsetup コマンドを再実行してください。

**DQP2507E** **表スペース *tablespacename* は存在しません。 qpsetup コマンドを実行できません。**

**説明:**
指定された表スペース名が存在しません。

**ユーザーの処置:**
表スペース名が正しいことを確認して、コマンドを再発行してください。

**DQP2508E** **スキーマ *schemaname* はすでに存在します。 コマンド *commandname* を実行できません。**

**説明:**
指定されたスキーマ名がすでに存在します。

**ユーザーの処置:**
ユニークなスキーマ名を指定して、コマンドを再実行してください。

**DQP2516E** **パッケージ *package-name* をバインドできません。理由 *reason*。**

**説明:**
パッケージをバインドしようとして失敗しました。

**ユーザーの処置:**
この失敗が SQLCODE によって発生した場合、詳細についてはメッセージ・リファレンスを参照してください。 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

**DQP2518E** **Query Patroller のコントロール表が存在しません。**

**説明:**
Query Patroller のコントロール表が、指定されたデータベースでは見つかりません。

**ユーザーの処置:**
qpsetup コマンドを発行して、 Query Patroller のコントロール表を作成してください。

**DQP2519E** **結果表スペース情報を指定した DB2QP.QP_SYSTEM 表の更新ができませんでした。 理由 = *reason*。**

**説明:**
qpsetup コマンドは、結果表スペースを指定した QP_SYSTEM 表を更新しようとしましたが、この更新は失敗しました。

**ユーザーの処置:**
理由を分析して問題を生成し、コマンドを再実行してください。

問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

**DQP2520W** **スキーマ *schema-name* はすでに存在します。 qpsetup コマンドが、このスキーマを使用して Query Patroller のコントロール表の作成を試行します。**

**説明:**
スキーマが指定されたデータベースにすでに存在します。 qpsetup コマンドが、このスキーマに Query Patroller のコントロール表の作成を試行します。 このスキーマに存在する DB2 の表は、 REPLACE オプションが qpsetup コマンドで指定されない限り、置き換えられません。

**ユーザーの処置:**
既存の表に Query Patroller のコントロール表と同じ名前の表がある場合は、別のスキーマに移動してください。

**DQP2521E** **表スペース・コンテナー *container-path* はすでに使用中です。**

**説明:**

指定された表スペース・コンテナーのパスは、別のアプリケーションで使用されています。

**ユーザーの処置:**
パスを確認し、コマンドを再実行してください。

---

**DQP2522E　qpsetup コマンドは失敗しました。 このコマンドで作成されたすべてのデータベース・オブジェクトをクリーンアップします。**

**説明:**
qpsetup コマンドは失敗しました。 表スペース、表、関数、プロシージャーなどのすべてのデータベース・オブジェクトをクリーンアップします。

**ユーザーの処置:**
このメッセージが表示された原因については、qpsetup.log ファイルを参照してください。 問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**DQP2523I　qpsetup コマンドが正常に終了しました。**

**説明:**
qpsetup コマンドが正常に終了しました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2526I　パッケージ *package-name* が正常にバインドされました。**

**説明:**
Query Patroller はパッケージを正常にバインドしました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2604I　Query Patroller バージョン 7 のコントロール表のクリーンアップが正常に完了しました。**

**説明:**
Query Patroller の移行クリーンアップは正常に完了し、バージョン 7 の Query Patroller の表、ビュー、およびトリガーはすべてドロップされました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2605E　Query Patroller バージョン 7 のコントロール表のクリーンアップが失敗しました。**

**説明:**
Query Patroller 移行ツールは、バージョン 7 の Query Patroller のデータベース・オブジェクトを移行中に、致命的エラーを検出しました。 クリーンアップは正常に完了しませんでした。

**ユーザーの処置:**
このメッセージが表示された原因については、qpmigrate.log ファイルを参照してください。

---

**DQP2606W　Query Patroller バージョン 7 のコントロール表のクリーンアップが警告を出して完了しました。**

**説明:**
Query Patroller の移行クリーンアップは、バージョン 7 の Query Patroller 表を削除している間に警告を検出しました。 ただし、処理は正常に完了している可能性があります。ユーザーまたはシステム構成の一部、あるいはこの両方を移行する場合にエラーが発生した可能性があります。

**ユーザーの処置:**
このメッセージが表示された原因については、qpmigrate.log ファイルを参照してください。

---

**DQP2607I　Query Patroller のコントロール表のバージョン 7 からバージョン 8 への移行は正常に完了しました。**

**説明:**
Query Patroller 移行ツールは正常に完了しました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2608E　Query Patroller のコントロール表のバージョン 7 からバージョン 8 への移行が失敗しました。**

**説明:**
Query Patroller 移行ツールは、データベースの移行中に致命的エラーを検出しました。 移行は正常に完了しませんでした。

**ユーザーの処置:**
このメッセージが表示された原因については、qpmigrate.log ファイルを参照してください。

---

**DQP2609W　Query Patroller のコントロール表のバージョン 7 からバージョン 8 への移行が警告を出して完了しました。**

**説明:**
Query Patroller 移行ツールは、データベースの移行中に警告を検出しましたが、移行は正常に完了した可能性が

あります。ユーザーまたはシステム構成の一部、あるいはこの両方を移行する場合にエラーが発生した可能性があります。

**ユーザーの処置:**
このメッセージが表示された原因については、qpmigrate.log ファイルを参照してください。

---

**DQP2610E 先に進む前に、Query Patroller を停止してください。**

**説明:**
Query Patroller 移行ツールを実行する前に、Query Patroller サーバーを停止しておく必要があります。

**ユーザーの処置:**
qpstop コマンドを発行して、Query Patroller サーバーを停止してください。

---

**DQP2611W ユーザー *username* のユーザー・プロファイルが移行されていません。 SQLCODE = *SQLCODE*。**

**説明:**
ユーザーは移行されていません。

**ユーザーの処置:**
このメッセージが表示された原因については、SQLCODE を参照してください。

---

**DQP2612I Query Patroller のユーザー・プロファイルとグループ・プロファイルの移行が正常に完了しました。**

**説明:**
バージョン 7 の Query Patroller 表である IWM003_USER_PROF からのデータが、バージョン 8 の Query Patroller 表である SUBMITTER_PROFILE、OPERATOR_PROFILE、および SUBMISSION_PREFERENCES に移行されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2613W Query Patroller のユーザー・プロファイルとグループ・プロファイルの移行が完了しましたが、警告が出されました。**

**説明:**
Query Patroller 移行ツールは、バージョン 7 の Query Patroller 表である IWM003_USER_PROF から、バージョン 8 の Query Patroller 表である SUBMITTER_PROFILE、 OPERATOR_PROFILE、および SUBMISSION_PREFERENCES へ移行する間に警告を検出しました。

**ユーザーの処置:**
移行されていないユーザーのリストについては、qpmigrate.log を参照してください。ユーザー名の競合が予想された場合には、アクションは不要です。その他の場合は、データを手動で表にコピーしてください。

---

**DQP2614W Query Patroller のユーザー・プロファイルとグループ・プロファイルの移行が失敗しました。**

**説明:**
バージョン 7 の Query Patroller 表からデータを読み取ろうとしてエラーが発生し、ユーザーおよびグループ・プロファイル情報の移行を続行できませんでした。バージョン 7 の Query Patroller 表が壊れているか、あるいはバージョン 7 の Query Patroller 表からの読み取り中に入出力エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
バージョン 7 の Query Patroller 表のすべてが、有効なデータで存在しているかどうか確認してください。

---

**DQP2615I Query Patroller のシステム構成の移行が正常に完了しました。**

**説明:**
バージョン 7 の Query Patroller 表である IWM003_JOB_QUEUE および IWM003_SYS_PARMS からのデータが、バージョン 8 の Query Patroller 表である QUERY_CLASS および QP_SYSTEM に正常に移行されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP2616W Query Patroller のシステム構成の移行が完了しましたが、警告が出されました。**

**説明:**
Query Patroller 移行ツールは、バージョン 7 の Query Patroller 表である IWM003_JOB_QUEUE および IWM003_SYS_PARMS からバージョン 8 の Query Patroller 表である QUERY_CLASS および QP_SYSTEM へ移行している間に警告を検出しました。さまざまなジョブ・キューがすでに表に存在している可能性があります。

**ユーザーの処置:**
マイグレーションされていないジョブ・キューのリストについては、qpmigrate.log ファイルを参照してください。ジョブ・キューの競合が予想された場合には、アクションは不要です。 その他の場合は、データを手動で表にコピーしてください。

---

**DQP2617E　Query Patroller のシステム構成の移行が失敗しました。**

**説明:**
バージョン 7 の Query Patroller 表からデータを読み取ろうとしてエラーが発生し、システム構成情報の移行を続行できませんでした。バージョン 7 の Query Patroller 表が壊れているか、あるいはバージョン 7 の Query Patroller 表からの読み取り中に入出力エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
バージョン 7 の Query Patroller 表のすべてが、有効なデータで存在しているかどうか確認してください。

---

**DQP2625W　バージョン 7 Query Patroller ジョブ・キュー ID *queryid* のマイグレーションが失敗しました。これは同一の最大照会コスト *querycost* を持つ項目がすでに存在するためです。**

**説明:**
Query Patroller の移行は、移行されようとしている照会クラスと同一の最大コストを指定した QUERY_CLASS コントロール表で、項目を検出しました。同一の最大コストを指定した項目は許可されません。

**ユーザーの処置:**
最大コストの競合が予想された場合には、アクションは不要です。 その他の場合、マイグレーションする照会クラスの最大コストを変更して QUERY_CLASS コントロール表へ手動で挿入してください。

---

**DQP2627W　バージョン 7 Query Patroller ジョブ・キュー ID *queueID* の移行が失敗しました。これは、0 の最大照会コストを持つためです。**

**説明:**
バージョン 7 ジョブ・キューには、0 の最大照会コストがあります。 0 の最大照会コストを持つ照会クラスに属する照会はありません。そのため、ジョブ・キューは移行されません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DQP3000E　この照会クラスの最大照会数は、Query Patroller システムの照会数より小さくなければなりません。**

**説明:**
照会の最大数が、照会クラスおよび Query Patroller システム自体に対して設定されている可能性があります。Query Patroller システムの最大照会数より大きい数の照会クラスが存在しません。

**ユーザーの処置:**
照会クラスに対する最大照会数を低くするか、この照会数を増やすより先に Query Patroller システムに対する最大照会数を増やしてください。

---

**DQP3001E　この照会クラスの最大照会コストは、Query Patroller システムの最大ワークロード・コストよりも小さくなければなりません。**

**説明:**
Query Patroller システムの最大ワークロード・コストより大きい数の照会クラスが存在しません。

**ユーザーの処置:**
照会クラスに対する最大照会コストを低くするか、この照会コストを増やすより先に Query Patroller システムに対する最大ワークロード・コストを増やしてください。

---

**DQP3002E　Query Patroller システムに指定された値よりも大きい最大照会数を持つ、1 つ以上の照会クラスが存在します。**

**説明:**
照会の最大数が、照会クラスおよび Query Patroller システム自体に対して設定されている可能性があります。Query Patroller システムの最大照会数より大きい数の照会クラスが存在しません。

**ユーザーの処置:**
Query Patroller システムの最大照会数を増やすか、システムの最大数を低くできないようにしている照会クラスの最大数を減らしてください。

---

**DQP3003E　Query Patroller システムの最大ワークロード・コストに指定された値よりも大きな最大照会コストを持つ、1 つ以上の照会クラスが存在します。**

**説明:**
Query Patroller システムの最大ワークロード・コストより大きい数の照会クラスが存在しません。

**ユーザーの処置:**
Query Patroller システムの最大ワークロード・コストを増やすか、システムの最大数を低くできないようにしている照会クラスの最大コストを減らしてください。

---

**DQP3010E　PUBLIC サブミッター・プロファイルを除去することはできません。**

**説明:**
PUBLIC サブミッター・プロファイルを除去することはできません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DQP3011E　USER サブミッター・プロファイル名を指定することができません。**

**説明:**
コマンドは、USER サブミッター・プロファイル名の指定を受け入れません。 デフォルトでは、ユーザー自身のサブミッター・プロファイルはが存在する場合は、自動的に作成されます。 サブミッター・プロファイルが存在しない場合は、ユーザーの所属するグループのサブミッター・プロファイルを指定することができます。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再実行して、グループ・サブミッター・プロファイルを指定するか、またはこの指定を行わないでください。

**DQP3012E　PUBLIC サブミット設定を除去することはできません。**

**説明:**
PUBLIC サブミット設定を除去することはできません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

# 第 13 章 DXX メッセージ

## DXX メッセージ

**DXXA000I　列 *column_name* を使用可能にしています。お待ちください。**

**説明:**
これは通知メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DXXA001S　ビルド *build_ID*、ファイル *file_name*、行 *line_number* で予期しないエラーが発生しました。**

**説明:**
予期しないエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
このエラーが続く場合は、ソフトウェア・サービス提供者に連絡してください。エラーを報告する場合、すべてのメッセージ・テキスト、トレース・ファイル、および問題の再現方法についての説明を必ず知らせてください。

**DXXA002I　データベース *database* に接続しています。**

**説明:**
これは通知メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DXXA003E　データベース *database* に接続できません。**

**説明:**
指定されたデータベースは存在しないか、破損している可能性があります。

**ユーザーの処置:**

1. データベースが正しく指定されていることを確認してください。
2. データベースが存在し、利用できるようになっていることを確認してください。
3. データベースが破損しているかどうか判別してください。破損している場合は、バックアップからこれをリカバリーするようデータベース管理者に依頼してください。

**DXXA004E　データベース *database* を使用可能にできません。**

**説明:**
このデータベースは既に使用可能になっているか、または破損している可能性があります。

**ユーザーの処置:**

1. データベースが使用可能になっているかどうか判別してください。
2. データベースが破損しているかどうか判別してください。破損している場合は、バックアップからこれをリカバリーするようデータベース管理者に依頼してください。

**DXXA005I　データベース *database* を使用可能にしています。お待ちください。**

**説明:**
これは通知メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DXXA006I　データベース *database* は正常に使用可能化されました。**

**説明:**
これは通知メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DXXA007E　データベース *database* を使用不可にできません。**

**説明:**
データベースに XML の列またはコレクションが含まれている場合、XML Extender でそのデータベースを使用不可にすることはできません。

**ユーザーの処置:**

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

重要なデータをバックアップし、XML の列やコレクションを使用不可にし、表をドロップまたは更新することによって、データベースに XML データ・タイプが残らないようにしてください。

---

**DXXA008I　列 *column_name* を使用不可にしています。お待ちください。**

**説明:**
これは通知メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DXXA009E　DAD ファイルで Xcolumn タグが指定されていません。**

**説明:**
このストアード・プロシージャーは XML 列専用です。

**ユーザーの処置:**
DAD ファイルで Xcolumn タグが正しく指定されていることを確認してください。

---

**DXXA010E　DTD ID *dtdid* を検出できませんでした。**

**説明:**
XML Extender が、列を有効にしようとした際に、DTD ID (文書アクセス定義 (DAD) ファイルで DTD に対して指定される ID) を検出できませんでした。

**ユーザーの処置:**
DAD ファイルで DTD ID の正しい値が指定されていることを確認してください。

---

**DXXA011E　DB2XML.XML_USAGE 表にレコードを挿入できませんでした。**

**説明:**
XML Extender が、列を使用可能にしようとしていたときに、DB2XML.XML_USAGE 表にレコードを挿入できませんでした。

**ユーザーの処置:**
DB2XML.XML_USAGE 表が存在すること、また同名のレコードが表内に既に存在していないことを確認してください。

---

**DXXA012E　DB2XML.DTD_REF 表を更新できませんでした。**

**説明:**
XML Extender が、列を使用可能にしようとしていたときに、DB2XML.DTD_REF 表を更新できませんでした。

**ユーザーの処置:**
DB2XML.DTD_REF 表が存在することを確認してください。表が破損しているかどうか、あるいは管理ユーザー ID に表を更新するための正しい権限があるかどうかを判別してください。

---

**DXXA013E　表 *table_name* を変更できませんでした。**

**説明:**
XML Extender が、列を使用可能にしようとしていたときに、指定された表を変更できませんでした。

**ユーザーの処置:**
表を変更するのに必要な特権を確認してください。

---

**DXXA014E　指定されたルート ID 列 *root_id* は、表 *table_name* の単一の主キーではありません。**

**説明:**
指定されたルート ID は、キーではないか、あるいは表 *table_name* の単一のキーではありません。

**ユーザーの処置:**
指定するルート ID が表の単一の主キーであることを確認してください。

---

**DXXA015E　列 DXXROOT_ID は、 表 *table_name* 内に既に存在します。**

**説明:**
列 DXXROOT_ID が存在しますが、これは XML Extender によって作成されたものではありません。

**ユーザーの処置:**
列を使用可能にするときは、別の列名を使用して、ルート ID オプションに対してプライマリー列を指定してください。

---

**DXXA016E　入力表 *table_name* は存在しません。**

**説明:**
XML Extender が、指定された表をシステム・カタログ内から検出できませんでした。

**ユーザーの処置:**
表がデータベース内に存在すること、また正しく指定されていることを確認してください。

---

**DXXA017E　入力列 *column_name* は指定された表 *table_name* 内に存在しません。**

**説明:**
XML Extender が、システム・カタログ内から列を検出できませんでした。

**ユーザーの処置:**

ユーザー表内に列が存在することを確認してください。

**DXXA018E 指定された列は XML データ対応になっていません。**

**説明:**
XML Extender が、列を使用不可にしようとしていたときに、DB2XML.XML_USAGE 表からその列を検出できませんでした。このことは、その列が使用可能になっていないことを示しています。列が XML 対応でない場合、それを使用不可にする必要はありません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DXXA019E 列を使用可能にするのに必要な入力パラメーターが NULL です。**

**説明:**
enable_column() ストアード・プロシージャーの必須入力パラメーターが NULL です。

**ユーザーの処置:**
enable_column() ストアード・プロシージャーの入力パラメーターをすべて確認してください。

**DXXA020E 表 *table_name* 内に列がありません。**

**説明:**
XML Extender が、デフォルト・ビューを作成しようとしていたときに、指定された表から列を検出できませんでした。

**ユーザーの処置:**
列および表の名前が正しく指定されていることを確認してください。

**DXXA021E デフォルト・ビュー *default_view* を作成できません。**

**説明:**
XML Extender が、列を使用可能にしようとしていたときに、指定されたビューを作成できませんでした。

**ユーザーの処置:**
デフォルト・ビュー名が固有なものであることを確認してください。同名のビューが既に存在する場合は、デフォルト・ビューに固有な名前を指定してください。

**DXXA022I 列 *column_name* が使用可能化されました。**

**説明:**
これは通知メッセージです。

**ユーザーの処置:**
応答は必要ありません。

**DXXA023E DAD ファイルがありません。**

**説明:**
XML Extender が、列を無効にしようとした際に、文書アクセス定義 (DAD) ファイルを検出できませんでした。

**ユーザーの処置:**
データベース名、表名、または列名を正しく指定していることを確認してください。

**DXXA024E XML Extender がシステム・カタログ表にアクセスしているときに、内部エラーが発生しました。**

**説明:**
XML Extender がシステム・カタログ表にアクセスできませんでした。

**ユーザーの処置:**
データベースが安定状態にあることを確認してください。

**DXXA025E デフォルト・ビュー *default_view* をドロップできません。**

**説明:**
XML Extender が、列を使用不可にしようとしていたときに、デフォルト・ビューをドロップできませんでした。

**ユーザーの処置:**
XML Extender の管理ユーザー ID に、デフォルト・ビューをドロップするのに必要な特権があることを確認してください。

**DXXA026E サイド表 *side_table* をドロップできません。**

**説明:**
XML Extender が、列を使用不可にしようとしていたときに、指定された表をドロップできませんでした。

**ユーザーの処置:**
XML Extender の管理者ユーザー ID に、表をドロップするのに必要な特権があることを確認してください。

**DXXA027E 列を使用不可にできませんでした。**

**説明:**
内部トリガーの障害のため、XML Extender が列を使用不可にできませんでした。考えられる理由は、以下のとおりです。

- システムはメモリーが不足しています。

- この名前のトリガーが存在しません。

**ユーザーの処置:**
トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

---

**DXXA028E　列を使用不可にできませんでした。**

**説明:**
内部トリガーの障害のため、XML Extender が列を使用不可にできませんでした。考えられる理由は、以下のとおりです。

- システムはメモリーが不足しています。
- この名前のトリガーが存在しません。

**ユーザーの処置:**
トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

---

**DXXA029E　列を使用不可にできませんでした。**

**説明:**
内部トリガーの障害のため、XML Extender が列を使用不可にできませんでした。考えられる理由は、以下のとおりです。

- システムはメモリーが不足しています。
- この名前のトリガーが存在しません。

**ユーザーの処置:**
トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

---

**DXXA030E　列を使用不可にできませんでした。**

**説明:**
内部トリガーの障害のため、XML Extender が列を使用不可にできませんでした。考えられる理由は、以下のとおりです。

- システムはメモリーが不足しています。
- この名前のトリガーが存在しません。

**ユーザーの処置:**
トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

---

**DXXA031E　アプリケーション表の DXXROOT_ID 列の値を NULL にリセットできません。**

**説明:**
XML Extender が、列を使用不可にしようとしていたときに、アプリケーション表の DXXROOT_ID の値を NULL に設定できませんでした。

**ユーザーの処置:**
XML Extender の管理者ユーザー ID に、アプリケーション表を変更するのに必要な特権があることを確認してください。

---

**DXXA032E　DB2XML.XML_USAGE 表の USAGE_COUNT を減分できませんでした。**

**説明:**
XML Extender が、列を使用不可にしようとしていたときに、USAGE_COUNT 列の値を 1 小さくすることができませんでした。

**ユーザーの処置:**
DB2XML.XML_USAGE 表が存在すること、また XML Extender の管理者ユーザー ID に表を更新するのに必要な特権があることを確認してください。

---

**DXXA033E　DB2XML.XML_USAGE 表から行を削除できませんでした。**

**説明:**
XML Extender が、列を使用不可にしようとしていたときに、DB2XML.XML_USAGE 表にあるその関連行を削除できませんでした。

**ユーザーの処置:**
DB2XML.XML_USAGE 表が存在すること、また XML Extender の管理ユーザー ID にこの表を更新するのに必要な特権があることを確認してください。

---

**DXXA034I　XML Extender は、列 *column_name* を正常に使用不可にしました。**

**説明:**
これは通知メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DXXA035I　XML Extender がデータベース *database* を使用不可にしています。お待ちください。**

**説明:**
これは通知メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DXXA036I　XML Extender は、データベース *database* を正常に使用不可にしました。**

**説明:**
これは通知メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DXXA037E　指定された表スペース名は、長さが 18 文字を超えています。**

**説明:**
表スペース名の長さは、英数字で 18 文字を超えてはなりません。

**ユーザーの処置:**
指定する名前は 18 文字未満にしてください。

---

**DXXA038E　指定されたデフォルト・ビュー名は、長さが 18 文字を超えています。**

**説明:**
デフォルト・ビュー名の長さは、英数字で 18 文字を超えてはなりません。

**ユーザーの処置:**
指定する名前は 18 文字未満にしてください。

---

**DXXA039E　指定された ROOT_ID 名は、長さが 18 文字を超えています。**

**説明:**
ROOT_ID 名の長さは、英数字で 18 文字を超えてはなりません。

**ユーザーの処置:**
指定する名前は 18 文字未満にしてください。

---

**DXXA046E　サイド表 *side_table* を作成できません。**

**説明:**
XML Extender が、列を使用可能にしようとしていたときに、指定されたサイド表を作成できませんでした。

**ユーザーの処置:**
XML Extender の管理者ユーザー ID に、サイド表を作成するのに必要な特権があることを確認してください。

---

**DXXA047E　列を使用可能にできませんでした。**

**説明:**
内部トリガーの障害のため、XML Extender が列を使用可能にできませんでした。考えられる理由は、以下のとおりです。

- DAD ファイルに含まれている構文が正しくありません。
- システムはメモリーが不足しています。
- 同名の別のトリガーが存在します。

**ユーザーの処置:**
トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

---

**DXXA048E　列を使用可能にできませんでした。**

**説明:**
内部トリガーの障害のため、XML Extender が列を使用可能にできませんでした。考えられる理由は、以下のとおりです。

- DAD ファイルに含まれている構文が正しくありません。
- システムはメモリーが不足しています。
- 同名の別のトリガーが存在します。

**ユーザーの処置:**
トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

---

**DXXA049E　列を使用可能にできませんでした。**

**説明:**
内部トリガーの障害のため、XML Extender が列を使用可能にできませんでした。考えられる理由は、以下のとおりです。

- DAD ファイルに含まれている構文が正しくありません。
- システムはメモリーが不足しています。
- 同名の別のトリガーが存在します。

**ユーザーの処置:**
トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

---

**DXXA050E　列を使用可能にできませんでした。**

**説明:**
内部トリガーの障害のため、XML Extender が列を使用可能にできませんでした。考えられる理由は、以下のとおりです。

- DAD ファイルに含まれている構文が正しくありません。
- システムはメモリーが不足しています。
- 同名の別のトリガーが存在します。

**ユーザーの処置:**
トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

**DXXA051E　列を使用不可にできませんでした。**

**説明:**
内部トリガーの障害のため、XML Extender が列を使用不可にできませんでした。考えられる理由は、以下のとおりです。

- システムはメモリーが不足しています。
- この名前のトリガーが存在しません。

**ユーザーの処置:**
トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

**DXXA052E　列を使用不可にできませんでした。**

**説明:**
内部トリガーの障害のため、XML Extender が列を使用不可にできませんでした。考えられる理由は、以下のとおりです。

- DAD ファイルに含まれている構文が正しくありません。
- システムはメモリーが不足しています。
- 同名の別のトリガーが存在します。

**ユーザーの処置:**
トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

**DXXA053E　列を使用可能にできませんでした。**

**説明:**
内部トリガーの障害のため、XML Extender が列を使用可能にできませんでした。考えられる理由は、以下のとおりです。

- DAD ファイルに含まれている構文が正しくありません。
- システムはメモリーが不足しています。
- 同名の別のトリガーが存在します。

**ユーザーの処置:**
トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

**DXXA054E　列を使用可能にできませんでした。**

**説明:**
内部トリガーの障害のため、XML Extender が列を使用可能にできませんでした。考えられる理由は、以下のとおりです。

- DAD ファイルに含まれている構文が正しくありません。
- システムはメモリーが不足しています。
- 同名の別のトリガーが存在します。

**ユーザーの処置:**
トレース機能を使用してトレース・ファイルを作成し、問題の修正を試みてください。問題が解決しない場合には、ソフトウェア・サービス提供者に連絡して、トレース・ファイルを提出してください。

**DXXA056E　DAD ファイル内の妥当性検査値 *validation_value* が無効です。**

**説明:**
文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の妥当性検査エレメントが正しくないか、これがありません。

**ユーザーの処置:**
DAD ファイルで、妥当性検査エレメントが正しく指定されていることを確認してください。

**DXXA057E　DAD ファイル内のサイド表名 *side_table_name* が無効です。**

**説明:**
文書アクセス定義 (DAD) ファイル内のサイド表の名前属性が正しくないか、これがありません。

**ユーザーの処置:**

DAD ファイルで、サイド表の名前属性が正しく指定されていることを確認してください。

---

**DXXA058E　DAD ファイル内の列名 *column_name* が無効です。**

**説明:**
文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の列の名前属性が正しくないか、これがありません。

**ユーザーの処置:**
DAD ファイルで、列の名前属性が正しく指定されていることを確認してください。

---

**DXXA059E　DAD ファイル内の列 *column_name* のタイプ *column_type* が無効です。**

**説明:**
文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の列のタイプ属性が正しくないか、これがありません。

**ユーザーの処置:**
DAD ファイルで、列のタイプ属性が正しく指定されていることを確認してください。

---

**DXXA060E　DAD ファイル内の *column_name* のパス属性 *location_path* が無効です。**

**説明:**
文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の列のパス属性が正しくないか、これがありません。

**ユーザーの処置:**
DAD ファイルで、列のパス属性が正しく指定されていることを確認してください。

---

**DXXA061E　DAD ファイル内の *column_name* の multi_occurrence 属性 *multi_occurrence* が無効です。**

**説明:**
文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の列の multi_occurrence 属性が正しくないか、これがありません。

**ユーザーの処置:**
DAD ファイルで、列の multi_occurrence 属性が正しく指定されていることを確認してください。

---

**DXXA062E　表 *table_name* 内の *column_name* の列番号を検索できません。**

**説明:**
XML Extender が、表 *table_name* 内の *column_name* の列番号を、システム・カタログから検索できませんでした。

**ユーザーの処置:**
アプリケーション表が適切に定義されていることを確認してください。

---

**DXXA063I　コレクション *collection_name* を使用可能にしています。お待ちください。**

**説明:**
これは通知メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DXXA064I　コレクション *collection_name* を使用不可にしています。お待ちください。**

**説明:**
これは通知メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DXXA065E　ストアード・プロシージャー *procedure_name* を呼び出せませんでした。**

**説明:**
共用ライブラリー db2xml をチェックして、許可が正しいかどうか確認してください。

**ユーザーの処置:**
クライアントが、ストアード・プロシージャーを実行するための許可を持っていることを確認してください。

---

**DXXA066I　XML Extender は、コレクション *collection_name* を正常に使用不可にしました。**

**説明:**
これは通知メッセージです。

**ユーザーの処置:**
応答は必要ありません。

---

**DXXA067I　XML Extender は、コレクション *collection_name* を正常に使用可能にしました。**

**説明:**
これは通知メッセージです。

**ユーザーの処置:**
応答は必要ありません。

---

**DXXA068I XML Extender は、正常にトレースをオンにしました。**

**説明:**
これは通知メッセージです。

**ユーザーの処置:**
応答は必要ありません。

**DXXA069I XML Extender は、正常にトレースをオフにしました。**

**説明:**
これは通知メッセージです。

**ユーザーの処置:**
応答は必要ありません。

**DXXA070W データベースは既に使用可能になっています。**

**説明:**
すでに使用可能なデータベースに対して、データベースを使用可能にするコマンドが実行されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DXXA071W データベースは使用可能になっていないか、またはすでに使用不可にされています。**

**説明:**
dxxadm 管理コマンドは、使用可能でないデータベース上で実行されました。

**ユーザーの処置:**
データベースが使用可能になっているかどうか確認してください。データベースが XML 対応でない場合、それを使用不可にする必要はありません。

**DXXA072E XML Extender は、バインド・ファイルを検出できませんでした。データベースをバインドし、その後で使用可能にしてください。**

**説明:**
XML Extender が、データベースを使用可能にする前に、そのデータベースを自動的にバインドしようとしましたが、バインド・ファイルを検出できませんでした。

**ユーザーの処置:**
データベースをバインドし、その後で使用可能にしてください。

**DXXA073E データベースがバインドされていません。データベースをバインドし、その後で使用可能にしてください。**

**説明:**
ユーザーがデータベースを使用可能にしようとしたとき、そのデータベースがバインドされていませんでした。

**ユーザーの処置:**
データベースをバインドし、その後で使用可能にしてください。

**DXXA074E パラメーター・タイプが正しくありません。ストアード・プロシージャーは STRING パラメーターを期待しています。**

**説明:**
ストアード・プロシージャーは STRING パラメーターを期待しています。

**ユーザーの処置:**
入力パラメーターを STRING タイプとして宣言してください。

**DXXA075E パラメーター・タイプが正しくありません。入力パラメーターは LONG タイプでなければなりません。**

**説明:**
ストアード・プロシージャーは、入力パラメーターが LONG タイプであることを期待しています。

**ユーザーの処置:**
入力パラメーターを LONG タイプとして宣言してください。

**DXXA076E XML Extender のトレース・インスタンス ID が無効です。**

**説明:**
指定されたインスタンス ID でトレースを開始できません。

**ユーザーの処置:**
インスタンス ID が有効な AS/400 ユーザーID であることを確認してください。

**DXXA077E ライセンス・キーが無効です。詳しくは、サーバー・エラー・ログを参照してください。**

**説明:**
ソフトウェア・ライセンスの有効期限が切れているか、またはライセンスが存在しません。

**ユーザーの処置:**
サービス提供者に連絡して、新しいソフトウェア・ライセンスを取得してください。

# DXX メッセージ

**DXXC000E　指定されたファイルを開けません。**

**説明:**
XML Extender が、指定されたファイルを開くことができません。

**ユーザーの処置:**
アプリケーション・ユーザー ID に、ファイルに対する読み取りおよび書き込みアクセス権があることを確認してください。

**DXXC001E　指定されたファイルがありません。**

**説明:**
XML Extender が、指定されたファイルを検出できませんでした。

**ユーザーの処置:**
ファイルが存在すること、またパスが正しく指定されていることを確認してください。

**DXXC002E　ファイルを読み取れません。**

**説明:**
XML Extender が、指定されたファイルからデータを読み取ることができません。

**ユーザーの処置:**
アプリケーション・ユーザー ID に、ファイルに対する読み取りアクセス権があることを確認してください。

**DXXC003E　指定されたファイルに書き込めません。**

**説明:**
XML Extender が、ファイルにデータを書き込むことができません。

**ユーザーの処置:**
アプリケーション・ユーザー ID にファイルに対する書き込みアクセス権があること、あるいはファイル・システムに十分なスペースがあることを確認してください。

**DXXC004E　LOB ロケーターを操作できません: rc=*locator_rc*。**

**説明:**
XML Extender が、指定されたロケーターを操作できませんでした。

**ユーザーの処置:**
LOB ロケーターが正しく設定されていることを確認してください。

**DXXC005E　入力ファイル・サイズが XMLVarchar サイズを超えています。**

**説明:**
ファイル・サイズが XMLVarchar サイズより大きいため、 XML Extender がファイルのすべてのデータをインポートできません。

**ユーザーの処置:**
XMLCLOB 列タイプを使用してください。

**DXXC006E　入力ファイルが、DB2 LOB の制限を超えています。**

**説明:**
ファイル・サイズが XMLCLOB のサイズより大きいため、 XML Extender がファイルのすべてのデータをインポートできません。

**ユーザーの処置:**
ファイルを分割してもっと小さなオブジェクトにするか、 XML コレクションを使用してください。

**DXXC007E　ファイルのデータを LOB ロケーターに取り出すことができません。**

**説明:**
LOB ロケーター内のバイト数が、ファイル・サイズと等しくありません。

**ユーザーの処置:**
LOB ロケーターが正しく設定されていることを確認してください。

**DXXC008E　ファイル *file_name* を削除できません。**

**説明:**
ファイルの共用アクセス違反が起きているか、またはファイルがまだ開いています。

**ユーザーの処置:**
ファイルをクローズするか、ファイルを拘束しているプロセスを停止してください。 DB2 を停止して再始動する必要がある可能性があります。

**DXXC009E　*directory* ディレクトリーにファイルを作成できません。**

**説明:**
XML Extender が、ディレクトリー *directory* にファイルを作成できません。

**ユーザーの処置:**
ディレクトリーが存在すること、アプリケーション・ユーザー ID にディレクトリーに対する書き込みアクセス権があること、およびファイル・システムにファイルのための十分なスペースがあることを確認してください。

---

**DXXC010E　ファイル *file_name* への書き込み中にエラーが発生しました。**

**説明:**
ファイル *file_name* への書き込み中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
ファイル・システムにファイルのための十分なスペースがあることを確認してください。

---

**DXXC011E　トレース制御ファイルに書き込めません。**

**説明:**
XML Extender が、トレース制御ファイルにデータを書き込むことができません。

**ユーザーの処置:**
アプリケーション・ユーザー ID にファイルに対する書き込みアクセス権があること、あるいはファイル・システムに十分なスペースがあることを確認してください。

---

**DXXC012E　一時ファイルを作成できません。**

**説明:**
システムの一時ディレクトリーにファイルを作成できません。

**ユーザーの処置:**
アプリケーション・ユーザー ID にファイル・システムの一時ディレクトリーに対する書き込みアクセス権があること、あるいはファイル・システムにファイルのための十分なスペースがあることを確認してください。

---

**DXXC013E　抽出 UDF の結果が、UDF の戻りタイプのサイズ制限を超えています。**

**説明:**
抽出 UDF によって抽出されるデータは、「DB2 XML Extenders 管理およびプログラミング・ガイド」で定義されている、UDF の戻りタイプのサイズ制限の範囲内に収まらなければなりません。たとえば、extractVarchar の結果は、(終了の NULL を含めて) 4000 バイト以内でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
戻りタイプの制限サイズが大きい抽出 UDF を使用してください。戻りタイプのサイズ制限は、extractChar() が 254 バイト、extractVarchar() が 4 KB、extractClob() が 2 GB です。

---

# DXX メッセージ

---

**DXXD000E　無効な XML 文書はリジェクトされます。**

**説明:**
無効な文書を表に保管することが試みられました。妥当性検査が失敗しました。

**ユーザーの処置:**
表示されていない無効文字を表示できるエディターを使用して、文書とその DTD をチェックしてください。このエラーを抑制するため、 DAD ファイルで妥当性検査をオフにしてください。

---

**DXXD001E　*location_path* が複数回出現します。**

**説明:**
スカラー抽出関数が、複数回出現するロケーション・パスを使用しました。スカラー関数は、複数回出現しないロケーション・パスのみを使用できます。

**ユーザーの処置:**
表関数を使用してください (スカラー関数名の末尾に「s」を付加します)。

---

**DXXD002E　検索パス内の位置 *position* の近くで構文エラーが発生しました。**

**説明:**
パス式の構文が正しくありません。

**ユーザーの処置:**
照会の検索パス引数を訂正してください。パス式の構文については、資料を参照してください。

---

**DXXD003W　パスがありません。NULL が戻されます。**

**説明:**
パス式に指定されたエレメントまたは属性が、XML 文書内にありません。

**ユーザーの処置:**
指定されたパスが正しいことを確認してください。

# DXX メッセージ

**DXXG000E　ファイル名 *file_name* が無効です。**

**説明:**
無効なファイル名が指定されました。

**ユーザーの処置:**
正しいファイル名を指定して、再試行してください。

---

**DXXG001E　ビルド *build_ID*、 ファイル *file_name*、行 *line_number* で内部エラーが発生しました。**

**説明:**
XML Extender で内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サービス提供者に連絡してください。エラーを報告する場合、すべてのメッセージ、トレース・ファイル、およびエラーの再現方法についての説明を必ず知らせてください。

---

**DXXG002E　システムはメモリーが不足しています。**

**説明:**
XML Extender が、オペレーティング・システムのメモリーを割り振れませんでした。

**ユーザーの処置:**
いくつかのアプリケーションをクローズして、再試行してください。問題が続く場合、ご使用のオペレーティング・システムの資料を参照してください。一部のオペレーティング・システムでは、問題を訂正するためにシステムをリブートする必要がある場合があります。

---

**DXXG004E　NULL パラメーターは無効です。**

**説明:**
XML ストアード・プロシージャーの必須パラメーターに対して NULL 値が渡されました。

**ユーザーの処置:**
ストアード・プロシージャー呼び出しの引数リストにある必須パラメーターをすべてチェックしてください。

---

**DXXG005E　パラメーターがサポートされていません。**

**説明:**
このパラメーターは、このリリースではサポートされていませんが、将来のリリースでサポートされる予定です。

**ユーザーの処置:**
このパラメーターには NULL を設定してください。

---

**DXXG006E　内部エラー SQLSTATE=*clistate*、RC=*cli_rc*、ビルド *build_ID*、ファイル *file_name*、行 *line_number* CLIMSG=*CLI_msg*。**

**説明:**
XML Extender が CLI を使用しているときに、内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サービス提供者に連絡してください。このエラーは、ユーザー入力が正しくなかったために発生した可能性があります。 エラーを報告する場合、すべての出力されたメッセージ、トレース・ログ、および問題を再現するための情報を必ず知らせてください。該当する DAD、XML 文書、および表定義があれば、それらを含めてください。

---

**DXXG007E　ロケール *locale* が、 DB2 コード・ページ *code_page* と不整合です。**

**説明:**
サーバー・オペレーティング・システムのロケールが、DB2 コード・ページと不整合です。

**ユーザーの処置:**
サーバー・オペレーティング・システムのロケールを訂正し、DB2 を再始動してください。

---

**DXXG008E　ロケール *locale* はサポートされていません。**

**説明:**
サーバー・オペレーティング・システムのロケールが、コード・ページ表の中にありません。

**ユーザーの処置:**
サーバー・オペレーティング・システムのロケールを訂正し、DB2 を再始動してください。

---

**DXXG009E　プレースホルダー**

**説明:**

**ユーザーの処置:**

---

**DXXG010E　プレースホルダー**

**説明:**

**ユーザーの処置:**

---

**DXXG011E　プレースホルダー**

**説明:**

**ユーザーの処置:**

**DXXG012E　プレースホルダー**

**説明:**

**ユーザーの処置:**

**DXXG013E　プレースホルダー**

**説明:**

**ユーザーの処置:**

**DXXG014E　プレースホルダー**

**説明:**

**ユーザーの処置:**

**DXXG015E　プレースホルダー**

**説明:**

**ユーザーの処置:**

**DXXG016E　プレースホルダー**

**説明:**

**ユーザーの処置:**

**DXXG017E　ビルド *build_ID*、ファイル *file_name*、行 *line_number* で、 *XML_Extender_constant* の制限の超過がありました。**

**説明:**
ビルド、ファイル、および行番号で示されたコード・ロケーションにおいて、指定されている XML Extender 定数の制限の超過がありました。

**ユーザーの処置:**
ご使用のアプリケーションが、「XML Extender 管理およびプログラミング・ガイド」の制限の表にある値を超えていないかどうか確認してください。制限を超えていない場合は、ソフトウェア・サービス提供者に連絡してください。エラーを報告する場合、すべての出力されたメッセージ、トレース・ファイル、および入力
DAD、XML 文書、表定義などの、問題の再現方法についての情報を知らせてください。

# DXX メッセージ

**DXXM001W　DB2 エラーが発生しました。**

**説明:**
DB2 で、指定されたエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
付随するメッセージで詳細を確認し、ご使用のオペレーティング・システム用の DB2 メッセージとコードの資料を参照してください。

# DXX メッセージ

**DXXQ000E　*Element* が DAD ファイルにありません。**

**説明:**
文書アクセス定義 (DAD) ファイル内に必須エレメントがありません。

**ユーザーの処置:**
必要なエレメントを DAD ファイルに補完してください。

**DXXQ001E　XML 生成のための SQL ステートメントが無効です。**

**説明:**
文書アクセス定義 (DAD)、またはこれをオーバーライドするファイルの中の SQL ステートメントが無効です。XML 文書を生成するには SELECT ステートメントが必要です。

**ユーザーの処置:**
SQL ステートメントを訂正してください。

**DXXQ002E　XML 文書を保持するためのストレージ・スペースを生成できません。**

**説明:**
システムのメモリーまたはディスク・スペースが不足しています。生成される XML 文書を保管する容量がありません。

**ユーザーの処置:**
生成される文書の数を制限します。文書アクセス定義 (DAD) ファイルからいずれかの不要なエレメントや属性ノードを取り除くことによって、それぞれの文書サイズを削減してください。

**DXXQ003W　結果が最大を超えます。**

**説明:**
ユーザー定義の SQL 照会によって、指定した最大数以上の XML 文書が生成されます。指定された数の文書のみが戻されます。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。すべての文書が必要であれば、文書の最大数としてゼロを指定してください。

---

**DXXQ004E 列 *column_name* は照会の結果にありません。**

**説明:**
指定された列は、SQL 照会の結果には含まれません。

**ユーザーの処置:**
文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の指定された列名を変更して、 SQL 照会の結果に含まれる列にしてください。または、SQL 照会を変更して、指定された列が結果に含まれるようにします。

---

**DXXQ005E リレーショナル・マッピングが間違っています。エレメント *element_name* が、その子列 *column_name* より低いレベルになっています。**

**説明:**
SQL 照会の XML へのマッピングが正しくありません。

**ユーザーの処置:**
SQL 照会の結果に含まれる列が、トップダウン順のリレーショナル階層になっていることを確認してください。また、それぞれのレベルが単一列候補キーで始まることを確認してください。そのようなキーが表にない場合、照会では表式および DB2 組み込み関数 generate_unique() を使用して、このキーを生成しなければなりません。

---

**DXXQ006E attribute_node エレメントに名前がありません。**

**説明:**
文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の attribute_node エレメントに名前属性がありません。

**ユーザーの処置:**
すべての attribute_node の名前が DAD ファイル内に指定されていることを確認してください。

---

**DXXQ007E attribute_node *attribute_name* は、列エレメントまたは RDB_node にありません。**

**説明:**
文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の attribute_node エレメントに、列エレメントまたは RDB_node がありません。

**ユーザーの処置:**
どの attribute_node にも、列エレメントまたは RDB_node が DAD ファイル内に指定されていることを確認してください。

---

**DXXQ008E text_node エレメントは列エレメントがありません。**

**説明:**
文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の text_node エレメントに、列エレメントがありません。

**ユーザーの処置:**
どの text_node にも、列エレメントが DAD ファイル内に指定されていることを確認してください。

---

**DXXQ009E 結果表 *table_name* が存在しません。**

**説明:**
指定された結果表が、システム・カタログ内にありません。

**ユーザーの処置:**
ストアード・プロシージャーを呼び出す前に、結果表を作成してください。

---

**DXXQ010E RDB_node の *node_name* では DAD ファイル内に表がありません。**

**説明:**
attribute_node または text_node の RDB_node には表が必要です。

**ユーザーの処置:**
文書アクセス定義 (DAD) ファイル内で、 attribute_node または text_node の RDB_node の表を指定してください。

---

**DXXQ011E RDB_node エレメントの *node_name* では DAD ファイル内に列がありません。**

**説明:**
attribute_node または text_node の RDB_node には列が必要です。

**ユーザーの処置:**
文書アクセス定義 (DAD) ファイル内で、 attribute_node または text_node の RDB_node の列を指定してください。

---

**DXXQ012E　DAD でエラーが発生しました。**

**説明:**
DAD の処理中に XML Extender は予期したエレメントを検出できませんでした。

**ユーザーの処置:**
DAD が有効な XML 文書であり、DAD DTD が必要とするすべてのエレメントを含んでいるかチェックしてください。 DAD DTD に関する XML Extender 資料を参照してください。

**DXXQ013E　表または列エレメントは、DAD ファイルに名前を持ちません。**

**説明:**
エレメントの表または列の名前が、文書アクセス定義 (DAD) ファイル内で指定されていなければなりません。

**ユーザーの処置:**
表または列エレメントの名前を DAD 内に指定してください。

**DXXQ014E　element_node エレメントに名前がありません。**

**説明:**
文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の element_node エレメントに名前属性がありません。

**ユーザーの処置:**
どの element_node エレメントにも、名前が DAD ファイル内に指定されていることを確認してください。

**DXXQ015E　条件形式が無効です。**

**説明:**
文書アクセス定義 (DAD) の条件エレメントの条件が、無効な形式です。

**ユーザーの処置:**
条件形式を有効なものにしてください。

**DXXQ016E　この RDB_node の表名は、DAD ファイルの先頭エレメントに定義されていません。**

**説明:**
すべての表は、文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の先頭エレメントの RDB_node で定義しなければなりません。 サブエレメントの表は、先頭エレメントで定義された表と一致しなければなりません。この RDB_node 内の表名は、先頭エレメントの中にはありません。

**ユーザーの処置:**
RDB ノードの表が、DAD ファイルの先頭エレメントの中で定義されることを確認してください。

**DXXQ017E　結果表 *table_name* 内の列は小さすぎます。**

**説明:**
XML Extender の生成した XML 文書が大きすぎて、結果表の列の中に入りません。

**ユーザーの処置:**
結果表をドロップします。より大きな列を使用して別の結果表を作成します。ストアード・プロシージャーを再実行します。

**DXXQ018E　ORDER BY 文節が SQL ステートメントにありません。**

**説明:**
SQL を XML にマップする文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の SQL ステートメントに、 ORDER BY 文節がありません。

**ユーザーの処置:**
DAD ファイルを編集します。エンティティーを識別する列を含む ORDER BY 文節を追加します。

**DXXQ019E　エレメント objids は DAD ファイル内に列エレメントを持ちません。**

**説明:**
エレメント objids は、SQL を XML にマップする文書アクセス定義 (DAD) ファイルに列エレメントを持ちません。

**ユーザーの処置:**
DAD ファイルを編集します。エレメント objids のサブエレメントとしてキー列を追加してください。

**DXXQ020I　XML が正常に生成されました。**

**説明:**
要求された XML 文書が、正常にデータベースから生成されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**DXXQ021E　表 *table_name* には列 *column_name* がありません。**

**説明:**
表には、指定された列がデータベース内にありません。

**ユーザーの処置:**

DAD で別の列名を指定するか、または指定された列を表データベースの中に追加します。

---

**DXXQ022E** *table_name* **の列** *column_name* **にはタイプ** *type_name* **が必要です。**

**説明:**
列のタイプが正しくありません。

**ユーザーの処置:**
文書アクセス定義 (DAD) 内の列タイプを訂正してください。

---

**DXXQ023E** *table_name* **の列** *column_name* **は** *length* **より長くすることができません。**

**説明:**
DAD 内の列の定義が長すぎます。

**ユーザーの処置:**
文書アクセス定義 (DAD) 内の列の長さを訂正してください。

---

**DXXQ024E** **表** *table_name* **を作成できません。**

**説明:**
指定された表を作成できません。

**ユーザーの処置:**
表を作成しているユーザー ID に、データベース内で表を作成するために必要な権限があることを確認してください。

---

**DXXQ025I** **XML が正常に分解されました。**

**説明:**
XML 文書が正常に分解され、コレクション内に保管されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DXXQ026E** **XML データ** *xml_name* **は列** *column_name* **には大きすぎます。**

**説明:**
XML 文書からの指定されたデータが大きすぎて、指定された列の中に入りません。

**ユーザーの処置:**
ALTER TABLE ステートメントによって列の長さを長くするか、または XML 文書を編集してデータのサイズを小さくします。

---

**DXXQ028E** **XML_USAGE 表でコレクション** *collection_name* **を検出できません。**

**説明:**
コレクション用のレコードが XML_USAGE 表内で検出できません。

**ユーザーの処置:**
コレクションを使用可能にしたかどうか確認してください。

---

**DXXQ029E** **コレクション** *collection_name* **用の DADが XML_USAGE 表で検出できません。**

**説明:**
コレクション用の DAD レコードが XML_USAGE 表内で検出できません。

**ユーザーの処置:**
コレクションを正しく使用可能にしたかどうか確認してください。

---

**DXXQ030E** **不正な XML 上書き構文です。**

**説明:**
ストアード・プロシージャー内に正しくない XML_override 値が指定されています。

**ユーザーの処置:**
XML_override の構文が正しいか確認してください。

---

**DXXQ031E** **表名は DB2 で許可されている最大長より長くすることはできません。**

**説明:**
DAD 内の条件エレメントによって指定されている表名が長すぎます。

**ユーザーの処置:**
文書アクセス定義 (DAD) 内の表名の長さを訂正してください。

---

**DXXQ032E** **列名は DB2 で許可されている最大長より長くすることはできません。**

**説明:**
DAD 内の条件エレメントによって指定されている列名が長すぎます。

**ユーザーの処置:**
文書アクセス定義 (DAD) 内の列名の長さを訂正してください。

---

**DXXQ033E** *identifier* **で開始する ID が無効です。**

**説明:**
ストリングが有効な DB2 SQL ID ではありません。

**ユーザーの処置:**
DB2 SQL ID の規則に準拠するように DAD 内のストリングを訂正してください。

---

**DXXQ034E DAD の最上位の RDB_node のエレメントが無効状態です:** *condition*

**説明:**
条件エレメントは、論理積 AND によって接続された結合条件から成る有効な WHERE 文節でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
DAD 内の結合条件の正しい構文については、XML Extender 資料を参照してください。

---

**DXXQ035E DAD の最上位の RDB_node の結合状態が無効です :** *condition*

**説明:**
最上位の RDB_node の条件エレメント内の列名は、DAD が複数の表を指定する場合には表名で修飾されなければなりません。

**ユーザーの処置:**
DAD 内の結合条件の正しい構文については、XML Extender 資料を参照してください。

---

**DXXQ036E DAD 状態タグの下に指定されているスキーマ名が長すぎます。**

**説明:**
DAD 状態タグの下にあるテキストを解析しているときにエラーが検出されました。状態テキストの ID を修飾しているスキーマ名が長すぎます。

**ユーザーの処置:**
文書アクセス定義 (DAD) 内の状態タグのテキストを修正してください。

---

**DXXQ037E** *element* **を multi_occurrence 属性で生成することはできません。**

**説明:**
エレメント・ノードとその子にはデータベースへのマッピングがありませんが、multi_occurrence が YES に設定されています。

**ユーザーの処置:**
multi_occurrence を NO に設定するか、そのノードの子のどれかに RDB_node を作成することによって DAD を修正してください。

---

**DXXQ038E 次の SQL ステートメントが長すぎます:** *SQL_statement*

**説明:**
DAD の SQL_stmt エレメントに指定されている SQL ステートメントが、許可されているバイト数を超えています。

**ユーザーの処置:**
SQL ステートメントの長さを、Windows および UNIX では 32765 バイト以下、OS/390 および OS/400 では 16380 バイト以下にしてください。

---

**DXXQ039E DAD ファイルの表に指定されている列が多すぎます。**

**説明:**
分解または RDBcomposition に使用される DAD ファイルには、同じ表内のユニークな列を指定する text_node エレメントと attribute_node エレメントが合計で最大 100 個 まで入れられます。たとえば、DAD の次のフラグメントには、表 SHIP_TAB で 2 つの異なった列を指定する 2 つの text_node エレメントが含まれます:

```
<element_node name="ShipMode">
        <text_node>
          <RDB_node>
              <table name="ship_tab"/>
              <column name="mode"/>
          </RDB_node>
        </text_node>
    </element_node>
    <element_node name="Comment">
        <text_node>
          <RDB_node>
              <table name="ship_tab"/>
              <column name="comment"/>
          </RDB_node>
        </text_node>
    </element_node>
```

**ユーザーの処置:**
同じ表内のユニークな列を参照する text_node と attribute_node のエレメント合計数を 100 以下に減らしてください。

---

**DXXQ040E DAD ファイルのエレメント名** *element_name* **が無効です。**

**説明:**
文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の指定されたエレメント名が正しくありません。

**ユーザーの処置:**

エレメント名が DAD ファイルに正確に入力されているか、確認してください。

---

**DXXQ041W XML 文書が正常に生成されました。指定された 1 つ以上のオーバーライド・パスが無効で、無視されました。**

**説明:**
指定されている 1 つ以上のオーバーライド・パスは無効であり、無視されます。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DXXQ043E 属性 *attr_name* はエレメント *elem_name* で見つかりません。**

**説明:**
属性 *attr_name* は、エレメント *elem_name* または、その子エレメントのいずれかにありません。

**ユーザーの処置:**
XML 文書で DAD が指示するところには、属性が入っているようにしてください。

---

**DXXQ044E エレメント *elem_name* には継承するエレメント *ancestor* がありません。**

**説明:**
DAD によれば、*ancestor* は *elem_name* の上位エレメントです。 XML 文書では、1 つ以上の *elem_name* には、このような上位エレメントがありません。

**ユーザーの処置:**
XML 文書内のエレメントのネストが、対応する DAD における指定に準拠しているか、確認してください。

---

**DXXQ045E エレメント *elem_name* の下のサブツリーには、 *attrib_name* という名前の複数の属性が含まれます。**

**説明:**
XML 文書内の *elem_name* 下のサブツリーには、属性 *attrib_name* の複数インスタンスが含まれます。 DAD によると、この属性は同じ行に分解されます。分解されるエレメントまたは属性には、ユニーク名が必要です。

**ユーザーの処置:**
サブツリー内のエレメントまたは属性にユニークな名前が付いているか、確認してください。

---

**DXXQ046W DAD 内に DTD ID が見つかりません。**

**説明:**
DAD において VALIDATION が YES ですが、DTDID エレメントが指定されていません。 妥当性検査は行われません。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。妥当性検査が必要であれば、DAD ファイル内で DTDID エレメントを指定してください。

---

**DXXQ047E 行 *linenumber* 列 *colnumber* の構文解析プログラムエラー: *msg***

**説明:**
構文解析プログラムは、報告されたエラーのために、文書を解析できませんでした。

**ユーザーの処置:**
必要ならば、XML の指定を調べて、文書内のエラーを訂正してください。

---

**DXXQ048E 内部エラー - トレース・ファイルを参照してください。**

**説明:**
スタイルシートの処理プログラムが内部エラーを戻しました。 XML 文書またはスタイルシートが有効ではない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
XML 文書とスタイルシートが有効であるか、確認してください。

---

**DXXQ049E 出力ファイルが既に存在しています。**

**説明:**
指定された出力ファイルは、このディレクトリーにすでに存在しています。

**ユーザーの処置:**
出力文書の出力パスまたはファイル名をユニークな名前に変更するか、または既存のファイルを削除してください。

---

**DXXQ050E ユニークなファイル名を作成できません。**

**説明:**
UDF にアクセス権がないか、生成可能なすべてのファイル名が使用されているか、またはディレクトリーが存在しないため、UDF は指定のディレクトリーに出力文書のためのユニークなファイル名を作成できませんでした。

**ユーザーの処置:**

UDF に指定のディレクトリーに対するアクセス権があることを確認し、使用できるファイル名をもったディレクトリーに変更してください。

---

**DXXQ051E　入力データまたは出力データがありません。**

**説明:**
入力または出力パラメーターの中に有効な値を持っていないものがあります。

**ユーザーの処置:**
必要パラメーターが揃っているかステートメントをチェックしてください。

---

**DXXQ052E　DB2XML.XML_USAGE 表のアクセス中にエラーが発生しました。**

**説明:**
データベースが使用可能になっていないか、または表 DB2XML.XML_USAGE が強制的にドロップされています。

**ユーザーの処置:**
データベースが使用可能になっていて、表 DB2XML.XML_USAGE がアクセス可能であるか、確認してください。

---

**DXXQ053E　SQL ステートメントのエラー:** *msg*

**説明:**
XML Extender の処理中に生成された SQL ステートメントが実行できませんでした。

**ユーザーの処置:**
詳細をトレースで調べてください。エラー状態を訂正できない場合は、ソフトウェア・サービス提供者に連絡してください。エラーを報告する場合、すべてのメッセージ、トレース・ファイル、およびエラーの再現方法についての説明を必ず知らせてください。

---

**DXXQ054E　次の入力パラメーターは無効です:** *param*

**説明:**
ストアード・プロシージャーまたは UDF に対して指定された入力パラメーターが無効です。

**ユーザーの処置:**
関係のあるストアード・プロシージャーまたは UDF の署名をチェックし、実際の入力パラメーターが正しいか、確認してください。

---

**DXXQ055E　ICU エラー:** *uerror*

**説明:**
変換操作中に ICU エラーが検出されました。

**ユーザーの処置:**
ソフトウェア・サービス提供者にエラーを報告してください。トレース・ファイル、エラー・メッセージ、エラーを再現するための方法を含めてください。

---

**DXXQ056E　エレメント/属性** *xmlname* **は、外部キーの一部として指定されている列 (表** *table* **の列** *column*) **にマッピングできません。**

**説明:**
指定したエレメント/属性は、外部キーの一部として指定されている列にマッピングできません。外部キーのデータ値は主キーのデータ値によって決まるので、XML 文書内のエレメント/属性を指定して表と列にマッピングする必要はありません。

**ユーザーの処置:**
指定した列と表に対する RDB_node マッピングを DAD から削除してください。

---

**DXXQ057E　DAD ファイル内で schemabindings タグと dtdid タグは共存できません。**

**説明:**
DAD ファイル内で schemabindings タグと dtdid タグは共存できません。

**ユーザーの処置:**
DAD ファイル内に schemabindings タグと dtdid タグの両方が存在していないかどうかを確認してください。

---

**DXXQ058E　DAD ファイルの schemabindings タグの内部に nonamespacelocation タグが存在しません。**

**説明:**
DAD ファイルの schemabindings タグの内部に nonamespacelocation タグが存在しません。

**ユーザーの処置:**
schemabindings タグに nonamespacelocation タグを追加してください。

---

**DXXQ059E　スキーマの妥当性検査の観点からすると、DAD の XCollection タグの内部に doctype タグを入れることはできません。**

**説明:**
スキーマの妥当性検査の観点からすると、DAD の XCollection タグの内部に doctype タグを入れることはできません。

**ユーザーの処置:**
スキーマの妥当性検査のために Xcollection タグの内部にある doctype タグを削除してください。

---

**DXXQ060E　SCHEMA ID *schemaid* を検出できませんでした。**

**説明:**
XML Extender は、列を使用可能にしようとしたときに SCHEMA ID を検出できませんでした。 SCHEMA ID は、DAD ファイルの schemabindings タグの内部にある nonamespacelocation タグの location 属性の値に対応します。

**ユーザーの処置:**
SCHEMA ID の正しい値が DAD ファイルで指定されていることを確認してください。

---

**DXXQ061E　ストリングの形式が無効です。**

**説明:**
ストリング表記の形式が無効です。ストリングが日付、時刻、タイム・スタンプのいずれかの値の場合、この構文はそれぞれのデータ・タイプに準拠していません。

**ユーザーの処置:**
日付、時刻、タイム・スタンプのいずれかの値の形式が、それぞれのデータ・タイプの形式に準拠していることを確認してください。

---

**DXXQ062E　*tab* の結果セットには、 *elem* の XML 値を生成するための行が残っていません。**

**説明:**
このエラー状態は通常、対象のエレメントまたは属性の親 element_node に multi_occurrence = YES という指定がないために発生します。

**ユーザーの処置:**
DAD の親 element_node の multi_occurrence の値が、複数の子 element_node を許容する設定になっているかどうかを確認してください。

---

**DXXQ063E　DAD ファイルの *elementname* の multi_occurrence 属性の値が無効です。**

**説明:**
文書アクセス定義 (DAD) ファイル内の指定の element_node の multi_occurrence 属性の値がないか、誤っています。この値は「yes」か「no」のいずれかでなければなりません (大文字と小文字の区別はありません)。

**ユーザーの処置:**
multi_occurrence 属性が DAD ファイル内に正しく指定されていることを確認してください。

---

**DXXQ064E　外部表 *table* 内で列 *column* が見つかりません。**

**説明:**
結合条件内で指定したキー列がエレメント・ノードまたは属性ノードにマッピングされていませんでした。

**ユーザーの処置:**
DAD ファイルで指定した結合条件が正しく、すべてのキー列がエレメント・ノードまたは属性ノードにマッピングされていることを確認してください。

---

**DXXQ065I　XML 対応列に関連するすべてのトリガーが正常に再生成されました。**

**説明:**
これは単なる通知メッセージです。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

---

**DXXQ066E　表 *tablename* の主キーが存在しません。**

**説明:**
XML Extender は、表 *tablename* の主キーを判別できませんでした。その表の主キーは、対象の列が XML 対応とした後にドロップされた可能性があります。

**ユーザーの処置:**
その表を変更して、対象の列を XML 対応とした後に ROOT ID として指定した主キーを追加してください。

---

**DXXQ067E　*action* を実行できませんでした。**

**説明:**
*action* を実行しようとしたときに、 SQL エラーが起きました。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サービス提供者に連絡してください。エラーを報告するときに、XML Extender のトレース・ファイルを必ず含めてください。

---

**DXXQ068E　現在の SQLID を *userid* に設定できません。 SQLCODE = *sqlcode*。**

**説明:**
指定された許可 IDは、ユーザーの 1 次許可 ID でも、関連した 2 次許可 ID の 1 つでもありません。

**ユーザーの処置:**
許可 IDを訂正するか、セキュリティー管理者に連絡を取り、使用できる許可 ID を定義してもらうようにしてください。

---

**DXXQ069E 表 *tab2name* の外部キーとして表 *tabname* にマップされているエレメント/属性 *xmlitemname* が見つかりません。**

**説明:**
DAD によって指定されているマッピング (複数回出現の使用法を含む) では、値 *xmlitemname* を使用して外部キー値 *tab2name* を設定することはできません。

**ユーザーの処置:**
2 つの表に関係する結合条件、*tabname* およびそのラッパーにマップする最上位エレメントの multi_occurrence 属性の値、および、*tabname* 以外の表にマップする *xmlitemname* の上位エレメントの子に他の項目があるかどうかを確認してください。

---

**DXXQ070E トレース・ファイル *tracefile* を出力用にオープンできません。**

**説明:**
トレース・ファイルのオープンに失敗しました。

**ユーザーの処置:**
トレース・ファイルに書き込むプロセスが書き込み許可を持っており、ファイルが読み取り/書き込みファイル・システム上にあることを確認してください。

---

**DXXQ071E 構成で許可される、マップされる LOB 列の数が、最大数 *loblimit* を超えています。**

**説明:**
構成 DAD で指定されている、マップされる LOB 列の数が、許可される最大数を超えています。LOB 列の数を減らしてください。

**ユーザーの処置:**
DAD で指定されている LOB 列が最大数を超えているかどうかを確認してください。制限を超えていない場合は、ソフトウェア・サービス提供者に連絡してください。エラーを報告する場合、すべてのメッセージ、トレース・ファイル、および入力 DAD や表定義などの、問題の再現方法についての情報を知らせてください。

---

**DXXQ072E XML Extender for System i では、XML Toolkit for System i (*prodid*) がオプション *parseropt* を指定してインストールされていることが必要です。**

**説明:**
XML Extender は、XML Toolkit for System i によって提供される XML パーサーを使用します。

**ユーザーの処置:**
必要なオプションを指定して XML Toolkit for System i をインストールしてください。

---

**DXXQ073E データベースは使用可能ではありません。**

**説明:**
dxxadm 管理コマンドは、使用可能でないデータベース上で実行されました。

**ユーザーの処置:**
他の XML Extender 管理コマンドを実行する前に、XML Extender 用のデータベースを使用可能にしてください。 XML 対応になっていないデータベースを使用不可にする場合も、結果として同じエラーが発生するので、ご注意ください。

# 第 14 章 EAS メッセージ

**EAS0001I Installation of the application server for DB2 completed successfully.**

**説明:**
コマンドは正常に完了しました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**EAS0002I Uninstall of the application server for DB2 was successful.**

**説明:**
アンインストールが正常に実行されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**EAS0003I Checking for previous versions of DB2 Embedded Application Server...**

**EAS0004I No previous DB2 Embedded Application Server found.**

**EAS0005E An installed copy of DB2 Embedded Application Server was found. You must uninstall this copy and restart the install program.**

**説明:**
DB2 Embedded Application Server では、複数のインストールはサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
現在インストールされている DB2 Embedded Applicaton Server を DB2 インフォメーション・センターの指示に従ってアンインストールしてから、インストールを続行してください。

**EAS0013E XMR is currently installed. Migration cannot continue.**

**説明:**
XMR が現在インストールされています。XMR は新しいバージョンの DB2 Embedded Application Server でサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
XMR を手動でアンインストールしてから、インストールを再試行してください。XMR のアンインストール手順については、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

**EAS0015E The installation has failed because the registry record is corrupted.**

**説明:**
現在インストール済みの DB2 Embedded Application Server のオペレーティング・システム・レジストリー・レコードが検出されました。しかし、その情報が無効です。

**ユーザーの処置:**
現在の DB2 Embedded Application Server をアンインストールしてから、インストールを続行してください。問題が解決されない場合は、IBM DB2 サポートに連絡してください。

**EAS0018I Uninstalling DB2 Embedded Application Server...**

**EAS0019W The installation has been cancelled because there were problems allocating memory for the application.**

**説明:**
インストール・プログラムは、処理のための十分なメモリーを割り振ることができませんでした。

**ユーザーの処置:**
すべてのプログラムをクローズして、インストール・プログラムを再実行してください。

**EAS0020E The installation has been cancelled because there were problems renaming files left the uninstall.**

**説明:**
DB2 Embedded Application Server のアンインストール時に、すべてのファイルが正常に除去されませんでした。既存のディレクトリーには、 DB2 Embedded Application Server を新規にインストールできません。

**ユーザーの処置:**
アンインストール時に残ったファイルをすべて名前変更するか、除去してください。その後、インストールを続行します。

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

**EAS0021E The installation has been cancelled because there were problems cleaning the memory of unused resources.**

**説明:**
除去できなかった未使用リソースがあるため、インストールはキャンセルされました。

**ユーザーの処置:**
システムをリブートして、インストール・プログラムを再度実行してください。

**EAS0022E The installation has been cancelled because of problems during the uninstall.**

**説明:**
現在インストールされている DB2 Embedded Application Server のアンインストール時に、不明の問題が発生しました。

**ユーザーの処置:**
手動によるアンインストール方法について DB2 インフォメーション・センターを参照し、再度インストール・プログラムを実行してください。

**EAS0100E DB2 Version 9 must be installed prior to installing the application server for DB2.**

**説明:**
アプリケーション・サーバーのインストール先のマシン上に、DB2 用のインストール・パスが見つかりませんでした。

**ユーザーの処置:**
DB2 バージョン 9 がインストール済みであることを確認し、再試行してください。

**EAS0110E Unable to access the DB2 library file libdb2genreg.**

**説明:**
DB2 用のアプリケーション・サーバーに対する DB2 グローバル・レジストリーに項目を作成するには、DB2 ライブラリー libdb2genreg が必要です。しかし、ライブラリーがこのマシンで見つかりませんでした。

**ユーザーの処置:**
DB2 バージョン 8 がインストール済みであることを確認し、DB2APPSERVERINSTALL コマンドを再発行してください。DB2 バージョン 8 がインストール済みなのに問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

**EAS0120E Unable to write to the DB2 Global Registry.**

**説明:**
DB2 用のアプリケーション・サーバーに関する項目が、DB2 グローバル・レジストリーに必要です。しかし、レジストリーに項目を書き込もうとした際に、失敗がありました。

**ユーザーの処置:**
ユーザーのアクセス権限が十分かどうか (UNIX では root 権限、Windows では管理者権限)、および DB2 バージョン 8 が適切にインストールされているかどうかを確認してください。ユーザーのアクセス権限が十分で、DB2 バージョン 8 が適切にインストールされている場合、DB2APPSERVERINSTALL コマンドを再発行してください。

**EAS0121E Unable to read from the DB2 Global Registry.**

**説明:**
DB2 グローバル・レジストリー内の項目からの情報が必要です。しかし、レジストリーから項目を読み取ろうとした際に、失敗がありました。

**ユーザーの処置:**
ユーザーの読み取り権限が十分で、DB2 バージョン 8 が正常にインストールされているかどうかを確認してください。DB2APPSERVERINSTALL コマンドを再発行してください。

**EAS0130E Installation of the application server for DB2 failed due to insufficient space.**

**説明:**
DB2 用のアプリケーション・サーバーのインストール先のマシン上に十分なディスク・スペースがないため、インストールに失敗しました。

**ユーザーの処置:**
十分なディスク・スペースが使用可能になった後、DB2APPSERVERINSTALL コマンドを再発行してください。

**EAS0140E Installation of the application server for DB2 failed. The installation path specified already exists.**

**説明:**
指定されたインストール・パスは既に存在しています。

**ユーザーの処置:**

指定されたディレクトリーを除去するか、代わりのディレクトリーを指定し、DB2APPSERVERINSTALL コマンドを再発行してください。

---

**EAS0150E Installation of the application server for DB2 failed. The specfied path is invalid.**

**説明:**
指定されたインストール・パスは無効です。

**ユーザーの処置:**
代わりのディレクトリーを指定し、DB2APPSERVERINSTALL コマンドを再発行してください。

---

**EAS0160E Installation of the application server for DB2 failed due to insufficient authority.**

**説明:**
ユーザーの権限が不十分なため、インストールに失敗しました。ユーザーは、UNIX システムでは root 権限、または Windows システムでは管理者権限を持っている必要があります。

**ユーザーの処置:**
ユーザーに十分な権限があることを確認し、DB2APPSERVERINSTALL コマンドを再発行してください。

---

**EAS0170W Failed to cleanup the install directory.**

**説明:**
インストールが失敗した後にインストール・ディレクトリーのクリーンアップを試行しましたが、失敗しました。

**ユーザーの処置:**
インストール時に指定されたパスを手動で除去してください。

---

**EAS0180E Installation of the DB2 application server failed due to system error.**

**説明:**
システム・エラーにより、DB2 アプリケーション・サーバーのインストールに失敗しました。

**ユーザーの処置:**
このエラーの考えられる原因については、easInstall.log ファイルを参照してください。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。

---

**EAS01000E The installation has been cancelled because an error occurred during profile creation.**

**説明:**
不明なエラーが発生したため、新規の DB2 Embedded Application Server のプロファイル作成に失敗しました。

**ユーザーの処置:**
ログ・ファイルを調べてトラブルシューティングを行ってください。

---

**EAS01001E The installation has been cancelled because the program was unable to determine the version number of the currently installed DB2 Embedded Application Server.**

**説明:**
現在インストール済みの DB2 Embedded Application Server のオペレーティング・システム・レジストリー・レコードが検出されました。しかし、バージョン番号に関する情報が無効です。

**ユーザーの処置:**
手動によるアンインストール方法について DB2 インフォメーション・センターを参照し、再度インストール・プログラムを実行してください。

---

**EAS01002E The DB2 level for this instance does not meet requirements.**

**説明:**
使用しようとしている DB2 のインスタンスが、DB2 Embedded Application Server のインストール要件を満たしていません。

**ユーザーの処置:**
すべての要件とそれに対応するレベルを記載したリストについては、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

# 第 15 章 EXP メッセージ

このセクションには、Explain (EXP) メッセージが記載されています。メッセージは番号順にリストされています。

**EXP0001W** 最適化プロファイルまたは組み込み最適化ガイドラインを処理または適用中に、予期しないエラーが発生しました。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

**EXP0002W** 最適化プロファイルまたは組み込み最適化ガイドラインを処理するにはメモリー不足でした。

**EXP0003W** SYSTOOLS スキーマ内の OPT_PROFILE 表は、欠落しているかまたは予期しないフォーマットです。

**EXP0004W** 最適化プロファイルまたは組み込み最適化ガイドラインは、フォーマットが整っていないかまたは無効です。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

**EXP0005W** 最適化プロファイルは、処理できなかったか、または SYSTOOLS スキーマの OPT_PROFILE 表内に見つかりませんでした。

**EXP0006W** 最適化プロファイル・キャッシュがメモリー不足のため、パフォーマンスに影響が出る可能性があります。

**EXP0007W** REOPT エレメントの VALUE 属性が無効な値 *REOPT-value* を取っています。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

**EXP0008W** アクセス要求が無効です。 TABID 属性で識別された表参照が見つかりませんでした。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

**EXP0009W** アクセス要求が無効です。 TABLE 属性で識別された表参照が見つかりませんでした。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

**EXP0010W** アクセス要求が無効です。 TABLE 属性で識別された表参照がユニークではありません。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

**EXP0011W** アクセス要求が無効です。 TABLE および TABID フィールドは同じ表参照を識別する必要があります。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

**EXP0012W** アクセス要求が無効です。索引 *index-name* が見つかりませんでした。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

**EXP0013W** 索引 AND 演算アクセス要求が無効です。ブロック索引はレコード索引の前に置く必要があります。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

**EXP0014W** アクセス要求または結合要求が無効です。エレメントのデータ長が、該当タイプの DB2 最大値を超えているため、適用できません。エレメント *element*、行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

**EXP0015W** 結合要求が無効です。結合が、同じ FROM 文節内にない表を参照しています。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

**EXP0016W** 結合要求が無効です。結合従属関係が矛盾しています。

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

**EXP0017W** 組み込み最適化ガイドラインを含むコメントがステートメント内で複数見つかりました。

**EXP0018W** スター型結合要求が無効です。 2 つより少ない索引が指定されました。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

**EXP0019W** アクセス要求が無効です。指定された相関名と表名の表が見つかりません。 DB2 は表の MQT を置換しました。

**EXP0020W** 表に統計がありません。表 *schema.table-name*上で **runstats** が実行されていません。その結果、アクセス・プランが最適ではなく、ローパフォーマンスになる可能性があります。

**EXP0021W** 表列に統計がありません。表 *schema.table-name*の列 *column-number* 上で **runstats** が実行されていません。そのため、カーディナリティーおよび述部フィルターの見積もりの正確さが低くなる可能性があります。

**EXP0022W** 索引に統計がありません。索引 *schema.index-name*上で **runstats** が実行されていません。そのため、カーディナリティーおよび述部フィルターの見積もりの正確さが低くなる可能性があります。

**EXP0023W** 最適化ガイドラインが別のガイドラインと重複しています。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

**EXP0024W** 最適化ガイドラインが別のガイドラインと対立しています。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

**EXP0025W** 最適化ガイドラインがあいまいです。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

**EXP0026W** オプション *option* が無効です。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

**EXP0027W** 列名が表参照なしで指定されています。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

**EXP0028W** 意味条件を満たしていないかまたはコンテキストが変更されたため、最適化ガイドライン SUBQ2JOIN は適用されませんでした。

**EXP0029W** 意味条件を満たしていないかまたはコンテキストが変更されたため、最適化ガイドライン INLIST2JOIN は適用されませんでした。

**EXP0030W** 意味条件を満たしていないかまたはコンテキストが変更されているため、最適化ガイドライン NOTEX2AJ は適用されませんでした。

**EXP0031W** 意味条件を満たしていないかまたはコンテキストが変更されているため、最適化ガイドライン NOTIN2AJ は適用されませんでした。

**EXP0032W** IN リスト述部が見つかりませんでした。行番号 *line-number*。

**EXP0033W** アクセス要求が無効です。 MQT 名を突き合わせることができませんでした。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

**EXP0034W** アクセス要求が無効です。表参照が見つかりませんでした。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

**EXP0035W** ガイドラインは適用されません。行番号 *line-number*、文字番号 *character-number*。

**EXP0036W** アクセス要求が無効です。行 *line-number*、列 *column-number* の索引は正しい ID ではありません (区切り文字で区切られていない限り、索引名は前後に空白を取りません)。

**EXP0037W** 設定要求が無効です。行 *line-number*、列 *column-number* のスキーマは正しい ID ではありません (区切り文字で区切られていない限り、スキーマ名は前後に空白を取りません)。

**EXP0038W** 設定要求が無効です。行 *line-number*、列 *column-number* の MQT は正しい ID ではありません。

**EXP0039I** 照会複合度測定。任意の照会ブロック内での結合の最高数: *joins*。

**EXP0040I** 列グループ統計の推奨。表 *table-name* の列 *columns* は、統計的に相関関係にあります。これにより最悪の場合、*error-factor* を係数としたカーディナリティーが過小評価されることがあります。列についての列グループ統計を収集すると、カーディナリティーの評価が改善されることがあります。

**EXP0041I** バイアス防止のための列グループ統計の推奨。表 *table-name* の列 *columns* は、統計的に相関関係にあります。これにより最悪の場合、*error-factor* を係数としたカーディナリティーが過小評価されることがあります。列についての列グループ統計を収集すると、カーディナリティーの評価が改善されることがあります。

**EXP0042I** 列グループ統計の推奨。表 *table-name* の列 *columns* は、統計的に相関関係にあることがあります。これにより最悪の場合、*error-factor* を係数としたカーディナリティーが過小評価されることがあります。列についての列グループ統計を収集すると、カーディナリティーの評価が改善されることがあります。

**EXP0043I** バイアス防止のための列グループ統計の推奨。表 *table-name* の列 *columns* は、統計的に相関関係にあることがあります。これにより最悪の場合、*error-factor* を係数としたカーディナリティーが過小評価されることがあります。列についての列グループ統計を収集すると、カーディナリティーの評価が改善されることがあります。

**EXP0051W** 以下の MQT は、外れ値述部が見つからなかったため、適格ではありませんでした: *schema.table-name*。

**EXP0052W** 以下の MQT または統計ビューは、最適化プロファイルに指定されたどの MQT とも一致しなかったため、再書き込み突き合わせの対象として考慮されませんでした: *schema.table-name* 。

**EXP0053W** 以下の REFRESH DEFERRED MQT は、分離レベルが照会の分離レベルより下位であるため、再書き込み突き合わせの対象として考慮されませんでした: *schema.table-name*。

**EXP0054W** 以下の REFRESH DEFERRED MQT は、CURRENT REFRESH AGE レジスターが ANY に設定されていなかったため、再書き込み突き合わせの対象として考慮されませんでした: *schema.table-name* 。

**EXP0055W** 以下の REFRESH DEFERRED MQT は、CURRENT MAINTAINED TABLE TYPES FOR OPTIMIZATION レジスターまたは DFT_MTTB_TYPES 構成パラメーターが ALL、SYSTEM、または USER に設定されていなかったため、再書き込み突き合わせの対象として考慮されませんでした: *schema.table-name*。

**EXP0056W** 以下の FEDERATED_TOOL MQT は、CURRENT MAINTAINED TABLE TYPES FOR OPTIMIZATION レジスターまたは DFT_MTTB_TYPES 構成パラメーターが FEDERATED_TOOL に設定されていなかったため、再書き込み突き合わせの対象として考慮されませんでした: *schema.table-name*。

**EXP0057W** 以下の MQT または統計ビューは、再帰的 VIEWS に基づいていたか、SELECT、GROUP BY、および UNION ALL 以外の SQL 構成を含んでいたため、再書き込み突き合わせの対象として考慮されませんでした: *schema.table-name*。

**EXP0058W** 以下の MQT または統計ビューは、次の 1 つ以上の理由により、再書き込み突き合わせの対象として考慮されませんでした。 (1) MQT が SET INTEGRITY PENDING 状態だった、 (2) MQT が SET INTEGRITY PENDING 状態になりそうだった、 (3) MQT が同じステートメント内で変更された、 (4) MQT または統計ビューで最適化が有効ではなかった。 *schema.table-name*。

**EXP0059W** 以下の MQT または統計ビューは、(1) MQT に照会にはない余分の表結合または GROUP BY 列があったか、または (2) 照会に ORDER BY、FETCH FIRST n ROWS、DISTINCT などの SQL 構成が含まれていたか、突き合わせ不能な副照会が含まれていたか、いずれかの理由で適格ではありませんでした: *schema.table-name*。

**EXP0060W** 以下の MQT または統計ビューは、MQT に指定された 1 つ以上の表、ビュー、または副照会が照会内に見つからなかったため、適格ではありませんでした: *schema.table-name*。

**EXP0061W** 以下の MQT または統計ビューは、MQT 内に照会より表結合が多かったため、適格ではありませんでした。 *schema.table-name*。

**EXP0062W** 以下の MQT または統計ビューは、照会で参照される 1 つ以上の列または式が MQT 内に見つからなかったため適格ではありませんでした。 *schema.table-name*。

**EXP0063W** 以下の MQT または統計ビューは、照会内の相関副照会が原因で、適格ではありませんでした。 *schema.table-name*。

**EXP0064W** 以下の MQT または統計ビューは、MQT で使用されている UNION 構成が照会と突き合わせできなかったため、適格ではありませんでした。 *schema.table-name*。

**EXP0065W** 以下の MQT または統計ビューは、突き合わせできない GROUP BY 副照会または相関表式が含まれていたため、適格ではありませんでした。 *schema.table-name*。

**EXP0066W** 以下の MQT または統計ビューは、MQT または照会からの外部結合または副照会が突き合わせできなかったため、適格ではありませんでした。match: *schema.table-name*。

**EXP0067W** MQT 拡張が sqlcode が原因で失敗したため、SQL 照会再書き込みで MQT 突き合わせは実行されませんでした。 *sqlcode*。詳細については、sqlcode の資料を参照してください。

**EXP0068W** 以下の MQT または統計ビューは、MQT または照会からの副照会が突き合わせできなかったため、適格ではありませんでした。 *schema.table-name*。

**EXP0069W** 以下の MQT または統計ビューは、照会または MQT に、ORDER BY、FETCH FIRST n ROWS、DISTINCT、または最大カーディナリティーの強制などの SQL 構成との相関関係があるため、適格ではありませんでした。 *schema.table-name*。

**EXP0070W** 以下の MQT または統計ビューは、照会または MQT に、ORDER BY、FETCH FIRST n ROWS、DISTINCT などの SQL 構成、または最大カーディナリティーの強制があるため、適格ではありませんでした。 *schema.table-name*。

**EXP0071W** 以下の MQT または統計ビューは、照会または MQT に DISTINCT SQL 構成があるため、適格ではありませんでした。 *schema.table-name*。

**EXP0072W** 以下の MQT または統計ビューは、照会内の GROUP BY 条件を MQT と突き合わせできなかったため、適格ではありませんでした。*schema.table-name*。

**EXP0073W** 以下の MQT または統計ビューは、照会の 1 つ以上のデータ・フィルター述部を MQT と突き合わせできなかったため、適格ではありませんでした。
*schema.table-name*。

**EXP0074W** 以下の MQT は、照会と MQT の間で適切なバインディングが検出されなかったため、適格ではありませんでした。
*schema.table-name*。

**EXP0075W** 以下の MQT または統計ビューは、内部に含まれる SQL 構成を補正して照会と突き合わせることができなかったため、適格ではありませんでした。
*schema.table-name*。

**EXP0077W** 以下の MQT または統計ビューは、コンパイルできなかったため、適格ではありませんでした。 *schema.table-name*。

**EXP0078W** 以下の MQT または統計ビューは、等価またはより適切な候補が使用できる状態であったため、適格ではありませんでした。
*schema.table-name*。

**EXP0079W** 以下の MQT は、この MQT に関する計画コストが高かったか、またはより適切な候補があったため、最終アクセス・プランに使用されませんでした。
*schema.table-name*。

**EXP0080W** ステートメントの現在の使用方法、または更新、削除、挿入を含むステートメント、またはサンプリングのような構文は、MQT マッチングを制限します。

**EXP0081W** 照会最適化レベルが 0、1、または 3 に設定されているため、SQL 照会再書き込みで MQT 突き合わせは実行されませんでした。

**EXP0082W** 以下の MQT または統計ビューは、MQT と照会との間で FRIENDLY ARITHMETIC 特性が一致しなかったため、適格ではありませんでした。
*schema.table-name*。

**EXP0147W** 以下の統計ビューは、カーディナリティーを見積もるためにオプティマイザーによって使用されている可能性があります。
*schema.table-name*。

**EXP0148W** 以下の MQT または統計ビューが、照会突き合わせで考慮されました。
*schema.table-name*。

**EXP0149W** (検討対象になった MQT のうち) 以下の MQT が照会突き合わせで使用されました: *schema.table-name*。

**EXP0150W** (検討対象になった MQT のうち) 以下の MQT または統計ビューが照会突き合わせで使用されませんでした。
*schema.table-name*。

**EXP0151W** 度合いの値が無効です。度合いの要求として指定されたストリングが無効です。行番号 *number*、文字番号 *number*。

**説明:**
度合いとして指定されたストリングが正しくないのでガイドラインは使用されません。

**ユーザーの処置:**
ガイドラインで VALUE 属性として指定されたストリングが、ANY または -1 から 32767 の間の数値であることを確認してください。

**EXP0152W** 度合いの値が無視されます。指定の並列処理の度合いは、システムがパーティション内の並列処理ができないため、無視されます。行番号 *number*、文字番号 *number*。

**説明:**
データベース・マネージャーがパーティション内並列処理用に構成されていません。

**ユーザーの処置:**
パーティション内並列処理を使用する場合には、intra_parallel 構成パラメーターを ON に設定して、データベース・マネージャーを再始動します。

**EXP0153W** 照会最適化の値が無効です。行番号 *number*、文字番号 *number*。

**説明:**
qryopt 値として指定されたストリングが、受け入れ可能な値ではありません。

**ユーザーの処置:**

サポートされている最適化レベルのリストについては、「管理ガイド」または「SQL リファレンス」を参照してください。

**EXP0154W** **ステートメントは、ローカル・オブジェクトを参照するために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。**

**EXP0155W** **ステートメントは、ビューに更新操作が含まれるために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。**

**EXP0156W** **ステートメントは、列参照に 3 部構成の名前を使用するために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。**

**EXP0157W** **ステートメントは、ユーザー定義のデータ・タイプを参照するために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。**

**EXP0158W** **ステートメントは、ユーザー定義関数を参照するために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。**

**EXP0159W** **ステートメントは、名前変更されたニックネームの列を参照するために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。**

**EXP0160W** **ステートメントは、DB2 特殊レジスターを参照するために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。**

**EXP0161W** **ステートメントは、無効なサーバー・オプション値のために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。**

**説明:**
ファースト・パス処理を有効にするためには、サーバー・オプションの COLLATING_SEQUENCE、VARCHAR_NO_TRAILING_BLANKS、および FASTPATH を「Y」に設定する必要があります。

**EXP0162W** **ステートメントは、複数のサーバーからのニックネームを参照するために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。**

**EXP0163W** **ステートメントは、従属のマテリアライズ照会表を伴うニックネームを参照するために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。**

**EXP0164W** **ステートメントは、エラー許容度の指定が含まれるために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。**

**EXP0165W** **ステートメントは、1 つ以上の述部に lob パラメーターが必要となるために、DB2 ファースト・パスを使用して最適化されませんでした。**

**EXP0167W** **時間値が無効です。時間予算として指定されたストリングが無効です。行番号** *line-num*、**文字番号** *char-num*。

**EXP0171I** **ランタイム実行が必要でない SQL ステートメントがコンパイルされました。**

**説明:**
このメッセージは、以下のいずれかが行われたことを示します。

- SET INTEGRITY ステートメントのオプションを、OFF、UNCHECKED、または FULL ACCESS に設定し、それにより表の状態が変更された。この場合、カタログのみが更新されます。ランタイム・セクションはありません。
- EXPLAIN REFRESH TABLE または SET INTEGRITY ステートメントを発行した。この場合は、表の保守は不要ということになります。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。これらのタイプの DDL 操作では、ダミー・アクセス・プランが生成され、この診断メッセージが Explain 表に保管されます。

# 第 16 章 GSE メッセージ

このセクションでは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature メッセージが記述されています。メッセージは番号順にリストされています。

**GSE0000I　操作が正しく完了しました。**

**説明:**
この操作の実行中にエラーは検出されませんでした。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**msgcode**: 0

**sqlstate**: 00000

**GSE0001C　内部エラーが発生しました。**

**説明:**
Spatial Extender が予期しない内部エラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -1

**sqlstate**: 38S01

**GSE0002C　Spatial Extender は、メモリー・プールにアクセスできませんでした。 理由コード = *reason-code*。**

**説明:**
Spatial Extender は、メモリー・プールにアクセスしようとしましたが、失敗しました。

**ユーザーの処置:**
理由コード *reason-code* を記録して、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

**msgcode**: -2

**sqlstate**: 38S02

**GSE0003N　Spatial Extender は、 *number* バイトのメモリーを割り振ることができませんでした。**

**説明:**
使用可能なメモリーが十分ではありません。 提供されているメモリーが少ないか、他のアプリケーションにメモリーが使用されていることが原因として考えられます。

**ユーザーの処置:**
メモリー不足を解決してコマンドを再実行してください。

**msgcode**: -3

**sqlstate**: 38S03

**GSE0004C　内部パラメーター・エラーが発生しました。**

**説明:**
Spatial Extender が、内部関数にパラメーターを渡すときに予期しないエラーが発生しました。 操作を正常に完了できませんでした。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -4

**sqlstate**: 38S04

**GSE0005N　Spatial Extender はインスタンスのパスを検索できませんでした。**

**説明:**
Spatial Extender はインスタンスのパスを検索できませんでした。 操作を正常に完了できませんでした。

**ユーザーの処置:**
DB2 環境を検査してください。 必要に応じて、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

**msgcode**: -5

**sqlstate**: 38S05

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

**GSE0006N　内部ストリング・エラーが発生しました。**

**説明:**
Spatial Extender が、内部ストリング操作で予期しないエラーを検出しました。 操作を正常に完了できませんでした。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -6

**sqlstate**: 38S06

---

**GSE0007N　ストリング *string* には、対になる引用符または二重引用符がありません。**

**説明:**
このストリングは、クローズする区切り文字が無いので、正しく終了していません。

**ユーザーの処置:**
ストリングを正しく終了させてください。 ストリングが引用符で始まっている場合には、引用符で終了させてください。 ストリングが二重引用符で始まっている場合には、二重引用符で終了させてください。

**msgcode**: -7

**sqlstate**: 38S07

---

**GSE0008N　無効なエラー・コード *error-code* を使用してエラーを起こそうとしました。**

**説明:**
無効な *error-code* を識別コードとするエラーを起こそうとしました。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -8

**sqlstate**: 38S08

---

**GSE0009N　DB2 アプリケーション・ヒープに十分なスペースが有りません。**

**説明:**
Spatial Extender によって、DB2 のアプリケーション・ヒープに使用可能なメモリーが超過しました。 操作を正常に完了できませんでした。

**ユーザーの処置:**
このメッセージを受け取ったら、アプリケーションを終了させてください。 より多くのアプリケーション・ヒープが使用できるように、データベース構成パラメーター (APPLHEAPSZ) の値を増やしてください。

詳しくは、「IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -9

**sqlstate**: 38S09

---

**GSE0010N　DB2 に十分なログ・スペースが有りません。**

**説明:**
DB2 のトランザクション・ログで使用可能なすべてのスペースが使用されています。 操作を正常に完了できませんでした。

**ユーザーの処置:**
データベースが他のアプリケーションによって並行して使用されている場合は、操作を再試行してください。 他のアプリケーションがトランザクションを完了すると、ログ・スペースが解放される場合があります。

ログ・スペースを大きくするように、データベース構成パラメーターを増やしてください。 たとえば、データベース構成パラメーター LOGPRIMARY、LOGSECOND および LOGFILSIZ を変更して、使用可能なログのサイズを大きくしてください。

**msgcode**: -10

**sqlstate**: 38S0A

---

**GSE0100N　Spatial Extender は、ファイル *file-name* をオープンできませんでした。 理由コード = *reason-code*。**

**説明:**
ファイルをオープンできない理由は、理由コードによって、次のようになります。

**1**　ファイルへのアクセスが拒否されました。

**3**　ディスク・エラーが発生しました。

**8**　その名前のファイルを含むディレクトリーが既に存在します。

**10**　Spatial Extender が、既存のファイルを作成しようとしたか、あるいは、既存のファイルをオープンしようとしてそのファイルが見つかりませんでした。

**12** ディスクがいっぱいです。

**17** 指定されたファイルへのパスが存在しません。

**22** 共有違反が発生しました。

その他の理由コードは、内部エラーを示します。

**ユーザーの処置:**
ファイルおよびディレクトリーに対する許可を検証してから、コマンドを再入力してください。

理由コードが内部エラーを示している場合には、 IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -100

**sqlstate**: 38S10

---

**GSE0101N** **ファイル** *file-name* **の処理中に、入出力エラーが発生しました。 理由コード =** *reason-code*。

**説明:**
ファイルの処理中に入出力エラーが発生する理由は、理由コードによって、次のようになります。

**1** ファイルへのアクセスが拒否されました。

**3** ディスク・エラーが発生しました。

**9** Spatial Extender が、ファイルの終わりを超えて読み取りを行おうとしました。

**12** ディスクがいっぱいです。

**22** 共有違反が発生しました。

その他の理由コードは、内部エラーを示します。

**ユーザーの処置:**
ファイルが存在し、ファイルへの適切なアクセス権があり、ファイルが別の処理によって使用されていないことを確認してください。

理由コードが内部エラーを示している場合には、 IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -101

**sqlstate**: 38S11

---

**GSE0102N** **Spatial Extender は、ファイル** *file-name* **をクローズできませんでした。 理由コード =** *reason-code*。

**説明:**
ファイルのクローズ時にエラーが発生する理由は、理由コードによって、次のようになります。

**3** ディスク・エラーが発生しました。

**12** ディスクがいっぱいです。

その他の理由コードは、内部エラーを示します。

**ユーザーの処置:**
ファイル・システムが完全に作動状態であり、十分なディスク・スペースが使用可能であるか確認してください。

理由コードが内部エラーを示している場合には、 IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -102

**sqlstate**: 38S12

---

**GSE0103N** **Spatial Extender は、ファイル** *file-name* **を削除できませんでした。 理由コード =** *reason-code*。

**説明:**
ファイルの削除時にエラーが発生する理由は、理由コードによって、次のようになります。

**1** ファイルへのアクセスが拒否されました。

**3** ディスク・エラーが発生しました。

**17** 指定されたファイルへのパスが存在しません。

**22** 共有違反が発生しました。

その他の理由コードは、内部エラーを示します。

**ユーザーの処置:**
各理由コードごとに、次のようになります。

**1** ファイルおよびファイルのパスに指定しているすべてのディレクトリーに対して十分な特権を持っているか調べてください。

**3** ディスクおよびファイル・システムが適切な作業オーダーになっているか調べてください。

**17** ファイルへのパスが存在しているか調べてください。

**22** ファイルが別の処理によってアクセスされていないか調べてください。

理由コードが内部エラーを示している場合には、 IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -103

**sqlstate**: 38S13

---

**GSE0200N　データベースへの接続が失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender をデータベースに接続できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -200

**sqlstate**: 38S20

---

**GSE0201W　データベースからの切断が失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender をデータベースから切断できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: +201

**sqlstate**: 38S21

---

**GSE0202N　データベースへの接続は存在しません。**

**説明:**
Spatial Extender をデータベースに接続できません。 コマンドを正常に実行できません。

**ユーザーの処置:**
Spatial Extender およびデータベースのセットアップを調べてください。 データベースへの接続が確立できるようにしてください。

**msgcode**: -202

**sqlstate**: 38S22

---

**GSE0203W　Spatial Extender は、すでにデータベース *database-name* に接続されています。**

**説明:**
Spatial Extender はデータベース *database-name* に接続しようとしましたが、すでに接続されています。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: +203

**sqlstate**: 38S23

---

**GSE0204N　トランザクションのコミットが失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は、現行のトランザクションを正常にコミットできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -204

**sqlstate**: 38S24

---

**GSE0205W　トランザクションのロールバックが失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は、現行のトランザクションをロールバックできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: +205

**sqlstate**: 38S25

---

**GSE0206N　SELECT ステートメントが失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は SELECT ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -206

**sqlstate**: 38S26

---

**GSE0207N　VALUES ステートメントが失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は、VALUES ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -207

**sqlstate**: 38S27

---

**GSE0208N　PREPARE ステートメントが失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は、SQL ステートメントを正常に準備できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -208

**sqlstate**: 38S28

---

**GSE0209N　SQL カーソルのオープンが失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は、結果セット上でカーソルを正常にオープンできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -209

**sqlstate**: 38S29

---

**GSE0210W　SQL カーソルのクローズが失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は、結果セット上でカーソルを正常にクローズできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: +210

**sqlstate**: 38S2A

---

**GSE0211N　SQL カーソルのフェッチが失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は、カーソルから結果を正常にフェッチできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -211

**sqlstate**: 38S2B

---

**GSE0212N　オブジェクトのドロップが失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は、指定されたデータベース・オブジェクトをドロップできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -212

**sqlstate**: 38S2C

---

**GSE0213N　バインド操作が失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は、指定されたファイルを現行データベースにバインドできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

このエラーは、DB2 のアプリケーション・ヒープのサイズが小さすぎる場合に発生することがあります。

**ユーザーの処置:**
このデータベースを空間データ操作に使用することができるか調べてください。

データベースが使用できるにもかかわらずエラーが発生する場合は、Spatial Extender のインストールを調べてください。

問題が解決されない場合は、アプリケーション・ヒープのサイズを指定するデータベース構成パラメーター (APPLHEAPSZ) の値を増やしてください。

**msgcode**: -213

**sqlstate**: 38S2D

---

**GSE0214N　INSERT ステートメントが失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は、INSERT ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -214

**sqlstate**: 38S2E

---

**GSE0215N　UPDATE ステートメントが失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は、UPDATE ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -215

**sqlstate**: 38S2F

---

**GSE0216N　DELETE ステートメントが失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は DELETE ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -216

**sqlstate**: 38S2G

---

**GSE0217N　LOCK TABLE ステートメントが失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は LOCK TABLE ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -217

**sqlstate**: 38S2H

---

**GSE0218N　DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントが失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は DECLARE GLOBAL TEMPORARY TABLE ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -218

**sqlstate**: 38S2I

---

**GSE0219N　EXECUTE IMMEDIATE ステートメントが失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は EXECUTE IMMEDIATE ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -219

**sqlstate**: 38S2J

---

**GSE0220N　savepoint の設定が失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は savepoint を正常に設定できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -220

**sqlstate**: 38S2K

---

**GSE0221N　データベース名が指定されていません。**

**説明:**
Spatial Extender は、データベースの名前が指定されていないために、データベースに接続できませんでした。

**ユーザーの処置:**
データベース名を指定してください。

**msgcode**: -221

**sqlstate**: 38S2L

---

**GSE0222N　DB2 からの許可リストの検索が失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は、現行ユーザーの許可リストを検索できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -222

**sqlstate**: 38S2M

**GSE0223N　表スペースの静止が失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は、表スペースを正常に静止できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -223

**sqlstate**: 38S2N

**GSE0224N　表へのデータのインポートが失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は、データを表に正常にインポートできませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -224

**sqlstate**: 38S2O

**GSE0225N　データベース構成またはデータベース・マネージャー構成の検索が失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は、現行データベースの構成またはデータベース・マネージャーの構成を正常に検索できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -225

**sqlstate**: 38S2P

**GSE0226N　トリガーの作成が失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は、トリガーを正常に作成できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -226

**sqlstate**: 38S2Q

**GSE0227N　ALTER TABLE ステートメントが失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
Spatial Extender は、ALTER TABLE ステートメントを正常に実行できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -227

**sqlstate**: 38S2R

**GSE0228N　Spatial Extender メッセージ・カタログからのエラー *gse-error* および SQLCODE = *sqlcode* の検索が失敗しました。**

**説明:**
Spatial Extender は、エラー *gse-error* および SQLCODE = *sqlcode* のメッセージを正常に検索できませんでした。

**ユーザーの処置:**
Spatial Extender のインストールを調べてください。 また、使用する言語のメッセージ・カタログがインストールされているか調べてください。

**msgcode**: -228

**sqlstate**: 38S2S

**GSE0229N　ファイル *bind-file* のバインドが失敗しました。 理由コード = *reason-code*。**

**説明:**
Spatial Extender は、sqlabndx 関数を使用してファイル *bind-file* をデータベースにバインドしようとしましたが、失敗しました。 sqlabndx は、理由コード *reason-code* を戻しました。

**ユーザーの処置:**

このデータベースを空間データ操作に使用することができるか調べてください。

関数 sqlabndx の *reason-code* の記述を参照してください。

**msgcode**: -229

**sqlstate**: 38S2T

---

**GSE0230N　システム・カタログを更新できませんでした。**

**説明:**
Spatial Extender は、DB2 サービスを使用してシステム・カタログを変更しようとした時に、エラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -230

**sqlstate**: 38S2U

---

**GSE0231N　PREPARE ステートメントで警告状態が検出されました。 SQLWARNING = *sql-warning*.**

**説明:**
Spatial Extender は、SQL ステートメントの準備で警告状態を検出しました。 DB2 は、*sql-warning* を戻しました。 PREPARE ステートメントは正常に完了しました。

**ユーザーの処置:**
*sql-warning* の記述を参照してください。

**msgcode**: -231

**sqlstate**: 38S2V

---

**GSE0300N　指定されたパスワードが長すぎます。**

**説明:**
データベースへの接続に使用されるパスワードが長すぎます。

**ユーザーの処置:**
指定したパスワードが正しいか検証してください。 パスワードが正しい場合は、パスワードを短くして、再度操作を実行してください。

**msgcode**: -300

**sqlstate**: 38S40

---

**GSE0301N　指定されたスキーマ名 *schema-name* が長すぎます。**

**説明:**
スキーマ名の長さが DB2 のスキーマ名の制限を超えているため、要求された操作を正常に完了できません。

**ユーザーの処置:**
有効な、より短いスキーマ名を指定してください。 スキーマ名の長さ制限についての詳細を IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」で調べて、操作を再度実行してください。

**msgcode**: -301

**sqlstate**: 38S41

---

**GSE0302N　指定された表名 *table-name* が長すぎます。**

**説明:**
表名の長さが DB2 の表名の制限を超えているため、要求された操作を正常に完了できません。

**ユーザーの処置:**
有効な、より短い表名を指定してください。

表名の長さ制限についての詳細を IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」で調べて、操作を再度実行してください。

**msgcode**: -302

**sqlstate**: 38S42

---

**GSE0303N　指定された列名 *column-name* が長すぎます。**

**説明:**
列名の長さが DB2 の列名の制限を超えているため、要求された操作を正常に完了できません。

**ユーザーの処置:**
有効な、より短い列名を指定してください。

列名の長さ制限についての詳細を IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」で調べて、操作を再度実行してください。

**msgcode**: -303

**sqlstate**: 38S43

**GSE0304N　指定された索引名 *index-name* が長すぎます。**

**説明:**
索引名の長さが DB2 の索引名の制限を超えているため、要求された操作を正常に完了できません。

**ユーザーの処置:**
有効な、より短い索引名を指定してください。 索引名の長さ制限についての詳細を IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」で調べて、操作を再度実行してください。

**msgcode**: -304

**sqlstate**: 38S44

---

**GSE0305N　指定されたデータ・タイプ名 *type-name* が長すぎます。**

**説明:**
データ・タイプ名の長さが DB2 のデータ・タイプ名の制限を超えているため、要求された操作を正常に完了できません。

**ユーザーの処置:**
有効な、より短いタイプ名を指定してください。 データ・タイプ名の長さ制限についての詳細を IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」で調べて、操作を再度実行してください。

**msgcode**: -305

**sqlstate**: 38S45

---

**GSE0306N　*path* で始まる完全なパスが、許容される制限の *limit* バイトを超えてしまいます。**

**説明:**
完全なパスの長さが *limit* バイトの制限を超えるため、*path* で始まるパスのファイルにアクセスできません。そのため、サブミットされたステートメントを正常に実行できません。

**ユーザーの処置:**
アクセスするファイルのロケーションを、より短いパスを使って検索できるように変更して、指定したステートメントを再度実行してください。 UNIX システムでは、シンボリック・リンクを使用して、より短いパス名を設定することができます。

**msgcode**: -306

**sqlstate**: 38S46

---

**GSE0307N　動的 SQL ステートメントの長さ *statement-length* が、許容される制限の *limit* バイトを超えてしまいます。**

**説明:**
ステートメントが長すぎるため、構成できません。

**ユーザーの処置:**
ステートメントがストアード・プロシージャーのコンテキストで構成されている場合には、 WHERE 文節が長すぎないか調べてください。 必要に応じて、WHERE 文節を短くして、操作を再度実行してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -307

**sqlstate**: 38S47

---

**GSE0308N　ストリング *string* が、 *limit* バイトの制限を超えています。**

**説明:**
ストリング *string* が長すぎるため、要求された操作を正常に完了できません。

**ユーザーの処置:**
より短いストリングを指定してください。 必要に応じて、IBM ソフトウェア・サポート担当者に連絡してください。

**msgcode**: -308

**sqlstate**: 38S48

---

**GSE1000N　Spatial Extender は、ユーザー ID *user-id* によって要求された操作 *operation-name* を実行できませんでした。**

**説明:**
この操作を実行するための特権または権限のないユーザー ID から操作を要求しました。

**ユーザーの処置:**
実行する操作に必要な許可を IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」で調べてください。

**msgcode**: -1000

**sqlstate**: 38S50

---

**GSE1001N　指定された値 *value* は、 *argument-name* 引数では無効です。**

**説明:**
引数 *argument-name* に入力した値 *value* は、正しくないか、またはつづりが誤っています。

**ユーザーの処置:**
指定する必要がある値またはその値の範囲を IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」で調べてください。

**msgcode**: -1001

**sqlstate**: 38S51

---

**GSE1002N　必須の引数 *argument-name* が指定されていません。**

**説明:**
必須の引数が指定されていなかったため、要求された操作を正常に完了できません。

**ユーザーの処置:**
目的の値とともに引数 *argument-name* を指定して、操作を要求し直してください。

**msgcode**: -1002

**sqlstate**: 38S52

---

**GSE1003N　空間列 *schema-name.table-name.column-name* は、すでに別の空間参照系に登録されているため、空間参照系 *srs-name* に登録できませんでした。**

**説明:**
空間参照系は、すでに空間列に登録されています。 最初に登録を抹消しなければ、再登録できません。

**ユーザーの処置:**
空間列の登録を抹消してから、登録する空間参照系に登録するか、または、再登録をしないようにしてください。

**msgcode**: -1003

**sqlstate**: 38S53

---

**GSE1004N　指定されたジオコーダー *geocoder-name* は、すでに登録されています。**

**説明:**
このジオコーダーは、すでに登録されています。 最初に登録を抹消しなければ、再登録できません。

**ユーザーの処置:**
固有な名前のジオコーダーを登録するか、または、既存のジオコーダーの登録を抹消してから操作を再度実行してください。

**msgcode**: -1004

**sqlstate**: 38S54

---

**GSE1005N　空間列 *schema-name.table-name.column-name* には、すでにジオコーディングが設定されています。**

**説明:**
この列には、すでにジオコーディングが設定されています。 現行の設定を除去しない限り、ジオコーディングを再度設定することはできません。

**ユーザーの処置:**
既存のジオコーディング設定を除去するか、またはジオコーディングがすでに設定されている列を選択してください。

**msgcode**: -1005

**sqlstate**: 38S55

---

**GSE1006N　空間列 *schema-name.table-name.column-name* は、登録されていません。**

**説明:**
この空間列は、空間参照系に登録されていませんでした。 したがって、登録を抹消できません。

**ユーザーの処置:**
すでに登録されている空間列を指定するか、または、列の登録抹消を行わないでください。

**msgcode**: -1006

**sqlstate**: 38S56

---

**GSE1007N　指定されたジオコーダー *geocoder-name* は、登録されていません。**

**説明:**
ジオコーダー *geocoder-name* は、登録されていません。したがって、登録を抹消できません。

**ユーザーの処置:**
すでに登録されているジオコーダーを指定するか、または、ジオコーダーの登録抹消を行わないでください。

**msgcode**: -1007

**sqlstate**: 38S57

**GSE1008N　数値 ID *geocoder-id* のジオコーダーは、登録されていません。**

**説明:**
数値 ID *geocoder-id* のジオコーダーは、登録されていません。 登録を抹消できません。

**ユーザーの処置:**
すでに登録されているジオコーダーを指定するか、または、ジオコーダーの登録抹消を行わないでください。

**msgcode**: -1008

**sqlstate**: 38S58

---

**GSE1009N　表 *schema-name.table-name* が存在しません。**

**説明:**
表 *schema-name.table-name* が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

**ユーザーの処置:**
有効な表名を指定して、操作を再試行してください。

**msgcode**: -1009

**sqlstate**: 38S59

---

**GSE1010N　空間列 *schema-name.table-name.column-name* が存在しません。**

**説明:**
*schema-name.table-name.column-name* が既存の列を識別していないため、要求された操作を正常に完了できません。

**ユーザーの処置:**
有効な空間列名を指定して、操作を再試行してください。

**msgcode**: -1010

**sqlstate**: 38S5A

---

**GSE1011N　データ・タイプ *schema-name.type-name* が存在しません。**

**説明:**
データ・タイプ *schema-name.type-name* が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

**ユーザーの処置:**
有効なデータ・タイプ名を指定して、操作を再試行してください。

**msgcode**: -1011

**sqlstate**: 38S5B

---

**GSE1012N　このデータベースは、空間データ操作に使用できません。**

**説明:**
データベースが空間データ操作に使用可能になっていないため、要求された操作を正常に完了できません。したがって、Spatial Extender カタログは作成されていません。

**ユーザーの処置:**
データベースを空間データ操作で使用できるようにしてください。

**msgcode**: -1012

**sqlstate**: 38S5C

---

**GSE1013N　データベースはすでに空間データ操作で使用できます。**

**説明:**
データベースはすでに空間データ操作で使用できます。再度使用可能にすることはできません。

**ユーザーの処置:**
データベースが予期どおりに使用可能になっていることを確認してください。 必要に応じてデータベースを使用不可にしてください。

**msgcode**: -1013

**sqlstate**: 38S5D

---

**GSE1014N　列 *schema-name.table-name.column-name* が空間列でないため、Spatial Extender はこの列を登録できませんでした。**

**説明:**
この列が空間データ・タイプではないか、またはこの列がローカル表に属していません。

**ユーザーの処置:**
列 *schema-name.table-name.column-name* に空間データ・タイプを定義するか、または宣言されたタイプとして空間データ・タイプをもつ列を指定してください。

**msgcode**: -1014

**sqlstate**: 38S5E

---

**GSE1015N　空間参照系 *srs-name* が存在しません。**

**説明:**
空間参照系 *srs-name* が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

**ユーザーの処置:**
既存の空間参照系を指定して、操作を再試行してください。

**msgcode**: -1015

**sqlstate**: 38S5F

**GSE1016N　数値 ID *srs-id* の空間参照系が存在しません。**

**説明:**
指定された数値 ID *srs-id* の空間参照系が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

**ユーザーの処置:**
既存の空間参照系 ID を指定して、操作を再試行してください。

**msgcode**: -1016

**sqlstate**: 38S5G

**GSE1017N　座標系 *coordsys-name* はすでに存在しています。**

**説明:**
座標系 *coordsys-name* はすでに存在しています。 同じ名前の座標系を別に作成することはできません。

**ユーザーの処置:**
新しい座標系に固有な名前を指定してください。

**msgcode**: -1017

**sqlstate**: 38S5H

**GSE1018N　座標系 *coordsys-name* が存在しません。**

**説明:**
座標系 *coordsys-name* が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

**ユーザーの処置:**
既存の座標系を指定してください。

**msgcode**: -1018

**sqlstate**: 38S5I

**GSE1019N　空間座標系 *coordsys-name* の値が何も指定されていません。**

**説明:**
座標系 *coordsys-name* を変更しようとしましたが、新しい値を指定しませんでした。

**ユーザーの処置:**
座標系に、少なくとも 1 つは新しい値を指定してください。

**msgcode**: -1019

**sqlstate**: 38S5J

**GSE1020N　空間参照系 *srs-name* は、すでに存在しています。**

**説明:**
空間参照系 *srs-name* は、すでに存在しています。 同じ名前の空間参照系を別に作成することはできません。

**ユーザーの処置:**
作成する空間参照系に固有な名前を指定して、操作を再試行してください。

**msgcode**: -1020

**sqlstate**: 38S5K

**GSE1021N　空間参照系 *srs-name* が存在しません。**

**説明:**
空間参照系 *srs-name* が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

**ユーザーの処置:**
既存の空間参照系名を指定して、操作を再試行してください。

**msgcode**: -1021

**sqlstate**: 38S5L

**GSE1022N　数値 ID *srs-id* の空間参照系が存在しません。**

**説明:**
数値 ID が *srs-id* の空間参照系が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

**ユーザーの処置:**
既存の空間参照系の数値 ID を指定してください。

**msgcode**: -1022

**sqlstate**: 38S5M

**GSE1023N　数値 ID *coordsys-id* の座標系が存在しません。**

**説明:**
数値 ID が *coordsys-id* の座標系が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

**ユーザーの処置:**
既存の座標系の数値 ID を指定して、操作を再試行してください。

**msgcode**: -1023

**sqlstate**: 38S5N

**GSE1024N　空間参照系 *srs-name* の値が何も指定されていません。**

**説明:**
空間参照系 *srs-name* を変更しようとしましたが、新しい値を指定しませんでした。

**ユーザーの処置:**
空間参照系に少なくとも 1 つは新しい値を指定してから、操作を再試行してください。

**msgcode**: -1024

**sqlstate**: 38S5O

**GSE1025N　関数名 *schema-name.function-name* のジオコーダーがデータベースにありません。**

**説明:**
Spatial Extender がジオコーダーの関数 *schema-name.function-name* を検出できなかったため、要求された操作を正常に完了できませんでした。

**ユーザーの処置:**
既存の関数名を持つジオコーダーを指定するか、または関数を作成してから、操作を再試行してください。

**msgcode**: -1025

**sqlstate**: 38S5P

**GSE1026N　指定されたデフォルト・パラメーター値の数値 (*number1* values) が、指定されたジオコーダーに必要なデフォルト・パラメーター値の数値 (*number2* values) と一致しません。**

**説明:**
ジオコーダーに必要なすべてのパラメーター値に完全なリストが指定されていなかったため、指定されたジオコーダーを登録できませんでした。

**ユーザーの処置:**
デフォルトのパラメーター値の数値を訂正してください。 ジオコーダーの各パラメーターごとにデフォルト値を指定するか、またはデフォルト・パラメーター値に NULL 値を指定してください。

**msgcode**: -1026

**sqlstate**: 38S5Q

**GSE1027N　指定されたパラメーター記述値の数値 (*number1* values) が、指定されたジオコーダーに必要なパラメーター記述値の数値 (*number2* values) と一致しません。**

**説明:**
ジオコーダーに必要なすべてのパラメーター記述値の完全なリストが指定されていなかったため、指定されたジオコーダーを登録できませんでした。

**ユーザーの処置:**
ジオコーダーの各パラメーターごとに記述を指定するか、またはパラメーター記述に NULL 値を指定してください。

**msgcode**: -1027

**sqlstate**: 38S5R

**GSE1028N　ジオコーダー *geocoder-name* が存在しません。**

**説明:**
ジオコーダー *geocoder-name* が存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

**ユーザーの処置:**
既存のジオコーダー名を指定するか、または指定した名前のジオコーダーを登録してから、操作を再試行してください。

**msgcode**: -1028

**sqlstate**: 38S5S

**GSE1029N　列 *schema-name.table-name.column-name* には、ジオコーディングが設定されていません。**

**説明:**
列 *schema-name.table-name.column-name* にジオコーディングが設定されていないため、要求された操作を正常に完了できません。

**ユーザーの処置:**

指定された列にジオコーディングを設定するか、または表スキーマ、表名、および列名を訂正してください。

**msgcode**: -1029

**sqlstate**: 38S5T

---

**GSE1030N** **自動ジオコーディングが列 *schema-name.table-name.column-name* に対して使用可能になっているので、ジオコーディングのセットアップを除去できません。**

**説明:**
自動ジオコーディングが列 *schema-name.table-name.column-name* に対して使用可能になっています。そのため、この列のジオコーディングのセットアップを除去することはできません。

**ユーザーの処置:**
列に対する自動ジオコーディングを使用不可にしてください。

**msgcode**: -1030

**sqlstate**: 38S5U

---

**GSE1031N** **列 *schema-name.table-name.column-name* には自動ジオコーディングを使用できません。**

**説明:**
自動ジオコーディングは、列 *schema-name.table-name.column-name* に対して使用可能になっていません。 そのため、この列に対して自動ジオコーディングを使用不可にすることはできません。

**ユーザーの処置:**
自動ジオコーディングが使用可能になっている正しい列名を指定してください。

**msgcode**: -1031

**sqlstate**: 38S5V

---

**GSE1032N** **列 *schema-name.table-name.column-name* に対する自動ジオコーディングは、すでに使用可能になっています。**

**説明:**
自動ジオコーディングは、列 *schema-name.table-name.column-name* に対してすでに使用可能になっています。 有効になっている自動ジオコーディングを無効にしない限り、この列に対して自動ジオコーディングを再度有効にすることはできません。

**ユーザーの処置:**
(1) 自動ジオコーディングが使用可能になっていない列、 (2) ジオコーディングがセットアップされている列、に対して正しい名前を指定してください。

**msgcode**: -1032

**sqlstate**: 38S5W

---

**GSE1033N** **数値 ID *geocoder-id* のジオコーダーが存在しません。**

**説明:**
数値 ID が *geocoder-id* のジオコーダーが存在しないため、要求された操作を正常に完了できません。

**ユーザーの処置:**
ジオコーダーに既存の数値 ID を指定するか、数値 ID が *geocoder-id* のジオコーダーを登録してください。

**msgcode**: -1033

**sqlstate**: 38S5X

---

**GSE1034N** **ストアード・プロシージャーに渡されたパラメーターには、パラメーター *parameter-name* が組み込まれていません。**

**説明:**
ストアード・プロシージャーに渡された SQLDA が小さすぎます。 SQLDA には、パラメーター *parameter_name* の項目が含まれていません。

**ユーザーの処置:**
ストアード・プロシージャーに渡されるパラメーターを訂正してください。

**msgcode**: -1034

**sqlstate**: 38S5Y

---

**GSE1035N** **ストアード・プロシージャーに渡される *parameter-name* パラメーターのデータ・タイプが誤っています。**

**説明:**
ストアード・プロシージャーに渡されるパラメーター *parameter-name* のデータ・タイプが正しくありません。

**ユーザーの処置:**
ストアード・プロシージャーに渡されるパラメーターを訂正してください。

**msgcode**: -1035

**sqlstate**: 38S5Z

---

**GSE1036W　操作は正常に終了しました。しかし、特定のデータベース・マネージャーの値およびデータベース構成パラメーターの値を増やす必要があります。**

**説明:**
操作は正常に完了しましたが、Spatial Extender は、より多くのデータベースおよびデータベース・マネージャー・リソースを必要としています。 特定のデータベース・マネージャーおよびデータベース構成パラメーターの値を増やすことによって、これらのリソースを取得することができます。

**ユーザーの処置:**
いくつかの構成パラメーターの値を大きくしてください。 たとえば、データベース構成の場合は APPLHEAPSZ パラメーターを調べてください。 詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: +1036

**sqlstate**: 38S60

---

**GSE1037N　指定された座標系 *coordsys-name* の定義が無効です。**

**説明:**
座標系 *coordsys-name* に関する定義が無効であるため、作成できません。

**ユーザーの処置:**
座標系に正しい定義を指定してください。

ST_EqualCoordsys 関数を使用すると、座標系と定義を比較することによって座標系定義を検査することができます。

**msgcode**: -1037

**sqlstate**: 38S61

---

**GSE1038N　ジオコーダー *geocoder-name* に指定されている WHERE 文節が無効です。 Spatial Extender は、文節の検査時に、SQL エラー *sql-error* を検出しました。**

**説明:**
ジオコードする行を判別する where 文節が無効であるため、要求されたジオコーディングを正常に完了できませんでした。

**ユーザーの処置:**
構文的に正しい WHERE 文節を指定してください。

**msgcode**: -1038

**sqlstate**: 38S62

---

**GSE1039N　指定された編成 *organization* と組み合わせて指定されている ID *organization-coordsys-id* によって示される座標系は、すでに存在しています。**

**説明:**
座標系に指定した ID の組み合わせ (システムを定義する編成の名前とその編成に割り当てられている番号) が固有でなかったため、座標系を作成する要求を実行できませんでした。 これら 2 つの値は、組み合わせが固有であるか、または NULL でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
*organization* および *organization-coordsys-id* の値のユニーク・セットを指定するか、または両方を NULL 値にしてください。

**msgcode**: -1039

**sqlstate**: 38S63

---

**GSE1040N　数値 ID *srs-id* の空間参照系は、すでに存在しています。**

**説明:**
空間参照系に割り当てられた数値 ID *srs-id* は、すでに別の空間参照系を識別しているため、空間参照系を作成する要求を実行できませんでした。 空間参照系の ID は固有でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
空間参照系に固有の数値 ID を指定してください。

**msgcode**: -1040

**sqlstate**: 38S64

---

**GSE1041N　数値 ID *coordsys-id* の座標系は、すでに存在しています。**

**説明:**
座標系に割り当てられた数値 ID *coordsys-id* は、すでに別の空間座標系を識別しているため、座標系を作成する要求を実行できませんでした。 空間座標系の ID は固有でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
座標系に固有な値の *coordsys-id* を指定してください。

**msgcode**: -1041

**sqlstate**: 38S65

---

**GSE1042N　数値 ID *geocoder-id* のジオコーダーは、すでに存在しています。**

**説明:**
ジオコーダー *geocoder-id* の数値 ID は、すでに別のジオコーダーを識別しているため、ジオコーダーを登録する要求を実行できませんでした。 ジオコーダーの ID は固有でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
ジオコーダーの数値 ID に固有な値を指定してください。

**msgcode**: -1042

**sqlstate**: 38S66

---

**GSE1043N　指定されたグリッド索引 *schema-name.index-name* は、すでに存在しています。**

**説明:**
この索引は、すでに存在しています。 同じ名前の索引を作成するには、既存の索引をドロップする必要があります。

**ユーザーの処置:**
まだ存在していない索引の名前を指定するか、既存の索引をドロップしてから、操作を再試行してください。

**msgcode**: -1043

**sqlstate**: 38S67

---

**GSE1044N　既存の空間参照系が、この座標系を基にしたものであるため、指定された座標系 *coordsys-name* をドロップできません。**

**説明:**
指定された座標系 *coordsys-name* を基にした空間参照系が少なくとも 1 つあります。 座標系をドロップできません。

**ユーザーの処置:**
指定された座標系を基にしたすべての空間参照系をドロップしてください。 その後で、座標系のドロップを再試行してください。

**msgcode**: -1044

**sqlstate**: 38S68

---

**GSE1045N　空間列がこの空間参照系に登録済みであるため、指定された空間参照系 *srs-name* をドロップできません。**

**説明:**
指定された空間参照系 *srs-name* と関連のある空間列が少なくとも 1 つ存在します。 空間参照系をドロップできません。

**ユーザーの処置:**
指定された空間参照系と関連のあるすべての空間列を登録抹消してください。 その後で、空間参照系のドロップを再試行してください。

**msgcode**: -1045

**sqlstate**: 38S69

---

**GSE1046N　ジオコーディングのセットアップで使用しているため、指定されたジオコーダー *geocoder-name* を登録抹消できません。**

**説明:**
指定されたジオコーダー *geocoder-name* を使用するジオコーディングのセットアップが少なくとも 1 つあります。 ジオコーダーを登録抹消できません。

**ユーザーの処置:**
指定されたジオコーダーを使用するすべてのジオコーディングのセットアップを除去してください。 その後で、ジオコーダーの登録抹消を再試行してください。

**msgcode**: -1046

**sqlstate**: 38S6A

---

**GSE1047N　ジオコーダー・パラメーター妥当性検査が失敗しました。 SQLERROR = *sql-error*.**

**説明:**
ジオコーダーのパラメーターの妥当性検査に失敗しました。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。 ジオコーダーの登録またはセットアップ中、あるいはその両方で、ジオコーダー・パラメーターは指定されている可能性があります。

**ユーザーの処置:**
*sql-error* 内の情報を使用してどのパラメーターが無効が判別してください。 値を訂正して、要求を再サブミットしてください。

**msgcode**: -1047

**sqlstate**: 38S6B

---

**GSE1048N　数値 ID *srs-id* の空間参照系は、事前定義された測地参照系であり、変更することはできません。**

**説明:**
空間参照系は変更されませんでした。数値 ID が 2000000000 から 2000000317 の範囲の空間参照系は、事前定義された測地参照系であり、変更することはできません。

**ユーザーの処置:**
この空間参照系を変更しようとしないでください。異なる定義を使用した測地参照系が必要な場合、2000000318 から 2000001000 の範囲の数値 ID を指定した新しい測地参照系を作成できます。

**msgcode**: -1048

**sqlstate**: 38SP3

---

**GSE1049N　数値 ID *srs-id* の空間参照系は、事前定義された測地参照系であり、ドロップすることはできません。**

**説明:**
空間参照系は変更されませんでした。数値 ID が 2000000000 から 2000000317 の範囲の空間参照系は、事前定義された測地参照系であり、ドロップすることはできません。

**ユーザーの処置:**
この空間参照系をドロップしようとしないでください。異なる定義を使用した測地参照系が必要な場合、2000000318 から 2000001000 の範囲の数値 ID を指定した新しい測地参照系を作成できます。

**msgcode**: -1049

**sqlstate**: 38SP4

---

**GSE2100N　インポートされる属性列の数 (*input-columns* columns) が、ターゲット表の属性列の数 (*table-columns* columns) と一致しません。**

**説明:**
属性データが含まれている列をインポートしている場合には、インポートされる属性列とターゲット表の列を指定するか、あるいは指定しないかを選択することができます。 これらの値を指定している場合は、インポートされる属性列の数の指定がターゲット表の列の数の指定と違っている場合に、このエラーが発生します。 これらの値を指定していない場合は、インポートされる列の実際の数がターゲット表の属性列の実際の数と違っている場合に、このエラーが発生します。

**ユーザーの処置:**
インポートされる属性列の指定した数または実際の数が、ターゲット表の列の指定した数または実際の数と一致するようにしてください。

**msgcode**: -2100

**sqlstate**: 38S70

---

**GSE2101N　インポート中に使用されるデータ・タイプ *schema-name.type-name* が、 DB2 に認識されません。**

**説明:**
空間データ・タイプ *schema-name.type-name* がデータベースに存在しないため、空間データのインポート時に使用できません。

**ユーザーの処置:**
データベースにデータ・タイプを作成するか、現在あるデータ・タイプを使用してください。

**msgcode**: -2101

**sqlstate**: 38S71

---

**GSE2102N　インポートに指定された表 *schema-name.table-name* が、存在しません。**

**説明:**
表 *schema-name.table-name* がデータベースに存在しません。 また、Spatial Extender は、インポートされるデータを保留するための表の作成を要求されませんでした。データは、インポートされませんでした。

**ユーザーの処置:**
表が Spatial Extender により作成される場合は、適切なフラグを指定してください。 それ以外の場合は、表を作成して、操作を再試行してください。

**msgcode**: -2102

**sqlstate**: 38S72

---

**GSE2103N　インポートに指定された表 *schema-name.table-name* は、すでに存在しています。**

**説明:**
Spatial Extender は、インポートされるデータ用に表 *schema-name.table-name* を作成するよう要求されましたが、その名前の表はデータベースにすでに存在しています。 データはインポートされませんでした。

**ユーザーの処置:**

表が Spatial Extender により作成されない場合は、表の作成を指示しないでください。 それ以外の場合は、データベースにまだ存在しない表の名前を指定してください。

**msgcode**: -2103

**sqlstate**: 38S73

---

**GSE2104N　データのインポート先の列 *schema-name.table-name.column-name* は、存在しません。**

**説明:**
データのインポート先の列 *column-name* が、表 *schema-name.table-name* に存在しません。 データを表にインポートできません。

**ユーザーの処置:**
列名を訂正するか、インポート先の表に列を作成するか、または、表名を訂正してください。

**msgcode**: -2104

**sqlstate**: 38S74

---

**GSE2105W　インポート操作は正常に完了しましたが、ファイルからすべてのレコードがインポートされたわけではありません。**

**説明:**
インポート操作は正常に完了しましたが、ファイルからすべてのレコードがインポートされたわけではありません。 例外ファイルにはインポートできないレコードがあり、その理由がメッセージ・ファイルの情報に含まれています。

**ユーザーの処置:**
すべてのレコードがインポートされなかった理由についてメッセージ・ファイルを調査して問題を解決し、元のファイルまたは例外ファイルについて操作を繰り返してください。

**msgcode**: +2105

**sqlstate**: 38S75

---

**GSE2106N　列 *schema-name.table-name.column-name* のデータ・タイプは、*column-type* です。これは、ファイルからインポートされるデータに予測されるタイプ *expected-type* と一致しません。**

**説明:**
データのインポート先の表 *schema-name.table-name* の列 *column-name* は、タイプ *column-type* として宣言されています。 *column-type* は、ファイルからインポートされるデータのタイプ名 *expected-type* と一致しません。 データをインポートできません。

**ユーザーの処置:**
インポートされるファイルの構造を持つ表の定義を調べてください。

**msgcode**: -2106

**sqlstate**: 38S76

---

**GSE2107N　データのインポート先の表は、エラー *sql-error* のために作成できませんでした。**

**説明:**
Spatial Extender は、データをインポートする表の作成を要求されましたが、表を正常に作成できませんでした。 DB2 は、*sql-error* を戻しました。

**ユーザーの処置:**
この *sql-error* の記述を参照してください。

**msgcode**: -2107

**sqlstate**: 38S77

---

**GSE2108N　ファイルからインポートされる属性列を示す方式指定 *method* が正しくありません。**

**説明:**
方式指定が行われなかったか、または *method* が有効な方式指定ではありません。 ファイルからの空間データのインポートでサポートされる方式指定は、'N' および 'P' だけです。

**ユーザーの処置:**
方式指定を訂正して、方式を再試行してください。

**msgcode**: -2108

**sqlstate**: 38S78

---

**GSE2109N　文字 *expected-char* が検出されるはずでしたが、文字 *found-char* が検出されました。**

**説明:**
ファイルからインポートされる属性列を示すストリングで、予期していた *expected-char* ではなく、予期しない文字 *found-char* が検出されました。 ステートメントを正常に処理できません。

**ユーザーの処置:**

ファイルからインポートされる属性列を示すストリングを訂正してください。

**msgcode**: -2109

**sqlstate**: 38S79

---

**GSE2110N　ストリング *string* の列位置 ID *position* が無効です。**

**説明:**
*string* で始まるストリングで指定されている列位置 ID *position* は、有効な範囲内ではありません。 0 (ゼロ) より大きく、インポートされるファイルの列数より小さいか等しい値だけが指定できます。 ステートメントを正常に処理できません。

**ユーザーの処置:**
列位置 ID を訂正してください。

**msgcode**: -2110

**sqlstate**: 38S7A

---

**GSE2111N　dBASE ファイルの列 *dbf-column-name* が長すぎます。**

**説明:**
dBASE ファイル (.dbf) の列の名前 *dbf-column-name* が、DB2 の列名の制限を超えています。

**ユーザーの処置:**
DB2 の長さ制限を超えない *dbf-column-name* を指定してください。

**msgcode**: -2111

**sqlstate**: 38S7B

---

**GSE2112N　列 *dbf-column-name* が dBASE ファイルにありません。**

**説明:**
名前 *dbf-column-name* は、dBASE ファイル (.dbf) の既存の属性列を表していません。 操作を正常に完了できませんでした。

**ユーザーの処置:**
dBASE ファイルに存在する列名を指定してください。

**msgcode**: -2112

**sqlstate**: 38S7C

---

**GSE2113N　dBASE ファイルの列 *dbf-column-name* の dBASE ファイル・データ・タイプ *dbf-data-type* は、サポートされていません。**

**説明:**
dBASE ファイル (.dbf) の属性列 *dbf-column-name* の dBASE ファイル・データ・タイプ *dbf-data-type* を DB2 データベースのデータ・タイプにマップできません。 シェイプ・ファイルをインポートできません。

**ユーザーの処置:**
列リストからその列を除外してください。

**msgcode**: -2113

**sqlstate**: 38S7D

---

**GSE2114N　列位置 *position* は範囲外です。 dBASE ファイルには、 *dbf-column-number* 個の列があります。**

**説明:**
指定された列位置 *position* は、有効範囲内の値でなければなりません。 有効な値は、 0 (ゼロ) より大きく、 *dbf-column-number* より小さいか等しい値です。

**ユーザーの処置:**
有効な位置を指定してください。

**msgcode**: -2114

**sqlstate**: 38S7E

---

**GSE2115N　数値 ID *srs-id* の空間参照系が存在しません。**

**説明:**
数値 ID *srs-id* の空間参照系が存在しません。 データをインポートできません。

**ユーザーの処置:**
既存の空間参照系を指定するか、または、インポート操作を行う前に空間参照系を作成してください。

**msgcode**: -2115

**sqlstate**: 38S7F

---

**GSE2116N　座標系定義 *coordsys-def* が長すぎます。**

**説明:**
インポートする空間データに使用されている座標系定義 *coordsys-def* が長すぎます。 これは、インポートされたデータに使用される空間参照系が基づいている座標系では検査できません。

**ユーザーの処置:**
展開ファイル (.prj) に定義されている座標系が正しいか調べてください。検査のステップをスキップする場合は、展開ファイルを指定しないでください。

**msgcode**: -2116

**sqlstate**: 38S7G

---

**GSE2117N　座標系定義 *coordsys-def* は、空間参照系 *srs-id* が基づいている座標系定義と一致しません。**

**説明:**
座標系 *coordsys-def* は、空間参照系 *srs-id* が基づいている座標系と一致しません。 両方の座標系は、意味体系上、同一でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
展開ファイル (.prj) に定義されている座標系が、空間参照系の座標系と同じであるかを調べてください。検査のステップをスキップする場合は、展開ファイルを指定しないでください。

**msgcode**: -2117

**sqlstate**: 38S7H

---

**GSE2118N　空間データは、数値 ID *srs-id* の空間参照系に適合しません。**

**説明:**
空間データは、数値 ID が *srs-id* の空間参照系の最小および最大座標値を超えるエリアをカバーしています。

**ユーザーの処置:**
インポートされる空間データが完全に含まれる空間参照系を指定してください。 空間参照系に適合する最小および最大座標値については、DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS カタログ・ビューを参照してください。

**msgcode**: -2118

**sqlstate**: 38S7I

---

**GSE2119N　数値 ID *srs-id1* のインポートされるデータの空間参照系は、数値 ID *srs-id2* のターゲット列の空間参照系と一致しません。ターゲット列の名前は、*schema-name.table-name.column-name* です。**

**説明:**
空間列 *schema-name.table-name.column-name* は、その列に割り当てられている空間参照系 *srs-id2* を使用して登録されました。 この空間参照系は、その列にインポートされる空間データに使用されている空間参照系 *srs-id1* と一致しません。 データをインポートできません。

**ユーザーの処置:**
その空間列の登録を抹消するか、または、インポートされるデータに、その列が使用しているものと同じ空間参照系を指定してください。

**msgcode**: -2119

**sqlstate**: 38S7J

---

**GSE2120N　データはインポートされませんでした。**

**説明:**
シェイプ・データをインポートできませんでした。 すべての行が拒否され、例外ファイルに書き込まれました。

**ユーザーの処置:**
すべての空間データが拒否された理由については、メッセージ・ファイルを参照してください。

**msgcode**: -2120

**sqlstate**: 38S7K

---

**GSE2121N　操作を再始動するレコードを指定している値 *restart-count* が範囲外です。 シェイプ・ファイルには、*record-count* 個のレコードがあります。**

**説明:**
指定される restartCount *restart-count* は、0 (ゼロ) 以上、*record-count* 以下でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
restartCount に、有効な数を指定するか、または、NULL 値を指定してください。

**msgcode**: -2121

**sqlstate**: 38S7L

---

**GSE2122N　シェイプ・データのインポートに使用される SQL ステートメントが、内部バッファーに適合しません。**

**説明:**
表へのシェイプ・データのインポートに使用される SQL ステートメントが、内部バッファーに適合しません。 ファイルの列が多すぎることが原因である可能性があります。

**ユーザーの処置:**
シェイプ・ファイルの属性列を少なくしてインポートしてください。

**msgcode**: -2122

**sqlstate**: 38S7M

---

**GSE2123N** *row-count* **行のデータを保留するためのバッファーを割り振れません。**

**説明:**
Spatial Extender は、少なくとも *row-count* 行を単一の INSERT ステートメントでインポートしようとしましたが、その行のデータを保留するためのバッファーを割り振ることができませんでした。 必要なメモリー量が多すぎます。

**ユーザーの処置:**
*row-count* より小さいインポートのコミット・カウントを指定してください。 または、インポートされる列を少なくしてください。 それによって、必要なメモリー量が削減されます。

**msgcode**: -2123

**sqlstate**: 38S7N

---

**GSE2124N** **無効なタイプ ID** *type-id* **が、インポートされるシェイプ・ファイルのヘッダーで検出されました。**

**説明:**
シェイプ・ファイルのデータは、有効な空間データ・タイプではありません。 このシェイプ・ファイルは、破壊されている可能性があります。 データは、インポートされませんでした。

**ユーザーの処置:**
シェイプ・ファイルが有効であるか確かめてください。

**msgcode**: -2124

**sqlstate**: 38S7O

---

**GSE2125N** **シェイプ・ファイルの列にサポートされないデータ・タイプ** *type* **があります。**

**説明:**
シェイプ・ファイルに、Spatial Extender がサポートしていないデータ・タイプの列が含まれています。 シェイプ・ファイルをインポートできませんでした。

**ユーザーの処置:**
シェイプ・ファイルのより少ない列だけをインポートして、サポートされないデータ・タイプの列は省略してください。

**msgcode**: -2125

**sqlstate**: 38S7P

---

**GSE2126N** **シェイプ・ファイル** *shape-file* **のヘッダーが無効です。**

**説明:**
シェイプ・ファイル *shape-file* のヘッダーが無効です。 シェイプ・ファイルをインポートできません。

ファイル名 *shape-file* の拡張子は、シェイプ・ファイルのどの部分でエラーが検出されたかを示します。 ファイル拡張子には、次のものがあります。

**.shp** メインファイル

**.shx** 索引ファイル

**.dbf** dBASE ファイル

**.pri** 展開ファイル

**ユーザーの処置:**
シェイプ・ファイルのヘッダーを調べて訂正してください。

**msgcode**: -2126

**sqlstate**: 38S7Q

---

**GSE2127N** **シェイプ索引ファイル** *shx-file* **のレコード** *record-number* **のオフセット** *offset* **が無効です。**

**説明:**
索引ファイル (.shx) *shx-file* のレコード *record-number* のオフセット *offset* が無効です。 オフセットは、50 以上でシェイプ・ファイルのメインファイル (.shp) の全長より小さくなくてはなりません。 オフセットは、16 ビット・ワード単位で測定されます。

**ユーザーの処置:**
シェイプ・ファイルを検査して、訂正してください。

**msgcode**: -2127

**sqlstate**: 38S7R

---

**GSE2128N** **シェイプ索引ファイル** *shx-file* **のレコード** *record-number* **のシェイプの長さが短すぎます。**

**説明:**

シェイプ索引ファイル *shx-file* にあるレコード *record-number* のシェイプの長さが短すぎます。 各シェイプは、少なくとも 4 バイト (16 ビット・ワードが 2 つ) で構成されていなければなりません。

**ユーザーの処置:**
シェイプ・ファイルを検査して、訂正してください。

**msgcode**: -2128

**sqlstate**: 38S7S

---

**GSE2129N　Spatial Extender は、シェイプ・ファイル *shp-file* で、予期していたレコード番号 *expected-number* ではなく、誤ったレコード番号 *record-number* を検出しました。**

**説明:**
Spatial Extender は、シェイプ・ファイル *shp-file* で、レコード番号 *expected-number* を検出するはずでしたが、誤ったレコード番号 *record-number* を検出しました。

**ユーザーの処置:**
シェイプ・ファイルを検査して、訂正してください。

**msgcode**: -2129

**sqlstate**: 38S7T

---

**GSE2130N　シェイプ・ファイル *shp-file* に示されているシェイプ・データのサイズ *record-size* は、シェイプ索引ファイル *index-size* に示されているサイズと一致しません。**

**説明:**
シェイプ・ファイル *shp-file* に示されているシェイプ・データのサイズ *record-size* は、シェイプ索引ファイル *index-size* に示されているサイズと一致しません。

シェイプ・ファイル (.shp) のメインファイルは、索引ファイル (.shx) と整合性が無いため、これ以上処理できません。

**ユーザーの処置:**
シェイプ・ファイルを検査して、訂正してください。

**msgcode**: -2130

**sqlstate**: 38S7U

---

**GSE2131N　dBASE ファイル *dbf-file* のレコード *record-number* のデータが無効です。**

**説明:**
シェイプ・ファイルの形状に関連した属性情報が含まれている dBASE ファイル *dbf-file* のレコード *record-number* のデータが無効です。

説明は以下のとおりです。

- レコードの最初のバイトは、アスタリスク ('*') またはスペース (' ') であってはなりません。
- dBASE ファイル (.dbf) の全列の長さの合計は、ファイルのヘッダーに示されているレコード・サイズと同じでなければなりません。

**ユーザーの処置:**
dBASE ファイルを検査して、訂正してください。

**msgcode**: -2131

**sqlstate**: 38S7V

---

**GSE2132N　シェイプ・ファイル *shape-file* のデータが無効です。**

**説明:**
シェイプ・ファイル *shape-file* のデータが壊れています。 このシェイプ・ファイルをインポートできません。

ファイル名 *shape-file* は、このシェイプ・ファイルのどの部分でエラーが検出されたかを示します。

**ユーザーの処置:**
シェイプ・ファイルを検査して、訂正してください。

**msgcode**: -2132

**sqlstate**: 38S7W

---

**GSE2133N　列 *schema-name.table-name.column-name* は、 NULL 可能でないため、インポート操作は失敗しました。**

**説明:**
既存の表 *schema-name.table-name* の列 *column-name* の定義により、列には NULL を含ませることができません。 その列は、インポート対象である列のリストに含まれておらず、デフォルト値、生成された列定義やトリガーなど他の手段によって DB2 がその列について値を提供することはありません。

インポート操作を正常に完了できません。

**ユーザーの処置:**
インポート対象である列のリストにその列を含ませて ID 列として識別させるか、または代替手段を定義して、インポート操作中に DB2 がその列について値を生成するようにしてください。

**msgcode**: -2133

**sqlstate**: 38S7X

---

**GSE2134N　インポートされるデータに関連する空間参照系が、数値 ID が *srs-id* の空間参照系に一致しません。**

**説明:**
インポートされるファイルにある空間データは、数値 ID が *srs-id* の空間参照系とは別のオフセットおよびスケール因子で、空間参照系を使用します。 データを正常にインポートできません。

**ユーザーの処置:**
インポートされるファイルのデータで必要な空間参照系と同じ定義を持つ空間参照系を指定してください。空間参照系に適合する最小および最大座標値、オフセット、およびスケール因子については、DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS カタログ・ビューを参照してください。

**msgcode**: -2134

**sqlstate**: 38S7Y

---

**GSE2200N　SELECT ステートメントの結果に、空間列が組み込まれていませんでした。**

**説明:**
エクスポート操作に指定する SELECT ステートメントでは、1 つの空間列を正確に参照しなければなりません。 データをエクスポートできません。

**ユーザーの処置:**
1 つの空間列を正確に参照するように、SELECT ステートメントを訂正してください。

**msgcode**: -2200

**sqlstate**: 38S90

---

**GSE2201N　SELECT ステートメントの結果に、複数の空間列が組み込まれていました。**

**説明:**
エクスポート操作に指定する SELECT ステートメントでは、1 つの空間列を正確に指定しなければなりません。 データをエクスポートできません。

**ユーザーの処置:**
1 つの空間列を正確に参照するように、SELECT ステートメントを訂正してください。

**msgcode**: -2201

**sqlstate**: 38S91

---

**GSE2202N　エクスポートするデータを記述する全選択の列 *column-number* の SQL データ・タイプ *data-type* は、シェイプ・ファイルではサポートされません。**

**説明:**
エクスポートするデータを記述する全選択の列 *column-number* の SQL データ・タイプ *data-type* は、シェイプ・ファイルではサポートされません。 データをエクスポートできません。

**ユーザーの処置:**
シェイプのエクスポート操作の SELECT ステートメントに、サポートされていないタイプの列を指定しないでください。 DESCRIBE コマンドを使用すると、SELECT ステートメントの結果のすべての列のデータ・タイプを検査することができます。

**msgcode**: -2202

**sqlstate**: 38S92

---

**GSE2203N　列 *column-number* のデータの長さは、*length* です。これは、シェイプ・ファイルにエクスポートするには長すぎます。**

**説明:**
列 *column-number* のデータの長さは、 *length* です。これは、シェイプ・ファイルにエクスポートするには長すぎます。

**ユーザーの処置:**
列の長さを 256 バイト未満に変更してください。 DB2 の cast 関数を使用すると、列の長さを短縮することができます。

**msgcode**: -2203

**sqlstate**: 38S93

---

**GSE2204N　列名 *column-name* は、 dBASE ファイルの 11 文字の制限を超えています。**

**説明:**
列名 *column-name* は、dBASE ファイルの 11 バイトの制限を超えています。 データはエクスポートされません。

**ユーザーの処置:**
dBASE ファイル (.dbf) にエクスポートする属性データには、11 バイト以下の列名を指定してください。

**msgcode**: -2204

**sqlstate**: 38S94

---

**GSE2205W　DB2 は、Spatial Extender がエクスポートするデータをフェッチした時に、 SQL 警告 *sql-warning* を戻しました。**

**説明:**
DB2 は、Spatial Extender がエクスポートするデータをフェッチした時に、 SQL 警告 *sql-warning* を戻しました。警告は無視され、データはエクスポートされました。

**ユーザーの処置:**
*sql-warning* の記述を参照してください。 警告を許容できない場合には、警告の原因となったものを訂正して、データを再度エクスポートしてください。

**msgcode**: +2205

**sqlstate**: 38S95

---

**GSE2206W　データはエクスポートされませんでした。**

**説明:**
エクスポートに指定された SELECT ステートメントは、どの行も検索しませんでした。 データはエクスポートされませんでした。

**ユーザーの処置:**
エクスポートする行を少なくとも 1 行は戻す、SELECT ステートメントを指定してください。

**msgcode**: +2206

**sqlstate**: 38S96

---

**GSE2207W　SELECT ステートメントで参照された行の一部しかエクスポートされませんでした。**

**説明:**
SELECT ステートメントには、エクスポートされた行よりも多くの行が示されていました。 このエラーは、エクスポート中にエラーが検出されて操作が終了した場合に発生することがあります。

**ユーザーの処置:**
メッセージ・ファイルを調べてください。

**msgcode**: +2207

**sqlstate**: 38S97

---

**GSE2208N　行 *row-number* において、エクスポートされる形状は、数値 ID *srs-id1* の空間参照系に関連しています。 この ID は、前の行の形状に使用された空間参照系の数値 ID *srs-id2* と一致しません。**

**説明:**
行 *row-number* において、エクスポートされる形状は、数値 ID *srs-id1* の空間参照系に関連しています。 この ID は、前の行の形状に使用された空間参照系の数値 ID *srs-id2* と一致しません。 行 *row-number* は、エクスポートされませんでした。

**ユーザーの処置:**
エクスポートされるすべての形状が、同じ空間参照系 ID を持っていることを確認してください。 同じでない場合は、SELECT ステートメントで ST_Transform() メソッドを使用して、すべての形状を同じ空間参照系に変換してください。

**msgcode**: -2208

**sqlstate**: 38S98

---

**GSE2209N　エクスポートされる行 *row-number* の形状が NULL 値です。**

**説明:**
NULL 値の概念は、形状のエクスポート先のファイルのデータではサポートされていません。 行 *row-number* にエクスポートされる形状が NULL 値であるため、エクスポートできません。

**ユーザーの処置:**
SELECT ステートメントを変更して、NULL 値の形状を持つ行をエクスポートから除外してください。

**msgcode**: -2209

**sqlstate**: 38S99

---

**GSE2210N　行 *row-number* の形状の空間参照系が無効です。 この空間参照系の数値 ID は、*srs-id* です。**

**説明:**
行 *row-number* で、エクスポートされる形状が、無効な空間参照系を使用しています。 形状をエクスポートできません。

**ユーザーの処置:**
示された形状を訂正するか、SELECT ステートメントを変更して、その行をエクスポート操作から除外してください。

**msgcode**: -2210

**sqlstate**: 38S9A

---

**GSE2211N　エクスポートされる空間データは、数値 ID *srs-id* の空間参照系に関連しています。 この空間参照系が基づいている座標系は、エクスポートされるデータが追加されるファイルの座標系定義 *coordsys-def* と一致しません。**

**説明:**
エクスポートされる空間データは、数値 ID *srs-id* の空間参照系に関連しています。 この空間参照系が基づいている座標系は、エクスポートされるデータが追加されるファイルの座標系定義 *coordsys-def* と一致しません。 データはエクスポートされませんでした。

**ユーザーの処置:**
一致する座標系を持つファイルにデータを追加するか、座標系に合わせて空間データをトランスフォームするか、またはデータを別のファイルにエクスポートしてください。

**msgcode**: -2211

**sqlstate**: 38S9B

---

**GSE2212N　属性データが dBASE ファイルと一致しません。**

**説明:**
エクスポート操作に指定された SELECT ステートメントは、dBASE ファイル (.dbf) に一致しない属性データを生成します。

エクスポート操作の SELECT ステートメントからの属性データを dBASE ファイルに追加できません。 考えられる理由は、以下のとおりです。

- 列の数が一致しない。
- 列のデータ・タイプが一致しない。
- 属性列名が一致しない。

**ユーザーの処置:**
SELECT ステートメントを訂正するか、または、指定した dBASE ファイルに追加しないでください。

**msgcode**: -2212

**sqlstate**: 38S9C

---

**GSE2213W　行 *row-number* の、ファイルにエクスポートされる形状が NULL 値です。**

**説明:**
行 *row-number* の、ファイルにエクスポートされる形状が NULL 値です。 行はエクスポートされませんでした。

**ユーザーの処置:**
SELECT ステートメントを変更して、NULL 値を持つ形状を除外してください。

**msgcode**: +2213

**sqlstate**: 38S9D

---

**GSE2214W　行 *row-number* の形状をエクスポートするのに十分なメモリーがありません。**

**説明:**
行 *row-number* の形状をエクスポートするのに十分なメモリーがありません。 行はエクスポートされませんでしたが、エクスポート操作は続行されました。

**ユーザーの処置:**
メモリーを増やすか、その行から形状を除外するように、SELECT ステートメントを変更してください。

**msgcode**: +2214

**sqlstate**: 38S9E

---

**GSE2215W　*record-number* としてシェイプ・ファイルに追加される形状は、シェイプ・タイプが *geometry-shape-type* ですが、これはシェイプ・ファイルのタイプ *file-shape-type* と一致しません。**

**説明:**
*record-number* としてシェイプ・ファイルに追加される形状は、シェイプ・タイプが *geometry-shape-type* ですが、これはシェイプ・ファイルのタイプ *file-shape-type* と一致しません。 この形状は、そのファイルにエクスポートできません。

有効なシェイプ・タイプは、以下のとおりです。

**0**　空の形状。

**1**　Z 座標および目盛りが無い点。

**3**　Z 座標および目盛りが無い行ストリングまたは複数行ストリング。

**5**　Z 座標および目盛りが無いポリゴンまたはマルチポリゴン。

**8**　Z 座標および目盛りが無いマルチポイント。

**9** Z 座標があって目盛りが無い点。

**10** Z 座標があって目盛りが無い行ストリングまたは複数行ストリング。

**11** Z 座標および目盛りがある点。

**13** Z 座標がおよび目盛りがある行ストリングまたは複数行ストリング。

**15** Z 座標および目盛りがあるポリゴンまたはマルチポリゴン。

**18** Z 座標および目盛りがあるマルチポイント。

**19** Z 座標があって目盛りが無いポリゴンまたはマルチポリゴン。

**20** Z 座標があって目盛りが無いマルチポイント。

**21** 目盛りがあって Z 座標が無い点。

**23** 目盛りがあって Z 座標が無い行ストリングまたは複数行ストリング。

**25** 目盛りがあって Z 座標が無いポリゴンまたはマルチポリゴン。

**28** 目盛りがあって Z 座標が無いマルチポイント。

**ユーザーの処置:**
形状を正しいタイプに変換するか、または別のシェイプ・ファイルにエクスポートしてください。

**msgcode**: +2215

**sqlstate**: 38S9F

---

**GSE2216N エクスポートしようとしているシェイプ・データが無効です。**

**説明:**
Spatial Extender は、形状をシェイプ・ファイルにエクスポートする前に、シェイプ・データに変換します。このエラーは、形状が変換されたシェイプ・データが無効であったために戻されました。 形状はエクスポートされませんでした。

説明は以下のとおりです。

- シェイプ・データが奇数バイトです。
- シェイプ・データが短すぎて、すべての情報が入りません。
- 不明なシェイプの兆候が戻されました。
- 最小結合長方形に関する情報が、タイプ指定と整合性がありません。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -2216

**sqlstate**: 38S9G

---

**GSE2217N 出力列リストで列名 *column-name* が重複しています。**

**説明:**
出力列リストに列名 *column-name* が 2 回以上現れます。すべての列名はリスト内で固有でなければなりません。データはエクスポートされません。

**ユーザーの処置:**
出力列リストに固有な列名を指定してください。

dBASE ファイル (.dbf) では、すべての列名は最大でも 11 バイトにしなければなりません。SDEX ファイルでは、すべての列名は最大でも 32 バイトにしなければなりません。

**msgcode**: -2217

**sqlstate**: 38S9I

---

**GSE2299N シェイプ・ファイル *file-name* が、無効なファイル・サイズです。**

**説明:**
シェイプ・ファイル *file-name* が、無効なファイル・サイズです。 シェイプ・ファイルは、 16 ビット・ワードの倍数のファイル・サイズです。 したがって、シェイプ・ファイルのサイズは常に偶数になります。 シェイプ・ファイルが壊れている可能性があります。 このファイルを使用できません。

**ユーザーの処置:**
シェイプ・ファイルを検査して、訂正してください。

**msgcode**: -2299

**sqlstate**: 38S9H

---

**GSE2500N SDEX ファイル *file-name* の ヘッダーが無効です。**

**説明:**
SDEX ファイル *file-name* の ヘッダーが無効です。SDEX ファイルが正常にオープンできません。

**ユーザーの処置:**
SDEX ファイルのヘッダーを調べて訂正してください。

**msgcode**: -2500

**sqlstate**: 38SA0

---

**GSE2501N　座標系パラメーターが SDEX ファイル *file-name*から読み込めませんでした。**

**説明:**
SDEX ファイル *file-name* は、座標系定義の無効なデータを含んでいます。 SDEX ファイルが正常にオープンできません。

**ユーザーの処置:**
SDEX ファイルに保管されている座標系定義を検証し修正してください。

**msgcode**: -2501

**sqlstate**: 38SA1

---

**GSE2502N　列定義が SDEX ファイル *file-name*から読み込めませんでした。**

**説明:**
SDEX ファイル *file-name* は、列定義の無効なデータを含んでいます。 SDEX ファイルが正常にオープンできません。

**ユーザーの処置:**
SDEX ファイルに保管されている列定義を検証し修正してください。

**msgcode**: -2502

**sqlstate**: 38SA2

---

**GSE2503N　SDEX ファイルの列にサポートされないタイプ *type* があります。**

**説明:**
SDEX ファイルに、Spatial Extender がサポートしていないデータ・タイプの列が含まれています。 SDEX ファイルをインポートできませんでした。

**ユーザーの処置:**
SDEX ファイルのより少ない列だけをインポートして、サポートされないデータ・タイプの列は 省略してください。

**msgcode**: -2503

**sqlstate**: 38SA3

---

**GSE2504N　列位置 *position* は範囲外です。 SDEX ファイルには、 *column-number* 個の列があります。**

**説明:**
指定された列位置 *position* は、有効範囲内の値でなければなりません。 有効な値は、 0 (ゼロ) より大きく、 *column-number* より小さいか等しい値です。

**ユーザーの処置:**
有効な位置を指定してください。

**msgcode**: -2504

**sqlstate**: 38SA4

---

**GSE2505N　SDEX ファイルの列 *column-name* が長すぎます。**

**説明:**
SDEX ファイルの列の名前 *column-name* が、DB2 の列名の制限を超えています。

**ユーザーの処置:**
DB2 の長さ制限を超えない *column-name* を指定してください。

**msgcode**: -2505

**sqlstate**: 38SA5

---

**GSE2506N　列 *column-name* が SDEX ファイルにありません。**

**説明:**
名前 *column-name* は、SDEX ファイルの既存の属性列を表していません。 操作を正常に完了できませんでした。

**ユーザーの処置:**
SDEX ファイルに存在する列名を指定してください。

**msgcode**: -2506

**sqlstate**: 38SA6

---

**GSE2507N　SDEX ファイル内の列 *column-name*の SDEX ファイル・データ・タイプ *data-type* はサポートされていません。**

**説明:**
SDEX ファイルの属性列 *column-name* の SDEX ファイル・データ・タイプ *data-type* を DB2 データベースのデータ・タイプにマップできません。 SDEX ファイルをインポートできません。

**ユーザーの処置:**
列リストからその列を除外してください。

**msgcode**: -2507

**sqlstate**: 38SA7

**GSE2508N　複数の空間列が SDEX ファイル *file-name* に存在します。**

**説明:**
Spatial Extender は、 SDEX ファイル *file-name* に複数の列を検出しました。 空間列は 1 つしか許可されません。 ファイルを正常にインポートできません。

**ユーザーの処置:**
SDEX ファイルを、空間列を 1 つにするよう訂正してください。

**msgcode**: -2508

**sqlstate**: 38SA8

---

**GSE2509N　SDEX ファイル *file-name* から、レコード *record-number* を読み取ることができません。 理由コード: *reason-code***

**説明:**
レコード *record-number* が SDEX ファイル *file-name*から読み込めません。

レコードを読み取ることができない理由は、理由コードによって、次のようになります。

**-1**　内部エラーが発生しました。

**-13**　使用可能なメモリーが十分ではありません。

**ユーザーの処置:**
理由コードに従って SDEX ファイルを検証し修正し、またはメモリー不足を解決してください。

**msgcode**: -2509

**sqlstate**: 38SA9

---

**GSE2600N　SDEX ファイル *file-name*のヘッダーを書き込むことができません。**

**説明:**
SDEX ファイル *file-name* の ヘッダーを正常に書き込むことが出来ません。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -2600

**sqlstate**: 38SF0

---

**GSE2601N　SDEX ファイル *file-name*に座標系パラメーターを書き込むことができません。**

**説明:**
座標系パラメーターを SDEX ファイル *file-name* に正常に書き込むことができません。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -2601

**sqlstate**: 38SF1

---

**GSE2602N　SDEX ファイル *file-name*に列定義を書き込むことができません。**

**説明:**
列定義を SDEX ファイル *file-name* に正常に書き込むことができません。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -2602

**sqlstate**: 38SF2

---

**GSE2603N　列名 *column-name* は、 SDEX ファイルの 32 文字の制限を超えています。**

**説明:**
列名 *column-name* は、SDEX ファイルの 32 バイトの制限を超えています。 データはエクスポートされません。

**ユーザーの処置:**
SDEX ファイルにエクスポートするデータには、32 バイト以下の列名を指定してください。

**msgcode**: -2603

**sqlstate**: 38SF3

---

**GSE2604N　エクスポートするデータを記述する全選択の列 *column-number* の SQL データ・タイプ *data-type* は、SDEX ファイルではサポートされません。**

**説明:**

エクスポートするデータを記述する全選択の列 *column-number* の SQL データ・タイプ *data-type* は、SDEX ファイルではサポートされません。 データをエクスポートできません。

**ユーザーの処置:**
SDE のエクスポート操作の SELECT ステートメントに、サポートされていないタイプの列を指定しないでください。 DESCRIBE コマンドを使用すると、SELECT ステートメントの結果のすべての列のデータ・タイプを検査することができます。

**msgcode**: -2604

**sqlstate**: 38SF4

---

**GSE2605N　レコード *record-number* を SDEX ファイル *file-name*に書き込むことができません。**

**説明:**
レコード *record-number* を SDEX ファイル *file-name*に正常に書き込むことができません。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -2605

**sqlstate**: 38SF5

---

**GSE3000N　SRS ID が NULL です。**

**説明:**
数値による空間参照系 ID ではなく、NULL 値が関数またはメソッドに渡されました。

**ユーザーの処置:**
既存の空間参照系の数値による空間参照系 ID を指定してください。 定義されている空間参照系については、Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS を参照してください。

**msgcode**: -3000

**sqlstate**: 38SU0

---

**GSE3001N　SRS ID *srs-id* が無効です。**

**説明:**
空間処理関数に指定された空間参照系 ID *srs-id* は、既存の空間参照系を識別していません。

**ユーザーの処置:**
Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS に定義されている既存の数値による空間参照系 ID を指定するか、または、*srs-id* によって識別される空間参照系を作成してください。

**msgcode**: -3001

**sqlstate**: 38SU1

---

**GSE3002N　単位名が NULL です。**

**説明:**
計測単位として NULL が指定されました。 計測単位の指定は、単位そのもの (たとえば、“meter” など) でなければなりません。 NULL は指定できません。

**ユーザーの処置:**
空間処理関数またはメソッドの呼び出し時に計測単位を省略するか、または、既存の計測単位を指定してください。 サポートされる単位については、Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_UNITS_OF_MEASURE を参照してください。

**msgcode**: -3002

**sqlstate**: 38SU2

---

**GSE3003N　不明な単位 *unit-name* が指定されました。**

**説明:**
空間処理関数またはメソッドに指定された単位 *unit-name* は、既存の計測単位を示していません。

**ユーザーの処置:**
空間処理関数またはメソッドの呼び出し時に計測単位を省略するか、または、既存の計測単位を指定してください。 サポートされる単位については、Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_UNITS_OF_MEASURE を参照してください。

**msgcode**: -3003

**sqlstate**: 38SU3

---

**GSE3004N　単位 *unit-name* への変換はサポートされていません。**

**説明:**
単位 *unit-name* への変換は、サポートされていません。

指定された形状が展開された座標系にない場合、関数 ST_Area、ST_Buffer、ST_Length、および ST_Perimeter は、線形の計測単位を受け入れられません。

**ユーザーの処置:**
以下のいずれかの方式を使用してください。

- 空間処理関数またはメソッドの呼び出し時に計測単位を省略してください。
- 角度の計測単位を指定してください。
- ST_Transform 関数を使用して、形状を展開された座標系に展開してください。 適当な空間参照系については、Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS を参照してください。

**msgcode**: -3004

**sqlstate**: 38SU4

---

**GSE3005N　SRS に単位がありません。**

**説明:**
形状に対する空間参照系に、関連した線形または角度の単位がありません。 要求された計測単位で操作を実行することはできません。

**ユーザーの処置:**
関連した線形または角度の計測単位がある正しい空間参照系の形状を指定するか、または、操作の要求時に単位パラメーターを省略してください。

**msgcode**: -3005

**sqlstate**: 38SU5

---

**GSE3006N　内部タイプ ID が無効です。**

**説明:**
この形状の内部データ・タイプ ID は、NULL 値なので、無効です。

このエラーは、形状の内部表記が破壊されている場合、または形状がサポートされているコンストラクター関数またはメソッドのいずれかで構成されていない場合に起きます。

**ユーザーの処置:**
サポートされているコンストラクター関数またはメソッドを使用して、形状を再構成してください。

**msgcode**: -3006

**sqlstate**: 38SU6

---

**GSE3007N　内部タイプ ID *type-id* が不明です。**

**説明:**
形状の内部タイプ ID *type-id* の値が無効です。

このエラーは、形状の内部表記が破壊されている場合、または形状がサポートされているコンストラクター関数またはメソッドのいずれかで構成されていない場合に起きます。

**ユーザーの処置:**
サポートされているコンストラクター関数またはメソッドを使用して、形状を再構成してください。

**msgcode**: -3007

**sqlstate**: 38SU7

---

**GSE3008N　内部タイプ ID のミスマッチ (*type-id1*、*type-id2*)。**

**説明:**
内部データ・タイプ ID のミスマッチが検出されました。 Spatial Extender は、内部データ・タイプ ID が *type-id2* の形状を検索するはずでしたが、内部データ・タイプ ID が *type-id1* の形状を検索しました。

このエラーは、形状の内部表記が破壊されている場合、または形状がサポートされているコンストラクター関数またはメソッドのいずれかで構成されていない場合に起きます。

**ユーザーの処置:**
サポートされているコンストラクター関数またはメソッドを使用して、形状を再構成してください。

**msgcode**: -3008

**sqlstate**: 38SU8

---

**GSE3009W　パーツ数 *part-number* が無効です。**

**説明:**
指定されたパーツ数 *part-number* が無効です。 NULL 値が戻されました。

**ユーザーの処置:**
形状が空でない場合は、形状コレクションにおいて 0 (ゼロ) より大きく最大パーツ数以下の有効なパーツ数を指定してください。

ST_NumGeometries 関数を使用すると、形状コレクションのパーツ数を判別することができます。

形状が空の場合は、方式は適用されません。

**msgcode**: +3009

**sqlstate**: 01HS0

---

**GSE3010W　リング数 *ring-number* が無効です。**

**説明:**
内部リング数に指定された数 *ring-number* が無効です。 NULL 値が戻されました。

**ユーザーの処置:**
ポリゴン値が空でない場合は、ポリゴンにおいて、1 以上で内部リングの最大数以下の有効なリング数を指定してください。

ポリゴンが空の場合は、関数またはメソッドは適用されません。 ST_NumInteriorRings 関数を使用すると、ポリゴンの内部リングの数を判別することができます。

**msgcode**: +3010

**sqlstate**: 01HS1

---

**GSE3011W　点数 *point-number* が無効です。**

**説明:**
指定された点数 *point-number* は無効です。 NULL 値が戻されました。

**ユーザーの処置:**
曲線値が空でない場合は、曲線で 0 (ゼロ) より大きく、点の最大数より小さいか等しい有効な点数を指定してください。 曲線が空の場合は、関数またはメソッドは適用されません。

ST_NumPoints 関数を使用すると、曲線の定義に使用する点数を判別することができます。

**msgcode**: +3011

**sqlstate**: 01HS2

---

**GSE3012N　DE9-IM *matrix* が無効です。**

**説明:**
ST_Relate 関数に指定された交差マトリックス *matrix* は無効です。 マトリックスは 9 文字でなければなりません。また、マトリックスの各文字は、
'T'、'F'、'0'、'1'、'2'、'*' のいずれかでなければなりません。

**ユーザーの処置:**
有効な交差マトリックスを指定してください。

**msgcode**: -3012

**sqlstate**: 38SU9

---

**GSE3013N　外部リングがリングではありません。**

**説明:**
ポリゴンの新規外部リングとなる行ストリングが、リングではありません。 リングにするには、単一かつ閉じた行ストリングにする必要があります。 この両方の条件あるいはいずれかの条件が満たされていません。

**ユーザーの処置:**
ポリゴンの新規外部リングに、単一の閉じた行ストリングを指定してください。

**msgcode**: -3013

**sqlstate**: 38SUA

---

**GSE3014N　内部リングがリングではありません。**

**説明:**
ポリゴンの新規内部リングとなる行ストリングが、リングではありません。 リングにするには、単一かつ閉じた行ストリングにする必要があります。 これらの条件の少なくとも 1 つが満たされていません。

**ユーザーの処置:**
ポリゴンの新規内部リングに、単一の閉じた行ストリングを指定してください。

**msgcode**: -3014

**sqlstate**: 38SUB

---

**GSE3015N　理由コード = *reason-code*。SRS *srs-id* へのトランスフォーメーションが失敗しました。**

**説明:**
形状が表されている空間参照系から、数値 ID *srs-id* の空間参照系に、形状をトランスフォームできませんでした。 トランスフォームは、理由コード *reason-code* で失敗しました。

理由コードの意味は、以下のとおりです。

**-2008**　形状が無効です。

**-2018**　トランスフォーメーションを正常に完了するために十分なメモリーがありません。

**-2020**　空間参照系に互換性がありません。 両方の空間参照系は、直接または間接的に同じ形状座標系に基づいていなければなりません。

**-2021**　結果の形状の点 (1 つまたは複数) は、新しい空間参照系で可能な最大範囲外にあります。 結果の形状を、新しい空間参照系で表すことができません。

**-2025** 新しい空間参照系の定義が無効です。

**-2026** 形状の展開中に、内部エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
空間参照系 *srs-id* にトランスフォームできる空間参照系で形状を表すか、または、形状をトランスフォームする宛先として別の空間参照系 ID を指定してください。

**msgcode**: -3015

**sqlstate**: 38SUC

---

**GSE3016N キャスト *type-id1*、 *type-id2* はサポートされていません。**

**説明:**
内部タイプ ID *type-id1* のデータ・タイプから、内部タイプ ID *type-id2* のデータ・タイプへ試行されたキャスト操作はサポートされていません。 形状をこれ以上処理できません。

**ユーザーの処置:**
サポートされているキャスト操作を指定してください。 サポートされている cast 関数について詳しくは、「IBM DB2 SQL リファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3016

**sqlstate**: 38SUD

---

**GSE3020N Z 座標と目盛りの組み合わせが無効です。**

**説明:**
関数またはメソッドが処理しようとした形状は、Z 座標と目盛りに関して同じ大きさを使用して表されていません。

すべての形状は、Z 座標が含まれているか、または Z 座標が含まれていないかのいずれかでなければなりません。 すべての形状は、目盛りが含まれているか、または目盛りが含まれていないかのいずれかでなければなりません。

**ユーザーの処置:**
関数またはメソッドに、Z 座標と目盛りに関して同じ大きさを使用して表されている形状を指定してください。

**msgcode**: -3020

**sqlstate**: 38SUH

---

**GSE3021N 理由コード = *reason-code*。ロケーター障害。**

**説明:**
LOB ロケーターでの空間処理関数またはメソッドの操作時に、内部エラーが発生しました。 ロケーター関数によって理由コード *reason-code* が戻されました。

**ユーザーの処置:**
「IBM DB2 アプリケーション開発ガイド」を参照して、LOB ロケーターから戻された *reason-code* の意味を判別して、問題を訂正してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -3021

**sqlstate**: 38SUI

---

**GSE3022N 表記が長すぎます (*append-length* 対 *written-length* バイト)。**

**説明:**
Geographic Markup Language (GML) での形状の表記、既知のテキスト (WKT)、既知のバイナリー (WKB)、またはシェイプ表記が長すぎます。 *append-length* バイトから、 *written-length* バイトだけしかエンコードに追加できません。 形状の表記を作成できません。

**ユーザーの処置:**
形状に重要でない点を省略して、形状を単純化してください。 ST_Generalize 関数を使用して、この処理を行うことができます。 または、形状をより小さい形状にブレークダウンしてください。

**msgcode**: -3022

**sqlstate**: 38SUJ

---

**GSE3023N 表記が短すぎます (*length* バイト)。**

**説明:**
既知のバイナリー (WKB) 表記またはシェイプ表記での形状の表記が *length* バイトの長さしかありません。 シェイプ表記に最低でも 4 バイト、空の形状の既知のバイナリー表記にちょうど 5 バイト、空でない形状の既知のバイナリー表記に最低でも 9 バイト必要です。バイナリー表記は、すべての形状点を含むのに十分な長さでなければなりません。

**ユーザーの処置:**
関数またはメソッドに、有効な既知のバイナリー表記またはシェイプ表記を提供してください。

**msgcode**: -3023

**sqlstate**: 38SUK

---

**GSE3024N　内部形状が短すぎます。**

**説明:**
形状の内部表記が短すぎます。 これ以上、処理できませんでした。

このエラーは、形状の内部表記が破壊されている場合、または形状がサポートされているコンストラクター関数またはメソッドのいずれかで構成されていない場合に起きます。

**ユーザーの処置:**
サポートされているコンストラクター関数またはメソッドを使用して、形状を再構成してください。

**msgcode**: -3024

**sqlstate**: 38SUL

---

**GSE3025N　形状が不整合です。**

**説明:**
形状値が不整合で、これ以上処理できません。

**ユーザーの処置:**
有効なバイナリーまたはテキスト表記で、形状を再作成してください。

**msgcode**: -3025

**sqlstate**: 38SUM

---

**GSE3026N　点の数が不整合です (*indicated-number* 対 *data-number*)。**

**説明:**
形状の内部パラメーターは、形状データに *indicated-number* 点が含まれていることを示しています。 しかし、実際の形状データには *data-number* 点が含まれています。 この不整合により、形状は、処理においてこれ以上使用されません。

このエラーは、形状の内部表記が破壊されている場合、または形状がサポートされているコンストラクター関数またはメソッドのいずれかで構成されていない場合に起きます。

**ユーザーの処置:**
Spatial Extender によってサポートされている関数またはメソッドを使用して、形状を再作成してください。

**msgcode**: -3026

**sqlstate**: 38SUN

---

**GSE3027N　点が空です。**

**説明:**
これは、X 座標、Y 座標、Z 座標、または空の点に対する目盛りの指定において無効です。

点がコンストラクター関数 ST_Point によって構成されている場合、点の X および Y 座標は、両方とも NULL でなければなりません。 さらに、点が NULL 値でない限り、 Z 座標または目盛りを指定してはなりません。

空の点の変更に mutator ST_X、ST_Y、ST_Z、または ST_M が使用される場合には、点の X および Y 座標は両方とも NULL でなければなりません。 NULL で無い限り、Z 座標または目盛りを指定してはなりません。

**ユーザーの処置:**
mutator ST_X、ST_Y、ST_Z、または ST_M を使用して、空でない点を変更するか、または、 NULL でない値の X および Y 座標の両方を指定して点を構成してください。

**msgcode**: -3027

**sqlstate**: 38SUO

---

**GSE3028N　座標が不整合です。**

**説明:**
新しい点を構成している場合には、X および Y 座標を両方とも指定しなければなりません。 両方の座標とも NULL であるか、または NULL でないかのいずれかでなければなりません。

両方の座標値が NULL の場合には、結果点は空になります。 その場合、結果点が NULL でない限り、Z 座標または目盛りを指定しないでください。

**ユーザーの処置:**
X および Y の両方の座標に NULL を指定するか、または、両方の座標に NULL でない値を指定してください。

**msgcode**: -3028

**sqlstate**: 38SUP

---

**GSE3029N　バイト・オーダー *byte-order* が無効です。**

**説明:**
形状のバイナリー表記におけるバイト・オーダーは、0 または 1 のいずれかでなければなりませんが、*byte-order* になっています。

既知のバイナリー表記では、0 のバイト・オーダーはビッグ・エンディアン・フォーマットを、 1 のバイト・オーダーはリトル・エンディアン・フォーマットを示します。

**ユーザーの処置:**
バイナリー表記におけるバイト・オーダーが 0 または 1 のいずれかになるように訂正してください。

**msgcode**: -3029

**sqlstate**: 38SUQ

---

**GSE3030N　形状での点数 *num-points* が無効です。**

**説明:**
形状値に無効な点数 *num-points* があります。 この値は、0 (ゼロ) 以上でなければなりません。

形状が空でない場合には、以下の条件を満たしていなければなりません。

**点**　形状には、点が 1 つだけなければなりません。

**行ストリング**
形状には、形状を定義する点が 2 つ以上なければなりません。

**ポリゴン**
形状には、形状を定義する点が 3 つ以上なければなりません。

**ユーザーの処置:**
Spatial Extender によってサポートされている関数またはメソッドを使用して、形状を構成してください。

**msgcode**: -3030

**sqlstate**: 38SUR

---

**GSE3031N　形状のエクステント (*min-coord* 対 *max-coord*) が無効です。**

**説明:**
いずれかのディメンションにおける形状のエクステントが無効です。 形状のすべてのディメンションにおいて、最小座標 *min-coord* は、最大座標 *max-coord* 以下でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
Spatial Extender によってサポートされている関数またはメソッドを使用して、形状を構成してください。

**msgcode**: -3031

**sqlstate**: 38SUS

---

**GSE3032N　集約が失敗しました。**

**説明:**
空間データ集約の計算で、内部 ID 間のミスマッチが検出されました。

集約関数は、以下のいずれかの状態において使用される場合、サポートされません。

- パーティション環境。
- 空間データ集約が含まれている照会で A GROUP BY 文節が使用されている場合。
- DB2 集約関数 MAX 以外の関数が使用されている場合。
- 集約関数が正しいコンテキストで使用されていない場合。

**ユーザーの処置:**
Spatial Extender によってサポートされている方法で、集約関数を使用するようにしてください。

**msgcode**: -3032

**sqlstate**: 38SUT

---

**GSE3033N　バイナリー・データが無効です (タイプ ID *type-id1*、 *type-id2*)。**

**説明:**
この空間処理関数またはメソッドに入力として渡されるバイナリー表記は、データ・タイプ ID が *type-id2* の形状を表すものでなければなりません。 しかし、実際に関数またはメソッドに渡された表記は、データ・タイプ ID が *type-id1* の形状を表しています。 形状を構成できませんでした。

**ユーザーの処置:**
タイプ *type-id2* の形状を構成する正しい関数またはメソッドを呼び出すか、または、バイナリー表記が *type-id1* の形状を表すように訂正してください。

**msgcode**: -3033

**sqlstate**: 38SUU

---

**GSE3034N　テキスト・データが無効です (タイプ ID *type-id1*、 *type-id2*)。**

**説明:**
この空間処理関数またはメソッドに入力として渡されるテキスト表記は、データ・タイプ ID が *type-id2* の形状を表すものでなければなりません。 しかし、実際に関数に渡された表記は、データ・タイプ ID が *type-id1* の形状を表しています。 形状を構成できませんでした。

**ユーザーの処置:**

タイプ *type-id1* の形状を構成する正しい関数を呼び出すか、または、テキスト表記が *type-id2* の形状を表すように訂正してください。

**msgcode**: -3034

**sqlstate**: 38SUV

---

**GSE3035W　曲線が変更されませんでした。**

**説明:**
曲線に追加するために指定された点が空であったため、曲線は変更されませんでした。

**ユーザーの処置:**
空でない点を曲線に追加してください。

**msgcode**: +3035

**sqlstate**: 01HS3

---

**GSE3036W　形状が正確でありません。**

**説明:**
空間参照系で、結果の形状を正確に表せませんでした。スケール係数のいずれかが小さすぎて、結果の形状を定義する各点を表すのに十分な精度ではありません。

たとえば、X 座標にスケール係数 1、Y 座標にスケール係数 1 が組み込まれている空間参照系において 'linestring m ( 10 10 8, 10 11 12 )' のように表される既知のテキスト表記の行ストリングがあるとします。関数 ST_MeasureBetween がその行ストリングに適用され、目盛りの上限および下限がそれぞれ 9 および 10 であるとすると、既知のテキスト表記で表される結果の行ストリングは 'linestring m ( 10 10.25 9, 10 10.50 10 )' となるはずです。 しかし、 Y 座標のスケール係数が 1 なので、小数部を表記できません。 座標 10.25 と 10.50 は、丸めを行わないと表すことができないため、誤った結果になります。 これらの座標は、形状から除去されます。

**ユーザーの処置:**
より大きいスケール係数の空間参照系で形状を表してください。 または、結果の形状が変わるように別のパラメーターを選択してください。

**msgcode**: +3036

**sqlstate**: 01HS4

---

**GSE3037N　無効な GML です。 *position* の位置で *string* ではなく *char* を予想しました。**

**説明:**
形状のジオグラフィー・マークアップ言語で、文字 *char* が予想されましたが、代わりにテキスト *string* が、位置 *position* で見つかりました。 GML 表記は無効です。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

**ユーザーの処置:**
GML 表記を訂正して、形状を再度構成してください。

**msgcode**: -3037

**sqlstate**: 38SUW

---

**GSE3038N　無効な GML です。 *position* の位置で *given-tag* ではなく *expected-tag* を予想しました。**

**説明:**
タグ *given-tag* が、位置 *position* の形状のジオグラフィー・マークアップ言語で見つかりましたが、*expected-tag* が予想されていました。 GML 表記は無効です。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

**ユーザーの処置:**
GML 表記を訂正して、形状を再度構成してください。

**msgcode**: -3038

**sqlstate**: 38SUX

---

**GSE3039N　無効な GML です。 *position* の位置で *text* ではなく番号を予想しました。**

**説明:**
予期しないテキスト *text* が、位置 *position* にある形状のジオグラフィー・マークアップ言語で見つかりました。 代わりに座標を示す数値が使用されました。 GML 表記は無効です。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

**ユーザーの処置:**
GML 表記を訂正して、形状を再度構成してください。

**msgcode**: -3039

**sqlstate**: 38SUY

---

**GSE3040N　無効な GML タイプ *type*。**

**説明:**
予期しないタイプ *type* が、形状のジオグラフィー・マークアップ言語で見つかりました。 GML は、点、行ス

トリング、ポリゴン、複数点、複数行ストリング、およびマルチポリゴンをサポートします。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

**ユーザーの処置:**
GML 表記を訂正して、形状を再度構成してください。

**msgcode**: -3040

**sqlstate**: 38SUZ

---

**GSE3041N　GML の点の指定が誤っています。**

**説明:**
この問題は、以下の理由により発生したと思われます。

- ジオグラフィー・マークアップ言語を使用して表記される点は、座標の設定を 1 つしか持つことができません。指定された点は、座標のセットがなかったか、あるいは複数の座標のセットがあったかのどちらかの状態でした。
- 座標のセットが、対応する <gml:coord> または <gml:coordinates> タグで囲まれていません。

GML 表記は無効です。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

**ユーザーの処置:**
GML 表記を訂正して、形状を再度構成してください。

**msgcode**: -3041

**sqlstate**: 38SV0

---

**GSE3042N　オフセット *offset* にあるロケーターから、*number-bytes* バイトを読み取ることができませんでした。 データの合計長は、*length* です。**

**説明:**
オフセット *offset* で始まるロケーターから、*number-bytes* バイトを読み取ろうとしました。 これは、ロケーターで参照されるデータの *length* の合計長を超過しています。 データは切り捨てられる可能性があります。

形状のバイナリー表記に関して、バイナリー表記が無効なバイナリー・エンコードを示す場合があります。 エンコードされた形状にはヘッダーが示すより小さい点があります。

**ユーザーの処置:**
形状の表記を確認して訂正してください。 バイナリー表記またはテキスト表記が、 Spatial Extender 機能に渡されるまでは切り捨てられていないことを確認してください。

**msgcode**: -3042

**sqlstate**: 38SV1

---

**GSE3043N　無効なパーツ数 *number-parts*。**

**説明:**
形状のバイナリー表記で示されるパーツ数 *number-parts* が無効です。 パーツ数はゼロより大きく、エンコードで提供された実際のパーツ数と一致しなければなりません。

**ユーザーの処置:**
正しいパーツの数を指定するか、または、その形状のすべてのパーツを提供してください。

**msgcode**: -3043

**sqlstate**: 38SV2

---

**GSE3044N　無効なリング数 *number-rings*。**

**説明:**
ポリゴンまたはマルチポリゴンのバイナリー表記で示されるパーツ数 *number-rings* が無効です。 リング数はゼロより大きく、エンコードで提供された実際のパーツ数と一致しなければなりません。

**ユーザーの処置:**
正しいリングの数を指定するか、または、その形状のすべてのリングを提供してください。

**msgcode**: -3044

**sqlstate**: 38SV3

---

**GSE3045N　パーツ・オフセット *part-offset* のシェイプが無効です。**

**説明:**
パーツの形状のシェイプ表記に対して、無効なオフセット *part-offset* が検出されました。 パーツ・オフセットは、0 (ゼロ) 以上であり、各パーツ・オフセットは先行するオフセットより大きくなければなりません。 シェイプ表記は無効です。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

**ユーザーの処置:**
シェイプ表記を訂正して、形状を再度構成してください。

**msgcode**: -3045

**sqlstate**: 38SV4

---

**GSE3046N　タイプ ID *type-id* がシェイプで無効です。**

**説明:**
形状のシェイプ表記には、無効なタイプ ID *type-id* が含まれています。 シェイプ・データが破壊されている可能性があります。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

**ユーザーの処置:**
形状のシェイプ表記を確認して訂正してください。

**msgcode**: -3046

**sqlstate**: 38SV5

---

**GSE3047N　タイプ *type* に対するシェイプ・エンコードの長さ *shape-length* が無効です。予想されるのは *expected-length* バイトのみです。**

**説明:**
シェイプ・エンコードには、*shape-length* バイトが含まれます。これは長すぎます。 指定されたタイプ *type* の形状をエンコードするには、 *expected-length* バイトのみが必要です。 シェイプ・データが破壊されている可能性があります。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

**ユーザーの処置:**
形状のシェイプ表記を確認して訂正してください。

**msgcode**: -3047

**sqlstate**: 38SV6

---

**GSE3048N　無効な WKT フォーマットです。 *string* ではなく *char* を予想しました。**

**説明:**
既知の形状のテキスト表記で、文字 *char* が予想されましたが、代わりにテキスト *string* が検出されました。 既知のテキスト表記は無効です。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

**ユーザーの処置:**
既知のテキスト表記を訂正して、形状を再度構成してください。

**msgcode**: -3048

**sqlstate**: 38SV7

---

**GSE3049N　無効な WKT フォーマットです。 *text* ではなく番号を予想しました。**

**説明:**
予期しないテキスト *text* が、形状の既知のテキストで見つかりました。 代わりに座標を示す数値が使用されました。 既知のテキスト表記は無効です。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

**ユーザーの処置:**
既知のテキスト表記を訂正して、形状を再度構成してください。

**msgcode**: -3049

**sqlstate**: 38SV8

---

**GSE3050N　予期しない括弧が WKT フォーマットの *text* で検出されました。**

**説明:**
予期しない左括弧または右括弧が、形状の既知のテキスト表記の *text* で検出されました。 既知のテキスト表記は無効です。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

**ユーザーの処置:**
既知のテキスト表記を訂正して、形状を再度構成してください。

**msgcode**: -3050

**sqlstate**: 38SV9

---

**GSE3051N　括弧が WKT フォーマットで一致しません。 *parenthesis* が予想されました。**

**説明:**
既知のテキスト表記の終わりに予期せずに達しました。 括弧 *parenthesis* が予想されました。 既知のテキスト表記は無効です。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

**ユーザーの処置:**
既知のテキスト表記を訂正して、形状を再度構成してください。

**msgcode**: -3051

**sqlstate**: 38SVA

---

**GSE3052N　WKT で不明のタイプ *type* です。**

**説明:**

形状の既知のテキスト表記には、 *type* の不明タイプ名が含まれています。 既知のテキスト表記は無効です。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

**ユーザーの処置:**
既知のテキスト表記を訂正して、形状を再度構成してください。

**msgcode**: -3052

**sqlstate**: 38SVB

---

**GSE3053N　タイプ ID *type-id* が WKB で無効です。**

**説明:**
形状の既知のバイナリー表記には、無効なタイプ ID *type-id* が含まれています。 データが破壊されている可能性があります。 Spatial Extender は正常に形状を構成できません。

形状のコレクション (複数点、複数行ストリング、またはマルチポリゴン) にある分離パーツのタイプ ID には、Z と M 座標について形状コレクション自体と同じ標識がある必要があります。

**ユーザーの処置:**
既知の形状のバイナリー表記を確認して訂正してください。

**msgcode**: -3053

**sqlstate**: 38SVC

---

**GSE3300N　グリッド・サイズ *grid-size-number* が無効です。**

**説明:**
位置 *grid-size-number* によって識別されるグリッド・サイズが無効です。 CREATE INDEX ステートメントでグリッド索引が作成された時に、以下のいずれかの無効な指定が行われました。

- 1 番目、2 番目、または 3 番目のグリッド・レベルのグリッド・サイズとして、 0 (ゼロ) より小さい数が指定されました。
- 最初のグリッド・レベルのグリッド・サイズとして、0 (ゼロ) が指定されました。
- 2 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズが、1 番目のグリッド・レベルのグリッド・サイズより小さくなっていますが、0 (ゼロ) ではありません。
- 3 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズが、 2 番目のグリッド・レベルのグリッド・サイズより小さくなっていますが、0 (ゼロ) ではありません。
- 3 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズは 0 (ゼロ) より大きい値ですが、 2 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズは 0 (ゼロ) です。

関数 ST_GetIndexParms を使用すると、索引の作成時に指定されたパラメーターに使用された値を検索することができます。

**ユーザーの処置:**
グリッド索引をドロップして、有効なグリッド・サイズだけを使用して新しいグリッド索引を作成してください。

**msgcode**: -3300

**sqlstate**: 38SI0

---

**GSE3301N　Z-オーダー・パラメーター *parameter-number* が無効です。**

**説明:**
Z-オーダー・インデックスの位置 *parameter-number* によって示されているパラメーターに、無効な値が含まれています。 形状を追加する索引を作成する際に使用された CREATE INDEX ステートメントで、以下のいずれかの無効な指定が行われました。

- パラメーターに NULL 値が指定されました。
- スケール係数に負の数が指定されました (この規則は、パラメーター番号 2 と 4 だけに適用されます)。

関数 ST_GetIndexParms を使用すると、索引の作成時に指定されたパラメーターに使用された値を検索することができます。

**ユーザーの処置:**
空間データ Z-オーダー・インデックスをドロップして、有効なパラメーターだけを使用して新しい索引を作成してください。

**msgcode**: -3301

**sqlstate**: 38SI1

---

**GSE3302N　点を索引化できません。**

**説明:**
Z-オーダー・インデックスを使用して索引化しようとしている形状が点ではありません。 Z-オーダー・インデックスは点だけしかサポートしていないので、索引項目を生成できません。

**ユーザーの処置:**

Z-オーダー・インデックスが定義されている列に、点ではない形状を挿入しないでください。 索引をドロップするか、形状を挿入しないでください。

**msgcode**: -3302

**sqlstate**: 38SI2

---

**GSE3303N　4 ディメンション・ツリー・パラメーター** *parameter-number* **が無効です。**

**説明:**
4 ディメンション・ツリー構造インデックスの作成時に無効なパラメーターが指定されました。パラメーターは、位置 *grid-size-number* によって示されます。

以下のいずれかの無効な指定が行われました。

- パラメーターに NULL 値が指定されました。
- スケール係数に負の数が指定されました (この規則は、パラメーター番号 3 と 5 だけに適用されます)。
- 最初のパラメーターに 1 より小さい値が指定されました。

関数 ST_GetIndexParms を使用すると、索引の作成時に指定されたパラメーターに使用された値を検索することができます。

**ユーザーの処置:**
空間データ 4 ディメンション・ツリー構造インデックスをドロップして、有効なパラメーターだけを使用して新しい索引を作成してください。

**msgcode**: -3303

**sqlstate**: 38SI3

---

**GSE3400C　不明なエラー** *error-code*。

**説明:**
形状の処理時に、コード *error-code* の内部エラーが検出されました。

**ユーザーの処置:**
エラーをメモし、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -3400

**sqlstate**: 38SS0

---

**GSE3402C　メモリー不足です。**

**説明:**
呼び出した空間処理関数またはメソッドに十分なメモリーが使用できませんでした。

**ユーザーの処置:**
関数またはメソッドを実行する DB2 処理で使用できるメモリーの量を増やしてください。

**msgcode**: -3402

**sqlstate**: 38SS2

---

**GSE3403N　形状タイプが無効です。**

**説明:**
呼び出した関数またはメソッドに、無効なタイプの形状が渡されました。

**ユーザーの処置:**
有効な形状を指定してください。 詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3403

**sqlstate**: 38SS3

---

**GSE3405N　パーツの指定が多すぎます。**

**説明:**
形状のバイナリーまたはテキスト表記で示されたパーツの数が、実際に提供されているパーツの数より多くなっています。 示されているパーツの数が多すぎるか、または、一部のパーツしか提供されていません。

**ユーザーの処置:**
正しいパーツの数を指定するか、または、その形状のすべてのパーツを提供してください。

**msgcode**: -3405

**sqlstate**: 38SS5

---

**GSE3406N　形状タイプが誤っています。**

**説明:**
呼び出した関数またはメソッドに、間違ったタイプの形状が渡されました。 たとえば、入力としてポリゴンしか必要としない関数またはメソッドに、行ストリングが渡された場合などが考えられます。

**ユーザーの処置:**

関数またはメソッドが処理できるタイプの形状を渡すか、あるいは、渡す形状のタイプが受け入れられる関数またはメソッドを使用してください。

**msgcode**: -3406

**sqlstate**: 38SS6

---

**GSE3407N　テキストが長すぎます。**

**説明:**
形状に含まれている詳細が多すぎて、既知のテキスト表記に変換できません。 既知のテキスト表記が、許容される最大長 (2 ギガバイト) を超えています。

**ユーザーの処置:**
形状を単純化してください。たとえば、ST_Generalize 関数を使用するか、形状を既知のバイナリー表記に変換してください。

**msgcode**: -3407

**sqlstate**: 38SS7

---

**GSE3408N　無効なパラメーター値。**

**説明:**
無効なパラメーターが検出されました。

**ユーザーの処置:**
関数の正しい構文について IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照して、操作を再試行してください。問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -3408

**sqlstate**: 38SS8

---

**GSE3409N　無効な形状が生成されています。**

**説明:**
関数またはメソッドに指定されたパラメーターが無効な形状 (たとえば、無効なシェイプ表記など) を生成しました。 無効な形状は、形状のプロパティーに違反するものです。

**ユーザーの処置:**
有効な表記で形状を再構成してください。

**msgcode**: -3409

**sqlstate**: 38SS9

---

**GSE3410N　形状に互換性がありません。**

**説明:**
関数またはメソッドは、特定のタイプの 2 つの形状を受け取るはずでしたが、これらを受け取りませんでした。 たとえば、ST_AddPoint 関数では、表記と点の 2 つの形状が必要です。

**ユーザーの処置:**
関数またはメソッドが有効な入力として受け入れる形状を指定してください。 この関数およびメソッドに有効な形状タイプを判別するには、 IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3410

**sqlstate**: 38SSA

---

**GSE3411N　形状が無効です。**

**説明:**
形状の 1 つまたは複数のプロパティーが形状の保全性に違反しているため、関数またはメソッドは渡された形状を処理できませんでした。

**ユーザーの処置:**
ST_IsValid 関数を使用して、形状の妥当性を検査してください。 形状が無効である場合には、正しい表記で形状を再構成してください。

**msgcode**: -3411

**sqlstate**: 38SSB

---

**GSE3412N　点が多すぎます。**

**説明:**
形状の構造が 1 メガバイトのストレージ制限を超えています。形状に点が多すぎます。

**ユーザーの処置:**
点を少なくして形状を再構成してください。 または、可能であれば、いくつかの点を除去してください。 パフォーマンスおよびストレージを考慮して、形状を表すのに必要な点だけが含まれるようにしてください。

**msgcode**: -3412

**sqlstate**: 38SSC

---

**GSE3413N　形状が小さすぎます。**

**説明:**
ST_Difference、ST_Intersection、ST_SymDifference、または ST_Union 関数から戻された形状が小さすぎて、現行の空間参照系で正確に表すことができません。

たとえば、内部計算によって非常に小さいポリゴンが構成されるのに、空間参照系のスケール係数が、形状をこの空間参照系で表すと行ストリングに縮小表示されてしまうほど低い値である場合などが考えられます。 このような場合、ポリゴンとしてのプロパティーが失われてしまいます。

**ユーザーの処置:**
解像度がより高い計算ができる空間参照系を使用してください。 ST_Transform 関数を使用すると、ある空間参照系から別の空間参照系に形状を変換することができます。

**msgcode**: -3413

**sqlstate**: 38SSD

---

**GSE3414N　バッファーが境界外です。**

**説明:**
ST_Buffer 関数は、空間参照系が適用する座標の範囲外である、指定された形状の周囲にバッファーを作成しました。

Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS を参照して、それぞれのディメンションの最大絶対値および最小絶対値を判別してください。 計算されたバッファーが、これらの値を超えてはなりません。

**ユーザーの処置:**
バッファー計算に使用する距離を小さくするか、または、計算が行われる空間参照系を変更してください。 ST_Transform 関数を使用すると、ある空間参照系から別の空間参照系に形状を変換することができます。

**msgcode**: -3414

**sqlstate**: 38SSE

---

**GSE3415N　無効なスケール係数。**

**説明:**
4 つのディメンション (X、Y、Z、および M) のいずれかのスケール係数が 1 以上です。

**ユーザーの処置:**
正しく定義された空間参照系を使用して、形状を表してください。

**msgcode**: -3415

**sqlstate**: 38SSF

---

**GSE3416N　座標が境界外です。**

**説明:**
少なくとも 1 つのディメンションに関して、座標がシステムの範囲値内の有効な最大絶対値または最小絶対値を超えているため、空間参照系で座標を表すことができません。

Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS を参照して、それぞれのディメンションの最大絶対値および最小絶対値を判別してください。

**ユーザーの処置:**
座標が正しいかどうか判別してください。 正しい場合には、座標が、使用している空間参照系の範囲内に収まるかどうか判別してください。 この空間参照系については、DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS カタログ・ビューを参照してください。

**msgcode**: -3416

**sqlstate**: 38SSG

---

**GSE3417N　座標定義が無効です。**

**説明:**
形状の空間参照系が基づいている座標系の定義のテキスト表記に 1 つまたは複数のエラーがあります。 表記を有効な展開に変換できません。

**ユーザーの処置:**
空間参照系の座標系定義を検査してください。 または、有効な座標系に関連付けられている空間参照系で形状を構成してください。 ST_EqualCoordsys 関数を使用すると、座標系と定義を比較することによって座標系定義を検査することができます。

**msgcode**: -3417

**sqlstate**: 38SSH

---

**GSE3418N　展開エラー。**

**説明:**
形状を別の空間参照系に展開しようとして、エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
形状が展開の正当なドメイン内にあるか、確認してください。

**msgcode**: -3418

**sqlstate**: 38SSI

---

**GSE3419N　ポリゴン・リングがオーバーラップしています。**

**説明:**
ポリゴンのリングがオーバーラップしています。 定義により、ポリゴンの内部および外部のリングがオーバーラップしてはなりません。 これらは、正接でのみ交差することができます。つまり、リングは互いに接することしかできず、交差することはできません。

**ユーザーの処置:**
オーバーラップするリングが作成されないポリゴンの座標を指定してください。 形状の空間参照系のスケール係数が精度に影響を与えることに注意してください。

**msgcode**: -3419

**sqlstate**: 38SSJ

---

**GSE3420N　点が少なすぎます。**

**説明:**
以下のいずれかが、エラーの原因と思われます。

- 行ストリングは、少なくとも 2 つの点から構成され、ポリゴンは少なくとも 4 つの点から構成されている必要があります。
- 指定した点で、形状を構成できません。

構成しようとしている形状が空である場合、これらの規則は適用されないことに注意してください。

**ユーザーの処置:**
有効な点で形状を再構成してください。

**msgcode**: -3420

**sqlstate**: 38SSK

---

**GSE3421N　ポリゴンが閉じていません。**

**説明:**
ポリゴンを定義する内部および外部のリングは、閉じていなければなりません。 X および Y ディメンションで開始点と終了点が同じであれば、リングは閉じています。 ポリゴンに Z 座標がある場合には、開始点と終了点は Z 座標とも同じでなければなりません。 この規則は目盛りには適用されないことに注意してください。目盛りでは、開始点と終了点が異なっていてもかまいません。

**ユーザーの処置:**
X および Y ディメンションの開始点と終了点が同じ点であるポリゴンには、内部リングおよび外部リングを指定してください。 ポリゴンに Z 座標がある場合には、Z 座標点の開始点と終了点も同じでなければなりません。 ポリゴンに目盛りがある場合には、開始点と終了点が異なっていてもかまいません。

**msgcode**: -3421

**sqlstate**: 38SSL

---

**GSE3422N　外部リングが無効です。**

**説明:**
ポリゴンの外部リングが無効です。

ポリゴンの外部リングは、ポリゴンのすべての内部リングを囲んでいなければなりません。 すべての内部リングは、外部リングによって定義されているエリアの完全に内側でなければなりません。また、外部リングと交差してはなりません。

**ユーザーの処置:**
形状を表す際に、内部リングが、外部リングによって囲まれているエリア内に完全に入るような、内部リングおよび外部リングの有効なセットからなる形状を指定してください。

形状に複数のポリゴンがある場合には、マルチポリゴンを使用してください。

**msgcode**: -3422

**sqlstate**: 38SSM

---

**GSE3423N　ポリゴンにエリアがありません。**

**説明:**
指定されたポリゴンには、X および Y ディメンションが空のセットではないエリアをカバーする内部がありません。

形状の座標が、X および Y 座標により定義される 2 ディメンション・スペースで 2 ディメンションにまたがっている場合のみ、形状はポリゴンとなります。

**ユーザーの処置:**
空でないエリアを囲むポリゴンを指定してください。 ポリゴンが空の場合は、空のポリゴンを構成してください。

**msgcode**: -3423

**sqlstate**: 38SSN

---

**GSE3424N　外部リングがオーバーラップしています。**

**説明:**
マルチポリゴン内の個別のポリゴンの外部リングが、オーバーラップしています。 マルチポリゴンの個別のポリゴンはオーバーラップしてはなりません。また、境界は、限られた数の点でしか接してはなりません。 つまり、ポリゴンは行セグメントを共有してはなりません。

形状を表すのに使用する空間参照系のスケール係数は、座標に適用する精度に影響を与えます。 空間参照系で形状が表記に変換される際に行われる丸め操作によって、精度に障害が生じ、その後、このエラーが発生します。

**ユーザーの処置:**
オーバーラップするリングが作成されないポリゴンの座標を指定してください。

空間参照系のスケール係数が精度に影響を与えることに注意してください。

形状が表される空間参照系に使用されるスケール係数ついては、 Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS を参照してください。

**msgcode**: -3424

**sqlstate**: 38SSO

---

**GSE3425N　ポリゴン自体が交差しています。**

**説明:**
ポリゴンのリング自体は交差できません。 ポリゴンの各リングの開始点および終了点は、リングを横切る際に 2 回接しなければなりません。 その他すべての点は、1 回しか接してはなりません。 このことは、ポリゴンのリングを定義する行セグメントについてもあてはまります。

形状を表すのに使用する空間参照系のスケール係数は、座標に適用する精度に影響を与えます。 空間参照系で形状が表記に変換される際に行われる丸め操作によって、精度に障害が生じ、その後、このエラーが発生します。

**ユーザーの処置:**
リングがそれ自体に交差しない有効なポリゴンを構成してください。

形状が表される空間参照系に使用されるスケール係数ついては、 Spatial Extender のカタログ・ビュー DB2GSE.ST_SPATIAL_REFERENCE_SYSTEMS を参照してください。

**msgcode**: -3425

**sqlstate**: 38SSP

---

**GSE3426N　無効なパーツ数。**

**説明:**
形状のバイナリーまたはテキスト表記で示されたパーツの数が、実際に提供されているパーツの数と同じではありません。 関数またはメソッドに指定されたパーツの数が、少なすぎるか、または多すぎます。

**ユーザーの処置:**
正しいパーツの数を指定するか、または、その形状のすべてのパーツを提供してください。

**msgcode**: -3426

**sqlstate**: 38SSQ

---

**GSE3427N　SRS に互換性がありません。**

**説明:**
2 つの空間参照系に互換性がありません。 この 2 つのシステムをトランスフォームまたは比較することができません。 操作を正常に完了できませんでした。

**ユーザーの処置:**
2 つの互換性のある空間参照系を指定してください。

**msgcode**: -3427

**sqlstate**: 38SSR

---

**GSE3428N　BLOB が小さすぎます。**

**説明:**
形状の指定されたバイナリー表記のバイト数が、小さすぎます。

**ユーザーの処置:**
形状の有効なバイナリー表記を指定してください。

**msgcode**: -3428

**sqlstate**: 38SSS

---

**GSE3429N　形状タイプが無効です。**

**説明:**
無効な内部形状タイプが検出されました。 形状は無効で、これ以上処理されません。

**ユーザーの処置:**
有効なバイナリーまたはテキスト表記で、形状を再構成してください。

**msgcode**: -3429

**sqlstate**: 38SST

---

**GSE3430N　無効なバイト・オーダー。**

**説明:**
形状のバイナリー表記におけるバイト・オーダーに無効な値があります。 バイト・オーダーは 0 (ゼロ) または 1 でなければなりません。

既知のバイナリー表記では、0 のバイト・オーダーはビッグ・エンディアンを、 1 のバイト・オーダーはリトル・エンディアンを示します。

**ユーザーの処置:**
形状のバイナリー表記に有効なバイト・オーダーを指定してください。

**msgcode**: -3430

**sqlstate**: 38SSU

---

**GSE3431N　空の形状。**

**説明:**
空の形状が ST_AsBinary 関数に入力として渡されましたが、この関数では空の形状は使用できません。

**ユーザーの処置:**
サブミットした SQL ステートメントを編集して、空でない形状だけが ST_AsBinary 関数に渡されるようにしてください。 たとえば、ST_IsEmpty 関数を使用して、WHERE 文節で、空の形状を除外することができます。

**msgcode**: -3431

**sqlstate**: 38SSV

---

**GSE3432N　終了点が無効です。**

**説明:**
指定された終了点は、曲線に追加するよう指定されましたが、無効です。

**ユーザーの処置:**
追加する有効な点を指定してください。

**msgcode**: -3432

**sqlstate**: 38SSW

---

**GSE3433N　点が見つかりません。**

**説明:**
指定された点は、変更されるか除去されるよう指定されましたが、曲線に存在しません。

**ユーザーの処置:**
曲線に存在する点を指定してください。

**msgcode**: -3433

**sqlstate**: 38SSX

---

**GSE3500N　インスタンス・パスが見つかりません。**

**説明:**
ジオコーダーをインプリメントする関数が、DB2 インスタンス・パスを検出できませんでした。

**ユーザーの処置:**
DB2 および IBM DB2 Spatial Extender が正しくインストールされているか検査してください。 DB2INSTANCE 環境変数が、関数を実行する処理を実行しているユーザーに対して設定されているか調べてください。

問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -3500

**sqlstate**: 38SG0

---

**GSE3501N　SRS ID が変わっています (*new-srs-id*、*previous-srs-id*)。**

**説明:**
ジオコーダーは、アドレスをジオコードし、単一の SQL ステートメントで結果の点をすべて同じ空間参照系に作成するように最適化されます。 しかし、ジオコーダーは、同じ SQL ステートメントで、違う空間参照系を検出しました。 新しい空間参照系は、*new-srs-id* で示されています。前の行に使用されていた空間参照系は、*previous-srs-id* で示されていました。

**ユーザーの処置:**
ジオコーダーが実行されている列にデフォルト・パラメーターおよび上書きするパラメーターを指定してください。 これは、複数のアドレスを一度にジオコードするために使用される SQL ステートメント内で数値空間参照系 ID を定数のままにして行ってください。

**msgcode**: -3501

**sqlstate**: 38SG1

---

**GSE3502N　パスが長すぎます。**

**説明:**
ロケーター・ファイル・パラメーターまたは基本マップ・パラメーターに指定されたパス名が 256 バイトを超えており、長すぎます。

**ユーザーの処置:**
ロケーター・ファイル・パラメーターまたは基本マップ・パラメーターに、より短いパス名を使用してください。 UNIX システムでは、シンボリック・リンクを使用して、パス名を短くすることができます。

**msgcode**: -3502

**sqlstate**: 38SG2

---

**GSE3503N　ロケーター・ファイルの行 *line-number* が無効です。**

**説明:**
ロケーター・ファイルの行 *line-number* に無効な項目が含まれています。 ファイル内の各項目は、″property name = property value″ のフォームでなければなりません。

**ユーザーの処置:**
ロケーター・ファイルを訂正してください。

**msgcode**: -3503

**sqlstate**: 38SG3

---

**GSE3504N　ロケーター・ファイルの行 *line-number* で引用符の不一致がありました。**

**説明:**
ロケーター・ファイルの行 *line-number* に、引用符文字の平衡が取れていない項目が含まれています。 引用される場合は、プロパティー名にもプロパティー値と同様に、開始引用符文字および終了引用符文字がなければなりません。

**ユーザーの処置:**
ロケーター・ファイルを訂正してください。

**msgcode**: -3504

**sqlstate**: 38SG4

---

**GSE3505N　理由コード = *reason-code*。プロパティー障害。**

**説明:**
ロケーター・ファイル (.loc) に定義されているプロパティーの処理中に障害が発生しました。

理由コードの意味は、以下のとおりです。

**-502**　プロパティーが他のプロパティーと矛盾しています。

**-503**　要求されたプロパティーが見つかりませんでした。

**-504**　プロパティーの値が無効です。

**-505**　予期しないプロパティーが検出されました。

**-506**　スカラー値が予測されるプロパティーに値の配列が指定されました。

**-507**　プロパティーの値が予期されたデータ・タイプではありません。

**-513**　プロパティーの値が長すぎます。

**-533**　プロパティーの値に指定された式が無効です。

**ユーザーの処置:**
理由コードによって示されている問題を訂正してから、操作を再試行してください。

**msgcode**: -3505

**sqlstate**: 38SG5

---

**GSE3506N　プロパティーのコピーが失敗しました。**

**説明:**
内部バッファーへのプロパティーのコピーが失敗しました。 使用可能なメモリーが十分ではありません。

**ユーザーの処置:**
ジオコーダーがロケーター・ファイルから内部バッファーへプロパティーをコピーするのに十分な使用可能メモリーを確保してください。

**msgcode**: -3506

**sqlstate**: 38SG6

---

**GSE3507N　プロパティーが多すぎます。**

**説明:**
ロケーター・ファイルに含まれるプロパティーが多すぎます。 ロケーター・ファイルで指定できるのは、最大で 2048 プロパティーです。

**ユーザーの処置:**
ロケーター・ファイルに指定されているプロパティー数を減らしてください。

**msgcode**: -3507

**sqlstate**: 38SG7

---

**GSE3508N　点が作成されませんでした。**

**説明:**
ジオコーダーは、ST_Point 形状ではない形状を作成しました。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -3508

**sqlstate**: 38SG8

**GSE3509N　理由コード = *reason-code*。ジオコーダーの初期化に失敗しました。**

**説明:**
ジオコーダーの初期化に失敗しました。

理由コードの意味は、以下のとおりです。

**-522**　ジオコーダーの初期化中に一般的な障害が発生しました。

**-527**　突き合わせキーの初期化に失敗しました。

**-529**　アドレス正規化の初期化に失敗しました。

**ユーザーの処置:**
Spatial Extender のインストールを調べてください。

**msgcode**: -3509

**sqlstate**: 38SG9

**GSE3510N　アドレスが正規化されませんでした。**

**説明:**
ジオコーダーは、アドレスを正規化できませんでした。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -3510

**sqlstate**: 38SGA

**GSE3511N　理由コード = *reason-code*。ジオコーダー・ファイル操作が失敗しました。**

**説明:**
ファイル操作中に、理由コード *reason-code* の内部エラーが発生しました。

ファイル操作が失敗する理由は、理由コードによって、次のようになります。

**-543**　一致規則ファイル (.mat) をオープンできませんでした。

**-544**　一致規則ファイル (.mat) が無効です。

**-547**　参照データ・ファイル (.edg) をオープンできませんでした。

**-548**　参照データ・ファイル (.edg) の表が無いか、またはアクセスできません。

**-549**　要求された列が参照データ・ファイル (.edg) にありませんでした。

**-550**　索引ファイルにアクセスできませんでした。

**ユーザーの処置:**
理由コードによって示されている問題を訂正してから、操作を再試行してください。

**msgcode**: -3511

**sqlstate**: 38SGB

**GSE3512N　理由コード = *reason-code*。ジオコーダーが失敗しました。**

**説明:**
ジオコーダーが理由コード *reason-code* の内部エラーで失敗しました。

**ユーザーの処置:**
内部エラーをメモし、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -3512

**sqlstate**: 38SGC

**GSE3600N　索引が指定されていません。**

**説明:**
有効な索引が指定されませんでした。 索引スキーマ・パラメーター、索引名パラメーター、またはその両方が NULL です。 索引パラメーター値を入手できません。

**ユーザーの処置:**
パラメーター情報を検索するのに有効な空間インデックスを指定してください。

**msgcode**: -3600

**sqlstate**: 38SQ0

**GSE3601N　無効な空間インデックス名 *schema-name*.*index-name*.**

**説明:**
パラメーター情報を検索する索引に指定した名前が存在しないか、または空間インデックスを識別しません。この名前は *schema-name.index-name* です。

**ユーザーの処置:**
既存の空間インデックスを指定して、パラメーター情報を検索してください。

**msgcode**: -3601

**sqlstate**: 38SQ1

---

**GSE3602N　無効なパラメーター番号 *number* が指定されました。**

**説明:**
指定された空間インデックスでは、パラメーター数 *number* は無効です。

空間インデックスのタイプによって、以下の制限が適用されます。

**グリッド索引**
パラメーター数は 1 から 3 までです。

**Z-オーダー・インデックス**
パラメーター数は 1 から 4 までです。

**4 ディメンション・ツリー構造インデックス**
パラメーター数は 1 から 5 までです。

**ユーザーの処置:**
空間インデックスに有効なパラメーター数を指定してください。 空間インデックスのタイプについては、 DB2 システム・カタログを調べてください。

**msgcode**: -3602

**sqlstate**: 38SQ2

---

**GSE3603N　無効な列名**

**説明:**
指定された列は、表に存在しません。 表スキーマ、表名、または列名の少なくとも 1 つが NULL 値です。 列の索引のパラメーターを取得できません。

**ユーザーの処置:**
空間インデックスが定義されている既存の列を指定してください。

**msgcode**: -3603

**sqlstate**: 38SQ3

---

**GSE3701N　距離 *distance-value* は範囲外です。有効な範囲は、*min* メートル以上、*max* メートル以下です。**

**説明:**
呼び出した関数またはメソッドに、無効な距離が渡されました。

**ユーザーの処置:**
有効な距離を指定して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3701

**sqlstate**: 38SO9

---

**GSE3702N　内部形状エンジンでワークスペースが不足しています。**

**説明:**
測地ワークスペースが操作を実行するのに十分な大きさではありませんでした。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -3702

**sqlstate**: 38SOT

---

**GSE3703N　内部形状エンジンでヒープ・メモリーが不足しています。**

**説明:**
使用可能なメモリーが十分ではありません。 提供されているメモリーが少ないか、他のアプリケーションにメモリーが使用されていることが原因として考えられます。

**ユーザーの処置:**
メモリー不足を解決してコマンドを再実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3703

**sqlstate**: 38SOU

---

**GSE3704C　内部形状エンジンのデータが壊れているか、入力が無効の可能性があります。**

**説明:**
Spatial Extender が形状値で予期しない内部エラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3704

**sqlstate**: 38SOV

---

**GSE3706C　内部形状エンジンでエラー番号 *hipparchus-error* が生じました。**

**説明:**
Spatial Extender が予期しない内部エラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -3706

**sqlstate**: 38SOX

---

**GSE3708C　内部エラー: ディスパッチ表項目が空です。**

**説明:**
Spatial Extender が形状値で予期しない内部エラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -3708

**sqlstate**: 38SOR

---

**GSE3709C　内部エラー**

**説明:**
Spatial Extender が形状値で予期しない内部エラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -3709

**sqlstate**: 38SOY

---

**GSE3712N　緯度 *latitude-value* は範囲外です。**

**説明:**
緯度の値は有効な範囲内でなければなりません。

度数で測定した場合、有効な緯度の範囲は -90 度以上、90 度以下です。

グラードで測定した場合、有効な緯度の範囲は -100 グラード以上、100 グラード以下です。

ラジアンで測定した場合、有効な緯度の範囲は -PI/2 ラジアン以上、PI/2 ラジアン以下です。ここで PI は約 3.14159265358979323846 です。

**ユーザーの処置:**
有効な緯度の値を指定して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3712

**sqlstate**: 38SO7

---

**GSE3713N　経度 *longitude-value* は範囲外です。**

**説明:**
経度の値は有効な範囲内でなければなりません。

度数で測定した場合、有効な経度の範囲は -180 度以上、180 度以下です。

グラードで測定した場合、有効な経度の範囲は -200 グラード以上、200 グラード以下です。

ラジアンで測定した場合、有効な経度の範囲は -PI ラジアン以上、PI ラジアン以下です。ここで PI は約 3.14159265358979323846 です。

**ユーザーの処置:**
有効な経度の値を指定して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3713

**sqlstate**: 38SO8

---

**GSE3714N　指定したリング (*nrings*) が少なすぎます。少なくとも 1 リングが必要です。**

**説明:**
空ではない ST_Polygon には少なくとも 1 つのリングが必要です。

**ユーザーの処置:**
少なくとも 1 つのリングを指定し、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3714

**sqlstate**: 38SOD

---

**GSE3716N　指定した点 (*npoints*) が少なすぎます。少なくとも *min* の点が必要です。**

**説明:**
空ではない ST_LineString の点が少なすぎます。ST_LineString 値は少なくとも 2 つの点が必要で、ST_Polygon でリングとして指定された ST_LineString 値は少なくとも 4 つの点が必要です。

**ユーザーの処置:**
形状値に正しい点数を指定して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3716

**sqlstate**: 38SOL

---

**GSE3721N　形状コレクションはサポートされていません。**

**説明:**
ST_GeomCollection 値は、DB2 Geodetic Data Management Feature ではサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
ST_GeomCollection の代わりに、Use ST_MultiPoint、ST_MultiLineString、または ST_MultiPolygon タイプを使用して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3721

**sqlstate**: 38SP6

---

**GSE3722N　WKB タイプ・タグが不明であるかサポートされていません: *wkb-type*。**

**説明:**
事前割り当てバイナリー値は、不明であるかサポートされていないタイプです。

**ユーザーの処置:**
既知の事前割り当てバイナリー・タイプ (ST_Point、ST_LineString、ST_Polygon、ST_MultiPoint、ST_MultiLineString、または ST_MultiPolygon) を使用して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3722

**sqlstate**: 38SP7

---

**GSE3724N　タイプが一致していません: 受信タイプ=*given-type*、予想タイプ=*expected-type*。**

**説明:**
呼び出した関数またはメソッドに、無効なタイプの形状が渡されました。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再入力してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -3724

**sqlstate**: 38SON

---

**GSE3726N** *type* **データ・タイプのバージョン** *version-number* **は、現在使用中の DB2 Geodetic Data Management Feature ではサポートされていません。**

**説明:**
サポートされていないバージョンが形状値に含まれています。

**ユーザーの処置:**
サポートされているバージョンを使用して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3726

**sqlstate**: 38SOZ

---

**GSE3733W** **ポリゴンが地球の半分以上を網羅しています。頂点の反時計方向を確認してください。**

**説明:**
ポリゴンが地球の半分以上を網羅しています。

**ユーザーの処置:**
頂点の反時計方向を確認してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: +3733

**sqlstate**: 01HS5

---

**GSE3734N** **リング形状が無効です。一致した連続点が** *point-value* **で検出されました。**

**説明:**
リング形状が無効です。一致した連続点が検出されました。

**ユーザーの処置:**
一致した連続点を除去して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3734

**sqlstate**: 38SQ4

---

**GSE3735N** **リング形状が無効です。一連の座標が** *point-value* **で交差しているか接しています。**

**説明:**
リング形状が無効です。一連の座標が交差しているか接しています。

**ユーザーの処置:**
交差したり接したりしないリングを指定してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3735

**sqlstate**: 38SQ5

---

**GSE3736N** **構成要素ポリゴン・リングで有効な領域が定義されていません。各リングの回転方向を調べてください。**

**説明:**
構成要素ポリゴン・リングで有効な領域が定義されていません。

**ユーザーの処置:**
各リングの回転方向を調べてください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3736

**sqlstate**: 38SQ6

---

**GSE3737N** **ポリゴンが無効です。領域に境界がありません。**

**説明:**
ポリゴンが無効です。領域に境界がありません。

**ユーザーの処置:**
境界のあるポリゴンを指定してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3737

**sqlstate**: 38SQ7

---

**GSE3739N　リング形状が無効です。同一線上のセグメントが *point-value* 付近で検出されました。**

**説明:**
リング形状が無効です。同一線上のセグメントが検出されました。

**ユーザーの処置:**
同一線上のセグメントを除去してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3739

**sqlstate**: 38SQ9

---

**GSE3740N　理由コードは *reason-code* です。サポートされていない測地系 (緯度経度) にもとづく操作です。**

**説明:**
DB2 Geodetic Data Management Feature では、以下に示された理由コードのために該当操作がサポートされていません。

「1」Geodetic Extender のライセンスが使用可能ではありません。

「2」関数が、SRID が NULL の ST_Geometry 値で呼び出されました。

「3」関数が、SRID 値が等しくない ST_Geometry 値で呼び出されました。

「4」関数が、NULL 定義を持つ空間参照系で呼び出されました。

「5」関数が Geodetic でサポートされていません。

「6」1 つ以上の ST_Geometry 値のタイプが Geodetic でサポートされていません。

「7」関数が、測地座標値および測地座標値でない値での実行をサポートしていません。

「8」測地ボロノイ・インデックス は測地座標値でない値をサポートしていません。

「9」空間グリッド・インデックスは測地座標値をサポートしていません。

**ユーザーの処置:**
理由コードに対応するアクションは、次のとおりです。

「1」Geodetic Extender のライセンスを使用可能にします。

「2」すべての ST_Geometry 値に有効な SRID 属性値を指定します。

「3」測地系 (緯度経度) にもとづく操作のため、すべての ST_Geometry 値に同じ SRID 値が入るようにします。

「4」問題が解決しない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

「5」測地範囲内の SRID を指定した ST_Geometry 値でこの関数またはメソッドを呼び出さないでください。

「6」測地範囲内の SRID を指定したこの ST_Geometry タイプを使用しないでください。

「7」測地範囲内または測地範囲外の SRID を指定したすべての ST_Geometry 値でこの関数を実行してください。

「8」測地座標値でない値を含む列では空間グリッド・インデックス仕様を使用してください。

「9」測地座標値を含む列では 測地ボロノイ・インデックス仕様を使用してください。

問題を訂正したら、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3740

**sqlstate**: 38SOP

---

**GSE3743N　ボロノイ細分 Id *vtid* が見つかりません。**

**説明:**
指定したボロノイ細分 Id が定義されていません。

**ユーザーの処置:**
定義されたボロノイ細分 Id を使用して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3743

**sqlstate**: 38SOC

---

**GSE3744N　形状値が大きすぎます。**

**説明:**
形状値が最大値を超えてはなりません。

**ユーザーの処置:**
形状値の点を少なく指定して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3744

**sqlstate**: 38SOK

---

**GSE3745N　空間参照系定義に、正しく定義された SPHEROID 定義がありません。**

**説明:**
この ST_Geometry 値の空間参照系定義は、空間座標系ではないか、 SPHEROID 定義を含む DATUM 定義を含んでいません。

**ユーザーの処置:**
空間参照系定義を訂正し、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3745

**sqlstate**: 38SOF

---

**GSE3746N　楕円 ID が定義されていません。**

**説明:**
DB2 Geodetic Data Management Feature で楕円 ID が定義されていません。

**ユーザーの処置:**
定義された楕円を使用して、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3746

**sqlstate**: 38SOG

---

**GSE3748N　ポリゴンのリングが閉じられていません。**

**説明:**
ポリゴンのリングの始点と終点はまったく同じでなければなりません。

**ユーザーの処置:**
始点と終点をまったく同じにすることでリング定義を訂正し、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3748

**sqlstate**: 38SOI

---

**GSE3749N　ポリゴンの折れ線またはリングで正反対の線分 *linesegment* が検出されました。**

**説明:**
これは、楕円の中央から見ると、2 つの点がお互いにまったく正反対である線分です。たとえば、線定義 (0 0, 180 0) は北極を移動することも南極を移動することもあり得ます。

**ユーザーの処置:**
この線分にある 2 つの点のいずれかを移動して正反対の線分をなくして、折れ線またはリング定義を訂正し、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3749

**sqlstate**: 38SP0

---

**GSE3750N　空間参照系定義に、適切に定義された UNIT 定義がありません。**

**説明:**
この ST_Geometry 値の空間参照系定義は、空間座標系ではないか、UNIT 定義を含んでいません。

**ユーザーの処置:**
空間参照系定義を訂正し、コマンドを再度実行してください。

詳しくは、IBM DB2 Spatial Extender および Geodetic Data Management Feature の「ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス」を参照してください。

**msgcode**: -3750

**sqlstate**: 38SP5

---

**GSE4000N　必須パラメーター *parameter-name* がありません。**

**説明:**
必須パラメーターが見つかりませんでした。

**ユーザーの処置:**
必須パラメーターを指定して、コマンドの実行を再試行してください。

**msgcode**: -4000

**sqlstate**: 38SB0

---

**GSE4001N　Spatial Extender が環境ハンドルを割り振っている時に、エラーが発生しました。**

**説明:**
コール・レベル・インターフェース (CLI) を使用して、環境ハンドルを割り振ることができませんでした。 操作を正常に完了できませんでした。

**ユーザーの処置:**
CLI 構成を検査してください。 問題の原因を見つけられず、訂正できない場合には、 IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -4001

**sqlstate**: 38SB1

---

**GSE4002N　Spatial Extender が接続ハンドルを割り振っている時に、エラーが発生しました。 CLI エラー *cli-error*、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code*。**

**説明:**
Spatial Extender が接続ハンドルを割り振っている時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

**ユーザーの処置:**
詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。 エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -4002

**sqlstate**: 38SB2

---

**GSE4003N　Spatial Extender がデータベースに接続している時に、エラーが発生しました。 CLI エラー *cli-error*、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code*。**

**説明:**
Spatial Extender がデータベースに接続している時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

**ユーザーの処置:**
詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。 エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -4003

**sqlstate**: 38SB3

---

**GSE4004N　Spatial Extender がステートメント・ハンドルを割り振っている時に、エラーが発生しました。 CLI エラー *cli-error*、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code*。**

**説明:**
Spatial Extender がステートメント・ハンドルを割り振っている時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

**ユーザーの処置:**
詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。 エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -4004

**sqlstate**: 38SB4

---

**GSE4005N　SQL ステートメントが準備されている時に、エラーが発生しました。 CLI エラー *cli-error*、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code*。**

**説明:**
Spatial Extender が SQL ステートメントを準備している時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

**ユーザーの処置:**
詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。 エラーを訂正し、コマンドを再試行してくださ

い。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -4005

**sqlstate**: 38SB5

---

**GSE4006N** **Spatial Extender が SQL ステートメントにパラメーターを結合している時に、エラーが発生しました。 CLI エラー** *cli-error*、**ネイティブ・エラー・コード =** *native-error-code*。

**説明:**
Spatial Extender が SQL ステートメントにパラメーターを結合している時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

**ユーザーの処置:**
詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。 エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -4006

**sqlstate**: 38SB6

---

**GSE4007N** **Spatial Extender が SQL ステートメントを実行している時に、エラーが発生しました。 CLI エラー** *cli-error*、**ネイティブ・エラー・コード =** *native-error-code*。

**説明:**
Spatial Extender が SQL ステートメントを実行している時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

**ユーザーの処置:**
詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。 エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -4007

**sqlstate**: 38SB7

---

**GSE4008N** **Spatial Extender がトランザクションを終了している時に、エラーが発生しました。 CLI エラー** *cli-error*、**ネイティブ・エラー・コード =** *native-error-code*。

**説明:**
Spatial Extender がトランザクションを終了している時に、ネイティブ・エラー・コード = *native-error-code* の予期しないエラー *cli-error* が発生しました。

**ユーザーの処置:**
詳細エラー・メッセージ *cli-error* を検索してください。 エラーを訂正し、コマンドを再試行してください。 問題が解決されない場合は、IBM のソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -4008

**sqlstate**: 38SB8

---

**GSE4009N** **オプション** *option* **が無効です。**

**説明:**
指定されたオプション *option* が無効です。

**ユーザーの処置:**
有効なオプションを指定して、コマンドを再度実行してください。

**msgcode**: -4009

**sqlstate**: 38SB9

---

**GSE4100N** **列** *schema-name.table-name.column-name* **が存在しません。**

**説明:**
指定された列 *schema-name.table-name.column-name* は存在しません。

**ユーザーの処置:**
既存の表の既存の列を選択し、コマンドを再度実行してください。

**msgcode**: -4100

**sqlstate**: 38SC0

---

**GSE4101N** **列** *schema-name.table-name.column-name* **は空間データ・タイプではありません。**

**説明:**
指定された列 *schema-name.table-name.column-name* は、空間データ・タイプではありません。 空間データ・タイプは ST_Geometry か、または ST_Geometry 固有のサブタイプのいずれかです。

**ユーザーの処置:**
空間データ・タイプで列を選択し、コマンドを再度実行してください。

**msgcode**: -4101

**sqlstate**: 38SC1

---

**GSE4102N　空間グリッド索引 *schema-name.index-name* は存在しません。**

**説明:**
指定された空間グリッド索引 *schema-name.index-name* は存在しません。

**ユーザーの処置:**
存在する空間グリッド索引を指定し、コマンドを再度実行してください。

**msgcode**: -4102

**sqlstate**: 38SC2

---

**GSE4103N　Spatial Extender が列 *schema-name.table-name.column-name* の索引情報を検索している時に、内部エラーが発生しました。**

**説明:**
Spatial Extender は、列 *schema-name.table-name.table-name* の空間インデックスに関する情報を検索している時に、予期しない内部エラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -4103

**sqlstate**: 38SC3

---

**GSE4104N　Spatial Extender は、空間グリッド索引 *schema-name.index-name* のグリッド・サイズを検索できませんでした。**

**説明:**
Spatial Extender は、グリッド索引 *schema-name.index-name* のグリッド・サイズ定義を検索している時に、予期しない内部エラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -4104

**sqlstate**: 38SC4

---

**GSE4105W　列 *schema-name.table-name.column-name* に分析する行がありません。**

**説明:**
列 *schema-name.table-name.table-name* には、 Spatial Extender が分析できる値が含まれていません。サンプリングが使用されている場合は、サンプル・レートが低すぎる可能性があります。

**ユーザーの処置:**
形状が含まれている列でコマンドを実行してください。サンプリングが使用されている場合は、より高いサンプリング・レートを使用してください。

**msgcode**: +4105

**sqlstate**: 38SC5

---

**GSE4106W　Spatial Extender は、*number* 項目の MBR ヒストグラムを検索するのに十分なメモリーを取得できませんでした。**

**説明:**
空間列のすべての形状の最小境界長方形のヒストグラム・サイズが大きすぎます。 保管するのに十分なメモリーを割り振ることができませんでした。 コマンドを正常に実行できません。

**ユーザーの処置:**
コマンドに SHOW DETAIL オプションを指定しないでください。または、サンプル・レートを低くして形状をサンプリングし、形状の数を減らしてください。

**msgcode**: +4106

**sqlstate**: 38SC6

---

**GSE4107N　グリッド・サイズ値 *grid-size* は、使用されている箇所では無効です。**

**説明:**
指定されたグリッド・サイズ *grid-size* が無効です。

CREATE INDEX ステートメントでグリッド索引が作成された時に、以下のいずれかの無効な指定が行われました。

- 1 番目、2 番目、または 3 番目のグリッド・レベルのグリッド・サイズとして、 0 (ゼロ) より小さい数が指定されました。
- 最初のグリッド・レベルのグリッド・サイズとして、0 (ゼロ) が指定されました。
- 2 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズが、1 番目のグリッド・レベルのグリッド・サイズより小さくなっていますが、0 (ゼロ) ではありません。
- 3 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズが、 2 番目のグリッド・レベルのグリッド・サイズより小さくなっていますが、0 (ゼロ) ではありません。

- 3 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズは 0 (ゼロ) より大きい値ですが、 2 番目のグリッド・レベルに指定されたグリッド・サイズは 0 (ゼロ) です。

**ユーザーの処置:**
グリッド・サイズに有効な値を指定してください。

**msgcode**: -4107

**sqlstate**: 38SC7

---

**GSE4108W　列 *schema-name.table-name.column-name* の形状は、エクステントをカバーしていません。**

**説明:**
列 *schema-name.table-name.column-name* のすべての形状が、 0 (ゼロ) より大きいエクステントにまたがっていません。 つまり、列に同一の点だけしか存在しません。 索引情報を収集できません。

**ユーザーの処置:**
空間列に追加の行を挿入してください。

**msgcode**: +4108

**sqlstate**: 38SC8

---

**GSE4109N　無効な照会ボックス・サイズ *query-box-size* が指定されました。**

**説明:**
指定された照会ボックス・サイズ *query-box-size* が無効です。 照会ボックスは、 0 (ゼロ) より大きく 1 以下でなければなりません。 照会ボックス・サイズは、通常検索される列のデータに対するエクステントのパーセンテージを示します。

**ユーザーの処置:**
0 (ゼロ) より大きく 1 以下の値を選択して、照会ボックス・サイズを訂正してください。

**msgcode**: -4109

**sqlstate**: 38SC9

---

**GSE4110N　無効な分析行数 *num-rows* が指定されました。**

**説明:**
指定された分析行数 (*num-rows*) が無効です。 行数は、0 (ゼロ) より大きくなければなりません。

**ユーザーの処置:**
0 (ゼロ) より大きい有効な行数を指定して、コマンドを再度実行してください。

**msgcode**: -4110

**sqlstate**: 38SCA

---

**GSE4111N　無効なパーセンテージ *percentage* が指定されました。**

**説明:**
指定された、分析行のパーセンテージ *percentage* が無効です。 パーセンテージは、 0 (ゼロ) より大きく 100 以下の整数でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
0 (ゼロ) より大きく 100 以下の有効なパーセンテージを指定して、コマンドを再試行してください。

**msgcode**: -4111

**sqlstate**: 38SCB

---

**GSE4112W　表 *schema-name.table-name.column-name* の *percent* パーセントのサンプルを作成できませんでした。**

**説明:**
Spatial Extender は、表 *schema-name.table-name.column-name* の *percent* パーセントをサンプリングしようとしましたが、分析可能なサンプル行をそれ以上作成できませんでした。

**ユーザーの処置:**
表が空でない場合は、より高いサンプリング・レートを選択して、コマンドを再試行してください。

**msgcode**: +4112

**sqlstate**: 38SCC

---

**GSE4113N　サンプリングされたデータに対して宣言されているグローバル一時表の表スペースがありません。**

**説明:**
Spatial Extender により分析されるデータをサンプリングする必要があるグローバル一時表を宣言するためには、少なくとも 4096 バイトのページ・サイズをもつ USER TEMPORARY 表スペースが存在していなければなりません。 Spatial Extender が分析しようとしているデータをサンプリングできるようなグローバル一時表が必要です。 この表を宣言するには、少なくとも 4096 バイトのページ・サイズをもつ USER TEMPORARY 表スペースが必要です。

**ユーザーの処置:**

適切な USER TEMPORARY 表スペースを作成し、コマンドを再試行するか、または、空間データをサンプリングしないように ANALYZE 文節を使用しないでください。

**msgcode**: -4113

**sqlstate**: 38SCD

---

**GSE4200N　データ・タイプ *type* のパラメーター *value* は、そのコンテキストで予期されていません。**

**説明:**
タイプ *type* のパラメーター値 *value* は、コマンドのコンテキストで予期されていません。

**ユーザーの処置:**
実行するコマンドを訂正してから、操作を再試行してください。

**msgcode**: -4200

**sqlstate**: 38SD0

---

**GSE4201N　コマンドが指定されていません。**

**説明:**
実行するコマンドが指定されていません。

**ユーザーの処置:**
コマンドを指定してください。

**msgcode**: -4201

**sqlstate**: 38SD1

---

**GSE4202N　コマンドの構文解析が失敗しました。**

**説明:**
指定されたコマンド構文を正常に解析できませんでした。

**ユーザーの処置:**
構文を訂正し、コマンドを再試行してください。

**msgcode**: -4202

**sqlstate**: 38SD2

---

**GSE4203N　トークン *token* の後で予期しないステートメントの終了が検出されました。**

**説明:**
トークン *token* の解析後に、予期しないステートメントの終了が検出されました。

**ユーザーの処置:**
構文を訂正し、コマンドを再試行してください。

**msgcode**: -4203

**sqlstate**: 38SD3

---

**GSE4204N　トークン *token* の周辺で構文解析が失敗しました。**

**説明:**
トークン *token* の周辺で予期しない構文解析エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
構文を訂正し、コマンドを再試行してください。

**msgcode**: -4204

**sqlstate**: 38SD4

---

**GSE4205N　Spatial Extender が、複数の *type* 文節を検出しました。**

**説明:**
Spatial Extender は、コマンドの解析中に、データ・タイプ *type* の文節を複数検出しました。

**ユーザーの処置:**
*type* の文節を 1 つだけ指定して、コマンドを再度実行してください。

**msgcode**: -4205

**sqlstate**: 38SD5

---

**GSE9000N　このデータベースは Spatial Extender バージョン 7 レベルではありません。**

**説明:**
このデータベースは Spatial Extender バージョン 7 レベルでないにもかかわらず、バージョン 8 へのマイグレーションなどの操作を実行しようとしています。

**ユーザーの処置:**
データベースのバージョンと、実行しようとしている操作を確認してください。

**msgcode**: -9000

**sqlstate**: 38SZ0

---

**GSE9001N　このデータベースは、すでに Spatial Extender バージョン 8 レベルです。**

**説明:**
このデータベースは、すでに Spatial Extender バージョン 8 レベルであるにもかかわらず、バージョン 8 へのマイグレーションなどの操作を実行しようとしています。

**ユーザーの処置:**
データベースのバージョンと、実行しようとしている操作を確認してください。

**msgcode**: -9001

**sqlstate**: 38SZ1

---

**GSE9002N　Spatial Extender データベースのマイグレーションを実行しようとして、エラーが発生しました。**

**説明:**
Spatial Extender カタログと空間処理関数をマイグレーションしようとして、エラーが検出されました。

**ユーザーの処置:**
データベースのバージョンと、実行しようとしている操作を確認してください。 また、 Spatial Extender が、マイグレーションしようとしているデータベースに対して使用可能であるか調べてください。

詳しくは、マイグレーション・メッセージ・ファイルを参照してください。

**msgcode**: -9002

**sqlstate**: 38SZ2

---

**GSE9003N　ユーザー定義オブジェクトと Spatial Extender オブジェクトの間に従属関係があります。**

**説明:**
いくつかのユーザー定義オブジェクトが Spatial Extender オブジェクトに従属しているため、 Spatial Extender オブジェクトをマイグレーションできません。

**ユーザーの処置:**
どのような従属関係があるのか、マイグレーション・メッセージ・ファイルを調べてください。 マイグレーション・コマンドに強制オプションを指定して、 Spatial Extender オブジェクトに従属しているユーザー定義オブジェクトを保管およびリストアしてください。

**msgcode**: -9003

**sqlstate**: 38SZ3

---

**GSE9990C　内部エラーが発生しました: *error-text*.**

**説明:**
Spatial Extender は、テキスト *error-text* の予期しない内部エラーを検出しました。

**ユーザーの処置:**
示されている *error-text* を読んでください。 問題が解決されない場合は、 IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -9990

**sqlstate**: 38SZY

---

**GSE9999C　内部でメッセージ障害**

**説明:**
Spatial Extender がエラー・メッセージを検索している時に、内部障害が発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

**msgcode**: -9999

**sqlstate**: 38SZZ

# 第 17 章 ICC メッセージ

**ICM00001N　データベースへの接続中に SQL エラーが発生しました。データベース = *databasename*、カタログ = *catalogname*。**

**説明:**
API がデータベースへの接続をオープンしようとして SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「メッセージ・リファレンス」を参照してください。

**ICM0002N　アプリケーション *applicationname* の登録中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したアプリケーションを登録中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

**ICM0003N　オブジェクトの検索中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログの検索を実行中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「メッセージ・リファレンス」を参照してください。

**ICM0004N　アプリケーション *applicationname* のインフォメーション・カタログ・マネージャー API 設定にアクセス中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API がアプリケーションの設定を検索中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「メッセージ・リファレンス」を参照してください。

**ICM0005N　データベースからユーザーおよびグループ情報を検索中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API がデータベースからユーザーおよびグループ情報を検索中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「メッセージ・リファレンス」を参照してください。

**ICM0006N　登録済みアプリケーションのリストをロード中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API がアプリケーションのリストを検索中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「メッセージ・リファレンス」を参照してください。

**ICM0007N　アプリケーション *applicationname* の アプリケーション ID を検索中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したアプリケーションのアプリケーション ID を検索中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

**ICM0008N　オブジェクト・タイプのロード中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからオブジェクト・タイプ定義を検索中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

**ICM0009N　オブジェクト・タイプ *objecttype* の作成中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したオブジェクト・タイプを作成中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

**ICM0010N　オブジェクト・タイプ *objecttype* の更新中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したオブジェクト・タイプを更新中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

**ICM0011N　オブジェクト・タイプ *objecttype* の削除中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したオブジェクト・タイプを削除中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

**ICM0012N　オブジェクト・タイプ *objecttype* の参照 ID の検索中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したオブジェクト・タイプの次に使用可能な参照 ID を検索中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

**ICM0013N　IBM DB2 ツール・カタログからオブジェクト・インスタンスをロード中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからオブジェクト・インスタンスのデータをロード中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

**ICM0014N　オブジェクト・タイプ *objecttype* のインスタンス *instancename* を作成中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログにオブジェクト・インスタンスを作成中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

**ICM0015N　オブジェクト・タイプ *objecttype* のインスタンスの更新中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログのオブジェクト・インスタンスを更新中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

**ICM0016N　オブジェクト・タイプ *objecttype* のインスタンスの削除中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからオブジェクト・インスタンスを削除中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

**ICM0017N　プロパティー *propertyname* のロード中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定したオブジェクト・インスタンスのプロパティーの値をロード中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0018N　リレーションシップ・カテゴリーのロード中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからリレーションシップ・カテゴリーをロード中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0019N　リレーションシップ・カテゴリー *categoryname* の作成中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログにリレーションシップ・カテゴリーを作成中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0020N　リレーションシップ・カテゴリー *categoryname* の更新中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログのリレーションシップ・カテゴリーを更新中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0021N　リレーションシップ・カテゴリー *categoryname* の削除中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからリレーションシップ・カテゴリーを削除中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0022N　リレーションシップ・タイプのロード中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからリレーションシップ・タイプをロード中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0023N　リレーションシップ・タイプ *typename* の作成中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログにリレーションシップ・タイプを作成中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0024N　リレーションシップ・タイプ *typename* の更新中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログのリレーションシップ・タイプを更新中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0025N　リレーションシップ・タイプ *typename* の削除中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからリレーションシップ・タイプを削除中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0026N　リレーションシップ・インスタンスのロード中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからリレーションシップ・インスタンスの情報をロード中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0027N　リレーションシップ・タイプ *typename* のインスタンスの作成中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログにそのリレーションシップ・タイプのインスタンスを作成中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0028N　リレーションシップ・タイプ *typename* のインスタンスの更新中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログのそのリレーションシップ・タイプのインスタンスを更新中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0029N　リレーションシップ・タイプ *typename* のインスタンスの削除中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからそのリレーションシップ・タイプのインスタンスを削除中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0030N　コンテキストの変更をコミット中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API がコンテキストをデータベースにコミットしようとして SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0031N　コンテキストの変更のロールバック中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API がコンテキストをデータベースにロールバック中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0032N　コンテキストの解放中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API がコンテキストの解放中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0033N　コンテキストの接続プロパティーにアクセス中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API がコンテキストのデータベース接続詳細にアクセス中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0034N　検索操作の取り消し中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が検索操作を取り消すユーザー要求を処理中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0035N　アクセス制御リストのロード中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**

インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからアクセス制御リストの情報をロード中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0036N　アクセス制御リスト *accesslistname* の更新中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログのアクセス制御リストを更新中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0037N　BLOB プロパティー *propertyname* のデータにアクセス中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が指定した BLOB プロパティーのデータをロード中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0038N　IBM DB2 ツール・カタログのバージョン情報の検索中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API がデータベース・エンジンおよび IBM DB2 ツール・カタログのバージョン情報のデータベースを照会中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0039N　オブジェクトのアクセス・コントロール項目の検索中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API がオブジェクトのアクセス・コントロール・データをロード中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0040N　アクセス制御リスト *accesslistname* の作成中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログにアクセス制御リストを作成中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0041N　アクセス制御リスト *accesslistname* の削除中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからアクセス制御リストを削除中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0042N　オブジェクト・タイプ *typename* のロック中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が他のアプリケーションによるアクセスを回避するためにオブジェクト・タイプをロック中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0043N　オブジェクト ID のロード中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API が IBM DB2 ツール・カタログからオブジェクト・インスタンスの ID をロード中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0100N　IBM DB2 ツール・カタログに接続できません。 (データベース = *databasename*、カタログ = *catalogname*)**

**説明:**
誤った値がデータベース名またはカタログ名に提供されました。

**ユーザーの処置:**
データベースおよびカタログに有効な値を提供してください。 データベース名は、インフォメーション・カタログ・マネージャー API を実行中のシステムでカタログされたデータベースを参照している必要があります。カタログ名は、DB2 ツール・カタログを保留するのに使用されるデータベース内のスキーマを参照している必要があります。

---

**ICM0101N　このカタログ・オブジェクトは、すでに IBM DB2 ツール・カタログに接続されています。**

**説明:**
すでに接続がオープンされているカタログ・オブジェクトを使用して DB2 ツール・カタログへの接続をオープンするのに失敗しました。

**ユーザーの処置:**
カタログ・オブジェクトがすでにオープンしていないことをチェックしてください。

---

**ICM0102N　データベース *databasename* 内のスキーマ *schemaname* に、有効な IBM DB2 ツール・カタログが含まれていません。表 *tablename* が見つかりませんでした。**

**説明:**
カタログが IBM DB2 ツール・カタログへの接続をオープンしたときに、要求された表 *tablename* を見つけることができませんでした。

**ユーザーの処置:**
スキーマ名とデータベース名が正しいこと、および DB2 ツール・カタログがスキーマ *schemaname* で作成されていることをチェックしてください。

---

**ICM0103N　誤った引数がオーファン・リレーションシップ検索で提供されました。**

**説明:**
カタログ・オブジェクトの orphanRelationships( Context, Object, Collection, Collection, boolean, bJoolean, SearchRules ) 方式への emptySource および emptyTarget パラメーターが両方とも false でした。これは誤りです。

**ユーザーの処置:**
パラメーター emptySource および emptyTarget のいずれか、または両方が true でなければなりません。

---

**ICM0104N　*applicationname* は予約済みのアプリケーション名です。**

**説明:**
アプリケーション名 *applicationname* はインフォメーション・カタログ・マネージャー API で使用するよう予約されています。

**ユーザーの処置:**
アプリケーション名に別の名前を使用してください。

---

**ICM0105N　アプリケーション *applicationname* はすでに登録されています。**

**説明:**
*applicationname* という名前のアプリケーションは、インフォメーション・カタログ・マネージャー API で以前に登録されています。

**ユーザーの処置:**
別の名前を使用してアプリケーションを登録するか、または既存の登録済みアプリケーション ID を使用してください。

---

**ICM0106N　アプリケーション *applicationname* は、登録されていません。**

**説明:**
登録されていないアプリケーション名でアプリケーションを使用する試みがなされました。

**ユーザーの処置:**
アプリケーションを使用する前にアプリケーション名を登録するか、またはすでに登録済みのアプリケーション名を使用してください。

---

**ICM0107N　IBM DB2 ツール・カタログにアクセスする前に、アプリケーションをカタログ・オブジェクトと関連付ける必要があります。**

**説明:**
アプリケーションをカタログ・オブジェクトと関連付ける前に、IBM DB2 ツール・カタログにアクセスする試みがなされました。

**ユーザーの処置:**
カタログ・オブジェクトを使用して IBM DB2 ツール・カタログにアクセスする前に、カタログ・クラスの setApplicationName( String ) メソッドを使用して、アプリケーションをカタログ・オブジェクトに関連付けてください。

**ICM0108N　コンテキストが解放されない間は、カタログをクローズできません。**

**説明:**
カタログ・オブジェクトのクローズ方式が呼び出されたときに、1 つ以上のコンテキストが解放されていない状態でした。

**ユーザーの処置:**
カタログをクローズする前に、カタログに対してオープンされているすべてのコンテキストを解放してください。

**ICM0109N　制約の保管中に誤った制約オブジェクトが見つかりました。**

**説明:**
データベースに保管する制約を準備中に入出力エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
制約オブジェクトがシリアライズ可能であることをチェックしてください。

**ICM0110N　制約のロード中に誤った制約オブジェクトが見つかりました。**

**説明:**
IBM DB2 ツール・カタログに保管されているデータから制約を再作成中に入出力エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICM0111N　アプリケーション *applicationname* を登録できません。使用可能な ID がありません。**

**説明:**
使用可能なアプリケーション ID は 63 個です。 64 個目のアプリケーションを登録しようとしました。

**ユーザーの処置:**
この IBM DB2 ツール・カタログでもはや使用されていない登録済みアプリケーションを除去して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICM0112N　誤った引数が getACEsForPrincipal( Context, String, boolean, Collection ) メソッドに提供されました。**

**説明:**
アクセス・コントロール項目を検索するためのオブジェクト・タイプのプリンシパルまたは集合の値が NULL でした。

**ユーザーの処置:**
オブジェクト・タイプのプリンシパルまたは集合に NULL 以外の値を指定してください。

**ICM0113N　誤った引数が getObjectsOwnedByUser( Context, String, Collection) 方式に提供されました。**

**説明:**
所有オブジェクトを検索するためのオブジェクト・タイプのユーザーまたは集合の値が NULL でした。

**ユーザーの処置:**
オブジェクト・タイプのユーザーおよび集合の両方に NULL 以外の値を指定してください。

**ICM0200N　オブジェクト・タイプが作成された後にオブジェクト・タイプの setProperties( Collection ) 方式を使用することはできません。**

**説明:**
IBM DB2 ツール・カタログですでに作成されているオブジェクト・タイプについて、setProperties( Collection ) メソッドを使用しようとしました。

**ユーザーの処置:**
addProperty( MetadataPropertyDefinition ) 方式を使用して、個々に新規プロパティーを追加するか、または新規オブジェクト・タイプを作成してください。

**ICM0201N　このオブジェクト・タイプのプロパティーを設定するときは、システム・プロパティー *propertyname* を指定しなければなりません。**

**説明:**
システム・プロパティー *propertyname* が、setProperties( Collection ) メソッドに提供されたプロパティーのリストにありませんでした。

**ユーザーの処置:**
setProperties( Collection ) 方式に提供されるプロパティーのリストに、すべてのシステム・プロパティーが含まれていなければなりません。

**ICM0202N　プロパティー *propertyname* は、オブジェクト・タイプ *typename* の索引 *indexname* によって使用されています。オブジェクト・タイプのプロパティーのリストを設定するときは、プロパティーを指定しなければなりません。**

**説明:**

プロパティーが索引によって使用されているため、プロパティー *propertyname* をオブジェクト・タイプのプロパティーのセット内にあるようにしなければなりません。

**ユーザーの処置:**
プロパティーを指定された索引から除去するか、索引を除去するか、またはプロパティーをオブジェクト・タイプのプロパティーのセットに追加してください。

---

**ICM0203N　オブジェクト *object* は、メタデータ・プロパティー・オブジェクトではありません。**

**説明:**
誤ったオブジェクトがオブジェクト・タイプに割り当てられているプロパティーのセットで見つかりました。

**ユーザーの処置:**
setProperties( Collection ) に提供されるプロパティーのセットには、MetadataPropertyDefinition オブジェクトのみが含まれます。 異なるタイプのオブジェクトを除去してください。

---

**ICM0204N　*propertyname* という名前の重複プロパティーがリスト内に見つかりました。**

**説明:**
setProperties( Collection ) への呼び出しで、同じ名前のプロパティー・オブジェクトが複数ありました。

**ユーザーの処置:**
重複名を持つプロパティーを除去またはリネームしてください。

---

**ICM0205N　このオブジェクト・タイプに *propertyname* という名前のプロパティー定義は存在しません。**

**説明:**
オブジェクト・タイプで定義されていないプロパティーを使用して、getProperty( String ) への呼び出しが行われました。

**ユーザーの処置:**
特定のプロパティーの名前が不明な場合は、すべてのプロパティーを検索する getProperties() メソッドを使用してください。

---

**ICM0206N　*typename* という名前のオブジェクト・タイプは、データ・ストア内にすでに存在します。**

**説明:**
オブジェクト・タイプを既存の名前で作成またはリネームしようとしました。

**ユーザーの処置:**
新規オブジェクト・タイプには固有の名前を選択してください。

---

**ICM0207N　オブジェクト・インスタンスが定義されている場合は、オブジェクト・タイプ *typename* を削除することはできません。**

**説明:**
インスタンス削除オプションを選択せずに定義されたインスタンスを持つオブジェクト・タイプを削除しようとしました。

**ユーザーの処置:**
オブジェクト・タイプを削除する前にすべてのインスタンスを削除するか、またはオブジェクト・タイプの delete( boolean ) メソッドのインスタンス削除オプションを使用してください。

---

**ICM0208N　オブジェクト・タイプが作成された後にオブジェクト・タイプの setTableOptions( String) 方式を使用することはできません。**

**説明:**
オブジェクト・タイプが作成された後に表オプション文節を変更しようとしました。 表オプション文節は表を作成するときにのみ使用できます。

**ユーザーの処置:**
オブジェクト・タイプを作成する前に使用する表オプションを設定してください。

---

**ICM0209N　オブジェクト・タイプが作成された後にオブジェクト・タイプの setSchemaName( String) 方式を使用することはできません。**

**説明:**
オブジェクト・タイプが作成された後にオブジェクト・インスタンス表のスキーマを変更しようとしました。

**ユーザーの処置:**
オブジェクト・タイプを作成する前に使用するスキーマを設定してください。

---

**ICM0210N　索引 *indexname* に対して指定されているプロパティー *propertyname* は、オブジェクト・タイプ *typename* のプロパティーではありません。**

**説明:**

オブジェクト・タイプに提供された索引に、そのオブジェクト・タイプに属さないプロパティーが 1 つ以上含まれていました。

**ユーザーの処置:**
索引内のすべてのプロパティーが、オブジェクト・タイプで定義されている正しいプロパティー定義オブジェクトであることをチェックしてください。 正しいプロパティー定義オブジェクトを検索するには、getProperties() および getProperty( String ) 方式を使用してください。

---

**ICM0211N　オブジェクト・インスタンス *instancename* のタイプが、オブジェクト・タイプ (*typename*) と一致しません。**

**説明:**
提供されたオブジェクト・インスタンスのいずれかが、createObjects( Context, Collection ) 方式オブジェクト・タイプと一致しませんでした。

**ユーザーの処置:**
createObjects( Context, Collection ) 方式は、同じオブジェクト・タイプのオブジェクト・インスタンスのみを扱うことができます。

---

**ICM0212N　ストリング *searchcriteria* は、名前プロパティーに対して無効な検索条件です。**

**説明:**
提供された名前パラメーターが値でないため、オブジェクト・インスタンスを名前で検索するのに失敗しました。

**ユーザーの処置:**
名前パラメーターは NULL にすることはできません。

---

**ICM0213N　誤った照会フィルター・オブジェクトがオブジェクト・タイプの getObjectInstances( Context, Object, QueryFilterObject, SearchRules, boolean ) 方式に提供されました。**

**説明:**
照会フィルター・オブジェクトが NULL であったか、または渡された先のオブジェクト・タイプと異なっていました。

**ユーザーの処置:**
検索されているオブジェクト・タイプの照会フィルター・オブジェクトを定義してください。

---

**ICM0214N　オブジェクト・タイプのリストが無効です。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API 方式のいずれかに提供されたオブジェクト・タイプのリストが無効でした。 オブジェクト・タイプのリストが NULL または空でした。

**ユーザーの処置:**
オブジェクト・タイプのリストに少なくとも 1 つのオブジェクト・タイプが含まれていることをチェックしてください。

---

**ICM0215N　プロパティー定義オブジェクトの作成中に指定されたデータ・タイプが無効でした。**

**説明:**
指定された値は許可されているデータ・タイプの 1 つではありませんでした。

**ユーザーの処置:**
データ・タイプの値が MetadataPropertyDefinition クラスで定義されているデータ・タイプ定数であることをチェックしてください。

---

**ICM0216N　オブジェクト・タイプ *typename* の索引 *indexname* が無効です。**

**説明:**
オブジェクト・タイプ *typename* に提供された索引に、定義されているプロパティーがありませんでした。

**ユーザーの処置:**
索引に少なくとも 1 つの指定されたプロパティーがなければなりません。

---

**ICM0217N　プロパティー *propertyname* は、オブジェクト・タイプ *typename* の索引 *indexname* で複数回定義されています。**

**説明:**
オブジェクト・タイプ *typename* に提供された索引に、複数回定義されている同じプロパティーがあります。

**ユーザーの処置:**
すべての重複プロパティーを索引から除去してください。

---

**ICM0218N　オブジェクト・タイプ *typename* に対して索引 *indexname* が存在しません。**

**説明:**
オブジェクト・タイプ *typename* は索引 *indexname* を除去する要求を付与できませんでした。その名前の索引が存在しないためです。

**ユーザーの処置:**
索引を除去する前に、その索引がオブジェクト・タイプで定義されていることをチェックしてください。

---

**ICM0219N** *indexname* **という名前を持つ索引は、オブジェクト・タイプ** *typename* **に対してすでに定義されています。**

**説明:**
指定された名前の索引はすでに存在しています。 索引名は固有でなければなりません。

**ユーザーの処置:**
新規の索引に対して固有の名前を選択するか、または既存の索引を除去して新規の索引に置き換えてください。

---

**ICM0220N** **索引** *duplicatename* **は、オブジェクト・タイプ** *typename* **の索引** *indexname* **の定義と重複します。**

**説明:**
要求したオブジェクト・タイプの定義で、すでに索引が存在しています。

**ユーザーの処置:**
既存のすべての索引と異なる新規索引に変更するか、または既存の索引がオブジェクト・タイプの索引付けを十分に満たしている場合は、その索引を使用してください。

---

**ICM0300N** **要求したオブジェクト・インスタンスがデータ・ストアに見つかりませんでした。**

**説明:**
データ・ストアに作成されていないオブジェクト・インスタンスのプロパティーの値をロードしようとしました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**ICM0301N** **プロパティー更新要求が、プロパティー制約** *constraintname* **に違反しています。**

**説明:**
制約 *constraintname* で許可されていないため、操作を実行することができません。

**ユーザーの処置:**
制約で許可されている値を選択するか、またはプロパティー定義から制約を除去してください。

---

**ICM0302N** **オブジェクト・タイプがこのインスタンスですでに設定されています。**

**説明:**
すでにタイプが定義されているインスタンスのオブジェクト・タイプを設定しようとしました。

**ユーザーの処置:**
タイプがすでに定義されているインスタンスのタイプを変更することはできません。

---

**ICM0303N** **指定されたオブジェクト・タイプが無効です。**

**説明:**
オブジェクト・インスタンス setType( ObjectType ) 方式に提供されたオブジェクト・タイプが無効です。 オブジェクト・タイプが NULL であるか、または作成されていません。

**ユーザーの処置:**
setType(ObjectType) 方式に渡されたオブジェクト・タイプが作成されていることをチェックしてください。

---

**ICM0304N** **このオブジェクト・インスタンスに** *propertyname* **という名前のプロパティーは存在しません。**

**説明:**
存在しないプロパティーを検索しようとしました。

**ユーザーの処置:**
プロパティー名のスペルと大文字小文字が一致していることをチェックしてください。 すべての定義済みプロパティーのリストを取得するには、getProperties() 方式を使用してください。

---

**ICM0305N** **オブジェクト・インスタンスが有効な状態ではありません。**

**説明:**
オブジェクト・インスタンスが無効であるため、オブジェクト・インスタンスはデータの要求または更新をハンドルできません。

**ユーザーの処置:**
オブジェクト・インスタンスを IBM DB2 ツール・カタログから再ロードしてください。 新規インスタンスの場合は、オブジェクト・タイプが設定されていることをチェックしてください。

---

**ICM0306N　オブジェクト・インスタンスの名前が必要です。**

**説明:**
オブジェクト・インスタンスは名前が設定されていないため無効です。

**ユーザーの処置:**
オブジェクト・インスタンスの名前プロパティーに NULL 以外の値を提供してください。

---

**ICM0307N　プロパティー *propertyname* は無効です。**

**説明:**
プロパティーが必要であるのにプロパティー値が NULL であるか、またはプロパティー値がプロパティー制約のいずれかに違反しているため、オブジェクト・インスタンスが無効です。

**ユーザーの処置:**
指定されたプロパティーに有効な値を提供してください。

---

**ICM0308N　現行アプリケーションにはこのオブジェクトを更新する許可がありません。**

**説明:**
現行アプリケーションは所有アプリケーションではなく、指定されたオブジェクトでアプリケーション更新権限がありません。

**ユーザーの処置:**
所有アプリケーションを使用して現行アプリケーションに権限を付与してください。

---

**ICM0309N　プロパティー *propertyname* はこのオブジェクト・インスタンスに属していません。**

**説明:**
プロパティー値を誤ったオブジェクト・インスタンスにロードしようとしました。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**ICM0310N　プロパティー *propertyname* の値が、プロパティー定義の最大長を超えています。**

**説明:**
プロパティー値がオブジェクト・タイプのプロパティー定義で許可されている最大サイズより大きいです。

**ユーザーの処置:**
もっと小さいプロパティー値を使用してください。

---

**ICM0311N　プロパティー *propertyname* には値がなければなりません。**

**説明:**
プロパティー *propertyname* が要求されていますが、NULL 値で設定されています。

**ユーザーの処置:**
プロパティーに NULL 以外の値を設定してください。

---

**ICM0312N　プロパティー *propertyname* が、制約 *constraintname* に違反しています。**

**説明:**
プロパティー *propertyname* に割り当てられた値が制約 *constraintname* で許可されていません。

**ユーザーの処置:**
制約で許可されている値を使用するか、またはプロパティー定義から制約を除去してください。

---

**ICM0400N　リレーションシップ・オブジェクトのリストが無効です。**

**説明:**
リレーションシップ・オブジェクトのリストが NULL または空です。

**ユーザーの処置:**
リレーションシップ・オブジェクトのリストに少なくとも 1 つのリレーションシップが含まれていることをチェックしてください。

---

**ICM0401N　指定されたリレーションシップを追加すると、リレーションシップ・カテゴリー・ツリーでループとなってしまう可能性があります。**

**説明:**
要求された変更により、リレーションシップ・カテゴリーがそれ自身を含む可能性があります。

**ユーザーの処置:**
リレーションシップの階層でループがないことをチェックしてください。

---

**ICM0402N　リレーションシップ・カテゴリー *categoryname* はすでに存在します。**

**説明:**
カテゴリーに既存のカテゴリーと同じ名前があるため、新規リレーションシップ・カテゴリーを作成するのに失敗しました。

**ユーザーの処置:**

新規リレーションシップ・カテゴリーに固有の名前を使用してください。

---

**ICM0403N　リレーションシップ・タイプ *typename* はすでに存在します。**

**説明:**
タイプに既存のタイプと同じ名前があるため、新規リレーションシップ・タイプを作成するのに失敗しました。タイプに既存のタイプと同じ名前があるため、新規リレーションシップ・タイプを作成するのに失敗しました。

**ユーザーの処置:**
新規リレーションシップ・タイプに固有の名前を使用してください。

---

**ICM0404N　リレーションシップ・タイプ *typename* に定義されているリレーションシップ・インスタンスがあるため、これを削除できません。**

**説明:**
リレーションシップ・タイプのリレーションシップ・インスタンスが存在する場合は、そのリレーションシップ・タイプを削除することはできません。

**ユーザーの処置:**
タイプを削除する前にリレーションシップ・タイプのすべてのインスタンスを削除するか、またはリレーションシップ・タイプ削除方式のインスタンス削除オプションを使用してください。

---

**ICM0405N　ObjectTypeRelationshipConstraint に追加される ObjectType は作成されていません。**

**説明:**
リレーションシップ制約がデータベースに作成されていないオブジェクト・タイプを使用しようとしました。

**ユーザーの処置:**
リレーションシップ制約で使用する前に、オブジェクト・タイプの create() 方式を呼び出してください。

---

**ICM0500N　リレーションシップ・インスタンスに渡されたオブジェクトが無効です。 すべてのオブジェクトが ObjectInstance または ObjectID オブジェクトでなければなりません。**

**説明:**
リレーションシップ・インスタンスにソースまたはターゲットとして提供されたオブジェクトのタイプが、許可されているタイプの 1 つではありませんでした。

**ユーザーの処置:**
リレーションシップ・インスタンスのソースまたはターゲットとして ObjectInstance または ObjectID オブジェクトのみを使用してください。

---

**ICM0501N　オブジェクト・インスタンスをリレーションシップに追加する前に、オブジェクト・インスタンスをデータベースに作成しなければなりません。**

**説明:**
データベースに作成されていないオブジェクト・インスタンスをリレーションシップに割り当てることはできません。

**ユーザーの処置:**
オブジェクト・インスタンスをリレーションシップに追加する前に、新規オブジェクト・インスタンスで create() 方式を呼び出してください。

---

**ICM0502N　NULL ObjectID をリレーションシップに追加することはできません。**

**説明:**
リレーションシップ・オブジェクトに提供された ObjectID を表す Java オブジェクトが NULL でした。

**ユーザーの処置:**
ObjectID に NULL 以外の値を使用してください。

---

**ICM0503N　リレーションシップ・インスタンスが 1 つ以上の制約に違反しています。**

**説明:**
インスタンスで定義されているソースおよびターゲット・オブジェクトの現在の設定で、1 つ以上のリレーションシップ・インスタンス制約に違反しています。

**ユーザーの処置:**
定義された制約をチェックし、必要に応じてソースまたはターゲットを追加または除去してください。

---

**ICM0504N　リレーションシップ・インスタンスが有効な状態ではありません。**

**説明:**
リレーションシップ・インスタンスが使用できない状態にあります。

**ユーザーの処置:**
インスタンスのリレーションシップ・タイプが存在し、どの制約にも違反していないことをチェックしてください。 その後、リレーションシップ・インスタンスをデータベースから再ロードしてください。

---

**ICM0600N　現行ユーザーにはこのオブジェクトを更新する許可がありません。**

**説明:**
ユーザーに十分な権限がないため、オブジェクトの更新に失敗しました。

**ユーザーの処置:**
オブジェクトを更新する前に、オブジェクトの所有者によりユーザーに許可が付与される必要があります。

**ICM0601N　現行ユーザーにはこのオブジェクトを削除する許可がありません。**

**説明:**
ユーザーに十分な権限がないため、オブジェクトの削除に失敗しました。

**ユーザーの処置:**
オブジェクト所有者はユーザーにオブジェクトを削除する許可を付与する必要があります。

**ICM0602N　現行ユーザーにはこのリレーションシップ・タイプのインスタンスの 1 つを削除する許可がありません。**

**説明:**
現行ユーザーにはインスタンスの 1 つを削除する権限がないため、リレーションシップ・タイプおよびそのインスタンスを削除することができません。

**ユーザーの処置:**
リレーションシップ・タイプを削除するには、ユーザーにリレーションシップ・タイプのインスタンスをすべて削除する権限が必要です。

**ICM0603N　アクセス制御リストを保管する前に、アクセス制御リストの名前を指定しなければなりません。**

**説明:**
名前が NULL に設定されているため、アクセス制御リストの更新に失敗しました。

**ユーザーの処置:**
アクセス制御リストに有効な名前があることをチェックしてください。

**ICM0604N　*accesslistname* という名前のアクセス制御リストは、データ・ストア内にすでに存在します。**

**説明:**
新規アクセス制御リストに既存のアクセス制御リストと同じ名前があるため、これを作成することができません。

**ユーザーの処置:**
新規アクセス制御リストに固有の名前を指定してください。

**ICM0605N　*accesslistname* という名前のアクセス制御リストは無効です。**

**説明:**
アクセス制御リストはもはや有効でないため、保管できません。

**ユーザーの処置:**
アクセス制御リストを IBM DB2 ツール・カタログから再ロードしてください。

**ICM0700N　このオブジェクトのデータが別の処理により IBM DB2 ツール・カタログで変更されました。**

**説明:**
オブジェクトが現行処理で使用されているときに、ツール・カタログに保管されているオブジェクト・データが別の処理により変更されたため、オブジェクトを更新するのに失敗しました。

**ユーザーの処置:**
オブジェクトをツール・カタログから再ロードするか、または更新方式で上書き設定を使用してください。

**ICM0701N　オブジェクトが存在しません。**

**説明:**
IBM DB2 ツール・カタログに作成されていないオブジェクトを使用しようとしたため、インフォメーション・カタログ・マネージャー API 要求が失敗しました。

**ユーザーの処置:**
方式を使用する前にオブジェクトの作成方式を呼び出してください。

**ICM0702N　オブジェクトはすでに存在しています。**

**説明:**
すでに作成されているオブジェクトで作成方式が呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
すでに存在するオブジェクトを更新するには、作成方式ではなく更新方式を使用してください。

**ICM0703N　オブジェクトが有効な状態ではありません。**

**説明:**
オブジェクトが有効な状態ではないため、オブジェクトを作成または更新することができません。

**ユーザーの処置:**
オブジェクトを IBM DB2 ツール・カタログから再ロードしてください。

---

**ICM0704N　重複した要求 ID *idname* が検索メソッドに渡されました。**

**説明:**
検索方式に渡された要求 ID は別の検索ですでに使用中です。

**ユーザーの処置:**
別の要求 ID を使用するか、または実行中の検索が完了するのを待機してください。

---

**ICM0705N　NULL コンテキストに切り替えることができません。**

**説明:**
インフォメーション・コントロール・センター・オブジェクトのコンテキストを NULL に設定することはできません。

**ユーザーの処置:**
インフォメーション・コントロール・センター・オブジェクトの setContext( Context ) 方式に NULL 以外の値を指定してください。

---

**ICM00706N　既存のコンテキストでトランザクションがペンディングの場合は、新規コンテキストに切り替えることはできません。**

**説明:**
オブジェクトに関連しているアクティブ・トランザクションがあるときに、オブジェクトのコンテキストを切り替えようとしました。

**ユーザーの処置:**
別のコンテキストに切り替える前に、オブジェクトへの現行コンテキストの変更をコミットしてください。

---

**ICM0707N　別のカタログのコンテキストに切り替えることができません。**

**説明:**
オブジェクトのコンテキストを別のカタログに対してオープンしているコンテキストに切り替えようとしました。

**ユーザーの処置:**
同じカタログのコンテキストおよびオブジェクトのみを使用してください。

---

**ICM0708N　アクセス・コントロール項目が、指定されたプリンシパル (*principalname*) にすでに存在しています。**

**説明:**
アクセス・コントロール項目がすでに存在するため、指定されたプリンシパルで新規に作成することができません。

**ユーザーの処置:**
現行アクセス・コントロール項目を検索し、変更してください。 新規アクセス・コントロール項目を作成しないでください。

---

**ICM0709N　データ・ストアにアクセスするために提供されたコンテキストが無効です。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API に提供されたコンテキストが無効です。 要求された操作を実行できません。

**ユーザーの処置:**
コンテキストが NULL でないこと、および解放されていないことをチェックしてください。

---

**ICM0710N　誤ったパラメーター・タイプが、パラメーター化された SQL ステートメント *sqlstatement* で見つかりました。**

**説明:**
提供されたオブジェクト・パラメーターのタイプが無効です。

**ユーザーの処置:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API 方式の文書で指定されているタイプのオブジェクトのみを使用してください。

---

**ICM0711N　PermissionElement の許可値が無効です。**

**説明:**
setPermission( int, Jboolean ) の現行値では許可が無効です。

**ユーザーの処置:**
PermissionElement クラスで定義されている許可エレメント定数を使用して許可を設定してください。

---

**ICM00712N　照会フィルター条件に提供されている値の数が正しくありません。 パラメーターは期待されていません。**

**説明:**
照会フィルター条件に提供されたパラメーター数が条件の演算子に期待された数と一致しません。

**ユーザーの処置:**
正しいパラメーター数を提供してください。
OP_IS_NULL および OP_IS_NOT_NULL ではパラメーターは許可されていません。 OP_BETWEEN および OP_NOT_BETWEEN では 2 つのパラメーターが必要です。 OP_IN および OP_NOT_IN ではゼロより大きい数のパラメーターが許可されています。 他のすべての演算子では、パラメーターが 1 つ必要です。

---

**ICM0713N　照会フィルター条件に提供されている値の数が無効でした。 パラメーターは 1 つ期待されています。**

**説明:**
照会フィルター条件に提供されたパラメーター数が条件の演算子に期待された数と一致しません。

**ユーザーの処置:**
正しいパラメーター数を提供してください。
OP_IS_NULL および OP_IS_NOT_NULL ではパラメーターは許可されていません。 OP_BETWEEN および OP_NOT_BETWEEN では 2 つのパラメーターが必要です。 OP_IN および OP_NOT_IN ではゼロより大きい数のパラメーターが許可されています。 他のすべての演算子では、パラメーターが 1 つ必要です。

---

**ICM0714N　照会フィルター条件に提供されているパラメーターの数が無効でした。 パラメーターは 2 つ期待されています。**

**説明:**
照会フィルター条件に提供されたパラメーター数が条件の演算子に期待された数と一致しません。

**ユーザーの処置:**
正しいパラメーター数を提供してください。
OP_IS_NULL および OP_IS_NOT_NULL ではパラメーターは許可されていません。 OP_BETWEEN および OP_NOT_BETWEEN では 2 つのパラメーターが必要です。 OP_IN および OP_NOT_IN ではゼロより大きい数のパラメーターが許可されています。 他のすべての演算子では、パラメーターが 1 つ必要です。

---

**ICM0715N　リレーションシップ検索に指定されたタイプが無効です。**

**説明:**
リレーションシップ検索の setType( int ) 方式に指定されたタイプの値が無効です。

**ユーザーの処置:**
setType( int ) 方式には RelationshipSearch クラスで定義されている TYPE_SOURCE および TYPE_TARGET 定数を使用してください。

---

**ICM0716N　リレーションシップ検索に指定されたリレーションシップが無効です。**

**説明:**
リレーションシップ検索オブジェクトに指定されたリレーションシップが NULL でした。

**ユーザーの処置:**
リレーションシップ検索のリレーションシップに NULL 以外の値を使用してください。

---

**ICM0717N　このオブジェクトのアクセス制御リストは作成されていません。**

**説明:**
オブジェクトを IBM DB2 ツール・カタログに保管する前に、オブジェクトに割り当てられるアクセス制御リストを作成する必要があります。

**ユーザーの処置:**
アクセス制御リストで作成方式を呼び出してください。

---

**ICM0718N　コンテキストは解放されており、使用することができません。**

**説明:**
解放されたコンテキストを使用して IBM DB2 ツール・カタログにアクセスしようとしました。

**ユーザーの処置:**
カタログ・オブジェクトで newContext() 方式を使用して新規コンテキストを検索し、解放されたコンテキストの代わりに使用してください。

---

**ICM0800N　無効なマイグレーション操作タイプを指定しました。**

**説明:**
ICMMigration migrate( int ) 方式に指定した操作タイプの値が有効なマイグレーション操作タイプではありませんでした。

**ユーザーの処置:**
ICMDatastoreInit クラス (MIG_REPLACE、MIG_SKIP または MIG_ERROR) で定義されているマイグレーション操作タイプの 1 つを使用してください。

---

**ICM0801N　マイグレーション中の IBM DB2 バージョン 7 のオブジェクト・タイプ *typename* のプロパティー *propertyname* の定義が、DB2 バージョン 8 のオブジェクト・タイプの既存のプロパティー定義と異なります。**

**説明:**

マイグレーション中のオブジェクト・タイプが DB2 バージョン 8 ツール・カタログにすでに存在しています。 オブジェクト・タイプのプロパティーのいずれかが、データ・タイプまたはサイズにおいて DB2 バージョン 7 とバージョン 8 のオブジェクト・タイプ定義間で異なっています。

**ユーザーの処置:**
置換マイグレーション操作タイプを使用するか、または DB2 バージョン 7 カタログをマイグレーションする前に、DB2 バージョン 8 の既存のオブジェクト・タイプを削除してください。

---

**ICM0802N** **IBM DB2 バージョン 8 のオブジェクト・タイプ *typename* のプロパティー *propertyname* が、マイグレーション中の DB2 バージョン 7 の同じ名前のオブジェクト・タイプに存在しません。**

**説明:**
マイグレーション中のオブジェクト・タイプがすでに DB2 バージョン 8 ツール・カタログに存在しますが、DB2 バージョン 8 の既存のオブジェクト・タイプのプロパティーのいずれかが DB2 バージョン 7 のオブジェクト・タイプ定義に存在しません。

**ユーザーの処置:**
MIG_ERROR とは異なる操作タイプを使用してマイグレーションを実行するか、またはマイグレーションを実行する前に DB2 バージョン 8 の既存のオブジェクト・タイプを削除してください。

---

**ICM0803N** **IBM DB2 バージョン 7 のオブジェクト・タイプ *typename* のプロパティー *propertyname* が、DB2 バージョン 8 の同じ名前のオブジェクト・タイプに存在しません。**

**説明:**
マイグレーション中のオブジェクト・タイプが DB2 バージョン 8 ツール・カタログに存在しますが、DB2 バージョン 7 からマイグレーション中のオブジェクト・タイプのプロパティーのいずれかが、DB2 バージョン 8 のオブジェクト・タイプ定義に存在しません。

**ユーザーの処置:**
欠落しているプロパティーがオプションの場合は、マイグレーションする前に、インフォメーション・カタログ・センターの初期設定ツールを使用して、欠落しているプロパティーを DB2 バージョン 8 のオブジェクト・タイプに追加してください。欠落しているプロパティーが必須の場合は、マイグレーションする前に DB2 バージョン 8 のオブジェクト・タイプをツール・カタログから除去してください。

---

**ICM0804N** **オブジェクト・タイプ *typename* のインスタンス *instancename* に対するプロパティー *propertyname* の値が、有効な日付/時刻形式ではありません。**

**説明:**
DB2 バージョン 7 カタログの日付/時刻プロパティーの値が、認識できる日付/時刻形式ではありません。

**ユーザーの処置:**
IBM DB2 バージョン 7 のデータを手動で現行ロケーションの有効な日付/時刻形式に変更してください。

---

**ICM0805N** **オブジェクト・タイプ *objecttype* のインスタンス *instancename* に対する *propertyname* プロパティーは、マイグレーション・ツールによってサポートされていません。**

**説明:**
マイグレーション・ツールは、文字または日付/時刻ストリング以外のデータ・タイプを持つプロパティーのオブジェクト・タイプをマイグレーションすることはできません。

**ユーザーの処置:**
オブジェクト・タイプをマイグレーションすることはできません。 カタログが破壊されていないことをチェックしてください。

---

**ICM0806N** **マイグレーション中の IBM DB2 バージョン 7 カタログのリレーションシップ・タイプ・フラグ *typename* を認識できません。**

**説明:**
リレーションシップ・タイプ・フラグの値は認識できる値ではありません。

**ユーザーの処置:**
IBM DB2 バージョン 7 カタログは無効です。 このタイプ・フラグを持つリレーションシップ・インスタンスはマイグレーションされません。

---

**ICM0807N** **リレーションシップ・タイプ *typename* が見つかりませんでした。**

**説明:**
定義済みリレーションシップ・タイプ *typename* が IBM DB2 ツール・カタログで見つかりませんでした。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**ICM0808N　オブジェクト・インスタンス *instancename* は、オブジェクト・タイプ *typename* のユニーク索引に違反しており、作成できません。**

**説明:**
インスタンスがオブジェクト・タイプに定義されているユニーク索引の 1 つに違反しているため、インスタンスを作成することができませんでした。

**ユーザーの処置:**
マイグレーション・ツールを実行する前に、索引を除去するか、または索引違反の原因である IBM DB2 バージョン 7 のオブジェクト・インスタンスを削除してください。

---

**ICM0900N　ログ・ファイル *filename* のオープン中に入出力エラーが発生しました。**

**説明:**
入出力例外のため初期設定ツールはログ・ファイルをオープンすることができませんでした。

**ユーザーの処置:**
指定されたファイル・パスが存在し、ファイルが読み取り専用ではないこと、あるいはファイルが別のアプリケーションにより使用されていないことをチェックしてください。

---

**ICM0901N　インフォメーション・カタログ・マネージャー API 表を作成中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
初期設定ツールがインフォメーション・カタログ・マネージャー API により要求された表を作成中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0902N　マイグレーション中に SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
マイグレーション・ツールがマイグレーション中の IBM DB2 バージョン 7 データを検索中に SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0903N　DB2 バージョン 7 インフォメーション・カタログのエミュレーション・ビューの作成中に、SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
初期設定ツールが DB2 バージョン 7 インフォメーション・カタログ・マネージャー表のエミュレーションを提供するビューを作成していたときに、SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM0904N　表 *tablename* が IBM DB2 ツール・カタログから欠落しています。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、表 *tablename* が定義されていないことが検出されました。

**ユーザーの処置:**
このエラーを訂正するには、修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。

---

**ICM0905N　表 *tablename* に、無効な定義を持つ列が少なくとも 1 つ含まれています。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、表 *tablename* に要求されているタイプと異なる列が少なくとも 1 つ含まれていることが検出されました。

**ユーザーの処置:**
このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。 強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

---

**ICM0906N　表 *tablename* に、データ・ストア定義の一部ではない列が少なくとも 1 つ含まれています。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、表 *tablename* に表定義に存在しない列が少なくとも 1 つ含まれていることが検出されました。

**ユーザーの処置:**

この列で NULL が許可されていない場合は、インフォメーション・カタログ・マネージャー API に影響はありません。 これを除去するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してこのエラーを訂正してください。 強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

---

**ICM0907N　表 *tablename* の列 *columnname* がデータ・ストアから欠落しています。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、表 *tablename* からインフォメーション・カタログ・マネージャー API で要求されている列が少なくとも 1 つ欠落していることが検出されました。

**ユーザーの処置:**
このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。 強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

---

**ICM0908N　表 *tablename* で、主キー定義が欠落しています。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションによって、表 *tablename* で必須の主キー定義が欠落していることが検出されました。

**ユーザーの処置:**
このエラーを訂正するには、修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。

---

**ICM0909N　表 *tablename* で、主キー定義が欠落しています。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、表 *tablename* の主キーがインフォメーション・カタログ・マネージャー API で要求されている主キーと一致しないことが検出されました。

**ユーザーの処置:**
このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。 強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

---

**ICM0910N　表 *tablename* で、索引定義が欠落しています。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションによって、表 *tablename* で必須の索引が欠落していることが検出されました。

**ユーザーの処置:**
このエラーを訂正するには、修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。

---

**ICM0911N　表 *tablename* に無効な索引が定義されています。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、表 *tablename* にインフォメーション・カタログ・マネージャー API で要求されている索引と一致しない索引定義があることが検出されました。

**ユーザーの処置:**
索引がユニーク索引の場合は、インフォメーション・カタログ・マネージャー API の正常な関数に支障がある可能性があります。 このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。 強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

---

**ICM0912N　表 *tablename* の索引 *indexname* はデータ・ストア定義の一部ではありません。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、表 *tablename* にインフォメーション・カタログ・マネージャー API で要求されている索引と一致しない索引定義があることが検出されました。

**ユーザーの処置:**
索引がユニーク索引の場合は、インフォメーション・カタログ・マネージャー API のプロパティー関数に支障がある可能性があります。 このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。 強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

---

**ICM0913N　関数 *functionname* が IBM DB2 ツール・カタログから欠落しています。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、関数 *functionname* が DB2 ツール・カタログから欠落していることが検出されました。

**ユーザーの処置:**
このエラーを訂正するには、修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。

---

**ICM0914N　関数 *functionname* の定義が無効です。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、関数 *functionname* の定義がインフォメーション・カタログ・マネージャー API で要求されている定義と一致しないことが検出されました。

**ユーザーの処置:**
このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。 強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

---

**ICM0915N　トリガー *triggername* が IBM DB2 ツール・カタログから欠落しています。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、トリガー *triggername* が DB2 ツール・カタログから欠落していることが検出されました。

**ユーザーの処置:**
このエラーを訂正するには、修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。

---

**ICM0916N　トリガー *triggername* の定義が無効です。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、トリガー *triggername* の定義がインフォメーション・カタログ・マネージャー API で要求されている定義と一致しないことが検出されました。

**ユーザーの処置:**
このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。 強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

---

**ICM00917N　トリガー *triggername* はデータ・ストア定義の一部ではありません。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、*triggername* という名前のトリガーが DB2 ツール・カタログ表の 1 つで定義され、初期設定ツールで要求されているトリガーのいずれにも一致しないことが検出されました。

**ユーザーの処置:**
このエラーを訂正するには、強制モードで修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。 強制オプションを使用することによりデータが脱落する可能性があります。

---

**ICM00918N　ビュー *viewname* が DB2 ツール・カタログから欠落しています。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定のチェック・オプションで、*viewname* という名前のビューが定義されていないことが検出されました。

**ユーザーの処置:**
このエラーを訂正するには、修正オプションを使用してインフォメーション・カタログ・マネージャー API 初期設定を実行してください。

---

**ICM0919N　オブジェクト・タイプ *typename* のプロパティー *propertyname* にデフォルト・オブジェクト・タイプのプロパティーと異なるデータ・タイプがあります。**

**説明:**
既存のオブジェクト・タイプはデフォルト・オブジェクト・タイプのいずれかの名前と一致していますが、そのプロパティーの 1 つにオブジェクト・タイプのデフォルト定義と異なるデータ・タイプがあります。

**ユーザーの処置:**
現在の定義を保持するために変更を行う必要はありません。 オブジェクト・タイプをデフォルト定義に置き換えるには、APP_REPLACE オプションを指定してアプリケーション初期設定を実行してください。

---

**ICM00920N オブジェクト・タイプ *typename* のプロパティー *propertyname* はオブジェクト・タイプのデフォルト定義内に存在しません。**

**説明:**
既存のオブジェクト・タイプはデフォルト・オブジェクト・タイプのいずれかの名前と一致していますが、そのプロパティーの 1 つにオブジェクト・タイプのデフォルト定義と異なるデータ・タイプがあります。

**ユーザーの処置:**
現在の定義を保持するために変更を行う必要はありません。 オブジェクト・タイプをデフォルト定義に置き換えるには、APP_REPLACE オプションを指定してアプリケーション初期設定を実行してください。

---

**ICM00921N オブジェクト・タイプ *typename* のプロパティー *propertyname* はデフォルト定義に存在しますが、既存のオブジェクト・タイプから欠落しています。**

**説明:**
既存のオブジェクト・タイプはデフォルト・オブジェクト・タイプのいずれかの名前と一致していますが、そのプロパティーの 1 つにオブジェクト・タイプのデフォルト定義と異なるデータ・タイプがあります。

**ユーザーの処置:**
現在の定義を保持するために変更を行う必要はありません。 オブジェクト・タイプをデフォルト定義に置き換えるには、APP_REPLACE または APP_MERGE オプションを指定してアプリケーション初期設定を実行してください。

---

**ICM00922N DB2 Warehouse Manager の有効なライセンスが見つからないため、インフォメーション・カタログの管理ウィザードにアクセスすることができませんでした。 最寄りのソフトウェア販売店または IBM 営業担当員に連絡してください。**

**説明:**
有効なライセンスなしでインフォメーション・カタログを初期化またはマイグレーションしようとしました。

**ユーザーの処置:**
DB2 Warehouse Manager パッケージを購入して、インフォメーション・カタログの管理ウィザードを含む Information Catalog Manager Tools コンポーネントをインストールしてください。

---

**ICM0923N DB2 バージョン 7 インフォメーション・カタログのエミュレーション・ビューのドロップ中に、SQL エラーが発生しました。**

**説明:**
初期設定ツールが DB2 バージョン 7 インフォメーション・カタログ・マネージャー表のエミュレーションを提供するビューをドロップしていたときに、SQL エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
この SQL エラーの詳細については、「SQL メッセージ・リファレンス」を参照してください。

---

**ICM10001N インフォメーション・カタログはすでにオープンしています。**

**説明:**
インフォメーション・カタログがすでにオープンしているときに、ICMCatalog クラスのオープン方式が呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
カタログをオープンするには重複呼び出しを削除してください。

---

**ICM10002N アクティブ・バッチがないときにバッチ・チェックポイントをコミットすることはできません。**

**説明:**
チェックポイント操作はカタログへの変更をペンディングになっているトランザクションのセットをコミットします。トランザクションはインフォメーション・カタログにコミットされます。 アクティブ・バッチがないときはペンディングの操作はありません。

**ユーザーの処置:**
アクティブ・バッチがある場合にのみバッチ・チェックポイントをコミットしてください。 バッチをアクティブにするには startBatch を、終了するには endBatch を使用してください。 変更のバッチで中間ポイントをコミットするにはチェックポイントを使用してください。

---

**ICM10003N インフォメーション・カタログがオープンしていません。**

**説明:**
この操作を実行する前にカタログをオープンしなければなりません。

**ユーザーの処置:**
この操作を試みる前にカタログをオープンしてください。

**ICM10004N** *accesslistname* **という名前のアクセス制御リストは固有ではありません。**

**説明:**
名前によるアクセス制御リストの検索により、複数のインスタンスが戻されました。 アクセス制御リストは固有の名前を持つ必要があるため、これは修正しなければならない内部カタログ・エラーです。

**ユーザーの処置:**
インフォメーション・カタログを訂正してください。

**ICM10005N バッチ・モードがアクティブではありません。**

**説明:**
バッチがアクティブではないときに endBatch 方式が呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
バッチを終了する前にバッチが開始されていなければなりません。 有効なバッチ操作を行うには、startBatch、カタログの変更、チェックポイントの指定、カタログの変更、チェックポイントの指定、カタログの変更、endBatch を順に使用してください。

**ICM10006N バッチ・モードは、すでにアクティブです。**

**説明:**
バッチがアクティブではないときに startBatch 方式が呼び出されました。

**ユーザーの処置:**
直前のバッチが終了するまではバッチを開始することはできません。 有効なバッチ操作を行うには、startBatch、カタログの変更、チェックポイントの指定、カタログの変更、チェックポイントの指定、カタログの変更、endBatch を順に使用してください。

**ICM10007N 最後に記録されたチェックポイントの除去に失敗しました。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API はバッチの処理中にチェックポイントがコミットされるときにチェックポイントを記録します。 こうすることにより、失敗したときに最後に成功したチェックポイントからバッチを再開することができます。 バッチが正常終了すると、チェックポイント記録は除去されます。 チェックポイント記録の除去で失敗しました。

**ユーザーの処置:**
ネストされた例外をチェックし、失敗の原因を判別してください。

**ICM10008N エクスポート一時ファイル** *filename* **の作成中に入出力エラーが発生しました。**

**説明:**
エクスポート処理中に情報を保留する一時ファイルを作成中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
ネストされた例外をチェックし、問題を訂正してください。

**ICM10009N ファイル** *filename* **に対するエクスポート操作が失敗しました。**

**説明:**
エクスポート操作中にエラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
エクスポート・ログ・ファイルをチェックし、問題を訂正してください。

**ICM10010N インポートが失敗しました。 最後の完了したチェックポイントは** *checkpoint* **でした。**

**説明:**
インポート操作は一部成功しましたが、完了する前に失敗しました。

**ユーザーの処置:**
インポート・ログ・ファイルをチェックし、問題を訂正してください。

**ICM10011N インポートが失敗しました。 チェックポイントは完了しませんでした。**

**説明:**
インポート操作はチェックポイントが完了する前に失敗しました。

**ユーザーの処置:**
インポート・ログ・ファイルをチェックし、問題を訂正してください。

**ICM10012N アクセス制御リストがデフォルト・アクセス制御リストではありません。**

**説明:**
setDefaultACL に提供されたアクセス制御リストは getDefaultACL から獲得されるアクセス制御リストでなければなりません。

**ユーザーの処置:**
ICMCatalog.setDefaultACL の文書をチェックしてください。

**ICM10013N 内部オブジェクト・タイプ *typename* 内のチェックポイント・オブジェクトのユーザー=*username*、ホスト=*hostname*、バッチ=*batchname* が固有ではありません。**

**説明:**
チェックポイントは内部オブジェクト・タイプ内で、ユーザー、ホスト、バッチ・プロパティーに設定されるユニーク ID で保持されます。 あいまいなチェックポイント・オブジェクト・インスタンスが存在することはできません。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡してカタログを修理してもらってください。

---

**ICM10014N チェックポイント識別のためのホスト名を検索することができません。**

**説明:**
ホスト名を検索中に不明なホスト例外が出されました。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

---

**ICM10015N 内部オブジェクト・タイプ *objecttype* のオブジェクト・インスタンスのユーザー=*username*、ホスト=*hostname*、バッチ=*batchname* で作業中に予期しないプロパティー制約例外が発生しました。**

**説明:**
内部チェックポイント・オブジェクト・タイプのインスタンスで作業中にプロパティー制約インスタンス外が出されました。 このオブジェクト・タイプのプロパティーではプロパティー制約が設定されていないため、内部カタログ問題が発生しました。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡してカタログを修理してもらってください。

---

**ICM10016N 内部オブジェクト・タイプ *typename* のオブジェクト・インスタンスのユーザー=*username*、ホスト=*hostname*、バッチ=*batchname* で作業中に予期しないセキュリティー例外が発生しました。**

**説明:**
バッチでチェックポイントが完了したときに現行ユーザーによってチェックポイント・オブジェクトが所有されています。 セキュリティー違反が起きてはなりません。

**ユーザーの処置:**
セキュリティー違反を判別し、訂正してください。

---

**ICM10017N 内部オブジェクト・タイプ *objecttype* の削除履歴を記録中に予期しないプロパティー制約例外が発生しました。**

**説明:**
削除履歴を記録するのに使用する内部オブジェクトのインスタンスで作業中にプロパティー制約インスタンス外が出されました。 このオブジェクト・タイプのプロパティーではプロパティー制約が設定されていないため、内部カタログ問題が発生しました。

**ユーザーの処置:**
削除履歴機能をオフにして、データベース管理者に連絡してカタログを修理してもらってください。

---

**ICM10100N 内部オブジェクト・タイプ *objecttype* が見つかりませんでした。このカタログは使用できません。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・センター・アプリケーションをサポートするのに使用される内部オブジェクト・タイプが IBM DB2 ツール・カタログで見つかりませんでした。 カタログはインフォメーション・カタログ・センターの使用で正しく初期化されていないか、または破壊されています。

**ユーザーの処置:**
カタログを含むメタデータ・ストアがインフォメーション・カタログ・センター・アプリケーションで正しく初期化されていることをチェックしてください。

---

**ICM10101N 内部リレーションシップ・タイプ *relationshiptype* が見つかりませんでした。このカタログは使用できません。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・センター・アプリケーションをサポートするのに使用される内部リレーションシップ・タイプが IBM DB2 ツール・カタログで見つかりませんでした。 カタログはインフォメーション・カタログ・センターの使用で正しく初期化されていないか、または破壊されています。

**ユーザーの処置:**
カタログを含むメタデータ・ストアがインフォメーション・カタログ・センター・アプリケーションで正しく初期化されていることをチェックしてください。

---

**ICM10200N　*name* という名前のコレクションはすでに存在します。**

**説明:**
提供された集合名は現行ユーザーで所有された既存の集合名と同一でした。

**ユーザーの処置:**
新規集合に別の名前を指定してください。

---

**ICM10201N　新規集合をデフォルト名で作成することができません。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API は 1000 個までの異なる集合名を作成できます。 すべての 1000 個のデフォルト名がすでに存在するため、新規集合を作成するのに失敗しました。

**ユーザーの処置:**
いくつかの集合をデフォルトではない名前にリネームしてください。

---

**ICM10202N　コレクション *name* が削除のために指定されていますが、現行ユーザーが所有するどのコレクションとも一致しません。**

**説明:**
削除操作のターゲットとして指定された集合名が現行ユーザーの集合で見つかりませんでした。

**ユーザーの処置:**
既存の集合を指定してください。

---

**ICM10203N　コレクション *name* のメンバーを識別するリレーションシップ・インスタンスが見つかりませんでした。**

**説明:**
集合のメンバーを識別するのに使用される内部リレーションシップ・タイプ・インスタンスが集合に関連付けられていませんでした。 内部エラーが発生し、集合は使用できません。

**ユーザーの処置:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API を使用して集合を削除してください。

---

**ICM10204N　コレクション *name* に存在するリレーションシップ・インスタンスが多すぎます。**

**説明:**
複数のリレーションシップ・インスタンスが集合を保管するのに使用する内部オブジェクトのインスタンスにアタッチされたのが検出されました。 インフォメーション・カタログで内部エラーが発生し、この集合は使用できません。

**ユーザーの処置:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API を使用して集合を削除してください。

---

**ICM10205N　コレクション *name* のリレーションシップ・インスタンスが無効です。**

**説明:**
誤ったタイプのリレーションシップ・インスタンスが集合を保管するのに使用する内部オブジェクトのインスタンスにアタッチされたのが検出されました。 これはインフォメーション・カタログの内部エラーであり、集合は使用できません。

**ユーザーの処置:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API を使用して集合を削除してください。

---

**ICM10300N　指定されたプロパティー検索タイプを認識できませんでした。**

**説明:**
DateSearchCriteria または TextSearchCriteria に提供されたプロパティー検索タイプが定義されているタイプの 1 つではありません。

**ユーザーの処置:**
定義されているプロパティー検索タイプの 1 つを指定してください。

---

**ICM10301N　検索日付が指定されていません。**

**説明:**
日付を指定せずに日付検索を実行しようとしました。

**ユーザーの処置:**
開始日、終了日、あるいはその両方を指定してください。

---

**ICM10302N　検索に関連した基準がありません。**

**説明:**
関連した基準がない検索をカタログに書き込むための create メソッドを呼び出そうとしました。

**ユーザーの処置:**
作成する前に、基準を検索と関連付けてください。

---

**ICM10303N　検索 *name* の検索基準をロード中にエラーが発生しました。**

**説明:**
検索のための検索基準をカタログから読み取り中に例外が発生しました。

**ユーザーの処置:**
ネストされた例外をチェックして問題を判別してください。

**ICM10304N　検索 *name* の検索基準を保管中にエラーが発生しました。**

**説明:**
検索のための検索基準をカタログに書き込み中に例外が発生しました。

**ユーザーの処置:**
ネストされた例外をチェックして問題を判別してください。

**ICM10305N　最大戻りオブジェクト・カウントは負にすることはできません。 カウント: *error-code*。**

**説明:**
SearchCriteria オブジェクトに、最大戻りオブジェクトの負の値が提供されました。 SearchCriteria が実行されるとエラーが発生します。

**ユーザーの処置:**
負ではない最大オブジェクト・カウントを指定してください。

**ICM10306N　オブジェクト・タイプ検索集合に外部オブジェクトが含まれています。**

**説明:**
検索する ICMObjectInstances のタイプを識別するのに指定できるのは ICMObjectTypes だけです。

**ユーザーの処置:**
オブジェクト・タイプの集合にタイプ ICMObjectType のオブジェクトのみが含まれることをチェックしてください。

**ICM10307N　検索名 *name* は使用中です。**

**説明:**
ユーザーは同じ名前の 2 つの検索を持つことはできません。

**ユーザーの処置:**
使用中でない検索名を指定してください。

**ICM10308N　新規デフォルト検索名が見つかりません。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API は新規検索を作成するときに 1000 個までの異なるデフォルト検索名を作成できます。 すべてのデフォルト名が使用中のため、新規デフォルト検索名を作成するのに失敗しました。

**ユーザーの処置:**
デフォルト名であるいくつかの検索をリネームしてください。

**ICM10309N　検索ストリングが指定されていません。**

**説明:**
テキスト・ストリングを指定せずにテキスト検索を実行しようとしました。

**ユーザーの処置:**
突き合わせる検索ストリングを指定してください。

**ICM10310N　削除に指定した検索 *name* が現行ユーザーによって所有されている既存の検索と一致しません。**

**説明:**
削除のターゲットとして指定された検索名が現行ユーザーの検索で見つかりませんでした。

**ユーザーの処置:**
既存の検索を指定してください。

**ICM10311N　検索値はテキスト・ストリングでなければなりません。**

**説明:**
テキスト・ストリングではない検索値を TextSearchCriteria に設定しようとしました。

**ユーザーの処置:**
突き合わせる検索テキスト・ストリングを指定してください。

**ICM10400N　メッセージ・テキスト : *user/group* のプロパティー・データを内部オブジェクト・タイプ *objecttype* から検索中にエラーが発生しました。**

**説明:**
保管されているプロパティー情報を内部オブジェクト・タイプのオブジェクト・インスタンスから検索中にインスタンス外が発生しました。

**ユーザーの処置:**

データベース管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

---

**ICM10401N** *user/group* **のプロパティー・データを内部オブジェクト・タイプ** *objecttype* **に保管中にエラーが発生しました。**

**説明:**
プロパティー情報をその内部オブジェクト・タイプのオブジェクト・インスタンスに保管中に例外が発生しました。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

---

**ICM10402N ホスト名を検索できません。**

**説明:**
ホスト名を検索中に不明なホスト例外が出されました。

**ユーザーの処置:**
システム管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

---

**ICM10500N コマンド・ストリング** *command* **でプログラムを開始中にエラーが発生しました。**

**説明:**
オブジェクト・インスタンスでプログラムを呼び出し中にインスタンス外が発生しました。

**ユーザーの処置:**
ネストされた例外をチェックし、プログラムまたはパス・オブジェクトを訂正してください。

---

**ICM10501N BlobProperty をファイルに書き込み中に内部エラーが発生しました。**

**説明:**
BlobProperty がデータベースに作成されましたが、関連オブジェクト・インスタンスは作成されていません。

**ユーザーの処置:**
IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**ICM10502N プロパティー** *propertyname* **が正しいタイプではありません。**

**説明:**
writeBlobToStream または writeClobToWriter に渡されたプロパティー名は正しい Blob または Clob プロパティーではありません。

**ユーザーの処置:**
プロパティーが、呼び出されている方式で必要な Blob または Clob であることをチェックしてください。

---

**ICM10503N オブジェクト・タイプ** *objecttype* **のインスタンスの** *propertyname* **プロパティーから値を検索できません。**

**説明:**
オブジェクト・タイプのプロパティーから値を検索中に例外が発生しました。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

---

**ICM10504N パラメーター化ストリングにアンマッチのパラメーター・マーカーがあります。 ストリング =** *paramstring*。

**説明:**
パラメーター化ストリングのフォーマット設定中にパラメーター・マーカー開始文字が対応するパラメーター・マーカー終了文字なしに見つかりました。

**ユーザーの処置:**
パラメーター化ストリングが有効な形式であることをチェックしてください。

---

**ICM10505N BlobProperty または ClobProperty** *propertyname* **のデータをファイル** *filename* **に書き込み中にエラーが発生しました。**

**説明:**
パラメーター化ストリングのフォーマット設定中にタイプ BlobProperty または ClobProperty のパラメーターがパラメーターの 1 つとして検出されました。 プロパティーの内容をファイルに書き込み中に例外が発生しました。

**ユーザーの処置:**
ネストされた例外をチェックしてください。

---

**ICM10506N プロパティー** *propertyname* **のファイルへの書き込み試行中に内部エラーが発生しました。**

**説明:**
パラメーター化ストリングのフォーマット設定中にプロパティーをファイルに書き込もうとしました。 プロパティーは BlobProperty または ClobProperty ではありませんでした。これらのプロパティー・タイプのみがファイルに書き込むことが許可されています。

**ユーザーの処置:**

IBM サービス技術員に連絡してください。

---

**ICM10600N　アイコンのデータ・サイズ *datasize* が *maxsize* バイトを超えています。**

**説明:**
オブジェクト・タイプに関連するアイコンを指定された最大サイズより大きくすることはできません。

**ユーザーの処置:**
もっと小さいアイコン・ファイルを指定してください。カタログ内のアイコン・データが破壊されている場合はデータベース管理者に連絡してください。

---

**ICM10601N　アイコン・データをカタログから検索中にエラーが発生しました。**

**説明:**
アイコン・データをオブジェクト・タイプから読み取り中に SQLException が発生しました。

**ユーザーの処置:**
ネストされた例外をチェックしてください。

---

**ICM10700N　指定された名前 (*typename*) が複数のオブジェクト・タイプと一致します。**

**説明:**
オブジェクト・タイプを検索するのに使用される名前が複数のオブジェクト・タイプと一致しました。 名前にワイルドカード文字を使用するとこのエラーが起きる場合があります。

**ユーザーの処置:**
オブジェクト・タイプを一意的に識別する名前を提供してください。

---

**ICM10701N　オブジェクト・タイプ *typename* は存在しません。**

**説明:**
インフォメーション・カタログ・マネージャー API 方式で使用されたオブジェクト・タイプ名が既存のオブジェクト・タイプと一致しませんでした。

**ユーザーの処置:**
既存のオブジェクト・タイプの名前を使用してください。

---

**ICM10702N　必須のリレーションシップ・カテゴリー *categoryname* が見つかりません。このカタログは使用できません。**

**説明:**
要求されたインフォメーション・カタログ内のリレーションシップ・カテゴリーの 1 つが見つかりませんでした。 これは致命的エラーです。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡してください。

---

**ICM10703N　オブジェクト・タイプ *typename* はインフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプではありません。**

**説明:**
IBM DB2 ツール・カタログは複数のアプリケーション・プログラムをサポートします。 インフォメーション・カタログ・ユーザーからのオブジェクト・タイプはツール・カタログのすべてのオブジェクト・タイプのサブセットです。 オブジェクト・タイプをインフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプの 1 つではないインフォメーション・カタログ・マネージャー API に渡そうとしたときに例外が発生しました。

**ユーザーの処置:**
インフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプのインフォメーション・カタログ・マネージャー API のみを使用してください。

---

**ICM10704N　オブジェクト・タイプ *typename* のデフォルト・プロパティー可視性フラグを保管する操作が失敗しました。**

**説明:**
このオブジェクト・タイプのデフォルト・プロパティー可視性を定義する情報を保管中に例外が発生しました。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

---

**ICM10705N　オブジェクト・タイプ *typename* のデフォルト・プロパティー可視性フラグをロードする操作が失敗しました。**

**説明:**
このオブジェクト・タイプのデフォルト・プロパティー可視性を定義する情報をロード中に例外が発生しました。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

---

**ICM10706N　オブジェクト・タイプ *typename* はインフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプではありません。**

**説明:**
IBM DB2 ツール・カタログは複数のアプリケーション・プログラムをサポートします。 インフォメーション・カタログ・ユーザーからのオブジェクト・タイプはツール・カタログのすべてのオブジェクト・タイプのサブセットです。 インフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプ・セットにないタイプのオブジェクト・インスタンスがリレーションシップによりインフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプ・セットのオブジェクト・タイプにリンクされたため、インスタンス外が発生しました。

**ユーザーの処置:**
インフォメーション・カタログ・ユーザー・オブジェクト・タイプのインフォメーション・カタログ・マネージャー API を使用してください。

---

**ICM10800N　必須のリレーションシップ制約 *constraintname* は除去できません。**

**説明:**
リレーションシップ・タイプに設定されたリレーションシップ制約は要求された振る舞いをインフォメーション・カタログ内で実施します。 制約は除去されない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
要求されたリレーションシップ制約を除去しないようにしてください。

---

**ICM10801N　必須の制約 *constraintname* をリレーションシップ・タイプ *relationshiptype* に適用中にエラーが発生しました。**

**説明:**
要求された制約オブジェクトをリレーションシップ・タイプに適用するためにインスタンスを生成しようとして例外が発生しました。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡して、ネストされた例外を調べてもらってください。

# 第 18 章 LIC メッセージ

**LIC1052E　このプログラムを実行するには root である必要があります。**

**説明:**
このプログラムは root ユーザー ID でのみ実行できます。 このプログラムを実行するには特別な特権が必要です。

**ユーザーの処置:**
root でログインしてから、コマンドを再発行してください。

**LIC1304E　予期しないエラー。**

**説明:**
ツールで想定外のシステム・エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
DB2 サービス技術員に連絡してください。

**LIC1305E　プロファイル・レジストリーが見つかりません。**

**説明:**
ターゲット・マシンにはプロファイル・レジストリー設定がありません。

**ユーザーの処置:**
DB2 のインストールでターゲット・マシンにレジストリーを作成してください。

**LIC1309E　システム・エラー。**

**説明:**
ツールでオペレーティング・システム・エラーが発生しました。

**ユーザーの処置:**
システム・エラーがレジストリーにアクセス中に発生しました。 レジストリーがある場所のファイル・システムにメモリーが十分あるか、およびレジストリーがリモートの場合、LAN 接続が有効であるか確認してください。

**LIC1400N　db2licm コマンドの構文に誤りがあります。詳細情報については、db2licm -? コマンドを実行してください。**

**説明:**
コントロール・センターがない場合には、db2licm ツールが基本ライセンス機能を実行します。これで、ローカル・システムにインストールされたライセンスが追加、除去、リスト、および変更されます。 -l パラメーターを指定して db2licm ツールを実行することにより、ご使用の製品の製品 ID を調べてください。

db2licm [-a filename]
[-e product-identifier HARD | SOFT]
[-p product-identifier
REGISTERED | CONCURRENT | OFF]
[-r product-identifier]
[-u product-identifier num-users]
[-c product-identifier num-connectors]
[-l]
[-v]
[-?]

コマンド・オプションは以下のとおりです。

**-a**　製品のライセンスを追加します。有効なライセンス情報の入ったファイル名を指定します。これはライセンス製品 CD に収められていますが、お持ちでない場合は、 IBM 担当員または販売代理店に連絡してください。

**-e**　システムの制約ポリシーを更新します。有効な値は HARD および SOFT です。HARD は非ライセンス要求が許可されないことを指定します。 SOFT は非ライセンス要求が制限なしでログに記録されることを指定します。

**-p**　システムで使用するライセンス・ポリシー・タイプを更新します。キーワード CONCURRENT、REGISTERED、または CONCURRENT REGISTERED を指定できます。「OFF」を指定して、すべてのポリシーをオフにします。

**-r**　製品のライセンスを除去します。ライセンスが除去された後は、製品は「試用版」モードで機能します。特定の製品のパスワードを取得するには、-l オプション付きでコマンドを呼び出します。

**-u**　購入したユーザー・ライセンス数を更新します。ライセンスを購入した製品のパスワード、およびユーザーの数を指定してください。

**-c**　購入したコネクター・ライセンス数を更新します。ライセンスを購入した製品のパスワードとコネクターの数を指定してください。

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

**-l** 使用できるライセンス情報 (製品 ID を含む) と共に、すべての製品を一覧で示します。

**-v** バージョン情報を表示します。

**-?** ヘルプ情報を表示します。このオプションが指定されると、その他のすべてのオプションが無視され、ヘルプ情報のみが表示されます。

**ユーザーの処置:**
有効なパラメーターを使用してコマンドを再入力してください。

---

**LIC1401I コマンド行 DB2 ライセンス・マネージャー**

**説明:**
コントロール・センターがない場合には、db2licm ツールが基本ライセンス機能を実行します。これで、ローカル・システムに登録されたライセンスが追加、除去、リスト、および変更されます。 -l パラメーターを指定して db2licm ツールを実行することにより、ご使用の製品の製品 ID を調べてください。

```
db2licm [-a filename]
        [-e product-identifier HARD | SOFT]
        [-p product-identifier
        CONCURRENT | OFF]
        [-r product-identifier]
        [-u product-identifier num-users]
        [-c product-identifier num-connectors]
        [-g filename]
        [-x]
        [-l][show detail]
        [-v]
        [-?]
```

コマンド・オプションは以下のとおりです。

**-a** 製品のライセンスを追加します。有効なライセンス情報の入ったファイル名を指定します。これはライセンス製品 CD に収められていますが、お持ちでない場合は、 IBM 担当員または販売代理店に連絡してください。

**-e** システムの制約ポリシーを更新します。有効な値は HARD および SOFT です。HARD は非ライセンス要求が許可されないことを指定します。 SOFT は非ライセンス要求が制限なしでログに記録されることを指定します。

**-p** システムで使用するライセンス・ポリシー・タイプを更新します。並行ユーザー・ポリシーには、キーワード CONCURRENT を指定できます。「OFF」を指定して、すべてのポリシーをオフにします。

**-r** 製品のライセンスを除去します。製品 ID を指定します。

**-u** 購入したユーザー・ライセンス数を更新します。製品 ID およびユーザー数を指定します。

**-c** 購入したコネクター・ライセンス数を更新します。製品 ID およびコネクター・ライセンス数を指定します。

**-g** 準拠レポートを生成してください。出力を保管するファイル名を指定してください。

**-x** ライセンス準拠レポートのために、ライセンス準拠情報をリセットしてください。

**-l[show detail]**
使用できるライセンス情報 (製品 ID を含む) と共に、すべての製品を一覧で示します。ライセンス機能に関する詳細情報 (存在する場合) を表示するには、[show detail] を指定してください。

**-v** バージョン情報を表示します。

**-?** ヘルプ情報を表示します。このオプションが指定されると、その他のすべてのオプションが無視され、ヘルプ情報のみが表示されます。

---

**LIC1402I ライセンスが正常に追加されました。**

---

**LIC1403I ライセンスが正常に除去されました。**

---

**LIC1404N 製品 ID が見つかりません。**

**説明:**
指定された ID が無効であるか、またはこの製品のライセンスが nodelock ファイル中に見つかりませんでした。

**ユーザーの処置:**
-l オプションを指定してこのコマンドを発行し、入力された ID がこのアクションの対象となる製品にとって正しい製品 ID であるかどうかを確認してください。
nodelock パスワードを使用している場合は、この製品のライセンス・キーが nodelock ファイルにインストールされているかチェックしてください。

---

**LIC1405I ライセンス・ポリシー・タイプが正常に更新されました。**

---

**LIC1406N 無効なライセンス・ポリシー・タイプです。**

**説明:**

入力されたライセンス・ポリシー・タイプが、指定された製品には無効でした。

**ユーザーの処置:**
有効なライセンス・ポリシーを入力してください。オプションは、以下のとおりです。

- CONCURRENT
- オフ

---

**LIC1407N　無効なライセンス証明書ファイルです。**

**説明:**
ライセンス証明書ファイルが正しいフォーマットではありません。

**ユーザーの処置:**
正しいライセンス証明書フォーマットを持つファイルの名前を入力してください。

---

**LIC1408N　ファイル *file-name* をオープンできませんでした。存在していて、オープン可能なファイルの名前を入力し、コマンドを再試行してください。**

**説明:**
ファイルが見つからないか、またはファイルへのアクセスが拒否されました。

**ユーザーの処置:**
存在していて、オープン可能なファイルの名前を入力し、コマンドを再試行してください。

---

**LIC1409N　無効な制約ポリシー・タイプです。**

**説明:**
指定された制約ポリシー・タイプはこの製品には無効です。

**ユーザーの処置:**
指定の製品がサポートする有効な制約ポリシー・タイプを入力してください。

---

**LIC1410I　並行ライセンスが正常に更新されました。**

---

**LIC1411I　制約ポリシー・タイプが正常に更新されました。**

---

**LIC1412W　ハード・ストップ制約ポリシーは、ライセンス交付数を超えたときに非ライセンス・ユーザーによる製品の使用を停止します。**

---

**LIC1413W　ソフト・ストップ制約ポリシーは、ライセンス違反をログに記録しますが、非ライセンス・ユーザーによる製品の使用を許可します。**

---

**LIC1416N　ライセンスを自動的に nodelock ファイルに追加できませんでした。戻りコードは *return-code* です。**

**ユーザーの処置:**
ライセンス証明書が読み取り可能であることを確認してください。 また、手操作でライセンスを nodelock ファイルに入力することもできます。 指示については、ライセンス・ファイルを参照してください。

---

**LIC1417N　指定されたライセンスを nodelock ファイルから除去できません。戻りコードは *return-code* です。この製品のライセンスが nodelock ファイルに存在することを確認してください。**

**ユーザーの処置:**
この製品のライセンスが nodelock ファイルに存在することを確認してください。

---

**LIC1418I　このマシンでライセンスされたプロセッサー数が正しく更新されました。**

---

**LIC1419N　ライセンス・プロセッサー数を更新しようとしてエラーが発生しました。戻りコードは *return-code* です。**

---

**LIC1420N　この製品は、このライセンス・ポリシーのタイプをサポートしていません。**

**説明:**
指定されたライセンス・ポリシーはこの製品に適用されないか、またはサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
有効なライセンス・ポリシーを入力するか、このポリシーをサポートする製品を選択してください。

---

**LIC1421N　指定された製品は、このシステムにインストールされていません。**

**説明:**
製品がインストールされるまで、この製品のライセンス・ポリシーを構成することはできません。

**ユーザーの処置:**
製品をインストールしてからコマンドを実行するか、または正しい製品 ID を指定してください。システムにイ

ンストールされている製品をリストするには、db2licm -l コマンドを使用してください。

---

**LIC1422N　並行ライセンス数は更新されませんでした。戻りコードは *return-code* です。**

**ユーザーの処置:**
この製品で並行ポリシーが可能であることを確認してください。

---

**LIC1423N　このオプションには、インスタンスの作成が必要です。**

**説明:**
このアクションを行うために必要な機能は、インスタンスの作成後にアクセス可能になります。

**ユーザーの処置:**
インスタンスを作成し、このコマンドを出し直してください。

---

**LIC1424N　プロセッサー情報にアクセスしているときに、予期しないエラーが発生しました。**

**説明:**
戻りコードは *return-code* です。

**ユーザーの処置:**
ありません。

---

**LIC1426I　この製品は現在、ご使用条件の指定に基づいてご使用いただくことができます。この製品をご使用いただくには、次のディレクトリーにある IBM ご使用条件への同意が必要です:**
*dir-name*

---

**LIC1427I　この製品は現在、ご使用条件の指定に基づいてご使用いただくことができます。この製品をご使用いただくには、次のディレクトリーにある IBM ご使用条件への同意が必要です:**
*dir-name*

---

**LIC1428N　ライセンス・プロセッサー数を更新しようとしてエラーが発生しました。**

**説明:**
入力されたライセンス・プロセッサーの数が、この製品で許可されているライセンス・プロセッサーの最大数を超えています。

**ユーザーの処置:**
定義されている最大数を超えないライセンス・プロセッサーの数を入力してください。 ご使用のシステムのプロセッサーの数がこの製品に対して許可されているプロセッサーの最大数を超える場合は、IBM 担当員または許可されている販売業者にご連絡ください。

---

**LIC1429N　この製品は、このライセンス・ポリシーの組み合わせをサポートしていません。**

**ユーザーの処置:**
有効なライセンス・ポリシーの組み合わせを入力してください。 たとえば、有効な組み合わせとして ″CONCURRENT REGISTERED″ を指定できます。

---

**LIC1430N　ライセンス日付がオペレーティング・システムの日付よりも後であるため、ライセンスを nodelock ファイルに追加できませんでした。**

**ユーザーの処置:**
証明書ファイルをチェックして、ライセンスの開始日が現在日付 (オペレーティング・システムに設定されている日付) よりも前であることを確認してください。

---

**LIC1431N　このユーザーは、指定されたアクションを実行するための適切な権限を持っていません。**

**説明:**
このプログラムは、root ユーザー ID または SYSADM 権限を持つユーザー ID でしか実行できません。

**ユーザーの処置:**
このコマンドを実行するのに適切な許可を持つユーザー ID を使ってログインしてください。

---

**LIC1432N　この製品が最大数の評価ライセンスを使用しているため、ライセンスを nodelock ファイルに追加できませんでした。評価ライセンスの最大数は *lic-number* です。永続ライセンス・キーを指定してこのコマンドをもう一度実行してください。**

**説明:**
この製品は、最大数の評価ライセンスを使用しています。

**ユーザーの処置:**
永続ライセンス・キーを指定してこのコマンドをもう一度実行してください。

---

**LIC1433N　ライセンス数は更新されませんでした。**

**説明:**
指定したライセンス数は有効範囲内にありません。

**ユーザーの処置:**
有効なライセンス数を使ってこのコマンドをもう一度実行してください。

**LIC1434N　DB2 によって nodelock ファイルにライセンス項目が追加されましたが、そのライセンス項目はアクティブではありません。**

**説明:**
DB2 はこのライセンス項目をアクティブにできなかったため、このライセンスがアクティブになるまでの間、DB2 は前のライセンス構成で実行されます。

**ユーザーの処置:**
コマンドを再試行しても引き続き失敗する場合は、手動で nodelock ファイルを編集するか、または IBM サポートに連絡してください。

nodelock ファイルを手動で編集する場合は、新しいライセンス項目をライセンス項目リストの先頭に移動してください。

nodelock ファイルは以下の場所にあります。

**Windows XP および Windows 2003**
X:¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥IBM¥DB2¥<DB2 copy name>¥license

**Windows Vista**
X:¥ProgramData¥IBM¥DB2¥<DB2 copy name>¥license

ここで、X: はシステム・ドライブです。

その他のプラットフォームの場合、nodelock ファイルは、この製品のインストール・パス中の license ディレクトリーにあります。

ライセンスについて詳しくは、DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

**LIC1435E　nodelock ファイルへのアクセス中に入出力エラーが発生しました。ライセンスを追加できませんでした。**

**説明:**
nodelock ファイルの作成またはアクセス中にエラーが発生しました。このファイル・アクセス設定では、このアクションを行えません。

**ユーザーの処置:**
nodelock ファイルと、nodelock ファイルのあるディレクトリーが、このプログラムへの読み取りアクセスや書き込みアクセスを許可しているかどうかを確認してください。

nodelock ファイルは以下の場所にあります。

**Windows XP および Windows 2003**
X:¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥IBM¥DB2¥<DB2 copy name>¥license

**Windows Vista**
X:¥ProgramData¥IBM¥DB2¥<DB2 copy name>¥license

ここで、X: はシステム・ドライブです。

その他のプラットフォームの場合、nodelock ファイルは、この製品のインストール・パス中の license ディレクトリーにあります。

**LIC1436I　nodelock ファイル中に重複したライセンスが見つかりました。**

**説明:**
DB2 は、この DB2 のインストールに関するこのライセンスが nodelock ファイルにすでに登録されていることを判別しています。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**LIC1437I　ライセンスが正常に更新されました。**

**LIC1438E　nodelock ファイルへのアクセス中に入出力エラーが発生しました。ライセンスを除去できませんでした。**

**説明:**
nodelock ファイルの作成またはアクセス中にエラーが発生しました。このファイル・アクセス設定では、このアクションを行えません。

**ユーザーの処置:**
nodelock ファイルと、nodelock ファイルのあるディレクトリーが、このプログラムへの読み取りアクセスや書き込みアクセスを許可しているかどうかを確認してください。

nodelock ファイルは以下の場所にあります。

**Windows XP および Windows 2003**
X:¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥IBM¥DB2¥<DB2 copy name>¥license

**Windows Vista**
X:¥ProgramData¥IBM¥DB2¥<DB2 copy name>¥license

ここで、X: はシステム・ドライブです。

その他のプラットフォームの場合、nodelock ファイルは、この製品のインストール・パス中の license ディレクトリーにあります。

---

**LIC1439I** **DB2 サーバーが、システムに *product-name* がインストールされていることを検出しました。このオファリングにより取得する製品および機能は、ご使用条件に概略されているようにテストまたは開発目的でのみ使用できます。このオファリングのご使用条件は、この製品のインストール・パスの「license」ディレクトリー内にあります。**

---

**LIC1440I** **ライセンス準拠レポートが正常に生成されました。**

---

**LIC1441I** **ライセンス準拠情報がリセットされました。**

---

**LIC1442E** **準拠レポートの生成中にエラーが発生しました。**

**説明:**
準拠レポートを作成できませんでした。

**ユーザーの処置:**
このプログラムが指定のファイルに書き込みできることを確認して、再試行してください。

---

**LIC1443E** **準拠情報をリセット中に、エラーが発生しました。**

**説明:**
準拠情報をリセットできませんでした。

**ユーザーの処置:**
このプログラムがインストール・パスのライセンス・ディレクトリーに書き込みできることを確認して、再試行してください。

---

**LIC1444E** **入出力エラーが発生しました。戻りコードは *return-code* です。**

---

**LIC1445E** **準拠レポートの生成中にエラーが発生しました。**

**説明:**
準拠レポートの生成中に予期しないエラーが発生しました。準拠レポートを作成できませんでした。

**ユーザーの処置:**

- 少なくとも 1 つの有効な DB2 インスタンスが作成されていることを確認してください。
- DB2 グローバル・レジストリーが破損していないことを確認してください。
- DB2 Administration Server が正常に開始されたことを確認してください。

---

**LIC1446I** **SA MP Base Component のライセンス証明書 *license-certificate-file-name* が正常にインストールされました。**

**説明:**
IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、有効なライセンス証明書が必要です。このライセンス証明書のインストールまたは更新は正常に行われました。

**ユーザーの処置:**
応答は必要ありません。

---

**LIC1447N** **SA MP Base Component のライセンス証明書 *license-certificate-file-name* は正常にインストールされませんでした。**

**説明:**
IBM Tivoli System Automation for Multiplatforms Base Component (SA MP Base Component) を DB2 HA フィーチャーと共に使用するには、有効なライセンス証明書が必要です。このライセンス証明書は正常にインストールまたは更新されませんでした。

DB2 インストーラーを使用してこのライセンス証明書のインストールまたは更新を実行した場合は、DB2 インストール・ログ・ファイル中に、インストールまたは更新が失敗した理由に関する詳細情報が含まれています。

**ユーザーの処置:**
SA MP Base Component に関するこのライセンス証明書のインストールまたは更新を手動で実行するには、以下のコマンドを発行してください。

- samlicm -i *license-certificate-file-name*

samlicm コマンドについて詳しくは、
http://publib.boulder.ibm.com/tividd/td/
IBMTivoliSystemAutomationforMultiplatforms2.2.html を参照してください。

---

**LIC1448I　DB2 での作業を開始できるように、このライセンスはインストール時に自動的に適用されました。**

**説明:**
完全ライセンスを取得するには、この製品では購入したライセンス・ポリシーに適したライセンスが必要です。

**ユーザーの処置:**
ライセンスは、パスポート・アドバンテージからダウンロードするか、製品パッケージの個別の CD で見つけることができます。ダウンロードと CD のどちらの場合も、「アクティベーション CD」というタイトルが付いています。

ご使用の製品のライセンス交付について詳しくは、「licensing」などの用語を使用してインフォメーション・センターで検索してください。

# 第 19 章 MQL メッセージ

**MQL0001E MQListener を呼び出す際、コマンド行に主要機能が指定されていませんでした。**

**説明:**
MQListener コマンド行に、help、run、add、remove、または show などの主要機能が指定されていませんでした。

**ユーザーの処置:**
MQListener の資料を参照し、必要な機能を指定して MQListener を再実行してください。詳しくは、次のコマンドを実行してください。

db2mqlsn help

---

**MQL0002E MQListener を呼び出す際に、無効なコマンド行パラメーター *parameter name* が指定されました。**

**説明:**
MQListener コマンド行に、不明なパラメーター *parameter name* があります。

**ユーザーの処置:**
MQListener の資料を参照し、必要なパラメーターを指定して MQListener を再実行してください。詳しくは、次のコマンドを実行してください。

db2mqlsn help

---

**MQL0003E MQListener を呼び出す際に、必要なコマンド行パラメーター *parameter name* が指定されていませんでした。**

**説明:**
MQListener コマンド行に、必要パラメーター *parameter name* がありませんでした。

**ユーザーの処置:**
MQListener の資料を参照し、必要パラメーターを指定して MQListener を再実行してください。詳しくは、次のコマンドを実行してください。

db2mqlsn help

---

**MQL0004E MQListener を呼び出す際に、コマンド行パラメーター *parameter name* に無効な値 *parameter value* が指定されました。**

**説明:**
MQListener コマンド行の *parameter name* パラメーターの値が正しくありませんでした。正しくない値は *parameter value* です。

**ユーザーの処置:**
MQListener の資料を参照し、必要なパラメーターを指定して MQListener を再実行してください。詳しくは、次のコマンドを実行してください。

db2mqlsn help

---

**MQL0010E MQListener は、操作 *operation name* の実行中にデータベース *database name* にアクセスしていてデータベース・エラーを検出しました。 sqlstate = *sqlstate value* (sqlcode = *sqlcode value*)**

**説明:**
MQListener は、操作 *operation name* の実行中に、データベース *database name* にアクセスしていて DB2 データベース・エラーを検出しました。結果の sqlstate は *sqlstate value* です (sqlcode *sqlcode value*)。

**ユーザーの処置:**
MQListener の資料を参照して、指定されたデータベースに MQListener が正しくインストールされていることと、 -configUser で指定されたユーザー、または MQListener を実行しているユーザーに、 MQListener パッケージと構成表へのアクセスが認可されていることを確認してください。

---

**MQL0011E MQListener は、ユーザー *user name* としてデータベース *database name* へ接続するのに失敗しました。 sqlstate = *sqlstate value* (sqlcode = *sqlcode value*)**

**説明:**
MQListener は、ユーザー *user name* としてデータベース *database name* への接続を試みている際に DB2 データベース・エラーを検出しました。結果の sqlstate は *sqlstate value* です (sqlcode *sqlcode value*)。

**ユーザーの処置:**
*database name* が実行中で、MQListener で設定されたパスワードを使用して *user name* にアクセスできることを確認します。必要であれば、 MQListener の「remove」および「add」機能を使って MQListener を再構成します。

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

**MQL0020E** **MQListener は、キュー・マネージャー** *queue manager* **のオブジェクト** *object name***に対する操作** *operation name* **の実行中に MQ エラーを検出しました。理由コード =** *reason code*。

**説明:**
MQListener は、キュー・マネージャー *queue manager* のオブジェクト *object*に対する操作 *operation name* の実行中に MQ エラーを検出しました。結果の理由コードは *reason code value* です。

**ユーザーの処置:**
MQ が正しくインストールおよび構成されていることと、 MQListener を実行しているユーザーからアクセス可能であることを確認してください。詳細については MQ の資料を参照してください。特に理由コードについての詳細は「WebSphere MQ アプリケーション・プログラミング・リファレンス」(SC88-9225-00) を参照してください。

---

**MQL0021E** **MQListener は、MQ キュー・マネージャー** *queue manager* **への接続に失敗しました。理由コード =** *reason code*。

**説明:**
MQListener は、MQ キュー・マネージャー *queue manager* へ接続している間に MQ エラーを検出しました。結果の理由コードは *reason code*。

**ユーザーの処置:**
MQ が正しくインストールおよび構成されていることと、 MQListener を実行しているユーザーからアクセス可能であることを確認してください。詳細については MQ の資料を参照してください。特に理由コードについての詳細は「WebSphere MQ アプリケーション・プログラミング・リファレンス」(SC88-9225-00) を参照してください。

---

**MQL0022W** **MQListener は、MQ キュー・マネージャー** *queue manager* **からの切断に失敗しました。理由コード =** *reason code*。

**説明:**
MQListener は、MQ キュー・マネージャー *queue manager* から切断しようとしている間に、MQ エラーを検出しました。結果の理由コードは *reason code*。

**ユーザーの処置:**
MQ のインストールと実行が正しく行われていることを確認してください。詳細については MQ の資料を参照してください。特に理由コードの正確な意味について調べてください。

---

**MQL0030E** **MQListener が、データベース** *configuration database name* **の MQListener 構成** *configuration name* **に新規タスクを追加している間に、DB2 データベース・エラーを検出しました。タスクに指定された入力キューは** *input queue* **で、指定されたキュー・マネージャーは** *queue manager* **です。結果の sqlstate は** *sqlstate value* **です (sqlcode =** *sqlcode value*)。

**説明:**
MQListener が、データベース *configuration database name* の MQListener 構成 *configuration name* に新規タスクを追加している間に、DB2 データベース・エラーを検出しました。タスクに指定された入力キューは *input queue* で、指定されたキュー・マネージャーは *queue manager* です。結果の sqlstate は *sqlstate value* です (sqlcode *sqlcode value*)。

**ユーザーの処置:**
MQListener の資料を参照して、指定された構成データベースに MQListener が正しくインストールされていることと、 -configUser で指定されたユーザー、または MQListener を実行しているユーザーに、 MQListener パッケージと構成表へのアクセスが認可されていることを確認してください。構成名、入力キュー、およびキュー・マネージャーの組み合わせが、データベースの MQListener 構成タスクの中でユニークであることを確認してください。構成を検査するには、MQListener の「show」コマンドを使用します。

---

**MQL0040E** **MQListener は、操作** *operation name* **の実行中に、データベース** *configuration database name* **から設定** *configuration name* **を取得しているときに DB2 データベース・エラーを検出しました。結果の sqlstate は** *sqlstate value* **です (sqlcode =** *sqlcode value*)。

**説明:**
MQListener は、操作 *operation name* の実行中に、データベース *configuration database name* から設定 *configuration name* を取得しているときに DB2 データベース・エラーを検出しました。結果の sqlstate は *sqlstate value* です (sqlcode = *sqlcode value*)。

**ユーザーの処置:**
MQListener の資料を参照して、指定された構成データベースに MQListener が正しくインストールされていることと、 -configUser で指定されたユーザー、または

MQListener を実行しているユーザーに、 MQListener パッケージと構成表へのアクセスが認可されていることを確認してください。

---

**MQL0060E** **MQListener は、データベース** *configuration database name* **の構成** *configuration name* **からタスクを削除している間に DB2 データベース・エラーを検出しました。指定された入力キューは** *input queue* **で、指定されたキュー・マネージャーは** *queue manager* **です。結果の sqlstate は** *sqlstate value* **です (sqlcode =** *sqlcode value*)。

**説明:**
MQListener は、データベース *configuration database name* の構成 *configuration name* からタスクを削除している間に DB2 データベース・エラーを検出しました。指定された入力キューは *input queue* で、指定されたキュー・マネージャーは *queue manager* です。結果の sqlstate は *sqlstate value* です (sqlcode = *sqlcode value*)。

**ユーザーの処置:**
MQListener の資料を参照して、指定された構成データベースに MQListener が正しくインストールされていることと、 -configUser で指定されたユーザー、または MQListener を実行しているユーザーに、 MQListener パッケージと構成表へのアクセスが認可されていることを確認してください。

---

**MQL0061I** **MQListener は、データベース** *configuration database name* **の構成** *configuration name* **から不明なタスクを削除しようとしました。指定された入力キューは** *input queue* **で、指定されたキュー・マネージャーは** *queue manager* **です。**

**説明:**
MQListener は、データベース *configuration database name* の構成 *configuration name* から不明なタスクを削除しようとしました。指定された入力キューは *input queue* で、指定されたキュー・マネージャーは *queue manager* です。

**ユーザーの処置:**
指定したパラメーターが正しいことを確認して、MQListener を再実行してください。構成を検査するには、MQListener の「show」コマンドを使用します。

---

**MQL0070E** **MQListener は、ユーザー** *user name* **としてデータベース** *database name* **のストアード・プロシージャー** *schema name.procedure name* **の実行準備をしている間に DB2 データベース・エラーを検出しました。 sqlstate =** *sqlstate value* **(sqlcode =** *sqlcode value*)

**説明:**
MQListener は、ユーザー *user name* としてデータベース *database name* のストアード・プロシージャー *schema name.procedure name* の実行準備をしている間に DB2 データベース・エラーを検出しました。結果の sqlstate は *sqlstate value* です (sqlcode *sqlcode value*)。

**ユーザーの処置:**
MQListener 構成が正しく指定されていること、正しいシグニチャーを持つ、指定されたスキーマと名前のストアード・プロシージャーが存在していること、および指定されたユーザーからこれがアクセス可能であることを確認してください。

---

**MQL0071E** **MQListener は、ユーザー** *user name* **としてデータベース** *database name* **のストアード・プロシージャー** *schema name.procedure name* **のシグニチャーで、サポートされないデータ・タイプを検出しました。データ・タイプ =** *datatype value*。

**説明:**
MQListener は、ユーザー *user name* としてデータベース *database name* のストアード・プロシージャー *schema name.procedure name* のシグニチャーで、サポートされないデータ・タイプを検出しました。データ・タイプは *datatype value* です。

**ユーザーの処置:**
MQListener の資料を参照し、ストアード・プロシージャーのデータ・タイプが正しいことを確認してください。

---

**MQL0072E** **MQListener は、入力キュー** *input queue* **およびキュー・マネージャー** *queue manager* **によって構成** *configuration name* **に指定されたタスクを実行するスレッドを開始できませんでした。 ECF エラー・コードは** *error code* **です。**

**説明:**
MQListener は、入力キュー *input queue* およびキュー・マネージャー *queue manager* によって構成

*configuration name* に指定されたタスクを実行するスレッドを開始できませんでした。 ECF エラー・コードは *error code* です。

**ユーザーの処置:**
MQListener 構成が正しいこと (特に -numInstances パラメーター)、および必要な数のタスクを同時に実行するのに十分なシステム・リソースが MQListener プロセスにあることを確認してください。

---

**MQL0073I** **MQListener は、入力キュー *input queue* およびキュー・マネージャー *queue manager* によって構成 *configuration name* に指定されたタスクを実行するスレッドを開始しました。**

**説明:**
MQListener は、入力キュー *input queue* およびキュー・マネージャー *queue manager* によって構成 *configuration name* に指定されたタスクを実行するスレッドを開始しました。

**ユーザーの処置:**
ありません。これはスレッドの開始に関する通常の通知であり、開始または再始動中に出るはずのものです。

---

**MQL0074I** **MQListener の入力キュー *input queue* およびキュー・マネージャー *queue manager* によって構成 *configuration name* に指定されたタスクを実行するスレッドが終了しました。**

**説明:**
MQListener の構成 *configuration name* (入力キュー *input queue* およびキュー・マネージャー *queue manager*) に指定されたタスクを実行するスレッドが終了しました。

**ユーザーの処置:**
ありません。これはスレッドの終了に関する通常の通知であり、シャットダウンまたは再始動中に出るはずのものです。

---

**MQL0075E** **MQListener は、操作 *operation name* の実行中に、ユーザー *user name* としてデータベース *database name* のストアード・プロシージャー *schema name.procedure name* を実行しているときに DB2 データベース・エラーを検出しました。結果の sqlstate は *sqlstate value* です (sqlcode = *sqlcode value*)。**

**説明:**
MQListener は、操作 *operation name* の実行中に、ユーザー *user name* としてデータベース *database name* のストアード・プロシージャー *schema name.procedure name* を実行しているときに DB2 データベース・エラーを検出しました。結果の sqlstate は *sqlstate value* です (sqlcode *sqlcode value*)。

**ユーザーの処置:**
MQListener の資料を参照して、指定されたデータベースに MQListener が正しくインストールされていることと、指定されたユーザーに MQListener パッケージと構成表へのアクセスが認可されていることを確認してください。ストアード・プロシージャーが正しく実行されていることを確認してください。

---

**MQL0080W** **MQListener は、キュー・マネージャー *queue manager* の管理キュー *admin queue* で以下に示す不明なメッセージを受信しました。 *message***

**説明:**
MQListener は、キュー・マネージャー *queue manager* の管理キュー *queue* で以下に示す不明なメッセージを受信しました。 *message*

**ユーザーの処置:**
MQListener のインストールと構成が正しく行われていること、 MQListener が適切な -adminQMgr および -adminQueue パラメーター値を指定して実行されていること、および MQListener の「admin」コマンドも適切な -adminQMgr および -adminQueue、または -adminQueueList パラメーター値を使用していることを確認してください。 -adminQueueList を使用している場合は、これが適切なキュー名を指定していることを検査します。管理キューを別のアプリケーションが使用していないことを検査します。

---

**MQL0081I** **MQListener は、キュー・マネージャー *queue manager* の管理キュー *admin queue* でシャットダウン・メッセージを受信しました。**

**説明:**
MQListener は、キュー・マネージャー *queue manager* の管理キュー *admin queue* でシャットダウン・メッセージを受信しました。

**ユーザーの処置:**
ありません。これは、シャットダウン・メッセージの受信に関する通常の通知です。

---

**MQL0082I** **MQListener は、キュー・マネージャー *queue manager* の管理キュー *admin queue* で再始動メッセージを受信しました。**

**説明:**

MQListener は、キュー・マネージャー *queue manager* の管理キュー *admin queue* で再始動メッセージを受信しました。

**ユーザーの処置:**
ありません。これは、再始動メッセージの受信に関する通常の通知です。

# 第 20 章 SAT メッセージ

このセクションには、サテライト (SAT) メッセージが含まれています。メッセージは番号順にリストされています。

**SAT1000I　グループの最初のアプリケーション・バージョンは、代表的なサテライト・インストールで使用される値に一致するようにデフォルト設定されています。**

**説明:**
一般的な方法でサテライトをインストールする場合、サテライトのアプリケーション・バージョンは事前定義値に設定されます。 この事前定義アプリケーション・バージョンは、グループで作成される最初のアプリケーション・バージョンのデフォルト値と同じです。

**ユーザーの処置:**
一般的な方法でこのグループのサテライトをインストールしなかったり、またはグループのアプリケーション・バージョンを変更した場合、あるいはインストール後にさらにサテライトをインストールした場合は、新しいアプリケーション・バージョンを作成するために指定した ID とサテライトのアプリケーション・バージョンの整合性がとれているかどうかを確認してください。

**SAT1001I　いずれかのノートブック・ページで必須情報が欠落しています。ノートブックは、情報が欠落しているページに戻ります。**

**説明:**
アクションを完了するには、すべての必須フィールドが埋められていなければなりません。

**ユーザーの処置:**
必須情報を入力して、アクションを再試行してください。

**SAT1002I　選択したターゲットへのテスト接続またはアタッチメントが、指定された認証クレデンシャルを使用して正常に終了しました。**

**説明:**
ターゲットへの接続が試みられました。 指定の認証クレデンシャルを使用して、接続またはアタッチメントが正常に確立されました。

**ユーザーの処置:**
アクションは不要です。

**SAT2000W　変更は保管されませんでした。 今保管しますか?**

**説明:**
変更を保管せずにウィンドウまたはノートブックを終了しようとしています。

**ユーザーの処置:**
変更を保管するには、「はい」をクリックします。 そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

**SAT2001W　ATTACH または CONNECT ステートメントがスクリプト内で検出されました。**

**説明:**
スクリプト内容に CONNECT または ATTACH ステートメントが含まれていると思われます。 サテライトでは、DB2 インスタンスまたは DB2 データベース・スクリプトが実行される前に、必要なインスタンス・レベル接続またはデータベース・レベル接続が自動的に確立されます。 したがって、スクリプトが複数の実行ターゲットを指定しない場合は、 DB2 インスタンスまたはデータベース・スクリプトに ATTACH または CONNECT ステートメントを組み込む必要はありません。

**ユーザーの処置:**
スクリプトが複数のターゲットを指定していない場合は、そのスクリプトから CONNECT または ATTACH ステートメントを除去してください。

**SAT2002W　スクリプト内容がスクリプト・タイプと矛盾している可能性があります。**

**説明:**
スクリプト内容がスクリプト・タイプと矛盾するように変更されたか、またはスクリプト・タイプがスクリプト内容と矛盾するように変更されました。

**ユーザーの処置:**
スクリプト・タイプとスクリプト内容に互換性があることを確認してください。

**SAT2003W　暗黙表スペースが作成されました。**

**説明:**

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

プロモーションが少なくとも 1 つの暗黙表スペースを作成しました。

**ユーザーの処置:**
作成された暗黙表スペースがあなたのビジネス要件に合っていない場合は、スクリプトの表スペースを変更してください。

---

**SAT2014W　サテライト *satellite* を本当にプロモートしますか?**

**説明:**
サテライトをプロモートすると、サテライトがグループのバッチの実行を開始します。サテライトが修正バッチを正常に実行して、いつでもグループ・バッチを実行できる状態になったときにのみサテライトをプロモートしてください。

**ユーザーの処置:**
サテライトをグループ・バッチの実行にプロモートするには「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

---

**SAT2015W　サテライト *satellite* を本当に修正しますか?**

**説明:**
サテライトを修正モードに設定すると、サテライトでグループ・バッチを実行できなくなります。 サテライトは、グループ・バッチの実行にプロモートされるまで修正バッチしか実行できません。サテライトがサービスを要求したときにのみサテライトを修正モードに設定してください。

**ユーザーの処置:**
サテライトを修正モードに設定して修正バッチを実行できるようにするには、「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

---

**SAT2016W　名前 *object* を持つオブジェクトはデータベース *database* にすでに存在します。オブジェクトを本当に上書きしますか?**

**説明:**
オブジェクトを上書きすると、オブジェクトを参照するその他すべてのオブジェクトが影響を受けます。

**ユーザーの処置:**
オブジェクトを上書きするには「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

---

**SAT2017W　名前 *object* のオブジェクトはすでにデータベース *database* に存在しており、他のオブジェクトによって使用中です。オブジェクトの定義を本当に変更しますか?**

**説明:**
オブジェクトの定義を変更すると、そのオブジェクトを参照するその他すべてのオブジェクトが影響を受けます。

**ユーザーの処置:**
オブジェクトの定義を変更するには「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

---

**SAT2018W　オブジェクト *object* の定義を本当に変更しますか?**

**説明:**
オブジェクトの定義を変更すると、そのオブジェクトを参照するその他すべてのオブジェクトが影響を受けます。

**ユーザーの処置:**
オブジェクトの定義を変更するには「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。

---

**SAT2019W　名前 *object* を持つオブジェクトはデータベース *database* にすでに存在します。*object* を *database* に作成する前に名前変更しますか?**

**説明:**
*database* に *object* を作成中に、同じ名前を持つ別のオブジェクトがすでに存在することが見つかりました。オブジェクトはユニークな名前を持っている必要があります。

**ユーザーの処置:**
別の名前でオブジェクトを保管するには「はい」をクリックします。そうでない場合は「いいえ」をクリックしてください。オブジェクトは作成されません。

---

**SAT2020W　選択したサテライトの少なくとも 1 つが現在オンラインになっています。オンラインのサテライトで行うアクションはありません。**

**説明:**
サテライトがオンラインで同期しているとき、そのサテライトは変更できません。

**ユーザーの処置:**

どのサテライトが現在オンラインかを判別します。これらのサテライトがオフラインになってから、要求を再試行してください。

---

**SAT2021W　指定された認証クレデンシャルを使用した、選択したターゲットへのテスト接続またはアタッチメントに失敗しました。**

**説明:**
ターゲットへの接続が試みられました。認証エラーのため、接続を確立できませんでした。

**ユーザーの処置:**
ターゲットに対する認証クレデンシャルが正しいことを確認してから、要求を再試行してください。

---

**SAT2022W　サテライトがテスト・サテライトの場合は、このサテライトへの変更を行うことができます。 サテライトが整合状態のままであるように注意してください。**

**説明:**
サテライトをテスト・サテライトとして設定することは、サテライトがテスト・バッチを実行することを意味します。 テスト・バッチには、不確かな結果をもたらすバッチ・ステップが含まれている可能性があり、サテライトが不整合状態になるかもしれません。サテライトをテスト・サテライトとして設定するときは、こうしたリスクを含んでいることを十分認識した上で行ってください。

**ユーザーの処置:**
サテライトをテスト・サテライトとして設定するには「OK」をクリックします。そうでない場合は、「キャンセル」をクリックしてください。

---

**SAT2023W　このテスト・サテライトを本当に実動サテライトに変更しますか? このサテライトで使用できる管理関数は厳しく制限されます。**

**説明:**
テスト・サテライトは、構成変更を実動サテライトで使用できるようにする前にテストするために使用されます。 したがって、構成変更が成功しなかったときにテスト・サテライトが不整合状態になる可能性があります。テスト・サテライトを修復するには、構成変更を繰り返しテストできるようにサテライトを整合状態に戻します。 テスト・サテライトには、その他の管理アクションを実行することもできます。 サテライトが実動サテライトに変更された場合には、テスト目的で使用できなくなります。このサテライトに使用できる管理関数は、必然的に厳しく制限されます。

**ユーザーの処置:**
サテライトを実動サテライトとして設定するには「OK」をクリックします。そうでない場合は、「キャンセル」をクリックしてください。

---

**SAT2024W　同期セッションが進行中です。 同期セッションを本当に終了しますか?**

**説明:**
同期セッションの処理中に終了アクションが要求されました。

**ユーザーの処置:**
終了を続行した場合、同期セッションが完了する前に停止されます。 終了を取り消して、同期セッションを完了してください。

---

**SAT2025W　統合シナリオに不完全な ″整合した変更データ表″ 以外の表を使用した場合、ターゲット表は、サテライトが同期化する時にリフレッシュされます。**

**説明:**
統合レプリケーション・シナリオにおいて、不完全な ″整合した変更データ表″ の場合は、サテライトが同期化する時に、ターゲット表の全リフレッシュを行いません。 別の表のタイプ (たとえば、ユーザーのコピーまたはポイント・イン・タイム指定のターゲット表) の場合は、サテライトが同期化する時に、ターゲット表の全リフレッシュを行います。 レプリケーション・シナリオを定義する時に、データのキャプチャーを全リフレッシュとして指定した場合、ターゲット表は、サテライトが同期化するたびに完全にリフレッシュされます。 データのキャプチャーを全リフレッシュとして指定しない場合、ターゲット表は、アプライ・プログラムがサテライトで最初に呼び出された時のみ、完全にリフレッシュされます。

**ユーザーの処置:**
サテライトが同期化する時に、ターゲット表をリフレッシュする場合は、アクションは必要ありません。 ターゲット表のタイプを変更する場合は、 DB2 コントロール・サーバーから、レプリケーション・サブスクリプションの一般化による影響を除去し、コントロール・センターへ戻ってレプリケーション・シナリオを変更する必要があります。 それから、レプリケーション・サブスクリプションを再度一般化してください。

---

**SAT2026W　サテライトは、ユーザーがユーザー・データを変更する前に同期化される必要があります。サテライトの最初の同期化の前に変更されたユーザー・データは複製されません。**

**説明:**

サテライトが同期化する時、適用およびアプライ・プログラムがサテライトに呼び出されます。 レプリケーション・シナリオの定義の仕方によって、最初の同期セッションの前のサテライト・データベースにあるユーザー・データに対して行われる変更は、統合されたソースに複写されないか、またはサテライトで上書きされるかのいずれかとなります。

- レプリケーション・シナリオが、サテライトから統合されたソースへ定義されたレプリケーションの方向による任意の場所での統合か更新である場合、最初の同期化セッションの前に、ユーザー・データに対して行われる変更は、サテライトから統合されたソースへの複写されません。 キャプチャー・プログラムが呼び出されると、この変更を収集することができません。
- レプリケーション・シナリオが、統合されたソースからサテライトへ定義されたレプリケーションの方向による任意の場所での分散か更新である場合、最初の同期化セッションの前に、ユーザー・データに対して行われる変更は、サテライトで全リフレッシュが起こった場合に上書きが行われます。

**ユーザーの処置:**
すべてのサテライト・ユーザーに、サテライトでデータを変更する前に、同期化を行うように指示してください。

---

**SAT3000N　名前 *name* はすでに存在します。**

**説明:**
作成しようとしているオブジェクトの名前 *name* がすでに存在します。

**ユーザーの処置:**
ユニーク名を指定してください。

---

**SAT3001N　コピーのターゲット名 *targetname* はすでにデータベース *cdb* に存在します。**

**説明:**
コピーに指定した名前 *targetname* が、ターゲット・サテライト・コントロール・データベース *cdb* でユニークではありません。

**ユーザーの処置:**
ユニーク名を指定してください。

---

**SAT3002N　アプリケーション・バージョン *application-version-name* はグループ *group-name* にすでに存在しています。**

**説明:**
このアプリケーション・バージョンに指定した名前は、すでにこのグループで使用されています。

**ユーザーの処置:**
グループ *group name* で使用されていないアプリケーション・バージョンの名前を指定してください。

---

**SAT3003N　このグループにはアプリケーション・バージョンが存在しません。**

**説明:**
グループに対して要求されたアクションには少なくとも 1 つのアプリケーション・バージョンが必要です。

**ユーザーの処置:**
グループのアプリケーション・バージョンを作成してください。

---

**SAT3004N　オブジェクト *name* は存在しません。**

**説明:**
示されているオブジェクト *name* が存在しません。 オブジェクトを含む表示が埋められた後で、オブジェクトが除去された可能性があります。

**ユーザーの処置:**
オブジェクトが表示される表示をリフレッシュしてください。

---

**SAT3005N　オブジェクト *name* は、現在他のオブジェクトによって参照されているため削除できません。**

**説明:**
別のオブジェクトが参照しているため、オブジェクト *name* を削除できません。 *name* が削除された場合は、整合性を維持できません。

**ユーザーの処置:**
このオブジェクトを削除する前に、オブジェクトに従属するすべてのオブジェクトを削除してください。

---

**SAT3006N　少なくとも 1 つの使用可能なサテライトを持っているため、グループ *group-name* を削除できません。**

**説明:**
グループを削除する前に、グループとともに削除できるようにそのすべてのサテライトを使用不可にしてください。 グループ内に少なくとも 1 つの使用可能なサテライトが見つかりました。

**ユーザーの処置:**
このグループ内のすべてのサテライトを使用不可にしてください。

---

**SAT3007N　テスト・レベルか実動レベルのバッチを持つ少なくとも 1 つのアプリケーション・バージョンがあるため、グループ *group-name* を削除できません。**

**説明:**
実動レベルおよびテスト・レベルのバッチは、サテライトが使用するアクティブ・レベルと見なされます。 したがって、これらのバッチを削除することはできません。 つまりアプリケーション・バージョン、アプリケーション・バージョンが属するグループを削除することはできません。

**ユーザーの処置:**
このグループのすべての実動レベル・バッチを廃止し、すべてのテスト・レベル・バッチを除去します。 その後、要求を再試行してください。

---

**SAT3008N　テスト・レベルか実動レベルのバッチを持っているため、アプリケーション・バージョン *application-version-name* を削除できません。**

**説明:**
実動レベルおよびテスト・レベルのバッチは、サテライトが使用するアクティブ・レベルと見なされます。 したがって、これらのバッチを削除することはできません。つまり、これらのバッチが属するアプリケーション・バージョンを削除することはできません。

**ユーザーの処置:**
このアプリケーション・バージョンの実動レベル・バッチを廃止し、テスト・レベル・バッチを除去します。 その後、要求を再試行してください。

---

**SAT3009N　汎用レプリケーション・サブスクリプション・セットがグループ *group-name* にありません。**

**説明:**
汎用レプリケーション・サブスクリプション・セットがグループ *group-name* にありません。 指定されたアクションには、少なくとも 1 つの汎用レプリケーション・サブスクリプションが存在していなければなりません。

**ユーザーの処置:**
このグループに 1 つ以上の汎用レプリケーション・サブスクリプション・セットを定義してください。

---

**SAT3010N　グループ *group-name* のアプリケーション・バージョンが存在しません。**

**説明:**
グループ *group-name* のアプリケーション・バージョンが存在しません。指定されたアクションには、少なくとも 1 つのアプリケーション・バージョンが存在していなければなりません。

**ユーザーの処置:**
このグループのアプリケーション・バージョンを定義してください。

---

**SAT3011N　グループ *group-name* のアプリケーション・バージョン *application-version-name* にはデフォルトのレプリケーション・サブスクリプション・セットが存在しません。**

**説明:**
グループ *group-name* のアプリケーション・バージョン *application-version-name* のデフォルト・レプリケーション・サブスクリプション・セットが、汎用化アクションにより生成されます。汎用レプリケーション・サブスクリプションをカスタマイズするには、このようなサブスクリプション・セットが必要です。

**ユーザーの処置:**
汎用化アクションが正常に完了したことを確認して、要求を再試行してください。

---

**SAT3012N　グループ *group-name* のアプリケーション・バージョン *application-version-name* のデフォルトのレプリケーション・コントロール・サーバーが汎用レプリケーション・サブスクリプション・アクションによって生成されました。このようなコントロール・サーバーは、汎用レプリケーション・サブスクリプションがカスタマイズされる前に必要です。**

**説明:**
グループ *group-name* のアプリケーション・バージョン *application-version-name* のデフォルトのレプリケーション・コントロール・サーバーは存在しません。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション・サブスクリプションの汎用化が正常に完了したことを確認します。 その後、要求を再試行してください。

---

**SAT3013N　確認パスワードが指定されたパスワードと一致しません。**

**説明:**
確認パスワードは、指定されたパスワードと一致していなければなりません。パスワードでは大文字小文字が区別されます。

**ユーザーの処置:**
確認パスワードをもう一度入力します。 入力されたすべての文字が、オリジナルのパスワードとまったく同じであることを確認してください。

**SAT3014N　少なくとも 1 つの指定されたバッチ・ステップがターゲット別名、成功コード・セット、またはその両方を持っていません。**

**説明:**
新しいバッチ・ステップとしてスクリプトがインポートまたは追加されたときに、新しいバッチ・ステップ用に追加する必要があるターゲット別名および成功コード・セットが提供されませんでした。

**ユーザーの処置:**
どのバッチ・ステップにターゲット別名または成功コード・セットが欠落しているかを識別して、欠落情報を追加してください。

**SAT3015N　ターゲット別名が選択されていません。認証クレデンシャルを指定するには、ターゲット別名を選択する必要があります。**

**説明:**
認証をターゲット別名と関連付けるには、まずターゲット別名を指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
ターゲット別名を指定します。 その後、要求を再試行してください。

**SAT3016N　アプリケーション・バージョンがこのサテライトに設定されていません。このページは、サテライトがアプリケーション・バージョンを報告するまで使用できません。**

**説明:**
サテライトはアプリケーション・バージョンのバッチを実行します。 このサテライトが、そのアプリケーション・バージョンを報告しませんでした。 したがって、アプリケーション・バージョンのバッチ・ステップを指定できません。

**ユーザーの処置:**
サテライト自体にアプリケーション・バージョンを割り当ててください。サテライト管理センターからこのアクションを実行することはできません。

**SAT3017N　アクションを実行できません。アプリケーション・バージョンが設定されていません。**

**説明:**
サテライトはアプリケーション・バージョンのバッチを実行します。 このサテライトが、そのアプリケーション・バージョンを報告しませんでした。 したがって、指定されたアクションを実行できません。

**ユーザーの処置:**
サテライト自体にアプリケーション・バージョンを割り当ててください。サテライト管理センターからこのアクションを実行することはできません。

**SAT3018N　実行ターゲットのタイプがスクリプトのタイプに対して正しくありません。**

**説明:**
正しくないターゲット別名が選択されました。 スクリプトは、別のタイプのターゲットに対して実行されるように指定されています。

**ユーザーの処置:**
選択されたスクリプトと同じタイプのターゲット別名を選択します。 その後、要求を再試行してください。

**SAT3019N　指定された成功コード範囲が競合しています。**

**説明:**
成功コード・セットには、「より小さい」(<) 関係で指定された数の範囲とオーバーラップする数の範囲を指定する「より大きい」(>) 関係を入れることはできません。たとえば、 > 10、< 11 の 2 つの関係を同じ成功コード・セットで使用することはできません。

**ユーザーの処置:**
範囲内でオーバーラップするこのような関係を成功コード・セットから除去するか、または訂正してください。2 つの数の間に限られた範囲の数を指定するには、範囲内のそれぞれの数に a、b、等号 (=) 関係を指定する必要があります。 たとえば、5 と 10 の間に成功コードとして限られた範囲の数を指定するには、
=5、=6、=7、=8、=9 および =10 の等号関係が必要です。

**SAT3022N　プロモーションが以下のエラーで失敗しました。 SQLCODE=*sqlcode*、SQLSTATE=*sqlatate*、トークン: *token1*、*token2*、 *token3*。ロケーション *location* にエラーがあります。**

**説明:**
プロモーションが、予期しない状況で失敗しました。

**ユーザーの処置:**
ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

**SAT3023N　システム・エラーまたは内部エラーが発生しました。**

**説明:**
考えられるエラーには、オペレーティング・システムによって返されるシステム・エラー、リソース不足、不正な構成などがあります。

**ユーザーの処置:**
レプリケーション構成を確認するか、またはシステム管理者か IBM サービスに連絡してください。

**SAT3024N　レプリケーション・サーバーがサポートされていないレベルにあります。**

**説明:**
レプリケーション・サーバーの製品レベルがサポートされていません。

**ユーザーの処置:**
サポートされているレベルにアップグレードしてください。

**SAT3025N　レプリケーション・サーバーに接続したときに認証障害が発生しました。**

**説明:**
このアクションには、レプリケーション・サーバーの認証が必要です。 いずれかのサーバーの認証に失敗しました。

**ユーザーの処置:**
正しいユーザー ID およびパスワードを指定したかどうか確認します。要求を再試行するか、またはシステム管理者に連絡してください。

**SAT3026N　生成されたスクリプトのサイズが使用可能なストレージを超えました。**

**説明:**
このアクションによってスクリプトが生成されました。生成されたスクリプトの少なくとも 1 つが、使用可能な最大ストレージを超えています。

**ユーザーの処置:**
システム管理者か IBM サービスに連絡してください。

**SAT3027N　レプリケーション・ソース・サーバー、コントロール・サーバー、ターゲット・サーバーのデータベース・ディレクトリー項目がインスタンス *instance-name* に存在しません。**

**説明:**
このアクションを行うには、インスタンス *instance-name* に、レプリケーション・ソース・サーバー、コントロール・サーバー、およびターゲット・サーバーのデータベース・ディレクトリー項目が存在している必要があります。ディレクトリー項目の少なくとも 1 つが見つかりませんでした。

**ユーザーの処置:**
*instance-name* でレプリケーション・ソース・サーバー、コントロール・サーバー、およびターゲット・サーバーをカタログします。またはシステム管理者か IBM サービスに連絡してください。

**SAT3028N　修正バッチ *batch* は、少なくとも 1 つのサテライトによって使用されているため削除できません。**

**説明:**
現在使用されているバッチを削除することはできません。

**ユーザーの処置:**
バッチがサテライトで使用されなくなるまでお待ちください。 その後、要求を再試行してください。

**SAT3029N　スクリプト *script* は、少なくとも 1 つの実動または廃止バッチ・ステップによって使用されているため変更できません。**

**説明:**
スクリプトは、実動または廃止バッチ・ステップで使用されていない場合にのみ変更できます。

**ユーザーの処置:**
スクリプトが実動または廃止バッチ・ステップで現在使用されていないことを確認します。 その後、要求を再試行してください。

**SAT3030N　廃止されていないバッチによって使用されているため、指定された廃止バッチ・ステップを削除できません。**

**説明:**
廃止バッチ・ステップは、廃止レベルではないバッチによって使用されていない場合のみ削除できます。

**ユーザーの処置:**
このバッチ・ステップを使用するバッチがサテライトで使用されていない場合は、廃止レベルに移動します。その後、要求を再試行してください。

---

**SAT3031N　バッチ・ステップのセットの最後のステップではないため、このバッチ・ステップは削除できません。**

**説明:**
バッチ・ステップのセットの中にあるバッチ・ステップを削除することはできません。まず、その後のすべてのバッチ・ステップを削除する必要があります。

**ユーザーの処置:**
削除するバッチ・ステップの後のすべてのバッチ・ステップを削除します。 その後、要求を再試行してください。

---

**SAT3032N　実動バッチ・ステップを削除できません。**

**説明:**
実動バッチ・ステップは同期のために実動サテライトで使用されているため、削除できません。 削除できるのは、テスト、未割り当て、および廃止バッチ・ステップだけです。

**ユーザーの処置:**
バッチ・ステップを実動から取り出します。 その後、要求を再試行してください。

---

**SAT3033N　サテライト・コントロール・データベース SATCTLDB がデータベース・ディレクトリー内で検出されないため、サテライトの同期に失敗しました。**

**説明:**
サテライト・コントロール・データベースがデータベース・ディレクトリーに正しくカタログされていません。

**ユーザーの処置:**
ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

---

**SAT3034N　サテライト・コントロール・サーバーでの認証エラーのため、サテライトの同期に失敗しました。**

**説明:**
コントロール・サーバーに送信されたユーザー ID またはパスワードが正しくありません。

**ユーザーの処置:**
ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

---

**SAT3035N　サテライト ID がローカルで検出されないため、サテライトの同期に失敗しました。**

**説明:**
このエラーは、オペレーティング・システム・ログオンを省略したために起きた可能性があります。

**ユーザーの処置:**
すでにオペレーティング・システムにログオンしている場合、ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

---

**SAT3036N　サテライト・コントロール・サーバーがこのサテライトを認識しないため、サテライトの同期に失敗しました。**

**説明:**
サテライト ID がサテライトで正しく定義されていないか、またはこのサテライトがサテライト・コントロール・サーバーで正しく定義されていません。

**ユーザーの処置:**
ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

---

**SAT3037N　不明エラーのため、サテライトの同期に失敗しました。**

**説明:**
不明です。

**ユーザーの処置:**
ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

---

**SAT3038N　シンクロナイザーが重大な DB2 エラーを検出しました。同期を継続できません。**

**説明:**
この重大エラーの原因は不明です。

**ユーザーの処置:**
ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

---

**SAT3039N　サテライトの同期に失敗しました。 サテライトがサテライト・コントロール・サーバーで失敗状態にあります。**

**説明:**
このサテライトが障害状態になっているため、修正する必要があります。

**ユーザーの処置:**

ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

**SAT3040N　サテライト・コントロール・サーバーに接触できないため、サテライトの同期に失敗しました。**

**説明:**
サテライトとそのコントロール・サーバーの間の通信を確立できませんでした。 コントロール・サーバーが操作可能でないか、または通信構成が正しくない (たとえば、サテライト・コントロール・サーバーのホスト名またはポート番号が正しくない) と考えられます。

**ユーザーの処置:**
ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

**SAT3041N　サテライト・コントロール・サーバーとの通信が失われたため、サテライトの同期に失敗しました。**

**説明:**
通信リンク障害が起きました。 サテライト・コントロール・サーバーが非活動状態になっているか、またはネットワーク障害が起きました。

**ユーザーの処置:**
ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

**SAT3042N　サテライトの同期セッションで、一部のタスクが正常に完了しませんでした。**

**説明:**
サテライト同期セッション中にエラーが起きました。

**ユーザーの処置:**
ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

**SAT3043N　サテライトの同期セッションが正常に開始しませんでした。**

**説明:**
サテライト同期セッションの始動フェーズでエラーが起きました。

**ユーザーの処置:**
ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

**SAT3044N　サテライトの同期セッションのクリーンアップ・フェーズが正常に完了しませんでした。**

**説明:**
サテライト同期セッションのクリーンアップ・フェーズでエラーが起きました。

**ユーザーの処置:**
ヘルプ・デスクまたはシステム管理者に連絡してください。

**SAT3045N　*control-server* は有効なレプリケーション・コントロール・サーバーではありません。**

**説明:**
選択されたサーバーは有効なレプリケーション・コントロール・サーバーではありません。要求は完了できません。

**ユーザーの処置:**
有効なレプリケーション・コントロール・サーバーを選択してから要求を再試行してください。

**SAT3046N　グループ *group-name* のアプリケーション・バージョン *application-version-name* には汎用レプリケーション・サブスクリプション・セットが存在しません。**

**説明:**
グループ *group-name* のアプリケーション・バージョン *application-version-name* には、汎用レプリケーション・サブスクリプション・セットがありません。一般化されたレプリケーション・サブスクリプション・セットは、カスタマイズの前に存在している必要があります。

**ユーザーの処置:**
アプリケーション・バージョン用に 1 つ以上のレプリケーション・サブスクリプション・セットを一般化して、要求を再度試行してください。

**SAT3047N　フィールド *field-name* の入力が限度を超えています。このフィールドに対して許可される最大長は *maximum-length* です。**

**説明:**
フィールド *field-name* の入力の長さが、*maximum-length* の限度を超えています。

**ユーザーの処置:**
入力が最大限度内であることを確認して、要求を再試行してください。

**SAT3048N　複数のターゲット・サーバーが、コントロール・サーバー *control-server* のアプライ修飾子 *apply-qualifier* に関連づけられています。**

**説明:**
レプリケーション・サブスクリプションのターゲット・サーバーが指定のアプリケーション・バージョンを実行しているグループのサテライトを表しています。 その結果、提供されたアプライ修飾子にはターゲット・サーバーが 1 つだけ認められます。 レプリケーション構成が単一ターゲット・サーバーを指定すると、関連したアプライ修飾子が正しく指定されていない可能性があります。そうでない場合、レプリケーション構成はサテライト環境では一般化のために受け入れられない可能性があります。

**ユーザーの処置:**
まず、レプリケーション構成が複数のターゲット・サーバーを指定していないか、確認します。 指定している場合、レプリケーション構成を訂正し、レプリケーション・サブスクリプションの一般化要求を再試行してください。 レプリケーション構成が複数のターゲット・サーバーを指定していない場合、正しいアプライ修飾子がレプリケーション・サブスクリプションの一般化要求に指定されているか確認してください。 その後、要求を再試行してください。

---

**SAT3049N　ファイル名が無効である。**

**説明:**
文字 ¥ / : * ? " < > | のいずれかが含まれているため、ファイル名は無効です。

**ユーザーの処置:**
ファイル名には、上の文字を使用しないようにしてください。 その後、要求を再試行してください。

---

**SAT3050N　選択されたサテライトの 1 つまたは複数に、アプリケーション・バージョンがありません。**

**説明:**
アプリケーション・バージョンのないサテライトのレプリケーション・パラメーターを変更することはできません。

**ユーザーの処置:**
選択されたサテライトがすべて、アプリケーション・バージョンを持つようにしてください。その後、要求を再試行してください。

---

**SAT3051N　レプリケーション・サブスクリプションの汎用化に失敗しました。生成されたスクリプトの少なくとも 1 つが空です。**

**説明:**
生成されたスクリプトの少なくとも 1 つが空です。

**ユーザーの処置:**
汎用化を再試行してください。 問題が解決されない場合は、IBM サービスに連絡してください。

---

**SAT3052N　データベース別名またはデータベース名 *name* が見つかりません。**

**説明:**
コマンドに指定されているデータベース名または別名が見つかりません。 データベースがデータベース・ディレクトリー内でカタログされていないか、あるいは存在しません。

**ユーザーの処置:**
示されているデータベース名がシステム・データベース・ディレクトリーに存在し、そのデータベースが存在することを確認してください。 その後、要求を再試行してください。

---

**SAT4000C　*cdb* は、有効なサテライト・コントロール・データベースではありません。**

**説明:**
データベース *cdb* は、有効なサテライト・コントロール・データベースではありません。 まず、データベース SATCTLDB がサテライト・コントロール・データベースと想定されます。 このようなデータベースに対して実行される、サテライト管理に関するアクションは、まずそのデータベースが有効かどうかを確認します。 データベースが正しく構成されていない場合、アクションは成功しません。 *cdb* がサテライト・コントロール・データベースの場合、そのデータベースが使用できなくなるように構成が変更されました。そうでない場合は、非コントロール・データベースに SATCTLDB という名前が付けられました。

**ユーザーの処置:**
データベースをサテライト・コントロール・データベースと誤って表すことを避けるには、データベースを SATCTLDB 以外の名前に変更します。 *cdb* がサテライト・コントロール・データベースの場合は、その構成をオリジナルの定義とともに確認してください。

# 第 21 章 SPM メッセージ

このセクションには、同期点マネージャー (SPM) のメッセージが記載されています。 メッセージは番号順にリストされています。

**SPM0400　DBALIAS=*dbalias* による未確定トランザクションの解決でヒューリスティック・ダメージが示されている - データベースが UOW およびコミットされた LUNAME=*luname* のコーディネーターをロールバックしました。トランザクションは LUWID=*luwid* によって識別されます。**

**説明:**
DB2 は、*luwid* によって識別されるトランザクションの DRDA2 AS でした。 DB2 データベースによる解決で、ヒューリスティック・ダメージの発生が示されています。 *dbalias* で識別されるデータベースは、未確定のトランザクションを手操作で解決しました。 *luname* の DB2 データベースはトランザクションをロールバックしました。これは、*luname* の DRDA2 コーディネーターのコミットの決定に反しています。

- アプリケーションには、トランザクションのコミットが伝えられました。
- 参加者側で更新されたリソースがロールバックされました。

**dbalias**　DB2 データベースの別名。

**luname**　コーディネーターの LU 名。

**luwid**　トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者による未確定の解決は完了します。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡してください。

**データベース管理者のアクション**: COORDINATOR *luname* および DATABASE *dbalias* の両方のデータベース管理者に、*luwid* のトランザクションにヒューリスティック・ダメージが起こったことを知らせてください。 DB2 はこのトランザクションの DRDA2 AS でした。 COORDINATOR *luname* の DRDA2 AR は、*luwid* が行ったデータベースの更新を COMMIT する決定を行いました。 *dbalias* PARTICIPANT は、*luwid* が行った更新を ROLL BACK する経験的な決定を行いました。

**SPM0401　DBALIAS=*dbalias* による未確定トランザクションの解決でヒューリスティック・ダメージが示されている - データベースがコミットされ、 LUNAME=*luname* のコーディネーターをロールバックしました。トランザクションは LUWID=*luwid* によって識別されます。**

**説明:**
DB2 は、*luwid* によって識別されるトランザクションの DRDA2 AS でした。 DB2 データベースによる解決で、ヒューリスティック・ダメージの発生が示されています。 *dbalias* で識別されるデータベースは、未確定のトランザクションを手操作で解決しました。 *dbalias* がトランザクションをコミットしました。これは *luname* の DRDA2 COORDINATOR のロールバックの決定に反しています。

- アプリケーションには、トランザクションのロールバックが伝えられました。
- 参加者側で更新されたリソースがコミットされました。

**dbalias**　DB2 データベースの別名。

**luname**　コーディネーターの LU 名。

**luwid**　トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者による未確定の解決は完了します。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡してください。

**データベース管理者のアクション**: COORDINATOR *luname* および DATABASE *dbalias* の両方のデータベース管理者に、*luwid* のトランザクションにヒューリスティック・ダメージが起こったことを知らせてください。 DB2 はこのトランザクションの DRDA2 AS でした。 COORDINATOR *luname* の DRDA2 AR は、*luwid* が行ったデータベースの更新をロールバックする決定を行いました。 PARTICIPANT *dbalias* で、*luwid* が行った更新を COMMIT する経験的な決定が行われました。

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

**SPM0402** **LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* の参加者による未解決のトランザクションの解決でヒューリスティック・ダメージが示されている - 参加者はコミットされ、DB2 はロールバックしました。トランザクションは LUWID=*luwid* によって識別されます。**

**説明:**
DB2 は、*luwid* によって識別されるトランザクションを担当するコーディネーターを持っています。参加者による解決で、ヒューリスティック・ダメージの発生が示されています。 *luname* と *dbalias* によって識別される参加者は、手操作で未確定のトランザクションを解決しました。行われたアクションは、このトランザクションをコミットするものでした。これはコーディネーターのロールバックの決定に反しています。

- アプリケーションには、この作業単位のロールバックが伝えられました。
- 参加者側で更新されたリソースがコミットされました。

**dbalias** 参加者のデータベースの別名。

**luname** 参加者の LU 名。

**luwid** トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者による未確定の解決は完了します。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡してください。

**データベース管理者のアクション**: ローカル・データベース管理者と *luname* のデータベース管理者に、*luwid* でトランザクションにヒューリスティック・ダメージが起こったことを知らせてください。 DB2 はトランザクションのコーディネーター側で、*luwid* が行ったデータベースの更新をロールバックする決定を行いました。*luname* で、*luwid* が行った更新を COMMIT するヒューリスティック判定が行われました。

---

**SPM0403** **LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* の参加者による未解決のトランザクションの解決でヒューリスティック・ダメージが示されている - 参加者はロールバックし DB2 はコミットされました。トランザクションは LUWID=*luwid* によって識別されます。**

**説明:**
DB2 は、*luwid* によって識別されるトランザクションを担当するコーディネーターを持っています。参加者による解決で、ヒューリスティック・ダメージの発生が示されています。 *luname* と *dbalias* によって識別される参加者は、手操作で未確定のトランザクションを解決しました。行われたアクションは、UOW をロールバックするものでした。これはコーディネーターのコミットの決定に反しています。

- アプリケーションには、トランザクションのコミットが伝えられました。
- 参加者側で更新されたリソースがロールバックされました。

**luname** 参加者の LU 名。

**dbalias** 参加者のデータベースの別名。

**luwid** トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者による未確定の解決は完了します。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡してください。

**データベース管理者のアクション**: ローカル・データベース管理者と *luname* のデータベース管理者に、*luwid* でトランザクションにヒューリスティック・ダメージが起こったことを知らせてください。 DB2 はトランザクションのコーディネーター側で、*luwid* が行なったデータベースの更新を COMMIT する決定を行ないました。*luname* で、*luwid* が行なった更新を ROLL BACK する経験的な決定が行なわれました。

---

**SPM0404** **LUNAME=*luname1* のコーディネーターによる未確定トランザクションの解決中にプロトコル・エラー - LUNAME=*luname2* の DB2 データベースには、LUWID=*luwid* で識別される未確定トランザクションがあります。**

**説明:**
DB2 は、*luwid* によって識別されるトランザクションの DRDA2 AS でした。 LUNAME=*luname2* のデータベースと関連づけられた DB2 トランザクションは未確定です。 *luname1* によって識別されるコーディネーターによる未確定の解決中にプロトコル・エラーが起こりました。

**luname1**
コーディネーターとして活動しているパートナーの LU 名。

**luname2**
トランザクションが未確定のデータベースの LU 名。

**luwid** トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

未確定のトランザクションは未確定のまま残されます。再同期プロトコル違反トレース・レコードが書き出されます。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡してください。

**データベース管理者のアクション**: DB2 は未確定のトランザクションを自動的には解決しません。 トランザクションを手操作で解決する必要があります。コーディネーター側で行なわれるコミットまたはアボートの決定は、この参加者の DB2 で同じ決定を行うことができるように決定されなければなりません。

*luname* と *dbalias* のコーディネーター側のデータベース管理者に連絡して、トランザクションがコミットされたか打ち切られたかを調べてください。

未確定トランザクションを解決するためには、この (参加者) dbalias で LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用してください。

---

**SPM0405 LUNAME=*luname1* の DB2 データベースの LUWID=*luwid* トランザクションは、LUNAME=*luname2* のコーディネーターとの通信障害のために、未確定です。**

**説明:**
*luname2* でコーディネーターとの 2 フェーズ・コミット・プロトコルの実行中に、通信障害が起こりました。プロトコルのフェーズ 1 は完了して、*luname1* のデータベースでトランザクションが未確定です。

このトランザクションは未確定状態に置かれて、 LIST DRDA INDOUBTS TRANSACTIONS レポートに表示されます。自動的に解決するためにコーディネーターとの通信を再確立する定期的な試みが行なわれます。

**luname1**
トランザクションが未確定のデータベースの LU 名。

**luname2**
コーディネーターの LU 名。

**luwid** トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

未確定の作業単位と関連した XID がこのメッセージにしたがって印刷されます。

未確定のトランザクションを自動的に解決する定期的な試みが行われます。

**ユーザーの処置:**
通信障害の原因を調べて、問題を訂正してください。 DB2 は、自動的に解決するために通信の確立を試みます。 妥当な時間内に自動的な解決が行われない場合には、データベース管理者に連絡してください。 ロックされたリソースを解除するために、未確定のトランザクションを手操作で解決しなければならない場合があります。

**データベース管理者のアクション**: 手操作による解決が必要な場合には、次のようにしてください。

- コーディネーター側で行なったコミットまたはアボートの決定を調べて、DB2 データベースで同じ決定を行うことができるようにしてください。 *luname* のコーディネーター側のデータベース管理者に連絡して、トランザクションがコミットされたか打ち切られたかを調べてください。
- この (参加者の) dbalias で LIST INDOUBTS TRANSACTION コマンドを使用して、未確定のトランザクションを解決してください。

---

**SPM0406 LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* の参加者での LUWID=*luwid* のトランザクションは、通信障害のため未確定になる可能性があります。DB2 はコミットしました。**

**説明:**
*luname* で参加者との 2 フェーズ・コミット・プロトコルの実行中に、通信障害が起こりました。プロトコルのフェーズ 1 は完了して、コミットまたはアボートのためにトランザクションが準備されています。トランザクションをコミットする決定が行なわれましたが、この時点では参加者と通信することができません。参加者は未確定です。

DB2 は、参加者による未確定の解決を担当することになります。その責任については LIST DRDA INDOUBTS TRANSACTION レポートに表示されます。自動的に解決するために、参加者との通信を再確立する定期的な試みが行われます。

**luname** 参加者の LU 装置名。

**dbalias** 参加者のデータベースの別名。

**luwid** トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者の未確定のトランザクションを自動的に解決する定期的な試みが行われます。

**ユーザーの処置:**
通信障害の原因を調べて、問題を訂正してください。 DB2 は、自動的に解決するために通信の再確立を試みます。 妥当な時間内に自動的な解決が行われない場合には、データベース管理者に連絡してください。 ロックされたリソースを解除するために、参加者側でトランザクションを手操作で解決しなければならない場合があります。

**データベース管理者のアクション**: 手操作による解決が必要な場合には、参加者のデータベース管理者に、決定がコミットされることを知らせてください。

---

**SPM0407 LUNAME=*luname* の参加者による LUWID=*luwid* トランザクションの自動的な解決によってコミットが行われました。 DB2 Database は *dbname* です。**

**説明:**
*dbname* で識別されるデータベースの未確定のトランザクションは、*luname* で識別されるコーディネーターとの通信によって自動的に解決されました。トランザクションはコミットされました。

**luname1**
コーディネーターの LU 名。

**luwid** トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

**luname2**
変更が行われたデータベースの LU 名。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

処理は正常に続行されます。

---

**SPM0408 LUNAME=*luname* を使ったパートナーとの自動解決中に、通信エラーが発生しました。使用された通信プロトコル=*protocol*。使用している通信 API=*api*。 エラーを検出した通信関数=*function*。 プロトコル固有エラー・コード: *rc1*、*rc2*、*rc3***

**説明:**
1 つ以上の未確定トランザクションが *luname* に存在します。DB2 が未確定のトランザクションを自動的に解決しようとしましたが、通信エラーが発生しました。

**protocol**
使用中の通信プロトコル。 サポートされるのは ″APPC″ だけです。

**api** 使用中の通信 api。 ″CM2 APPC″ または ″SNA/6000 OS subroutine″ のいずれかを指定することができます。

**codes** ″CM2 APPC″ api の場合には、 rc1、 rc2、および rc3 に 1 次戻りコード、 2 次戻りコード、および SNA センス・コードが入っています。 ″SNA/6000 OS Subroutines″ api の場合には、rc1 に errno グローバル変数が入っています。

**ユーザーの処置:**
通信障害の原因を調べて、問題を訂正してください。 DB2 は、自動的に解決するために通信の再確立を試みます。 妥当な時間内に自動的な解決が行われない場合には、データベース管理者に連絡してください。 ロックされたリソースを解除するために、参加者側でトランザクションを手操作で解決しなければならない場合があります。

**データベース管理者のアクション**: 手操作による解決が必要な場合には、参加者のデータベース管理者に、決定がコミットされることを知らせてください。

---

**SPM0409 LUWID=*luwid* を持つトランザクションは、LUNAME=*luname* のコールド・スタートのため、解決できませんでした。DB2 トランザクション状況=*status*。 DB2 応答可能性=*responsibility*。**

**説明:**
*luname* のパートナーに未確定トランザクションが存在します。パートナーが前にコールド・スタートされていて、未確定トランザクションについてのすべての情報を失っているので、DB2 は未確定トランザクションを解決することができません。

**luwid** トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

**status** DB2 に認識されるトランザクションのコミット状況。 コミット状況は、未確定、コミット、またはロールバックのいずれかです。

**responsibility**
DB2 トランザクションの担当。 DB2 は、コーディネーターまたは参加者のいずれかになります。

**ユーザーの処置:**
コーディネーターおよび参加者に矛盾するデータがあると考えられます。データベース管理者にトランザクションの状況を知らせてください。

**データベース管理者のアクション**: 手操作による解決が必要です。 ヒューリスティック判定 (すなわち、トランザクションをコミットするかロールバックするか) は、他の参加者あるいはコーディネーターと調整する必要があります。他の参加者の存在を判別するのは容易ではありません。この情報は、コーディネーターがコールド・スタートしていても、コーディネーターのリカバリー・ログに入っていることがあります。

LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用して行われたコミットまたはアボートの決定は、ダウンストリームのすべての参加者 (存在すれば) に伝搬されます。

---

**SPM0410** **LUNAME=*luname* のパートナーによるウォーム・スタート接続が拒否されました。パートナーは、少なくとも次のうち 1 つを変更しました。当方側ログ名 *oldourname*(*newourname*)、相手側ログ名 *oldtheirname*(*newtheirname*)、同期点プロトコル *oldpa(newpa)*、送信されたフラグ・バイト *oldfb(newfb)*、送信された ccluname *oldccls(newccls)*。そして未確定トランザクションには解決が必要です。**

**説明:**
パートナーが通信の失われた時点で使用していたものとは違う同期点セットを指定しているので、パートナーとのウォーム・スタート接続を行おうとする試みが拒否されました。 DB2 は、パートナーに関係した (コーディネーターまたは参加者としての) 未確定のトランザクションについての情報を保存しています。このエラーは、パートナーが元の同期点パラメーターを指定して再始動できれば、リカバリー可能エラーになります。それができない場合には、パートナーは DB2 とのコールド・スタート接続を実行しなければなりません。

**luname** パートナーの LU 名。

**oldourname**
この DB2 サブシステムのログ名。この値は、パートナーがログ名の交換を開始していない場合には、NULL です。

**newourname**
パートナーが記憶していて、ウォーム・スタート接続を行おうとして送信してきたこの DB2 のログ名。この値は、パートナーがログ名の交換を開始していない場合には、NULL です。

**oldtheirname**
最後の接続時にパートナーが使用して、DB2 が記憶しているログ名。

**newtheirname**
ウォーム・スタート接続を行おうとしてパートナーが使用したログ名。

**oldpa** 最後の接続時に使用された、DB2 が記憶している同期点プロトコル (PA - 中止と見なされた、PN - 何もないと見なされた)。

**newpa** 最後の接続時に使用された、パートナーが記憶している同期点プロトコル (PA - 中止と見なされた、PN - 何もないと見なされた)。

**oldfb** 最後の接続時の、DB2 が記憶している PS ヘッダー・バイト 2 の使用法 (F - フラグ・バイトとして使用された、N - フラグ・バイトとして使用されなかった)。

**newfb** 最後の接続時の、パートナーが記憶している PS ヘッダー・バイト 2 の使用法 (F - フラグ・バイトとして使用された、N - フラグ・バイトとして使用されなかった)。

**oldccls** 会話相関関係子が最後の接続中に、DB2 が記憶している同期点プロトコルの一部として交換されたかどうか (E - 交換された、N - 交換されなかった)。

**newccls** 最後の接続時の、パートナーが記憶している、対話相互関係子の luname が同期点プロトコルの一部として交換されたかどうか (E - 交換された、N - 交換されなかった)。

パートナーとの接続は拒否されます。 DB2 は未確定の情報を保存します。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡してください。

**データベース管理者のアクション**: パートナー *luname* のデータベース管理者に連絡し、パートナーが同じ同期点パラメーター
('oldourname'、'oldtheirname'、'oldpa'、'oldfb'、'oldccls') を、当方側のものとして使ってウォーム・スタートを実行できるかどうかを判別してください。これが可能であれば、次回の接続は正常に行われます。

これが可能でない場合に可能性のある解決法は次の 2 つです。

- パートナー *luname* に、この DB2 サブシステムとのコールド・スタート接続を実行させる。
- パートナーに次回はコールド・スタート接続で接続させる。

---

**SPM0411** **LUNAME=*luname* のコーディネーターによるコールド・スタート接続が受け入れられました。未確定のトランザクションは手操作で解決する必要があります。**

**説明:**
DB2 は DRDA2 AS で、未確定トランザクションを担当する参加者を持っています。コーディネーターは、コールド・スタート操作を実行していて、未確定トランザクションについてのすべての情報を失ったことを DB2 に伝えています。この DB2 の未確定トランザクションは、LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用して手操作で解決されなければなりません。

**dbalias** コーディネーターのデータベースの別名。

パートナーとの接続は受け入れられます。トレース・レコードが書き出されます。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡してください。

**データベース管理者のアクション**: DB2 は参加者で、コーディネーターが *luname* の 1 つまたは複数の未確定のトランザクションを持っています。 *luname* の DBMS がコールド・スタートを実行しました。 DB2 参加者は、コーディネーターのリカバリー・ログが失われたかまたは損傷があって、未確定のトランザクションを解決できないと見なしています。コーディネーター側に矛盾するデータがあると考えられます。

ヒューリスティック判定 (すなわち、トランザクションをコミットするか打ち切るか) は、他の参加者と調整する必要があります。他の参加者の存在を判別するのは容易ではありません。この情報は、コーディネーターがコールド・スタートしていても、コーディネーターのリカバリー・ログに入っていることがあります。

LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用して行われたコミットまたはアボートの決定は、ダウンストリームのすべての参加者 (存在すれば) に伝搬されます。

**SPM0412** **LUNAME=*luname1* のコーディネーターの同期点通信でプロトコル・エラーが検出されました。 LUNAME=*luname2* の DB2 データベースにある LUWID=*luwid* を持つトランザクションが未確定の可能性があります。**

**説明:**
DB2 はこのトランザクションの参加者です。 *luname* で識別されるコーディネーターとの SNA 同期点の交換中にプロトコル・エラーが起こりました。このプロトコル・エラーは次のカテゴリーの 1 つに該当します。

- 不明の SNA PS ヘッダーが受信された。
- SNA PS ヘッダーが間違った順序で受信された。
- SNA PS ヘッダーの送達に、正しくない LU6.2 verb 順序列が使用された。
- コーディネーターから DB2 が送信した PS ヘッダーにプロトコル違反を検出したことを示す DEALLOCATE TYPE(ABEND_SVC) が受信された。

**luname1**
コーディネーターの LU 名。

**luname2**
トランザクションが未確定のデータベースの LU 名。

**luwid** トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

コミット決定前にプロトコル・エラーが検出された場合は、LU 名=*luname2* のデータベースでトランザクションが未確定の可能性があります。プロトコル・エラーのために、DB2 はこのような未確定のトランザクションを自動的には解決しません。

コミットの決定後にプロトコル・エラーが検出された場合には、そのトランザクションはコミットまたはアボート処理を完了しています。

同期点プロトコル違反のトレースが書き出されます。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者は、手操作で未確定のトランザクションを解決する必要があります。

**データベース管理者のアクション**: トランザクションが未確定かどうかを調べてください。未確定の場合には、LIST INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを使用して手操作で解決しなければなりません。コーディネーター側で行われるコミットまたはアボートの決定は、DB2 で同じ決定を行うことができるように決定されなければなりません。

コーディネーター dbalias のデータベース管理者に連絡して、LUWID=*luwid* のトランザクションがコミットされたか、または打ち切られたかを判別してください。

コーディネーターのシステムが別の DB2 である場合には、DB2 のコーディネーター側で次のステップに従ってコミットまたはアボートの決定を調べることができます。

**SPM0413** **LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* の参加者との同期点通信でプロトコル・エラーが検出されました。LUWID=*luwid* のトランザクションが、この参加者のところで未確定になっている可能性があります。 DB2 はコミットしました。**

**説明:**
DB2 はトランザクションのコーディネーターです。 *luname* および *dbalias* で識別される参加者との SNA 同期点の交換中に、プロトコル・エラーが発生しました。このプロトコル・エラーは次のカテゴリーの 1 つに該当します。

- 不明の SNA PS ヘッダーが受信された。
- SNA PS ヘッダーが間違った順序で受信された。
- SNA PS ヘッダーの送達に、正しくない LU6.2 verb 順序列が使用された。
- 参加者から、DB2 が送信した PS ヘッダーにプロトコル違反を検出したことを示す DEALLOCATE TYPE(ABEND_SVC) が受信された。

**luname** 参加者の LU 名。

**dbalias** 参加者のデータベースの別名。

**luwid** トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

アプリケーションにトランザクションのコミットが伝えられた場合。

参加者側に未確定のトランザクションがある場合があり、その場合には未確定のトランザクションを手操作で解決しなければなりません。プロトコル・エラーのために、DB2 は未確定のトランザクションを自動的には解決しません。

同期点プロトコル違反のトレース・レコードが書き出されます。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡してください。 参加者は未確定トランザクションを手操作で解決する必要があります。

**SPM0414** **LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* を持つ参加者との未確定トランザクションの解決中に、プロトコル・エラーが発生しました。LUWID=*luwid* のトランザクションが、この参加者のところで未確定になっている可能性があります。 DB2 はロールバックしました。**

**説明:**
DB2 は、ロールバックされたトランザクションを担当するコーディネーターを持っています。 *luname* および *dbalias* で識別される参加者との未確定解決中に、プロトコル・エラーが発生しました。

参加者側のトランザクションは未確定のまま残されます。プロトコル違反のために、DB2 は未確定のトランザクションを自動的には解決しません。

**luname** 参加者の LU 名。

**dbalias** 参加者のデータベースの別名。

**luwid** トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

再同期プロトコル違反トレース・レコードが書き出されます。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡してください。 参加者は未確定トランザクションを手操作で解決する必要があります。

**データベース管理者のアクション**: 参加者側でトランザクションが未確定の場合には、手操作で (経験的に) 解決しなければなりません。

**SPM0415** **LUNAME=*luname* のコーディネーターによる LUWID=*luwid* トランザクションの自動的な解決によってロールバックが行われました。 DB2 Database は *dbname* です。**

**説明:**
*dbname* で識別されるデータベースの未確定のトランザクションは、*luname* で識別されるコーディネーターとの通信によって自動的に解決されました。トランザクションはロールバックされました。

**luname1**
コーディネーターの LU 名。

**luwid** トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

**luname2**
変更が行われたデータベースの LU 名。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

処理は正常に続行されます。

---

**SPM0416 LUNAME *luname* のパートナーによるコールド・スタート接続が拒否されました。**

**説明:**
DB2 は、パートナー dbalias とのコールド・スタート接続を試みました。パートナーがこの接続の試みを拒否しました。

**luname** コーディネーターの LU 名。

接続は行われませんでした。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡してください。

**データベース管理者のアクション**: DB2 は、パートナー *luname* が DB2 とコールド・スタート接続できるまでパートナー *luname* に接続することはできません。パートナー *luname* のデータベース管理者に連絡してください。

さらに援助が必要な場合には、IBM サポート担当者に連絡してください。

---

**SPM0417 LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* の参加者との同期点通信でプロトコル・エラーが検出されました。LUWID=*luwid* のトランザクションが、この参加者のところで未確定になっている可能性があります。 DB2 はロールバックしました。**

**説明:**
DB2 はトランザクションのコーディネーターです。*luname* および *dbalias* で識別される参加者との SNA 同期点の交換中に、プロトコル・エラーが発生しました。このプロトコル・エラーは次のカテゴリーの 1 つに該当します。

- 不明の SNA PS ヘッダーが受信された。
- SNA PS ヘッダーが間違った順序で受信された。
- SNA PS ヘッダーの送達に、正しくない LU6.2 verb 順序列が使用された。
- 参加者から、DB2 が送信した PS ヘッダーにプロトコル違反を検出したことを示す DEALLOCATE TYPE(ABEND_SVC) が受信された。

**luname** 参加者の LU 名。

**dbalias** 参加者のデータベースの別名。

**luwid** トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

アプリケーションにトランザクションのロールバックが伝えられた場合。

参加者側に未確定のトランザクションがある場合があり、その場合には未確定のトランザクションを手操作で解決しなければなりません。プロトコル・エラーのために、DB2 は未確定のトランザクションを自動的には解決しません。

同期点プロトコル違反のトレース・レコードが書き出されます。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡してください。 参加者は未確定トランザクションを手操作で解決する必要があります。

---

**SPM0420 LUNAME=*luname* の参加者によるコールド・スタート接続が受け入れられました。損傷の可能性があります。**

**説明:**
DB2 は、参加者側の未確定のトランザクションを担当するコーディネーターを持っていて、前にコールド・スタートしたために、未確定トランザクションについてのすべての情報を失った参加者と接続したところです。参加者側に損傷のあることが考えられます。

**luname** 損傷があると考えられる参加者の LU 名。

パートナーとの接続は受け入れられます。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡してください。

**データベース管理者のアクション**: DB2 はコーディネーターで、*luname* の 1 つまたは複数の未確定の作業単位に対する未確定のトランザクションの解決を担当します。 *luname* の DBMS がコールド・スタートを実行しました。 DB2 は、参加者のリカバリー・ログが失われたかまたは損傷していて、未確定のトランザクションの解決を行うことができないと見なしています。参加者側に矛盾するデータがあると考えられます。少なくとも、参加者は障害が発生した時点で未確定であったトランザクションの最終結果を完全には反映していません。

---

**SPM0421 LUNAME=*luname* のパートナーによる SNA XLN プロトコル違反。**

**説明:**
DB2 が、指定された *luname* のパートナーとの SNA 交換ログ名 (XLN) の交換中にプロトコル違反を検出しました。

**luname** 正しくない XLN メッセージを送信したパートナーの LU 名。

リモート側との接続の試みが正常に実行されていません。 XLN プロトコル違反のトレース・レコードが書き出されます。

**ユーザーの処置:**
リモート側のシステム・プログラマーに連絡してください。正しくない XLN メッセージはトレース・レコードに記録されています。リモート側で正しくない XLN メッセージの原因となったシステムの論理エラーを訂正する必要があります。

---

**SPM0422 LUNAME=*luname* のパートナーによりウォーム・スタート接続は、このパートナーが当方側のログ名を誤って記憶していたため、拒否されました。当方側のログ名は *name1* で、パートナーはそれを *name2* と記憶していました。**

**説明:**
パートナーがログ名を name2 として指定したので、パートナーとのウォーム・スタート接続の試みが拒否されました。 このログ名は name1 で、これはローカル DB2 の luname です。このエラーは、パートナーがログ名を name1 と指定して再始動できれば、リカバリー可能エラーになります。それができない場合には、パートナーは DB2 とのコールド・スタート接続を実行しなければなりません。

**luname** 接続が行われなかったパートナーの LU 名。

**name1** こちら側に記憶されているログ名。

**name2** パートナーが記憶していて、ウォーム・スタート接続を行おうとして送信したログ名。

パートナーとの接続は拒否されます。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡してください。

**データベース管理者のアクション**: パートナー *luname* のデータベース管理者に連絡し、この DB2 の luname として指定されている当方側のログ名を使って、パートナーがウォーム・スタートを実行できるかどうかを判別してください。これが可能であれば、次回の接続は正常に行われます。または、パートナー *luname* に DB2 とのコールド・スタート接続を実行させてください。

---

**SPM0423 LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* のパートナーとの LUWID=*luwid* のトランザクションの自動解決によりコミットが行われました。**

**説明:**
未確定の作業単位は、参加者との通信によって自動的に解決されました。 参加者にはコミットの決定が通知されました。

**luname** 参加者の LU 名。

**dbalias** 参加者のデータベースの別名。

**luwid** トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

処理は正常に続行されます。

---

**SPM0424 LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* のパートナーとの LUWID=*luwid* のトランザクションの自動解決により、ロールバックが行われました。**

**説明:**
未確定の作業単位は、参加者との通信によって自動的に解決されました。 参加者にはロールバックの決定が通知されました。

**luname** 参加者の LU 名。

**dbalias** 参加者のデータベースの別名。

**luwid** トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

処理は正常に続行されます。

---

**SPM0425 LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* の参加者での LUWID=*luwid* のトランザクションは、通信障害のため未確定になる可能性があります。DB2 はロールバックしました。**

**説明:**
*luname* で参加者との 2 フェーズ・コミット・プロトコルの実行中に、通信障害が起こりました。プロトコルのフェーズ 1 は完了して、コミットまたはアボートのためにトランザクションが準備されています。トランザク

ションをロールバックする決定が行われましたが、この時点では参加者に通信することができません。参加者は未確定です。

DB2 は、参加者による未確定の解決を担当することになります。その責任については LIST DRDA INDOUBTS TRANSACTION レポートに表示されます。自動的に解決するために、参加者との通信を再確立する定期的な試みが行われます。

**luname** 参加者の LU 装置名。

**dbalias** 参加者のデータベースの別名。

**luwid** トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

参加者の未確定のトランザクションを自動的に解決する定期的な試みが行われます。

**ユーザーの処置:**
通信障害の原因を調べて、問題を訂正してください。DB2 は、自動的に解決するために通信の再確立を試みます。 妥当な時間内に自動的な解決が行われない場合には、データベース管理者に連絡してください。 ロックされたリソースを解除するために、参加者側でトランザクションを手操作で解決しなければならない場合があります。

**データベース管理者のアクション**: 手操作による解決が必要な場合には、参加者のデータベース管理者に、決定がロールバックされることを知らせてください。

---

**SPM0426 LUNAME=*luname* および DBALIAS=*dbalias* の参加者の未確定トランザクション解決中に、プロトコル・エラーが発生しました。 LUWID=*luwid* のトランザクションが、この参加者のところで未確定になっている可能性があります。 DB2 はコミットしました。**

**説明:**
DB2 は、コミットされたトランザクションを担当するコーディネーターを持っています。 *luname* および *dbalias* で識別される参加者との未確定解決中に、プロトコル・エラーが発生しました。

参加者側のトランザクションは未確定のまま残されます。プロトコル違反のために、DB2 は未確定のトランザクションを自動的には解決しません。

**luname** 参加者の LU 名。

**dbalias** 参加者のデータベースの別名。

**luwid** トランザクションの SNA 論理作業単位 id。

作業単位と関連した XID はこのメッセージにしたがって印刷されます。

再同期プロトコル違反トレース・レコードが書き出されます。

**ユーザーの処置:**
データベース管理者に連絡してください。 参加者は未確定トランザクションを手操作で解決する必要があります。

**データベース管理者のアクション**: 参加者側でトランザクションが未確定の場合には、手操作で (経験的に) 解決しなければなりません。

---

**SPM0434 同期点マネージャーを使用することができない - 通信レベルが正しくない。**

**説明:**
ローカル通信のリリース・レベルが最小のリリース・レベルより古いか、あるいはコミュニケーション・マネージャーが APPC SYNCLEVEL(SYNC) 対話をサポートするように正しく構成されていません。

保護対話を作成する試みは正常に実行されていません。

**ユーザーの処置:**
SYNCLEVEL(SYNC) 対話をサポートするために必要な、正しい通信レベルをインストールして構成してください。

---

**SPM0438 同期点マネージャー・リカバリー・ログが正しくありません。**

**説明:**
同期点マネージャーのリカバリー・ログに矛盾があり、DB2 の始動処理中にリカバリーの実行に使用することができません。

**ユーザーの処置:**
DRDA2 アプリケーション・サーバーに未確定のトランザクションが存在する場合があります。これらの未確定のトランザクションは手操作で回復する必要があります。

データベース管理者に連絡してください。

**データベース管理者のアクション**: 同期点マネージャーを始動するために、spmlog ディレクトリーを消去して DB2 を始動してください。 これで、DB2 が新しい同期点ログ・ファイルを作成して、すべての DRDA2 アプリケーション・サーバーとのコールド・スタート接続を確立することができます。

---

**SPM0439　同期点マネージャー・リカバリー・ログに書き込もうとしているときに、同期点マネージャーにリカバリー不能なエラーが発生しました。**

**説明:**
同期点マネージャーのログに矛盾があり、使用することができません。 DB2 の処理中に SPM ログに書き出そうとしているときに、リカバリー不能エラーが検出されました。

**ユーザーの処置:**
同期点マネージャーは、新しい同期レベル (2 フェーズ) 接続を行うことができません。 LIST DRDA INDOUBT TRANSACTIONS コマンドを出して、未確定のトランザクションの状況を調べてください。

データベース管理者に連絡してください。

**データベース管理者のアクション**: 同期点マネージャーを始動するために、spmlog ディレクトリーを消去して DB2 を始動してください。 これで、DB2 が新しい同期点ログ・ファイルを作成して、すべての DRDA2 アプリケーション・サーバーとのコールド・スタート接続を確立することができます。

---

**SPM0440E　*protocol* プロトコル・サポートの開始試行中に、エラーを検出しました。*function* からの戻りコードは *rc*。このエラーの推定原因として最も可能性があるのは SNA が開始されていないことです。 DB2 を停止して SNA を開始し、DB2 を再始動してください。**

---

**SPM0441　同期点マネージャーは、同期点マネージャー LU に使用可能ではありません。同期点マネージャー LU は *lu-name* で、LU プロファイルは *lu-profile* です。**

**説明:**
同期点サポートは DB2 では使用できません。原因として最も可能性のあるものは、以下のとおりです。

1. AIX SNA 通信レベルが無効である。同期点サポートには AIX SNA V2 またはそれ以上が必要です。
2. AIX SNA V2 では、リカバリー・リソース・マネージャー (RRM) を使用できません。このパラメーターは SNA システム・デフォルトで検出されます。このパラメーターを使用可能にして、SNA プロファイルを検証し、次に AIX SNA および DB2 の両方を停止して再始動してください。
3. AIX SNA V3 では、リカバリー・リソース・マネージャー (RRM) は同期点マネージャー LU *lu-name* を使用できません。 このパラメーターは LU *lu-name* に対する LU 定義で見つかります。 このパラメーターを使用可能にして、SNA プロファイルを検証し、次に AIX SNA および DB2 の両方を停止して再始動してください。

**ユーザーの処置:**
記述されている可能性に基づいて、原因を判別してください。訂正して再試行してください。

---

**SPM0442　同期点マネージャーを使用できません。この失敗の原因として最も考えられるのは、*name* の名前では CPIC サイド情報プロファイルが存在しないことです。**

**説明:**
同期点マネージャーは、名前 *name* の CPIC サイド情報プロファイルを必要としています。 このプロファイルが見つからないか、あるいは誤った情報が入っています。

**ユーザーの処置:**
このプロファイルを訂正、SNA プロファイルを検証、および DB2 と SNA の両方を停止して再始動してください。同期点マネージャー・サポートを構成する方法については、「DB2 Connect 概説およびインストール」を参照してください。

---

**SPM0443　同期点マネージャーを使用できません。この失敗の推定原因として最も可能性があるのは、同期点マネージャーを開始しているインスタンスが AIX SNA のトラステッド・グループ名のいずれにも属していないことです。**

**説明:**
同期点マネージャー自体の初期化を行うためには、DB2 を開始しているインスタンスが、SNA サポートで対話するための特定の権限を必要とします。 AIX SNA では、これらのコマンドを出すユーザー ID がトラステッド・グループ名に入っていなければなりません。

**ユーザーの処置:**
「SNA システム・デフォルト」ダイアログで、トラステッド・グループ名として定義されているグループのいずれかに、同期点マネージャーを開始するインスタンスを追加してください。 AIX SNA を停止し、再始動してください。 AIX Term からログオフし、インスタンス ID にログオンし直し、さらに DB2 を再始動してください。

それでも同期点マネージャーを開始できない場合、 AIX SNA 用の最新 PTF を適用し、上の手順を再試行してください。

**SPM0444** **同期点マネージャーを使用できません。この失敗の原因として最も考えられるのは、*name* の名前ではトランザクション・プログラム・プロファイルが存在しないことです。**

**説明:**
同期点マネージャーは、名前 *name* のトランザクション・プログラム・プロファイルを必要としています。このプロファイルが見つからないか、あるいは誤った情報が入っています。

**ユーザーの処置:**
このプロファイルを訂正、SNA プロファイルを検証、および DB2 と SNA の両方を停止して再始動してください。同期点マネージャー・サポートを構成する方法については、「DB2 Connect 概説およびインストール」を参照してください。

---

**SPM0445** **トランザクション・プログラム *tp-name* が DB2 で listen されません。これは重大エラーではありませんが、このトランザクション・プログラムが必要な場合には、AIX SNA 構成のトランザクション・プロファイルで定義されていないことを確認してください。**

**説明:**
同期点マネージャー自体を初期化すると、同期点マネージャーが listen するトランザクション・プログラムを登録します。示されている TP の listen を同期点マネージャーが実行するためには、他のトランザクション・プログラム・プロファイルでこの TP が定義されていないことが必要です。そうでない場合、同期点マネージャーと AIX SNA の間で矛盾が生じることになります。このような不整合が存在する場合、AIX SNA が listen し、同期点マネージャーは listen しません。

**ユーザーの処置:**
示されている TP の listen を行うために同期点マネージャーが必要な場合、このトランザクション・プログラムを参照している TP プロファイルが他にないことを確認してください。同期点マネージャーはこのエラーに関係なく正常に開始します。

---

**SPM0446E** **トランザクション・プログラム *tp-name* が DB2 で listen されません。これは重大エラーです。同期点マネージャーを開始できませんでした。推定原因として最も可能性があるのは、データベース・マネージャー構成で同じ SPM_NAME を使用している同期点マネージャーを別のインスタンスが開始しているか、あるいは Encina ピアツーピア・ゲートウェイが同一マシンに存在し、指定のトランザクション・プログラムが AIX SNA トランザクション・プロファイルに定義されていることです。**

**説明:**
同期点マネージャーがこの TP を登録しようと試みましたが、できませんでした。

**ユーザーの処置:**
TP プロファイルを AIX SNA から除去してください。DB2 と AIX SNA の両方を停止して再始動します。

---

**SPM0447E** ***protocol* プロトコル・サポートの開始試行中に、エラーを検出しました。*function* からの戻りコードは *rc*。このエラーの原因として最も可能性が高いのは、LU *lu-name* がすでに同期点管理で使用されているということです。Encina ピアツーピア・ゲートウェイまたは別の同期点マネージャーがこの LU を使用していないことを確認してください。**

**説明:**
LU は 1 つのアプリケーションによる同期点をサポートするものとして AIX SNA で登録されます。この場合、要求された同期点マネージャー LU はすでに登録済みです。原因として最も可能性があるのは、ピア・ゲートウェイに対する Encina ピアがこの LU を同期点マネージャーとして使用しているか、あるいは別の DB2 インスタンスがこれを同期点マネージャーとして使用していることです。

**ユーザーの処置:**
ユニークな LU が使用されるようなデータベース・マネージャー構成で SPM_NAME を変更してください。DB2 を停止して再始動します。

**SPM0448E　同期点マネージャー・プロトコル・サポートを開始しようとした時にエラーが発生しました。同期点マネージャーは、同期点サポート LUNAME *luname* の登録ができません。これは、この LU が SNA API クライアント使用のために構成されているためです。同期点マネージャーに対して別の LU を選択するか、あるいはこの LU に対するローカル LU 6.2 定義での SNA API クライアント使用を禁止してください。**

**説明:**
このエラーは、カスタマーが CS/NT 5.01 を使用して同期点マネージャーを開始しようとして、 SNA API クライアント使用フラグが設定されているローカル LU 6.2 定義を使用している時に発生します。

**ユーザーの処置:**
別のローカル LU 6.2 (SNA API クライアント使用構成なし) を選択するか、ローカル LU 6.2 定義に対する SNA API クライアント使用フラグを使用不能にしてください。

---

**SPM0449E　接続に失敗しました。この失敗の原因として考えられるのは、CPIC サイド情報プロファイル *profile1* で指定された LU が CPIC サイド情報プロファイル *profile2* で指定された同期点マネージャー LU と一致しないことです。**

**説明:**
ホスト・システムとの正しい通信を行うには、通信用に定義された CPIC サイド情報プロファイルが、構成済みの同期点マネージャーに対して定義されている LU と同じ名前を指定する必要があります。

**ユーザーの処置:**
SNA CPIC サイド情報プロファイル *profile1* を正しい LU を指定して更新し、SNA プロファイルを検査して、SNA と DB2 の両方をいったん停止してから再始動して接続をやり直してください。

---

**SPM0450E　ライブラリーをロードできませんでした。アクセス許可が拒否されました。**

**説明:**
この問題の推定原因として最も可能性があるのは、Windows NT のバグです。

**ユーザーの処置:**
システムのすべてのネットワーク・ドライブとローカル PATH ステートメントが PATH ステートメントの終わりにあることを確認してください。「スタート / 設定 / コントロール パネル / システム / 環境 / システム / パス」を選択して、すべてのネットワーク・ドライブをパス・ステートメントの終わりに移動します。システムをシャットダウンして再始動してください。

---

**SPM0451E　MS SNA サーバーが始動されていません。**

**説明:**
SNA サーバーが始動していません。

**ユーザーの処置:**
SNA サーバーを始動して DB2 を再始動してください。

---

**SPM0452I　データベース・マネージャー構成に指定されている SPM_NAME が、コントロール・ポイント名 *name* と同じではないことを確認してください。 SPM_NAME は一時的に *temp-name* で置き換えられています。**

**説明:**
SPM_NAME をコントロール・ポイントと同一名にすることはできません。 SPM_NAME は一時的に代替名で置き換えられていますが、データベース・マネージャー構成ファイルは変更されていません。

**ユーザーの処置:**
データベース・マネージャー構成ファイルの SPM_NAME を更新してください。 コントロール・ポイント名ではない名前を指定してください。

---

**SPM0453C　Microsoft SNA サーバーが開始していないため、同期点マネージャーは開始されませんでした。**

**説明:**
この DB2 インスタンスは、同期点マネージャーを開始するよう構成されています。 しかし、基礎 SNA スタック Microsoft SNA サーバーは開始されていません。そのため、同期点マネージャー・サポートを開始できません。

**ユーザーの処置:**
Microsoft SNA サーバーを開始しなければなりません。コマンド DB2STOP FORCE を使用して、DB2 を停止してください。 その後、以下のステップに従ってください。

1. スタート
2. 設定
3. コントロール パネル
4. 「サービス」をダブルクリック

5. SnaServer をクリック
6. 「開始」をクリック

Microsoft SNA サーバーが開始したら、コマンド DB2START を使用して DB2 を再始動してください。

---

**SPM0454C　LU 別名 *lualias* によって表される LU (LU) の排他的使用を必要としているため、同期点マネージャーは開始されませんでした。**

**説明:**
同期点マネージャーは、LU (LU) の排他的使用を必要としています。 同期点マネージャーによって使用されている LU は、デフォルト発信ローカル APPC LU プールの一部として識別されています。 そのため、この LU は、どのアプリケーションからも使用可能です。 また LU は、SPM_NAME データベース・マネージャー構成パラメーターによって、同期点マネージャーに使用される LU としても識別されています。 同期点マネージャーがこの LU の排他的使用を必要としているため、LU をデフォルト発信ローカル APPC LU プールのメンバーにすることはできません。

**ユーザーの処置:**
LU がデフォルト発信ローカル APPC LU プールのメンバーにならないよう LU 定義を変更するか、またはこのデフォルト・プールのメンバーではない LU に SPM_NAME 値を変更してください。 SNA サーバーを停止および再始動してください。 さらに DB2 を停止して再始動します。

同期点マネージャーが使用できるよう Microsoft SNA サーバー内の LU を定義する方法については、「DB2 Connect 概説およびインストール」または「DB2 Database 概説およびインストール」を参照してください。

---

**SPM0455C　同期点マネージャーは開始されませんでした。 LU 別名 *lualias* によって表される LU (LU) が、同期点マネージャーによって使用されるよう正しく構成されていません。**

**説明:**
同期点マネージャーを使用するには、同期点操作が可能になるよう LU を構成しなければなりません。

**ユーザーの処置:**
同期点操作が可能になるよう、また「クライアント」フィールドに SNA サーバーの名前が入るよう LU 定義を変更してください。 SNA サーバーを再始動し、さらに DB2 を再始動してください。

同期点マネージャーが使用できるよう Microsoft SNA サーバー内の LU を定義する方法については、「DB2 Connect 概説およびインストール」または「DB2 Database 概説およびインストール」を参照してください。

---

**SPM0456C　同期点マネージャーは開始されませんでした。 LU 別名 *lualias* によって表される LU (LU) の「クライアント」フィールドに、この SNA サーバーの名前が含まれていることを確認してください。**

**説明:**
同期点マネージャーを開始するには、LU で同期点操作が可能でなければなりません。 LU で同期点操作を可能にするには、「同期点サポートを可能にする」チェック・ボックスがチェックされ、この SNA サーバーの名前が「クライアント」フィールドに入っていることを確認してください。

この状況では、「同期点サポートを可能にする」チェック・ボックスはチェックされていますが、「クライアント」フィールドには何も入っていません。

**ユーザーの処置:**
同期点操作が可能になるよう、また「クライアント」フィールドに SNA サーバーの名前が入るよう LU 定義を変更してください。 SNA サーバーを停止および再始動し、さらに DB2 を停止および再始動してください。

同期点マネージャーが使用できるよう Microsoft SNA サーバー内の LU を定義する方法については、「DB2 Connect 概説およびインストール」または「DB2 Database 概説およびインストール」を参照してください。

---

**SPM0457W　すでに別の DB2 インスタンスが、トランザクション・プログラム DB2DRDA を listen しています。これは致命的エラーではありません。ただし、このインスタンスはトランザクション・プログラム DB2DRDA を listen しません。**

**説明:**
同期点マネージャーが使用可能になっていないかぎり、トランザクション・プログラム DB2DRDA を listen できる DB2 インスタンスは 1 つだけです。

**ユーザーの処置:**
DB2 レジストリー値 DB2SERVICETPINSTANCE をグローバル・レベルで定義して、トランザクション・プログラム DB2DRDA を listen するインスタンスを定義してください。 その後、影響を受けたインスタンスをすべて再始動してください。

DB2 レジストリー値 DB2SERVICETPINSTANCE をグローバル・レベルで定義するには、以下のコマンドを使用してください。

db2set -g DB2SERVICETPINSTANCE=<instance-name>

ここで <instance-name> はインスタンスの名前です。

---

**SPM0458W すでに別の DB2 インスタンスが、トランザクション・プログラム x'07'6DB (16 進 07F6C4C2) を listen しています。 これは致命的エラーではありません。ただし、このインスタンスはトランザクション・プログラム x'07'6DB を listen しません。**

**説明:**
同期点マネージャーが使用可能になっていないかぎり、トランザクション・プログラム x'07'6DB を listen できる DB2 インスタンスは 1 つだけです。

**ユーザーの処置:**
DB2 レジストリー値 DB2SERVICETPINSTANCE をグローバル・レベルで定義して、トランザクション・プログラム x'07'6DB (16 進 07F6C4C2) を listen するインスタンスを定義してください。 その後、影響を受けたインスタンスをすべて再始動してください。

DB2 レジストリー値 DB2SERVICETPINSTANCE をグローバル・レベルで定義するには、以下のコマンドを使用してください。

db2set -g DB2SERVICETPINSTANCE=<instance-name>

ここで <instance-name> はインスタンスの名前です。

---

**SPM0459W インストールされている SNA のバージョンには、この DB2 のバージョンとの互換性がありません。**

**説明:**
DB2 Connect for AIX and DB2 Universal Database for AIX V6.1 またはそれ以上には、 SNA 接続のために IBM eNetwork Communication Server for AIX V5.0.3 またはそれ以上が必要です。

IBM Communication Server の必須バージョンは、このマシンにはインストールされていません。

**ユーザーの処置:**
IBM eNetwork Communications Server for AIX V5.0.3 にアップグレードしなければなりません。 PTF は、以下の URL でダウンロードすることができます。

http://service.software.ibm.com/cgi-bin/support/rs6000.support/downloads.

「AIX General Software Fixes」、「AIX Fix Distribution Service」、「AIX Version 4」、さらに「Search By PTF Number」を選択してください。 検索ストリングとして sna.rte を入力します。 「Find Fix」を選択してください。 PTF がリストされるので、目的の PTF を選択して「Get Fix Package」をクリックし、指示に従ってください。

---

**SPM0460W このマシンにインストールされている Microsoft SNA サーバーのバージョンは、同期点マネージャーをサポートしていません。**

**説明:**
このインスタンスは、Microsoft SNA サーバーで DB2 SNA 同期点マネージャーを使用するよう構成されています。このマシンにインストールされている Microsoft SNA サーバーのバージョンは、同期点マネージャーをサポートしていません。

**ユーザーの処置:**
同期点マネージャーを使用するには、Microsoft SNA サーバー V4 サービス・パック 3 またはそれ以上が必要です。

DB2 Universal Database for OS/390、OS/400、または VM/VSE でマルチサイト更新を行うには、Microsoft SNA サーバー V4 サービス・パック 3 またはそれ以上をインストールしなければなりません。 適切なバージョンの Microsoft SNA サーバーをインストールした後、DB2 Connect または DB2 Database を停止して再始動してください。

# 第 22 章 XMR メッセージ

このセクションには XMR メッセージが含まれています。メッセージは番号順にリストされています。

**XMR2023E** *object-type* **が見つかりませんでした。**

**説明:**
オブジェクトをレジストリー内で見つけることができません。このエラーは、検索または変更するはずだったオブジェクトが既に存在しないか、存在しない他のオブジェクトを参照しているために生じました。たとえば、削除済みのメタデータを参照しているフォルダーの変更を保管しようとする場合に、このエラーが生じえます。ブラウザーでデータが最後に最新表示された後で、このオブジェクトがレジストリーから削除された可能性もあります。

**ユーザーの処置:**
ブラウザーの「**最新表示**」をクリックして、処理しているレジストリー・データが最新であるようにします。

**XMR2028E** *object-type object-name* **で操作を実行できません。データベース内で行が見つかりません。**

**説明:**
XML Metadata Registry リポジトリー・データベースには編集または削除の必要な行がないため、この操作は完了しませんでした。要求の検証の際にはデータベース内に行が存在していましたが、その操作が試行される時には見つかりませんでした。この行は、要求が処理されている間に、別のユーザーによって削除された可能性があります。

**ユーザーの処置:**
ブラウザーの「**最新表示**」をクリックして、処理しているレジストリー・データが最新であるようにします。

**XMR2036E** *object-type object-name* **メンバーが見つかりませんでした。**

**説明:**
フォルダーまたはビューのオブジェクトの 1 つが見つからなかったため、操作が失敗しました。このエラーは、次の条件下で発生します。

- 保管しようとするビューまたはフォルダーに、データをレジストリーから検索した後で削除されたオブジェクトが入っている場合。
- バージョンの変更を取り消そうとするフォルダーまたはビューの以前のバージョンに、削除済みのオブジェクトが入っている場合。

**ユーザーの処置:**
フォルダーまたはビューを保管するはずだった場合には、ブラウザーの「最新表示」をクリックして、処理しているレジストリー・データが最新であるようにします。バージョン変更を取り消すはずだった場合、そのフォルダーまたはビューに対する変更を取り消すことはできません。その代わりに、現行バージョンのオブジェクトを編集して、本来あるべき状態に戻す必要があります。

**XMR2074E** *object-type object-name* **には、メンバーとして** *object-type object-name* **が含まれていません。**

**説明:**
レジストリーの妥当性検査ができませんでした。オブジェクトのメタデータは、このオブジェクトがフォルダーに入っていることを示しているのに、実際にはオブジェクトがフォルダーに入っていないためです。このエラーは、次のいずれかの場合に生じます。

- あるフォルダーから別のフォルダーへとオブジェクトが移動し、バージョン変更が取り消された結果、非互換バージョンの 3 つのオブジェクトが生じた場合。
- オブジェクトは現行バージョンのフォルダーで作成されたが、そのフォルダーのバージョン変更を取り消す前にオブジェクトを削除しなかった場合。

**ユーザーの処置:**
オブジェクトが現行バージョンのフォルダーで作成された場合には、バージョン変更を取り消す前にそのオブジェクトを削除してください。あるいは、オブジェクト、その移動元のフォルダー、および移動先のフォルダーのバージョン変更を取り消します。 3 つのオブジェクトのバージョン変更を取り消しても依然として非互換のバージョンになる場合には、現行バージョンのオブジェクトを編集して、本来あるべき状態に戻す必要があります。

**XMR2075E** *object-type object-name* **は、すでに** *object-type object-name* **にあります。**

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

**説明:**
オブジェクトが複数のフォルダーに含まれているため、レジストリーの妥当性検査ができませんでした。オブジェクトは、同時に 1 つのフォルダーにしか入れることができません。オブジェクトが別のフォルダーに移動された後にバージョン変更が取り消され、その結果生じたオブジェクトのバージョンが非互換である場合に、このエラーが発生します。

**ユーザーの処置:**
オブジェクト、その移動元のフォルダー、および移動先のフォルダーのバージョン変更を取り消します。オブジェクトのバージョン変更を取り消しても依然として非互換のバージョンになる場合には、現行バージョンのオブジェクトを変更して、本来あるべき状態に戻す必要があります。

---

**XMR2091E** *object-type object-name* **を分類するカテゴリー** *category-name* **が見つかりませんでした。**

**説明:**
オブジェクトの分類に使用されているカテゴリーが見つからないため、レジストリーの妥当性検査ができませんでした。このエラーが生じるのは、オブジェクトのバージョン変更を取り消す際、以前のバージョンの分類が、存在しなくなった分類体系カテゴリーに従って行われていた場合です。カテゴリーが削除されたのに分類体系のバージョン変更が取り消されていないか、分類体系全体が削除されたかのどちらかです。

**ユーザーの処置:**
分類体系が削除されたのでない場合は、オブジェクトおよび分類体系のバージョン変更を取り消してください。それでもまだエラーが生じる場合は、現行バージョンのオブジェクトを編集して、本来あるべき状態に戻す必要があります。

---

**XMR2096E** *object-type object-name* **からの集約リレーションシップが見つかりませんでした。**

**説明:**
集約リレーションシップのターゲットが見つからなかったため、バージョン変更を取り消すことができませんでした。このエラーが生じるのは、ソース・メタデータ項目へのバージョン変更が取り消される際、以前のバージョンに、削除済みのターゲット・メタデータ項目への集約リレーションシップがある場合です。参照整合性を確立できず、バージョン変更は取り消せません。

**ユーザーの処置:**
ソース・メタデータ項目の現行バージョンを編集して、本来あるべき状態にリストアしてください。

# 第 23 章 SPM プロトコル違反レコード

このセクションは、同期点マネージャーによって生成されるプロトコル違反レコードを示します。これらのレコードは基本障害保守ログ (db2diag.log) に送られ、対応するメッセージの後に記録されます。

## Resync プロトコル違反レコード

```
/*****************************************************************************
* SQLCSPM_RESYNC_PROTOCOL_VIOLATION_206 - Resync Protocol error.             *
*                                                                            *
* This trace is produced when a protocol error occurs during a Resync.       *
*                                                                            *
*****************************************************************************/
#define SQLCSPM_RPV_206_T "SQLCSPM_RESYNC_PROTOCOL_VIOLATION_206"  /* Title.*/
typedef struct sqlcspm_resync_protocol_violation_206
{                                  /*                                       */
  SQLCSPM_LUNAME  luname;          /*  Site involved in violation.          */
  SQLCSPM_LUWID   luwid;           /*  LUWID for the unit of work.          */
  SQLXA_XID       xid;             /*  XID of the thread.                   */
  char            role;            /*  Role of DB2 in LUW  -- C or P.       */
                                   /*   C for coordinator.                  */
                                   /*   P for participant.                  */
  char            status;          /*  Local thread status -- C, A or I     */
                                   /*   C for COMMIT.                       */
                                   /*   A for ABORT.     .                  */
                                   /*   I for INDOUBT.                      */
  SQLCSPS_TRACE   comm_trace;      /*  Communication trace of violation.    */
} SQLCSPM_RESYNC_PROTOCOL_VIOLATION_206;
```

## Syncpoint プロトコル違反レコード

```
/*****************************************************************************
* SQLCSPM_2PHASE_PROTOCOL_VIOLATION_208  - Syncpoint protocol error.         *
*                                                                            *
* This trace is produced when a protocol error occurs during the SNA         *
* syncpoint process with a remote resource.                                  *
*****************************************************************************/
#define SQLCSPM_2PPV_208_T "SQLCSPM_2PHASE_PROTOCOL_VIOLATION_208" /* Title.*/
typedef struct sqlcspm_2phase_protocol_violation_208
{                                  /*                                       */
  SQLCSPM_LUNAME  luname;          /*  Site involved in violation.          */
  SQLCSPM_LUWID   luwid;           /*  LUWID for the unit of work.          */
  SQLXA_XID       xid;             /*  XID of the thread.                   */
  char            role;            /*  Role of DB2 in LUW  -- C or P.       */
                                   /*   C for coordinator.                  */
                                   /*   P for participant.                  */
  char            local_status;    /*  Local thread status -- C, A or I     */
                                   /*   C for COMMIT.                       */
                                   /*   A for ABORT.     .                  */
                                   /*   I for INDOUBT.                      */
  char            partner_status;  /*  Partner thread status -- C, A or I   */
                                   /*   C for COMMIT.                       */
                                   /*   A for ABORT.     .                  */
                                   /*   I for INDOUBT.                      */
  SQLCSPS_TRACE   comm_trace;      /*  Communication trace of violation.    */
} SQLCSPM_2PHASE_PROTOCOL_VIOLATION_208;
```

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

# 付録 A. DB2 技術情報の概説

DB2 技術情報は、以下のツールと方法を介して利用できます。

- DB2 インフォメーション・センター
  - トピック (タスク、概念、およびリファレンス・トピック)
  - DB2 ツールのヘルプ
  - サンプル・プログラム
  - チュートリアル
- DB2 資料
  - PDF ファイル (ダウンロード可能)
  - PDF ファイル (DB2 PDF DVD に含まれる)
  - 印刷資料
- コマンド行ヘルプ
  - コマンド・ヘルプ
  - メッセージ・ヘルプ

**注:** DB2 インフォメーション・センターのトピックは、PDF やハードコピー資料よりも頻繁に更新されます。最新の情報を入手するには、資料の更新が発行されたときにそれをインストールするか、ibm.com® にある DB2 インフォメーション・センターを参照してください。

技術資料、ホワイト・ペーパー、IBM Redbooks® 資料などのその他の DB2 技術情報には、オンライン (ibm.com) でアクセスできます。 DB2 Information Management ソフトウェア・ライブラリー・サイト (http://www.ibm.com/software/data/sw-library/) にアクセスしてください。

## 資料についてのフィードバック

DB2 の資料についてのお客様からの貴重なご意見をお待ちしています。DB2 の資料を改善するための提案については、db2docs@ca.ibm.com まで E メールを送信してください。DB2 の資料チームは、お客様からのフィードバックすべてに目を通しますが、直接お客様に返答することはありません。お客様が関心をお持ちの内容について、可能な限り具体的な例を提供してください。特定のトピックまたはヘルプ・ファイルについてのフィードバックを提供する場合は、そのトピック・タイトルおよび URL を含めてください。

DB2 お客様サポートに連絡する場合には、この E メール・アドレスを使用しないでください。資料を参照しても、DB2 の技術的な問題が解決しない場合は、お近くの IBM サービス・センターにお問い合わせください。

© IBM Corporation 1993, 2007

## DB2 テクニカル・ライブラリー (ハードコピーまたは PDF 形式)

以下の表は、DB2 ライブラリーについて説明しています。DB2 ライブラリーに関する詳細な説明については、www.ibm.com/shop/publications/order にある IBM Publications Center にアクセスしてください。英語の DB2 バージョン 9.5 のマニュアル (PDF 形式) とその翻訳版は、 www.ibm.com/support/docview.wss?rs=71&uid=swg2700947 からダウンロードできます。

この表には印刷資料が入手可能かどうかが示されていますが、国または地域によっては入手できない場合があります。

*表 1. DB2 の技術情報*

| 資料名 | 資料番号 | 印刷資料が入手可能かどうか |
|---|---|---|
| *管理 API リファレンス* | SC88-4431-00 | 入手可能 |
| *管理ルーチンおよびビュー* | SC88-4435-00 | 入手不可 |
| *コール・レベル・インターフェース ガイドおよびリファレンス 第 1 巻* | SC88-4433-00 | 入手可能 |
| *コール・レベル・インターフェース ガイドおよびリファレンス 第 2 巻* | SC88-4434-00 | 入手可能 |
| *コマンド・リファレンス* | SC88-4432-00 | 入手可能 |
| *データ移動ユーティリティー ガイドおよびリファレンス* | SC88-4421-00 | 入手可能 |
| *データ・リカバリーと高可用性 ガイドおよびリファレンス* | SC88-4423-00 | 入手可能 |
| *データ・サーバー、データベース、およびデータベース・オブジェクトのガイド* | SC88-4259-00 | 入手可能 |
| *データベース・セキュリティー・ガイド* | SC88-4418-00 | 入手可能 |
| *ADO.NET および OLE DB アプリケーションの開発* | SC88-4425-00 | 入手可能 |
| *組み込み SQL アプリケーションの開発* | SC88-4426-00 | 入手可能 |
| *Java アプリケーションの開発* | SC88-4427-00 | 入手可能 |
| *Perl および PHP アプリケーションの開発* | SC88-4428-00 | 入手不可 |
| *SQL および 外部ルーチンの開発* | SC88-4429-00 | 入手可能 |
| *データベース・アプリケーション開発の基礎* | GC88-4430-00 | 入手可能 |
| *DB2 インストールおよび管理概説 (Linux および Windows 版)* | GC88-4439-00 | 入手可能 |
| *国際化対応ガイド* | SC88-4420-00 | 入手可能 |

*表 1. DB2 の技術情報 (続き)*

| 資料名 | 資料番号 | 印刷資料が入手可能かどうか |
|---|---|---|
| *メッセージ・リファレンス 第 1 巻* | GI88-4109-00 | 入手不可 |
| *メッセージ・リファレンス 第 2 巻* | GI88-4110-00 | 入手不可 |
| *マイグレーション・ガイド* | GC88-4438-00 | 入手可能 |
| *Net Search Extender 管理およびユーザーズ・ガイド*<br>**注:** この資料の内容は、DB2 インフォメーション・センターには含まれていません。 | SC88-4630-00 | 入手可能 |
| *パーティションおよびクラスタリングのガイド* | SC88-4419-00 | 入手可能 |
| *Query Patroller 管理およびユーザーズ・ガイド* | SC88-4611-00 | 入手可能 |
| *IBM データ・サーバー・クライアント機能 概説およびインストール* | GC88-4441-00 | 入手不可 |
| *DB2 サーバー機能 概説およびインストール* | GC88-4440-00 | 入手可能 |
| *Spatial Extender and Geodetic Data Management Feature ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス* | SC88-4629-00 | 入手可能 |
| *SQL リファレンス 第 1 巻* | SC88-4436-00 | 入手可能 |
| *SQL リファレンス 第 2 巻* | SC88-4437-00 | 入手可能 |
| *システム・モニター ガイドおよびリファレンス* | SC88-4422-00 | 入手可能 |
| *テキスト検索ガイド* | SC88-4424-00 | 入手可能 |
| *問題判別ガイド* | GI88-4108-00 | 入手不可 |
| *データベース・パフォーマンスのチューニング* | SC88-4417-00 | 入手可能 |
| *Visual Explain チュートリアル* | SC88-4449-00 | 入手不可 |
| *新機能* | SC88-4445-00 | 入手可能 |
| *ワークロード・マネージャー ガイドおよびリファレンス* | SC88-4446-00 | 入手可能 |
| *pureXML ガイド* | SC88-4447-00 | 入手可能 |
| *XQuery リファレンス* | SC88-4448-00 | 入手不可 |

*表 2. DB2 Connect 固有の技術情報*

| 資料名 | 資料番号 | 印刷資料が入手可能かどうか |
|---|---|---|
| *DB2 Connect Personal Edition 概説およびインストール* | GC88-4443-00 | 入手可能 |

表 2. *DB2 Connect* 固有の技術情報 (続き)

| 資料名 | 資料番号 | 印刷資料が入手可能かどうか |
|---|---|---|
| *DB2 Connect* サーバー機能 概説およびインストール | GC88-4444-00 | 入手可能 |
| *DB2 Connect* ユーザーズ・ガイド | SC88-4442-00 | 入手可能 |

表 3. *Information Integration* の技術情報

| 資料名 | 資料番号 | 印刷資料が入手可能かどうか |
|---|---|---|
| *Information Integration:* フェデレーテッド・システム 管理ガイド | SC88-4166-01 | 入手可能 |
| *Information Integration:* レプリケーションおよびイベント・パブリッシングのための *ASNCLP* プログラム・リファレンス | SC88-4167-02 | 入手可能 |
| *Information Integration:* フェデレーテッド・データ・ソース構成ガイド | SC88-4185-01 | 入手不可 |
| *Information Integration: SQL* レプリケーション ガイドおよびリファレンス | SC88-4168-01 | 入手可能 |
| *Information Integration:* レプリケーションとイベント・パブリッシング 概説 | GC88-4187-01 | 入手可能 |

## DB2 の印刷資料の注文方法

DB2 の印刷資料が必要な場合、オンラインで購入することができますが、すべての国および地域で購入できるわけではありません。 DB2 の印刷資料については、IBM 営業担当員にお問い合わせください。 *DB2 PDF* ドキュメンテーション DVD の一部のソフトコピー・ブックは、印刷資料では入手できないことに留意してください。例えば、「*DB2* メッセージ・リファレンス」はどちらの巻も印刷資料としては入手できません。

DB2 PDF ドキュメンテーション DVD で利用できる DB2 の印刷資料の大半は、IBM に有償で注文することができます。国または地域によっては、資料を IBM Publications Center からオンラインで注文することもできます。お客様の国または地域でオンライン注文が利用できない場合、DB2 の印刷資料については、IBM 営業担当員にお問い合わせください。 DB2 PDF ドキュメンテーション DVD に収録されている資料の中には、印刷資料として提供されていないものもあります。

**注:** 最新で完全な DB2 資料は、DB2 インフォメーション・センター (http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9r5) で参照することができます。

DB2 の印刷資料は以下の方法で注文することができます。

- 日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でご購入いただけます。詳しくは http://www.ibm.com/shop/publications/order の「ご注文について」をご覧ください。資料の注文情報にアクセスするには、お客様の国、地域、または言語を選択してください。その後、各ロケーションにおける注文についての指示に従ってください。
- DB2 の印刷資料を IBM 営業担当員に注文するには、以下のようにします。
  1. 以下の Web サイトのいずれかから、営業担当員の連絡先情報を見つけてください。
     - IBM Directory of world wide contacts (www.ibm.com/planetwide)
     - IBM Publications Web サイト (http://www.ibm.com/shop/publications/order) 国、地域、または言語を選択し、お客様の所在地に該当する Publications ホーム・ページにアクセスしてください。このページから、「このサイトについて」のリンクにアクセスしてください。
  2. 電話をご利用の場合は、DB2 資料の注文であることをご指定ください。
  3. 担当者に、注文する資料のタイトルと資料番号をお伝えください。タイトルと資料番号は、686 ページの『DB2 テクニカル・ライブラリー (ハードコピーまたは PDF 形式)』でご確認いただけます。

## コマンド行プロセッサーから SQL 状態ヘルプを表示する

DB2 は、SQL ステートメントの結果の原因になったと考えられる条件の SQLSTATE 値を戻します。 SQLSTATE ヘルプは、SQL 状態および SQL 状態クラス・コードの意味を説明します。

SQL 状態ヘルプを呼び出すには、コマンド行プロセッサーを開いて以下のように入力します。

```
? sqlstate or ? class code
```

ここで、*sqlstate* は有効な 5 桁の SQL 状態を、*class code* は SQL 状態の最初の 2 桁を表します。

例えば、`? 08003` を指定すると SQL 状態 08003 のヘルプが表示され、 `? 08` を指定するとクラス・コード 08 のヘルプが表示されます。

## 異なるバージョンの DB2 インフォメーション・センターへのアクセス

DB2 バージョン 9.5 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は、http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9r5/です。

DB2 バージョン 9 のトピックを扱っている DB2 インフォメーション・センターの URL は http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9/です。

DB2 バージョン 8 のトピックについては、バージョン 8 のインフォメーション・センターの URL http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v8/にアクセスしてください。

# DB2 インフォメーション・センターにおける特定の言語でのトピックの表示

DB2 インフォメーション・センターでは、ブラウザーの設定で指定した言語でのトピックの表示が試みられます。トピックがその指定言語に翻訳されていない場合は、 DB2 インフォメーション・センターでは英語でトピックが表示されます。

- Internet Explorer Web ブラウザーで、指定どおりの言語でトピックを表示するには、以下のようにします。
  1. Internet Explorer の「**ツール**」 -> 「**インターネット オプション**」 -> 「**言語 ...**」ボタンをクリックします。「言語の優先順位」ウィンドウがオープンします。
  2. 該当する言語が、言語リストの先頭の項目に指定されていることを確認します。
     - リストに新しい言語を追加するには、「**追加...**」ボタンをクリックします。

       **注:** 言語を追加しても、特定の言語でトピックを表示するのに必要なフォントがコンピューターに備えられているとはかぎりません。
     - リストの先頭に新しい言語を移動するには、その言語を選択してから、その言語が言語リストに先頭に行くまで「**上に移動**」ボタンをクリックします。
  3. ブラウザー・キャッシュを消去してから、ページをリフレッシュし、使用する言語で DB2 インフォメーション・センターを表示します。
- Firefox または Mozilla Web ブラウザーの場合に、使いたい言語でトピックを表示するには、以下のようにします。
  1. 「**ツール**」 -> 「**オプション**」 -> 「**詳細**」 ダイアログの「**言語**」セクションにあるボタンを選択します。「設定」ウィンドウに「言語」パネルが表示されます。
  2. 該当する言語が、言語リストの先頭の項目に指定されていることを確認します。
     - リストに新しい言語を追加するには、「**追加...**」ボタンをクリックしてから、「言語を追加」ウィンドウで言語を選択します。
     - リストの先頭に新しい言語を移動するには、その言語を選択してから、その言語が言語リストに先頭に行くまで「**上に移動**」ボタンをクリックします。
  3. ブラウザー・キャッシュを消去してから、ページをリフレッシュし、使用する言語で DB2 インフォメーション・センターを表示します。

ブラウザーとオペレーティング・システムの組み合わせによっては、オペレーティング・システムの地域の設定も希望のロケールと言語に変更しなければならない場合があります。

# コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストールされた DB2 インフォメーション・センターの更新

DB2 インフォメーション・センターをローカルにインストールしている場合は、IBM から提供される更新をダウンロードおよびインストールすることができます。

ローカルにインストールされた DB2 インフォメーション・センターを更新するには、以下のことを行う必要があります。

1. コンピューター上の DB2 インフォメーション・センターを停止し、インフォメーション・センターをスタンドアロン・モードで再始動します。インフォメーション・センターをスタンドアロン・モードで実行すると、ネットワーク上の他のユーザーがそのインフォメーション・センターにアクセスできなくなります。これで、更新をダウンロードして適用できるようになります。
2. 「更新」機能を使用することにより、どんな更新が利用できるかを確認します。インストールする更新がある場合は、「更新」機能を使用してそれをダウンロードおよびインストールできます。

   **注:** ご使用の環境において、インターネットに接続されていないマシンに DB2 インフォメーション・センターの更新をインストールする必要がある場合は、インターネットに接続されていて DB2 インフォメーション・センターがインストールされているマシンを使用して、更新サイトをローカル・ファイル・システムにミラーリングする必要があります。ネットワーク上の多数のユーザーが資料の更新をインストールする場合にも、更新サイトをローカルにミラーリングして、更新サイト用のプロキシーを作成することにより、個々のユーザーが更新を実行するのに要する時間を短縮できます。
   更新パッケージが入手可能な場合、「更新」機能を使用してパッケージをダウンロードします。ただし、「更新」機能は、スタンドアロン・モードでのみ使用できます。
3. スタンドアロンのインフォメーション・センターを停止し、コンピューター上の DB2 インフォメーション・センターを再開します。

**注:** Windows Vista の場合、下記のコマンドは管理者として実行する必要があります。完全な管理者特権でコマンド・プロンプトまたはグラフィカル・ツールを起動するには、ショートカットを右クリックしてから、 **「管理者として実行」**を選択します。

コンピューターまたはイントラネット・サーバーにインストール済みの DB2 インフォメーション・センターを更新するには、以下のようにします。

1. DB2 インフォメーション・センターを停止します。
   - Windows では、**「スタート」→「コントロール パネル」→「管理ツール」→「サービス」**をクリックします。次に、**「DB2 インフォメーション・センター」**サービスを右クリックして**「停止」**を選択します。
   - Linux では、以下のコマンドを入力します。

     ```
     /etc/init.d/db2icdv95 stop
     ```
2. インフォメーション・センターをスタンドアロン・モードで開始します。
   - Windows の場合:
     a. コマンド・ウィンドウを開きます。

b. インフォメーション・センターがインストールされているパスにナビゲートします。デフォルトでは、DB2 インフォメーション・センターは <Program Files>¥IBM¥DB2 Information Center¥Version 9.5 ディレクトリーにインストールされています (<Program Files> は「Program Files」ディレクトリーのロケーション)。

c. インストール・ディレクトリーの doc¥bin ディレクトリーにナビゲートします。

d. 次のように help_start.bat ファイルを実行します。

```
help_start.bat
```

- Linux の場合:

a. インフォメーション・センターがインストールされているパスにナビゲートします。デフォルトでは、DB2 インフォメーション・センターは /opt/ibm/db2ic/V9.5 ディレクトリーにインストールされています。

b. インストール・ディレクトリーの doc/bin ディレクトリーにナビゲートします。

c. 次のように help_start スクリプトを実行します。

```
help_start
```

システムのデフォルト Web ブラウザーが起動し、スタンドアロンのインフォメーション・センターが表示されます。

3. 「更新」ボタン () をクリックします。インフォメーション・センターの右側のパネルで、 「更新の検索 (Find Updates)」をクリックします。既存の文書に対する更新のリストが表示されます。
4. ダウンロード・プロセスを開始するには、ダウンロードする更新をチェックして選択し、「更新のインストール (Install Updates)」をクリックします。
5. ダウンロードおよびインストール・プロセスが完了したら、「完了」をクリックします。
6. スタンドアロンのインフォメーション・センターを停止します。
   - Windows の場合は、インストール・ディレクトリーの doc¥bin ディレクトリーにナビゲートしてから、次のように help_end.bat ファイルを実行します。

     ```
     help_end.bat
     ```

     **注:** help_end バッチ・ファイルには、help_start バッチ・ファイルを使用して開始したプロセスを安全に終了するのに必要なコマンドが含まれています。Ctrl-C または他の方法を使用して、help_start.bat を終了しないでください。
   - Linux の場合は、インストール・ディレクトリーの doc/bin ディレクトリーにナビゲートしてから、次のように help_end スクリプトを実行します。

     ```
     help_end
     ```

     **注:** help_end スクリプトには、help_start スクリプトを使用して開始したプロセスを安全に終了するのに必要なコマンドが含まれています。他の方法を使用して、help_start スクリプトを終了しないでください。
7. DB2 インフォメーション・センターを再開します。

- Windows では、「**スタート**」→「**コントロール パネル**」→「**管理ツール**」→「**サービス**」をクリックします。次に、「**DB2 インフォメーション・センター**」サービスを右クリックして「**開始**」を選択します。
- Linux では、以下のコマンドを入力します。

  ```
  /etc/init.d/db2icdv95 start
  ```

更新された DB2 インフォメーション・センターに、更新された新しいトピックが表示されます。

## DB2 チュートリアル

DB2 チュートリアルは、DB2 製品のさまざまな機能について学習するのを支援します。この演習をとおして段階的に学習することができます。

### はじめに

インフォメーション・センター (http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2help/) から、このチュートリアルの XHTML 版を表示できます。

演習の中で、サンプル・データまたはサンプル・コードを使用する場合があります。個々のタスクの前提条件については、チュートリアルを参照してください。

### DB2 チュートリアル

チュートリアルを表示するには、タイトルをクリックします。

「*pureXML ガイド* 」の『**pureXML™**』
: XML データを保管し、ネイティブ XML データ・ストアに対して基本的な操作を実行できるように、DB2 データベースをセットアップします。

「*Visual Explain チュートリアル*」の『**Visual Explain**』
: Visual Explain を使用して、パフォーマンスを向上させるために SQL ステートメントを分析し、最適化し、調整します。

## DB2 トラブルシューティング情報

DB2 製品を使用する際に役立つ、トラブルシューティングおよび問題判別に関する広範囲な情報を利用できます。

**DB2 ドキュメンテーション**
: トラブルシューティング情報は、DB2 問題判別ガイド、または DB2 インフォメーション・センターの「サポートおよびトラブルシューティング」セクションにあります。ここには、DB2 診断ツールおよびユーティリティーを使用して、問題を切り分けて識別する方法、最も頻繁に起こる幾つかの問題に対するソリューションについての情報、および DB2 製品を使用する際に発生する可能性のある問題の解決方法についての他のアドバイスがあります。

**DB2 Technical Support の Web サイト**
: 現在問題が発生していて、考えられる原因とソリューションを検索したい場合は、DB2 Technical Support の Web サイトを参照してください。
Technical Support サイトには、最新の DB2 資料、TechNotes、プログラム

診断依頼書 (APAR またはバグ修正)、フィックスパック、およびその他のリソースへのリンクが用意されています。この知識ベースを活用して、問題に対する有効なソリューションを探し出すことができます。

DB2 Technical Support の Web サイト (http://www.ibm.com/software/data/db2/udb/support.html) にアクセスしてください。

## ご利用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

**個人使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

**商業的使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。 ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態で提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

# 付録 B. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711
東京都港区六本木 3-2-12
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。** IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書は、IBM 以外の Web サイトおよびリソースへのリンクまたは参照を含む場合があります。 IBM は、本書より参照もしくはアクセスできる、または本書からリンクされた IBM 以外の Web サイトもしくは第三者のリソースに対して一切の責任を負いません。 IBM 以外の Web サイトにリンクが張られていることにより IBM が当該 Web サイトを推奨するものではなく、またその内容、使用もしくはサイトの所有者について IBM が責任を負うことを意味するものではありません。 また、IBM は、お客様が IBM Web サイトから第三者の存在を知ることになった場合にも (もしくは、IBM Web サイトから第三者へのリンクを使用した場合にも) 、お客様と第三者との間のいかなる取引に対しても一切責任を負いません。 従って、お客様は、IBM が上記の外部サイトまたはリソースの利用について責任を負うものではなく、また、外部サイトまたはリソースからアクセス可能なコンテンツ、サービス、

© IBM Corporation 1993, 2007

製品、またはその他の資料一切に対して IBM が責任を負うものではないことを承諾し、同意するものとします。 第三者により提供されるソフトウェアには、そのソフトウェアと共に提供される固有の使用条件が適用されます。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Limited
Office of the Lab Director
8200 Warden Avenue
Markham, Ontario
L6G 1C7
CANADA

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。 IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。 IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があり、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (*お客様の会社名*) (*西暦年*). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _*年を入れる*_. All rights reserved.

## 商標

DB2 バージョン 9.5 ドキュメンテーション・ライブラリーの資料に記載されている会社名、製品名、またはサービス名は、 IBM Corporation の商標である可能性があります。 IBM Corporation の商標については、http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml を参照してください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Microsoft®、 Windows、 Windows NT®、および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Intel®、 Intel ロゴ、Intel Inside® ロゴ、Intel Centrino®、Intel Centrino ロゴ、Celeron®、Intel Xeon®、 Intel SpeedStep®、 Itanium® および Pentium® は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java™ およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Adobe®、Adobe ロゴ、PostScript®、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

# 索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## [ア行]

印刷資料
　注文　688
インフォメーション・センター
　更新　691
　バージョン　689
　別の言語で表示する　690

## [カ行]

更新
　インフォメーション・センター　691
　DB2 インフォメーション・センター　691
ご利用条件
　資料の使用　694

## [サ行]

資料
　使用に関するご利用条件　694
　PDF および印刷資料　686
資料の概説　685

## [タ行]

チュートリアル
　トラブルシューティングと問題判別　693
　Visual Explain　693
特記事項　695
トラブルシューティング
　オンライン情報　693
　チュートリアル　693

## [ハ行]

ヘルプ
　表示　690
　SQL ステートメントの　689

## [マ行]

メッセージ　1, 683
問題判別
　オンライン情報　693
問題判別 *(続き)*
　チュートリアル　693

## D

DB2 インフォメーション・センター
　更新　691
　バージョン　689
　別の言語で表示する　690
DB2 資料の印刷方法　688

## I

IBM Data Server
　メッセージ　1, 683

## S

SQL ステートメント
　ヘルプを表示する　689

## V

Visual Explain
　チュートリアル　693

© Copyright IBM Corp. 1993, 2007

Printed in Japan

GI88-4109-00

日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711　東京都港区六本木3-2-12

Spine information:

DB2 Version 9.5 for Linux, UNIX, and Windows

メッセージ・リファレンス 第 1 巻